独立行政法人国立文化財機構年報

令和元年度

独立行政法人
国立文化財機構

令和元年度

新収品図版　〔東京国立博物館〕

購　　入



重要文化財　浜松図屏風



重要美術品
山水人物図屏風　伝賢江祥啓筆



葡萄栗鼠図　元賀筆



象

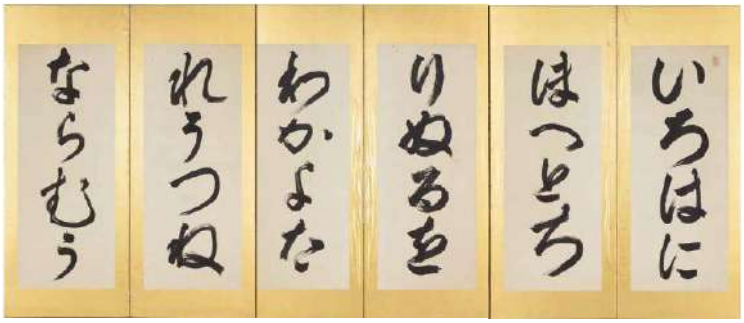


連珠文装飾



佐野昭肖像
黒田清輝筆

寄　　贈



いろは屏風　貫名菘翁筆



鼉龍鏡



香道賤家梅
牧文龍撰



染付竹虎文大鉢



白色ターラー菩薩像

平成31・令和元年度

新収品図版　〔京都国立博物館〕

購　入



百犬図　伊藤若冲筆



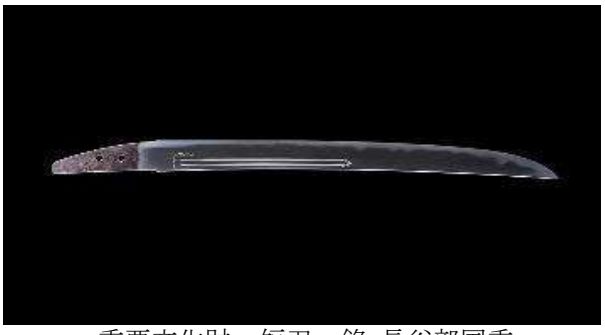
円山応挙関係資料　三井南家伝来



十巻抄　観音下・天等下

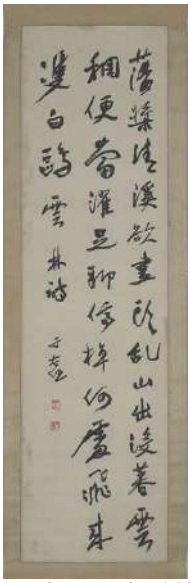


重要文化財　法華経巻第五（冊子）



重要文化財　短刀　銘 長谷部国重

寄　贈



紙本墨書　行書雲林詩



短刀　銘日州住信濃守国廣作
／天正十九年二月吉日



句入富士蒔絵盆

令和元年度

新収品図版　〔奈良国立博物館〕

購　　入



木造二十八部衆立像
迦楼羅王



木造二十八部衆立像
五部浄居天



木造二十八部衆立像
毘沙門天



木造二十八部衆立像
毘楼博叉天



南都寺社古文書
古記録等



熊野三所権現懸仏

令和元年度

新収品図版　〔九州国立博物館〕

購　入



釈迦三尊図　伝顔輝筆



花鳥蒔絵螺鈿聖龕



富士画賛「冨士の根の」
鳥丸光弘筆・賛



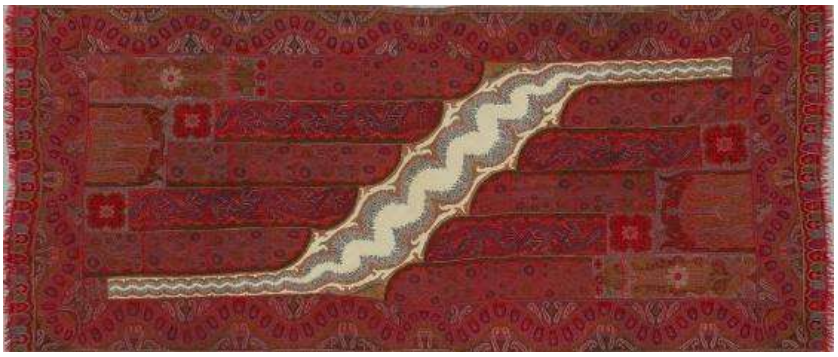
牡丹図　小田野直武筆



響銅王子形水瓶



オルテリウス『世界の舞台』



カシミヤ・ショール
赤縞地立木ペイズリー文様綴織縫い合わせ

寄　贈



村井れい旧蔵箏「初雁」



象嵌雲鶴文大皿



五鈴杏葉

令和元年度　年報　目次

令和元年度新収品図版

Ⅰ　元年度自己点検評価報告書　評定状況・・・

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
調査研究の評価軸及び評価指標等・・・

ii　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．業務改善の取組
（1）組織体制の見直し・・・

８.東京文化財研究所・・・

Ⅰ　令和元年度　自己点検評価報告書　評定状況

自己点検評価報告書　評定状況　補足説明

○年度計画の評定及び中期計画の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

令和元年度自己点検評価報告書　目次

	元年度	元年中期	30年度	30年中期
S評定	10	2	9	3
A評定	89	56	81	53
B評定	236	262	243	261
C評定	3	1	0	0
D評定	0	0	0	0

全事業件数　338

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	0		
		A評定	5	2		
		B評定	31	34		
事業件数　36		C評定	0	0		
①博物館の施設設備の整備			B	B		
	1110A	東博	B	B	18	
	1110B	京博	B	B	19	
	1110C	奈良博	B	B	20	
	1110D	九博	B	B	21	
②有形文化財の収集等			B	B		
1)有形文化財の収集	1121A	東博	A	A	22	
	1121B	京博	A	B	23	
	1121C	奈良博	B	B	24	
	1121D	九博	B	B	25	
2)寄贈・寄託品の受入れ等	1122A	東博	B	B	26	
	1122B	京博	A	B	27	
	1122C	奈良博	B	B	28	
	1122D	九博	B	B	29	
③有形文化財の管理・保存・修理等			B	B		
1)有形文化財の管理	1131A1	東博	B	B	30	
	1131A2	東博	B	B	31	
	1131B1	京博	B	B	32	
	1131B2	京博	A	B	33	
	1131C1	奈良博	B	B	34	
	1131C2	奈良博	A	A	35	
	1131D1	九博	B	B	36	
	1131D2	九博	B	B	37	
2)有形文化財の保存	1132A	東博	B	B	38	
	1132B	京博	B	B	39	
	1132C	奈良博	B	B	40	
	1132D	九博	B	B	41	
3)有形文化財の修理						
3)-1計画的な修理及びデータの蓄積	1133-1A	東博	B	B	42	
	1133-1B	京博	B	B	43	
	1133-1C	奈良博	B	B	44	
	1133-1D	九博	B	B	45	
3)-2科学的な技術を取り入れた修理	1133-2A1	東博	B	B	46	
	1133-2A2	東博	B	B	47	
	1133-2B	京博	B	B	48	
	1133-2C	奈良博	B	B	49	
	1133-2D	九博	B	B	50	
4)文化財修理施設等の運営	1134B	京博	B	B	51	
	1134C	奈良博	B	B	52	
	1134D	九博	B	B	53	

(2)展覧事業	年度:B評定　中期:B評定			S評定	7	0	
				A評定	12	2	
				B評定	14	16	
		事業件数	36	C評定	3	1	
① 平常展					B	B	
1)平常展(来館者数・展示替え件数)		1211A	東博		A	A	54
		1211B	京博		B	B	55
		1211C	奈良博		B	B	56
		1211D	九博		B	B	57
2)平常展(満足度調査)		1212ABCD	4館		B	B	58
② 特別展等					A	B	
1)特別展(開催回数)		1220アABCD	4館		B	B	59
1)特別展(満足度調査)		1220イA	東博		A	B	60
		1220イB	京博		B	B	61
		1220イC	奈良博		B	B	62
		1220イD	九博		C	B	63
ア 特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流　日本美を伝える」		1221Aア	東博		S	―	64
イ 特別展「東寺―空海と仏像曼荼羅」		1221Aイ	東博		S	―	65
ウ 特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品　雪舟、永徳から光琳、北斎まで」		1221Aウ	東博		S	―	66
エ 日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」		1221Aエ	東博		S	―	67
オ 特別展「人、神、自然―アール・サーニ　コレクションの名品が語る古代の世界―」		1221Aオ	東博		S	―	68
カ 特別展「正倉院の世界―皇室が守り伝えた美―」		1221Aカ	東博		S	―	69
キ 日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」		1221Aキ	東博		A	―	70
ク 特別公開「高御座と御帳台」		1221Aク	東博		S	―	71
ア 特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝　一遍聖絵と時宗の明宝」		1221Bア	京博		B	―	72
イ 特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」		1221Bイ	京博		A	―	73
ア 特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」		1221Cア	奈良博		A	―	74
イ 特別展「御即位記念　第71回正倉院展」		1221Cイ	奈良博		A	―	75
ウ 特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」		1221Cウ	奈良博		A	―	76
ア 特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」		1221Dア	九博		C	―	77
イ 特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」		1221Dイ	九博		A	―	78
ウ 日中文化交流協定締結40周年　特別展「三国志」		1221Dウ	九博		A	―	79
エ 特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」		1221Dエ	九博		A	―	80
③観覧環境の向上等					B	B	
1)快適な観覧環境の提供		1231A1	東博		B	B	81
		1231A2	東博		A	B	82
		1231B	京博		A	A	83
		1231C	奈良博		B	B	84
		1231D	九博		B	B	85
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等		1232A	東博		B	B	86
		1232B	京博		C	C	87
		1232C	奈良博		B	B	88
		1232D	九博		B	B	89
(3) 教育・普及活動	年度:B評定　中期:B評定			S評定	1	1	
				A評定	9	6	
		事業件数	48	B評定	38	41	
①教育活動の充実等					B	B	
1)学習機会の提供		1311H	活用センター		A	B	90
		1311A1	東博		B	B	91
		1311A2	東博		A	B	92
		1311A3	東博		A	A	93
		1311B1	京博		B	B	94
		1311B2	京博		S	S	95
		1311C1	奈良博		B	B	96
		1311C2	奈良博		B	B	97
		1311D1	九博		B	A	98
		1311D2	九博		B	A	99
		1311D3	九博		B	B	100

2)ボランティア活動の支援	1312A	東博	A	A	101
	1312B	京博	A	B	102
	1312C	奈良博	B	B	103
	1312D	九博	B	B	104
3)大学との連携事業等の実施	1313A	東博	B	B	105
	1313B	京博	B	B	106
	1313C	奈良博	B	B	107
	1313D	九博	B	B	108
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	1314A	東博	B	B	109
	1314B	京博	B	B	110
	1314C	奈良博	B	B	111
	1314D	九博	B	B	112
5)博物館支援者増加への取組	1315A	東博	B	B	113
	1315B	京博	B	B	114
	1315C	奈良博	B	B	115
	1315D	九博	B	B	116
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実			B	B	
1)有形文化財に関する情報の発信	1321HA	活用ｾﾝﾀｰ	B	B	117
	1321B	京博	B	B	118
	1321C	奈良博	A	A	119
	1321D	九博	B	B	120
2)資料の収取と公開	1322A	東博	B	B	121
	1322B	京博	B	B	122
	1322C	奈良博	A	A	123
	1322D	九博	B	B	124
3)広報活動の充実					
3)-1広報活動の策定と情報提供	1323-1H	本部	B	B	125
	1323-1A	東博	B	B	126
	1323-1B	京博	A	B	127
	1323-1C	奈良博	B	B	128
	1323-1D	九博	B	B	129
3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動	1323-2A	東博	B	B	130
	1323-2B	京博	B	B	131
	1323-2C	奈良博	B	B	132
	1323-2D	九博	B	B	133
3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実	1323-3A	東博	B	B	134
	1323-3B	京博	A	B	135
	1323-3C	奈良博	B	B	136
	1323-3D	九博	B	B	137
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　年度:B評定　中期:B評定		S評定	2	1	
		A評定	17	16	
		B評定	74	76	
事業件数　93		C評定	0	0	
外部資金を活用した調査研究	1410ABCD	4館	B	B	138
①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究			B	B	
1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究					
ア　a.特別調査(「法隆寺献納宝物」(第41次))	1411Aｱ-1	東博	B	B	139
ア　b.特別調査(「書跡」第17回)	1411Aｱ-2	東博	B	B	140
ア　c.特別調査(「工芸」第11回)	1411Aｱ-3	東博	B	B	141
ア　d.特別調査(「彫刻」第9回)	1411Aｱ-4	東博	B	B	142
ア　e.特別調査(「絵画」第4回)	1411Aｱ-5	東博	B	B	143
イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	1411Aｲ	東博	B	B	144
ウ　油彩画の材料・技法に関する共同調査	1411Aｳ	東博	B	B	145
エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究	1411Aｴ	東博	B	B	146
オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	1411Aｵ	東博	B	B	147
カ　東洋民族資料に関する調査研究	1411Aｶ	東博	B	B	148
キ　特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究	1411Aｷ	東博	A	A	149
ク　特集「やちむん―沖縄のやきもの」に関する調査研究	1411Aｸ	東博	B	B	150
ケ　特集「伝説の面打たち」に関する調査研究	1411Aｹ	東博	B	B	151

コ 特集「法隆寺と聖徳太子―法隆寺研究の近代」に関する調査研究	1411Aコ	東博	B	B	152
サ 特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」に関する調査研究	1411Aサ	東博	B	B	153
シ 特集「近世日本と外国文化」に関する調査研究	1411Aシ	東博	B	B	154
ス 特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究	1411Aス	東博	B	B	155
セ 特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究	1411Aセ	東博	B	B	156
ア 近畿地区社寺文化財の調査研究	1411Bア	京博	B	B	157
イ 訓点資料としての典籍に関する調査研究	1411Bイ	京博	B	B	158
ウ 旧家伝来の工芸品に関する調査研究	1411Bウ	京博	B	B	159
エ 京都周辺の考古遺物に関する調査研究	1411Bエ	京博	B	B	160
オ 特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究	1411Bオ	京博	B	B	161
ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	1411Cア	奈良博	B	B	162
イ 古代の写経と聖教に関する基礎的研究	1411Cイ	奈良博	B	B	163
ウ 仏教工芸・上代工芸の総合的調査	1411Cウ	奈良博	B	B	164
エ 墳墓出土品の調査研究	1411Cエ	奈良博	B	B	165
オ 南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	1411Cオ	奈良博	A	A	166
カ 東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	1411Cカ	奈良博	B	B	167
キ わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関する調査研究	1411Cキ	奈良博	B	B	168
ク 特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」に関する調査研究	1411Cク	奈良博	A	A	169
ケ 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究	1411Cケ	奈良博	A	A	170
コ 特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」に関する調査研究	1411Cコ	奈良博	A	A	171
ア X線CTスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	1411Dア	九博	B	B	172
イ 近世キリスト教に関する研究	1411Dイ	九博	B	B	173
ウ 高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	1411Dウ	九博	B	B	174
エ 「山梨・釈迦堂遺跡の縄文文化（仮）」に関する調査研究	1411Dエ	九博	B	B	175
オ 水中遺跡の保存活用に関する研究	1411Dオ	九博	B	B	176
カ 特集展示 館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」に関する調査研究	1411Dカ	九博	B	B	177
キ 特集展示 住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」に関する調査研究	1411Dキ	九博	A	A	178
ク 特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	1411Dク	九博	A	A	179
2)特別展等の開催に伴う調査研究					
ア 特別展「出雲と大和」に関する調査研究	1412Aア	東博	B	B	180
イ 特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	1412Aイ	東博	B	B	181
ウ 住友財団修復助成39年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究	1412Aウ	東博	B	B	182
エ 御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室が守り伝えた美―」に関する調査研究	1412Aエ	東博	B	A	183
オ 特別展「人、神、自然―ザ・アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界」に関する調査研究	1412Aオ	東博	B	B	184
カ 特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	1412Aカ	東博	A	B	185
キ 特別展「きもの KIMONO」に関する調査研究	1412Aキ	東博	B	B	186
ク 「スポーツ・武道の世界と文化展」に関する調査研究	1412Aク	東博	B	B	187
ケ 特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」に関する調査研究	1412Aケ	東博	B	B	188
コ 特別展「桃山 天下人の100年」に関する調査研究	1412Aコ	東博	B	B	189
ア 特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	1412Bア	京博	S	S	190
イ 特別展「西国三十三所草創1300年記念 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」に関する調査研究	1412Bイ	京博	B	B	191
ア 特別展「御即位記念 第71回正倉院展」に関する調査研究	1412Cア	奈良博	B	B	192
イ 特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」に関する調査研究	1412Cイ	奈良博	A	A	193
ウ 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」に関する調査研究	1412Cウ	奈良博	B	B	194
ア 特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」に関する調査研究（(4)-①-2)）	1412Dア	九博	A	A	195
日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」に関する調査研究	1412Dイ	九博	A	A	196
3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究					
ア レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	1413Hア	活用センター	B	B	197
ア 博物館環境デザインに関する調査研究	1413Aア	東博	B	B	198
イ 博物館教育に関する調査研究	1413Aイ	東博	B	B	199
ウ 凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	1413Aウ	東博	A	B	200
エ ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	1413Aエ	東博	B	B	201
ア 博物館教育及びボランティアに関する調査研究	1413Bア	京博	A	A	202
ア 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	1413Cア	奈良博	B	B	203
ア NHKと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	1413Dア	九博	B	B	204
イ 特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	1413Dイ	九博	B	B	205
ウ 身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究	1413Dウ	九博	B	B	206

エ 特集展示「刀剣ことはじめ－刀剣ワールド財団と九博の名刀－」における観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	1413Dエ	九博	S	A	207
②その他有形文化財に関連する調査研究			B	B	
1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究					
ア 博物館の環境保存に関する調査研究	1421Aア	東博	B	B	208
イ 美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	1421Aイ	東博	B	B	209
ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	1421Bア	京博	B	B	210
イ 文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	1421Bイ	京博	B	B	211
ア 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究	1421Cア	奈良博	B	B	212
イ 文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cイ	奈良博	B	B	213
ウ 保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cウ	奈良博	B	B	214
ア 文化財の材質・構造等に関する共同研究	1421Dア	九博	B	B	215
イ 博物館における文化財保存修復に関する研究	1421Dイ	九博	B	B	216
ウ 博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	1421Dウ	九博	B	B	217
エ 文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	1421Dエ	九博	B	B	218
2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究					
ア 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	1422Aア	東博	B	B	219
イ 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	1422Aイ	東博	B	B	220
ア 文化財情報に関する調査研究	1422Bア	京博	B	B	221
ア 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	1422Cア	奈良博	A	A	222
③国内外の博物館等との学術交流等			A	B	
	1430A	東博	A	B	223
	1430B	京博	A	A	224
	1430C	奈良博	B	B	225
	1430D	九博	B	B	226
④調査研究成果の公表			B	B	
	1440A	東博	B	B	227
	1440B	京博	B	B	228
	1440C	奈良博	A	A	229
	1440D	九博	B	B	230
(5) 国内外の博物館活動への寄与 年度:B評定 中期:B評定			S評定	0	0	
			A評定	2	2	
事業件数 10			B評定	8	8	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与			B	B	
	1510HA	東博	B	B	231
	1510B	京博	B	B	232
	1510C	奈良博	B	B	233
	1510D	九博	B	B	234
②国内外の博物館等への援助・助言等			B	B	
	1520H-1	機構	A	A	235
	1520H-2	活用ｾﾝﾀｰ	A	B	236
	1520A	東博	B	B	237
	1520B	京博	B	A	238
	1520C	奈良博	B	B	239
	1520D	九博	B	B	240
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施					
(1) 新たな知見の解体につながる基礎的・探求的な調査研究 年度:A評定 中期:A評定			A評定	12	10	
事業件数 27			B評定	15	17	
① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究			A	A	
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究					
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2111E-ア	東文研	A	A	246
日本東洋美術史の資料学的研究	2111E-イ	東文研	B	B	247
近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2111E-ウ	東文研	A	A	248
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2111E-エ	東文研	A	A	249
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究					
歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	2112F	奈文研	A	A	250
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究					
近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	2113F	奈文研	A	A	251

② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究				A	A	
1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2121E	東文研		A	A	252
2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2122E	東文研		A	A	253
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等						
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2123E	東文研		B	B	254
③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究				B	B	
1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究						
我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)	2131F-ア	奈文研		A	B	255
我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	2131F-イ	奈文研		B	B	256
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究						
平城宮東方官衙地区の調査	2132F-ア1	奈文研		A	A	257
東大寺東塔院の発掘調査	2132F-ア2	奈文研		B	B	258
平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査(611次)	2132F-ア3	奈文研		B	B	259
藤原宮大極殿院地区の発掘調査	2132F-ア4	奈文研		A	A	260
飛鳥地域等の発掘調査	2132F-ア5	奈文研		A	B	261
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	2132F-イ1	奈文研		A	A	262
平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	2132F-イ2	奈文研		B	B	263
3Dプロジェクト	2132Fイ-3	奈文研		B	B	264
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	2132F-ウ	奈文研		B	B	265
中国との共同研究	2132F-エ1	奈文研		B	B	266
韓国との共同研究	2132F-エ2	奈文研		B	B	267
3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究						
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	2133F	奈文研		B	B	268
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究						
全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	2134F-ア	奈文研		B	B	269
古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	2134F-イ1	奈文研		B	B	270
古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	2134F-イ2	奈文研		B	B	271
5)水中文化遺産に関する調査研究						
水中文化遺産に関する調査研究	2135F	奈文研		B	B	272
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	年度:A評定 中期:B評定		A評定	7	3	
	事業件数 16		B評定	9	13	
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進				A	B	
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発						
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2211E	東文研		A	B	273
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発						
埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	2212F	奈文研		A	B	274
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発						
年輪年代学研究	2213F	奈文研		B	B	275
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発						
動植物遺存体の分析方法の研究開発	2214F	奈文研		A	B	276
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究				B	B	
1)生物被害の予防と対策に関する調査研究						
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	2221E	東文研		A	A	277
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究						
保存と活用のための展示環境の研究	2222E	東文研		B	B	278
3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究						
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2223E	東文研		A	B	279
4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究						
屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	2224E	東文研		B	B	280
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究						
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2225E	東文研		A	A	281
6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究						
考古遺物の保存処理法に関する調査研究	2226F	奈文研		B	B	282
7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究						
遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	2227F	奈文研		B	B	283
8)建造物の彩色に関する調査研究						
建造物の彩色に関する調査研究	2228F	奈文研		B	B	284

	9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究					
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	2229E	東文研	B	B	285
	10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究					
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230E-ア	東文研	B	B	286
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230F-ア	奈文研	A	A	287
	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	2230F-イ	奈文研	B	B	288
(3) 文化遺産保護に関する国際協働	**年度:A評定 中期:B評定**		**A評定**	**3**	**0**	
	事業件数 12		**B評定**	**9**	**12**	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進				B	B	
	1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信					
	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2311Eア	東文研	A	B	289
	文化遺産の保存・修復に関する人材育成(ユネスコ等)	2311Fア	奈文研	B	B	290
	文化遺産の保存・修復に関する人材育成(イギリス等)	2311Fイ	奈文研	B	B	291
	2)文化遺産保護協力事業の推進					
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2312Eアイ	東文研	A	B	292
	保存修復技術の国際的応用に関する研究	2312Eウ	東文研	B	B	293
	文化財保護に関する国際協力の推進	2312Fア	奈文研	B	B	294
	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	2312Fイ	奈文研	B	B	295
	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2312Fウ	奈文研	B	B	296
	3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等					
	在外日本古美術品保存修復協力事業	2313E-1	東文研	B	B	297
	国際研修	2313E-2	東文研	B	B	298
	ユネスコアジア文化センター(ACCU)等が行う研修への協力	2313F	奈文研	B	B	299
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究				A	B	
	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	2320G	IRCI	A	B	300
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	**年度:A評定 中期:A評定**		**A評定**	**7**	**5**	
	事業件数 9		**B評定**	**2**	**4**	
① 文化財情報基盤の整備・充実 **1)文化財に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張** **2)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張** **3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供の充実**				A	A	
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2411E	東文研	A	A	301
	文化財に関するデータベースの充実	2411F	奈文研	A	A	302
	図書の収集・整理・公開・提供	2413F	奈文研	A	A	303
② 調査研究成果の発信 **1)定期刊行物の刊行** **2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等** **3)ウェブサイトの充実**				A	B	
	定期刊行物の刊行	2421E	東文研	B	B	304
	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	2421F-2	奈文研	A	A	305
	令和元年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	2422E	東文研	B	B	306
	文化財情報基盤の整備・充実	2423E	東文研	A	B	307
③ 展示公開施設の充実				A	A	
	1)特別展・企画展					
	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	2431F	奈文研	A	B	308
	2)平城宮跡解説ボランティア研修					
	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	2432F	奈文研	A	A	309
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	**年度:A評定 中期:B評定**		**A評定**	**11**	**7**	
	事業件数 25		**B評定**	**14**	**18**	
①文化財に関する研修の実施 **1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施** **2)研修体系の整理及び研修受講生及び派遣元自治体へのアンケート調査**				A	A	
	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2511E	東文研	B	B	310
	文化財担当者研修	2512F	奈文研	A	A	311

②文化財に関する協力・助言等				B	B	
1)地方公共団体等への文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等						
文化財の収集、保管に関する指導助言	2521E-1	東文研		B	B	312
無形文化遺産に関する助言	2521E-2	東文研		B	B	313
文化財の虫菌害に関する調査・助言	2521E-3	東文研		A	B	314
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2521E-4	東文研		B	B	315
文化財の材質・構造に関する調査・助言	2521E-5	東文研		A	B	316
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2521E-6	東文研		B	B	317
文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	2521E-7	文活セ		A	B	318
地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	2521F-1	奈文研		B	B	319
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	2521F-2	奈文研		A	A	320
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	2521F-3	奈文研		B	B	321
2)他機関等との共同研究及び受託研究						
他機関等との共同研究及び受託研究	2522E	東文研		B	B	322
他機関等との共同研究及び受託研究	2522F	奈文研		B	B	323
3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴う、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力						
地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	2523F	奈文研		B	B	324
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力				A	B	
1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力						
文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	2531F-1	奈文研		B	B	325
国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力	2531F-2	奈文研		A	B	326
文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	2531F-3	奈文研		A	A	327
2)NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力						
NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	2532F	奈文研		B	B	328
④連携大学院教育の推進						
1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進				B	B	
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2541E	東文研		B	B	329
京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	2541F	奈文研		B	B	330
⑤文化財等の防災・救援等への寄与				A	A	
1)体制づくり	2551	防災		A	A	331
2)調査研究等の実施	2552ア	防災		A	A	332
	2552イウ	防災		A	A	333
3)人材育成・事業啓発活動等の実施	2553	防災		A	A	334
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置			A評定	1	1	
事業件数 9			B評定	8	8	
1.業務改善の取組 年度:B評定 中期:B評定						
(1) 組織体制の見直し	6110	本部		B	B	395
(2) 人件費管理の適正化	6120	本部		B	B	396
(3) 契約・調達方法の適正化	6130	法人全体		A	A	397
(4) 共同調達等の取組の推進	6140	法人全体		B	B	398
(5) 一般管理費等の削減						
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化	6151	本部		B	B	399
②計画的なアウトソーシング	6152	法人全体		B	B	400
③使用資源の減少	6153	法人全体		B	B	401
2.業務の電子化 年度:B評定 中期:B評定						
業務の電子化	6200	本部		B	B	402
3.予算執行の効率化 年度:B評定 中期:B評定						
予算執行の効率化	6300	本部		B	B	403
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置			A評定	3	2	
事業件数 17			B評定	14	15	
1.自己収入拡大への取組 年度:B評定 中期:B評定						
(1) 自己収入拡大への取組	7110	法人全体		A	A	404
(2) 外部資金の獲得	7120	法人全体		A	A	405
(3) 保有資産の有効利用の促進	7130A	東博		A	B	406
	7130B	京博		B	B	407
	7130C	奈良博		B	B	408
	7130D	九博		B	B	409
	7130E	東文研		B	B	410
	7130F	奈文研		B	B	411

2.固定的経費の節減　年度:B評定　中期:B評定						
（Ⅱ　1.（5）と同じ）						
3.決算情報・セグメント情報の充実等　年度:B評定　中期:B評定						
決算情報・セグメント情報の充実等	7300	本部	B	B	412
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画						
1.予算、2.収支計画及、3.資金計画　年度:B評定　中期:B評定						
予算、収支計画、資金計画	8000	本部	B	B	413
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.内部統制　年度:B評定　中期:B評定						
内部統制	9100	本部	B	B	414
2.その他　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 自己評価	9210	本部	B	B	415
(2) 情報セキュリティ対策	9220	本部	B	B	416
3.施設設備に関する計画　年度:B評定　中期:B評定						
施設設備に関する計画	9300	本部	B	B	417
4.人事に関する計画　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 中長期的な人事計画の策定	9410	本部	B	B	418
(2) 評価制度の導入						
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施	9420	本部	B	B	419
(4) 女性の活躍の推進						
(5) 研修及び人事交流等の検討	9430	本部	B	B	420

Ⅱ　令和元年度　自己点検評価報告書　個別表

自己点検評価報告書「書式Ａ（事業系)」　様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式Ａ（特別展）」　様式補足説明

○【定量的評価】、【年度計画に対する総合評価】、【判定根拠、課題と対応】
「書式Ａ（事業系）」と同様

○【成果】
各項目については次のような観点・論点を踏まえて記載している。

企画構成・展示作品
・企画構成（コンセプト、展示配列・組合せ等）の意図について
・展示品の概要（質、分野、初出品、規模等）について
・企画構成や展示方法の独創性や新規性、工夫について
・地域連携（巡回・地方の文化財や文化の紹介）や国際交流等の側面について
・時機、社会的関心、話題性等の観点について

学術的意義
・学問的重要度の高さについて
・新知見や新たな観点の提供、新発見の紹介等について
・図録での論文・解説等について（内容が充実している、本数が多い等）
・今後の研究への発展性や新規寄託の獲得等について
※研究の詳しい内容は「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」で記載

教育普及
・来館者の興味を喚起する取組や理解を助ける取組（解説の工夫・パネル設置・リーフレット作成・ハンズオン等）の実施について
・講演会、シンポジウム、ギャラリートーク等の開催について
・教育的イベント（子供向け等）の実施について

その他（運営・広報・サービス等）
・動線の工夫や待ち列対応等の混雑対策について
・関連する平常展示の実施について
・音声ガイドについて
・広報活動の展開（交通広告・ネット・SNS）について
・特別内覧会等の関連事業の実施について
・関連映像上映について

自己点検評価報告書「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」　様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式Ｃ」　様式補足説明

１　「年度計画評価」＞「定性評価」について

下記の５つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を４つ以上選択の上記載し、それぞれ評定（Ｓ～Ｄ）を付している。

【観点の考え方】

・適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
・独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
・発展性：応用性・汎用性、影響性、多様性
・効率性：時間、人員、設備等
・継続性：期間、質・内容、量、基礎性

【観点の判定基準】

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している（標準）
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

２　「年度計画評価」＞「定量評価」について

当該事業の実績データのうち、中期目標・計画上の評価指標となっているものは、「実績値」として以下の基準で定量評価を行っている。なお、その他の実績データについては、「参考値」として掲載している（定量評価対象とはしていない）。

（評価指標の対象となるもの：文化財に関するデータベースの公開件数、定期刊行物等の刊行件数、公開施設における特別展・企画展の開催件数　等）

Ｓ：達成率 120％以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120％以上
Ｂ：達成率 100％以上 120％未満（標準）
Ｃ：達成率 80％以上 100％未満
Ｄ：達成率 80％未満

３　「年度計画評価」＞「評定理由」について

定性評価の判定理由を記述している。また、定量評価がある場合は、その判定状況を併せて記述している。

４　「年度計画評価」について

２の定性評価及び３の定量評価の各観点の評定（Ｓ～Ｄ）を下記にて数値化（５～１点）し、平均値を四捨五入して評定を算出している。

Ｓ＝５点、Ａ＝４点、Ｂ＝３点（標準）、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点
（例１）Ａが３つ、Ｂが２つの場合
（４点×３＋３点×２）÷５＝　３．６　≒　４　→評価　Ａ
（例２）Ａが２つ、Ｂが３つの場合
（４点×２＋３点×３）÷５＝　３．４≒　３　→評価　Ｂ

５　「中期計画評価」について

１の【観点の判定基準】と同様の基準で評価している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1110A

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。
（東京国立博物館）
1)　本館については収蔵・展示施設の改修と拡充に関する基本計画を引き続き策定する。
2)　平成31年度完成予定の管理棟に、トーハク新時代プランに基づき、見せる修理所の設置及びバックヤードツアーの導入に向け準備を行う。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香

【実績・成果】
（４館共通）
・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の建物や設備について調査を行った。
（東京国立博物館）
1)
・本館保存活用計画検討WGを開催し、本館の保存活用計画について作成スケジュールや策定内容等を確認した。
2)
・10月に竣工した文化財管理棟で実施する「見せる修理所」を中心としたバックヤードツアーの開催に向けて、ツアー概要や建物内の利用方法等を検討した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟は元年度10月末に完成した。 本館保存活用計画策定に向けて元年度は未調査だった約半数の部屋の調査を行い、報告書をまとめた。 本館保存活用計画の第1章計画の概要、第4章防災計画、第6章保護に係る諸手続きを策定した。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（東京国立博物館）
開館後約80年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本館の保存活用計画策定に向け、本館全室の調査が完了した。 メンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の調査を行った。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1110B

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。
（京都国立博物館）
1)明治古都館(本館)の免震補強ほかの改修に向けた検討を引き続き行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　西尾佐枝子

【実績・成果】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け、施設毎の劣化調査や工事履歴の取りまとめを行った。

（京都国立博物館）
1)
・本館免震改修他工事に関して次年度発掘予定範囲について文化庁、京都府・市と協議を行った。また設計・監理業務の与条件設定や設計監理業務委託費の算定等について国土交通省、文化庁、京都府・市等と協議を行った。
・本館（内外壁、屋根、小屋裏）及び袖塀の劣化調査を行った。

【補足事項】



本館外壁（装飾）の破損状況

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定:B	メンテナンスサイクルについては、これまでに引き続き各種調査を行った。 本館免震改修他工事については施設整備費が措置されず工事や発掘調査が行えなかったが、その中でも本館及び袖塀の劣化調査の実施や2年度の発掘調査に関する行政等との協議及び設計監理業務発注段階での各種懸案事項の抽出、検証等を行った。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を2年度までに構築し、継続的に発展させる。
（京都国立博物館）
京都国立博物館本館（明治古都館)の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	メンテナンスサイクルについては、これまでに引き続き各種調査を行ってきた。2年度に機構全体として取りまとめを行う予定である。 本館免震改修他工事については2年度に実施する発掘調査のための協議や設計監理業務発注段階での設定条件の検証などを実施した。文化財の保存・展示施設の活用に向けた検討及び調査を引き続き実施する。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1110C

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。
（奈良国立博物館）
1)狭隘なエントランスの拡充、老朽化した東新館展示室・空調設備機器の整備、及び不足している展示・収蔵スペースの拡充など施設設備の検討を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（4館共通）
1)
・各種設備に関するメンテナンス更新計画に基づき概算要求を行った。
・展示室等空調設備の修繕計画に基づき空調機器修繕を行った。
・展示室の安全対策として監視カメラ記録装置の一部更新を行った。
(奈良国立博物館)
1)
・構内バリアフリー及びエントランス拡張整備の検討し、概算要求を行った。

【補足事項】
（4館共通）
1)
・各種設備のメンテナンス更新計画及び状況調査を行い、概算要求を行った。
・展示室の適正な温湿度管理のため、老朽化した空調機メンテナンス計画に基づき、機器のメンテナンス修繕を行った。
・展示室等、監視カメラの健全な状態を保持するため記録装置の一部更新を行った。
1)
(奈良国立博物館)
・エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行った。


監視カメラ記録装置の一部更新

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルの更新計画に基づき緊急度の高い事項について概算要求を行った。 また、監視カメラの記録装置について一部不具合が発生したため運営費補助金にて更新を行った。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（奈良国立博物館）
構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 老朽化施設の点検・診断を実施した。今後建物のメンテナンスサイクル更新計画の構築を行い、施設の長寿命化へ取り組む。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1110D

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。
（九州国立博物館）
1)開館から13年が経過し、施設・設備・備品に老朽化がみられるため、展示や調査の施設の維持管理を目的とした改修及び拡充を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課	事業責任者	課長　原田あゆみ 課長　白井克也 課長　國谷勝伸 課長　石原隆之

【実績・成果】
（4館共通）
1)引き続き収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル計画の検討を行った。
（九州国立博物館）
1)・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い空調機器のうち、プレート式熱交換器のプレート交換や洗浄を行った。また、エアハンドリングユニット（空気調和機）の腐食箇所塗装等、一部改修工事を行った。
・老朽化している、収蔵庫前室の監視カメラ設備の更新を行った。
・施設の10年整備計画について、より精度を向上させるため、一部改修内容の見直しを検討した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
1)・空調設備について、老朽による内部腐食が進行し、一部漏水等の不具合が生じていた。今回の塗装作業により、調査、収蔵施設の空気環境を安定的に管理できるよう改善が図られた。また、館全体の空調設備へ冷水・温水を供給しているプレート式熱交換器について、破損したプレートの交換や洗浄を行い、塗装と合わせて、安定的な空気環境の管理ができるよう改善を図った。



エアハンドリングユニット内の腐食　塗装作業による改善　監視カメラの更新

・アナログ式の監視カメラについては、不具合時の修繕部品等の確保が困難となってきているため、デジタル式に更新し、収蔵施設等に関する防犯対策の向上を図った。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 空調設備の改修を行うなど、年度計画どおり、展示や調査の施設の維持管理を目的とした改修を行った。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（九州国立博物館）
開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の10年整備計画について、より精度を向上させるため、一部改修内容の見直しを検討した。 計画に基づく予算の確保や更新について、独法と県の共同運営であるため、足並みを揃えて実施することが困難な状況である。優先順位の検討等、引き続き計画の精査を行い、実施方法を検討する必要がある。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・購入件数 11件　内訳：絵画3件、東洋絵画3件、東洋彫刻4件、黒田記念館収蔵品1件
・決算額　279,200,000円

元年度は、絵画3件 重要文化財「浜松図屏風（伝土佐光重筆）」、重要美術品「山水人物図屏風（伝賢江祥啓筆）」、「葡萄栗鼠図（元賀筆）」、東洋絵画3件 「如来像」、「菩薩像」、「蓮華」、東洋彫刻4件「象」、「飛天像」、「天部像」、「連珠文装飾」黒田記念館収蔵品1件「佐野昭肖像（黒田清輝筆）」の計11件を購入した。

【補足事項】
・絵画購入品の重要文化財「浜松図屏風」は、そのダイナミックな構図による力強さときらびやかな金銀による加飾によって、室町時代やまと絵屏風を代表する名品に位置付けられており、当館の展示の充実に大きな役割を果たすものである。「浜松図」を主題とする屏風のなかでも最古の部類に入る作品であり、室町時代やまと絵の研究にとって、また安土桃山時代、江戸時代の大画面障壁画等の研究にとって、きわめて重要である。
・絵画購入品の重要美術品「山水人物図屏風」は、画風の近似から、祥啓周辺の有力画人の制作と認められる。祥啓系の現存作は小幅の掛軸が多く、希少な屏風作例として大変貴重である。的確なモチーフ描写や整理された画面空間、透明感のある彩色表現など、鑑賞性の高い優品として、本館3室「禅と水墨画」での展示に活用できる。
・東洋絵画購入品及び東洋彫刻購入品の「如来像」ほかホータン関連作品計7件には、ホータンにおける仏教美術を知る上できわめて貴重な作品であり、いずれも東洋館3室「西域の美術」での展示に活用できる。


［購入品］重要文化財　浜松図屏風　6曲1双（伝土佐光重筆）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品件数	119,871件	－	－		116,932	117,190	117,460	119,064
うち国宝	89件	－	－		87	88	89	89
うち重要文化財	646件	－	－		634	636	643	644
収集件数	807件	－	－		664	199	268	1,606
うち購入件数	11件	－	－		16	11	12	31
うち寄贈件数	28件	－	－		148	44	84	72
うち編入件数	768件	－	－		500	144	172	1,503
文化財購入費	279,200千円	－	－		225,880	662,350	252,720	146,840

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
現存作例の少ない室町時代やまと絵屏風の代表作を購入できたことは、当館の収集の歴史において特筆すべきできごとであった。また、収集機会が少ない西域美術のコレクションの充実を図ることもできた。購入件数は 30 年度より少ないものの 28・29 年度とは同程度であり、重要文化財「浜松図屏風」など、当館の展示・研究に寄与する作品 11 件を購入することができた。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
重要文化財「浜松図屏風」やホータン関連作品など日本を中心にアジア諸地域で制作された美術、考古資料及び歴史資料を収集し、中期計画に沿った成果を上げることができた。2年度も引き続き情報収集に努め、適時適切な収集を図る。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1121B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
・　購入件数24件　内訳：絵画22件、金工1件、陶磁1件
・　決算額　383,800,000円

【補足事項】
　元年度は、「百犬図　伊藤若冲筆」、「円山応挙関係資料　三井南家伝来」、　「金剛界曼荼羅三摩耶会図像」、「十巻抄　観音下・天等下」、「宗宝僧正画稿一紙・宗杲僧正画稿三紙」、「金剛童子図像」、「烏枢瑟摩明王図像」、「大日経十二火神図像　賢宝筆」、「理趣経十八会曼荼羅図像」、「不動曼荼羅図像断簡」、「宝楼閣曼荼羅図像断簡」、「軍荼利明王図像」、「降三世明王図像」、「十二神将真達羅大将図像　定智原本」、「日天子図像」、「地蔵菩薩図像　定智原本」、「不動明王図像」「深沙大将図像」、「十二天羅刹天図像　珍海様」、「文殊菩薩図像」、「別尊雑記　宝楼閣」、「重要文化財　法華経巻第五（冊子）」、「重要文化財　短刀　銘長谷部国重」、「色絵古裂文食籠」を購入した。



重要文化財　法華経巻第五（冊子）



百犬図　伊藤若冲筆



重要文化財　短刀　銘長谷部国重

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品件数	8,130件	－	－		7,532	7,794	7,977	8,075
うち国宝	29件	－	－		28	28	29	29
うち重要文化財	200件	－	－		183	198	202	196
収集件数	55件	－	－		423	265	184	98
うち購入件数	24件	－	－		18	14	12	12
うち寄贈件数	31件	－	－		405	251	172	86
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	383,800千円	－	－		797,790	130,088	291,808	106,340

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　重要文化財2件を含む、京都に関わりの深い作品を購入することができた。
　また、京都の社寺に伝来していた資料的価値も高い作品を多く購入する等、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入する事ができた。
　そして、寄贈についても各分野に担当研究員が尽力し、数多くの貴重な作品をバランス良く収集する事ができた。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　元年度も、京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等について、収集方針に基づき、順調に購入することができた。
　また、中期計画の年度別に様々な分野の作品を購入する事を行い、収集作品のバランスもとれてきている。
　今後も調査、研究をさらに進める事により、展示・研究に寄与する作品の購入を順次行っていく予定である。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1121C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

（奈良国立博物館）
元年度に購入した文化財は以下の3件である。
・木造二十八部衆立像のうち　迦楼羅王・五部浄居天・毘沙門天・毘楼博叉天　　4軀
・南都寺社古文書・古記録等　　22通
・熊野三所権現懸仏　　1面
決算額：100,440,000円

【補足事項】
　購入文化財のうち「南都寺社古文書・古記録等」22通は、もと東大寺伝来の8～12世紀の古文書等と、春日若宮常住神殿守家に伝来した14～15世紀の古文書・古記録等から構成される。これら22通は、昭和の前期頃まで奈良市内の個人が所蔵していたが、その後は行方がわからなくなり、近年、当館の調査により見出された。いずれも奈良の古代中世史学の研究上に重要な史料であるが、とりわけ8世紀の古文書原本が2通含まれる点が特筆される。



南都寺社古文書・古記録等のうち
左半：坂井郡司符（部分）／右半：摂津職移案

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品件数	1,911 件	－	－		1,883	1,886	1,893	1,908
うち国宝	13 件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	114 件	－	－		112	112	113	113
収集件数	3 件	－	－		6	3	7	15
うち購入件数	3 件	－	－		4	2	6	6
うち寄贈件数	0 件	－	－		2	1	1	9
うち編入件数	0 件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費（千円）	100,440 円	－	－		140,400	5,040	550,000	101,564

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	限られた予算のなか、件数は3件と少ないが、彫刻、書跡、工芸の3分野からバランス良く新収することができた。いずれも仏教美術にかかわる品で、書跡1件については奈良の歴史研究にも資するものであり、当館が所蔵するに相応しい。2年度以降も、分野のバランスを考慮しつつ、対象品の重要性や緊急性にも鑑みながら、計画的に収集を進める。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	元年度も、仏教美術及び奈良を中心とした美術、歴史資料等を収集できた。いずれも、巷間に存する文化財の情報収集を常に心がけ、必要に応じて原品調査を実施している当館の活動成果と言える。実際の受け入れに当たっては外部有識者で構成される委員会を開催し、それぞれの収集品が適時適切であると評価されている。今後も引き続き、体系性という観点を考慮しながら、収集に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1121D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（九州国立博物館）
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
・購入件数 49件。
内訳：絵画6件、書跡1件、金工1件、漆工1件、染織3件、考古34件、歴史資料3件。
・決算額　461,396,500円
当館の展示テーマである、日本とアジア諸国との文化交流を示す作品を中心に収集した。「釈迦三尊図」や「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」、「龍頭金具」などの優れた文化財を49件購入した。

【補足事項】
・絵画分野では 6 件を購入した。京都・鹿王院旧蔵「釈迦三尊図」は、中国・元時代を代表する仏教絵画として著名で、日本における中国美術の受容史を理解する上でも意義の大きい作品である。また、「桃花雉子図」は、桃山画壇を代表する狩野派の巨匠、狩野山楽筆の最充実期の名品としてかねて著名な作品である。長らく所在不明であったがこの度収蔵することができた。いずれも貴重な名品であり、当館を代表するコレクションとなる。
・漆工分野では 1 件を購入した。国内に伝存する聖龕のうちでも最大のものである。空間を埋め尽くすような文様構成や平蒔絵を基調に螺鈿や針描を交えた技法はいわゆる南蛮漆器に共通しているが、大型で複雑な構造や、内外面に施された入念な加飾から本作品は特別な注文品であったことがうかがえる。絵画を収めるタイプの聖龕は、重文「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」（当館所蔵）など国内外に伝存するものの、立体像を収めるこの種の聖龕は稀少で、まことに貴重である。
・金工分野では 1 件を購入した。「龍頭金具」は、鉄製の心棒を軸とした鑰形鋳造の装飾金具で、タイ・スコータイ時代に制作された儀礼用具と考えられる。日本国内では東南アジア製の金工品は所蔵数が極めて少なく、東南アジアで展開した鑰型鋳造作品を理解する上で重要な作例である。


花鳥蒔絵螺鈿聖龕

・考古分野では 34 件を購入した。「土偶」は縄文時代を代表する遮光器土偶として世界的にも知られた作例で、縄文時代晩期を代表する亀ヶ岡文化における広域交流を考える上で重要な作例である。「取手付長頸瓶」は型吹きガラス技法及び吹きガラス技法で成形した作品で、当館にこれまで収蔵されていなかったササン朝時代のガラス作品として、文化交流展示（平常展）のシルクロード美術の展示を一層充実させることができる。
・いずれも日本と大陸の文化交流を物語る作例であり、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品件数	1,279件	－	－		525	583	878	1,164
うち国宝	4件	－	－		3	3	3	4
うち重要文化財	42件	－	－		34	37	39	41
収集件数	115件	－	－		13	58	295	286
うち購入件数	49件	－	－		5	36	34	105
うち寄贈件数	66件	－	－		8	22	261	181
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	461,396千円	－	－		609,288	640,412	640,636	907,943

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度も30年度同様に収集件数を大きく伸ばすことができた。当館として収蔵するべき文化交流を端的に示す作品のほか、「釈迦三尊図」や「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」など、時代の美意識を示す作品とをバランスよく収集した。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（九州国立博物館）
日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度も、日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料を多数購入、寄贈を受けることにより、貴重な作品を多数収集することができた。今後も、購入、受贈につとめ、より一層のコレクションの充実を図りたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1122A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（4館共通）
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
寄贈
・新規寄贈品件数　28件
　内訳：絵画 1件、書跡 6件、金工 4件、刀剣 1件、陶磁 3件、考古 3件、歴史資料 1件、東洋絵画 1件、東洋金工 1件、東洋陶磁 1件、東洋考古 4件、東洋民族 1件、黒田記念館収蔵品 1件
寄託
・新規寄託品件数　29件
　内訳：絵画 6件、書跡 6件、彫刻 5件、金工 4件、陶磁 3件、漆工 1件、考古 1件、東洋絵画 2件、東洋彫刻 1件
・寄託品は新規に29件を受け入れた。返却568件のうち3件は寄贈品として受理した。

【補足事項】
寄贈
・作品の寄贈については17人の所蔵者から、28件の文化財を受け入れた。
・「染付竹虎文大鉢」は初期伊万里のひとつ。小さな高台で大きな鉢を支える形は、磁器の焼成技術が未だ十分でなかった頃の作であることを示す。染付の筆運びが未熟ながら、のびやかでおおらかな表現も初期伊万里染付大皿の特徴として挙げられ、また染付大鉢として三つの脚をもつ珍しい作例であり、初期伊万里の優品として展示に大いに活用できる。
・「鼉龍鏡」は、古墳時代の倭鏡（日本列島製）。古墳時代の銅鏡の中でも、錆がほとんどなく文様が明瞭な優品であり、今後の展示に大いに活用できる。
寄託
・作品の寄託については6機関12個人から、29件の文化財を新規に受け入れた。
・寄託品のうち、重要文化財は「五秘密像」「聖徳太子絵伝」の絵画2件、「蘭渓道隆（大覚禅師）坐像」、「地蔵菩薩立像」「不動明王立像」の彫刻3件、「桜山鵲蒔絵硯箱」の漆工1件である。


［寄贈品］染付竹虎文大鉢　1口

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
新規寄贈品件数	28件	－	－		148	44	84	72
寄託品件数	2,591件	－	－		3,072	3,075	3,109	3,130
うち新規寄託品件数	29件	－	－		31	37	71	45

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度は9月に大倉集古館が増改築工事を終え、リニューアルオープンしたことに伴い、公益財団法人大倉文化財団からの寄託品503件は、寄託当初の計画どおり返却し、同財団がこれまで管理していた他の所蔵者からの寄託品25件も当初の計画どおり返却したため、大幅に寄託品件数は減少したものの、重要文化財6件を含む29件の新規寄託を受け入れるなど、寄贈・寄託ともに着実に受け入れを進めることができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
多数のコレクションを寄託している所蔵者への寄託品の返却があったため、寄託件数は著しく減少したものの、中期計画に基づき寄贈・寄託品の新規受け入れについては積極的に行い、28 件の寄贈、重要文化財 6 件を含む 29 件の寄託を受け入れた。2 年度も引き続き個人コレクターや社寺等との信頼関係を維持・拡大し、寄贈・寄託の推進に努める。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
・寄贈
新規寄贈品件数31件
内訳：絵画　7件、書跡　2件、金工　8件、陶磁　3件、漆工　1件、染織　7件、考古　3件
・寄託
新規寄託品件数149件
内訳：絵画　90件、書跡　6件、彫刻　1件、金工　7件、陶磁　31件、漆工　9件、染織　3件、考古　2件

【補足事項】
元年度は、下記の指定品3点をはじめとして新規寄託品を網羅的に受け入れることができた。


国宝「夜色楼台図　与謝蕪村筆」


重要文化財　霰地真形釜


重要文化財「洲浜千鳥螺鈿硯箱」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
新規寄贈品件数	31件	－	－		405	251	172	86
寄託品件数	6,520件	－	－		6,112	6,189	6,235	6,434
うち新規寄託品件数	149件	－	－		232	227	79	232

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
寄贈については、各分野バランスよく受け入れる事ができた。
また、寄託については、国宝1件、重要文化財3件と貴重な作品を含め、多くの作品を受け入れる事ができた。特に、社寺から寄託品も多く受け入れており、当館ならではの寄託品の受け入れを行う事ができている。
そして、各分野の研究員による寄託者との信頼関係の構築に尽力している活動が更なる寄託品の受け入れに貢献している状況である。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
当館がテーマとする京都の文化を基軸にした寄贈品・寄託品の受け入れを、分野毎のバランスよく行うことができた。受贈、受託した作品に関しては、今後の展示に活用をしていく計画である。
また、寄贈者に対して、税制措置のサポートを行う等の当館独自の取り組みも行っており、寄贈者の満足度向上に努める事ができている。
今後も所蔵者との信頼関係を大切にし、より一層のコレクションの充実を行っていきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1122C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（4館共通）
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（4館共通）
寄贈
元年度に新規の寄贈品受け入れはなかった。

寄託
寄託を受け入れた文化財は以下の8件である。
・彫刻3件：「銅造誕生釈迦仏立像」1軀（個人）
　「木造天部立像」1軀（個人）
　「木造菩薩立像」1軀（個人）
・絵画2件：重要文化財「絹本著色融通念仏縁起絵」1幅（安楽寺）
　奈良市指定文化財「絹本著色当麻曼荼羅図」1幅(来迎寺)
・考古1件：重要文化財「大和竹林寺忍性墓出土品」1括（竹林寺）
・歴史資料2件：重要文化財「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」363枚（法隆寺）
　重要文化財「法隆寺金堂壁画写真原板」83枚（株式会社便利堂）

【補足事項】
・彫刻部門で受け入れた「木造菩薩立像」は、平安時代の「興福寺千体仏」の一部とみられる。研究蓄積のない作品であり、その調査に期待がもたれる。また「木造天部立像」は平安時代後期（院政期）の天部像の佳作であり、展示効果の期待される作品である。
・絵画部門が受け入れた重要文化財の「絹本著色融通念仏縁起絵」は、地元の安楽寺（奈良県田原本町）に伝来した南北朝時代の貴重な縁起絵で、国庫補助による修理が完成した作品である。また「絹本著色当麻曼荼羅図」も地元来迎寺（奈良県奈良市）に伝来した鎌倉時代の当麻曼荼羅の写本で、30年度で修理が完成したため展示活用が期待される作品である。
・考古部門の重要文化財「大和竹林寺忍性墓出土品」は、ハンセン病患者救済で知られる鎌倉時代の僧侶忍性の墓から出土した計36件におよぶ遺品群である。嘉元元年（1303）銘の忍性骨蔵器をはじめ優れた金工品を含み、展示・研究の両面で活用が期待される。
・歴史資料部門が受け入れた法隆寺金堂壁画の写真原板類は、金堂壁画焼失前の貴重な写真記録である。近時に重要文化財に指定されたものであり、これを活用した特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板－文化財写真の軌跡－」（12月7日～2年1月13日）を開催している。


「木造天部立像」1軀
（個人）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
新規寄贈品件数	0件	－	－	経年	2	1	1	9
寄託品件数	1,974件	－	－	変化	1,956	1,958	1,962	1,974
うち新規寄託品件数	8件	－	－		7	37	12	18

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
寄贈品の受け入れまでは至らなかったが、鑑査会議を待つ寄贈候補作品や寄贈申し出作品は各部門で蓄積しており、事業は前進を続けている。寄託作品は重要文化財を含む質の高い作品を受け入れており、調査研究の進展及び展示活用の充実が大いに期待されるところである。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
重要文化財やそれ相当の作品の受け入れは、当館への信頼と期待に基づき成立するものである。元年度も地元の寺社や収集家との絆をもとに、一定量の寄託品が確保された。また、それらは展示効果の高い作品や、修理が完了して安全に展示活用できる作品でもあり、「積極的な活用」という計画目標にも大きく寄与するものと評価されよう。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1122D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
■寄贈
・九州在住の方より56件の筑紫箏に関する貴重資料の寄贈を受け入れた。
　内訳：漆工7件、歴史資料49件。
　筑紫箏は筑紫箏曲または筑紫流箏曲と呼ばれ、安土桃山時代に雅楽の合奏曲である越天楽から誕生し、江戸時代に佐賀藩内で伝承されたといわれる箏曲である。明治時代、大正時代にも、今泉千秋、野田聴松によって筑紫箏は受け継がれたものの、その後は消滅したと考えられた。しかし昭和になって、村井れいと井上ミナの2名が伝承者であることが判明した。村井、井上両氏は昭和32年(1957)に文化財保護委員会（現・文化庁）から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財（筑紫箏）の技芸者」として登録され、研究者やメディアから大いに注目を受けた。しかし、両氏とも伝授者を残さなかったため、筑紫箏の伝承者は消滅した。本コレクションは村井氏が残した資料群を中心としており、筑紫箏の曲譜だけでなく、筑紫箏の伝承の歴史を伝える資料も含んでいる。現在、伝承者が不在になってしまった筑紫箏の歴史と、筑紫箏を残そうと奮闘した人々の活動を伝える資料である。
・ほかにも10件の寄贈を受け入れた。
　内訳：絵画1件、陶磁5件、考古4件。
　「五鈴杏葉」は未報告の資料であり、古墳時代の馬具を紹介する上で、展示効果が高い。


（寄託）綱敷天神像　祖参賛

■寄託
・432件の新規寄託があった。
　内訳：絵画349件、書跡42件、彫刻3件、陶磁23件、考古13件、歴史資料2件
　当館とゆかりの深い天神像のまとまったコレクションや、仙厓関係資料など、いずれも当館での活用が大いに見込まれる作品の寄託を受け入れた。

【補足事項】
　30年度に受贈した作品は、文化交流展示室内において開室した寄贈者顕彰室及び新収品展において紹介し、寄贈者を顕彰した。元年度受贈・受託した作品についても、その一部を2年度内に寄贈者顕彰室及び新収品展において公開する予定である。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
新規寄贈品件数	66件	－	－		8	22	261	181
寄託品件数	1,300件	－	－		885	893	934	931
うち新規寄託品件数	432件	－	－		97	44	45	7

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。いずれも質量ともに充実しており、当館のコレクションの核となるものである。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。受入にあたっては、できるだけ迅速に事前調査を行い、当館への寄託、寄贈につなげるべく交渉を行った。その結果、とくに絵画分野は、天神関係、仙厓関係の優品をはじめ、当館がテーマとする文化交流展示に大いに活用できる資料が加わった。30年度に引き続き、多数の寄贈を受け入れたことで、コレクションが飛躍的に充実した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
（東京国立博物館）
ア　収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行う。
イ　古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
ア　新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、運用に向けての準備を行った。
　また、東洋館収蔵庫、平成館収蔵庫、資料館収蔵庫の扉の劣化に伴い補修を行った。
イ　元年度は505件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。
（東京国立博物館）
ア　未整理・未登録の法隆寺献納宝物「裳残欠」（奈良時代・8世紀、N-324）1件につき、列品としての編入につながる調査を行った。
　「刀身残片」（E-15465）など3件につき、台帳上の員数修正につながる調査を行った。
　九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、74件の収蔵品について情報調査を行った。
　浮世絵画帖32件の調査を行い、画帖に貼り込まれた浮世絵1680点につき、作品情報を収蔵品管理システムに登録した。
イ　古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、767件の写真資料を列品として編入した。



収蔵品の情報調査風景

【補足事項】
（東京国立博物館）
　ア　未整理、未登録の考古資料約160箱分について、整理及びクリーニング処置を行い、管理状況を改善した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	133.8%	－	－		－	180%	180%	133.8%

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	収蔵庫の設備の充実のための作業、寄託品・収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげている。写真資料は767件を列品として編入した。

【中期計画記載事項】
　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規収蔵庫運用前の準備や、寄託品・収蔵品・未登録品の確認・整理を着実に行い、順調に成果をあげている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（東京国立博物館）
ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム protoDB) の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
エ　列品にかかる統計業務の精度を高め、効率化をはかるべく、列品台帳のデジタル・アーカイブ化と情報の利活用向上に向けたシステム導入に向けて取り組む。
オ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。
カ　ガラス原板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。
キ　管理棟への収蔵品・寄託品等の移動プランの策定など、移動のための準備にとりかかる。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦 課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。
エ　文化財情報システムを運用して、新規の文化財の購入11件・寄贈28件・編入768件・出品29件にかかる作品情報を追加し、収蔵品・寄託品のテキストデータを更新した。
（東京国立博物館）
ウ　protoDBで更新されたデータを「国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase)」に自動的に反映する機能を開発した。
エ　デジタル・アーカイブ化した美術品台帳のテキストおよび画像データを、29年度に導入した「収蔵品データ管理システム」に取り込むと同時に、検索機能を実装して機能を拡張した。また、収蔵品データの整備を推進した。
オ　収蔵する和古書・漢籍（戦前の展覧会目録を含む）について24,699件のデジタル撮影を行った。
カ　35㎜フィルムの状態を確認し、一部についてスキャンを試行した。
キ　2-3年度の移動対象となる収蔵品等を選定し、作業スケジュールや作品移動にかかる入札に向けた仕様等について検討した。

【補足事項】
エ　所有者に返却した寄託品568件についても、システム上のテキストデータを更新した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	26,475件	24,471件	B		30,013	25,334	26,972	25,575
和古書・漢籍	20,916件	－	－		13,924	20,224	19,002	25,575
洋古書	5,559件	－	－		16,089	5,110	7,970	0

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度も、年度計画に従ってデジタル化やアーカイブ化について順調に成果を上げている。管理棟完成にともなって、収蔵品等の移動プランを検討し、2年度の移動に向けて順調に準備が進められている。2年度は作業受注業者と密に連絡をとり、状況に応じて移動プランを更新しながら、安全かつ円滑に移動作業を進めていかなければならない。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果を上げている。画像データを継続的に蓄積するとともに、文字データの整備を推進し、業務や調査研究に役立てた。和古書のデジタル化も、前中期目標の期間の実績以上とすることができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
ア　元年度は、金工収蔵庫の改善を実施すべく、金工作品収納用の刀袋を作成した。これにより、従来の刀袋では懸念されていた虫害被害を解消できるようになり、作品保護を強化する事ができた。
イ　毎年度2回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。

【補足事項】
旧刀袋は化学繊維で作られた袋を利用しており、作品保護の観点から考えると望ましい状況ではなかった。
新刀袋では正絹藍染めにより防虫対策を施した素材を利用することで、作品保護をより良い環境にする事ができた。



旧刀袋



新刀袋

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	100%	－	－		－	100%	100%	100%

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度においては、新規の刀袋を作成したことにより、作品保護を強化する事ができた。
また、寄託品の所在確認作業も予定通り2回実施することができた。さらに、連絡が取れない寄託者の所在確認に努めた。その結果、所在不明であった寄託者と連絡が取れるようになったケースがあり、一定の効果を上げる事ができた。今後も、継続的に寄託者との連携を強化し、寄託者が安心して寄託できるように尽力していく。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度も環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。
また、寄託継続証の発送作業を通じて、寄託者の異動（寄託名義人の転居・死亡・相続等）を把握し、その都度、適切な事務手続きを行う事ができた。寄託者の所在不明等の課題を解決するために、より良い寄託者との連携体制を整備する事を今後も取り組んでいく予定である。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B2

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等のガラス乾板・マイクロフィルム・カラーフィルム・等のデジタル化を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
ウ　収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を5,990件（カット）行った。
エ　収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。（元年度登録件数：25,509件）
・購入、寄贈、寄託等に伴い、新規に撮影を行い、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し、展示・調査研究の業務に役立てた。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,333件実施した。以下、内訳を記す。
＊館内のフィルム用スキャナを運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、元年度は5,302枚のデジタル化を行った。
＊継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、元年度は31リール（17,109コマ）のデジタル化を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ　当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展 「流転100年 佐竹本三十六歌仙と王朝の美」（10月12日～11月24日）、西国三十三所 草創1300年記念特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（2年4月11日～5月31日）を対象として進めた。
・収蔵品図版目録「京都国立博物館寄託の名宝　美を守り、美を伝える」の作成のため、既存フィルムを使いつつもデジタルカメラを使用し、作品の再撮影を積極的に行った。
・特集展示「新収品展」（7月2日～8月4日）など特集展示・特別企画のため、作品の撮影を行った。
・須磨コレクション等を含めた収蔵品の撮影を継続して行った。
・調査研究事業「近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究　河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」について、30年度に引き続いて観心寺、及び教興寺・高貴寺を調査し、作品の撮影を行った。（処理番号1411Bア参照）
（京都国立博物館）
ア　外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化を促進した。
・ガラス乾板の整理作業は、京都造形芸術大学の協力の下、調査データの入力及びデジタル化したデータの整理作業が終了した。
・原板フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。
・マイクロフィルムのデジタル化は、劣化の進行したフィルムを残し、全て終了した。劣化が進行したフィルムは元年度にデュープフィルムを作成しており、2年度にスキャニングする。


柿本人麻呂像
(京都国立博物館蔵)

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	5,333件	3,816件	A	経年変化	5,966	5,820	4,444	3,380

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 当館職員による館内でのスキャニング枚数が増えたこと及び外注も増やしたことにより、既存フィルムのデジタル化件数が増加した。マイクロフィルムのデジタル化は劣化が激しいものを除き、終了した。8×10フィルムのデジタル化が終了した。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 積極的にデジタル化を進めたことにより、8×10フィルムのデジタル化が終了した。また、文化財情報システムの収蔵品データが充実し、公開用の館蔵品データベースの公開件数を増やすことができた。今後も積極的にデジタル化を進めていく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1131C1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・収蔵庫等空調設備の修繕計画に基づき空調機器修繕を行った。
・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月１回（計12回）開催した。
イ　寄託継続証の定期的な発行に際して、各部門に寄託品の収蔵状況の確認を求めた。さらに証書の発送・通知にあたって、寄託者の異動（宗教法人の代表役員の交代や名義人の転居、死亡・相続など）を把握した。特に寄託件数が多く、古くからの寄託（明治から昭和前半にかけて）が続いている寺社については、新たな証書を発行するべく、現物の確認と相手先の旧証書との照合作業を開始した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　学芸部の書跡・絵画・彫刻・工芸の各部門と施設担当部署で構成するワーキンググループを開催し、展示室、収蔵庫等施設の維持管理、充実・改善に向けた検討を行った。


収蔵庫等の空調ファンモーター
メンテナンス

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	99%	－	－		－	99%	99%	99%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 毎月１回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、収蔵庫等の温湿度変異調査の報告・改善・検討を行った。また、文化財を保管・展示している諸室の適切な温湿度維持のため、改善に向けた検討を行い、計画的にメンテナンスを行うことで、環境改善の問題確認、改善に取り組むことができた。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫、展示室の修繕計画に基づき空調機器の修繕を行うことで収蔵品の保存環境を維持し、適切な温湿度管理が図られた。 中期計画に沿って、寄託品の所在確認および寄託者の異動把握は順調に進められ、適正な寄託品管理が継続できるように努めた。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1131C2

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
イ　画像データベースの個別データを追加更新する。
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について引き続き検討する。
エ　収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進した。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。
イ　画像データベースの個別データを追加更新した（4,465件）。
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した。
エ　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した（3,001件）。

【補足事項】
写真（フィルム、ガラス乾板）のデジタル化、デジタル撮影を実施するとともに、収蔵品データベース並びに画像データベースの更新を適宜行った。
平成30年（2018）度より、明治28年（1895）の開館以降の館蔵品・寄託品の状況を明らかにすべく館史史料の整理に着手しており、目録作成と撮影を継続して実施した。
特別展、特別陳列、文化財の修理・購入等に際して多数のデジタル撮影を行った。なかでも3年度に予定している仏師快慶の大型図録刊行に向けて、重要文化財 阿弥陀三尊立像（兵庫・浄土寺）他の撮影を実施したことが特筆される。撮影の機会が限定される巨大な仏像であり、学界の共有資源となる貴重な基礎情報を得ることができた。


重要文化財 阿弥陀三尊立像（兵庫・浄土寺）撮影風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	3,001件	5,373件			3,875	3,081	3,017	3,047

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
カラーフィルムのデジタル化が完了したため、29年度よりモノクロフィルムのデジタル化件数を数値として計上している。例年どおり、順調に成果をあげている（例年、3,000件程度実施予定）。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
カラーフィルムのデジタル化が完了したことにより当初の目標は既に達成されている。現在はモノクロフィルムのデジタル化を進めており、それを実績としている。「デジタル化」の主流は既にデジタル撮影に移行して久しく、今後の指標としては、デジタル撮影の件数も判定に加えていくことが相応しい。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1131D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
・施設設備に関しては収蔵庫 10 か所の扉の点検を行い、開閉時に電気鍵にエラーが出る傾向の高い扉については、施工業者に依頼し、調整作業を行った。
・収蔵品の棚卸し作業のため、収蔵庫内の Wi-Fi 環境を整備した。
・2 年度から長期預りを予定している資料（3,200 点）保管の検討を行った。
イ
・当館は所蔵品以外にも長期借用（約1,500件）、寄託品（約900件）など数多く管理している。元年度から3年間計画にて収蔵品の棚卸しを開始した。
・棚卸しを行うにあたり、収蔵品システムの登録状況確認、整理作業を進めた。
・収蔵品の棚卸し準備として全点の調書を整備した。

【補足事項】





収蔵庫扉の調整作業



収蔵品（所蔵品、寄託品、長期借用品）実査

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	80%	－	－		－	80%	85%	80%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検整備を行い、必要に応じた修理、調整を行った。寄託品の所在確認を行ったほか、収蔵品の棚卸しが本格的に始動し、計画性をもって作業を進めている。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度に新たに受入を予定している資料について、関係者にて保管場所と保管方法の確認、検討を行った。 計画に基づく収蔵品等の管理のために、収蔵庫内棚卸し、資料登録情報の更新を行うとともに、保管方法の現状確認と適切な保管方法についても検討した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1131D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（九州国立博物館）
ア　文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース）の一元的管理が可能な業務システム構築を進める。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　専任撮影技師による 4,555 件（カット）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
エ　文化財情報システムの運用を継続し、1,002 件の収蔵品データを新規登録した。
(九州国立博物館)
ア　列品・寄託品・借用品などの有形文化財情報と、陳列・画像・修復などの情報を一元管理するシステムを継続的に運用し、また、同システムの改修・整備を進めた。

【補足事項】
（４館共通）


大型平面資料の撮影


彫刻の撮影


撮影対象資料の展開作業

（九州国立博物館）
ア　元年度は、来館者による展示品の撮影の可否を含む、文化財の活用条件を一元管理するためにシステムの整備を進めた。すでに構築済みの陳列案管理データベースや題箋管理データベースとの連携により、業務上必要な情報へのアクセシビリティを飛躍的に向上させ、収集した情報の活用を推進することができた。引き続き、基盤強化と情報統合の作業を進め、博物館活動を支援する体制の構築を目指す。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	（完了）	－件	－	経年変化	－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	元年度は「九州国立博物館文化財情報システム」の文化財活用条件を管理する機能を追加したほか、修理記録情報を増やすことで文化財情報一元管理がさらに進んだ。新規撮影画像の画像データ処理、データベースの整備を進め、内外へ公開することで利便性を向上した。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	計画通り、収蔵品に関する情報を一元管理し、展示や貸与、修理、調査研究に活用していくためのシステムを整備した。また、外部に文化財情報を発信し、博物館活動の活性化に供した。 30年度に引き続き新規撮影を進め、既存画像をポジフィルムに替えて高精細カメラにて再撮影する作業も継続している。例年通り2,000カット以上の撮影が見込まれており、専任技師による撮影が必要不可欠である。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1132A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

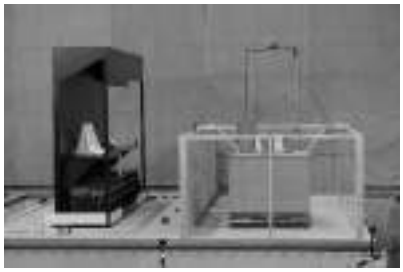
【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。

イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行う。
イ　収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。
ウ　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。
エ　収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。
オ　輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵庫等36ヵ所を対象に生物生息調査及び害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。生物生息調査結果から改善を要すると判断した7か所の修理室、収蔵庫に対して除塵防黴清掃を実施した。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを1,574件作成した。

（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の温湿度環境情報を収集し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。
イ　収蔵庫及び展示室304ヵ所の温湿度を計測し、5ヵ所の収蔵庫、展示室に対して各7種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。
ウ　展示ケースの実物を用いた加振実験を行い、現行の免震装置上に支持具で固定された資料が仙台波、益城波を受けた際に示す挙動を観測した。
エ　収蔵庫及び展示室303ヵ所の温湿度、11ヵ所の空気汚染物質に関する年次報告を整備した。
オ　館内輸送中に台車上で生じる振動及び衝撃を計測し、館内輸送経路の床面形状がもたらす影響について検証した。


加振試験の様子

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、輸送中の振動に関する調査を実施した。特に従来からの大きな課題であった有害生物対策については、問題箇所の除塵防黴清掃を過去最大規模で実施し、清浄環境の維持に努めた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
30年度に今後の課題とした大規模災害に対する館全体の防災レベルに関して、元年度は展示における地震対策の安全性検証を実施した。兵庫県南部地震以降に生じた地震動を受けた現状の免震装置や支持具の問題点の一部が明らかとなった。より高度な地震対策の実現を目指して調査研究を継続する予定である。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1132B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館の展示環境及び収蔵施設、東収蔵庫、北収蔵庫の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行う。
イ　明治古都館の改修計画に役立てるため、環境データの収集などを行う。
ウ　資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫（KICK）も含めた、包括的な環境管理体制の構築を目指す。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。
イ　収蔵品の保存カルテを217件作成した。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館では専用LAN経由環境モニタリングシステムを構築し継続的な温湿度調査を実施している。また定期的に全館を網羅した昆虫類の生息調査を実施し、随時、収蔵庫内の浮遊菌・付着菌調査、検知管による空気質調査を実施している。改修工事が終了した東収蔵庫は、温湿度調査・昆虫類生息調査モニタリングを開始し、作品移動前の環境調査として有機酸等の空気質調査を開始した。
イ　明治古都館では収蔵庫および限定的使用を実施した展示室について、温湿度調査（通年）、昆虫類生息調査を継続して実施した。またイベント会場として活用する際には、イベント終了後のIPMを徹底するようにした。
ウ　各施設の温湿度データ、昆虫類生息調査、浮遊菌類調査等を実施し、外部収蔵庫（KICK）では現地管理者と毎月打ち合わせを実施するなど連携強化を図ることができた。さらにこれらの施設の無線モニタリングシステムの構築について検討を始めた。

【補足事項】




KICK 収蔵庫内の落下防止ネットの設置および飛び出し防止ベルトの設置状況

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
貸与に伴う点検時を主体として行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、217 件作成した。
30年度に引き続き、展示・収蔵施設の温湿度環境モニタリング・空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析結果をもとに、包括的な環境管理体制の構築を目指し、各施設の施設整備関連部署との連携強化をより進めることができた。外部収蔵庫（KICK）では、年間と通して温湿度のモニタリング・昆虫類生息調査等を実施し、文化財の受け入れに適切な保管環境を維持した。今後は迅速な対応を実施するための強固な体制作りと、無線LANを活用したモニタリングシステムに未対応な施設のシステム構築に向けて検討していく必要があると考える。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
適切な展示･保存環境の保持のための地震等への対策として、外部収蔵庫(KICK)では、棚内収蔵品の落下防止対策エリアを拡大することができた。展示・収蔵施設の温湿度管理は、所管7か所の建物内について通年モニタリングを実施しデータの蓄積を図るとともに、それらの解析結果を受けて、より適切な展示・保存環境の保持に向けて建物毎の対応策を検討することができた。今後も継続してモニタリング活動を進めるとともに、他館との情報交換などを実施し、より適切な環境保持に対する調査研究に繋げていきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1132C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（奈良国立博物館）
ア　展示施設及び展示ケースの温湿度管理の徹底を図り、無線 LAN によるデータ管理システムを更に充実させる。
イ　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約2か月に1度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することによりＩＰＭを推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示･収蔵環境の衛生保持に努めた。
イ　保存修理指導室で作製した文化財の写真添付が可能な作成フォームを用いて、107件の保存カルテを作成・保管した。


昆虫調査用トラップの設置作業

（奈良国立博物館）
ア　無線ＬＡＮによるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置しており、展示終了後にはデータの分析を行い今後の参考資料とするとともに、蓄積した温湿度測定データを館内環境の改善に役立てた。
イ
・展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月15日に実施した。また、劣化した展示ケースのシール部分を交換・修理し、気密性の向上を図った。
・展示室の無線ＬＡＮ温湿度管理システムによる24時間モニタリングと展示室入口のエアカーテンを適切に運用することで館内温湿度負荷の低減を図り、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　館内の展示室･収蔵庫や文化財保存修理所等100か所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2か月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に対策を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などＩＰＭの実践につなげた。
（奈良国立博物館）
ア　機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	30年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。必要に応じて展示ケースのシール部分の交換や修理等を進め、展示環境の向上を図った。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画は順調に進んでいる。2年度以降も展示・保存環境の把握に努め、適切に対応することにより文化財の維持・管理に努める。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1132D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（九州国立博物館）
ア　館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。
イ　全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　文化財害虫の発生を防止するため、温湿度管理、生物処理、昆虫トラップの観察などを徹底して行った。
イ　収蔵品の保存カルテを 96 件作成した。
（九州国立博物館）
ア　展示室・収蔵庫の温度・湿度データを蓄積し、すぐに活用できるようにした。通常の粘着トラップを館内全域約 440か所に設置し、2週間ごとに交換・観察した。さらに面積の広い捕虫粘着シート（虫ペチャシート）も活用し、文化財害虫の進入経路等の把握に努め、文化財害虫に対して早期に対処することができた。
イ　展示室・収蔵庫等の空気質について調査を進めた。調査結果をもとに、より良い展示・収蔵空間を作り出すための方策を検討し、温湿度の調査結果とともに環境保全に努めた。

【補足事項】
ア
・展示ケース内に温度・湿度のデータロガーを設置し、測定結果をもとに適切な温度・湿度で展示するよう務めた。
・館内に設置した粘着トラップ及び捕虫粘着シート（虫ペチャシート）で細やかなモニタリングを行い、徹底清掃など速やかに防虫対策を講じることができた。
・地元のNPO法人（ミュージアムIPMサポートセンター）と市民ボランティアとの連携を進め、当館のIPM体制を維持することができた。地元NPO法人の行うIPMメンテナンス及びトラップ観察に市民ボランティアが参加することは、ボランティア自身にとって博物館でIPM活動を行う意義について再認識する良い機会となった。

イ　文化財を展示する空間の空気質に関して調査した。収蔵庫、展示室、展示室周辺の廊下、展示ケース内など様々な場所の空気質を測定し、より良い展示・収蔵空間を作り出すための方策を検討した。


展示室周辺の廊下の空気質調査の様子


展示ケース内の空気質調査の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
殺虫殺黴処置	19件	－	－		12	58	35	26
保存カルテ作成件数	96件	－	－		91	81	102	101

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	収蔵庫、展示室、展示ケースの温度・湿度データを蓄積し、文化財を安全に保存・活用するための環境整備をすることができた。また、地元NPO法人と市民ボランティアとの連携を行い、IPM活動の体制を維持することができた。空気質の調査に関しては、今後調査結果をふまえ、方策を検討したい。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度に関してはこれまでどおり、データを収集し、適切な温度・湿度管理に努めた。館内に設置した粘着トラップ等の結果をもとに清掃箇所等を選定し、文化財害虫の発生を防ぐことができた。今後は空気汚染を含めた環境保全に力を入れ、対策に役立てるデータを蓄積する。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-1A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】

（東京国立博物館）

ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に 27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組む。

イ　引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。

ウ　保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】

(東京国立博物館)

ア　保存修復課に、彫刻や工芸品など立体の修理技術者1名、装こう関連修理技術者のアソシエイトフェロー1名を配置し、館内で実施する館蔵品の応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために452件の応急修理を実施した。

イ　修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む250件の作品に関して修理仕様の検討を行ない、中長期修理計画策定を進めて、24件の本格修理を実施した。

ウ　データベース構築のために、30年度に修理が完了した19件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書XX』を刊行した。

【補足事項】

・国宝「医心方」（平安～江戸時代）独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を継続した。
・国宝「国宝　埴輪挂甲武人」（土製、古墳時代・6世紀、群馬県太田市飯塚町出土)はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施・完了した（29年3月着工、工期28か月）。
・国宝「普賢菩薩像」（絹本着色、平安時代・12世紀)は紡ぐプロジェクトからの寄附金により修理を実施した（31年4月着工、工期30か月）。
・重要文化財「九条袈裟」（絹製・羅・縫絲、元～明時代・14世紀）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施した（30年4月着工、工期24か月）。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）	24件	－	－		86	68	69	26
修理のデータベース化件数	19件	－	－		90	61	47	98

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、寄附金の獲得に努め、国宝3件、重要文化財1件を含む修理を実施した。なお、本格修理の件数が減少しているのは、30年度からの継続事業に修理費をあてたことなどによるためで、中期修理計画は予定通りに運用している。応急修理件数は30年度より増加しているが、これは貸与促進事業等に貸し出す作品の応急修理件数等が増えたことも要因である。

【中期計画記載事項】

修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に従い、事前調査、対症修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。今後常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理に継続して取り組む。
イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画の策定を検討する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・「天保九如図・四季草花図屏風」等の本格修理を行い、劣化の予防に努めた。
・4か年計画の4年目となる「重要文化財　大手鑑（八十葉）」の修理を完了した。
・5か年計画の3年目となる「重要文化財　若狭国鎮守神人絵系図」の復元模写を進めた。（処理番号「1421Bア」参照）
イ　収蔵品の中長期的修理計画の策定の検討を行った。
ウ
・元年度は171件の新規修理文化財搬入がありデータベース化を行うとともに、過去のデータに関して2,049回追加、更新を行った。
・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、元年度は105件の修理記録のPDF化を行った。

【補足事項】
ア　緊急性の高い作品を優先に、12件の本格修理を行った。
（絵画2件、書跡3件、金工2件、考古5件）

・修理風景写真


「阿弥陀八大菩薩図」の解体作業の様子


「坩」の解体クリーニング中の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）	12件	-	-		12	14	11	17
修理のデータベース化件数	171件	-	-		113	151	180	149

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度も多分野にわたって、緊急性の高い収蔵品から計画的に修理を行う事ができた。また、4か年事業の重要文化財「大手鑑（八十葉）の修理についても最終年度として完了した。そして、修理件数についても予定通り進行する事ができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
寄附金等を活用し、中期計画に基づき、緊急性の高い作品から修理を実施する事ができた。また、中期計画に基づき、保存科学研究員や機構外の修復技術担当者との連携し、伝統技術と科学技術のお互いの最新知見から最適な修理方法を検討する事ができた。
修理に要する予算の確保が困難な状態が続いており、憂慮している。2年度以降は寄附金等の外部資金を上手く活用し、緊急性が高い収蔵品の修理に計画的に取り組んでいきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-1C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画、書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「絹本著色道宣律師像」等の修理に取り組む。
イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。
エ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア
・館蔵品本格修理8件のうち、新規7件、30年度からの継続事業1件を実施した。
　内訳　絵画2件、彫刻2件、書跡1件、工芸2件、考古1件
・年度内に6件が完了した。
イ　22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。
ウ　『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第1号を6月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。
エ　寄託所蔵者と協議を行い、寄託品2件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に設置した。
ウ　29年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第1号を刊行した。26～29年度の材質調査や銘文集成なども掲載することで、修理実績や内容を広く伝えることができた。
エ　寄託品修理として、新規に法隆寺所蔵　重要文化財　木造天蓋附属飛天（琵琶）の1件を着工した。京都・眞輪院所蔵 絹本著色両界曼荼羅は住友財団の助成により2か年継続で修理を行っており、2年度末に修理完了の予定。京都・大覚寺所蔵 絹本著色五大虚空蔵像は出光文化福祉財団の助成により元年度から2か年の予定で修理を実施しており、2年度に修理が完了する予定。


『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第１号

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）	8件	－	－		11	7	6	6
修理のデータベース化件数	74件	－	－		66	62	69	63

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	30年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、Ｘ線ＣＴやＸ線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1133-1D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　文化財の劣化の予防に努めるとともに、必要となる応急修理を適正に実施し、また緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
ア
・館蔵品を中心に、損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財36件（本格31件、応急5件）の修理を実施した。
・当館に文化財保存修復施設が設置されている利点を生かし、施設使用者の協力を得て館蔵品の保存状態調査を的確に行うことができた。そのため解体修理が必要なものは2年度の本格修理候補とし、軽微な保存処置で済むものは応急処置を行うことができた。また、寄託品や九州所在の地方自治体・社寺等所蔵品等の保存状態調査を行い、正確な診断、現実的な修理計画を立てることができた。

【補足事項】
・重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む館費による修理件数 36 件(本格 31 件、応急 5 件) の内訳：
絵画 7 件(本格 4 件,応急 3 件)、書跡 1 件(本格 1 件)、彫刻 1 件(本格 1 件)、漆工 1 件(本格 1 件)、金工 6 件(本格 6 件)、刀剣 1 件(本格 1 件)、染織 1 件(本格 1 件)、考古 12 件(本格 11 件、応急 1 件)、民族資料 2 件(本格 2 件)、歴史資料 4 件(本格 3 件,応急 1 件)
・修理中の「花鳥図巻」（当館所蔵)の彩色材料と技法の調査のため、修理中にしか行えない裏彩色の観察、可視光、反射・透過赤外線写真の撮影と顕微鏡写真の撮影を行った。
・当館文化財保存修復施設使用者の協力を得て、当館寄託の福岡・勝福寺や幻住庵所蔵等の文化財の保存状態調査を行った。また、大分・萬壽寺等所蔵文化財の保存状態調査を行い、本格修理を事業化した。
・当館の寄付会員制度「賛助会」の寄付金を使用し、「渡唐天神像」と「深鉢形土器」(当館所蔵)の本格修理を行った。「深鉢形土器」については修理後に平常展示で公開した。「渡唐天神像」については 1 年保管した後の 2 年度に公開する予定である。



「花鳥図巻」の裏彩色の顕微鏡写真
（桃色絵具は、Pb 系白色顔料と Hg 系赤色顔料の混合であった）



賛助会費修理による「深鉢形土器」の展示風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）	31件	－	－		22	18	19	40
修理のデータベース化件数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む31件の本格修理を計画的に実施することができた。また、修復施設使用者の協力が得られたことで、保存状態調査を効率的、的確に行うことができ、2年度の本格修理の計画を策定することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	当機構所属の保存科学研究員や機構内外所属の修復技術担当者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら中期計画に沿って計画的に保存状態調査や修理を実施した。修理が完了した作品は、作品の状態を考えながら展示に活用した。 調査研究設備については、更新、保守、改良を行い、精度の高い分析値が得られるようにした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
(4館共通)
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
(4館共通)
(東京国立博物館)
ア　商山四皓図（N-4）の赤外線撮影調査、蛍光X線分析を行い、劣化状況の確認と材料、描画技術の調査研究を行った。雛雀図（TA-355)、五馬図巻(TA-694)の紫外線蛍光撮影調査と赤外線撮影調査、月次風俗図屏風(A-11090)の赤外線撮影調査、X線撮影調査し修理方針作成に寄与した。また、引き渡し後となったが五馬図巻の蛍光X線分析、繊維組成試験を行い、本体の材質を調査し修理方針作成に寄与した。
　受託研究事業の一環で、陸前高田市博物館所蔵のガラス乾板の修理前蛍光X線調査を行い津波由来物質の調査を行い、汚染物質の人体への影響がないことの確認、クリーニング処置の有効性を適宜確認して修理作業の進行に寄与した。

【補足事項】



図 1.月次風俗屏風の X 線撮影の様子



図 2.商山四皓図赤外線調査の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	修理作品決定から引き渡しまでの限られた時間で元年度の主要な修理作品の科学分析や光学調査を行った。今後は作品選定の段階から積極的に調査を行い、修理方針の立案に寄与するように取り組む。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	制度化されるには至っていないが作品の分野担当者と保存科学研究員とで修理前の調査・分析が意識されるようになってきた。しかし、分析機器、撮影機材の交換時期が順次せまっており、データの保存や継続性を考えた機器の交換など対処が必要である。今後も計画的に設備更新を行い調査の継続性を維持できるようにする。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　X 線 CT スキャナを運用し、研究の進展を図り、より適切な修理方法を引き続き検討する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　収蔵品を中心に特別展（東寺展）、国宝重要文化財新指定品などの作品について93件のX線CT撮影を行い、研究を進展させた。銀象嵌鏡（列品番号 J-2191）の調査では撮影画像の解析に加え、X線CT画像を用いて蛍光X線分析を行い、その結果と考古学的考察と合わせた研究成果をMUSEUM　No.683で発表した。また、如意輪観音菩薩坐像(C-1883)のX線CT撮影画像から画像処理した画像と三次元プリンター出力品を用いた研究を彫刻史担当者とまとめてMUSEUM No.683で発表した。十二間星兜(F-16027)の修理後のX線CT撮影を行い修理の結果を検証した。
　また受託研究事業の一環で、陸前高田市博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の錆びた金属釘の除去の際、内部の金属の残存状況をX線撮影画像で適宜確認し、修理作業進行に寄与した。

【補足事項】



図1.F-16027　十二間星兜のX線CT撮影の様子



図2.如意輪観音菩薩坐像頭部の研究に用いた3Dプリンター出力品

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 撮影、画像処理、3次元出力などの手法を用いて調査した作品の研究成果を出版し、成果を公開できた。また、修理前作品の調査に加え、修理後の調査を行えたことで、修理の成果を把握するこがができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 X線CT装置を導入して6年目になり、データの応用範囲が博物館教育分野にも広がっている。得られたデータを活用して三次元プリンターで複製品を作成するなど、撮影調査だけでない活動が行えるようになってきたことが評価できる。一方、装置の定期的な点検、消耗部品交換を行っているが経年劣化が進み、機器の故障より安定した調査が継続できなかったことが課題である。故障の原因を究明して安定運用に努める。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-2B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種化学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（京都国立博物館）
ア　仏像や厳封された納入品等のX線CT撮影を行い、適切な修理指針の検討に役立てる。
イ　蛍光X線分析や分光分析等の非破壊的な分析手法を用い、彩色材料等の分析事例を集積することでより統計的に有意義なものとし、修理への活用を模索する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存科学室長　降幡順子 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（４館共通）
ア　元年度、所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房と実施した科学分析調査は、作品の内部構造調査として、I.P を用いた X 線透過撮影 9 回、FPD を用いた X 線透過撮影 1 件、X 線 CT 撮像 3 件を実施した。作品の材質調査としては蛍光 X 線分析調査 21 件、分光分析調査 3 件、FT-IR 調査 1 件、ポリライト観察 1 件である。
（京都国立博物館）
ア　X線CT撮影では、たとえば東寺蔵の二間観音像調査では、内部構造・ほぞの構造ついて、上杉神社蔵の明代冠服類では冠の複数ある布地材の重複関係について可視化することができ、修理前に画像提供することで修理指針に貢献することが可能となった。
イ　非破壊的な分析調査では、修理所工房からの依頼による調査として絹本・紙本の絵画資料の彩色材料調査や古楽器の調査を実施した。彩色材料等の情報についての蓄積とともに、修理技術者との情報共有を図ることができた。

【補足事項】



彩色材料調査風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度も継続して従来から実施している展示前状態調査や文化財修理所各工房からの修理前・後調査依頼を受け入れ、透過X線撮影、X線CT撮像、FT-IR分析、蛍光X線分析等の調査を行った。修理前調査では、文化財の構造調査、材料調査を実施し多くの情報を修理技術者と共有することができ、修理方針の策定などに役立てた。今後も継続を図るとともに成果の発信へも取り組んでいきたい。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
修理に係わる科学調査の実施は、その比重も徐々に大きくなり、調査項目も増加傾向にあることから、有形文化財に関連する調査研究について順調に成果を上げているといえる。基本設備については従来通りではあるが、今後も調査、検討を重ね、修理事業者へ提供できる基礎的情報の蓄積を図るなど、継続的に実施していく必要があると考えている。

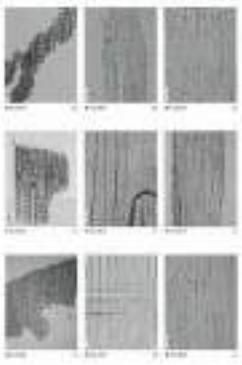
【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-2C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（奈良国立博物館）
ア　木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　X線CT撮影、X線透過撮影等の機器により調査を行い、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
ア　紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、30年度に引き続き京都大学生存圏研究所と連携し樹種同定調査を行った。同定結果は修理に活用している。（実施計2件）
イ
・館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施するとともに、修理方針の検討資料とした。
・絵画作品の修理の際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。（実施計6回）



修理報告書に掲載した樹種同定調査結果

【補足事項】
（４館共通）
ア　当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
京都大学と引き続き連携して彫刻作品の樹種同定調査を行うとともに、絵画作品の赤外線撮影を実施するなど、8回の調査を実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ各種の調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果をふまえ計画的な修理を実施した。絵画作品に対して赤外線撮影を実施し修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（九州国立博物館）
ア　修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本としてX線CTスキャナ、X線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　30年度に引き続き、重要文化財「対馬宗家関係資料」（当館所蔵）等の紙本文化財の繊維同定を行い、修理対象と同質の補修紙を作成した。
・修理中にしか見ることができない「花鳥図巻」（当館所蔵）の裏彩色の顕微鏡観察と蛍光X線分析を行い、鉛系白色顔料に様々な有色顔料を混ぜたものが使用されていることが明らになった。
（九州国立博物館）
ア　花鳥螺鈿箪笥（当館所蔵）及び漆山水人物螺鈿料紙箱（浦添市美術館所蔵）などのX線CTスキャンを実施し、修理に必要な構造調査を行った。

【補足事項】
・修復施設１～３と修復施設４（10月～）では、修理工房宰匠が館費修理品12件のほか、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類（那覇市所蔵）など、合計38件の修理を実施した。
・修復施設４（～8月）では、美術院が館費修理品1件のほか、重要文化財「木造釈迦如来坐像」（佐賀・東妙寺所蔵）など、合計6件の修理を実施した。
・修復施設５では、芸匠が館費修理品13件のほか、重要文化財「福岡博多遺跡群出土品　陶器・磁器」（福岡市埋蔵文化財センター所蔵）など、合計16件の修理を実施した。
・修復施設６では、大西漆芸修復スタジオが館費修理品1件のほか、国宝「婚礼調度類〈徳川光友夫人千代姫所用〉のうち書棚」（徳川美術館所蔵）など、合計6件の修理を実施した。
・当館所蔵品の館外修理は、岡墨光堂が「花鳥図巻」など2件、小宮光敏が「脇差」1件、八木鋳金が重要美術品「梅竹の図真形釜」など6件、合計9件を実施した。


「如来坐像」（当館所蔵）修理協議の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
九州等所在文化財66件の修理のために当館修復施設を活用した。また、漆工品のCT調査や紙文化財の材質分析を行い修理方針を検討するなど、伝統的な修理に科学調査の結果を取り入れ、適切な修理を実施することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
修復施設使用者と連携しながら作品の状態調査を行い、適切な修理計画を策定し、計画的に修理を実施することができた。修理は、伝統的な技術で行いながら、修理中にはX線CTや紙繊維同定などの科学調査を行い、伝統技術に科学技術を取り入れた修理を実施できた。
当館は開館14年目となり、開館当初に導入した分析機器類は更新の時期を迎えている。30年度はCT装置を更新したが、2年度以降も計画的に更新したい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1134B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（京都国立博物館）
ア　文化財保存修理所及び仮工房等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催した。

（京都国立博物館）
ア
・文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。
・経年により老朽化により振動が生じていた天井クレーンについて、仕様を見直したうえで更新を行った。
・各所老朽化した設備（空調機加湿ユニット、熱源整備他）の修繕を行った。
・写場の照明設備をLEDに改修した。
・階段（避難経路）の照明設備の照明設備をLEDに改修した。
・地下一階防火鉄扉の防カビ塗装を行った。
・修理所内の全ての防火戸の電磁レリーズ（自動開閉装置）の更新を行った。
・写場の天井灯の交換を行った。
・玄関自動扉の修繕を行った。
・防災体制の充実を図るため、文化財保存修理所での防災訓練を実施した。

【補足事項】



更新した天井クレーン

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所運営委員会及び修理者協議会を予定通り開催した。 老朽設備の改善を適時適切に行った。文化財保存修理所において、文化財の適切な保存修理環境を維持するため、保存科学室の助言を得て地下一階防火鉄扉の防カビ塗装を行う等、設備等の改修を実施した。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 工房と協力しながら文化財保存修理所の整備を進めており、整備充実を実施できた。 設備面での老朽化は目立つものの、足りない部分を防災訓練や減災に向けた手段を講ずるなど、色々な方法で補うように努力を続けている。今後も中期計画の達成に向けて引き続き、整備・充実を進めていく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1134C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所のブラインドが故障したため、部品交換を実施した。また、空調機が劣化してきたため、予防保全の観点から部品を交換した。
（奈良国立博物館）
ア
・文化財保存修理所運営委員会を５月 15 日に開催し、修理所の円滑な運用に努めた。修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の３工房代表者と当館学芸部で文化財保存修理所協議会を開催（1 回目は９月 30 日に開催、2 回目は２年３月５日に開催）。各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を５回実施した。

【補足事項】
・12月24日から2年1月13日まで、当館西新館第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催した。30年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した11件の当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。
・2年1月9日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。報道機関を含む148人の参加があった。


文化財保存修理所特別公開の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 運営委員会及び所内3工房代表者との協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、Ｘ線ＣＴによる修理への応用や文化財被災時に修理技術者と連携できるように意見交換を行った。その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1134D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（九州国立博物館）
ア　文化財保存修復施設を運営し、文化財の保存修理に積極的に活用する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・生産が終了しつつある蛍光灯について、装こう文化財の修理で使用する透過光源を蛍光灯からＬＥＤに変更した。蛍光灯からＬＥＤへの変更したことで省エネ対策になった。
・カメラの高解像度化により、撮影で使用しているロールスクリーンの布地が目立って写るようになったため、撮影に影響のないものに新調した。これにより、違和感のない修理前後写真の撮影が可能となった。


新調したロールスクリーン

（九州国立博物館）
ア
・6つの修復施設の全てにおいて、修理事業者による修理事業に使用された。
・当館文化財保存修復施設にて、当館経費による修理27件及び所有者等負担による修理39件、合計66件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による9件の修理事業を実施した。

【補足事項】
・修復施設は事前確認公募の結果、次の事業者が使用することとなった。
修復施設１～３は修理工房宰匠、修復施設４は美術院、修復施設５は芸匠、修復施設６は大西漆芸修復スタジオ。
修復施設４は、8月で美術院の事業が完了したため10月以降は修理工房宰匠が使用し、効率的に施設が使用された。
・当館文化財保存修復施設は、施設内で修理を行った文化財のうち所有者等負担による修理品39件の所在地の内訳が、福岡県7件、佐賀県3件、長崎県2件、熊本県8件、鹿児島県1件、大分県2件、宮崎県3件、沖縄県2件、山口県2件、広島県1件、京都府2件、愛知県3件、東京都1件、国外2件となっており、九州山口地区の文化財修理の拠点としての役割が定着している。
・上記修理品39件の約半数である19件が国指定・地方指定文化財を占めている。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修復施設で使用する透過光源と撮影機材を最新の機器に対応したものにすることにより、修理技術や修理記録をより精度の高いものにすることができた。 当館の文化財保存修復施設は、九州山口地区における文化財修理の拠点として活用され、確実に成果を上げている。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 国指定・地方指定文化財を含め順調に修理事業を行い、中期計画に沿って修復施設を活用することができた。修理品は、九州山口地区の文化財が中心になっており、当館が西日本の文化財修理の拠点になってきている。今後も計画的に修理事業を進め、修復施設の活用を継続したい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
①平常展
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）
1)「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。
2)特集
テーマ性を持った展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。
・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(3月12日～4月7日)
・「密教彫刻の世界」(3月19日～6月23日)
・上野動物園・国立科学博物館との連携企画　親と子のギャラリー「ツノのある動物」(4月16日～5月26日)
・「平成30年度新収品展」(6月4日～7月15日)
・「やちむん―沖縄のやきもの」(6月25日～9月16日)
・「親と子のギャラリー　日本のよろい！」(7月17日～9月23日)
・「焼き締め茶碗の美―備前・信楽・伊賀・丹波―」(9月18日～12月8日)
・「平安時代の書の美―春敬の眼―」(10月1日～11月17日)
・「天皇と宮中儀礼」(10月8日～2020年1月19日)
・「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」(10月22日～12月8日)
・「中国書画精華―日本における愛好の歴史」(10月29日～12月25日)
・「近世日本と外国文化」(11月19日～12月25日)
・「伝説の面打たち」(2020年1月2日～2月24日)
・「博物館に初もうで　子・鼠・ねずみ」(2020年1月2日～1月26日)
・「生誕550年記念　文徴明とその時代」(2020年1月2日～3月1日)
・「朝鮮王朝の宮廷文化」(2020年2月4日～3月15日)
・「おひなさまと日本の人形」(2020年2月26日～3月22日)
3)文化庁関係企画
「平成31年　新指定　国宝・重要文化財」(4月16日～5月6日）にて、31年度新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。
4)トーハク新時代プランに基づき、レプリカ、VR、8K映像等を活用した新感覚の展示を行う。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
平常展来館者数は、1,030,652人と目標値を大幅に上回り、展示替件数は5,813件と目標値に到達しなかった。
（東京国立博物館）
1)　定期的な展示替を実施し、5,813件の展示替えを行った。展示総件数は9,267件である。
2)　18件の特集、1件の特別企画を実施した。
3)　「平成31年　新指定　国宝・重要文化財」を実施し、新指定となった美術工芸品の一部を、本館の8室および11室において展示した。
4)　「8Kで文化財　国宝「聖徳太子絵伝」2019」を法隆寺宝物館で実施した。また、親と子のギャラリー「日本のよろい！」と連動して、屏風の高精細レプリカを間近で鑑賞することでよろいがどのように着用されていたかの想像を促した。また、現代に作られた鎧を実際に着用する体験型の展示を実施した。

【補足事項】
本館各室の入り口に設置している展示趣旨の解説を見直し、デザインを新しくした。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者数	1,030,652人	512,186人	A		747,944	761,709	1,030,180	989,508
平常展の展示替件数	5,813件	6,009件	C		6,930	8,538	6,616	5,981
平常展の展示総件数	9,267件	－	－		8,911	10,918	10,223	9,253

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
本館 11 室、本館特別 5 室、東洋館 3 室で特別企画を実施したほか、特別展にかかわる展示、毎年恒例の「博物館に初もうで」「東洋館でアジアの旅」など、充実した展覧事業を行った。そのほか、新技術を活用した展示として「8K で文化財　国宝「聖徳太子絵伝」」が好評を博し、新規来館者の獲得につながっているものと思われる。展示替件数については目標値を下回ったが、これはコロナウイルス蔓延が影響したためである。、

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
展示替件数は目標値に達しなかったが、来館者数は目標値を大きく上回った。天皇即位を記念したテーマで特集を実施するなど時宜にかなった魅力的な事業を展開した。また本館各展示室の入口解説(4 言語)を更新し、外国人にとっても魅力的で理解が深まる展示解説を提供し、順調に成果をあげている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1211B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
1)明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展も開催するための平常展展示計画を策定し、平常展を行う。
2)平成知新館において、部門を超えた特別企画、特集展示を行う。
特別企画
・ICOM 京都大会開催記念「京博寄託の名宝 ―美を守り、美を伝える―」(8 月 14 日～9 月 16 日)
特集展示
・「新収品展」(7 月 2 日～8 月 4 日)
・「赤ってじつはどんな色？」(7 月 2 日～8 月 12 日)
・「子づくし―干支を愛でる―」(2 年 1 月 2 日～2 月 2 日)
・「京都御所障壁画　紫宸殿」(2 年 1 月 2 日～2 年 2 月 2 日)
・「神像と獅子・狛犬」(2 年 1 月 2 日～3 月 22 日)
・「雛まつりと人形」(2年2月15日～3月22日)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
1) 平常展来館者数については、158,664人、展示替件数は、1,140件であり目標値を大きく上回った。
（京都国立博物館）
1) 特別展前後の準備・撤収及び「働き方改革」に則った業務内容の整理にともない、名品ギャラリー閉室期間を設けた展示計画を策定した。新型コロナウイル感染症拡大防止の観点から2年2月27日から3月23日までを閉館とした。
2) 年度計画に基づき、1件の特別企画、6件の特集展示を実施した。


特別企画「京博寄託の名宝」展示風景

【補足事項】
・特別企画「京博寄託の名宝」は、日本初となるICOM大会の開催にあわせて、特別企画の枠組みで平成知新館全館を使い、京都国立博物館が預かっている名品を展示した。展示件数139件のうち、国宝36件、重要文化財59件であり、平成26年秋の平成知新館オープン記念展「京へのいざない」、平成29年秋に開催した開館120周年記念特別展覧会「国宝」に匹敵する名品展示となった。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」は、夏休みの自由研究にも活用できるように、美術品にみられる「赤」という色彩を実際の使用事例はもちろん素材にも言及するなどして多面的に紹介する展示とした。
・特集展示「京都御所障壁画　紫宸殿」は、新天皇即位にあわせて京都御所のなかでも格式の高い紫宸殿の障壁画を展示することで、新聞雑誌などでも報道されて注目を集めた。
・特集展示「子づくし―干支を愛でる―」は、新春の干支にちなんだ展示であるが、過去、当館で開催された干支展示のなかで、「子（ねずみ）」は初めての主題となった。
・名品ギャラリーでも、中国近代絵画の館蔵品図版目録の刊行にあわせて掲載作品を展示するなど、時機を得た展示を行った。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者数	158,664人	130,629人	A		205,526	186,162	136,862	146,314
平常展の展示替件数	1,140件	919件	A		1,145	943	973	1,021
平常展の展示総件数	1,147件	－	－		1,438	1,068	978	1,038

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
当館の特色として、社寺・個人からの寄託品の割合が多いことが筆頭に挙げられるが、特別企画「京博寄託の名宝」はICOM京都大会2019にあわせて、国内外の博物館関係者及び一般来館者にそれを広く周知することができた。干支に関する展示や皇室関連の展示は開始から数年が経過し、新年を祝う華やかな企画として来館者に定着してきた。新型コロナウイルに伴う閉館で平常展の実績にも影響はあったものの所期の目標を大きく上回る成果を挙げることができた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
特別企画「京博寄託の名宝」をはじめとする特別企画や特集展示は、古の歴史のかなめであった京都に立地する当館の特色を広く周知することに貢献した。展示館が平成知新館のみで特別展の開催も春秋の2回に限られているなか、来館者の満足度を向上するためには平常展示に特別感を演出する必要がある。特に多くの学生たちの来館が見込まれる夏・冬・春休みにあわせた企画の需要は日増しに高まっており、限られた人員で効率的な運営が求められている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1211C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。
・西新館　絵画、書跡、工芸、考古　　・なら仏像館　彫刻　　・青銅器館　中国古代青銅器
2)分野の枠を超えた特別陳列を実施する。
　独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
・「法隆寺仏像展(仮)」（7月13日～9月8日）
・「お水取り」（2年2月4日～3月22日）等

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（4館共通）
1)
・来館者数は、目標値（前中期計画期間の平均値）を達成した。
・展示替件数は、目標値（前中期計画期間の平均値）の76%であった。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり名品展を実施し、また特集展示を1件開催した。
・名 品 展「珠玉の仏教美術」　会場：西新館　開催期間：7月13日（土）～9月23日（月・祝）
　12月7日（土）～2年1月13日（月・祝）
・名 品 展「珠玉の仏たち」　会場：なら仏像館　開催期間：4月2日（火）～2年2月26日（水）
・名 品 展「中国古代青銅器」　会場：青銅器館　開催期間：4月2日（火）～2年2月26日（水）
・特集展示「新たに修理された文化財」　会場：西新館　開催期間：12月24日（火）～2年1月13日（月・祝）
2)下記のとおり特別陳列等を開催した。
・特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」　会場：西新館　開催期間：7月13日（土）～9月8日（日）
・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」　会場：東新館　開催期間：同上
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 ―特集　春日大社にまつわる絵師たち―」　会場：東新館　開催期間：12月7日（土）～2年1月13日（月・祝）
・特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」　会場：西新館　開催期間：同上
・特別陳列「お水取り」　会場：西新館　開催期間：2年2月4日（火）～2月26日（水）　※会期は3月22日（日）までの予定であったが、感染症流行の影響で2月26日を以て閉幕した。

【補足事項】
　名品展「珠玉の仏教美術」（西新館）は、当初7月～9月のみの開催を予定していたが、12月にも通常の半分程度の広さではあるが会場を確保することができた。12月の開催が実現したことにより展示の機会が増え、展示替件数が昨年並みとなった。それでも目標値には達していないが、名品展の開催面積と日数が限られている現状では、妥当な件数と考えられる。


12月の名品展「珠玉の仏教美術」会場風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者数	160,869人	118,173人	A		95,208	145,676	135,776	140,829
平常展の展示替件数	239件	314件	D		286	427	210	232
平常展の展示総件数	461件	－	－		620	664	548	462

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　来館者数は前期中期目標期間の平均値を大きく上回った。これは夏季に平常展と同時開催した、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」への入場者が多かったことが影響している。こうした新たな切り口の展示を、今後も引き続き企画し、来館者の多様なニーズに応えていく必要がある。名品展の展示替件数は、特別展開催期間が長くなっている影響で目標値を下回った。

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
　なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　仏教美術を専門とする当館の特色を生かした内容の平常展を着実に実施できている。元年度はさらに、時宜に応じた様々なテーマの特別陳列を実施できた。平常展の来館者数は、今中期計画期間に入ってから、常に前中期計画期間の平均値を上回っており、目標を着実に達成していると言える。展示替件数は、特別展の開催期間が全般に長くなっている影響で、前中期計画期間の平均値よりは少なく推移している。現状の展示面積からみて妥当な件数であり、今後は施設の拡張など抜本的な対策を提案していきたい。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1211D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）
1)特別展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。
・「新収品展 Part1」（3 月 5 日～5 月 6 日）
・「新収品展 Part2」（6月4日～7月15日）
・「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」（7月30日～10月20日）
・「住友財団修復助成30年記念　文化財よ、永遠に」（9月10日～11月4日）
・「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」（10月29日～12月22日）
・「縄文王国やまなし」（10月29日～12月22日）
・「刀剣ことはじめ―刀剣ワールド財団と九博の名刀―」（令和2年1月1日～2月24日）
・「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」（令和2年1月1日～1月26日）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（4館共通）
1）前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを1,641件行い、来館者数は348,563人であった。
（九州国立博物館）
1）　計画に従って特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。

【補足事項】
・「新収品展 Part1」では、考古分野を中心とした展示を行い、「新収品展 Part2」では、その他の分野の新収品を紹介した。
・「新元号記念特別企画　令和」（4月23日～12月22日）では、新元号の発表により太宰府が注目されるにあたり、いち早く新元号に関連する小企画を立ち上げた。オリジナルの配布資料が大変好評だった。盛況のため令和関連展示を2年度まで延長した。
・特集展示「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」では、館蔵品の更紗約 50 件を紹介し、更紗をとおしてアジアの海を媒介とした文化交流の歴史をたどる展示を行った。ワークショップは定員を上回る応募があった。会場は写真撮影可能とし、図録も発行した。
・NHK 福岡放送と共催で「びじゅチューン！」とのコラボレーション企画の展示を行った。体験型の展示は好評で、SNS でも来館者による投稿が行われ、広報活動にもつながった。
・特集展示「住友財団修復助成 30 年記念　文化財よ、永遠に」は、住友財団が助成を開始してから 30 年を迎えることを記念し、その助成によって修理された九州・沖縄の文化財を紹介した。熊本地震で被災した千手観音像などを通して、修理の成果や伝統の技術はもちろん、これらを守りついできた人々の思いにも焦点をあてた。会場は一部を除いて写真撮影可能とし、図録も発行した。
・特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」では、渡来版経にスポットをあて、対馬の渡来版経だけでなく、現在は対馬島外で保管されている対馬ゆかりの渡来版経もあわせて紹介した。対馬会場、九博会場で講演会を行った。図録も発行した。
・特集展示「縄文王国やまなし」では、釈迦堂遺跡を中心に山梨県から出土した土器や土偶等を紹介し、会場は写真撮影可能とした。図録は図書として刊行した。
・特集展示「刀剣ことはじめ―刀剣ワールド財団と九博の名刀―」では、刀剣ワールド財団の全面的なご協力をいただき、九州初展示の名刀を近年当館の所蔵となった刀剣とともに紹介した。作品の見どころや来歴などを紹介するだけでなく、用語についても分かりやすい解説に努めた。会場は写真撮影可能とした。また、無料リーフレットを作成し、会場内で配布した。
・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点（「初音蒔絵乱箱」、「初音蒔絵長文箱」、「初音蒔絵短冊箱」）を展示した。また、同じ『源氏物語』をモチーフとした絵画や、盛岡藩主南部家ゆかりの婚礼調度もあわせて紹介した。
・「第44棋聖戦第4局開催記念：囲碁にみる日本とアジアの交流」（2年2月11日～2月26日）では、第44期棋聖戦第4局の開催が決定したことを受け、囲碁に関連する小企画を立ち上げた。


特集展示「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」展示の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者数	348,563人	387,744人	C		412,621	393,590	350,848	349,114
平常展の展示替件数	1,641件	1,253件	A		1,513	1,654	1,594	1,779
平常展の展示総件数	1,894件	－	－		2,628	2,208	1,894	1,995

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画に従って多様な特集展示を行ったほか、新元号にちなんだ特集や、棋聖戦開催記念の展示など、時宜にかなった展示を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による臨時休館のため、来館者数の増加にはつながらなかった。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に従い、順調に特集展示等を開催した。2年度は開館15周年にあたり、記念特集展示や、開館以来実施してきた太宰府天満宮と連携した研究の成果を発信する特集展示を計画している。元年度同様、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組んでいきたい。

【博物館】　施設名 4館　処理番号 1212ABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）2)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長　救仁郷秀明 企画室長　山川曉 課長　臣守常勝 課長　白井克也

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・総合文化展のアンケートを実施し、集計結果を基に観覧環境の改善に努めた。また、記述式要望書やウェブサイトの意見欄の内容を確認し、来館者からの意見、要望については外部委託業者を含めた館内全体で共有、改善に努めるとともに、回答が必要なものについては速やかに担当部署に確認し、なるべく早い回答を心掛けた。
（京都国立博物館）
・新天皇即位にあわせて、京都御所の障壁画を特集展示にて陳列。来館者に関心の高いテーマを積極的に取り上げた。
・ウェブサイトにある名品ギャラリーの展示内容（タイトル、作品リスト）の告知時期を早め、来館を考えている方々へのサービス向上を図った。
（奈良国立博物館）
・館内の２か所に常時アンケート記入場所を設け、記述式アンケートを通年で実施した。アンケート結果は集計作業を行った後、関係部署で共有し、改善に努めた。また、ウェブサイトを通じて寄せられた当館へのご意見・ご要望等についても、同様に情報を共有し、改善に努めた。
（九州国立博物館）
・元年度も館内に平常展アンケート記入場所を設置した。アンケート・ウェブサイト・口頭などで来館者から寄せられた意見は館内で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を行った。

【補足事項】
（東京国立博物館）アンケート結果については、30年度を上回る満足度を得ることができた。今後は、アンケート回収率を上げるために、アンケート記入場所についても検討を重ねる。
（京都国立博物館）ウェブサイトでは、現在開催中の展示を紹介するページへのアクセスを簡便にした。
（奈良国立博物館）来館者からの要望に応え、青銅器館での写真撮影を可能とした。
（九州国立博物館）特集展示ごとに、立て看板や特大バナーをエントランスに設置するなど、開催中の展示内容、開催場所等が一目でわかるように工夫した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者アンケート満足度								
東京国立博物館	90.2%	74%	B		82	71.0	87.3	89.2
京都国立博物館	79.1%	79%	B		83	75.0	84.4	89.7
奈良国立博物館	93.2%	79%	B		78	88.9	90.1	92.5
九州国立博物館	77.1%	67%	B		72	73.8	77.8	73.6

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 総合文化展のアンケートについては、一部の館は目標値を大幅に上回る満足度を得ることができた。引き続き、アンケートやウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見を分析・共有し、展示内容や解説の改善をはじめとするフィードバックを行うことで、満足度の向上を目指したい。また、今後はアンケート記入場所など、それぞれの館で回収率を上げるための方策も引き続き検討する。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、来館者アンケート満足度は前中期目標の期間の実績以上を達成できた。2年度以降も来館者による意見などを通じて、引き続きさらなる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

【書式Ａ】　　施設名　４館　　処理番号　1220ｱABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
ア　中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。

担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　富田淳 企画室長　山川暁 部長　内藤栄 部長　小泉惠英

【実績・成果】
（東京国立博物館）特別展を8回開催した。内訳：当館開催8回。
（京都国立博物館）特別展を2回開催した。
（奈良国立博物館）特別展を3回開催した。
（九州国立博物館）特別展を4回開催した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
開催した特別展は以下の通り。
特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流　日本美を伝える」、特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」、特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品　雪舟、永徳から光琳、北斎まで」、日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」、特別展「人、神、自然―アール・サーニ　コレクションの名品が語る古代の世界―」、特別展「正倉院の世界―皇室が守り伝えた美―」、日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」、特別公開「高御座と御帳台」
（京都国立博物館）
開催した特別展は以下の通り。
時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」、特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」
後者では、佐竹本三十六歌仙絵各幅に茶室風のバックパネルを設けて典雅な王朝の美の空間を演出した。
（奈良国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」、「御即位記念 第 71 回正倉院展」、特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」
（九州国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」、特別展「室町将軍－戦乱と美の室町十五代－」、日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」、特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
特別展の開催回数（海外展含む）								
東京国立博物館	8回	年3～4回	A		6	13	7	9
京都国立博物館	2回	年1～2回	B		2	2	2	2
奈良国立博物館	3回	年2～3回	B		3	4	3	3
九州国立博物館	4回	年2～3回	A		5	4	5	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4館とも目標値を上回る回数の特別展を実施した。また、時機に適った企画や地域文化に深く関わる展示内容を展開する等、質的にも我が国の中核拠点にふさわしい事業を展開した。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年 3～4 回程度（京都国立博物館）年 1～2 回程度
（奈良国立博物館）年 2～3 回程度（九州国立博物館）年 2～3 回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国内外の博物館と連携した質の高い特別展を開催し、順調に中期計画を進めることができた。2年度以降も、国民に話題を提供する契機となる企画を行い、展覧会の質の高さを保ちながら目標を上回る特別展を開催する。

※東京国立博物館で開催のユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能　―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」は、会期が 2 年 3 月 10 日～5 月 24 日のため 2 年度の実績とする。
※東京国立博物館で開催の特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」は、会期が 2 年 3 月 14 日～5 月 10 日のため 2 年度の実績とする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1220イA

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（4館共通）
イ　満足度調査等を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　浅見龍介

【実績・成果】
（4館共通）
各特別展において、タッチパネルアンケートまたは記述式アンケートを実施し、来館者の要望を把握し、共催者や外部委託業者を含めて関係者全体で共有し、来館者のご意見・ご要望を次回の特別展に反映する取り組みを行っている。アンケート調査の結果は、当館のウェブサイトにおいて公開すると共に、質問、意見等を提出された来館者には回答を行っている。

【補足事項】
外国人来館者に対する解説を充実するため、外国語の音声ガイド（英語・中国語・韓国語）を30年度に引き続き作成し、特別展の満足度向上を図った。また、同じく外国人来館が増えた特別展では、30年度制作した保護者向け、子供向けの注意事項を4言語で作成し、配布するなどマナーの向上にも努めた。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度	86.6%	71%			75	87.9	86.4	84.2
両陛下と文化交流　日本美を伝える	88.3%	－	－	経	－	－	－	－
東寺－空海と仏像曼荼羅	81.0%	－	－	年	－	－	－	－
美を紡ぐ　日本美術の名品	89.4%	－	－	変	－	－	－	－
三国志	85.1%	－	－	化	－	－	－	－
正倉院の世界	85.1%	－	－		－	－	－	－
アール・サーニ　コレクション	91.6%	－	－		－	－	－	－
出雲と大和	85.9%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	混雑する特別展が多い中、年間を通じて高い満足度を達成することができた。また、質問・要望に対して、迅速かつ丁寧な回答及び館内共有に努めた。なお、東寺展では、アンケート機材のトラブルによって、データを集計することが出来なかったため、自由記載の意見を基に来館者からの評価を分析し、今後の運営に反映することとした。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	元年度も目標値を超える満足度を得ることができた。引き続きアンケート結果を館内で共有し、観覧環境も含めより良い展覧会の実現に努める。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1220イB

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
イ
○特別展共通の対策
・監視スタッフは平常展と同じ陣容で対応しているが、特別展に向けて業務内容などを確認するため説明会を開催した。
・テレビ番組で展覧会が紹介された後など観覧者の急増した場合に、公式ツイッターなどで混雑状況を随時配信した。
○特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」での対策
・展示の核となる「国宝 一遍聖絵」が展示替えによって観覧できない状況を補うため、摸本をあわせて展示し、観覧者に不都合が生じないように配慮した。
・絵巻の展示が多く、展示品の前に滞留する観覧者が多くなるため、絵巻に関する説明の一部を展示室中央に立てた仮設の柱に掲出して、混雑緩和に努めた。
○特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」での対策
・展覧会初日にあたる10月12日は台風19号上陸に備えて臨時休館とし、観覧予定者の安全確保を優先した。代わりに会期後半の11月18日に臨時開館し、ホームページなどでの告知に努めた結果、総入場者数は約3,000人となった。
・開館前に待ち列ができることが多く、200名を超えることもあった。そのため、状況に応じて、柵を設置し庭園内への列を引き入れや、平成知新館グランドロビーに新たに待ち列を作るなどの対応を行った。
・2階に佐竹本をまとめて展示していたことから、観覧者が集中して滞留ができる箇所もあったが、監視スタッフの声掛けにより自由導線での観覧を促した。
・図録の販売が好調で、会期後半には品切れ状態となった。展覧会場販売分については、主催者送料負担での後日配送を行うなど臨機応変に対応した。
・特別講演会聴講のための整理券取得の待ち列の横でトラりんがパフォーマンスを繰り広げるなど、待ち時間の不満解消に努めた。
・SNSが普及するなかで展示室での撮影に対する要望が多いため、展示室のそばに記念撮影用の顔出しパネルを用意した。


顔出しパネルと冠を戴いたトラりん

【補足事項】
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」図録については、展覧会に来られない方からの通信販売の問い合わせも多かったことから、展覧会終了後の通販申し込みに対応できるように共催者に申し入れ、一定数の通販分を確保するなど、非来館者への配慮も心掛けた。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度	80.6%	89%	C		87	78.1	81.9	94.6
一遍聖絵	70.2%	－	－		－	－	91.3	90.2
三十六歌仙	72.9%	－	－		－	－	78.3	97.7

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
春秋の2つの特別展どちらも平常展示館である平成知新館を特別展会場として使用しており、観覧導線の制約などが満足度低下の主な理由であると考えられる。そのなかで、日々集計されるアンケートに両部署の担当者がそれぞれ目を通し、上記の補足事項をはじめ改善すべき点はすみやかに対策を施した。水分摂取可能区域の拡大などの30年度に改善した項目は元年度も引き続き実施し、来館者の要望に応じた柔軟な対応を心掛けており、十分な成果を上げている。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、会場内外での混雑緩和に努め、工夫をこらした。中期計画での4年目にあたり、これまでの積み重ねに加えて細かな改良を継続している。日々集計されるアンケートの内容はもちろん、監視スタッフから報告される日報に記載されている観覧者対応の事例もふまえて、引き続き観覧者の満足度向上に向けた努力を重ねており、目標達成に向けて順調に推移している。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1220イC

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
・館内で実施した記述式アンケート及び対面アンケートの集計結果、並びにウェブサイトを通じて寄せられたご意見等を関係部署で共有し、改善に努めた。
・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び特別陳列「重要文化財　法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」、特別陳列「お水取り」及び特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」会期中には、ボランティアによる対面アンケートを実施し、アンケート回収率を上げるとともに、幅広い層の意見を得ることができた。
・展覧会毎に監視要員に向けた説明会を開催し、接遇の基本、業務内容、配置場所、留意事項、会期中のイベント、販売券種及び割引対象等に関する理解を含め、適切な来館者対応が行えるよう努めた。

【補足事項】
・外部資金が得られたため、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」会期中に中国語の記述式アンケートを実施し、近年急増している中国人観光客の意見をより多く集められるよう工夫した。
・正倉院展において、従前より荷物の持ち込みによる展示室内の混雑が問題になっていたことから、基準より大きな荷物の持ち込みを制限するとともにコインロッカー・手荷物預かり所の利用を促進し、混雑緩和に努めた。


コインロッカー・
手荷物預かり所
利用促進看板


「御即位記念　第71回正倉院展」
手荷物持ち込み制限看板


わくわくびじゅつギャラリー
「いのりの世界のどうぶつえん」
対面アンケートの様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度	91.4%	80%	B		79	86.4	88.1	89.8
藤田美術館展	89.3%	－	－		－	－	－	－
第71回正倉院展	87.4%	－	－		－	－	－	－
毘沙門天	97.5%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ボランティアによる対面アンケートを複数回にわたって実施し、直接来館者の声を聞くとともにアンケート回収率の向上に努めた。寄せられた意見・要望については、関係部署で内容を検討した上、改善に努めた。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度に開催した特別展における来館者満足度は、30年度に引き続き前中期目標の期間の実績以上の数値となった。2年度以降も引き続き対面アンケートを行い、来館者の意見を参考にしつつ改善に努め、満足度の向上を目指す。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1220ｲD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
　元年度に実施した特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」、「室町将軍　戦乱と美の足利十五代」、「三国志」、「ルネ･ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」について、来場者を対象に満足度調査を実施した。各特別展において、目標値に近い満足度を得ることができた。
　特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」では、秘仏である本尊が安置されたお堂の景観を展示室内に再現した。また、六観音像について来場者による写真撮影を可能にしたことなどが好評であった。
　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」では、所蔵者である等持院以外では初となる、将軍像13軀の同時公開を実現した。座敷飾りの再現など、室町時代が現在の日本文化の形成に大きく寄与したことを、視覚的に表現した。また、勘合貿易に用いた勘合を最新の研究成果に基づいて再現し、来館者が手にとって体験できるように工夫したことなどが、高い評価につながった。
　特別展「三国志」では、日本でも人気の高い『三国志』のエピソードに沿った展示、さらには曹操高陵の再現などの工夫により、多くの三国志ファンに展示を楽しんでいただくことができた。
　特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」では、17世紀から19世紀のフランス絵画の名品が一堂に会すとともに、宝塚歌劇団の「ベルサイユのばら」衣装の展示など、観客に親しんでいただける工夫をした。

【補足事項】



特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」
歴代将軍像（等持院所蔵）の展示風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度	84.0%	86%	C	経年変化	88	85.9	87.2	86.7
京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ	84.6%	－	－		－	－	－	－
室町将軍	87.9%	－	－		－	－	－	－
三国志	78.0%	－	－		－	－	－	－
フランス絵画の精華	85.4%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 　各展覧会でおおむね目標値に近い満足度を得ることができた。特に「室町将軍」展について、当館で単独開催ならではの工夫と品揃えで臨み、全国からの来館者を迎え、高い満足度を達成した。ただし、ほか3件の特別展については、わずかに目標に達しなかったため、全体の満足度を下げる結果となった。「室町将軍」の成功を分析することによって今後の特別展企画の参考としたい。

【中期計画記載事項】
　特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　特別展は高い満足度を維持している。今後も特別展来館者アンケートを継続実施して来館者の反応を把握するとともに、アンケート結果を分析して満足度の更なる向上に努めたい。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流　日本美を伝える」（3月5日～4月29日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部博物館情報課長　今井敦

【実績】

展覧会名	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」
会　　期	3月5日（火）～4月29日（月）（50日間）
会　　場	東京国立博物館　本館特別4・5室
主　　催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社
作品件数	18件
来館者数	122,764人（達成率：245.5%）
入場料金	一般1,100円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度88.3%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	宮内庁が所管する皇室ゆかりの作品の中から、上皇陛下が御即位の儀式に際して、東山魁夷、高山辰雄が平成2年（1990）に制作した「悠紀・主基地方風俗歌屏風」や、上皇上皇后両陛下が外国御訪問の際にご紹介された作品、上皇后陛下と御養蚕に係る作品などを展示した。
学術的意義	上皇上皇后両陛下がお伝えになった日本文化を通して、海外の様々な人々が我が国への理解と交流を深めてきたことを、御即位30年という記念すべき年に、広く紹介することができた。
教育普及	―
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：3月4日実施　96人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、東京メトロ大型ボード、京成電鉄駅貼などを出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：『サライ』3月号、『時空旅人』3月号ほか、テレビ：テレビ朝日「ワイドスクランブル」、日本テレビ「深層NEWS」、インターネットメディア：「美術手帖」、「レッツエンジョイ東京」など。ほか展覧会公式サイトなどで広報を実施。
補　足	 会場風景1　  会場風景2

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	122,764人	50,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 御即位30年という時宜に適った企画であり、上皇上皇后両陛下が担われた文化交流を、わかりやすく紹介できたことから、目標人数を大きく上回る来場者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｲ

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」（3月26日～6月2日） （目標来館者数20万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部広報室長　丸山士郎

【実績】

展覧会名	特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」
会　　期	3月26日（火）～6月2日（日）（62日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
作品件数	110件
来館者数	463,991人（達成率232％）
入場料金	一般1600円（1400円／1300円）、大学生1200円（1000円／900円）、高校生900円（700円／600円）、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　81％



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	東寺（教王護国寺）は、平安京遷都に伴って、王城鎮護の官寺として西寺とともに建立され、中国から密教を持ち帰った空海がその根本道場とした。密教は造形作品を重視することから東寺にも多くの優れた文化財が伝わる。本展では、講堂安置の21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝11体、重文4体、合計15体を出品したほか、彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰を展示した。
学術的意義	密教の理解には造形作品が不可欠であるという空海の考えにしたがって東寺には優れた作品が多く、密教美術の重要作品を紹介することができた。会期前、会期中に出品作品の写真撮影、CT撮影、X線撮影を実施し、今後の研究資料の作成も行うことができた。
教育普及	・記念公演「真言声明 ―東寺の音と共に―」を4月10日に2回、4月17日に2回開催し、参加者合計1505人であった。 ・記念講演会「東寺の歴史と真言密教の至宝」を4月27日に開催し、参加者372人であった。 ・記念講演会「東寺と仏像曼荼羅」を5月11日に開催し、参加者380人であった。 ・ジュニアガイドを編集し、90,000部を刊行した。 ・ボランティアを対象とした解説会を4月23日に行い、参加者数80人であった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：3月25日実施 141媒体、241人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、JR山手線マルチビジョン、京王タイアップ広告などを出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：一個人、宝島社MOOK、サライ、Discover Japan、芸術新潮ほか、テレビ： BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」ほか、NHK「日曜美術館」本編、NHK「運慶特集」、フジテレビ「1hセンス」、BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」、FMヨコハマ「Lovely Day」ほか。また、展覧会公式サイトなどで広報を実施した。なお、東寺講堂での搬出と当館での展示の様子を早回しで紹介する「タイムラプス動画」をSNSで配信するなど多様な広報活動を行った。
補　足	  展示風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	463,991人	200,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 空海が真言宗の根本道場とした東寺の密教美術の全容を紹介することができ、目標を大きく上回る来館者があった。出品作品について写真撮影、CT 撮影、X 線撮影を実施し、研究資料の充実を図った。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品　雪舟、永徳から光琳、北斎まで」（5月3日～6月2日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部博物館情報課長　今井敦

【実績】

展覧会名	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品　雪舟、永徳から光琳、北斎まで」
会　　期	5月3日（金）～6月2日（日）（27日間）
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室・特別4室・特別2室・特別1室
主　　催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社
作品件数	37件
来館者数	106,593人（達成率213.2%）
入場料金	一般1,100円（1,000円）、大学生700円（600円）、高校生400円（300円）中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度89.4%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』―皇室の至宝・国宝プロジェクト―」の一環として開催した特別展であり、皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した。
学術的意義	日本美術史を彩る、平安時代から近代の名だたる日本美術の名品を一堂に紹介することにより、日本美術の真価を再認識していただいたとともに、文化財を後世に守り伝えるための課題と、それを解決するための取り組みについて、啓蒙することができた。
教育普及	―
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：5月8日実施　95媒体、114人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、東京メトロボード、京王タイアップ広告などを出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：『美術の窓』1月号、『時空旅人』3月号、「BRUTUS」3月号ほか、テレビ：テレビ朝日「ワイドスクランブル」、日本テレビ「深層NEWS」、インターネットメディア：「美術手帖」、「レッツエンジョイ東京」など。ほか展覧会公式サイトなどで広報を実施。
補　足	 会場風景1  会場風景2

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	106,593人	50,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 宮内庁と当館が所蔵する日本美術の名品を通じて、日本美術の粋に触れることのできる希少な機会であり、目標人数を大きく上回る来場者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」（7月9日～9月16日） （目標来館者数12万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課東洋室　市元塁

【実績】

展覧会名	日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」
会　　期	7月9日（火）～9月16日（月）（62日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
作品件数	162件
来館者数	337,639人（達成率281.4%）
入場料金	一般1,600円（1,300円），大学生1,200（900円），高校生900（600円）
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.1%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	中国国内18の直轄市・省・自治区から三国志ゆかりの文物を集めた大型展。プロローグで後世に語り継がれた物語性の強い三国志の世界を紹介し、続く第1章～第5章、エピローグにかけて漢時代から西晋時代の出土文物により三国志の時代の実像を明らかにする。三国志の時代の出土文物を中心とする展覧会は本邦初であり、中国においても前例がない。
学術的意義	曹操の墓と副葬品について考古学的に再検証し、後漢から三国時代にかけての埋葬制度の中での位置づけを明らかにした。また、中国東北部に割拠した公孫氏や南部の士燮ゆかりの文物を通して、三国志の時代の複雑な社会構造を浮き彫りにした。特に公孫氏関連の文物では日本列島とのつながりを明らかにした。
教育普及	・学校教員を対象とした教員研修を行い、参加者 242 人であった（総合文化展教員研修と合同開催） ・記念講演会「リアル三国志の世界」を 7 月 13 日に開催し、参加者数 353 人であった。 ・記念講演会「三国志から見た邪馬台国」を 7 月 27 日に開催し、参加者数 384 人であった。 ・ジュニアガイドを編集し、200,000 部を刊行した。 ・ボランティアを対象とした解説会を 7 月 17 日に行い、参加者数 115 人であった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：7月8日(月)実施157媒体、246人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR山手線まど上チャンネル、JR山手線B3まど上ポスター、私鉄5社フレコミボード、東急、小田急、京王、相鉄、京急の43駅など出稿。新聞：読売新聞、朝日新聞など、雑誌：日経おとなのOFF、美術の窓、JTB Style、時空旅人、ユリイカ、「宝島社ムック 『史実 三国志』」など、テレビ：NHKBSプレミアム「三国志　特集番組」、NHKEテレ「日曜美術館　アートシーン」、NHK総合「歴史秘話　ヒストリア」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館ほか。ほか、展覧会公式ウェブサイトやニコニコ生放送などにおける広報を実施した。
補　足	 再現展示「水上戦と矢」 三国志の時代の戦いの風景を追体験  再現展示「曹操高陵」 実寸再現により当時の埋葬空間を理解

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	337,639人	120,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 三国志の時代の考古資料を展示するだけでなく、人形劇三国志、横山光輝漫画、吉川英治小説、コーエーテクモゲームス等とのコラボレーションを積極的に推進したことで、予備知識の有無に関わらず多くの来場者が三国志に対する理解を深めることができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aオ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「人、神、自然―アール・サーニ　コレクションの名品が語る古代の世界―」（11月6日～2年2月9日） （目標来館者数6万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部博物館情報課長　今井敦

【実績】

展覧会名	特別展「人、神、自然―アール・サーニ　コレクションの名品が語る古代の世界―」
会　　期	11月6日（水）～2年2月9日（日）（77日間）
会　　場	東京国立博物館　東洋館3室
主　　催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
作品件数	117件
来館者数	139,737人(達成率232.8%)
入場料金	総合文化展観覧料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度91.6%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	カタール国の王族であるシェイク・ハマド・ビン・アブドラ・アール・サーニ殿下が収集されたザ・アール・サーニ・コレクションの中から、世界各地の古代文化が生み出した工芸品117件を厳選して紹介した。古代の人々は、自分たち自身をどのように表現したのか、神々や死後の世界、自然界をどのように認識したのか、「人」「神」「自然」の3つの展示テーマを設定して、古代の美術工芸品に投影された、当時の人々の意識や世界観に迫った。
学術的意義	日本初公開のコレクションの展観であり、アフリカやメソアメリカなど、当館の通常の展示体系に含まれておらず、日本人にとってなじみの薄い作品も数多く紹介することができた。また、地域や文化別ではなく、「人」「神」「自然」のテーマを設定したことにより、古代世界の多様性を浮かび上がらせることができた。
教育普及	・ギャラリートーク「古代オリエントの工芸品」を11月12日に開催し、参加者244人であった。 ・ギャラリートーク「古代世界の工芸品の細部に迫る」を12月10日に開催し、参加者101人であった。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：11月5日　63人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、東京メトロ電飾看板、東武日比谷線乗り入れドア横、京王線交通広告タイアップ駅貼りほか、雑誌：美しい着物、一個人、ムー、毎日が発見ほか、ラジオ：FM群馬「G★FORCE」。ほか、SNSとウェブサイト上でのバナー広告を実施した。
補　足	 会場風景1  会場風景2

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	139,737人	60,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 質の高い展示品を、優れた展示手法と十分に練られた展示コンセプトで紹介したことにより、当初の予想を上回る反響があり、世界各地の古代の美術品に表現された地域性と普遍性を十分に理解していただくことができた。年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1221Aカ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「正倉院の世界―皇室が守り伝えた美―」（10月14日～11月24日） （目標来館者数20万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【実績】

展覧会名	特別展「正倉院の世界―皇室が守り伝えた美―」
会　　期	10月14日（月）～11月24日（日）（37日間）
会　　場	東京国立博物館・平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
作品件数	116件（うち、正倉院宝物46件、国宝6件、重要文化財14件）
来館者数	362,076人(達成率181.0%)
入場料金	一般1,700円、大学生1,100円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.1%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展は、天皇の勅封によって厳重にまもられてきた正倉院宝物を中心に、当館が所蔵する法隆寺献納宝物などを合わせて展示し、古代の日本の国際色豊かな文化を紹介する展覧会である。また、本展では明治時代以降の正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、正倉院宝物が現代までまもり伝えられてきた様子を紹介する。
学術的意義	正倉院宝物は、光明皇后が聖武天皇の御遺愛品をはじめとする品々を東大寺大仏に捧げたことに由来し、その内容は当時のアジア大陸の面影を留めていることから、世界的にも比類のない文化財として知られている。一方、法隆寺献納宝物は、明治時代に法隆寺から皇室に献納された品々で、その内容は飛鳥・奈良時代の美術を代表するものである。両宝物は古代アジアにおける人々や文化の交流の実態を示す世界的に貴重な文化財であり、これらを同時公開することは、古代の日本文化がもっていた国際性に対する理解を一層深める絶好の機会となる。
教育普及	・記念講演会「正倉院をまもる」を10月20日に開催し、参加者数364人であった。 ・記念講演会「正倉院宝物研究の最前線」を11月17日に開催し、参加者数347人であった。 ・ジュニアガイドを編集し、50,000部を刊行した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：10月13日実施111媒体、176人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、JR山手線マルチビジョン、京王タイアップ、広告列車貸切りなど出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：ノジュール、ディスカバリージャパン、pen、皇室ほか、テレビ：BS日テレ「読売テレビ開局60年　正倉院の奇跡～守り継がれた天皇の倉」(10/19放送)、NHK総合　NHKスペシャル「天皇が創った至宝～正倉院宝物が伝える日本誕生～」(10/30放送)、NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」ほか。また、展覧会公式サイトなどで広報を実施した。
補　足	 展示会場風景　  正倉院南倉の実物大再現

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	362,076人	200,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 正倉院宝物と法隆寺献納宝物という古代アジアの交流の実態を示す世界的に貴重な文化財を同時公開することや、正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動について紹介することにより、目標人数を大きく上回る来場者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aキ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」（2年1月15日～3月8日） （目標来館者数15万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也

【実績】

展覧会名	日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」
会　　期	2年1月15日（水）～2月26日(水)(37日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、奈良県、島根県、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
作品件数	174件（うち、国宝23件、重要文化財75件）
来館者数	136,054人(達成率123.7%)
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.9%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	日本書紀編纂1300年を記念して島根県・奈良県・東博が共同で開催する特別展。国譲り神話で重要な役割を果たした島根県と奈良県ゆかりの名品を通して、古代日本成立の背景や特質を紹介した。 本展のきっかけとなった日本書紀をはじめ、古代史を語る上で欠くことのできない荒神谷遺跡出土の銅剣・銅矛・銅鐸や石上神宮に伝わる七支刀などを展示した。
学術的意義	「令和」を迎え、またオリンピックやパラリンピックを間近に控え、世界各地から日本に関心が高まる中、日本の古代史を考える上で重要な史資料や作品を展示することで広く一般に紹介することができた。
教育普及	・学校教員を対象とした教員研修を行い、参加者307人であった。 ・記念公演「雅楽・石見神楽」を1月15日に2回開催し、参加者741人。 ・記念講演会「古代の出雲と大和－『日本書紀』成立1300年」を1月18日に開催し、参加者数391人。 ・連続講座「出雲と大和」を1月24日、25日に開催し、参加者645人。 ・ジュニアガイドを編集し、50,000部刊行。 ・ボランティアを対象とした解説会を１月28日に行い、参加者数100人であった。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：2年1月14日実施 231人出席。ポスター、チラシ各種制作。ＪＲ　ＮＴボード（87駅94面）、ＡＤビジョン東京駅ｾｯﾄ（89面）、東京メトロ　Ｕボードゴールド（17駅20面）、臨時集中張(1駅3面)、電飾看板（1駅1面）、私鉄（メトロ）　フレコミボード（43駅43面）。ドアヨコ（B3 450枚）、新聞：読売新聞ほか、雑誌：時空旅人、美術の窓、一個人、IMPRESSION GOLD、芸術新潮、医師協MATE、はれ予報、日経おとなのOFF、和楽ほか、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」ほか。また、展覧会公式サイトなどで広報を実施した。
補　足	 第1室　宇豆柱  第3室　七支刀

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	136,054人	150,000人 (110,000人) ※1	B

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 当館だけではなく、島根県と奈良県と共同で特別展を行うことで、本展の出品作品の充実と展示内容の嵩上げを図ることができただけでなく、両県の魅力の再発見や文化資源の掘り起こしにつなげられた。コロナウィルスの感染拡大に伴う来館者減、その後感染防止のための閉館対応のため実質的な会期は 10 日減となった。

※1　括弧内の目標値は、会期変更にともなう目標値の見直しによる値。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｸ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ケ　特別公開「高御座と御帳台」（12月22日（日）～2年1月19日（日））			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長　猪熊兼樹

【実績】

展覧会名	特別公開「高御座と御帳台」
会　　期	12月22日（日）～2年1月19日（日）（19日間）
会　　場	東京国立博物館　本館特別4室・特別5室
主　　催	東京国立博物館、内閣府、宮内庁
作品件数	5件
来館者数	204,801人（達成率－％）
入場料金	総合文化展観覧料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度－％



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	10月22日、天皇陛下が即位を公に宣明されるとともに、その即位を内外の代表がことほぐ儀式として、皇居の宮殿において、即位礼正殿の儀が行われた。この度の特別公開では、即位礼正殿の儀で用いられた高御座・御帳台と威儀物を一般参観に供するとともに、即位の礼の諸儀式の写真と、装束姿を再現する人形を展示した。
学術的意義	即位の儀式は、平安時代初期に確立され、以来、今日まで行われるようになった。儀式の行われる場所については、大極殿、太政官庁、紫宸殿といった変遷があり、大正・昭和の両度の即位の儀式は、京都御所の紫宸殿に天皇の御座の高御座を、その東方に皇后の御座の御帳台を置いて挙行された。平成度の即位の儀式は、皇居・宮殿の正殿に高御座と御帳台を置いて挙行され、令和度の即位の儀式もそれを踏襲して行われた。
教育普及	・公開内容の理解を促す無料配布のリーフレットを編集し、400,000部を刊行した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：12月21日実施　25人出席。ポスター、チラシ各種制作。テレビ：NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ等のニュースで報道。日本テレビ「皇室日記」。ほか当館ウェブサイトで広報。 ・無料公開とした。 ・展示室の入場前に「ウォークスルー型」の探知機による危険物探知を実施した。
補　足	 高御座・御帳台の展示　  威儀物・装束の展示

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	204,801人	－人	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 20 日間で 204,801 人の参観者があった。内閣府・宮内庁と緊密に連携して、綿密な展示計画を作成し、周到に会場設営の準備を行い、運営方法に関する協議を重ねたことにより、多数の来場者の安全に配慮しながら効果的な公開を行うことができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」（4月13日～6月9日）
（目標来館者数7万人）(51日間)

担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長　淺湫毅

【実績】

展覧会名	時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」
会　　期	4月13日(土)～6月9日(日)(51日間)
会　　場	京都国立博物館平成知新館
主　　催	京都国立博物館、朝日新聞社、時宗、時宗総本山清浄光寺
作品件数	132件（うち国宝3件、重要文化財34件）
来館者数	66,678人（達成率：95.2%）
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,200円、高校生 900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 70.2%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展覧会は次の5章から構成された。 1章　浄土教から時宗へ 2章　時宗の教え　一遍から真教へ 3章　国宝一遍聖絵の世界 4章　歴代上人と遊行　時宗のひろまり 5章　時宗の道場とその名宝 1章では京都・知恩院の阿弥陀如来立像、島根・萬福寺の二河白道図、2章では滋賀・高宮寺の真教上人像、兵庫・興長寺の阿弥衣、3章では一遍聖絵、4章では京都・長楽寺の真教上人倚像、神奈川・蓮台寺の真教上人坐像、5章では滋賀・阿弥陀寺の行快作阿弥陀如来立像、神奈川・清浄光寺の後醍醐天皇像などを展示した。
学術的意義	・京都は時宗にとってきわめてゆかりの深い場所で、本展覧会はその京都ではじめて開催される時宗をテーマにした大規模総合展であった。 ・関西において国宝一遍聖絵12巻の全巻を一挙に公開するのは、修理完成を記念して展示して以来17年ぶりのことであった。 ・時宗寺院にはまだまだ知られざる宝物、謎に満ちた宝物も多く、今回の調査でも京都・聞名寺の阿弥陀三尊像が行快作であることが分かるなど、いくつかの新発見をはじめとする学術的成果があった。
教育普及	・記念講演会（5回） 4月13日「時宗教団の変遷」長澤 昌幸 氏（大正大学専任講師） 4月27日「一遍・真教の念仏思想」長島 尚道 氏（時宗教学研究所顧問／真光寺住職） 5月11日「国宝 一遍聖絵―旅と風景、その魅力と謎―」井並 林太郎（京都国立博物館研究員） 5月18日「時宗のみほとけ―阿弥陀と祖師像を中心に―」淺湫 毅（京都国立博物館 連携協力室長） 5月25日「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」遠山 元浩 氏（遊行寺宝物館長） ・ワークショップ「一遍さんを探そう！―さわって楽しむ絵巻物―」を会期中に実施。 ・公益財団法人仏教美術研究上野記念財団と共催で研究発表と座談会「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」を開催した（4月20日）。 ・時宗京都声明研究会の協力を得て、記念イベント「時宗声明と踊躍念仏」を実施した（4月28日）。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・運営：国宝一遍聖絵12巻が通期で参観できるように、前期後期で摸本を取り合わせて場面替えを行った。展示に際しては、作品題箋などで原本と摸本の区別を明確にした。 ・広報等：NHK日曜美術館（5月12日）にて放映。そのほか各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。
補　足	

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	66,678人	70,000人	C

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 時宗という宗派に焦点を当てた展覧会は数少なく、ゆかりのある京都にて大規模な展示を実現できたことの意義は大きい。来館者目標にはわずかに及ばなかったが、文化財をとおして時宗が果たしてきた歴史的役割を視覚的に提示することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221B イ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」（10月12日～11月24日）
（目標来館者数8万人）(38日間)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員　井並林太郎

【実績】

展覧会名	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」
会　　期	10月12日(土)～11月24日(日)(38日間)
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞
作品件数	137件（うち国宝　5件、重要文化財　61件）
来館者数	136,811人（達成率：171%）
入場料金	一般　1,600円、大学生　1,200円、高校生　700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 72.9%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	絵巻であった佐竹本三十六歌仙絵が大正8年（1919）に一歌仙ずつ分割され、くじ引きによって別々に所有されてからちょうど100年の節目を迎える年に、離ればなれに伝わっている佐竹本断簡を多く集結させることに主眼を置いた企画を行った。佐竹本やその分割に関わる作品（くじ引きに使用された竹筒など）によって事件を振り返るとともに、平安時代から鎌倉時代にかけての絵巻物や古筆といった王朝美術の名品や、さらには佐竹本の所有者であった近代数寄者たちの茶道具を展示した。
学術的意義	歌仙絵の最高峰とされる佐竹本断簡が一般向けの展観としてもっとも多く集まったのは昭和61年（1986）の20件であった。今回はこれをはるかにしのぐ31件が集結し、絵はもちろんのこと、分割によって付された各断簡の表具を一度に鑑賞することができるまたとない機会となった。そのうえで関連する書画や茶道具の展示を行うことにより、佐竹本という作品自体の絵画史上／書道史上／和歌文学史上の高い価値を再認識するとともに、作品の伝来や保存について考える契機を多くの一般来場者に提供することができた。また、出品された佐竹本全件の表具を収録した図録は高い反響を呼び、販売も好調であった。
教育普及	・会期中ワークショップ「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」5,662名参加 ・英中韓3言語による「鑑賞ポイント」の作成・配布 ・開幕記念講演会「冷泉家の歴史と文化 ―冷泉流歌道をめぐって―」冷泉為人氏　168名参加 ・記念講演会「歌仙絵の成立と展開 ―佐竹本への道のり―」土屋貴裕氏　190名参加 ・記念講演会「歌仙絵の最高峰 ―佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒―」井並林太郎研究員　200名参加 ・特別講演会「巡る美　変わる美 ―流転する日本文化―」彬子女王殿下　180名参加 ・記念講演会「佐竹本三十六歌仙絵への想い」降矢哲男研究員　200名参加
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	30年度内に東京で記者発表を開催、元年度に京都で2度記者発表を開催。主催の日本経済新聞・京都新聞ほか各紙、NHK「ヒストリア」「日曜美術館」特集番組「響きあう美　佐竹本三十六歌仙絵」、テレビ東京「新美の巨人たち」ほかテレビ各番組やニュース報道、ニコニコ生放送などネット媒体で紹介。ポスター・チラシ等を制作し、交通広告ではJR・京阪の車両内や各駅でサイネージを含め掲示。マンガ「ちはやふる」とのコラボレーション（描きおろしイラスト複製原画展示など）や、公式ツイッターを使用した「令和36歌仙になろう」企画を行い、主に若者をターゲットとした広報にも注力した。
補　足	 佐竹本三十六歌仙絵展　会場風景　  「ちはやふる」複製原画展示

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定
来館者数	136,811人	80,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 佐竹本が31件集結するという貴重な機会を提供できたのみならず、絵画史・書道史・茶道史・国文学史といった広範にわたる関心を呼び起こす学術的意義のある展示であった。また、各広報媒体を駆使し世間の興味を高めることで、目標値を上回る来館者数を得ることができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」（4月13日～6月9日） 曜変天目茶碗など国宝9件を所蔵する大阪・藤田美術館の所蔵品から、奈良ゆかりの仏教美術や絵巻・茶道具など名品の数々を紹介する。 （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　岩井共二

【実績】

展覧会名	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」
会　　期	4月13日(土)～6月9日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿
作品件数	128件（うち国宝9件、重要文化財53件）
来館者数	158,078人（達成率：316.2%）
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　89.3%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	公益財団法人藤田美術館が所蔵する、国宝9件、重要文化財53件すべてを展示した。（会期中展示替えあり）。 展示構成では、仏教美術を中心に、奈良にゆかりのあるものを紹介した。国宝・曜変天目茶碗を中心とした茶道具、茶掛けなどの墨蹟、仏教説話画、仏像、仏画、仏教工芸、経典、仮面、能装束、工芸、考古資料など多彩なコレクションを通じて、コレクションを創始した藤田傳三郎の功績を紹介した。
学術的意義	展覧会開催にあたり、藤田美術館の所蔵品の中から、仏教美術を中心に選んで、調査、高精細画像撮影（出陳品全128件を含む）、近赤外線撮影、X線CTスキャン調査など、多角的に学術調査を行った。その結果、本展初出陳の文化財を10件ほど見いだすことができた。また、古写真や資料から、新たに当初の所在が明らかになったものも5件ほどあった。こうした最新の学術的成果も展示パネル等で紹介した。
教育普及	3回の公開講座(4月20日、5月11日、5月25日)に加え、藤田美術館所蔵の国宝 玄奘三蔵絵をもとに、絵巻を作成しながら絵巻という形式の美術品を学ぶ親子ワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」(5月5日)を開催した。さらに、同館所蔵の国宝 曜変天目茶碗にちなみ「抹茶体験」(5月19日)や「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」(5月26日)の親子ワークショップを開催した。 また、子供向けのジュニアガイド「藤田でんざぶろうからの挑戦状」を作成、配布し、クイズ形式で展覧会理解の促進を図った。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	会期中、世界に3碗しかない曜変天目茶碗が、滋賀・MIHO MUSEUM（大徳寺龍光院蔵）、東京・静嘉堂文庫美術館でも同時期に公開されることになり、三館共同で広報活動を行い、各館の入館者増加に大きく貢献した。
補　足	

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	158,078 人	50,000 人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 藤田美術館所蔵の仏教美術を学術的に調査撮影することにより、奈良伝来の仏教美術が数多く含まれていることや、未紹介のマニ像を発見するなど、展覧会初紹介の作品を出陳することができた。全出陳品を当館で新たなデジタル画像で撮影し、新知見を展示や図録で紹介し学術的にも価値の高い展覧会を構築できた。広報面においても、藤田美術館所蔵の国宝９件重要文化財 53 件全公開や、曜変天目茶碗の三腕同時期公開などの広報展開が功を奏し、曜変天目茶碗の人気と相まって、多くの人に優れた文化財を観覧する機会を提供できた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展　御即位記念　第71回正倉院展（10月26日～11月14日）
　正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。
（目標来館者数18万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　内藤栄

【実績】

展覧会名	御即位記念　第71回正倉院展
会　　期	10月26日(土)～11月14日(木)（20日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	41件
来館者数	277,133人（達成率：154.0%）
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　87.4%



告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	天平文化の精華を広く国民に公開する秋恒例の展覧会。71回目となった元年度も、正倉院宝物を特徴づける器物、染織品、文書・経巻などの出陳品で構成されたが、とりわけ聖武天皇にゆかりの深い宝物、天皇即位に関わる宝物を初め、正倉院を代表する宝物が多数出陳され、御即位記念の年にふさわしい内容となった。第1会場（東新館）は、まず聖武天皇・光明皇后ゆかりの宝物や献物帳の展示を通じて正倉院宝物の成り立ちを紹介し、次いで調度品の展示から当時の宮廷生活の一端をうかがう構成とした。第2会場（西新館）は、前室からの流れを受け、天皇・皇后が着用した冠や礼服等の展示で宮廷の装いを紹介した後、荘厳具や供養具など東大寺の法会に関わる宝物、さらに大陸に起源をもち法会でも演じられた伎楽関連の宝物を展示し、シルクロードを通じた東西交易へとテーマを繋げた。終盤は、宮中儀礼に関わる宝物や正倉院文書の展示を通じて、当時の国の統治のあり方を紹介するとともに、棚や古櫃の展示で宝物の保存と伝承を意識していただける場を設定した。御即位記念を冠しての開催であることに鑑み、宮廷での儀礼や暮らしにスポットを当てた展示としたが、正倉院宝物の成立や保存といった側面にも着目するなど、正倉院宝物の全体像がうかがえるような構成を意図した。
学術的意義	正倉院宝物がまとまって公開されるほぼ唯一の機会であり、中には史上初めて一般に公開される初出陳品も含まれるなど、本展開催に伴う学術的意義は大きい。また、出陳品には、宮内庁正倉院事務所による近年の調査で成果の示されたものも含まれており、最新の知見を広く紹介する場ともなった。 図録には新写や初公開を含む多数のカラー図版を掲載し、最新の知見を踏まえた解説を用語解説とともに収録し、宝物の学術的評価をわかりやすく明瞭に伝えることに努めた。また、最新の知見をコンパクトにまとめた小論文（「宝物寸描」）や、新視点を盛り込んだ概説も掲載し、研究の最前線に手軽に触れ得る内容とした。
教育普及	会場には宝物毎に簡潔な解説を付した題箋を設置した。また、正倉院宝物の概要や、展示構成に沿ったコーナー毎の見どころを記したパネル、部分拡大図、技法解説等を随所に配置し、特に今回は即位に関わる出陳品についてのスポット解説のパネルも作成した。解説のほとんどは日・英・中・韓の4言語とし、多言語対応に努めた。さらに、代表的な宝物については上記4言語に対応した音声ガイドに加え、子ども向けの音声ガイドも作成することで、幅広い層を対象に理解の促進を図った。 会期中には特別講演会1回、公開講座2回、「即位と正倉院宝物」をテーマとした学術シンポジウム1回、解説付きの親子鑑賞会1回を実施した。また1日4回（公開講座の日は会場の都合で2回）、ボランティア解説員による見どころ解説を講堂にて行った。さらに、会期前には京都美術工芸大学で、研究員による出前授業を実施した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	特別協力者（新聞社）の協力を得て東京でも報道発表を行い、また新聞・交通広告を大規模に展開し、周知に努めた。さらに特別協力者と協力して新聞の特集紙面を構成し、会場でも配布したほか、奈良県内の学校等へも送付した。 館内に予約制の託児室を設け、観覧環境の充実に努めた。待ち列部分では映像を流し、観覧環境の向上や観覧マナーについて啓発及び注意喚起を行った。また、元年度より大きな荷物の持ち込みに制限を設け、手荷物預かり所やコインロッカーの利用を呼び掛けることにより、観覧環境の向上を促した。 会場は自由動線とし、壁沿いの展示をできるだけ減らし、また宝物の展示間隔にゆとりをもたせるなどして、混雑緩和を図った。車椅子で見やすい高さの展示にも努めた。 なお、会期中には、本展と連動する企画として、当館地下回廊にて「特別企画　正倉院展ポスター　平成をふりかえる」（会期：9月10日～11月17日）の開催があった。
補　足	【特別講演会】 11月4日（月・祝）「遺愛とその輝き」中西進氏（高志の国文学館館長） 【公開講座】 11月2日（土）「正倉院に伝わる作り物をめぐって―仮山残欠を中心に―」清水健（当館） 11月9日（土）「正倉院の風鐸―金銅鎮鐸について―」細川晋太郎氏（宮内庁正倉院事務所）

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	277,133人	180,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 30年度より来館者数が増加し、満足度の上昇も見られた。出陳宝物の内容もさることながら、パネルや音声ガイドの充実等に注力したことが、上記結果に繋がったものと考える。一方、展示の高さ、題箋の掲示位置、解説の文面や分量、照明などについては今後も改善を図り、観覧者の満足度向上につとめたい。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」（2年2月4日～3月22日）
　毘沙門天信仰とともに生み出された多くの優れた美術品を紹介する。
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　内藤栄

【実績】

展覧会名	特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」
会　　期	2年2月4日(火)～3月22日(日)（42日間） ※臨時休館：2年2月27日(木)～3月22日(日)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館第1室
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
作品件数	37件（うち国宝2件、重要文化財18件）
来館者数	16,675人（達成率：33.4%）
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 97.5%



告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	当館では過去に「浄土曼荼羅」展や「ブッダ釈尊展」、「菩薩」展など、特定の尊格にテーマをしぼった仏教美術展を開催してきた。本展はその伝統・流れに即したもので、日本の毘沙門天彫像の優品37件を一堂に会した初めての試みであった。 構成は第一章から第四章までの4部構成とした。第一章は「独尊の毘沙門天像」、日本における現存最古の毘沙門天像である愛媛・如法寺像（奈良時代：8世紀）を皮切りに、平安時代から鎌倉時代にかけての作品22軀を展示した。素材別では木心乾漆造、木造、銅造であり、20軀の立像に加えて珍しい2軀の坐像も展示した。第二章は「毘沙門三尊像」で、半世紀ぶりの展覧会への出陳となる京都・鞍馬寺の毘沙門天・吉祥天・善膩師童子の3軀や、アメリカからの里帰りとなる個人蔵の像など、合計3件7軀の作品を展示した。第三章は「双身毘沙門天像」で、2体の毘沙門天像が背を合わせて立つ珍しい像容の作品の展示コーナーである。希少なジャンルの作品で、古像はきわめてまれであるが、近年の新発見の作品を含め、3件を展示しえた。最後の第四章は「『兜跋』形毘沙門天像」。国宝指定の京都・東寺像を含む9件11軀の展示であった。愛媛・金竜寺像のような展覧会初出陳のものを含んでいる。 なお第一会場と第二会場との間のフロアを利用して、四川省に遺品の集中する中国の毘沙門天像を写真パネル展示のかたちで紹介することも行った。
学術的意義	日本の毘沙門天像の優品をほぼ網羅した展覧会であり、日本における毘沙門天信仰が仏教の歴史のなかでも特に重要な位置を占めていたことを確認しえた。平安時代前期における毘沙門天像を一挙同時にながめることでこの時代の美意識の個性をよく示すことができた。平安時代後期の諸作品の展示を通じて、京都と奈良の作風の違いも抽出しえた。坐像の毘沙門天像の展示を通じては、日本の毘沙門天像の源流が中国に見いだせ、その奈良時代におけるわが国への流入に端を発し、その後の自立的展開を生んだことも理解しえた。また制作年代について諸説あった鞍馬寺毘沙門三尊像についても、客観的なデータを示しつつ時代性を示せたし、アメリカからの里帰りの個人像については、その像内銘を初めて示し、平安彫刻史における基準作品として位置づけることができた。双身毘沙門天像についても、これまで鎌倉時代の作と考えられていた京都・浄瑠璃寺像が平安時代の作とみるべきものであることを主張し、大方の賛同を得たし、岐阜・長福寺像のような全く未紹介の新出作品も展示できた。その用語について様々な学説のある「兜跋」形毘沙門天像についても、今後の議論のための重要史料の提示や新たな解釈を示しつつ、初公開作品を含む優品の展示によって、今後の学術研究のための土台を築き直したと自負する。本展をきっかけに、毘沙門天像に関する研究の飛躍・発展が期待できよう。
教育普及	講演会を３回実施する計画であったが、2年2月15日の名古屋大学・龍谷大学名誉教授の宮治昭氏による「毘沙門天の源流を探る―インドからガンダーラ・西域へ―」と題する１回を行ったのみで、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から展覧会そのものが中断された結果、残り２回については実施できなかった。ただし宮治氏の講演会はほぼ満席の盛況であり、終了後のアンケートの結果もきわめて好評であった。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	第一会場と第二会場との間のフロアには、上記写真パネル展示のコーナーのほか、映像コーナーも設けた。展覧会に出陳された京都・鞍馬寺像と愛媛・金竜寺像、岩手・三熊野神社毘沙門堂像の３作品を取り上げ、像が安置される現地の風景や土地の人々の祈りの状況を通し、毘沙門天像に寄せられた信仰の実態と歴史を紹介した。
補　足	新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年2月27日（木）から3月22日(日)まで臨時休館とした。

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	16,675人	50,000人	D

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
会期の半ばで予定入館者数の半分に達してはいないが、臨時休館直前の入館者数は上向きであったし、通常会期終了が近づくにつれ入場者は増加するので、臨時休館がなければ予定入館者数に肉薄ないし凌駕したことと予想される。また図録の購買率は入館者 10 名に 1 冊を超える高さであった。アンケートの評価もきわめて高評価であった。臨時休館後、研究者、一般を問わず観覧を望む声が多数寄せられた。以上により、年度計画に対する総合評価はＡとしたい。

【書式Ａ（特別展）】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1221Dｱ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」（4月23日～6月16日）
　大報恩寺に数多く伝わる、快慶晩年の「十大弟子像」、行快による秘仏本尊「釈迦如来坐像」、定慶による「六観音菩薩像」など、快慶派仏師の名品を中心に展示する。
　（目標来館者数7万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課長　楠井隆志

【実績】

展覧会名	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」
会　　期	4月23日(火)～6月16日(日)（49日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、大報恩寺、読売新聞社
作品件数	15件（うち国宝0件、重要文化財7件）
来館者数	53,524人（達成率：76.5%）
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　84.6%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	京都の大報恩寺が2年度に開創800年を迎えることを記念し、快慶作「十大弟子立像」、行快作「釈迦如来坐像」、肥後定慶作「六観音菩薩像」など大報恩寺に伝わる「慶派仏師」による名作の数々を一堂に紹介した。また、近接する北野天満宮境内にかつてあった北野経王堂ゆかりの名宝や関連する絵画作品等も紹介し、京洛の釈迦信仰の拠点であったその歴史を振り返ることができる展示構成とした。通常の特別展と比べて展示作品数はかなり少ないが、その分空間的に余裕のある会場づくりが実現した。
学術的意義	快慶晩年の代表作「十大弟子立像」が10軀一堂に公開されること、秘仏本尊の行快作「釈迦如来坐像」が寺外初公開となること、肥後定慶作「六観音菩薩像」6軀すべてが360度全方向から鑑賞できることなど、史上初の内容や取り組みが多い展覧会となったことは高く評価される。
教育普及	展示室内の一角に教育普及コーナー「ザ・慶派の手仕事」を設置し、主要展示作品である「釈迦如来坐像」、「十大弟子立像」、「六観音菩薩像」に見ることができる４つの技法（「玉眼」「金泥塗り」「漆箔」「截金」）を模型、解説パネル、工程パネル、動画、材料の実物展示により紹介した。主要展示作品を鑑賞する前に仏像彫刻技法をわかりやすく解説するコーナーを設けたことで、観覧者には、展示理解はもちろん、作品の細部を見ることの楽しさを実感してもらうことができた。 会期中に以下の講演会・イベントを開催し、展覧会の普及につとめた。 記念講演会：4月27日、「鎌倉彫刻の巨匠　運慶・快慶とその次世代の仏師たち」（東京国立博物館　皿井舞氏）、参加者120人、5月25日「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」（大報恩寺住職　菊入諒如氏）参加者160人
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・写真家小野祐次氏撮影になる印象的な写真を使用したポスター・チラシ、交通広告を作成した。そのため仏像愛好者以外の関心も刺激し、おおいに注目を集めた。 ・今回、重要文化財「六観音菩薩像」6軀すべての写真撮影について特別に許可いただいた。撮影者が作品鑑賞者の妨げとなることも十分予想されたため、撮影可能エリアを作品前方に設置した特設ステージ上からと限定した。これにより鑑賞者と写真撮影者のエリアが明確に区画されたため、会期中双方からの苦情等のトラブルは全く発生しなかった。今後、展示作品の写真撮影が認められる機会が多くなると予想されるが、今回の試みはひとつのモデルケースとなる。 ・展覧会会期中はテレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。
補　足	

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	53,524人	70,000人	D

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｃ

【判定根拠、課題と対応】
　質の高い作品が揃う展示内容ではあったが、大報恩寺の九州における知名度がさほど高くない状況下、展覧会の魅力を十分に伝えることができず、広報戦略的に大いに苦戦した。新元号「令和」の反響は文化交流展にとどまり、特別展示室への観覧者増加には至らなかった。展覧会名称やPRポイント発信法の工夫など、今後一層の分析・研究が必要である。ただ来館者数こそ目標値には至らなかったが、アンケート調査によれば、展覧会全体の印象、空間デザイン、撮影エリアの工夫、教育普及の取り組みなど高い評価を得ることができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」（7月13日～9月1日）
歴代将軍の肖像やゆかりの文化財から、室町幕府の栄枯盛衰と個性あふれる将軍たちの魅力に迫るとともに、彼らが愛し、価値づけた名品を通して、南北朝時代から室町時代にかけての多彩な芸術文化を紹介する。
（目標来館者数4万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　一瀬智

【実績】

展覧会名	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」
会　　期	7月13日(土)～9月1日(日)（45日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本
作品件数	134件（うち国宝14件、重要文化財71件）
来館者数	86,399人（達成率：216.0%）
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度87.9%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	室町幕府の初代足利尊氏から15代義昭まで、歴代将軍の栄枯盛衰と個性ある魅力に迫りつつ、南北朝時代から戦国時代にわたる240年間の激動の時代と重厚な文化について概観する特別展。展示室では歴代の肖像画やゆかりの深い絵画・古文書・工芸品を数多く紹介したほか、特に将軍会所における唐物を用いた座敷飾りを実物資料によって復元し、また寺外で初の一斉公開となる京都・等持院所蔵の歴代将軍木像13軀を、一堂に鑑賞できる空間で展示した。
学術的意義	本展は、室町将軍が積極的に主導した、日本と東アジアとの交流と、新たな文化の創出を大きなトピックとし、特に前者は三代将軍足利義満が開拓した明との外交・貿易について、後者は公家文化や大陸文化を複合して形作られた新たな美の価値観と歴代将軍との関係について重点を置いた構成とした。これらは歴史学や美術史学における近年の新たな研究成果に基づいたもので、実物資料をもってそれを紹介できたことは意義深い。また禅宗や東山文化、戦国時代等ではなく、15人の歴代将軍を切り口とする新たな視点は、これまでの展覧会に無い新たな試みであった。
教育普及	中学2年の学習内容に対応したワークシートを作成し、周辺地域の中学校と会場において配布した。 展示室には、15人の将軍を印象付けるために、伝来する肖像を参考に、装束にも考証を加えて歴代将軍のイラストを作成し、各将軍のパーソナリティを特徴付けるキャッチコピーを添えて、入口に掲示した。幅広い年代に好評を得ることができ、導入部分に設置したことで、来館者の理解に資することができた。また勘合貿易の「勘合」について、最新の研究成果を元に実物大復元を作成し、その当時の作成・使用方法を解説する体験コーナーを設けた。このほか初代将軍尊氏と太宰府とのゆかり、及び洛中洛外図屏風に描かれた人々の暮らしや風俗について、解説パネルを設置した。 また復元勘合を使って、日明貿易のシステムを体験するワークショップを4回（7月19日、8月7日の各午前・午後）開催し、「勘合」が使用された意味と時代背景について、参加者の理解を深めた。なお両日とも午後の部は、視覚障がい者を対象として実施した。8月1日と15日には視覚障がい者を対象とする特別展観覧ツアーを開催し、通常とは異なる解説やハンズオンの体験コーナーを設けて特別展を案内した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	等持院の歴代将軍像をメインビジュアルとした広報物を作成したほか、展示作品の多彩さと重厚さを伝えるテレビCMを放映した。また開幕半年前の2月に東京にて記者発表を行ったことで、早くから各方面の注目を集めた。会期中にはテレビ・ラジオ出演や講演会等による広報にも努め、館内でも次のような各種イベントを実施した。記念講演会：「将軍家のアジア外交」橋本雄（7月14日）・「室町将軍の再評価」呉座勇一（8月3日）、華道家元池坊次期家元による講演会・デモンストレーション（8月11日）、リレー講座：一瀬智・末兼俊彦（7月20日）、シンポジウム「京都・等持院　歴代室町将軍像の謎に迫る」根立研介・大田壮一郎・髙岸輝・楠井隆志（8月12日）
補　足	

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	86,399人	40,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 室町将軍を切り口とする初の本格的な展覧会となった本展は、寺外初の一斉公開となる等持院歴代将軍像をメインビジュアルとした広報印刷物・CM やテレビ出演の効果もあって高い注目を集め、目標人数を大きく上回る来館者を得られた。座敷飾りや歴代将軍像の展示空間、および教育普及の各コーナーも質の高い効果が得られ、来館者の満足度は非常に高かった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　日中文化交流協定締結40周年　特別展「三国志」（10月1日～2020年1月5日）
　日本でも人気の高い三国志について、選りすぐりの文物と最新の研究成果をまじえてその実像に迫る。近年発見された、三国志の英雄・曹操の墓「曹操高陵」の出土品を紹介する。
（目標来館者数7万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	企画課特別展室主任研究員　川村佳男

【実績】

展覧会名	日中文化交流協定締結40周年　特別展「三国志」
会　　期	10月1日(火)～2年1月5日(日)（77日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社
作品件数	161件（うち一級文物（日本の国宝相当）42件）
来館者数	140,155人（達成率：200.2%）
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度78.0%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	プロローグ「伝説のなかの三国志」、第1章「曹操・劉備・孫権　英傑たちのルーツ」(1.曹操の家系、2. 劉備の家系、3. 孫権の家系)、第2章「漢王朝の光と影」(1.漢王朝の栄華、2. 黄巾の乱と董卓、3. 涿県－劉備旅立ちのまち、4. 献帝－後漢のラストエンペラー)、第3章「魏・蜀・呉　三国の鼎立」(1. 漢から三国の武器、2. 定軍山の戦い、3. 樊城の戦い、4. 諸葛亮の南征、5. 石亭の戦い、6. 合肥新城の戦い)、第4章「三国歴訪」(1. 三国歴訪－魏、2. 三国歴訪－蜀、三国歴訪－呉)、第5章「曹操高陵と三国大墓」(1. 曹操高陵、2. 曹丕と鮮卑頭、3. 魏の曹植墓、4. 蜀の大墓、5. 呉の大墓）、エピローグ「三国の終焉　天下は誰の手に」。「石牌　魏武王常所用挌虎大戟」などの曹操高陵出土品（中国国外初出品）を中心とした中国の発掘資料のほか、NHK「人形劇　三国志」で使用した人形や横山光輝「三国志」の漫画の原画などで構成。
学術的意義	これまで正史『三国志』、『晋書』など文献資料から研究が進められてきた三国志の歴史について、曹操高陵をはじめとする出土資料から新たな光を当てた。日本でも人気の高い三国志に対する認識をより豊かにして頂くことを目的とした。東京国立博物館、九州国立博物館及び中国文物交流中心による国際共同学術プロジェクトとして、日中文化交流協定締結40周年を記念して実施した。
教育普及	記念講演会を２回実施：「ここまで分かった“リアル三国志” － 新発見の考古資料から読み解く －」（10 月 20 日）講師：川村佳男、特別記念講演会（12 月 14 日）「曹操高陵の考古学的発見と研究」講師：潘偉斌（河南省文物考古研究院第一研究室副主任）・「三国志の時代と卑弥呼の鏡」講師：辻田淳一郎（九州大学大学院人文科学研究院准教授） 関連イベント：「びじゅチューン ！なりきり美術館＆三国志 コンサート」10 月 14 日、「きゅーはくミュージアムコンサート　中国悠久の調べ」11 月 9 日、「ナイトミュージアム　英雄（ヒーロー）現る!!」11 月 22 日・12 月 14 日、「夜な夜な三国志」11 月 23 日、「視覚に障がいのある方を対象とした特別展『三国志』観覧ツアー」12 月 5 日・12 月 11 日
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・ちらし・インターネット・SNS・新聞広告・各種ミニコミ誌・テレビ出演・ラジオ出演・出張講座等で積極的な広報を展開し、1日平均来場者数1,800人以上をほぼ会期全体にわたって維持した。また、「視覚に障がいのある方を対象とした観覧ツアー」の実施や「ナイトミュージアム　英雄（ヒーロー）現る‼」では手話通訳をつけることで、視覚・聴覚に障がいのある方でも展覧会を楽しんで頂けた。
補　足	文化交流展示室にて特別展「三国志」の関連展示を３件実施した。「長崎の関帝信仰」期間：11 月 12 日～12 月 22 日、担当：楠井隆志（展示課長)、「重要文化財　三国志呉志第十二残巻」期間：11 月 12 日～12 月 22 日、担当：松浦晃佑（文化財課研究員)、「重要文化財　金銀錯嵌珠龍文鉄鏡」期間：11 月 6 日～2 年 1 月 19 日、担当：小澤佳憲（展示課主任研究員)、川村佳男

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	140,155人	70,000人	A

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　目標人数を達成した。発掘によって得られた出土資料から三国志の歴史の新たな側面に光を当てようとした本展覧会は、「日中文化交流協定締結 40 周年」という時宜にかなった国際学術事業であり、大きな成果を挙げたと言える。また、来館者アンケートによる満足度について、「とてもよかった」及び「よかった」との回答割合が、展覧会の内容については 78%、解説文については 77%が、展示方法については 85%と高かった。これは、展覧会の意義を観覧者に充分に伝え得たことの表れと判断できる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」(2 月 4 日～3 月 29 日）フランス絵画が偉大で華やかな発展を遂げた 17 世紀から 19 世紀を、古典主義、ロココ美術、アカデミスムの名作の数々でたどる。
（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部特任研究員　臺信祐爾

【実績】

展覧会名	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」
会　　期	2年2月4日(火)～2月26日(水)（20日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、東京富士美術館、西日本新聞社、毎日新聞社、九州朝日放送
作品件数	86件
来館者数	45,636人（達成率：76.1%）
入場料金	一般1,600円、高大生900円、小中生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.4%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	フランス絵画が偉大で華やかな発展を遂げた17世紀から19世紀をたどる展覧会。第1章はプッサン(《コリオラヌスに哀訴する妻と母》）や王立美術アカデミーに注目して古典様式を、第2章は18世紀のロココ美術をヴァトー（《ヴェネチアの宴》）らの傑作で、第3章はフランス革命後のアングル（《オルレアン公フェルディナン＝フィリップ、風景の前で》）らの新古典主義、ドラクロワらのロマン主義などに注目して19世紀の美術を取り上げる。第4章では画家の個性が際立つデッサンを紹介する。油彩69点（うち日本初公開は17点）及びデッサン17点（うち16点は初公開）。
学術的意義	当館ではこれまで印象派・ポスト印象派に焦点を当てた特別展2本及びヨーロッパ美術の400年を扱う特別展1本の開催実績はあるものの、フランス絵画単独の特別展は初めてである。また一つの美術館コレクションで300年を紹介する特別展は2，3あったが、フランス、イギリス、ドイツ、日本国内など約20機関から美術史上重要な名作をバランス良く集めたものは、他に例を見ない。古典主義、ロココ美術、新古典主義、ロマン主義などを、教科書的にわかりやすく学べるまたとない機会である。
教育普及	フランス絵画の専門家である美術史家・大原美術館長高階秀爾氏による記念講演会「フランス絵画の栄光－古典主義からロマン主義まで」により、本展が取り上げた300年を振り返った。会場内映像を共催者と新たに作成し、300年のフランス絵画の歴史理解が深まるよう配慮した。会場出口付近に、ベルサイユ宮殿鏡の間写真を背景に「ベルサイユのバラ」舞台衣装を展示して、ルイ16世治下の宮廷文化の雰囲気を演出した。また、「筑紫野市しっとこ九博」、「九州経済調査協会Bizcoli講演会」、「大野城市シニア大学」（新型コロナウィルスの影響で中止）やNHK福岡放送局、TVQ、RKBラジオ、福岡LOVEFMの番組出演など各所で、展覧会の内容について講演及び解説し、普及に努めた。 関連イベントとして、「古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひととき」（演奏会）、「フランス・スタンド」（パネル展示）等を予定していたが、コロナウィルス感染拡大防止対策のため中止となった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	東京富士美術館が企画し、美術史家大野芳材氏が学術監修した本展は、東京富士美術館を皮切りに、当館と大阪市立美術館を巡回する。 2年3月半ばに、フランスの7機関より当館会期終了後、クーリエが来日できないため、東京富士美術館・コンサバターによる点検実施後、大阪市立美術館へ輸送せず、当館にて保管しておいてほしい旨の申し入れがあり、対応する予定である。
補　足	コロナウィルス感染拡大防止対策として、2年2月27日から3月29日まで休館とした。開館中の平均来館者数は一日2,176人（開会式除く）であった。

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	45,636人	60,000人 (25,000人) ※1	A

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	会期中の 2 年 2 月 27 日より新型コロナウィルス感染拡大防止を目的として、臨時休館となったが、開催中の来館者数は一日当たり 2,000 人を超え、好評を博した。

※1　括弧内の目標値は、会期変更にともなう目標値の見直しによる値。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　トーハク新時代プランに基づき、多言語による案内、デジタルサイネージ及び誘導サイン等を順次整備する。また、本館改修に向けてサイン計画を策定する。
イ　より快適な観覧環境を構築するため、トーハク新時代プランに基づき、展示ケース・照明・内装など展示室等をリニューアルする。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 列品管理課 平常展調整室	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香 特別展室長　猪熊兼樹 デザイン室長　矢野賀一 国際交流室長　楊鋭 課長　救仁郷秀明 室長　皿井舞

【実績・成果】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、外国人来館者にも理解しやすいよう翻訳のリライトを行った。
イ
・庭園内にユニバーサルデザインの多機能トイレを設置した。トイレ出入口は段差解消のためスロープを取付け、バリアフリー化を推進した。また、視力の弱い方でも疲労が少ないよう、解説のサイズ、レイアウトなどを改善し、フォントを試験的にユニバーサルデザインフォントとした。
（東京国立博物館）
ア
・正門から平成館への動線上にバナーを増設し、構内のスムーズな誘導への環境整備を実施した。
・正門に来館者からの問い合わせが多い内容に関する情報案内を大型看板で増設した。
・本館に3か所、多言語案内によるデジタルサイネージを設置した。
・券売所混雑解消のため、また外国人来館者へのPRのため、特別展及び総合文化展にて、新たな複数の電子チケットを導入した。
・外国人旅行者や修学旅行生等の初めての来館者向けに、簡易な構内マップを制作し、配布した。
イ
・券売所混雑解消のため、また外国人来館者へのPRのため、特別展及び総合文化展において新たな複数の電子チケットの導入を図った。
・本館各展示室の趣旨に関する説明パネル（入口解説）について、解説内容の改訂、及び視認性の良いデザインへの変更を行った。それに伴って展示室名の翻訳についても見直しをはかり、現代の諸情勢に即したより自然な翻訳へと変更した。
・東洋館のパネル類の多言語化については、東洋館リニューアルの際に実施していたが、多言語化が不徹底だった9ヵ所について、4ヵ国語がそろうように調整した。
・本館13室の9台のケースを刷新し、最新の高演色LED照明器具を導入し省エネルギー化を図った。
・老朽化した本館の第1～第4系統（展示室系統）空調機設備、吸収式冷凍機、冷却塔をオーバーホール整備し、快適な観覧環境を構築した。
・本館2階「日本美術の流れ」の冒頭に掲げる年表のリニューアルを行った。
・本館展示室内の休憩用ソファを増設するとともに快適性、デザイン性の高いものに刷新し、満足度の向上を図った。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出台数	334,164台	—	—		223,331	177,522	282,187	218,982

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
本館の入口解説、本館2階の「日本美術の流れ」の解説について、内容及びデザインにリニューアルをし、来館者等が日本文化に親しんでいただく観覧環境を整備した。
また、夜間開館の拡充に合わせて敷地内の照度を上げるとともに、来館者サービスの要ともいえる正門プラザ内のインフォメーションカウンターを正門に移動し、視認性を向上させたことで、より来館者が利用しやすい形とした。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
多言語化、解説の増設などを推進し、日本文化になじみのない来館者等の利用にも配慮した観覧環境の提供を順次行っている。外国人を含む日本文化になじみのうすい来館者にとっても日本文化を感じられる展示となるよう、本館1室、4室及び9室に映像展示を設置した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　2/2

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版・英語版)の公開を引き続き実施する。中国語版、韓国語版については、音声ガイドを充実させ、「トーハクなび」の端末とともに貸出しサービスを継続する。またトーハク新時代プランに基づき、多言語対応型の鑑賞ガイドアプリの導入に向け準備を行う。
エ　講座・講演会の会場へのヒアリンググループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。
オ　「総合案内パンフレット」(7 言語（8 種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3 言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　藤田千織 室長　丸山士郎

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ウ　アプリ「トーハクなび」を継続して提供した。また、「トーハクなび」のログ解析を継続し、利用者の使用動向の調査・研究を行った。さらに、来館者への貸出サービスとして、日本語・英語は「トーハクなび」の iPod 端末を、中国語・韓国語はアプリのコンテンツの一部を翻訳し、インストールした音声ガイド端末の貸出を行った。音声ガイドについては、一点作品解説提供の範囲を東洋館、法隆寺宝物館へも拡大した。また鑑賞ガイドについては、言語によるデバイスの差異を解消するべく、新規の鑑賞ガイドアプリ開発・制作を行った
エ　ユニバーサルデザインの触知図の設置、ギャラリートーク・講演会会場でのヒアリンググループの設置・管理、音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ（UD トーク）の導入など、障がい者のための環境整備を実施した。さらに、点字を併記した総合案内パンフレットの印刷と無料配布を継続した。
オ　「案内と地図」(総合案内パンフレット）(7 言語（8 種))：日 122,000 部、英 80,000 部、中(簡体字 24,500 部・繁体字 9,000 部)、韓 10,000 部、仏 16,000 部、西 10,000 部、独 7,500 部）を制作・配布した。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の 3 言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布した。
キ　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供した。特に、トーハクキッズデー（8月4日）及びお盆期間中（8月9日～15日）は当日受付も実施し、サービスの拡大を図った。また、上野文化の杜との協力事業として、上野文化の杜 音めぐり（2月12日、13日）は託児室の無料開放を実施した。
　さらに、託児サービス委託業者のウェブサイトにて、トーハクキッズデーの告知を出すなど、当館事業の周知も図った。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ウ　各アプリの年度のダウンロード件数及び貸出件数は以下の通りである。
・Android 版「トーハクなび」4,080 件（累計 23,483 件、24 年 4 月 18 日公開）
・iOS 版「トーハクなび」12,953 件（累計 56,980 件、25 年 9 月 26 日公開）
・貸出件数　30,962件（累計85,123件）（日英中韓の総計）
・「法隆寺宝物館 30 分ナビ」は公開を終了してはいないが、iOS9 以降に対応していないため、最新の端末で新規に DL、使用することはできない）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 公開中のアプリ「トーハクなび」は17,033件のダウンロード実績をあげた。貸出サービスにおいては、アプリ端末及び音声ガイド端末合わせて年間30,962件を貸出した。アプリ・音声ガイドの作品解説提供範囲も拡大している。この鑑賞ガイドについては、言語によるデバイスの差異を解消するべく、新規の鑑賞ガイドアプリ開発・制作を実施中である。ほかに障がい者のための環境整備、7言語の「総合案内パンフレット」の制作・配布、3言語の「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 パンフレットの制作・配布、ガイドアプリの公開・貸出による多言語化、聴覚障がい者向けの設備の充実、託児サービスやキッズデーによる子ども連れの来館者への配慮など、一定の成果はあげている。引き続き幅広い来館者の利用に配慮した快適な観覧環境の提供のための施策を推進したい。 また、元年度は来館者から問い合わせが多い事項を正門案内業務委託会社より聴取し、それを踏まえた案内情報を掲載した大型看板類を正門前に増設した。今後も来館者が求める情報を的確に提供することで、来館者のスムーズな入館につなげたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1231B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7言語(8種)：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を継続して配布する。
イ　デジタルサイネージやSNSを活用し、効果的な情報発信を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展において、題箋及び解説等並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。継続して4言語（日・英・中・韓）に対応した。
イ　一部のガラス製自動扉の視認性が悪く、衝突等の通行上のバリアとなっていたことから同所についてサインの見直しを行った。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7言語（8種）：日、英、中（簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を継続して配布した。
イ　SNSを活用して、災害時の臨時閉館情報等を効果的に発信した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
イ
・特別展開催時の混雑状況をツィッターで情報発信した。
・台風情報による臨時閉館案内を、4言語（日・英・中・韓）で発信した。
・デジタルサイネージを用い、イベント開催の案内をした。
・4言語による名品ギャラリー（平常展）閉室案内サインを設置した。
ウ　音声ガイド利用台数　計 50,191台
・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」(4言語：日、英、中、韓)　7,298台
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(4言語：日、英、中、韓)　27,385台
・名品ギャラリー(4言語：日、英、中、韓)　15,508台



三十六歌仙絵展 音声ガイドポスター

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出台数	50,191台	－	－		109,167	36,584	128,728	104,463

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
元年度も題箋及び解説等の4言語対応を継続実施した。特別展の音声ガイドについては人気声優を起用し利用者の増加と満足度の向上を図った。名品ギャラリー（平常展）の題箋や解説等は内容を充実させ4言語化を推進した。館内施設のバリアフリー化も推進した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
快適な観覧環境の提供を行うべく、博物館内の施設のバリアフリー化を実施した。題箋を含め各種表示の多言語化を充実させることで外国人来館者に対する観覧環境を向上させることに努めた。名品ギャラリー（平常展）案内サイン等についても視認性を高めるように努め、幅広い層の来館者等に配慮した観覧環境を提供した。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1231C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（奈良国立博物館）
ア　快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。
イ　誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
ウ　正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
オ　多言語による案内について充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（4館共通）
ア　名品展（平常展）「珠玉の仏たち」（なら仏像館）においては、解説パネル、題箋のうち主要作品の4割を解説文まで4言語（日・英・中・韓）とし、各特別展でも主要作品約20点については、解説文まで4言語とした。名品展、特別展では、4言語の音声ガイドを提供した。題箋の作品名、技法、時代等の情報については、全て4言語を提供した。
イ
・5月より、なら仏像館に音声ガイドスクリプト（日・英・中・韓）を設置し、耳の不自由なお客様にも音声ガイドの内容を楽しんでいただけるよう工夫した。
・「御即位記念　第71回正倉院展」、特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」では、骨伝導イヤホンを使用した音声ガイドの貸し出しを行い、耳の不自由なお客様にも音声ガイドの内容を楽しんでいただけるよう努めた。
・新型コロナウィルス感染拡大防止のため館内に手指用アルコール消毒液を設置し、接遇スタッフはマスクを着用することとした。また、これらの対策内容を記した掲示物を館内に設置し、お客様に安心して博物館を楽しんでいただけるよう工夫した。
（奈良国立博物館）
ア　展示室の適正な温湿度管理のため、空調機メンテナンス計画に基づき、機器の修繕を行った。
イ　誘導サインの多言語化整備を行い、観覧環境の改善を図った。
ウ　正倉院展会期中に無料の託児室を開設し、保育士2人が常駐して満1歳児から未就学児まで、2時間以内の預かりを実施した。また、案内看板、ウェブサイト、ハローダイヤルを通じて広報を行い、利用率の向上を図った。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中：簡体字・繁体字、韓、仏、独、西）を継続して制作した。
オ　総合案内カウンターに外国語（英語、中国語）対応ができるスタッフを常時配置し、近年増加している外国人来館者への案内を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ア　特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」「御即位記念 第71回正倉院展」、「毘沙門天」及び名品展（平常展）「珠玉の仏教美術」において、パネル、題箋（解説文は「正倉院展」以外は一部分のみ）、音声ガイドを全て4言語（日・英・中・韓）提供した。また元年度は、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」でも、主要作品の題箋を解説文まで4言語化した。
（奈良国立博物館）
ウ　正倉院展会期中の無料託児室は、日本国内のみならず海外からの来館者にも利用され、託児数121人の利用があった。


音声ガイドスクリプト
貸し出し案内掲示


正倉院展
託児室案内看板


誘導サインの多言語化

オ　中国人来館者が増加する時期に外国語（中国語）スタッフを増員して対応した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出台数	67,512台	－	－		49,546	42,210	63,751	63,299

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
無料託児室の設置は利用者から好評を得ており、元年度の託児室利用者数は30年度よりも増加した。また、来館者が多く混雑が予想される展覧会については、詳細な待ち時間の速報や誘導サインの増設を行い、快適な観覧環境の確保に努めた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
無料託児室の設置により、お子様連れの来館者にも快適に正倉院展を観覧していただけた。2年度以降も引き続き託児サービスを提供できるよう努力する。また、音声ガイドスクリプトや骨伝導イヤホンを導入し、より多くの来館者に博物館を楽しんでいただけるよう工夫した。今後は、様々なサービスの周知に努めるとともに、より快適な観覧環境の提供を目指して努力していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1231D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4 言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（九州国立博物館）
ア　快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かり易い情報発信に努める。
ウ　館内案内リーフレット（7 言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
エ　音声ガイドシステム（４言語：日、英、中、韓）の内容充実に努める。
オ　新しい解説システムの導入を検討する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　平常展、特別展ともに、30 年度から継続して 4 言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行った。また、解説等の英語表記に関してはネイティブの実地視察によるアドバイスを受け、改善を行った。
そのほか、装飾古墳シアターの番組はこれまで、上映する言語（日・英）を来館者の要望があった際に手動で切り替えていたが、11 月 19 日より 2 番組について①日本語字幕、英語ナレーション、②日本語字幕、日本語ナレーションを交互に上映するように変更した。
イ　エントランスホールから展示室への誘導をより分かりやすくするため、ホール正面の壁に案内バナーを設置した。その他のホール内の案内サインについても整理・見直しを進め、ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた案内看板を作成、設置した。
また、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供をめざし、2 月 24 日にユニバーサルガイド養成講座を実施した。
（九州国立博物館）
ア　平常展のテーマ解説パネルについて 30 年度より継続して文面・デザインの再検討を行った。さらに、テーマ解説パネルを随時増設・更新した
イ　平常展特集展示の案内を展示室外の館内各所に設置し、認知度の向上と観覧者の増加に努めた。季刊情報誌「アジアージュ」においては、平常展を継続して取り上げ、広報に努めた。
ウ　館内案内リーフレットを継続して 7 言語（日・英・中・韓・仏・独・西）で制作し、配布した。
エ　音声ガイドシステムの内容充実を継続した。
オ　ミュージアムトークへの手話通訳や要約筆記の導入など、従来の文字・音声の解説にとどまらない、多様な解説方法を模索した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　平常展音声ガイド貸出数
日本語：1,796台、英語：2,447台、中国語：3,197台、韓国語：1,750台
特別展音声ガイド貸出数
・京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ：6,587台
・室町将軍－戦乱と美の足利十五代－：17,624台
・三国志：（通常版）25,362台、（コーエーコラボ版）4,174台
・ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華展：6,239台
○スーパーハイビジョンシアター多言語視聴機器貸出数
英語：1,906台、中国語：2,998台、韓国語：703台



「三国志」展でのコラボ版音声ガイド

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出台数	69,176台	－	－		70,955	98,845	52,425	65,167

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
展示全般にわたって多言語での情報提供を実現しただけでなく、エントランスホールから展示室への誘導のためのバナーや、分かりやすい案内看板等の設置によって、来館者の視認性向上を実現した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画の達成に向けて順調に推移している。エントランスホールのバナー設置や英語表記を見直した。また、ユニバーサルデザイン、5言語（日・英・中（簡・繁）・韓）を取り入れた館内案内看板を設置する等、来館者に対する快適な観覧環境を向上させることができた。2年度以降も引き続き、来館者サービスの向上と快適な観覧環境の提供に努めていく。

【書式A】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1232A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館の拡充を実施する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（東京国立博物館）
ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間を通じて総合文化展アンケートは4言語（日・英・中・韓）及び特別展のアンケートは2言語（日・英）で実施し、外国人からの意見聴取に努めた。
イ　来館者のニーズに対応するため、刀剣関連グッズ（マスキングテープ、一筆箋、チケットフォルダ）を開発・拡充し、SNS等で好評を博した。また、若年層への認知度向上のため、公式キャラクター「トーハクくん・ユリノキちゃん」を使用したノベルティ（ノート、マグネット、色鉛筆、ミニトートバッグなど）の新商品を多数開発した。
イ　ミュージアムショップやレストランにおいては、アンケート等による利用者の意見把握に努め、運営業者と問題点を共有し、サービス向上に努めた。
ウ　年間を通じ、金・土曜21時までの夜間開館を実施した。SNSでの発信、夜間開館実施のポスターを掲出するなど、周知を図った。また、混雑する特別展覧会では、開館を30分早める対応を行った。
ウ　長時間の入場待ち時間が発生した御即位記念特別展「正倉院の世界」において、1年ほど前から共催者、来館者誘導業務委託会社と協議、準備を重ね、整理券を導入し、入場時間までの総合文化展への誘客を図るなど、来館者の利便性の向上に資することができた。
エ　夜間開館時にアンケート調査を実施し、夜間における来館者の意見や要望を把握した。アンケート内容を夜間におけるサービスの充実に繋げた。
（東京国立博物館）
ア　特別展開催時期に合わせて、平成館ラウンジにて軽食販売を行った。また、通年で敷地内にてキッチンカーによる軽食販売を実施した。さらに、春と秋の庭園開放時には軽食販売店を増加し、サービスの向上に努めた。

【補足事項】
ウ　御即位記念特別展「正倉院の世界」では、会期後半を中心に、多くの来館者が正門前で開館時間まで待機する状況となったため、共催者とも調整し、開館時間を30分早めるなど、来館者の安全を重視した柔軟なサービスの提供を心掛けた。さらに、待ち時間対策のため、共催者と協議し、整理券を導入した。
エ　夜間開館に合わせ、アンケート調査の周知や協力者への粗品の配布などを行い、アンケート回収率の向上を図った。



特別展「正倉院の世界」での整理券配布の案内

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	71.7%	80%超	C		－	70.4	68.1	71.3
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	76.9%	－	－		－	69.7	74.8	72.7

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 以前から来館者からの要望も高かった混雑する展覧会での整理券方式を、十分な準備、体制を整え、大きな問題なく導入することができた。 観覧環境に関するアンケート結果については30年度を超える満足度となったが、目標値には達していないため、課題を分析して改善を図る。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が 80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 昨今の来館者の増加に対応するため、快適な観覧環境の維持・向上を目的として柔軟な開館時間の設定や整理券の導入、大型看板の設置など、来館者の利便性の向上に資する取り組みを実施した。なお、観覧環境に関するアンケート結果については、特にレストランの利用満足度が低いため、元年度末に、東洋館レストランを改修し軽食を提供するコーナーの新設による改善を図った。2年度以降のアンケート結果を確認し、引き続き満足度の向上を図る。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（4館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館の柔軟な設定を検討する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館・夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館・夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　日本語・英語・中国語・韓国語による来館者アンケートを実施し、幅広い意見の把握に努めた。
イ　ミュージアムショップの利用者等の意見を基にオリジナルグッズを企画・開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。また、レストランでは当館限定のオリジナルメニューを提供した。
ウ　平常展及び特別展開催中の金曜日、土曜日に午後8時まで夜間開館を実施し、7月～9月は午後9時まで開館を延長した。
エ　夜間開館時に来館者アンケートを実施し、多様な時間帯の意見の把握に努めた。
（京都国立博物館）
ア　アンケートの意見等を受け、ショップ及びレストランに接客対応改善の連絡や新規商品の提案を行った。また、『博物館だより205号』に大和文華館学芸部長　泉万理氏による特別展「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の展覧会評を寄稿いただいた。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・当館が監修し、トラりんが研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの1巻と2巻（全4巻予定）を発売した。
・当館収蔵品等をモチーフに、新たに絵葉書、鉛筆、ノートのオリジナルグッズを開発、販売した。
ウ
・夜間開館の実施から数年が経ち、ICOM京都大会を記念した特別企画「京博寄託の名宝」で夜間入場者が伸びたように、来館者に認知されつつある。同大会のクロージングパーティを開催した9月7日は夜間開館を中止したが、日中は無料観覧日とした。
・2年3月には開館延長の代わりに夜間開催のプロジェクションマッピングと和食のイベントに協力することとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点によりイベントは中止となった。
（京都国立博物館）
ア　過去の図録や学術書、オリジナルグッズ等を販売する当館ミュージアムショップのオンラインショップを新たに開設する準備を行った。



書籍『トラりんと学ぶ日本の美術①』


オリジナル鉛筆・ノート

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	67.4%	80%超	C		73.1	40.2	63.4	73.1
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	67.3%	－	－		82.9	69.3	73.5	82.9

【年度計画に対する総合評価】
評定：C

【判定根拠、課題と対応】
観覧環境に関するアンケート満足度が目標値を下回った。理由として、文化財保護のための空調・照明管理に関する周知不足や、特別展期間中にミュージアムショップやレストランが混雑したことなどが考えられる。外国人アンケートでは、多言語表記を引き続き推進し、満足度の向上を図りたい。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：C

【判定根拠、課題と対応】
中期計画4年目として、多言語表記を充実させる等の観覧環境の改善を進めることができた。2年度もレストラン及びショップの運営業者と引き続き連携を密にしてサービスの改善に努めたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1232C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　通年で記述式のアンケートを実施するとともに、複数回にわたって対面式のアンケートを実施した。外国人観光客を含む来館者から寄せられた意見を館内で共有・検討し、改善に努めた。
イ　アンケートで寄せられたミュージアムショップやレストランに関する意見・要望をもとに、新たなグッズの開発や展覧会に合わせた商品の開発などを行い、サービス向上に努めた。
ウ　金曜日・土曜日のほか、周辺地域のイベントに合わせて夜間開館を実施した。
エ　夜間開館に対する意見を得るため、夜間開館時にも記述式アンケート調査を実施した。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　元年度は特別展の開催時期が例年と異なったため、『奈良国立博物館だより』への展覧会評の掲載は行わなかった。
（奈良国立博物館）
ア　アンケートで得られた意見を参考にレストランメニューの改善に努め、利用者の満足度向上を図った。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）
ア　来館者から、なら仏像館の入口がわかりづらいという声が多く寄せられたため、入口の案内看板を多言語表記で作成・設置した。また、急増する外国人観光客のニーズに応えるべく、館外に多言語表記の看板を設置した。
（奈良国立博物館）
ア　特別展にちなんだ限定メニューを提供したほか、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」期間には、ドリンクを注文されたお客様に限定コースターを無料で提供した。また、改元記念として、2019年4月30日に限り、利用者に対しレストランではお菓子のプレゼント、ショップでは先着100人までオリジナルグッズをプレゼントの企画を実施した。
イ　当館の建物をデザインした手ぬぐい等のオリジナルグッズや、第71回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。



藤田美術館展限定メニュー
「校倉クーヘンと抹茶クリーム」



「いのりの世界のどうぶつえん」
限定コースター

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	81.9%	80%超	B		－	68.0	70.5	75.8
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	79.1%	－	－		－	67.7	69.7	79.8

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
観覧環境に関するアンケート満足度については、目標値を上回ることができた。ミュージアムショップやレストランに関しては利用していないという意見も多いため、わかりやすい案内を行うなど利用率向上に向けて努力するとともに、利用者の満足度向上を目指していく。また、多言語表記についての満足度が低下したため、増加しつつある外国人観光客のニーズに応えるべく、多言語表記の充実に向けて努力していく。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
通年で設置している記述式アンケートに加えて、複数回にわたり対面回収による記述式アンケートを実施した。対面アンケートによってアンケート回収率が向上し、より広く来館者の意見を集めることができた。得られたアンケート結果は館内で共有した上で改善に取り組み、ミュージアムショップやレストランに関する結果についても館内で情報を共有した。観覧環境についての満足度は未だ目標値に達していないため、2年度以降も引き続き課題として改善に向けて努力する。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1232D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館の拡充を実施する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（九州国立博物館）
ア　レストラン利用者にアンケート調査を行い、サービス向上に努める。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。

担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケート調査を、4言語（日・英・中・韓）で実施し、観覧環境やサービスの改善に努めた。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議の上、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品の提供のほか、カフェのドリンクメニューの追加など、サービス向上に努めた。
ウ　平常展・特別展ともに、金曜日、土曜日は午後8時まで夜間開館を実施した。その他、太宰府天満宮のイベントに合わせ、臨時の夜間開館を実施した。
エ　第2・4週の土曜日夜に実施する「夜のミュージアムトーク」では、ファミリーで夜間開館を楽しんでもらうことを目指し、レプリカ等を用いた展示解説を中心に実施している。今後の企画立案や運営に役立てるため、参加者に対するアンケート調査を実施した（計4回）。サンプル数は少ないが、参加者の満足度や評価はいずれも高かった。
（九州国立博物館）
ア　レストラン利用者にアンケート調査を行い、ニーズを把握しサービス向上に努めた。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努めた。


夜のミュージアムトークの様子


館蔵品から開発したオリジナルクリアファイル

【補足事項】
・夜のミュージアムトークアンケート調査実施日と満足度
5 月 25 日「仏像のレプリカにさわってみよう」満足度：100%
7 月 13 日「百済のレンガ つくりかたとつかいかた」満足度：100%
9 月 28 日「更紗にさわろう」満足度：83%
11 月 23 日「遣唐使船が運んだもの」満足度：86%

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	70.2%	80%超	C		－	77.2	63.7	61.6
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	80.8%	－	－		－	78.8	84.6	78.1

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケート調査のほか、「夜のミュージアムトーク」等のイベントについてもアンケート調査を行い、来館者ニーズの把握に努めるなど、年度計画を実行できた。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努めたことで売上にも貢献できた。2年度以降は外部アドバイザーとグッズ開発を行う予定であり、魅力ある博物館を目指し、来館者満足度を高めていきたい。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1311H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
（文化財活用センター）
イ　企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発し提供する。文化財の理解を促進するため、積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。

担当部課	本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（４館共通）
イ
・企業等との連携や共同研究プロジェクトの締結を引き続き行い、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。
・開発したコンテンツを体験型展示に活用し全国に巡回することで文化財への理解を深める機会を各地で提供したほか、企業等への高精細複製品貸出事業や、教育機関を対象とした複製品による教育プログラム事業を実施し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。

【補足事項】
（４館共通）
イ
・30年度に締結したキヤノン株式会社、凸版印刷株式会社とは契約を継続し、新たにシャープ株式会社との共同研究プロジェクトを締結した。
・「国宝 聖徳太子絵伝」の高精細画像を使用した映像による作品鑑賞コンテンツの英語対応の改修を行ったほか、「法隆寺献納宝物 伎楽面 迦楼羅・呉女」、着付け体験用の小袖・振袖（「見返美人図　菱川師宣筆」に描かれるきものと帯、「重要文化財　小袖 白綾地秋草模様　尾形光琳筆」、「重要文化財　振袖 白綾地衝立鷹模様」）の復元模造、「重要文化財　風神雷神図・夏秋草図屏風」「国宝　花下遊楽図屏風」「見返り美人図」の高精細複製品を制作した。「伎楽装束　裳・袍」は引き続いて制作を行い、そのほか「重要文化財　遮光器土偶」「みみずく土偶」のハンズオンレプリカ、日本文化を紹介する映像コンテンツの制作を開始した。
・昨年度開催した企画展示「なりきり美術館」を、九州国立博物館（8月6日～10月14日）と、富山県美術館（8月10日～10月20日）2か所で開催。九州国立博物館では会期中（62日間）88,214人、富山県美術館では会期中（60日間）33,140人の入場者がコンテンツを体験した。
・企画展示「8Kで文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」（10月29日～11月24日/27日間）を開催し、19,293人がコンテンツを体験した。満足度調査では87.8%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・複製品の貸し出しや、複製品を使用した教育プログラムの提供（アウトリーチ）を実施し、貸し出しは8件、教育プログラムは10件で約1,250人が体験した。
・公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」を11月23日に開催。一般から206名のお客様のご参加があり、アンケート結果では98.9%から「とてもよい/よい」の評価を得た。また、同日にギャラリートーク「国宝『聖徳太子絵伝』－微笑みの太子に出会う－」を開催。168名が参加した。


九州国立博物館「なりきり美術館」


8K で文化財 国宝「聖徳太子絵伝」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	149回	－	－	経年変化	－	－	－	91
体験型プログラム等参加者数	140,647人（九博富山8K）	－	－		－	－	－	98,791

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	企業と連携したレプリカの開発、アウトリーチによる活用、体験型展示の開発と地方巡回等、文化財に親しむ機会を創出すると共に活用の枠組を広げ、年度計画を達成したといえる。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財のレプリカ製作のほか、学習機会の拡大や新規事業の展開などにより、中期計画に沿って、順調に、学校や社会教育関係団体、国内外の博物館などとの連携協力を推進している。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）※イ、ウは後述
ア　文化財について分かりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。
エ　トーハク新時代プランに基づき、外国人を対象とするガイドツアーの拡充のための準備を行う。
オ　トーハク新時代プランに基づき、有料プレミアムツアーを導入する。
カ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり 総務課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（４館共通）
（東京国立博物館）
ア、カ　29年度より継続実施している、訪日外国人をメインターゲットとして体験型プログラム「日本文化体験」を元年度も企画実施した。円滑な運営のため外部スタッフへの研修も行った。参加者の鑑賞を深める手助けができ、満足度も非常に高かった。
エ　外国人向けギャラリーツアー及び日本文化体験ツアーの実証実験を実施した。
オ　会期末の混雑が予想される特別展で、音声ガイド・図録付きで通常の開館時間より 30 分早く入館できるプレミアムチケットを販売した。
カ　聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、大講堂・東洋館ミュージアムシアター・レクチャースペースにヒアリングループを設置し運用を行った。また音声認識アプリ UD トークを運用した。

【補足事項】
（４館共通）ア及び（東京国立博物館）ア
・講演会20回　参加者数6,051人
　内訳　①月例講演会10回、参加者数2,630人　②記念講演会7回、参加者数2,591人
　③シンポジウム2回、参加者数575人　④テーマ別講演会1回、参加者数255人
　⑤その他講演会0回、参加者数0人
・列品解説（ギャラリートーク等）71回、参加者数4,791人
　内訳　①ギャラリートーク32回、参加者数3,038人
　②特別展関連ギャラリートーク2回、参加者数345人
　③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク、8人37回、参加者数1,408人。
・連続講座1回（2日）参加者数645人
・公開講座5回、参加者数204人
・その他展示に関連する事業52回、参加者数12,604人


月例講演会

ア、カ　日本文化体験
「書体験」　11回(11日間)　参加者数1,466人（うち外国人1,198人）
「よろい体験」　15回(15日間)　参加者数365人（うち外国人91人）
「留学生のためのきもの体験」　2回　参加者数40人（うち外国人40人）
「浮世絵摺実演」　2回（1日間）
オ　御即位30年記念特別展「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」　開催4日間　応募者総数　56人

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	97回	128回	D		146	160	125	93
講演会等の参加者数	11,691人	－	－		18,080	21,453	21,692	12,206

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 講演会等、「日本文化との出会い」プログラムなど、順調に開催されている。 新型コロナウイルス蔓延防止のため、講演会等が中止となり、開催回数は目標値を下回ったが、プレミアムチケット販売等新しい試みにも挑戦した。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「上野の山で動物めぐり～ツノのある動物」、「博物館でアジアの旅スペシャルツアー」、「保存と修理のツアー」「日本文化体験」など、さまざまな形式で講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を順調に開催した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館 2 室、6 室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。
（ア）ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集「親と子のギャラリー　ツノのある動物」（4 月 16 日～5 月 26 日）37 日間
・特集「親と子のギャラリー　日本のよろい！」（7 月 17 日～9 月 23 日）61 日間
（イ）総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」（3 月 12 日～4 月 7 日）、「博物館でアジアの旅」（9月 10日～10月 14 日）、「博物館に初もうで」（2年 1月 2日～1月 27日）において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
（ウ）体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展に関連した一般向け・ファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館19室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
イ　総合文化展を中心とした展示や、作品に関連したプログラム等を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。
（ア）特集「親と子のギャラリー　ツノのある動物」では、ツノのある実在の動物や空想の生き物をテーマとする文化財を展示した。若年層の家族層にも親しみやすく、また分かりやすくなるように、平易な言い回しによる解説やグラフィックパネルを使用するなどの工夫を行った。また、当館、国立科学博物館、上野動物園の三館園をめぐるツアーを実施し、ツノをテーマに各館園の作品を通じて文化史や生態に対する子どもたちの理解を促した。
特集「親と子のギャラリー　日本のよろい！」では、収蔵品の甲冑と共によろいの各パーツの制作見本を展示し、日本のよろいの種類や構造をわかりやすく示した。題箋、解説は4か国語に対応し、平易な言い回しや図解を用いてテーマへの理解を促した。また、セットで体験してもらうよう日本文化体験スペース「日本のよろい！」を階下（特別4室）に設け、ハンズオン展示やよろい着用イベントを通じ、来館者の体験と理解をさらに深めることを目指した。
（イ）講演会、ギャラリートーク、ガイドツアー及びぬりえ、衣装体験、ヨガなどの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。
（ウ）本館19室や東洋館オアシスの体験型アクティビティは、ラグビーワールドカップ期間中を中心に、例年よりも外国人の参加者が際立って多かった。特に「東洋館オアシス―アジアの占いコーナー」はパネル類を4か国語表示に変更したことから、アジア系の来館者も参加しやすくなったようである。

【補足事項】
・「博物館でお花見を」では「花見で一句」として俳句を募り、495件の応募があった。そのうち一般の部6句、小学生以下の部2句については、顕彰し、記念品を贈呈した。
・親と子のギャラリー「日本のよろい！」は、日本文化体験「日本のよろい！」と合わせて144,733人の入場者があった。関連ワークショップ「おどし体験！」（3回50人）を実施した。
・体験型プログラムとして、本館19室（155,241人）及び東洋館でのハンズオン展示(54,230人)、ワークショップ(20回1,229人)、親と子のギャラリー(98回、144,733人※回数は2企画の合計、人数は「日本のよろい！」のみカウント)を実施した。本館19室・平成館考古展示室・東洋館のハンズオンは、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、2/22～3/16休止。
・夏休み期間の8月4日に総合文化展(本館、考古展示室)で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」を開催し、未就学児、小中生合計5,139名が参加した。


「親と子のギャラリー　日本のよろい！」会場の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	671回	－	－		1,042	827	703	702
体験型プログラム等参加者数	360,572人	－	－		198,393	199,167	272,867	309,901

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 体験型プログラムを671回実施(360,572人参加)し、年度計画を順調に達成している。加えて元年度夏休み時期の親と子のギャラリーは入場者が14万人を超えた。参加体験型展示に関する調査研究という点でも良い事例となった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って順調に、外部団体との連携協力を行いながら講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等の学習機会を提供している。これまでの経験を生かしてより充実した事業を目指したい。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A3

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ウ
・職場体験の申込方法を検討し、電話での申込から、元年度からはウェブサイト上のフォーム申込と電話の併用に変更した。そのことが教員のニーズに合い、申込数の増加につながった。
・元年度も学校との連携事業を計画通り実施した。スクールプログラムは学年、人数、目的に応じた15のコースを設け、パンフレット、ウェブサイト、教員研修の場で告知し、ウェブサイト、ファックスで申込を受け付けた。児童・生徒の鑑賞体験の充実に寄与し、日本・アジアの伝統文化への関心を高め、理解を促した。
エ
・外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」を継続的に企画運営した。外部スタッフの協力を得て、運営を円滑にし、参加者の体験をより豊かにするためスタッフ研修も実施した。参加者の満足度は非常に高く、展示作品に関する関心を高めることにも寄与できた。
・聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、レクチャースペースでヒアリングループの運用を行った。また音声認識アプリUDトークの導入を行った。

【補足事項】
ウ　スクールプログラム　174校6,049人（小学校19校692人、中学校98校3174人、高校57校2183人）
　　盲学校のためのスクールプログラム　4校37人
　　教員研修　3回567人
　　職場体験　24校76人
エ　日本文化体験「書体験」　11回(11日間)、参加者数1466人（うち外国人1198人）
　　日本文化体験「留学生のためのきもの体験」2回（1日）、参加者数40人（うち外国人40人）
　　日本文化体験「浮世絵摺り実演」　2回(1日間)97人　英語通訳実施（うち外国人72人）


スクールプログラム実施風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
スクールプログラム実施回数	174回	−	−		211	227	273	228
スクールプログラム参加者数	6,049人	−	−		8,261	7,910	10,056	8,895人
職場体験実施回数	24回	−	−		19	19	20	20
職場体験参加者数	76人	−	−		60	63	63	63
教員を対象とした研修実施回数	3回	−	−		6	6	6	5
教員を対象とした研修参加者数	567人	−	−		585	235	513	465
印刷物	477,000部	−	−		42,000	30,000	37,000	177,000

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 174回のスクールプログラム、24校の職場体験の受入れなど、学校との連携事業を幅広くかつ順調に実施し、年度計画を達成している。職場体験の申込方法を変更し、ウェブサイト上のフォーム申込を加えたことで、申込数の増加につながった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 学校や東京都等との連携協力の下、スクールプログラム、職場体験、教員研修などの学習機会の提供を行い、中期計画に順調に取り組んでいる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
ア　歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　京都国立博物館においては、28回の講演会等を開催した。


記念講演会（講師：長澤昌幸）

（京都国立博物館）
ア
・「記念講演会」（4月13日、講師：大正大学専任講師　長澤昌幸ほか）、（9回・1,465人）を実施した。
・「土曜講座」（7月6日、講師：主任研究員　末兼俊彦ほか）、（13回・1211人）を実施した。
・「夏期講座（日本人と自然Ⅰ）」（7月26日～27日、講師：京都市芸術大学　准教授　深谷訓子ほか5名）（1回・201人）を実施した。
・「社会科教員のための向上講座」（8月20日、講師：主任研究員　呉孟晋）（1回・50人）を実施した。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリー・トーク（8月4日、講師：前アソシエイトフェロー　安部真里奈）（2回・54人）を実施した。
・公益財団法人仏教美術研究上野記念財団との共催で、研究発表と座談会「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」（4月20日、発表者：研究員　井並林太郎ほか）（1回・121人）を実施した。
・ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会を振り返る-成果と課題-」（2年2月11日、講演：国立民族学博物館長　吉田憲司ほか）（1回・183人）を実施した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・特別展期間中の講座を「記念講演会」として9回実施した。
・土曜講座は大正時代から連綿と続く歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリー・トークは子どもを対象として研究員との対話形式で実施した。
・その他、本実績には含めないが、キャンパスメンバーズ向け講演会を実施した。（処理番号1313B参照）
・ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会の成果を生かす-今後の博物館制度-」、土曜講座（2年2月29日、3月7日・14日・21日）は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により中止となった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	28回	26回	B		39	45	32	37
講演会等の参加者数	3,285人	－	－		4,845	5,132	4,014	4,357

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、年度計画にない特集展示関連の子ども向けギャラリートークを実施することができた。夏期講座は元年度も定員以上の申し込みがあり、人気の講座となっている。11年目を迎えた「社会科教員のための向上講座」はリピーターも多く、元年度は特別企画「京博寄託の名宝」の見学・講座に例年より多くの参加者が集まった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
講座を継続して行うことにより、来館者に活動が定着し、リピーターも多くなっている。さらに近年は、SNSでの情報発信、キャンパスメンバーズ制度、公式キャラクター・トラりんの活動の成果により、講座の参加者の年齢層が徐々に若くなっており、幅広い層に学習機会を提供することができている。今後も講座の実施・広報活動の充実を図りたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B2

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（京都国立博物館）
イ　京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。
・京博ナビゲーターによるミニワークショップ等、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
・ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。
ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内　４館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
イ
・「さわって発見！ミュージアム・カート」（113日・概算45,477人参加）を実施した。
・特別展関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」（51日・3,896人、解説プリント11,200部・4言語）、「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」（37回・5,662人、解説プリント10,600部・4言語）を実施した。
・「博物館Dictionary」（6回・12,000部）を発行した。
・「平成知新館こどもガイド第2版」（1回・5,000部）を発行した。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」（37日・38,963人）を実施した。関連ワークシート（1回・18,000部・4言語）の発行、ミュージアム・カートへの新規教材の追加、研究員によるギャラリートーク（2回・54人）を実施した。


「赤ってじつはどんな色？」
ギャラリートークの様子

ウ
・「文化財に親しむ授業」（7回・683人）、「文化財に親しむ授業スペシャル！」（4回・84人）を実施、リーフレット（3,000部・4言語）を刊行した。
・「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―」（1回・18人）、「社会科教員のための向上講座」（1回・50人）を実施した。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（7回・328人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1回・134人）に協力した。
・「ミュージアム・キッズ！全国フェアinあわじ」（こども☆ひかりプロジェクト主催）（2回・363人）に参加した。

【補足事項】
・「文化財に親しむ授業スペシャル！」は、ICOM京都大会2019を記念して当館で開催された「KYOTO博物館子どもフォーラム」（KYOTO博物館子どもフォーラム実行委員会主催）のプログラムの一つとして実施。当日受付の小中学生を対象として、俵屋宗達と尾形光琳が描いたふたつの「風神雷神図屏風」高精細複製を用いて授業を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）は、 ICOM京都大会2019を記念し、特別企画開催中の休館日に京都市立中学校の美術部生徒を招いて実施した。生徒は鑑賞後に新聞記事を作成し、記事はポスターとして「第35回中学校総合文化祭」で展示された。
・新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により、2年2月27日から3月22日のミュージアム・カートは中止となった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	429回	－	－		268	553	467	482
体験型プログラム等参加者数	94,743人	－	－		16,200	21,333	282,014	47,198
スクールプログラム実施回数	7回	－	－		10	7	9	15
スクールプログラム参加者数	328人	－	－	経年変化	378	344	93	120
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	7回	－	－		7	7	7	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	683人	－	－		658	931	626	537
教員を対象とした研修実施回数	2回	－	－		12	3	3	3
教員を対象とした研修参加者数	68人	－	－		1,080	106	92	84
印刷物	35,000部	－	－		70,000	41,300	116,000	53,500

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｓ

【判定根拠、課題と対応】
年度計画にはない、入門的な特集展示「赤ってじつはどんな色？」を実施した。関連ギャラリートークだけでなく30年度の活動を踏まえ、4言語のワークシートを京博ナビゲーターの活動と連携させることで、さらなる展示理解・参加者の満足度の向上を促した。さらに元年度はICOM京都大会に関連した2つのイベント（文化財に親しむ授業スペシャル！、記者体験in京都国立博物館）を新規に実施し、多くの子ども達に文化財に親しむ機会を提供できた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｓ

【判定根拠、課題と対応】
「文化財に親しむ授業」は実施10年、「京博ナビゲーター」は実施6年を迎え、ノウハウが蓄積され質が向上している。入門的な特集展示の実施、多言語化の推進に加え、ICOM関連のイベント開催など、柔軟な姿勢で様々な教育プログラムを実施することができた。
課題としては、複製文化財の貸出希望が増加し従来の対応が難しくなってきているため、文化財活用センターとの分担などの連携を検討する必要がある。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。
注）一部のプログラムでは当該期間の入館者数で参加者をカウントしているため、それについては年度実績の合計値には含めない。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（４館共通）
ア　元年度は講演会等を25回実施した。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に11回実施。計1,037人の参加があり、アンケート結果で平均満足度92%を得た。
・公開講座は3つの特別展及び4つの特別陳列の会期中に13回実施。計1,838人の参加があり、平均満足度92%を得た。正倉院学術シンポジウム2019「正倉院宝物と新羅」を11月3日に実施。214人の参加があり、平均満足度92%を得た。
・夏季講座は「仏教美術にみる動物のすがた」と題し、奈良県文化会館を会場に8月21日～23日の3日間実施。講師は8人、386人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、2月8日東大寺長老の講話及び東大寺二月堂にて現地解説会を行い48人の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を2年1月9日に3回実施し、計148人の参加があった。
・特別展「藤田美術館展」では、関連イベントとして5月5日に親子ワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」、5月17日に「抹茶体験」、5月26日に「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」を実施し、それぞれ31人、42人、27人の参加があった。
・「御即位記念 第71回正倉院展」では、10月27日に「親子鑑賞会」を実施し、135人の参加があった。

【補足事項】


正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」会場風景


抹茶体験

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	25 回	28回	C		28	26	26	27
講演会等の参加者数	3,261人	－	－		3,974	3,518	3,437	3,569

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	夏季講座の会場変更による定員減少、新型コロナウィルス感染症対策に伴う臨時休館の影響もあり講演会等の実施回数・参加者数が目標値を若干下まわっているが、夏季講座・正倉院学術シンポジウムのインターネット予約システムが軌道に乗り、大きなトラブルも無く各種の講座及び講演会を実施することができた。さらにアンケートにみる満足度も高かったことから左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展等に関連した公開講座、夏季講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートーク、小学生等を対象としたワークショップ・親子講座を開催し、仏教美術のコアなファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。また奈良市教育委員会との共催で親子講座を実施するなど、他機関との連携協力を順調に進めることができたことから左記の評定とした。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（奈良国立博物館）
イ　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携して ESD(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。
エ　地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
イ
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信し、定期的に情報提供を行った。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付し、展覧会情報等を提供した。
・世界遺産学習を、奈良市内の公立小学校５年生（24 校 1,332 人）に対して実施した。
・中学校の職場体験で１校３人(2 年生)を受け入れた。
ウ
・奈良市教育委員会との連携事業による世界遺産学習の一環として、仏像館見学や仏像クイズを通じて地域の文化遺産について親子で学ぶＥＳＤプログラム「親子で学ぼう奈良の仏像」を7月24日・25日に実施した。
・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関連した事業として、親子による絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」を奈良教育大学との連携事業として8月17日に実施した。
エ　地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品の画像を公開し、当館の収蔵品について紹介した。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを引き続き設置し、文化財に関する情報を公開した。

【補足事項】



奈良市教育委員会との連携事業
「親子で学ぼう奈良の仏像」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	33回	－	－		23	21	26	28
体験型プログラム等参加者数	363人	－	－		380	384	399	436
スクールプログラム実施回数	10回	－	－	経	8	24	20	13
スクールプログラム参加者数	833人	－	－	年	390	1,701	1,001	747
職場体験実施回数	1回	－	－	変	4	3	3	1
職場体験参加者数	3人	－	－	化	9	7	6	3
世界遺産学習実施学校数	24校	－	－		37	25	32	26
世界遺産学習参加者数	1,332人	－	－		2,440	1,542	2,022	1,791
音声ガイド	1,217台	－	－		816	770	1,010	1,221

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、奈良市教育委員会との連携事業であるＥＳＤプログラムや展覧会に関連したワークショップ等を実施した。特に元年度の夏は、親子での鑑賞を意識したわくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」が開催され、関連事業の絵本づくりワークショップと合わせて、子供が楽しく美術に親しむ場を提供することができた。また、世界遺産学習を実施することで、地域の文化遺産や仏教美術等についての理解促進に貢献することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
展覧会や奈良の文化財に関連した講演会、学校団体へのプログラム、各種ワークショップ等を実施し、様々な内容の学習プログラムを提供することができた。また、奈良市教育委員会や奈良教育大学と連携した教育プログラムも継続的に実施できており、中期計画は順調に進んでいる。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）　※エ、オは後述
ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
・夜間開館時の教育普及活動を実施する。
・潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長　白井克也 課長　山野孝

【実績・成果】
（4館共通）
ア　講演会を69回開催した。
（九州国立博物館）
ア　特別展記念講演会を6回開催した。
イ　シンポジウムを3回開催した。
ウ　展示への理解を深めることを目的として、研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を日中と夜間に週変わりで行った。
「夜のミュージアムトーク」は、ハンズオンの資料等を用い、様々な年齢層に親しみやすい内容で行った。
（実施回数：昼25回、夜22回　参加人数：昼815人、夜678人）


女子考古部での茜染め体験

カ・夜間開館イベントとして、毎月第1土曜日の18時より「夜のバックヤードツアー」を実施した。
博物館の重要な文化財を「守る」・「運ぶ」・「展示する」機能を伝えるため、クイズ等を取り入れながら探検形式で行った。（実施回数：11回、参加人数：613人）
・夜間開館時に展示作品をスケッチする「スケッチしナイト☆」を2回実施した。
研究員による解説行い、個人での参加の他に地元の絵画教室の団体が参加した。
（実施回数：2回 参加人数：合計35人）
・潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施した。（活動回数：14回）
キ　「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」展、「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」展、「三国志」展において教育普及プログラムを実施した。
「室町将軍」展、「三国志」展では、視覚障がい者と聴覚障がい者に対応したプログラムも実施した。
ク　筑紫野市歴史博物館、アクロス福岡、貴賓館（旧福岡県公会堂）等に講師を派遣した。

【補足事項】
カ　元年度で5年目となるきゅーはく女子考古部は、毎月1回考古学を楽しむ活動を実施。5月から8月までは当館が企画した活動、9月から3月までは部員による自主企画を行った。自主企画は、古代染め、古代食作り、古代のムラ作りなどを行った。3月には活動発表として「古代の宴へようこそ！」を実施し、一般にも広く考古学の楽しさを伝えるイベントを実施した。また、活動記録をまとめた冊子「女子的考古学のススメを製作した。さらに、他自治体とのコラボ企画として「ひろかわ古墳まつり」（福岡県八女郡広川町）のための紙芝居作りを実施し、祭り当日に披露したほか、ファッションショーも行った。1期～5期の部員交流の企画として、大野城山城ツアー南側編（5月11日）、北側編（11月16日）を実施した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	69回	90回	D		87	77	84	80
講演会等の参加者数	4,862人	－	－		6,212	5,369	6,299	4,491

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
講演会、ミュージアムトーク等、教育普及活動を継続して実施できた。新たな取組みとして、文化交流展（平常展）・特別展の双方において、障がい者に対応したプログラムを開発・実施し、教育普及の対象を広げることができた。コロナウイルス感染拡大防止対策のため、予定していた講演会等が中止になったこともあり、開催回数のみを見れば目標を下回っているが、対象者を広げるためのプログラム開発は将来につながるものといえる。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
元年度は、学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に加え、新たに障がい者団体と連携協力を行い、障がい者の方へ学習機会を提供できた。2年度以降も継続してこれらの事業を実施し、内容の充実に努めたい。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　山野孝 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者（拓本）体験」「なりきり考古学者（実測図作成）体験」「馬頭琴コンサート及びワークショップ」「ガムランワークショップ」など各種ワークショップを館内で実施した。また「きゅーはくきゃらばん」の名称でアウトリーチ活動を継続的・積極的に展開し、子ども達を中心に幅広い層に向けた体験活動の機会を提供した。


なりきり学芸員体験


馬頭琴ワークショップ

・体験型展示室「あじっぱ」では、アジア諸国の生活・文化を展示紹介するとともに、日本の伝統文化を知ってもらうコンテンツも複数準備し、体験活動を通して、異文化間の相互理解を促進する場を提供した。

【補足事業】
・アウトリーチ活動として「きゅーはくきゃらばん」を26回実施した。当館所有の体験型コンテンツを中心に、新規に開発したプログラムも提供した。
国立淡路青少年自然の家、横浜高島屋や兵庫県立考古博物館、玄海少年自然の家などでワークショップを実施した。そのうち、11回は、元年度に寄贈された移動博物館車「きゅーはく号」により熊本県立装飾古墳館、長崎歴史文化博物館、朝倉市民センターなどで楽器体験等を実施した。


「きゅーはく号」によるワークショップ


あじっぱ夏祭り

・7月27日・28日に実施した公開ワークショップ『行こうよ！あじっぱ夏祭り』では、940人が参加。「アジアの占い」「タングラムで遊ぼう」「世界のコマをまわそう」「組みひもでストラップ作り」の4つのワークショップを提供し、大変好評であった。
・あじっぱ入口横ディスプレイでは2回の特集展示を行った（「インドネシアの伝統芸能」「刺繍の集い」）
・あじっぱ内では、16回の展示替を実施した。（「世界の美しい入れものたち」「お年玉切手の郷土人形」「更紗の世界」「ウズベキスタン～シタールの響き」「はらのむしの仲間たち」など）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	1,933回	－	－		639	2,143	2,041	1,873
体験型プログラム等参加者数	4,047人	－	－		8,860	7,796	8,651	4,914

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度から導入された博物館車「きゅーはく号」を活用したアウトリーチ活動に積極的に取り組んだ。博物館車のメリットを活かしたワークショップの在り方をを模索し、体験活動を質・量ともに充実させることができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 「こども☆ひかりプロジェクト」と連携して、複数の合同ワークショップを実施した。11月に国立淡路青少年交流の家で実施した「ミュージアムキッズ！全国フェア」では、京都国立博物館・仙台市科学館・国立民族学博物館・福岡市美術館など全国から36のミュージアムが参加し、子ども達に科学系・歴史系・美術系・生物系等多種多様なプログラムを提供した。また館長連絡協議会主導で、平成29年九州北部豪雨災害の被災地朝倉市において、福岡市博物館・福岡県立美術館・久留米市美術館・甘木歴史資料館と合同ワークショップを開催した。2年度も他館との連携協力を深めていく予定である。

※28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
オ　学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
・移動博物館車の導入により、きゅーはくきゃらばん(移動博物館事業)の活動の充実を図る。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学校を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野孝

【実績・成果】
オ
・職場体験（中学生等）を17校・87人（のべ29日間）受け入れ、学芸員･接客体験、職業インタビューの活動等を行った。
・「先生のための博物館講座」を行い、学校向け貸出キット「きゅうぱっく」の活用法の紹介や学校向けプログラムの体験等を行った。
※8月2日実施　参加者13人(うち小学校教諭10人､特別支援学校教諭3人)


歴史学フォーラムの様子


職場体験の様子

・福岡県教育庁教育振興部高校教育課と連携し12月18日～20日に「高校生インターンシップ」を実施し、5校6人の高校生を受け入れ、博物館ガイダンスやバックヤードツアー、館内接客体験やなりきり学芸員体験、体験型展示室プログラム企画立案演習などを行った。
・福島県、群馬県、岐阜県、京都府、奈良県、長崎県などから7校27人の先生・生徒を招き、歴史学研究の成果を対外的に発表する場として「全国高等学校歴史学フォーラム2019」を開催した。今回は、パネルセッション後に、参加生徒を4グループに分けたディスカッションを行い、参加生徒の相互交流を深めた。
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」は、56件・93パックの貸出をおこない、7,012人児童生徒が体験した。
・学校教育活動支援事業は、40校・2,530人の先生・児童生徒に対して、博物館ガイダンスやバックヤードツアー、展示室解説ツアーなどを実施した。

【補足事項】
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」については、破損して使えなくなっていた資料を補修・補充するとともに、新しく「土偶～祈りのかたち」「実践！勘合貿易」の2パックを制作し、2年度以降新たに貸出を開始する予定である。また視覚障がい者向けのコンテンツとして館蔵品の鬼瓦（重要文化財）の石膏レプリカを制作し、体験活動の充実を図った。
・「全国高等学校歴史学フォーラム2019」では、参加生徒を4つのグループに分け、当館職員がファシリテーターとして加わりディスカッションを実施した。相互交流が深まると共に様々な意見が飛び出し、引率教員からも大変好評であった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
学校教育活動支援事業実施回数	40校	－	－	経年変化	13	18	27	47
学校教育活動支援事業参加者数	2,530人	－	－		1,251	625	1,612	3,452
出前講座実施回数	5回	－	－		6	6	6	5
出前講座参加者数	214人	－	－		370	179	104	151
職場体験等の実施回数	17校	－	－		32	17	20	18
職場体験等の参加者数	87人	－	－		117	87	92	93
教員を対象とした研修実施回数	1回	－	－		12	4	4	3
教員を対象とした研修参加者数	13人	－	－		167	73	25	25
「きゅうぱっく」貸出件数	56件	－	－		47	47	33	40
印刷物	120,000部	－	－		175,000	145,000	－	20,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
各学校連携事業とも順調に実施し、年度計画を達成した。元年度新たに導入した移動博物館車を使った活動については、人員の確保や天候不順時の対応などの課題があったが、実施回数を重ねることで次第にノウハウが身に付き、順調に運用できるようになった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度に寄贈された移動博物館車『きゅーはく号』は、ミュージアムや公共施設を中心に訪問した。限られた人員で、館内事業と館外事業の両方を、効率よく運用していくことが今後の課題である。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を継続して実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデー等、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　ボランティア活動支援のため、研修会、解説会、マニュアル作成などを引き続き行った。特に、元年度からはボランティアが各自でマニュアルを活用しやすいように、オリジナルのファイルを作成して配布している。
ウ　自主企画グループの質の高い運営のために、2月に1度のリーダー会議、各ガイドグループの原稿チェックやグループ運営のためのマニュアル作成、解説会などを引き続き行っている
オ　ボランティアの企画立案によるプログラムのために、各グループへの助言を行い、イベント時における新たなガイドも推奨している。また、ボランティアデーでは新規ボランティア希望者への「活動紹介ツアー」に加え、「質問コーナー」などを開催した。


キッズデーの東洋館ガイドツアー

【補足事項】受け入れ人数は、ボランティア151人と東京藝術大学大学院インターンシップ8人の合計。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	159人	－	－		173	169	151	149

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	イベント時のボランティア支援により、「博物館でアジアの旅」において、アジアとのかかわりに焦点をあてた樹木ツアー、本館ハイライトツアー、「キッズデー」における子ども対象の東洋館ツアー、法隆寺宝物館ガイドなど、新たなガイドを実施したことで、参加対象や内容の充実につながった。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ボランティア精神を持ち、ボランティア活動を理解しているボランティアを採用、育成するために、採用条件や研修、マニュアルの見直しなどを行った。その結果、ボランティアにしかできない来館者の目線に立った来館者サービスを生み出すことができ、ボランティア個々のやりがいや生涯学習にもつながった。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図る。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ、調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会（4日）を実施した。
・京博ナビゲーターに対して普段の活動の意欲向上と相互に交流を深めることを目的とした感謝会（1回）を実施した。
・京博ナビゲーター（201人）が下記の活動を行った。
①平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（113日）
②特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」（51日）
③特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連ワークショップ「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」（37日）
④教育普及活動の補助（夏期講座）
イ
・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。（22人）
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。（20回）
・文化財ソムリエ（21人）が以下の活動を行った
①京都市内の小中学校への訪問授業(7回)
②記者体験in京都国立博物館（1回）
③KYOTO博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」（1回）
④「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―」での事例発表（1回）
エ
・「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。（11人）


文化財に親しむ授業
スペシャル！

【補足事項】
ア　京博ナビゲーターは平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、ハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。また特別展期間中はワークショップを毎日実施し、計9,558人の参加があった。
なお、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により、2年2月27日から3月22日の京博ナビゲーターの活動は中止となった。
ウ　文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（21名）に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、学校への複製貸出・助言なども精力的に行った。
また、他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業（ミュージアム・キッズ！全国フェアinあわじ）において、大学生ボランティアを受け入れた（2人）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	255人	－	－		214	215	270	264

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づき教育普及補助活動の充実を図ることができた。ボランティアは30年度と同程度の人数を受け入れた。
元年度は文化財ソムリエが例年の活動にはなかった ICOM 関連の 2 つのイベント（文化財に親しむ授業スペシャル！、記者体験 in 京都国立博物館）で新しい作品を題材にした鑑賞会を行った。また京博ナビゲーターは、特集展示の 4 言語ワークシートと連動した活動を新規に行うなど、活動内容の面で充実を図ることができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ボランティア活動は、教育活動の充実に寄与するだけでなく、ボランティア自身の生涯学習にも繋がっている。以前から継続している活動だけでなく、その時々に求められる活動を、柔軟に実施することができた。今後もこれらの活動を継続して進めていくとともに、質の向上を図りたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度３期目の２年目として、ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の円滑化を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会等により、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	ボランティア室長　谷口耕生

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度3期の2年目にあたり、世界遺産グループ（47人）、解説グループ（56人）、サポートグループ（47人）の3つがそれぞれ充実した活動を行った。世界遺産学習として奈良市の小学5年生（24校1,332人）のほか、学校プログラムとして県内外の小学生～高校生の生徒を受け入れた（10校833人）。奈良市教育委員会と共催で「親子で学ぼう 奈良の仏像」を夏休みに実施した（2日間）。この事業では、ボランティアが半年間の打合せと練習を行った。また、名品展（平常展）では、要所にデスクを設け、年間を通じて、質問の対応等を行った（合計1,796回）。名品展以外にも、7月13日～9月8日に、当館東新館にて開催された、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」においても、展示室内に設置されたカウンターにて、ボランティアが来場者からの作品に関する質問等への対応をした（世界遺産グループ295回、解説グループ31回、計326回）。また、展示室内のデスクやカウンターでの活動に加え、なら仏像館においてツアー解説を開館日の毎日基本2回実施した（494回、2,722人）。そのほか、講座やイベント等の補助業務を担当した（65回）。さらに上記の活動に加え、3つのグループ合同で、正倉院展会期中に、講堂ボランティア解説を実施した（20日、89回）。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1か月間の練習立会と指導をした。
イ　ボランティアに対して、名品展研修を行う（10回）とともに、特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した（4回）。
ウ　ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施した（31回）。スキルとチーム力の向上を目指し、毎月テーマを設けて指導した。解説グループでは、オブザーバーとして各分野の担当研究員が立会、指導した（14回）。
エ　ボランティアによる当館敷地内の茶室庭園の案内ガイドを実施した（計5回）。また、ボランティア通信誌を発行してボランティア間の情報共有に努めた。

【補足事項】
ア
・奈良市教育委員会との共催事業「親子で学ぼう 奈良の仏像」は、2日間で66組の親子が参加（144人）。
・なら仏像館ツアー解説は、開館日毎日11時と14時に実施した（494回）。
・特別陳列「お水取り」のツアー解説を2年3月に予定していたが、臨時休館により中止となった。
・第71回正倉院展の講堂ボランティア解説は20日間89回で、聴講者数は13,315人であった。ボランティアの活動人数は79人であった。
イ　ボランティアと博物館の意思疎通をはかるため、ボランティアミーティングを定期的に実施した（8回）。
エ
・ボランティア通信誌「ブリッジ」を3回発行した。
・庭園案内ガイドを4月に2回、5月に1回、11月に2回それぞれ実施した。
庭園案内ガイド実施時の庭園入場者数について、4月は1,086人、5月は462人、11月は2,333人であった。
・ボランティア親睦会を2年2月17日に実施した。


庭園案内ガイドの実施風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	150人	－	－		157	150	143	159

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度は、年度当初の計画のもと、研究員によるボランティア対象の研修を計14回、ボランティア同士での勉強会を計31回実施し、ボランティアによる解説の資質向上に努めた。また、それらの研修や勉強会による学習を生かし、展示室内におけるデスク活動を計2,122回、なら仏像館においてツアー解説を計494回、そして庭園案内ガイドを計5回実施した。さらには学校団体を計34校受け入れるなど、年度計画の事業を予定通り進める事ができていると考えられる。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ボランティアによる作品や庭園等の案内等の教育事業を継続的に実施し、来館者への教育の充実を図った。さらに元年度は、名品展に加え、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内においても、ボランティアが計326回の活動を行うなど、教育普及をより強化できたものと考えられる。また今後も従来の事業を継続させるとともに、新しい事業を計画・実施することにより、教育・普及活動を一層充実させるよう努める。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会、フィールド部会、手話部会の活動の充実を図る。そのための基礎研修等を行い、各部会の学習機会の充実を図る。また、活動内容に応じた部会の整理統合も検討する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野孝

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア
1)第5期ボランティア（3年目）を中心に、来館者サービスのための研修を充実させたことで、学校団体向けの博物館案内プログラムを開発することができた。
2)研修での講師の招へいや、他館のボランティアとの積極的な交流を通して、ボランティアとしての資質向上を図った。
3)新たなボランティア主催のイベントやワークショップの企画・実施を手掛ける“グループ活動”の充実を図った。

【補足事項】
1)5期ボランティア（3年目）と、4期ボランティア（6年目）の登録数はほぼ半々であるが、活動日等、バランスよく配置したことで来館者対応に余裕が生まれた。
また元年度は新たに“スクールプログラム班”を創設し、来館する学校団体に対して博物館における役割や展示の見所などを紹介した。
・各期ボランティア数
第4期ボランティア（26年4月より活動）数　127人（任期制ではない手話部会含む）
第5期ボランティア（29年4月より活動）数　147人（同上）
・通常の活動においては、1日平均30～50人、1か月平均のべ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動。
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM（総合的生物管理）活動や、土日を中心とした手話通訳による案内。
〔ボランティア対応数〕（事前申込・当日受付の総数）
展示解説：6,192人　館内案内（含手話）：7,193人　バックヤード：2,293人
2)ボランティアの資質向上を目的に、館内の研究員や外部講師を招へいしての全体研修や、ボランティア自身の意向に沿った自主研修、また、館外での研修を実施した。
〔主な研修〕
展示案内研修、古代韓国歴史講座、多言語館内案内研修、IPM関連講座、救命救急講習等
〔主な館外研修先〕
九州陶磁器文化館、大刀洗平和祈念館、熊本博物館、名護屋城博物館、福岡市美術館、UBEビエンナーレ、北九州市立いのちのたび博物館等


学校団体を案内する様子


他館ボランティアとの交流会の様子

3)ボランティア主催イベントにおいては、他館への視察で得たヒントをもとに、さまざまな分野でのワークショップを開発した。(公財)九州国立博物館振興財団が支援するグループ活動（ボランティア部会の枠を超えた研修グループ）に「ワークショップデザイングループ」が新たに創設され、新たなコンテンツが生み出された。アウトリーチ活動（「きゅーはくきゃらばん」）と併せ、多くの児童生徒たちに好評を博している。
〔実施したイベント等〕
「わくわくワークショップ」(5月3日、8月11日、11月24日)、「古代文字ワークショップ」(8月24日、12月8日)「折り紙イベント」(5月6日、8月4日、10月20日)、「どんぐりクエスト」(11月2日)

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	274人	－	－		352	307	313	295

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	元年度は、令和ブームもあいまって1年間を通してボランティア案内の依頼（館内案内、展示解説）が多く、多くのボランティアが活動を行った。また、部会によらない横断的な組織での活動（「スクールプログラム班」、「ワークショップデザイングループ」など）を新たに立ち上げたことで、さらなる来館者サービスの充実を図ることができた。今後は施設情報や展示物に関する研修だけはなく、世代に応じた話し方や、障がい者への案内方法などを学ぶ接遇研修を取り入れていくことが必要と考えている。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	元年度は、他館のボランティアとの交流を積極的に行ったことで様々な視点からのボランティア活動が展開できるようになった。特に若い世代のボランティアたちが、全国のミュージアムに当館での活動内容を発表したり、また現地で見聞したことを館に還元したりしたことで新たな来館者サービスの開発につながった。 2年度は第6期ボランティア約200人が新たに活動を始める。これまで同様、来館者サービスの充実を図るとともに、「地域・市民とともに歩む博物館」の象徴的な存在である“九博ボランティア”の活動を、より多くの施設や団体に認知いただけるよう広報していきたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　加入校数 60 校（内訳　法人：3、大学：49、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、22,937 人の学生、866 人の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、9,819 人の学生が利用した。
ア　制度の認知度および利用率向上を目的に、新入学生をターゲットにした広報チラシ・ポスターを作成・配布。また、SNS を利用したハッシュタグキャンペーンを実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、10 部署で 10～30 日の活動を行い、17 大学 22 名が修了した。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について取り扱った「博物館セミナー」を実施した。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について「博物館学講座」を開催した。
イ　・東京藝術大学大学院インターシップを 8 名受け入れ、合計 37 回ギャラリートークを実施した。
　　・大学、専門学校からの団体見学申込に対し、自由見学前にレクチャーを提供し、18 校 374 人に対応した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア
・キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象とした「博物館セミナー」（8 月 28 日、参加数 166 人）
・キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした「博物館学講座」（8 月 26 日～30 日、参加数 38 人）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数	60校	－	－		48	52	53	56
インターンシップ参加者数	22人	－	－		23	22	26	22
見学対応実施回数	18回	－	－		12	14	22	13
見学対応参加者数	374人	－	－		275	480	571	482
その他事業実施回数	1回	－	－		1	1	1	1
その他事業参加者数	166人	－	－		37	36	27	88

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ(60校)及びインターンシップ(22名)による大学等との連携を継続して実施しているほか、東京藝術大学等との連携事業に順調に取り組んでいる。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与しており、今後も継続していく予定である。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 上席研究員　宮川禎一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ制度を継続し、大学等との連携を図り、加入校増加に向けた営業を行った。
・会員を主対象とした講演会を、春・秋の特別展にあわせて実施した。
・公式キャラクター「トラりん」が加入校を7校回り、制度の特典や特別展を広報した。
・教育的観点の重視のため、より多くの教職員を対象とできるように運用方法を整理した。
・当館を会場として加入校が中心となり、音楽コンサートや映画上映会を開催した。
・2年度より新たに国立大学法人滋賀大学が加入することとなった。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の教員として、宮川禎一（考古）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）の 4 人が大学院生（修士・博士課程在籍者）に対して、博物館内で文化財をテーマに講義・ゼミを行った。受講学生は 6 人（のべ 16 人）である。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」キャンパスメンバーズ向け講演会（4月26日　講師：連携協力室長　淺湫毅）（1回・83人）
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」キャンパスメンバーズ向け講演会（11月1日　講師：研究員　井並林太郎）（1回・120人）


キャンパスメンバーズ向け講演会

（京都国立博物館）
・京都大学留学生のための文化財講座を 2 年 1 月 15 日に開催した。会議室で座学、展示場で作品解説付きで見学した。（2 年 1 月 15 日・17 人　講師：主任研究員　古谷毅）
ア
・学芸部研究職員は客員教授2人（宮川・山川）、客員准教授2人（淺湫・大原）の体制で研究指導を行った。また、修士・博士課程1人については、論文作成の指導を適宜行った。


京大人環大学院生への論文指導

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数※	32校	－	－		29	27	29	32
インターンシップ参加者数	2人	－	－	経	2	3	2	1
連携講座参加者数	6人	－	－	年	6	6	6	6
見学対応実施回数	2回	－	－	変	2	2	3	1
見学対応参加者数	42人	－	－	化	41	35	40	25
その他事業実施回数	23回	－	－		1	22	22	23
その他事業参加者数	349人	－	－		22	52	27	349

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるよう広報活動・営業活動や運用方法の見直しを行った。
京都大学連携講座による人間環境学部の大学院生に対しては、文化財の実物教育を実施し、博物館ならではの研究指導を行った。
京都大学の短期留学生に対して文化財学習の講座を開催し、日本文化の理解を促進することができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズの加入校数は維持しており、安定して大学等との連携ができている。今後も継続して制度の広報を行いつつ、適宜見直しを図り、学生・教職員の需要に見合う制度を目指す。
京都大学連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材育成に貢献していくこととする。

※奈良国立博物館との共通加入校含む

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、元年度までで入会校数は27校となり、加入大学とは連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　立命館大学が募集した当館でのインターンシップは、希望者がおらず実施することができなかった。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（日本アジア文化情報学講座）に学芸部研究員 1 人を客員教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。受講生は前期 1 人、後期 1 人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に、学芸部の研究員 2 人を客員教授、客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講生は、修士課程、博士課程の大学院生 9 人であった。
イ　京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(10月1日)

【補足事項】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」を8月17日に実施し37人の参加があった。



親子向けワークショップ
「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数※	27校	－	－		27	25	27	28
インターンシップ参加者数	0人	－	－		3	3	2	0
連携講座参加者数	11人	－	－		10	10	12	8

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、歴史・伝統文化に対する関心を高めるため、大学にて当館研究員による連携講座や展覧会に関する出前授業を実施した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズである大学との連携事業は、大学の教育プログラムとして毎年実績を重ねることにより、歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができた。また、キャンパスメンバーズ制度については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実を図りたい。
中期計画に対しては順調に成果を上げており、今後も継続して各種事業を実施し人材育成に寄与していく。

※京都国立博物館との共通加入校を含む。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　山野孝 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、元年度も募集・実施した。
　各教育機関（大学・高等学校）が継続して加入した。（元年度加入校内訳：大学13校、短期大学2学、専門学校1校、高等学校6校、高等専修学校1校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。
　研修期間は8月19日～23日の5日間。広島市立大学3人、九州産業大学2人、佐賀大学3人の計3大学8人が参加した。
　屏風の下貼り製作を通じて、修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生を受け入れ、実習を実施した。
　実施期間：8月21日～9月2日（10日間）
　内容：博物館の各機能に関する講義、実習
　博物館実習生を11大学から15人受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は5大学9人）
イ　放送大学の面接授業を実施した。
　（「博物館を学ぶ」2日間、38人受講　講師8人）

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　来館者対応、学芸員体験、体験型展示室「あじっぱ」用工作キット製作・展示プラン作成を行った。また、元年度は現在当館で取り組んでいる障がい者対応の講義と実習を新たに取り入れた。



博物館実習講義・実習
「ユニバーサル・ミュージアムと社会包摂」
目を閉じての触察体験

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数	23校	－	－	経年変化	25	25	25	23
インターンシップ参加者数	8人	－	－		7	4	3	8
見学対応実施回数	2回	－	－		7	6	3	3
見学対応参加者数	44人	－	－		450	243	140	140
その他事業実施回数	13回	－	－		12	11	8	14
その他事業参加者数	250人	－	－		86	136	105	264

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 大学等と連携した事業を元年度も行った。 博物館実習では、これからの学芸員に求められる資質に即した講義・実習を、館内各部門と連携・協力しながらを行うことができた。また、放送大学の面接授業についても、大学担当者や講師と内容を検討し、充実した講義・体験等を行うことができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップ、博物館実習等を行い、中期計画のとおり、人材育成に寄与できた。引き続き、大学との連携事業を推進していきたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　冨坂賢

【実績・成果】
（４館共通）
東京芸術大学大学院からインターン生を10日間受け入れて、赤外線撮影調査補助、カルテ点検調書電子化、貸与返却時点検作業補助など保存修復課の日常業務に従事してもらった。
また NPO/JCP との共同開催による元年度「文化財の保存修復を目指す人のための実践コース　Ⅲ.」の「陶磁器・漆」基礎講座」3 日間（11 月 15 日～17 日）に、当課研究員野中昭美が講師として登壇した。受講内容は立体作品分野を取り扱う専門の修復技術者、保存科学者、展示をマネージメントする立場の 6 名で、修理の考え方や技術の相違など意見を交わすものである。
その他、当課が管理する保存修復施設への視察・見学として、国内外の文化財保存学の専攻課程を持つ大学・大学院や博物館関連施設から延べ 92 名を受け入れた。

【補足事項】


図1.　インターン活動（赤外線撮影補助）


図2. 文化財の保存修復を目指す人のための実践コースⅢの様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催日数	1回	－	－	年	1	1	3	3
参加者数	14人	－	－	変	18	23	39	29
インターン受入人数	1人	－	－	化	4	4	2	2
大学院生のための研修会参加人数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度のインターンは1名であったが、保存修復課の日常業務を経験してもらい、既存の社会人教育、大学教育を補完できる教育活動が行えた。また例年通りNPO/JCPとの共催になる「文化財の保存修復を目指す人のための実践コースⅢ」を実施し、博物館の現場から実践に即した講義が行えた。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修理事業者を対象とした人材育成は、対象とする人材が毎年変動するので固定して実施するのが困難な面があるが、所期の目的は達していると考えられる。しかし、日常業務や現場作業との日程調整が難しく、受け入れ日数、人数の上限を想定しつつ、質と量を充実していくことが課題である。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（４館共通）
・文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。（巡回7回・会議7回）
・当館開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計2回・112人）
　特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」（57人）4月22日
　特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」（55人）10月21日
・文化財修復に係わる大学院生（2人）のインターンシップ実習（8月19日～8月30日、9月9日～9月20日）を実施し、11月16日に口頭による報告会を開催し（出席者19人）、報告書を作成した。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を9月13日に実施した。（参加者15人、うち2人はインターン実習生）
・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換等を行った。（計28回・161人）
　香港中文大學文物館（32人）4月11日
　メトロポリタン美術館（3人）7月8日
　大英博物館　平山スタジオ・日本東洋絵画修復（2人）8月30日、他25回
・2年度開催予定の特別企画「文化財修理の最先端」の開催に向け、図録作成の準備等を行った。

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修復状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。
　なお、巡回に関しては今年度から協議会開催月に実施するように変更した。
・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の修理現場を体験することにより、修理技術の習得や向上に資することができた。
・文化財修復を学ぶ大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。
　なお、運営については2年度より見直しが入る予定である。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。


保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会（9 月 13 日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催回数	2回	－	－	年	2	2	2	2
参加人数	112人	－	－	変	126	96	129	113
インターン受入人数	2人	－	－	化	2	3	2	1
大学院生のための研修会参加人数	15人	－	－		22	13	9	11

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　30年度とほぼ同等の事業を遂行し、インターンの受け入れ事業を実施した。
　インターン事業は14回を迎えたが、2年度からより充実したものにすべく内容の変更を検討している。
　2年度に開催予定である特別企画「文化財修理の最先端」の準備も修理技術者の協力を得て、図録作成や映像作成の準備を進めることができた。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業の目標を順調に達成した。
　2年度は文化財保存修理所開所40周年を記念し、文化財修理に焦点を当てた特別企画「文化財修理の最先端」を開催予定であり、引き続き修理技術者と協力しながら展示の成功に結び付けたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会を2年1月31日に開催した。
・海外の修理技術者等の視察を2回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
11月13日：米国フリア美術館職員による視察（2人）
12月12日：韓国国立中央博物館職員による視察（3人）

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
2年1月31日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。
美術院代表者からの修理に関する報告（「修理者研修会　美術院　事例報告」）と討議を行った。参加者は47人。


元年度研修会での工房担当者による報告

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催日数	3回	－	－		6	4	8	7
参加者数	52人	－	－		74	51	77	62

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年により増減があるが、元年度はアメリカ、韓国の専門家が文化財保存修理所を見学した。日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えることができており、計画通り事業を遂行することができた。引き続き2年度も継続して取り組む。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、保存修理所技術者研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流が図られた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。（計3回・38人参加）
・文化財保存、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）普及のための講座・研修を開催した。（計2回、合計202人参加）

【補足事項】
　保存修理事業者と協力した研修会
　・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」
　　日程：8 月 19 日～23 日（5 日間）　参加人数：8 人
　　対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生
　・「古文書保存基礎講座」
　　日程：2 年 1 月 24 日、25 日　参加人数：24 人
　　対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関の古文書等の担当者
　　主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
　　協力：国宝修理装潢師連盟


古文書保存基礎講座の様子

○ＩＰＭ普及のための研修会
　・「ＩＰＭ館内研修」
　　日程：5月15日
　　参加人数：20人
　　対象：国立文化財機構・館内関係者
　・「環境調査報告会」
　　日程：7月2日
　　参加人数：32人
　　対象：館内環境整備関係者
　・「ＩＰＭセミナー・ＩＰＭ研修」
　　ＩＰＭセミナー：10月24日、ＩＰＭ研修：10月25日、26日
　　参加人数：延べ184人
　　対象：全国の博物館、美術館等の学芸員


ＩＰＭ研修における実習の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	7回	－	－	経年変化	7	6	9	8
参加者数	260人	－	－		179	473	533	292
インターン受入人数	8人	－	－		－	－	3	8

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財修理に関するインターンの受け入れや地元自治体古文書担当者への研修、ＩＰＭ研修等の教育普及事業を計画的に実施することができた。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	地元の大学、地元自治体、修理技術者、ＩＰＭ従事者等と連携しながら、実習を取り入れたプログラムで実践的な研修を中期計画に沿って実施することができた。今後も少人数で実践的な研修を継続する計画である。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会に参画し、上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで、認知度向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　29年度より新会員制度へ移行し、会員総数は23,684件となった。
イ　賛助会と友の会会員を対象とした講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会・内覧会を実施した。
ウ　バンクオブアメリカ・メリルリンチなど文化財修復に関する支援を受けている企業と協同し、文化財修復の成果や修復の現場について解説を行うなど、認知度の向上に資するイベントを実施した。
エ　特別展「東寺」「正倉院の世界」において、三菱商事株式会社と共催で障がい者向けの「特別鑑賞会」を実施した。
オ　各種事業のbeyond2020への登録や、「日本博」事業に参画した。
（東京国立博物館）
ア　29年度から新たな会員制度として導入した「国立博物館メンバーズパス（4館共通)」及び当館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」の加入者増加に向けた取り組みを促進した。
イ　上野文化の杜新構想に基づき、上野全体の共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行や講演会、コンサートを実施した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　賛助会会員件数686件の内訳は個人611人（プレミアム4人、特別15人、維持592人)、団体75団体（特別21団体、維持54団体）である。
ウ　会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を検討する。
（東京国立博物館）
イ　上野文化の杜が主催する「松方コレクションにみる西洋美術と浮世絵版画」にて国立西洋美術館との2館合同連携事業としてトークセッションを開催した。


元年度賛助会感謝会の様子
（事業報告会）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	23,684	－	－	経年変化	23,451	28,939	25,244	21,914
賛助会会員数	686	－	－		464	455	559	621
友の会会員数	3,145	－	－		2,041	2,337	2,967	2,939
メンバーズプレミアム(国立博物館メンバーズパスを含む)会員数※28年度までのパスポートとベーシックに相当	19,853	－	－		20,946	26,147	21,718	18,354

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
会員制度は、特別展の内容が大きく左右するため会員数は減少となったが、賛助会は、個人・団体ともに増加している。企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。上野文化の杜の事業として、国立西洋美術館との連携企画の実施、研究員の顔が見えるコンテンツへの協力など、上野地区での認知度向上を積極的に実施した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
プレミアムメンバーズパス会員数は展覧会の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに堅調に推移しており、全体としての会員数は減少しているものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。4年度の開館150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、支援者の増加に努める。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1315B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　「国立博物館メンバーズパス」の会員数は減少したが、案内チラシの更新・増刷等で会員数の拡大に取り組んだ。
イ　当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、30年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を付与した。
ウ
・(株) 三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。
・タクシー乗務員向けの特別鑑賞会をホテルコンシェルジュ等にも開放し、広報協力を得ることができた。
・特別展共催者等が企画する特別展の団体貸切鑑賞会を受け入れた。
エ　特別展の協力企業である（株）日本香堂が提供するラジオ番組で展覧会のPRを行った。
オ　各種事業をbeyond2020へ引き続き登録した。
(京都国立博物館)
ア　支援団体(一般社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び総会の開催に協力した。
イ
・ミュージアムパートナー制度では、パートナーより元年度も継続して支援を得られただけでなく、新たに2社の支援を得た。
・ミュージアムパートナー制度をより活性化するため認定期間や特典、協賛金額等の改定を行い、周知期間の後、2年度より適用することとした。
・文化財保護基金では企業等からの寄付金を引き続き受け入れたほか、京都の老舗喫茶店とのコラボレーション商品を新たに開発する等、支援者の拡大を図った。

【補足事項】
（４館共通）
ウ
・タクシー会社・ホテルコンシェルジュ対象特別鑑賞会
　特別企画「京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―」(8月21日　講師：主任研究員　呉孟晋)
　(1回・95人)
　特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(10月16日　講師：研究員　井並林太郎)
　(1回・38人)


特別鑑賞会の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	1,594件	－	－	経年変化	7,476	5,855	2,266	1,597
清風会及びミュージアムパートナー会員数	521件	－	－		368	370	452	485
国立博物館メンバーズパス会員数	1,073件	－	－		－	－	1,814	1,112
パスポート会員数※	－	－	－		7,108	5,493	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 「国立博物館メンバーズパス」については会員数が伸び悩んでいるため、周知・広報に力を入れリピーター獲得に努めたい。企業等との連携においては、タクシー乗務員向けの特別鑑賞会を元年度よりホテルコンシェルジュ等にも開放することで、広報協力を得る範囲を拡大できたため、新たな来館者誘致につなげていきたい。そのほかの事業については30年度に引き続き計画どおりに遂行した。

【中期計画記載事項】
　企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 特に企業等との連携においては、支援・協力対象が拡大している。会員制度については、個々の事業についてさらに活性化できるよう、継続して事業を運営し、必要に応じて見直し等を図りたい。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1315C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（4館共通）
ア　入会案内チラシの配布等の広報を行い賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。
エ　他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として開始された「日本博」における主催・共催型プロジェクトにわくわく美術ギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」及び特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」が採択された。また、参画プロジェクトとして特別展「国宝の殿堂 藤田美術館―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」ほか5件が認証された。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員102件（特別支援会員：4団体、特別会員4団体、一般会員（団体）：18団体、一般会員（個人）：76人）
エ　地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。

【補足事項】
（4館共通）
ウ　三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの作製・販売を行った。商品カタログへの情報掲載や、PRイベントの実施を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。
（奈良国立博物館）
エ
・地元商店街と連携し、第71回正倉院展にてスタンプラリーを実施した。
・地元企業（プロバスケットボールチーム・バンビシャス奈良）と連携し、コラボチケットを販売した。
・地元自治体と連携し、ふるさと納税の返礼品を提供した。


三越伊勢丹とのコラボレーションギフト

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	1,459人	－	－	経	3,665	3,812	1,740	1,499
賛助会会員数	102件	－	－	年	74	73	76	93
奈良博プレミアムカード会員数	1,112人	－	－	変	－	－	1,347	1,185
国立博物館メンバーズパス会員数	245人	－	－	化	－	－	317	221
パスポート会員数※	－	－	－		3,591	3,739	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 奈良博プレミアムカードの他館他機関の入館において優待したものの、会員数の向上にはならなかった。今後は優待内容を3年前の奈良博パスポートに近い内容に変更及び入会料金の改定を実施し、離れていった会員を取り戻すよう改善したい。なお、賛助会員においては会員を新規獲得するため、優待内容を充実させ、30年度に比べて一般会員（個人）8人増となる成果をあげることができた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、優待内容を充実させるなど、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街やプロスポーツチーム、地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋げた。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員のさらなる獲得を図る。

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」、「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」及び「国立博物館メンバーズパス」の会員制度を継続し拡充を図った。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、特集展示チラシ等を送付した。
ウ　古都太宰府ナイトエリア創出委員会、福岡県観光局等と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。また、企業と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。
エ　企業より、展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　元年度に実施した特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの事業認証を受けた。
また、元年度に実施した特集展示及び特別展の一部について、日本博参画プロジェクトの認証を受けた。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の広報に努め、新規会員の獲得を図った。元年度の新規加入数は4団体、6人であった。

【補足事項】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」「九州国立博物館賛助会」の会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
ウ
・西日本新聞社及び公益財団法人九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つに登録された「博多祇園山笠」の飾り山を、開館以来連続してエントランスに展示した。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携し、子どもたちを対象にしたワークショップイベントを開催した。近隣市町の中学校美術展を開催した。
・福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。
・中国便のある佐賀空港と提携し、空港内で特別展「三国志」の広報を行った。
オ　beyond2020プログラム事業認証　9件　日本博参画プロジェクト認証　3件
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（プレミアム会員（個人）2人、特別会員（個人）4人、維持会員（個人）20人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）2団体、維持会員（団体）18団体）
（※新規加入　特別会員（個人）1人、維持会員（個人）5人、維持会員（団体）4団体）


佐賀空港との連携による特別展広報

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	4,553人	－	－	経年変化	5,777	6,016	5,193	5,332
賛助会員数	47人	－	－		－	－	2	45
友の会会員数	91人	－	－		206	268	83	73
メンバーズプレミアムパス会員数	4,369人	－	－		－	－	5,082	5,181
国立博物館メンバーズパス会員数	46人	－	－		－	－	26	33
パスポート会員数※	－	－	－		5,571	5,748	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各種イベントの実施や、賛助会員制度の広報・拡充等により、企業との連携及び会員制度の活性化を図り、年度計画を実行できた。 ウェブサイトやパンフレット・チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、一定の会員数を獲得することができた。 beyond2020プログラムや日本博参画プロジェクトの認証を受けた事業を実施し、日本文化の発信を行うことができた。今後も当館の活動への理解を深めていただけるよう広報の充実を図り、支援者の増加に努めたい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度も賛助会制度や各会員制度の広報など、企業との連携や会員制度の活性化等による博物館支援者の増加を図る取り組みを実施し、中期計画を順調に進めている。

※パスポート会員制度は29年3月31日に廃止。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター・東博　処理番号 1321HA

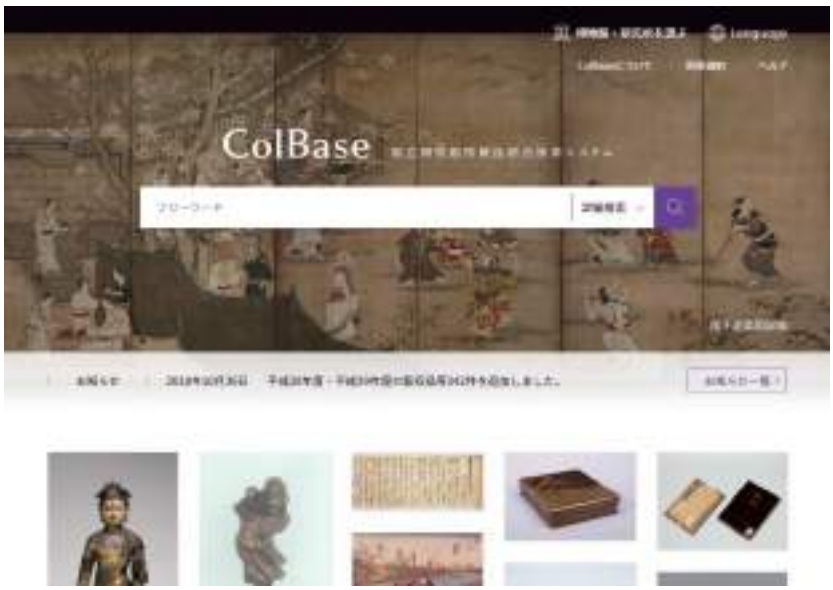
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（文化財活用センター）
ア　４館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」について、掲載画像を増やし、その充実を図る。
イ　４館収蔵品の国宝・重要文化財について、５言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開し、更新に着手する。

担当部課	本部文化財活用センターデジタル資源担当 東京国立博物館博物館情報課	事業責任者	課長　今井敦

【実績・成果】
（４館共通）
・ColBase について所蔵品データの修正や画像の追加を行い（画像追加 41,647 枚）、画像の高精細化を進めた。さらに、2 年 1 月には改修を行い、対象に奈良文化財研究所を加える準備をしたほか、各館の公開データベースのデータを ColBase に定期的に自動で取り込む機能を追加して、作業の効率化を図り、最新のデータを迅速に反映させるようにした。また、画面デザインを変更し、より見やすく機能的にするとともに、音声等、画像以外のデジタルデータを登録できるようにした。
・e 国宝の維持管理を行った。2 年 10 月のリニューアルを目指し、22 年以降の指定品のデータの追加を準備したほか、解説文、多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。なお、現在公開しているフランス語データについては、機構内で翻訳やチェックを行う体制がないことから、取り下げることとした。

【補足事項】



ColBase　リニューアル後の画面

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及びe国宝を適切に維持管理し、ColBaseの改修を実施した。ColBaseについては、2年度も引き続きシステムを維持するとともに、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続する必要がある。e国宝については、2年度に計画通りシステムの更新を行う。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他の関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財及びその他関連する資料の公開について、ウェブ上でさまざまな公開手段を設けるとともに、公開データの件数を継続的に増加させた。今後、新規データの追加を計画的に行うための方策を講じる必要がある。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品の説明を付した館蔵品データベースを継続して公開する。
イ　平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」の充実を図るため、館蔵品の原板フィルムを積極的にデジタル化した。また、文化財活用センターを中心に推進しているe国宝・ColBaseに統合することで、より多くの人が閲覧可能となった。
（京都国立博物館）
ア　館蔵品データベースに画像や解説等を追加・更新し、当館ウェブサイト上で引き続き館蔵品情報を公開した。
イ　平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ、収蔵品の画像等を継続して公開した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア　館蔵品データベースに公開するデジタル画像を2,178枚増加させた。



画像登録の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 e国宝・ColBaseを通じて、より広く館蔵品情報を公開した。平成知新館レファレンスコーナーやデジタルサイネージを通して、来館者に対する効果的な情報発信を図るとともに、館蔵品データベースの充実を積極的に行い、広報の充実に努めた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 元年度もウェブサイト等を通じて、画像や解説を継続して公開した。館蔵品データベースについても公開データを増加させた。中期計画に基づき順調に事業を実施しており、2年度以降も継続する。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1321C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図るべく、既存フィルムのデジタル化や新規撮影を多数行い、関連データを整備して、インターネットで公開した。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供した。

【補足事項】
　収蔵品データベースの充実をはかり、画像データの登録件数増加に注力した。収蔵品データベースは、OAI-PMHリポジトリの構築によってColBaseとの自動連携を目指しており、リポジトリサイトが完成している。これにより増加させた画像データ、テキストデータが当館のデータベースだけでなく、ColBaseにも反映される予定である（現在は、ColBase側での取り込み作業のテスト中）。
　一方、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開に向けても準備を進めた。国際交流担当の翻訳担当者の協力を得て基礎情報の翻訳を行い、テストサイトの構築まで進んでいる。2年度もしくは3年度の公開を目指している。



収蔵品データベース
中国語版テストサイト

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	デジタル撮影、既存原板のデジタル化、データベースへの登録件数ともに例年に準じた成果をあげており、所期の目標を達成したといえる。中国語・韓国語版収蔵品データベースの公開に向けて、順当に作業を進めている点も評価できる。

【中期計画記載事項】
　ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	各事業の数値が例年に準じたものとなるだけに留まらず、情報の発信についても新たな試みに着手し、国際化の充実を目指している。今後もより豊かな情報の発信につながるよう事業を進める予定である。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1321D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報及び展示情報を掲載した「収蔵品ギャラリー」を継続して公開する。
イ　対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形等のデータベースを継続して公開する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ア　4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ469件、新規画像794件を追加で公開した。また、公開中の画像を、すべて長辺3,000ピクセルの画像へと差し替えた。

（九州国立博物館）
ア　収蔵品ギャラリーに、469件のデータを追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報の発信を続けた。収蔵品に関する情報の普及を一層推進するとともに利用者の利便性を向上させている。
イ
・対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を続けた。収蔵品ギャラリーやColBaseに、対馬宗家文書データベースへのリンクを設置し、アクセシビリティを向上させた。
・装飾古墳データベースは、引き続き公開運用を続けた。
・30年度に全てのデータ整理が完了した郷土人形データベースは、引き続き公開運用を続けた。


部分の拡大ができる長辺 3,000pixel 画像


宗家文書データベースへのリンク

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　元年度はウェブサイト公開用の画像の整理・加工を進め、約1,000件の画像を追加公開した。収蔵品ギャラリー及び画像データベースに継続的にデータを追加することで、利便性とサービスの一層の向上を図った。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいてコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。対馬宗家文書データベース、装飾古墳、郷土人形データベースを引き続き公開した。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて公開データを約500件追加し、情報の充実・拡充を図った。新規撮影分の画像処理を進め、公開用データとして整備した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1322A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,840 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ 14,047 件を登録し、既存データ 2,127 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・シーボルト旧蔵本 7 冊(5,559 カット)のデジタル撮影を行った。また研究情報アーカイブスのデジタルライブラリー及び「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において元年度デジタル撮影した洋古書の情報を更新した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 4,080 人)
・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。(新規分 224 冊、遡及分 106 冊)
・~~前~~30 年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード貼付を 4,802 件実施した。
イ
・当館の列品を収載している図書について列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を継続して実施した。
・ProtoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報 2,744 件を作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースに参加した。データを蓄積することにより、レファレンスサービスの拡充と広報に資することができた。(2,801 件登録)
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外)、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。

【補足事項】
ア　新規受入図書　4,267冊
　　既存図書の遡及入力　466冊
　　逐次刊行物の新規受け入れ　2,573冊
イ　当館開催展覧会カタログ　495件　　他館開催展覧会カタログ　822件
　　当館刊行図書　1,414件　　当館刊行雑誌　13件

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	外部の大学図書館等の間での文献複写サービスを継続して行い、館内外における利便性が向上した。また収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画に定められた趣旨に則って、適切に資料の収集整理と公開を継続して行い、時宜に応じたサービスの改善を図っている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1322B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
ア　30年度に引き続き、文化財情報システムについて館内業務に適応するため、登録や検索及び管理項目等の改修を行い、各作業の効率化を図った。
・画像ストレージの容量増強にかかる準備を進めた。
・調査、研究、教育等に資するため、新規図書2,963冊、逐次刊行物1,369冊を収集し、データベースへ登録した。

【補足事項】
ア　原版フィルムのスキャニング作業が順調に進み、画像ストレージの容量増強を進めるため、エンクロージャー(ハードディスク・ドライブを格納する筐体)を用意した。



納品されたエンクロージャー

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財情報システムの改修を行い、資料の管理や検索性が向上された。また、画像ストレージ増強にかかるエンクロージャーを用意し、今後のデジタル画像生成に必要な環境を整えた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、国内外の博物館における展覧会関連の調査・研究等に関する資料及び情報を計画通りに蓄積することができた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1322C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。
　内外の利用者に対してサービスの充実を図るべく、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行い、システムに登録した（和書2,027冊、漢書32冊、洋書48冊、計2,107件）。写真については、デジタル撮影（4,752件）、既存原板のデジタル化（3,001件）、システムへの登録（4,465件）を行った。

【補足事項】
　資料・サービスを充実させたほか、海外からの研修の要請に対応した。国立国会図書館と交流を行っている中国国家図書館より代表団5名と、招聘側の国立国会図書館の国際交流担当者3名を受け入れた（11月10日）。当日は奈良国立博物館並びに仏教美術資料研究センターの概要説明、センターの事業紹介と見学を実施し、あわせて開催中の「第71回　正倉院展」を案内した。日中における情報サービスの実務に関わる情報交換を行うとともに、長きにわたる両国の親交をさらに深めるよい機会となった。
　また、図書管理システムのクラウド化を実施し、情報基盤の整備と安定稼働にも力を入れた。



クラウド化した図書管理システムの OPAC

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	資料の収集・蓄積、サービスの実施ならびに仏教美術資料研究センターの利用者数ともに例年に準じた数値をあげており、所期の目標を達成したとみなされる。さらに図書管理システムのクラウド化により、安定的な情報公開のための基盤整備にも努めた。

【中期計画記載事項】
　美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	この中期計画は、資料の収集と整理・蓄積を安定的に実施・継続することが最大の目標である。限られた予算の中で当初の数値目標を達成しているだけにとどまらず、海外からの招聘者の研修への対応や図書管理システムのクラウド化など、情報の発信と充実に多方面から取り組んでいる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1322D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
蔵書管理
・新規に図書577点、雑誌831点、図録・報告書2,435点を購入又は受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。
・閲覧室に保管する135,387冊の蔵書点検を行い、蔵書整理のための除籍や書架調整基準の見直しを行った。閲覧室外に別置する蔵書も含め、蔵書管理システムにおけるデータの点検・整理を実施し、より適切な情報利用環境を整えた。
画像管理
・文化財情報システムの一部として運用している画像管理システムに画像を3,403点追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が情報を活用しやすい環境づくりに寄与した。画像管理システムの改修を実施し、管理の効率化と外部サービス向上を図った。
・29年度に公開した画像検索システムに1,160点の画像を新規に追加し、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。


蔵書点検作業の様子


画像検索システムで新規に公開した画像

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　画像利用申請のうち5割以上が、29年度に公開した画像検索システムを活用して申請書が作成されている。申請件数も増加傾向であり、資料情報の発信及びその情報の利活用の促進に寄与している。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新規に図書577点、雑誌831点、図録・報告書2,435点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データの整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	当館の蔵書データを将来的に一般公開していくための基盤整備（図書データの書誌・目録整備を遂行）を推進した。画像管理システムは内容の充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。 元年度以降も図書目録整備を進める。画像に関しては、収蔵品の新規撮影を進め、年々増加している画像利活用のため公開できる画像を増やしていく。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 1323-1H

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。
ウ　文化財活用センターウェブサイトを開設し、センターに関する情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課 本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　伊藤進吾 課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和元年度』（日本語版・英語版）を7月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト（https://www.nich.go.jp/）に掲載した。また、ICOM京都大会開催に合わせて概要発行部数を増刷し、参加者に配布した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　平成30年度』を2年1月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
ウ　文化財活用センターウェブサイトをリニューアルし、センターに関する情報の提供を行った。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和元年度』は日本語版2,600部、英語版1,800部発行した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　平成30年度』：200部、カラー4ページ・モノクロ962ページ
ウ
・文化財活用センターウェブサイト（https://cpcp.nich.go.jp）をリニューアルオープン（4月24日）し、利用者にとって必要な情報が探しやすいよう、サイトデザインや機能を一新した。あわせてロゴマークを制作した。
・ぶんかつブログ（https://cpcp.nich.go.jp/modules/rblog/index.php/1/）を開始。2年3月末現在までに30本の記事を掲載した。
・ウェブサイトリニューアルとともに文化財活用センターSNS（Twitter／Instagram）の運用を開始し、より広く情報発信を行った。
・「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」への寄附ページを新たに公開し、ウェブサイト上からの寄附手続きが可能となった。



文化財活用センターウェブサイト

文化財活用センター

文化財活用センターロゴマーク

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画通り概要及び年報を作成した。また、ウェブサイトをリニューアルし、利便性を向上させ、年度計画に沿って順調に、センターに関する情報の提供を行った。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度はウェブサイトリニューアルに加えて、SNSを活用した情報発信や、文化財活用センターロゴマークの制作と活用など、中期計画通りに積極的な広報を行った。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-1A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】（4館共通）ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（東京国立博物館）総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　丸山士郎

【実績・成果】（4館共通）
ア　元年度年間スケジュールリーフレット（「東京国立博物館　展示・催し物のご案内」2019.4-2020.3）は、30年度同様体裁をA3二つ折とし、館内配布するとともに旅行社、メディア各社等に送付、周知を図った。なお、「2年度年間スケジュールリーフレット」については新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2年度の展覧会スケジュール確定の見込みが立たなくなったため、制作を中止した。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』(隔月刊・50,000部)を作成、配布した。主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用しより広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。また各事業の特性に合わせて1,000件程度学校、ホテル等にチラシ・ポスターのDM発送を行った。周知にあたってはウェブサイト、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)も活用した。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」及び特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」、住友財団修復助成30年記念　特別企画「文化財よ、永遠に」、親と子のギャラリー／日本文化体験　「日本のよろい！」では、ポスター・チラシを作成、館内配布及びDM発送を行ったほか、プレスリリースをマスコミ等に発送・配信した。
ウ　広報大使として公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を活用、キッズデーなどイベント開催時を中心に登場して館内で来館者と触れ合うほか、博物館外でのイベントに参加、広報活動に努めた。公式キャラクターを用いたLINEスタンプを制作を開始し、2年度に完成、有料販売する予定で進めている。

【補足事項】
（東京国立博物館）
イ　新型コロナウィルス感染防止のための閉室により実際にご覧いただく機会が減少してしまった展示のうち、特集「おひなさまと日本の人形」(本館14室)などについて、展覧会場内で研究員が解説する動画を制作、「オンラインギャラリーツアー」と題しYou Tubeにて公開した。なお、SNSでは高評価のコメントが多数寄せられ、休館中の取り組みとして多くのメディアに掲載された。
ウ　30年度に引き続き、群馬県にて開催された「群馬古墳フェスタ2019」に参加。当館のPRブースを設置したほか、ミュージアムショップのグッズも販売するなど、館の広報に寄与した。




「群馬古墳フェスタ 2019」
（於：前橋市・日本キャンパック大室公園）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り定期刊行物及びイベント等の情報を発信し、マスコミ報道を獲得した。また、夜間開館のPRを実施した。公式キャラクターについては、キッズデー、トーハクビアナイトなど適正な時機に登場し、来館者が博物館に親しんでいただけるよう活動したほか、「群馬古墳フェスタ」イベントに参加するなど、公式キャラクターを活用した広報活動を充分に行うことができた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり個々の企画等について、広報印刷物・ウェブサイト・SNSなど自主媒体を活用した広報活動を展開し、一般及びメディア媒体への認知度を着実に高めることができ、また、LINEスタンプの制作を開始するなど、中期計画の達成に向け順調である。2年度はウェブサイト・SNSを活用した広報活動をさらに推進していきたい。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの配布（元年度分）及び製作（2年度分、20,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア
・新春特集展示のポスター（1,850部）、チラシ（115,000部）の製作・配布を行い、他に特集展示等のポスター、チラシの製作・配布を行った。
・各種イベントのポスター、チラシ（落語会32,000部、留学生の日9,000部等）の製作・配布を行った。
・Kyoto National Museum Guide 2019（5,000部）の製作・配布を行った。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。
ウ　PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し、広報活動を行った。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・ICOM京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―」では、通常のポスター・チラシに加えて、英・中（簡・繁）・韓対応のチラシ、うちわ型のチラシを製作した。図録についても4言語（日、英、中、韓）で作品解説を付した。特集展示「赤ってじつはどんな色？」においてはチラシ・ワークシート、特集展示「雛まつりと人形」ではリーフレットを製作、配布した。
・新春特集展示のポスター、チラシに2年1月より開催の新春特集展示「子づくし」、特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」、特集展示「神像と獅子狛犬」の情報を掲載した。
・公式キャラクターを活用し、当館の収蔵作品について研究員が平易な言葉で日本美術を紹介する「トラりんと学ぶ日本美術」（淡交社）の監修を行った。
イ　博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の竹下景子氏、藤原紀香氏を任命した。文化大使は特別展開会式に登壇し、ブログ等により展覧会の広報を行った。
ウ
・トラりんのブログやツイッター、フェイスブック、YouTubeチャンネルを運用し、展覧会や博物館の情報を発信した。
・トラりんを最大毎週3日、1日5回（展覧会により異なる）館内に登場させ、来館者と触れ合うことで親しみやすい博物館のイメージの浸透を図った。
・埼玉の全国的なキャラクターイベントや京都、兵庫、奈良の他博物館や動物園、植物園、大型ショッピングモール等にトラりんを出張させ、キャラクターを通じて幅広く当館をPRした。
・キャンパスメンバーズ加入校をトラりんが回り、キャンパスメンバーズの特典を広報し、特別展への来館を促した。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、閉館中の展示品を紹介する動画を作成し、YouTubeチャンネルで紹介した。その様子はNHK京都のニュース番組でも紹介された。


京都国際マンガ・アニメフェア2019に登場するトラりん

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 定期刊行物の作成及び年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を充分に行うことができた。また、外国人観光客を意識したチラシの製作や、公式キャラクターを活用した刊行物を監修するなど、当館の認知度が向上できた。また、公式キャラクターを活用して各種施設やイベントへ出演、ブログやツイッターでも継続して情報発信するなど、当館に馴染みのない層へもPRできた。 以上のことから、年度計画を超える実績を達成することができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画4年目として、広報印刷物の製作及び当館ウェブサイト上の公式ツイッターや公式キャラクターなどの多様な媒体を活用し、積極的な広報を行うことができた。2年度についても広報の範囲を広げ、積極的に広報活動を行いたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-1C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・年間スケジュールリーフレットを2回発行し、配布を行った。また、ウェブサイトからのリーフレットのダウンロードサービスを継続して行った。
・特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」において、小学生の子どもを対象にワークシート「藤田でんざぶろうからの挑戦状」を制作・配布した。
・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」では、ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」を制作・配布した。
（奈良国立博物館）
ア
・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を6回実施した。
・特別展の割引券を4言語表記で作製し、近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
イ　笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使に任命し、出演するテレビやラジオ等で博物館のPRをしていただいた。
ウ　当館の認知度を高めるために、テレビ番組の取材、ラジオ番組の公開録音、ミュージシャンのコンサート、大学案内の撮影場所、雑誌の撮影場所、ブライダルの前撮り撮影場所等として茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」は、4言語（日・英・中・韓）を制作した。


ラジオ番組公開録音


ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	30年度から引き続き笑い飯・哲夫氏を文化大使に任命し、博物館のイメージアップに繋げることができた。また、FMラジオの公開収録の会場として施設を提供し、番組内で博物館のPRを行った。 4言語（日・英・中・韓）表記での割引券を近隣社寺や観光案内所に配布する等、外国人観光客を取り込むための対策を実施した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことを図った。「いのりの世界のどうぶつえん」では奈良県下等の小中学校の全生徒へチラシを配布する等、積極的な広報活動を行った。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-1D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
ウ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。
エ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　白井克也 課長　石原隆之

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴い、担当研究員によるテレビ、ラジオ番組への出演や、地元の新聞やフリーマガジン等への展覧会内容の掲載を行った。マスコミによる広報・宣伝を行った。
イ　ウェブデータベースの整備を継続し、当館ウェブサイトから詳細な展示品情報を提供した。
　外国人観光客へ向け、当館ウェブページ上で英語・中国語・韓国語での展示案内を行った。
ウ　空港・JR・ホテルなどと連携し、ポスター、チラシなどによる広報展開を行った。
　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツのほか、参道フラッグやアンテナショップの日除け幕等を活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図った。
エ　アンテナショップ入り口に特集展示バナーを設置し、太宰府天満宮参拝客への展覧会PRを図った。


JR 博多駅構内での広報の様子


ウェブサイトでの館蔵品「針聞書」の PR アニメの配信

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア・参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
ウ・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。
　・既存の広報展開先に加え、佐賀空港やJR九州（長崎・鹿児島）、市内ホテル及び県内書店などと連携し特別展広報を実施した。
エ・特別展、特集展示の告知強化のため太宰府観光協会と協力し、参道フラッグ掲出に取り組んだ。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 既存の広報先だけでなく、空港や駅などの利用者を対象とした広報活動を展開させた。特に国際線の就航している空港や旅行者が利用する駅やホテルなど、インバウンドを見込んだ情報提供を行い、計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、多様なメディアを用いて幅広い広報を実施することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-2A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（東京国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 室長　丸山士郎

【実績・成果】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を行った。
（東京国立博物館）
ア　特別展・特別企画・特集展示及び教育事業についてマスコミ向けに情報を送付するとともに、記者発表会を6回、報道内覧会を11回開催した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第1ターミナルに当館収蔵品画像を使った壁面・天井装飾を本年度も引き続き実施した。
（東京国立博物館）
ア　特別展などで報道内覧会の実施、プレスリリースの発信を行ったほか、親と子のギャラリー／日本文化体験「日本のよろい！」(7月31日)でもツアー形式の報道向け体験会を開催した。新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供し、新聞・テレビなどで紹介された。また、総合文化展内の企画である特別企画「文化財よ、永遠に」でも報道内覧会を実施した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイト、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベント情報の広報を積極的に実施した。また、「UENOYES2019」のイベントに協力するとともに、上野地区のクラスター形成事業「Tokyo Ueno Wonderer」（3月末公開）サイトでの広報活動などにおいて中核的な役割を果たした。




親と子のギャラリー／日本文化体験「日本のよろい！」報道向け体験会

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
特別展の記者発表会や報道内覧会には毎回60名～260名程度の記者が出席、各展覧会の広報を効果的に行うことができた。なお、特別企画「文化財よ、永遠に」では、総合文化展内の企画であったが、多くの報道を得た。また、上野文化の杜新構想実行委員会においても各施設と連携して効果的な事業を実施するとともに、台東区等の地域と連携した広報活動によって相乗的な周知を図った。2年度以降も、新聞主要紙・美術系番組など影響力の高い媒体に取り上げられるよう努めていく。

【中期計画記載事項】（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画どおりマスメディア向けの内覧会を実施することなどにより、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めており順調である。また、展覧会の報道内覧会は、展覧会によって参加者の数に大きな違いがあるので、毎回多くの参加者を得るように取り組んだ。さらに、上野文化の杜新構想実行委員会の広報活動への先導的な役割を果たすなど、台東区等の地域と連携した積極的な広報を行った。なお、成田国際空港第1ターミナルの壁面装飾によって訪日外国人への広報効果を上げることができている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-2B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（京都国立博物館）
ア　地域等が主催する各種委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
イ　京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」において、JR東海と連携して、当館を会場に夕暮れを鑑賞しながら飲食する特別なイベントを5日間実施した（参加者数436名）。また、JR東海が持つ広報媒体やインフルエンサー等を活用し特別展の広報を展開させた。
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」において、共催のNHK京都放送局・NHKプラネット近畿と協力して8Kを含む特別番組を複数製作し、「佐竹本三十六歌仙絵」の認知度を上げ、特別展の露出を増やした。
・2年度特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」の首都圏向け記者発表を共催者と連携して実施した。
（京都国立博物館）
ア　周辺寺社及び商店街等で構成される東山南部地域活性化委員会や地元の商店街の会合に参加し、地域連携の企画等を検討した。
イ　京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成し、4館を巡るスタンプラリーを実施した。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・国際アートフェアartKYOTO（京都市等、artKYOTO実行委員会が主催）と連携し、artKYOTO各種広報物において、特別企画「京博寄託の名宝」の広報活動を行った。
・記者発表を4回行った。
・特別企画「京博寄託の名宝」においてはPR会社へ広報を委託、各媒体への周知を図り、交通広告を出稿した。またうちわ型ちらしについては、一部祇園祭の山鉾やミュージアムパートナー企業である弥栄タクシーへ協力を依頼し、関西国際空港からのリムジンタクシーでも配布を行った。


特別企画「京博寄託の名宝」うちわチラシ

・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」では、人気漫画「ちはやふる」とのコラボ展示を行った。
・特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」の記者発表では、札所寺院で販売している菓子について「スイーツ巡礼」として紹介した。
・当館明治古都館のプロジェクションマッピングと庭園における和食イベント「光と食のアンサンブル2020」に協力し、当館で開催予定であったが新型コロナウイル感染症拡大により中止となった。
（京都国立博物館）
ア
・地域連携の一環として、京都市が主催する京都駅東部七条界隈における周遊促進事業「七条つながる商店街スタンプラリー」に協力し、当館がスタンプポイントになり、地域連携を図った。
・京都国際マンガ・アニメフェア2019（京まふ）と特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」が連携し、京まふの記者発表を当館で開催したほか、ウェブサイトの相互リンクやチラシの相互設置等、広報面で協力した。また、トラりんが京まふ会場に登場し、特別展のPRを行った。
・ICOM京都大会開催を記念して、京都文化博物館及び京都国立近代美術館と大会期間中に両記念展覧会の相互広報及び相互割引を実施した。（京博来館者112名）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 従来の広報活動に加え、「ちはやふる」とのコラボなど若年層への認知度を上げるための広報活動を行い、特別展の集客へと結実させた。記者発表自体に新たな試みを盛り込むなど広報を意欲的に行い、年度計画を十分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画4年目として、ミュージアムパートナーと連携し、京都という立地を生かした広報活動を充分に行うことができた。引続き京都という立地を生かした広報を展開し、集客へと繋げていきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-2C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（奈良国立博物館）
ア　近隣社寺・博物館等との連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出や、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。
（奈良国立博物館）
ア　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、春日大社国宝殿で開催した「安綱・古伯耆展」と相互割引を実施した。また特別陳列「お水取り」では、東大寺ミュージアムで開催した特集展示「二月堂修二会」と相互割引を実施した。
イ　展覧会の開催にあたり、報道機関向けの内覧会（プレスプレビュー）を、特別展で３回、特別陳列で２回、特集展示で１回の計６回開催した。このほか、テレビ局、新聞社、雑誌社からの個別の取材依頼には、できる限り対応し、展覧会及び博物館活動の広報、研究成果の周知と理解促進に繋げた。
ウ　元年度も文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」で採択され、地元自治体と連携して当館を中心に近隣の文化財施設を散策できる「文化財ウォークマップ」を日英中の３言語で作製し、近隣の大学、観光協会及び道の駅等に配布したことで、奈良博周辺の活性化に繋がる事業を実施した。
エ　期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。

【補足事項】





奈良国立博物館周辺
文化財ウォークマップ

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 特別展においては主催者であるマスメディアと協力して情報発信に努めた。また、公共交通機関とタイアップしての広報活動も行うことができた。元年度は関係社寺との連携を強化して相互割引を実施する等、地域活性化となる広報活動を展開して集客増に繋げた。

【中期計画記載事項】
示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 自主媒体を活用した情報発信、マスメディアと協力した広報活動を実施できている。2年度以降も地元自治体や近隣社寺との連携を更に強化し、奈良公園だけでなく、奈良公園と近隣美術館・博物館を含めた共通観覧券を作製する等、積極的な広報活動を展開していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（九州国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　主要駅でのデジタルサイネージの掲出や車内ポスターの掲示等、公共交通機関等と連携して広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア　マスコミ各社を対象とする懇談会を実施した。
イ　太宰府観光協会と連携して太宰府天満宮参道での告知フラッグを設置した。また、商工団体へ「展示・イベントスケジュール」、「季刊情報誌アジアージュ」を送付し、商工団体会員等への周知を依頼する等、地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
ウ　福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」に当館の情報を掲載したり、九州観光推進機構が主催する「九州インバウンド商談会」で当館のチラシを配布する等、海外への広報・営業活動を展開した。
エ　古都太宰府ナイトエリア創出委員会や九州国立博物館を愛する会と「花菖蒲コンサート」等の地域連携イベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）



地域連携イベント①
「花菖蒲コンサート」
（6 月 1 日、2 日、8 日、9 日）



地域連携イベント②
山鹿の灯「山鹿灯籠踊り」
（10 月 26 日）



太宰府古都の光（9 月 25 日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度も引き続き、ポスター・チラシなどの制作や活用を行ったほか、夜間開館に合わせ、「太宰府古都の光」等、古都太宰府ナイトエリア創出委員会によるイベントを実施した。近隣地域の諸団体と連携したイベントを実施したことで、夜間開館の周知を図ることができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、中期計画のとおり、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。また、夜間開館について、近隣地域の諸団体と連携し、特集展示に関連した新たなイベントを打ち出すことができた。2年度以降も諸団体と連携しながら積極的に広報を行いたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-3A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年６回）
イ　ウェブサイトでは、ブログ等博物館の顔が見えるコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　今井敦 室長　丸山士郎

【実績・成果】（４館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
イ　メールマガジンを配信した（27回）。また、メールマガジンをより読みやすいようにリニューアルした。
（東京国立博物館）ア　『東京国立博物館ニュース』を隔月（年6回）で各50,000部を制作、配布・送付した。
イ　ブログ86エントリー、動画を使ったSNS配信により展示・催しもの、またキャラクターの活動等について紹介し、博物館に親しんでもらえるよう努めた。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）により適時性のある情報を発信し、利用者から好意的な反応を多く得た。

【補足事項】（４館共通）
ア　当館ウェブサイトの中国語（簡体字)、韓国語ページについて日本語・英語ページと同等程度の情報を掲出できるよう改修を行った。なお、公開は2年4月末の予定。
イ　メールマガジンに関するアンケートを実施し（回答3,152名)、読者の要望等を把握したうえで、文章のみであったものから、画像を多く掲載してより読みやすい構成にリニューアルした。リニューアル版の配信は2年1月14日より実施。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』について、より読みやすい紙面となるようリニューアルを検討し、2年6月号から実施する予定である。
ウ　ツイッター：フォロワー76,656件(30年 度66,652件)、フェイスブック：いいね！32,186件（30年度29,217件)。30年度より着実に数を伸ばしている。また、28年8月30日アカウント開設以来 、インスタグラムではフォロワー15,787件（30年度8,223件）を獲得し、2年度はさらに多くのフォロワー獲得が期待される。



東京国立博物館メールマガジン（リニューアル版）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化※1･2		27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数※1	8,235,810件	5,380,118件	S		①	6,724,460	6,433,867	7,014,006	7,679,851
					②	7,427,419	7,427,419	―	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】メールマガジンを読みやすい構成にリニューアルし、ウェブサイトのアクセス件数は目標値以上の成果を達成し、SNSのフォロワー数も充分に確保できていることから、充分に計画を達成している。今後はツイッター、インスタグラムのフォロワー数をさらに増やすとともに、ツイッターのクイズ機能等の活用、若年層に訴求するような画像を発信し、新たなユーザー開拓を図りたい。

【中期計画記載事項】（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】広報印刷物やウェブサイト等の活用は計画通り実施している。ウェブサイトについて、アクセス件数は順調に増加しており、前中期目標の期間の実績を超えている。また、『東京国立博物館ニュース』について、より親しみやすい紙面の検討を始めた。

※1　29,30 年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。
※2　上段①の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-3B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をウェブサイトにて公開すると同時に、メールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数は 4,948,829件であり目標値を上回った。
イ　メールマガジンを12回配信した。(157～169号)
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』(202～205号)、『Newsletter』(141号～144号)の発行を行った。
イ　博物館ディクショナリー(208～220号)を発行し、新刊をウェブサイトで公開するとともに、メールマガジンにて配信した。
エ
・当館公式ツイッターに加え、公式キャラクター「トラりん」のツイッターやフェイスブックを利用して情報発信を行った。
・当館寄託品「風神雷神図屏風」（俵屋宗達筆）を主題とした小説を発表した小説家の原田マハ氏と当館館長・研究員によるトークイベントを開催し、文化財や当館の研究、展示、教育等の活動をPRした。

【補足事項】
（４館共通）
（京都国立博物館）
ア　特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」において、WEB媒体を使用して展覧会の見どころを紹介する生放送を行った。生放送中、2年度の展覧会についても簡単に紹介した。
エ　新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全館臨時休館にあたり、公式キャラクター「トラりん」のブログにて、名品ギャラリーの展示内容を紹介した。また展示作品を紹介する動画配信も行った。



ニコニコ生放送バナー

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数	4,948,829件	2,274,464件	S		3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	ウェブサイトアクセス件数が国宝展に次ぐ値となっており、数値目標を達成している。ウェブサイトの定期的な更新、メールマガジンの配信、SNSを活用した情報発信などに加え、定期刊行物の発行などを行い、年度計画は充分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	ウェブサイトアクセス件数は目標値を大幅に上回り、早めに特別展の情報を掲載し積極的にウェブ媒体を使った情報発信を行うなど、中期計画4年目として順調に進捗することができた。今後も適宜ウェブサイトの改善を行い、アクセス件数の向上を図っていきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-3C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトのほか、メールマガジン、SNS（Twitter）による情報発信を行う。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。
エ　外国語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　岩井共二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展や公開講座の企画や、名品展の展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。ウェブサイトのアクセス件数が1,704,901件となった。
イ　特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン（毎月１回、計12回）で約7,000人に配信。
（奈良国立博物館）
ア　名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った。（年４回）
イ　名品展や特別展の紹介に加え、イベント情報等をウェブサイトに掲載。さらにSNS（Twitter）でフォロワー約20,000人に発信し、より迅速かつ効率的な情報発信を行った。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。
エ　特別展、正倉院展、なら仏像館について、外国語チラシを作成し、外国人観光客への情報発信を行った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　『奈良国立博物館だより』は館内にて無料配布のほか、希望者には郵送で提供した。
イ　公式Twitterのフォロワー数は、30年度から2,000人ほど増加した。
エ　元年度は、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」でも外国人観光客を意識して、外国語チラシ（英・中・韓）を作成・配布した。



「いのりの世界のどうぶつえん」外国語チラシ（英・中・韓）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数	1,704,901件	953,946件	A		1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	30年度に引き続き、ウェブサイト及び広報刊行物を通じて広く情報提供を行うことができた。ツイッターフォロワーは昨年から2,000人増加し、20,000人を超えた。ウェブサイトアクセス件数についても30年度を越えた点は、当館から発信される情報に対する関心が高まった結果であり、大きな成果といえる。

【中期計画記載事項】
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ウェブサイトアクセス件数及び公式ツイッターのフォロワーは増加しており、特に同ツイッターによる迅速かつこまめな情報発信により、時宜的なニーズにかなった広報として効果を上げている。また、特別展や特別陳列等における外国人観光客の来館者も増えており、外国人への情報発信に一定の効果が見られる。 2年度以降も引き続き、ウェブサイトやSNSでの発信、多言語チラシ作成等、積極的に各種広報を展開していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-3D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
イ　４言語(日・英・中・韓)によるウェブサイトでの情報提供を行う。
ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。(年４回)
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　リアルタイムな展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ　リアルタイムな展示・イベント情報等のメールマガジンを月２回配信した。
（九州国立博物館）
ア・利用案内に係る記載で分かりにくい表現等の一部見直しを行うなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努めた。
・TVQ 九州にて月 1 回放送している、太宰府と当館の見どころを紹介する番組の動画をウェブサイトにて配信した。
イ　ウェブサイトの４言語（日・英・中・韓）について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、工夫した情報発信を行った。
ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行った。(年４回)
エ　イベント情報や展示替え情報、駐車場の混雑状況だけでなく、館外の自然景観やショップの新商品の案内等、当館へ足を運びたくなるような情報を SNS（ツイッター）による発信で継続して行った。



季刊情報誌「アジアージュ」



TVQ 九州の番組動画の配信

【補足事項】
（４館共通）
ア　駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ　メールマガジン登録数（7,375件）は毎月平均43人ずつ増えており、また、平均開封率が10％といわれている中、約40％と高水準を維持している。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数	2,047,955件	1,696,500件	A		2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、駐車場の満車状況をリアルタイムに案内するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信ができた。その他、30年度に引き続きウェブサイトのアクセス数、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。ブログ、ツイッター等を活用し、展示情報やレストラン、ショップ等観覧環境についての情報をリアルタイムに更新するなど、広報活動を積極的に行った。特にツイッターのフォロワーは順調に増えてきており（12,847人、日平均増加数：336人）、新たな広報ツールの効果が出ている。
2年度以降も館内に設置する広報委員会において広報計画を策定し、広報活動を展開していく。

【書式A】　施設名 ４館共通　処理番号 1410ABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

【年度計画】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究

担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　田沢裕賀 部長　栗原祐司 部長　内藤栄 部長　小泉惠英

【実績・成果】
外部資金を活用した調査研究を下記件数実施した。
（東京国立博物館）
・科学研究費補助金：9件
・学術研究助成基金：16件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件
（京都国立博物館）
・科学研究費補助金：1件
・学術研究助成基金：5件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件
（奈良国立博物館）
・科学研究費補助金：2件
・学術研究助成基金：4件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件
（九州国立博物館）
・科学研究費補助金：3件
・学術研究助成基金：3件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
東京国立博物館	25件	－	－		26	22	22	18
京都国立博物館	6件	－	－		3	7	11	8
奈良国立博物館	6件	－	－		3	3	5	6
九州国立博物館	6件	－	－		10	8	8	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部資金を活用した文化財に関する調査研究を行った。調査研究の実施においては、各博物館での文化財の収集・保管・展示、教育普及活動等事業と一体的に取り組み、30年度同様順調に成果を挙げている。

【中期計画記載事項】
文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財に関する調査研究実施に際し、外部資金を獲得し活用することで、文化財の保存と活用の推進の一助とした。2年度以降も外部資金活用による調査研究の活性化を図る。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411 ｱ-1

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.特別調査「法隆寺献納宝物」（第 41 次）

【事業概要】

当館では、昭和 54 年より、法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　河野一隆

【主な成果】

(1)　調査概要

・30 年度に引き続き、「文王呂尚･商山四皓図屏風」の調査を実施した（9 月 5 日～6 日外部調査員・東野治之、松原茂、相澤正彦、北澤菜月、11 月 5 日赤外線撮影、2 年 1 月 8 日赤外線撮影・蛍光 X 線撮影、2 年 1 月 10 日蛍光 X 線撮影）。

・通年にわたって法隆寺献納宝物の染織品調査及び法隆寺宝物館保管の上代裂について調査を行い、法隆寺宝物館で保管する上代裂のうち、「袍残欠」について、本格修理を行っている。

・元年度は新規調査対象作品として「龍首水瓶」を予定（2 年 3 月 23 日）していたが、新型コロナウィルスの影響のため、研究会開催を延期した。

(2)　調査の成果

・報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 40　文王呂尚･商山四皓図屏風 2』を刊行した。



蛍光 X 線による彩色材料調査

【備考】

(1)　「商山四皓･文王呂尚図屏風」調査日数　5 日

　報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 40　文王呂尚･商山四皓図屏風 2』（2 年 3 月 30 日発行）

(2) 染織品の修理　1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆寺献納宝物の各種作品に関して、継続的な調査と修理を実施することができた。また、「文王呂尚･商山四皓図屏風」については、計画どおり概報を刊行でき、本調査による新知見を掲載できた。「龍首水瓶」については研究会開催をやむなく延期したが、年度明けの早い段階で開催予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆寺献納宝物の絵画、書跡、染織の各種作品を様々な観点から調査し、得られた新たな知見を概報刊行等により継続的に公表するなど、中期計画に沿った取組を順調に進めている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｱ-2

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　b.特別調査「書跡」第 17 回

【事業概要】

本事業は平成 17 年度から始まり、当館収蔵品及び寄託品にかかる書跡・典籍、古文書について、古写経、和様の書、古文書など対象テーマを設定し、1 年に 1 回ないし 2 回、当機構内の関係職員を招聘し、実施しているものである。このうち古写経の調査は、当館収蔵品について一区切りついたことから、28 年度から 3 か年、奈良国立博物で実施した。元年度は京都国立博物館の収蔵品を対象に実施し、比較検討を行いながら調査研究を行った。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	書跡・歴史室長(保存修復課長)冨坂賢

【主な成果】

(1) 調査概要

古写経は名称、制作年代、形状、寸法、奥書等、出典、料紙などの調査を行う。今回は 52 件 80 点の古写経を対象に調査を行った。

(2)調査の成果(元年度調査の内容)

奈良時代の古写経を 3 件、平安時代の古写経を 34 件、鎌倉時代の古写経を 6 件、南北朝から江戸時代の古写経を 9 件、調査を行った。2 年度も京都国立博物館での調査を継続することを予定しており、当館の収蔵品との関連を明らかにし、研究を進めて、展示・公開の向上に寄与するものである。



特別調査の様子



調査対象資料の内
「大品経 巻第二十八断簡」等

【備考】

調査件数：古写経 52 件 80 点
調査日数：10 月 25 日 26 日の 2 日間
調査人員：延べ 30 人(当館、京都国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所、文化庁文化財第一課)
調書作成：80 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	実施時期が奈良国立博物館での正倉院展間近となり、奈良博からの参加はかなわなかったが、文化庁からの参加を得、30年度と同規模で実施することができた。今回対象とした「松本コレクション」(松本文三郎旧蔵) は重要な資料を含んでいながら、体系的な調査ができずにいたもので、当機構、文化庁の専門家が集まり総合的な検討ができた意義は大きい。調査成果は、当機構所蔵文化財横断検索システム(ColBase)に反映させ、今後の研究の推進及び展示・公開に寄与するところが大きい。2年度は同コレクションのうち宋版一切経などを調査する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、計画通りに作品調査を実施することにより、研究を推進し、展示・公開の向上に寄与するという所期の目標に向けて順調に推移している。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｱ-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　c.特別調査「工芸」第11回

【事業概要】

当館における列品のうち、金工・陶磁・漆工・染織・刀剣・甲冑等工芸分野の特別調査である。当機構の国立博物館3館及び文化庁・東京文化財研究所の工芸担当者が集まり、同じ専門分野の研究者が同時に作品調査を行う。複数の専門家の目で同時に同じ作品を調査することにより、精度の高い成果が得られる。また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示内容の向上に結びつけることを目的とする。なお、2年度は陶磁・染織の調査を行うこととなった。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】

(1) 染織（10月16日、17日、18日　3日間）　於　当館

当館には、大倉集古館が所蔵する能装束・能道具が217件寄託されている。その多くは江戸時代中期から後期の製作で、一部、安土桃山時代から江戸時代初期のものも含まれている。備前藩池田家がかつて所蔵していた大名家の能装束として資料的価値の高いこれらの資料の悉皆調査を27年度より5か年行うこととした。2回目にあたる元年度については、2日間で子方10領、側次2領、掛絡7領、計19領を調査した。本調査により、備前藩池田家の能装束の形態が明らかとなり、大名家における能の実態について知見を得た。参加者は、大倉集古館学芸員・佐々木智子氏、九州国立博物館文化財課長・原田あゆみ氏、同館アソシエートフェロー・桑原有寿子氏、当館工芸室長・小山弓弦葉、同研究員・三田覚之、同非常勤職員・長谷川聖子、同列品管理課登録室・田邊留美子　以上7名。



画像①　染織調査風景

(2) 陶磁（2年1月15日　終日）　於　京都国立博物館

京都国立博物館にて、近代の陶磁器を中心に調査を行なった。調査件数は計14件。

京都国立博物館所蔵の近代陶磁器は、竹内吟秋作「色絵金襴手龍虎図大瓶」、竹内吟秋作「色絵金襴手龍虎文瓶」など、本来は一対でありながらシカゴ・コロンブス世界博覧会（1893（明治26年））出品後に当館と分けて収蔵されているものがいくつか存在する。今回の調査ではこうした作品を中心に近代陶磁器についての理解を深め、今後の展示活用のあり方について検討・協議を行なった。主な作品として、上記の作品のほか、浅井一豪作「色絵金襴手山水文瓶」、「色絵金彩鳳凰吉祥文鉢」、旭焼「釉下彩葡萄文皿」「釉下鹿島踊文皿」など。参加者は、京都国立博物館・降矢哲夫研究員、当館・今井敦博物館情報課長、三笠景子主任研究員、横山梓研究員の4名。



画像②　陶磁調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各機関の陶磁・染織の専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究推進及び展示公開に寄与するところが大きい。また分野ごとに分かれて作品調査を実施するため効率性も高く、相当数の作品を調査することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当機構の国立博物館が所蔵する各種工芸作品を様々な観点から調査した。また、平成27年度に寄託を受けた大倉集古館所蔵の能装束調査を通して、大名家における能装束の実態についてさまざまな知見を得た。それらの調査成果を工芸史研究ならびに当館の展示に反映させるべく、中期計画の「有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査を実施することができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｱ-4

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　d.特別調査「彫刻」第９回

【事業概要】
社寺等所蔵の仏像、神像、肖像彫刻等を調査し研究報告論文活動に結び付けあるいは寄託増加特別展等の企画につなげて示質向上を図る。元年度は、館蔵品のなかから、中国彫刻及びキリシタン資料に対して、客員研究員他の外部有識者を招いて共同調査を実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【主な成果】
(1)調査の概要
・5 月 28 日～29 日「早崎梗吉関係資料、関野貞関係資料の調査」
石松日奈子（客員研究員）
：館蔵中国彫刻の来歴に関わる資料の調査（於茨城県天心記念五浦美術館）
・8 月 4 日～5 日「館蔵中国彫刻の研究（銘文の翻刻・釈読)」
石松日奈子（客員研究員)、佐藤智水（龍谷大学名誉教授）他、参加人数 8 人
：館蔵中国彫刻における在銘の重要作例である TC-375 菩薩立像（天保 3 年・552)、TC-376 観音菩薩立像（開皇 5 年・585）についての、銘文の翻刻・釈読
・2 年 1 月 23 日～24 日「館蔵キリシタン関係遺品の調査研究」
浅野ひとみ（長崎純心大学人文学部教授）他、参加人数 6 人
：館蔵キリシタン関係資料のうち、踏絵やロザリオなどを対象とする調査
(2) 調査の成果
・館蔵品のうち、中国彫刻とキリシタン資料は、重要なコレクションのひとつだが、外部の有識者と共同調査を行うことで、銘文の翻刻や作品の位置づけといった、基礎研究においてさまざまな新知見が得られた。
・成果は、逐次作品解説等において報告を行う。既刊の学術論文は以下のとおり。
石松日奈子「《研究ノート》当館蔵 司従永孫等三尊像」『Museum』682、当館、元年 10 月


8 月 5 日の中国彫刻の調査


2 年 1 月 24 日のキリシタン資料の調査

【備考】
調査回数：3 回
調査作品数：15 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国彫刻やキリシタン資料は、新たな収蔵が困難な分野だが、当館にはすでに優れたコレクションがあり、基本情報の公開が待たれている。客員研究員や外部の有識者と共同調査によって、銘文の翻刻や、作品の製作年代や製作地を明らかにするといった、基礎研究において、新たな知見が得られた。これにより、おおむね所期の目的は達成できた。今後は共同調査を継続することで、中国彫刻やキリシタン資料について研究を進め、逐次その成果を展示や刊行物等によって紹介したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映するという中期計画に沿った調査研究や研究成果の報告ができた。引き続き調査を進め、逐次その成果を展覧会や出版物のなかで広く一般に発信していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｱ-5

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　e.特別調査「絵画」第４回

【事業概要】
館蔵の絵画列品のうち、儒教に関連する主題、内容を持つ作品について、機構内外の複数の研究者で調査し、それぞれの専門の視点から意見を述べ合うことで、今後の研究、展示に活かす。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】
(1)　調査の概要
・水野裕史氏（筑波大学）の科研プロジェクトと共同で館蔵の儒教関係絵画についての特別調査を実施した。
・国立４館から専門研究者 16 名が参加した。
(2)　調査の成果
・30 年度で大まかに館蔵の儒教関係絵画にどのようなものがあるのかを把握したことを踏まえ、それらを 1.端的に孔子あるいは儒者を主題とした釈奠にかかわる作例、2.宮中儀礼にかかわる作例、3.中世の儒教的主題の作例というように３つに分類を行った。
・絵画作例だけでなく、歴史資料分野の作例も含めて検討を行った。
・儒教美術をテーマとする研究者と共同開催したことによって、宮中周辺での儀式を描いたと推測できた作例や、神式の道具立てになっていることが分かった作例、またそのことにより時代の上限が割り出せたことなど、列品に対する知見が深まった。


特別調査（絵画）の様子

【備考】
・調査　10 月 29 日・30 日　１回　38 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・当館所蔵の儒教関係絵画をテーマごとに類別して把握しやすくできたことは大きな成果である。 ・儒教絵画の主題となっている内容について制作年代や環境などを考えるための手掛かりとなる知見を得られたこと。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	所蔵の絵画列品について、機構内 4 館の絵画担当者や外部識者に来ていただき、特定の分野や主題を集中的に調査することで、普段のなかでは得られない多角度からの意見や知見を得られ、今後の基礎情報の整備や展示活用の面でとても有意義であった。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究

【事業概要】
当館では、29 年度より関東地域の社寺に伝存する文化財の皆悉調査を実施している。元年度は 30 年度に引き続き東京都目黒区に所在する祐天寺の所蔵文化財の調査を行った。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　河野一隆

【主な成果】

(1)調査の概要
・4 月 15・16 日に、当館で、祐天寺所蔵の持国天像、増長天像の 2 躯の X 線 CT 調査を行った。
・5 月 14 日に祐天寺で絵画（屏風、掛軸等）の調査を行った。
　この調査では、調査に広いスペースを要する作品を中心に肉眼観察、調書作成、写真撮影等を行った。

(2) 調査の成果
・X 線 CT 調査では、外部からの肉眼観察では分からない御像の内部構造を確認し、今後の修理等に活用できるデータを取得できた。
・絵画調査では、所蔵作品のうち「當麻曼荼羅」は江戸時代の作例で、非常に貴重なものと位置付けられることが分かった。
・祐天寺研究所を通じて工芸品、書簡等のリストを入手し、今後の皆悉調査にむけて計画を策定中である。
・30 年度に本調査が終了した東京都港区天真寺については、調査の成果を集約し仮製本ができるような編集を行った。


X 線 CT 調査（当館）


絵画調査風景（祐天寺）

【備考】
調査日数：4 日間（2 年分を含む）
調査点数：彫刻 2 件（X 線 CT 調査）、絵画 5 件（観察、写真撮影）
延べ参加人数：10 名

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査を、30 年度に引き続いて行った。元年度は X 線 CT やファイバースコープなどの分析機器を使った文化財科学調査を行うことができた。また、通常は調査することの難しい大型の絵画作品についても祐天寺様のご協力をいただきつつ、進めることができた。30 年度に終了した天真寺についても成果を纏めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、文化財の基礎的調査を関東地域の社寺に広げて行っている。祐天寺調査の 2 年目にあたる元年度は、分析機器を使って肉眼観察だけではない、文化財科学調査にまで幅を広げることができた。本調査研究で最初に取り組んだ天真寺についても成果を纏めることができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　油彩画の材料・技法に関する共同調査（(4)-①-1)）

【事業概要】

本研究は東京藝術大学との共同研究で 20 年度から開始し、続行している。当館所蔵の油彩画の中から、明治期を中心とした作品を調査対象としている。東京藝術大学大学院油画保存修復研究室は、これまで大学所蔵の明治期油彩画について、調査研究を続け、多数の成果を公表している。本共同調査の目的は、高精細デジタルカメラを使用した顕微鏡写真、普通光写真、赤外線写真、紫外線蛍光写真、透過デジタル X 線写真、蛍光 X 線分析などの科学的調査を通し、当館所蔵の油彩画に使用された材料と技術に関するデータ構築を行い、これまで東京藝術大学が集積したデータと比較を可能にすることである。それによって、今後、我が国の初期油彩画の技法的解明、あるいは歴史的解明が一層進展するものと考える。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】

(1)①A-11305 高橋源吉筆「興津富士」、②A-11307 高橋源吉筆「鎌倉大仏」、③A-11308 高橋源吉筆「森」④A-11306 高橋源吉筆「海景」、⑤A-732 筆者不詳「遠望富岳図」、⑥A-11314 二世五姓田芳柳筆「大河内子爵囲碁」、⑦A-9556 高橋源吉筆「乃木婦人画像」、⑧A-11261 フォンタネージ筆「風景」、⑨A-11294 川上冬崖筆「母像」の状態調査、普通光、側光、紫外線、赤外線写真撮影、蛍光エックス線分析等を行った。

(2)高橋源吉、フォンタネージ作品ともに以前にも調査を行ったが、今回の調査では光学調査を踏まえて、目視による調査を行い、作品の技法・材料的な観点からの詳細な考察を行った。また、川上冬崖をはじめとする新規作品については、紙を支持体とする珍しい油彩画についての網羅的な研究の一環として、調査を開始した。





調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	油彩画の光学調査は東京藝術大学でそのデータの蓄積が行われており、それに続く質と量をもつ当館の油彩画資料の基礎データ蓄積は、今後の油彩画研究において重要な情報をもたらすことになる。この作業を通じて、本共同研究では確実にデータを蓄積しており、成果公開に向けて着実に研究推進が進められている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで行った調査の蓄積によって、基本的なデータの蓄積を十分に進めることができた。これらの成果を『MUSEUM』などの研究誌への掲載によって広く公表し、初期油彩画の技法的あるいは歴史的解明を通じて、有形文化財の保存と活用を一層推進していく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究

【事業概要】
非常に高度な技術と優れた美的感覚によって製作された平安時代を中心とした仏教絵画の美しさの構造をより深く理解するため、光の当て方も工夫した高精細撮影と、X 線、赤外線などによる各種光学調査を実施する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】



調査風景

重要文化財　准胝仏母像の背景から、彩色として使用していることを強く推測できる形で銀が検出された。
その後に行った検討会で、高精細画像を拡大して確認したところ、測定箇所は補絹が入り組み、細かい図様が近接している。それらの影響を確実に避け、より正確を期すために、2 年度に追加調査を行うことにした。

【備考】
調査 3 回、作品 2 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	30年度までに普賢菩薩像と孔雀明王像の背景から検出されていた銀の使用が、偶然ではなく、彩色として使用されていたことを補強する結果を得られた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	5 年計画の 3 年目となる今回は、予定していた館蔵の平安 12 世紀仏画の最後の調査である。元年度までの成果として、12 世紀の仏画の光輝表現についての重要な視点となる背景の彩色における銀の使用を提示できたことは大きい。2 年度には、元年度に行った 2 件の作品について、より正確を期すための追加調査と検討会を行い、以後の調査計画について準備を行う。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究

【事業概要】
制作年代がわかる基準作となる作例が比較的多い絵画作品に用いられた絹製品である画絹を中心にして、経・緯の糸の太さや本数の比率、断面形状などを計測し、時代や国、地域による傾向の有無、特徴を抽出する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】
(1) 研究の概要
・調査 3 回（5 月 21 日、5 月 30 日、2 年 2 月 26 日）
・調査作品数 21 点
(2) 研究の成果
・前半 2 回は特別展「国宝　東寺－空海と仏像曼荼羅」に出品された作品調査を実施した。
・同じ 9 世紀であるが唐代作とされるものとそれをもとに日本で制作されたものとが組みになっている真言七祖像、9 世紀の作例である西院曼荼羅、大治 2 年（1127 年）制作の十二天像、11 世紀の作例である山水屏風といった平安時代の各時期を代表する重要作例のデータをとれたことが、特筆される成果として挙げられる。
・上記に加え、当館所蔵の平安仏画のうち未実施だった国宝　千手観音像(A-10560)、重文　准胝観音像(A-11796)、重文　准胝仏母像（A-12449)、また中世の作例として重文　玄奘三蔵像（A-10600)、春日宮曼荼羅図（A-11088）も調査した。



春日宮曼荼羅図（A-11088）調査風景

【備考】
調査 3 回、打ち合わせ 1 回　作品 16 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展出品作品と所蔵品を調査したデータと合わせて検討すると、時代や国による単位間隔あたりの経糸本数、断面形状の傾向の違いがかなり明確化された。今後は各時代の作例を追加し、製作技法の詳細分析を実施する予定であり、基礎研究の基盤構築にむけて、大きな見通しを得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	5年計画の1年目に当たり、事業目的に対応したデータを当初計画に先んじて、成果としてあげることができた。残る4年間で現状とっている時代とその前後の時代の作例数を増やすことで、対象となる文化財の調査研究に応じた保存・活用をはかることが見込まれる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aカ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　東洋民族資料に関する調査研究

【事業概要】
当館が所蔵する約 3500 件の東洋民族列品を対象として調査研究を行い、展示を充実させる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹

【主な成果】
(1) 調査概要
韓国の国立古宮博物館、景福宮、昌徳宮、国立中央博物館、鐘閣、六矣廛遺跡（ソウル）・慶基殿（全州）にて朝鮮王朝の宮廷工芸の用途・分類に関する調査、国立民俗博物館、宗廟、東廟、東大門、漢陽都城博物館、北村マウル、南山谷韓屋マウル（ソウル）・全州韓屋村（全州）・船橋荘、烏竹軒（江陵）にて韓国の伝統生活文化に関する調査を行った。
(2) 調査の結果得られた知見
・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に朝鮮王朝の宮廷の調度・服飾の分類や展示活用に資する知見を得た。
・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に韓国の伝統的な生活習俗のなかで用いる工芸品の分類や展示活用に資する知見を得た。
(3) 調査研究の成果
・ソウルには朝鮮王朝の宮廷の宮殿・調度・服飾を公開・展示する施設がある。ソウル・全州・江陵には韓国の伝統的な家屋・調度・服飾などを公開・展示する施設がある。これらの施設を訪問・調査し、当館が所蔵する東洋民族列品のうち特に朝鮮王朝の宮廷工芸や韓国の民俗資料に関する有意義な知見を得ることができた。その成果は令和元年度の特集陳列「朝鮮王朝の宮廷文化」の展示に反映した。また今後の東洋館の平常展における展示の参考とする。


全州　慶基堂


江陵　烏竹軒

【備考】
館外調査：韓国（ソウル、全州、江陵）6 月 7 日～ 6 月 11 日
韓国（ソウル）2 年 2 月 12 日～2 月 16 日
特集陳列：当館　平成館企画展示室　2 年 2 月 4 日～2 月 26 日　※2 年 3 月 15 日までの予定が、新型コロナウイルスの感染予防に伴う臨時休館のために会期の途中で終了。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・30年度のインドネシアの調査に引き続き、元年度は韓国の宮廷・博物館・史跡などの調査を行うことで、東洋民族列品のうち朝鮮半島関係資料に関する基礎的な情報を充実させた。 ・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に朝鮮王朝の宮廷工芸の分類や展示活用に資する知見を得た。 ・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に韓国の伝統的な生活習俗のなかで用いる工芸品の分類や展示活用に資する知見を得た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・当館が所蔵する東洋民族列品については、中国資料・韓国資料・東南アジア資料・南洋資料・台湾先住民族資料などから構成されている。これらの資料は、東洋館の平常展示および特集陳列などにおいて展示活用が期待されるため、その分類整理を進めている。 ・従来、ほとんど展示活用されていなかった東洋民族列品については、東洋館リニューアル以降、東洋館の平常展示「アジアの民族文化」や特集陳列などで展示活用されており、展示内容が着実に充実してきている。 ・2 年度以降は、韓国の宮廷工芸・伝統文化に関する調査を継続するとともに、平常展示「アジアの民族文化」における台湾先住民族資料の資料の調査にも取り組みたい。 ・28 年度以降、当館の東洋民族資料にちなんだアジア各地の調査を継続しており、着実に資料の分類整理と展示活用が進んでいるので、引き続き、この調査を行っていく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aキ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究

【事業概要】
本特集は、平成から令和への御譲位、御即位により注目の集まる天皇と宮中儀礼を、「即位礼と大嘗祭」「悠紀主基屏風」「御所を飾る絵画」「年中行事」「行幸と御遊」の５つのテーマによって紹介するものである。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部特別展室主任研究員 土屋貴裕

【主な成果】
(1) 調査の概要
・平成館企画展示室にて特集を開催し、会期は前期、後期に分け、本テーマに沿う列品 35 件を展示し、展示作品の見どころを紹介したリーフレット（カラー、全８ページ）を作成できた。また、通常の解説では分かりにくいさまざまな宮中儀礼を解説パネルとして作成し、理解の促進をはかった。
・悠紀主基屏風は江戸時代に実際に使われ、後桜町天皇の大嘗祭の折に調進された明和元年度のものは現存最古の作例として、きわめて貴重な作品である。当館列品としての公開も初めてで文化財の活用面でも大きな意義を持つ。



平成館企画展示室での展示風景



「天皇と宮中儀礼」リーフレット

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	元年は上皇陛下のご退位に続き、天皇陛下の即位という歴史的な年となり、こうした機会に普段は接することのない天皇と宮中儀礼をテーマとしたことは非常に意義のあるものである。本特集出品作の中には、即位礼や大嘗祭で用いられる高御座、御帳台、また実際の儀式が行われた悠紀殿、主基殿を描いた作品もあり、展示作品から確認する機会が提供できた。会期後半の高御座の一般観覧とあわせ、作品への理解が深められた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本特集にあたり、通常では陳列されない作品の調査を行い、その成果を踏まえて精選したことで、展示作品のレベルの向上、より分かりやすい展示という方針に沿うものである。有形文化財の保存活用に新たな光を当てるものとして、新たな形を提示することができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aク

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「やちむん―沖縄のやきもの」に関する調査研究

【事業概要】
当館所蔵の琉球資料のうち、壺屋焼と推定される一群に関して、外部研究者を招聘して調査研究を行う。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部特別展室主任研究員 三笠景子

【主な成果】
(1)調査の概要
まず、壺屋焼研究の専門家である那覇市歴史博物館の倉成多郎氏を招聘し（7 月 16 日）て専門的見地から指導を受けた。
(2)調査の成果
・明治 17 年(1884)及び 18 年(1885)に沖縄県から購入したとされる当館所蔵の陶磁器（約 30 件）に関する位置付けについて、具体的な教示を得た。その成果は、本館 14 室で開催していた特集「やちむん―沖縄のやきもの」(6 月 25 日～9 月 16 日）に反映した。
・2 年 2 月 14 日には琉球陶器の造形や装飾の展開において影響関係があると推測される薩摩焼の研究者である鹿児島県立歴史資料センター黎明館の深港恭子氏を招聘し、所蔵品の調査、意見交換を行った。
・2 年 2 月 14 日には国内で琉球陶器コレクションを収蔵する佐賀県立九州陶磁文化館の山本文子氏、石洞美術館の林克彦氏を招聘し、当館所蔵品との比較検討によって、意見交換を行った。


倉成多郎氏（那覇市歴史博物館）による調査風景


山本文子氏（九州陶磁文化館）、林克彦氏（石洞美術館）による調査風景

【備考】
調査点数　琉球陶器 25 件、薩摩焼 15 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵品について最新研究に基づいた意見や具体的な教示を得られたことはきわめて大きな成果であった。引き続き、外部研究者の意見をうかがいつつ、有形文化財の保存と活用について調査研究と展示を両立させていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査研究が不十分で活用が図られていない列品について、外部有識者、研究者の指導を仰ぎ、保存と活用をはかっていくことは非常に有意義である。対象資料のように戦災等の原因で歴史的背景を失ったものについてこのような方法はたいへん効果的である。今後も継続して未活用だった列品の展示公開につなげたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aヶ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「伝説の面打たち」に関する調査研究

【事業概要】
当館が所蔵する能面のうち、能面の名手とされる作者の作であるという伝承もしくは銘のある作品について調査研究し、特集展示、図録でその成果を公表する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【主な成果】
(1) 調査の概要
・当館所蔵の「伝説の面打」の名が記された作品のうち、調査と撮影、X 線 CT 撮影を行った。
調査回数は 7 回、調査作品数は 32 件である。
・調査研究の成果を特集展示（2 年 1 月 24 日～2 月 24 日）と図録にまとめ、刊行した。
(2) 調査の成果
・面打(作者)の名手とされながらその実態がわからない「伝説の面打(作者)」の真作はほとんどないにもかかわらず、当館が所蔵する能面には、「伝説の面打」の名が記された作品が多くある。これは面打本人の署名ではなく後世の面打による鑑定銘だと考えられている。その鑑定の根拠を検討することが、伝説の面打の作風を知る手掛かりになると想定し、いくつかの手掛かりを見出すことができた。
・X 線 CT 撮影では、詳細な構造が確認できた。これにより、既存の能面をわざわざ別の能面に作り替えた「改作」の痕跡などの貴重な情報を得ることができた。改作については従来論じらることの少なかったことであり、能面の研究に新たな示唆を与えることができた。
・調査結果をもとにまとめた図録も作成し、成果を特集展示で公表した。月例講演会「能面の造形と魅力」(2 年 1 月 11 日)も行った。



図録「伝説の面打たち」

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	能面の作者である面打に関する調査研究は、芸能史の専門家によってなされているものの、美術史的研究は極めて少ない。本研究は美術史研究の基礎ともなる作家研究として重要であるため、鑑定銘を持つ作品から伝承作者の実像に迫ろうとする点で独創的である。本研究をもとに今後調査を継続し、作家研究としても、また能面の受容に関する研究としても発展することが予想され、広い分野の研究への寄与が見込まれる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館は良質な仮面を多数所蔵しているが、制作年代や作者に関する情報の精査は不十分であった。中期計画にある「収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究」に沿って調査をすすめ、所蔵品の情報の正確な発信という観点でも前進することができた。本研究の成果は、『東京国立博物館図版目録　仮面篇』の増補改訂版刊行の作業の一環としても位置付けられる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aコ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「法隆寺と聖徳太子―法隆寺研究の近代」に関する調査研究

【事業概要】
法隆寺の創建に密接にかかわった聖徳太子と法隆寺の宝物を、当館に所蔵される明治期の模写・模造を取り上げながら紹介する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】
法隆寺に伝わる宝物の模写・模造に焦点を当て、普段あまり展示されない収蔵品の積極的な活用をした。同時期に本館特別５及び４室で開催される特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」をあわせて鑑賞していただくことにより、日本における文化財の保存と活用の歴史に対する理解をよりいっそう深めることが期待される。


展示室風景

【備考】
２年３月 24 日～５月 10 日　本館 14 室　出品件数 13 件
（但し、コロナウィルス感染症対策での閉館中のため、３月末時点ではパネル、題箋等は未掲示。）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展と同時期に開催することにより、明治期における文化財の保存と活用に関する活動の歴史をより立体的に来館者に感じてもらえるであろう展示に繋がる調査研究とすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	通常の展示体系の中では、単独では展示しづらい文化財の活用と、収蔵品と特別展で出品している文化財を相互補完的に展示することで、来館者の展示品に対するより深い理解への手助けとなる調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｻ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」に関する調査研究

【事業概要】

元年度に行った特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」（本館 15 室、10 月 22 日 ～ 12 月 8 日）を充実した展示にするための調査研究。「平家納経」は、広島・嚴島神社が所蔵する国宝で、平安時代・末期に平清盛が奉納した全 33 巻の装飾経である。大正～昭和時代に田中親美が制作した「平家納経」の模本主に二組（益田家・大倉家旧蔵）を比較しながら、その見方・美しさをできるだけわかりやすく適切に展示・解説することを目標として、展示作品や関連資料の調査によって、展示手法、展示構成の検討を行う。また、特集にあわせて図録を発行するため、その調査研究も同時に進める。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子

【主な成果】

(1)作品、関連資料調査

5 月 13 日：嚴島神社にて「平家納経」（原本）を調査した。
7 月 29 日：嚴島神社が所蔵する「平家納経（模本）」を調査した。
8 月 22 日：京都・仁和寺が所蔵する関連資料を調査した。
9 月 18 日：個人蔵の関連資料を調査した。
10 月 16 日：個人蔵の関連資料を調査した。

(2)関連資料の収集（8 月 13 日ほか）

出品作品や関連作品の画像や関連する資料のデータを収集した。

(3)成果とその公開

関連する研究成果を、「明治宮殿の室内装飾に関する一考察」として論文で発表し、学会にて口頭発表した（6 月 30 日）。また、研究成果を掲載する同タイトルの図録を制作した（10 月 15 日）。



「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」図録

【備考】

(1) 作品、関連資料調査　調査件数：15 件、画像撮影点数：150 点
(2) 関連資料の収集　収集資料の件数：42 件
(3) 成果とその公開　公開件数：論文 1 件、口頭発表 1 件、図録 1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「平家納経」は経巻でありながら見返しなどに描かれた絵画や金銀箔を使った装飾があるため、その見方が難しいと考えられている。その作品を、模本と使ってわかりやすく的確に紹介することは重要である。そのための準備となる調査研究は、着実に進めることができた。出品作品のみならず、関連する作品や資料まで幅広く調査したことは、多角的な研究を進めることができたといえる。また、特集展示を以前からの研究の蓄積を踏まえ、その成果を論文で発表できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示を行う以前から準備段階の調査研究を大いに進展することができた。着実に調査を行うことで、関連資料の発掘もでき、研究をより深化させられ、研究成果を論文・口頭発表することもできた。今後もこの同じ方向性で研究を深化させ、中期計画が定める有形文化財の保存と活用、教育活動への寄与を引き続き推進していく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aシ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「近世日本と外国文化」に関する調査研究

【事業概要】

当館では、館蔵品のキリシタン遺物を紹介する特集展示をこれまでに定期的に開催している。30 年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されて以降、キリシタン遺物に対する社会一般の関心が再び高まっており、この機をとらえて今後の展示活用に資するため、当館所蔵の関連作品を含めた調査研究と、展示を実施した。

元年度は、所蔵品の状態確認、新規撮影、調査を行い、その成果報告として展示（11 月 19 日～12 月 25 日、本館特別 2 室）、リーフレット作成配布、講演会を実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂

【主な成果】

(1)　調査の概要

・特集「近世日本と外国文化」(11 月 19 日～12 月 25 日)を開催した。
・月例講演会「江戸時代の美術に見る東西交流」を 11 月 30 日に開催し、参加者数 193 人であった。

(2) 調査の成果

・近年、国内外研究者から注目されるメキシコ製の羽根モザイク画を収めた南蛮漆器「桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕」(H-4473) を紹介した。重要文化財「エラスムス像」(栃木・龍光院) や重要文化財「ブラウ世界図」(A-9360) など展示機会の少ない名品も公開し、好評を得た。
・リーフレットを作成し、5,000 部を刊行するとともに、ウェブサイトで無料ダウンロード PDF を提供した。
・従来展示が困難であった「西洋鍼路図」(A-9350) などの保管、展示方法の見直しを計画、実施した。



展示風景



基礎情報を収集するための新規撮影

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館が所蔵するキリシタン遺物及び近世の東西交流に関する資料の調査及び展示が実施できた。またその成果を、配布物や講演会の形で、国内外に広く一般に公開することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	所蔵品について外部識者の知見を得ることができ、調査研究の内容を展覧事業、教育普及活動に反映することができた。元年度の調査を通して新たに確認できた作品情報について、引き続き調査研究を進め、逐次その成果を展覧会や出版物等を通して、広く一般に発信していく計画である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｽ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究

【事業概要】
当館が所蔵する列品のうち、朝鮮王朝の宮廷関係資料を対象とする調査研究を行い、展示を充実させる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹

【主な成果】
(1) 調査概要
・当館が所蔵する東洋工芸及び東洋民族の列品のうち、朝鮮王朝の宮廷あるいは両班階層に関係があると推察される資料の調査を行った。
(2) 調査の結果得られた知見
・当館が所蔵する列品のうち、朝鮮王朝の宮廷あるいは両班階層が用いたと推察される調度・服飾・建築部材・絵画及び文献資料の分類・用途や展示活用に資する知見を得た。
(3) 調査研究の成果
・当館には朝鮮王朝の宮廷あるいは両班階層が用いたと推察される資料が収蔵されている。これらを調査し、当館が所蔵する東洋工芸及び東洋民族の列品に関する有意義な知見を得ることができた。その成果は元年度の特集陳列「朝鮮王朝の宮廷文化」の展示に反映するつもりである。また、今後の東洋工芸及び東洋民族資料の展示の参考とする。


宮廷儀式図屏風（当館蔵）


特集陳列の展示室風景

【備考】特集陳列：東京国立博物館　平成館企画展示室　２年２月４日～2月26日　※2年3月15日までの予定が、新型コロナウイルスの感染予防に伴う臨時休館のために会期の途中で終了。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・当館が所蔵する東洋工芸及び東洋民族の列品のうち、朝鮮王朝の宮廷あるいは両班階層に関係があると推察される資料に関する基礎的な情報を充実させた。 ・当館が所蔵する東洋工芸及び東洋民族の列品のうち、朝鮮王朝の宮廷あるいは両班階層が用いたと推察される調度・服飾・建築部材・絵画及び文献資料の分類・用途や展示活用に資する知見を得た。 ・特集陳列「朝鮮王朝の宮廷文化」の展示に伴い、図録の刊行を行い、一般市民に対する普及に努めた。 ・2年度以降も当館所蔵品をはじめとする東洋工芸及び東洋民族の資料の調査に取り組みたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・当館が所蔵する朝鮮王朝の宮廷関係資料は、東洋陶磁・東洋漆工・東洋染織・東洋金工・東洋考古・東洋民族などの分野から構成されているが、それぞれの関係性が不透明な状況にある。従って、平常展示や特集展示などの機会を通じて、それら朝鮮王朝の宮廷関係資料の分類整理を進めて、有機的な関連付けを行う必要がある。 ・当館が所蔵する朝鮮王朝の宮廷関係資料は、従来、有機的に関連付けて展示活用される機会が少なかった。この度、特集陳列「朝鮮王朝の宮廷文化」の展示を行ったのを契機とし、当館が所蔵する朝鮮王朝の宮廷関係資料に関する調査・展示を充実させていく。 ・２年度以降も引き続き、これまでの調査研究を通じて得た知見に基づき、更なる調査研究を重ねて東洋工芸及び東洋民族の列品を活用した平常展示や特集を工夫していく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aセ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関する調査研究

【事業概要】
当館が手掛ける文化財保存と修理の役割、成果をわかりやすく広く一般に紹介するため、近年本格修理（解体を含む根本的な修理）を終えた作品を、修理過程とそこで得られた情報とともに展示公開し、理解を促進する。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課長（書跡・歴史室長） 冨坂賢

【主な成果】
（１）　調査概要
元年度は、近年本格修理を行なうことにより取り扱いや保存上の安全性が向上した作品、及び鑑賞性が改善されて展示活用が可能となった作品を対象として、一般の鑑賞者が博物館における保存修復への理解を深めることにつながるような作品の選定、処置内容の解説方法について調査と検討を行った。
（２）　調査の結果得られた知見
対象としたのは、本格修理作品のうち、9 月 30 日までに修理が完了した作品で、修理後十分な期間を置いて状態が安定したことが確認できた作品とした。
このうち、「愛染明王像」（列品番号：A-10574）では、解体で旧裏打ち紙を除去したところ、裏面に施されていた補絹に人物像などの図像が確認され、図像の繋がりから、別の絵の一部が補絹に用いられていたことが明らかになった。また、「単鳳環頭大刀」（列品番号：J-8035）では、X 線撮影による画像分析をもとに、錆の層を除去する処置を実施し、層の下に隠れていた銀象嵌を表出して、文様を明らかにすることができた。このように作品に使用された材料の分析や、旧修理の検証、科学調査をもとにした修理処置の選択は、今後引き続きより良い修理を行ううえで大変重要な知見の蓄積となった。
（３）　調査研究の成果
調査の結果をふまえて、特集展示「東京国立博物館コレクションの保存と修理」の準備を実施した。「十二間星兜鉢」（列品番号：F-16027）や「五彩人物文長方合子」（列品番号：TG-2075）など 9 件は、著しい錆化や旧修理の劣化により安全に展示することが困難であったり、鑑賞にそぐわない作品であった。なかでも「十二間星兜鉢」（列品番号：F-16027）は、修理によってアクリル樹脂を含侵し、保存箱を兼ねた展示具を新調したことにより安定した展示が可能になった一例である。
展示では、修理を終えた作品とともに、修理過程や修理に用いた材料について画像を多用して解説したパネルとともに展示することを計画した。その際、外国人鑑賞者にも伝わりやすい訳となるよう、平易な言葉でわかりやすい文章になるよう工夫し、多くの関心を得ることに留意した。なお、展示期間中、一般向けにバックヤードツアーを予定していたが、新型コロナウイルスの影響により元年度は中止となった。また関連のギャラリートークについても、4 月中に 3 回開催の予定であったが、中止となった。

【備考】
展示：特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」平成館企画展示室　2 年 3 月 24 日～4 月 26 日、展示作品件数 9 件
教育普及事業：①バックヤードツアー　2 年 3 月 27 日
→いずれも新型コロナウイルスの影響により中止

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	保存修復課ではより専門的な内容を含む詳細の報告を別途『東京国立博物館文化財修理報告』を刊行しており、一般向けの平易な展示として特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」を毎年、年度末に行っている（元年度で20回目）。 修理を終え展示が可能になる作品はその都度変わるため、それにあわせた展示の工夫が例年の課題である。元年度は本格修理だけでなく対症修理とその保存方法、CT装置の役割などについても紹介予定であった。修理だけでなく、その前後も紹介することで博物館の文化財保存のありかたについて、来館者の方々への理解促進につなげることができる。2年度に向け、さらに博物館内での保存修復事業の重要性を一般の人々へ分かりやすく伝えるための視点も意識し、修理技術者とともに修理時の資料情報や材料の収集を継続する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	装こう修理のフェローを1名獲得し、外部技術者と協力して修理対応を継続した。また立体作品を手掛ける技術者を常勤職員にとして採用できたことで修理に関する館内の様々な要望に応えることができた。こうした人材をもって、本特集で紹介できる案件の分野が広がり、様々な文化財保存の専門技術者が事業に関わることで、修理の進捗のみならず情報も年々深化している。保存修復課の活動と成果が本特集によって臨場感を持って来館者に伝わり、文化財保存に関する興味関心と理解の向上へつながるよう、毎年新しい視点で鑑賞できるテーマを設け事業を展開する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　近畿地区社寺文化財の調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
京都国立博物館では長年にわたり、京都を中心とした近畿地区の社寺に伝存する文化財の悉皆調査行ってきた。28 年度からは、4 年計画で科学研究費補助金による助成を受け「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」というテーマのもと、大阪・河内地域に存在する社寺の文化財を中心に調査を併せて行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	連携協力室長　淺湫毅

【主な成果】
(1)河内地域の社寺調査
・元年度は 4 年計画の最終年度にあたり、河内長野市に所在する観心寺において第 4、第 5 回目の悉皆調査、八尾市に所在する教興寺、河南町に所在する高貴寺において彫刻作品の調査を行った。
　観心寺悉皆調査　6 月 17 日～21 日
　教興寺彫刻調査　11 月 12 日
　高貴寺彫刻調査　2 年 1 月 23 日～24 日
　観心寺悉皆調査　2 年 2 月 19 日～21 日


観心寺調査風景

(2)過去の社寺調査成果の公表等
・28～30 年度に行った金剛寺における社寺調査の成果を、科学研究費補助金［基盤研究（A）］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<金剛寺編>』として公表した。
・30～元年度に行った観心寺における社寺調査の成果を、科学研究費補助金［基盤研究（A）］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<観心寺編>』として公表した。
・過去に行った京都市内の社寺調査のうち、建仁寺塔頭及び永観堂禅林寺に関して、報告書刊行に向け、これまでに作成した調書の分類・整理を継続して行った。

【備考】
科学研究費補助金基盤研究(A)「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」の 4 年計画の最終年度
(1)
・調査回数 4 回
・本調査の成果を報告書として公表した。
(2)
・『科学研究費補助金報告書　金剛寺編』2 年 1 月 31 日刊行
・『科学研究費補助金報告書　観心寺編』2 年 3 月 31 日刊行
なお、教興寺の調査成果は共同調査者である大阪大学・八尾市より 2 年度に報告書を刊行予定である。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度は、河内長野市の観心寺において蔵に収められている文化財及び諸堂に安置されている仏像の調査・撮影を行った。今回の調査で、観心寺が所蔵する文化財については、一部を除いておおよその文化財に関し調査を行うことができた。また、観心寺、金剛寺においては報告書刊行に向けての調書作成及び写真撮影も一部を除いて終えることができた。また、これらの情報をデジタルデータとして入力し、資料の整理を行った。以上の成果は2冊の報告書として刊行した。以上のことから、年度計画の所期の目標を達成したものと判断される。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究の一環として、河内地域の仏教文化と歴史に関して科学研究費助成事業に申請し、それに基づく調査研究を実施した。本事業は4年計画であり、各年度とも1ヶ所以上の寺院を当該地域から選択し（28～30年度は金剛寺、30～元年度は観心寺）、全研究員参加による悉皆調査を行った。元年度は当初の予定に加え、教興寺、高貴寺の2カ寺において彫刻を中心に調査を行うことができた。また、これらの調査成果を2冊の報告書というかたちでまとめることができた。 過去に行った調査寺院の補足調査に関しては、河内地域の調査に重点を置いていたため十分には行うことができなかったものの、大徳寺の塔頭・龍光院の調査に向け、寺院との調整を行った。また、調書の整理等に関しては継続して行い、データベースへの入力も順調に進んでいる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｲ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　訓点資料としての典籍に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
漢文を訓読するために施された、「訓点」と呼ばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があり、その大半は経典・漢籍・和書などの典籍にみられる。これらに付された訓点により、とくに古代・中世の日本人がどのように本文を読み下していたか、という日本語の有り様が判明する。当館では、「守屋コレクション」に代表される、国内外の良質な古典籍を数多く収蔵することから、それらを中心とする調査研究を行うことにより、得ることのできた成果を展示や講演、及び刊行など、博物館における関連事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長（兼列品管理室長）羽田聡

【主な成果】
(1)典籍の研究には、その特質に応じた専門の学識者が不可欠であるため、当館美術室研究員の上杉智英（仏教学）のほか、調査スタッフに大阪大谷大学教授の宇都宮啓吾氏（日本語学）を客員研究員として迎え、計 6 回の調査を実施した。
(2)調査作品は、重要文化財「大唐西域記巻第一」や重要文化財「内典随函音疏巻第三百七」（以上、館蔵品）、重要文化財「扶桑略記巻第二残巻（真福寺本）」（文化庁長期貸与品）など 20 件に及び、今後の研究にも資するよう、全巻撮影を行った。
(3)上記調査における特筆すべき事項として、当館がインド哲学・仏教学者の松本文三郎（1869～1944）より購入した仏教典籍群である「松本コレクション」は、これまで館外の学識者を交えた調査が行われていなかったが、その本格的な調査に着手したことがあげられ、成果の一部は平成知新館名品ギャラリー（平常展）の展示として公開した。
(4)成果の公開としての刊行は、28 年度に当館が購入した国宝「漢書楊雄伝第五十七」の解題付き原寸大カラー書籍が出版されたことで、広く一般が利用できるようになり、「松本コレクション」中の悉曇（梵字）関係の作品は、当館紀要に資料紹介を掲載することが決定している。


「松本コレクションの名品」展示風景


刊行した『京都国立博物館所蔵 国宝 漢書楊雄伝第五十七』

【備考】
・調査回数及び件数　6 回・20 件
・撮影コマ数　約 180 カット
・成果の公開（展示）　平成知新館名品ギャラリー「松本コレクションの名品」（2 年 2 月 11 日～2 月 26 日）
・成果の公開（配布物）　博物館ディクショナリー「仏教学者のコレクション　松本文三郎の旧蔵品」（2 年 2 月 4 日）　連携協力室　上杉智英
・成果の公開（刊行図書）　京都国立博物館編『京都国立博物館所蔵 国宝 漢書楊雄伝第五十七』（勉誠出版、11 月）
・成果の公開（刊行論文）　宇都宮啓吾「京都国立博物館松本文三郎文庫の明覚・悉曇資料について」（『学叢』42、2 年 5 月刊行予定）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	【備考】欄に記載した調査回数は、2月から3月にかけての春期大学休暇中の調査を新型コロナウィルスの影響により中止したため、30年度と比較すると減じているが、ほかの項目は同等かそれ以上の成果をあげているので、所期の目標は達成していると判断した。なお、成果の公開としての展示「松本コレクションの名品」は本来、会期を3月15日まで予定していたが、同ウィルスの影響により2月26日以降は全館休館となったことを付記しておく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。年度計画中における実績値は、世界的な事情により減じた項目もあるが、過去数か年にわたり、ほぼ同等、かつ継続的に実施できているため、所期の目標は達成していると判断した。新型コロナウィルスの推移は、なお予断を許さない状況にあり、各方面への影響が懸念されるが、2年度以降も無理のない範囲で本プロジェクトを推進していく。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B ウ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　旧家伝来の工芸品に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】関西圏を中心に旧家伝来工芸品の調査を実施することにより、地域の暮らしの在り様を物質的に探るとともに、調査を作品の管理・保存のみならず、寄贈・寄託・貸与に結び付け、博物館の収蔵品と展示の充実を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室長　山川　曉

【主な成果】

(1) 調査

・関西圏を中心に、江戸時代から続く旧家の工芸品の調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。
・5 月・11 月　京都市内旧家にて染織・人形調査、写真撮影を行い、そのうちの 5 点を受贈した。
・5 月・7 月に野崎家塩業資料館にて同館学芸員とともに漆工調査、写真撮影を行い、所蔵状況を確認するとともに、保存や展示活用についての助言を行った。
・5 月・2 月・3 月　神戸市内個人宅にて陶磁・ガラス・石造物調査、写真撮影を行い、所蔵状況を確認し、今後の作品寄託等について検討を行った。
・10 月・11 月　佐藤記念秋水美術館にて陶磁調査、写真撮影を行い、所蔵状況を確認するとともに、保存や展示活用についての助言を行った。
・1 月　神戸市内個人宅にて陶磁・ガラス・石造物調査、写真撮影を行い、所蔵状況を確認し、今後の作品寄贈等について検討を行った。



人形調査風景

(2) 成果内容

・旧家伝来品の調査を行い、今後の保存管理に助言を行った。
・個人コレクションの調査の結果、作品の寄贈を受けた。
・寄贈された作品を、特集展示「子づくし」にて展示した。

【備考】

(1) 染織・人形調査　回数 2 回（調書 6 件、画像撮影 29 カット）。漆工調査　回数 4 回（調書 38 件、画像撮影 415 カット）。陶磁調査　回数 6 回（調査件数 283 件、調書 63 件、画像撮影 1,492 カット）。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	関西圏において戦災の被害が少なかった地域の旧家には、江戸時代から受け継がれる高級工芸品が現在も伝えられている。しかしながら、近年の生活様式の急激な変化により、多くの邸宅や蔵が建て替えられる時期を迎えており、博物館には数多くの調査依頼が寄せられている。本プロジェクトは、それらの調査の要請に応え、旧家の暮らしの物質的な基礎データを蓄積し、研究を進めることである。これまでも日常業務として継続してきた業務ではあるが、プロジェクト化することにより、旧家のかつての生業の聞き取り調査も含め、歴史民俗的な観点からも、美術品をめぐる文化の全体像を把握しようとする問題意識が生まれている。また、本プロジェクトによって、寄贈・寄託という形で収蔵品の充実が進められており、時宜にかなった本プロジェクトには今後も継続する意義があると考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本プロジェクトは、中期計画における、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究の一角を担っている。中期計画の4年目として、着実に調査実績を重ね、基礎データの蓄積を行っている。また、調査の結果当館に作品が収蔵されることで、収蔵品の充実がはかられるとともに、展覧会において陳列することが可能になり、研究成果を広く一般にも発信している。2年度以降も、本プロジェクトを継続して進め、さらなる成果の結実に結び付けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B エ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧会事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　京都周辺の考古遺物に関する調査研究（(4) -①－１）

【事業概要】京都国立博物館の収蔵品のうち考古遺物を学術的に調査研究しその成果を論文や展示という形で発表還元することを目標とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　宮川禎一

【主な成果】

考古室が管理保管する当館蔵・寄託の考古遺物のうち数件を保存科学室で X 線 CT や蛍光 X 線分析装置にかけ古代遺物の素材やかつての修理の様子を明らかにした。その調査で新たな知見が得られた。

その１例を挙げると、館蔵の後漢代の呉王伍子胥画像鏡（挿図）を調査のために蛍光 X 線分析装置にかけたところ通常の青銅器ではありえない鉄やバリウムの反応が見られたケースである。続けて X 線 CT 装置で透過観察した結果、完形とみられていたこの銅鏡が実は残存率 98%程度の破損鏡を高度な手法で修復していたことが判明した。以上のことから青銅器の収集に当たっては事前の科学的分析検討が不可欠であることが明らかとなった。

また借用遺物についても借用先の博物館・教育委員会との共同研究として 4 点の遺物を科学分析（X 線 CT 装置）してその知見を高めた。

元年度から開始した考古遺物の相互貸借事業の前提として当館蔵の西宮山古墳の遺物を改めて整理し、貸出し可能な作品の選定とともに、貸出しには不向きな遺物を抽出してその一部を修理にかけて将来の貸出しに備えることができる準備を行っている。さらにこの相互貸借事情では兵庫県たつの市や鳥取県立博物館に当館蔵の考古遺物を実際に貸出して地元出土品に関する市民への開発活動に寄与している。

相互貸借事業の内訳は、当館からたつの市へ西宮山古墳出土品 48 点を貸出しした。たつの市からは埴輪等 5 点を借用し展示した。当館から兵庫県立考古博物館へ須恵器１点を貸出した。兵庫県立考古博物館からは土師器など 7 点を借用し展示した。当館から鳥取県立博物館へ鳥取県内出土の銅鐸など 13 件を貸出した。鳥取県立博物館からは土師器など 7 点を借用し展示した。

【備考】



呉王伍子胥画像鏡の X 線写真

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館蔵考古遺物の調査に保存科学室の協力によって科学的測定技術の応用が新たに進んできた。 特に青銅遺物や土器類の蛍光 X 線分析装置による材質判定や X 線 CT による内部構造調査が進展してきた。 従来の表面観察にとどまらない考古遺物の修理方針や展示に際する注意点が徐々に蓄積する基礎ができた。 相互貸借事業の前提としての当館蔵考古資料の保存状況を調査して修理方針を立てその一部を実際に修理に出した。 館蔵品の里帰り展示において地元では好評であり、新聞紙上（神戸新聞・朝日新聞）でも取り上げられて遺物遺跡への理解がより高まった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	考古遺物の展示公開が館内の平常展示（夏・冬）2 回行った。相互貸借事業において 81 件の作品を兵庫県と鳥取県の 3 か所で展示公開した。また随時当館蔵考古遺物の展覧会への貸し出しを行い、各地域での考古遺物への理解促進を着実に行っている。さらに相互貸借事業は 2 年度以降も着実に実施される予定である。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧会事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究

【事業概要】京都において製作・享受された各種の人形について、収蔵品の調書作成および画像撮影などの基礎調査を継続的に実施するとともに、各所蔵先における調査も実施し、寄託や寄贈という形で収蔵品の充実をはかる。その成果を加味しながら、恒例展示「雛まつりと人形」に反映させ、伝統的な節供文化の継承に寄与する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長（兼工芸室長）　山川　曉

【主な成果】

(1)個人所蔵先の訪問調査を実施し、寄贈の可否について検討した。また、京都旧家に伝来する節供人形コレクションの基礎調査を継続して実施した。

(2)上記の成果を加味し、恒例の特集展示「雛まつりと人形」を開催し、雛飾りの歴史や各種京人形についてまとめた無料配布リーフレットを作成した。



節供人形コレクション基礎調査風景



個人所蔵先訪問調査風景

【備考】(2)特集展示「雛まつりと人形」2年2月15日～3月22日、展示作品47件
特集展示リーフレット「京人形を楽しむための鑑賞ガイド」5000部

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国際化が進む中で日本固有の生活文化が希薄になっていく中、雛まつりとして知られる節供行事の継承もまた、困難な局面を迎えている。日本の人形文化の多様性は国際的にも例がなく、そこには日本人固有の心性が託されているはずであり、博物館における人形の展示は、その継承への気づきともなる可能性を有している。恒例の展示を待ち望む来館者も多く、少しずつ作品を替えながら特集展示を継続的に実施するために、元年度も収蔵品及び新たな作品の調査を実施した。また、京都周辺には江戸時代の雛飾りを所蔵する旧家も少なくなく、世代交代を迎える中で処分を検討する事例が跡を絶たない。当館に寄せられる相談に応じ、聞き取り調査や実地調査を行うことにより、当館への寄贈やより適切な収蔵先の紹介へとつなげていく予定である。2年度以降も、継続して同様の調査研究を行っていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究の一環として、特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究を実施。高級工芸品の製作地でもあり消費地でもあった京都の特色を、調査研究を通じて得られた知見を活かしつつ、人形を通して紹介する展示につなげていく。国内だけでなく諸外国からの観光客が増加する中、日本の豊かな生活文化の一端を示す雛まつりの展示をするための調査研究をこれからも継続的に実施していく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】

仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剝落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 東京藝術大学の大学院生が行う信貴山縁起絵巻模写制作のため、高精細デジタル画像の撮影及び同絵巻山崎長者巻の原本熟覧調査を 2 度実施した（5 月 30 日・9 月 12 日）。同模写制作に当たっては、東京文化財研究所と当館の共同研究報告書『朝護孫子寺蔵　国宝　信貴山縁起絵巻　調査研究報告書－光学調査編－』の成果に基づき使用する顔料の検討を重ねた。

(2) 広島市立大学芸術学部が進める当館蔵絹本著色両頭愛染曼荼羅復元模写制作に基礎資料を提供するため、高精細デジタルカメラ等の光学機器を用いた原本の顔料調査及び熟覧調査を実施した（9 月 4 日）。

(3) 愛知県立芸術大学が進める聖衆来迎寺蔵絹本著色楊柳観音像復元模写制作の基礎資料を提供するために高精細デジタルカメラ等の光学機器を用いた顔料調査を実施し、制作が進められた復元模写と原本との詳細な彩色の比較検討を行った（9 月 18 日）。



愛知県立芸術大学による聖衆来迎寺蔵絹本著色楊柳観音像模写制作

【備考】

調査回数：4 回（5 月 30 日・9 月 12 日：東京藝術大学調査、9 月 4 日：広島市立大学調査、9 月 18 日：愛知県立芸術大学調査）

調査作品数：3 件（信貴山縁起絵巻山崎長者巻 1 巻、当館蔵両頭愛染曼荼羅 1 幅、聖衆来迎寺蔵楊柳観音像 1 幅）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京藝術大学・広島市立大学・愛知県立芸術大学による復元模写制作のため、当館が撮影した高精細カラー画像・近赤外線画像を提供するとともに、各大学と共同で各種の光学的調査を実施し、そこで得られた成果に基づいて制作当初の顔料を復元的に考察した。こうした文化財の現状模写や復元模写は、未来に継承すべき文化財の現状を顔料や基底材の質感と共に詳細に記録するとともに、現在は経年の劣化などによって失われた文化財の制作当初の姿を明らかにすることで、文化財が持つ比類なき価値を広く共有することが可能となるものである。こうした模写制作に当館が実施する最新の光学機器を用いた調査成果を反映することにより、模写の精度を飛躍的に向上することが可能となる。さらにこうした取り組みを2年度以降も継続し、模写制作を通じて得られる顔料・基底材等の知見を蓄積していくことで、絵画作品を中心とする文化財の素材研究に大きく寄与することが期待できるだろう。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	信貴山縁起絵巻、両頭愛染曼荼羅、聖衆来迎寺蔵楊柳観音像という当館を代表する館蔵品・寄託品について復元模写を制作するにあたり、東京藝術大学、広島市立大学、愛知県立芸術大学とともに精度の高い光学的調査・熟覧を実施し、その成果に基づいて研究会等を重ねながら彩色等の復元的考察を加え、着実に復元模写制作に寄与することができた。2 年度以降も、芸術系大学による復元模写制作に積極的に寄与できるよう、引き続きこれまでと同様の光学的調査をはじめ各種の調査研究を実施することで、中期計画の達成を目指す。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　古代の写経と聖教に関する基礎的研究（(4)-①-1)）

【事業概要】

我が国には、寺院を中心に古代の写経や聖教が数多く伝来している。それは、人文科学全般にとって重要な研究資料であるが、たとえば文学作品や歴史書、古文書などに比較すると、仏教学以外の分野での資料としての利用が低調である。本研究は、当館の主要な蔵品である古代の写経と聖教を基軸に、文化財学的な立場から資料を調査し、多分野での利用に堪える基本情報の提示を目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　野尻忠

【主な成果】

(1) 写経の調査

・館蔵の『大毘盧遮那成仏神変加持経』巻第四を、国文学の専門家と共同調査した。(4 月 18 日)
・園城寺より寄託の「大蔵経」のうち『解脱道論』巻第五・十二を、美術史学及び日本中世史学の専門家と共同調査し、同書の筆跡が、『慕帰絵』巻第九の筆者である実乗院桓信の筆跡と同一であると確認された。(9 月 5 日)
・青蓮寺（奈良県宇陀市）に赴き、所蔵の『称讃浄土仏摂受経』を 3 種調査し、うち 2 種は 8 世紀の書写、もう 1 種は 13 世紀頃の書写であることが判明した。(4 月 25 日)
・奈良大学で開催の研究会及び文化財材質調査会に出席し、写経に使用された金色の蛍光Ｘ線分析を実施した（4 月 26 日)。12 世紀以降の金字経の多くに、純金ではなく真鍮が使用されているという傾向が、より鮮明になった。
・以上のほか、静嘉堂文庫美術館（9 月 20 日)、センチュリーミュージアム（12 月 21 日）に赴き、8 世紀の写経を中心に、筆跡のほか表紙や軸木の状態などを調査した。

(2) 聖教の調査

・泉涌寺より寄託の「泉涌寺勧縁疏」を、国語学及び美術史学の専門家並びに文化財修理技術者等と共同調査し、蝋牋を中心とした料紙の状態を確認するとともに、製作経緯や伝来過程にかかわる知見を得た。(11 月 29 日)
・東大寺経巻聖教調査に職員 2 人が参加した。(6 月 13 日、9 月 3 日)
・仁和寺聖教調査（文化庁主宰）に職員 2 人が参加した。(7 月 29 日・31 日)
・東京大学史料編纂所に赴いて石清水伝来聖教、大宮家伝来聖教等を調査し、新規寄託の候補となっている写本の内容が当時のもとして相応しいことが確認された。(5 月 27 日)

(3) 紙素材文化財一般の調査

・上海博物館（中国）で開催の「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品」展に関連し、唐招提寺に赴いて「一切経」を調査し（7 月 11 日・30 日)、出陳予定の版経の製作地と年代を特定した。
・購入候補となっている「南都寺社古文書・古記録等」「三社託宣」について、原本の詳細調査を数度にわたって実施し（5 月 22 日・23 日・24 日・30 日・31 日、6 月 4 日)、それぞれの製作年代を特定または推定することができた。

(4) 研究成果の開示

・上記の調査や、30 年度までに蓄積された研究の成果の一部は、平常展の展示解説に反映させたほか、特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」をはじめとする展覧会の図録や、会場パネル等で公表した。

【備考】

・野尻忠「華厳経巻第七十（紫紙金字）（口絵解説)」『正倉院文書研究』16 号（11 月 1 日）等 2 件の論文、同「奈良時代の写経の奥深い世界」（白鶴美術館秋季展関連講演会）（10 月 13 日）等 2 件の口頭報告で、研究成果を発表。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度も着実に調査と研究を実施できている。唐招提寺一切経のように、国の指定文化財として既知の経典について基礎的なデータを（一部ではあるが）提示できたほか、青蓮寺所蔵の『称讃浄土仏摂受経』のように、ほとんど世に知られていない8世紀の重要な写経を見出すこともできている。必要に応じて、各分野の専門家の意見を聞く機会が得られていることも、研究の発展のために有効である。研究成果の公表件数も堅調である。一方で、金字経の研究のように、30年度までに着手しながら、今なお手探り状態の事案もある。2年度は、基礎的調査は機会あるごとに実施しながらも、中期計画期間のとりまとめにむけて、重点項目を定めていく必要がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に掲げる収蔵品等の基礎的かつ総合的な調査と研究、及びその成果を展覧事業に反映することは、着実に実施できている。写経や聖教を専門とする研究機関は国内に数少なく、当館が率先して調査を進め、その情報を学界に提供していく責務があるが、展覧事業では一定の発信を実現しているものの、論文や報告書の形での公表は今後より一層、積極的に推進していく必要がある。2 年度以降は基礎的調査を研究へと発展させ、発信にも力を入れていく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査（(4)-①-1)）

【事業概要】
仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品、他の機関・社寺等が所蔵する作品に及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館の所在する奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室長　清水健

【主な成果】
(1) 展覧会に関する調査
・特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」にて展示した文化財につき、外部有識者も交えた調査を実施した(6 月 17 日)。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に係る事前調査を行った(10 月 28 日)。
(2) 外部資金による調査
・科学研究費　基盤研究（C）「染織技法による仏像の研究」（研究代表者・内藤栄）による調査を、中国国内で 4 回実施した（6 月、7 月～8 月、8 月、12 月)。また、国内でも 1 回実施した（2 年 1 月)。
・科学研究費　基盤研究（B）「海洋交易路による仏教流伝形態の研究」（研究代表者・松長有慶）による文化財調査に研究分担者の内藤栄の代理として吉澤悟が参加し、オランダ国内にて調査を行った（9 月)。
(3) 共同研究
・共同研究「聖衆来迎寺所蔵重要文化財鋳銅三具足の製作技法に関する研究」（奈良国立博物館と福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共同研究）に係るＸ線ＣＴ撮影、蛍光Ｘ線分析、三次元計測を含む調査及び検討を行った（9 月 5 日、6 日)。
(4) 経常調査、その他の調査
・米国クリーブランド美術館にて展覧会のクーリエとして滞在中に館蔵品を調査した（5 月)。
・修理寄託中の文化財につき、Ｘ線ＣＴ撮影を含む調査や写真撮影を含む調査を行った（5 月 23 日、6 月 13 日)。
・寄贈の打診のあった文化財の調査を、東京の所有者宅にて行った(8 月 31 日)。
・寄託品の蛍光Ｘ線分析調査を行った（2 年 3 月 4 日)。
・館蔵品のＸ線ＣＴ撮影を行った（2 年 3 月 30 日)。
・収蔵する仏教工芸品・上代工芸品等について随時調査を実施した。


共同研究の調査風景

【備考】
・調査 54 回（うち客員研究員・調査員による調査 22 回、海外調査 6 回）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表するという事業概要に従い、当初の計画に基づき、概ね成果を達成している。元年度は、福井県立一乗谷朝倉遺跡資料館との共同研究（3か年）を開始したことが特筆される。また、29年度より導入されたＸ線ＣＴ撮影装置を用いた調査・研究も実施し、金工品・木漆工品の構造・用材等のデータの蓄積を行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧会に関する調査に加え、継続して行っている奈良周辺の文化財の調査・研究、仏教工芸に関する調査・研究、上代工芸に関する調査・研究について一定度の成果を上げることができた。また、30年度に続いて、Ｘ線ＣＴ撮影装置を活用して模造制作を行うこととなり、着実に成果が実りつつある。 2年度は調査回数の確保に努めるとともに、従来の成果を生かしながら、対象となる文化財の一層多角的な調査を行うなど、計画の遂行に努力したい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　墳墓出土品の調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
当館蔵の墳墓出土品の学術調査を通じて展示活用や研究発信に貢献する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品室長　吉澤悟

【主な成果】

(1) 群馬県白山古墳出土品の調査報告の発行
28 年度より継続している白山古墳（群馬県前橋市）出土品（当館蔵）の調査報告を発行した。同報告では、昭和 29 年の調査に関する追加情報をはじめ、方頭大刀や蕨手刀、銅椀、鉄鏃などの年代や製作地等に関する考察、さらに蛍光Ｘ線による材質分析、ＣＴスキャンを活用した刀の構造調査、和同開珎の３Ｄ計測など、充実した調査成果を公表することができた。

(2) 大和天神山古墳出土品の調査
大和天神山古墳（奈良県天理市）は 23 面の銅鏡（当館蔵。重要文化財）を出土した前期古墳として有名。元年度より島根大学法文学部岩本崇氏の科研費による研究「器物の『伝世・長期保有』・『復古再生』の実証的研究と倭における王権の形成・維持」（30～4 年度）の分担研究として、この古墳出土品の再実測および多方向からの写真撮影などの調査を開始した。年内に 3 回、計 6 日間にわたる調査と、2 回の研究発表会を開催した。3 年後をめどに報告書をまとめて行く計画である。

(3) 盛装男子埴輪の「里帰り」と出土古墳の探索
30 年度に購入した盛装男子埴輪（当館蔵）を当館にて初展示した後、その出土地とされる群馬県に「里帰り」させた（群馬県立歴史博物館。元年度考古資料相互活用事業による）。同時に地元研究者の協力を得て、その形態や製作技法、胎土などの特徴を調査し、製作地もしくはこれを用いた古墳の探索を開始した。


考古資料相互活用事業により「里帰り」させた盛装男子埴輪

(4) 行基墓誌断片の調査成果の発表
奈良時代の僧侶、行基の墓誌断片（当館蔵）に関する調査報告を当館紀要に発表した。さらに東大寺における第 18 回ザ・グレートブッダ・シンポジウム「東大寺と行基菩薩」（11 月 23 日・24 日）にて、調査成果をもとに行基集団に関する口頭発表・シンポジウムを行った。

(5) 中世墓出土品の基礎調査
額安寺五輪塔（忍性塔）埋納品（文化庁蔵、当館寄託品。重要文化財）の実測図作成をすすめ、さらにその関連遺品の調査のため、鎌倉の浄光明寺の五輪塔の実査を行った（科研費「叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの形成」との関連調査）。

【備考】
(1) 研究報告／諫早直人・大江克己・金宇大・降幡順子・山口欧志・吉澤悟「群馬県白山古墳出土品の研究 2」『鹿園雑集』第 21 号　奈良国立博物館　4 月 30 日
(3) 展示／群馬県立歴史博物館　特別展　開館 40 周年記念「集まれ！群馬のはにわたち」（7 月 13 日～9 月 1 日。当館埴輪の展示は 8 月 6 日～9 月 1 日）
(4) 研究報告／吉澤悟「行基墓誌断片を考える―東大寺二月堂本尊光背断片との比較から―」『鹿園雑集』第 21 号　4 月 30 日
口頭発表・シンポジウム／吉澤悟「行基墓誌断片からみた行基集団」第 18 回ザ・グレートブッダ・シンポジウム「東大寺と行基菩薩」（11 月 23 日・24 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵及び寄託品の墳墓出土品に関して、時代に偏ることなく、積極的に調査・研究・発表することができた。特に行基墓誌の調査成果は当館紀要のみならず、東大寺のグレートブッダ・シンポジウムの発表においても広く発信することができた。また、大和天神山古墳出土品や盛装埴輪の調査は、当館のみならず各地の研究者と連携しながら推進する継続的・発展的な事業である。将来につながる研究を本年にスタートできたことも評価されて良いであろう。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	有形文化財の調査研究の一環として、当館の所蔵品・寄託品を中心に、積極的に調査・整理を行った。また館の内外の展示や研究会でその成果を活用することができた。中期計画に従った活動は概ね順調である。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
展覧会開催に際して借用した作品や館蔵・寄託作品、また館外の寺社等の作品のなかから、南都伝来もしくは南都と関わりの深い古代・中世の彫刻を選び、詳細な調書の作成とデジタル高精細画像の写真撮影やX線ないしＣＴスキャン調査を通じ、データの収集と蓄積を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　岩田茂樹

【主な成果】
(1) 館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。作品名は下記のとおり。
(2) 調査を通じて重要な学術的知見を得ることができた。
(3) 特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。一部については２年度以降の刊行物に発表する。

［作品名］
大行寺阿弥陀如来立像（4月14～15日）／個人蔵木造天部立像(4月24日)／個人蔵木造千体仏菩薩立像(4月24日)／館蔵二十八部衆像４躯(5月16日)／藤田美術館木造空也上人立像（6月2日）／海住山寺地蔵菩薩坐像（6月2日）／海住山寺不動明王立像（6月2日）／円照寺阿弥陀如来立像（康雲作）（6月29日)／円照寺阿弥陀如来立像（6月29日）／法華寺大日如来坐像（6月29日）／法華寺鬼子母神立像（6月29日）／法華寺妙見菩薩坐像（6月29日）／東壽院阿弥陀如来立像(8月2～4日)／浄土寺阿弥陀三尊立像(9月2日)／延暦寺薬師如来坐像(9月18日)／法隆寺塔本塑像(9月27日)／法隆寺上御堂釈迦三尊像(9月27日)／大神神社乾漆像残欠(10月30日)／正暦寺菩薩立像（2躯）（10月31日）／聖林寺十一面観音菩薩立像（11月14日）／正寿院不動明王坐像／出光美術館木造地蔵菩薩立像(12月12日)／浄土寺阿弥陀如来立像（裸形）（2年1月6日）

［調査の成果］
館蔵の二十八部衆像、東壽院阿弥陀如来立像、出光美術館木造地蔵菩薩立像等についてはＣＴスキャン調査を行い、目視では確認不可能な構造の把握や、像内納入品の存在など多くの新知見を得ることができた。また、当館が長年行ってきた写真資料の蓄積についても、高精細デジタル画像撮影を行い、多くの成果が得られた。さらに、大阪・藤田美術館木造空也上人立像については、調査の過程で、イギリス王室が所有する古写真（ロイヤル・コレクション・トラスト管理）の中に本像を写したものがあることが判明し、本像がかつて奈良に所在し、明治時代の奈良博覧大会とも関連が推測される貴重な品であることが判明した。

【備考】
・30年度に行った藤田美術館所蔵の彫刻作品に関する調査結果並びに写真を、4月13日から6月9日に開催された特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」の展示・図録・公開講座で公開した。
・藤田美術館木造空也上人立像の調査成果は、元年度の特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」及び特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」（12月7日～2年1月13日）図録や、サンデートーク「古写真と仏像研究」（12月15日）で報告された。
・大神神社乾漆像残欠及び正暦寺菩薩立像、聖林寺十一面観音菩薩立像は、2年度開催予定の特別展「聖林寺十一面観音（仮）」にて撮影画像を図録及び広報媒体に使用し、調査成果を図録・展示に反映させる予定である。
・大行寺阿弥陀如来立像、東壽院阿弥陀如来立像、出光美術館地蔵菩薩立像の撮影及びスキャン調査の成果は、元年度刊行予定の豪華図録『快慶』において公表する。
・30年度に行った法徳寺の諸尊像に関する調査で得られた知見並びに撮影した写真は、7月13日から9月8日に開催された特別陳列「法徳寺の仏像」の展示・図録で公開された。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査の成果は、元年度発行の刊行物や展示に反映された。特に元年度は、特別展、特別陳列で奈良に関係のある彫刻を数多く展示することができ、その調査過程で判明した新事実を図録や講座等で積極的に公表することができた。元年度中に行われた調査で得られた知見や、撮影された写真は、2年度以降に開催の特別展や特別陳列、あるいは講座等に反映させる予定である。計画に対し、十二分に成果が得られたと言える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	30年度に引きつづき、南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、Ｘ線ＣＴ等の光学的手法による調査を行っており、データの収集・蓄積に十二分の成果をあげている。調査によって得られた知見についても、積極的に公表しており、中期計画の4年目として、着実に事業を継続している。今後も同様のペースで事業を進めるように努める。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cヵ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】

東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵及び保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、併せてデジタルコンテンツの作成を行うものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 30 年度末に刊行した東京文化財研究所との共同研究報告書「朝護孫子寺蔵　国宝 信貴山縁起絵巻－光学調査編－」の成果に基づき、美術史的所見や模写等の関連資料を総括的に盛り込む報告書「信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－」を元年度末に刊行した。

(2) 24 年度から継続的に実施してきた国宝綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）を対象とする光学調査の一環として、當麻寺本堂厨子安置裏板曼荼羅の追加調査及び當麻寺本堂厨子安置裏板曼荼羅の詳細な分割撮影及び顕微鏡写真撮影を実施した（12 月 9・17～19 日）。



當麻寺裏板曼荼羅調査

【備考】

調査回数　1 回(4 月 23 日)、調査作品数　1 件（當麻寺本堂厨子安置裏板曼荼羅　1 面）
刊行物　『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－』2 年 3 月 31 日刊行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	16年度から継続的に実施してきた東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づき、平安絵巻を代表する名品である国宝信貴山縁起絵巻について光学的調査の成果報告書第2冊の元年度中刊行に向けて調査データの整理・分析を進め、編集作業を進めることができた。また24年度から共同研究の一環として継続的に実施してきた国宝綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）の光学的調査について、原本と密接な関係にある當麻寺本堂厨子内安置裏板曼荼羅の追加調査を実施することができた。これら精度の高い調査データは、東京文化財研究所の研究員とともに詳細な分析を加え、現在刊行を計画中の綴織當麻曼荼羅に関する調査成果報告書において広く公表する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	16年度から協定を結んで進められてきた東京文化財研究所との共同研究に基づき、平安絵巻を代表する信貴山縁起絵巻の調査報告書第2冊を元年度末に刊行した。さらに、24年度から継続的に実施してきた国宝綴織當麻曼荼羅の関連調査を実施し、その成果として得られた画像データを着実に蓄積することができた。今後も国宝綴織當麻曼荼羅の共同研究報告書刊行に向けて、さらなる精度の高い関連調査を継続していきたい。また、高精細デジタルカメラ、蛍光エックス線分析器、エックス線CT分析器など、当館にすでに設置されている光学機器も積極的に活用しながら調査対象として春日宮曼荼羅等奈良ゆかりの仏教絵画を積極的に取り上げ、彩色の施された文化財に関する総合的な研究と情報の共有という広い枠組みの中で検討を重ねることで、中期計画の達成を目指した更なる進展を図りたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cキ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」展覧会開催に伴い、教育普及的観点から展示手法を調査・研究する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　中川あや

【主な成果】

(1) 多様な来館者層が展示を楽しめる観覧補助ツールの調査・研究
　親子や外国人観光客など様々な来館者が仏教美術の作品を楽しみながら観覧できるようなツールを、他機関の事例を調査した上で開発し、ワークシート２種、ハンズオン１種（以上４言語対応）、図録１種を製作した。また、会場の題箋・パネル類において、平易な語調やキャラクターによる一言解説など、新たな手法を提示した。

(2) 来館者を対象とした展示評価の実施・研究
　来館者の反応を評価するため、会場での行動追跡調査、アンケート調査（日・中２言語）を実施し、結果の分析を行った。

(3) 動物図像を含む仏教美術作品の集積
　動物が表された彫刻、絵画、書跡、工芸、考古作品を65件展示した（うち国宝5件、重要文化財18件)。時代は飛鳥時代から江戸時代におよび、初出陳の作品や、普段出品機会の少ない作品などを盛り込み充実した展示内容を公開することができた。



展覧会チラシ


展示室内のお絵描きコーナー


ワークシート（英語版）

【備考】
・作品に関する事前調査　８回
・公開講座　１回
　中川あや「親子講座　どうぶつえんのわくわくガイド」（7月27日）
・絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」（8月17日）
・第48回夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」（8月21～23日）
・展覧会図録『わくわくびじゅつギャラリー　いのりの世界のどうぶつえん』　奈良国立博物館　7月12日刊行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展覧会では69,165人という想定以上の来館者数が得られ、特にこれまで当館に来館機会の少なかった若年層と、近年増加傾向にある外国人観光客の割合が通常の特別展・特別陳列に比して高かったことが、独自性の高い展覧会として評価できる。また、新規に開発した各種観覧補助ツールにより、作品に関する来館者の対話が生まれ、仏教美術への理解や親近感が促進されたことが伺われた。これは博物館展示における新たな手法として、発展性を持つものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館の特色である仏教美術に関して、専門性を保ちつつ親しみやすい手法で広く一般に発信するという目標を達成することができた。また、来館者を対象とした展示評価によってその効果も確認され、今後の展覧会に資するデータを得ることができた。今後も来館者のニーズを敏感に把握し、多様な来館者にとって理解がしやすく、かつ質の高い展示の企画へとつなげたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cク

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
仏教美術に関する有形文化財の調査研究の一環として、奈良・法徳寺に近年寄進された約 30 軀の仏像の美術史学的及び自然科学的研究を行い、その成果を特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　山口隆介

【主な成果】

(1) 法徳寺仏像群の調査撮影及びＸ線ＣＴスキャン・蛍光Ｘ線分析調査を実施した(6 月)。
　これまで基礎的な情報がほとんどなかった当該仏像群の全体像を把握するとともに、実査に基づく調書の作成及び高精細デジタルカメラによる写真撮影を行うことができた。また、Ｘ線ＣＴスキャン・蛍光Ｘ線分析調査により、構造の詳細並びに金銅仏の金属組成が判明した。

(2) 東京文化財研究所にて売立目録デジタルアーカイブを用いた法徳寺仏像群の伝来に関する調査を実施した(5 月)。
　木造地蔵菩薩立像について、明治 39 年(1906)に興福寺を離れて以降、昭和 16 年(1941)に池田庄太郎の所有であることが確認できるまでの間の所有者が、都筑馨六であったことが判明した。


会場風景

(3) 以上の成果をもとに、特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」を企画立案し、実施した。同展の展覧会図録において、各像の美術史学的及び自然科学的調査から得られた知見を報告するとともに、展示会場のパネルや題箋にも反映させた。

【備考】
(1) 元年度実施した調査の回数：4 回
(2) 論文等：山口隆介「地蔵菩薩像が旅した一世紀 ―『法徳寺の仏像』に寄せて―」（特別陳列図録『法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―』巻頭文、7 月 13 日）
(3) その他調査・研究の実績等：公開講座「近代を旅した仏たち ―奈良ゆかりの仏像を中心に―」（於奈良国立博物館講堂、8 月 24 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術を中心とした文化財の展示を活動の中核に据えている当館にとって、これに関連する多彩かつ魅力的な展示の企画立案及び実施は、社会的な要請がもっとも多い業務である。こうした認識のもと、南都伝来あるいはそうと推測される仏像が法徳寺にまとまって寄進されたことをひとつの契機として、これらの美術史学的及び自然科学的調査を実施し、その成果を展覧会に結びつけた本プロジェクトは、博物館における調査研究とその成果の公表の理想的なかたちといえる。これまでその存在さえ認知されていなかった仏像群の基礎的な情報を、高精細な写真とともにいち早く公表し、さらには、展覧会図録にＸ線ＣＴスキャン調査で得られた画像を豊富に盛り込むことで、最新の成果を広く内外に発信することができた。なお、法徳寺の仏像は長らく個人所有だったこともあり、保存状態が良好でない作品が多い。2年度以降、本プロジェクトで得られた研究成果を活用しながら、計画的に保存修理を実施していく予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」の企画立案から実施に至る過程における調査研究は、「有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究」という中期計画に沿うものであり、その点において着実に実績を積み重ねている。2 年度以降も将来の企画展示の充実を図るべく、他機関とも積極的に連携しながら調査研究を継続し、着実な成果を挙げていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C-ケ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ケ　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
春日大社摂社若宮社の祭礼であるおん祭の歴史・伝統と、春日信仰に関連した美術作品を紹介する展覧会。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　北澤菜月

【主な成果】
(1) 京都府立京都学・歴彩館所蔵「原家寄贈資料」に含まれる、春日大社関係資料の調査
江戸時代後半に春日大社の式年造替に絵師として関わった京都の原家には、春日大社の式年造替と原家の画事に関する史料が伝来した。京都府立京都学・歴彩館が所蔵する原家寄贈資料の一部について詳しい調査を行い、本年の特集テーマにをふさわしい作品を選定することができた。
(2) 春日大社所蔵「原家寄贈資料」及び春日大社式年造替関連資料の調査
京都の原家に伝えられた春日大社の式年造替に関連する資料の一部は春日大社にも奉納されている。これに含まれる未紹介の史料や絵画粉本類を調査した。また、関連する春日大社所蔵粉本類もあわせて調査し、本年の特集テーマにふさわしい作品を選定することができた。
(3) 以上の(1)(2)の調査成果により、元年度の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の特集テーマ「春日大社にまつわる絵師たち」の内容を大変充実したものにできた。そのなかで、従来未紹介であった春日大社所蔵の資料を多数展示し、広く紹介することができた。



（展示風景）

【備考】
・調査：京都府立京都学・歴彩館　1回（2点）
　　春日大社　1回（22点）
・論文等：北澤菜月　「おん祭と春日信仰の美術―特集　春日大社にまつわる絵師たち―」（特別陳列『おん祭と春日信仰の美術』図録　展示概説、奈良国立博物館、12月）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（12月7日～2年1月13日、奈良国立博物館東新館）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本展は春日大社の伝統行事「春日若宮おん祭」を紹介する例年の展覧会であるが、本年の展示では「春日大社にまつわる絵師たち」を特集テーマとした。おん祭を描いた絵画を集めて展示するとともに、これまでの研究で紹介されることのなかった、江戸時代に式年造替に関わった絵師に関する資料群の調査を行い、その存在を評価し、展示を通じて広く公表することができた。例年、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、祭礼の一部を取り上げてテーマ設定がなされることが多かったが、元年度は絵師にスポットをあてることによって、未紹介の資料を多数紹介しながら、新しい視点で展覧会を構成することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「おん祭と春日信仰の美術」は、平安時代以来の長い歴史を持ち、重要無形民俗文化財である「春日若宮おん祭」の歴史と、あわせて春日大社に対する信仰を紹介する展覧会であるが、毎年、新たな切り口を見出し、展覧会を通じてその多様な魅力、歴史・文化における重要性を紹介することができているといえる。本年は「春日大社にまつわる絵師たち」を特集テーマとして、新たな視点の展示を示すことができた。今後も、祭礼や信仰の様々な側面に関する研究を行い、新たな知見を提示していく必要がある。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cコ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	コ　特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】

昭和 10 年 (1935) に撮影された法隆寺金堂壁画の写真原板の寄託を受け入れたことを契機に、明治時代初頭以降 150 年にわたる文化財写真の撮影の歴史を通史的に取り上げる展覧会を実施した。あわせて今年度に法隆寺金堂壁画保存活用委員会の活動の一環として高精細デジタル撮影が行われた法隆寺金堂外陣壁画第一号壁について、原寸大に出力して最新の成果を広く公開した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　宮崎幹子

【主な成果】

(1)文化財の指定、修理、寄託にともなう迅速な公開と関連資料の紹介

27 年度に重要文化財に指定された法隆寺金堂壁画の写真原板は、法隆寺所蔵の原寸大分割撮影写真 363 枚と、撮影を請け負った京都の美術印刷会社便利堂所蔵の全図・四色分解・赤外線写真 83 枚からなる。これらは指定後の修理に引き続いて元年度より高精細デジタルスキャニング事業が実施されており、写真原板をもちいた作業が完了したことを受けて 8 月末に奈良国立博物館へ寄託された。この機会に写真原板とあわせて明治時代に文化財の写真撮影がはじまって以降の代表的な事例を取り上げ、文化財の記録作成と保存の重要性をあらためて指摘した。国庫補助事業による修理の一環としてはじめて実施されたデジタル化の成果をいち早く公開し、社会へ還元することも叶った。

(2)展示内容の独自性

今回のような趣旨の展覧会は近年例がなく、希少な文化財を国民に広く紹介できた点において大きな意義があった。デジタル化の成果の公表に際しては、次の二つの主体が関わっている。まず文化財活用センターの協力を得てスキャニング画像を壁画一面に接合する作業を行い、活用の幅を大きく広げた。また元年度より当館と法隆寺、国立情報学研究所高野研究室と共同研究の覚書を締結し、その活動の範囲で接合画像をもちいたコンテンツを二種類制作した。これらを特別陳列の会場で発表した。また元年度、高精細デジタル撮影が行われた法隆寺金堂外陣壁画第一号壁も原寸大で出力して展示した。以上の展示内容、協力体制の構築は、いずれもこれまでにないかたちのもので、博物館活動の幅を広げ深めた意味において高く評価できる。



「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」ポスター

【備考】

事前調査・撮影：

東京国立博物館（2 回）、東京大学史料編纂所（2 回）、山形県立図書館（2 回）、お札と切手の博物館（2 回）

公開講座：

「文化財写真の軌跡―150 年のあゆみ―」宮崎幹子　2 年 1 月 11 日（土）　奈良国立博物館

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	法隆寺金堂壁画の写真原板は大半がガラス乾板だが、近年ガラス乾板は歴史資料としての重要性が指摘されており、わが国における文化財写真撮影の歴史を代表する写真原板を公開することは時宜に適っていた。また文化財写真とその撮影の歴史を正面から取り上げた展覧会は近年例が無く、独自性も高い。さらに出陳品のひとつである東京国立博物館所蔵の台紙装写真が、イギリス王室所有のアルバム装写真と同じ写真原板から作成された紙焼き写真であることを突き止め、撮影年代の下限が明治14年（1881）であることを確認した。これはわが国における文化財写真の歴史上極めて重要な発見であり、撮影年代の確定を含めてさらなる研究の進展が期待されている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上記の台紙装写真は関連情報の収集をさらに進めることにより、撮影の背景が詳しく判明することが期待されており、研究の必要性が高い。また当機構内には未整理、未調査の写真資料が大量に残されており、それらを今後丁寧に読み解いていくことで、文化財の記録作成と保存の歴史が解明されてゆき、今後の博物館活動にも大きく寄与するものと思われる。そのひとつの契機となった展覧会であった。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究（(4) -①-1)）

【事業概要】
Ｘ線ＣＴスキャナ、３Ｄデジタイザ等を使用した有形文化財の構造及び技法を調査し、その成果を展覧事業及び教育活動に資する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

(1) 展示関連作品の調査

展示のために借用した作品の構造技法及び保存状態を確認するため、Ｘ線ＣＴスキャナを使用した非破壊調査を実施した。例として、大報恩寺所蔵の十大弟子立像全十軀、福岡県内出土の銅戈、鉄戈、鉄剣の調査を行い、一部については破断面の蛍光Ｘ線分析も行った。いずれも、保存状態に異常がないことが確認された。今後は、作品担当者、所有者と共に構造及び製作技法に関する研究を進めていく。

(2) ３Ｄプリンタによるレプリカの製作

更紗の図案染めに用いるために木版の３Ｄデジタイザによる計測を行い、得られたデータに基づいたレプリカを３Ｄプリンタで製作した。このレプリカは、特集展示「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」に関連する「茜染めワークショップ」（8 月 10 日開催）にて、茜の模様染めの体験学習に活用した。

また、過去の計測データを使用して阿弥陀如来坐像のレプリカを製作した。このレプリカは上下に分離でき、断面の年輪から一木造であることが分かるようになっており、館内のミュージアムトーク及び視覚障がい者を対象とした館外イベント（「みんなでふくし&ふくふくプラザまつり」、12 月 7 日開催）等で活用した。


木版の三次元計測風景

【備考】
・Ｘ線ＣＴ調査件数 108 件、調査回数 214 回
・三次元計測調査件数 6 件、調査回数 9 回
・論文
田村史子、塩川博義、中川一人、渡辺祐基「中部ジャワのガムランにおける『ゴング』類の分類 1 肩高水平置き『ゴング』〈Kenong クノン〉と〈Bonang ボナン〉の形と音の特性」『筑紫女学園大学人間文化研究所年報 第 30 号』（8 月）
大西智洋、大橋有佳、渡辺祐基、當山綾乃「黒漆山水楼閣葡萄沈金中央卓の保存修復と光学分析調査」『浦添市美術館紀要 第 15 号』（2 年 3 月）
・関連展覧会
特集展示「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」（7 月 30 日～10 月 20 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度は114点の文化財の調査を実施し、各種文化財の保存状態や内部構造に関する新たな知見を得ることができた。また、得られたデータの一部をレプリカの製作や研究紀要への掲載を通じて公表し、研究成果の普及に努めた。視覚障がい者のための取り組みの一環として実施した触れるレプリカを用いたイベントが好評であったことは特筆すべきであり、今後も積極的に活用していく予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、これまで各種文化財の構造技法解析を実施し、文化財の製作技法に関する理解を深めてきた。元年度は三次元データの収集を重点的に実施した。2 年度には、これらのデータの分析を進め、各種文化財の構造技法の特徴を明らかにする予定である。さらに、展示及び学会発表等によって研究成果の普及に努める。また、レプリカ製作等によって、すべての人が楽しむことのできる展示・解説方法を検討していく。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dイ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	近世キリスト教に関する研究（(4) -①-1)）

【事業概要】
日本の近世（安土桃山時代から江戸時代まで）の時代性を特徴付けるキリスト教の日本伝来と禁教に関する作品の展示等を通じて、近世日本におけるキリスト教の歴史や信仰に関する研究成果を発信する。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室研究員　松浦晃佑

【主な成果】
(1) 展覧事業
29 年度からの継続事業として、「キリスト教の伝来と禁教」というテーマで、キリスト教の日本伝来から明治時代にキリシタン高札が撤廃されるまでの歴史を、観覧者がたどれるように作品展示を行った（4 月 1 日から 2 年 3 月 31 日まで）。30 年度までは半年間程の展示であったが、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が UNESCO 世界文化遺産に登録され、日本のキリスト教の歴史や信仰のあり方に対する関心が高まったことを受け、元年度より通年展示を始めた。
(2) 資料調査
福岡県・久留米市埋蔵文化財センターにて、キリスト教関連の考古遺物の調査を行った（10 月 18 日）。久留米は江戸時代初めに禁教令が発布されるまで、キリシタンが多く生活していたところであり、城下町には教会も建てられた。城下町遺跡から発掘された「十字浮文軒平瓦」は、キリシタンの生活の様子をうかがわせるものである。本品は 2 年度の展示にて公開する予定である。
(3) 研究成果の発信
研究論文「寛永十七年マカオ使節の嘆願書に関する一考察」（当館『東風西声』15、2 年 3 月）を発表した。江戸幕府がマカオのポルトガル人との交易を拒否した、いわゆる「鎖国」の契機となる事件を取り上げ、近世日本の対外関係におけるキリシタン禁制を、日本語史料と欧文史料から論じた。


久留米市埋蔵文化財センター所蔵「十字浮文軒平瓦」の調査（10 月 18 日）

【備考】
・調査回数：1 回（10 月 18 日、於：久留米市埋蔵文化財センター）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がUNESCO世界文化遺産に登録され、日本のキリスト教の歴史や信仰のあり方に対する関心が世界的に高まるなか、日本人あるいは外国人の来館者に向けて、近世日本のキリスト教の歴史、キリスト教徒の信仰を作品展示にて紹介できた。また、近世日本のキリスト教の歴史で重要な場所であった九州で、通年展示することができた。さらに、研究論文も公表することができ、一般に広く研究成果を発信できた。 近隣の機関の協力を得ながら、2年度も展覧事業を行う予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした文化財についての展示及び調査研究の一環として、近世日本の文化交流にとって非常に重要なキリスト教の歴史を、展覧事業と研究成果の公表を通じて、広く一般に伝えることができた。 世界的に関心の高い日本のキリスト教の歴史について、2年度も継続して展覧事業を行う予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｳ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究（(4) -①-1)）

【事業概要】
全国の高等学校には現在、構内遺跡出土品、発掘調査出土品等々、様々な来歴の考古資料が保管されている。高等学校所蔵考古資料の実態把握は、考古学研究上の重要性に加え、社会史的、教育史的意義を有する。しかしながら、考古学的知識を有する教職員の不足から、十分な管理、活用が行われているとはいえない状況にある。本研究は、高等学校所蔵考古資料の更なる活用に向けて、全国的な調査を実施し、その成果を展示、教育普及活動等の博物館活動を通じて広く公開するとともに、高等学校と博物館の効果的な連携活動について研究するものである。

【担当部課】	交流課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　今井涼子

【主な成果】
（1）「全国高等学校歴史学フォーラム」の実施
・30 年度同様ポスター発表形式で実施し、7 県 7 校（うち、福岡県 1 校）が発表した。およそ 300 人が来場した。(8 月 4 日)
・30 年度のフォーラム終了後、参加生徒に感想を聞いたところ、来場者への解説に追われて他校の発表を聞くことができなかった生徒が非常に多かった。このため、元年度は開場前に 1 校ずつリハーサルを行い、参加生徒全員が他校の発表を聞く機会を設けた。
・参加生徒相互の交流を促進し、互いの研究活動の充実につなげることを目的に、別室で意見交換の場を設けた。参加生徒を 4～5 人ずつ班に分け、各班に当館職員 1 人が進行役としてつき、歴史学フォーラム参加の感想や準備の様子、日ごろの研究活動の状況等について意見交換を行った。引率教員は教員のみで意見交換を行った。初めての試みだったが、参加生徒、引率教員、進行役を担った当館職員、いずれからも概ね良い評価を得た。今後も継続して意見交換の場を設ける予定である。


全国高等学校歴史学フォーラムの様子

・事業趣旨にご賛同いただき、公益財団法人九州国立博物館振興財団の後援、太宰府天満宮の協力を得た。
（2）他機関が実施した事業の視察
・佐賀県で開催された第 43 回全国高等学校総合文化祭郷土研究部門の発表を視察した。(7 月 30 日) 全国高等学校総合文化祭は毎年各自治体持ち回りで開催しているが、郷土研究部門は必ず設けられるものではなく、活動するクラブが非常に少ないことがうかがえる。全国から 25 校（研究発表 21 校、パネル掲示 12 校）が参加して行われた。視察したのは 3 日間の日程のうち生徒が研究発表を行った第 2 日目のみだが、日程の構成や研究発表の進め方、パネル掲示を含む会場配置など、「全国高等学校歴史学フォーラム」の参考になった。
・静岡市立登呂博物館の常設展および体験活動を視察した。(6 月 15・16 日) 登呂博物館は体験型博物館で、常設展会場や屋外に体験補佐員が常駐し、稲作に伴う様々な作業の体験をサポートしている。今後、「全国高等学校歴史学フォーラム」のプログラム中に学習効果と満足度の高い体験事業を組み入れることを目的に、運営状況の聞き取り調査と現場状況の視察を行った。

【備考】・「全国高等学校歴史学フォーラムの実施について」『東風西声』第 15 号 2019

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	科学研究費助成事業の3年計画の3年目である元年度は、30年度実施事業の成果ならびに他機関実施事業の視察成果をふまえ、「全国高等学校歴史学フォーラム」に新たなプログラムを加え、実施内容を充実させることができた。しかしながら、担当する国際交流事業や特別展の準備のため、高等学校所蔵考古資料の調査や高等学校との連携事業の実施には至らなかった。 引き続き、高等学校との継続的な博学連携事業の実施方法を検討し、「全国高等学校歴史学フォーラム」に成果を反映させていく予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。元年度は、「全国高等学校歴史学フォーラム」において高校生と博物館職員が意見を交わす機会を設け、幅広い世代の人が博物館で語り合う機会を提供することができた。 一方で、3年間の研究結果を取りまとめ、他機関で参考にできるような形に整理する予定だったが、担当する国際交流事業や特別展の準備のため、取りまとめには至らなかった。 引き続き、他機関の取り組みについての取材研究を進めながら、長期的に継続可能な博学連携事業のあり方、内容について検討を進めていく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	「山梨・釈迦堂遺跡の縄文文化（仮）」に関する調査研究

【事業概要】
元年度開催の特集展示「縄文王国やまなし」の開催に向けた調査研究

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　志賀智史

【主な成果】

(1) 資料調査

・重要文化財釈迦堂遺跡出土品を所蔵する山梨県釈迦堂遺跡博物館で調査を行った。釈迦堂遺跡博物館が改修工事を行う関係で、常設展示作品の一括借用が可能となった。また、釈迦堂遺跡博物館の紹介により、山梨県内自治体の所有する優品を厳選して調査、借用することができた。

(2) 特集展示「縄文王国やまなし」

・縄文文化が最も高揚した時期と地域である縄文時代中期の山梨に焦点を当てた展示とした。
・山梨県内 8 施設より土器と土偶を中心に、石器、石製品など総数 68 点を展示した。釈迦堂遺跡博物館の全面的な協力が得られたことから、展示品の半数以上の 39 点が重要文化財となった。
・文化交流展示室第 3 室を会場とした。縄文文化は地勢との関係が深い文化であるため、壁付ケースを黒のシートで覆い、壁面上方に甲府盆地から見える周囲の山並みの写真を張り、会場を甲府盆地に見立てた。
・展示品は、全面に立体的な装飾を持つ土器が中心であることから独立ケースで展示し、四方から鑑賞できるようにした。そのため、来館者に土器の造形美を印象付けることができた。
・周囲の壁面には 8 つのコラムを掲出し、高揚期の縄文文化の背景等を解説した。
・所蔵機関の協力を得て、会場内は全て写真撮影可とした。
・展覧会図録は考古学者によるコラムに加え、考古学者以外からのコラムを加えることで一般の方々に親しみ易い内容とした。図録は一般書店でも販売した。
・ミュージアムトークは 2 回実施した。第 1 回は、釈迦堂遺跡博物館の学芸員により山梨の縄文文化の魅力を解説した。第 2 回は、縄文土器の作り方を解説し、普及事業用に借用した土器片のハンズオン体験を行った。
・地域連携事業として、福岡県大野城市の大野城心のふるさと館においても同一期間で同一タイトルの展示を行い、相乗効果を狙った。
・関連イベントとして、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」事業による講演会と縄文土器の拓本カード製作等の体験イベントを行った。また映画「縄文にハマる人々」の無料上映会とトークイベントを行い、普及啓発に努めた。


展示会場風景



展示図録

【備考】
ミュージアムトーク 2 回の参加者：合計約 60 人
日本遺産の講演会と体験イベント参加者：合計約 100 人
映画とトークイベント参加者：合計 142 人

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	縄文文化への関心が高まっているこの時期に、釈迦堂遺跡博物館の改修工事に伴う一時閉館により、重要文化財の土器や土偶の一括借用ができたことは、絶好の機会であった。釈迦堂遺跡博物館の全面的な協力により、山梨県内の自治体との借用交渉も順調に行うことができ、より良い展示内容となった。縄文文化が低調な九州において、魅力ある展示を行うことで、縄文文化を再認識できる機会を設けることができた。地域連携や日本遺産関連イベントを組み合わせることで、普及啓発を効率良く行うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき本調査研究を行った。展示の構成を、1.土器と土偶の造形、2.土器の制作、3.集まる各地の特産品、4.繁栄のみなもと、とすることによって、美とそれを生み出した時代背景に迫ることができ、奥深い展示内容とすることができた。また、弥生時代の最先端地域であった福岡において、縄文文化の最盛期の品々を展示することにより、改めて両文化を考えるきっかけを作ることができた意義は大きい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dオ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	水中遺跡の保存活用に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】

本事業は、国内外における水中遺跡の調査手法等の検証を行い、その結果をもとに 30 年度から 5 年計画で実施される予定の『発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－』の作成に資することを目的とする。奈良文化財研究所は、作業部会・研究集会の実施と『てびき』作成に向けた検討、当館は、国内の水中遺跡に関する保存・活用手法の検討、諸外国における水中遺跡保護に関する最新情報の収集などを行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　小泉惠英

【主な成果】

元年度の事業は、①『発掘調査のてびき―水中遺跡調査編―』の作成業務、②国内の水中遺跡に関する保存・活用手法の検討、③海外における水中遺跡保護に関する最新情報の収集、の 3 課題に分けられた。

課題①：

主に奈良文化財研究所が担当し、「てびき」の章立て案と内容の検討のため作業部会（協力者会議）を 4 回開き、2 年 2 月に滋賀県大津にて全国の自治体職員を対象とした研究集会「水中遺跡保護行政の実態 II」を開催した。当館は、「てびき」で使用する資料・アーカイブの作成や研究集会でポスター発表を行なった。

課題②：

当館が中心となり、「A.国指定史跡周辺の水中遺跡に関する保存・活用手法の検討」と「B. 国内の水中遺跡に関する保存・活用手法の検討」を実施した。A.については、長崎県松浦市において、史跡鷹島神崎遺跡周辺で松浦市と琉球大学が実施した現地保存とモニタリング作業の検証や、海外の現地調査の事例についても資料を集めた。B.については、主に 3 件の水中遺跡に関するプロジェクトを実施した。北海道上ノ国町では、30 年度に引き続き幕末に薩摩藩が建造した昇平丸の推定沈没地点を中心とした地域の水中文化遺産の探査を行った。探査手法の検証の一環として実施した空中ドローン搭載グリーンレーザーによる海底の地形測量は、日本初の事例である。これまで船が入ることのできなかった浅海底の新しい調査手法として注目に値する。鹿児島県徳之島（伊仙町・天城町・徳之島町）では、3 町と共同で潜水調査中の遺跡位置確認の方法などを検証した。福岡県新宮町の相島海底遺跡では、発掘作業、引き揚げ遺物の調査や保存処理作業、遺跡の活用プラン策定に向けた助言・指導を行った。

課題③：

水中遺跡の調査・保護・管理・活用について最新の情報を収集することを目的に、6 月にフランスで開催されたユネスコ水中文化遺産保護条約締約国会議やユネスコ主催の国際会議にオブザーバーとして出席した。また、諸外国の水中遺跡調査に関するマニュアルなどについても情報を収集し、日本の文化財行政の現状に即した内容について精査した。



グリーンレーザーによる探査の様子
（北海道上ノ国町）



ユネスコ主催の国際会議の様子/中国の発表
（ブレスト・フランス）

【備考】

取組：水中遺跡調査検討委員会（2 回）、作業部会・協力者会議（4 回）、研究集会・ポスター発表（11 回）
報告書：『水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業２』（奈良文化財研究所と共著）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	①～③の課題について、予定通りに実施することができた。課題①：「てびき」の目次・章立て案、担当者、レイアウトなどの具体的な内容について検討し、一部執筆を開始することができた。課題②：松浦市では遺跡保存の手法について確認し、上ノ国町、徳之島、新宮町では、新しい探査手法や調査手法の検証により課題を抽出できた。課題③：ユネスコや世界の研究者が考える現地保存に対する考え方や遺跡保護の在り方を学び、今後も継続して世界の動向を注視する必要があることを確認した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当事業は、5 カ年計画で「てびき」の作成を進めている。1～2 年目に調査・資料収集を行い、3～4 年目に執筆と刊行、最終年度は、「てびき」のプロモーションを主な業務として行う。元年度は、25 年度から 29 年度まで当館が実施した文化庁委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」を含めて調査・資料収集から執筆と刊行へと変わる節目の年度であった。当機構が実施した調査については十分な検証ができたが、水中遺跡が多種・多様性に富むため、より多くの有識者からの意見を吸い上げが必要であると感じられた。また、自治体の間では水中遺跡の調査と保護が喫緊の課題として捉えられていない現状があり、当事業により得られた知識や見解を広く伝えるために積極的な行動を起こす必要があるという認識が共有された。最終年度の活動案についても協議が行われた。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dヵ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集展示　館蔵名品展「更紗　生命の花咲く布」に関する調査研究

【事業概要】
インド更紗はインド国内で愛されただけではなく、特に前近代から近世まで、3 大洋を渡り 5 大陸に供給されたグローバルな商品だった。更紗は各地をつなぐアイテムとして、文化交流の大きなうねりを今に伝えている。本展では当館がこれまで積極的に収集してきた更紗の名品を紹介するとともに、各地における更紗の受容のあり方をたどった。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	課長　原田あゆみ

【主な成果】

(1) 展覧事業

会期は 7 月 30 日～10 月 20 日で 47 件の更紗を展示した（前期、後期展示替えあり）。

1 章「インドからはじまる」、2 章「祖先伝来の聖なる布」、3 章「海を越えた異文化のデザイン」、4 章「江戸を魅了した更紗」、5 章「ジャワに花開いた更紗ーバティック」というテーマで、インド起源の更紗が各地に与えた影響について観覧者がたどれるように作品展示を行った。


「更紗　生命の花咲く布」展示風景

(2) 教育普及事業

更紗の魅力、歴史を伝えるために、以下の普及事業を実施した。

・「茜染めワークショップ」実施日：8 月 10 日、場所：当館研修室、展示室。

20 人の一般参加者を迎え、インド更紗の特徴のひとつである茜の模様染めワークショップを行った。ワークショップ準備にあたっては、茜染のほか、藍染、蠟防染模様染の実施についても実験、検討した上で、実施時間等を鑑みて茜染ワークショップの実施と内容を決定した。


「茜染めワークショップ」の様子

・「ミュージアムトーク」日時：7 月 30 日（講師：原田あゆみ）、9 月 3 日（講師：桑原有寿子）

・聴覚障がい者向け手話トーク「更紗に触ろう！」日時：9 月 28 日（講師：桑原有寿子）場所：展示室。

手話通訳に加え、ボランティア手話部会 5 人のサポートを得て、更紗の歴史や魅力の紹介、80 人の参加者にはハンズオン資料を体験してもらった。なお、本事業は当館展示課が中心に元年度から始めた障がい者向けの取り組みのひとつである。

・「九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座　館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」日時：8 月 31 日（講師：原田あゆみ）場所：旧福岡県公会堂貴賓館。外部向け講演会を実施。

(3) 研究成果の発信

インド更紗とその広がりを文化交流の視点から捉え、調査研究を行った。その成果については図録『館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布』としてまとめ、また巻頭論文「更紗をめぐる交流史」として発表した。論文では更紗の生産と流通、消費に関する諸相を取り上げ、シャム向け更紗の経由地を具体的に論じた。

【備考】
・教育普及事業等検討回数：茜染めワークショップ 3 回（5 月 14 日、7 月 31 日、8 月 9 日）、聴覚障がい者向け手話トーク 5 回（7 月 28 日、8 月 10 日、9 月 3 日、9 月 19 日、9 月 25 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	開館以来、文化交流を語るアイテムとして積極的に収集してきた更紗の名品を紹介することができた。特に更紗の生産と流通、消費に関する諸相を取り上げることで、当館らしい切り口で展示し、図録を通して普及した。また、関係各所の協力を得て、聴覚障がい者向け手話トークを実施し、今後の課題を検討する機会を得た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、当館のテーマであるアジア諸地域、さらに世界の文化交流を物語る文化財についての展示及び研究のひとつである。前近代から近世までのインドの木綿をめぐる歴史を、展覧事業と研究成果の公表を通じて、広く一般に伝えることができた。今後も更紗に限らずグローバルなアイテムを通して文化交流に関する研究を継続していく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dキ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集展示　住友財団修復助成 30 年記念「文化財よ、永遠に」に関する調査研究

【事業概要】
本事業は、元年度開催の特集展示「文化財よ、永遠に」に係る調査研究である。住友財団による修理助成が開始されて 30 年を迎えるにあたり、その助成金を得て修理が行われた作品の一部を展示公開し、一般の方々に修理の重要性を知ってもらう機会とした。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　森實久美子

【主な成果】
（調査概要）
展覧会開催のため、住友財団の助成を得て修理が行われた作品のうち九州に所在する 29 件を選定し、出陳交渉および調査を行った。通常の作品調査に加え、修理報告書や所蔵者･修理業者からの聞き取りによって修理工程に関わる情報も積極的に収集した。
（展覧事業）
9 月 10 日から 11 月 4 日まで、住友財団の助成 30 年を記念する特集展示「文化財よ、永遠に」を開催した。
九州に所在する絵画・彫刻・染織・考古・歴史資料など多分野にわたる 29 件の作品を展示した。そのうちには熊本地震によって被災した彫刻も含まれ、高い関心が集まった。
展覧会の主たるテーマである文化財修理について、観覧者の理解の助けとなるよう修理工程や修理前の状態を紹介するパネルを制作したほか、熊本地震で被災した彫刻の修理完成までを記録した映像を制作し会場で放映した。また、住友財団の助成実績をまとめたパネルも掲出し、その活動の一端を紹介した。
展示をより深く理解していただけるよう図録を制作した。作品の解説だけではなく、修理前の状態や修理工程の写真も多く掲載したほか、住友財団選考委員による分野ごとの修理概要も掲載した。
会期中には講演会やミュージアムトーク、ワークショップを通じて、成果の普及に努めた。修理所の一般公開、講演会を行ったほか、展示室においてミュージアムトークを行った。国宝修理装潢師連盟に加盟する宰匠の修理技師の協力を得て、小学生対象に裏打ちや穴埋めを体験するワークショップを行った。そのほか、文化財行政を担う地方自治体の担当者に向けて、修理事業の構築方法や課題などを伝えるセミナーを開催した。
会期中にはＮＨＫ「日曜美術館」（10 月 6 日放映）など、新聞・テレビなどでたびたび取り上げられた。


ワークショップの様子

【備考】
調査回数：8 回
修理所公開：9 月 14 日　参加者 53 人
講演会：9 月 28 日　参加者 128 人
ミュージアムトーク：9 月 14 日　参加者 25 人、9 月 18 日　参加者 30 人
セミナー：10 月 4 日　参加者 16 人
ワークショップ：10 月 5 日　参加者 25 人

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業では一般にはあまり馴染みのない文化財修理をテーマとした展示を行い、普段とは異なる視点から作品をご覧いただいた。文化財の保存と活用が叫ばれながら、それに大きな役割を果たす修理の重要性があまり語られない、あるいは認知されにくい現状がある。しかしその一方で修理については一般の方の関心も高く、本事業で開催した特集展示「文化財よ、永遠に」は修理の意義を広く知ってもらう貴重な機会となった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に沿って、作品の調査研究を経て展覧会を開催し、近年関心の高まっている文化財修理について、その重要性を発信することができた。本事業は、展覧事業計画「独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する」を満たした。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｸ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究

【事業概要】
本事業は、元年度開催の特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に係る調査研究である。科学研究費・基盤研究（B）「対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究」（28 年度～令和 2 年度）（研究代表者：京都府立大学教授・横内裕人）の最終年度にあたる元年度に、展覧会及び図録を通じて、本研究の成果をより広く一般に公開した。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室研究員　松浦晃佑

【主な成果】
(1) 資料調査
科学研究費・基盤研究（B）「対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究」に係る調査を継続的に行ってきた。元年度は、以下 3 回の調査を行った。まず、長崎県対馬市の妙光寺所蔵の対馬市指定有形文化財「大般若波羅蜜多経」597 帖について、書誌データ収集と状態の記録撮影を行った（6 月 29 日～7 月 2 日、於：当館）。次に、この妙光寺所蔵「大般若波羅蜜多経」に付属する経箱全 30 合の赤外線撮影も行った（7 月 25 日、於：当館）。最後に、金剛峯寺所蔵の重要文化財「高麗版大蔵経」と公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋所蔵の「積砂版大蔵経」の調査を行った（9 月 11 日～9 月 12 日、於：当館）。
(2) 展覧事業
10 月 29 日から 12 月 22 日まで、特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」を開催した。対馬に伝来した、中国や朝鮮半島で印刷された経典（版経）を展示した。対馬に所在する渡来版経のほか、かつては対馬に所在したが、現在は島外で保管されている渡来版経もあわせて紹介した。関係各所の協力のもと、対馬ゆかりの渡来版経が一堂に会した。
展覧会の内容、上記基盤研究（B）の研究成果をより広く一般に公開するため、図録を制作した。簡易に、かつ読みやすさを考慮しながら、研究代表者、研究分担者、研究協力者が分担して作品解説とコラムを執筆した。
図録だけではなく、講演会や会場内でのミュージアムトークを通じて、成果の普及に努めた。講演会は対馬市内（11 月 9 日、於：峰地区公民館／11 月 10 日、於：対馬市交流センター）と、当館で行った（11 月 17 日）。ミュージアムトークは、11 月 30 日と 12 月 14 日の 2 回開催した。1 回目は「大切なお経を未来に伝えるために」と題して、対馬に所在する渡来版経の修復について解説した。2 回目は「日本の人はお経コレクターだった？」と題して、小学生向けに解説を行った。


対馬市交流センターでの
講演会（11 月 10 日）

【備考】
・本プロジェクト責任者（松浦）は、科学研究費・基盤研究（B）「対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究」（28 年度～令和 2 年度）（研究代表者：京都府立大学教授・横内裕人）の研究分担者である。
・調査回数：3 回（6 月 29 日～7 月 2 日、7 月 25 日、9 月 11 日～9 月 12 日）
・講演会回数：3 回（11 月 9 日、11 月 10 日、11 月 17 日）
・ミュージアムトーク回数：2 回（11 月 30 日、12 月 14 日）
・本展は、朝日新聞（11 月 20 日朝刊）、長崎新聞（11 月 28 日朝刊、12 月 6 日朝刊）で取り上げられた。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、科学研究費・基盤研究（B）「対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究」（28年度～令和2年度）（研究代表者：京都府立大学教授・横内裕人）の研究成果に基づくものである。対馬ゆかりの渡来版経が一堂に会する機会は今までになかったが、本展においてそれが可能になった。展覧事業を通じて、研究成果をより広く、また効果的に発信できた。また、盗難や破損など対馬の文化財を取り巻く不安が残る状況のもと、対馬の渡来版経が持つ文化財の価値を多くの人々が認識できる機会となった。本展は研究者だけでなく、一般の来館者、特に対馬の人々の注目も集め、好評であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業を通じて、アジアの印刷文化と文化交流を物語る渡来版経に関する研究成果、また渡来版経の文化財としての価値を発信することができた。本事業は、当館の基本方針「日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う」と、展覧事業計画「独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する」を十分に満たした。 本事業の成果は、対馬市内に新たに開館する「対馬博物館（仮称）・対馬歴史研究センター（仮称）」（2年度開館予定）と共有し、研究事業の連携を図っていく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「出雲と大和」に関する調査研究

【事業概要】
特別展「出雲と大和」の開催に係る事前の調査研究の推進と、課題整理・計画立案を効率的に進め、充実した展覧会を円滑に開催する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課考古室長 品川欣也

【主な成果】
(1) 調査の概要
・島根県と奈良県とともに、本展に関する出品作品の事前調査を効率的に行い、協議を繰り返しつつ、開催に向けての課題整理と条件整備を実施した。
(2) 調査の成果
・島根県と奈良県の協力を得て、印象的な展示と会場づくりを行うことができた。
・なかでも重要文化財 宇豆柱・心御柱、国宝 荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡出土青銅器、重要文化財メスリ山古墳超大形円筒埴輪や、国宝石上神宮伝来七支刀、重要文化財 浮彫薬師三尊像(石位寺蔵)・四天王像（萬福寺蔵）などの出品が実現し、各章の内容を充実させた。
(3)島根県古代出雲歴史博物館及び奈良県(県庁･奈良県立橿原考古学研究所)とともに出品作品の事前調査を行うことで、作品の状態などを詳しく確認することができた。また、支持具などの展示方法についても検討を行い効果的な支持具を作成することができた。

【備考】
・元年度の出品交渉並びに事前調査　20 回以上
（島根県出雲大社神祜殿・島根県出雲弥生の森博物館・奈良県石位寺・天理大学図書館など）
・島根県と奈良県関係書を含めた展示構成などの打ち合わせ　約 20 回


調査風景(荒神谷遺跡)


調査風景(準構造船)


展示風景(宇豆柱)

・新型コロナウイルス感染予防に伴う臨時休館のため、会期途中で終了。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	(1)令和を迎え日本の歴史や文化への関心が高まっているなかで､本展は時宜を得たものであり来館者層の拡大を図ることができた。 (2)島根県や奈良県の強力な後押しによって充実した内容の出品作品を集めて展示することで､従来にない組み合わせや比較が可能になり、新たな発想や着想を生むきっかけになった。 (3)本展の準備作業によって島根県や奈良県関係者との学術交流を行うことによって､今後の共同研究や特別展の企画立案に役立った (4)当館で行われた24年度特別展「出雲大社」や26年度特別展「日本国宝展」などの知見などを本展に活用し、業務の効率化を図った。 (5)本展に合わせて新規撮影やX線CT撮影などを行い、今後の研究や教育普及を行うためのデータが蓄積できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査や打ち合わせなどで行った検討を踏まえて、広報・展示・図録など本展にかかわるさまざな事業にその成果を反映させた。中期計画の目標にそった有形文化財の保存と活用を、島根・奈良両県の協力を得て推進することができ、当館の博物館活動の幅広い展開に寄与するものとなった。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究

【事業概要】
総合文化展の活性化を図るため、本館 11 室「彫刻」にて、奈良県東部に所在する、室生寺、長谷寺、岡寺、安倍文殊院の 4 箇寺の尊像・宝物を展示した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　浅見龍介

【主な成果】
(1) 調査の概要
・6 月 17 日　長谷寺難陀龍王立像、長谷寺赤精童子（雨宝童子）立像（以上、写真撮影）
・6 月 24 日　岡寺菩薩半跏像、長谷寺十一面観音菩薩立像、長谷寺阿弥陀如来立像（以上、写真撮影）
・7 月 1 日　長谷寺銅造十一面観音菩薩立像、岡寺天人文甎、室生寺十二神将立像酉神、
室生寺十二神将立像巳神（以上、写真撮影）
・7 月 22 日　室生寺釈迦如来坐像、岡寺義淵僧正坐像（以上、写真撮影）
・2 年 1 月 27 日、2 月 10 日　室生寺釈迦如来坐像（X 線 CT 撮影）
・2 年 2 月 26 日　室生寺十一面観音菩薩立像（X 線 CT 撮影）

(2) 調査の成果
・写真撮影においては、高精細な画像データを得ることができた。X 線 CT 撮影においては、対象像の詳細な構造や過去の修理と判断される箇所などの情報を得ることができた。
・研究成果については、逐次、当館の研究誌上などで報告を行う。


5 月 30 日　長谷寺での借用風景


展示会場風景（本館 11 室）

【備考】
調査回数：7 回
論文　　：総論 1 本、作品解説 15 件、寺院解説 4 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本企画は、館外から借用した作品を展示する特別展の性格を有しながらも、基本的に収蔵品と寄託品で構成される総合文化展（平常展）の展示室で開催し、総合文化展の活性化を促進することができた。約 3 か月の会期で総入場者数は約 33 万人を記録し、多くの来館者があった。 また、これまで高精細な画像が無かった作品の写真撮影や、重要作品の X 線 CT 撮影を実施した。今後はこれらの資料をもとに研究を進め、逐次刊行物等によって紹介したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	借用文化財に科学的手法を適切に用いて，学術的・芸術的な価値の究明とコンディションの分析等を行い、適切な保管・展示の環境維持や修理等の処置に資するという中期目標に沿った調査研究をすることができた。これらの調査研究で得た情報を、今後の展覧会企画や出版物のなかで広く発信していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	住友財団修復助成 30 年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究

【事業概要】
当館で開催する特別展「文化財よ、永遠に」にむけて調査研究を推進し、展覧会やシンポジウムを開催して文化財修理の重要性を幅広く訴えかける。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	広報室長　丸山士郎

【主な成果】
(1) 調査の概要
・展覧会の開催に向けて作品調査を推進し、本館で特別展「文化財よ、永遠に」を 10 月 1 日～12 月 1 日の期間で開催した。
・展覧会にあわせてシンポジウム「文化財よ、永遠に－文化財修理の最前線」を開催した（参加者：261 名）。
(2) 調査の成果
・本展は、泉屋博古館本館（京都）、分館（東京）、九州国立博物館でも同時期に同じテーマの展覧会を開催するもので、当館では彫刻作品を展示した。
・彫刻作品の修理について理解を深めるため、展示室内に写真を伴った修理過程の解説を掲示するとともに、同様のリーフレットを作成し無料で配布した。
・元は当館の所蔵品で、昭和 18 年にフランス極東学院と文化財交換して、現在、ベトナム国立歴史博物館が所蔵する阿弥陀如来像の里帰り展示をした。


事前調査風景

【備考】
調査回数：24 件について事前に調査を実施した。
論文：論文 3、コラム 1、修理に関する解説 6、作品解説 26 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	事前の作品調査を実施し、その成果を図録や会場の解説に活かすことができた。文化財修理という、博物館活動の柱の一つについて、展示を通して広く紹介することができた。主だった作品については、事前あるいは会期中に写真撮影をして研究資料の充実を図ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	同一テーマの展覧会を、東京・京都・九州でほぼ同時に開催することで、修理に対する理解を深め、中期計画に沿った文化財の保存と活用について訴えかけることができ、多くの来館者を得た。本展のテーマである文化財を守り、伝えることの重要性を紹介し、大きな社会的な関心を呼ぶことができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aｴ

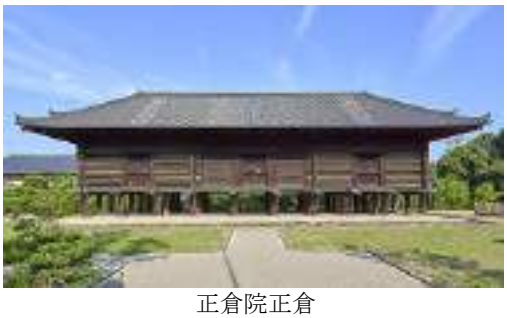
業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」に関する調査研究

【事業概要】
御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」の開催準備にあたって、出陳予定の作品を調査し、その成果を展示に反映する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　浅見龍介

【主な成果】
(1)調査の概要
① 正倉院宝物について、「聖武天皇と光明皇后にゆかりのある宝物」「正倉院に伝わった染織品」「正倉院に伝わった香木」「正倉院の楽器」「正倉院宝物の保存活動」などの観点により調査を行った。
② 当館の法隆寺献納宝物について、正倉院宝物との比較という観点で調査を行った。
(2)調査の成果
元年は天皇陛下の御即位があり、この御慶事を記念して、天皇の勅封によって厳重に保管されてきた正倉院宝物を紹介する展覧会を企画した。正倉院宝物は「シルクロードの終着点」ともいわれるほどに当時のアジア大陸の面影を留めていることから、世界的にも比類のない文化財として知られている。また、当館が管理する法隆寺献納宝物も、飛鳥・奈良時代の美術を代表するものであり、正倉院宝物と双璧をなす存在と見なされている。本展では、調査研究の成果を特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」において反映し、両宝物が守り伝えられてきた歴史を振り返り、文化財保存への関心を高めるきっかけを提供した。


正倉院正倉


特別展「正倉院の世界」会場風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	正倉院宝物と法隆寺献納宝物の、両宝物は、古代アジアにおける人々や文化の東西交流の実態をしめす世界的に貴重な文化財であり、両宝物を同時公開することは、古代の日本文化がもっていた国際性に対する理解を一層深める絶好の機会であり、このような展示は当館でしか行うことができない。本展では明治時代以降の正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、研究者のみならず、一般市民が文化財保護に対する関心を高める契機になるものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	正倉院宝物と法隆寺献納宝物を同時に展示することで、研究者ばかりでなく、多くの来館者に対しても古代における日本文化の多様性を紹介すると同時に、宮内庁正倉院事務所による保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、来館者が文化財保存に対する関心を深める機会となった。本展を通じ、中期計画の目標である文化財の保存と活用に大きく寄与するものとなった。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「人、神、自然　―ザ・アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界―」に関する調査研究

【事業概要】
特別展「人、神、自然―ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界―」の開催に向けて作品調査を推進すると同時に、展覧会の開催を通じて日本初公開のコレクションについて分かりやすく紹介する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館情報課長　今井敦

【主な成果】
(1) 調査の概要
・標記展覧会を、11 月 6 日から 2 年 2 月 9 日まで東洋館 3 室で開催した。
・出品予定作品 124 件の調査を、4 月 21 日から 4 月 27 日まで、ロンドンにて行った。
・図録を刊行し、日本初公開のコレクションを分かりやすく紹介した。
(2) 調査の成果
・ロンドンで行った調査成果を、展覧会図録、会場解説に反映させた。
・2 回のギャラリートーク（11 月 12 日「古代オリエントの工芸品」担当：小野塚拓造、12 月 10 日「古代世界の工芸品の細部に迫る」担当：同前）で、成果の一部について発表した。
・専用の演示具を必要とする作品が多かったため、安全で展示効果の高い陳列方法の検討ができ、展示に生かすことができた。


調査風景


会場風景

【備考】
プロジェクトメンバー
今井敦（博物館情報課長兼情報資料室長）、小野塚拓造（列品管理課平常展調整室研究員）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館の収蔵品や通常の展示体系になく、日本人にとってなじみの薄い作品が少なくなかったが、事前調査を十分に行うことにより、来館者にとってわかりやすい、図録の解説文や会場解説の翻訳に反映させることができた。また、日本初公開の作品が少なくなかったが、安全かつすぐれたデザインの展示を行うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画に沿って十分な事前調査を行うことにより、日本初公開のコレクションを紹介できたことは、来館者の理解を深めることにつながったとともに、世界の古代工芸に関する今後の研究の進展に大きく寄与すると考えられる。本展を通じて、当館の博物館活動の幅を広げ、展示の新規客層の掘り起こしや活性化に繋がる成果を得ることができ、中期計画の目標に大きく寄与するものとなった。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aヵ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究

【事業概要】

法隆寺金堂火災を契機に文化財保護法が制定されて 70 年を機に、法隆寺金堂壁画の優れた模写や、焼損後に再現された現在の壁画、そして日本古代彫刻の最高傑作の一つである国宝・百済観音など金堂ゆかりの諸仏を紹介する展覧会を実施した。来館者に法隆寺金堂の美の世界を体感いただき、文化財を保護し継承することへの理解を促す。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部保存修復課保存修復室長 瀬谷愛

【主な成果】

（1）調査概要

・特別展に出陳予定の作品を調査、撮影した。調査機関は法隆寺、放光寺、大仙市、個人、奈良国立博物館。また当館所蔵の大型作品の調査、撮影を行った。

（2）調査の結果得られた知見

・出陳作品の状態や、安全な輸送梱包、百済観音の新規ケース製作のための有益な情報が得られ、展覧会の構成や解説、安全な輸送、会場製作のための準備に取り組むことができた。

・凸版印刷の協力により金堂内部の精密な 3D 計測を行い、通常の調査では得難い知見を得ることができた。

・図録掲載の東野治之氏論文「法隆寺壁画の模写と写真撮影」に基づく調査を行い、大正 4 年(1915)に発足した法隆寺壁画保存方法調査委員会の事業で大正 5 年(1916)に田中松太郎が撮影した写真に関連するガラス乾板、紙焼き写真を当館所蔵資料に見出した。

（3）展覧会の実施(ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止)

・展覧会名：「法隆寺金堂壁画と百済観音」
・会期：2 年 3 月 13 日～5 月 10 日
・会場：本館特別 4 室・5 室
・出陳作品件数：23 件

（4）図録の編集

・館員の他、法隆寺金堂壁画保存活用委員会、有識者、出品者から論文、コラムの寄稿を受けた。出品作品全件と出品されない参考作品の図版、金堂の図解等を掲載する展覧会図録を編集した。
・論文 5 件（彬子女王「大英博物館に所蔵された法隆寺」、有賀祥隆「法隆寺金堂壁画の表現技法について」、東野治之「法隆寺壁画の模写と写真撮影」、瀬谷愛「法隆寺金堂壁画と文化財保護」、三田覚之「百済観音像誕生の謎」）
・コラム 6 件（三田覚之「法隆寺金堂の世界観」「「百済観音」という名前」、高橋一倫「鈴木空如の作法」、朝賀浩「法隆寺金堂壁画研究の今後」、建石徹「法隆寺金堂壁画 複製陶板（第一号壁）」、小俣英彦「現代におけるスーパークローン文化財の意義」）
・作品解説 20 件





会場風景

【備考】

・調査回数：のべ 19 回。
・プロジェクトメンバー：浅見龍介（学芸企画部企画課長）、三田覚之（学芸研究部調査研究課工芸室研究員）
・新型コロナウイルス感染予防に伴う臨時休館により、中止。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	法隆寺金堂壁画の再評価だけでなく、文化財保護法制定の契機となった金堂火災、文化財保護と未来への継承、活用について、多くの国民に伝えるための調査研究を実施することができた。出品作品について事前調査を実施し、成果を図録や展示に活かすことができた。得られたデータは今後の研究に活かすことができる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画にそって調査や出品交渉を進めることによって、文化財保護の原点であり象徴でもある金堂壁画と関連作品について伝え、展覧会は中止となったが、これまで一堂に会することがなかった壁画模写を互いに比較する場としての展覧会の準備をできたことは、今度の調査研究と文化財保護の機運に大きく寄与しうる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aキ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「きもの KIMONO」に関する調査研究

【事業概要】
特別展「KIMONO」は、800 年以上を生き抜き、今なおあらたなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧する、当館 47 年ぶりの染織の展覧会である。開催に際し、元年度は出品される作品の調査・研究を行い、新たな文化財の価値を見出すとともに、来館者にきものの歴史をわかりやすく理解できる展示を目指す。また、展示方法、図録の編集、講演会、広報のことなどについて共催者とともに検討した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉

【主な成果】
(1)調査概要
・当館所蔵品及び国内外に所蔵される染織及びきものが描かれた日本絵画を調査研究した。
・共催者とともに、2 年度の展覧会に向けて、展示方法、講演会、広報のことについて月に 2～3 度、打ち合わせを行った。
・共催者とともに、図録の編集を行った。
(2)調査の結果得られた知見
・脆弱で伝存する数が少ない染織文化財の新たな価値付けがなされた。
・覧会事業計画や文化財の復元制作などを通して、それらの文化財の有効な活用にも寄与した。
・展覧会では、200 件以上の染織文化財・日本絵画を展示し、日本人にとって現在も「衣服」であり続ける「きもの」の歴史をわかりやすく紹介し、さらに、伝統衣装、民族衣装としての「きもの」の未来像について考える機会となるように展示計画を立てた。


国立歴史民俗博物館での出品作品調査

(3)調査研究の成果
・日本染織における専門の博物館で調査することによって、染織に関する有意義な知見を得ることができた。また、染織文化財の復元を製作することによって、「着付け体験」など、今後のワークショップに活かすことが可能となった。その成果は特別展「きもの　KIMONO」展の展覧会事業、講演会、教育普及事業、広報などに有効に活用できる。
・今回の調査・研究によって得られた知見を反映した図録を編集した。展覧会が開催される 2 年度に発行されることとなった。

【備考】
特別展「きもの KIMONO」は、2 年 4 月 14 日～6 月 7 日まで開催の予定。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・日本内外に所蔵される美術館・博物館や個人所蔵の染織コレクションを調査することによって、日本の伝統工芸である染織の美術的・民族学的な知識や情報を深めることができた。 ・当館が所蔵する染織文化財2件、絵画作品1件を元に、その復元品を制作することによって、教育普及事業である「着付け体験」などのワークショップにも有効に活用できることとなった。 ・本展の実施にあたり、他所蔵者との調査研究の可能性が広がった。染織文化財を守り、後世に伝えていくために、2年度以降も、相互の協力しながら、調査研究を深め、次の展覧会事業、あるいは、教育普及事業につながるよう、より充実した調査研究を目指したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・当館においては、日本・東洋の伝統文化を紹介し、有形文化財を保護、活用ために、例年さまざまなテーマを設けて特別展事業を行っている。日本文化の特質である「工芸」に対する一般来館者のより深い理解を得るために、染織だけではなく、他分野の工芸展覧会についても計画を進めていきたい。 ・2年4月14日から開催される特別展「きもの　KIMONO」の事業が、より充実した内容になるように、今後も共催者と協力しながら、展示計画、講演会、ワークショップ、広報などについて調査・研究を深めていきたい。 ・今後開催される「工芸」の展覧会に向けて、列品を精査し、来館者が満足すると同時に、列品の調査研究も充実するような計画を立て、実行したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aク

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	「スポーツ・武道の歴史と文化展」に関する調査研究

【事業概要】
2 年度開催予定「スポーツ・武道の歴史と文化展」の実施に向けた資料調査を行い、展覧会の開催計画を立案する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介

【主な成果】
(1) 調査の概要
・秩父宮記念スポーツ博物館をはじめ、日本スポーツに関する展覧会や展示施設を視察し、情報収集を行った。
・調査研究を踏まえて、出品リスト・レイアウトを策定し、図録・展示パネルの原稿執筆や会場造作の検討を行った。
(2) 調査の成果
・秩父宮スポーツ博物館の協力を得て、出品資料の選定および調査を行った。
・展覧会の事業計画を立案し、関係機関との協議をのべ 5 回行い、開催に向けての課題を洗い出し、条件整備と意思統一を図ることができた。


秩父宮記念スポーツ博物館での資料調査

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京オリンピック・パラリンピックと連携して開催される、日本では例の少ないスポーツをテーマとした展覧会の実施計画を策定し、実施に向けた条件整備を進めることができた。開催準備の一環として、出品リスト・展示レイアウトを策定し、図録・展示パネルの原稿執筆や会場造作の検討が行えたため、課題の洗い出しと条件整備を効率的に進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画が定めるところの有形文化財の展覧事業に係り、日本では例の少ないスポーツに関する文化財について、調査研究・収集保存・公開活用に向けた取り組みを行うことができた。また、展覧会を共同で主催する秩父宮記念スポーツ博物館との協働によって、調査研究体制の強化と効率化が図られ、当館の博物館活動の幅広い展開を行うことができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aヶ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」に関する調査研究

【事業概要】
特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」に関して事前調査・研究を行い、展覧会開催に向けての課題整理と計画立案を効率的に推進する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　土屋貴裕

【主な成果】
(1)調査の概要
4 月 26 日　高山寺にて重要文化財「明恵上人坐像」ほかの調査
5 月 8 日　中之島香雪美術館にて国宝「鳥獣戯画」ほかの展示状況、会場グラフィック等の調査
5 月 27 日～29 日　京都国立博物館にて国宝「鳥獣戯画」の 8K 撮影
7 月 12 日　高山寺聖教（寄託品）の調査、撮影
10 月 28 日　高山寺にて重要文化財「明恵上人坐像」ほかの調査、撮影
10 月 30 日　館蔵の鳥獣戯画模本の調査、撮影


重要文化財「明恵上人坐像」の調査・撮影風景（高山寺）

(2)調査の成果
・展覧会開催にあたって、出品作品の事前調査、撮影、及び会場施工の調査等を行うことができた。
・本展は「国宝鳥獣戯画のすべて」、「断簡と模本―失われた場面の復原―」、「明恵上人と高山寺」の 3 章から構成され、30 年度に完了した展覧会の中心となる国宝「鳥獣戯画」の調査研究に加えて、元年度は主に鳥獣戯画断簡や模本、そして高山寺関係作の調査研究を進めた。
・寺外では 27 年ぶりの公開となる重要文化財「明恵上人坐像」に関しては、作品調査と並行して作品の状態点検、安全な輸送方法の検討などを行った。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	標記展覧会の開催に向けて、出品予定作品の事前調査・撮影を推進し、会場の計画立案を効率的に進めるための課題整理を円滑に行うことができた。作品の状態点検をはじめとした事前調査を順調に推進することができ、展覧会の充実はもとより、作品の安全な輸送、展示を行うことができることが見込むことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	出品する作品の調査・研究に関しては、元年度においておおむね完了の見込みである。特にオリンピック、パラリンピック開催時に実施する本展には、多くの来館者が見込まれるため、そのような中でも鑑賞にストレスが発生しない展示方法の工夫などを進め、中期計画に沿った文化財の保存と活用の実現に向けて大きな成果が得られた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aコ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「桃山　天下人の 100 年」に関する調査研究

【事業概要】
2 年 10 月 6 日から 11 月 29 日に開催予定の特別展において、室町時代末から江戸時代初期にかけての日本人の美意識の変化を、名品を通して検証し、展覧会として構成展示するための準備と調査研究を行う。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部長　田沢裕賀

【主な成果】
(1) 調査の概要
・資料の所蔵先調査を効率的に推進し、作品の状態並びに輸送に対する事前調査をおこなった。
・研究書、論文等により出品リストの絞り込みを行い、充実した展覧会の企画立案を進めることができた。
(2) 調査の成果
・出品候補作品の調査により、近年まで所在不明だった作品の存在が確認できた。また、素材や技法、表現などにいくつかの再発見があり、新たな歴史的位置づけをはかる手がかりを得ることができた。
・上記知見などを踏まえつつ所蔵者に出品交渉をおこない、会場構成や作品解説など、展覧会の実務的業務を行う準備を進める。


調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧会の開催に向けて、事前準備のための調査研究を推進し、作品の状態確認や展示計画の立案など、開催に向けての課題整理や条件整備を円滑に進めることができた。その中で、これまで知られてきた著名な作品についても、新しい解釈をおこなうことで、一定の学術的な評価を挙げることができた。また、今までに知られてなかった作品を新たに位置づけるなど、大きな学術的な評価を挙げることができ、充実した展覧会の準備作業を推進することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画にそって調査や出品交渉を進めることで、テーマに沿った多くの作品の出品許可を得ることができた。これまで、安土・桃山時代の名品中心主義の展覧会が多く行われてきたが、室町時代末から、江戸時代初期までの約 100 年の中で、作品を再検証し、変革の時代と捉えることによって、歴史的に見た日本人の美意識の変遷の中でのこの時代の特殊性を示すことができるような準備ができ、今後の時代感の再構築を促す研究に大きく寄与する展覧会となるような準備ができた。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」ほか特別展に関する調査研究 ((4) -①-2)

【事業概要】特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」（10 月 12 日～11 月 24 日）のため、散逸する佐竹本三十六歌仙絵各断簡の捜索・出品交渉をおこなった。出品が決定したものについては、図録等印刷物掲載のための新規撮影や、作品調査をおこなった。また、一部については先行集荷のうえ、館内の科学分析機器による詳細な調査を実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室研究員　井並林太郎

【主な成果】

(1) 佐竹本三十六歌仙絵が一般向けの展観として最も多く集まったのは 1986 年の 20 件であったが、今回はこれをはるかにしのぐ 31 件が集結した。絵はもちろんのこと、分割によって付された各断簡の表具を一度に鑑賞することができるまたとない機会となった。

(2) 図録には各断簡の法量等データ・作品解説のほか、新規撮影を多く実施して表具を含む全図写真を掲載した。佐竹本三十六歌仙絵がこれだけの規模で集結する機会は将来数十年にわたって見込まれないことを考えると、この図録は展覧会時の基礎情報を後世に伝える貴重な研究文献になったといえる。

(3) 佐竹本三十六歌仙絵のうち、「小大君」（大和文華館蔵）・「藤原高光」（逸翁美術館蔵）・「坂上是則」（文化庁蔵）については、当館に設置された機器を利用して透過 X 線分析・蛍光 X 線調査を行い、顔料などに関する多くの新知見が得られた。また、その現場には NHK の撮影が入り、後日の番組放送によって博物館における文化財科学分析調査の実態と意義を広く発信することができた。



佐竹本の化学調査

【備考】

展覧会出品数　全 137 件（うち国宝 5 件、重要文化財 61 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	本展は佐竹本三十六歌仙絵が分割されてから 100 年という節目に開催したもので、広報への注力も奏功して多くの人々の関心を呼び、目標数（8 万人）を大きく超える約 13 万 7000 人の来場者を迎えることができた。 100 年前の分割事件は 1980 年代に放映された NHK の番組で取り上げられ話題になったとはいえ、それから 30 年以上が経過し、ふたたび一般には知られない出来事となりはじめていた。このたびの展覧会では、この事件や各断簡の伝来をもういちど調査しなおして発信することで、文化財の保存や後世への伝達ということの意義や難しさを一般来場者が改めて考える契機を与えたといえる。また、佐竹本三十六歌仙絵を伝えてきた茶の湯文化の豊かさを知らしめることにも成功した。 さらに、佐竹本三十六歌仙絵それ自体の作品研究を進め、これに関連する書画の展示を行うことによって、その絵画史上／書道史上／和歌文学史上の高い価値を再認識することができた。各分野の研究者の関心も高く、今後佐竹本三十六歌仙絵を通した中世王朝文化の学際的な研究が進むことが期待される。また、改元直後の展覧会ということもあり、一般来場者が王朝文化への興味をさらに増す機会ともなったといえるが、王朝文化が息づく京都に位置する当館から研究成果を発信した意義もここに認められるだろう。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	中期計画に沿って、文化財の展覧事業と教育普及活動等に関連する調査研究を実施することができた。佐竹本三十六歌仙絵という所在さえ不明なものもある断簡についての情報収集や、科学分析機器の利用を含む作品調査を進め、さらにその成果を大々的に公開できたことは、絵画や和歌を中心とする今後の中世王朝文化研究に大きく資するものといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bｲ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　特別展「西国三十三所草創 1300 年記念　聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」に関する調査研究（(4)-①-2)）

【事業概要】

西国三十三所草創 1300 年記念特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」(2 年 4 月 11 日～5 月 31 日)開催のため、西国三十三所の札所寺院が所蔵する文化財について、調査及び図録等印刷物に掲載するための写真撮影行うとともに、関係各所への出品交渉を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長（兼列品管理室長）羽田聡

【主な成果】

(1)西国三十三所札所会の協力のもと、第 2 番札所紀三井寺や第 29 番札所松尾寺をはじめとする 11 箇寺において、とくに彫刻分野を中心に、出品予定作品に基づく調査及び写真撮影を行った。展覧会の実施にあたっては、展示はもとより、作品の状態に伴う安全な梱包と輸送が不可欠なため、これらに必要な情報を得ることできた。

(2)館外での調査及び写真撮影とあわせ、展覧会実施にかかる経費の節減、さらには博物館のアーカイブ充実のため、第 22 番札所総持寺や第 24 番札所中山寺など、可能な限り事前に作品集荷を行い、博物館内で調査及び写真撮影を実施した。

(3)成果の公開としての展覧会は、第 3 番札所粉河寺の「千手観音立像（裏観音)」や第 18 番札所頂法寺の「秘仏如意輪観音坐像」など寺外での公開実績がほとんどない作品も含まれるため、貴重な機会となる。これらの作品に関する詳細な情報は、展覧会にあわせて刊行される図版目録の作品解説に反映されているため、質の高い図版とあわせ、今後の研究に資することができる。また、展覧会会期中には、各作品担当者が本プロジェクトを通して得た知見を一般へ還元する講演とシンポジウムの開催を予定している。

(4)実作品の調査及び写真撮影と並行して、各作品に関連する著書や論文などの文献を収集し、図版目録の作品解説に参考文献として提示することで、より有効に利用者が活用できるようにした。



寺外での公開が初となる「秘仏如意輪観音坐像」（頂法寺蔵）



図版目録の表紙（2 年 4 月 11 日刊行予定）

【備考】

・調査件数及び撮影カット数　38 件・約 150 カット
・成果の公開（展示）　2 年 4 月 11 日～5 月 31 日（予定）
・成果の公開（刊行）　『西国三十三所草創 1300 年記念　聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―』図版目録 1 冊（2 年 4 月 11 日刊行予定）
・成果の公開（講演）　羽田聡「資料からみた西国三十三所」(2 年 4 月 18 日）ほか全 5 回予定
・出品予定件数　171 件（うち国宝 12 件、重要文化財 39 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	時間が限られているなかで、調査を中心に据え、出品交渉や写真撮影、安全な輸送方法の検討など、展覧会開催に係る一連の作業がスムーズに進行したことから、所期の目標は達成していると判断した。撮影によるアーカイブの充実や成果を含めた図書の刊行、講演やシンポジウムの開催、あるいはプロジェクトの実施を通して33箇寺との連携を深めるなど、ほかの博物館事業に及ぼす効果も判断の材料とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、コロナウィルスの影響により予断を許さない状況にあるが、2 年度に展覧会として開催する段階まで順調に来ていることから、所期の目標を達成していると判断した。今回の展覧会は、近畿圏 2 府 5 県の 33 箇寺が関係しているため、奈良国立博物館とならび、関西における「ナショナルセンター」としての役割を当館が担っていくためにも、本プロジェクトの実施により築いた関係性を保存や修理までも視野に入れ、包括的に維持・継続することが必要である。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　特別展「御即位記念 第 71 回正倉院展」に関する調査研究（(4)-①-2)）

【事業概要】
特別展「御即位記念　第 71 回正倉院展」の開催に当たり、円滑かつ安全に展覧会を遂行し、最新の成果を広く国民に周知するため、当該年度に出陳される宝物を含む宝物全般についての調査・研究、展示環境についての調査・研究、観覧環境についての調査・研究、その他宝物の適切な輸送方法など、多角的に研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　内藤栄

【主な成果】

(1) 宝物についての調査・研究
・宮内庁正倉院事務所の協力を得て、一部の宝物や調書の閲覧を実施し、また出陳宝物の写真の提供を受け、会場の題箋やパネル、図録の解説に宝物に関する最新かつ正確なデータを反映させた。
・上記成果は、図録に掲載される小論（「宝物寸描」）や公開講座、学術シンポジウム等にも反映させ、雑誌や新聞紙面におけるコメント、コラムとしても広く一般に発信した。
・研究員全員が参加する宝物についての研究会を実施した。



図録表紙

(2) 展示環境についての調査・研究
・宝物の展示環境の一層の改善を図っていくため、展覧会の会期中、温湿度データや塵埃のデータを収集し、分析した。
・展覧会の会期前に、宮内庁正倉院事務所とともに宝物の展示環境に関する検討会を実施した。
また、会期後には、上記で収集した温湿度、塵埃データの検証を踏まえ、同事務所とともに今後の展示環境の向上を図るための検討会を実施した。

(3) 観覧環境についての調査・研究
・来館者に快適な観覧環境を提供すべく、題箋・パネルの位置や大きさ、文面などについて検討し、また会期中にはアンケート調査を実施して来館者からの意見を収集した。
・照明を担う外部専門家の意見を得ながら、宝物にとって安全で、かつ来館者に見やすい照明方法について検討した。
・宝物にとって安全で、かつ来館者に見やすい展示を検討する検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。

(4) その他
・宝物を安全に輸送するため、梱包方法及び輸送手段に関する検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。

【備考】
・宝物に関する事前調査　5 回
・宝物についての内部研究会　2 回
・公開講座　2 回
　清水健「正倉院に伝わる作り物をめぐってー仮山残欠を中心にー」(11 月 2 日)ほか
・正倉院学術シンポジウム 2019「即位と正倉院宝物」　1 回
・『御即位記念 第 71 回正倉院展』目録(日・英)　奈良国立博物館　10 月 25 日
日本語篇所収／岩井共二「袈裟付木蘭染羅衣と偏衫」ほか

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度の年度計画については、次のとおり概ね達成することができた。まず、展覧会の円滑かつ安全な遂行に関しては、宝物の梱包・輸送・展示・保存環境について宮内庁正倉院事務所と協議を密に行い、また各研究員の経験の蓄積を活かすことで、一層の向上が図れた。次に、最新の成果を国民に周知することに関しては、研究員全員参加による研究会等を通じ、宝物の基礎情報や研究成果を正確かつ明快に発信するための検討が重ねられ、さらに公開講座や学術シンポジウムの開催、新聞紙面でのコラム執筆等により、積極的な情報発信が展開できた。御即位の祝賀ムードも与って、正倉院展への国民の関心が高まりを見せる中、一定の貢献を果たし得たものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間においては、宝物についての調査・研究、観覧環境についての調査・研究を重点項目に据えている。宝物についての調査・研究は、正倉院展の開催に伴う宝物の実見や資料収集、宮内庁正倉院事務所による最新の研究を基礎に更新されており、図録、紀要、研究誌、講演等を通じた成果の普及に引き続き努めている。また、観覧環境の調査・研究についても、日々の業務の中で検討を重ね、年々の改善に繋がっている。今後は学術情報の公表の一層の充実を図り、また展示照明の改善で正倉院事務所との合意が形成できるよう、協議を続けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cｲ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」に関する調査研究（(4)-①-2)）

【事業概要】令和２年（2020）２月４日から３月 22 日まで開催予定の特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」に出陳を予定する作品に関する調査研究を行い、その成果を展覧会図録や展覧会場におけるパネル、また公開講座の内容等に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　岩田茂樹

【主な成果】

展覧会に出陳もしくは写真等による紹介を行う次の作品につき、調査を行うとともに写真撮影を実施した。

岩手・三熊野神社毘沙門堂：木造尼藍婆・毘藍婆坐像、山梨・放光寺：木造毘沙門天立像（以下、毘沙門天像は記載省略）、岐阜・岩滝山奉賛会、滋賀・高尾地蔵堂、京都・慈心院、京都・泉屋博古館、京都・乙訓寺、京都・鞍馬寺、京都・清涼寺、京都・神童寺、京都・観音寺、京都・浄瑠璃寺、京都・個人、京都国立博物館、奈良・常光寺、奈良国立博物館（２軀）、香川・香西寺、愛媛・金竜寺





会場風景

【備考】

調査回数　19 回　　調査点数　25 点

論文　岩田茂樹「〈資料紹介〉愛媛・如法寺　木心乾漆毘沙門天立像」（『MUSEUM』676 号、10 月 15 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査によって得られた知見を展覧会図録の論考や解説、また題箋に生かすことができ、また新規撮影した写真の多くを展覧会図録に掲載することができた。そのうち作品の側面や背面、部分等の写真はほとんどが初めて公開されたものである。このため本展覧会図録は毘沙門天に関する基礎的な学術研究書となった。展覧会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会期半ばで終了となり、予定されていた公開講座も中止となったため、調査の成果を講座に生かすことはできなかったが、2年度の夏季講座においてあらためて成果を発表する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	有形文化財の展覧事業・教育普及活動に関連する調査研究として実施した毘沙門天に関する調査研究は、調査回数、調査作品点数ともに多数にのぼり、多くの知見を得ることができた。また、それを展覧会図録や題箋等に充分に反映させることができた。実施できなかった公開講座に代わる夏季講座での成果の発表により、教育普及活動にも充分資することができると考える。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」に関する調査研究（(4)-①-2)）

【事業概要】
正倉院宝物模造製作の歴史や意義とともに、各模造作品に反映された原宝物の調査・研究成果や、伝統技術などについて紹介する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　中川あや

【主な成果】

(1) 出品作品・関連資料の調査

宮内庁正倉院事務所の協力を得て模造作品や模造製作関連資料の調査を 7 回実施した。また出陳作品の写真・情報の提供を受け、会場の題箋やパネル、図録の解説に最新かつ正確なデータを反映させた。加えて、東京文化財研究所売立目録デジタルアーカイブにより、近代の正倉院宝物模造品の流通に関する調査を行い、展覧会関連講座の内容に反映する予定である。

(2) 展示手法の調査・研究

作品にとって安全で、かつ来館者に見やすく訴求力のある展示に関する検討会を宮内庁正倉院事務所や学術協力者である九州国立博物館とともに行った。

(3) 出品作品の高精細画像データの蓄積

展覧会に出品される模造作品のうち、これまでに画像が不足していた明治時代製作の大刀を中心に新規写真撮影を行い、画像データベースの充実をはかった。



模造　螺鈿紫檀五絃琵琶の模造関連資料調査



展覧会ポスター

【備考】
刊行物　特別展図録『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の美―』(2 年 4 月 17 日刊行予定)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展「よみがえる正倉院宝物―再現された天平の美－」に出陳予定の作品・資料について基礎調査を実施し、作品に関する最新の調査・研究成果を盛り込んだ展覧会を開催する素地が整った。また本展は正倉院宝物模造に特化した独自性の強い展覧会であり、正倉院展開催館として長年蓄積してきたデータ（展示手法、作品解説、会場構成など）を効果的に活用しながら順調に準備を進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度春期開催の特別展の充実という目的に向け、一定の成果を上げることができた。また、前回の正倉院宝物模造展は20年前であり、その後、最新の調査・研究成果を反映して製作が進められた模造作品を紹介するにあたり、単なる作品紹介にとどまらない多角的な視点に基づく展覧内容の構築に向け、前進することができた。本展は、当館で今後開催予定の正倉院展の内容充実にも大きく貢献するものである。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412D７

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」に関する調査研究（(4) -①-2)）

【事業概要】
室町幕府の初代足利尊氏から 15 代義昭まで、歴代将軍の栄枯盛衰と個性ある魅力に迫りつつ、南北朝時代から戦国時代にわたる 240 年間の時代と文化について紹介する特別展（会期：7 月 13 日～9 月 1 日）の準備として調査研究を実施した。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　一瀬智

【主な成果】
(1) 調査研究
30 年度までの調査研究成果や図録・文献等による情報を元に、特別展開催のための内容・構成を深化させた。
(2) 展覧事業
・調査研究に基づいて作品件数 134 件、4 章構成の特別展として結実させた。
・展覧会図録（303 頁、当館研究員による作品解説、コラム 6 編、論文 3 編収録）を作成した。論文は次のとおり。
一瀬智「室町将軍足利十五代の栄華と軌跡」
橋本雄（北海道大学准教授）「足利義満の「日本国王」冊封と勘合貿易の実像」
髙岸輝（東京大学准教授）「室町将軍十五代の政治と美術―肖像・首府・国土―」
・展示室では特に将軍会所における唐物による座敷飾りを実物資料によって復元展示し、寺外初の一斉公開となる京都・等持院所蔵の歴代将軍木像 13 軀を一堂に鑑賞できる空間で展示した。また実物大の「勘合」を復元し、日明貿易のシステムを解説する体験エリアを設けた。これらの展示効果は非常に高く、多くの来館者の好評を得た。
・会期中に次の講演会・シンポジウムを実施した。
7 月 14 日記念講演会　橋本雄（北海道大学准教授）「室町将軍家の東アジア外交」（参加者数：202 人）
7 月 20 日リレー講座　一瀬智「足利十五代―ムロマチックな男たち―」・末兼俊彦（京都国立博物館主任研究員）「名刀乱舞！足利将軍」（参加者数：230 人）
8 月 3 日記念講演会　呉座勇一（国際日本文化研究センター助教）「室町将軍の再評価―本当に弱かったのか？―」（参加者数：301 人）
8 月 12 日記念シンポジウム「京都・等持院　歴代足利将軍像の謎に迫る」（参加者数 254 人）
根立研介（京都大学教授）「室町時代肖像彫刻史における等持院像の位置づけ」
楠井隆志（展示課長）「等持院像の調査報告」
大田壮一郎（立命館大学准教授）「足利将軍家の仏事について―等持院・等持寺を中心に―」
髙岸輝（東京大学准教授）「室町将軍の身体観―画像と彫像の比較分析―」
パネルディスカッション（コーディネーター：一瀬智）
・会期中の教育普及イベントでは、日明貿易のシステムを体験するワークショップを 4 回（7 月 19 日、8 月 7 日の各午前・午後）開催し、「勘合」が使用された意味と時代背景について、参加者の理解を深めた。なお両日とも午後の部は視覚障がい者を対象とした。8 月 1 日と 15 日には視覚障がい者を対象とする観覧ツアーを開催し、通常とは異なる解説やハンズオンの体験コーナーを設けて特別展を案内した。


実物大の「勘合」の復元

【備考】
・新聞掲載（特集記事のみ）：公明新聞 6 月 26 日、西日本新聞 7 月 12 日朝刊・26 日朝刊・8 月 6 日朝刊、朝日新聞 8 月 17 日朝刊、読売新聞 8 月 24 日朝刊
・ＮＨＫ日曜美術館「よみがえる美の力～室町将軍の文化戦略～」（8 月 4 日放送、8 月 11 日再放送）にて特集

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本業務による特別展では、室町将軍が積極的に主導した、日本と東アジアとの交流、および公家文化や大陸文化を複合した新たな美の価値観の形成について、近年の研究蓄積を踏まえて紹介するとともに、15人の歴代将軍を切り口とすることで、室町時代の歴史と芸術文化に係る新たな展覧会を作り上げた。展示構成・空間、各種イベント、教育普及プログラム、いずれも好評を得て目標値（4万人）を大きく上回る来館者（85,356人）にお越しいただいた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画、および当館の基本方針「日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う」に沿って、作品を中心とする調査研究成果に基づいて特別展を開催した。研究蓄積が厚く、近年は社会的関心も高い室町時代・室町文化について、新たな視点による構成で、質の高い展示を実現することができた。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dイ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	日中文化交流協定締結 40 周年記念　特別展「三国志」に関する調査研究

【事業概要】

特別展「三国志」に関する調査研究。

これまで正史『三国志』、『晋書』など文献資料から研究が進められてきた三国志の歴史について、曹操高陵をはじめとする出土資料や、長崎の関帝信仰にかかる文化財に着目することで新たな光を当てようとする企画。10 月 1 日から 2 年 1 月 5 日にかけての当館における開催、並びに会期中に実施した関連展示、講演会などの様々な関連事業の準備を国内外の研究者と連携しながら進めた。日本でも広く親しまれている三国志に対する観覧者の認識をより豊かなものにしていただくことを目的とした。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　川村佳男

【主な成果】



鉄鏡検討会の様子

・三国志に関する情報収集を書籍、論文、面談などで随時行った。
・調査研究の内容に基づき 7 章構成の展覧会を実現し、展覧会図録、会場掲出物、音声ガイド、作品目録などを製作。
・記念講演会を当館ミュージアムホールにて 2 回実施した。
「ここまで分かった“リアル三国志” － 新発見の考古資料から読み解く －」（10 月 20 日）参加者：238 人　講師：川村佳男
特別記念講演会（12 月 14 日）参加者：306 人
「曹操高陵の考古学的発見と研究」講師：潘偉斌（河南省文物考古研究院第一研究室副主任）
「三国志の時代と卑弥呼の鏡」講師：辻田淳一郎（九州大学大学院人文科学研究院准教授）
・文化交流展示室（平常展）にて特別展「三国志」の関連展示を 3 件実施した。
「長崎の関帝信仰」（期間：11 月 12 日～12 月 22 日、担当：楠井隆志（展示課長））
「重要文化財　三国志呉志第十二残巻」（期間：11 月 12 日～12 月 22 日、担当：松浦晃佑（文化財課研究員））
「重要文化財　金銀錯嵌珠龍文鉄鏡」（期間：11 月 6 日～2 年 1 月 19 日、担当：小澤佳憲（展示課主任研究員）、川村佳男）
・学術交流会（非公開）を当館にて 2 回実施した。
「ユニバーサルミュージアムに関する日中学術交流会-特別展『三国志』での事例を踏まえて -」12 月 4 日、日本側 8 人（川村佳男、西島亜木子（研究員）、茂泉千尋（展示課非常勤職員）ほか）、中国側 5 人（劉寧（遼寧省博物館副館長）ほか）参加
「鉄鏡検討会」12 月 16 日、7 人（谷豊信（東京国立博物館特任研究員）、潘偉斌、辻田淳一郎ほか）参加
・関連講演会を館内外で 11 回（記念講演会は含まない）実施した。
・その他、当館で実施した次の関連イベントに出演し、特別展「三国志」の案内役を務めた。
「びじゅチューン ！なりきり美術館＆三国志 コンサート」10 月 14 日
「きゅーはくミュージアムコンサート　中国悠久の調べ」11 月 9 日
「ナイトミュージアム　英雄（ヒーロー）現る!!」11 月 22 日、12 月 14 日
「夜な夜な三国志」11 月 23 日
「視覚に障がいのある方を対象とした特別展『三国志』観覧ツアー」12 月 5 日、12 月 11 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国で曹操高陵など三国志にかかる重要な考古学的発見と発掘が21世紀に入って相次いだことで、本展は開催の機運の熟した恰好のタイミングで実施することができた。東京国立博物館からの巡回ではあったが、展示の方法や掲出物の内容を見直し、全作品解説を多言語化するなど工夫を加えた。また、「長崎の関帝信仰」など九州に立地する国立博物館ならではの関連展示や、三国志と魏志倭人伝との関連を重視した「三国志の時代と卑弥呼の鏡」をはじめとする講演会や関連イベントを充実させることで、来館者のニーズに即した高い満足度を得ることができた。親子連れ、外国人、視覚・聴覚障がい者など多様な来館者に広く開かれた展覧会を実現することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に基づき本調査研究を行った。三国志の歴史展開に即しながらも、魏・蜀・呉それぞれの文化や政策の違いなどこれまでに出土した考古学資料だからこそ迫ることのできる要素を盛りこんだ。同時に、曹操や朱然など具体的な歴史人物と可能な限り関連付けながら展示を構成することで、単なる考古学の展覧会に終わらせることなく、既存の三国志ファンにも歓迎される内容となった。日中文化交流協定40周年の節目に当たる元年に、三国志を通した日中両国の文化交流をいっそう促進できる展覧会を実施した今日的な意義は大きかった。

【書式Ｂ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1413Hア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　各施設と協力して、レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究

【事業概要】
文化財に親しむ機会の拡大を図ることを目的として、文化財のレプリカやVR等の先端技術及び、文化財の活用事例についての調査・研究を行った。それらの知見をもとに体験型展示等の活用事業を実施し、成果を一般に広く公開するとともに、その効果について検証した。

【担当部課】	本部文化財活用センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　小林牧

【主な成果】
(1)レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ、企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている国内外の博物館・美術館の視察・インタビューを行った。また、その成果を広く普及するため、公開シンポジウム「複製がひらく文化財の未来」を開催し、報告書を刊行した。
(2)各施設と連携し、レプリカやデジタル技術を活用した体験型展示の実施や教育プログラムの開発・実施を行い、アンケートによる体験者への調査を行った。
(3)キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社との連携による共同研究プロジェクトを継続して実施した。シャープ株式会社との連携により、「8Kモニターを用いた文化財の活用方法の開発に関する共同研究プロジェクト」を締結した。

【備考】
(1)主な調査先／株式会社 便利堂、株式会社 大入、ソニー株式会社、ICOM京都大会、日本科学未来館、（リンツ）アルスエレクトロニカセンター、ウィーン美術史美術館、V&Aダンディー分館、（グラスゴー）ケルビングローブ美術館・博物館ほか（小林牧、松嶋雅人、小島有紀子、西木政統、高木結美、松沼穂積、救仁郷秀明、髙橋美奈子、曽田めぐみ）
・公開シンポジウム「複製がひらく文化財の未来」（11月23日、東京国立博物館平成館大講堂）
発表者：松嶋雅人（文化財活用センター企画課長）、河内 智之（和歌山県立博物館主任学芸員）、大杉 栄嗣（大塚オーミ陶業株式会社代表取締役社長）、山口 晃（画家）
(2)アンケート調査実施事業／8Kで文化財「国宝　聖徳太子絵伝」2019（10月29日～11月24日）、ぶんかつアウトリーチプログラム（元年度全10回実施）、「体感！日本の伝統芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」エントランス展示（3月10日※～5月24日）（※新型コロナウイルス感染症の影響により公開を延期）
(3) キヤノン株式会社との共同研究により制作した「風神雷神図屏風」（尾形光琳筆）高精細複製、シャープ株式会社との共同研究により制作した「8Kインタラクティブ・ミュージアム」、NHKエデュケーショナルと制作した「8Kで文化財　聖徳太子絵伝」をICOM京都大会に出展（9月2～4日）


シンポジウム「複製がひらく文化財の未来」開催の様子

○そのほか発表等
・「新しい鑑賞体験をデザインする」小林牧（7月19日 一般財団法人デジタル文化財創出機構　シンポジウム「進化する複製の未来」）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	30年度に引き続き、文化財に親しむ機会の拡大を目的として、国内外における先進事例の調査・研究を行い、各施設や企業等との連携を強化しながら、文化財の新たな鑑賞方法の開発を推進した。これらによって得た知見をもとに、体験型展示の企画・運営、教育プログラムの提供を行うことで、成果を広く公開するとともに、シンポジウムの開催により、研究課題に関して一般市民への普及に貢献した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を着実に推進した。元年度は、各施設や企業等とも連携しながら、文化財に親しむ手法の開発に関する研究を重点的に行うとともに、展示やシンポジウムの開催等においてその成果を広く公開した。2年度も継続してこれらを実施し、調査・研究データの蓄積に努めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館環境デザインに関する調査研究

【事業概要】
当館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	デザイン室長　矢野賀一

【主な成果】
・「東京国立博物館本館 13 室展示室改修」、「博物館に初もうで」「大和四寺のみほとけ」「文化財よ永遠に」「博物館でアジアの旅」「日本のよろい」「聖徳太子絵伝」の展示デザイン、「法隆寺百済観音像展示ケースデザイン」「聖林寺十一面観音像展示ケースデザイン監修」を行った。
・総合文化展示キャプション、解説のフォーマットデザインを行った。
・本館観覧用ソファーのレイアウトデザインを行った。
・「大和四寺のみほとけ」「聖徳太子絵伝」「敦煌」ポスター・チラシのデザインを行った。
・特別展用バナー、総合文化展用大型バナーのデザインを行った。


「大和四寺のみほとけ」展示風景


「文化財よ永遠に」展示風景


「ツノのある動物」展示風景

【備考】
・他館のデザイン調査：これまでの国内外の博物館・美術館でのデザインを調査し、元年度においては特別展及び総合文化展示の展示デザインのための参考とした。
・調査先／蘇州博物館、MIHO MUSEUM、富岡製紙場、京都市京セラ美術館、佐川美術館、福岡市美術館、郡山美術館、東洋陶磁美術館、秋田県立美術館、国立歴史博物館、香雪美術館、バンコク国立博物館、ブレラ絵画館、大英博物館、V&A MUSEUM、ロンドンデザインミュージアム、ロンドンナショナルギャラリー、バイエルン州立エジプト美術収集館。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	目標を達成している。国内外の美術博物館デザインの最新事例を調査し、総合文化展示及び特別展への展開がなされている。2年度は引き続き国内外の美術博物館デザインの調査を行う。また最新の情報技術など本館の総合文化展示や展示室のスマート化などへ展開できるよう調査研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	金工・刀剣・陶磁・彫刻作品を展示するための高透過低反射合せガラスや小型LED照明器具を用い、展示作業の安全性に配慮した展示ケースをデザインし観覧環境の向上につながった。 2 年度は展示室のスマート化の調査研究及び引き続き本館リニューアル、特別展、特別公開の展示デザインを進める予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　博物館教育に関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】来館者の鑑賞体験を豊かにすることを目的とした、博物館教育の理論と実践に関する調査研究を、教育普及事業の実践、参加者に対するアンケート、学校教員との研究会を通して行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】

1)各種ワークショップ、スクールプログラム等を通して、来館者の多様なニーズに沿ったプログラムの開発とその運営に関する研究を行った。ワークショップ「トーハク劇場」では、30 年度開発した、飛鳥時代を舞台とした法隆寺宝物館でのプログラムを元年度も 2 回実施し、低年齢層を対象としたプログラムの研究と実践を重ねるとともに、手応えを実感した。

2)海外からの来館者を主な対象とし、日本文化体験プログラムを継続して実施した。元年度は甲冑をテーマとし、特別 2 室で実施した特集の展示「日本のよろい！」(7 月 17 日～9 月 23 日）にあわせて、特別 4 室に体験コーナーを設置し、実際に着ることのできる甲冑レプリカを用いた甲冑着付け体験やハンズオンコーナーを設置した(7 月 17 日～9 月 23 日)。

また 30 年度と同様に書体験も実施した(10 月 8 日～10 月 20 日)。

3)障がい者に向けたプログラムの開発を目指した調査・研究を継続して行い、特に聴覚障がい者に向けて試験運用した UD トーク（音声認識ソフトによるコミュニケーション支援アプリ）を講演会、ギャラリートークにおいて本格実施した。

4) 他館との連携事業として、上野動物園、国立科学博物館との国際博物館の日記念ツアー「ツノのある動物」(5 月 12 日)並びに関連展示、親と子のギャラリー「サルのひろば」(4 月 16 日～5 月 26 日)を実施した。

5)東京都社会科教員を対象とした研修会（10 月 3 日）を行い、意見交換を行った。

6)東京藝術大学との連携事業として、東京藝術大学の学生によるギャラリートークを行った。

7)ボランティア組織のマネジメント及びボランティアによる事業の開発等について調査・研究を行い、外国人対応をテーマとした研修を実施した。



甲冑着用体験

【備考】調査

1)ワークショップ等における参加者アンケート調査　6 回、教員研修会参加者アンケート調査　3 回

2)ICOM 京都大会（9 月 2 日～9 月 4 日）に参加した（鈴木みどり、藤田千織、井出浩正、川岸瀬里、阿部楓子、永田香織、中村麻由美、永田香織）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	様々な教育事業の実践や、他館との交流・連携事業を通じて、博物館教育についての研究を実施した。元年度は外国人を主な対象としたもの、有料のプログラム、聴覚障がい者に向けてのUDトーク、ボランティアの外国人対応など、新たな対象や多様なニーズに対応するため開発した教育プログラムの実践・検証を行うことができた。またICOM京都大会への参加は、国内の美術館博物館はもとより諸外国の博物館美術館における現況や動向を知るうえで大きな機会となった。 2年度は、3年度に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、これを好機ととらえ、日本国内のみならず諸外国から認知と人気を得るためのプログラムの更なる開発と博物館教育の発展に寄与する調査研究の推進を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期では、より幅広い来館者に向けた鑑賞支援プログラムの調査・研究と実践を目指している。 未就学児を対象としたキッズデーなど、子どもを対象とした事業、障がい者を対象とした事業の調査・研究は、28 年度から継続して行っている。元年度は、外国人を対象とした事業に対応したプログラムを 30 年度から検証的に継承し、手応えを得ることができた。こうした取り組みは、3 年度のオリンピック・パラリンピック後にものこるものとして位置付け、しっかりとした調査・研究のもと、実践につなげることが重要である。他館の調査やプログラム参加者のアンケート調査なども、継続して行いたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究

【事業概要】
館蔵文化財のデジタルアーカイブを活用した、文化財の新たな公開・鑑賞手法を、凸版印刷株式会社と共同で研究する。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　今井敦

【主な成果】
・丸山（士）室長が監修した新作コンテンツ「空海　祈りの形」を、特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」の会期に合わせて公開した。
・酒井主任研究員、佐藤研究員の監修により、新作コンテンツ「VR 刀剣」を制作し、実物展示の期間に合わせて公開した。
・猪熊室長、三田研究員の監修により、新作コンテンツ「正倉院―時を超える想い」を制作し、特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」の会期に合わせて公開した。
・法隆寺金堂内部・西院伽藍の高精細テクスチャー撮影および立体形状計測を行い、瀬谷室長、三田研究員の監修により、新作コンテンツ「国宝金堂―聖徳太子のこころ」を制作し、特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」の会期に合わせて公開した。
・長谷川等伯と「松林図屏風」をテーマとしたコンテンツ開発を視野に入れて、松林図屏風の高精細デジタルアーカイブ撮影、質感取得に必要な斜光線撮影、赤外線撮影を行った。

【備考】


法隆寺における調査風景


打合せの様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	・展示と連動したコンテンツを公開することができ、所蔵品のデジタルアーカイブ蓄積の有用性が再確認できた。 ・「空海　祈りのかたち」は、歴代最高の21,789名の来場者があった。「VR刀剣」は、SNSと連動した多くのリピーターを含む16,975名の来場者があり、とくに若い女性、外国人から好評であった。デジタルデータを利用した新たな鑑賞手法の有用性が立証された。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・デジタルアーカイブのデータ取得に関する調査研究については、新たなデータ取得手法の着手を含め、着実な成果をあげている。 ・新規データの取得による新作コンテンツの開発により、集客力のあるコンテンツとして、継続的に公開を行うことができている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英２ヶ国語による鑑賞支援アプリ「トーハクなび」のユーザー動向解析を用い、より豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究を行った。また、児童生徒のための鑑賞支援アプリ「学校版　トーハクなび」のユーザー動向解析を用い、その活用・改善に関わる調査研究を行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】
1)スマートフォンによる公式ガイドアプリ「トーハクなび」（日英２か国語対応）を継続して配信した。
2)29 年 1 月より継続して、来館者サービスの一環として、「トーハクなび」をインストールした端末の貸し出しサービスを行い、その結果、アプリのアクセス数を大きく伸ばすことができた。
3)27 年 4 月より継続して「トーハクなび」のユーザーログを集積・解析。来館者の鑑賞体験を深めるための情報の在り方と発信方法、的確なシステムについて、調査・研究を行い、報告書を作成した。
4)学校団体で来館する児童・生徒を対象としたスクールプログラムの一環として、タブレット端末によるアプリ「学校版トーハクなび」（中学生・高校生対象）の運用を継続した。児童生徒へのアンケート調査およびログの集積を行い、報告書を作成した。
5)ICT を利用した博物館ガイドについて、他館への情報提供や意見交換を行った。
6) 共同研究プロジェクトとして、電通国際情報サービス（ISID）とクウジットの協力を得た。



鑑賞支援アプリ「トーハクなび」トップ画面（英語版）

【備考】
報告書「学校版トーハクなび」利用者の動向　30 年 4 月、31 年 3 月作成
2) 電通国際情報サービス（ISID）とクウジットとの研究会を行った（1 回）
3) 元年度末で共同研究が終了するため、2 年 4 月をめどにこれまでの事業を総括を行う予定。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	1) アプリ「トーハクなび」によるサービスを提供しつつ、ユーザーの動向についてのデータを集積することができた。 2) 「学校版トーハクなび」でも、生徒たちの使用状況についてデータを集積することができた。 3) これらの実績とデータをもとに、運営方法等の改善を試み、オリンピック・パラリンピックに向けた新しい鑑賞ガイドシステムの開発を目指して、具体的な検討を開始した。 4) 現在の課題は、日英中韓による情報提供、ならびに展示替えに即した個別の作品解説の提供である。（当館は、展示作品数が膨大かつ頻繁に展示替えされるため、「トーハクなび」では本館、平成館考古展示室に限って個別作品解説を提供している）。 5) 元年度は、これらの課題を克服すべく、作品鑑賞ガイドシステムの構築を進めている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年に開催予定のオリンピック・パラリンピック開催にむけて、主に訪日外国人を対象とした鑑賞支援プログラムの充実を目指しているが、元年度は30年度から継続して現行のシステムのユーザー動向解析や他館のシステム等の情報収集を行い、それをもとに今後のシステムのあり方について検討することができた。また現行トーハクなびとは別に、2年度より運用するための新しい作品鑑賞ガイドシステムの構築を進めている。 また、学校団体での来館者に対しては、「学校版トーハクなび」の提供を継続して行いたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1413Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　博物館教育及びボランティアに関する調査研究（(4) -①-3)）

【事業概要】本研究では、第一に、館内で活動するボランティア「京博ナビゲーター」を実例に、対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究を行った。第二に、「文化財に親しむ授業」で講師を務める大学生及び大学院生のボランティア「文化財ソムリエ」の育成に関する実践と研究を行った。第三に、これまでの研究成果を活用し、子どもや海外からの来館者を対象とした教育的な特集展示を企画立案し、実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　永島明子

【主な成果】

1)京博ナビゲーターの活動
・京博ナビゲーター201 人の育成及び運営にかかる調査研究。
・ミュージアム・カート内の解説シートの多言語対応。
・特別展関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」の実践と研究。
・特別展関連ワークショップ「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」の実践と研究。
・外部の調査員と共同で第 1 期京博ナビゲーター（29 年度任期満了）に向けたアンケートの分析調査。
・京博ナビゲーターの活動を含む教育普及活動についての視察の受け入れ及び意見交換。（2 回・台湾・台北市立建国高級中学、愛媛県・新居浜市教育委員会）

2)文化財に親しむ授業
・文化財ソムリエ 21 人の育成にかかる調査研究。（スクーリング・20 回）
・「文化財に親しむ授業」（7 回・683 人）、「文化財に親しむ授業スペシャル！」（4 回・84 人）の実践と研究。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1回・134人）の実践と研究。
・複製文化財の活用を希望する学校教員との交流会の企画・実施と研究交流。
・交流会に出席した教員による複製を活用した授業の支援と分析。
・他機関が実施する鑑賞教育の見学（4 回・醍醐中学校、文化財活用センター）。

3)研究成果を反映した特集展示「赤ってじつはどんな色？」（7 月 2 日～8 月 12 日）の企画・実施。
・展示の理解の補助を目的とした 4 言語のワークシートの作成。
・教育室研究員によるギャラリートーク及び関連土曜講座の実施。
・ミュージアム・カートへの新教材の追加。

【備考】
本研究を踏まえた事業の実績については、処理番号 1311B1、1311B2、1312B も参照。
1)科学研究費助成事業「対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究」5 年計画（研究代表者の育児休業のため 1 年延長）の 4 年目
2)文化財ソムリエに向けたスクーリングでは、絵画担当研究員による作品の勉強会や、岩絵の具や墨などを実際に扱う体験を実施した。それにより、文化財ソムリエは作品に関する専門的な知識をふまえ、授業案を作成することができた。


ワークショップの様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	京博ナビゲーターについては、来館者アンケートなどから、その活動が来館者の主体的な興味・関心を引き出し、博物館における効果的な教育普及活動として機能していることが確認できた。また、第1期京博ナビゲーターに向けたアンケートの分析調査を30年度に引き続き行い、論文を執筆した（2年5月刊行予定）。また元年度は、30年度の活動分析を踏まえ、あらたに特集展示のワークシートと連動した取り組みを実践した。 文化財ソムリエ育成については、スクーリングなどを通じて多様なプログラムを立案・実践することにより、文化財ソムリエの主体的な参加を促し、多様で質の高い鑑賞授業を行った。元年度はICOM京都大会に関連したイベント「文化財に親しむ授業スペシャル！」や「記者体験in京都国立博物館」を実施した。 海外を含めた外部機関から視察もあり、当館の教育普及活動が国内外の機関に周知・評価を得られていることが確認できた。今後もこれらの活動を継続して行い、それぞれの質の向上に努めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究の中で、30年度に引き続き、中期計画を超える教育普及を目的とした特集展示を実施することができた。また、継続的に行っている京博ナビゲーターや文化財ソムリエに関する調査研究及びその活動も、年々質の向上が認められる。 中期計画の 3 年目を迎える 2 年度は、これまでの成果を振り返り、今後の博物館教育の展開の方向性を見据えた調査研究を進めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1413Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統行事に関する情報を集め、「世界遺産学習」をはじめとする教育プログラムに反映させられるか検討を行い、重要度の高い情報、適切な内容を発信する仕組みを考える。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】
(1) 奈良市教育委員会との連携事業による世界遺産学習の一環として、奈良市在住の小学生の親子を対象とする教育プログラムの実施に向けて検討を重ね、仏像館見学や仏像クイズを通じて地域の文化遺産について学ぶ「親子で学ぼう 奈良の仏像」を 7 月 24 日～25 日に実施した。
(2)奈良教育大学・奈良市教育委員会とともに立ち上げた ESD（持続的開発のため教育）コンソーシアム文化遺産教育ワーキンググループにおいて、博物館施設を活用して地域社会への関心を高めるための方策について協議を重ねた。
(3)わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」関連の親子ワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」を奈良教育大学との連携事業として開催し(8 月 2 日)、小学生の親子が飛び出す絵本づくりを通じて、仏教美術に登場する動物をテーマとする展覧会への理解を深めることができた。



親子ワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」

【備考】
・世界遺産学習や学校プログラムのために来館した学校団体 34 校（奈良市世界遺産学習 24 校、その他 10 校）
※30 年度実績：38 校（奈良市世界遺産学習 26 校、その他 12 校）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館における教育普及プログラムの重要な柱である「世界遺産学習」については、奈良教育大学・奈良市教育委員会とともに立ち上げたESDワーキング等で内容を随時検証しながらその継続性と質の確保に努めるとともに、実施対象を全国から来館する小中高校生に拡大した結果、合計34の学校団体（奈良市24校/その他10校）を受け入れ、前年度並みの実績を達成した。さらに親子ワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」や親子対象の教育プログラム「親子で学ぼう 奈良の仏像」を実施し、「世界遺産学習」の地域学習・家庭学習への浸透というESDワーキングが提唱する理念を実践することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	仏像を主なテーマとしながら奈良の歴史、伝統文化に関する教育普及事業として継続的に行ってきた「世界遺産学習」は、全国から来館する小中校生に対象を拡大するなど、一定の成果を収めている。その内容の充実・向上に向けて継続的な検討を行っており、親子対象の教育プログラム「親子で学ぼう 奈良の仏像」における現地見学実施方法の改善等について奈良市教育委員会と協議を重ねた。今後も「世界遺産学習」を地域学習・家庭学習に普及させることを目的として、地元の教育機関と連携しながら博物館の展示内容に密着した小中学生の親子を対象とする教育プログラム、ワークショップの一層の充実を図っていきたい

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D ｱ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究（(4) -①-3)）

【事業概要】
当館では開館以来、世界で唯一の常設設備として 8K スーパーハイビジョンシステムによる映像を公開してきた。4K の 4 倍の密度を有する 8K が持つ臨場感あふれる優れた映像美を生かした、魅力的なコンテンツ作りを行う。多言語化などの新しいシステムの調査研究を推進する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長　白井克也

【主な成果】
NHK エンジニアリングより、遠からず機器の部品供給が不可能になるため、大規模な機器の更新などを提案された。
これをきっかけに、スーパーハイビジョンシアターを、機器更新の上で存続するか、あるいはまったく新たなプログラムの場を創出するか、館内での検討を行った。
2 年 1 月 28 日（火）に第 1 回検討会を行い、設備の現状や費用対効果などを検討し、現状のスーパーハイビジョンシアターを継続することは困難であること、跡地利用の具体案が必要であることを確認した。
2 年 3 月 5 日（木）に第 2 回検討会を行い、2 年度までで現状のスーパーハイビジョンシアターの運用を終え、その後に施設改修を行うこととし、跡地利用の具体案の検討を始めた。
さらに、跡地利用に関係する部署のヒアリングを順次行った。

【備考】



現状のハイビジョンシアター

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	現状のスーパーハイビジョンシアターの活用実績を踏まえ、文化財への理解を醸成・向上するための新たな検討を始めている。具体案は2年度に集約し、今後の事業計画に反映する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に資するため、部署や専門を超えた検討を進めている。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dイ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究（(4) -①-3)）

【事業概要】
特別展をより楽しくわかりやすくするための教育普及プログラムを実施する。元年度は「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」展、「室町将軍－戦乱と美の足利15代」展、「三国志」展において実施する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　西島亜木子

【主な成果】
過去の特別展のアンケート結果や来館者調査に基づき、特別展の内容や来館者層に応じた効果的な教育普及プログラムを実施した。

・「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」展では、展示されている仏像の 4 つの製作技法（金泥、漆箔、截金、玉眼）を紹介した。金泥、漆箔、截金は、製作過程がわかる手板を製作し、製作過程の映像とともに掲示した。玉眼については、構造がわかる模型を展示し、イラスト入りの解説パネルとともに紹介した。
・「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」展では、イラスト入りのわかりやすいパネル 4 枚を製作。また、勘合貿易（日明貿易）の流れを紹介し、勘合の復元を掲示するとともに、勘合を照合できる体験コーナーを設置した。生徒・児童向けにはワークシートを製作し事前配布したほか、来館した小中学生にも配布した。

当館初めての試みとして、視覚障がい者向けのプログラムも準備した。視覚障がい者向けの音声ガイドの無料貸出、点字及び拡大文字での解説の設置、体験コーナーでの視覚障がい者用勘合の設置を行った。展示室以外のプログラムとしては、視覚障がい者に快適な環境で展覧会を観覧してもらう目的で、視覚障がい者のための観覧ツアーを 2 回開催した。（参加者：25 人）また、「実践！勘合貿易ワークショップ」を一般向けに 2 回、視覚障がい者向けに 2 回行い、勘合貿易の流れを解説するとともに、割印、割書き体験のほか、参加者自らが寸劇をし、勘合貿易の流れを体験した。（参加者数：一般：23 人、視覚障がい者：10 人）一般向けの参加者、応募者には学校関係者も数名おり、参加した高校教諭からは学校向けの勘合貿易キット作って欲しいという要望もあった。

・「三国志」展では、展示されている武器や金印などのレプリカを製作し、どのように使われていたのかをわかりやすく解説する 1 回 15 分の演劇を展示室内で 2 日間（3 回/日）開催した。演劇には、聴覚障がい者も楽しめるよう、手話通訳をつけた。また、視覚障がい者のための観覧ツアーを 2 回実施した。（参加者数：30 人）



三国志ナイトミュージアムでの演劇の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	わかりやすいパネルや体験コーナーはアンケートや来館者調査からも好評であることから、元年度も実施した。「大報恩寺」展と「室町将軍」展でのアンケートでは、回答した人のうち約9割が「とてもよかった」または「よかった」と回答していることからも、高評価を得ていることがわかる。 元年度に初めて行った視覚障がい者を対象としたプログラムについては、初めて当館に来館した方もおられ、これまで博物館に来たくてもさまざまな理由で来館をあきらめていた方に対して文化へのアクセスの機会を提供したといえる。特別展での視覚障がい者向けのプログラムは同伴者も含めて高評価をいただいており、次回の開催を期待する声も多い。 「三国志」展でのイベントでは、聴覚障がい者に配慮して手話通訳を付けたことで、多くの聴覚障がい者が来館した。 今後も当事者の要望を聞きながら継続していくとともに、他の障がい者や高齢者等への配慮も行っていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展の教育普及プログラムは29年度、30年度に引き続き元年度のアンケートでも高評価を得ていることから、来館者のニーズに合ったプログラムを実施することができたといえる。視覚及び聴覚障がい者に対するプログラムは元年度新たに始め、参加者からも高い評価を得るとともに、新たな来館者層の開拓にもつながった。これにより、中期計画における「教育普及に関する調査研究」のうち、特別展の教育普及については充分達成できたと考える。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dｳ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】

28 年に「障害者差別解消法」が施行された。この法律により、国立博物館などの公共文化施設では障がい者への合理的配慮が法的義務となった。当館では年間約 10 の障がい者団体・学校の対応（ワークショップ・展示室見学・あじっぱ体験・博物館ガイダンス等）を行っている。これまでは事前に時間や内容等の打ち合わせは行うものの、事後アンケートによる障がいを持つ当事者や関係者への具体的なニーズの把握は不十分であった。そこで、多様な利用者のニーズに応えるため、元年度は特に視覚・聴覚の障がい者に向けたプログラムを実施し、博物館での合理的配慮をどのように行うべきか、当事者へのヒアリング等も含めたプログラム運営について研究を行った。

【担当部課】	展示課 企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　加藤小夜子 特別展室研究員　西島亜木子

【主な成果】

(1)視覚障がい者及び介助者向けワークショップ

・当事者・介助者のニーズを踏まえたワークショップの実施を目指すため、事前に国立福岡視力障害センターへのヒアリング及び打合せを実施した（4 月 3 日・9 日)。
・ワークショップ本番（4 月 12 日）
①鬼瓦のミニチュア作り②体験型展示室(民族衣装や楽器)での体験③文化交流展示での触察体験(鑑賞の際には LED ライトを使用)を実施した。
・終了後、参加者へのヒアリングを実施したところ、最も満足度の高かったのは①の体験で、当事者の満足度が 7 割、介助者の満足度は 9 割であった。白黒反転文字や点字による資料を準備したこと、担当研究員による鬼瓦の解説や質疑応答を実施したことが高く評価された。



特集展示「更紗展」第 2 回手話通訳付きミュージアムトークの様子

(2)手話通訳付きミュージアムトーク

・聴覚障がい者向けプログラムとして、また多様な利用者が楽しむことができる取り組みの一つとして、ミュージアムトークに当館の手話ボランティア（22 人在籍）による手話通訳を導入した。
・第 1 回「手話と仏像」(5 月 28 日平日昼間) 参加者:75 人(うち聴覚障がい者 11 人)
参加者の手話への関心は高かったが、スペースの確保や展示室の暗さなどが課題として残った。
・第 2 回「更紗にさわろう」(9 月 28 日夜間開館時　参加者:80 人(うち聴覚障がい者 6 人) 1 回目の課題を踏まえ、手話が見やすいように作業灯を点灯し、前方に優先スペースを設け、誰もが楽しめるようハンズオンのコーナーも設置した。手話を使わない聴覚障がい者のために PPT に要約字幕を入れ、配布資料とした。また地元の手話を学んでいる高校生も数多く参加し(17 人)、当館のボランティアとの交流を持つことができた。



特別展「三国志展」
視覚障がい者向け観覧ツアーの様子

(3)手話通訳付きバックヤードツアー 参加者:38 人(うち聴覚障がい者 22 人)

・博物館の「展示する」「運ぶ」「守る」仕事の舞台裏を覗くバックヤードツアーを当館ボランティアの手話通訳付きで実施。移動しながらの手話通訳のため、リハーサルを 2 度実施した。事後アンケートでは参加者の 9 割が満足と答え、「展示室の裏側の見学」や「手話が分かりやすかった」ことが良い点としてあげられていた。課題としてツアーの適正人数や手話通訳を行う場所の明るさ等の検討が必要である。今後も定期的に開催していきたい。

(4)特別展　視覚障害者向けプログラム

・特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」では、視覚障がい者向けのプログラムを準備した。視覚障がい者向けの音声ガイドの無料貸出、点字及び拡大文字での解説の設置、体験コーナーでの視覚障がい者用資料の設置を行った。展示室以外のプログラムとしては、視覚障がい者に快適な環境で展覧会を観覧してもらう目的で、視覚障がい者のための観覧ツアーを 2 回開催した。(参加者数：25 人) アンケートでは参加者、同伴者共、9 割が「満足」または「大満足」と回答した。また、「勘合貿易ワークショップ」を行い、勘合貿易を解説するとともに、割印、割書き体験のほか、参加者自らが寸劇をし、勘合貿易の流れを体験した。このイベントは、一般向けにも行った。(視覚障がい者参加者数：10 人) ワークショップでは、参加者の 8 割が「満足」または「大満足」、同伴者 10 割が「満足」または「大満足」と回答した。
・特別展「三国志」では、視覚障がい者向けの観覧ツアーを 2 回実施した。(参加者数：34 人)「室町将軍」展でのアンケート結果を踏まえて、さわれるものを増やしたり、椅子を準備するなどの工夫を行った。アンケート結果では、10 割が「満足」「大満足」と回答した。

【備考】

取材：手話通訳付きミュージアムトーク　新聞（朝日新聞)、手話通訳付きバックヤードツアー　新聞（朝日新聞)、
特別展「室町将軍」「三国志」視覚障害者向けプログラム　新聞（毎日新聞・西日本新聞)
手話通訳付きミュージアムトーク・バックヤードツアーの動画を九博 HP 及び、ユーチューブ、九博チャンネルで公開中
上記(1)～(4)のプログラムについて、福岡県障がい者差別解消推進功績者表彰を受賞した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	プログラム実施の重要なプロセスとして当事者・介助者へのヒアリングが欠かせないが、元年度は障がい者団体や国立福岡視力障害センター、手話を学ぶ高校生など地元の団体へのヒアリングを積極的に行い、プログラムに生かすことができた。プログラムの実施に向けて、ボランティアと職員の事前打ち合わせや担当研究員との勉強会を通して、段取りや配慮についての共通理解を行うことができた。 今後は特別対応だけでなく個人での利用者にどのような体験が提供できるのかを検討し、研修などを通して、職員すべてのスキルアップが必要である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年の障害者差別解消法の施行や、オリンピック・パラリンピックに向けて、多様な文化の紹介の拠点である博物館には、より一層の配慮が求められる。元年度は特別展と文化交流展示室において当事者・介助者のニーズに合わせた障がい者対応のプログラムを行うことができた。 また、ボランティアと共にプログラムを考えることで、ボランティア活動の活性化にもつながった。 2年度は元年度の実践を生かし、障がい者に届く広報の検討も行いたい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特集展示「刀剣ことはじめ－刀剣ワールド財団と九博の名刀－」における観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】

刀剣ワールド財団と当館が所蔵する代表的な刀剣を用いて、ふだん刀剣に馴染みのない初心者を特に対象として分かりやすい展示を行う。会場内は、日英中韓の 4 言語完全対応による図入り解説パネルを見やすいデザインを心掛けながら掲示する。また会期中の関連行事として、展示担当者によるミュージアムトークを行うとともに、刀剣に関係する様々な職方と協力するかたちで体験イベントを複数回実施する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　望月規史

【主な成果】

会場内に展示した国宝 2 件、重要文化財 6 件を含む全 15 作品（当館所蔵品 6 件、刀剣ワールド財団所蔵品 9 件）に対して、通常の題箋とともに 15 字程度のキャッチフレーズを付し、観覧者に対して作品についての理解をより深めることができた。会場内に掲示した解説パネルは、当館所蔵品の「国宝 太刀　銘来国光」の押形画像を入れた上でそこに部位名称について図示し、更に分かりやすい解説を入れることで、刀剣を鑑賞する上での理解を促すことができた。また、刀剣の主な産地を図示したパネルも設置したことで、具体的に日本のどの地域で刀剣が数多く制作されたのかを明示することができた。



展示会場風景



「刀剣研磨工程見本」の展示

また、作品とともに「刀剣研磨工程見本」のコーナーを設置した。福岡県内の刀鍛冶および刀剣研磨師に依頼して作成した 13 本からなる研磨工程ごとの研磨見本であり、これを順番に並べて展示することで刀剣特有の見どころである地鉄や刃文がどのように現れてくるのかについて視覚的に説明をすることができた。

さらに、会場内には無料リーフレットを設置した。表面に「日本刀とは何か」「刀剣の種類」「刀剣の名どころ」「刀剣の見どころ」など項目を設けて図入りで解説を付した。また裏面には特に 5 件を選んで作品画像入りでそれぞれの見どころについて解説し、更に QR コードを入れて所蔵先での公開データとリンクをさせることで、興味を持った観覧者に対してより詳しい解説への案内をすることができた。

さらに本展の関連イベントとしては、プロジェクト責任者によるミュージアムトーク、および 2 年 1 月 11 日(土)・2 年 2 月 9 日（日）に九州島内の刀鍛冶、刀剣研磨師、象嵌師からの全面的な協力を仰ぎ、「ペーパーナイフ制作体験」「刀剣研磨体験」「象嵌体験」を事前予約制により実施し、さらに同日中に刀剣にかかわる諸職の紹介をすることで、日本刀に対する総合的な理解と興味を来館者に促すことができた。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	会期中は総数5万人以上の来館者があり、SNS上でも非常にわかりやすい、親しみやすい展示である旨の高い評価が数多く得られた。会場内アンケートも非常に好評であり、次回の刀剣展示に対する期待が数多く寄せられた。また、体験イベントは計2回とも盛況かつ安全に実施することができた。従って、初心者を特に対象として分かりやすい刀剣展示とする当初の目的は、十二分に達成できたと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近年の刀剣ブームもあり今回は非常に多くの観覧者を得ることができた。特に関連イベント、ミュージアムトークの際に今後も刀剣や刀装具に関する展示を積極的に行ってほしい旨の声が数多く寄せられており、魅力ある刀剣の展示をさらに心がけていけるようにしたい。また、当館の刀剣コレクションについても充実をはかり、その調査研究成果についても積極的に展示の中で盛り込んでいける展示を心掛けたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421Aア

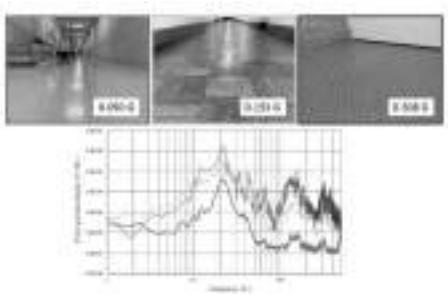
業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館の環境保存に関する調査研究

【事業概要】
当館による文化財の活用に伴い保全の必要性が生じる、収蔵環境、展示環境、輸送環境について調査研究し、今後の環境の向上を目的として実施する事業。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　冨坂賢

【主な成果】
(1) 貸与先施設に関する調査研究
当館が新規に作品を貸与する先の施設を中心に、展示環境の調査を行った。その際に協議した、環境改善や環境維持についての共通する課題や取り組み事例を情報共有することで、当館の環境保全についての有益な知見を得ることもできた。
(2) 展示ケースの研究開発
工芸資料の展示を目的とした、展示ケースをデザイン室と共同で開発した。また、展示ケースに用いる素材の安全性に関する国際シンポジウムに参加し、国際的研究動向についての情報収集を実施した。
(3) 展示用支持具に関する調査研究
展示用支持具の製作工程を整理するとともに、その効果及び機能と現状かかえる課題について検証し、関連学会において成果を発表した。
(4) 館内用輸送時に生じる振動に関する調査研究
短距離ではあるが発生頻度の高い館内輸送について、床面形状と発生振動レベルの関連を検証した。成果を関連学会で発表することで今後の館内輸送のさらなる安全性向上について議論を深め、有益な情報収集ができた。



当館内の各種床面を台車で通行した際に荷台上で検出された振動の解析

(5) 収蔵環境に関する調査研究
国立民族学博物館との共同研究を通じて、持続可能な保存管理の在り方を協議するとともに、館内で収集している生物生息環境、温湿度環境の各種データの評価手法についての研究を開始した。

【備考】
・国内調査先：韮崎大村美術館、徳島市立考古資料館、福岡市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、国立アイヌ民族博物館、長崎県歴史文化博物館、高崎市立かみつけの里博物館、大倉集古館、観音塚考古資料館、大野城心のふるさと館、京都市京セラ美術館、徳島市立徳島城博物館
・国外調査先：浙江省博物館（中）、蘇州博物館（中）、イラクリオン考古博物館（希）、Goppion 本社（伊）、メトロポリタン美術館（米）、Saint-Gobain 社（羅）、V&A 美術館（英）
・研究成果の学会発表
和田浩「博物館内輸送用防振機能付台車の開発」日本機械学会第 28 回交通・物流部門大会、11 月 27 日
和田浩「博物館内の作品輸送で生じる振動レベルの評価とその対策」第 57 回全日本包装技術研究大会、11 月 21 日
和田浩、矢野賀一、黄川田翔「展示用支持具の効果および機能と課題」第 38 回日本展示学会大阪大会、6 月 30 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年間を通して、新規あるいは大規模改修後の貸与先に対して、必要に応じて現地に赴き調査をし、施設毎の状況に応じた実現可能な環境保全について協議を続けた。こうした調査によって当館に有益な知見が得られる場合もあり、今後も継続したいと考える。また、展示ケースの新規製作に伴い、気密性、調湿機能、ガラスの性能について国内外の製作会社と製作現場において協議を重ねる一方、使用素材の安全性に関する国際的研究動向について積極的な情報収集を実施した。課題であった館内輸送に対する調査研究について、各所で生じる振動レベルの評価に関する研究を進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示環境の調査研究に関しては、貸与先施設に関する調査研究、展示ケースの研究開発、展示用支持具に関する調査研究の成果に示した通り、最も充実した成果が得られた。また、輸送環境の調査研究に関しては、国内外でほぼ着目されてこなかった館内輸送に関しての研究を深めることができたと考えている。収蔵環境の調査研究に関しては、既に収集している膨大なデータの効果的な活用手法についての研究を開始した。以上の展示、輸送、収蔵の各環境保全全般に関しては、持続可能性が今後の重要な視点になると予想される。2年度においてはそうした角度からの調査研究を進めたいと考えている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築

【事業概要】
輸送機関、梱包資材、文化財が輸送中に発生する振動に対してどのような応答を示すのかを調査し、科学的根拠に基づく梱包設計を行うシステムを構築する。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	環境保存室長　和田浩

【主な成果】

（１）論文による研究成果発表
・和田浩(元年)「文化財の海上輸送中に生じる振動レベルの評価」MUSEUM、680 号、pp.39-53、査読有、6 月

（２）学会等による研究成果発表
・和田浩「博物館内輸送用防振機能付台車の開発」日本機械学会第 28 回交通・物流部門大会（広島）、11 月 27 日
・和田浩「博物館内の作品輸送で生じる振動レベルの評価とその対策」第 57 回全日本包装技術研究大会（仙台）、11 月 21 日
・和田浩「文化財輸送環境の保全」全国美術館会議保存研究部会第 54 回会合（島根）、2 年 2 月 27 日


加振実験による屏風構造体の振動伝達特性試験の様子

（３）調査実績
・文化財の梱包資材として用いられる綿布団の衝撃吸収特性を得るための落下衝撃試験を実施した（日本ビジネスロジスティクス試験所）。10 月 10 日
・屏風の振動伝達特性を得るために、屏風構造を再現した複製を加振し、各周波数に対する応答を計測する試験を実施した（都立産業技術研究センター）11 月 1 日、12 月 1 日

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業によってこれまで得られた成果の内、文化財の輸送機関上で生じる振動計測プロトコルを用いて、公表データの少ない海上輸送中に生じる振動を計測し、その評価について論文として公表できた。また、日常的に発生頻度の高い館内輸送の安全性向上を目指した研究を開始し、その成果を学会発表することで多様な研究者との協議を深めることができた。梱包資材の性能評価としては、伝統的に用いられる綿布団の衝撃吸収特性を得るための試験を国内で最初に実施することができた。さらに、輸送対象である文化財自身が輸送中に生じる振動を受けて、どのような挙動を示すのかを検証するために、屏風構造体の振動伝達特性試験を実施し、その検証方法を確立できた。文化財の振動伝達特性については今後も幅広い範囲の構造体に対して実施していく計画である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧会への出品を主とした積極的な美術品の活用が施策される現下において、活用に伴う輸送による文化財の劣化進行の抑制技術や管理基準の確立は急務の課題となっている。既に、本事業によって美術品輸送に用いる輸送機関上で振動を計測し、陸上、海上、航空の各輸送のあらゆる工程における振動データを解析している。また、その解析結果を用いて輸送中の振動環境を再現し、振動を受けた梱包資材の応答の計測手法と評価手法を確立している。さらに、振動を受けた美術品素材に蓄積疲労が生じる現象を捉えることに成功し、小さい加速度でも徐々に美術品を劣化させる原因となりうることを検証できた。輸送機関上で生じる振動に着目し、文化財が長期間振動を受け続けることで破損する危険性である蓄積疲労現象の存在を検証することが残る課題であったところ、上記成果によってその検証方法を確定できたと考える。2年度以降はこの検証をより多様な文化財を対象として拡大したいと考えている。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421B ア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究
【事業概要】文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行う	
【担当部課】 学芸部	【プロジェクト責任者】 保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】

(1)修復文化財情報の収集と調査

・元年度、文化財保存修理所の工房に搬入された新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、170 件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。

・当館研究員により 7 回行った修理工房の巡回のほか、修理技術者とともに実施した科学調査を含む調査を適宜実施し、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。

(2)修復文化財情報の整理

・30 年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書（報告書)」に基づき、2,049 件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。

(3)模写作成のための文化財の調査

・当館と模写修理事業者（六法美術）による当館蔵「若狭国鎮守神人絵系図」の復元模写（5 か年計画）の 3 か年目として、上げ写しによる模写を終え、色鉛筆での仮彩色を行った。本紙料紙の作製として雲母を糊でひき、打紙の試作を行った。

(4)情報の公開と共有

・28 年度に修理が完成した文化財 149 件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 17 号(2 年 3 月 31 日発行)に掲載した。

・修理時の調査により発見された銘文 23 件を「銘文集成」として同書に報告した。

・2 年 2 月 28 日に文化財保存修理所で修理を実施した重要文化財「兜率天曼荼羅図」（京都・興聖寺蔵）の修理に伴う新知見について、記者説明会を実施した。



『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 17 号

【備考】

(1)データ収集件数 170 件、巡回回数 7 回

(2)データベースの追加更新件数 2,049 件

(4)報告書　1 冊（修理報告 149 件、銘文報告 23 件を含む）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存修理所で行われる修復文化財情報の収集・整理については、データのデジタル化処理方法等、将来的な情報の応用に対する発展性を見据えて継続的に実施している事業であり、効率性・正確性を担保しつつ元年度も順調に実施できた。この内容は『京都国立博物館文化財保存修理報告書』にて逐次報告している。 当館蔵「若狭国鎮守新人絵系図」の復元模写も調査結果をもとにした料紙が作成されるなど、5か年計画の3か年目として順調である。 2年度計画も元年度に準じて実施していくが、得られた知見をもとにした研究の活性化が望まれる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究活動の一環として、文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行った。本事業は、法人化以前から継続してきた基礎研究事業であり、中期計画でもその重要性に鑑みて継続性を重視している。文化財保存修理所に搬入される修復文化財の多寡は他律的条件であるため定量的評価になじまないものであるが、ほぼ安定した件数で推移しており、有形文化財の修復や模写にかかる調査研究の情報を継続的に蓄積していく所期の目標は順調に達成しており、2年度以降も継続していく。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ② その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究（(4) -②-1）

【事業概要】博物館の展示・教育普及活動に関連する調査研究として、有形文化財の製作技術に関わる調査や材料等に関する調査を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室　降幡順子

【主な成果】

(1)蛍光 X 線分析法は、非破壊分析が可能であるため、共同調査等に係る材料調査として多くの調査を実施した。元年度は特に金属組成、顔料調査、七宝、陶磁器胎土・釉薬の分析調査が主としたものであった。

(2)実施した分析調査は、寄託修理品を含め、X 線 CT 撮像 7 件（13 点）、蛍光 X 線分析（携帯型装置含む）29 件（206 点）、可視赤外分光分析 3 件（4 点）、ポリライト調査 2 件（2 点）、透過 X 線撮影 2 件（5 点）である。

(3)館蔵品の調査をはじめ、外部からの分析調査依頼で実施した三仏寺の美術工芸品調査（柄付鏡等）や京都市埋蔵文化財センターの出土遺物調査（二彩多口瓶）等もあり、他機関とも連携して文化財の科学調査を実施することができた。



唐獅子牡丹文様陣羽織の分光分析調査

【備考】

・学会発表等

(1)降幡順子・井上曉子・齋藤努「博多遺跡群出土ガラス容器片の科学調査-吹きガラスに着目して-」『文化財保存修復学会』　6 月、東京学芸大学

(2)Junko　Furihata「Conservation Science and Explorations of Cultural Excahnge-the blue color agents used to decorate ceramics」『ICOM　Kyoto2019』 9 月、京都国際会議場

(3)Junko　Furihata「Early domestic production of lead-glazed earthenware in Japan: Analytical studies of excavatied ceramics from the 7th and 8th centiries」『EMAC 2019 Barcelona』 9 月、バルセロナ大学

(4)降幡順子「近世陶磁器の彩色材料」、京都国立博物館土曜講座、2 年 2 月、京都国立博物館

・論文等

(1)諫早直人・大江克己・金宇大・降幡順子・山口欧志・吉澤悟「群馬県白山古墳出土品の研究 2」『鹿園雑集』第 21 号、奈良国立博物館、pp. 57-94、4 月

(2)降幡順子「北野廃寺跡出土多口瓶化学的特徴について」『平安京右京一条二坊十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所 pp. 16-22、9 月

(3)降幡順子「藤原宮等出土瓦と生産地遺跡出土瓦の胎土分析成果 1. 蛍光 X 線分析の成果」『蛍光 X 線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究』奈良文化財研究所、pp. 70-83、2 年 3 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度は、外部からの依頼による科学調査の実施とともに、館蔵品・寄託品、展示に関わる科学分析調査の機会が増加した。使用科学機器も、蛍光X線分析装置を使用した化学組成調査のみならず、定性分析ではあるが、可視赤外分光分析やポリライトなど、30年度より多様な機材を用いた光学的調査を実施することができ、幅広い分析調査を実施することができた。これらの結果の一部は、学会、講演会、紀要等により専門家のみならず広く市民に向けて公表することができた。今後は調査研究として一層のデータ蓄積に努めていき、報告書等で公表していく予定である。今後も体制を整え継続を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品・寄託品の調査点数の増加させることができた。30 年度と比較し、展示事業等へ調査結果を活用する機会も増え、普及広報等への取り組みも実施することができた。しかし教育活動等に結び付ける機会は、いまだ十分とは言い難いため、2 年度調査では、これまで実施してきた迅速な情報公開、調査研究成果の展示活用と共に、教育活動への取り組みについて、より一層の充実を図っていきたいと考えている。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究 ((4)-②-1))

【事業概要】

館内施設や設備（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的としている。次の 3 点の調査を継続的に実施し、得たデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を図った。

(1)温湿度センサーを用いた館内施設の温湿度調査
(2)展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察）
(3)文化財害虫トラップの設置及び回収

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1)30 年度に引き続き、展示室や展示ケースに設置した無線式温湿度センサーで 24 時間リアルタイムモニタリングを実施した。蓄積した温湿度データから、展覧会ごとに情報を整理し展示ケースの気密性向上に役立てた。収蔵庫についても 30 年同様､温湿度データロガーとデジタル温湿度計を用いた定期的なモニタリングと温湿度データの回収を行い、空調の調整に役立てた。
(2)正倉院展終了後に、展示ケース内のアクリル製治具などから塵埃を採取・電子顕微鏡にて観察し､塵埃の状況からケースの気密性に対する評価を行った。調査結果を踏まえ、気密性向上のための修理や部材交換などのメンテナンスを実施した。
(3)30 年度に引き続き、文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し、2 か月に 1 回交換を行った。調査結果を蓄積し分析することで IPM(総合的有害生物管理)を推進し、文化財害虫の生息が確認された箇所を重点的に清掃し被害の低減に努めた。また、清掃と防塵マット交換を定期的に実施し、展示室・収蔵庫の周辺の衛生環境保持に努めた。


正倉院展終了後の塵埃調査の様子

【備考】

・学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される､「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を実施した。月に 1 回程度開催し、保存環境に関する問題点や改善案について協議を重ねている。
(1)展示室内温湿度調査：228 か所
(2)展示ケース内ほか粉塵調査：25 か所
(3)文化財虫害生息状況調査：100 か所
・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：11 回開催

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続した調査の実施やデータの蓄積を着実に行っている。また調査で得られた結果を踏まえ、ワーキンググループでの情報共有や議論を行い、保存環境の保持と改善を図った。データの共有化を進め、保存環境の維持や向上を進めると共に円滑な監視体制を整えたい。なら仏像館についても同様に館内環境維持のため継続して調査を進めデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示室や収蔵庫では、温湿度並びに文化財害虫に関する継続したモニタリングや調査を年間を通じて行っている。なら仏像館も同様にデータの蓄積を着実に継続して実施することで、中期計画の達成を目指す。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

本事業では、以下の 3 点の内容について実施した。

(1) 修理方法の記録を残し将来の文化財修理に資するため、館蔵品や寄託品の保存状態に関する科学的な調査を行う。その内容を保存カルテとして記録する。

(2) 館蔵品や寄託品の修理を着工するにあたり、修理文化財の保存状態に関する情報を得るための科学的な調査を行った。また、調査結果を踏まえた修理調書を作成している。

(3) 修理中の文化財から取得した材質・銘文等の情報について調査と分析を行った。また、その結果を当館の研究紀要などへの掲載等を行いデータの蓄積を実施している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1) 30 年度に引き続き、館蔵品や寄託品の保存状態を詳細に観察するとともに、得られた情報をふまえ保存カルテを作成している。必要に応じて光学調査も併せて実施し、作品の基礎データを蓄積した。

(2) 30 年度に引き続き、館蔵品や寄託品の修理に伴い、詳細な観察や光学調査を実施した。保存カルテと調査結果をふまえて修理調書を作成し、館内鑑査や修理方針の策定に役立てた。

(3) 30 年度に引き続き、修理中の木製文化財から得られた木片について、共同研究の一環として京都大学生存圏研究所との協定に基づき樹種同定を実施し樹種を同定した。また、修理中に発見された銘文は、当館研究員が翻刻を行い情報化と整理を実施した。これらの成果は「奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書」第 1 号として 6 月に刊行した。

【備考】

・保存カルテや修理調書を基に修理された文化財は、修理完了後の翌年度冬に開催される特集展示「新たに修理された文化財」にて公表している。

(1) 保存カルテ作成件数：総計 107 件
（内訳　絵画：32 件、書跡：5 件、彫刻：12 件、工芸：10 件、考古：34 件、歴史資料：9 件、その他：5 件）

(2) 修理調書作成件数：総計 8 件
（内訳　絵画：2 件、書跡：1 件、彫刻：2 件、工芸：2 件、考古：1 件）

(3) 材質調査及び銘文調査件数：2 件
（内訳　材質調査実施件数：2 件）



「奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書」第 1 号に銘文を掲載した「泣不動縁起 箱蓋」（当館蔵）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存修理所の修理技術者と連携を進め、Ｘ線ＣＴ、Ｘ線透過撮影や顔料調査などの科学的調査を行い、修理に有用な成果が得られた。保存カルテについても整備を進め、修理方針の検討に役立てた。また、材質調査や銘文調査も引き続き実施し、データの蓄積を図った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館の文化財保存修理所は、奈良をはじめとする国指定品の修理における拠点であり、修理技術者との連携は今後も重要である。本事業は、修理に関する基礎情報を収集し、その成果を公開するものであることから、2年度以降についても引き続き調査を行い、情報の蓄積を図ることで、中期計画の達成を目指す。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

本事業では、以下の 2点の内容について実施した。

(1) 館蔵品や寄託品の修理前や修理中等に併せ、光学調査（X線透過撮影・蛍光X線分析）を実施した。そして、修理方針の策定に有効な情報を取得し反映させた。

(2) 文化財保存修理所での修理中の文化財については、当館の研究員と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、得られた結果を修理へ反映している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1) 館蔵・寄託の文化財（彫刻や漆工品など）の修理等に併せ、X線CTスキャナやX線透過撮影を実施し内部構造や納入品の把握を行った。これらの光学調査は修理に活用すると共に、データの蓄積も進めた。

(2) 当館研究員と工房の技術者が共同でX線CTスキャナ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの光学調査を行った。館蔵品や寄託品の修理前や修理中にこれらの調査を実施することで、修理へ成果を随時反映させることが可能となり、彫刻作品・漆工作品や絵画作品のより安全な修理に役立てることができた。



蛍光X線分析調査の様子

【備考】

・調査件数

X線CTスキャナ調査・蛍光X線分析調査回数：1件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	30年度に引き続き、修理等の際に内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を得るため光学調査を実施した。X線CTスキャナやX線透過撮影は安全な修理に欠かすことのできないものとなっており、また蛍光X線分析は彩色材料の同定に重要な役割を果たしている。光学調査の結果は、修理調書に反映させるとともに修理方針の策定にも役立てている。2年度についても継続した調査並びにデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	X線CTスキャナは順調に稼働し、彫刻や漆工品などの修理に大いに役立っている。文化財保存修理所での修理内容をふまえ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの調査を行うことで、修理方針の策定等に伴う調査を随時実施できた。2年度も調査を継続し、データの蓄積を図ることで中期計画の達成を目指す。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	文化財の材質・構造等に関する共同研究（(4) -②-1)）

【事業概要】
文化財用X線CTスキャナ、マイクロCT、3Dデジタイザ等を使用して、文化財の材質・構造に関する研究を外部研究者と共同で実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

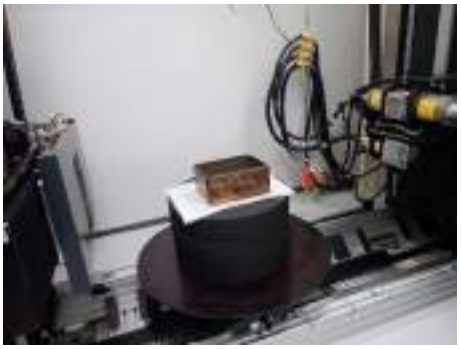
(1) ジャワ「ガムラン」におけるゴングの音と形の関係

インドネシア・ジャワの「ガムラン」では様々なタイプのゴング類が使用される。これらコングのうち、「クノン」及び「ボナン」について、筑紫女学園大学及び日本大学との共同プロジェクトとしてX線CTによる形状分析、音響分析、及び形状データに基づいたモード解析を行った。モード解析結果（理論値）は、音響分析結果（実測値）と概ね一致していると考えられた。また、楽器の音高や音色を決定すると考えられる部位も明らかになった。

(2) 漆器の構造の調査

修理のために寄託された黒漆山水楼閣葡萄沈金中央卓の科学分析として、文化財用X線CTスキャナによる中央卓の構造調査及びマイクロCT撮影による塗膜断層構造の調査を行った。前者によって、少なくとも 2 樹種の木材が使い分けられていること、天板及び底板はダボを用いた 2 枚接となっていること等が明らかになった。後者（マイクロCT）により、下地は少なくとも　3～4層に重ね塗りされている可能性が示唆された。

また、文化庁、熱田神宮、各博物館等の所蔵者と協力し、様々な箱の文化財用X線CTスキャナによる構造解析を行った。その結果、蓋甲板・身底板のはぎ合わせの有無、側板・底板の接合方法、布着の有無や様式等が明らかになった。



菊蒔絵手箱のX線CT調査の様子

(3) 茶入の製作技法

茶入の伝統的な製作技法を解明するために、いくつかの窯の茶入及び関連資料のX線CTスキャンを実施した。その結果、茶入内部に存在する気泡（す）等の空隙を可視化でき、その分布様式の差異から複数の茶入製作技法が存在する可能性が示唆された。今後は、茶入内部の空隙のみを抽出するデータ処理手法を確立した上で、詳細な製作技法の分類方法を検討していく。

【備考】
・X線CT調査件数 108件、調査回数 214回
・三次元計測調査件数 6件、調査回数 9回
論文
田村史子、塩川博義、中川一人、渡辺祐基「中部ジャワのガムランにおける『ゴング』類の分類 1 肩高水平置き『ゴング』〈Kenong クノン〉と〈Bonang ボナン〉の形と音の特性」『筑紫女学園大学人間文化研究所年報 第 30 号』(8 月)
大西智洋、大橋有佳、渡辺祐基、當山綾乃「黒漆山水楼閣葡萄沈金中央卓の保存修復と光学分析調査」『浦添市美術館紀要 第 15 号』(2 年 3 月)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度は114点の文化財の調査を行うことができた。特に、上記の漆器及び陶磁器については、30年度に引き続き重点的な調査を実施し、体系的なデータベースを確立することができた。さらに、一部の成果は研究紀要にて公表した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで中間計画に沿って様々な文化財の調査を実施し、文化財の保存と活用を推進するための基礎データを蓄積しており、元年度も継続して取り組むことができた。30年度末に本研究の中核的な分析装置であるX線CTスキャナの更新が完了し、元年度は従来よりも高精細なデータを多数収集できた。2年度は、文化財の更なる調査を計画しており、同時にデータの分析及びその結果の学会発表・論文による公表、並びに展示等への活用を推し進めていく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dイ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究（(4) -②-1)）

【事業概要】
九州の保存修復の中核となる当館文化財保存修復施設の機能を活かし、西日本地域の大学において文化財保存修復を学ぶ学生を対象とした技術研修を実施する。また、地方自治体の博物館等施設の古文書担当者に対して文化財保存の基礎的な研修を行う。さらにベトナム国立歴史博物館が所蔵する作品の保存修理事業を行い、ベトナムでの修理理念の検討と人材育成等を目指す。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　志賀智史

【主な成果】
・「文化財保存修復研修」
実施日：8 月 19 日～23 日の 5 日間
参加者：広島市立大学 3 人、九州産業大学 2 人、佐賀大学 3 人の計 3 大学 8 人
内容：屏風の下張り製作
協力者：一般社団法人国宝修理装潢師連盟
大学・大学院で文化財保存修復を学ぶ学生を対象に、装潢修復技術を学ぶ機会を提供することができた。屏風の下張り製作を通して、伝統的な日本の紙文化財の構造を学び、その修復技術の一端を実習することで、受講者に文化財や保存修復への理解を深めてもらうことができ、将来の修理技術者の育成にも寄与することができた。
・「古文書保存基礎講座」
実施日：2 年 1 月 24 日・25 日
参加者：地方行政及び博物館等施設において古文書の調査・保管・修復担当者 24 人
内容：24 日　文化財の保存修理及び古文書の保存と活用についての講義、糊炊き実習
25 日　紙文化財の取り扱い実習、応急手当の実習
当館、福岡県教育委員会及び筑紫野市歴史博物館の三者共催事業。古文書の調査・保管や応急手当について研修の場を設けることができた。
・ベトナム国立歴史博物館所蔵品の修理事業
実施日：10 月 14 日～18 日の 5 日間
当館との協定館であるベトナム国立歴史博物館が所蔵する所蔵品の修理事業（住友財団助成事業）。元年度は神勅（紙本）を対象とした（3 ヵ年継続事業の初年度）。当館修復施設を使用する修理工房宰匠（株）の協力を得て、ベトナムでの紙文化財の修理理念の検討と修理対象の調査、現地人修理技術者の育成、伝統的紙漉工房の調査を行った。


ベトナムでの伝統的紙漉工房の調査風景

・文化交流展示「文化財をまもりつたえる博物館」
実施日：4 月 2 日～7 月 28 日の 17 週間
展示場所：文化交流展示室　第 1 室
バックヤードツアーでしか見ることができない博物館の役割について、「修理」、「模写模造」、「収蔵」、「環境」の 4 つのテーマで作品を中心に様々な資料を展示することにより、より多くの方々に「文化財をまもりつたえる」という博物館の役割を知って頂く機会を設けた。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内・国外の将来及び現在の文化財保存修復の担い手を対象に、元年度も継続して研修の機会を設けることができた。また、バックヤードツアーと修理に関する展示を行うことで、「文化財をまもりつたえる」という博物館の役割を一般の方々に強く印象付けることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	行政機関職員への研修、将来の修復技術者の育成、海外協定館所蔵品の修理事業、修理に関する展示事業を行うなど、中期計画に沿って多方面への文化財保存修復に関する普及活動を行うことができた。特に、元年度開始したベトナムでの紙文化財の修理事業は、今後の展開が期待されるものである。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dウ

業務実績書

中期計画の項目	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究（(4) -②-1)）

【事業概要】

本研究の目的は、我が国の博物館における IPM（総合的有害生物管理）普及のための地域共働システムづくりである。本研究では、研修会の開催、及び地元 NPO 法人やボランティア、大学・専門教育機関・地域文化施設の連携による IPM 研修プログラム確立を通し、IPM の社会的理解度を深めつつ、博物館等における IPM を軸にした自立的地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室主任研究員　秋山純子

【主な成果】

(1)海外の IPM への取り組みに関する事例報告や東京文化財研究所から最新のカビに関する講演の協力を仰ぎ、IPM セミナーを実施した（10 月 23 日）。国内の博物館、美術館、図書館関係者及び館内での IPM 事業にかかわるスタッフ、NPO 法人、ボランティアあわせて 150 人の参加を得た。



IPM セミナーの様子

(2)IPM 研修を元年度も実施した（10 月 24 日、25 日）。IPM 研修の受講は各施設の職種の異なる 2 人 1 組（総務系と学芸系など）での参加を原則としている。元年度の IPM 研修では、募集定員 24 人のところ、全国各地の 51 施設から 95 人の応募があり、34 人が受講した。

28 年度～30 年度に受講した施設が再度申し込みをするなど、この IPM 研修が各館で役立っていることが伺える。また、無記名でのアンケート結果では「とても良かった」と最高の評価で回答した参加者が全体の 72%と、高い満足度を示しており、継続した IPM 研修の実施の必要性があるといえる。



IPM 研修風景



NPO 法人とボランティアによる IPM メンテナンスの様子

(3)館内向け IPM 研修の開催

館内関係者向けに IPM 研修を実施した(5 月 14 日)。館内において IPM 活動に対する理解を深めることができた。

(4)環境ボランティア活動の一環として、NPO 法人ミュージアム IPM サポートセンターの IPM メンテナンスの体験実習を実施した。これにより館内の IPM 活動の体制をさらにしっかりと作ることができた。

【備考】

・IPM セミナー　1 回　参加人数：150 人
・IPM 研修（2 日間）　1 回　参加人数：34 人
・館内希望者向け IPM 研修（1 日間）　1 回　参加人数：20 人
・学会研究会等発表：木川りか、秋山純子、渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、岡部海都、柿本大典、大城戸博文「ガラス壁を有する博物館建造物の衝突野鳥の対策：建物の俯瞰的概観の調査と照明・音声を利用した対策について」文化財保存修復学会第 41 回大会（6 月 23 日、東京)、秋山純子、山崎久美子、石橋陽見子、渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、川越和四、木川りか、「夜間開館開始にともなう昆虫類の侵入調査について」文化財保存修復学会第 41 回大会（6 月 23 日、東京）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館の危機管理としてIPM活動を進め、その成果を文化財保存修復学会で報告・当館のIPMの取り組みを発信することができた。30年度のIPM研修の内容と受講生の反応を踏まえ、元年度のIPM研修の内容を精査し、実施することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画のとおり、博物館等のIPM活動に関連し、セミナーやIPM研修等について全国の博物館等から総務系と学芸系など職種の異なる担当者を受け入れて実施している。IPM研修は毎年、多くの受講の希望があり、IPM関連の調査研究により最新の状況を反映した普及活動を今後も実施したい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	展示ケース内の環境に関する調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

展示ケースは、展示される文化財を粉塵や温湿度の急激な変化から保護し、また作品への影響を最小限にする照度条件でより良く作品を観覧していただくための環境を実現するにあたってきわめて重要な役割を担っている。さまざまな状況下の展示ケース内の環境条件について、作品を保護する見地より多角的かつ詳細な調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

(1) 展示ケース照明の光源の位置と温湿度条件についての調査

密閉ケースが主流となっている中で、展示ケース照明の光源の位置がケース内の温湿度環境に及ぼす影響を詳細に調査した。密閉ケースにおいては、通常は安定した温湿度条件が期待されており、多くの場合良好な温湿度環境を保つことができるが、状況によっては例外がある。当館は独立ケース内照明として、現在はまだハロゲンランプが用いられているが、ケースの形状・ハロゲンランプの光源の位置・調湿剤設置ボックスの位置関係によっては、高温のハロゲンランプから発生する熱によって、密閉ケースの中ではかえって温湿度の変化が大きくなる場合もあることがわかった。この対策としては、このような状況のケースについては、早期に熱をより発しにくい LED 光源に変えつつ、ランプハウスの位置を変更することが推奨される。

(2) 展示ケース内の空気質環境についての調査

展示ケース内では、敷板や展示台に合板が用いられることが多々あり、合板から放出される有機酸やアルデヒドなどの揮発性化学物質の問題は広く認識されている。近年、このような揮発性化学物質の現場での測定方法が発達したことを受け、当館でもさまざまな条件を実験的に作り、酢酸、アルデヒドの環境濃度を調査している。合板を用いた場合、環境の化学物質濃度は上昇するため、定期的な換気や合板を包材で梱包するなどの対策が必要となっている。



ケース内の化学物質を測定する実験の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	一般には密閉ケースで調湿剤を入れれば、作品を理想的な条件で保管・展示できると考えられているが、密閉ケース特有の難点も認識されつつある。この問題について、さまざまな状況下での温湿度や揮発性化学物質濃度について、詳細な調査を通じて状況の把握を行うことができた。このような結果は、博物館等施設全般に共有できる知見と考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	予定していた項目について、継続的にいろいろな条件下でデータを集めることができた。今後は改善につながる状況を試行し、引き続き調査を続けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究

【事業概要】

当館における収蔵品管理システムの調査研究を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	情報管理室長　村田良二

【主な成果】

1) 収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、貸与管理、修理予定・履歴管理、文献情報管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。
2) 新元号に対応した。
3) 総合文化展に関連する印刷機能を更新した。
4) 新たに編入された古写真のデータではアルバム内の個別の写真を扱うため、親子関係として従来の「部分」のほかに「内容細目」を追加し、適切にデータ処理ができるようにした。
5) ColBase との連携のため、収蔵品管理システムから抽出した公開用のデータを投入し、ColBase から自動で取り込むための中継サーバを新たに開発した。



中継サーバ管理画面

【備考】

収集データ件数　234,836 件
（内訳）
作品データ件数　221,873 件
平常展データ件数　5,542 件
鑑査会議データ件数　100 件
貸与データ件数　1,944 件
修理データ件数　2,687 件
文献データ件数　2,690 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムについては継続的な開発を進め、館内からの要望に応えながら着実に発展させることができた。新たに編入された古写真では、アルバムのように物理的は一体でも内容として個々の写真の情報を必要とする。これを全体に対する内容細目として扱うことにより、展示案等では個々の情報を表示した。さらにアルバム全体のスケジュールを登録する仕組みを設ける必要性の確認と、その具体的な実装により、収蔵品データ管理のための新たな知見が得られた。また「ColBase」に定期的にデータを送信するための中継サーバを構築し、OAI-PMHプロトコルによる収蔵品データの連携を実現した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間では、システム全体の設計を再検討し、さらに発展させていく。元年度は、継続的な機能改善と同時に、「ColBase」とのデータ連携を実現した。2年度以降は、中継サーバの構築により得られた知見を踏まえつつ、システム設計の見直しを行う。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究

【事業概要】
4 年度の当館創立 150 年へ向けて『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料を作成する。また、原稿の整理や入稿など編集作業を行う。元年度は関係文書類の整理とデータ化をし、保存措置を講じる。また、『150 年史』執筆者に向けて資料提供を行い、寄稿された原稿の整理と入稿を進めた。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子

【主な成果】
(1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置（4 月 1 日～2 年 3 月 27 日：週に 1～2 日）
資料保管室（資料館 3 階）に収集した約 8,500 件の館史関係文書類について、27 年度に完成した目録(仮)と対応させながら、資料の保存や出納のために、中性紙箱への入れ替えを行った。また、館内外より新たに収集した資料について目録を作り、活用できるように整理をした。以上は、東京国立博物館百五十年史編纂室員 2 名、編纂室 AF1 名がともに作業を行った。
(2)東京国立博物館百五十年史編纂に向けた会議の実施（5 月 31 日）
『150 年史』執筆担当者を集めて編集調整会議を行った。執筆者より寄せられた疑問点への回答と、編集出版業者が作成した組見本と、文体の統一や原稿ファイル名、関連資料検索方法などの確認を行った。
(3)『150 年史』原稿についての整理と入稿作業（適宜）
30 年度に執筆依頼を行った執筆者に対して連絡を入れながら、原稿提出を促した。提出された原稿について、内容を確認し、文体の統一に向けての問題点を抽出し検討した。確認した原稿を、編集出版業者に入稿した（11 月 20 日～）。
(4)館史の内容に即した文書類の整理・デジタル化
a)海外交流展覧会資料のデジタル化（5 月 8 日、11 月 6 日、11 月 19 日）
『150 年史』編纂に向けて、執筆資料とするために、海外交流展覧会に関する資料のデジタル化を行った。室員 1 名、謝金アルバイト 1 名がこれを進めた。
b)『150 年史　年表（稿)』へのデータ追加（適宜）
30 年度に作成した冊子『150 年史　年表（稿)』の訂正や追加項目をデータとして蓄積した。
(5)聞き取り調査の実施（6 月 18 日ほか）
当館の OB に面会し、当館の歴史に関する聞き取り調査を実施した。聞き取った内容は文字に起こして適宜『150 年史』執筆者に資料として提供した。
(6)問い合わせへの対応と関係資料の提供（7 月 10 日ほか）
『150 年史』執筆者などへの資料提供と、館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。



執筆者への提供資料

【備考】
(1)収集した文書類の整理：52 日間実施
(4) a) 海外交流展覧会資料のデジタル化：3 日間実施（25 件 550 点）
b)『150 年史　年表（稿)』へのデータ追加：85 点
(6)資料提供・問い合わせ対応：65 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度より継続的に行ってきた文書類の整理・保存措置について元年度も進めた。また収集・整理した文書類のデータを活用し、『150年史』執筆者へ資料提供を行うことができた。そして、寄稿された原稿の整理と入稿を進め、編集出版業務へ着手することができた。引き続き、館内各所に所在する文書類を『150年史』編纂に有効に活用できるようにするとともに、原稿執筆を促し資料編の準備もすることにより編集出版作業を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	『150年史』執筆者への資料提供や館史に関わる問い合わせ、調査研究などの要望に迅速に対応できるようになった。また、原稿の整理や入稿を進められたことから、中期計画に対する進捗状況は順調である。2年度以降も引き続き文書類のデータ化を行い、利用しやすい文書整理を心掛け、さらなる活用を図るとともに、編集出版作業も進めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1422B7

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究 2）博物館情報、文化財情報に関する調査研究
プロジェクト名称	博物館情報システム・資料情報処理に関する調査研究

【事業概要】当館の文化財情報システムや博物館ウェブサイト、博物館システムの整備や運用について検討するとともに、文化財情報に関する諸般の調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長（兼列品管理室長）　羽田聡

【主な成果】

(1)当館の文化財情報システムや博物館ウェブサイト、博物館におけるインフラネットワークの整備や運用について検討する情報システム検討委員会を隔月で開催し、文化財情報に関する調査研究を推進した。

(2)情報システム委員会での検討課題が多岐にわたることから、文化財情報の調査研究をより強力に推進するためのデジタルアーカイブ小委員会を設置、隔月で開催した。

(3)e 国宝のリニューアルや国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）への対応のため、近年の他機関における動向や社会的ニーズの変化を踏まえ、メタデータの整備や画像提供のあり方について調査・検討を行った。

(4) ColBbaseが当館の公開データを自動的に収集可能なよう、文化財情報システムの改修を行った。

(5)写真及び撮影におけるデジタル化の推進に伴い増大する画像データに対応するため、ストレージの増強を図った。



文化財情報システムの改修
（ColBase 対応）

【備考】

・情報システム検討委員会　　6 回
・デジタルアーカイブ小委員会　4 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館のデジタルアーカイブズや博物館ウェブサイト、博物館システムの整備や運用について検討する情報システム検討委員会を隔月で開催したほか、文化財情報システムや画像ストレージシステムの改修を通じ、文化財情報に関する調査研究を促進した。 情報システム委員会での検討課題が多岐にわたることから、元年度から文化財情報の調査研究をさらに推進するためのデジタルアーカイブ小委員会を設置、開催した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	画像データのバックアップシステムの稼働を安定に運用開始することができたことで、ストレージ増強の計画を進めた。元年度末に発生した新型コロナウィルスの影響により工場の出荷が遅れ、予定していた作業が年度内に実施できなかったが、2年度に実施予定である。 元年度は文化財情報システムを含めた博物館アーカイブズの調査研究に特化した分科会として、デジタルアーカイブ小員会を設置し、本調査研究をより推進した。2年度以降も本委員会と併せて開催を継続する。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1422Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究（(4)-②-2)）

【事業概要】

当館が活動範囲とする仏教にかかわる歴史と美術について、展覧会や調査研究事業と連動した情報収集を行い、そこにデジタル技術を適切に取り入れることにより、データの継続的な作成・データベースの構築・情報資源の公開並びに共有へと展開させる。その際には実践に即した方法論を鍛え、文化財の保存活用に資するアーカイブズの形成・発展にも寄与することを目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　宮崎幹子

【主な成果】

デジタル撮影の安定的な稼働を目指し、撮影機材、環境、保存用ストレージ、体制等の整備を行い、多数の撮影を実施した。情報システムや公開用データベースの更新を適宜行い、情報の公開と拡充に積極的に取り組んだ。また法隆寺、国立情報学研究所との共同研究についてあらたに覚書を締結し、実施した。

(1)特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展　曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」（以下、藤田美術館展）、特別陳列「法徳寺の仏像 ―近代を旅した仏たち―」等の開催と連動して、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の文化財の撮影を行った。「藤田美術館展」では、図録掲載のすべての作品について新規の撮影を実施し、精度の高い文化財写真の収集と公開を実現させた。藤田美術館の所蔵品については未公開作品も含めて寄託期間中にさらに多くの撮影を継続しており、研究資料の蓄積に取り組んでいる。

(2)元年に寄託となった法隆寺金堂壁画写真ガラス原板（法隆寺所蔵。363 枚）について、同寺が国庫補助事業によりおこなっているデジタル化に協力し、あわせて国立情報学研究所高野研究室との共同研究により、デジタル化が完了した一部の高精細画像をもちいてデジタルコンテンツを制作した。コンテンツは特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」（12 月から翌年 1 月）において一般に公開した。デジタル化事業は来年度も継続されるため、3 年度に金堂壁画全 12 面の画像を盛り込んだ完成版の制作を目指して、引き続き共同研究をおこなっていく。



デジタルコンテンツ「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」

(3)3 年度に刊行予定の快慶作品を集成した大型図録のため、兵庫県・浄土寺等において文化財写真の撮影を実施した。この事業は、当館のアーカイブズの充実のみにとどまらず、広く学界へ裨益する事業にも結び付けられる成果である。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館では、文化財アーカイブズの形成を重要な事業のひとつとして位置付けており、拝観や移動、調査の機会が稀少な文化財を画像データとして蓄積し、共有可能な研究資源としていくことには大きな意義があると考える。文化財の撮影は、保存や所有者の意向、物理的・時間的制約など様々な要因が影響するため、過去の平均値との比較から各年度の実績を評価することは必ずしも適切ではないが、主な成果でも述べたとおり、学術的に重要でありながら撮影の機会を得ることが難しい文化財について、継続的に調査を実施して質の高い画像データを取得して公開に繋げていることの意味は非常に大きい。近年では、文化財写真の黎明期を伝えるガラス乾板のデジタル化にも取り組むなど、更なる発展も視野に入れている。今後も仏教美術研究・情報の拠点として、文化財アーカイブズの質・量双方の維持に努める予定である。また、人員と予算が限られる現在のような体制で、他館と比して遜色ない幅広い活動を展開できている点も評価できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	デジタル撮影並びにスキャニングによる画像データの作成について、現在のところ安定的な稼働を維持できている。内部での処理から最終的な情報公開までの一連の流れについて、今後とも人材及び機材の確保を含めた長期的な展望が必要である。 当館では仏教美術分野において国内唯一と言っていい貴重な画像データのコレクションを運用しているが、CT 撮影に代表されるような文化財調査の進展に併せ、文化財アーカイブズの拡充が図れるよう、更なる体制整備が肝要である。今後も文化財の保存・活用そして研究の基盤として機能するべく、文化財アーカイブズ形成の実践を続けていくとともに、それを下支えする理論の構築にも取り組んでいく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1430A

中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。
4)ICOM（国際博物館会議）京都大会2019に参加し、積極的に協力する。
（東京国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。
2)アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会、 IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）等の国際会議へ参加する。

担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長　楊鋭

【実績・成果】
（4館共通）
1)中国、韓国、欧米の博物館・美術館等から計55人の研究者を招へい・受け入れ、研究交流を行った。
2)中国、韓国、マレーシア、イスラエル、米国、ヨーロッパなど19ヵ国・地域の博物館・美術館等へ研究職員を89人派遣し、収蔵品とその活用に関する研究及び研究交流を行った。
3)文化庁支援による北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として日本美術専門家会議（2年1月31日、東京国立博物館）及び国際シンポジウム「展示室で語る『日本美術』」（2年2月1日、同館）を開催した。
4）第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会に参加した。

（東京国立博物館）
1） 韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館等との学術交流協定に基づき、研究員の交流・派遣を行うとともに、海外での文化財調査や特別展など共同事業の企画・実施準備、国際会議に研究員を派遣した。また、元年度は館蔵品の海外貸与案件が大幅に増加し、当館クーリエの派遣をはじめ、国際的な展示協力、展示施設の調査、ネットワーク構築、交流事業の推進を図った。
2） 外国人来館者に日本美術をより深く理解し、楽しんでもらうため、多言語対応担当者を継続的に海外に派遣し、各国の公私立博物館の多言語化の対応状況を調査した。特別展及び平常展において、外国語のパネルを増設や展示作品の多言語解説の改善等、外国人へのサービス向上を図った。

【補足事項】
(4館共通)
上記研究員派遣人数は当館予算による派遣延べ人数を示す。
科学研究費助成事業、当館収蔵品の海外貸与にともないクーリエ派遣等外部資金等を含む人数は141人。
（東京国立博物館）
1)研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会及び派遣者による研究交流成果報告会を実施した： ①韓国国立中央博物館研究員（7月30日鄭　美娟氏・9月24日李　賢珠氏)、当館研究員（2年1月28日市元塁主任研究員・三笠景子主任研究員）
②中国・上海博物館研究員（3月に予定していたが、コロナウイルス蔓延防止のため中止）


第7回アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会(11/29)

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
海外からの研究者招聘	55人	－	－	経年変化	83	73	35	79
海外への研究者派遣	89人	－	－		47	60	67	52
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	314人	－	－		284	463	334	256

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
韓国国立中央博物館・中国上海博物館との協定に基づく主体的な招へいに加え、海外の優れた研究者を招聘するとともに、当館研究員を海外に派遣し研究者交流を活発化することにより、博物館活動の向上を図る。元年度で6度目となる北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業には11ヵ国30人の参加があった。また、海外における日本美術展の当館クーリエ派遣などの取り組みにより海外研究者・博物館関係者との交流が進み、今後の展覧会等事業や研究交流につながっている。さらに、外国人来館者向けに展示室のパネルや作品の多言語解説の改善を行った。2年度は、海外の博物館・美術館との交流・連携を一層深めていくとともに、東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人来館者にとってより楽しく分かりやすい情報発

【中期計画記載事項】 信に努めたい。
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
例年より多くの研究者招へいと派遣により成果を達成し、順調に遂行できた。第6回となった北米・欧州ミュージアム日本美術専門家会議では、「展示室で語る『日本美術』」というテーマのもと、欧米の研究者による日本美術に関する活発な議論が交わされ、交流を通じて相互理解を図ることができた。また、平常展示室において、日本史や日本文化の知識が少ない外国人等の展示理解・補助を目的として、時代背景や用途等を記した解説パネルを各展示室に増設した。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1430B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（４館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムの開催若しくは職員を派遣する。
4)ICOM（国際博物館会議）京都大会2019に参加し、積極的に協力する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
1)
・サンフランシスコ・アジア美術館副館長ミンツ氏を招へいし連携に関する打合せを行い、同館へ職員を派遣するなど、積極的に交流を行った。
・2019年度北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携交流事業において、実行委員会に参画し、全般に協力して行い、特に当館で刀剣・甲冑に関するワークショップ、東福寺、龍光院、大西清右衛門美術館、千總、岡墨光堂において、エクスカーションの企画、運営を行った。
2)研究交流及び研修等のため、職員18人を海外へ派遣した。


ICOM京都大会閉会式（本館）

3)
・中国国立シルク博物館長趙豊氏を招へいし、研究集会及び学術交流を行った。
・国際博物館の日・ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「ICOM京都大会2019の開催に向けて」の開催及び運営に協力した。
・ICOM京都大会開催記念　日米文化教育交流会議(CULCON)美術対話委員会シンポジウム「日本美術における国際交流―課題と可能性」の実行委員会に参画し、開催及び運営に協力した。
・CULCON美術対話委員会の開催及び運営に協力した。
4)
・日本博物館協会に設置された「ICOM京都大会準備室」への職員の派遣や、大会運営のための各種委員への職員の就任等を通して、大会運営に積極的に協力した。
・会議、国際委員会、関連プログラム等に職員を派遣し、世界の博物館関係者とネットワークを構築した。
・当館を会場とする各国際委員会のワークショップやオフサイトミーティング、大会エクスカーションに協力した。
・KYOTO博物館子どもフォーラム実行委員会に参画し、当館でのKYOTO博物館子どもフォーラム開催に協力した。
・大会のクロージングセレモニーにおいて、明治古都館（本館）を閉会式場、庭園をパーティー会場として提供したほか、平成知新館では大会参加者向けにICOM京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝」の特別鑑賞会を実施する等、開催地京都の国立博物館として大会の締め括りに尽力した。
・ICOM京都大会2019記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来」の実行員会事務局に参画した。

【補足事項】
1)海外研究者2人、特別研究員1人
4)ワークショップ2件（ICOM-DRM、ICOM-UMAC)、オフサイトミーティング2件（ICOM-ICEE、ICOMAM)、大会エクスカーション1件（文化財保存修理所視察）を当館内で実施した。ICOM京都大会2019記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来」を京都で開催した。なお、東京会場で予定していたシンポジウムは新型コロナウイル感染症拡大により中止となった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
海外からの研究者招聘	3人	－	－		2	2	2	14
海外への研究者派遣	18人	－	－		17	21	21	35
国際シンポジウム開催数	0回	－	－		1	0	1	1
国際シンポジウム参加者数	0人	－	－		200	0	140	99

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
元年度も外国人招へいや海外の研究者との研究交流を行った。また、ICOM京都大会においては、人員及び会場の提供、関連イベントの実施に当たって積極的な協力を行い、開催地の国立博物館としての役割を十分に果たすことができた。さらに、前後にもICOM京都大会に関連したシンポジウム開催に積極的に協力した。以上のことから、年度計画の目標を上回る成果をあげることができた。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
元年度はICOM京都大会をきっかけとして、上記招へい者を筆頭に多くの海外の博物館関係者が来訪し、交流を行うことができた。2年度以降もこうした人脈を引き続き活用しながら、海外研究者も交えたシンポジウム、講座、講演等の実施を検討していく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1430C

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】（４館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催若しくは職員を派遣する。
4)ICOM（国際博物館会議）京都大会2019に参加し、積極的に協力する
（奈良国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館等との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】（４館共通）
1) 中国と韓国から研究者等12人を招聘し、文化財にかかる最新の研究動向や、博物館活動の現状と今後の方向性等について、情報交換した。特別展「毘沙門天」でアメリカの美術館から展示品を輸送するに際し、先方のクーリエを招聘した。
2) 職員のべ33人を諸外国に派遣し、現地の研究者と研究交流を図り、また博物館活動全般についての研修を実施した。
3) 国際講演会「慶州地域における青銅器時代の集落」を8月4日に実施した。学術交流事業で来館した国立慶州博物館研究員による国際講演会を行い、計30人の参加があった。
4) ICOM2019京都大会に多数の職員が参加するとともに、委員会の一つCOMCOLにおいて2人が口頭報告した。また、COMCOLのプレカンファレンス（8月29日～31日）を受け入れ、会場を提供し、基調講演したほか、奈良県内の現地見学等にも同行した。

（奈良国立博物館）
1) 韓国の国立慶州博物館、中国の上海博物館及び河南博物院との間で、学術交流協定に基づいて職員を相互に派遣し、それぞれの専門分野について研究交流を実施した。

【補足事項】
（４館共通）
1) 海外からの招聘人数の内訳は、上海博物館（中国）3人、上海市文化と旅游局（中国）3人、河南博物院（中国）2人、国立慶州博物館（韓国）3人、ロサンゼルスカウンティ美術館（アメリカ）1人。
2) 当館から海外への派遣人数の内訳は、国立慶州博物館（韓国）2人、上海博物館（中国）9人、国家博物館ほか（中国）1人、南京博物館ほか（中国）1人、伊犁州博物館ほか（中国）1人、ウルムチ州立博物館ほか（中国）1人、保利芸術博物館ほか（中国）1人、木井寺ほか（中国）1人、クリーブランド美術館（アメリカ）10人、フリアギャラリー（アメリカ）1人、サンフランシスコアジア美術館（アメリカ）1人、ウィンザー城ほか（イギリス）3人、ライデン民族学博物館ほか（オランダ）1人。
4) 上記のほか、COMCOLのオフサイトミーティングにも協力し、職員2人を派遣した。

（奈良国立博物館）
1) 学術交流協定に基づいて、以下の交流を実施した。
・韓国国立慶州博物館から職員1人を3か月間招聘し、当館から職員2人を各々2週間と3週間、派遣した。
・中国上海博物館へ当館から職員3人を10日間派遣した。先方から職員3人を10日間招聘する予定だったが、感染症流行のためキャンセルになった。
・中国河南博物院から職員2人を15日間招聘した。、当館から職員2人を14日間派遣する予定だったが、感染症流行のためキャンセルになった。
このほか、以下のような海外研究機関からの依頼を受け入れた。
・香港中文大学文物館が主催するワークショップ「展覧策画与典蔵管理」の一行（31人）を受け入れ、「奈良国立博物館における文化財管理」と題して講義したほか、展示会場の設備について現地レクチャーした（4月8日）。
・京畿道博物館協会（韓国）一行（14人）を受け入れ、当館の概要と歴史について講義した（4月16日）。


香港中文大学主催のワークショップ
館職員による講義

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
海外からの研究者招聘	12 人	－	－		13	9	17	12
海外への研究者派遣	33 人	－	－		20	16	22	20
国際シンポジウム開催数	－	－	－		－	－	－	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度も、学術交流協定を結ぶ海外の機関との間では相互に研究者等を派遣し、交流を図ることができた。また、2件の海外展に全面的に協力し、クーリエや講演等で多数の研究者等を派遣し、現地での研究交流を実施できた。このように欧米や中国・韓国の博物館等との研究交流は堅調であるが、今後は他の地域の博物館など、さらに幅広く研究交流を展開することが学術的発展のために必要である。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度も海外の研究者等を多数招聘し、8月には国際研究集会も開催した。また、海外の博物館での招待講演に複数の職員を派遣し、充実した研究活動・交流を実施できた。ICOM京都大会では、国際委員会の一つであるCOMCOLの事業に全面的に協力し、世界各国の研究者等と交流することができた。海外の機関との交流は、何よりも継続性が肝要であるため、現在結んでいる学術交流協定を中心に、今後も各機関と密に連絡を取り合い、交流を図っていく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1430D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（４館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4) ICOM（国際博物館会議）京都大会2019に参加し、積極的に協力する。
（九州国立博物館）
1)学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招へいし、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。
3)県内の美術館・博物館と連携し、「博物館に親しむ」ための共同企画を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　山野孝 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を3人招へいした。
2)当機構職員2人を大韓民国国立扶餘博物館並びに国立公州博物館へ派遣し、研究交流、調査研究を行った。(10月7日～13日)
3)特別展「三国志」に合わせ、曹操高陵の発掘調査を担当した潘偉斌氏（河南省文物考古研究院第一研究室副主任）を中国より招へいし、記念特別講演会を開催した。(12 月 14 日開催)
4)ICOM（国際博物館会議）京都大会2019へ19人が参加・協力した。
（九州国立博物館）
1)大韓民国国立扶餘博物館及び韓国国立公州博物館の学芸研究士各1人を招へいし(5月23日～6月5日)、講演会を行った。(5月24日)
2)5月21日～23日にストックホルムにて開催されたIPMの国際コンファレンス”Integrated Pest Management for Cultural Properties”に当館の研究員2人が成果発表と情報収集のため参加した。その内容は10月23日の当館開催のIPMセミナーにて、広く国内の関係者に紹介した。
3)朝倉市おいて、福岡県立美術館・福岡市博物館・久留米市美術館・甘木歴史資料館とともに被災地支援及び博物館教育を目的とした合同ワークショップ「ミュージアムがやってきた！inあさくら」を実施し、約1,400人の方にワークショップを体験していただいた。(11月17日開催)


ストックホルムの IPM 国際コンファレンス


合同ワークショップの様子

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
海外からの研究者招聘	3人	－	－	経年変化	51	43	9	21
海外への研究者派遣	31人	－	－		77	67	47	45
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		1	1	0	1
国際シンポジウム参加者数	306人	－	－		80	173	0	200

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
海外の博物館・美術館等から研究者を3人招へいし、また、学術文化交流協定館をはじめ、31人を海外へ派遣した。年度計画どおり、事業を実施できた。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣するなど30年度に引き続き、中期計画に沿った事業を実施できた。
また、ICOM京都大会2019に職員19人が参加し、国内外の博物館・美術館等とのネットワークを構築できた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1440A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書を刊行する。
（東京国立博物館）
1)「東京国立博物館情報アーカイブズ」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)

担当部課	学芸企画部企画課 学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　浅見龍介 課長　今井敦

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)『東京国立博物館文化財修理報告XX』を刊行した。
（東京国立博物館）
1)・「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」の運用を継続し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。
・特集印刷物リーフレット等5件のPDFファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって研究情報の普及を図った。
2)・『東京国立博物館紀要 55号』を刊行した。
3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XL 文王呂尚・商山四皓図屏風 2』を刊行した。
4)研究誌『MUSEUM』679号～684号を刊行した。
○『東京国立博物館セレクション 小袖』の日本語版と英語版を刊行した。
○特別展図録8件、特別公開冊子1件、特集印刷物12件（ﾘｰﾌﾚｯﾄ8件、冊子4件）を編集した。
○東京国立博物館ハンドブック（日本語、英語）の改訂版を制作した。
○出版企画委員会3回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会7回を開催し、博物館出版事業の拡充を図った。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
定期刊行物	15件	16件	C		16	16	16	16
紀要等	3件	4件	C	経	4	4	4	4
『MUSEUM』	6件	6件	B	年	6	6	6	6
『東京国立博物館ニュース』	6件	6件	B	変	6	6	6	6
特別展の開催回数（海外展除く）	8回	－	－	化	6	8	5	8
テーマ別展示の開催件数	18件	－	－		31	33	28	28
講演会等の開催回数	97回	－	－		146	160	199	159

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 紀要、『MUSEUM』、『博物館ニュース』等の定期刊行物15件を刊行するとともに、文化財修理報告等を計画どおり刊行することができた。また、ハンドブック改訂版の制作や、特集展示の刊行物を増やすことで充実した情報を提供することができた。さらに、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開。加えて、特集印刷物リーフレットのPDFファイル版をウェブサイトに掲載することで、さらなる情報公開に努めた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などを順調に刊行するとともに、展覧会に合わせて『東京国立博物館セレクション 小袖』の日本語版と英語版を出すことで、内外の来館者からの要望が高い出版物を刊行し、販売部数を伸ばすことができた。また、ウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信を行うことができた。また今後「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」での発信をさらに拡充する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1440B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書を刊行する。
（京都国立博物館）
1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉 連携協力室長　淺湫毅

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
『文化財保存修理所　修理報告』17号を刊行した。
（京都国立博物館）
1)『学叢』41号を刊行した。
2)社寺調査の報告として、科学研究費補助金［基盤研究（A）］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<金剛寺編>』と『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究〈観心寺編〉』の計2冊を刊行した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
○定期刊行物の実績値には含まないが、特別展にて2件、特別企画にて1件の図録を刊行した。
○『京都国立博物館寄託の名宝　美を守り、美を伝える』は、特別企画に関連した図録であると同時に、28年ぶりに寄託の名品を紹介する収蔵品目録でもある。当館研究員が編集及び執筆を行っていることに加え、日本語・英語・中国語・韓国語を併記した意欲的な図書となった。



『京博寄託の名宝』表紙

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
定期刊行物	11件	11件	B		11	10	11	11
紀要等	3件	3件	B	経	3	2	3	3
『博物館だより』	4件	4件	B	年	4	4	4	4
『Newsletter』	4件	4件	B	変	4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	2回	－	－	化	3	2	2	2
テーマ別展示の開催件数	6件	－	－		7	9	8	9
講演会等の開催回数	28回	－	－		39	45	32	37

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
計画的に定期刊行物を発行し、博物館活動の周知に貢献した。
『学叢』には、館蔵品、寄託品の調査に関する論文や作品解析などによる研究結果の紹介も含まれている。
特別企画の図録は、最新の研究成果を盛り込むとともに多言語対応をし、充実した内容となるよう心掛けた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
『学叢』及び社寺調査報告書を継続的に刊行した。調査研究の成果を今後も着実に出しながら、WEB媒体を活用して広範囲に情報を発信できるように努めたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1440C

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
（奈良国立博物館）
1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。
2)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品等の光学的調査について、報告書を刊行する。
3)文化財修理に関する印刷物を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
1)研究紀要『鹿園雑集』21号(4月30日刊行)を刊行し、併せて当館ウェブサイト及び奈良国立博物館リポジトリにPDF形式で掲載することで、研究成果を広く公表した。また、同22号（2年5月31日刊行予定）の編集作業を進めているところである。
2)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査に関する報告書『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－』を元年度末に刊行した。
3)当館の文化財修理の報告として、『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第1号を刊行（6月30日）した。引き続き第2号の刊行準備を行う。

【補足事項】


研究紀要『鹿園雑集』21 号


『文化財保存修理所 修理報告書』第 1 号



『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻
調査研究報告書－研究・資料編－』

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
定期刊行物	6件	5件	A		4	6	6	6
紀要等	2件	1件	A		0	2	2	0
『博物館だより』	4件	4件	B		4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	3件	－	－		3	3	3	3
テーマ別展示の開催件数	5件	－	－		4	4	4	4
講演会等の開催回数	25回	－	－		28	26	26	27

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
『鹿園雑集』21号を刊行し、2年5月末刊行予定で現在編集作業中の22号によって、12月までの調査研究事業報告を完了できる見込みである。東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査に関する報告書についても、刊行に向けて順調に準備を進めている。また、30年度から編集・準備をしてきた『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』について、第1号を刊行、美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等に送付し、当館の文化財修理事業について広く伝えることができた。その他定期刊行物についても、例年以上に公開することができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
調査・研究の成果は、図録など、展覧会に関わる刊行物を中心に発信できている。また、文化財研究の成果を研究紀要『鹿園雑集』として刊行、報告するとともに、ウェブサイト及びリポジトリでの公開を実施した。また、これまで『鹿園雑集』の一部として報告していた文化財修理事業について、『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』として単独で刊行するようになり、より充実した内容を報告できるようになった。定期刊行物等についても、目標値を大きく上回る件数を刊行、公開することができ、中期計画は順調に遂行しているといえる。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1440D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④ 調査研究成果の公表

【年度計画】
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』を刊行する。
2)博物館科学に関する印刷物を刊行する。

担当部課	学芸部博物館科学課 学芸部企画課	事業責任者	課長　木川りか 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』第15号を刊行した（部数950部)。
2)『九州国立博物館 文化財修理報告』第2号（発行部数750部）を編集、刊行した。18年度から20年度までの当館経費による修理の報告書をまとめた。
・特別展図録
『京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ』、『室町将軍－戦乱と美の足利十五代－』、『日中文化交流協定締結40周年記念　三国志』、『ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容』
・特集展示図録
『館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布』、『住友財団修復助成30年記念　文化財よ永遠に』、『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』、『縄文王国やまなし』

【補足事項】
1)『東風西声』第15号では14本の論文を掲載した（予定)。(うち当館職員執筆12本、外部研究者からの寄稿2本)
2)『九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館所蔵品、当館経費で修理を行った当館以外の国立博物館等所蔵文化財、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財について、修理に関する記録をまとめたものである。第2号では、18年度から20年度までの文化財修理を対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。2年度以降も順次刊行する計画である。


東風西声第 15 号表紙


九州国立博物館文化財修理報告第 2 号表紙

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
定期刊行物	6件	5件	－	経年変化	5	5	5	5
紀要等	2件	1件	－		1	1	1	1
季刊情報誌『アジアージュ』	4件	4件	－		4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	4回	－	－		4	4	3	4
テーマ別展示の開催件数	8件	－	－		8	6	6	9
講演会等の開催回数	69回	－	－		87	77	84	80

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要や図録等を刊行し、調査研究の成果を報告できた。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第2号も予定通り刊行し、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財の修理に関する記録を公開することができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度も予定どおりに印刷物を刊行することができた。また、中期計画のとおり、調査研究の結果を広く公表することができた。中期計画の最終年度も引き続き印刷物を刊行できるよう準備を進めたい。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター・東京国立博物館　処理番号 1510HA

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（東京国立博物館）
1)各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与を促進する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。
3)地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与するとともに文化財活用センターと連携し、地方への貸与を促進する。

担当部課	学芸研究部列品管理課 文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（文化財活用センター・4館共通）
1)国内の博物館等116機関に864件の作品を貸与した。
2)文化財活用センターは東京国立博物館とともに共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生・観光振興に寄与することを目指し、開催館までの往復輸送費・保険料・出張旅費・広報費を支出する東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の博物館等14機関に90件の作品を貸与した。
3)文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、5機関に71件の作品を貸与した。

【補足事項】
（文化財活用センター・4館共通）
2)大規模貸与として高岡市美術館に貸し出した重要文化財を含む32件の作品の輸送費・保険料等を支出した。小規模貸与として4機関に貸し出した39件の作品の輸送費・保険料等を支出した。また大規模貸与の対象の展覧会のための広報費の一部を支出した。
（東京国立博物館）
2)米国・メトロポリタン美術館「源氏物語の世界」展に5件、中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵文物精品」展に12件、米国・クリーブランド美術館「神－日本美術における神性の発見」展に1件、米国・ナショナル・ギャラリー・オブ・アート「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展に28件、中国国家博物館「アジア文明連合展覧会」展に11件、中国・上海博物館「十五世紀中期景徳鎮磁器」展に2件、中国・故宮博物院「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展に8件、米国・ロサンゼルス・カウンティ美術館「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展に3件、英国・大英博物館「Nara: sacred images from early Japan(奈良―日本の信仰と美のはじまり)」展に2件、中国・浙江省博物館「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展に8件、韓国・国立中央博物館特別展「加耶本性－剣と弦」展に4件、中国・蘇州博物館「須静観止－蘇州潘氏の収蔵」展に2件、ヴィクトリア＆アルバート博物館「Kimono: Kyoto to Catwalk」に2件を貸与した。
3)大規模貸与事業として高岡市美術館「明治金工の威風 ―高岡の名品、同時代の名工」（会期: 9月20日～10月20日）に32件を貸与し、小規模貸与事業として三重県立美術館「没後200年記念 増山雪斎展」（会期：31年4月20日～元年6月16日）に10件、三内丸山遺跡センター「あおもり土偶展」（会期：7月20日～9月1日）に5件、キリシタン関係遺品特化型貸与事業として、大分県立先哲史料館「RWC2019記念・開館25周年記念 大分のキリスト教史」（会期：9月21日～11月4日）に17件、千葉県立美術館「令和元年度アート・コレクション＋近代洋画の先駆者　浅井忠11―トーハクの名画がやってきた！」に7件を貸与した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	954件	－	－		991	946	914	1,355
うち国内の貸与件数	864件	－	－		909	750	783	1,225
うち国外の貸与件数	90件	－	－		82	196	131	130

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国内外の博物館等130機関に954件の作品を貸与した。貸与促進事業も順調に推移し、全体としてほぼ例年なみの貸与を行うことができ、内外の博物館の展示の充実に寄与することができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	貸与促進事業は、貸与件数が 30 年度の 61 件から増加し 71 件となり、また実施地域やテーマも広がり、着実に展開している。 貸与全体としては、30 年度を例外とすれば、国内の貸与件数は 28 年度・29 年度の実績を上回っており、博物館活動への寄与という役割を着実に果たしているととらえることができる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1510B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（京都国立博物館）
1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
1)国内外あわせ61機関（機関は延べ件数）に対し、計348件の収蔵品・寄託品貸与を行った。
館蔵品の貸与件数：217件
寄託品の貸与件数：131件
計：348件
（京都国立博物館）
1)年度計画にはなかったが、元年度より新たに兵庫県立考古博物館、たつの市立龍野歴史文化資料館、鳥取県立博物館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
1)収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら先方の要望に応じた。
具体的な例としては、館蔵品である「流水に帆蒔絵小鼓胴」をICOM京都大会の開会式において能「石橋」を演ずるに際し、大倉流小鼓方16世宗家・大倉源次郎氏が使用するために貸与する事で、大会の成功に貢献する事が出来た。



流水に帆蒔絵小鼓胴

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	348件	－	－		303	367	349	289
うち国内の貸与件数	347件	－	－		293	365	336	274
うち国外の貸与件数	1件	－	－		10	2	13	15

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づき、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品・寄託品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。
また、元年度より考古資料の相互貸借事業を実施し、各地域で出土した作品を各地域にある博物館にて展示させる事が出来た。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
内外の博物館等の要請に応じて、作品貸与を実施する事ができている。
また、収蔵品の保管・展示状況と貸出先のコンディションを勘案しながら貸与先の博物館等に対しての展示・保管環境等を十分に考慮したうえで可能な範囲で要請に応じる事ができている。
さらに、海外の貸与先についても十分に審議を重ねた上で収蔵品の貸与を行う計画ができているので、今後もより当館の持つ日本の文化を海外にも発信できるようにしていきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1510C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（奈良国立博物館）
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
1)収蔵品と寄託品を国内合わせて 32 の機関に計 136 件の貸出を行った。
2)文化財活用センターの進める文化財貸与事業の規定整備に協力し、列品貸与のスムーズな仕組みを整えた。
（奈良国立博物館）
1)京都府立山城郷土資料館、大阪大学総合学術博物館、茨城県立歴史館及び群馬県立歴史博物館とで考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
（４館共通）
1）収蔵品・寄託品の貸与
・貸与先32機関の内訳
　国立6件、公立21件、私立4件、海外1件
・貸与作品136件の内訳
　国宝9件（館蔵品2件、寄託品7件）
　重要文化財34件（館蔵品7件、寄託品27件）
　その他93件（館蔵品45件、寄託品48件）
　貸与した館蔵品54件の内訳
　（絵画8件、彫刻9件、書跡1件、工芸14件、考古22件）
　貸与した寄託品82件の内訳
　（絵画47件、彫刻16件、書跡6件、工芸9件、考古3件、歴史資料1件）



貸与品：重要文化財 山王十社本
地懸仏 一面　館蔵品

（奈良国立博物館）
1）相互貸借事業における貸与・借用品数
・京都府立山城郷土資料館
　館蔵品：1件（北和城南古墳出土の石釧、鍬形石、銅鏡など13点）が企画展「木津川流域の首長墳」で展示された。
　借用品：3件（円筒埴輪棺、ジョッキ形須恵器など）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・大阪大学総合学術博物館
　館蔵品：7件（花禽双鸞八花鏡など）が大阪大学総合学術博物館小企画展で展示された。
　借用品：16件（野中古墳出土甲冑類）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・茨城県立歴史館
　館蔵品：2件（埴輪武人像、灰釉骨蔵器など）が常設展「茨城の歴史をさぐる」で展示された。
　借用品：3件（人面付土器、土偶など）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・群馬県県立歴史博物館
　館蔵品：1件（盛装男子埴輪）が企画展「集まれ！ぐんまのはにわたち」で展示された。
　借用品：1件（土製耳飾）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経	27	28	29	30
貸与件数	136件	－	－	年	145	165	210	134
うち国内の貸与件数	133件	－	－	変	137	161	205	109
うち国外の貸与件数	3件	－	－	化	8	4	5	25

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	作品の貸与件数は例年に劣らず良好であり、各地の博物館・美術館の展覧会に大きく貢献することができた。考古資料の相互貸借事業は例年以上に多くの作品を「里帰り」させ、かつ地方文化財を奈良の地で広く紹介することができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に基づき、作品のコンディションや相手先の要望を考慮して柔軟な対応を行い、海外を含む各地の博物館・美術館の展覧会の成功に貢献することができた。貸与件数も数年来の水準を維持しており、中期計画の進展は順調である。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1510D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るため取組を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
1)国内21機関・海外2機関に収蔵品および寄託品を貸与した。
（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）

【補足事項】
（九州国立博物館）
国内の貸与先機関は、下記の通りである。（※印は30年度から元年度にかけて貸与）

・国及び国立機関
　文化庁※、国立民族学博物館、国立新美術館

・地方公共団体及び公立博物館・美術館
（福岡県内）
　甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、求菩提資料館、太宰府市文化ふれあい館※、大野城心のふるさと館、福岡市博物館
（福岡県外）
　岡山県立美術館※、山口県立美術館※、福島県立美術館※、横浜美術館、下関市立考古博物館

・私立博物館・美術館及び私立団体
　公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館、徳川美術館、公益財団法人佐川美術館、中之島香雪美術館、五島美術館

海外の貸与先機関は、下記のとおりである。
　韓国国立晋州博物館、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館



英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
「KIMONO:KYOTO TO CATWALK」展出品
格子絣更紗間着

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	50件	－	－		90	83	71	80
うち国内の貸与件数	44件	－	－		88	72	67	80
うち国外の貸与件数	6件	－	－		2	11	4	0

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。

【中期計画記載事項】
　収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	要請先施設の状況を総合的に勘案して、適切に貸与を実施し、公私立博物館等の展示の充実に寄与することができた。2年度以降も、国内外の博物館の展覧会に積極的に協力する。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 1520H-1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（4館共通）
1)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財防災に貢献する。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	部長　田沢裕賀 部長　朝賀浩 室長　岡田健

【実績・成果】※［ ］内は、実施担当の施設・部署を表す。
（４館共通）
1)
a．ミュージアムにおける展示の安全対策に関する調査[東京国立博物館]
国内外の博物館・美術館において、展示作品に対してどのような安全対策が講じられているか把握・整理することを目的とし、災害リスク・立地条件などを踏まえた上で、現地調査、情報収集、普及活動を実施した。
・国内外の博物館・美術館を視察し、展示ケースや展示手法の安全性について現地調査を行った。訪問先の博物館・美術館において、防災対策の現状と課題について協議、意見交換を実施した。
　支持具の安全対策に関する調査（4月、5月：東京国立博物館）
　展示の安全対策に関する情報交換（5月：国立アイヌ民族博物館設立準備室・北海道大学内）
　山形県沖地震の被害調査、展示の安全対策に関する情報交換等（7月：致道博物館、村上市郷土資料館、村上市教育委員会）
　水害対策に関する情報収集、意見交換等（8月：バンコク国立博物館、タイ銀行博物館、タイ王国文化省芸術局等）
　展示の安全対策に関する情報収集、意見交換等（1月：ハンガリー国立博物館、ブダペスト歴史博物館等）
・免震装置を備えた展示ケースの加振実験を実施し、性能評価および技術的課題の検討を行った。
　加振実験打合せ・準備（9月：大林組 技術研究所）、加振実験本番（10月：大林組 技術研究所）
・研究機関や展示会を訪問し、展示の安全対策に関連する情報収集および意見交換を行った。
　加振実験に関する情報収集、意見交換（5月：東京大学生産技術研究所）
　オフィス防災EXPO／防災設備に関する情報収集（5月：青海展示棟）
・普及啓発の一環として、関連学会において研究成果を発表した。
　日本展示学会第38回研究大会（6月：大阪芸術大学スカイキャンパス）
b．社寺等における収蔵文化財の安全対策に関する研究[京都国立博物館]
立体作品に関する免震台の適切な活用、転倒防止対策等の防災対策に関する調査研究を目的とし、立体作品の安定性に関する実験を実施した。
・立体作品と免震台の適切な活用、転倒防止対策に関する調査・研究
　昨年度行った起震車による木造十大弟子立像（京博蔵・模造、高さ55㎝）の振動実験から得られた解析データ等を利用し、仏像の三次元データを使用した転倒パターンのシミュレーションを作成した。仏像計測の結果をうけ、黒釉兎毫斑碗（禾目天目） 建窯（京博蔵、高さ6.9㎝）のシミュレーション作成にも着手した。(8月～2月)
・落下防止用資材の強度試験：KICKで使用している落下防止ネットの強度試験を実施した。(3月)
c．博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する協議会の開催[東京国立博物館]
・展示・収蔵関連の設備メーカー、美術品梱包輸送会社、防災設備メーカーから参加を得て、博物館・美術館における防火対策及び水害対策の研究協議会を実施した。研究協議会に先立って、ガス消火実験の見学を行った。
　ガス消火実験見学（12月：能美テクノリウム　メヌマ）
　博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する研究協議会（第２回）(2月4日：東京国立博物館)、14団体（29名）参加

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	9件	－	－		－	－	－	20

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・博物館・美術館の収蔵施設における防災対策、展示環境における防災対策、社寺等における防災対策について、調査研究の実績をあげることができた。学会発表、関係企業担当者等を集めた研究協議会の開催など、専門家との成果の共有に努めた。 ・全国の博物館・美術館や社寺等の文化財所有者への情報提供と貢献を果たすための具体的な方法を考える段階に進まなければならない。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・国内外の博物館・美術館へ調査実施と意見交換を行い、順調に調査研究の基盤を構築している。これまで情報共有が図られていなかった関係企業の理解を得つつある。 ・協議会の開催、現場視察等を通じて、参加企業が現場で直面している技術的課題が明らかになってきた。その中から特に重要度の高い課題を抽出して、集中的に検討を行う必要がある。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1520H-2

中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（5）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（文化財活用センター）
1)全国の博物館等文化財保存施設における良好な保存環境維持・管理に資するための助言や協力、また研修会等を通じての周知活動を行う。

担当部課	本部文化財活用センター	事業責任者	保存担当課長　冨坂賢

【実績・成果】
（文化財活用センター）
イ　文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している55施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、35施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、11施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。その他は継続中である。
ロ　公開承認施設の申請を予定している7施設に対して保存環境調査を行った。現在までに4施設の調査を完了し、報告書を提出した。
ハ　2年度貸与促進事業に応募した9施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。うち、貸与が内定した6施設の具体的な保存環境調査に着手した。
ニ　東京文化財研究所との共催による、元年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修」を7月8日～7月19日の2週間開催した。前半週を文化財活用センターが担当し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った（参加者31人）。
ホ　資料保存専従の学芸員や研究者を対象とした「保存環境調査・管理に関する講習会」を7月31日、および12月12日に実施した

【補足事項】
イ、ロ
これらの調査は、文化庁からの協力依頼（31年4月3日付 31文財一第5号）に基づいて文化財活用センターが担い、文化財保護法53条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼によって行ったものである。
ニ、ホ
「美術館・博物館等保存担当学芸員研修」は初学者向け、「保存環境調査・管理に関する講習会」を上級者向け研修と位置付けて実施した。
ホ
7/31 第1回保存環境調査・管理に関する講習会 −北川式検知管による空気環境調査と評価−（参加者18人）
12/12 第2回保存環境調査・管理に関する講習会 −資料保存用資材としての中性紙−（参加者17人）


12/12 第 2 回保存環境調査・管理に関する講習会

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	68件	−	−		−	−	−	20

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 所有者から借用した文化財を公開する全国の公私立博物館・美術館等が良好な保存環境の維持管理ができるよう、現状調査を行い、また必要に応じて助言や改善協力を行った。また、保存管理に関するレベル別の研修会、講習会を行うことにより、様々な専門性を有する学芸員の資質向上に大きく寄与した。2 年度も、引き続き援助・助言に取り組み、また科学技術の動向に応じた研修会等による情報提供や人材育成の充実に努める。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 全国の博物館・美術館等が安全に文化財を活用するための保存管理の質的向上に、援助・助言、また研修会を通じて大きく貢献し、順調に事業を進めることができた。今後も依頼件数が増加するものと予想され、効率的、かつ実効性の高い対応に努める。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1520A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催を通して、文化財等防災に貢献する。
（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、文化財活用センターと協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長　田沢裕賀 部長　山下登

【実績・成果】
1)公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、139件の援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力　43件
　文化庁、栃木県小山市、愛知県教育委員会、文京区立森鴎外記念館、泉屋博古館、韓国国立慶州博物館他
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　20件
　福島県立博物館、港区立郷土歴史館、仏教芸術学会、国立アイヌ民族博物館設立準備室、長崎県浦上教会、ダマスカス国立博物館他
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　27件
　鎌倉市教育委員会、東京芸術大学、大手前大学史学研究所、法隆寺、イラクズィー・カール大学他
・講演・セミナー・審査等での協力　31件
　文化庁、岡山県瀬戸内市、茨城県博物館協会、宮内庁三の丸尚蔵館、東北芸術工科大学、公益財団法人五島美術館、中国国家文物局他
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　18件
　鹿児島市立美術館、公益財団法人日本博物館協会、公益財団法人千葉市教育振興財団、大倉集古館、サントリー美術館、韓国国立中央博物館他

（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。
　環境調査を実施した新規貸与館は、21館。（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係　3件）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	139件	－	－		139	120	138	131

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	例年通り、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等について、139 件の援助・助言を行い、新規貸与館 21 ヶ所への環境調査を行うことができた。文化財の保存と活用について、専門的見地から適切に対応することで年度計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国内外からの要請に応じた、技術的・専門的な援助・助言を適切に実施できた。2年度以降も、可能な限り積極的に対応を心がけ、文化財の保存活用に寄与していきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1520B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　栗原祐司

【実績・成果】
1)
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む）（52件）
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（13件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（24件）
・講演・セミナー・審査等での協力（56件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（7件）
2)
・諸外国の研究者を対象とした国際研修等の機会を通じ、当館における展示・収蔵施設の安全対策への取り組みについて情報発信・助言等をおこなった。実際の防災システムや防災に関する調査研究への取り組み等の紹介を通じて、各国の博物館・美術館での対策へ活用されることを期待しているが、負担の大きいシステム全体よりも、細かい対策の充実・蓄積に関する関心が高かった。
・元年度は窒素ガスを用いた消火設備、立体物の転倒防止対策に関する調査等を実施した。展示・収蔵対策に関する調査・研究としては、立体物の振動と転倒について、免震台の有無や重心位置などを変化させて、それぞれのシミュレーションをおこなっている。研修会等はICOM-DRM委員会ワークショップ、UNESCOチェアITC-DRMCH、イラン人専門家研修（イラン国立博物館他）等の機会を得て実施した。

【補足事項】
1)
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力
　文化庁買取委員など官公庁の各種委員会への助言・協力
　静岡県、鳥取県、滋賀県、福井県などの地方公共団体の文化財保護審議会委員等として助言
　祇園山傘連合会、法隆寺金堂壁画保存活用委員会、日本文化財科学会などの各種団体への助言
　ICOM京都大会に関連する各種委員会へ委員として協力、など
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言
　サントリー美術館などの国内の博物館・美術館などへの展示指導
　メトロポリタン美術館で開催された「源氏物語展」における作品返却協力、など
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導
　鬼北町教育委員会などへの調査指導
　アジア水中考古学研究所などへの調査協力、など
・講演・セミナー・審査等での協力
　文化庁、NHK文化センターなどへのセミナーや研修講師として協力
　京都大学、奈良大学、近畿大学など大学での非常勤講師として協力、など
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言
　文化庁への国立アイヌ民族博物館における展示解説の多言語化の支援、など


ICOM-DRM 委員会
ワークショップ風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	152件	－	－		65	112	168	140

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
国内外の様々な機関の要請に応じて、様々な職員がそれぞれの専門性に応じて152件の援助、助言、指導及び協力を行った。元年度も様々な機関からの要請を受け、他館への展示指導や多言語化業務など専門性の高い分野での協力を行った。
文化財防災に関して、諸外国への発信としては、多国籍の研究者へ向けた発信ができた。研究者からの応答としては、防災システム等の原理は理解できたが、財政負担の大きい防災システム等は、実施の導入は困難であるという意見が多い。しかし小型なシステムや機器については非常に積極的に受け取られているため、諸事情に適した幅広い防災システムに関する情報発信の強化が必要である。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に基づき、国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行った。とりわけ、9月に開催されたICOM京都大会においては、準備段階から様々な援助を行うとともに、大会期間中も多くの職員を派遣し、世界中の博物館関係者との広域なネットワーク形成に導いた。
今後はさらに文化財防災ネットワーク推進室と連携協力して活動していくとともに、当館の防災対策に関する取り組みについては、国内外の研究者との情報交換、人的交流を通じて広く発信していく必要がある。さらにシミュレーション等で得られたデータをもとに、簡便に実施できる減災対策に関する基礎的研究を継続して実施していく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1520C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
1）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を、64件実施した。
2）博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関して2件の講師派遣を行い、文化財防災の意識向上に役立てた。

【補足事項】
1）援助・助言の内訳は、以下のとおり。
①クリーブランド美術館（米国）での特別展での展示補助など、展示に関する学術・技術的援助　5件
②建替工事が進む藤田美術館（大阪市）の所蔵品の保管に関する助言など、専門的知識による助言・援助　17件
③上海博物館（中国）で開催の唐招提寺展にかかる講演会など、講義・講演　17件
④法隆寺金堂壁画保存活用委員会に委員として出席するなど、会議出席・委員委嘱　25件
2）講師派遣を行った研修会は、以下のとおり。
①愛知県文化財建造物担当者課題研修会（11月14日）
②三重県文化財講習会（11月27日）



上海博物館（中国）で開催の唐招提寺展
展示替え作業風景（2年1月13日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	66 件	－	－		58	62	72	71

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
援助・助言の件数は例年並みで、国内の公私立博物館・美術館にとどまらず、海外の機関に対しても学術・技術的に援助するなど、様々な分野で実施できた。また、文化財防災分野では、当館が文化財防災ネットワーク形成を担当している中部・近畿地方の2県の研修会に講師を派遣し、文化財等の防災に対する意識向上に貢献できた。2年度以降も現在の体制を継続する。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
国内・国外を問わず、各機関からの要請に応じた専門的・技術的な援助・助言を着実に実施できた。特に当館が得手とする仏教美術の分野では、海外の展覧会にも全面的に協力し、その副産物である人的ネットワークの形成も貴重な財産となるであろう。加えて、文化財防災関係でも都道府県の研修会に講師を派遣し、自治体担当者とのネットワーク形成に努めた。中期計画の達成に向け順調に推移している。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1520D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研修会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。
（九州国立博物館）
1)地域の自治体等と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)公私立博物館・美術館等職員のためのIPM（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　小泉惠英

【実績・成果】
（4館共通）
1)以下のとおり、公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言を行い、年度計画どおり事業を実施できた。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む（43件））
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（4件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（10件）
・講演・セミナー・審査等での協力（21件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（8件）
2)文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災－現状の課題と今後の連携に向けて－」を開催した。


10 月 24 日 IPM 研修の様子

（九州国立博物館）
1)古文書保存基礎講座を開催した。(2年1月24日、25日)
2)IPMセミナー、IPM研修及び館内向けIPM研修を実施した。
IPMセミナーは、5月にストックホルムにて開催されたIPMの国際コンファレンスの内容についての報告、東京文化財研究所からの文化財の微生物調査に関する最新の知見についての報告、また当館のIPMの活動の最新情報についての報告を含む専門講座として開催した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
2)
・5月15日に、館内職員、ボランティア向けのIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：20人)。
・10月23日にIPMセミナーを開催した（会場：当館、参加人数：150人)。
・10月24日、25日にIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：34人)。
・2年1月24日、25日に福岡県教育委員会、筑紫野市歴史博物館と連携し、古文書保存基礎講座を開催した（当館、筑紫野市歴史博物館、参加人数：24人）。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	86件	－	－		67	87	105	72

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	九州地域だけでなく日本全国の要請に対応し、86件の援助・助言を行った。また、文化財修理やIPMなど当館の特色である事業の普及啓発について、連携機関と協力し研修を実施することができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	元年度も中期計画に従い、当館研究員の専門性を活かし国内外の博物館等からの要請に応じて指導、助言を行った。毎年新しい内容を取り入れた研修会を開催するなど、地域の核としての博物館の役割を果たしている。今後のニーズも見据えながら、これからもセミナー、研修等を実施していきたい。

文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

【調査研究の評価軸及び評価指標等】

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

①有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究　　【自己点検評価：A】

本項について元年度は対象となる 6 件の調査研究の年度評価は「A」5 件、「B」1 件であり、美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に大きく寄与したことから、全体としてAと評価した。

評価軸：我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。	
成果	美術工芸品については、美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開において、これまで注目されることのなかった甲賀市水口所在の十字型洋剣の調査成果について、ICOM 国際会議をはじめ所内外で報告・講演を行い、その公表に努めた。また、専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充においては、東京文化財研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録約 2500 冊収載内容のテキストと画像が検索できるシステムを開発し、5 月 8 日より公開を開始して研究情報を提供した。 歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究を実施することで、法隆寺古材調査のとりまとめにより古代建築の技法を明らかにするとともに、奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、調査協力をおこない、13 市町村全社寺の台帳を作成した。また、受託調査事業として、各種建造物の価値を明確にした。また、近畿を中心とする古社寺等所蔵の歴史的資料等に関する調査研究を実施することで、仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し御経蔵第 150 函の古文書について、釈文を詳細に検討し、史料集を公刊した。また、唐招提寺の宝蔵の鎌倉時代の木札に関する考察を公表した。 以上のことから、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与することができた。
評価軸：有形文化財の保存修復等に寄与しているか。	
成果	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究を実施することで、その成果は、市町村における文化財保存活用地域計画策定の基礎資料、保存活用計画策定、文化材としての指定・保存に寄与している。また、現在修復中の西トップ遺跡について建築学的調査を行った。また、近畿を中心とする古社寺等所蔵の歴史的資料等に関する調査研究を実施することで、唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、掛軸・印信の整理作業や、聖教第 8 函の写真撮影等を行った。また、薬師寺・興福寺・当麻寺をはじめとする諸社寺の歴史資料及び書跡資料の調査研究を進め、今まで詳細不明であったそれぞれの資料内容を明らかにすることができた。 以上のことから、有形文化財の保存修復等に寄与することができた。

②無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究　　【自己点検評価：A】

本項について元年度は対象となる 3 件の調査研究の年度評価は「A」2 件、「B」1 件で、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に大きく寄与したことから、全体としてAと評価した。

評価軸：無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。	
成果	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」のプロジェクトにおいて 平家、宮薗節、講談などの実演記録を行ったほか、それらの実演を支える楽器やその材料の研究として竹材 の調査研究を実施し、地球温暖化による竹材への虫害の状況を明らかにして、無形文化遺産の包括的な伝承に寄与することができた。また、「無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究」において無形民俗技術の調査の成果として『船大工那須清一と鵜舟を造る』『曳山金工品修理調査報告書』を刊行し、過疎化や高齢化によって継承の危機に瀕している無形民俗文化財の継承に寄与することができた。

③記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について元年度は対象となる 18 件の調査研究の年度評価は「A」5 件、「B」13 件であるが、平城宮跡・藤原宮跡の継続的な発掘調査において、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与する大きな成果をあげていることや、水中文化遺産の調査法の確立に大きく寄与する発展性のある成果をあげたことなどから、全体としてBと評価した。

評価軸：記念物の保存・活用に寄与しているか。	
成果	我が国の記念物に関する調査研究（遺構等整備）を実施することで、遺跡整備・活用研究集会を元年度は「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」をテーマとして開催し、文化財保護法の改正により法定となった保存活用計画の作成に当たっての技術的な課題等を共有する予定であったが、新型コロナウィルスの関係で延期となった。しかしながら、情報収集は行えた。また、我が国の記念物に関する調査研究（庭園）を実施することで、30 年度研究集会の成果をとりまとめた報告書『平成 30 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書　史跡等の保存活用計画』を刊行し、成果の活用を促進した。 また、「庭園の歴史に関する研究（近世)」では、元年度は「庭園文化の近世的展開」をテーマに研究会を開催し、年度末には研究会の報告書を刊行した。 以上のことから、記念物の保存・活用に寄与することができた。
評価軸：古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。	
成果	平城宮東方官衙の発掘調査（平城 615 次）を実施することで、太政官（弁官曹司）の中心建物とみられる平城宮内の官衙としては最大級規模の基壇建物とその関連施設の発見など、平城宮のみならず古代律令国家の解明にとっても重要な調査成果を得ることができた。 平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査(平城 611 次)を実施することで、建物配置・空間利用について、重要な所見を得ることができた。また、奈良時代を通した空間利用の変化についても多くの知見を得た。出土遺物も、長屋王邸所用瓦が出土するなど、さらなる検討が必要な重要な内容を含んでおり、大きな成果を上げることができた。 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（飛鳥藤原第 200 次）を実施することで、大極殿院東北部の内庭及び東面北回廊を調査した。その結果、東面北回廊から西にのびる新たな回廊（大極殿後方東回廊）を発見してその全容を解明し、古代宮都の発展過程に関して極めて重要な新知見を加えた。 7 月にシンポジウム「飛鳥時代の土器編年再考」を開催し、多数の研究者の参加を得て好評裏に終了した。

	いずれも古代日本都城の解明等にかかる多大な調査研究の成果を得ることができた。 以上のことから、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与することができた。
評価軸：文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。	
成果	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究を実施することで、民俗学研究と民俗文化財保護の考え方、並びにその実践事例と、文化的景観との比較対照による検討成果を得て、文化的景観の概念及び調査・計画等の体系化を進展させることができた。また、鳥取県智頭町の現地調査・研究では保存計画や整備・活用計画の策定について検討を深めることができた。 以上のことから、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与することができた。
評価軸：埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。	
成果	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行を実施することで、官衙・集落・寺院遺跡出土灯明皿に焦点を絞り、各地域・遺跡での出土様相や痕跡パターンの抽出作業を通じて、灯明皿の特性および歴史的意義づけを論じることができた。また、灯明皿という新規の視点の提示と共有によって、今後多くの地域・遺跡での分析が積み上げられ、豊かな成果を得ることができる。 古代瓦に関する研究集会の開催、報告書の刊行を実施することで、これまでに全国でも類例のない鴟尾を対象としたシンポジウムを開催し、その製作技法や全国での分布および編年、系譜関係について多くの新知見を得ることができた。また、全国の資料を一所で集中的に検討することにより、各地の鴟尾の相違点と共通性を確認し議論することができた。 以上のことから、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。
評価軸：水中文化遺産に関する調査研究に寄与しているか。	
成果	水中文化遺産に関する調査研究を実施することで、鷹島海底遺跡において発見された元寇沈船を良好に現地保存するため、砂嚢と酸素不透過性シートを用いた埋め戻しが実施されている。この方法による埋め戻しの有効性を検証するため、埋め戻しが実施されている海底遺跡現地において、温度と溶存酸素をモニタリングするとともに、銅板、鉄板および木材の試験片を同時に埋設し、海底暴露試験を実施した。 これまで海水中の溶存酸素の長期にわたる連続測定は困難であったが、新たな測定法を導入したことにより、効率よく溶存酸素のデータの蓄積が可能となった。 以上のことから、水中文化遺産に関する調査研究に寄与することができた。

モニタリング指標

		第3期中期期間平均	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
論文等数	東文研	14.8	13	12	14	17	
	奈文研	71.4	37	61	56	104	
	計	86.2	50	73	70	121	
報告書等の刊行数	東文研	1.4	3	3	9	4	
	奈文研	25.2	16	15	13	11	
	計	26.6	19	18	23	15	

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発　【自己点検評価：A】

本項について元年度は対象となる5件の調査研究の年度評価は「A」4件、「B」1件であり、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に高く寄与することができたことから、全体としてAと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。	
成果	デジタル画像の形成方法の研究開発において、東京国立博物館所蔵の平安仏画、京都国立博物館所蔵の国宝十二天像など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発を実施することで、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な方法を開発しており、研究発表や講習会開催などによる成果の普及を行うことで、これまで取り組んできた遺跡・遺物の詳細なデータを従来の数十分の一の時間と労力で計測・記録する手法を普及段階に進めた。 年輪年代学研究を実施することで、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による京都府芦生、奈良県吉野についての試料収集をおこない、年輪変動の地域性を検討する年輪データの蓄積をおこなった。 動植物遺体の調査研究を実施することで、文化財保護法の改正を踏まえて、数多くの展示や講演、講座をおこない、普及啓発を積極的に進めた。とくに、研究過程を見せる手法や研究員を展示するイベントなどにより、脆弱な出土資料のオーバーユースを避けながら、保存と活用の両立を実現することができた。 以上のことから、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　【自己点検評価：B】

本項について元年度は対象となる12件の調査研究の年度評価は「A」4件、「B」8件であり、計画通り、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与できたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	
成果	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究においては、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処理について、殺虫処理効果判定法の検討を行うとともに、殺虫方法の普及に向けて成果発信を行った。 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究においては、日本絵画の彩色材料の使い方に関する新知見を得るとともに、金属文化財の腐食評価のためのガスサンプリング方法の改良を行った。 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究においては、ゲルを使用した新たな文化財クリーニング法に関するワークショップ・研究会を開催するとともに、伝統的材料としての漆や膠に関する劣化調査や科学分析を行った。 考古遺物の保存処理法に関して、各種の材質構造調査を総合的に実施することにより、効率よく遺物の診断調査を実施し、遺物の劣化原因を究明できた。新たなX線透過撮影システムの導入により、迅速な診断調査体制を構築することができた。

	建造物の彩色に関する調査研究では、彩色文化財の内部構造を非破壊で診断する方法として用いているテラヘルツ波イメージング技術について、今年度は測定結果の解釈について一層の検討を行い、基礎データの蓄積を行った。特に、テラヘルツ波イメージングの全画像および断面画像から得られる情報とともに、周波数信号（time domain spectrum）のパルス信号のピーク数変化から修理前の診断技術として応用するだけではなく、修理後の評価手法としてもテラヘルツ波イメージングを応用できることを明らかとした。その結果を東アジア文化遺産保存国際シンポジウムで発表した。 キトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効率よく実施するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に対応した。また、宮崎市蓮ヶ池横穴群では横穴の保存を担保しつつ内部を公開する手法を検討するため、元年度も横穴内部の温熱環境調査と石材劣化状態調査を継続して実施した（12 号、16 号、17 号および 53 号横穴）。元年度は冬季に横穴を閉塞して内部の乾燥を抑制するとともに、そのほかの季節には開口することで内部を公開しつつ、石材表面の乾燥を抑制し得るか実測調査を実施した。調査の結果、上記運用方法によって横穴石材表面は通年湿潤状態が維持されることが示唆され、冬季以外の季節において横穴の公開を可能とする成果が得られた。 以上のことから、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与することができた。

モニタリング指標

		第 3 期中期期間平均	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
論文等数	東文研	16.4	18	17	16	17	
	奈文研	26.2	34	50	38	49	
	計	42.6	52	67	58	66	
報告書等の刊行数	東文研	5.0	5	5	5	5	
	奈文研	2.6	1	3	1	1	
	計	7.6	6	8	7	6	

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eア

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ア	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本芸術研究所と研究会を開催する。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。
プロジェクト名称	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、橘川英規（研究員）、安永拓世（研究員）、米沢玲（研究員）ほか	

【年度実績と成果】


セインズベリー日本藝術研究所での講演

○調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・公開
・当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ(IRDB)で公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』、各種報告書を 115 件新たに追加し合計 13 タイトル 3,631 件の論文のフルテキストを公開した。
・OCLC のセントラル・インデックスに、2016（平成 27）の展覧会カタログ所載記事・論文のデータ約 2,948 件を「東京文化財研究所美術文献目録」として搭載した。
○国内外の関連機関との連携・研究協議・成果公開
・「パブリックドメイン資料の利用条件についてのシンポジウム」での発表
・アメリカのゲッティ・リサーチ・ポータルに、当研究所刊行物及び所蔵資料のデータを追加し、合計 1,392 件のデータを公開し、研究協議を行った。
・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及びその研究に関する英語文献・記事情報の採録と活用についての協議を行った。また日本絵画についての講演を行った。(11 月 21 日)
・京都府との共同研究：京都府所蔵昭和初期文化財調書の 20,000 点のデジタル画像のうち約 5,000 件のメタデータを作成し、データベース構築を行い、公開活用のための協議を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国内外のインターネット利用者に対してオープン・アクセスによる利用拡大を行い、公開コンテンツ数をさらに拡充し、その成果を発表して反響を得た。②独創性においては、ゲッティ研究所のポータルサイトを通じて当研究所の貴重書のデジタル画像の全文公開を行った点に高い独創性を示し得た。③発展性においては、日本美術の国際情報発信を行い、今後の展開を示し得た。④効率性においては、国内外の諸機関との連携強化により世界中の利用者に文化財研究の情報提供を効率よく行った。⑤継続性においては、1930 年の開所以来の蓄積・実績に立脚しつつ、我が国における文化財情報の外部発信についてイニシアチブを取るとともに、その発信を安定・継続的に行える環境を整えた。よって所期の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 調査・研究成果の公表環境の整備　1 件（ア） 美術に関する情報公開　2 件（イ, ウ） 学会・研究会等発表　2 件（エ, オ）	定量評価 —

ア　IRDB への論文の追加（115 件）（5 月）
イ　ゲッティ・リサーチ・ポータルへのデジタルコンテンツ搭載(756 件追加、合計 1392 件)（9 月）
ウ　OCLC への「東京文化財研究所美術文献目録」情報提供（約 2,948 件）（2 年 3 月）
エ　江村知子「日本絵画にみる四季の表現」(11 月 21 日、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所)
オ　橘川英規ほか「東京文化財研究所のパブリックドメイン資料−文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援」、パブリックドメイン資料の利用条件についてのシンポジウム（2 年 1 月 17 日、東京・都市センターホテル）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	今中期計画に基づいて、当研究所の文化財に関する調査・研究の成果・データを国際標準に適合させ、国内外の関係機関との連携を強化し、広く文化財情報の公開と活用を推進し、国際性・新規性・卓越性の高い実績を上げることができた。元年度はオープンアクセス資料の増大で国内外の研究支援に貢献し、成果公表を行うことができ、引き続き専門性の高い研究資料コンテンツの公開・活用を推進する。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2111Eイ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-イ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 イ　近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。
プロジェクト名称	日本東洋美術史の資料学的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、二神葉子(文化財情報研究室長)、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長)、小野真由美（主任研究員)、城野誠治（専門職員)、津田徹英（客員研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○研究基盤となる資料整備

・美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年紀資料集成）を作成するため、平成 11 年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集して入力し、随時ウェブサイトにて公開し、公開されたものは元年度 500 件に達した。

○研究交流の推進

本プロジェクトにかかる研究会を次のとおり行った。

・津田徹英「資料紹介　東京文化財研究所架蔵　平子鐸嶺自筆ノート類について―その収載内容とノート類のもつ意義―」(5 月)。また美術史学会例会において江村知子「河原の風景―ライプツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について―」(10 月)、小野真由美「至高の気品―土佐光起撰『本朝画法大伝』の意義、そして意図するもの―」(11 月)の発表を行った。

○作品調査の実施

・東京国立博物館との共同研究の一環として、同館所蔵平安仏画（准胝観音像 2 作品）を対象に光学的調査を実施した。

・30 年度に引き続き、タイ・バンコクで、幕末期を中心に日本から輸出された伏彩色螺鈿の技法を用いた漆工品に関する調査を 2 年 1 月 12 日～18 日に実施した。



タイにおける扉部材の調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、最新の研究成果を研究会、学会にて発表することができた。とくに平子鐸嶺に関する研究会では、これまで等閑視されていた早世の古美術研究者の業績を今日の研究者の視点で再認識することができた。②独創性においては、タイ・バンコクでの漆工品に関する調査で、同地で活動した近代の日本人作家の足跡を新たに確認することができた。③発展性においては、30 年度につづいて東京国立博物館と共同で行っている同館所蔵の平安仏画の光学調査を実施し、技法に関する新たな知見を得ることができた。④効率性及び⑤継続性においては、年紀資料集成について 30 年度に引き続き新たに 500 件を追加、ホームページ上にてデータベースの公開を行い、研究効率の増加を図ることができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 論文等 5 件（ア～オ)、年紀資料集成追加件数 500 件、研究発表 3 件（上述「研究交流の推進」の通り）	―

ア水野裕史「雪村周継と臨済宗幻住派」(『美術研究』428 号、9 月）、pp. 1-18
イ安永拓世「伝祇園南海筆「山水図巻」（東京国立博物館蔵）について」（同）、 pp. 19-48
ウ相澤正彦「静嘉堂文庫美術館本「春日宮曼荼羅」の画風をめぐって」（『美術研究』429 号、2 年 1 月）、 pp. 1-18
エ米沢玲「研究ノート　二幅の不動明王画像―禅林寺本と高貴寺本―」（『美術研究』430 号、2 年 3 月）、pp. 27-40
オ山本聡美「研究資料　「妙法蓮華経変相図」（静嘉堂文庫蔵）にみる南宋時代寧波の信仰と社会」（同）、pp. 49-58

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	今中期計画 4 年目にあたり、年紀資料集成の作成、研究会の開催を順調に実施することができた。29 年度から着手した東京国立博物館との共同研究においては主要な平安仏画について撮影を継続、またタイ・バンコクでの漆工品に関する調査では、同地で活動した近代の日本人作家について新たな知見を得た。中期計画最終年度となる 2 年度は、これらの成果をまとめ、報告できるようにしたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eウ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ウ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ウ　近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。
プロジェクト名称	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、橘川英規（研究員）、城野誠治（専門職員）、野城今日子（アソシエイトフェロー）、山梨絵美子（副所長）、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也、田所泰（以上、客員研究員）	

【年度実績と成果】

○画家森田恒友の書誌を作成、福島県立美術館・埼玉県立近代美術館で開催の「森田恒友展」図録（11 月）に掲載した。
○仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査をしばたの郷土館で行い、その成果を部内研究会で口頭発表した（8 月 26 日）。
○彫刻家三木宗策のアトリエ及び資料調査を、郡山市立美術館の中山恵理氏他と行った。
○近代女性画家に関する研究として、栗原玉葉筆「聴鶯図」及び石川丹麗筆「華水汲図」についての作品解説を『紫陽花』創刊号（6 月）、2 号（12 月）に発表した。
○美術評論家鷹見明彦の資料調査を遺族宅で行い、鷹見が撮影した画廊の展示風景写真の整理に着手した。
○29 年度に行ったカリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館でのヨシダ・ヨシエ旧蔵資料調査に基づき、『美術研究』430 号にその報告を掲載した。
○久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進め、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡を翻刻、その成果を部内研究会で口頭発表した（12 月 10 日）。


彫刻家小室達の資料調査
（於しばたの郷土館）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、米国で注目を集めている日本戦後美術に関するアーカイブの現状を紹介した点が高く評価される。②独創性においては、有名な「伊達政宗騎馬像」の作者でありながら等閑視されてきた小室達の調査研究を進めた点が高く評価される。③発展性においては、鷹見明彦が遺した画廊の展示風景写真という稀少な資料に着目して整理を始めた点が高く評価される。④効率性においては、数多の文章を遺した森田恒友の書誌を作成し、研究者の便を図った点を評価した。⑤継続性においては、平成 25 年度以降続けている黒田清輝宛書簡の翻刻を元年度も精力的に進めた点が高く評価される。よって所期の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 ・論文等 1 件（ア）、学会・研究発表 2 件（イウ）	定量評価 —

ア　橘川英規「日本戦後美術に関する「アーカイブズ」の整理・活用のあり方―UCLA 図書館所蔵ヨシダ・ヨシエ旧蔵資料を例に」（『美術研究』430 号、2 年 3 月）、
イ　野城今日子「彫刻家・小室達　基礎研究」（文化財情報資料部研究会、8 月 26 日）、
ウ　塩谷純・伊藤史湖「黒田清輝・久米桂一郎の書簡を読む」（文化財情報資料部研究会、12 月 10 日）、

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	元年度の特筆すべき成果として、久米美術館との共同研究に大きな進展がみられたことが挙げられる。黒田清輝と久米桂一郎の間で交わされた未公刊の書簡を読み解き、二人の交流の跡は勿論、資料中に登場するヨーロッパの美術家に関する情報から、中期計画に掲げた西欧の美術動向との関係をうかがうことができた。最終年度となる 2 年度は、それらの成果を論文発表やウェブサイト公開を通して所外の研究者も利用できるようまとめていきたい。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-エ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-エ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 エ　美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、螺鈿や漆器等を主な対象として、その表現・技術・材料について自然科学や伝統技術、また歴史学等の隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施するとともに、新たな研究手法の検討・開発に取り組む。
プロジェクト名称	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林公治(広領域研究室長)、塩谷純(部長兼近･現代視覚芸術研究室長)、二神葉子(文化財情報研究室長)、江村知子(文化財アーカイブズ研究室長)、小林達朗(日本東洋美術史研究室長)	

【年度実績と成果】

○螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等

・4 月 16 日・7 月 2 日・9 月 6 日、東京国立博物館にて唐代琴、南蛮漆器等の調査を東博研究員の立会いで行った。7 月 11 日､文化庁分室にて文化財第 1 課工芸部門調査官立ち会いで同所蔵蒔絵棚の調査を実施した。8 月 14 日、サントリー美術館において南蛮漆器や蒔絵棚の調査を同館学芸員立ち会いで行った。9 月 5 日、大阪府岬町理智院、尼崎市寶樹院にてそれぞれ漆塗厨子の調査を行った。2 年 1 月 22～23 日に知覧博物館ほか南薩摩地域で保存科学研究センターと琉球漆器の共同調査を行った。

○研究成果公開

・6 月 22～23 日､文化財保存修復学会第 41 回大会（帝京大学）において､30 年度より実施している個人蔵漆器の研究成果を保存科学研究センターと共同で､「琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査」としてポスター発表した。先年より調査研究を行ってきた甲賀市水口所在十字形洋剣に対する研究成果を ICOM 京都大会 ICFA 委員会（共同発表者永井晃子氏、9 月 3 日）、第 53 回オープンレクチャー（11 月 1 日）、水口町郷土史会（同月 9 日）にてそれぞれ講演・報告し、国内外への成果の公表に努めた。またこの成果については NHK 全国・ローカル報道、各新聞やインターネット記事配信で広く周知された。9 月 24 日開催の第 6 回文化財情報資料部研究会において小林公治が「南蛮漆器成立の経緯とその年代―キリスト教聖龕を中心とする検討―」を、12 月 24 日の第 8 回文化財情報資料部研究会にて林佳美氏が「日本中世のガラスを探る」と題し発表を行った。12 月に韓国国立中央博物館保存科学部が刊行した『保存と復元 螺鈿漆器』に論文を寄稿した。


ICOM 京都大会発表風景

○研究データの整備と公開

・インターネット公開中の『美術研究』バックナンバー・データ検索情報を追加整備し、利用者の検索に対する便宜促進を図った。また､英文要旨の無い 155 号以前を対象とした検索用キーワードの抽出作業を開始した。今年度に東芝国際交流財団からの助成を受け、海外出版を念頭に置き、小山真由美著『南蛮漆器考』(2019 年中央公論美術出版刊）の英訳事業を進めた。また、柳沢孝撮影スライドフィルムのデータベース化作業を継続して実施した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、保存修復科学センターと共同で進める漆器の研究成果について学会報告できた。②独創性については、これまで注目されることのなかった甲賀市水口所在の十字型洋剣の調査成果について、 ICOM 国際会議をはじめ所内外で報告・講演を行い、その公表に努めた。③発展性については、日本の螺鈿について韓国で試論を発表、螺鈿漆器をめぐる日韓共同研究への道を拓いた。④効率性については、少ない人員および時間の中でデータベースの内容充実化を行った。⑤継続性については、ネット公開されているバックナンバーデータについて、海外からの広い利用促進を念頭に置いた検索便宜の充実を図ることができた。上記によって全体として所期の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等　3 件（ア～ウ）､学会・研究発表等　6 件（エ～ケ）	定量評価 ―

ア小林公治「東アジア螺鈿史の観点から見た高麗螺鈿の成立」(『美術資料』95 号 6 月）イ小林公治「日本螺鈿史試論（日韓両国語)」(国立中央博物館『保存と復元 螺鈿漆器』12 月）ウ神谷嘉美「南蛮漆器を中心とした平蒔絵技法と材料に関する検討」(『美術研究』429 号 2 年 1 月）エ山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、小林公治「琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査」(文化財保存修復学会第 41 回大会）オ小林公治「南蛮漆器成立の経緯とその年代」(文化財情報資料部研究会､9 月）カ小林公治・永井晃子「The Minakuchi Rapier, European Sword produced in Japan」(ICOM 京都大会、9 月 4 日）キ小林公治「日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究」(第 53 回オープンレクチャー、11 月 1 日）ク小林公治「水口レイピア、日本で造られたヨーロッパの剣」(水口町郷土史会創立 60 周年記念講演会、11 月 9 日)、ケ林佳美「日本中世のガラスを探る」(文化財情報資料部研究会､12 月）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	元年度は、各地での漆器及び螺鈿器の調査研究を実施したほか、国内学会での成果発表や各種論文による成果の公表に加え、研究成果がマスコミ報道されることで、広く一般に周知できた。ICOM 国際会議での発表や韓国での論文掲載等、国際的な研究発表も積極的に進め、2 年度以降も同様の姿勢で取り組みたい。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2112F

中期計画の項目	2-(1)-①-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-2)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。
プロジェクト名称	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○島田敏男（建造物研究室長）、箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）ほか6人	

【年度実績と成果】

・法隆寺古材調査　成果を報告書にまとめるべく図面の作成と執筆・編集作業に入った。
・奈良県社寺建築悉皆調査　奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、調査協力を行い、13市町村全社寺の台帳を作成した。
・奈良県岡寺本堂板図調査　本堂内陣壁板に描かれた建地割図の調査を行った。
・大和高田市十二社神社本殿調査　新発見の室町中期の本殿建築の調査を行い、報告した。
・舟知家の調査　吉野町に所在する舟知家の調査を行い、報告した。
・西トップ遺跡の建築的調査　現在修復中の西トップ遺跡について建築学的調査を行った。
・受託調査　以下8件の調査研究業務を受託した。
　・「あわの至宝」調査・発信事業における建造物の調査（徳島県）　・高山市料亭すさき建造物調査（高山市）　・高野町文化財保存活用地域計画調査（高野町）　・重要文化財綿業会館保存活用計画調査研究業務（社団法人綿業会館）　・湯浅町重要建造物調査（湯浅町）　・湯浅町内歴史的建造物悉皆調査（湯浅町）　・名古屋鉄道株式会社所蔵貴重図面電子化の調査研究業務（名古屋鉄道株式会社）・日南市飫肥歴史的建造物活用ガイドライン作成のための調査研究（日南市）



十二社神社　調査風景

年度計画評価	A

【評定理由】

悉皆調査及び個別建造物調査を精力的に行った。①適時性においては今後地元が作成する文化財保存活用地域計画の基礎資料となる点、③発展性においては歴史的建造物の指定・登録の促進に大きく貢献している点、④効率性においては調査方法の提案を行っている点、⑤継続性においては必要とされる調査研究を毎年精力的におこなっている点によって、高く評価でき、順調かつ効率的に業務を推進していると判断した。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	A	A	A	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・編集報告書数1（ア）・論文等数：6（イ～キ） ・調査（日）回数　70日	—

ア『湯浅町重要建造物調査報告書』(12月)　イ大林潤・鈴木智大「岡寺本堂内陣の建地割板図について」『仏教芸術』第三号（10月）　ウ大林潤「大和高田市藤森十二社神社本殿の建築について」奈文研論叢（2年1月）　エ島田敏男「舟知家住宅と金峯山寺周辺の吉野建民家」奈文研論叢（2年1月）　オ大林潤「西トップ遺跡中央祠堂の建築調査」紀要2019（6月）　⑤島田敏男「津山市城西伝統的建造物調査2」紀要2019（6月）　カ福嶋啓人「近世宿場町の伝統的町家における建築的特質」紀要2019（6月）　キ鈴木智大「和歌山県湯浅町湯浅における醸造家主屋の平面形式」紀要2019（6月）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	建造物に関しては、古代建築の保存に資するため、法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また、近世・近代の建造物等の調査研究を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。
評定理由及び今後の見通し	古代建築の技法に関する研究は、中期計画に対し順調に進捗している。当研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした当研究所ならではの研究である。法隆寺古材調査は膨大な作業量があるが地道に研究成果をまとめて公表していく。受託各事業は自治体や所有者の求めに応じて行っているが、いずれも文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものである。2年度以降も、これら調査に力を注ぎたい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2113F

中期計画の項目	2-(1)-①-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-3)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古社寺や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○吉川聡（歴史研究室長）、橘悠太（歴史研究室アソシエイトフェロー）、山田徹（同志社大学准教授・客員研究員）、綾村宏（京都女子大学教授・客員研究員）	

【年度実績と成果】

・仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 87 函～第 98 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。また、御経蔵第 150 函の古文書について、釈文を詳細に検討し、史料集を公刊した(ア)。
・唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、掛軸・印信の整理作業や、聖教第 8 函の写真撮影等を行った。また宝蔵の鎌倉時代の木札に関する考察を公表した(イ)。
・興福寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、井坊家記録の調書作成、二条家記録の写真撮影を実施した。
・奈良市教育委員会と連携研究の協定を結び、氷室神社宮司の大宮家所蔵文書の函文書の調書作成・写真撮影を行った。
・三佛寺所蔵の歴史資料を調査し、近世文書第 7 函の調書作成・経典の整理作業等を行った。また近代の行場関係史料を調査し、その成果を公表した(ウ)。
・薬師寺所蔵の歴史資料について、新出史料を調査し、第 26 函の写真撮影を行った。
・当麻寺所蔵の経典の調査を実施し、開披作業・東 6 函～10 函の調書作成を行った。
・法華寺所蔵の未整理の歴史資料を調査した。
・金峯山寺関係の個人蔵歴史資料につき第 3 函～第 5 函の調書作成・写真撮影を行った。
・東大寺所蔵の歴史資料の調査を、科学研究費補助金も充当して実施し、新修東大寺文書聖教第 86 函～97 函の調査データ入力、第 86 函・98 函等の写真撮影を実施した。
・興福寺関係の個人蔵歴史資料につき、科学研究費補助金も充当して調査を行い、古文書の写真撮影・調査データ入力作業等を行った。
・調査協力の依頼を受けて、石山寺文化財調査・東大寺貴重書調査・文化庁による仁和寺聖教調査に協力した。


歴史研究室での古文書調査風景

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、特に仁和寺調査においては、現在研究が盛んな室町時代の重要古文書を多く公表しており、適時性が高い。②独創性においては、三佛寺では近代資料を用いて中世にまで遡る状態を考察しており、独創性がある。③発展性においては、室町時代の古文書の公表は今後の研究の基礎となるものであり、発展性が高い。④効率性においては、大宮家では他機関と連携研究を結んで効率的に調査を進めている。⑤継続性においては、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性に優れている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・(参考値)・刊行物数：1（ア）　・論文等数：2（イウ） ・調査資料点数：仁和寺：写真撮影 396 点　唐招提寺：写真撮影 108 点　興福寺：調書作成 119 点・写真撮影 129 点　大宮家：写真撮影 49 点　三佛寺：調書作成 173 点・写真撮影 71 点　薬師寺：写真撮影 182 点　当麻寺：調書作成 77 点　金峯山寺関係個人蔵資料：調書作成 103 点　東大寺：写真撮影 188 点　興福寺関係個人蔵資料：写真撮影 127 点	―

ア奈良文化財研究所編『仁和寺史料　古文書編 2』　イ吉川聡「唐招提寺宝蔵の「諸人忌日料田畠施入目録」をめぐって」『覚盛上人御忌記念　唐招提寺の伝統と戒律』　ウ吉川聡「三徳山三佛寺の近代行場絵図」『奈文研論叢 1』

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	古寺社に伝来した資料で近畿を中心に調査し、その成果を公表することを目指している。中期計画 4 年目の元年度は、仁和寺の古文書を翻刻した資料集を公刊した。目標の一つを達成したと言える。今後は、他の資料・他の寺社についても着実に調査を進めていく必要がある。

中期計画の項目	2-(1)-②-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-1)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。記録作成に関しては、これまで継続してきた講談等の演芸に加え、邦楽分野についても範囲を広げ実施する。 調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。
プロジェクト名称	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○前原恵美（無形文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、菊池理予(主任研究員)、飯島満（特任研究員） ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化財に関する調査研究
・芸能分野：古典芸能に関する調査研究、文化財保存技術としての楽器製作技術（能管、楽箏、箏、尺八製作技術ほか）および材料（竹材製造技術および第一次加工技術）の調査研究
・工芸分野：染織技術及び文化財保存技術（原材料である靭皮繊維の栽培技術や加工技術）に関する調査研究
○現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
・平家（菊央雄司氏ほかによる復元曲 1 曲）、宮薗節（宮薗千碌師ほかによる古典曲・新曲各 1 曲）、講談及び落語の正本芝居噺（一龍斎貞水師・8 席・神田松鯉師 6 席・林家正雀師 2 席）の実演記録を作成


【公開学術講座　座談会の様子】

○研究調査に基づく成果の公表
・第 13 回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ 青花紙―花からつくる青色―」を開催（東京文化財研究所、2 年 2 月 6 日、参加者 90 名）
・「日本の芸能を支える技Ⅴ調べ緒　山下雄治」（東京文化財研究所、2 年 1 月発行）
・「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 3」（『無形文化遺産研究報告』第 14 号、2 年 3 月発行）
・「邦楽調査掛による常磐津節五線譜化の考察」（『無形文化遺産研究報告』第 14 号、2 年 3 月発行）
○無形文化遺産に関わるアナログ資料のデジタル化
・音声資料：オープンリールテープに関して、民謡テープ（約 80 時間）のデジタル化を実施

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の観点から評価を行った。①適時性については、文化財の保存技術が注目される中、技術保持者の高齢化が問題となっている伝統楽器製作技術や工芸技術、及び道具や材料の調査研究を継続的に行っている点を評価した。②独創性及び⑤継続性については、講談の長編語り物、演奏機会の少ない平家や重要無形文化財の宮薗節について継続的に記録を作成し、かつこれまで作成した記録一覧の公表に着手した点を評価した。③発展性については、古典芸能に関して、一つの材料から複数ジャンルの楽器製作者、実演家を繋ぎ、材料でジャンルを横断する協力体制を整え、研究に着手した点、工芸技術（染織分野）において、これまで作品調査からは識別困難であった靭皮繊維について現地調査を通じて特徴の把握に努めている点を評価した。④効率性については、専門分野が横断する文化財保存技術の調査研究において、当研究所内の他の部・センターはもとより、これまで協力体制の築かれていなかった東京芸術大学（音楽学部）の協力を得て実施できたことを評価した。よって所期の計画を上回り、発展的成果を上げていると判断し、総合評価をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・	・論文等発表 4 件（アイウエ）／学会・研究発表 2 件（オカ）／刊行物 1 件（キ）	―

ア「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 3」　イ「邦楽調査掛による常磐津節五線譜化の考察」　ウ「都道府県史から見る近世日本染色技術の伝播」(以上『無形文化遺産研究報告』第 14 号 2 年 3 月)　エ「文化財の視点からみたトロロアオイ生産技術の現状―茨城県小美玉市の実例を通じて―」　オ研究発表「もう一つの及川コレクション―及川尊雄氏収集紙媒体資料―について」(東洋音楽学会定例研究会)　カ講演「芸能を支えるもう一つの技―楽器製作をめぐって」(武蔵野大学能楽資料センター主催関連講座、武蔵野大学、7 月 25 日)　キ「日本の芸能を支える技Ⅴ調べ緒　山下雄治」(東京文化財研究所)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画期間 4 年目の元年度は、無形文化財と文化財保存技術に関する包括的な研究が深化し、周辺領域の研究者との連携を当初の計画を超えて拡充した（東京芸術大学音楽学部）。また、他機関からの依頼で研究成果を活かした講演（武蔵野大学、泉屋博古館分館）を行うなど、計画以上の成果を上げている。実演記録作成も順調に継続しているほか、これまでの記録一覧の公表を開始した。以上の理由から、計画を上回る研究業務が遂行され、今後もその展開が期待できる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2122E

中期計画の項目	2-(1)-②-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-2)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。 さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。
プロジェクト名称	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、今石みぎわ（主任研究員）、菊池理予（主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】


鹿児島県瀬戸内町「諸鈍シバヤ」

○無形民俗文化財に関する調査研究
・風俗慣習調査：盆行事等の調査研究（奈良県十津川村等）
・民俗芸能調査：民俗芸能の分類に拘わる調査研究（鹿児島県瀬戸内町ほか５県）
・民俗技術調査：民具製作技術（徳島市・長野市等における箕製作技術等）、和船製作技術（岐阜県美濃市）、食の技術（徳島県那賀町等における製茶技術等）の調査研究
○選定保存技術に関する調査研究
・滋賀県教育委員会と協力し、滋賀県選定保存技術「曳山金工品修理」保持者の技術の調査・映像記録作成を実施
○無形文化遺産アーカイブスの開発と公開
・被災地における無形文化遺産調査：東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査
・記録保存・活用に拘わる研究（福島県浪江町、宮城県女川町等）
・アーカイブスの構築：「無形文化遺産総合データベース」における情報収集・整理。映像・画像等の収集とデジタル化
○研究集会の開催
・無形民俗文化財研究協議会：第 14 回協議会を「無形文化遺産の新たな活用を求めて」をテーマに開催（東京文化財研究所、12 月 20 日、参加者 172 人）。成果は報告書として刊行
・民俗技術に関する研究会（箕の研究会）を開催（5 月 17・18 日、9 月 26 日、参加者各 13 人・12 人）
・日本博参画プロジェクト「東京シシマイコレクション」（日本芸術文化振興会と共催）として民俗芸能公演（5 月 11・12 日、参加者 3,300 人／日本芸術文化振興会、東京国立博物館と３者共催）、及びフォーラムを開催（2 年 1 月 18 日、参加者 108 人）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、伝承地域の過疎化や少子高齢化により継承の危機に晒されている無形民俗文化財・選定保存技術の調査は社会的ニーズが高い。また東日本大震災をはじめ多発する自然災害との関連において行っている無形文化遺産の調査・研究も、同様に社会的ニーズが高い課題として注目されており極めて適時性が高い。②独創性においては、無形民俗文化財の研究部としては国内唯一の存在であり、全国の関係者とのネットワーク構築を促進させていることは、無形民俗文化財の保護体制の整備・強化に貢献するものとして、その独創性を高く評価できる。③発展性においては、調査・研究の成果を研究集会及び下記の刊行物等によって積極的に情報発信できた。④効率性においては、無形民俗文化財及び選定保存技術に関する専門家をスタッフに擁し、各人の専門性を生かして少人数ながらも効率的に調査研究を実施できた。⑤継続性においては、無形文化遺産アーカイブスの開発と公開、映像・画像等の収集とデジタル化を引き続き継続的に実施している。よって、当初の年度計画を上回る事業実績が達成されていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等発表 3 件（アイウ）／学会・研究発表 2 件（エオ）／刊行物 2 件（カキ）	定量評価 —

ア「無形文化遺産と災害復興」『中部スラウェシ地震と文化遺産報告書』　イ「近現代における阿波の発酵茶」『阿波の発酵茶』徳島県　ウ「塩と砂糖」『日本の食文化 5』吉川弘文館　エ「変容の危機にある無形の民俗文化財」京都府教育委員会シンポジウム　オ「モノが語る人、自然、社会―箕をめぐる民俗学的研究」『日本民俗学会年会』
カ『船大工那須清一と鵜舟を造る』キ『曳山金工品修理調査報告書』（明記のないものはいずれも東京文化財研究所）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	年度計画になかった日本博参画プロジェクトを実施するなど、当初計画を上回る事業達成がなされたことを高く評価した。また前中期計画において重点的に行ってきた東日本大震災の被災地域における無形民俗文化財の調査・研究を継続しつつも発展させ、2 年度以降も自然災害のみならず地域の過疎化や少子高齢化、環境や社会構造の変化により継承の危機にある無形文化遺産の保護・活用にも貢献することを目指す。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2123E

中期計画の項目	2-(1)-②-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-3)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○山梨絵美子（部長）、石村智（音声映像記録研究室長）、宮田繁幸（客員研究員）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流

韓国国立無形遺産院との研究交流の一環として、7月1日～19日にかけて前原恵美・無形文化財研究室長を韓国国立無形遺産院に派遣し、同院の研究員と共に無形文化遺産、特に伝統音楽の楽器製作技術の継承に関する共同調査を実施した。本調査の成果は韓国国立無形遺産院における成果発表会で発表した（7月18日）。また9月17日～10月4日にかけて、韓国国立無形遺産院の姜敬惠学芸研究士を受け入れ、民俗技術、特に伝統農耕技術に関する共同調査を静岡県静岡市井川及び宮崎県椎葉村等で実施した。その成果は成果発表会で発表された（10月4日）。



韓国との研究交流（宮崎県）

○無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究

ユネスコ無形文化遺産条約第14回政府間委員会（開催国コロンビア：12月9日～14日）に2人のスタッフ（石村・二神）を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行うとともに、日本国政府代表団に専門的な助言を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第14号において報告した。また無形文化遺産保護条約に関する用語集『無形文化遺産用語集』を刊行した。

○アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）への協力

IRCIが実施する事業への協力として、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として」（於東京国立博物館：11月28日～29日）に1人のスタッフ（石村）が出席した。また当研究所との共催事業として開催された国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」（於東京文化財研究所：12月17日～18日）の運営に全面的に協力した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、無形文化遺産の分野で存在感を増してきている韓国の現状を把握する上で国立無形遺産院との研究交流は時宜に適ったものといえる。②独創性においては、韓国国立無形遺産院と研究交流を行っているのは当研究所のみであることに加え、新たに用語集の刊行を通じて無形文化遺産保護条約に関する情報発信を行えたのは当研究所ならではの成果である。③発展性においては、IRCIの実施する二つの国際会議に協力したことに加え、新たに用語集の刊行を通じて国内の無形文化遺産に関連した地方公共団体等へのアウトリーチを得ることが出来た。④効率性においては、ユネスコの政府間委員会において日本国政府代表団に助言を行い当研究所の成果を効率的に活用することができた。⑤継続性においては、韓国国立無形遺産院との研究交流を順調に進め、ユネスコの政府間委員会については毎年その動向を調査していることから一定の継続性を達成している。よって順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）論文等発表1件（ア）　学会発表2件（イ）　刊行物1件（ウ）	定量評価 ―

ア二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第14回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」（『無形文化遺産研究報告』第14号）　イ石村智「国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」Session 1, 2においてチェアをつとめた　ウ『無形文化遺産用語集』東京文化財研究所

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形文化財、無形民俗文化財等に関する課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の4年目として、韓国国立無形遺産院との研究交流は順調であり、本年は第3フェーズの3年目にあたるが、今後もより発展していくことが期待され、当初の計画通りに実施することができた。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については、毎年その動向を把握するとともに、その分析結果を毎年『無形文化遺産研究報告』にて公開していることから、2年度以降も継続的に実施していくことで、中期計画の目標を十分達成していけると考える。またIRCIの事業への協力等を通じて国際的な成果発信にもつとめていく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fｱ

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員)、中島義晴（景観研究室長）	

【年度実績と成果】

『平成 30 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書　史跡等の保存活用計画』を 2 年 3 月に刊行した。

2 年 3 月 23 日に令和元年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会を開催した。テーマは「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」とした。現在、文化庁では Living History 推進事業を推進しており、これは国指定・選定文化財を対象に、史料に基づいた歴史的な出来事の再現や往時の生活を体験する展示などのプログラムを開発し、文化財に新たな価値を付与し、日本文化の魅力向上とインバウンドの促進により地域活性化の好循環の創出を図るものである。各地の遺跡では復元整備などが進み、遺跡本来の景観や空間構成を取り戻してきているが、そこでの往時の人々の活動が再現されれば、当該遺跡の歴史上での意義や場所の意味がより一層理解されることが期待できる。研究会では首里城跡、平城宮跡、斎宮跡、朝鮮通信使関係地等の先行事例の発表などを通して、史実の確認、イベントとしての内容、変容した内容、観光の影響、史実をどのように伝えているか等について、また、儀式等での再現料理「歴食」についても議論する予定であった。さらに、生産地と消費地という遺跡本来の関係性に因んだ地域間交流のあり方についても議論する予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス関係で延期となった。

平城宮跡の活用に関する実践的研究に関しては、今後、研究所として行う平城宮跡の活用の内容について関係者で検討を進め、基本的な方針を定めた。また、元年を記念して即位関連遺構の活用を図るために、第一次大極殿前で発見された幢旗遺構の AR 表示を行い、体験会で一般の参加者 105 人から好評を得た。東区朝堂院に表示している大嘗宮跡に関しては復元イラストを作成し、パンフレットの配布を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性については、元年度文化庁が進めている事業の内容と離隔する適切なタイミングであった。②史跡等の活用は昨今においては適切なテーマであった。③さらに遺跡の地域間交流でのテーマで発展性が見込める。④効率性については、悪かったことはないが、良かったと言えることもなかった。⑤継続性については、毎年その時々で必要とされる研究テーマを選んでいるが、遺跡の保存活用という点では継続性をもっている。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・論文等件数　4 件（内 3 件がア、イ、ウ） ・報告書刊行数　1 件（下記、『史跡等の保存活用計画』)	—

ア　内田和伸「史跡等の保存活用計画について」『史跡等の保存活用計画』奈良文化財研究所 pp. 1-2
イ　内田和伸「明治前期における名所旧跡の官有地化による保存」『史跡等の保存活用計画』奈良文化財研究所 pp. 101-120
ウ　内田和伸「史跡等の特殊な構成要素について」『史跡等の保存活用計画』奈良文化財研究所 pp. 121-130

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	30 年度の研究集会の報告書では文化財保護法改正を受けて史跡等の保存活用計画の必要性が高まり、その内容について構成要素の捉え方など細かい課題についても取り上げることができ、研究を深化させることができた。元年度の研究集会では文化庁の行っているリビングヒストリー推進事業を意識し、既に行われてきた同様の事例を通して、事業の進め方や留意点について知見を得る予定であった。今後も文化庁の行う事業を意識した上での研究集会を開催する予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fイ

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 イ　近世の庭園の歴史に関する研究集会「庭園文化の近世的展開（仮称）」を開催する。また、庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長）、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・28 年度より実施の「庭園の歴史に関する研究（近世）」では、元年度は「庭園文化の近世的展開」をテーマに研究会を企画し、11 月 24 日に開催した。庭園史・建築史・歴史の各分野の研究者 6 人が発表を行い、ほか参加者 13 人と討議を行った。年度末には研究会の報告書を刊行した。
・25 年度より継続の奈良市教育委員会との連携研究「奈良市における庭園の悉皆的調査」では、報告書刊行に向けて、執筆・編集作業を進めることができた。
・森蘊旧蔵資料の整理では、30 年度作成しウェブサイトで公開した目録をもとに、資料等の利用価値を高めるため、資料内容や来歴を確認する整理作業を進めた。また村岡正旧蔵資料の目録の公開に向けてデジタル化を進めた。
・発掘庭園データベースの更新を進め、公開準備を行った。
・そのほか、鳥取県文化財庭園技術者講習会をはじめ、地方公共団体等実施の文化財保存活用の取り組みに対する協力において、研究成果多く活かすことができた。



庭園の歴史に関する研究会 11 月 24 日

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性について、文化財庭園の保存活用計画の策定や整備工事等が各地で実施される中で、近世庭園史の発展に資する研究会を開催し、報告書を刊行することができたほか、昭和期の文化財庭園についての記録である森蘊旧蔵資料等の整理を進めることができた。②独創性について、分野横断的に庭園について議論できる機会がほかに無い中で、貴重な討議の場として研究会を実施することができた。③発展性について、2 年度とりまとめ予定の研究論集『近世庭園の研究』の刊行に向けて、議論を進めることができた。④効率性について、近世の庭園に関する諸成果を相互に活かすことで効率よく調査研究に取り組むことができた。⑤継続性については、30 年度までの成果を踏まえつつ研究会を開催し、2 年度の論集刊行につなげることができた。以上から本事業は良好な成果を上げていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） ・論文・・・・・・3 件（ア、イ、ウ）　・研究発表等数・・4 件 ・報告書・・1 件（エ）	—

ア．高橋知奈津「名勝法華寺庭園の保存活用計画」平成 30 年度遺跡整備活用研究集会報告書、2 年 3 月
イ．高橋知奈津「伯耆地方の民家の庭園」令和元年度庭園の歴史に関する研究会報告書、2 年 3 月
ウ．高橋知奈津「森蘊の奈文研時代」森蘊研究報告、2 年 3 月
エ．『庭園文化の近世的展開　令和元年度庭園の歴史に関する研究会　報告書』2 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	中期計画ではこの 5 年間の研究テーマを近世庭園の研究としている。4 年目の元年度は計画通りに「庭園文化の近世的展開」をテーマに研究会を開催し、研究の現状や課題を共有できた。2 年度は 4 か年の研究会の最終成果として研究論集を刊行する。また、所蔵資料の整理やデータベースの更新等、庭園の歴史だけでなく、文化財庭園の保存活用に活かすことのできる基盤整備を計画的に進めることができた。以上のように、歴史研究と文化財庭園の保存活用に関する実地研究の双方から知見を得、相互に活かすことができるように、今後も調査研究を深めていく。

【書式Ｃ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2132F ｱ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡第一次大極殿院地区及び東方官衙地区、平城京跡、東大寺東塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城宮東方官衙地区の発掘調査	
都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（都城発掘調査部副部長）、馬場基（同史料研究室長）、丹羽崇・岩戸晶子（同主任研究員）、前川歩（同遺構研究室研究員）、山口欧志（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・学術調査。主要官衙が展開する平城宮東方官衙地区の様相を明らかにするための調査。
　調査面積：1200 ㎡　　調査期間：7 月 1 日～12 月 6 日
・基本層序
　表土、旧耕作土の直下が遺構面である。
・主な検出遺構
　基壇建物 3 棟、掘立柱建物 1、柱穴列 1、築地塀 1 条、暗渠 1 基、
・主な出土遺物
　須恵器・土師器、瓦、帯金具
・調査所見
　当該地区の中心となる大型の東西棟基壇建物と、それに取り付く様に東西に隣接する南北棟基壇建物を確認した。建物規模・配置、近隣の出土遺物から、実務官衙の頂点たる太政官庁（弁官曹司）の可能性が高いと考えられる。またこれに先行する南北棟掘立柱建物や、分厚い整地の様子など、多くの調査成果を得た。


調査区全景（北西から）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、文化庁による平城宮跡の整備計画と呼応しつつ、調査を実施できた。②独創性においては、三次元測量（sfm）・土壌分析など当研究所のもつ多様な手法を部局を越えて結集して総合的な調査を行うことができた。③発展性においては、平城宮内最大級の基壇建物とその関連施設の様相を明らかにし、古代国家史の重要な知見を得た。⑤継続性においては、周辺の調査成果や、関連する区画施設の調査成果を十分に反映して調査を行うとともに、平城宮の造成に関する知見を蓄して将来の調査に資する情報を得た。以上より、Ａと判定した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	⑤継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数：1 件（ア） ・記者発表数 1・新聞報道（9 月 27 日：朝日新聞ほか 5 紙） ・現地説明会 1 回(9 月 29 日)　参加者 892 人 ・出土遺物件数等：土器 22 箱・瓦類約 1300kg・金属製品 15 点	定量評価 ―

ア前川歩他「東方官衙地区の調査－第 615 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』2 年 6 月刊行予定

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本都城の解明等を図るため、平城宮東方官衙地区の調査を継続的に実施している。本調査もその一環であり、とりわけ平城宮内最大級の規模の基壇建物とその関連施設の発見など、多大な研究成果を得ることができた。以上より、計画以上に順調に進捗していると判断した。今後は、今回の調査成果を反映させながら、さらに継続的に調査を進めていきたいと考えている。 以上よりＡと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-2

中期計画の項目	2-(1)－③－2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡第一次大極殿院地区及び東方官衙地区、平城京跡、東大寺東塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	東大寺東塔院の発掘調査	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○渡辺晃宏（都城発掘調査部副部長）、今井晃樹（同主任研究員）、芝康次郎（同考古第一研究室研究員）、小田裕樹（同考古第二研究室研究員）、山本祥隆（同史料研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・東大寺東塔院の解明のための東門・北門・西門、東面回廊・北面回廊の発掘調査（東大寺・奈良県立橿原考古学研究所との合同）。
　調査面積：約 900 ㎡　調査期間：7 月 18 日～12 月 20 日。

・主な検出遺構
　東門・北門・西門・回廊の基壇および礎石建物、同雨落溝
・主な出土遺物
　瓦（軒瓦・鬼瓦・平瓦・丸瓦）、土師器、瓦器、鉄釘、銅製品
・調査所見
　東門・東面回廊・北面回廊では鎌倉時代再建段階と奈良時代創建段階の２時期の遺構を確認した。北門では鎌倉時代再建段階建物とその雨落溝及び奈良時代創建段階の雨落溝の痕跡を確認した。今回の調査により、奈良時代の門や回廊の規模が明らかになり、再建期に門・回廊・雨落溝の規模と位置を変更するなど東塔院の詳細な変遷過程が判明した。



調査区全景

年度計画評価	B

【評定理由】
　下記各観点から評価を行った。①適時性においては、整備計画・復原研究の詳細の検討に合わせて、適切な発掘調査を実施することができた。②独創性においては、sfm 技術を用いた実測など奈文研ならではの総合的な調査・研究を行うと同時に、共同で調査した橿原考古学研究所のもつノウハウも合わせて導入することで大きな成果を上げることができた。③発展性においては、東塔院回廊及び門について構造や規模の変化などを確認し、今後の調査に資する情報を得た。④効率性においては、一連の調査成果をふまえて断ち割り箇所の重点的検討を行い、効率を高めた。⑤継続性においては、30 年度までの調査成果を元に調査区を設定、調査計画を策定し、質の高い調査を実施した。以上から、Ｂと判断した

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）	定量評価
	・論文等数：1 件（ア） ・記者発表数・新聞報道（11 月 7 日：朝日新聞他 5 紙） ・現地説明会 1 回(11 月 10 日)　参加者 850 人 ・出土遺物件数等：土器 4 箱・瓦 1795 箱・金属製品 5 箱・その他 25 箱	―

ア　小田裕樹ほか「東大寺東塔院の調査―第 617 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』2 年 6 月刊行予定

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城解明等のために、東大寺塔院の発掘調査を進め、その様相を明らかにする中期計画である。元年度は東塔の囲繞施設に関しての情報を得る計画であった。計画通り順調に進捗しており、奈良時代創建門・回廊と鎌倉時代再建門・回廊との違いを明確に見出したことは大きな成果である。今後は調査成果の整理等にも十分注力しつつ、調査・研究を進めていきたい。 以上より、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2132F ｱ-3

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡第一次大極殿院地区及び東方官衙地区、平城京跡、東大寺東塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査(611 次)	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏(都城発掘調査部副部長)、林正憲（同主任研究員)、浦蓉子（同考古第一研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・個人所有地における資材置き場造成に伴う事前調査。
　調査面積：197．25 ㎡　　調査期間：4 月 2 日～6 月 5 日
・基本層序
　表土・旧耕作土・床土（以上合わせて 60 ㎝)、奈良時代の整地土（暗褐色砂質土)、地山（黒色粘質土及び褐色砂質土)
・主な検出遺構
　礎石建物 1 棟、掘立柱建物 4 棟、掘立柱塀 1 条、溝 3 条、礫敷
・主な出土遺物
　須恵器・土師器、軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦、和同開珎 1 点、桧皮など
・調査所見
　左京二条二坊十一坪の建物配置・空間利用について、重要な所見を得ることができた。また、奈良時代の間における空間利用の変化についても多くの知見を得た。出土遺物も、長屋王邸所用瓦が出土するなど、さらなる検討が必要な重要な内容を含んでおり、大きな成果を上げることができた。



調査区全景（北から）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、地権者との折衝を経て発掘調査の同意を確保し、重要な地点の調査を実施することができた。③発展性においては、石敷遺構の発見による土地利用状況の判明や、詳細な時期変遷を把握し、今後の調査研究に指針となる大きな成果を上げることができた。④効率性においては、従来の調査成果を勘案して、効率的な調査を実施することができた。⑤継続性においては、隣接地の調査成果とも総することで、大規模な宅地の利用状況を明らかにすることができた。以上より、Ｂと判定した。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数：１件（ア） ・出土遺物件数：土器 7 箱、軒瓦 36 点、和同開珎 1 点 ・記録等作成数：実測図 25 枚、デジタル写真約 650 枚	定量評価 ―

ア林正憲他「左京二条二坊十一坪の調査－第 611 次」『奈良文化財研究所紀要』2020、２年６月刊行予定

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代都城の解明等を図るため、平城宮・京の調査成果の蓄積を進めている。中期計画に沿って着実に研究が進んでおり、計画通り順調に進捗していると判断した。今後も適切な機会をとらえつつ、調査を進めていきたいと考えている。以上よりＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-4

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡第一次大極殿院地区及び東方官衙地区、平城京跡、東大寺東塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（都城発掘調査部長）、森川実、廣瀬覚（以上、主任研究員）、松永悦枝（考古第一研究室研究員）、道上祥武（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）ほか	

【年度実績と成果】

○藤原宮大極殿の発掘調査（飛鳥藤原第 200 次調査）を実施した。
・調査地：橿原市高殿町
・調査期間：4 月 23 日 ～ 10 月 23 日
・調査面積：1,179 ㎡

○調査成果
・藤原宮大極殿院東北部の内庭及び東面北回廊を調査した。その結果、東面北回廊から西にのびる新たな回廊（大極殿後方東回廊）を発見し、その全容を解明した。従来礫敷広場と考えられてきた大極殿の北方は回廊によって区画されていたことが明らかとなり、柱位置と柱間寸法の検討から、両回廊は一連の計画の下で建設されたことも判明した。また、宮造営期の運河や造営溝の付け替え状況などから、大極殿院北半部の造営過程を考えるうえで重要な所見を得ることができた。今回の調査における新たな回廊の発見と全容の解明は、藤原宮の構造のみならず、古代宮都の発展過程に関して極めて重要な新知見をもたらすと同時に、2 年度以降の継続調査につながる重要な成果を得ることができた。



大極殿後方東回廊・東面北回廊
検出状況（西から）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性では、近年の調査成果を受けて大極殿東北部を調査し、予想外の遺構に対して適切に対応し、新たな所見を数多く得ることができたためＳとした。②独創性では、これまで礫敷広場と考えられてきた大極殿後方に回廊が存在していたことと、大極殿院の造営過程について重要な知見を得たことからＡとした。③発展性では、大極殿後方東回廊と北へのびる造営溝の検討から、大極殿の北方に何らかの建物が存在した可能性が生じたことと、藤原宮中枢部の構造と古代宮都の発展過程の研究に関する重要な新事実を明らかとしたためＳとした。④効率性では、過去の調査成果を踏まえて適切な場所に調査区を設定し、効率的に調査を実施できたためＡとした。⑤継続性では、藤原宮の様相解明のための長期的な継続調査の一環として大極殿院の調査を実施しており、今後の継続調査に資する成果を得たためＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	S	A	S	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・報道発表資料：1 件（ア）・現地説明会数：1 件（イ） ・現地説明会来場者数：971 人・論文等数：3 件（ウ・エなど） ・出土遺物：軒瓦等 242 点、丸・平瓦 332 箱、土器 17 箱、木器・木製品 2 箱ほか ・記録作成数：遺構実測図 59 枚、写真 618 枚	—

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次調査）記者発表資料」（10 月）
イ奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次調査）現地説明会資料」（10 月）
ウ松永悦枝「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次調査）」『奈文研ニュース No. 75』（12 月）
エ松永悦枝「藤原宮大極殿院の調査―第 200 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	4 か年目の元年度の調査では、大極殿院北半部は東面北回廊とそこから西へのびる回廊によって南北に画されていたことを明らかにした。これは藤原宮の構造について再考を促すとともに、前期難波宮からの古代宮殿の発展性をより明確にした成果といえる。また、造営溝の検討からは、その造営過程の様相も明らかになりつつある。中期計画の目標達成に向けて、予想以上の成果が上がっているため、A評価とした。2 年度以降も発掘調査を進め、藤原宮大極殿院の構造解明を目指す。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-5

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡第一次大極殿院地区及び東方官衙地区、平城京跡、東大寺東塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	飛鳥地域等の発掘調査	
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（都城発掘調査部長）、尾野善裕（考古第二研究室長）、山本崇（上席研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）ほか	

【年度実績と成果】

○大官大寺南方の発掘調査（第 203 次）
・調査地：明日香村奥山
・調査期間：2 年 2 月 3 日～3 月 16 日
・調査面積：120 ㎡

○調査成果
・調査区はこれまで調査が進んでいない大官大寺と山田道の間の土地利用の様相の解明、及び当地における藤原京の条坊施工の有無の確認を目的として設定した。その結果、東四坊坊間路両側溝の可能性のある南北溝 2 条、藤原京や大官大寺の造営などに伴う大規模な整地層を複数確認した。また、下層調査により 7 世紀前半代の人工的な東西溝、それに沿う塀または柵列の可能性のある柱穴を確認した。
　東西溝からは土師器、須恵器、燃えさし、モモ核、ウリ種実などが出土しており、近辺に当該期の遺跡が存在している可能性が高くなった。条坊側溝の可能性のある南北溝の確認は、香具山以南の条坊施工の有無と大官大寺の占地を考えるうえで重要な成果である。
　また、山田道以北にも 7 世紀前半代の遺跡が展開しているという大きな成果を得た。これらの成果は次年度以降の調査につながるものである。



東西溝、柱穴列検出状況
検出状況（北東から）

年度計画評価	A

【評定理由】
下記の各観点から評価した。①適時性においては、大官大寺南方の様相を解明するため必要な場所で調査を行ったことからＢとした。②独創性においては、大官大寺南方において条坊両側溝の可能性のある南北溝や大規模な整地層を確認し、成果を上げたことからＡとした。③発展性においては、大官大寺南方において②で示した遺構を確認し、2 年度以降の調査につながる成果を得たことからＡとした。④継続性においては、29 年度から大官大寺南方において計画的、継続的に調査を進めており、今後の調査に資するデータを着実に得たことからＢとした。⑤効率性においては、限られた予算の中で、予想を上回る調査成果をあげたことからＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	⑤効率性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数：2 件（ア・イ） ・出土遺物：丸・平瓦 1 箱、土器 10 箱、木器・木製品 1 箱ほか ・記録作成数：遺構実測図 19 枚、写真 314 枚	

ア　片山健太郎「発掘調査の概要　大官大寺南方の調査（飛鳥・藤原 203 次）」『奈文研ニュース』No. 78(2 年 6 月予定)
イ　片山健太郎「大官大寺南方の調査―第 203 次調査の概要」『奈良文化財研究所紀要 2020』(2 年 6 月予定)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進めるという中期計画に対して、大官大寺南方における条坊遺構を初めて確認し、目標達成に向けて順調に成果をあげただけでなく、山田道以北において 7 世紀前半代の遺構を確認するなど、飛鳥地域の開発史について新たな知見を得た。今後も、適宜機会をとらえて、これまで調査の手が及んでいなかった地域の様相解明を目指した調査を進めていく予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F イ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（部長）、尾野善裕（考古第二研究室長）、清野孝之（考古第三研究室長）、山本崇（上席研究員）、廣瀬覚、和田一之輔、森川実、石田由紀子、大林潤、鈴木智大（以上主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

・元年度の発掘調査で検出した遺構の図面・写真資料の作成・整理・分析研究とともに、出土遺物の整理・分析研究を進めた。とりわけ、藤原宮大極殿院の東北部において実施した第 200 次調査では、大極殿後方東回廊の発見と解明という、藤原宮の構造を明らかにする上できわめて重要な成果をあげることができた。この発見により、藤原宮と前期難波宮との構造的類似が明確化し、古代宮都の発展過程をより鮮明化できるようになったことは、学術的に大きな価値がある。これらの成果は、一般向けの現地説明会で公表した。



第 200 次調査現地説明会

・30 年度までに実施した発掘調査の遺構図面・写真資料の再整理・再検討・分析研究とともに、出土遺物の再調査・再整理・分析研究を進めた。前方後円墳の起源に関わる弥生時代後期末の大型円形周溝墓の発見等で注目を集めていた藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡については、発掘調査報告書を刊行した。

・飛鳥地域関係では、石神遺跡の遺構及び出土品の整理・分析作業を重点的かつ継続的に行った。その結果、飛鳥時代の土器編年を見直す十分な量のデータを蓄積することができたため、7 月に奈良文化財研究所と歴史土器研究会との共催としてシンポジウム「飛鳥時代の土器編年再考」を開催し、内外から多数の研究者の参加を得て好評裏に終了した。

年度計画評価	A

【評定理由】

評定の理由は次のとおり。①適時性は最新の調査研究成果をいち早く公表し、新知見の普及・公開に努めているためＡとした。②独創性は最新のデータを駆使して飛鳥時代の土器編年を見直す研究が進展し、新知見の開拓につながったことからＡとした。③発展性は第 200 次調査における重要な発見により、藤原宮中枢部の構造並びに古代宮都の発展過程が今後大きく書き換えられる可能性が生じてきたためＳとした。④効率性は日常業務のなかで着実にデータの蓄積が進んでいることからＢとした。継続性は計画的かつ継続的な調査研究を実施し、『藤原京右京九条二坊・三坊』を刊行できたことからＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	S	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・記者発表件数：2 件（ア） ・研究発表件数：9 件（イ） ・報告書、論文数等：48 件（ウ・エ）	―

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次調査）記者発表資料」(10 月)
イ尾野善裕「飛鳥時代宮都土器編年の再編に向けて」『飛鳥時代の土器編年再考』(7 月)
ウ松永悦枝「藤原宮大極殿院の調査―第 200 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』(2 年 6 月予定)
エ『藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』(2 年 2 月)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進め、古代日本の都城の解明を図るという中期計画の目標は、第 200 次調査における大極殿後方東回廊の発見と解明によって、所期の目標を上回る、大きな形で達成された。また一連の整理・分析研究においても、飛鳥時代の土器に関するシンポジウムが好評を博したことなど、これまでの調査研究が次第に結実しつつある。今後も、逐次整理・検討作業を進め、成果を公表していく予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F-イ2

中期計画の項目	2-（1）－③－2）	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2－（1）－③－2）－イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○渡辺晃宏（都城発掘調査部副部長）、高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、加藤真二（企画調整部長）ほか	

【年度実績と成果】

(1)元年度の発掘調査及び既往の調査による検出遺構・出土遺物の整理と研究
- 平城宮東方官衙地区の調査（平城第 615 次）、等で検出した遺構の検討、及び出土した各種遺物の洗浄・整理・実測・分析・保存処理等を実施。
- 報告書の刊行に向け、平城宮東区朝堂院地区、平城京左京三条一坊一・八坪、右京一条二坊四坪・二条二坊一坪等で出土した遺構・遺物の整理・分析を実施。

(2)調査・研究成果の公表
- 元年度に実施した発掘調査について、『紀要 2020』(イ)にて報告。
- 30 年度以前に実施した発掘調査出土遺物の研究成果について、『紀要 2019』(ア)にて報告。
- 元年度の発掘調査の概報を作成。
- 平城宮東方官衙出土木簡洗浄作業。
- 特別展『地下の正倉院展』(10 月 12 日～11 月 24 日・於：平城宮跡資料館)を開催し、図録(ウ)を刊行するとともに、記者発表を実施した。
- 『平城宮発掘調査出土木簡概報』45（エ）を刊行。



これまでに類例のない「戸籍」と書かれた木簡（赤外線データ・部分）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、発掘調査の進展に対応して遺物・遺構の整理作業を進め、調査の効率的遂行や遺構の適切な理解に還元することができた。②独創性においては、科研費等の外部資金による成果と融合させながら、研究資源化（3D計測含む）まで見据えて整理作業の見直しと促進を行った。③発展性においては、平城宮東方官衙地区出土木簡の洗浄作業中に極めて特異な木簡を発見し、新たな知見を得ることができた。⑤継続性においては、これまでの調査の積み重ねを踏まえつつ、新しいデータを蓄積することができた。以上から着実に事業の成果を上げたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）・報告書等の刊行数：2 件（ ア、イ）	—

ア「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要 2019』6 月
イ「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要 2020』2 年 6 月刊行予定
ウ『地下の正倉院展－年号と木簡－』10 月
エ『平城宮発掘調査出土木簡概報』45　2 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城解明等を図るため、遺物・遺構研究の蓄積を計画している。当初計画通りの継続的な調査・研究の蓄積を行うことができた。また、『平城宮発掘調査出土木簡概報』の刊行など、その成果の確実な公表も積み重ねている。以上から、計画以上に順調に進展していると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F イ-3

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	3D プロジェクト	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・比較的小規模の遺物を計測するための三次元レーザースキャニング装置を新規に導入し、計測体制を整備した。
・当研究所全所横断的に 3D プロジェクトミーティングを３回開催し、文化財の三次元計測とデータの活用に関する問題点の共有と改善策等について協議を重ねた。
　第１回　奈良文化財研究所における３次元プロジェクトの共有
　第２回　土器の３次元計測と瓦の３次元計測
　第３回　３D bone atras について



３次元画像の解析と再構成作業

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては文化財の調査、研究、保存、活用に応用するため、種々の三次元計測に取り組んだ。②独創性においては、種々の出土遺物から遺跡、建造物に至る様々な文化財に対して、外形だけでなく、X線ＣＴ法や物理探査等多様な三次元情報を集積した。③発展性においては、文化財の三次元データを文化財の保存と活用に応用するための技術的開発に着手した。④効率性においては、当研究所の各部局における個別の取組みを全所的なものとして情報共有を行い、事業の効率性を向上させた。⑤継続性においては、当研究所が所蔵する各種遺物の目的に応じたデータ取得を行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 論文等数：３件（ア、イ） 研究発表数等：12 件	—

ア　金田明大他”Where am I in the Forest?-Application of SLAM/LiDAR Technology to Measurement and Geophysical Survey of Archaeological Sites in Forest”, Book of Abstracts 47th Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology 4 月
イ　山口欧志「新たな可視化方法の試行：文化財の特徴を捉えるために」『文化財の壺（7)』6 月 22 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	元年度より開始した新たなプロジェクトであるが、これまで各部局で蓄積されていたデータ及びその応用法について全所横断的に取り組むことにより文化財の三次元データに関する総合的な調査研究を推進したといえる。元年度は、全所で三次元データの取得とそのデータの取り扱いについて問題点を共有したが、今後、これらの問題点の解決と新たな解析法や活用法の開発に取り組んでいく予定である。

【書式Ｃ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2132Fｳ

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｳ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の出土部材の研究を行う。
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、西田紀子（学芸室研究員）、若杉智宏（学芸室研究員）ほか２名	

【年度実績と成果】

・中国と韓国の壁画古墳に関する資料を収集し、韓国漢城百済博物館の壁画模写資料について調査した。
・30 年度調査の成果を論文等で発表した（ア）。
・飛鳥時代寺院出土の風鐸（飛鳥寺跡・大官大寺跡）について鉛同位体比分析を実施した。成果は 2 年度刊行の紀要で報告する予定。
・山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。



鉛同位体比分析のためのサンプリング

年度計画評価	B

【評定理由】

飛鳥時代寺院出土の風鐸の鉛同位体比分析は古代の金属生産の実態を解明する上で重要な調査である。これまでの鉛同位体比分析の成果ともあわせて、知見の蓄積が将来の大きな研究につながる可能性をもつ点で⑤継続性③発展性が評価できる。また分析対象の飛鳥寺跡出土品は近年の発掘調査で出土したものであり、速やかな分析は①適時性④効率性を評価できる。このほか、30 年度成果の論文公表は①適時性④効率性を、飛鳥資料館が長年継続している壁画関連資料の収集は⑤継続性と館の個性を活かした②独創性を評価できる。山田寺跡出土部材の計測調査は、保存処理された大型木製品が展示環境においてどのような挙動を示すのかを知る重要な調査であり、他館にはできない点で、⑤継続性②独創性を評価できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等数　1 件（ア）	定量評価
		—

ア　石橋茂登・降幡順子・中川あや「飛鳥寺塔心礎出土銅製品の鉛同位体比分析」『奈良文化財研究所紀要 2019』6 月刊行

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	調査研究を継続的に遂行しており、着実に成果を上げていると評価できる。その内容も、壁画古墳や飛鳥の古代寺院に関連しており、飛鳥資料館の調査研究としてふさわしい内容といえる。今後はさらに調査研究を継続し、新しい学術的な知見を得て効率的な成果の公表を続けていくことが期待できる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｴ-1

中期計画の項目	(1)－③－2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｴ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	中国との共同研究	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（都城発掘調査部部長）、○渡邉晃宏（都城発掘調査部副部長）、尾野善裕（同考古第二研究室長）、今井晃樹・神野恵（同上席研究員）、丹羽崇史・廣瀬覚（同主任研究員）	

【年度実績と成果】

・中国社会科学院考古研究所：友好共同議定書に基づき、石田由紀子主任研究員を中国社会科学院考古研究所に派遣し、遺跡・遺物の調査、学術交流を実施（10 月 15～11 月 15 日）。中国社会科学院考古研究所の周振宇研究員・唐錦京副研究員の 2 人を奈良文化財研究所に招聘し、遺跡、遺物の調査、学術交流を実施（11 月 1 日～12 月 1 日）。奈文研研究員 3 人が瓦の調査を実施（2 年 2 月）。
・河南省文物考古研究院：共同研究議定書に基づき、先方代表団 5 人を招聘（12 月 16 日～20 日）。『黄冶窯発掘調査報告書』日本語版について編集作業を進めた。
・遼寧省文物考古研究院：友好共同研究「三燕文化出土遺物の研究」にかかる学術交流として先方代表団 4 人を招聘（9 月 6 日～11 日）。遼寧省文物考古研究院、錦州市博物館、朝陽市博物館を 7 人で訪問し、三燕文化出土の金属器・土器等を調査（11 月 11 日～17 日）。前回の共同研究成果をとりまとめた論文集『東アジア考古学論叢Ⅱ-遼西地域の東晋十六国期都城文化の研究－』（奈良文化財研究所学報第 98 冊）を刊行した。


河南省調査団による講演会の様子

年度計画評価	B

【評定理由】
以下の各観点から評価を行った。①適時性においては、それぞれの共同研究を予定通り実施することができた。③発展性においては、遼寧省文物考古研究院との共同研究で、前回共同研究の成果を論文集として公表し、さらなる研究の発展に資することができた。④効率性においては、事前の十分な打ち合わせ・連携によって、現地での調査・作業を効率的に進めることができた。④継続性においては、従前からの研究成果の蓄積と信頼関係をさらに積み重ね、研究を行うことができた。以上から、Ｂと判定した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・中国社会科学院考古研究所：招聘 2 人・派遣 4 人 ・河南省文物考古研究院：招聘 5 人 ・遼寧省文物考古研究院：招聘 4 人・派遣 7 人 ・刊行物：1 冊（ア）	定量評価 ―

ア『東アジア考古学論叢Ⅱ-遼西地域の東晋十六国期都城文化の研究－』（奈良文化財研究所学報第 98 冊）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、濃密な研究交流を実施しつつ着実に研究を推進し、適切な公表を行うことができた。これにより、当初計画を着実に実施した。2 年度以降も、より活発な研究を展開したい。以上より、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｴ-2

中期計画の項目	(1)－③－2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｴ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	韓国との共同研究	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡邉晃宏（副所長）、玉田芳英（都城発掘調査部長）、清野孝之（同考古第三研究室長）、林正憲（同主任研究員）、松永悦枝（同考古第三研究室研究員）、庄田慎也（企画調整部国際遺跡研究室長）、	

【年度実績と成果】

・発掘調査交流
韓国国立文化財研究所との合意に基づく発掘調査交流
当研究所研究員の派遣：１人（5 月 15 日～6 月 30 日）
→　韓国・慶州において発掘調査等に参加
なお韓国研究者の招聘については、元年度は中止となった。

・日韓共同研究
韓国国立文化財研究所との合意に基づく共同研究事業の実施
日韓共に 5 チームが共同研究に参加
韓国側：計 15 人を受け入れ。各チーム 1 週間程度。
日本側：計 13 人を派遣。各チーム 1 週間程度。
なお、2 年度には共同研究の成果を取りまとめ、『日韓文化財論集Ⅳ』を刊行する予定。


韓国における発掘調査交流の様子

年度計画評価	B

【評定理由】
下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、年度計画に沿って計画的・効率的に共同研究を実施することができた。②独創性においては、考古学、文献史学、名勝などの広範な分野にわたる両研究所の特性を活かして共同研究を行った。③発展性においては、日韓で学術的課題を共有し、研究することで今後の学術的発展に寄与することができた。⑤継続性においては、本事業が平成 18 年度から継続しており、今後も共同研究を持続していくことを確認できた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数　２件（ア、イ）	定量評価 ―

ア：廣瀬覚・高田祐一「古代朝鮮半島の矢穴技法」『奈良文化財研究所紀要』2019、6 月
イ：清野陽一「日韓発掘交流に参加して」『奈文研ニュース』No.74、9 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明を図るため、韓国国立文化財研究所との合意のもと、共同で調査研究を進めているが、発掘調査を介した人的交流も行うことによって、学術成果のみならず互いの信頼関係を蓄積している。２年度以降も研究事業を継続的に実施し、５年ごとに研究成果を論集というかたちで結実させ、長期的な発展を視野に含めた上で、本事業を展開していきたい。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2133F

中期計画の項目	2-(1)-③-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-3)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究 文化的景観の調査及び保護に関する情報収集、調査研究、成果の公表を行う。また、文化的景観の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、前年度に開催した研究集会の成果をまとめ、報告書を刊行する。
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○中島義晴（景観研究室長）、惠谷浩子（景観研究室研究員）	

【年度実績と成果】

○基礎的・体系的研究

・文化的景観と民俗学との関係をテーマとする文化的景観研究集会（第11回）を企画し、それに向けた情報収集と、民俗学研究者との意見交換・内容検討を行った。（研究集会開催を2年3月に予定、準備したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために2年度に延期した。）

・30年度に開催した文化的景観研究集会「風景の足跡―考古学からの文化的景観再考」の報告書を刊行した（刊行物ウ）。

○文化的景観保護に関する現地調査・研究

・当研究所ウェブサイトにおいて公開している重要文化的景観選定地区の情報について、「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」（北海道沙流郡平取町）等の最新情報を追加した。

・京都市、宇治市、智頭町等をフィールドに、市の担当部局への協力を通じて文化的景観の価値や継承等に関する検討を行った。


研究集会報告書刊行


重文景の情報収集・公開

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、考古学が文化的景観の理解に重要な役割を果たした最新事例を検討しその成果を報告書として刊行した。②独創性においては、文化的景観の分野で従来一部でしか取りあげられてこなかった民俗学の手法に文化的景観の観点から着目したことにより、分野を横断して現状や課題を把握することができた。③発展性においては、研究集会等で文化的景観保護に関する多分野の事例を収集、検討できたことにより、今後のさらなる発展を期待できる。④継続性においては、文化的景観に関する研究集会の成果を毎年公表し、また、重要文化的景観選定の情報を更新した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数　6件（ア） ・研究発表等数　8件（イ） ・報告書等の刊行数　1件（ウ）	定量評価 ―

ア惠谷浩子「『文化的景観』の概念形成と制度運用の充実に資する貢献」『造園学論集21』5月 ほか5件
イ惠谷浩子「文化的景観からみた京の輪郭」5月、ほか7件
ウ奈文研『風景の足跡―考古学からの文化的景観再考 第10回文化的景観研究集会報告書』2年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。
評定理由及び今後の見通し	不測の事態による研究集会の開催延期以外は、30年度研究集会の報告書刊行や現地調査の実施等により、当初の計画通り研究を遂行できた上、文化的景観の概念等の体系化の検討を深め、ウェブサイトの更新をして情報を継続的に公開し、保護行政・学術研究への貢献を図った。現地調査・研究では、保存計画や整備・活用計画の策定について検討を深められたことは評価できる。 2年度以降は、文化的景観の保存計画や整備活用事例の基礎的な情報収集、また、個別の事例・課題に対する検討を行い、研究集会の開催、成果の公表等をしていく。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134Fア

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。
プロジェクト名称	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	
埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、馬場基（都城発掘調査部史料研究室長）、小田裕樹（都城発掘調査部考古第二研究室研究員）、村田泰輔（遺跡・調査技術研究室研究員）ほか	

【年度実績と成果】

・30 年度開催した第 21 回古代官衙・集落研究集会の報告書、『地方官衙政庁域の変遷と特質』（奈良文化財研究所研究報告第 20 冊、アイ）を編集・刊行した。
・都城（藤原・平城・長岡・平安）に関する報告書のめくり作業を行い、甕据付建物に関する遺構を収集・整理した。
・新たに刊行された官衙関係遺跡・寺院遺跡についての資料をデータベース化し、新出資料も追加して一般公開した。
・奈良県の井戸遺構に関する資料を収集・整理しそれらをデータベース化した。
・皇朝十二銭に関するデータベースを作成し、奈良県の資料収集・整理を行いデータベース化した。
・か帯に関する資料収集を行った。


研究報告資料等


井戸 DB 入力画面

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性において、文化財保護行政で需要の高い官衙遺跡の基礎情報を提供し、その研究と保護の施策を講じる上で寄与している。②独創性において、全国を網羅し、多彩なデータベース項目を備えることで多様な分析が可能であり、他に類を見ない。③発展性において、公開データ地域・件数、データ種類を広げている。④効率性において、官衙・集落遺跡の研究は、膨大な量のデータを比較検討する必要があり、それを効率よく検索・集計することに大きく寄与している。⑤継続性においては、継続的な情報の追加と改定によりデータベースの充実化を図り、報告書等により公開している。以上の評価点からみて、所定の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）データベース入力補訂件数；合計 6,729 件 官衙関係遺跡データベース（遺跡数 199 件/文献 1188 件/建物データ 546 件/画像データ 760 件）、古代寺院遺跡データベース（遺跡数 8 件/文献 445 件/建物データ 104 件/画像データ 152 件）、古代井戸データベース（遺跡数 69 件/文献 427 件/井戸データ 547 件）、皇朝十二銭データベース（遺跡数 204 件/文献 964 件/銭データ 510 件）、か帯データベース（仮称）（遺跡数 191 件/文献 415 件） ・公開データ数：合計 104,677 件、報告書件数：1 件　（ア） （参考値）　研究集会当日資料集：1 件（イ）	—

ア小田裕樹ほか編『官衙・集落と大甕』報告編、奈良文化財研究所研究報告第 23 冊、12 月 13 日
イ第 23 回古代官衙・集落研究会『灯明皿と官衙・集落・寺院』当日資料、12 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	研究は計画通り順調に進捗した。継続的な情報の蓄積が着実に図られており、我が国の古代官衙・集落研究に寄与するところが大きい。当研究所が推進する「全国遺跡報告総覧」を効果的に活用する上でも、特に需要の多い官衙・集落・井戸について、その効率的な分析・研究を支える本データベースは重要である。今後も継続して情報の収集と公開活用を推進したい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F イ-1

中期計画の項目	(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会、古代土器に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	
都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（都城発掘調査部長）、渡辺晃宏（同副部長）、馬場基（同史料研究室長）、林正憲（同主任研究員）、小田裕樹・大澤正吾（同考古第二研究室研究員）、清野陽一（同考古第三研究室研究員）	

【年度実績と成果】

(1)第 23 回古代官衙・集落研究集会「灯明皿と官衙・集落・寺院」（12 月 13～14 日、於：平城宮跡資料館講堂）を開催。研究報告は神野恵「古代都城の灯火器」、渡邊誠「国府・寺院における灯明皿」、冨永樹之「古代相模国における出土遺跡から見た灯明皿」、桑田訓也「文献からみた灯明皿」、梶原勝「近世灯明皿の変遷から見る生活様式の変化」の計 6 本。報告後会場からの質問や意見を交えつつ、尾野善裕の司会により報告者を中心とした討論を行った。また研究集会に際しては、報告資料集（イ）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

(2)『第 22 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と大甕』（奈良文化財研究所研究報告 23 冊）（ア）の刊行。

30 年度開催した第 22 回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。



研究集会の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

以下の各観点から評価を行った。①適時性においては、古代官衙・集落遺跡の調査・研究推進における重要かつ適切な課題を設定し、第 23 回研究集会を開催し、30 年度に開催した第 22 回研究集会の成果を、遅滞なく研究報告書として刊行し、広く公開した。②独創性においては、従来注目されていなかった官衙・集落・寺院遺跡出土灯明皿に焦点を絞り、各地域・遺跡での出土様相や痕跡パターンの抽出作業を通じて、灯明皿の特性および歴史的意義づけを論じることができた。③発展性においては、灯明皿という新規の視点の提示と共有によって、今後多くの地域・遺跡での分析が積み上げられ、豊かな成果を得ることができ期待される。④効率性においては従前からの開催・編集を踏襲しつつ、適宜改良を加えて作業の軽減を図った。⑤継続性においては、当研究所の事業として、継続的に研究集会を開催し、成果を刊行することで、多くの参加者を得てかつ研究の相互連携を深めることができた。以上より、Ｂと評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数・・・・・・6 件 ・研究発表等数・・・・5 件 ・報告書等の刊行数・・2 件 ・研究集会参加者 115 人。アンケート・回収 105 人（回収率 91%）　大変有意義 65 人、有意義 37 人、普通 3 人、あまり有意義ではなかった 0 人、有意義ではなかった 0 人。	定量評価 ―

ア『第 22 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と大甕』（奈良文化財研究所研究報告 23）12 月
イ『第 23 回古代官衙・集落研究集会　灯明皿と官衙・集落・寺院　研究報告資料』12 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	当初計画通り研究集会を実施し、報告書を刊行することができた。この研究集会報告・討論を通じて、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得ると同時に、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、研究の質的向上に資した。また、研究報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産となった。 本研究集会及び報告書は、古代国家形成・古代都城研究に有益で、また全国の地方自治体の埋蔵文化財担当職員等の参加者からの期待も大きい。今後も継続的に事業を推進する必要があり、適切なテーマ設定による質の高い研究集会の開催を進めていきたい。以上より、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F ｲ-2

中期計画の項目	(1)－③－4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会、古代土器に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（都城発掘調査部考古第三研究室長）、今井晃樹（同上席研究員）・林正憲・岩戸晶子（同主任研究員）、石田由起子・清野陽一・岩永玲（同考古第三研究室研究員）、道上祥武（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

(1) 第 20 回シンポジウム　「鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ　－鴟尾－」(2 年 2 月 1～4 日、於:平城宮跡資料館講堂) を開催。
研究発表は、道上祥武「奈良の鴟尾」、熊谷舞子「京都・滋賀の鴟尾」、丸山香代「大阪・和歌山の鴟尾」、垣内拓郎「兵庫の鴟尾」、香川将慶「山陽・四国地方の鴟尾」、武田寛生「東海地方の鴟尾」、久保穣二郎「山陰地方の鴟尾」、比嘉えりか「九州地方の鴟尾」、洪パルグム「韓国の鴟尾」の計 9 本。紙上発表は、佐川正敏「東北地方の鴟尾」、出浦　崇「関東地方の鴟尾」、熊谷葉月「北陸地方の鴟尾」、三好清超「中部地方の鴟尾」の計 4 本。大会 2 日目に報告者を中心とした総合討論会を開催し、会場からの質問や意見を交えつつ、討論を行った。シンポジウムに際しては、発表要旨集（ア）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

(2)『古代瓦研究Ⅸ　一本づくり・一枚づくりの展開　東日本編』(イ)の刊行。
第 18 回シンポジウムの報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。



研究会の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、当初の予定通り第 20 回シンポジウムを開催した。あわせて 29 年度に開催した第 18 回シンポジウムの成果を報告書として刊行した。②独創性については、これまでに全国でも類例のない鴟尾を対象としたシンポジウムを開催し、その製作技法や全国での分布及び編年、系譜関係について多くの新知見を得ることができた。③発展性においては、今後、全国での新資料の認識を深めるとともに、東アジアにおける鴟尾の起源や伝播に関する研究に資する成果を提供することができた。④効率性においては、全国の資料を一所で集中的に検討することにより、各地の鴟尾の相違点と共通性を確認し議論することができた。⑤継続性においては、2 年度に鬼瓦について全国規模で検討する予定である。以上から、本事業を計画通り着実に実施したといえる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等数　13 件(うち当研究所 1 件)　　・研究発表等数　9 件(うち当研究所 1 件) ・報告書等の刊行数　2 件（アイ） ・研究集会参加者 151 人。アンケート・回収 104 人(回収率 69%)	定量評価 ―

ア「第 20 回シンポジウム　鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ　－鴟尾－」2 年 2 月
イ「古代瓦研究Ⅸ　一本づくり・一枚づくりの展開　東日本編」2 年 2 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	当初計画通り研究会を開催し、報告書を刊行することができた。これまで十分な検討がなされてきていない鴟尾について多くの重要な知見を得ることができ、また議論を通じて共通認識を高めることができたことは、今後の調査・研究に大きな意義を持つ。さらに 2 年度に予定している鬼瓦に関する総合的研究にもつなぐことができた点も大きな成果である。以上より、順調に進んでいると考えられ、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2135F

中期計画の項目	2-(1)-③-5)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-5)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 ５)水中文化遺産に関する調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産の調査法、保存並びに活用に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	水中文化遺産に関する調査研究	
埋蔵文化財センター 都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、清野孝之（考古第三研究室）、金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、林正憲（都城発掘調査部主任研究員）	

【年度実績と成果】

・鷹島海底遺跡において発見された元寇沈船を良好に現地保存するため、砂嚢と酸素不透過性シートを用いた埋め戻しが実施されている。この方法による埋め戻しの有効性を検証するため、埋め戻しが実施されている海底遺跡現地において、温度と溶存酸素をモニタリングするとともに、銅板、鉄板および木材の試験片を同時に埋設し、海底暴露試験を実施した。
・松浦市鷹島町において開催された水中考古学セミナーで、海底遺跡出土遺物の保存処理について講演を行った。
・博物館において展示されていた海底遺跡より出土した銅製品に腐食生成物が発生したことを受け、腐食生成物の材質調査を行い、有効な保存処理法の検討を実施した。



海底テストピースの設置

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性：海底遺跡における金属製遺物及び木製遺物等の現地保存に関する未解決の課題に取り組んだ。②独創性：元寇沈船の海底での劣化を抑制するための現地保存法として、砂嚢と酸素不透過性シートを用いた新たな手法を検証した。③発展性：海底遺跡での遺物の現地保存法を確立することにより、潜在的に存在している海底遺跡の良好な保存につなげることが期待できる。④効率性：これまで海水中の溶存酸素の長期にわたる連続測定は困難であったが新たな測定法を導入したことにより、効率よく溶存酸素のデータの蓄積が可能となった。⑤継続性：海底遺跡での埋め戻しによる現地保存法を開発するためには、長期にわたるモニタリングが必要である。潜水調査を行うことができる研究員が研究を遂行することで継続性を担保した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	論文等数：２件（ア） 研究発表等数：６件（イ）	—

ア M. Yanagida *et al*, “Effect of Reburial Conditions on the Corrosion of Marine Iron Artifacts”, Proceedings of the interim meeting of the ICOM-CC Metal working group (9 月)
イ高妻洋成「水中遺跡出土遺物の保存処理法―鷹島海底遺跡出土遺物を中心に―」水中考古学セミナー（6 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。
評定理由及び今後の見通し	水中文化遺産の保存と活用を図るためには、水中文化遺産の調査法の開発とともに水中文化遺産の現地保存法並びに出土遺物の保存処理法を開発する必要がある。多くの課題がある中、鷹島海底遺跡で発見された元寇沈船の現地保存に取り組み、有効な方法を提示することができた。海底遺跡での作業ということもあり、綿密な計画をたてて実施することで、新たな現地保存法の効果を検証することができるようになったことから、Ｂと評価するものである。今後は、遺跡の把握法の開発、遺物の保存処理法の開発等に取り組んでいく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2211E

中期計画の項目	2-(2)-①-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-1)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、小山田智寛（研究員）、城野誠治（専門職員）、谷口毎子（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○デジタル画像の形成方法の研究開発

・不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討した。所内プロジェクト、外部資金による他プロジェクトとも連携し、東京国立博物館所蔵の平安仏画、京都国立博物館所蔵の国宝十二天像など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。また2年度から本格的に開始するガラス乾板の特性、特に色情報の再現性に関する調査の準備として、専門家との協議を12月に実施した。

○研究成果の公開

・プロジェクト「日本東洋美術史の資料学的研究」と連携し、東京国立博物館所蔵の国宝平安仏画4作品を対象に、長辺30,000 pixelの高精細写真を自由に拡大・縮小し閲覧可能なウェブコンテンツを作成、8月20日に公開した。また、このうち普賢菩薩像を対象に、異なる光源で撮影された写真や、調査研究成果などの情報を含むウェブコンテンツを作成した。

・プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携し、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を12月2日に開催、123人の参加を得た。

・『春日権現験記巻七・巻八　光学調査報告書』を2年2月10日付で刊行した。



東京国立博物館所蔵平安仏画ウェブコンテンツ

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、高精細の画像取得・蓄積は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえるものである。「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」に123人が参加したことも、この分野への関心の高さを示している。②独創性においては、光学的調査で独自に開発・選択した技術・機材を最大に活用、通常の機材では記録不能な可視光の全範囲に加え、可視光、蛍光も同一の画角で記録できた。③発展性においては、データのウェブサイト公開で、長辺30,000 pixelという高精細画像の円滑な拡大・縮小や、任意の光源2種を選んでの画像の表示及び同時拡大・縮小、技法や材料関連用語の他データベースとの連携など、ウェブサイトの特徴を生かしたコンテンツが作成できた。④効率性は、刊行物やウェブコンテンツを所内で編集、内製し、職員を講師としたセミナーの開催を通じて効率よく活動を所内外に伝達できた。⑤継続性においては、他プロジェクトとも連携し光学的調査を継続的に実施した。よって所期の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	②　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・（参考値）刊行物1件（①） ・（参考値）論文5件（②） ・（参考値）発表1件（③）	－

①『春日権現験記絵巻七・巻八　光学調査報告書』（東京文化財研究所、2年2月10日）

②早川泰弘・城野誠治「春日権現験記絵の彩色材料調査（巻七・巻八）〈巻七〉」『春日権現験記絵巻七・巻八　光学調査報告書』pp.XRF4-20、東京文化財研究所、2年2月　他4件

③城野誠治「文化財情報の記録－文化財の写真について－」文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー、東京文化財研究所、12月2日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や3D記録製作等について研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	上記の中期計画の記載事項についていずれも所期の目標を達成した。2年度以降も、運営費交付金や外部資金による他プロジェクトとも連携して調査研究を実施する。また「文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用」と連携し、ウェブサイトやセミナーによる研究成果は発信に引き続き努める。さらに、次期中期計画の計画、立案のための予備調査を実施する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2212F

中期計画の項目	(2)-①-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-2)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構･遺物の計測についての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析、一般にむけてのＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。
プロジェクト名称	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、山口欧志、村田泰輔（遺跡・調査技術研究室研究員）、西村康、西口和彦、中村亜希子（客員研究員）	

【年度実績と成果】


縄文土器三次元計測成果

・平城宮、飛鳥・藤原地域等にて SLAM・SfM-MVS 等の技術を応用した遺構計測を実施した。
・日本文化財科学会第 36 回大会・日本考古学協会第 85 回大会において成果を発表した。
・第 4 回文化財方法論研究会を共同開催し、研究発表とワークショップによる研究成果と技術の普及を行った。
・廉価型 GNSS 測量器 の精度・作業効率を比較し有効性を評価した。
・日本の遺跡における効率的なマルチチャンネル地中レーダーの試験を実施し、取得手法・機材の改良を行った。
・奈良県平城宮跡・藤原宮跡・キトラ古墳壁画・京都府恭仁宮跡、山口県周防鋳銭司跡などの計測・探査を実施した。
・平城宮・京瓦基準資料の三次元計測を進め、データを蓄積した。
・文化財担当者研修及び文化庁・北海道・高知県・科学研究費新領域研究総括班等の依頼により、三次元計測の利用と活用に関する講習会を実施した。
・宮都出土及び山内考古資料など土器資料の三次元計測による簡便な土器製作技法の検討を行った。
・web や AR・VR、ゲームを利用した文化財デジタルデータの活用について、実際のデータを用いて試行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性：計測・探査など基礎的な分野の研究を行った。地方公共団体等からの計測・探査実施、技術指導依頼や災害復旧に伴う緊急調査要請が多く、即応して成果を上げた。②独創性：廉価な機器等を改良して文化財に特化した手法を確立し、新規で機材開発を開始している。③発展性：既存の調査・研究の蓄積との連携に配慮しつつ、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な方法として提案した手法が広範に普及し、文化財の調査方法の改良と得られたデータの利活用への基礎技術を担いつつある。④効率性：取り組んできた遺跡・遺物の詳細なデータを従来の数十分の一の時間と労力で計測・記録する手法は普及段階に進んだ。⑤継続性：独法化以前からの研究資産・研究水準を引き継ぎつつ、不断の技術開発・改良と現在の文化財研究及び保護に要求される水準に沿った研究を進め、成果を上げている。以上の様に、所期の目標を上回る成果が得られていると認められ、目標を満たしていることからＡと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** 探査件数：5 件　計測件数：46 件　論文等件数：11 件（ア～ウ） 発表等件数：18 件　講習会開催　7 件	定量評価 —

ア） 文化財の調査研究における三次元計測データの質　日本考古学協会第 85 回大会研究発表要旨　日本考古学協会　5 月 18 日
イ） Restoring burial mounds damaged by disasters—Contribution of archaeological prospection to collect information at the Idera burial mound,Japan New global perspectives on archaeological prospection 8 月
ウ） 埋蔵文化財のための遺跡探査ー実態と展望ー　計測と制御 58（11）計測自動制御学会　11 月　ほか 8 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	考古学研究及び発掘調査の手法開発に寄与する研究開発と、研究発表や講習会開催などによる成果の普及を行い、成果を上げた。各地の研究者・文化財担当者の依頼を受け、調査を実施するとともに、複数の県や大学、海外から文化財担当者や作業補助者向けの講習会の要請があり、これに対応した。今後も行政における埋蔵文化財調査に資する研究を推進したい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2213F

中期計画の項目	2-(2)-①-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-3)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進める。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊調査手法や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。
プロジェクト名称	年輪年代学研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○星野安治（年代学研究室長）ほか客員研究員４名	

【年度実績と成果】

・出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。
・恭仁京の範囲内と考えられる京都府岡田国遺跡から出土した井戸枠材の年輪年代測定を行い、奈良時代前期の年代を得ることができた。恭仁京での年代測定事例は少なく、土器などの遺物と対応した貴重な年代情報となると考えられる。
・平城宮跡から出土した参河贄荷札の年輪年代学的検討を行い、同一材に由来する荷札木簡の組み合わせを複数、見出した。それぞれの組み合わせでの荷札製作の同時性を示唆する成果となった。
・現生木調査では、京都府芦生、奈良県吉野について試料収集を行い、年輪変動の地域性を検討するデータ蓄積を行った。



現生木コア試料採取風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、発掘調査や解体修理の進捗状況に対応した年輪年代調査を実施した。②独創性及び③発展性においては、従来、年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を、木簡の同一材推定に活用し、荷札木簡について同一材を見出すなど、独創性を発揮するとともに、古代史学への波及が期待できる。④効率性においては、デジタル画像技術の活用により、多数の削屑木簡を調査対象として供するなど、効率的かつ正確に年輪年代調査を実施した。⑤継続性においては、各地域の現生木年輪データの蓄積を継続的に実施し、標準年輪曲線の拡充を図っている。以上のように、順調に事業が推移していると判断し、評価を行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	論文等：10 件（ア） 発表等：4 件（イ）	―

ア年輪年代学的手法による参河贄荷札の検討、奈良文化財研究所紀要 2019、ほか 9 件
イ年輪年代学的手法による木簡の同一材推定（第 2 報）、第 70 回日本木材学会大会、ほか 3 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	ｓ年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	年輪年代調査・研究を通して、各種文化財に資する情報を提供することができた。奈良時代の井戸枠材の年輪年代測定を実施したことにより、考古学をはじめとした歴史科学研究に大きく寄与すると考えられる。また、従来、主に年代測定の手段として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から木簡へ応用し、荷札木簡の中に同一材を見出すことができた点も、元年度の大きな特徴である。今後、古代史学への貢献が期待されるなど、年輪年代学による調査・研究が発展的に進展するものと判断し、評価を行った。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2214F

中期計画の項目	（２）－①－４）	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	２－（２）－①－４）	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 平城宮跡・藤原宮跡等から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。
プロジェクト名称	動植物遺存体の分析方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○山崎健（環境考古学研究室長）、松崎哲也（環境考古学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

○ 中沢浜貝塚（岩手県）、金井下新田遺跡（群馬県）、前田耕地遺跡（東京都）、保美貝塚（愛知県）などの遺跡から出土した動物遺存体を分析した。

○ 東京都の前田耕地遺跡から出土した動物遺存体について分析した。これまで知られていたサケの歯以外にも多くの焼骨が出土しており、クマ属やシカ科などを対象とした狩猟活動も行っていたことを明らかにした。

○ 現生標本の収集と公開では、マグロ類やウニ類の標本を作製し、標本見学に対応した。

○ 研究成果の発信として、日本動物考古学会、日本植生史学会、日本花粉学会、海洋考古学会などで研究発表を行った。

○ 研究成果の社会還元や普及啓発として、『骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事』の展示や図録作成に携わり、イベントや公開講座（子供向け・大人向け）も実施した。そのほかにも、愛知県、新潟県、大阪府で一般向けの講演をした。



研究を展示するイベント

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性や③発展性においては、文化財保護法の改正を踏まえて、数多くの展示や講演、講座を行い、普及啓発を積極的に進めた。とくに、研究過程を見せる手法や研究員を展示するイベントなどにより、脆弱な出土資料のオーバーユースを避けながら、保存と活用の両立を実現することができた。②独創性においては、DNA 分析や同位体分析を共同研究として実施した。④効率性においては、現生骨格標本のデジタルアーカイブにより、発掘調査現場での記録の効率化を可能にした。⑤継続性においては、東日本大震災の復興事業に対して継続的に支援をしている。以上の様に、所期の目標を上回る成果が得られていると認められ、Ａと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	論文等数：6 件（ア、イ） 研究発表等数：7 件（ウ）	―

ア山崎健「方法論の模索」『農耕開始期の動物考古学』、4 月 30 日
イ山崎健「藤原宮造営と馬」『馬の考古学』、11 月 25 日、ほか 4 件
ウ山崎健「古代房総における貝類利用の実態」『日本動物考古学会第 7 回大会』、6 月 15 日、ほか 7 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	地方公共団体等からの要請に対応しながら、研究を着実に進めることができた。とくに、研究成果の社会還元や普及事業に大きな反響があったことが特筆される。2 年は東日本大震災から 10 年間の復興期間最終年にあたる。復興調査の支援を続けながら、得られた研究成果を伝える普及事業にも参加していきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2221E

中期計画の項目	2-(2)-②-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-1)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 歴史的建造物、古墳環境等生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、遺伝子等を指標とした簡易・迅速な生物モニタリング手法を用いた実践研究を発展させるとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対して薬剤を用いない環境低負荷型の防除方法の普及を行う。
プロジェクト名称	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、佐野千絵（センター長）ほか	

【年度実績と成果】

○歴史的木造建造物における環境低負荷型の殺虫処理方法である湿度制御温風殺虫処理について、日光山中禅寺鐘楼で行われた現地処理後の害虫モニタリング調査を実施し、成果を論文や国際会議等で発信した。

○文化財害虫の簡易・迅速モニタリング手法の開発のため、文化財害虫の遺伝子解析とデータベースの構築を進めた。虫糞等からの同定手法構築に向けた基礎研究も実施し、遺伝子抽出手法を標準化した。

○古墳壁画の微生物劣化機構解明に関する研究で、これまで対象となっていなかった健全な壁画の微生物群集解析を行い、研究成果を学術雑誌にまとめた。

○油彩画表面に発育したカビの各種顔料上での発育特性について調査研究を行った成果について学術雑誌を通じて報告した。



害虫モニタリング調査の様子

○浮遊菌を簡易・迅速に測定できる新たな機器（リアルタイム浮遊菌数測定器）を用いて、収蔵庫等の保存環境での浮遊菌の実態を把握するため生態解析を取り入れた調査研究を実施し、成果を学会で報告した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、管理保全計画策定の中で高い需要が期待される歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処置方法の普及に向けた実践研究を先導して行った点を高く評価した。②独創性においては、文化財害虫の遺伝子解析に基づく新規データベースの構築と虫糞等からの同定手法の確立に向けた研究課題には高い独創性があると評価した。③発展性と⑤継続性においては、微生物に起因する文化財の劣化現象の解明という基盤的な研究課題について、古墳壁画を調査の対象として継続的に研究を行って成果を得ており、古墳壁画の現地保存に資する研究成果を得たことは高い発展性があると評価した。④効率性においては、歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処理の課題において、大学や他の研究機関と連携協力体制を作り、それぞれの専門性を生かした分担業務を行いながら効率よく研究を遂行することができたと評価した。よって、所期の計画を上回り、事業が効率的に進行していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 公刊図書（分担）・論文・報告：合計7件（ア、イ、ウ、エほか3件） 学会発表：合計6件（オ、カほか4件）	—

ア　「第2節第12項屋外環境にある文化財の微生物制御」（佐藤嘉則）『最新の抗菌・防臭・空気質制御技術』7月、テクノシステム

イ　「文化財の微生物被害」（佐藤嘉則）『かびと生活』12号、6月

ウ　「虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析」（佐藤嘉則他4人）『保存科学』59号、2年3月

エ　「湿度制御した温風処理の殺虫効果の検証-続報-」（小峰幸夫・佐藤嘉則他7人）『保存科学』59号、2年3月；ほか3件

オ　「Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack」（Fuji,Y., Sato,Y., Komine, Y.他9人）『IPM for Cultural Heritage 4th international conference』Stockholm,5月23日

カ　「リアルタイム浮遊菌数測定と生態解析によって室内浮遊菌の実態に迫る」（中村孝道、佐藤嘉則、他1人）『日本微生物生態学会第33回大会』、山梨大学、9月11日；ほか4件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため、浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について基礎研究を行う。屋外環境においては、木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の4年目として、歴史的木造建造物に対する湿度制御温風殺虫処理法の成果発信を論文1報、学会発表3件と複数行うことが出来たことは、本研究プロジェクトの中心研究であるため非常に順調に研究が進捗しているといえる。他の課題も研究成果を論文等にまとめ、適宜発信できており、順調に研究が進んでいるといえる。2年度は、簡易・迅速な新しい生物モニタリング手法に関する基礎研究について特に注力して研究を進める予定である。 以上の理由から、中期計画の4年目として初期の計画を上回る研究業務が遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2222E

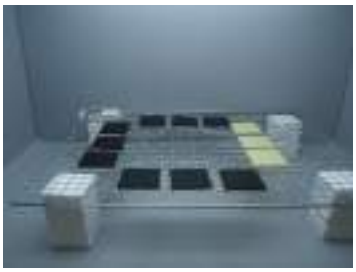
中期計画の項目	2-(2)-②-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-2)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 白色 LED 照明の展示物への影響についてこれまでの研究成果をまとめ、蛍光灯からの切り替えを助ける普及教材を作成する。さらに、温湿度解析の事例研究を進め、博物館内の汚染物質として防腐剤も含む化学物質について汚染事例を収集し、改善方法を検討する。
プロジェクト名称	保存と活用のための展示環境の研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○佐野千絵（センター長（兼）保存環境研究室長）、水谷悦子（研究員）、相馬静乃（研究補佐員）、吉田直人（文化財活用センター、東文研併任）	

【年度実績と成果】

○博物館における化学物質汚染による文化財影響への理解促進と空気清浄化技術の普及を目的に、当研究所ウェブサイトに『美術館・博物館のための空気清浄化の手引き（31 年 3 月）』を掲載した。反響は大きく、いくつかの博物館から、基礎的な問い合わせではなく、より専門的な質問が寄せられるようになり、当期の目的を達成できた。

○白色 LED の美術館等への導入にあたり学芸員が参考にできる技術指針を日本照明学会美術館・博物館照明技術指針作成委員会（委員長：佐野千絵）と協働してまとめた原案について、学会での査読を実施中である。

○白色光による文化財への影響を考えるうえで基礎的な指標となっている損傷度曲線について、根拠論文の採取データ数が少なく再現実験が必要と上記の委員会で考えられたことから、各波長による損傷度を把握するため、各種材料の変退色度ΔＥと曝露時間との応答性について基礎的な試験を開始した。今年度は基準光源であるＤ65 光源を用いて、ＪＩＳ木綿布、ＪＩＳ絹布、新聞紙（新聞社より取り寄せ）に対して曝露試験を行い、データを採取した。



曝露試験の様子

○これまでの研究成果を生かし、文化遺産国際協力センターの事業に協力し、イラン国立博物館の館内環境に関して、来日した研究者と、昨年度に実施した窒素酸化物、硫黄酸化物、アンモニア、有機酸、揮発性有機化合物の調査結果について討論し、今後の監視方法について意見交換した。機材の入手が難しいイラン国内においては、金属試験片による監視が有効という結論で一致した。

○2 年 2 月 3 日「保存環境に関する研究会－保存環境調査研究、この 30 年」を実施した。有意義であった（100%）と高評価であった（参加者　所外 105 人、アンケート回収率 83%）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、博物館内の空気汚染の問題は情報普及が要であり、『美術館・博物館のための空気清浄化の手引き（31 年 3 月）』を当研究所ウェブサイトに掲載したことで、多くの美術館等に情報が伝達され、文化財被害に気付くことができるようになった。②独創性においては、照明の文化財への影響の基礎研究を開始し、資料の光応答性も勘案した照明制御研究を進めている点を評価した。③発展性においては、学芸員の求めている LED 照明に関する技術指針を外部専門家と協力して編纂し、文化財保護全体に資するように基準を示す姿勢について発展性が高いと評価した。④効率性においては、大学教員である客員研究員やメーカーの専門家を含む LED 照明に係る情報を効率的に集め検証が進められた。⑤継続性においては、空気環境清浄化技術の新規技術の収集を続け、評価し続けていることを評価した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・	・（参考値）ウェブサイトでの手引きの公開　1 件（ア） ・学会発表 2 件（イ） ・研究会　1 件	

ア　『美術館・博物館のための空気清浄化の手引き（31 年 3 月）』、東京文化財研究所ＨＰ-保存科学研究センター-おしらせより入手可能

イ　有機酸発生源探索のための簡易調査法の試案（佐野千絵ほか、文化財保存修復学会第 41 回大会、6 月 23 日）ほか 1 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の展示照明として導入が進む白色 LED、有機 EL 光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また、文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って、順調に成果を挙げた。LED 照明の研究については、基礎的なデータ収集を実施し、最終年度には成果公開を目指す。また空気清浄化については、手引きをまとめ公開したが、引き続き被害事例の収集を継続し、最終的により具体的な普及教材の編纂に努力する。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2223E

中期計画の項目	2-(2)-②-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-3)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 複数の可搬型機器を活用して、絵画・工芸品・建造物等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。これまでに調査した絵画作品の調査報告書を刊行する。さらに、文化財の劣化によって生じた生成物の分析を行い、劣化要因の特定と対策法の検討を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（副センター長）、城野誠治（文化財情報資料部専門職員）、岡田健（客員研究員）、古田嶋智子（客員研究員）	

【年度実績と成果】

○可搬型分析装置を用いたその場分析

・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、絵画、工芸品などの調査を実施した。日本絵画の調査においては、平安仏画の背景の彩色や、室町期絵画の白色顔料の利用実態などについて新知見を得た。

・構成元素の含有量が既知である金箔の試料を用いて、可搬型蛍光X線分析装置及び据置型蛍光X線分析装置から得られる分析データの精度や確度に関する定量的な評価を実施した。

・元年度に導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けて、撮影条件や設置方法に関する基礎実験を行った。

○工芸品等に用いられている金属製装飾部分の腐食をもたらす、保存箱などから発せられる化学物質量を分析するためのサンプリングバッグ法の改良を行った。



サンプリングバッグ法による桐箱から発せられる化学物質量の測定

○研究成果発表

・これまでに得られた調査結果などをまとめて、論文2件、学会発表3件の研究成果発表を行った。また、これまでに調査を実施した絵画作品に関する光学調査報告書を刊行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、絵画、工芸品などの様々な種類の文化財の調査時に、それぞれの目的に応じて最適な分析手法を選択し、可搬型分析装置を用いた調査を迅速に実施した。②独創性においては、文化財に用いられている金属部分の腐食の原因となる化学物質量を分析するためのサンプリングバッグ法の改良を行った。③発展性においては、元年度に新たに導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けて、撮影条件や設置方法に関する基礎実験を行った。④効率性においては、主に蛍光X線分析装置の設置方法やデータ解析法の改良を重ねることにより、分析調査の効率が向上した。⑤継続性においては、構成元素の濃度が既知である標準試料を用いて分析精度に関する定量的な再評価を行うことにより、分析結果の精度を担保している。よって、所期の計画を上回り、効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 論文等2件（ア、イ）、学会発表等3件（ウ、エ、オ）、報告書等1件（カ）	定量評価 ―

ア　「綿貫観音山古墳出土金属製品の材料調査」（早川泰弘『保存科学』59号、2年3月）

イ　「文化財分野で用いる放散試験に向けたサンプリングバッグ洗浄効果の検討」（古田嶋智子、犬塚将英『保存科学』59号、2年3月）

ウ　「国宝 日月四季山水図の蛍光X線分析」（早川泰弘、城野誠治、日本文化財科学会第36回大会、6月1～2日）

エ　「桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響」（古田嶋智子、犬塚将英、文化財保存修復学会第 41 回大会、6月23～24日）

オ　「煉瓦造窯の保存と活用に関する調査－愛知県常滑市の事例－」（佐々木淑美、犬塚将英、日本文化財科学会第36回大会、6月1～2日）

カ　『国宝日月四季山水図　光学調査報告書』、10月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の4年目として、可搬型蛍光X線分析装置を用いた分析調査を行ったことにより、日本絵画で用いられている顔料についての新知見が得られた（学会発表1件ウ、報告書カ）。金属製品の腐食原因となる化学物質や建造物に見られる析出塩類の分析を行い、文化財の劣化要因についての検討を行った（論文1件イ、学会発表2件エオ）。以上により、順調に研究が進捗していると判断した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2224E

中期計画の項目	2-(2)-②-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-4)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 屋外に所在する石造・木質文化財及び自然史資料を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行うことから、特にそれぞれの価値を人々に有効に伝えて行く具体的な方法について検討を進める。
プロジェクト名称	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、柳沼由可子（研究補佐員）、前川佳文（文化遺産国際協力センター研究員）	

【年度実績と成果】

屋外に位置する各種の文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の通り調査研究を進めた。

○和歌山県指定史跡・一遍上人名号碑建立之地において江戸時代に行われた、地震で被災した石碑の修復について解明した。

○熊本地震で被災した古墳や、豪雨災害で被災した山都町の通潤橋など、被災文化財について、適切な修復方針の策定に寄与した。

○平野塚穴山古墳や南下古墳群などの古墳を調査し、壁面に汚れが沈着した原因について解明を進めている。

○臼杵市の風連鍾乳洞、南城市の玉泉洞、由良町の戸津井鍾乳洞など、各地の鍾乳洞で発生している緑色生物の繁茂について、LED 照度の波長特性、環境中の二酸化炭素濃度測定等を行い、緑色生物の発生との関係について検討した。



平野塚穴山古墳における沈着物調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、熊本地震で被災した文化財や豪雨災害で被災した文化財の保存修復事業に対応してきている。②独創性においては、今まで文化財科学分野で取扱いが少なかった自然史資料に対して、人文資料でこれまで得られた成果の適用を進めている。③発展性においては、自然史資料で現在進めている試験的対策が効果を挙げれば、各地の同様の文化財への応用が期待される。④効率性においては、自然史系文化財と人文系文化財の両方を持つ市町村において、双方の担当者と合同で調査することにより効率化を図った。⑤継続性においては、30 年度以前に既に対策を行った現場に着いて、継続的に経過観察を進めて長期的な評価を試みている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 論文等発表 2 件（ア、イ） 学会・研究発表 3 件（ウ、エ、オ）	定量評価 －

ア　「新宮市万歳の一遍上人名号碑の補修史に関する三次元計測に基づく検討」（朽津信明、柳沼由可子、後誠介、西山賢一　『保存科学』59 号、pp. 23-34　2 年 3 月）

イ　「資料保存施設としての経塚の保存科学的評価」朽津信明　『保存科学』59 号、 pp. 35-50　2 年 3 月）

ウ　「新宮市万歳の一遍上人名号碑と江戸時代に行われたその補修について」（朽津信明、柳沼由可子、後誠介、西山賢一　日本文化財科学会第 36 回大会　東京藝術大学、6 月 1 日）

エ　「天草市アンモナイト館における緑色生物の制御」（朽津信明、森井順之、柳沼由可子、廣瀬浩司　文化財保存修復学会第 41 回大会　帝京大学　6 月 23 日）

オ　「過去の写真と現状の三次元計測に基づく荒島石の侵蝕速度の検証」（朽津信明、柳沼由可子　日本応用地質学会 2019 年度研究発表会、アオーレ長岡、10 月 24、25 日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	屋外に所在する石造物や木造建造物等について、凍結劣化や塩類風化、頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因、及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法について調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の 4 年目として計画に沿って順調に各種文化財の劣化に関するデータが蓄積されていると判断した。特に自然史資料について、これまで人文資料で培ってきたノウハウに基づき、具体的なデータが得られ、成果が出始めている。2 年度に、これらの成果を総括する予定であり、最終年度に向けて、順調に計画通り実行されていると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2225E

中期計画の項目	2-(2)-②-5)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-5)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料と新規修復方法について、調査研究と評価を行う。30 年度までの成果をもとに、海外から研究者を招聘し、国内の最先端の事例も含めて文化財修復に関する研究会を行う。また、昨年度の文化財修復に関する研究会報告書の刊行を行う。
プロジェクト名称	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○早川典子(修復材料研究室長)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、倉島玲央（研究員)、藤井佑果（アソシエイトフェロー)、岡部迪子（研究補佐員)、菊池理予（無形文化遺産部主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○文化財の伝統材料と修復材料に関する調査

・絵画の基底材に関する調査

東京国立博物館との共同研究で絵画基底材料としての絹糸の形状と織組織に関する基礎データを収集した。また、自然布に関して、FT-IR とデジタルマイクロスコープによる観察での識別を目的に基礎データを収集した。

・漆に関する調査

日本の漆技法に関して、特に従来全く研究されていないタンパク質を利用した変わり塗りについて現地調査と試料採取を行った。これらの分析と劣化に関する調査を 2 年度以降進める予定である。



ワークショップ実技指導風景

○文化財の修復技法に関する研究

・文化財修復処置に関する研修と研究会の開催

10 月 8 日～10 日に「文化財修復処置に関するワークショップ- ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法 -」をイタリアの保存科学者パオロ・クレモネージ氏を招聘して開催した（応募者 60 人から 20 人を選考)。また、10 月 11 日に「文化財修復処置に関する研究会　―クリーニングとゲルの利用について―」を開催した。参加者は 84 人であった。

・30 年度の「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」の内容と関連する資料を掲載した報告書を刊行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、クリーニング材料として注目されているゲルについてのワークショップ・研究会を日本で初めて行った点を評価した。②独創性においては、伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている点をＢと評価した。③発展性においては、得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や保存環境の提言が見込まれるため、Ａとした。④効率性においては、複数のテーマを効率的に遂行しつつ、一定の成果を得られたことからＢとした。⑤継続性においては、2 年度以降にこれらの成果を文化財修復の現場や美術史研究への還元を目的とする研究を遂行する見通を立てることができたためＡと判断した。よって、所期の計画を上回り、発展的成果を得られていることから、総合評価をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・報告書　1 件（ア） ・学会発表　8 件（イ他）	定量評価 ―

ア　『文化財修復の現状と諸問題に関する研究会』報告書、2 年 3 月 31 日

イ　「画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蛹方法の影響　―大和文華館所蔵作品調査データ含めて―」（早川典子ほか、文化財保存修復学会第 41 回大会、6 月 22 日）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の 4 年目として、海外の最新技術の普及を図るワークショップを開催するなど、当初の計画を上回る成果が得られていると判断した。伝統的な修復材料・技法についての科学的調査としては膠や漆などについて展示・論文・学会発表を行うに至っており、新規材料・技法の開発については、ゲルを使用した有機溶媒の適用を検討する段階にある。今後はさらにこれらを発展させつつ、文化財の修復に関する包括的な研究を行う予定である。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2226F

中期計画の項目	(2)-②-6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-6)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸・固化工程を効率化する新手法を開発するための基礎研究を行う。
プロジェクト名称	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（センター長兼保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部研究員、保存修復科学研究室研究員（併任））、柳田明進、松田和貴（以上、保存修復科学研究室研究員）	

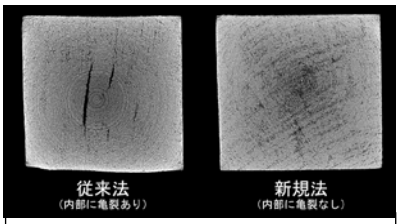
【年度実績と成果】

○鉄製遺物の新規脱塩法の開発のため、元年度はこれまでの基礎実験の成果を学術論文に公表するとともに、実際の鉄製遺物への実用化に向けて、脱塩の効果をX線CTによって評価する調査法の検討に着手した。

○鉄製遺物の発掘後の劣化特性を埋蔵環境から予測する保管・管理システムを構築することを目的として、埋蔵時の鉄製遺物の腐食と土中の水分状態の関係を検討するための室内実験に着手した。

○木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化させる新たな手法を検討するとともに、基礎的な実験を行い、その実現可能性を示した（画像参照）。

○飛鳥池工房遺跡出土品、山田寺跡出土木製品（重要文化財）のうち漆塗の施されたもの、及び将来指定候補となり得る平城宮京及び藤原宮京出土木簡の保存処理を良好に実施した。



木製遺物への薬剤含浸の効率化による寸法安定効果（X線CT画像）

○蛍光X線分析法など各種の分析手法を応用し、北海道穂香遺跡出土のガラス玉等について材質構造調査を実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。

①適時性：金属製遺物や木製遺物の保存技術について未解決の課題に取り組んだ。これまで良好な保存処理が困難であるとされてきた漆塗の施された木製品（山田寺跡出土遺物）をはじめ、飛鳥池工房遺跡及び指定に向けた平城宮京跡・藤原宮京跡出土木簡の保存処理を着実に進めた。②独創性：鉄製遺物の新たな保管・管理法として、発掘後の劣化特性を埋蔵環境から推定し、効率的な保管管理を実施するための研究に着手した。従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法の開発に着手した。③発展性：様々な分析法を複合的に活用することにより、多様な考古遺物の材質・構造調査に対応できた。④効率性：各種の材質構造を総合的に分析することで、効率よく遺物の診断調査を実施し、遺物の劣化原因を究明できた。新たなX線透過撮影システムの導入により、迅速な診断調査体制を構築することができた。⑤継続性：奈良文化財研究所に大量に保管されている平城宮及び飛鳥・藤原宮跡出土遺物を対象にすることで、多くの遺物の材質・構造調査のデータを継続的に収集することができた。また、過年度に構築された保管環境のモニタリング体制の下で基礎データの蓄積が進んだ結果、遺物の劣化抑制の具体策を提示することができた。総合評価：以上の様に、定性的並びに定量的な観点から、所期の目標を達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数：7件（アーイ）　・研究発表等数：17件 ・刊行物：1件	B

ア　柳田明進他「水蒸気移動による出土鉄製遺物の新規脱塩法の開発（その1）新規脱塩法の効果と最適条件の検討」『文化財科学』第80号、17-28頁、2年2月3日

イ　松田和貴他「水浸出土木製遺物の保存処理における溶媒蒸発を用いた薬剤含浸の効率化の可能性」『保存科学』第59号、2年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	鉄製遺物の新規脱塩法では基礎実験によりその効果を確認し、実用化に向けた新たな研究に着手した。従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法の開発に着手し、その実現性を示した。さらに、重要文化財級の遺物の保存処理を卓越した技術で実践したことから、所期の目標を達成していると認められ、 Bと評価する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2227F

中期計画の項目	2-(2)-②-7)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-7)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究種々の材料調査分析法環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、平城宮跡遺構展示館等をフィールドとして、遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等多孔質材料の劣化要因である塩析出及び乾湿繰り返しが材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。
プロジェクト名称	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】


石棺の表面含水率測定

・大分市元町石仏及び高瀬石仏の環境調査を継続して実施した。前者では石仏表面での塩析出状況についてモニタリングするとともに、塩移動に関するモデル化について共同研究を行った。後者では熱水分移動解析から地下水位が石仏表面からの水分蒸発量に及ぼす影響について検討した。
・高松市石船塚古墳、石船古墳、石船天満宮で保存されている同質石材石棺は現在異なる劣化状態にあることから、これらを対象に周辺環境と劣化状態の比較調査を継続して実施した。
・高槻市ハニワ工場公園において実施している環境調査の成果をまとめ、2年度9月にドイツで開催されるStone2020に論文投稿を行う予定である。
・土壌カラム実験を実施し、カラム内の含水率と酸化還元環境状態の鉛直分布と、金属片試料の腐食過程のモニタリングを実施した。得られた結果から、埋蔵環境とその環境下での金属製遺物の腐食過程を定量的に把握するとともに、それらのモデル化を試みた。
・下浦砂岩を対象として、石材の引張強度やヤング率、ポアソン比などの物性値を異なる含水状態下で実測し、水分飽和度に対するそれら物性値の関数化を試みた。得られた関数から、石材中での熱水分移動と石材内部で発生する応力、その際の石材強度を連成して解くことで、石材の乾湿繰り返し劣化のモデル化を試みた。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年、遺跡の公開・活用が重要視されており、適切な環境下で遺跡の安定した保存を担保しつつ、観覧等の公開・活用に資する技術の研究・開発を行った。②独創性については、既往の手法が材料の強化に主眼を置くものであったのに対して、本研究は遺跡における熱水分移動解析に基づいて将来生じ得る遺構の劣化を予測し、それを予め回避するために適切な環境の制御を行うことで遺構保存を実現することを目的としており、独創的な研究と言える。③発展性については、遺構を取り巻く環境は無二のものであるが、乾湿の繰り返しや塩類析出など、遺構で生じる劣化現象は熱、水分と溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。したがって、本研究から得られた知見は汎用性に富むもので、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が可能である。④効率性については、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。⑤継続性については、各調査フィールドにおいて調査の長期的な目標、及び各年の短期的な目標を明確に設定し、各地方公共団体の文化財担当者と目標と成果を共有しつつ、長期的な文化財保護行政の一環としての調査研究という位置づけを得て事業を継続している。

観点	① 適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数：8件（アーイ） ・研究発表等数：12件	B

ア　脇谷草一郎ほか「一軸圧縮下における凝灰岩のX線CTとDigital Volume Correlation」『日本建築学会大会(北陸)梗概』9月3日
イ　脇谷草一郎ほか「遺跡保存施設の環境設計」『考古学ジャーナル』2年2月29日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	調査研究フィールドの殆どが前中期計画から調査を継続して実施しているものであることから、十分量の実測データを蓄積するとともに、その成果として多くの研究発表を行うことができた。さらに、石材の乾湿繰り返し風化や塩析出による多孔質材料の劣化に関する室内実験に加え、埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する室内実験も継続して実施し、一定の成果をあげていることから上記の評価を妥当と考えた。今後はこれまでの熱、水分移動に加え、含水状態変化にともない変化する石材内部応力と引張強度の推定を可能とするモデル化、及び脱塩を目的とした塩移動のモデル化に着手し、その実用化を図る予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2228F

中期計画の項目	2-(2)-②-8)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-8)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 8)建造物の彩色に関する調査研究 建造物彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査並びに大極殿塗装彩色及び暴露試験用塗装彩色手板の色彩測定を行う。
プロジェクト名称	建造物の彩色に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員）、田村朋美（都城発掘調査部研究員）、柳成煜（保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）、金旻貞（保存修復科学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

・第一次大極殿において、周辺環境が建築塗装の劣化におよぼす影響を検討するため、環境調査を継続して実施した。

・彩色文化財の内部構造を非破壊で診断する方法として用いているテラヘルツ波イメージング技術について、元年度は測定の結果の解釈について一層の検討を行い、基礎データの蓄積を行った。特に、テラヘルツ波イメージングの全画像及び断面画像から得られる情報とともに、周波数信号（time domain spectrum）のパルス信号のピーク数の変化から修理前の診断技術として応用するだけではなく、修理修復後の評価手法としてもテラヘルツ波イメージングを応用できることを明らかとし、その結果を東アジア保存修復国際シンポジウムで研究発表を行った。


故宮文華殿での調査

・故宮博物院と東南大学（中国南京市）が進める故宮養心殿及び文華殿の整備事業に関して、建造物彩色の劣化状況調査及び、それらの劣化に対して周辺温熱環境、地盤の水分環境が及ぼす影響について現地調査を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、遺跡の公開・活用が重要視されるなか、遺構の展示のみならず復原建物を表示する例が散見される。本研究から得られる成果は、現存する古代の建造物の彩色保存のみならず、公開・活用のための復原建物の保存にも寄与するところ大と考えられる。②独創性については、既往の建築物塗装の劣化に関する調査では、製作当初の材料、技法及び現在に至るまでの外界気象条件について、情報があまりに不明確であったことから、塗装の劣化について精緻な検討が困難であった。しかし、本研究ではそれらの情報を得た上で、建築塗装の劣化に関する調査を実施できる点において独創性の高い研究と考える。③発展性については、遺跡の公開・活用が求められる現在、その手法として復原建物の建設は今後も一定の需要があるものと考えられ、本研究の成果はそれらの保存、維持において大きく寄与しうるものと考える。④効率性について、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数：2件（ア） ・研究発表等数：5件（イ）	—

ア　柳成煜「古代韓国三国時代の顔料について－古墳壁画の顔料を中心に－」『奈良文化財研究所　論叢』第1号、2年3月19日

イ　金旻貞「テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の界面調査（2）－知恩寺所蔵紙本金地著色天橋立図屏風の事例調査－」2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia. 8月29日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため、技法及び材料調査を実施するとともに､復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	主に平城宮跡大極殿を調査対象として気象条件の実測調査を継続して実施していること、及び塗装の劣化に大きく影響をおよぼすと考えられる塗装材料に関する基本的な物性値を蓄積していることから上記の評価が妥当と考える。今後も大極殿を中心に、継続して定期的な劣化状態調査を実施するとともに、室内実験を通して塗装の劣化に対して環境がおよぼす影響について検討し、現地において塗装の劣化を抑制する環境制御法について検討する。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2229E

中期計画の項目	2-(2)-②-9)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-9)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 近代文化遺産の特徴である煉瓦・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。31 年度は複数の材料から構成される建造物の内部造作を対象として、保存・修復の理念と手法を検証、評価する。
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○早川泰弘（副センター長兼近代文化遺産研究室長）、中山俊介（特任研究員）、石田真弥（アソシエイトフェロー）、鳥海秀実（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○建造物の内部造作の保存修復について
・建造物（洋館）の内部造作の保存修復に関する勉強会を１回実施し、現状の課題（造作としての意匠の保存、劣化対策処理など）を整理した。勉強会には、プロジェクトスタッフのほかに文化庁調査官、大学教授、修理現場の監理者等が参加した。
・保存修復の国内の事例 35 件を実査し、現場ヒアリング等を踏まえ現状と課題の分析を行った。
○近代文化遺産の所有者である地方自治体が組織する保存や修理に関する調査・検討等の委員として、近代文化遺産の保存活用に関する調査・助言を行った。
○産業考古学会 2019 全国大会（中間市大会）において「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」と題した、煉瓦造建造物の修理に関する提言を行った。
○30 年度の研究成果をまとめた報告書『コンクリート造構造物の保存と修復』、『国際シンポジウム「台湾における近代文化遺産活用の最前線」』を刊行した。


再現した天井飾りとシャンデリアの調査

年度計画評価	B

【評定理由】

以下の各観点から評価を行い、事業が円滑かつ適切に実施されていると判断した。①適時性においては、国指定等の洋館建造物の修理の中で、一見地味ではあるが来館者の多くが目にする内部造作に関して保存修復の理念を調査・検証及び研究することは、適時性が高い。②独創性においては、これまで、各地で実施されてきた内部造作の保存修理がまとめた事例はなく国内の事例分析を踏まえて、内部造作の保存と修理に関する課題を整理し、産官学の専門家と共に取り組む共同研究は独創性が高い。③発展性においては、行政や現場の実務担当者との議論を踏まえた研究であり、修理実務への応用が期待でき、発展性は極めて高い。④効率性においては、勉強会を行うことで具体的テーマを早い段階で絞り込み、そこでの意見を踏まえて現地調査物件を厳選しており、効率的である。⑤継続性においては、27 年度から 30 年度に続く国指定建造物に関する調査を継続発展させた研究であり継続的に計画を進めている点を高く評価した。よって、順調かつ効率的に事業が進行していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・学会・研究発表２件（ア、イ） ・刊行物２件（ウ、エ）	定量評価 ―

ア　「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」（石田真弥、中山俊介、産業考古学会 2019 年度全国大会（中間市大会）、11 月 9 日）
イ　「近代文化遺産としての森林軌道（第１回）および（第２回）」、（石田真弥、林野庁屋久島森林生態系保全センター、（第１回）6 月 5 日、（第２回）7 月 5 日）
ウ　『コンクリート造構造物の保存と修復』（2 年 2 月 20 日、東京文化財研究所）
エ　『国際シンポジウム「台湾における近代文化遺産活用の最前線」』（2 年 3 月 30 日、東京文化財研究所）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類、合成樹脂等の複合的な材料が使われている美術工芸品など、近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し、保存管理計画等の策定に寄与する。
評定理由及び今後の見通し	28 年度から元年度にかけて、煉瓦、鉄、コンクリートという近代的な構造材及び合板、布、ガラスなど複数の近代的な材料から構成される内部造作を対象として、保存・修復の考え方と手法をまとめてきた。これらの調査を踏まえ、最終年度の 2 年度には全体のフォローアップ調査ととりまとめを行う。当初の計画通りに進捗しており、所期の目的を十分達成している。

【書式Ｃ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2230E７

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-ア	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐野千絵（センター長）、早川泰弘（副センター長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、犬塚将英（分析化学研究室長）、朽津信明（修復計画研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○高松塚古墳壁画に関しては、元年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また見学通路のガラス窓内部での結露リスクを検討するため、一般公開時前後の周辺の温度湿度及びガラス窓・壁の表面温度の監視を開始した。
修復作業に関連する調査研究としては、粗鬆化した漆喰部分への補填方法の検討を行い、材料を検討した上、実作業を行った。加えて、今後の保存修復方法についての現場協議を重ねた。


修復作業風景

○キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保管及び公開の環境について調査協力し、年間４回の集中メンテナンスに立会い、状況の改善を検討した。さらに、今までの修理記録についてデータベースの作成を行った。また、現状は泥に覆われているが、「辰」「巳」「申」に該当すると推定される漆喰片について、昨年度のＸ線透過撮影結果を踏まえ、詳細な撮影検討を行った。 また、修復作業の報告書作成の準備として各資料の確認とデータ整理を開始した。さらに、キトラ古墳壁画の調査に関連して、法隆寺金堂壁画の分光調査を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、解体後 10 年間を経た高松塚古墳壁画の今後の保存方法に関する検討、キトラ古墳壁画の保管環境への協力からＢと判定した。②独創性においては、日本では他に行われていない古墳漆喰壁画の修復方法を検討し、得られた成果を修復現場に還元したためＡと判定した。③発展性においては、キトラ古墳壁画の泥に覆われた漆喰の下の画像調査は発展性の高いものであるためＡとした。④効率性においては、限られた人員数の中で複数のテーマを遂行しており、Ｂと判定した。⑤継続性においては、今後の活用に向けて現場での検討を解体以降の 10 年間適宜行ってきており、今後の継続性もあることからＢとした。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・報告書１件（ア）　・論文１件（イ） ・学会発表１件（ウ）	定量評価 ―

ア　『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書 2　特別史跡高松塚古墳生物調査報告―高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査―』、598p、同成社、９月 30 日
イ　犬塚将英、早川典子、大場詩野子、早川泰弘、高妻洋成「X 線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査」保存科学 59,103-114　２年３月
ウ　「高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素」（佐藤嘉則、川野邊渉、早川典子他）文化財保存修復学会第 41 回大会６月 23 日

中期計画評価	B

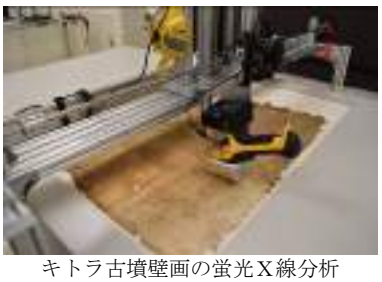
中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿った成果が得られている。元年度は高松塚古墳、キトラ古墳双方に進捗があり、さらにこの先の展開について具体的検討が行われたため、本プロジェクトが順調に推移していると評価できる。これらの成果は２年度以降、両古墳壁画のみならず文化財分野全体における保存修復について寄与することが可能であると考えられる。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230Fｱ

中期計画の項目	2-（2）－②－１０）	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	２－（２）－②－１０）－ア	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、玉田芳英（都城発掘調査部長）、内田和伸（文化遺産部遺跡研究室長）	

【年度実績と成果】

古墳壁画保存対策 PT（発掘班・保存整備班・修復班・材料調査班・生物環境班）：
東文研と当研究所で構成


キトラ古墳壁画の蛍光Ｘ線分析

・石材の修理に関する事項として、石材の劣化状態について現状を把握するとともに、石材の安定化を補完するための方策を検討した。また、石室石材の物理的性質に関する調査研究を行った。
・発掘調査に関する事項として、石室解体事業に係るデータ整理・分析、記録作成を行った。石室目地漆喰等の思慮の安定台を作製した。キトラ古墳出土漆塗木棺の保存のための調査を行った。
・壁画の現状を把握するため、種々の分析調査を実施した。蛍光Ｘ線分析結果のデータ集を刊行した。壁画を安全に測定することのできるＸ線回折装置の開発を進め、完成させた。
・キトラ古墳壁画保存管理施設において、壁画の保存及び活用に関する取組として、環境調査、体験イベント、一般公開、非公開時の展示企画等を行った。
・類似古墳調査の一環として、視察調査を行った。
・古墳壁画の保存活用に関する検討会に職員を派遣した。
・高松塚古墳壁画の一般公開に職員を派遣し、壁画に関する解説を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】下記各観点から評価を行った。①適時性においては、古墳の環境等の調査研究を実施し、喫緊の課題となっている熊本地震で被災した装飾古墳等の復旧に資するデータを提示した。②独創性においては、壁画を安全に分析することのできるＸ線回折装置を完成させた。③発展性においては、石室石材を搬送するための進度に関する基礎データを集積することができた。④効率性においては、古墳壁画保存愛作 PT において役割分担を行い、各班で計画的に事業を遂行することができた。⑤継続性においては、高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び管理・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に今後も対応していくことにしている。以上のように、所期の目標を十分に達成していると認められ、Ａと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）・派遣人員：のべ 27 人　・論文等数：３件（ア）・研究発表等数：９件（イ）	定量評価 －

ア　高妻洋成「壁画の保存科学と活用」，考古学ジャーナル，２年２月 29 日
イ　高妻洋成他「モンゴルのショロン・ボンバガル古墳の環境調査、モニタリングについて」日本文化財科学会第 36 回大会　６月１日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由及び今後の見通し	30 年度に引き続き、元年度はキトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効率よく実施した。２年度以降も両古墳の調査及び保存・活用に資する事業を推進するとともに、類似する古墳等の調査にも臨機応変に対応していきたい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230Fイ

中期計画の項目	(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-イ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な石室内の熱水分環境について調査研究を行う。
プロジェクト名称	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・宮崎市蓮ヶ池横穴群では横穴の保存を担保しつつ内部を公開する手法を検討するため、元年度も横穴内部の温熱環境調査と石材劣化状態調査を継続して実施した（12号、16号、17号及び53号横穴）。そこで、元年度は冬季に横穴を閉塞して内部の乾燥を抑制するとともに、そのほかの季節には開口することで内部を公開しつつ、石材表面の乾燥を抑制し得るか実測調査を実施した。調査の結果、上記運用方法によって横穴石材表面は通年湿潤状態が維持されることが示唆され、冬季以外の季節において横穴の公開を可能とする成果が得られた。


保護施設内部のガランドヤ２号墳

・模擬古墳において、腐食センサによる腐食モニタリング、炭素鋼、青銅試料を用いた暴露試験を実施した。元年度は、蓄積されつつある調査結果に基づき、古墳の石室内環境が青銅製遺物に及ぼす影響について検討した。青銅製遺物の腐食に対しては石室内の埋蔵環境に加えて金属組織の影響が大きく、スズ含有量が高い二相からなる青銅では脱合金腐食が生じてスズ化合物からなる緻密な被膜が生じることで、腐食が抑制されることが認められた。

・日田市ガランドヤ古墳１、２号墳、および墳丘の被覆状況が異なる法恩寺山３号墳と穴観音古墳の計４基の装飾古墳において環境調査を継続して実施した。元年度は、墳丘が一部残存する２号墳の仮設保護施設が設置されたことから、その中でどのように装飾を保存すべきか保護施設内部の温熱環境調査から検討した。これまで２号墳については湿潤状態の維持を環境の目標として検討してきたが、調査の結果、１号墳同様に石室全体を乾燥させることの可能性も示唆されたことから、２年度も継続して調査および保存環境の検討を実施する予定である。

・熊本地震で被災した永安寺東、西古墳や井寺古墳において石室内部の温熱環境データの解析をおこなった。また被災した墳丘封土の緊急措置として透水性シートが張られた釜尾古墳において、墳丘封土の含水状態調査を実施し、施工後時間の経過とともにシートの透水性状が向上し、封土の含水状態が上昇していることが示唆された。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国内に多数の壁画を有する古墳が存在する中で、安定した保存、公開方法を確立するため、壁画の現地での保存の可否の判断を行う根拠となる情報の蓄積を行った。②独創性においては、装飾古墳における環境の実測調査および模擬古墳での劣化試験に基づき、古墳石室内での壁画の劣化モデルを構築し、解析的な手法による評価技術の開発を行った。③発展性においては、古墳の立地や構造は様々ではあるものの、汎用性の高い土中空間での熱水分環境のシミュレーションモデルを国内の多くの壁画古墳に広く適応し、科学的な根拠に基づく壁画古墳の保存法が提示されると期待される。④効率性においては、実験条件を同一に整えることができる模擬古墳において、様々な環境計測機器を設置したことで、自由度が高く、継続的かつ効率的に環境および遺物の劣化状態に関するデータを収集することができた。⑤継続性においては、装飾古墳、模擬古墳における調査ともに、定期的に現地における調査を実施し、継続して研究事業を遂行している。以上のように、所期の目標を十分に達成していると認められ、Ａと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数：２件（ア） ・研究発表等数：７件（イ）	—

ア脇谷草一郎ほか「Environmental design of protection facility of decorated ancient tombs for condensation control」『proceedings of 2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List』 12月3日
イ中田愛乃「文化財の調査・保存・活用に関する取り組み」東京都市大学キャリアデザイン　11月23日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由及び今後の見通し	事業の４年目となる元年度は、これまで整備事業に参画してきた装飾古墳や、模擬古墳での温熱環境及び遺物劣化についての実測調査によるデータについて一層の蓄積を実施するとともに、熊本地震で被災した古墳などの事例について、被災後の暫定保存処置を実施した状況下での環境モニタリングデータ取得なども実施したことから、上記の評価が妥当と考えられる。2年度以降は石室内部のみならず、被災した古墳の墳丘封土の安定性に関する研究にも着手する予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2311E-ア

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 ア　世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○西和彦（国際情報研究室長）、境野飛鳥（アソシエイトフェロー）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）、石村智（無形文化遺産部音声映像記録研究室長）	

【年度実績と成果】

○文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報については後述の世界遺産研究協議会を開催して関係自治体等関係者に対して情報の周知を図るとともに、その報告書、講演等を通じて成果の公表を行った。

・6 月 30 日～7 月 11 日　第 43 回世界遺産委員会（バクー）
・10 月 28 日～11 月 3 日　第 31 回国際文化財保存修復研究センター総会及び第 92 回、93 回理事会（ローマ）等

○中国の主要な文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その背景に関する説明と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［24］中国』として刊行した。

○上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して情報・知見の周知を図る（9 月 20 日）とともに、報告書を刊行した。併せて、より高い効果を上げるべく、他の研究会等の機会も利用し、情報の周知を図った。


第 43 回世界遺産委員会
(アゼルバイジャン・バクー)

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、近年特に注目を集め、かつ自治体等での対応が早急に求められている世界遺産に関する遺産影響評価など、文化遺産保護の最新の国際動向を把握し、ウェブサイトでの活動報告や報告書等で得られた知見と分析内容を公開するとともに、関連組織や自治体等関係者に詳細かつ時宜に適う提供ができた。②独創性においては、スタッフの専門知識と独自のネットワークを活用して独自の情報を収集し、継続的なトレンドに関する知見を基にした分析と発信を行った。③発展性においては、文化財保護法令シリーズにおいて法令の正確な翻訳のみならず、その背景に関する説明を付し、また世界遺産研究協議会においては参加者に有用な情報を多面的に提供するなど国際情報の発信に大きな発展を得た。④効率性においては、スタッフが関わる他の関連業務で得られた周辺情報も統合するなど、国内外のネットワークを通じ最小限の規模で着実に事業を進めることができた。⑤継続性においては、世界遺産委員会等の国際会議に継続的に参加することにより、単に最新の情報のみならず、長期的トレンドを踏まえた分析に基づいて有用な情報を提供した。また、文化財保護法令シリーズについては我が国においても興味を持たれることが多い中国を取り上げ、24 冊目を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。以上により、初期の計画を上回る成果を上げたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・	（参考値）国際会議出席２回、会議開催１回、刊行物発行２冊（ア、イ）	－

ア　『各国の文化財保護法令シリーズ［24］中国』(2 年 3 月 31 日)
イ　『世界遺産研究協議会　遺産影響評価とは何か』(2 年 3 月 31 日)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	海外､特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集､諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに､文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画期間中に、継続的に文化遺産保護に関する国際情報の収集・分析を行い、着実に情報発信と成果公表を行い、国内外の研究ネットワーク強化に努める。元年度は最新かつ国内での要望が高い情報を積極的に収集したほか､その分析と併せて成果の周知を図るための会議を開催するなど、計画通りの成果を上げることができた｡よって順調かつ効率的に計画が実施できていると判断した。2 年度は、同様の事業を継続しつつ、これまでの成果のより効果的な普及等を考慮して事業を推進する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fア

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 ア　世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。
プロジェクト名称	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、影山悦子（同アソシエイトフェロー）、杉山洋（同特任研究員）、ヤナセ・ペーテル（企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

・9 月 2 日～4 日、第 25 回 ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 に研究員 4 名を派遣した。
・9 月 5 日、ICOM－CC（保存国際委員会）のオフサイトミーティングを奈良文化財研究所で開催した。
・6 月 19 日、黄銀順氏（国立慶州博物館）が来所し、平城宮跡の視察及び情報交換を行った。
・7 月 10 日、Fadjar I Thufail 氏ら 3 名のインドネシアの専門家が来所し、立命館大学情報理工学部と共同でインドネシア文化遺産記録・可視化プロジェクトに関する国際セミナーを奈良文化財研究所で開催した。
・7 月 24 日、文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向：世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産」に研究員を 1 名派遣した。



ICOM-CC　オフサイトミーティングの様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、世界最大の博物館関連組織である ICOM の日本開催に対応して事業を展開できた。②独創性においては、文化財レスキュー事業や出土遺物の調査研究など奈文研独自のコンテンツを海外の専門家に伝えることができた。③発展性においては、特に ICOM-CC は、多くの専門家が奈文研の活動に関心を持つきっかけとなった。④効率性においては、英語が堪能な職員を複数配置し、効率的な行事運営を行った。⑤継続性においては、各方面との連絡は継続している。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） ICOM-CC オフサイトミーティング参加者：46 人	—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由及び今後の見通し	今年度も、様々な国の機関や専門家と連絡を取り合いながら、順調に事業を進めることができた。来年度以降も、これまでの蓄積を生かし、文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進を進めていきたい。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fイ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
プロジェクト名称	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）	
企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○玉田芳英（都城発掘調査部長）、庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、影山悦子（同アソシエイトフェロー）、石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）	

【年度実績と成果】

・4月2日、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー所長が来所し、共同研究に関する今後の予定などについて、協議を行った。
・4月9日、イギリス・ヨーク大学考古学科のオリヴァー・クレイグ教授及びケンブリッジ大学のハリエット・ハント研究員、アメリカ・クイーンズカレッジのカリン・タシェ准教授が来所し、情報交換を行った。
・6月25日、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー所長及びスーザン・ウィットフィールド客員教授、ウプサラ大学のニール・プライス教授、ユニヴァーシティーカレッジロンドンのクリス・スカル教授が来所し、国際セミナー「シルクロードの両極における信仰の伝来」を開催した。また、6月26日、同メンバーとともに飛鳥・藤原地域の発掘調査現場や遺跡・博物館を視察し、意見交換を行った。
・7月15日、イギリス・ケンブリッジ大学考古学科のエンリコ・クレーマ講師が来所し、情報交換を行った。
・2年1月～3月、日本学術振興会の助成により、イギリス・ヨーク大学考古学科のオリヴァー・クレイグ教授を外国人研究員として招へいし、情報交換や共同研究を行った。


現地視察の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、東京五輪により国際的な注目が集まりイギリスにおいても日本への関心が高まっている中で、精力的な交流を行うことができた。②独創性においては、洋の東西で信仰の伝来を比較するという独創的なテーマに取り組んだ。③発展性においては、複数の専門家を同一の場所に集めて議論することにより、今後特別展などへと発展していく予定である。④効率性においては、上記計画について効率よく建設的な準備を行うことができた。⑤継続性においては、このプロジェクトは2年度以降も継続予定である。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 国際セミナー「シルクロードの両極における信仰の伝来」6月25日、奈良文化財研究所	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画にそって順調に進行している。今後は、3年に予定されているイースト・アングリア大学ビジュアルアートセンターにおける特別展「信仰の伝来」に向けて、基礎資料の調査や意見交換を進めていく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312E-ｱｲ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2) 文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。 (イ)西アジア・中央アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にイラン・アルメニア等において文化遺産保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	
文化遺産国際協力センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 友田正彦（文化遺産国際協力センター長）、○金井健（保存計画研究室長）、安倍雅史（研究員）、間舎裕生、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー）、マルティネス アレハンドロ（前アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○カンボジアのアンコール・タネイ遺跡の保存整備に関してアンコール地域保存管理機構（APSARA）との協力事業を継続した。5月から同遺跡東門の修復工事の実施に向けた散乱石材の収集と整理を進めるとともに、6月の国際調整委員会（ICC）で工事計画に関する報告を行った。8月から上部構造の解体に着手し、11月に予定範囲の解体を完了、12月の ICC において修復工事の進捗等に関する報告を行った。2年3月に基壇外装の解体を行うとともに組立に向けた課題等の検討を進めた。このほか修復工事の関連調査として、東門及び東門西方の十字テラス周囲の発掘調査を行った。また東京大学生産技術研究所の協力を得て構造物の三次元計測や基壇の土質試験を行った。

○10月、アルメニアに外部専門家を含む4人を派遣し、エチミアジン大聖堂博物館及び歴史文化遺産科学研究センターにおいて染織文化遺産に関する保存修復研修を行った。

○11月、イランから専門家4人を招聘し、博物館の環境管理及び文化財の生物被害防止に関する研修を行った。国立民族学博物館及び京都国立博物館の協力を得て日本の博物館における具体的な総合的有害生物管理（IPM）や防災対策等の現地見学を行った。

○2年3月1日の開催予定で、タイとラオスから専門家3人を招聘し、東南アジアの木造建造物保存修理に関する研究会を開催する準備を進めた（コロナウィルス感染拡大防止の観点から延期）。

年度計画評価	A

【評定理由】

カンボジアの協力事業は、同国機関との綿密な連携のもとで実施する点に高い①適時性及び⑤継続性を有し、中でも目下進行中のタネイ東門修復工事は同国側主体の遺跡保護事業におけるロールモデルの構築を意図しており②独創性が非常に高く、予定より前倒しで進行した解体作業に伴って年度当初の目標を上まわる成果があげられた。またカンボジアの協力事業は、MOUに基づいて奈良文化財研究所と分担実施する点で④効率性があり、今後の③発展性が期待できる。アルメニア及びイランを対象国とした研修は、いずれも先方要請に応えて実施している点に①適時性があり、かつ過年度からの⑤継続性がある。また、先方要望に合わせ研修内容を調整している点に④効率性が認められる。以上により、初期の計画を上回る成果を上げたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・	・(実績値) 専門家派遣9回（延べ27人）、専門家招聘1回（延べ4人）、学会報告2件、学会発表2件、研究会等発表2回、報告書作成4冊（ア～エ）	－

ア　報告書『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ 2017-2019』、12月
イ　報告書『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和元年度成果報告書』、2年3月
ウ　報告書『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2019 -』、2年3月
エ　報告書『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』、2年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	元年度は、相手国協力機関と共同でアンコール・タネイ寺院跡の保存整備の実施に向けた調査研究を推進するとともに、同遺跡東門の修復工事に着手し、実践的な文化遺産の保護の推進に貢献することができた。また、アルメニアとイランを対象とした各研修では、対象国の要望を踏まえた即応性のある講義及び実習を実施し、研修参加者のみならず協力機関等関係者から高い評価を受けた。この成果を2年度の調査研究及び研修に継続し、さらなる発展を目指す。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312E-ウ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ウ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 （ウ）上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	保存修復技術の国際的応用に関する研究	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（技術支援研究室長）、前川佳文（研究員）、牛窪彩絢（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○トルコ・カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施。
期間：6 月 8 日～18 日　　場所：タガール教会、カッパドキア大学

○ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院（No.1205）の外壁調査と保存修復方法の検討及び施工実験／ミャンマー・バガン遺跡における壁画の技法及び人文学的調査
期間：7 月 10 日～30 日、2 年 1 月 15 日～31 日　場所：バガン遺跡群　1205 寺院

○ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画保存に向けた煉瓦造建造物外壁の調査準備と保存修復方法の検討に関する研究協力者との打合せ及び事例調査を下記の日程で行った。
期間：10 月 9 日～27 日　場所：文化協会バスティオーニ、ラクイラ、ポンペイ

○旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究の実施。
期間：4 月 17 日～18 日、11 月 14 日～22 日　　場所：旧和宇慶家墓（沖縄県石垣市）ほか

若手専門家の育成

年度計画評価	B

【評定理由】

次の各観点から評価を行った。
①適時性及び⑤継続性　30 年に引き続き現地の要望に応える形で事業を実施した結果、当事国からは保存修復方法改善に向けた協力関係の継続要請は続いており、妥当な適時性と継続性を維持できていると判断した。
②独創性　当研究所の卓越した国際的ネットワークを生かし、当事国が抱える問題点の解決に向けてひとつひとつ丁寧に取り組む事業の進め方は他組織にはあまり見られず、独創性があると判断できる。
③発展性　当事国より本事業の目標設定及び進行管理の方法に関心が寄せられており、事業が順調に推移しているといえる。
④効率性　現地専門家との良好な関係性が築けており、限られた時間の中で堅調な成果が得られている。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・	・（参考値）専門家派遣（6 回）、学会発表等 1 件（ア）、報告書作成 3 冊（イ～エ）	―

ア　学会発表「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究-パガン王朝と復興期における壁画の比較研究-」文化財保存修復学会第 41 回大会、帝京大学八王子キャンパス（東京都）、6 月 22 日
イ　報告書『Capacity Development Project Improvement for the Conservation and Management Systems of Wall Paintings in the Republic of Turkey』2 年 3 月
ウ　報告書『Capacity Building Report -Mission N°5-; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan』2 年 3 月
エ　報告書『旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究　令和元年度報告書』2 年 3 月

中期計画評価	B
中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	元年度は、文化遺産の保存修復及び管理活用に関する調査研究に加えて、現地の若手専門家を積極的に受け入れた人材育成事業を展開することができた。また、調査研究の成果を具体的に対象となる文化財の保存修復に反映させ示すことができた結果、当事国関係者より高い評価を得ることができた。2 年度も継続して良好な関係を維持しながら、文化財保存分野に貢献できるよう活動を展開していく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fア

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ア)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	文化財保護に関する国際協力の推進	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、影山悦子（同アソシエイトフェロー）、杉山　洋（同特任研究員）	

【年度実績と成果】

元年度は 30 年度から開始した中央祠堂基壇部の解体と再構築を継続して行った。東南部から開始した解体再構築は元年度前半に西北部中成基壇の再構築を終了し（写真右）、11 月段階で東北部まで到達し（写真中）、12 月に前面仏像基壇を積み直して式典の準備に入った。12 月 2 日には当該プロジェクトの 25 周年記念式典を、多田野宏一(株)タダノ代表取締役社長や奈文研名誉顧問左野勝司様、在プノンペン日本国特命全権大使三上正裕様、APSARA 機構副総裁キム・ソティン様などのご臨席を得て挙行した（写真左）。カンボジア側からは、25 年間にわたる継続的で良好な関係に感謝の意を評された。

年 2 回開催される国際調整委員会では事業の概要を発表するとともに、12 月には諮問委員会であるユネスコアドホック専門家委員の現地視察を得て、順調な修復進捗と調査成果に高評価を得た。元年度末には若手研究者の招へい事業も予定している。


記念式典（12 月 2 日）


式典直前の再構築状況


西北部の再構築状況

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、アジアの文化遺産に関する国際協力が必要とされる昨今、適時的に対応できている。②独創性においては、アンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復として注目されている。③発展性においては、今回の調査修復によって、アンコール王朝末期の歴史観に一石を投じる結果となり、調査研究のさらなる発展が見込まれる。④効率性においては、作業員などの機材人員を適切に配することによって効率的な調査修復を行っている。⑤継続性においては、2 年度には修復事業最終段階の周辺整備を行う予定で、全体の継続性が保たれている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 国際技術調整委員会 6 月 11 日～12 日で発表、国際調整委員会 12 月 10 日～11 日　で発表 大林潤「西トップ遺跡中央祠堂の建築調査　―2018 年度の成果―」『奈良文化財研究所紀要 2019』 佐藤由似、杉山洋「西トップ遺跡中央祠堂の解体調査と修復　―2018 年度の成果―」『奈良文化財研究所紀要 2019』	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	事業は全体的に順調に推移し、12 月には 25 周年記念式典を行うまでに至った。2 年度に周辺整備を行う予定で、当初計画通りとなっている。 12 月のユネスコアドホック専門家委員の現地視察においても、調査成果の発展性に言及があるなど、国際的にも認められていると言え、中期計画の充分な達成に対して順調に推移している。

【書式Ｃ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2312Fイ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｲ)、(ｳ) 2-(3)-①-3)-ｱ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (イ)西アジア・中央アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にイラン・アルメニア等において文化遺産保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、影山悦子（同アソシエイトフェロー）、山藤正敏（都城発掘調査部研究員）	

【年度実績と成果】

・5 月 15 日、中央アジア史を専門とする F. Grenet 教授（Collège de France）が奈文研訪問、情報交換を行った。
・5 月 18 日、第 64 回国際東方学者会議・Symposium Ⅲ「ソグド人研究の新展開」で口頭発表を行った。
・6 月 9 日～15 日、ウズベキスタンのサマルカンド考古学研究所でファヤズテパ遺跡出土壁画の保存修復作業に協力。
・9 月 1 日、大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト・シンポジウム「ファラオの至宝をまもる 2019」参加。
・10 月 29 日、国際セミナー「中央アジア西部の仏教遺跡と出土壁画について：ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画を中心に」を奈文研で開催し、35 人の参加を得た。
・2 年 1 月 27 日、海外の専門家 3 人を招へいし、中央アジアの文化遺産関連セミナーを開催予定。
・2 年 2 月 9 日～15 日、ウズベキスタンのサマルカンド考古学研究所でファヤズテパ遺跡出土壁画の保存修復作業に協力（元年度末で作業完了）。



国際セミナー「中央アジア西部の仏教遺跡と出土壁画について」開催

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、現在、紛争による破壊が問題となっている西アジア地域の文化遺産の状況について情報収集を行った。②独創性においては、日本でとくに関心の高いシルクロード地域の仏教壁画の保存修復作業に協力した。③発展性においては、関係するセミナーを積極的に開催し、情報発信を行うことができた。④効率性においては、カザフスタンとの協力事業（受託）と連携をはかることで、効率よく事業を進めることができた。⑤継続性においては、今後も、西アジア・中央アジア諸国を対象とした協力事業、関連する情報の収集及び発信を継続していく。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 国際セミナー「中央アジア西部の仏教遺跡と出土壁画について：ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画を中心に」開催、参加者 35 人	定量評価 ―

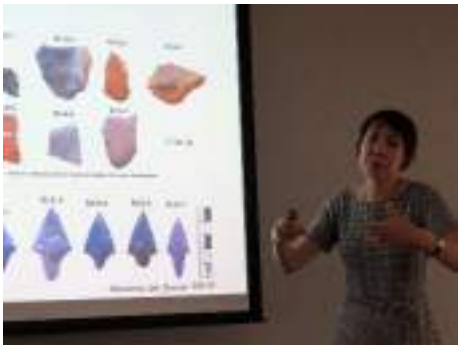
中期計画評価	B
中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	予定通り事業を進めることができた。28 年度から開始したウズベキスタンでの壁画の修復事業への協力は、今年度で完了した。今後は、受託事業として実施しているカザフスタンとの協力事業と連携をはかり、より効率的に西アジア・中央アジア諸国における文化遺産保護に資する調査研究を進めていく予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fウ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ウ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ウ)上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、影山悦子（同アソシエイトフェロー）、杉山洋（同特任研究員）	

【年度実績と成果】

・12 月、30 年度まで実施していた文化庁拠点交流事業による「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」の報告書を刊行した。
・4 月 5 日、台湾の中央研究院歴史語言研究所李匡悌研究員が来所し、今後の共同研究の協議や情報交換を行った。
・4 月 6 日、中国の社会科学院考古研究所趙志軍教授が来所し、共同研究の協議や情報交換を行った。
・5 月 14 日、Surat Lertlum 氏（タイ CRMA リサーチセンター）が奈文研を訪問し、情報交換を行った。
・6 月 24 日、サンパウロ大学メルセデス・オクムラ講師による講演会を奈良文化財研究所で開催した。
・11 月 5 日、ノボシビルスク考古学・民族学研究所から 4 人が奈文研を訪問し、情報交換や視察を行った。
・11 月 26 日、杭州市都市計画設計研究院から 20 人が奈文研を訪問し、事業説明や視察を行った。


オクムラ氏による講演の様子

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性においては、近年、文化遺産の保存修復及び管理活用に関しては海外の事例を参照する必要性が高まっており、本事業はそれに対応するものと言える。②独創性においては、ナショナルセンターとしての奈良文化財研究所の独自性を生かし、様々な国家の専門家との交流を続けている。③発展性においては、情報交換から様々な共同研究の提案がなされている。④効率性においては、講演会・セミナーを定例化し、効率的に運営している。⑤継続性においては、さまざまな媒体を通じて各国の専門家との交流を継続している。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 奈良文化財研究所 2019『ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業報告書』	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。
評定理由及び今後の見通し	数多くの海外の研究者との情報交換を持続的に行っており、順調である。また、講演会やセミナーの開催により、入手した情報の普及にも努めている。今後も元年度同様、様々な機会を活用して、多様な国と地域における文化遺産の保護をとりまく国際的な情報の収集・研究・発信を継続していく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2313E-1

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。また、国際研修「紙の保存と修復」の共催等、政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）に協力する。
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（技術支援研究室長）、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、小田桃子（アソシエイトフェロー）、片渕奈美香（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○作品修復を以下の通り実施した。
- インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　煙寺晩鐘図・平沙落雁図　紙本墨画　掛軸2幅　修復完了
- インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　太公望図・林和靖図　紙本墨画　掛軸2幅　修復完了
- インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　八橋図・檜図　紙本金地着色　6曲1双　修復完了
- ナショナルギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　親鸞聖人絵伝　絹本着色　掛軸4幅　修復中


修復作業

○所蔵館現地における作品調査を以下の通り実施した。
モントリオール美術館（カナダ・モントリオール）

○国際集会「日本絵画の保存と修復」を開催した。
- 上記集会のうち本事業で担当した内容及び開催日：（講演会）7月29日、（修復展）：7月29日～8月25日
- 場所：日本美術技術博物館 Manggha（ポーランド・クラクフ）
- 主催：東京文化財研究所、日本美術技術博物館 Manggha、文化庁

年度計画評価	B

【評定理由】　下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年日本の修復技術・材料に対する海外からの注目が集まっている。また引き続き、本事業への参加及び日本古美術品の保存修復に対する問い合わせがあり、その需要は高い。これらの需要に即応し、元年度は4件の作品修復を実施できたことから適時性が高いと判断した。②独創性においては、日本美術品についての専門的な修復技術・知識を用いる本事業は、当研究所特有の知見を活かした事業であり、他では行われていない高い利点を有する。③発展性においては、修復することにより海外において日本の文化財の活用が進んだ。更に成果を日本語及び英語などで国内外へ発信することで技術の応用も期待できる。④効率性においては、最小限の員数及び限られた時間の中で、修復、発表講演、展示及び海外での作品調査を行うことができた。⑤継続性においては、作品修復、また修復処置に対する助言等、海外の博物館美術館からの要望が高く、これまでの実績と合わせ、高い継続性を有する。以上のことから、年度計画に従って順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・	・(参考値) 修復作品4件（10点）、報告書1件（ア）、作品調査1件、学会発表1件（イ）、国際集会講演会参加者47人	—

ア　平成27年度在外日本古美術品保存修復協力事業　般若図　No.2015-5　修復報告』、2年1月31日

イ　小田桃子ほか「ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵　佐々木泉玄筆『般若図』（絹本着色 掛軸装）修復事例報告」、文化財保存修復学会第41回大会、帝京大学八王子キャンパス（東京都）、6月22日

中期計画評価	B
中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由及び今後の見通し	預かっている作品に関して修復を行った。完了したものに関しては報告書を随時作成刊行し、また講演会及び展示で、情報発信、技術移転に努めた。現在、次期修復作品の輸入のための調整を行っている。以上のことから中期計画の4年目として順調に事業を遂行したと判断し、Bとした。2年度は、引き続き修復を継続し、完了作品の報告書を刊行するとともに、次期中期計画に向けて、情報収集と調査を行う。

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ｱ･ｲ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。また、国際研修「紙の保存と修復」の共催等、政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）に協力する。 イ　ユネスコ･アジア文化センター（ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	国際研修	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○加藤雅人(技術支援研究室長)、後藤里架（アソシエイトフェロー)、五木田まきは（アソシエイトフェロー)	

【年度実績と成果】

○日本国内研修―国際研修「紙の保存と修復」の開催
- 日時及び場所：9 月 9 日～27 日、東京文化財研究所ほか
- 主催：東京文化財研究所、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM)
- 参加者所属国：アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、ウクライナ、エストニア、オーストラリア、カタール、カナダ、中国
- 講義、実習等：材料学（紙、伝統的接着剤)、装潢修理技術実習（巻子修復)、手漉き和紙工房見学、取り扱い（実習）等


日本国内研修（装潢修理技術実習）

○メキシコ研修―「International Course on Paper Conservation in Latin America」の開催
- 日時及び場所： 10 月 30 日～11 月 13 日、メキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関（CNCPC)
- 主催：CNCPC、東京文化財研究所、ICCROM
- 参加者所属国：アルゼンチン、コロンビア、スペイン、チリ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、メキシコ
- 講義、実習等：材料学（紙、接着剤)、装潢修理技術の基礎（実習、講義)、装潢修理技術の欧米紙文化財への応用（講義、実習）等。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、海外の美術館・博物館、修復関係者からの要望が常に高く例年開催しているが、随時、研修方法及び内容の変更を行ってきており、適時性がある。そのことは、参加者の満足度が 100%であることからもうかがえる。②独創性については、伝統技術、材料科学、歴史学などの様々な専門家による講義及び実習を備え、かつ紙漉現場などの実地学習をも備えた、技術研修は他にはない。これらの内容は当研究所の基礎研究及び調査に基づく独自のものであり、高い独創性を有すると評価できる。③発展性においては、日本の紙文化財だけでなく海外の文化財の修復にも応用が可能である。帰国後のフォローも行っている。さらに参加者が帰国後に報告会、シンポジウム、ワークショップなどで報告することで知見・経験が共有されている。④効率性においては、プログラム編成や旅程を工夫することで、限られた費用と期間で最大限の研修効果を得ることができた。⑤継続性においては、参加者の好評を得、既に 25年以上の歴史を持つが常時応募倍率も高い。また、研修修了者の同僚、後輩、学生などからも応募があり、継続が望まれていること等から、高い継続性を有する。以上のことから、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 研修開催数：2 回、日本国内研修参加者数：10 人、メキシコ研修参加者数：9 人、研修参加者満足度：日本国内研修 100%、メキシコ研修 100%	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由及び今後の見通し	国内外における研修を国際機関等と継続的に共催することにより、中期計画 4 年目においても順調に技術移転を行ったことからＢとした。海外の諸専門家から恒常的に必要とされているため、2 年度以降も同様の計画のもと遂行予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2313F

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 イ　ユネスコ･アジア文化センター（ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** 加藤真二（企画調整部長)、○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長)、影山悦子（同アソシエイトフェロー)、佐藤由似（同専門職)、中村一郎（写真室専門職員）	

【年度実績と成果】

・5 月、海外ワークショップのための事前準備に専門職員 1 人を派遣するなどの協力を行った。
・6 月、個別研修カントリーレポートを奈良文化財研究所で開催し、6 人の専門家が出席して意見交換を行った。
・8 月、ACCU 実施の文化遺産の保護に資する研修 2017（集団研修）「木造建造物の保存と修復」に研究者 1 人、専門職員 1 人を派遣するなどの協力を行った。
・11 月、ACCU 実施の文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（カンボジア）に専門職員 2 人を派遣するなどの協力を行った。
・11 月、ACCU 実施の 2019 年度国際会議「文化遺産保護と地域コミュニティ」に研究者 3 人を派遣するなどの協力を行った。
・12 月、ACCU 事業委員会に研究者 1 人を派遣するなどの協力を行った。



カンボジアにおける研修の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、ACCU が実施する事業について、機会に応じて適切に協力を行った。②独創性においては、写真や建造物など、奈文研の得意とする分野について独自性のある協力を行った。③発展性においては、今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、研修や事業の性格に応じて異なるメンバーを派遣するなど効率的な協力を行った。⑤継続性においては、30 年度から引き続いての事業であり、2 年度以降も継続予定である。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 2019 年度国際会議「文化遺産保護と地域コミュニティ」（ホテルフジタ）参加	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	ユネスコ･アジア文化センター（ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
評定理由及び今後の見通し	事業の進行状況は良好であった。元年度も多方面にわたりユネスコ・アジア文化センターの事業への協力を行うことができた。2 年度以降も適時性、独創性、発展性、効率性、継続性を意識した協力・支援を続けて行く予定である。

【書式C】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 2320G

中期計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
年度計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実 ・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議・研究者フォーラムの開催 ・同地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究の実施 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
プロジェクト名称	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	
研究担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○大貫美佐子(副所長兼研究担当室長)、佐々木一恵・池田明子(以上、アソシエイトフェロー)	

【年度実績と成果】以下の事業を通じ、無形文化遺産保護及びそのための研究に貢献した。

(1)無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として(ユネスコ活動費補助金)

・ベトナム、フィリピンとも新たに MOU を締結し、同国内でのモニタリング用にベトナム、フィリピンで印刷を配布し、ガイドラインの現場における有効性や課題を明らかにするために IRCI と専門家が次の日程でモニタリングを実施した：フィリピン（10 月 7 日～8 日、マニラ)、ベトナム（10 月 24 日～25 日、ハノイ）

・10 月のモニタリングを踏まえ、ベトナム、フィリピンの協力機関、日本国内のリソースパーソンらを招き、国際ワークショップを開催した（11 月 28 日～29 日、東京)。

・30 年度に作成したガイドラインを上記ワークショップの内容をふまえ、改訂出版し、IRCI のウェブサイトで公開した（2 年 3 月)。

(2)アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する基礎的調査研究(文化財保存活用基金)

アジアの紛争後国家等における無形文化遺産の現状に関する現地調査

・アフガニスタン、スリランカ(北部)、東ティモールについて、パートナー機関と具体的調査方針を最終調整した。現地調査機関（大学）と連携し、30 年度特定済みの消滅の危機に瀕する無形遺産について、卓上調査を含む現地調査を実施するなどした。治安悪化のため、コミュニティへのアクセスに課題があり、状況を見極めつつ調査を行った。

・紛争後状況における無形文化遺産の調査研究に関するワークショップ等を以下のとおり開催した：

①Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia(7 月 31 日～8 月 3 日、東京)

②Discussion on the Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Afghanistan(12 月 24 日～25 日、京都)

③IRCI Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia (Bamiyan, Afghanistan) (2 年 3 月 10 日～13 日、東京)

(3)情報公開等：『IRCI 概要 2019』日・英版作成

年度計画評価	A

【評定理由】無形文化遺産保護は喫緊の課題であることに加え、紛争・災害に関する事業(2)について緊急時における無形文化遺産への関心が高まりつつある国際的動向と合致し先駆的と評価できること、事業(1)も国際的枠組である持続可能な開発目標への貢献を目指すものであることから①適時性及び②独創性をA評価とした。またこれらの事業は対象国・ユネスコ等から高く評価されており、今後の活動への期待が大きいことから③発展性についてもA評価とした。④人員が限られているなか、国内外専門家や他現地機関等との連携により、効率的に活動を実施できた。⑤継続性においては、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてあることからC評価とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	C

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	(参考値)国際協力事業実施件数：5 件((1)、(2)①～③)、国際会議等開催件数：11 件、国際会議等出席件数 9 件、刊行物 8 冊	-

ア：「無形文化遺産の SDGs への貢献」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン（英語）（第二版）(2 年 2 月出版)、イ：国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて」プロシーディングス(2 年 3 月出版)ほか全 8 冊

中期計画評価	B

中期計画記載事項	アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。
評定理由及び今後の見通し	2 年度目にあたる無形文化遺産と教育に注目した持続可能な開発に関する事業においては、30 年度作成したガイドラインの有効性を検証するためモニタリングを実施し、その結果を議論するワークショップを通じ研究のさらなる促進を図ることができた。また 12 月に東京文化財研究所と共に開催した、国際研究者フォーラム（「無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて」）で、よりアカデミックな内容で SDG s の議論を深めることができた。これらは 2 年度における SDGs 関連事業の基礎をなすものとなっている。ポストコンフリクト事業では各国研究機関等との連携体制が整い、紛争により危機に瀕した無形文化遺産について情報収集及び記録作成が進展した。30 年度に特定した消滅の危機に瀕する無形遺産について、卓上調査を含む現地調査を実施するなど、治安悪化など不安定な状況にもかかわらず具体的な活動が進行した。今後は、継続中の事業についてはより具体的な情報収集や分析を進め、事例研究として成果を上げるとともに、国内外の研究機関との連携を強化しつつ、無形文化遺産保護の国際的充実と研究の推進に努める。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2411E

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)・2)・3)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。2)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。
プロジェクト名称	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	
文化財情報資料部	○江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、橘川英規（研究員）、安永拓世（研究員）、米沢玲（研究員）、小山田智寛（研究員）、阿部朋絵（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○全所的な文化財情報の発信：4 半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催し（5 月 13 日、8 月 6 日、10 月 18 日、2 年 3 月 31 日）、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議を行った。
○美術資料のデータ化と公開：永青文庫所蔵「洋人奏楽図屏風」に関するデジタルコンテンツ等を作成し、資料閲覧室内専用端末にて公開を開始した。
○所蔵図書・雑誌資料の書誌情報の標準化と所蔵資料管理の改良：約 30 万件の蔵書について、図書館システムを稼働し、バーコード管理整備を開始した。
○売立目録デジタル・アーカイブの公開：当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録約 2500 冊収載内容のテキストと画像が検索できるシステムを開発し、5 月 8 日より公開開始して研究情報を提供するとともに、さらなる活用を目指して 2 年 2 月 25 日に公開研究会を行った。


売立目録デジタルアーカイブ検索画面

○資料閲覧室の運営・管理　資料受け入れ数：和漢書 1853 件、洋書 777 件、展覧会図録・報告書等 1355 件、雑誌 2720 件（合計 6705 件）・閲覧室利用状況：公開日総数 125 日・年間利用者合計 988 人

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国際的なオープンアクセス需要への対応のため、当研究所の活動と研究成果を広く周知することを継続的に行った。②独創性においては、当研究所が有する専門性・独自性の高い文化財情報の公開を念頭におき、唯一無二の『売立目録』のデジタルアーカイブの公開と改良を進めた。③発展性においては、国内外の関係機関と連携して、国内外への情報発信を積極的に行い、研究会などを通じて連携を強化した。④効率性においては、今年度より稼働した図書館システムを活用し、入力作業を効率よく行った。⑤継続性においては、当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業を年間通じて順調に進めた。あわせて、高い利便性と安定した資料の保管の双方に配慮しつつ、資料閲覧室としての公共性と高い専門性を保持した運営を行い、週 3 回、一般利用者への所蔵資料の提供を行った。以上により、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 美術に関する情報公開　1 件（ア,イ） 研究会等発表　2 件（ウ,エ）	—

ア　売立目録デジタルアーカイブの公開（5 月）
イ　永青文庫所蔵「洋人奏楽図屏風」に関するデジタルコンテンツ公開(2 年 1 月)
ウ　江村知子「日本美術の記録と評価についての研究―「田中一松資料」の保存活用」東京文化財研究所総合研究会(2 年 1 月 7 日)
エ　安永拓世・山口隆介・山下真由美・月村紀乃「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して―」東京文化財研究所文化財情報資料部研究会(2 年 2 月 25 日)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	元年度は、文化財研究の専門機関として国内外から重要視されていた売立目録についてデジタル・アーカイブを完成・公開し、研究支援を飛躍的に推進した。あわせて資料閲覧室としての公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた。2 年度以降も当研究所が行う文化財の調査研究とその成果を集約しつつ、データベースの継続的拡充を行い、専門的アーカイブと総合的レファレンスの充実を推進する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2411F

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡邉晃宏（文化財情報研究室長）、高田祐一（文化財情報研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・文化財情報データベースの充実として、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関し、データの入力・更新を行うとともに、公開データベースを更新した。
・全国遺跡報告総覧の登録データ件数　() 内は 30 年度末の値
　PDF 数　24,008 件（23,075）
　書誌登録数　63,994 件（ 48,694 ）
　遺跡抄録件数　128,125 件（ 93,923 ）
・文化財報告書の電子公開に関する理解を深めるために「報告書データベース作成に関する説明会」を全国５か所で開催した。
主催：奈良文化財研究所
共催：佐賀県，新潟県教育委員会，広島県教育委員会，愛知県教育委員会，国立大学法人島根大学附属図書館，全国遺跡報告総覧プロジェクト
後援：文化庁，全国埋蔵文化財法人連絡協議会，全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会



遺跡報告総覧説明会

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、最新のデータを提供して充実を図っている。②独創性においては、全国遺跡報告総覧のように他に類を見ないデータを提供しており、独自のデータ解析も提供している。③発展性においては、既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。④継続性においては、大規模なデータベースを維持し、確実なデータ提供を多年に渡って実現している。これらより、内容豊かなデータベースとして著しく発展していることから、順調に事業が推移していると判断し、全体の評定をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	A	A	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** () 内は30年度末の値	定量評価
・文化財に関するデータベースの公開件数 24 件	（実績値）公開データベースの件数　25（24） 「史的文字データベース連携検索システム(実証試験版)」を新たに公開した。 （参考値）公開データベースへのアクセス件数　8,619,158 件（12,615,841） 全国遺跡報告総覧 登録データ件数：216,127（165,692） 年間ダウンロード件数　1,702,047（1,416,171） 年間ページ閲覧数　68,184,920（103,027,968） 論文発表　5 件（ア）　口頭発表　4 件（イ）	B

ア論文　高田祐一「Prospects and potential for the comprehensive database of archaeological site reports in Japan 」他 4 件
イ研究発表　高田祐一「デジタル技術を活用した発掘調査報告書のアクセス性向上の試行」他 3 件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	文化財情報に関する基礎的な研究を積み重ねつつ、継続性が重要なデータベースの充実を着実に進めている。他機関と協力して進める大規模データベースである全国遺跡報告総覧は、頻出用語表示機能などのデータ解析機能を付加し、データのダウンロードも 141 万件以上に達するなど、中期目標を超える成果を継続して達成しており、今後の発展も引き続き期待される。

【書式Ｃ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2413Ｆ

中期計画の項目	(4)-①-3)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	(4)-①-3)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・図書、雑誌等の公開に関する取組状況 （資料閲覧室・図書資料室の開室日数、利用者数、文化財に関する資料・図書等の総件数） ・文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） ・(関連指標)データベースのデータ件数 ・(関連指標)データベース等へのアクセス件数
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○貴村好隆（連携推進課長）渡 勝弥（係員）伊藤久美（事務補佐員）山内章子（事務補佐員）中西晶子（事務補佐員）堀内千嘉（事務補佐員）永岡美和（事務補佐員）久保純子（事務補佐員）志賀明美（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

・資料の収集・整理・保管・提供
　書庫内において資料の配置場所が明確になるように表示板を増やして資料の配置が分かりやすくなるように工夫した。
・書庫内に閲覧机を増設することにより、書庫内における閲覧スペースの拡張を行った。
・閲覧室の照明器具を増設することにより、閲覧机上の明るさを増強した。
・研究室が管理する資料の遡及登録を開始した。

購入図書　199 冊
寄贈図書　7,061 冊
雑誌　2,423 冊
一般利用者　229 人
利用冊数　1,990 冊
来館者複写件数　758 件
遠隔利用：複写受付件数　405 件
　貸借貸出冊数　102 冊



照明を増強した閲覧室

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、光度不足だった閲覧室に照明器具を増設することにより、資料を閲覧しやすい環境となった。②発展性において、研究室が管理している資料を図書館システムに登録することにより、蔵書検索システムへの反映など、所内全体での利用が容易となった。③効率性において、書庫内に閲覧机を増設することにより、研究員の調査・研究に更なる利便性の向上を図った。また、図録の配架場所に都道府県別の仕切り板を入れ、資料の配架状況を分かりやすくしたことにより、資料の調査及び配架作業の効率化を図った。④継続性において、従来の継続的な業務を滞りなく行った。以上の観点から本事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) 資料閲覧室・図書資料室の開室日数　198 日 資料閲覧室・図書資料室の利用者数　278 人 文化財に関する資料・図書等の総件数　480,023 件	－

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。
評定理由及び今後の見通し	閲覧室の照明器具増設及び書庫内の閲覧机増設など、一般利用者及び所内研究員が図書資料を利用するうえで、更なる利便性の向上を行った。 また、研究室管理の資料を図書データベースに登録したことにより、今後の資料の利用拡大が大いに望めるものと思われる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2421E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』(年3冊) ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

・『東京文化財研究所年報』2018年度版
・『東京文化財研究所概要』2019年度版
・『東文研ニュース』年3回（70～72号）
・『美術研究』（428号）（9月）
・『美術研究』（429号）（2年1月）
・『美術研究』（430号）（2年3月）
・『平成30年版　日本美術年鑑』（2年3月）
・『無形文化遺産部研究報告』第14号（2年3月）
・『第14回無形民俗文化財研究協議会報告書』（2年3月）
・『保存科学』59号（2年3月）



保存科学５９号表紙

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行なった。①適時性においては、『美術研究』で論文翻訳により海外での最新研究動向を紹介できたこと、『日本美術年鑑』において近年の動向をきちんとまとめて報告した点が評価される。②独創性においては、『美術研究』429号の神谷嘉美論文で、桃山期平蒔絵技法について実証的な研究を行った点などが注目される。③発展性においては、『美術研究』429号において当研究所の文化財データベースの実態について報告することで、所内外への幅広い展開が期待される点がある。④効率性については、『保存科学』において、編集委員を交代し、作業効率を上げた。また『美術研究』の編集作業で昨年同様、刊行物アーカイブシステムを本格的に導入した点や、電子メール送受による校正作業を積極的に実施して刊行に必要となる時間の節約に努めた点が評価される。⑤継続性については、定量評価においては、所期の予定通り12点の定期刊行物を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・定期刊行物等の刊行件数　12件	（実績値）定期刊行物等の刊行件数　12件（以下のとおり） 『東京文化財研究所年報』2018年度版　刊行部数400部 『東京文化財研究所概要』2019年度版　刊行部数2,700部 『東文研ニュース』70～72号　刊行部数各1,600部 『平成30年版　日本美術年鑑』　刊行部数600部 『美術研究』428～430号　刊行部数各400部 『無形文化遺産研究報告』第14号　刊行部数500部 『第14回無形民俗文化財研究協議会報告書』　発行部数500部 『保存科学』59号　発行部数650部	B

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	中期計画4年目となる元年度も所期の計画通り、各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行することができた。31年度以降も、学術誌としての一定の水準を保ちながら、また当研究所の事業内容を一般に広報する上でも有益な内容の報告書となるよう今後とも努める予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2421F-2

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	(4)-②-1) 2) 3)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行,・『奈良文化財研究所紀要』,・『奈良文化財研究所概要』,・『奈文研ニュース』 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等,・公開講演会
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○貴村好隆（連携推進課長）、溝端靖秀（連携推進課課長補佐）、渡　勝弥（連携推進課）ほか	

【年度実績と成果】

◆定期刊行物の刊行
- 奈良文化財研究所概要 2019　7 月刊行、3,000 部
- 奈良文化財研究所紀要 2019　6 月刊行、3,000 部
- 奈文研ニュース「No.73」6 月,「No.74」9 月,「No.75」12 月,「No.76」2 年 3 月
- 埋蔵文化財ニュース　2 年 3 月「No.178」「No.179」「No.180」「No.182」

◆現地説明会
- 6 月 7 日平城宮跡大極殿院地区の発掘調査(平城第 612 次) 現地説明会 於奈良市法華寺町他(参加者 180 人)
- 9 月 29 日平城宮東方官衙地区の発掘調査(平城第 615 次)現地説明会　於奈良市法華寺町他（参加者 892 人）
- 10 月 6 日藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 200 次)現地説明会　於橿原市高殿（参加者 971 人）

◆講演会
- 6 月 15 日第 124 回公開講演会　講演者：前川、松田、村田（参加者 149 人）
- 10 月 5 日　第 11 回東京講演会タイトル「奈良の都、平城の謎を探る」
  講演者：内田、今井、桑田、小田、神野、福嶋、渡辺（参加者 464 人）
- 11 月 9 日第 125 回公開講演会　講演者：松永、山口、内田（参加者 150 人）


奈文研ニュース

◆シンポジウム
- 10 月 11 日　第 1 回 報告書データベース作成に関する説明会　11 月 21 日 第 2 回　12 月 4 日 第 3 回　2 年 2 月 4 日 第 4 回　2 年 2 月 17 日　第 5 回
- 12 月 13 日～14 日　第 23 回古代官衙・集落研究集会「灯明皿と官衙・集落・寺院」（参加者 104 人）
- 2 年 2 月 1 日～2 日　第 20 回古代瓦研究会シンポジウム(参加者 244 人)

◆体験型イベント
- 8 月 8 日～9 日「つくろう!!ミニチュア玉枕」（飛鳥資料館）阿武山古墳から出土した玉枕のミニチュアをビーズで作るイベント（参加者 110 人）
- 8 月 21 日～22 日「奈良の都の木簡に会いに行こう!2019」子供達が発掘現場から持ち帰った木簡を含む土の洗浄・選別作業や木簡の解読等の体験を行った。(参加者 41 人)（日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」採択事業）
- 10 月 29 日「飛鳥の森を探る」（飛鳥資料館）飛鳥の森を紹介し、資料館の庭園の葉っぱを使って自分だけの「あすか森しおり」を作る体験を行った。(参加者 17 人)
- 11 月 15 日「ふるさと飛鳥を語る」（飛鳥資料館）地元のご老人による飛鳥の自然と人にまつわるお話し。(参加者 37 人)

◆ウェブサイトの充実
- 薬師寺典籍文書データベース、大宮家文書データベース、考古関連雑誌論文情報補完データベース、遺跡報告内論考データベースの各データベースをクラウド化し、運用と公開の効率化を図った。
- 奈文研ブログ「コラム作寶樓」月 2 回更新、新たに 7 月より毎月 1 研究室を紹介する「巡報研究室」の配信を開始した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、調査研究成果を適時に刊行し、現地説明会開催、ウェブ公開とも適時に情報を発信した。②独創性については、調査研究内容の新規性及び卓越性を持たせ発信することができた。③発展性については、個々のデータベース登録数も増え、多様なブログ、新規コラム等を更新することによりＨＰの内容を一層充実させた。また、当研究所の調査研究の成果を多元的に発信するために体験イベントを実施した。④継続性については、定期刊行物、講演会、ウェブ公開など従来から継続的に実施しているうえ、データベースをクラウド化するなどし、恒久的な提供が認められる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
(1) 定期刊行物等の刊行件数 10 点 (2) 公開講演会、現地説明会の開催回数 10 回	(実績値) (1) 定期刊行物等の刊行件数　10 点 (2) 公開講演会、現地説明会の開催回数　13 回	(1) B (2) A

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	目標を上回る回数の公開講演会や現地説明会等を実施し、調査研究成果を適時、多元的に発信している。また、全国遺跡報告総覧などウェブサイトの利用率も順調に上昇している。今後も公開講演会、現地説明会、ウェブサイトの充実等を通じて調査研究成果を適時発信していきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2422E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-2)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー）
プロジェクト名称	令和元年度オープンレクチャー（調査･研究成果の公開）	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、小野真由美（主任研究員）、塩谷純（文化財情報部長）ほか	

【年度実績と成果】

○11 月 1 日、2 日の 2 日間にわたり、専門家はもとよりひろく一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。

○当研究所より 2 人、外部より 2 人の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。

・米沢玲（文化財情報資料部研究員）「大徳寺伝来五百羅漢図と『禅苑清規』―描かれた僧院生活―」
・原浩史（慶應義塾志木高等学校教諭）「広隆寺講堂阿弥陀如来坐像のかたちと込められた願い―願主「永原御息所」の人物像を起点として―」
・小林公治（文化財情報資料部広領域研究室長）「日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究」
・田中眞奈子（昭和女子大学歴史文化学科）「SPring-8 による刀剣研究最前線：制作技術の解明に向けて」

○外部からの聴講者は 11 月 1 日が 96 人、2 日は 55 人の参加を得た。


オープンレクチャーの様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、両日あわせて 151 人の参加をみたが、専門家以外の一般参加者が多かった。参加者からのアンケート結果では、11 月 1 日の 67 人の回答者のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ 88.8%、11 月 2 日の 52 人の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて 90.4%の回答を得ることができ、時宜に適った講演テーマにて実施できた。②独自性においては、近年の研究誌にて発表された各テーマにもとづき、最新の研究成果を、新知見を織り交ぜて公開することができた。③発展性においては、いずれの講演も今後の調査研究による進展が期待されるものであり、そうした発展的成果を公開することができた。④継続性においては、「古典の日」にちなんだ台東区「上野文化ゾーンフェスティバル」の一環として長年継続して開催しており、例年通りの開催を達成することができ、アンケートからも参加者の高い満足度を確認できた。よって、順調かつ効率的に推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・講演会の開催回数 1 回	（実績値）1 回	B

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	30 年度に続き、今中期計画 4 年目にあたるプロジェクト事業を計画通り達成できた。2 年度も同様に「かたちからの道、かたちへの道」をテーマとして、講演者 2 人、2 日間の形態で開催する予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2423E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-3)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 3)ウェブサイトの充実 ・東文研総合検索システム　・東京文化財研究所刊行物一覧　・学術情報リポジトリ
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備・充実	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○二神葉子（文化財情報研究室長）、小山田智寛（研究員）、三島大暉（アソシエイトフェロー）、逢坂裕紀子（研究補佐員）、安岡みのり（研究補佐員）、丸山礼（研究補佐員）、手呂内孝憲（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○ネットワーク環境の整備・充実
・無停電電源装置（UPS）及びUPSと連携した停電時の自動停止システムの整備、サーバ上のデータのバックアップシステムの更新を実施、ネットワークの安定運用に努めた。また、高精細画像などの安定した保管のため、長寿命の光ディスクによる記録を行う機器を導入した。
○情報セキュリティの強化
・30年度に引き続き、各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換しセキュリティ水準の維持向上に努めた。
・当研究所職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に研修を開催した（情報システム部会令和元年度研修会（10月1日）、講師：三島、小山田）。
○情報蓄積・発信機能の強化
・2件のウェブデータベース（新海竹太郎資料、内国勧業博覧会美術出品目録）の新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善を実施した。また、30年度に引き続き、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携し、データベース管理システムOracleによる所内データベースを適宜改良して利便性を向上させた。
○研究成果公開
・論文や学会発表を通じてデータベース構築関連の成果を公表した。また、プロジェクト「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」と連携し12月2日に「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催、123人の参加を得た。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、データベースへのアクセス件数やセミナーの参加者数にも裏付けられるように、データベースの構築、新規公開やデータ追加は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえ、時宜に適ったものである。②独創性においては、公開データベースに無料のデータベースエンジンMariaDBとウェブコンテンツを統合的に管理する無料のcontent management system（CMS）であるWordPressを利用して独自開発し、その成果に関する国際学会での報告も受理されている。③発展性においては、横断検索が可能で、画像及びテキストの両方を扱えるデータベースの構築を継続、今後のデータベースの多様化にも対応した。④効率性においては、所内向け研修により情報システムセキュリティへの理解を向上させた。また当研究所職員を講師とするセミナーの開催により所外に効果的に活動内容を伝達できた。⑤継続性においては、ウェブサイト更新による情報発信、セキュリティ水準向上への対応も継続的に実施した。⑥定量評価について、目標値の167%のデータベースを継続して公開した。よって所期の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・データベースの公開件数　18件	・（実績値）データベースの公開件数　30件 ・（参考値）データベースのデータ件数 1,288,551件、データベース等へのアクセス件数 2,989,314件・学会発表件数　4件（ア）・論文　1件	A

ア　Tomohiro OYAMADA, Yoko FUTAGAMI, Taiki MISHIMA「Two solutions for orthographical variants problem」(2019 CIDOC annual conference、Inamori Memorial Hall、9月3日）ほか3件
イ　小山田智寛「文化財データベースの作成とその意義について」『美術研究』429号、2年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。
評定理由及び今後の見通し	上記の中期計画の記載事項についていずれも所期の目標を達成した。2年度以降も、運営費交付金や外部資金による他プロジェクトと連携、効率的に調査研究を実施する。また、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行い、データベースや情報公開についての国内外の状況に関する事例調査を実施して、文化財情報データベースの機能をさらに拡充する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2431F

中期計画の項目	2-(4)-③-1)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-1)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展
プロジェクト名称	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部展示企画室長）、○石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）ほか	

【年度実績と成果】


平城「ならのみやこのしょくぶつえん」ワークショップ

○平城宮跡資料館
・春期特別企画展「高御座－奈良朝の玉座」（4 月 22 日～6 月 2 日）（33 日間・14,456 人）
・夏期企画展「ならのみやこのしょくぶつえん」（7 月 20 日～9 月 1 日、9 月 5 日）（34 日間・9,162 人）ギャラリートーク 2 回、ワークショップ 2 回
・秋期特別展「地下の正倉院展－年号と木簡」（10 月 12 日～11 月 24 日）（37 日間・13,257 人）　ギャラリートーク 3 回
・新春ミニ展示「平城京の子」（2 年 1 月 4 日～ 1 月 26 日）（20 日間・4,456 人）
・冬期企画展「発掘された平城 2019」（2 年 2 月 1 日～2 月 26 日）（22 日間 3,515 人）ギャラリートーク 2 回(※2 年 2 月 27 日～3 月 29 日の間は新型コロナウイルス対策として臨時休館とした。）
・第一次大極殿における幢幡レプリカ特別公開（4 月 27 日～2 年 1 月 5 日）
○飛鳥資料館
・春期特別展「骨ものがたり－環境考古学の研究室のお仕事」（4 月 23 日～6 月 30 日）（61 日間・10,024 人）関連イベント「体験！研究員のお仕事」3 回、「研究員を展示！」4 回。
・夏期企画展「第 10 回写真コンテスト作品展「あすかの古墳」」（7 月 19 日～9 月 1 日）（40 日間・3,070 人）
・秋期特別展「飛鳥－自然と人と」（10 月 11 日～12 月 1 日）（44 日間・6,506 人）関連イベント「飛鳥の森を探る」「ふるさと飛鳥を語る」
・冬期企画展「飛鳥の考古学 2019」実施（2 年 1 月 24 日～2 月 26 日）（29 日間、1,331 人）（※2 年 2 月 27 日～3 月 15 日の間は新型コロナウイルス対策として臨時休館とした。）
○藤原宮跡資料室
・常設展示に加え、ロビーにて①『藤原宮木簡四』刊行記念の木簡特集展示「埋（うず）もれた大宮びとの横顔―薬・まじない・庄園の木簡」（4 月 8 日～4 月 26 日）、②都城発掘調査部藤原地区の 2018 年発掘調査成果速報展示（7 月 1 日～12 月 27 日）実施。

年度計画評価：A

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、平城で新天皇の即位、新元号の発布を記念して、高御座展、元号に関わる木簡展、幢幡レプリカの特別公開を実施できた。また、藤原においても『藤原宮木簡　四』の刊行にあわせた特集展示を行えた。②独創性においては、平城夏展は、奈良国立博物館と連携したもので、同館の「祈りの世界の動物たち」展と同時期に開催した。奈良にある国立文化財機構の施設同士がはじめて連携し、関連のあるテーマの展覧会を行うという試みであった。まさに奈良ならではの企画だったといえる。また、飛鳥春展でも埋文センター環境考古学研究室とその研究員を展示するなど、奈文研ならではの独創的な展示を行うことができた。③発展性においては、平城夏展で英・中・韓国語版のリーフレット・チラシ、飛鳥春展で英・中・韓語版パンフレットを作成し、展示の多言語化のノウハウを培った。平城夏展では、造花類を多用するとともに、切り花・切り枝の真空パック展示を試みるなど、植物の展示方法を探った。また、飛鳥秋展は地元の地域社会・環境を強く意識した展示でもあり、これからの展示・活動の方向性を示している。④継続性においては、各館の特別展・企画展は、ほぼ定期で継続的に実施するが、内容を変えつつ、飛鳥の関連イベントや平城のワークショップやギャラリートークなども充実させ、新たな入館者層の掘り起こしやリピーターの獲得を目指している。定量評価について、平城では特別展・企画展を年間 5 件開催し、目標値超えした。また、飛鳥では年間 4 件の目標値を達成できた。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1)平城宮跡資料館特別展・企画展開催件数 4 件 (2)飛鳥資料館特別展・企画展開催件数 4 件	(実績値) (1) 平城宮跡資料館特別展・企画展開催件数 5 件、特別公開 1 件 (2) 飛鳥資料館特別展・企画展開催件数　4 件 (参考値) (1) 平城　入館者数 71,408 人　開館日数 278 日　図録等実績リーフレット等 6 件（ア～カ） (2) 飛鳥　入館者数 26,966 人　開館日数 306 日　図録等実績：リーフレット等 3 件（キ～ケ） (3) 藤原　入館者数 7,945 人　開館日数 270 日	B

ア～エ『ならのみやこのしょくぶつえん』(A4 版変形フルカラー24 頁、日本語・英語・中国語・韓国語版 7 月 20 日)
オ『地下の正倉院展―年号と木簡―』(A4 判フルカラー16 ページ　10 月 12 日)
カ『発掘された平城 2019』(A4 判フルカラー8 ページ　2 年 2 月 1 日発行)
キ 飛鳥資料館図録第 71 冊『骨ものがたり－環境考古学研究室のおしごと』(A5 判フルカラー143 ページ　4 月 23 日)
ク 飛鳥資料館図録第 72 冊『飛鳥－自然と人と－』(A5 判フルカラー103 ページ　10 月 11 日)
ケ 飛鳥資料館カタログ第 36 冊『飛鳥の考古学 2019』(A4 判フルカラー20 ページ　2 年 1 月 24 日)
コ 飛鳥資料館研究図録第 23 冊『骨ものがたり－環境考古学研究室のおしごと　展覧会報告』(A5 判フルカラー　2 年 3 月 31 日)

中期計画評価：B

中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。
評定理由及び今後の見通し	各館の目標値：特別展・企画展年間４件を平城は５件＋特別公開１件、飛鳥は４件と順調に達成した。来館者の理解向上に向け、「ならのみやこのこうこがく（仮）」（平城）、「日本人と古代仏教―仏教と文字文化の考古学(仮)」（飛鳥）などの展示プロジェクトの実施を頑張りたい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2432F

中期計画の項目	2-(4)-③	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-2)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 2）定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○貴村好隆（連携推進課長）、溝端靖秀（連携推進課課長補佐）、岩井靖子、京牟礼薫、前田照恵、林尚代（連携推進課事務補佐員）	

【年度実績と成果】

○解説ボランティア研修等

解説ボランティアの育成に資するため、平城宮跡資料館及び平城宮跡歴史公園平城宮いざない館（受託事業）における特別展、企画展にかかる解説ボランティアに向けての展示解説研修の実施、発掘調査の現地説明会、及びボランティア勉強会を実施した。

・平城宮跡資料館特別企画展「高御座」展示解説研修 4 月 26 日（1 日 3 回実施）
・平城宮跡資料館夏のこども展示解説研修 7 月 19 日・22 日（22 日は 1 日 2 回合計 3 回）（展示研修及び来館者向けクイズの回答対応研修）
・平城宮跡歴史公園平城宮いざない館研修 7 月 19 日・22 日（22 日は 1 日 2 回合計 3 回）（平城宮跡資料館夏のこども展示関連の来館者向けクイズの回答対応研修）
・平城宮跡資料館「地下の正倉院展」展示解説研修 10 月 11 日・15 日（Ⅰ期）、10 月 28 日（Ⅱ期）、11 月 11 日（Ⅲ期）
・平城宮跡資料館新春ミニ展示展示解説研修（ボランティア用展示解説シートを作成し各個人に配付）
・平城宮跡資料館「発掘速報展」展示解説研修 2 年 1 月 31 日・2 年 2 月 3 日（3 日は 1 日 2 回合計 3 回）
・解説ボランティア向けの発掘調査の現地説明会 6 月 5 日（平城宮第一次大極殿院地区）、9 月 27 日（平城宮東方官衙地区）
・解説ボランティア勉強会 4 月 15 日・20 日、8 月 17 日・19 日、12 月 16 日（平城宮跡に関する内容等について実施）

○解説ボランティアに関する会議

・平城宮跡解説ボランティア懇談会の開催（研究部と事務部が一体となったボランティア活動を検討する会議、毎月 1 回開催）
・平城宮跡解説ボランティア連絡会議の開催（解説ボランティア班長と奈文研職員によるボランティア活動の確認、活性化、改善等を検討するための会議、毎月 1 回開催）
・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク、奈良県（平城京 再生プロジェクト）、国交省（平城宮跡管理センター）4 者で行う国営飛鳥歴史公園内のボランティア活動等の情報共有、意見交換を行う会議：2 か月に 1 回開催）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、解説ボランティアへの研究所からの最新の情報提供、解説ボランティアからの改善等の意見を随時取り入れるための「平城宮跡解説ボランティア連絡会議」、解説ボランティアからの意見を検討するため研究部と事務部が一体となって組織した「平城宮跡解説ボランティア懇談会」を定期的に開催したことにより、研究所におけるボランティアの情報発信内容等が効果的に進んでいる。②独創性については、解説ボランティアの資質向上のため、平城宮跡における当研究所の最新の調査研究成果を踏まえた勉強会、発掘調査現地説明会を実施するとともに、展示内容に即した解説研修を適宜企画し実施した。③発展性については、勉強会、研修を実施するとともに班長出席による連絡会議を毎月実施し、ボランティアからの意見を随時取り入れるようにすることで、活動の活性化や運用改善が進められた。④継続性については、新制度による活動が順調に進んでいると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	A	A	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・解説ボランティア登録人数：148 人 ・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：72,491 人 ・解説活動日数：274 日	定量評価 ―

中期計画評価	A

中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。
評定理由及び今後の見通し	平城宮跡解説ボランティアについては、30 年 1 月から新たなボランティア制度のもと、定期的な勉強会、展示研修等を通じて、解説ボランティアの育成を行い、資質の向上に努めた。また、解説ボランティア連絡会議を定期的に開催して解説ボランティアの意見等を取り入れつつ、円滑な活動を実施している。今後も本制度を継続運用し、随時見直しを行い、更に効率的、効果的な運用になるよう努めていきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2511E

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと協力して行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○佐野千絵（センター長（兼）保存環境研究室長）、吉田直人（文化財活用センター、東文研併任）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、小安友利恵（事務補佐員）、間渕創（文化財活用センター）ほか	

【年度実績と成果】

○第 36 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと共催で実施した（7 月 8～19 日、受講者 31 人）。
1 週目の基礎的な内容の講習を文化財活用センターが担当し、2 週目を当所の各研究室がおよそ半日単位で受け持ち、以下の講義を実施した ：文化財の科学調査（分析科学研究室）、生物被害対策（生物科学研究室）、屋外文化財の保存（修復計画研究室）、温熱環境制御（保存環境研究室）、修復材料の種類と特性/紙資料・日本画の保存修復（修復材料研究室）。

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。


研修の様子

○30 年度に実施した第 35 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、文化財の保存と活用が求められた自治体の要望に応え、講義・実習を整理し、応募者は定員の 2 倍を超えた。②独創性において、当研究所の強みを生かし、材料、構造、製作技術と保存活用の関係について多彩な講義を展開した。③発展性においては、当研究所の専門性を理解してもらう場にもなっており、資料保存の考え方や技術普及について向上が見込める。④効率性においては、文化財活用センターと共催することで外部発信力が上がるとともに、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応えることができた。⑤継続性について、地域における保存活用計画の策定にも有益な知識の提供を行い、地域に成果を還元した。よって、順調かつ効率的に事業が進行していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1) 実施件数 1 件 (2) 受講者数 30 人 (3) アンケートによる研修成果の活用実績 80%以上	(実績値) (1) 実施件数　1 件 (2) 受講者数　31 人 (3) 研修成果の活用実績　100%	(1) B (2) B (3) A

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。
評定理由及び今後の見通し	中期計画どおり研修を実施し、受講者向け及び 30 年度受講者の上長へのアンケートでは有益であるという評価を得た。2 年度は、オリンピック及びパラリンピックの混雑を避ける目的で、10 月 12 日～22 日に文化財活用センターと連携して当研修を行う予定である。2 週目を当研究所の担当とし、近代文化遺産研究室も含めてより多彩な講義・実習・ワークショップに取り組む予定である。

【書式Ｃ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2512F

中期計画の項目	(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部 研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部長兼企画調整室長）、天野千代子（総務係長）　ほか	

【年度実績と成果】

・以下の研修を実施した

①	建築遺構調査課程	6 月 10 日～ 14 日	8 人
②	建造物保存活用基礎課程	7 月 1 日～ 5 日	20 人
③	堆積・地質学基礎課程	9 月 17 日～ 20 日	32 人
④	遺跡ＧＩＳ課程	9 月 24 日～ 27 日	8 人
⑤	出土木器調査課程	9 月 30 日～10 月 4 日	4 人
⑥	保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程	10 月 15 日～24 日	11 人
⑦	文化財三次元計測課程	11 月 18 日～22 日	12 人
⑧	文化財写真課程	11 月 25 日～12 月 5 日	11 人
⑨	報告書編集基礎課程	12 月 5 日～12 日	24 人
⑩	報告書デジタル作成課程	12 月 12 日～19 日	13 人
⑪	文化財デジタルアーカイブ課程	2 年 1 月 20 日～ 24 日	18 人
⑫	史跡保存活用計画策定課程	2 年 2 月 3 日～7 日	16 人
⑬	文化財防災・減災課程	2 年 2 月 12 日～14 日	12 人
⑭	保存科学Ⅴ（材質・構造調査）課程	2 年 2 月 18 日～21 日	10 人
		合計	199 人

○遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 14 課程の研修を実施し、延べ 199 人が受講した。
○研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。
○派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を 2 年 2 月～3 月に実施した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、堆積・地質学基礎課程、史跡保存活用計画策定課程、文化財防災・減災課程など、公共性、緊急性が特に高い研修を行い、これへの対応を行った。②独創性においては、いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性を実施した。③発展性においては、発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に対応した。④効率性においては、基本的に 5 日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を実施した。⑤継続性においては、文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 9,900 人となった。⑥定量的評価の観点においても、目標値に達成した。総じて、事業はきわめて順調に推移していると言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1) 研修の実施件数（件／課程）14 課程 (2) 研修の受講者数（人）156 人 (3) 研修成果の活用状況（%）80%以上	(1) 研修の実施件数　14 課程 (2) 研修の受講者数　199 人 (3) 研修成果の活用状況　100%	(1) B (2) A (3) A

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。
評定理由及び今後の見通し	定性評価については、いずれの観点もＢ以上で、特に適時性、独創性、継続性ではＡと評価できた。また、定量評価も、いずれの目標値とも達成し、研修の受講者数、研修成果の活用状況は、Ａ評価であった。以上から、本プロジェクトは、順調に推移していると判断されたことから、Ａと評価した。元年度は、中期計画期間の４年目ではあるが、順調に推移していると判断されたことから、本プロジェクトの進め方が適格であることが確認された。今後とも、厳しい財源事情のなか、費用対効果も十分に勘案しながら研修事業の充実を図りつつ、順調にプロジェクトを推進したい。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○塩谷純（部長）、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、橘川英規、安永拓世（研究員）ほか	

【年度実績と成果】

1.豊川市桜ヶ丘ミュージアムの特別展「島田卓二、黒田清輝とその周辺」への協力・助言 2.内子町教育委員会自治・学習課での黒田清輝「重岡薫五郎肖像画」調査への協力・助言 3.国立アイヌ民族博物館の積層式書架に係る仕様策定に関する助言（仕様策定委員）
4.国立新美術館のアートライブラリ―委託業者選定に関する助言（外部審査員）
5.八尾市史編纂のための文化財調査に関する協力・助言
6.岡山県立美術館の文化財調査に関する協力・助言
7.九州国立博物館の文化財調査に関する協力・助言
8.中之島香雪美術館の文化財調査に関する協力・助言
イギリス・イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センター、ドイツ・ライプツィヒ民族学博物館、ドイツ・ハイデルベルク民族学博物館、ドイツ・ハンブルク美術工芸博物館、韓国国立中央博物館、ドイツ・ケルン東洋美術館、逸翁美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、野崎家塩業歴史館、奈良国立博物館、サントリー美術館、甲賀市水口歴史民俗資料館、南蛮文化館、茨木市文化財資料館、大分県埋蔵文化財センター

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、適時及び適切な指導・助言を行うことができた。とくに豊川市桜ヶ丘ミュージアムの特別展「島田卓二、黒田清輝とその周辺」では、地方の一洋画家とその師である黒田清輝との繋がりを、当研究所の黒田に関する資料を提供することで浮かび上がらせた意義は大きく、A評価とした。②独創性及び③発展性においては、指導・協力要請の件数が増加する中で、スタッフの有するスキル・専門性を存分に活用し、他ではできない当研究所独自の指導・助言を実施できた。④効率性においては、担当を分けることによって、専門性の高い指導・助言を実施した。⑤継続性においては、八尾市史編纂をはじめ継続的に実施しているケースにおいて、指導・助言を通して高い信頼関係を築くことができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・指導・助言 24 件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	文化財情報資料部に要請されたさまざまな文化財に関する事項を、適時、継続的に、スタッフの有するスキル・専門性にもとづいて協力し、適切な指導・助言を行ったので、Bと判断した。2年度も引き続き、外部からの要請に対して協力・適切な指導・助言を行っていきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○山梨絵美子（部長）、石村智（音声映像記録研究室長）、久保田裕道（民俗文化財研究室長）、前原恵美（無形文化財研究室長）	

【年度実績と成果】

○無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言
・文化庁への文化審議会無形文化遺産部会に関する助言　1件
・文化庁への伝統文化親子教室事業に関する助言1件
・文化庁への無形民俗文化財に関する助言1件
・山梨県への文化財保護審議会に関する助言1件
・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言1件
・千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言1件
・東京都への民俗芸能大会実行委員会に関する助言1件
・島根県への古代文化センターに関する助言1件
・静岡市への文化財保護審議会に関する助言1件
・武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言1件
・京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議への助言1件
・箱根町への箱根湯立獅子舞調査に関する助言1件
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言　1件
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への「世界無形文化遺産フェスティバル」招聘団体選考に関する助言　2件
・一般財団法人日本青年館への第68回全国民俗芸能大会企画に関する助言　1件
・岐阜市・関市長良川鵜飼総合調査専門委員会にて当該調査に関する助言　3件
・阿波晩茶製造技術調査委員会にて当該調査に関する助言　3件
・石鎚黒茶製造技術調査委員会にて当該調査に関する助言　2件
・文化庁「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」専門家委員として当該事業への助言　1件
・滋賀県草津市「青花紙保存継承懇話会」専門家委員として青花紙保存に関する助言　1件
・工芸技術記録映画製作監修委員として映像内容への助言　1件
・文化ファッション研究機構運営委員会委員として運営に関する助言　1件
・教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会委員として当該対象の審議　1件
・文化庁調査員（非常勤）として楽器を中心とする文化財保存技術の調査と報告　1件
・文化庁「伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会」にて当該調査および助言　1件
・文化庁「無形文化遺産保護条約に係る国際動向調査」（受託：東北大学）にて助言　1件

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性について、我が国の無形の文化財をあつかう国内唯一の研究機関として、古典芸能・工芸技術・民俗芸能・民俗技術等の保存活用に関わる各種委員会等に、継続的な委嘱を受け、適宜、各々において的確な助言を実施できたことは、定性評価においても十分であると評価した。小人数で対応できたことから⑤効率性を高く評価した。②独創性、③発展性については、対象に応じて今後を見据えた助言が出来たことを評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）助言32件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画通りの実績をあげることができた。文化財保存技術やそれを支える道具・材料等に関わる案件も増加の傾向にあるため、当研究所内の他の部・センターとの連携も図り、2年度以降も信頼を損なわぬよう努めることとしたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、佐野千絵（センター長）	

【年度実績と成果】

○これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。
○主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。
○対応件数は 41 件あり、その中には派遣依頼等を受けて現地にて調査したもの、研究所にて分析試験等を実施したものなど、より詳細な調査が必要な事案もあった。
○相談内容は、保存公開施設内における虫害やカビの発生に関すること、殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、歴史的木造建造物の虫害対策、空調の無い貴重書庫での虫菌害対策、古墳石室内の微生物被害対策など、より解決が困難な相談案件も多くあった。


木造建造物に発生した虫害

○台風 19 号に伴う水損文化財の生物被害とその初期対応や浸水した収蔵庫の微生物汚染状況の把握など緊急性を伴う相談案件にも対応した。
○現場の対応とあわせて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を 8 件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価行った。①適時性においては、災害などの初期対応で生物被害の拡大抑止のために緊急の対応が必須であるが、必要な情報や調査を最短時間で優先的に提供し、適切に対応することができたといえる。②独創性については、文化財の虫害・菌害対策について経験を有するそれぞれの専門がいる点で他機関にはない独自性があると判断した。独創性が高い。③発展性については、実際に現場で起こっている虫菌害の問題について、プロジェクト研究と連動する新たな研究課題を発掘している点で発展性があると判断した。④効率性については、限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。⑤継続性については、毎年度 30 件を超える相談案件に継続して対応することができている。よって、所期の計画を上回り、継続的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・協力・助言実施件数合計 41 件 ・研修等講師対応件数合計 8 件（ア～カ）ほか 2 件	定量評価 —

ア　「文化財 IPM とカビの制御」第 41 回文化財の虫菌害・保存対策研修会 7 月 4 日
イ　「環境制御（虫菌害対策）」アーカイブズ・カレッジ史料管理学研修会 9 月 10 日
ウ　「有害生物対策」アーカイブズ研修 III/公文書管理研修 III 9 月 11 日
エ　「文化財の微生物被害の現状と対策について」IPM セミナー10 月 23 日
オ　「害虫及びカビの予防・防除」文化財（美術工芸品）修理技術者講習会 10 月 25 日
カ　「水損紙資料の微生物被害と応急処置」文化財等防災ネットワーク研修 11 月 6 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿い、国や地方公共団体等からの文化財に関する生物被害の要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献することができた。緊急を要する相談案件への対応は通常業務との調整が困難であるが、本業務の重要性からも、より効率化を試みる必要がある。同時に、生物被害に関する相談案件数自体を減らしていくために、さらなる啓発普及活動も実施する予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-4

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1 文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、倉島玲央（研究員）、佐野千絵（センター長）	

【年度実績と成果】

○元年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、特別史跡キトラ古墳壁画、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡竹原古墳、史跡桜京古墳、史跡屋形古墳群、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡韮山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡出島和蘭商館跡、史跡徳島藩主徳島家墓所、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財通潤橋、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財碓氷第 17 隧道、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財法隆寺金堂外陣旧壁画（土壁）、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財上杉神社明冠服類・服飾類、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物郷村断層、熊本県内被災古墳。



西日本豪雨で石室が一部流出した愛媛県指定史跡・難波奥谷古墳

○地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、白浜町指定梵音寺釈迦如来坐像、東京都「第５福竜丸」、財団法人船の科学館本館収蔵品展示室内保存環境、愛媛県指定史跡難波奥谷古墳、富山市大山恐竜足跡化石群、航空協会航空関連紙資料、日本民藝館所蔵厨子甕資料。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、引き続き自然災害や首里城火災などによって被災した文化財に適切に対処しており、社会の要請にこれまで以上に的確かつ速やかに応えることができた。②独創性においては、保存科学の考え方があまり浸透していない、天然記念物や伝建地区の保存などに積極的に協力を行った。③発展性においては、現在修復事業が行われている現場への協力を行っており、発展性が期待される。④効率性においては、古墳や石仏など、各地域に存在する類似した対象に対して、情報共有を促しながら協力することで効率化が図られた。⑤継続性においては、高松塚古墳やキトラ古墳等、長年継続的に取り組んでいる事業に元年度も継続して寄与してきた。よって、総合的に順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）指導・助言件数　42 件	定量評価 －

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の 4 年目として、引き続き被災文化財など、様々な対象に対して協力を行ってきている。また、従来のように美術工芸品と建造物に偏ることなく、天然記念物や名勝、伝建地区など、様々な範疇の文化財に関わる機会が増えてきている。今後さらに様々な形態の文化財に対して要請が出た時にも同様に迅速に対応できるように、経験を蓄積して体制の充実を図っていく予定である。以上より、順調に計画通り実行されていると判断した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-5

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（副センター長）	

【年度実績と成果】

元年度は、蛍光X線分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

○材質調査

・金工品（文化庁、4月）、
・漆工品（徳川美術館、4月）、
・建造物彩色（平等院 5～7月）、
・絵画（絵金蔵、6月）、
・絵画（根津美術館、6月）、
・絵画（宇和島伊達文化保存会、8月）、
・漆工品（佐野美術館、9月）、
・絵画（三の丸尚蔵館、10月）、
・陶磁器（文化庁、4月）、
・経典（平等院、5～7月）、
・絵画（東大資料編纂所、6月）、
・出土金工品（群馬県、6月）、
・山車の装飾部材（那須烏山市、6月）、
・木彫像（平等院、9月）、
・一等水準点（国土地理院、9月）、
・金箔・蒔絵粉（中尊寺、12月）



金工品の材質調査

○構造調査

・絵画（根津美術館、6月）、
・絵画（個人蔵、9月）
・山車の装飾部材（那須烏山市、6月）、
・木彫像（文化庁、2年2月）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、所蔵先からの要請に迅速に応じて、材質調査・構造調査を実施した。調査後は速やかに調査報告書を作成し、文化財の材質・構造に関する助言を行った。②独創性においては、蛍光X線分析、X線透過撮影などの複数の手法を適用し、互いに補完しながら調査内容の検討を行った。③発展性においては、元年度に新規導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた基礎実験を実施した。④効率性においては、設置方法の改良を重ね、材質・構造調査の効率が向上した。⑤継続性においては、これまでの長年にわたる調査実績と、精度・信頼性の高い調査結果を継続的に報告している。よって、所期の計画を上回り、効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）調査・助言件数　20件	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って元年度も、これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術を駆使して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を継続的に行った。30年度に引き続き、据置型蛍光X線分析装置を用いた元素マッピングの分析調査も行っており、さらに元年度に新規導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた準備も進めている。当初の計画通りに順調に実行されていると判断した。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2521E-6

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○佐野千絵（センター長）、水谷悦子（研究員）、相馬静乃（研究補佐員）、小安友利恵（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

○国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査に関わる相談窓口は、元年度から文化財活用センターに一本化した。

当所では、公立美術館・博物館、社寺等、25 団体から、保存環境に関する相談を受け、対応した。

○相談内容は以下の通りであった。

企画展示室の温湿度制御（吹き抜けの影響）、空調改修、空調機の外調機騒音への対応、茶室の酸性物質への対応、美術館ではない場所での作品公開への対応、収蔵庫の温湿度制御の相談（1～3F をつなぐ未稼働の空調ダクト影響の把握）、一時保管施設のアルデヒド類発生への対応、フィルム類のガス燻蒸への対応（燻蒸後の保管方法含む）、収蔵庫改修、環境全般、カビへの対応、空気環境清浄化、汚染物質発生源調査、覆屋内の過乾燥、温湿度環境制御、収納箱（保存箱）、高湿度対策、窒素発生装置による低酸素濃度処置の加湿ほか

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、要請に基づきすみやかに対応し、あるいは専門家を紹介した。②独創性においては、低周波騒音対策など新しい案件にも専門家を紹介し、環境全般の問題に対して専門的な提案を実施した。③発展性においては、研究プロジェクトとのリンクを模索し、当研究所プロジェクト対象とする案件もあった。④効率性においては、多岐にわたる相談に対して、外部専門家と協力して対応できた。⑤継続性においては、依頼された案件を例年通りこなしており、長期的なビジョンで専門家を配置している。これらより順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・	（参考値）調査・助言館数　25 団体	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	当研究所の保存環境に係る研究成果の地域への還元の一手法として、地方公共団体への援助を進める目的で、全国の文化財保存施設等に対して、保存環境に関する援助・助言を実施した。すべての依頼に対応し、安全な文化財の保存と展示に資することができた。当研究所では保存環境の研究の一環として、研究的な対応が必要な環境改善が難しい事例を中心に対応し、地域への研究成果還元を進める。以上より、順調に計画通り実行されていると判断した。

【書式C】　　施設名 文化財活用センター　　処理番号 2521E-7

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	
保存担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○冨坂賢（保存担当課長）、吉田直人（保存担当室長）、間渕創（保存担当研究員）、木下美緒（事務補佐員）、野中昭美（保存担当併任研究員）	

【年度実績と成果】

・国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った（118件）。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査を行った（15件）。



収蔵環境の現地調査

・新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った（16 施設）。

・外部機関からの依頼に応じて、資料保存環境に関する研修会等での講義や講演を行った。（文化財虫菌害研究所、国文学研究資料館、高知県文化財団、国立民族学博物館、文化庁、以上 5 機関、計 8 演題）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、相談窓口の開設 2 年目となり、その役割が全国の博物館・美術館等に周知され、相談や講演等依頼件数が着実に増加した。②発展性においては、調査研究的な対応が必要な相談事案に対しては、積極的に現地調査を行い、知見を得ることに努めた。③効率性においては、相談依頼側の博物館・美術館等施設の設備や体制を十分に勘案し、現実的かつ実効性が最大限見込める改善策等の提示を行った。④継続性については、新築・増改築に関する相談案件に対しても、竣工、オープン後の環境についても報告を受け、必要な対応を行うよう努めた。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	A	A	A	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	保存環境に関する相談件数：118件 新築・増改築に関する相談施設数：16 施設	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って、保存環境管理や施設建築に関する全国の博物館・美術館等からの相談や協議に対応し、また外部機関からの依頼講演・講義にも応じ、文化財の保存活用の質的向上に寄与したため、順調と判断した。 2 年度以降も、着実な対応を継続し、かつ調査研究的な対応を行う案件に関しては、その知見を積極的に公表するよう、事業を進めていきたい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-1

中期計画の項目	2-（５）－②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○渡辺晃宏（都城発掘調査部副部長）ほか	

【年度実績と成果】

・発掘調査の概要は下表の通り

次数	遺跡名	調査期間	面積	主な検出遺構・調査所見
620	平城京一条北大路、平城京北方遺跡	2年1月7日～14日	65㎡	近世礎石など

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、奈良県・奈良市からの要請に対し、適切かつ迅速に対応することで、文化財保護行政に資することができた。②発展性においては、遺構面の把握や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の保存対策に資する情報を得ることができた。③効率性においては、発掘調査・立会調査を、作業スケジュールの調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を進めることができた。④継続性においては、平城宮・京内に広く広がる遺跡の情報を、着実に蓄積することができた。以上から、計画通り要請に応じて的確に協力援助を実施した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** 参考値） 立会調査件数：32件、日数：のべ85日	定量評価

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	地方公共団体からの要請に応じて、適宜に適切に対応して文化財保護に資する活動を行ったことから、計画通り順調に進捗していると判断した。 2年度以降も、様々な社会情勢の変化に対応しつつ、多様な要請に対して適切に対応して、遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。

【書式Ｃ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2521F-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○玉田芳英（都城発掘調査部部長）、尾野善裕（同考古第二研究室長）、清野孝之（同考古第三研究室長）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）ほか	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区で地方公共団体が行う発掘調査等への援助事業は 12 件で、いずれも土木工事に伴う事前調査や立会調査である。緊急を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮及び飛鳥地域の考古学的研究についての基礎資料を蓄積した。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
第 201-1 次	橿原市四分町	水路整備	21.1 ㎡	7 月 23 日～7 月 30 日	古墳時代の流路を検出
第 201-2 次	橿原市四分町	水路整備	27.0 ㎡	2 月 27 日・2 月 28 日	顕著な遺構を認めず
第 201-3 次	橿原市別所町	水路整備	195.0 ㎡	11 月 18 日～12 月 12 日	南北溝等を検出
第 201-4 次	明日香村豊浦	門扉設置	16.7 ㎡	9 月 9 日	顕著な遺構を認めず
第 201-5 次	橿原市高殿町	個人住宅	15.2 ㎡	10 月 21 日～10 月 31 日	土坑・斜行溝を検出
第 201-6 次	橿原市城殿町	畦畔整備	37.0 ㎡	1 月 9 日～1 月 17 日	顕著な遺構を認めず
第 201-7 次	橿原市高殿町	看板設置	4.0 ㎡	12 月 18 日～12 月 18 日	顕著な遺構を認めず
第 201-8 次	橿原市醍醐町	柵の設置	3.2 ㎡	11 月 19 日～11 月 19 日	顕著な遺構を認めず
第 201-9 次	橿原市醍醐町	倉庫建替	15.1 ㎡	2 年 1 月 14 日～1 月 21 日	顕著な遺構を認めず
第 201-10 次	明日香村飛鳥	水路整備	126.0 ㎡	2 年 2 月 10 日～2 月 14 日	顕著な遺構を認めず
第 201-11 次	明日香村	公園整備	4.5 ㎡	2 年 2 月 20 日・2 月 26 日	顕著な遺構を認めず
第 202 次	橿原市南浦町	道路付替	607.0 ㎡	11 月 18 日～2 年 3 月 31 日	溝・建物等の遺構群を検出

年度計画評価	A

【評定理由】

評定理由は次のとおり。①適時性は地方公共団体からの要請に基づき、水路改修及び道路付替の事前調査を適時適切に実施したことからＢとした。②発展性は橿原市別所町の調査（第 201-3 次）において、30 年度に引き続き条坊遺構を検出できたことからＡとした。③効率性は農閑期に集中する受託事業の発掘調査（第 201-3 次・第 201-5 次・第 201-9 次・第 202 次）を遅滞なく適切に遂行したことからＡとした。④継続性は飛鳥・藤原地域の調査を 50 年以上にわたり続けていることからＢとした。以上から、事業の進捗状況は年度計画以上であると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	A	A	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・援助（調査件数）10 件 ・出土遺物：軒瓦 9 点、丸・平瓦 14 箱、土器 15 箱ほか ・論文等数：4 件（ア～エ）	―

ア　清野陽一ほか「藤原宮朝堂院西地区の調査―第 201-1 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）
イ　大林潤ほか「藤原宮外周帯の調査―第 201-3 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）
ウ　土橋明梨紗ほか「藤原宮東南官衙地区の調査―第 201-5 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）
エ　和田一之輔ほか「藤原京左京八坊三坊東南坪―第 202 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	我が国古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整を適切に図りながら、関係自治体と緊密に連携して今後も継続的に進めてゆく予定である。元年度は、地方公共団体からの要請に応えて、適宜必要な学術的調査を実施し、調査成果を迅速かつ着実に公開してきており、中期計画に沿って順調に成果を上げている。いずれの調査も周到な準備のもとに適切に実施したもので、予想以上の成果をあげることができたため、Ａと評価する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○松村恵司（所長）**	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

現在就任している専門委員会委員（一部）

・若桜町伝統的建造物群保存検討委員会委員（鳥取県八頭郡）
・四條畷市飯盛城跡の調査研究に関する専門委員会委員（大阪府四条畷市）
・史跡毛利氏城跡保存活用計画策定委員会委員（広島県安芸高田市）
・史跡板東俘虜収容所跡保存活用検討委員会委員（徳島県鳴門市）
・史跡岐阜城跡整備専門委員会委員（岐阜県岐阜市）
・国指定史跡市尾墓山古墳・宮塚古墳整備検討委員会委員（奈良県高取町）
・蓮ヶ池横穴群保存整備専門委員会委員（宮崎県宮崎市）
・史跡五色塚（千壺）古墳　小壺古墳整備基本計画策定委員会委員（兵庫県神戸市）
・丸亀市史跡丸亀城跡調査整備委員会委員（香川県丸亀市）
・今城大塚古墳修復検討委員会委員（熊本県御船町）
・大分元町石仏保存整備委員会委員（大分県大分市）
・吉岡銅山関連遺跡調査委員会委員（岡山県高梁市）
・長者屋敷官衙遺跡整備指導委員会委員（大分県中津市）
・山陽道野磨駅跡史跡整備基本計画策定委員会委員（兵庫県上郡町）
・周防国府跡等官衙遺跡保存整備検討会委員（山口県防府市）
・佐貫石仏保存管理活用検討委員会委員（栃木県塩谷町）
・伊東市江戸城石垣石丁場跡保存活用委員会委員（静岡県伊東市）
・旧西尾家住宅修理専門会議委員（大阪府吹田市）
・赤穂城跡整備委員会委員（兵庫県赤穂市）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。

①適時性においては、地方公共団体の要請に対し、適時・適切に対応した。②独創性においては、当研究所独自の専門知識を生かし各委員会に従事した。③発展性において、多様な要請に対応し今後の事業発展に貢献した。④継続性において、継続的に検討が必要な委員会等は、再任・任期の延長によって継続的に協力している。総じて、年通じて出張回数も多く、要請に応じた的確な対応をとることが出来た。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・(参考値) 出張依頼を受けた件数：238 件（委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等）	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言を求められ、適時・適切に対応することができた。当研究所に対する社会的要求に応えるべく、今後も継続的に対応し、貢献していく。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2522E

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	
東京文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

○国・地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務
・被災資料有害物質発生状況調査業務
・文化遺産国際協力コンソーシアム事業
・世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業
・文化財の英語表記に関する調査研究事業
・文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」
・文化遺産保護国際貢献事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」
・文化遺産保護国際貢献事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」
・シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（紙資料）」
・シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法）」

このほか、一般財団法人日本航空協会ほか3機関と共同研究を行った（計4件）。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等の要請に応じて、喫緊の研究課題を的確に遂行することができた。②独創性においては、我が国の文化財研究の拠点としてこれまで当研究所が蓄積してきた調査・研究の実績を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究に取り組むことができた。③発展性においては、他機関等との共同研究及び受託研究を積極的に実施した。④効率性においては、多様な研究課題の実施に際し、所内適任者による効率的な調査を実施することができた。⑤継続性においては、国宝高松塚古墳壁画及び特別史跡キトラ古墳の調査業務をはじめとする、これまで当研究所が受託してきた研究課題を元年度も継続して実施することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・	（参考値）受託研究　10件 共同研究　4件	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものと考える。 2年度以降も、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関との共同研究及び受託研究に取り組んでいく。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2522F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】**○松村恵司　(所長)	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、以下のような受託研究等を行った。

・湯浅町重要建造物調査研究業務　(湯浅町)
・史跡　飛鳥寺跡に隣接するバイパス水路工事の発掘調査　(奈良県中和土木事務所)
・第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託　(国土交通省近畿地方整備局)
・第一次大極殿院南門復原にともなう管理施設予定地の発掘調査　(国土交通省近畿地方整備局)
・東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務　(東大寺)
・元年度文化遺産保護国際貢献事業実施委託業務(カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業)　(文化庁)
・特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務　(文化庁)
・特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務　(文化庁)
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務　(文化庁)
・31 年度二国間交流事業共同研究　物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地　((独)日本学術振興会)
・京都市の文化的景観保存計画策定調査　(京都市)
・長登 銅山跡出土木簡の保存処理等総合的研究　(美祢市)
・明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究　(明日香村)
ほか

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価した

①適時性において、地方公共団体等の要請に応じて実施業務に適時・的確に対応した。②独創性において、独自の技術力そして唯一無二の専門性を生かして業務を遂行した。③発展性において、実施業務は多種多様であり、全国の地方公共団体等の今後の保存や活用の業務に貢献した。④効率性において、受託業務にかける時間と人力等を効率よく配置し遂行した。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・受託調査研究受入・実施件数　48件　355,823,969円　(30年度:35件　299,269千円)	定量評価 —

中期計画評価	B

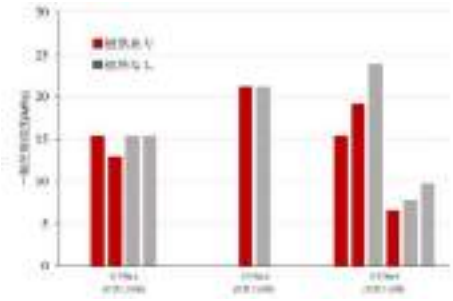
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	4年目である元年度も地方公共団体等の要請に基づき、当研究所の培ってきた調査研究の成果を活かし、的確に受託研究を遂行し、受入件数も増加し順調に推移している。今後も、他機関と連携・協力体制を構築しながら、積極的に文化財に関する調査研究等に取り組んでいく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2523F

中期計画の項目	(5)-②-3)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
プロジェクト名称	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員）	

【年度実績と成果】

・28 年（2016 年）熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会で組織された検討委員会に職員を委員として派遣した。
・31 年 1 月に発生した地震により被災した和水町の江田船山古墳並びに塚坊主古墳の復旧支援のため、職員を委員として派遣した。
・元年台風 19 号による浸水被害を受けた川崎市市民ミュージアムの文化財レスキュー支援のため、職員を派遣した。
・10 月 31 日に発生した火災により被災した首里城の地下遺構の保存に関する指導助言のため、職員を派遣した。また、その修理のための基礎データとして、地下遺構の琉球石灰岩に対して非破壊強度試験を実施した。



首里城石材簡易針貫入試験結果

年度計画評価	B

【評定理由】

以下の各観点から評価を行った。①適時性：災害発生後に関係機関と連絡をとり、情報収集に努め、要請に応じて迅速に対応した。②独創性：火災により被災した石灰岩製の遺構の強化処置法として新規の処置法の検討に着手した。③発展性：地震により被災した古墳の復旧方針の策定は、それぞれの古墳が有する構造的特徴および被害状況により大きく異なる。被害状況の調査を通して、各古墳の復旧方針を検討することは今後、発生が想定される地震災害時の復旧対策においても重要な指針を与えるものということができる。④効率性：被害状況を迅速に把握するための三次元計測等を応用した。また、教育委員会及び関係機関とのネットワークを活用して適切な対応を実施した。⑤継続性：地震により被災した古墳の復旧は長期にわたる。職員を各市町が組織した委員会に委員として派遣することにより、継続して復旧支援に寄与するものである。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	委員としての職員派遣数：６人（和水町、玉名市、熊本市、嘉島町、御船町、氷川町）（アーイ） 発災時の職員派遣数：３人（川崎市、那覇市）　シンポジウム・セミナー：２件	B

ア　高妻洋成・中島志保「日本における文化遺産の防災」第三届建築遺産保護技術国際検討会　6 月 15 日
イ　高妻洋成「パネルディスカッション」文化財防災ネットワーク推進事業セミナー　11 月 19 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	頻発する地震や水害に加え、大規模な火災により被災した文化財の復旧支援に迅速にかつ継続的に取り組んだことから、順調に事業を進められていると判断し、中期計画の評価をＢとした。2 年度より運営費交付金も配分されることから、今後はさらに関係機関間のネットワークを強化するとともに減災、レスキュー及び復旧復興における技術的開発に取り組んでいく予定である。また、文化財保護法の改正を受け、地域文化財の保存と活用における文化財の危機管理体制の確立にも取り組んでいく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-1

中期計画の項目	（５）－③－１）	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	２－（５）－③－１）	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)　文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○菊本 惠二（研究支援課長）今西康益（研究支援課宮跡等活用支援係係員）、江川　正（連携推進課経営戦略係長）、）ほか２名	

【年度実績と成果】

（１）特別史跡平城宮跡内及び藤原宮跡内の現状等について、情報提供及び助言
- 消防訓練実施への協力
- 平城宮跡歴史公園第一次大極殿施設復原整備工事への協力
- 第一次大極殿復原整備工事関係資料提供等
- 発生事案の報告及び対応
- 平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会への参加
- 平城宮跡保存・活用連絡協議会及び WG への参加

（２）平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施
- 平城宮跡等草刈り管理業務
- 平城宮跡施設整備計画の情報提供等
- 復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応
- 宮跡内植栽管理への助言
- 国有地管理への助言
- 発生事案への報告及び対応

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化庁や国土交通省からの要望に対し、これまでの方針や過去の経緯等の情報提供及び必要な助言を適時的確に行い、30 年度と同様の実績を上げた。また、事件事故等の事案に迅速に対応した。②発展性においては、文化庁、国土交通省等の委員会等への積極的な参加・協力による情報共有を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。③効率性においては、過去の維持管理及び修繕等事業毎に整理された情報を迅速に提供した。④継続性においては、整備内容、発生事案等事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供できるよう事業進捗に協力した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・各種会議への参加件数（公園整備関係 1 件） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁 25 件、国土交通省 25 件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁 6 件、国土交通省 6 件）	定量評価 ―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由及び今後の見通し	文化庁施設の公開・利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備・維持管理及び修繕等の相談に対応している。そして、文化庁施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っている。今後も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-2

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（展示企画室長）、廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、座覇えみ（展示企画室アソシエイトフェロー）、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

平城宮いざない館第４展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について、国土交通省国営飛鳥歴史公園ならびに管理センターに協力を行なった。

・奈文研所蔵品の貸出　369 件
・改修すべき箇所の提示と改修：20 か所
・展示物の管理
　日報の作成、データロガーによる温湿度モニタリング、貸出等対応件、
・専門知識による助言・協力・監修：31 件
・質問・案内対応：65 件
・平城宮跡資料館、大極殿における幢幡特別展示との共同事業の企画・実施
　ワークシート作製 3 件、通路でのミニ展示 1 回、チラシ配布

年度計画評価	A

【評定理由】

① 適時性においては、30 年度行った開館 1 年目の修正・訂正後に、新たに確認、発生した改修箇所を指摘、11 月 11 日に改修した。これにより、いざない館の展示はおおむね万全なものとなり、順調な運営に資することができた。また、10 月の即位礼正殿儀に合わせて、国交省、管理センターの依頼に基づき、大極殿で行っていた幢幡レプリカ特別公開へいざなうミニ展示を行った。
② 発展性においては、今後、平城宮跡資料館を中心する宮跡内諸施設との連携した企画を実施、平城宮跡の一体的な活用を一歩進めた。
③ 効率性においては、平城宮跡資料館の展示とのコラボ企画をおこなうなど、効率的に両館の活動をサポートした。
④ 継続性においては、展示室 4 の基本構想作成段階からかかわり続け、いざない館開館後も学芸業務を受託しており、より長期の協力を行なうことができる。
以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・平城宮いざない館年間来館者数：218,684 人	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由及び今後の見通し	いざない館における国交省・管理センターとの関係も良好であり、協力の内容もより多岐にわたるものになってきた。順調であることからＢ評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-3

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
プロジェクト名称	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、若杉智宏（学芸室研究員）、荻山琴美（学芸室アソシエイトフェロー）ほか5名	

【年度実績と成果】

・キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行った。
・キトラ古墳壁画の第11回公開事業（5月18日～6月16日）、第12回公開事業（7月20日～8月18日）、第13回公開事業（9月21日～10月20日）、第14回公開事業（2年1月18日～ 2月16日）を実施した。各公開では壁画とともに解説パネル・出土遺物レプリカ・模型等を展示した。また、壁画の解説映像の製作・上映を行った。
・壁画公開期間にあわせてキトラ天文図を解説する移動プラネタリウムのイベント（10月17日～20日、2年2月7日～2月16日）を実施した。
・壁画公開時にチラシ、ポスター、解説リーフレットを作成した。解説リーフレットは英語、中国語（簡体字・繁体字)、韓国語を毎回用意して外国語対応を充実させた。
・壁画国宝指定記念のチラシ、ポスターを作成し告知した。また記念として石室のペーパークラフトを作成し、第13回公開参加者に配布した。ペーパークラフトを用いたワークショップを開催し、ファイバースコープ体験も行った。
・壁画非公開期間においても展示室の公開を実施した。キトラ古墳石室模型や中国の天文図拓本などを展示した。お正月展示にあわせて「十二支　子」の解説シートを作成した。
・2年2月27日～3月15日を臨時閉室とした。
・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センター、飛鳥保存財団と、連絡調整等のため月1回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行った。広報等についても協力した。



ペーパークラフトちらし

年度計画評価	A

【評定理由】

元年国宝に指定されたキトラ古墳壁画の保存管理を適切かつ効率的に継続している（④効率性⑤継続性)。国宝指定記念の広報と石室ペーパークラフトの作成は①適時性、②独創性に特にすぐれる。ワークショップが好評だったので今後の③発展性が大いに期待できる。独自映像のプラネタリウムも好評で、②独創性、③発展性、⑤継続性を高く評価できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・壁画公開実施　4回　・解説シート　1　・協議等回数　計12回 ・リーフレット　4（ア～エ）　・移動プラネタリウム　2回	―

ア『令和元年度　キトラ古墳壁画　第11回公開』5月18日
イ『令和元年度　キトラ古墳壁画　第12回公開』7月20日
ウ『令和元年度　キトラ古墳壁画　第13回公開』9月21日
エ『令和元年度　キトラ古墳壁画　第14回公開』2年1月18日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由及び今後の見通し	公開する壁画が5面と限られる中で、ポスターや展示室の造作を毎年変えるなどの努力を継続している。天井壁画の最古の天文図を解説するプラネタリウム企画や、石室ペーパークラフトなど、他ではできない独自企画を実施していることも高く評価できる。 今後もキトラ古墳の魅力をわかりやすく伝える、オリジナリティの高い企画を実施していくことで、国宝キトラ古墳壁画の公開を軸としながら、多様な魅力を生み出すことが期待できる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2532F

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○貴村好隆（連携推進課長）、菊本恵二（研究支援課長）、溝端靖秀（連携推進課課長補佐）	

【年度実績と成果】

○ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークへの協力

ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの共催、後援事業等において、人員及会場提供等の協力を行った。

・第 17 回平城宮跡クリーン大会（共催）4 月 6 日　参加者数：180 人
・第 38 回平城宮跡歴史講座（後援）（テーマ：『平城京の大寺』シリーズ第 1 回－西大寺、西隆寺－　講師：舘野和己(近つ飛鳥博物館館長)）5 月 18 日　参加者数：132 人　平城宮跡資料館
・第 39 回平城宮跡歴史講座（後援）（テーマ：『平城京の大寺』シリーズ第 2 回－薬師寺－　講師：寺崎保広（奈良大学文学部教授））9 月 29 日　参加者数：149 人　平城宮跡資料館
・第 40 回平城宮跡歴史講座（後援）（テーマ：『平城京の大寺』シリーズ第 3 回－法華寺－　講師：市大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授））2 年 1 月 25 日　参加者数：132 人　平城宮跡資料館
・「平城京歴史講座」（講師派遣協力）（「西大寺金堂院とその周辺の発掘調査」講師：浦蓉子(奈良文化財研究所研究員)）2 年 1 月 11 日　参加者数：56 人　平城宮いざない館
・秋の遺跡見学会への協力（講師派遣：小田裕樹研究員）10 月 27 日　参加者数：26 人
・平成 30 年度平城宮跡歴史公園ガイド研修会への協力（研修講師の派遣：渡辺晃宏副所長）12 月 14 日　参加者数 76 人
・ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月 1 回開催、年計 12 回開催）
・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省４者での会議：2 か月に 1 回開催、年計 6 回開催）


職場体験（発掘現場）

○周辺自治会等への協力

自治会主催の歴史教室への講師派遣、周辺中学校の職場体験への協力を行った。

・「佐保川地域ふれあい会館の歴史教室」（佐保川自治連合会）への講師派遣
　渡辺副所長（都城発掘調査部副部長）「木簡でめぐる平城宮」（平城宮現地見学）5 月 11 日　参加人員　36 名
　坪井アソシエイトフェロー（遺構研究室）「第一次大極殿院南門の復原～工事までの道のり～」7 月 13 日　参加人員　27 人
　大澤研究員（考古第二研究室）「儀式遺構の変遷と平城京遷都」9 月 14 日　参加人員　31 人
　岩戸主任研究員（考古第三研究室）「古代の屋根の守り神」11 月 9 日　参加人員　24 人
　馬場室長（史料研究室）「平城宮跡保存の歴史」2 年 1 月 11 日　参加人員　30 人
・職場体験への協力
　・11 月 7 日～8 日　富雄中学校（参加人数　3 人）、11 月 7 日～9 日　富雄南中学校（参加人数　3 人）、11 月 14 日～16 日　都跡中学校（参加人数　3 人）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、ＮＰＯ法人と継続して協力し、平城宮跡の清掃や普及活動を行うと共に、ＮＰＯ法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月一回実施した。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴い情報共有、意見交換を行うためＮＰＯ法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との 4 者会議を開始したこと等により連携協力関係が進んでいることからＡ評価とした。②発展性については、ＮＰＯ法人の歴史講座等の支援や、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、広く情報発信を行うことができた。③効率性については、ＮＰＯ法人の共催、後援事業において、当研究所の施設を有効かつ効果的に活用できた。④継続性については、ＮＰＯ法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。以上により、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
		—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由及び今後の見通し	30 年度に引き続き、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークの行う活動に協力すると共に、周辺自治会等の活動への協力も継続的に実施した。今後も引き続き、平城宮跡の有効な利活用や情報発信を目的とした同法人や周辺自治会等の活動に、協働して取り組んでいく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2541E

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、早川泰弘（副センター長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）ほか	

【年度実績と成果】

○元年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜１限）　２単位　朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則　18 人（聴講３人）
修復計画論　（前期、木曜１限）　２単位　朽津信明・安倍雅史　9 人
修復材料学特論（前期、木曜２限）　２単位　早川泰弘・早川典子　10 人
保存環境学特論（後期、火曜１限）　２単位　犬塚将英・佐藤嘉則　6 人
文化財保存学演習
講師：犬塚将英　「石造文化財表面の状態調査のための実測」
日時：6 月 4 日(火)13～17 時、18 人

○入学試験

令和元年度東京藝術大学大学院美術研究科（博士課程）入学試験を実施し、2 年 2 月 11 日に入学試験及び面接を実施して、合格者１人を決定した。

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11 回）、入試合同判定会議（2 回）、博士・修士学位審査会への協力



保存環境計画論の授業風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化財保護法の改正や最近起きたばかりの災害に関する情報など、最新の情報を盛り込んだ各種授業を展開できた。②独創性においては、海外の現場で近年行われたばかりの修復や保存事業について講義し、これは通常の大学教育で不足している部分であり独創性がある。③発展性においては、入試で博士課程の合格者を確保し２年度からさらに教育の充実が期待されることになった。④効率性においては、引き続きいくつかの講義を藝大の校舎内で行い、学生が効率的に学べる環境を実現した。⑤継続性においては、藝大との協力関係を維持することによって、最新の研究成果を若手人材育成に有効活用できている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・開講時間：　前期　火曜１限、木曜１限、木曜２限　/　後期　火曜１限 ・開講回数：90 分×15 回、受講者数：延べ 46 人 ・開講時間　1 限 9：00～10：30　2 限 10：40～12：10　3 限 13：00～14：30 ・開講回数　計４コマ　各２単位	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の４年目として、文化財保存学専攻他教室に在籍している修士・博士学生の教育にも協力し、大学側からの評価も高く、当初計画通りに遂行できた。今期は新任教員が講義を受け持つことで、大学からの要望により有効に応えていけるようになっている。また新規に博士学生の受け入れが決まっており、次期中期計画の中で博士論文まで作成可能の見込みである。以上の理由から、中期計画の４年目として順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2541F

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・奈良女子大学大学院：比較文化学（文化史論）
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○松村恵司（所長）	

【年度実績と成果】

○客員教授・准教授として学位審査及び各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を実施。

京都大学大学院人間・環境学研究科

・玉田 芳英「文化・地域環境方法論」「共生文明学研究Ⅰ・Ⅱ」「原始・古代精神文化論 1」「文化遺産学演習 2A・2B」
・高妻 洋成「文化・地域環境方法論」「共生文明学研究Ⅰ・Ⅱ」「保存科学論 2」「文化遺産学演習 5A・5B」
・尾野 善裕「文化・地域環境方法論」「共生文明学研究Ⅰ・Ⅱ」「遺物調査法論 1」「文化遺産学演習 1A・1B」
・馬場 基「文化・地域環境方法論」「共生文明学研究Ⅰ・Ⅱ」「史料学論 2」「文化遺産学演習 3A・3B」
・山﨑 健「文化・地域環境方法論」「共生文明学研究Ⅰ・Ⅱ」「環境考古学論 2」「文化遺産学演習 4A・4B」

奈良女子大学大学院人間文化研究科

・渡邉 晃宏「歴史資料論Ⅰ・Ⅱ」
・今井 晃樹「文化財学の諸問題Ⅰ・Ⅱ」
・神野 恵「歴史考古学特論Ⅰ・Ⅱ」

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、本務において得た最新の研究成果などをもとに、研究指導を行った。②独創性においては、当研究所が長年培ってきた専門知識を教授することができた。③発展性においては、連携大学院における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。④継続性においては、大学との連携協定を基に長年継続しており、継続的に実施することができた。文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画通り寄与することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・受入学生数 京都大学　12 人 奈良女子大学　6 人	定量評価 —

中期計画評価	B
中期計画記載事項	連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由及び今後の見通し	連携大学院協定に基づき、計画的かつ継続的に実施できた。今後も、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与するため、学生に対して研究指導を実施していく。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2551

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
1)体制づくり
地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。
・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
・機構各施設が地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進する。
・災害発生時の迅速な救援活動を実現するため、地域間連携・組織間連携のガイドライン策定を行う。
・機構が国内ネットワークの推進役を担いうる体制の構築に関する検討を行う。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 本部事務局文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	室長　岡田健

【実績・成果】
1)
a.常設体制による事業実施を目指し、文化庁へ概算要求を提出し、令和2年度から運営費交付金によって継続実施されることが決定した。
b.文化遺産防災ネットワーク推進会議（参画機関24団体）：第10回開催（5月29日）・第11回開催（2月4日）［推進室］
・推進会議では、推進事業の活動状況と参画機関による情報交換等を行い、提案された「文化遺産防災ネットワーク推進会議 活動ガイドライン」について承認された。
・台風19号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫の水没事故に対しては推進会議参画団体のうち10団体が集合して救援活動を行うなど、実践的な成果を挙げるに至った。
c．文化遺産防災ネットワーク有識者会議：第10回開催（5月25日）・第11回開催（8月22日）［推進室］
・有識者会議では、推進事業の活動状況と「文化遺産保護の目的と方法～文化遺産防災への視点」を課題とした各委員からの報告と討論が行われた。討論の全文を掲載した報告書を作成し、関係者に配布した。
d．活動ガイドライン策定ワーキンググループ（WG）会議（元年度：4回開催）［推進室］
・実際の自然災害時に対応するために「推進会議」を中心とした連絡体制で情報を収集し、文化庁と連携しつつ具体的な対応策を講じることを示した「文化遺産防災ネットワーク推進会議 活動ガイドライン」を、WG委員5人に推進室メンバーを加えて協議し完成させた。文化庁主催の都道府県文化財担当者を対象とした防犯防火研修会（6月21日）においてその概要を紹介し、各県が取り組む文化財保存活用大綱策定作業において文化財防災の広目に国立文化財機構が運営する文化財防災ネットワーク推進事業との連携について記述することを提案した。
e．4博物館・2研究所が分担して全国を6つのブロックに分けて担当し、都道府県における文化財防災の体制と課題の調査、県内各種会合へ参加、ブロック内協議会等の開催を行った。［国立文化財機構6施設・推進室］
・北海道・東北（東文研）：7道県に訪問調査（16件）。北海道・東北ブロックにおける文化財防災に関する研究協議会（6月21日）を開催。
・関東・甲信越（東博）：訪問調査・意見交換（22件）。3県の会合に参加（3件）。情報収集（10件）。第1回地域の文化財防災体制の確立に向けたブロック研究会（10月3日）、文化財保存活用大綱の策定に向けた情報交換会（関東甲信越）（2回 8月16日、1月23日）を開催。
・中部圏・近畿ブロック（京博）：訪問調査（7件）。各府県の会議に出席（3件）。衛星携帯電話の運用訓練・取扱い講習（1月27日）を実施。
・中部圏・近畿ブロック（奈良博）：訪問調査（4件）。各府県の会議に出席（7件）。文化財防災に関する意見交換（2件）。
・中国・四国（奈文研）：聞き取り調査、意見交換、情報収集（8件）中四国9県の研究協議会を開催（1月20日、21日）。
・九州（九博）：訪問調査（7件）。各県の会議に出席（5件）。防犯・防災対策研修会（6月21日）、福岡県建築士会へリテージマネージャースキルアップ講習会（7月27日）に参加。
f．自然災害発生時の行動に結び付けるための地域の実情に即した「活動ガイドライン」の作成について検討した。［推進室］
・各都道府県が取り組む「文化財保存活用大綱」の策定に、個々の地域の文化的・歴史的特徴を理解した上での策定になるよう助言を行った。
・都道府県連携体制一覧表の作成に着手し各施設へ作成の指示をした。
・各県が設置する「文化財保存活用大綱」策定に係る委員会の委員へ就任（静岡県、大分県、福岡県、滋賀県、京都府）。
g．国内で発生した自然災害における文化財被災情報の収集［国立文化財機構6施設・推進室］
・台風19号で被災した川崎市市民ミュージアムにおける収蔵品救出活動実施のための体制構築と、技術面での支援等を行った。
・各都道府県で発生した台風19号をはじめとした自然災害に対して、文化財被害に関する情報収集と支援活動を行った。
h．地方公共団体・文化財関連団体等の主催する講演会・研修会等への講師派遣
・JIA文化財修復塾 近畿支部 現地講座（8月25日）会場：今井まちなみ交流センター［推進室］、31年度全文協中国・四国ブロック文化行政主管課長会議（8月30日）会場：山口県政資料館〔旧県会議事堂〕［推進室・奈良文化財研究所］、立命館大学ユネスコチェア研修（9月11日、9月16日）会場：立命館大学歴史都市防災研究所［推進室］
・31年度第2回東京都市社会教育課長会文化財部会（3月15日）会場：小金井市前原暫定集会施設［東京国立博物館］
・東京都市社会教育課長会文化財部会埋蔵文化財担当者連絡会（9月26日）会場：武蔵野プレイス［東京国立博物館］
・愛知県文化財建造物担当者課題研修会（11月14日）、三重県文化財講習会（11月27日）［奈良国立博物館］
i．地域連携を重点に置いた研修会の開催
・文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財－現状の課題と今後の連携に向けて－」（11月19日）［九州国立博物館］会場：研修室　対象：都道府県の文化財等担当者、博物館・美術館学芸員等、受講者数：41人
j．国内の研究集会等に参加し、地域における文化財の保全や災害時の活動体制に関する情報収集や発表を行った。
・情報収集：全国消防長会東近畿支部予防業務研究会（6月18日）、地域ブロック研究会（10月3日）［推進室］
・文化財保存修復学会（6月22日）において、文化財防災ネットワーク推進事業の成果を発表した。
k．以下の報告書を刊行し、専門家及び一般市民の情報収集に貢献するため、各都道府県の教育委員会、国内の博物館、大学、図書館等に納本した。
・都道府県及び指定都市地域防災計画における文化財等の保全に関する記載一覧及び抜粋（30年3月）：80部（6月14日）［推進室］

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・動産文化財を対象とする推進会議参画団体のための活動ガイドラインの完成をみたことにより、都道府県に対して当推進事業との連携を積極的に推奨することが可能になった。 ・各地で開催する研修会や講演等を通じ、文化財防災のための地域連携の在り方や防災対策、被災文化財の保全方法など、広範な内容をもって事業の有用性を伝えることができた。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
1)体制づくり
有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・これまでの活動実績と、今後は動産・不動産、有形・無形、指定・未指定を問わない防災体制構築について取り組むとする展望が評価され、2年度以降の運営費交付金による事業実施が認められた。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 25527

中項目	2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を行う。
・全国の文化財防災の先進事例や地方指定等文化財情報に関する情報を収集・整理し、共有化を図る。
・文化財防災体制のあり方に関する調査研究を行う。
・国及び地方指定等文化財に関する全国文化財等データベースのデータ収集、全国文化財保護条例データベースの補完を進め、活用の方法を検討する。
・自然史標本リストの共有システムのモデルケースを提示し、歴史災害痕跡のデータベース等の運用・活用を進め、地域文化遺産リストに関する地図作成作業等の成果を公開し、広く文化財全般の防災ネットワークの構築に寄与する。
・文化財が被災した自然災害に関する事例集を作成し、公開する。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 本部事務局文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	室長　岡田健

【実績・成果】
2)
ア
a. 阪神淡路・東日本両震災の救援委員会記録の整理・分析研究を行った。[東京文化財研究所]
・阪神淡路大震災の救援委員会の活動に係る記録のデータを、確実に保存するため、資料のスキャンによるデジタル化を進めた。
・国土交通省のGISデータ「国土通知情報」からの展示施設情報を利用して、東日本大震災時のレスキュー実施先・浸水範囲等の情報と重ね合わせられることを確認した。
・救援活動の初動体制についてシュミレーションするための基礎情報の項目について協議検討を行った。
b. 歴史的建造物と動産文化財の一体的な防災・救援体制構築に関する研究を行った。[推進室]
・千葉県のヘリテージマネージャーの建物調査（6月17日）に同行し、課題等を検討した。
・建造物内での管理状況に関する調査、動産文化財を博物館等へ移動保管した場合の調査等（3件）を行った。
・千葉県建築士会と千葉県史料ネットとの試験的な連携活動を実施し、そこから課題点などを抽出するための検討会（9月19日）を開催した。
c. 文化財防災体制のあり方に関する調査研究として、各地でのシンポジウム・研修会等に参加し、関係団体への聞き取り調査を行った。[推進室]
・シンポジウム「災害と文化財・地域文化」（9月21日）会場：名古屋市博物館
・全文協中四ブロック行政主管課長会議（8月30日）、福島県被災文化財等救援本部会議幹事会（9月6日）、文化庁との文化財防災ネットワーク推進事業に関する打ち合わせ（9月9日）、台風15号による文化財被害に関する千葉県文化財・博物館等関係団体打ち合わせ会（9月26日）
d. 全国文化財等データベース・全国文化財保護条例データベースの構築を行った。[東京文化財研究所]
・都道府県のデータベース構築推進委員会を5ブロックに分けて開催し、データベース構築の進捗状況と課題を協議した。委員会を通じてネットワークを構築した。
・全国文化財等データベースに関しては有形分のデータの入力作業、全国文化財保護条例データベースはデータ補修を行った。
・アーカイブス用データの収集と音声・映像素材（各1件ずつ）のデジタル化を行った。
・都道府県の民俗文化財担当者が集まる文化庁の会議（5月31日）に出席し、文化財総合データベース事業の説明を行った。
e. 自然史標本リスト共有システムの確立のための調査を行った。[奈良文化財研究所]
・陸前高田市立博物館に仮保管されている津波により被災した市内貝塚出土自然遺物を調査し、汚損した袋の入れ替えやラベル情報等の記録類をデータ化して目録化作業を実施した。令和元年度は96袋分の被災資料について作業を完了した。
・地方自治体や歴史博物館等が所蔵している標本に関する情報収集を実施した。
f. 歴史的災害痕跡データベースの運用・活用を行った。[奈良文化財研究所]
・奈良県の遺跡を中心に既刊の発掘調査報告書の読み込み、データベース登録内容の抽出とデータカルテの作成、データ入力により災害痕跡データベースの拡充をおこなった。また、奈良県の被災履歴年表の作成を進めている。
・災害痕跡データベースのクラウドサーバー移管に伴うデータ入力・校訂・出力を含めた運用保守、維持管理についての技術的なテスト、今後の方針について委託業者と協議を進め拡充を図った。
・奈良文化財研究所が調査を行う藤原宮・京跡、平城宮・京跡の現場において、主に地震や洪水による地質の変形構造について、考古学的調査方法や記録補法への取り込み方について発掘調査担当者・部門と協議しながら調査を進めた。
・1年間を通し、金井東裏遺跡、木津川河床底遺跡、遺跡尾羽廃寺跡等に関わる埋蔵文化財関係者と災害痕跡の調査・記録に関わる協議、共同研究を進めた。
・リーフレット「現場でみつかる火山災害痕跡の活用」の作成を進めている。
g. 文化財が被災した災害に関する事例集の作成（歴史資料）を行った。[奈良国立博物館]
・30年度に策定した実施要項に基づき、文化財が被災した災害に関する情報収集を行うとともに、関連機関との関係構築を進めた。また、30年度に試作した「事例集」の雛形を修正するとともに、近時に発生した災害を対象とした「事例集」を更新・新規作成した。
h. 九州地区における近年の災害を対象として、文化財が被災した災害に関する事例集の作成を行った。[九州国立博物館]
・28年熊本地震や29年九州北部豪雨などの九州地区の被災文化財のその後について、福岡県、大分県、熊本県にて調査を行い、災害後の課題を検討した。
i. 文化財が被災した災害に関する事例集（自然史資料）の作成を行った。[奈良文化財研究所]
・これまでに刊行された被災自然史資料の救出活動に関連する文献を集成し、関連文献一覧表を作成した。収集した記事や論文、Webサイトは30年度分も含め合計163件にのぼる。
j. 都道府県との連携による文化遺産保全リスト・地図作成を行った。[奈良文化財研究所]
・和歌山県湯浅町、広川町での総合的リスト作成・地図システム作成の経験を活かし、和歌山県内の地方公共団体が行う文化遺産保全リストの作成に助言・協力を行った。
・全文協中国・四国ブロック文化行政主管課長会議での報告で文化遺産保全リスト・地図に言及し、岡山県、香川県からデモ版の利用希望があった。
・文化遺産保全地図（デモ版）マニュアルを改良した。また、文化遺産保全地図（デモ版）の報告と打ち合わせとあわせて、非公開版の総合的リストや地図システムについて、広川町（6/11）、湯浅町（6/27）と意見交換を行った。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・各種の文化財データベースの構築を進め、各種の災害による多岐にわたる文化財被害に備えるための防災データベースを確立しつつある。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・長年の課題である「歴史的建造物が被災した際の建造物内部に所在する動産文化財の保全」について、建築士会・文化庁建造物担当の理解を得てヘリテージマネージャー講習会での講義を実現したのを契機に、災害時の建造物被害について積極的に関与するに至ったのは、画期的な成果として評価できる。 ・各施設が取り組んできた特色ある文化財データベースは、データ収集から利用の段階に進みつつあり、平常時・災害発生時の活用が期待される。

【書式A】　施設名：国立文化財機構　処理番号：2552イウ

中項目	2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】

2)調査研究等の実施

イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。

・けいはんなオープンイノベーションセンターの施設を利用し、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点としての活用について研究を行う。

・自然災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置等の方法に関する劣化判断・応急処置等の方法や安定的保管のための保存環境に関する研究を行う。

ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。

・無形文化遺産総合データベースをデータ収集と公開を進め、これを活用して無形文化遺産の防災に寄与する。

・無形文化遺産の動態記録作成等を通じて、災害発生後の継承と無形文化遺産が地域の復興に果たす役割等に関する研究を実施する。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 本部事務局文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	室長　岡田健

【実績・成果】※［ ］内は、実施担当の施設・部署を表す。

2)

イ

a. 非常災害時に活用できる非常用収蔵庫の試験的な運用のため、けいはんなオープンイノベーションセンター内の二つの収蔵庫について、落下防止対策、浮遊菌等調査、温湿度管理等を実施し、安定的な保管管理のためのデータを取得した。［京都国立博物館］

b. 自然災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置等の方法や安定的保管のための保存環境に関する研究を行った。

・福島県文化財センター（白河館まほろん）の救出文化財一時保管庫のアセトアルデヒドの発生について、環境改善方法を模索するための環境調査を行い、サンプリングしたときの条件から計算した大気中濃度について分析・検討を行った。(5月8日)［東京文化財研究所］

・被災した水損資料についての乾燥工程又は海水損資料の脱塩工程を検討するため、水分移動係数及び平衡含水率を木材試料（3種）、紙試料（和紙7種、洋紙3種）で実測し、含水率変化や脱塩工程における塩水移動などを検討して応急処置の技術開発を行った。［奈良文化財研究所］

・台風19号により地下収蔵庫が水没した川崎市市民ミュージアムでカビが大量に発生した事態に対し、温湿度環境・カビの発生状況・空気中の浮遊菌量等を調査し、環境改善・作業者の健康管理に関して適切な指導助言を行った。(10月～3月)［東京文化財研究所］

ウ

a. 無形文化遺産総合データベースのデータ収集と公開を進めた。［東京文化財研究所］

・未指定まで対象とした無形文化遺産総合データベースに関して提出のあった33都道府県のうち26都道府県のデータ入力を行った。

・無形文化遺産情報発信・収集を目的としたウェブサイト「いんたんじぶる」を無形文化遺産総合データベースの導入サイトとして更新した。

b. 無形文化遺産の防災のための動態記録を調査及び作成を行った。

・被災後の民俗芸能の復興についての記録として、宮城県女川町の獅子振りの実演を記録した。(5月11日～12日 於：東京国立博物館)

・地域所在の民俗技術についての被災前の動態記録作成のモデル検討として、阿波晩茶（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財：指定名 四国山地の発行茶の製造技術）の記録作成調査（7月3日～6日、7月13日～16日、7月26日～29日、8月19日～21日）を行った。所在地域ごとにまとめた2本を公開用に作成（公開用は、記録映像DVD「阿波ばん茶」として刊行［東京文化財研究所］

・文化財保存技術である「調べ緒製作技術」について、被災前の予防・減災に資する記録作成のための記録調査を行った。(9月9日～10日 於：山下慶秀堂)［東京文化財研究所］

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	・文化財防災拠点として収蔵施設維持管理の試験的運用を順調に進めている。 ・被災文化財の保全処置及び保管環境に関する科学的な研究を進めている。集中豪雨で被災した紙資料の保全、カビの発生による環境汚染対策等、緊急性のある課題にも対応している。 ・無形文化遺産の防災に関する情報発信が強化され、機構としての特色を示している。

【中期計画記載事項】

巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。

2)調査研究等の実施

イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。

ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	・災害は様々な状況で発生するため、救出活動・保全処置に関わる課題は毎回異なっている。多岐にわたる研究を系統的に展開してきたことにより、緊急時の迅速な対応を実現する能力が着実に備わっている。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2553

中項目	2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
3)人材育成・事業啓発活動等の実施
・本事業での取組についてウェブサイト・パンフレット等を作成・更新して国内外への情報公開に努める。
・被災資料の応急処置等に関わる動画を作成し、公開する。
・文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。
・国際研修・シンポジウム等の実施・参加を通して、諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。
・人材育成・啓発活動等を行うための有効な教材の作成に着手する。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 本部事務局文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	室長　岡田健

【実績・成果】 ※［ ］内は、実施担当の施設・部署を表す。
3)
a．文化遺産防災ネットワーク推進会議の参画団体・関係団体と情報共有を図りながら、以下の通り情報公開を行った。［推進室］
・文化財防災ネットワーク推進事業の英語版ウェブサイトのコンテンツの簡略化と活動情報の追加更新、内容の充実化などのリニューアルを行った。(訪問者数182,485件)
・文化財防災ネットワーク推進事業を紹介した英文パンフレットの内容の追加更新し、英文を改訂し、レイアウトを刷新し、ICOM京都大会等で配布した。(1,000部)
・文化財防災ネットワーク推進事業の紹介パンフレットについて、元年度活動内容等の更新を行った。(2,000部)
b．被災資料の応急処置などに関わる動画の作成・公開を行った。［推進室］
・関係学会・博物館との共同により、自然史資料の応急処置動画（日・英）を作成し、ウェブサイトで公開した。日本語版の動画については、DVD-ROMとマニュアルハンドブックを作成し、実際の応急処置作業に活用いただけるよう、関係団体に配布した。
c．各地で開催される研究集会における情報収集［推進室］
・全国消防長会東近畿支部予防業務研究会（6月18日）、全国史料ネット研究交流集会（2月9日）
d．一般市民向けのシンポジウムを以下の通り開催した。
・シンポジウム「文化財を守り伝える2　東日本大震災から8年の今、これから」(10月26日)［京都国立博物館］
会場：けいはんなオープンイノベーションセンター2階ミュージアムホール、参加者数：30人
・文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「地域防災と文化財―身近にある文化財、それをまもり伝える意味」(12月7日)［推進室］会場：東京国立博物館 平成館大講堂、参加者数：134人
e．研修・研究会を実施し、防災・減災・レスキューといった視点から、被災文化財の応急処置等の技術の習得を促進した。
・文化財等防災ネットワーク研修（11月6日～7日）［奈良文化財研究所］
会場：奈良文化財研究所、対象：地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員、参加者数：16人
・文化財防災に関する研修「北海道内の文化財防災を考える」(12月19日)［東京文化財研究所］
会場：北海道立近代美術館、対象：地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員、参加者数：26人
f．文化財防災に関わる外国機関等と積極的に連携し、我が国の防災に関する経験を国際貢献に役立てた。［推進室］
・2020年度国際研修（中国）及び教育プログラム作成打ち合わせ（7月30日～8月2日 於：中国文化遺産研究院、山西省文物局）
・2019 大田 東アジア文化遺産保存国際シンポジウムにて発表を行った。(8月28日～31日) 会場：韓国・大田KT人材開発研修院他
・人材育成のための教育プログラム作成作業に資するため、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）主催「2019年度緊急時における文化財の応急処置に関する国際研修」に参加した。(11月11日～12月5日 於： ICCROM イタリア・ローマ)
g．人材育成・啓発活動等を行うための有効な教材の作成に着手した。［推進室］
・教育プログラムに関する打ち合わせ（4件）
・林美木子アソシエイトフェロー（東文研）をローマ文化財研究所（ICCROM）の文化財防災国際研修へ派遣（11月8日～12月8日）

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・文化財の保全技術に特化した専門家・担当者を対象とする研修だけではなく、「地域防災と文化財―身近にある文化財、それをまもり伝える意味」という包括的なテーマでシンポジウムを開催し、広く一般市民にも文化財防災に関する啓発を図った。アンケートでは「満足である」が7割以上となった。引き続き、地域との協力による多様かつ実際的な内容の活動を目指す。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
3)人材育成等の実施　文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・一連の研修・シンポジウムの実施、国外の専門家との交流によって、事業の基盤が確立した。人材育成のための教育プログラム作成作業について、国内の大学機関、行政機関との意見交換のほか、国際的な概念と方法論等を導入することを目的としてICCROMの研修へメンバーを派遣し、外国人専門家を招聘するなどし、より積極的に取り組み、2年度以降の作業に見通しが立ちつつある。

(受託事業)

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3112F-1	2-(1)-①-2)	湯浅町重要建造物調査研究業務	奈文研	文化遺産部	337
3112F-2	2-(1)-①-2)	重要文化財綿業会館保存活用計画調査研究業務	奈文研	文化遺産部	338
3112F-3	2-(1)-①-2)	高野町文化財保存活用地域計画調査	奈文研	文化遺産部	339
3112F-4	2-(1)-①-2)	「あわの至宝」調査・発信事業における建造物の調査	奈文研	文化遺産部	340
3112F-5	2-(1)-①-2)	湯浅町内歴史的建造物悉皆調査	奈文研	文化遺産部	341
3112F-6	2-(1)-①-2)	高山市料亭洲さき建造物調査	奈文研	文化遺産部	342
3112F-7	2-(1)-①-2)	名古屋鉄道株式会社所蔵貴重図面電子化の調査研究業務	奈文研	文化遺産部	343
3132F7-1	2-(1)-③-2)-ｱ	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	奈文研	都城発掘調査部（平城）	344
3132F7-2	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京左京二条二坊十四坪・十五坪・二条条間路の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	345
3132Fｲ	2-(1)-③-2)-ｲ	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	346
3133F-1	2-(1)-③-3)	京都市の文化的景観保存計画策定調査	奈文研	文化遺産部	347
3133F-2	2-(1)-③-3)	智頭の林業景観整備計画策定調査	奈文研	文化遺産部	348
3134F7-1	2-(1)-③-4)-ｱ	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	奈文研	埋蔵文化財センター	349
3134F7-2	2-(1)-③-4)-ｱ	「中世・近世石づくりのまち」調査研究事業	奈文研	埋蔵文化財センター	350
3212F	2-(2)-①-2)	八日市地方遺跡出土遺物の非破壊による内部構造調査（①-2)	奈文研	埋蔵文化財センター	351
3213F	2-(2)-①-3)	木造源実朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	352
3214F	2-(2)-①-4)	波怒棄館遺跡および台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	奈文研	埋蔵文化財センター	353
3215E	2-(2)-①-5)	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	東文研	保存科学研究センター	354
3221F-1	2-(2)-②-1)	X線CTを用いた金井下新田遺跡出土ウマ頭骨の撮像と立体構造データ作成	奈文研	埋蔵文化財センター	355
3221F-2	2-(2)-②-1)	X線CTを用いた金井下新田遺跡出土臼玉 一連資料の撮像と立体構造データ作成	奈文研	埋蔵文化財センター	356
3226F-1	2-(2)-②-6)	船原古墳出土遺物の構造調査	奈文研	埋蔵文化財センター	357
3226F-2	2-(2)-②-6)	松帆銅鐸・舌の調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	358
3226F-3	2-(2)-②-6)	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	359
3227F-1	2-(2)-②-7)	元町石仏の塩害を抑制する覆屋運用手法及び石仏からの脱塩手法に関する検討業務	奈文研	埋蔵文化財センター	360
3227F-2	2-(2)-②-7)	史跡闕鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	361
3230E-1	2-(2)-②-10)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	東文研	保存科学研究センター	362
3230E-2	2-(2)-②-10)-ｱ	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	東文研	保存科学研究センター	363
3230F-1	2-(2)-②-10)-ｱ	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務	奈文研	埋蔵文化財センター	364
3230F-2	2-(2)-②-10)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	奈文研	埋蔵文化財センター	365
3311E	2-(3)-①-1)-ｱ	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	東文研	文化遺産国際協力センター	366
3312E-1	2-(3)-①-2)-ｱ	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	東文研	文化遺産国際協力センター	367
3312E-2	2-(3)-①-2)-ｱ	令和元年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	東文研	文化遺産国際協力センター	368
3312F-1	2-(3)-①-2)-ｲ	2019年度文化遺産保護貢献事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	奈文研	企画調整部	369
3312F-2	2-(3)-①-2)-ｲ	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	370
3313E-1	2-(3)-①-3)	「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」運営実施業務	東文研	文化遺産国際協力センター	371
3313E-2	2-(3)-①-3)	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法）」	東文研	文化遺産国際協力センター	372
3320G	2-(3)-②	令和元年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		373
3431F	2-(4)-③-1)	日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）	奈文研	企画調整部・飛鳥資料館	374
3521F-1	2-(5)-②-1)	第一次大極殿院南門復原にともなう管理施設予定地の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	375
3521F-2	2-(5)-②-1)	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	奈文研	都城発掘調査部（平城）、企画調整部	376
3521F-3	2-(5)-②-1)	長登銅山跡出土木簡の保存処理等総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（平城）	377
3521F-4	2-(5)-②-1)	史跡　法華寺旧境内の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	378

3521F-5	2-(5)-②-1)	興福寺旧境内の発掘調査(614)	奈文研	都城発掘調査部（平城）	379
3521F-6	2-(5)-②-1)	重点地区平城宮周辺の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	380
3521F-7	2-(5)-②-1)	名勝　法華寺庭園の発掘調査（618）	奈文研	都城発掘調査部（平城）	381
3521F-8	2-(5)-②-1)	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡発掘調査による出土文化財の調査・研究及び報告書作成業務	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	382
3521F-9	2-(5)-②-1)	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	383
3521F-10	2-(5)-②-1)	特別史跡藤原宮跡（水路付替）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	384
3521F-11	2-(5)-②-1)	特別史跡藤原宮跡（別所町水路改修）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	385
3521F-12	2-(5)-②-1)	藤原京跡（南浦町道路改良）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	386
3521F-13	2-(5)-②-1)	日南市飫肥 歴史的建造物活用ガイドライン作成のための調査研究	奈文研	文化遺産部	387
3523E	2-(5)-②-3)	被災資料有害物質発生状況調査業務	東文研	保存科学研究センター	388
3523F	2-(5)-②-3)	古墳の石室及び横穴墓等の被災状況及び防災措置の調査研究委託業務	奈文研	埋蔵文化財センター	389
3531F-1	2-(5)-③-1)	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	奈文研	企画調整部	390
3531F-2	2-(5)-③-1)	古墳等の発掘調査による採取資料等を用いた展示活用に関する情報収集・分析業務	奈文研	企画調整部	391
3531F-3	2-(5)-③-1)	令和元年度　紀伊風土記の丘出土玉類自然科学分析業務委託	奈文研	埋蔵文化財センター	392
3531F-4	2-(5)-③-1)	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	奈文研	研究支援推進部	393
3531F-5	2-(5)-③-1)	特別史跡藤原宮跡（醍醐町個人住宅建築）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	394

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	湯浅町重要建造物調査研究業務　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：湯浅町(和歌山県) 受託経費：2,851 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 大林潤（都城発掘調査部遺構研究室主任研究員)、鈴木智大（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、前川歩（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、林良彦（客員研究員）			

【年度実績概要】

湯浅町は和歌山県中部の海岸線に位置し、古来より港町として発展するとともに、江戸時代以降有田地方の政治経済の中心地となり、醸造の町として名高く、旧市街地は湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区として保存され、国の重要伝統的建造物群保存地区となっている。

本調査事業は、上記保存地区内の主として醸造業者の建造物を調査し、これら建造物の価値の再評価を行うことを目的としたもので、30・元年度の 2 か年事業である。

調査対象とした家屋は、加納家、太田家、大本紀伊本苑、旧栖原家、北村家の 5 件で、30 年度は、以上 5 件について現地調査を行った。

調査対象とした 5 件のうち、加納家は江戸後期の主屋が江戸時代から近代にかけて拡大発展する経過があきらかになり、現在現役の醸造施設である醸造蔵をはじめとする醸造施設群も江戸時代から近代にかけて拡大発展する経緯をあきらかにした。

30 年度の調査成果にもとづき、元年度に報告書を刊行した。



湯浅町加納家外観



湯浅町太田家外観

【実績値】
調査野帳　100 枚
調査写真　約 5,000 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	重要文化財綿業会館保存活用計画調査研究業務　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：　一般社団法人　日本綿業倶楽部 受託経費：263 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 前川歩（都城発掘調査部遺構研究室研究員）、福嶋啓人（都城発掘調査部遺構研究室研究員）			

【年度実績概要】

当事業は、重要文化財綿業会館（大阪府大阪市）の保存活用計画改訂にかかる調査研究である。

綿業会館は、関西を代表する近現代の事務所建築として、15 年 12 月 25 日に重要文化財に指定されたもので、現在も現役の施設として活用されている。保存と活用を両立すべく、21 年に保存活用計画が策定されているが、再度、その詳細な価値を調査するとともに、その価値に基づき所有者にとって使用し易い管理マニュアルとしても使用し得る保存活用計画とすべく、その改訂作業を行ったものである。さらには、30 年に改正された文化財保護法（30 年 6 月 1 日成立、同 6 月 8 日公布、31 年 4 月 1 日施行）において、保存活用計画が認定計画となるのにともない、その趣旨に沿った改訂を行うこととなった。

現地調査によって建物内部の造作等の保存状況を調査し、あわせて綿業会館所蔵の諸資料の調査を行い、当該建物の建築過程、改造過程、保存状況を確認した。

調査により、改造の変遷をあきらかにするとともに、現存する個々の造作材・設備の新旧を明確にした。さらに資料調査等を通して、家具等の什器の新旧もあきらかにした。

その上で、改正文化財保護法における保存活用計画に則した内容となるよう、文化庁、大阪府、大阪市と綿密な協議を行い、改訂計画案を作成した。

なお、本計画は、2 年 3 月に、法定計画として答申された。



重要文化財綿業会館　2 階貴賓室



重要文化財綿業会館　6 階大広間

【実績値】
現地野帳　20 枚
設計図等電子化　167 枚
写真　5,800 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	高野町文化財保存活用地域計画調査　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：高野町 受託経費：672 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 鈴木智大（都城発掘調査部遺構研究室主任研究員）、目黒新悟（都城発掘調査部遺構研究室研究員）、山﨑有生（都城発掘調査部遺構研究室研究員）			

【年度実績概要】

高野町では、文化財保存活用地域計画の策定および高野山内本山および塔頭建築の指定促進を目的とし、当研究所に、町内歴史的建造物の悉皆調査を委託したものである。

高野山上では、伽藍・本山・塔頭内にあるすべての建物について、主として外観からの調査を行い、全建物のリスト化を行った。当調査により、高野山上の現状を把握した。伽藍・本山の主体は江戸末期火災後の一連の復興建築であり、その他塔頭では江戸時代の建物の他にも、明治期に建築された良質な建物群が良く残っていることが明確となった。2 年度以降、このなかから定まった視点で物件を抽出し、個別の建物について詳細な調査を行う予定である。

いっぽう、高野山上の上記境内以外の民間地及び町内全域の全建物を対象として目視調査を行い、外観からの判断で築後 50 年以上経過している伝統形式の建物と、それ以外の建物に仕分けし、前者についてはリスト化を行った。その結果、高野町では各集落とも伝統形式の建物が良く残り、なかでも下筒香集落、袖ヶ藪集落は特徴ある山間集落であり、また、町内東部の西富貴・東富貴集落は、鉄板葺（かつての杉皮葺）、茅葺、桟瓦葺の建物が混在する特徴ある町並とその周辺の農家群で構成されることがあきらかとなった。

今後は、高野町は、この成果を文化財保存活用地域計画の基礎資料とするとともに、県指定・町指定物件の促進に活用し、さらには伝統的建造物群保存地区としての保存を検討する基礎資料とする予定である。



高野町高野山返照光院



高野町下筒香集落

【実績値】
調査野帳　約 200 枚
調査写真　9,286 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	「あわの至宝」調査・発信事業における建造物の調査　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：徳島県 受託経費：986 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 大林潤（都城発掘調査部遺構研究室主任研究員）・目黒伸悟（都城発掘調査部遺構研究室研究員）			

【年度実績概要】

徳島県は、文化財の調査・指定が遅れていた県東南部（海南市、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町）において、社寺建築の現況調査および調査成果に基づいた県・市町村指定の促進を目指し、本研究所に調査事業を委託したものである。

調査は、まず、調査地域の社寺について、新旧に関わらず悉皆調査を行い、社寺境内のすべての建物を対象に、建物単位にリストを作成し、写真撮影を行った。調査社寺は、407 件である。悉皆調査の結果、調査地域の北部を東西に流れる那賀川流域には、江戸時代末期から明治にかけて、特徴ある組物および丸彫彫刻で飾った本殿建築が流行したことが明確となった。

これら成果にもとづき、平面図作成をともなう個別建築の調査 12 件を行い、その様式の特徴及び大工の系譜を明確にし、その価値を明確にした。

なお、本調査の成果は、2 年度に徳島県より報告書として刊行する予定である。



徳島県那賀町木頭村　吉野神社本殿



徳島県那賀町木沢村　宇奈為神社本殿

【実績値】

調査野帳　83 枚

調査写真　8,466 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	湯浅町内歴史的建造物悉皆調査　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：湯浅町 受託経費：987 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 鈴木智大（都城発掘調査部遺構研究室主任研究員)、目黒伸悟（都城発掘調査部遺構研究室研究員）			

【年度実績概要】

湯浅町は、和歌山県北部の沿岸部に位置している。町は、4 月の改正文化財保護法の施行にともない制度化された文化財保存活用地域計画の策定を目指しており、その基礎資料として、歴史的建造物の悉皆的把握を計画し、その調査を当研究所に委託した。

調査は、町内全域のすべての建物を目視で確認し、築後約 50 年かつ伝統形式の建造物である歴史的建造物と、その他の建物に分け、歴史的建造物については、地図上でその位置を明確にし、簡単なデータを作成するとともに、写真を撮影しリスト化を行った。

また、そのなかから、町指定文化財、国登録有形文化財候補となり得るものについて、15 棟程度を抽出し、平面図作成をともなう個別建物調査を行った。

調査の結果、江戸時代より熊野街道沿いの町として、また醸造業の町として栄えた湯浅市街地については、現在重要伝統的建造物保存地区の範囲外でも、多くの上質な町家が存在していることが明確となった。また、市街地以外の農村部では、江戸時代よりみかん栽培が盛に行われ、みかん農家が多く存在し、昭和戦前期のみかんの好景気時期に、ほぼすべての農家で瓦葺の建物に建て替えられるとともに、みかんの選別作業等のための大規模な納屋が建てられたことが判明し、湯浅町の農村部では、現在も生産が続く背後のみかん畑とともに近代に建築された特徴あるみかん農家が残っていることがあきらかとなった。また、港町であった栖原集落は、小規模な漁村ながら、特徴ある集落形態を維持するとともに、多くの歴史的建造物が群として残っていることがあきらかとなった。

今後、湯浅町では、調査成果を基礎資料として、文化財保存活用地域計画を策定する予定である。



湯浅市街地の町家



湯浅農村部のみかん農家

【実績値】

野帳　約 190 枚

写真　3,579 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	高山市料亭洲さき建造物調査　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：高山市 受託経費：1,600 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 大林潤（都城発掘調査部遺構研究室主任研究員）、福嶋啓人（都城発掘調査部遺構研究室研究員）、高橋ちなつ（文化遺産部遺跡整備研究室研究員）			

【年度実績概要】

料亭州さきは、岐阜県高山市に所在する重要伝統的建造物群保存地区である高山市三町伝統的建造物群保存地区内に位置し、料亭を営む。今回の調査は、料亭州さきの価値を明確にすることを目的に、高山市が当研究所に調査を委託したものである。

州さきの敷地は賑やかな町並に面しながら、主屋、客室棟、板塀等で敷地を囲い、敷地内の庭園を整備し、料亭らしいおちついた空間を形成している。

主屋は、棟札により寛政 6 年（1794）の建築であることが明らかであるが、明治前期に大改造されている。この改造時に、屋根が切り上げられて 2 階が整備され、土間部分は料亭らしい接客空間となり、居室には数寄屋的意匠が施され、1 間幅の大規模な階段がしつらえられ、料亭らしい姿となり、現在もその状況を良く残している。高山市内では、建築年代が明確な町家として最古級のものであるとともに、明治期改造の姿は当時の料亭建築の様相を良く伝えている点で評価できる。主屋に続く客間棟は、昭和前期に建築されたもので、数寄屋意匠を施した小部屋や大規模な広間など、昭和戦前期の上質な近代料亭の姿を良くとどめている。これら以外にも調理場、土蔵、板塀等昭和前期までに随時建築された建物が残り、州さきは敷地全体として近代料亭の姿を良く留めている点で高く評価できる。

調査は、各建物の平面図・断面図・立面図を作成し、詳細調査、痕跡調査等により、個々の建物の変遷をあきらかにするとともに、敷地内の発展過程を明確にし、その価値をあきらかにした。

なお、2 年度に高山市から、当調査にかかる報告書を刊行する予定である。



州さき　主屋土間



州さき　客間棟２階広間

【実績値】
調査野帳　74 枚
調査写真　5,142 カット
高精細写真　54 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	名古屋鉄道株式会社所蔵貴重図面電子化の調査研究業務　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：名古屋鉄道株式会社 受託経費：316 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】			

【年度実績概要】

名古屋鉄道株式会社は、愛知県犬山市所在の有楽苑内に国宝の茶室である如庵を所有している。如庵は、元和 4 年（1618）に織田有楽斎によって京都正伝院に建築された茶室で、明治 41 年（1908）に東京の三井本邸に移築された。その後、昭和 13 年に神奈川県大磯の三井別邸に移築され、さらに昭和 47 年に名古屋鉄道株式会社によって現在地に移築された。

近年、名古屋鉄道株式会社は、『国宝建造物北三井家如庵関係図面集』（全 72 枚）と称される一連の図面集を発見した。図面には、「昭和 13 年 12 月調整」と記され、佐々木建築事務所の印が押されている。したがって、これら図面は、大磯三井別邸移築時に作成された図面であり、現在地に移築する前の状況を正確に記録した貴重な図面である。

そこで、これら図面の活用のため、その電子化を、これまで文化庁所蔵保存図等の電子化に実績がある当研究所に委託した。

電子化にあたっては、GRAPHTEC 社スキャナー　LUXIOS　CSX-550－09　を使用した。

24 ビットカラー、解像度 400DPI、TIF データを保存データとして作成した。

そのデータから、閲覧用として、72DPI、JPG データ、および、150DPI、PDF データを作成した。



名古屋鉄道株式会社所蔵『国宝建造物北三井家如庵関係図面集』

【実績値】

画像データ　216 ファイル

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
【事業名称】	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務　(③-2)-ｱ)

【委託者・受託経費】
委託者：東大寺
受託経費：13,295 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	副部長　渡邉晃宏

【スタッフ】
箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）、馬場基（同部史料研究室長）、大林潤・鈴木智大（同部主任研究員）、前川歩・山本祥隆・福嶋啓人・山崎有生・岩永玲・目黒新悟（同部研究員）、山本光良（同部アソシエイトフェロー）、島田敏男（文化遺産部長）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室長）

【年度実績概要】

30 年より東大寺から委託を受けている研究の 2 年目である。奈良時代創建期と鎌倉時代再建期の東大寺東塔（＝七重塔、以下、それぞれ「天平塔」、「鎌倉塔」と仮称）の復元原案の作成を行う。元年度は、東大寺東塔院の発掘遺構や出土遺物のほか、文献・絵画・彫像・建築雛形などの各種の資料、さらに類例である現存建築の分析などに基づき、上半期には鎌倉塔を、下半期には天平塔についての復元原案の作成を進めた。

そのほか、30 年度に引き続き、文献史料の写本調査をおこなった。さらに、東大寺所蔵の建築部材や東大寺出土遺物の実測調査と、年輪年代調査等を行った。

これらの調査・分析を通して、鎌倉塔は建築様式の異なる 2 案を検討し、天平塔は初重方 5 間の七重塔という、現存しない建築の形式を考察した。また、検討内容に基づき、外部機関に図面作成を指示し、立面図と断面図を仕上げた。



第 10 回東大寺東塔復元検討会（6 月 10 日）

これらは、所内に「東大寺東塔復元検討会」（以下、所内検討会）を立ち上げ、所内研究職員を中心とする検討会を計 6 回開催した。また、有識者を招聘した「東大寺東塔建築復元検討委員会」（以下、親委員会）を東大寺が 2 回主催し、その場で検討成果を発表し、討論を行った。

元年度の所内検討会及び親委員会の議題は以下の通り。
・組物の検討 3、鎌倉塔の検討 3（第 9 回所内検討会、5 月 16 日）
・鎌倉塔の検討 4（第 10 回所内検討会、6 月 10 日）
・鎌倉塔の検討 5（第 11 回所内検討会、7 月 3 日）
・鎌倉時代再建の東大寺東塔の検討成果（第 3 回親委員会、7 月 12 日）
・逓減の検討 1（第 12 回所内検討会、9 月 30 日）
・逓減の検討 2、鎌倉塔の検討 6（第 13 回所内検討会、11 月 6 日）
・逓減の検討 3、積重構法の検討、外観の検討、鎌倉塔の検討 7（第 14 回所内検討会、2 年 1 月 9 日）
・奈良時代創建期の東大寺東塔の木部の検討成果（第 4 回親委員会、2 年 1 月 23 日）

【実績値】
・東大寺東塔復元検討会：6 回（第 9 回～第 14 回）
・東大寺東塔復元検討委員会：2 回（第 3 回～第 4 回）
論文等数：1 件（①）
①「鎌倉時代再建期の東大寺東塔（仮）」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月、予定）
報告書等数：3 件（②～④）
②『東大寺東塔復元検討会記録 4』（2 年 3 月、予定）（内部資料）
③『東大寺東塔復元検討会記録 5』（2 年 3 月、予定）（内部資料）
④『東大寺東塔復元検討会記録 6』（2 年 3 月、予定）（内部資料）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京左京二条二坊十四坪・十五坪・二条条間路の発掘調査　(③-2)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：中西敏子 受託経費：1,155 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
【スタッフ】 林正憲(都城発掘調査部主任研究員)			

【年度実績概要】

・集合住宅建設に伴う事前調査。
　調査面積：72 ㎡
　調査期間：6 月 4 日～6 月 17 日

・基本層序
　堆積順に、コンクリートを含む造成土（2.2m）、耕作土（30 ㎝）、平安時代の遺物包含層（20 ㎝）、粘質土（二条条間路路面）となる。

・主な検出遺構
　平城京・二条条間路の路面を確認したが、路面上においては顕著な遺構は確認できなかった。

・主な出土遺物
　須恵器・土師器、瓦



調査区全景（東から）

・調査所見
　当初、重機で造成土及び耕作土を除去したところ、二条条間路路面とみられる砂質土層を確認したが、この土層内より平安時代の遺物が検出されたため、さらに下層へと掘り進めたところ、安定して広がる粘質土層を確認することができたため、この土層面が二条条間路路面に相当すると最終的に判断した。

【実績値】

・出土遺物：土器１箱、瓦１箱
・実測図：４枚（Ａ２版）、デジタル写真 100 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132Fイ

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
【事業名称】	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究　(③-2)-イ)

【委託者・受託経費】
委託者：明日香村
受託経費：497 千円

【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)	【事業責任者】	部長　玉田芳英

【スタッフ】
山本崇（上席研究員)、田村朋美（考古第一研究室研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員)、藤井裕之（埋蔵文化財センター客員研究員)、東野治之（奈良大学名誉教授)、寺崎保広（奈良大学教授)、鶴見泰寿（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館指導学芸員)、相原嘉之（明日香村文化財課長)

【年度実績概要】

西橘遺跡は、奈良県明日香村に所在する、橘寺旧境内の西に隣接する遺跡である。この遺跡から 7 世紀後半頃と推定される木簡約 270 点が出土し、類例の少ない当該期の木簡の中で、まとまった内容を示すものとして注目されている。この事業は、西橘木簡について科学的な保存処理を行った上で有識者を招いて釈文を確定し、その歴史的、地域史的な意義を明らかにすることを目的とするもので、明日香村からの受託事業として 4 年度までの 4 か年を予定している。初年度は、木簡 106 点（うち削屑 3 点）を対象として研究を進めた。

事業の概要は次の通りである。

1)水漬け状態における肉眼による釈読、材の形状や加工痕跡の観察などを行い、木簡の状態を記録した記帳ノートを新たに作成した。
2)外部有識者を招聘し、水漬け状態における釈文の検討会を 3 回開催した（5 月 16 日、5 月 24 日、6 月 21 日)。検討会では、赤外線テレビカメラ装置による現状の観察とともに、出土当時の写真と記帳ノート、水漬け状態で撮影したカラー・赤外の 2 種類のデジタル画像を参照し、仮釈文を作成した。
3)客員研究員の藤井裕之の指導のもと、実体顕微鏡による樹種の判別を行った。また、可能な資料については、樹種同定の素材となる切片を採取した。
4)藤原地区保存科学実験室において科学的な保存処理を実施した。保存処理の方法は、第三ブチルアルコールを用いて木簡内部の水を置換してから高級アルコールを含浸させた上で真空凍結乾燥を行う方法によった。
5)保存処理後の状況を、カラー・赤外の 2 種類のデジタル画像で記録した。
6)外部有識者を招聘し、保存処理後に釈文を再検討する検討会を 3 回開催し（12 月 13 日、2 年 2 月 27 日、2 年 2 月 28 日)、釈文案を作成した。
7)元年度予定された業務について、委託主体である明日香村に研究成果報告書を作成して報告した。なお釈文の最終確定は、4 年度に予定されている明日香村刊行の発掘調査報告書において行う。



検討会風景

【実績値】
保存処理　106 点
記録作成　424 点（赤外線テレビカメラ取込画像 106 点、デジタル写真カラー106 点、デジタル写真赤外線 106 点、記帳 106 点)
奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)『明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究 研究成果報告書（令和元年度)』（2 年 3 月)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探究的な調査研究		
【事業名称】	京都市の文化的景観保存計画策定調査　(③-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：京都市 受託経費：3,941 千円			
【担当部課】	文化遺産部景観研究室	【事業責任者】	室長　中島義晴
【スタッフ】 惠谷浩子（景観研究室研究員）			

【年度実績概要】

・現地調査を計 10 回行った。

・27 年度から元年度にかけて行った「京都の文化的景観」の調査成果のとりまとめを実施するとともに、報告書の執筆・編集・刊行を行った。

・「京都の文化的景観」の調査や研究会議等の実施、また調査報告書の編集のため、京都市等との協議をのべ 14 回行った。



「京都の文化的景観」の調査

【実績値】

調査報告書：1 点
現地調査：10 回
デジタル写真：1,152 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探究的な調査研究		
【事業名称】	智頭の林業景観整備計画策定調査　(③-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：智頭町 受託経費：1,279 千円			
【担当部課】	文化遺産部景観研究室	【事業責任者】	室長　中島義晴
【スタッフ】 島田敏男（文化遺産部長)、惠谷浩子（景観研究室研究員)、前川歩（遺構研究室研究員)、福嶋啓人（遺構研究室研究員)			

【年度実績概要】

・現地調査を計 5 回行った。景観を構成する主な要素である建築物、石造物、水系、道路、森林鉄道遺構や、土地利用、林業、生活について調査し、それらの現況を明らかにした。

・調査成果のとりまとめを実施するとともに、智頭の林業景観整備検討委員会での成果報告を 2 回行った。

・調査や委員会等の実施、また整備活用計画策定のため、智頭町との協議をのべ 5 回行った。



石造物の調査の様子



ドローンでの空撮

【実績値】

現地調査：5 回
委員会報告：2 回
デジタル写真：1,937 点
ドローン映像：5 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3134F ｱ-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析　(③-4)-ｱ))		
【委託者・受託経費】 委託者：国立大学法人　東京大学地震研究所 受託経費：6,301 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】 村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室　研究員）			

【年度実績概要】

○本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次）」に基づき、地震火山噴火予知研究協議会（以後、予知協議会）からの委託を受け、元年度から 5 か年計画として取り組んでいる。内容は主として災害痕跡の考古・地質学的データの収集・調査・分析・活用し、地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の災害履歴データを集成し、データベースの構築と公開を進めるものである。元年度の実績は以下の通りである。

1)発掘調査報告書のデータ抽出、分析、整理作業

元年度も、30 年度まで進めてきた発掘調査データから災害痕跡データを抽出する作業を継続し、出土地点、時期、災害類別について精査・整理し、データベースの構築を進めた。元年度は、特に遺跡資料および史資料が古代より継続的に蓄積する近畿圏を中心に約 4 千調査地点についてのデータ集成を進め、海溝型（南海トラフ）起因の地震や、奈良県東縁断層、生駒断層を中心とした内陸（活断層）型起因の地震、あるいはそれらの複合型のものなど、地震発生による被災シナリオの検討に向けたデータ解析に取り組んだ。



災害痕跡 DB 公開用入り口画面

2)データベース構築・開発作業

元年度は、歴史災害痕跡データベース（以後、災害痕跡 DB）のα版公開を目指し、ハード面では、a）データ公開のためのセキュリティ防壁構築、b）公開用 HP の作成（図 1）、c）地方公共団体等からの外部データ入力や、当研究所からのデータ校正のためのインターフェース開発、d）データ交換に伴うセキュリティ防壁の構築を進めた。一方、ソフト面では、e）データの集成元となる発掘調査報告書について当研究所の遺跡報告書総覧や CiNii などと連携し Web 上で閲覧可能にするために、データベースの書誌データ機能の拡充と API の開発、f）古代地名の地図上検索を可能とするための地名地点情報データベースの作成、g）国立文化財機構によるサーバー運用規則の変更に伴うデータベース機能全体のクラウドサーバー移行、h）それに伴う東京大学史料編纂所、東京大学地震研、京都大学防災研とのデータベース連携維持のための API の開発、さらに i）クラウドサーバー内の災害痕跡 DB と当研究所内のデータとの同期、更新のための API の開発を進めた。今後も国土地理院情報検索システム、産業総合研究所地質情報システムとの連動のための地質データの入力および表示方法の開発を継続的に進める。


現場で検出した地震痕跡から被災時期を検討した事例

3)発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析

平城宮・京、藤原宮（以上、奈良県）を中心に現地調査を行い、検出された地震痕跡等について調査を進め、被災時期の特定方法の改善を進めた（図 2）。また 30 年度に調査した遺跡群については報告書執筆を行った。

5)学会・シンポジウムでの情報発信

学士会「夕食会講演会」（11 月 8 日）

奈良市生涯隔週財団　西部公民館主催事業「せいぶ市民企画講座」（12 月 7 日）

【実績値】論文 4 本、

論文：『奈良文化財研究紀要』「藤原宮大極殿院の調査-第 195･198 次」「平城宮第一次大極殿院南門および下層遺構の積土構造-第 585 次」

報告書：京都府教育委員会編『木津川河床底遺跡』「地震痕跡」、桜井市教育委員会編『纏向遺跡 193 次調査報告書』「堆積構造の検討」

書籍：『学士會会報』「災害痕跡データベースの構築～災害の軽減に向けた考古学の新たな挑戦」

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3134F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	「中世・近世石づくりのまち」調査研究事業　(③-4)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：福井・勝山日本遺産活用推進協議会 受託経費：4,786 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】 山口欧志（埋蔵文化財センター　遺跡・調査技術研究室　研究員）			

【元年度実績概要】

本事業は、日本遺産に認定された「400 年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり越前・福井」のストーリーに基づき、歴史遺産の保護と観光活用の基礎となる構成文化財の調査研究を、福井・勝山日本遺産活用推進協議会の依頼により実施するものである。

この事業を実施するため、下記の内容を行った。

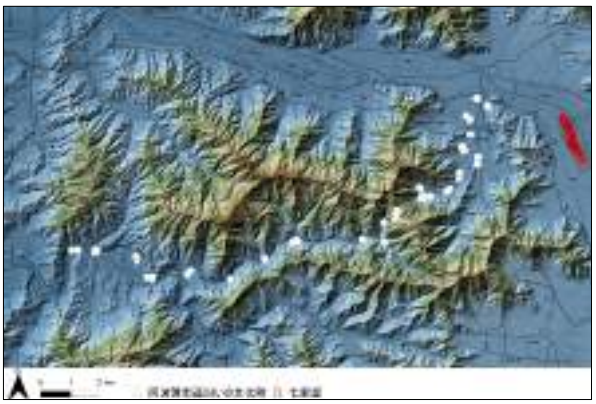
(1) 日本遺産構成文化財の基礎調査研究

・安波賀街道（一乗谷～勝山間約 20 km）及び七里壁（勝山市、約 2 km）の現地踏査 2 回
・現地踏査を行い、文化財の種類、位置、現況などを把握した。
・把握した文化財の写真撮影を行い、またその一部について三次元計測を実施した。
・七里壁の内部構造を探るため、地中物理探査を実施した。
・上記の成果をもとに現況地形や歴史的な背景をふまえた分析を行った。

(2)「中世・近世石づくりのまち」笏谷石ワーキンググループの組織と情報共有会議の開催

・中世から近世前半（1700 年頃）までの笏谷石製品の把握を図った。
・全国の笏谷石を集成し情報共有するため、研究者によるワーキンググループを組織した。

・ワーキンググループによる会議を 2 回開催した。
・ワーキンググループの成果を取りまとめ、地図化した。
・地図は、デジタルデータで作成し、次年度以降の更新を可能にした。



安波賀街道沿いの文化財と七里壁の分布
（国土地理院の基盤地図情報および地理院タイルを加工して作成）



七里壁の現状の三次元モデル

【実績値】

安波賀街道の GNSS 計測値（踏査ルートのトラッキングデータ）一式、安波賀街道沿いの文化財の位置の GNSS 計測値（約 300 点）およびその写真一式、七里壁の GNSS 計測値（約 270 点）およびその記録写真一式、安波賀街道沿いの文化財および七里壁の現状の三次元計測 3 地点、七里壁の地中物理探査 2 地点、「中世・近世石づくりのまち」笏谷石ワーキンググループによる情報集約と情報共有のための会議 2 回、全国笏谷石研究会 資料集「中世・近世における笏谷石製品の流通とその展開」の編集と 100 部印刷、調査研究事業報告書一式、GIS 上で管理・解析・表示可能な GIS データ一式

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3212F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
【事業名称】	八日市地方遺跡出土遺物の非破壊による内部構造調査　(①-2)
【委託者・受託経費】 委託者：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター 受託経費：1,179 千円	
【担当部課】 埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】 センター長　髙妻洋成
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室　研究員）	

【年度実績概要】

本事業は、石川県小松市八日市地方遺跡から出土した、柄付き鉄製鉇（やりがんな）および鋳造鉄斧片について非破壊で内部構造を調査することを目的とする。柄付き鉄製鉇は木製の柄と鉄製の鉇部分からなり、その接合部は木皮によって巻かれ固定されていることが実態観察から判っている。しかしそれだけでは使用時の刃の固定を担保できないと考えられ、内部に紐などによる固定構造が推定されている。一方、鉄斧片とされた金属片については内部構造が不明であり、その構造次第では由来を異にする可能性がある。そこで本調査では、柄付き鉄製鉇については全体像を当研究所が所有する大型X線CT（HiXCT-1M-SP）の高精細モード（D2）を用いて撮像すると共に、鉋付近のみ拡大的にマイクロフォーカスX線CT（SMX100-D）を用いて撮像をおこなった。また鉄斧片は長径が30㎜程度であったこと、表面構造の観察からかなり鉄錆の侵食により基質の密度が低くなっている様相がみられたため、マイクロフォーカスX線CTでも十分なX線透過が得られると判断されたため、破片全体をSMX100-Dで撮像した。資料の撮像諸条件は表１、２に示す。

表1　柄付き鉄製鉇撮像条件（HiXCT-1M-SP）

項目	撮像条件	備考
X線CT装置	HiXCT-1M-SP	X線最大エネルギー：1MeV
撮像方式	第2世代	1 scan
CT画像サイズ	620×620 pixels	
画素サイズ	0.1 mm/pixel	
スライス厚さ	0.4 mm	
撮影高さ	74 - 240 mm	テーブル面からの高さ
撮影ピッチ	0.4 mm	

表２ 撮像条件（SMX-100CTD）

試料名	電圧 (kV)	電流 (μA)	SID (mm)	SOD (mm)	FOV (xy) (mm)	FOV (z) (mm)	画素サイズ (μA)	レンダリング精度 (μA)
柄付き鉄製鉇 Ishi_yariganna_20200122_3D	75	90	813.8	188.8	26.823884	9.430272	13.0976	13.0976
鋳造鉄斧片 Ishi_IronAx_20200122_3D	105	95	813.8	236.3	33.735860	11.794373	16.4726	16.4726

※SID: 線源－検出器距離、SOD: 線源－試料距離

撮像した断層データは、いずれの試料もExFact ver2.1（日本ビジュアルサイエンス）により再構成をおこない、X線透過度ごとに関心領域（ROI）を作成して立体構造化した（図1～３）。



図１HiXCT-1M-SPによる柄付き鉄製鉇の３次元構造図

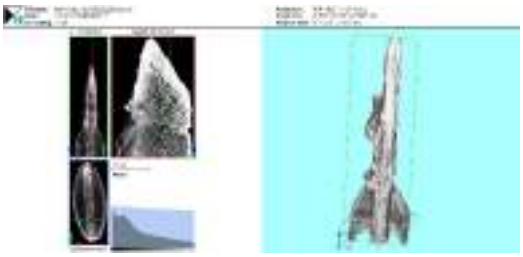


図２SMX-100CTDによる柄付き鉄製鉇の３次元裁断図

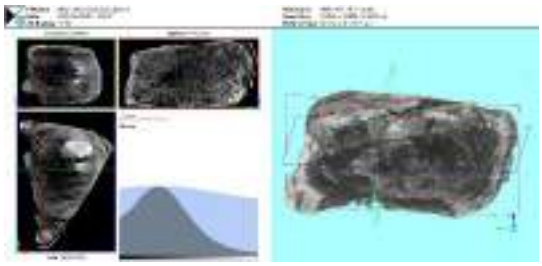


図３SMX-100CTDによる鋳造鉄斧片の３次元構造図

-—

【実績値】成果物：

後構成画像ファイル：日立X線CT形式(.dat)、PNG形式(.png)、島津X線CT型式(.cb, .inf, .prm)、16bitTIFF

サムネイルファイル：PNG形式(.png)、16bitTIFFデータについてPDF一覧を作成

３次元構造データ：VGStudioMAX2.1で作成、コンパイルし保存

上記データを2TBのポータブルHDDに記録し、成果品とした。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	木造源実朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査　(①-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：甲斐善光寺 受託経費：208 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長 高妻洋成
【スタッフ】 星野安治(年代学研究室長)			

【年度実績概要】

- 鎌倉幕府の 3 代将軍・源実朝の姿を現代に残す最古の像として知られる、甲斐善光寺に伝わる木造源実朝坐像が解体修理されるのにともない、年輪年代調査を実施した。

- 解体された部材 23 点を調査対象とし、木口面、もしくは柾目面について接写撮影をおこなった。撮影した画像からコンピュータ上で年輪幅を計測した。

- クロスデーティングにより、複数の組み合わせの同一材関係を見出した。そのうち 1 組は、標準年輪曲線とも照合し、最も新しい年輪の年代を西暦 1222 年と特定した。本調査対象には辺材が残存していると観察されるため、原木の伐採年代は 1222 年以降それほど経たない年代と考えられる。



解体された木造源実朝坐像の調査風景

【実績値】

- 調査点数：23 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3214F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	波怒棄館遺跡および台の下貝塚出土の動物遺存体の分析　(①-4))		
【委託者・受託経費】 委託者：気仙沼市 受託経費：2,100 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室	【事業責任者】	室長　山崎健
【スタッフ】 松崎哲也（前環境考古学研究室アソシエイトフェロー）			

【年度実績概要】

○宮城県気仙沼市に所在する波怒棄館遺跡（縄文時代前期中葉～中期前葉）から出土した動物遺存体の分析と、台の下貝塚（縄文時代中期後葉～後期前葉）の報告書執筆・修正、今後活用しやすいように資料の整理やラベリングを行った。

○波怒棄館遺跡

波怒棄館遺跡から出土したマグロ属の椎骨を対象として、種レベルでの同定の可否の検討、サイズの計測や痕跡の観察をおこなった。分析の結果、体長 1 メートルを超える大型のマグロ属が多かったほか、体長 20～30cm 程度と推定される小さな個体も一定量含まれていることが明らかになった。

○台の下貝塚

発掘調査報告書の原稿を執筆して、合計 60,261 点の動物遺存体を報告した。

台の下貝塚では、ニホンジカやイノシシを中心に狩猟し、ニホンジカの骨や角などを用いて骨角器を製作していた。また、ニシン科、カタクチイワシ、サバ属といった小型回遊魚を積極的に利用しつつ、岩礁を好むアイナメ属や砂泥底に生息するカレイ科など、多様な生態を持つ魚類を漁獲していた。貝類では、岩礁に群棲するムラサキインコをブロックで大量に採集する一方で、砂浜部に生息するアサリや転石地など様々な環境に生息するマガキなども、積極的に採集していた。



作業風景

【実績値】

分析・報告点数：60,261 点

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3215E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業 (②－5))		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：３，６７２千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	修復材料研究室長　早川典子
【スタッフ】 菊池理予（無形文化遺産部主任研究員)、江村知子（文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長)、岡部迪子（研究補佐員)、中村舞（研究補佐員）			

【年度実績概要】

本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。元年度は、美術工芸品の修理に使用する原材料・用具のうち、ノリウツギ・トロロアオイ・五箇山和紙・石州半紙・天然砥石・大径木檜・ふすべ革について調査を行った。委員会は 4月 26日と 6月 18日、12月 25日の計 3回行った。

・ノリウツギ（北海道）
　調査　：北海道中頓別・浜頓別森林組合、豊岬木材工業株式会社
　調査日：7 月 7 日～8 日
・五箇山和紙　（富山県・石川県）
　調査　　：東中江和紙加工生産組合、石川県文化財保存修復工房
　調査日　：8 月 22 日～23 日
・石州和紙　（島根県）
　調査　　：西田和紙工房、石州和紙久保田、三隅試験楮畑、酒井清美氏楮畑
　調査日　：9 月 4 日～5 日
・トロロアオイ（埼玉県）
　調査　：小川町トロロアオイ生産組合
　調査日：10 月 15 日
・天然砥石（京都府）
　調査　：天然砥石館
　調査日：11 月 18 日
・大径木檜（長野県）
　調査　：木曽森林管理署
　調査日：11 月 25 日
・ふすべ革　皮革史研究家・林氏（兵庫県姫路市）
　調査　：中村重男商店
　調査日：12 月 16 日
・ノリウツギの過去の使用状況に関する調査
　調査　：山形県
　調査日：2 年 3 月 10 日～11 日



ノリウツギの採取

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3221F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	X 線 CT を用いた金井下新田遺跡出土ウマ頭骨の撮像と立体構造データ作成　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 受託経費：1,409 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】 村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室　研究員）			

【年度実績概要】

本事業は、群馬県渋川市金井下新田遺跡から出土した、火山灰中に挟在する古墳時代の 3 頭分のウマの頭骨（以後、試料）から、当時のウマの形態や年齢、性別などを非破壊で明らかにすることを目的とする。試料のコンディションは風化が顕著に進んでおり、非破壊、非接触でデータを抽出する必要があった。そこで当研究所が所有する大型X線 CT（HiXCT-1M-SP）を用いて試料を高精細に撮像し、そのデータから立体構造データを作成する手法が選択された。資料 3 点の諸条件は表 1 に示すとおりである。

表 1　撮像試料に関わる諸条件

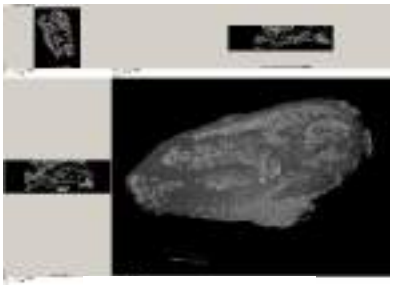
試料名	試料長軸径(cm)	試料高(cm)	総重量(kg)	包埋樹脂
1 号馬	60cm 以下	60cm	60kg 以下	発泡ウレタン
2 号馬	60cm 以下	60cm	60kg 以下	発泡ウレタン
3 号馬	60cm 以下	70cm	60kg 以下	発泡ウレタン

撮像にあたっては、試料の諸情報（表1）に基づき作業時間やその工程表をあらかじめ作成し、委託担当者である公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団職員（以後、担当者）と協議した上で全撮像工程を設計し、撮像に関わり試料を移動・移設する際には、担当者の立会・補助のもと行った。

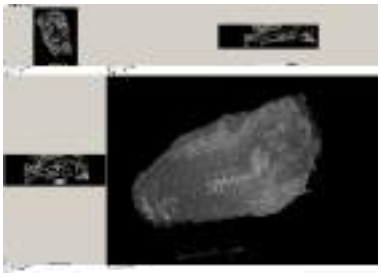
【成果物】

成果物は、X 線撮像により取得したデータおよび、そこから構成された3次元構造データとなる。成果物の構成は以下の通り。

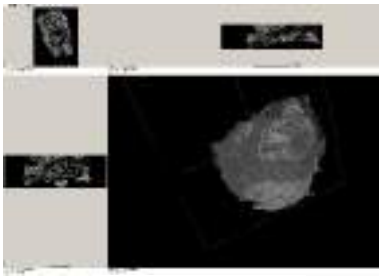
1)　X 線撮像により取得したデータは、後再構成したのち日立 X 線 CT 形式(.dat)と共に PNG 形式(.png)に変換したデータを作成した。
2)　後再構成画像データについては、PNG 形式画像についてサムネール一覧を作成した。
3)　3次元構造データは、VGStudioMAX2.1 で作成、コンパイルし保存した（図 1～3）。
4)　上記データについて、2TB のポータブル HDD に記録し、成果品として納品した。



鼻骨周辺



下顎骨周辺



頭骨周辺

【実績値】

成果物
後構成画像ファイル：日立 X 線 CT 形式(.dat)、 PNG 形式(.png)
サムネイルファイル: PNG 形式(.png)データについて PDF 一覧を作成
３次元構造データ： VGStudioMAX2.1 で作成、コンパイルし保存
上記データを 2TB のポータブル HDD に記録し、成果品とした。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3221F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	X 線 CT を用いた金井下新田 遺跡出土臼玉 一連資料の撮像と立体構造データ作成　(②-1)		
【委託者・受託経費】 委託者：公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 受託経費：481 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室　研究員）			

【年度実績概要】

本事業は、群馬県渋川市金井下新田遺跡から出土した、火山灰中に挟在する古墳時代の臼玉一連資料（以後、試料）の全体形状や遺存状態について非破壊で明らかにすることを目的とする。試料のコンディションは風化が進んでおり、非破壊、非接触でデータを抽出する必要があった。そこで当研究所が所有する大型X線 CT（HiXCT-1M-SP）を用いて試料を高精細に撮像し、そのデータから立体構造データを作成する手法が選択された。

撮像にあたっては、試料の諸情報(表1)に基づき作業時間やその工程表をあらかじめ作成し、委託担当者である公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団職員(以後、担当者)と協議した上で全撮像工程を設計し、撮像に関わり試料を移動・移設する際には、担当者の立会・補助のもと行った。またより高精細なデータを得るため、第 2 世代型式(図 2) によって撮像した。

表 1　撮像条件に係る情報

項目	撮像条件	備考
X 線 CT 装置	HiXCT-1M-SP	X 線最大エネルギー：1MeV
撮像方式	第 2 世代	
CT 画像サイズ	2400×2400 pixels	
画素サイズ	0.1 mm/pixel	
スライス厚さ	0.4 mm	
撮影高さ	50 - 200 mm	テーブル面からの高さ
撮影ピッチ	0.4 mm	



図 1　HiXCT-1M 第 2 世代型式

【成果物】

成果物は、X 線撮像により取得したデータおよび、そこから構成された3次元構造データとなる。成果物の構成は以下の通り。

1) X 線撮像により取得したデータは、後再構成したのち日立 X 線 CT 形式(.dat)と共に PNG 形式(.png)に変換したデータを作成した。
2) 後再構成画像データについては、PNG 形式画像についてサムネール一覧を作成した。
3) 3次元構造データは、VGStudioMAX2.1 で作成、コンパイルし保存した(図 1～3)。

上記データについて、2TB のポータブル HDD に記録し、成果品として納品した

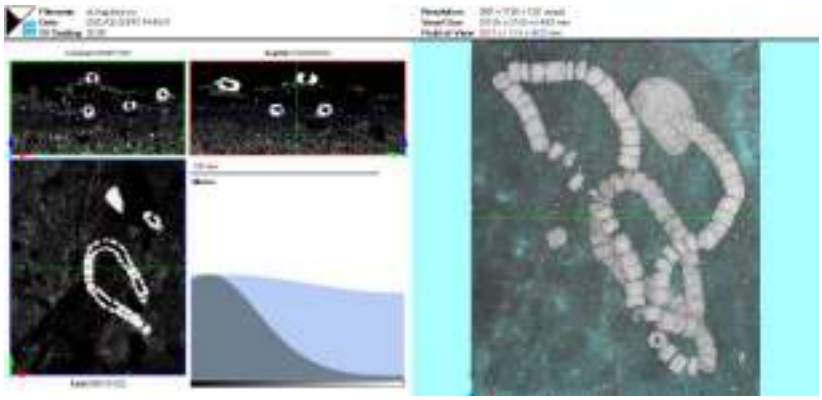


図 2　臼玉一連資料札図データによる 3 次元構造解析成果の一例

【実績値】

成果物
後構成画像ファイル：日立 X 線 CT 形式(.dat)、 PNG 形式(.png)
サムネイルファイル: PNG 形式(.png)データについて PDF 一覧を作成
３次元構造データ： VGStudioMAX2.1 で作成、コンパイルし保存
上記データを 2TB のポータブル HDD に記録し、成果品とした。

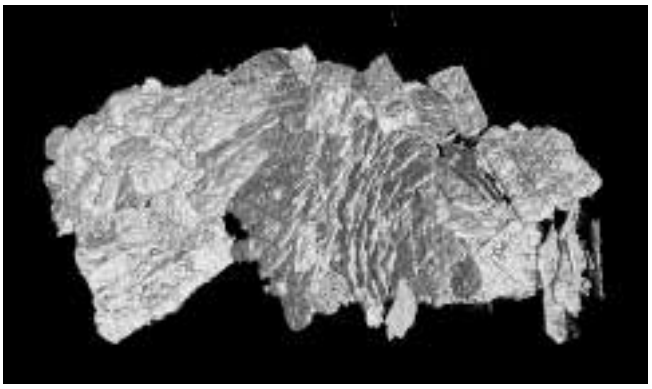
【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3226F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	船原古墳出土遺物の構造調査　(②-6))		
【委託者・受託経費】 委託者：古賀市長 受託経費：1,215 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　髙妻洋成
【スタッフ】 脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）、松田和貴（保存修復科学研究室研究員）			

【年度実績概要】

○福岡県古賀市船原古墳１号土坑から出土した小札甲とその付属具、冑を高エネルギーX線 CT にて撮像した。
○船原古墳はその土坑から馬具、武具、武器、農工具などの大量の遺物が発見されている古墳として著名である。
○撮像の結果、小札の形状や枚数、穿孔の位置など船原古墳出土遺物の詳細な状態を確認できた。



小札の X 線 CT 像

【実績値】

調査資料点数：25 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3226F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	松帆銅鐸・舌の調査研究　(②-6))		
【委託者・受託経費】 委託者：南あわじ市 受託経費：1,917 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成

【スタッフ】

田村朋美（都城発掘調査部研究員、埋蔵文化財センター研究員（併任））、村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員）、柳田明進（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員）、難波洋三（埋蔵文化財センター客員研究員）

【年度実績概要】

○本事業の対象は 27 年に南あわじ市で発見された銅鐸および舌である。本資料は、舌を伴う点やこれらを吊り下げる紐が残存する点など、銅鐸の具体的な使用方法や埋納年代を知る上で非常に重要である。元年度は、松帆銅鐸４号および７号について、一連の保存処理を実施した。

1) 保存処理の一環として、松帆銅鐸４号および７号について、クリーニング作業を実施した。筆、竹串、超音波研磨器等を用いて表面に付着している土粒子および土粒子と一体化している腐食生成物を除去した（写真１）。
2) 表面状態の記録のため、クリーニング完了時点で写真撮影を実施した。
3) 保存処理の一環として、クリーニングの完了した松帆銅鐸４号および７号のベンゾトリアゾール（ＢＴＡ）を含むエタノールに 24 時間以上浸漬し、防錆処理（安定化処置）を実施した。
4) 保存処理の一環として、防錆処置完了後、充分に乾燥させた松帆銅鐸４号および７号について、アクリル樹脂(パラロイドＢ72)5%アセトン・トルエン溶液に減圧含浸し、強化処置を実施した。
5) 分析試料の採取にともなう欠損箇所をエポキシ樹脂で充填するとともに、アクリル絵具で補彩を施した。
6) 保存処理終了時の状態を写真に記録した。



写真１　松帆銅鐸（4 号）のクリーニングの様子

【実績値】

『令和元年度　松帆銅鐸の保存処理に関する報告書』２年３月

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3226F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究　(②-6))		
【委託者・受託経費】 委託者：鳥取県立公文書館 受託経費：799 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】 脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員)、柳田明進（保存修復科学研究室研究員)、難波洋三（埋蔵文化財センター客員研究員)			

【年度実績概要】

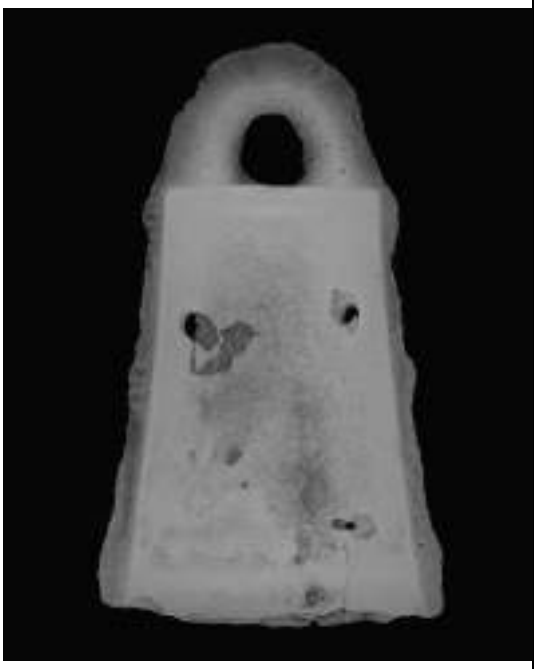
○鳥取県内より出土した銅鐸の現状を記録するための写真撮影を写場にて実施した。

○さらに、考古学的および構造・材質調査として、拓本、X 線透過撮影、高エネルギーX 線 CT、蛍光 X 線分析、ICP 発光分光分析、及び鉛同位体比分析を実施した。

○X 線透過撮影および高エネルギーX 線 CT より、銅鐸の身部分には多数の鋳掛の痕跡が確認された。

○また、鈕や身の周辺に鋳造の際に生じたと考えられる鬆の分布が明瞭に観察された。

○蛍光 X 線分析より、銅鐸は銅、スズ、鉛を主成分とする青銅であることが認められた。また、鋳掛部分と本体部分において化学組成に関する明瞭な差異は認められなかった。



調査対象銅鐸のＸ線透過撮影像

【実績値】

調査資料点数：1 点

写真：2 点、X 線透過撮影像：2 点、X 線 CT 像（断面像)：455 点、化学分析（試料採取を含む)：2 点､3 次元形状計測：1 点、拓本：1 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3227F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	元町石仏の塩害を抑制する覆屋運用手法及び石仏からの脱塩手法に関する検討業務　(②-7)		
【委託者・受託経費】 委託者：大分市 受託経費：643 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】 脇谷草一郎（主任研究員）			

【年度実績概要】

- 改修工事が行われた覆屋内部において、冬期の塩析出による石仏の破壊が進行していないかモニタリング業務を継続して実施した。
- 現在は和紙貼りによる脱塩を暫定処置として実施しているが、一層の脱塩効率の向上を目的としてパルプと粘土鉱物を用いた脱塩技術について検討している。今年度はその基礎研究として、粘土鉱物による水分、溶質移動のメカニズムについて基礎実験を実施した。また、これらの成果を日本建築学会および日本文化財科学会において発表した。
- 脱塩について効果的な材料を検討する一方で、その手法、すなわち脱塩を実施する時期や、その際の覆屋の運用方法などについて数値解析から検討するため、熱水分溶質移動のモデル化を試みた。元年度は、砂岩中において塩化ナトリウムの移動を実測した既往研究の結果を、数値解析で再現できるか検討した。



和紙による脱塩

【実績値】

事業報告書：1 件

① 『元町石仏の塩害を抑制する覆屋運用手法及び石仏からの脱塩手法に関する検討業務』2 年 3 月

研究発表：3 件

① 高取伸光、小椋大輔、脇谷草一郎、安福勝、桐山京子、高妻洋成：元町石仏における脱塩を用いた塩類風化抑制手法に関する研究　－セロファンで遮られた NaCl 溶液の半透性と浸透圧の測定－、日本文化財科学会第 36 回大会、於東京藝術大学、6 月 1 日～2 日

② 高取伸光、小椋大輔、脇谷草一郎：浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察、日本建築学会近畿支部研究発表会、於大阪工業技術専門学校、6 月 22 日～23 日

③ 高取伸光、小椋大輔、脇谷草一郎、安福勝、桐山京子：元町石仏における脱塩を用いた塩類風化抑制手法に関する研究　－セロファンで遮られた NaCl 溶液の半透性と浸透圧の測定－、日本建築学会大会、於金沢工業大学、9 月 3 日～6 日

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3227F-2

業務実績書(受託事業)

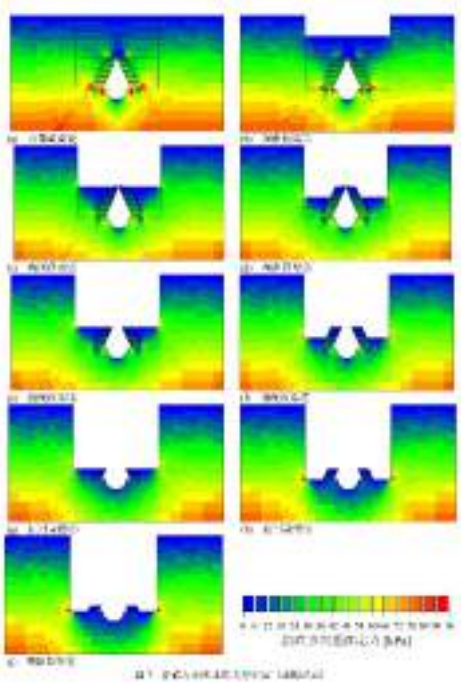
中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査研究　(②-7))		
【委託者・受託経費】 委託者：高槻市 受託経費：1,095 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長、高妻洋成
【スタッフ】金田明大（埋蔵文化財センター、遺跡・調査技術研究室長)、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター、主任研究員)、三村衛（京都大学教授、客員研究員)、小椋大輔（京都大学教授、客員研究員）			

【年度実績概要】

・発掘調査に先立って実施する石室内の 3 次元計測の手法として、小型レーザーを用いた 3 次元計測、赤外線を用いた 3 次元計測、フォトグラメトリーの 3 つの手法を検討した。

・石槨モデルを作成し、発掘調査時の石室の安定性を検討するため、シミュレーション解析を実施したところ、均一な石材と均整な構造をもつという仮定では、石槨は安定しているという結果を得た。

・これまでに得られている石槨内の環境データを整理・分析を行い、石槨内環境の安定性、発掘調査において考慮すべき環境の設定と覆屋の仕様について検討を行うための基礎データを集積した。



鉛直方向垂直応力分布図

【実績値】

・調査報告書：1 件

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（②－10）-ｱ))		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：３７，３６４千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	保存科学研究センター長　佐野千絵
【スタッフ】 早川泰弘（副センター長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、朽津信明（修復計画研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか			

【年度実績概要】

国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。

○壁画の修理内容及び修理環境の保全に関連する事項

・壁画の修理方針や内容に関する科学的・学術的助言

壁画表面の安定化を行うため、粗鬆化した漆喰部分の補填方法を検討した。キトラ古墳壁画で用いている補填方法をもとに修理技術者とともに材料の使用方法を確認した。

・高松塚古墳壁画恒久保存対策調査事業の生物調査報告書を出版した。

・修理施設内の温湿度・生物等の調査

高松塚古墳壁画修理施設修理作業室の温湿度モニタリングを実施した。温度は 20～23℃で推移、相対湿度は夏季に若干高めであったが、期間を通じて概ね 55%台を維持した。また、施設の空調制御運用法について検討した。

高松塚古墳壁画仮設修理施設の歩行性昆虫調査及び除塵清掃を、第 1 回目の調査（5 月 14 日)、第 2 回目（8 月 9 日)、第 3 回目（11 月 14 日)、第 4 回目及び除塵清掃（2 年 2 月 4 日）に実施した（委託先：イカリ消毒株式会社)。

高松塚古墳壁画仮設修理施設の浮遊菌等調査を、第 1 回目（8 月 29 日)、第 2 回目（2 年 2 月 1 日）に実施した（委託先：NPO 法人カビ相談センター)。

○壁画の保存・活用に関連する事項

・壁画面の状態調査及び状態図の作成について

修理施設に定期的に修理施設で文化庁・装こう師連盟と研究協議を行った。また使用している修理材料についての材料の物性に関する調査研究を実施した。

・他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳の保存環境に関する助言を行った。さらに、南下古墳群、平野塚穴塚古墳では壁面に関する調査及び保存環境に関する助言を行った。

また、他の装飾古墳の微生物と藻類の遺伝子解析研究を進めた。



バイオフィルムの除去作業

○その他

・奈良文化財研究所と共同して、高松塚古墳壁画の材料に関する分析調査を継続的に実施した。またテラヘルツ分光分析により、玄武が描かれている壁画について、下地を形成している漆喰層の状態の調査を行った。

・今年度 4 回行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ 13 名を派遣し、立会い説明等を行った（5 月 18 日～24 日、7 月 20 日～26 日、9 月 21 日～27 日、2 年 1 月 18 日～24 日)。

・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、6 月 5 日、2 年 2 月 6 日の 2 回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。

・7 月 16 日に開催された文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第 26 回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

・高松塚古墳壁画の専門家公開に際して、修理の経過説明を行った。(8 月 7 日)

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（②－10）-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：１９，６７８千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	保存科学研究センター長　佐野千絵
【スタッフ】 早川泰弘（副センター長)、犬塚将英（分析科学研究室長)、佐藤嘉則（生物化学研究室長)、朽津信明（修復計画研究室長)、早川典子（修復材料研究室長）ほか			

【年度実績概要】

特別史跡キトラ古墳の取り外した壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○壁画の保存修復措置に関する事項

・最適な保存処置方法の検討

壁画の集中メンテナンスを四神の館で 4 回行った（6 月 25 日～27 日、7 月 9 日～13 日、8 月 28 日～30 日、10 月 30 日～11 月 1 日、11 月 27 日～29 日)。壁画は概ね安定していたが、再構成を行っていた高松塚古墳壁画修理施設との環境設定の差異が若干あるため、装潢師連盟と協力し、適宜剥落どめ及びクリーニングを行い、安定化をはかった。

・保存管理に最適な設備環境の検討

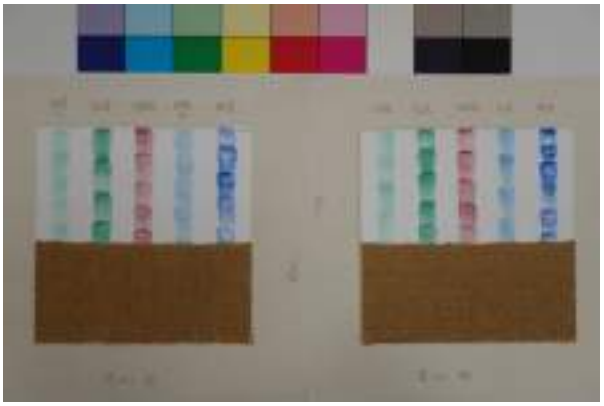
壁画の保管及び展示公開を行っている「四神の館」において、環境調査及び改善に協力した。

・材料調査と保存収縮処置方法の検討

奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳の材料に関する分析調査を継続的に実施している。元年度は泥に覆われた部分の下にあると推定される画像について昨年度撮影した X 線画像を詳細に検討することを目的とし、壁画表面におけるカルサイトの再結晶に関する基礎実験を実施した。

・他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

高松塚古墳壁画の調査と連携して、効率的に実施した。



泥に覆われた漆喰の X 線調査のための基礎実験用資料
（カルサイト再結晶の再現実験用）

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務　(②-10)-7)

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：85,726 千円

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　高妻洋成

【スタッフ】玉田芳英（都城発掘調査部、部長）、内田和伸（文化遺産部、遺跡整備研究室長）、石橋茂登（飛鳥資料館、学芸室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター、主任研究員）、若杉智宏（飛鳥資料館、学芸員）

【年度実績概要】

・石室内より出土した漆塗棺材片を保存処理する方法を検討するため、土塊の状態でX線透過撮影を実施し、内部に鉛ガラス粒が残存していることを確認した。今後のクリーニング及び保存処理の方針を決定するための重要な知見を得ることができた。

・仮設保護覆屋存在時および墳丘整備後の状況を再現した VR コンテンツに利用するため、キトラ古墳の現状の周辺地形の三次元モデルを作成した。

・また、古墳周辺地形の三次元モデル作成の一環として、キトラ古墳北側において、三次元レーザー測量を実施し、詳細なデジタルデータを取得した。

・キトラ古墳壁画に用いられている色料に関する情報を得るため、蛍光X線分析と可視分光分析を行った。

・キトラ古墳壁画の定期的な点検法を検討するため、SfM/MVS の適用可能性について試験を行った。南壁について SfM/MVS によって取得したデータの解析を行うとともに、経年変化の検出が可能かどうかの試験をおこなった。

・キトラ古墳壁画の経年変化を追跡調査するために、高精度カメラによる撮影を行った。

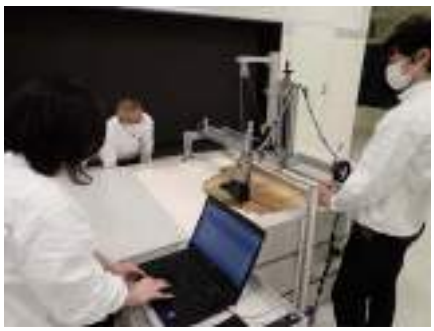
・キトラ古墳壁画の保存と活用に関する取り組みとして、保存管理施設における歩行性昆虫の調査、保存管理施設における環境カビ調査、展示室展示ケースの改善作業、温湿度調査、ならびに粉塵量測定を行った。また、国宝指定記念としてキトラ古墳と高松塚古墳の石室ペーパークラフトを作成し、壁画公開参加者に配布した。さらにワークショップ「つくってわかる！ミニチュア石室」を開催した。秋・冬の壁画公開期間にあわせて、移動式のプラネタリウムせっちし、「キトラ古墳からみる古代中国の天文学」の投影イベントを実施した。

・整備後墳丘の維持管理のため、キトラ古墳墳丘法面植栽の経過観察を行った。また、整備後の墳丘の活用のあり方について検討するため、キトラ古墳遺跡見学・乾拓体験会を実施した。

・国内の壁画古墳、海外の壁画古墳や石窟壁画、土層はぎとり標本などについて、関連文献の調査とともに実物またはレプリカ等を用いた展示および保存活用事例の視察、情報収集等を行った。

・キトラ古墳壁画を適切な環境のもと保存・活用する方策を検討するため、様々な環境下で壁画の保存・活用を実践しているイタリアにおいて類例調査を実施した。ここでは、取り外し後に壁画を博物館において収蔵、公開している事例、および古墳現地において保存をはかっている事例について、それらの保存環境と劣化状態について視察した。

・保存管理施設には基本 2 名以上の人員が常駐する体制を整え、施設の出入りと作業に関するマニュアルに則り、空調の設定および運転状況の確認、施設内の清掃、壁画の目視による状態観察や修理技術者による壁画点検への協力、生物対策、各種業者点検の立ち合いなどの作業を行った。地震、台風、豪雨等の後は収蔵品・施設・墳丘等を目視点検し関係者に情報共有した。また、飛鳥管理センターおよび飛鳥歴史公園事務所との日常的な連絡調整、月 1 回の五者協議参加等の連絡調整作業を行った。キトラ古墳壁画の公開は 4 回実施した。壁画非公開期間においては、看視員 1 名を配置して、展示室の公開を実施し、出土品レプリカや石室模型などを展示した。このほか、保存管理施設のホームページを運営し、施設の紹介、公開等に関する情報を掲載した。



可視分光分析の様子

【実績値】
・古墳壁画の経年変化記録撮影：4 件
・キトラ古墳遺跡見学・乾拓体験会：27 名
・つくってわかる！ミニチュア石室：19 名
・一般公開：4 回
・移動式プラネタリウム：2017 名（10 月 584 名、2 月 1433 名）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務　(②-10)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：61,641 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　高妻洋成
【スタッフ】玉田芳英（都城発掘調査部、部長）、内田和伸（文化遺産部、遺跡整備研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター、主任研究員）、廣瀬覚（都城発掘調査部、主任研究員）			

【年度実績概要】

・石材の劣化状態について現状を把握するため、クラックの分布確認調査を実施し、19 年度に実施した結果と比較を行った。また、新たな保存活用のための施設が整備された後の仮設修理施設からの石材の輸送に備えて、輸送時及び展示に用いるフレームについて検討するため、加速度計及び変位計による計測を行った。石室石材の物理的性質として、二上山産凝灰岩試料を用いて放湿過程における平衡含水率と、各平衡含水状態における引張強度の測定を行った。

・ SfM の手法を用いて、三次元レーザースキャニング導入以前の 16 年度調査データを再整理し、調査結果を三次元モデルとして提示した。また、築造当時の古墳の姿を周辺の地形や景観の復元モデルの中で再現するための基礎作業として、高松塚古墳や飛鳥の諸古墳を対象に周辺地形の詳細三次元モデルを 2 点作成した。

・石室解体時に取り外した石室目地漆喰のうち、天井石 1-2 東側面目地漆喰の台座よび水準杭の安定的な保管管理のための台座を作成した。

・壁画の経年変化を把握するための記録撮影を行った。さらに、壁画材料の科学調査として、可視分光分析、テラヘルツ波イメージング、デジタルアーカイブスキャニング（赤外線、可視光線、紫外線）を実施した。

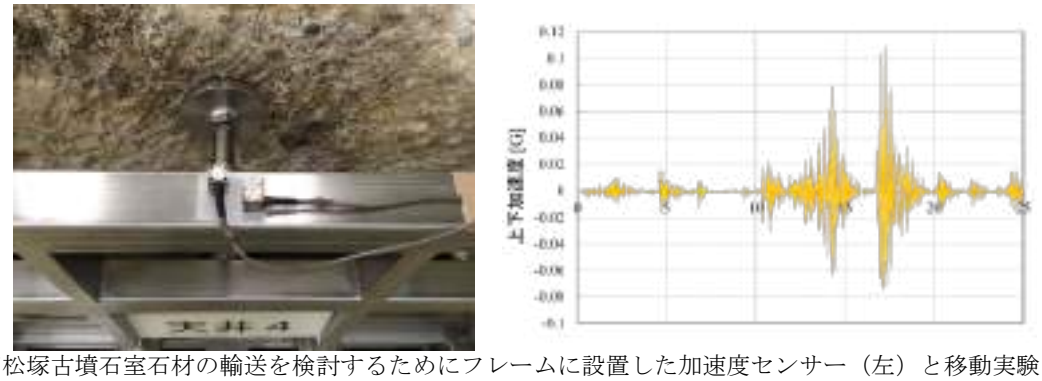
・壁画の色料を調査するためのＸ線回折分析装置を完成させた。

・高松塚古墳壁画に対して行った一連の蛍光Ｘ線分析のデータを整理し、報告書を刊行した。

・高松塚古墳壁画の保存・活用に資するため、熊本県指定田川内古墳の石室内環境及び周辺環境の現地調査を行った。また、様々な環境下で壁画の保存・活用を実践しているイタリアにおいて類例調査を実施した。

・高松塚古墳の墳丘整備に資する類例調査として、熊本県内の装飾古墳の調査を行った。

・高松塚古墳壁画仮設修理施設において、壁画保管室等の保管環境の管理、壁画の状態観察を行うとともに、文化庁と連携し、年間 4 回の仮設修理施設の一般公開において、研究員を派遣し、高松塚古墳壁画に関する解説を行った。



高松塚古墳石室石材の輸送を検討するためにフレームに設置した加速度センサー（左）と移動実験により得られた上下動の加速度。加速度は極めて小さいことが明らかとなった。

【実績値】

・古墳壁画の経年変化記録撮影：11 件
・デジタルアーカイブスキャニング：可視光 11 件、赤外線 11 件、紫外線２件
・テラヘルツ波イメージング：１件
・高松塚古墳壁画蛍光Ｘ線分析調査報告書：１件
・高松塚古墳壁画修理施設一般公開派遣研究員数：のべ 27 名

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3311E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（①－1）－ア)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：４３，９９４千円			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際センター長　友田正彦（事務局長）

【スタッフ】
西和彦（国際情報研究室長）松保小夜子、牧野真理子、五嶋千雪（以上、アソシエイトフェロー）、廣野都未（事務補佐員）

【年度実績概要】
文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するとともに、各分野の研究者間や関係機関との連携を図るために会議を開催した。元年度は特に、「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」に基づく基本方針の改定に向けて、コンソーシアムとしての提言を行なった。また、文化遺産保護に関する国際協力の活動を広報するため、研究会やシンポジウムを開催するとともに、コンソーシアム公式ウェブサイトを通して文化遺産に関する情報を発信した。また、インドネシアにおいて国際協力調査を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催
・運営委員会を 2 回開催し、活動方針等を協議した。
・企画分科会を 4 回、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を各 2 回ずつ、計 16 回開催した。
・上記のほか、前述の基本方針の議論のために、運営検討ワーキンググループを３回開催した。

Ⅱ．情報収集と情報発信
・コンソーシアム公式ウェブサイトで文化遺産国際協力に関わる活動の周知広報を図った。
・研究会「文化遺産保護の国際動向―世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産―」、「文化遺産と SDGs II」を開催した。
・シンポジウム「文化遺産の意図的な破壊- 人はなぜ本を焼くのか」を開催した（文化庁と共催）。
・会員向けのメールニュース(コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。


シンポジウムの様子（基調講演）

Ⅲ．文化遺産国際協力の推進に資する調査
・インドネシアにおいて、津波等災害後の復興に文化遺産がいかに資するかをテーマに現状を調査した。

【実績値】
運営委員会の開催：2 回、分科会の開催：(企画分科会 4 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、欧州分科会 2 回、アフリカ分科会 2 回、中南米分科会 2 回）合計 16 回、研究会の開催：2 回（内 1 回は総会を兼ねる)、シンポジウムの開催：1 回、運営検討ワーキンググループ：３回
（成果物ドキュメント名）
①報告書『第 25 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向―世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産―」報告書』(日本語版：300 部、2 年 3 月刊行)
②報告書『シンポジウム「文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―」報告書』(日本語版：300 部、2 年 3 月刊行)
③報告書『第 26 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産と SDGsⅡ―世界では、いま何が語られているのか―」報告書』(日本語版：300 部、2 年 3 月刊行)
④報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査（インドネシア）報告書』(日本語版：300 部、2 年 3 月刊行)
⑤小冊子『文化遺産の国際協力』(日英併記：1,000 部、2 年 3 月刊行)

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」(①－2)－ｱ－ (ｱ))

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：19,329 千円

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　友田正彦

【スタッフ】金井健（保存計画研究室長）、間舎裕生、淺田なつみ（以上、アソシエイトフェロー）、岡崎未来（事務補佐員）、久保田裕道（無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長）、石村智（同音声映像記録研究室長）、山田大樹（都市環境研究所研究員・客員研究員）

【年度実績概要】
2015年4月のゴルカ地震で被災したネパールの文化遺産復興を技術的に支援するため、カウンターパートである同国文化観光民間航空省考古局（DOA）をはじめ関係機関との協働のもと、建築史、建築構造、都市計画、修復技術、無形文化遺産等の各分野において、以下に記す会議や調査をDOA常駐のJICA専門家とも連携しつつ行った。なお、歴史的建造物の構造学的な調査は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室に再委託して行った。

(5 月 1 日～5 月 8 日：1 人)
ラリトプル市コカナ区における集落調査
(5 月 24 日～5 月 29 日：1 人)
ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物群修復事業に関する会議への出席
(6 月 1 日～6 月 4 日：1 人)
ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物群修復事業に関する会議への出席
(7 月 5 日～7 月 10 日：2 人)
ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物群修復事業に関する会議への出席及び現地調。
(7 月 14 日～7 月 26 日：1 人)
ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物群実測調査、ラリトプル市コカナ区における無形文化遺産ワークショップに関する打合せ、キルティプル市における第 3 回市長会議に関する打合せ
(8 月 9 日～8 月 17 日：2 人)
ラリトプル市コカナ区における集落及び無形文化遺産調査並びに無形文化遺産ワークショップに関する打合せ
(9 月 18 日～9 月 26 日：6 人)
ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物群修復事業に関する会議への出席及び調査、
キルティプル市におけるエンジニアワークショップの運営及び出席
(10 月 21 日～10 月 25 日：2 人)
ラリトプル市コカナ区における無形文化遺産に関するワークショップの開催
(11 月 29 日～12 月 6 日：2 人)
キルティプル市におけるエンジニアワークショップの開催、歴史的集落保全制度に関する調査
(2 年 1 月 2 日～1 月 8 日：6 人)
キルティプル市における第 3 回市長会議の開催、歴史的集落保全制度に関する調査
(2 年 3 月 8 日～3 月 11 日：1 人)
サンクー市におけるエンジニアワークショップの開催、歴史的集落保全制度に関する調査

【実績値】
専門家派遣 11 回（延べ 25 人)、現地会合 12 回、報告書 6 冊(①～⑥)、研究論文 3 件、研究発表 5 件
①報告書『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書』、2 年 3 月
②報告書『Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu』、2 年 3 月
③報告書『Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu』、2 年 3 月
④報告書『Khokana, the vernacular village and its mustard-oil seed industrial heritage, Survey Report 』、2 年 3 月
⑤報告書『 Proceedings, The Second Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys』、2 年 1 月
⑥報告書『 Proceedings, The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys』、2 年 3 月

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」((①−2) −ア− (ア))

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：8,491 千円

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	金井健（保存計画研究室長）

【スタッフ】友田正彦（文化遺産国際協力センター長)、西和彦（国際情報研究室長)、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー)、マルティネス アレハンドロ（前アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
ブータン政府が法的整備の検討を進めている民家を含む歴史的建造物全般の文化財としての保護に関して、カウンターパートである同国内務文化省文化局（DOC）遺産保存課（DCHS）と協力し、同国の文化的伝統や遺産保護に対する考え方に即した実効的な制度や体制の構築に資することを目的として、以下に記す専門家の招へいや派遣を行った。

（6 月 23 日～28 日：招へい 2 人、DCHS 職員）
被招へい者
・イシェ・サンドゥップ、
・ペマ・ワンチュク
24 日：協力専門家会議の開催、25～28 日：伝統民家の保存活用に関する視察研修（鳥取県：重要文化財尾崎家住宅、鳥取市鹿野、兵庫県：養父市大杉、篠山市篠山、同福住、京都府：南丹市ザイラー邸、同美山町北、大阪府：豊中市日本民家集落博物館）

（8 月 20 日～28 日：派遣 11 人、外部専門家含む）
保存候補民家の修理計画及び活用計画に関する調査（ラモ・ペルゾム邸、タンディン・ザム邸、プブ・ラム邸)、文化財としての民家の価値評価手法に関する調査（プナカ県内の 3 集落及びハー県内の 2 集落)、伝統民家の活用事例に関する調査（パロ県内)、MOU の取り交わし及び調査成果報告会議の開催（DOC）

（2 年 1 月 12 日～18 日：派遣 6 人、外部専門家含む）
伝統民家の保存活用に関するワークショップの開催（DOC）及び関連調査の実施





ブータンにおける現地調査の様子
上：民家の修理計画に関する調査
右：民家の価値評価手法に関する調査

【実績値】
専門家招へい・派遣 3 回（延べ 19 人)、会議 3 回、研究発表 2 回、報告書 1 冊(日英別刷)
○報告書『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業―保存候補民家の修理計画及び保存活用計画検討―文化遺産としての民家の価値評価手法の検討―』、2 年 3 月

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	2019年度文化遺産保護貢献事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）（①-2)-イ)

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：10,780千円

【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	企画調整部　加藤真二

【スタッフ】加藤真二（企画調整部長）、庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、影山悦子（同アソシエイトフェロー）、田村朋美（都城発掘調査部考古第一研究室研究員）、国武貞克（同主任研究員）

【年度実績概要】

本事業は、カザフスタン国立博物館を相手国拠点とし、カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術の移転を目的としている。

9月に事前調査、11月に現地研修、翌年1月に招へい研修を実施し、技術の移転をはかった。

①事前調査：9月15日～9月20日：カザフスタンの首都ヌルスルタンにあるカザフスタン国立博物館に奈文研の研究者4人を派遣し、現地研修と招へい研修の事前調査を行った。同博物館の民族遺産研究所長他と打ち合わせを行い、研修内容を協議した。先方から、考古遺物の科学的調査、出土遺物の応急処置および保存処理についての研修が要請された。そのため、現地研修では土器の科学的調査方法について、招へい研修では、金属製品の保存処理の実習を含む研修を行うことにした。

②現地研修：11月17日～11月25日：カザフスタン国立博物館に奈文研の研究員2人と明治大学黒燿石研究センターの研究者1人を派遣し、土器の科学的調査方法に関する研修を行った。はじめに、土器の植物圧痕のレプリカを採取し、植物の種類を同定する方法を紹介した。講義の後で、実際にカザフスタンで出土した土器から圧痕のレプリカを採取する実習を行った。次に、土器の胎土や表面に残存する有機質を分析する方法を紹介した。講義の後で、土器片の一部をドリルで削り、粉末状にして試料を採取する実習を行った。また、中央アジア出土の考古遺物をもとにした文化史研究の事例を紹介した。アンケートでは、圧倒的多数の参加者から研修に満足したという回答が得られた。その理由として、このような土器の研究方法について初めて知ったから、また、講義だけでなく実習が含まれていたから、などのコメントが寄せられた。

③招へい研修：2年1月18日～1月25日：カザフスタン国立博物館から考古学者4人、保存修復家2人を招へいし、研修を行った。はじめに、国際セミナーを開催し、カザフスタン国立博物館の研究員3人が自らの考古調査や保存修復作業について報告した。次に、奈文研の埋蔵文化財センターの遺跡・調査技術研究室、環境考古学研究室、年代学研究室を案内し、各室の研究活動、研究方法を紹介し、意見交換を行った。さらに、保存科学研究室では、金属製品の保存処理に関する講義と実習を行った。また、同じ時期に、現地研修で実施した科学的調査方法の専門家や、カザフスタンのナザルバエフ大学考古学科の教授を招へいし、アドバイザリー・ミーティングを開催した。専門家らは、それぞれの立場から、研修事業をさらに充実したものにするための提案を行い、研修参加者と意見交換を行った。ほかに、国立歴史民俗博物館、アジア太平洋無形文化遺産研究センター、東京文化財研究所無形文化遺産部、明治大学黒燿石研究センター、東京大学総合研究所放射性炭素年代測定室を訪問した。



土器の圧痕レプリカ法の実習（11月）

【実績値】
・専門家派遣　2回、4人（事前調査）、3人（現地研修）、計7人
・研修　2回、27人(現地研修)、6人（招へい研修）、計33人
・専門家招へい　1回、10人

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	平成 31 年度（2019 年度）二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地　(①-2)-ｱ-(ｲ))
【委託者・受託経費】 委託者：（独)日本学術振興会 受託経費：1,646 千円	
【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)　【事業責任者】　部長　玉田芳英
【スタッフ】 山藤正敏（考古第二研究室研究員)、黒沼太一（総合研究大学院大学先導科学研究科特別研究員）	

【年度実績概要】

本共同研究は、イスラエル国ネゲヴ・ベン＝グリオン大学（代表：ユーヴァル・イェクティエリ上級専任講師）と共同で、同大学による古代都市テル・エラニ遺跡の発掘調査で出土した土器を調査研究することにより、前 4 千年紀末にイスラエル南西沿岸部（南西カナン）に渡来したエジプト人の居留地の形成過程、また、同居留地を介したエジプト人と在地社会の接触の様相と変遷について精確な知見を得ることを目的としている。(独）日本学術振興会の受託事業として、元年度は以下の事業を実施した。



ネゲヴ・ベン＝グリオン大学での調査風景（夏季）

1）テル・エラニ遺跡出土土器の調査研究（夏季）

7 月 23 日～8 月 9 日の期間、調査研究のためイスラエルに渡航した。

夏季渡航時には、文化層の堆積状況などを確認するため、テル・エラニ遺跡の発掘調査に 3 日間参加した。この後、ネゲヴ･ベン＝グリオン大学考古学研究室において、同遺跡出土土器を試験的な対象として分析を実施した。

帰国後には、取得したデータを解析し、データの有効性を検証するとともに、新しい土器分析方法を試験的に作成した。



ネゲヴ・ベン＝グリオン大学での調査風景（冬季）

2）テル・エラニ遺跡出土土器の調査研究（冬季）

2 年 2 月 8 日～2 月 21 日の期間、調査研究のために再度イスラエルに渡航した。

冬季渡航時には、ネゲヴ･ベン＝グリオン大学考古学研究室において、テル･エラニ遺跡出土土器の分析を集中的に実施した。夏季調査時と隣接した地区から出土した土器資料に対して、新しい土器分析方法を試験的に運用し、その効果を確認した。

また、今後の分析方法や来年度の調査研究計画について先方と入念に打ち合わせた。

なお、2 年 3 月に予定していたイスラエル人研究者の招聘は、予想していなかった国際状況の変化を受けた渡航制限により実施できなかった。

【実績値】

・研究発表：1 件（①)、土器データ取得点数：1296 点、実測土器点数：90 点

①山藤正敏「死海地溝帯域における前期青銅器社会の変遷」基盤 S 科研研究会、金沢大学角間キャンパス、8 月 11 日。

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3313E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」運営実施業務		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：２２，８１５千円			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	技術支援研究室長　加藤雅人
【スタッフ】 五木田まきは、後藤里架、小田桃子（以上、アソシエイトフェロー）、堀まなみ（前アソシエイトフェロー）、菊池理予（無形文化遺産部主任研究員）、佐野真規（無形文化遺産部アソシエイトフェロー）			

【年度実績概要】

当研究所では「在外日本古美術品保存修復協力事業」として、海外で所蔵されている日本作品の保存修復を行っている。この事業において、27 年から 30 年にかけて、ポーランド国立クラクフ博物館所蔵の掛軸幅を修復した。これらの修復した作品の展示を中心に、日本美術技術博物館 Manggha（現地名称：Muzeum Sztuki i Techniki Japońskiej Manggha、英語名称：Manggha Museum of Japanese Art and Technology）において、7 月 29 日（事前登録した専門家のみ）及び 30 日（公開）の両日、国際集会「日本絵画の修復」を開催した。

日本絵画の修復には伝統材料や伝統技術が必要であり、日本では材料制作技術や修復技術が選定保存技術として国により保護されている。本受託事業では、この集会において、これらの技術について講演、実演、及び体験プログラムの提供を通して、国際的な理解の促進に貢献した。

○講演会（7 月 29 日）
「文化財保護法と選定保存技術」：地主智彦（文化庁）
「文化財保存修理「装潢修理技術」について」山本記子（国宝修理装潢師連盟）

○ロビー展示、実演、体験（7 月 29 日～30 日）
装潢修理（実資料展示、ポスター展示、パンフレット配布、動画上映）：国宝修理装潢師連盟、文化庁、当研究所
刷毛（実資料展示、ポスター展示、実演）：田中宏平（小林刷毛製造所）
金工（実資料展示、ポスター展示、実演）：君嶋真珠（継 金属工房）
和紙（実資料展示、ポスター展示、和紙見本帳配布）：文化庁、国宝修理装潢師連盟、当研究所
裂（実資料展示、ポスター展示）：山本記子（国宝修理装潢師連盟）
装潢修理・材料用具製作（実資料展示、パンフレット配布、ポスター展示）：大菅直（伝統技術伝承者協会）
選定保存技術全般（パンフレット配布、ポスター展示）：文化庁、当研究所
宇陀紙抄造（実演、体験）：福西正行

○装潢修理技術ワークショップ（7 月 29 日～30 日）
和紙製包み作製：木村暢成、沖本明子、木下陽介（以上、国宝修理装潢師連盟）
和綴じ和紙見本帳作製：木村暢成、沖本明子、木下陽介（以上、国宝修理装潢師連盟）


講演会


ロビー展示


手漉き和紙体験


装潢修理技術ワークショップ

【実績値】
○参加人数及びアンケート結果
・講演会　47 人
（アンケート回答数：18）素晴らしい：10、とても良い：7、良い：0、まあまあ：0、悪い：0、無回答：1
・ロビー展示　252 人（内訳：7 月 29 日 33 人、30 日 219 人）
・装潢修理技術ワークショップ
7 月 29 日　25 人
（アンケート回答数：20）素晴らしい：13、とても良い：4、良い：3、まあまあ：0、悪い：0、無回答：0
7 月 30 日　21 人
（アンケート回答数：19）素晴らしい：15、とても良い：1、良い：0、まあまあ：0、悪い：0、無回答：0

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3313E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法)」(①－3)

【委託者・受託経費】
委託者：奈良県立橿原考古学研究所
受託経費：3,000 千円

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	金井健（保存計画研究室長）

【スタッフ】安倍雅史（研究員)、間舎裕生、淺田なつみ（以上、アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
シリアでは長く続いた紛争によって、ダマスカスやアレッポといった世界文化遺産に登録されているものを含む多くの歴史的都市が甚大な被害を受けた。一方、国内が徐々に安定を取り戻し都市の復興が始まる中においても、モスクなど一部の記念的建造物以外はその歴史的価値が認識されないまま取り壊されてしまうことが多い。そこで本事業では、同国古物博物館総局の専門家を招へいし、文化遺産として望ましい歴史的都市の復興のあり方をテーマとした研修を行った。

（7 月 23 日～8 月 6 日　招へい 2 人、古物博物館総局職員）
被招へい者
　フィラース・ダ―ドゥーク、
　ムアード・ガーネム
24 日：施設見学（東京国立博物館及び東京芸術大学)、25～31 日：講義（歴史的建造物の破損状況調査や応急処置、構造安全性診断の方法、ドキュメンテーションおよびデータベースの作成方法、復興計画の策定方法、復興体制の構築方法)、1～5 日実地研修（熊本県：熊本城、熊本大学、重要文化財江藤家住宅、新町および古町地区、兵庫県：姫路城、京都府：清水寺、産寧坂重要伝統的建造物群保存地区、奈良県：称念寺、今井町重要伝統的建造物群保存地区）




研修の様子　左：講義　右：実地研修（熊本市古町地区）

【実績値】
専門家招へい 1 回（2 人)、報告書 1 冊
○報告書『The Silk Road Friendship Project: Training Workshop for the Research Planning for Reconstruction of Damaged Historic Cities and Buildings, 2019』 、9 月

【受託】　施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号　3320G

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和元年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：52,041 千円			
【担当部課】	―	【事業責任者】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長　岩本渉
【スタッフ】 大貫美佐子(副所長(兼)研究担当室長)、外間尹隆(室長) 、林洋平(係長)、児玉茂昭、佐々木一恵、三好友夏、池田明子、梅田恭代 (以上、アソシエイトフェロー)、長谷川悟郎 (前アソシエイトフェロー)			

【年度実績概要】



第 1 回ワーキンググループ会合での議論の模様 ((1) ①事業)

(1)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

①研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業

・6 か国 (インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー) の研究機関を対象とした第 1 回ワーキンググループ会合を実施し、事業協力を合意した (6 月 26 日～27 日、東京)。

・上記会合にて専門家と協議の上「ナショナルカウンターパートのガイド (ガイドライン)」を策定し、英語及び各国語で提供した。

・各協力機関から提出された研究情報を IRCI データベースに投入した (3 月完了)。

・元年度に収集・提出された研究情報を 2 年度の活動計画について協議するため第 2 回ワーキンググループ会合を開催した (2 年 2 月 4 日～5 日、東京)。

②研究データベースの更新・充実

・国内のデータベース専門家と IRCI のデータベース機能の改善点について打ち合わせを行った (6 月 24 日、京都)。

・無形文化遺産の専門家とヤンゴン大学の専門家を招き、ワーキンググループ会合を開催し、IRCI の研究データベースとヤンゴン大学のライブラリシステムを試験的に連携させるパイロット版のデータベースの構築のため議論を深め、実践的なガイドラインを作成した (7 月 22 日～23 日、東京)。

・データベースの改善作業を開始した (2 年 2 月完了)。

(2)無形文化遺産保護及びその研究の活性化に資する国際会議等の開催

①第 2 回 IRCI 研究者フォーラム

・国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて」を実施し、アジア太平洋地域 8 か国及びユネスコから 19 人の研究者・専門家が発表者として登壇した (12 月 17 日～18 日、東京)。

・研究者フォーラムの成果はプロシーディングスとして出版した (2 年 3 月)。

②「第 8 回 IRCI 運営理事会」(11 月 11 日、大阪)を開催し、2 年度事業計画について承認を得た。

(3)国際会議等への参加を通じた連携・協力の推進及び C2 センター間の関係強化 (一部交付金)

・Expert Meeting on Intangible Cultural Heritage in Emergencies (5 月 21 日～22 日、パリ)

・UNESCO 2019 Forum on Education for Sustainable Development and Global Citizenship(7 月 2 日～3 日、ハノイ)

・Regional Meeting for Strengthening the Use of ICH in Education(8 月 28 日～30 日、全州市)

・第 7 回 C2 センター会合(9 月 2 日～3 日、アルジェ)

・Review on Capacity-building Workshops (2012-2018) and Recommendations on future Activities organized by CRIHAP (10 月 16 日～19 日、成都)

・韓国 C2 センター運営理事会(10 月 25 日、ソウル)

・International Conference ″The Safeguarding an Promotion of Dong Ho woodblock Paintings in Contemporary Life” (11 月 1 日～2 日、ハノイ)

・第 14 回無形遺産条約政府間会合(12 月 9 日～14 日、ボゴタ)

・第 9 回中国 C2 センター運営理事会(2 年 1 月 14 日、北京)

(4)情報公開等

①IRCI ウェブサイトの定期的更新を行った。

②第 14 回無形遺産条約政府間会合において、ポスター展示及びスライド展示等の活動紹介を行うとともに概要やリーフレットを配布した。

【実績値】

国際会議等開催件数：11 回、国際会議等出席件数 9 件

データベース検索件数：2,827 件 (4 月 1 日～2 年 3 月 31 日)、登録件数：2,626 件

ウェブサイトアクセス件数：13,261 件 (4 月 1 日～2 年 3 月 31 日)

刊行物：①研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて」プロシーディングス (2 年 3 月出版)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3431F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(4)-③-1) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
【事業名称】	日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）		
【委託者・受託経費】 委託者：独立行政法人 日本芸術文化振興会 日本博事務局 受託経費：3,851 千円			
【担当部課】	企画調整部・飛鳥資料館	【事業責任者】	加藤真二（企画調整部長）・石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）
【スタッフ】 廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー）、西田紀子（飛鳥資料館学芸室主任研究員）、若杉智宏（飛鳥資料館学芸室研究員）、小沼美結（飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー）			

【年度実績概要】

・平城宮跡資料館で元年度平城宮跡資料館夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん―土の中の花鳥風月―」を実施した。
会期：7月20日～9月1日・9月5日　34日間
来館者数：9,162人
会期中：ギャラリートーク2回、ワークショップ2回を実施。
日本語、英語、中国語版、韓国語版のポスター、チラシ、リーフレットを作成した。



「ならのみやこのしょくぶつえん　ワークショップ」

・飛鳥資料館で元年度飛鳥資料館春期特別展「骨ものがたり―環境考古学の研究室のお仕事」を実施した。
会期：4月23日～6月30日　61日間
来館者数：10,024人
会期中：関連イベント「体験！研究員のお仕事」3回、「研究員を展示！」4回を実施。
日本語版図録、英語、中国語、韓国語版リーフレットを作成した。



「骨ものがたり」展示

【実績値】

・「ならのみやこのしょくぶつえん」
7月20日～9月1日・9月5日　34日間　来館者数：9,162人
ギャラリートーク2回、ワークショップ2回。
日本語、英語、中国語版、韓国語版のポスター、チラシ、リーフレット作成。
・「骨ものがたり」
4月23日～6月30日　61日間　来館者数：10,024人
関連イベント「体験！研究員のお仕事」3回、「研究員を展示！」4回。
日本語版図録、英語、中国語、韓国語版リーフレット。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	第一次大極殿院南門復原にともなう管理施設予定地の発掘調査　(②-1))

【委託者・受託経費】
委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
受託経費：18,636 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	副部長　渡邉晃宏

【スタッフ】
桑田訓也（主任研究員）、神野恵（上席研究員）、林正憲（主任研究員）、福嶋啓人（遺構研究室研究員）、浦蓉子（考古第一研究室研究員）

【年度実績概要】

・第一次大極殿院南門復原にともなう管理施設予定地の発掘調査
　調査面積：　400 ㎡（東西 16m、南北 25m。うち 16 ㎡は既調査地区との重複部分）
　調査期間：　4 月 15 日～8 月 2 日

・基本層序
　①表土・造成土（100～150 ㎝）、②黒色土（約 20 ㎝、耕土）、③灰茶土（約 20 ㎝、室町時代以降の遺物包含層、調査区南半に分布）、④茶灰土（約 10 ㎝、中世の遺物包含層、調査区中央部に分布）、⑤暗黄褐色砂質土（約 5 ㎝、整地土・平城太上天皇の西宮造営時か）、⑥明褐色砂質土（30 ㎝、整地土・平城宮造営時）、⑦黄橙色砂礫土（10～70 ㎝、地山）、⑧灰白色粘土（地山、標高 69.80～70.20m）。
　遺構検出は、⑤層の上面で行った。ただし一部⑤層を掘り下げて⑥層上面で検出を行った箇所がある。

・主な検出遺構
　塀 2 条（奈良時代および平安時代初頭）・溝 2 条（平安時代初頭）、地震痕跡（砂脈と噴砂丘・平城宮造営以前）

・主な出土遺物
　奈良時代の瓦（第一次大極殿院所用とみられる鬼瓦片を含む）、古代から近代までの土器・陶磁器類（平安時代前半の土器を含む）。


調査区全景（南東から）

・調査所見
　平安時代初頭の掘立柱塀 1 条と南北溝 2 条を、約 23mにわたって検出した。これまでの調査で確認している遺構の延長部分にあたり、平城太上天皇の住まいの東辺を区画する塀とそれにともなう排水溝と考えられる。
　また、奈良時代の顕著な遺構は確認できないことから、第一次大極殿院や称徳天皇の西宮の東側は、空閑地として保たれ続けた可能性が高いことを再確認した。

【実績値】
論文等数：2 件
　①桑田訓也「平城宮第一次大極殿院地区の調査（平城第 612 次）」『奈文研ニュース№74』（9 月）
　②桑田訓也ほか「第一次大極殿院東方の調査－平城第 612 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）
報道発表等数：2 件
　記者発表（5 月 31 日）、現地説明会（6 月 7 日）
（参考値）
出土遺物：丸瓦 83 点（3.846kg）・平瓦 469 点（20.483kg）、軒平瓦 1 点、鬼瓦 1 点、土器類 2 箱（整理用コンテナ）、鉄滓ヵ 1 点、石製品 1 点、金属 2 点（鉄フック・板状鉄片）、木端 1 点、木炭 1 点（1.8ｇ）
記録作成数：実測図 21 枚（A2 判）、デジタル写真約 1,400 枚
現地説明会来場者数：180 人

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者： 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所 受託経費：28,045 千円			
【担当部課】	企画調整部展示企画室・都城発掘調査部遺構研究室	【事業責任者】	副所長　渡邉晃宏

【スタッフ】
箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）、今井晃樹・岩戸晶子・馬場基・山本 崇・大林 潤・鈴木智大・前川歩・福嶋啓人・山崎有生（以上、都城発掘調査部研究員）、李暉・坪井久子（以上、都城発掘調査部アソシエイトフェロー）、島田敏男（文化遺産部長）、難波美緒（企画調整部アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討を行う国土交通省からの受託研究。奈良時代前期（Ⅰ－2 期）の第一次大極殿院を構成する、南門、東楼・西楼、築地回廊の各建物、及び大極殿院の地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。

元年度は、一連の第一次大極殿院復原研究の成果を示す報告書の作成を進めた。また、30 年度の扁額の検討成果を踏まえ、南門に取り付ける扁額の詳細の仕様に関する検討を行い、検討会にて復原案を確定したほか、南門復原整備工事を進める中で、課題として浮上した鴟尾の拒鵲の施工方法について、検討会を行い討議した。さらに、南門復原整備工事において、研究成果の情報発信、工程の記録化を行った。



鴟尾拒鵲検討会（8 月 7 日）

・報告書の作成
－30 年度までの検討内容を報告書として刊行すべく、論考編（総 570 頁予定）の原稿執筆、及び資料編（総 1100 頁予定）掲載資料の整理・編集作業を進めた。
・第一次大極殿院扁額検討会を開催し、以下の事項を決定した。
－額字「大極門」の各文字の集字方法、及び採用する「門」の字形の選定要件を検討し、決定した。
－現存する縦長扁額の類例等から、南門に取り付ける扁額の形状、意匠の詳細、規模、掛け方を検討し、それら詳細の仕様を決定した。
・第一次大極殿院鴟尾拒鵲検討会を開催し、以下の事項を決定した。
－国内外の瓦製鴟尾の出土類例、文献史料より、古代日本における拒鵲の取り付け方を検討した。
－朱雀門、第一次大極殿における復原鴟尾の拒鵲の施工方法を再確認し、上記検討結果と考えあわせ、南門に据える復原鴟尾の拒鵲の施工方法を検討した。
－古代における施工方法とその実施方法について、さらなる検討を東楼・西楼の鴟尾復原時に行うこととした。
・検討成果の情報発信ほか
－第一次大極殿院南門復原整備工事特別公開（第 1 回：5 月 25・26 日、第 2 回：10 月 26・27 日）に際し、展示パネル・配布用リーフレットの内容（復原研究の概要紹介等）作成、監修を行い、公開当日、現場案内に協力した。
－南門復原整備工事の記録写真撮影およびサムネイル作成を都度行った（2 年度以降も継続）。
－復原事業情報館における展示替えの内容の監修を行った。

【実績値】
・第一次大極殿院扁額検討会（8 月 27 日）
・第一次大極殿院鴟尾拒鵲検討会（8 月 7 日）
論文等：2 件
・李暉「古代鋳銅製建築金具の線彫り工程の検討－第一次大極殿院の復原研究 29－」（仮）
・坪井久子「第一次大極殿院建物における扁額の検討－第一次大極殿院の復原研究 30－」（仮）
以上、『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）
報告書等：1 件
・『第一次大極殿院復原検討会記録 17』（2 年 3 月）（内部資料）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	長登銅山跡出土木簡の保存処理等総合的研究　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：美祢市 受託経費：426 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	副所長　渡邉晃宏
【スタッフ】 馬場基（史料研究室長）、桑田訓也（主任研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、脇谷草一郎・星野安治（埋蔵文化財センター主任研究員）、松田和貴（保存修復科学研究室研究員）ほか			

【年度実績概要】

山口県美祢市に所在する長登銅山跡から 29 年に出土した木簡 6 点について、科学的な保存処理を実施した上で釈文を確定し、その歴史的な意義を明らかにするための事業である。

調査は概ね以下の手順で行った。

①保存処理前の状態（水漬け状態）について、肉眼による文字の釈読及び木の形状や加工の観察などを行い、それらを踏まえた調書（記帳）を作成。
②同上について、可視光線（カラー）、赤外線の 2 種類の写真をデジタルカメラで撮影。データは、奈文研と下関市教育委員会の双方に保管している。
③同上について、釈文の検討を最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、釈文案を作成。
④同上について、埋蔵文化財センター年代学研究室において、顕微鏡観察による樹種の絞り込み。
⑤①～④の終了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理を実施。
保存処理は、高級アルコール含浸の上、真空凍結乾燥を施した。
⑥保存処理後の状態について、②と同じ要領で写真撮影を実施。
⑦同上について、③と同じ要領で釈文を再検討し、最終的に釈文を確定。

以上の調査の結果、全国有数の古代官衙遺跡出土木簡群であることを再確認する一方、貴重な資料を確実に後世に残すための最善の科学的保存処理を実施することができた。

元年度の具体的な調査成果については、委託主体である美祢市教育委員会に業務完了報告書の形で報告した。



保存処理後の再釈読で「廣島」とよむことが出来た木簡（赤外）

【実績値】
保存処理 55 点
記録作成 171 点（可視光線写真 58 点、赤外線写真 58 点、記帳 55 点）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	史跡　法華寺旧境内の発掘調査（②-1)）		
【委託者・受託経費】 委託者：法華寺 受託経費：725 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
【スタッフ】 丹羽崇史（同主任研究員）			

【年度実績概要】

・法華寺境内における防犯施設改修・増設に先立つ発掘調査。
　調査面積：東区　12.75 ㎡　　中区　14 ㎡　計 26.75 ㎡
　調査期間：9 月 2 日～10 月 4 日

・基本層序
　東区：①表土・造成土（茶黄土・灰褐土）（50～70 ㎝)、②青灰土（約 10 ㎝)、③灰色土（10～20 ㎝)、④地山（遺構
　検出面。65.6～66.1m)。遺構検出面は北から南にかけて傾斜している。
　西区：①表土・造成土（約 10 ㎝)、②近世包含層（茶褐土）（40～70 ㎝)、③整地土（礎石ベース面　30 ㎝以上)、④
　　砂層（地山)。③・④にて遺構検出。遺構検出面の標高は、66.1～66.2m。遺構検出面は北から南にかけて傾
　　斜している。

・主な検出遺構
　柱穴 5 基・土坑 1 基・石組溝 1 条

・主な出土遺物
　土師器・須恵器・瓦器・丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・面戸瓦・塼、鉄釘・鉄角釘、砥石・碁石、部材片・杭片・木端・雑木



柱根検出状況

・調査所見
　中区では、既往の調査で確認されている、本堂前の東西棟建物ＳＢ8600 の柱想定位置にて礎石建物の柱穴 2 基、及び下層にて掘立柱建物の柱穴 1 基を検出した。既往の調査であきらかになっているように、ＳＢ8600 は同位置で掘立柱建物から礎石建物に建て替えられているものと考えられる。また、東区ではＳＢ8601 の柱想定位置で掘立柱建物の柱穴 2 基を検出し、少なくとも 2 時期以上の建て替えが行われていた可能性が考えられる。法華寺の前身（藤原不比等邸・皇后宮）の変遷を考える上で重要な知見をえることができた。

【実績値】
出土遺物：土器片 2 箱（整理用コンテナ)、瓦片 80 箱（整理用コンテナ)
実測図：2 点（A2 版)、デジタル写真：19 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	興福寺旧境内の発掘調査（614）（②-1)）		
【委託者・受託経費】 委託者：日本聖公会奈良基督教会 受託経費：416 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	副部長　渡邉晃宏
【スタッフ】 丹羽崇史（主任研究員）			

【年度実績概要】

・日本聖公会奈良基督教会の建物改修の伴う発掘調査
　調査面積：　東西 2m×南北 7m＝14 ㎡
　調査期間：　7 月 16 日～7 月 23 日

・基本層序
　①表土（15～30ｃｍ)、②茶褐土（表土と地山由来土の混合　10～20 ㎝)、③岩盤層（地山　40～70ｃｍ)、④砂層（地山)。②と③の間に、部分的に灰褐土（約 10ｃｍ）がみられる。②の面で 6 基の現代の攪乱を検出し、全体を③の上面まで掘り下げ、遺構検出をおこなった。

・主な検出遺構
　なし

・主な出土遺物
　土師器・陶磁器類、レンガ片、丸・平瓦

・調査所見
　近世以降の削平が著しく、古代の遺構は確認できなかった。



調査区全景

【実績値】
出土遺物：土器・陶器片 1 箱（整理用コンテナ)、瓦片等 1 箱（整理用コンテナ)、
実測図：3 点（A2 版)、デジタル写真：約 50 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	重点地区平城宮周辺の発掘調査（第 619 次）　(③-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：株式会社優ホーム 受託経費：497 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏
【スタッフ】 国武貞克（同主任研究員）			

【年度実績概要】

・住宅建設にともなう事前の発掘調査
　調査面積：19.6 ㎡
　調査期間:12 月 10 日～12 月 12 日(木)

・基本層序
　表土・造成土（約 50 ㎝)。
　以下は近世堀埋土及び護岸・中世堀埋土が 2mほど堆積する。

・主な検出遺構
　堀 2 条（中世及び近世）

・主な出土遺物
　瓦器、中世瓦、木製品



中世堀を部分的に完掘した状況

・調査所見
　中世の堀及び近世の堀を確認した。中世堀は幅が 5m以上ある大型のもので、直線的に掘削された壁面や底面の特徴からみて、室町時代の超昇寺城に伴う空堀と推定される。超昇寺城の縄張りの解明のために貴重な情報となるとみられる。近世堀は中世堀が埋没した後に、概ね同じ位置に掘り直されたものである。
　なお、古代の遺構は失われていた。

【実績値】
（参考値）
出土遺物：瓦類 1 箱、土器類 2 箱、木製品 4 箱（整理用コンテナ)、
記録作成数：実測図 1 枚（A2 判)、デジタル写真約 15 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	名勝　法華寺庭園（618 次）		
【委託者・受託経費】 委託者：法華寺 受託経費：852 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
【スタッフ】 大澤正吾（研究員）			

【年度実績概要】

・名勝　法華寺庭園保存整備事業にともなう事前の発掘調査
　調査面積：７㎡（１トレンチ：1.0×3.0m、２トレンチ・３トレンチ：1.0×2.0m）
　調査期間：2 月 16 日～2 年 1 月 14 日

・主な検出遺構
　近世の園池（主として護岸）

・主な遺物
　土器、瓦、水波紋塼など



池岸と裏込めの状況

・調査所見
　現状の池の石組護岸は、胴木の上に自然石を３～４段ほど積み重ねて構築されるが、裏込めはかなり痛んでいる。本庭園において必要な修理範囲が、当初の想定よりも広範囲に及んでおり、庭園を適切に保存するためには、早急に対応をおこなっていく必要があることがあきらかとなった。
　また、本庭園の当初の作庭は、江戸時代前半の可能性が高いことが確認できた。これは、従前より、寛文 13 年 (1673) ころと目されてきた作庭年代を考古学的に支持するもので、本庭園の学術的価値が一層高まったといえる。
　古代の遺構や前身となる池の確実な痕跡などは確認できなかった。

【実績値】
（参考値）
記者発表：1 回（2 年 1 月 9 日）
出土遺物：土器片 2 箱（整理用コンテナ）、瓦片 5 箱（整理用コンテナ）
実測図：3 点（A2 版）、枚デジタル画像約 200 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-8

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡発掘調査による出土文化財の調査・研究及び報告書作成業務(②-1))

【委託者・受託経費】
委託者：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
受託経費：5,216 千円

【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)	【事業責任者】	部長　玉田芳英

【スタッフ】
森川実（主任研究員)、山本崇（上席研究員)、鈴木智大、和田一之輔、石田由紀子（以上、主任研究員)、清野陽一（考古第三研究室研究員)、山本亮（現東京国立博物館)

【年度実績概要】

○藤原京右京九条二坊・三坊及び瀬田遺跡の発掘調査報告書の作成業務。発掘調査はポリテクセンター奈良の本館建て替えにともない、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構と受託契約を結んで 27 年～28 年に実施したものである（第 187 次調査)。

藤原京期では、条坊関連遺構（西二坊大路）及び九条二坊で大型の掘立柱建物群を検出した。弥生時代後期末に関しては大型円形周溝墓、方形周溝墓、土坑、溝など多数の遺構を検出し、とりわけ大型円形周溝墓は前方後円墳に起源に関わるものとして注目された。遺物には古代の土器に加え、多数の弥生土器と縄文時代後期・晩期の土器、及び縄文時代の石器がある。

これら一連の調査成果の重要性に鑑み、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構と再度受託契約を結んで業務を実施することとしたものである。

○報告書作成業務

・発掘調査報告書の章立てはⅠ.序言、Ⅱ.調査、Ⅲ.遺構、Ⅳ.遺物、Ⅴ.自然科学分析、Ⅵ.考察、Ⅶ.結語との７章である。

・本調査で得られた主要な成果は、①前方後円墳の起源に関わる弥生時代後期末の大型円形周溝墓、②整然とした配置をとる藤原京期の大型建物群、および③まとまった料が出土した縄文時代後期の遺物、である。それぞれ考察を加えるとともに、今後の調査研究の基礎資料となる様に配慮した。

・元年度はまず原稿の集約を行い、年度前半に遺物写真（土器・木製品・瓦）の撮影を実施したうえで報告書の編集を継続した。年度後半には入稿作業を進め、2 年 2 月 28 日に刊行した。



瀬田遺跡円形周溝墓出土弥生土器

【実績値】
・『藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』
・本文 166 頁、図版 53 頁、附図 2 点
・本文挿図点数　115 点
・写真点数　230 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-9

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査（②-1）

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市
受託経費：605 千円

【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)	【事業責任者】	部長　玉田芳英

【スタッフ】清野孝之（考古第三研究室長）、大林潤（主任研究員）、和田一之輔（主任研究員）、土橋明梨紗（考古第二研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○高殿町内の個人住宅建築にともなう発掘調査であり、橿原市からの受託事業として実施した。調査地は、藤原宮東南東方南官衙地区であり、高殿環濠集落の西辺南部にあたる。
・調査地：橿原市高殿町 234
・調査期間：10 月 21 日～31 日
・調査面積：14.8 ㎡


調査区全景（南から）

○調査成果
・調査の結果、大土坑 1 基、斜行溝 1 条、土坑 2 基を検出した。調査区東南隅で大土坑 1 基、調査区のほぼ全面におよぶ斜行溝 1 条、調査区西北隅に土坑が 2 基ある。
・調査区東南隅の大土坑は不整形土坑で、この土坑からは江戸時代の伊万里焼の椀が出土している。
・調査区の大半を占めている斜行溝は周辺の地形からみて西南から東北へ延びていると考えられる。西北肩を検出した。溝埋土の最上層からは江戸時代の灰釉陶器が出土している。
・調査区西北隅の 2 基の土坑には重複関係がある。これらの土坑からは中世の土師器皿と瓦器椀が出土した。
・本調査区内では、藤原宮期までさかのぼる遺構の存在を認めなかったが、周囲の既往調査で把握している遺構面の標高や土層の特徴からみて、古代以前に形成された可能性がある層を調査区西北隅で検出しており、調査区外では藤原宮期の遺構が検出される可能性がある。ただし、調査区内は最終的な埋没が近世以降にまで降る斜行溝と、埋土に中世の遺物を含む土坑によって既に大きく破壊されており、わずかな部分が島状に残存するのみであった。
・調査区内で検出した斜行溝は、遺跡の保護と住宅建設計画を考慮して、住宅建設にともなう工事掘削深度（GL－0.6m）以上の調査掘削を行わなかったため、埋土を完掘していない。そのため、斜行溝の時期や性格は必ずしも正確ではないが、調査区西側を北流する現存の水路が高殿環濠集落の西を画していることや、平面的な規模、最終埋没時期（江戸時代以降）を考慮すれば、今回検出した斜行溝については古い環濠、ないしは環濠集落の内部を区画する溝の可能性がある。
・今回の調査によって、これまであまり調査がおよんでいなかった高殿環濠集落の様相をあきらかにする手掛かりを得ることができた。

【実績値】
・出土遺物：土器 1 箱（土師器、瓦器、陶磁器）、軒平瓦 1 点、瓦 1 箱
・記録作成数：遺構実測図 2 枚、土層断面図 2 枚、デジタル写真 15 枚、デジタルメモ写真 73 枚
・論文等数：1 件（①）。
① 「藤原宮東南官衙地区の調査―第 201-5 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-10

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（水路付替）発掘調査　②-1）

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市
受託経費：464 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	【事業責任者】	部長　玉田芳英

【スタッフ】
森川実（主任研究員）、清野陽一（考古第三研究室研究員）、松永悦枝（考古第一研究室研究員）、山崎有生（遺構研究室研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○四分町内における水路分岐工事にともなう調査であり、橿原市からの受託事業として実施した。調査地は、藤原宮朝堂院西地区内及び藤原宮以前の集落遺跡である四分遺跡にあたる。
・調査地：橿原市四分町 280-2
・調査期間：7 月 23 日～30 日
・調査面積：21.1 ㎡

○調査成果
・現地表面の標高は約 73.5m 前後であり、約 72.2m 付近まで調査区全体が削平を受けていたため、藤原宮期以降の遺構は検出されなかった。
・それ以下の深さでは、古墳時代以前の流路の一部とみられる溝を検出した。これは 1983 年に西側隣接地（藤原宮 37-2 次調査）で検出した、南東から北西に流れる大溝の一部と考えられ、7 世紀初頭頃まで存続したとみられる。溝の埋土はシルトや粗砂の互層で、級化層理が認められることから流水作用にともなう堆積物と考えられる。
・遺物は主として溝埋土から出土しており、土器類が土師器・須恵器を中心にコンテナ 1 箱分、木製品・木質遺物が弓、刀形、加工木、種実などコンテナ 1 箱分、その他に、馬歯が 1 点出土した。また、縄文土器片も出土している。有機質遺物については、特に埋土の中でもシルト層から集中して出土している。


遺構検出状況（南東から）

・今回の調査では調査範囲が限定的であったこと、また、削平が深くまでおよんでいたことから、詳細な時期や性格を明らかにしえなかったが、過去の調査でも確認されている流路跡を発見することができた。出土した土器や木製品などの遺物から藤原宮成立以前の流路と考えられ、宮成立以前の宮内の地形環境や宮整備にあたっての整地状況などを考察する上で貴重な成果をあげることができた。
・調査深度は工事掘削深度である 71.8m までとし、以下の遺構については現地保存とした。

【実績値】
・出土遺物：土器 1 箱、木製品 1 箱、骨 1 点
・記録作成数：遺構実測図 1 枚、写真 6 枚、メモ写真 137 枚
・論文等数：1 件（①）。
①清野陽一ほか「藤原宮朝堂院西地区の調査―第 201－1 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-11

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（別所町水路改修）発掘調査　(②-1)

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市
受託経費：2,306 千円

【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)	【事業責任者】	部長　玉田芳英

【スタッフ】清野孝之（考古第三研究室長）、大林潤（主任研究員）、和田一之輔（主任研究員）、土橋明梨紗（考古第二研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○本調査は既設水路の改修にともない橿原市の受託事業として実施した。調査地は藤原宮南面外濠と六条大路の間にある外周帯と呼ばれる空閑地にあたる。これまでの調査成果から、調査区は東一坊坊間路の想定位置の延長線上にあたり、先行東一坊坊間路及びその両側溝が検出される可能性が想定された。
・調査地：橿原市別所町・高殿町
・調査期間：11 月 18 日～12 月 12 日
・調査面積：195 ㎡

○調査成果
・基本層序は地表面から、①表土・耕作土、②褐色砂もしくは灰褐色砂（旧水路の堆積層）、③橙褐色粘質土・褐色粘質土（古代の整地層か）もしくは④暗茶褐色シルト（古代の整地層か）、⑤褐色及び青灰色粘質土・砂（標高 74.9～75.2m、地山・自然流路）である。遺構検出は⑤層で実施した。
・調査区西部では、③層を掘り込む溝状遺構、幅約 0.7m、深さ約 0.5mの素掘りの東西溝 1 条を検出した。調査区東半では、先行東一坊坊間路西側溝の想定位置の約 0.7m東で南北溝１（幅約 0.6m、深さ約 0.2m。埋土は灰色砂質土）を、先行東一坊坊間路東側溝の想定位置で南北溝２（幅約 0.7m、深さ約 0.2m。埋土は灰色砂質土）を検出した。
・土器が整理用木箱 4 箱分、瓦が整理用コンテナ 8 箱分（うち軒丸瓦 2 点、軒平瓦 3 点、軒桟瓦 10 点、巴文軒丸瓦 1 点、ヘラ書き平瓦「十」2 点、土管 2 点)、その他馬歯 1 点、貝釦 8 点（破片)、桃核 2 点が出土した。
・調査区の東半で検出した 2 条の南北溝は、先行東一坊坊間路両側溝の想定位置に近く、それぞれ同遺構に対応する可能性がある。ただし調査区中の約 2m 分の長さの検出にとどまる上に、わずかに深さ 0.2m程度を残すのみで、出土遺物も少なく、現時点では断定はできない。また、東西溝は、ほぼ東西の正方位に沿っており、もし藤原宮期の遺構であれば、空閑地と考えられている藤原宮外周帯の土地利用について、新たな手掛かりとなるだろう。いずれも、今後の周辺の調査成果を待ちたい。


南北溝１・２検出状況（北東から）

【実績値】
出土遺物：土器・整理用木箱 1 箱、瓦・整理用コンテナ 8 箱、馬歯 1 点、貝釦 8 点（破片)、桃核 2 点
記録作成数：遺構実測図 16 枚、写真 8 枚、メモ写真 169 枚
論文等数：2 件（①・②)。
① 大林潤「藤原宮外周帯の調査（飛鳥藤原第 201－3 次調査)」『奈文研ニュース No. 76』(2 年 3 月)
② 大林潤ほか「藤原宮外周帯の調査－第 201－3 次」『奈文研紀要 2020』(2 年 6 月刊行予定)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-12

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	藤原京跡（南浦町道路改良）発掘調査　(②-1))

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市
受託経費：17,665 千円

【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)	【事業責任者】	都城発掘調査部長　玉田芳英

【スタッフ】石田由紀子（主任研究員）、和田一之輔（主任研究員）、尾野善裕（考古第二研究室長）、清野孝之（考古第三研究室長）、山本崇（上席研究員）、大林潤（主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】

○市道（国道 165 号線小山線）の一部付替え工事にともなう調査であり、橿原市からの受託事業として実施した。周辺では、西に隣接する第 27-7 次調査において、藤原宮期の斜行大溝 SD2690 や弥生後期の斜行溝などを検出しており、本調査区からもこれらの続きが検出されることが予想された。
・遺跡名：藤原京左京八条三坊東南坪
・調査面積：608 ㎡
・調査期間：11 月 18 日～2 年 3 月 31 日


調査区全景（南東から）

○調査成果
・調査区の基本層序は、①耕土、②床土、③灰褐色土、④褐色土（中世の包含層)、⑤藤原宮期の整地層、⑥洪水由来による礫層及びシルト層である。⑤層は、調査区全体には広がっておらず、SD2690 の埋土上面で確認できる。遺構検出は⑤層よび⑥層で行った。遺構検出面の高さは標高 82.0～83.0m。
・弥生時代、古代（藤原宮期か)、中世の遺構を検出した。
・調査区中央部では、第 27-7 次調査で検出した SD2690 の続きとみられる斜行大溝を検出した。斜行大溝は本調査区内で西側に大きく広がっており、少なくとも 2 条の溝が重複している状況が確認できた。そのうち、東寄りの溝が SD2690 である。SD2690 は弥生時代後期の自然流路を切り込む。SD2690 は藤原宮期に埋め立てられたのちに、弥生時代後期の自然流路も含め大規模な整地を行い、平坦にされている。藤原宮期の整地土からは、大型の円面硯が出土しており、遺跡の性格を考えるうえで注目できる。
・ほかにも古代の遺構としては、調査区南部で東西と南北の柱穴列各 1 条を検出した。柱穴列は南や東に展開して、建物や塀になる可能性があるが、周辺は南東部が平安時代以降の洪水により大きく削平されており、柱穴の続きは検出できなかった。
・弥生時代の遺構としては、井戸 1 基、斜行溝 2 条を検出した。井戸は素掘りの井戸であり、埋土から弥生時代後期の長頸壺が 3 個体出土した。
・中世の遺構としては、⑤層及び⑥層上面で掘立柱建物 1 棟、掘立柱塀 1 条、井戸、礫敷、南北溝、東西溝などを検出した。

【実績値】
出土遺物：土器（弥生時代～近代）26 箱、瓦（古代～近代）4 箱、石器 1 箱、鉄滓 1 箱、不明鉄器 1 箱、木器・木製品 1 箱
記録作成数：遺構実測図 39 枚、土層断面図 9 枚、デジタル写真（4×5）109 枚、デジタルメモ写真 950 枚
論文等数：3 件（①～③)。
① 和田一之輔「発掘調査の概要藤原京左京八坊三坊東南坪（飛鳥藤原第 202 次）」『奈文研ニュース』No.77(2 年 3 月予定)
② 石田由紀子「発掘調査の概要藤原京左京八坊三坊東南坪（飛鳥藤原第 202 次）」『奈文研ニュース』No.78(2 年 6 月予定)
③ 和田一之輔・石田由紀子「藤原京左京八坊三坊東南坪―第 202 次」『奈良文化財研究所紀要 2020』（2 年 6 月予定)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-13

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	日南市飫肥 歴史的建造物活用ガイドライン作成のための調査研究　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：日南市 受託経費：225 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】 福嶋啓人			

【年度実績概要】

日南市では、旧来から飫肥城跡および旧城下町の歴史的資源を活用したまちづくりを推進しており、近年は、市所有の歴史的建造物の民間による活用をすすめている。

このようななか、市所有の市指定文化財の民間活用を計画し、市指定文化財としての価値を担保したかたちでの活用を目指している。そのため、民間が活用計画を企画提案する際の前提となる、文化財の価値を損ねないかたちでの活用ガイドラインを作成することとなり、ガイドライン作成のための調査及びガイドラインの作成を当研究所に委託したものである。

ガイドラインを作成したのは、旧伊東伝左衛門家、旧山本猪平家、商家資料館の 3 件である。

現地において、現状の当初部材の残存状況、改造等の変遷の検討をおこない、写真撮影をおこなった。また、同時に、日南市教育委員会と、活用方策を鑑みた各部分・部所の取扱い方針について協議した。

その上で、日南市教育委員会と協議し、上記 3 件についての活用ガイドラインを作成した。



旧伊東伝左衛門家



商家資料館

【実績値】

野帳　約 40 枚

写真　1,000 カット

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3523E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	被災資料有害物質発生状況調査業務（②-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：陸前高田市 受託経費：３，５４７千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	佐野千絵（センター長）
【スタッフ】 林美木子（防災ネットワーク推進室ＡＦ)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、小峰幸夫（ＡＦ)、水谷悦子（研究員)、相馬静乃（研究補佐員)、古田嶋智子（客員）			

【年度実績概要】

これまでに安定化処理を終えた資料に残存する異臭、保管中の諸問題を対象に、作業者や管理者に有害な化学物質の有無や濃度について調査し、今後の保管及び安定化処理等の進め方について、改善方法を提案することを目的とする。

○保管環境の調査

・温湿度調査

各作業室、資料収蔵室に温湿度測定機器を設置し、管理者である学芸の執務室に温湿度情報を集約して監視できる端末を設置した。問題なく動作していることを確認した。

・空気質調査

文化財の保管環境として、被災漆工品を保管している室を除いて、問題ないことを確認した。

今後の改善予測が可能となるよう、二酸化炭素を用いて約 3000ppm の空間を作り、減衰量から教室の換気率を測定した。0.21 回/時で、学校の教室を改修したことで比較的気密性が向上し、温湿度が安定しやすくなっていることがわかった。一方、持ち込まれたガスや資料から発生するガスは抜けにくい状況になっていることが分かった。

労働環境の観点から昨年来問題となっていたナフタレンについて継続して監視した。室内大気中濃度は、換気対策と活性炭によるガス吸着の促進により、29 年の 100 分の 1 まで下がり、WHO の推奨する濃度と同程度となった。

・生物生息状況調査

新たに調査を開始した。元年はデータを収集し、監視を継続した。

○処置作業の改善

水浸時間を短縮し、終了の評価とする塩化物イオン濃度を 50ppm とする新たな手法について試験的に実施した。洗浄、脱塩時間を各 1 時間とすると、約 1/3 の資料が再処理が必要となるが、2/3 の資料は処理を終了できることがわかった。また新たな手法では、これまで 7～10 日かかっていた処置期間が 1 日となり、処理速度を上げることができた。

新たな手法で処理した資料について、その後の推移を監視している。



計測準備の様子

【実績値】

被災資料有害物質発生状況調査業務報告書　1 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3523F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	古墳の石室及び横穴墓等の被災状況及び防災措置の調査研究委託業務　(②-10)-7)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：1,739 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長 高妻洋成
【スタッフ】金田明大（埋蔵文化財センター、遺跡・調査技術研究室長）、林正憲（都城発掘調査部、主任研究員）、廣瀬覚（都城発掘調査部、主任研究員）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター、主任研究員）			

【年度実績概要】

・史跡井寺古墳の石室及び出土石材の適切な保護を進めるため、史跡井寺古墳出土石材を主な対象として石材及び装飾の保存方法並びに装飾の保護の在り方について検討した。石材及び装飾の保存方法の検討については、石材の岩石種の同定、みかけの密度等の物性値の測定、付着した粘質土のクリーニング試験、蛍光X線分析等による装飾彩色材料の推定を行った。これらのデータを基に、装飾古墳の保護のあり方について一定の指針を提示した。

・史跡井寺古墳並びに関連古墳において、古墳の石室及び墳丘構造についての考古学的調査と、それらの保護施設の現況や環境変化の自然科学的調査を実施し、それらを総合することで雨水や土砂の流入が古墳及び石室の保護に与える影響のメカニズムを明らかにし、史跡井寺古墳の入り口部覆屋が長期的に史跡井寺古墳の保護に及ぼす影響の検討を行った。

・市町村教育委員会の文化財担当者が効果的及び効率的にデータを集積することが可能となるよう、古墳を含む周辺の地形計測、石橋等の石造文化財の3次元計測及び古墳石室内部の3次元計測に関する講習会を実施した。講習会では実地での計測実習と熊本県内に設置されている画像解析装置を用いた3次元データ化と解析技術の講習を実施した。古墳を含む周辺の地形計測については、LIDARによる3次元地形計測による3次元データ化を行った。



入口設備が取り付けられた井寺古墳

【実績値】

・石室 3 次元データ：3 件（井寺古墳、江田船山古墳、永安寺東古墳）
・講習会：1 回（熊本県立装飾古墳館）
・LIDAR による墳丘の 3 次元計測:1 件（御船町今城大塚古墳）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務(③-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：一般財団法人　公園財団飛鳥管理センター 受託経費：6,464 千円			
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	加藤真二（企画調整部展示企画室長）
【スタッフ】 廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー)、座覇えみ（展示企画室アソシエイトフェロー：7 月 31 日まで)、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー：7 月 1 日から）			

【年度実績概要】

・展示物の状態確認と日報の作成をおこなった。
特に、井戸部材（廊下）と斎串（展示室 4）については、状態確認・展示環境のモニタリングを重点的に行なっている。特に井戸部材については、モニタリングの結果をもとに、その取扱いについて、数次にわたって埋蔵文化財センター、都城発掘調査部と協議を行った。現状で安定方向に向かっていることが確認されたことから、状態確認・展示環境のモニタリングを続行していくことになった。

・奈文研へあった所蔵物の貸出依頼に応じ、展示室４からの展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰を行なった。

・印刷・出版物の監修、依頼のあった来館者ほかの案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問に対応した。

・平城宮跡資料館展示、大極殿内幢幡展示とコラボレーションした展示、ワークシートの作成と配布をおこなった。

・展示室４を中心とした平城宮いざない館全館における展示に関わる訂正や修繕箇所の洗い出しを再度行い、国交省、管理センター、展示業者等関係者と協議するとともに、11 月 11 日に改修をおこなった。



廊下に展示している井戸部材についての現地協議

・奈良県の小学校社会科副読本(「奈良県のくらし」編集委員会編)『奈良県のくらし』におけるいざない館ならび平城宮跡歴史公園に関わる箇所の監修ならびにそれにもとづく、平城宮跡歴史公園の教育旅行誘致に向けての学習ワークシートの企画・監修をおこなった。

・12 月 25 日、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジにおける平城宮跡の歴史コンテンツ等もいかした AR の作成に向けてのヒアリングに参加した。

・国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所が平城宮いざない館企画展示室で開催する平城宮いざない館開園 2 周年記念特別展「再発見、古都奈良を支える木と匠のものがたり」展（会期：2 年 3 月 20 日～5 月 31 日：3 月 31 日現在、新型コロナウイルス感染防止のため、臨時休館中）の展示パネルの監修、展示品の選択、列品等に協力した。

【実績値】

・日報の作成（土日祝日をのぞく毎日）
・露出展示物および木製品の計測・グラフ化作業 90 件
・展示物の借用対応　5 件
・管理センターへの専門的知識に基づく助言・協力・監修 31 件
・印刷・出版物・アプリの校正・監修 23 件
・案内　5 件
・質問対応 60 件
・展示 1 回、ワークシート 3 種類
・通知した展示室 4 を中心とした展示に関わる改修箇所　約 20 件
・奈良県の小学校社会科副読本『奈良県のくらし』のいざない館・平城宮跡歴史公園に関わる箇所の監修ならびにそれにもとづく平城宮跡歴史公園学習ワークシートの企画・監修
・平城宮いざない館開園 2周年記念特別展「再発見、古都奈良を支える木と匠のものがたり」展への協力

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力		
【事業名称】	古墳等の発掘調査による採取資料等を用いた展示活用に関する情報収集・分析業務　(③-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：1,969 千円			
【担当部課】	飛鳥資料館	【事業責任者】	学芸室長　石橋茂登
【スタッフ】 西田紀子（飛鳥資料館主任研究員)、若杉智宏（飛鳥資料館学芸室研究員)、小沼美結（飛鳥資料館学芸室研究員アソシエイトフェロー)、荻山琴美（飛鳥資料館学芸室研究員アソシエイトフェロー）ほか			

【年度実績概要】

本事業では、国宝高松塚古墳壁画の保存事業に関連して、土層標本や地震痕跡等の採取資料と、それに関わる出土品について、展示公開事例を収集し、成果を取りまとめた。高松塚古墳石室解体事業において行われた発掘調査では土層転写資料（土層はぎ取り）や遺構の一部を切り取った資料、型取り等の手法によって作成された遺構の資料などが採取されており、高松塚古墳新施設におけるそれらの保存活用についての検討に資する目的で行われた。


韓国漢城百済博物館での事例調査

主たる調査対象は、国内調査として国立歴史民俗博物館（千葉県)、、飛鳥資料館（奈良県)、史跡岩宿遺跡保護観察施設（群馬県)、埼玉県立さきたま史跡の博物館将軍山古墳展示館（埼玉県)、桜生史跡公園（滋賀県)、滋賀県立琵琶湖博物館（滋賀県)、今城塚古代歴史館（大阪府)、大阪歴史博物館（大阪府）を調査した。海外調査は漢城百済博物館（韓国)、羅州伏岩里古墳展示館（韓国)、羅州博物館（韓国)、９２１地震教育園区（台湾)、車籠埔断層保存館（台湾)、Jorvik Viking Center（イギリス)、Dynamic Earth（イギリス）を調査した。そのほか、関連する施設等を調査した。

採取資料は遺構の実物、あるいは実寸大模型として、いずれも貴重なものであるので、高松塚古墳の採取資料も確実な保管と公開活用が望まれる。古墳等の採取資料の公開活用としては展示施設での展示が一般的だが、大型の資料が多いために公開されずに収蔵されているものも多い。採取資料を活かして遺跡の空間的な再現を実現した展示は効果的であることがわかった。採取資料と出土遺物あるいは人形や映像などを組み合わせて分かり易くする工夫も多くみられた。これらの所見を取りまとめて報告書を作成する予定。

【実績値】
調査　16 施設

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
【事業名称】	令和元年度　紀伊風土記の丘出土玉類自然科学分析業務委託　(③-1))

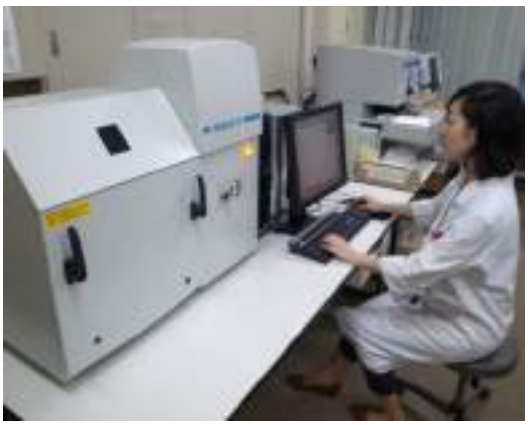
【委託者・受託経費】
委託者：和歌山県
受託経費：216千円

【担当部課】	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	【事業責任者】	室長　髙妻洋成

【スタッフ】
田村朋美（都城発掘調査部研究員、埋蔵文化財センター研究員（併任））

【年度実績概要】

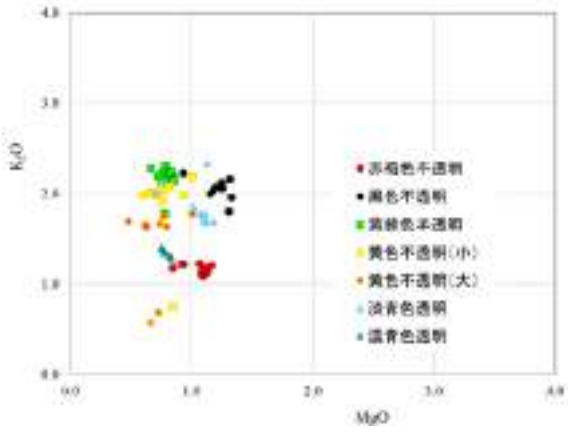
○本事業の対象は、和歌山県天王塚古墳から出土したガラス製遺物 50 点である。これらのガラス製遺物の製作技法、材質的特徴および着色剤について明らかにするため、各種の自然科学的調査を実施した。



1)製作技法を解明するため、顕微鏡観察を実施し、顕微鏡写真撮影を行った。
顕微鏡観察の結果、天王塚古墳出土のガラス玉には引き伸ばし法、鋳型法、融着法などの製作技法が確認された。

2)ガラス製遺物の主要な構成成分とそれらのおおよその含有量を知るために蛍光 X 線分析を実施した。本調査ではエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置（エダックス社製 EAGLEⅢ）を用いた。測定にあたっては、新鮮な破断面など風化の影響ができるだけ少ない箇所を選択的に測定した。測定結果は、測定資料と近似する濃度既知のガラス標準試料を用いて補正した理論補正法（Fundamental Parameter method、以下では FP 法）により、検出した元素の酸化物の合計が 100%になるように規格化した。
励起用 X 線源は Rh 管球、管電圧は 20 kV、管電流は 200 μA、X 線照射径は 50 μm、計数時間は 300 秒とした。測定は真空中で実施した。

3)ガラス中には着色剤として添加されたと考えられる結晶物質が含まれることがある。ガラス中の結晶物質を同定するため、X 線回折分析を実施した。測定に用いた装置はリガク社製 SmartLab である。励起用対陰極は銅（Cu）、管電圧は 40 kV、管電流は 30 μA、スキャンスピードは 20.0008 (deg./min.)、スキャン範囲は 50.000-89.9400 (deg.)であった。X 線回折分析の結果、黄色不透明および黄緑色半透明ガラス玉には人工黄色顔料の錫酸鉛（$PbSnO_3$）が含まれていることが明らかとなった。



蛍光X線分析法によるガラス小玉の材質分類

以上の自然科学的調査の結果、天王塚古墳出土のガラス小玉の材質は３種類に大きく分類できることがわかった。
①高アルミナタイプのソーダガラス（Group SIIB）
東南アジア周辺で生産
②植物灰タイプのソーダガラス（Group SIIIB）
西アジア～中央アジアで生産
③二次的に加工されたガラス小玉（鋳型，融着）
日本列島内部で加工

【実績値】
『和歌山県天王塚古墳出土ガラス玉類の自然科学分析に関する報告書』2 年 2 月

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務　(③-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：21,563 千円			
【担当部課】	研究支援推進部	【事業責任者】	研究支援課長　菊本惠二
【スタッフ】 今西康益（宮跡等活用支援係係員)、我妻めぐみ（宮跡等活用支援係係員)、辻本信一（宮跡等活用支援係係員）、江川正（経営戦略係長）			

【年度実績概要】

特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施

平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において文化庁が実施する事業を補助し、遺構の保存、公開・活用への環境整備の円滑な進捗を図るもの。実施期間　4 月 1 日～2 年 3 月 31 日（休日を除く）

1 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案業務の実施

－1　環境維持、宮跡内施設等の安全確保のための対策提案

○復原施設、遺構表示、便益施設設備の状況観察及び故障等不具合へ対応策提案、対応手配等協力

① 平城宮跡北面大垣整備地既設コンクリートブロック塀改修・排水対応
② 平城宮跡第一次大極殿免震装置点検
③ 平城・藤原宮跡内工作物（柵・車止め等）維持への助言
④ 平城宮跡内外灯・防犯設備等維持への助言
⑤ 平城・藤原宮跡内植栽管理への助言
⑥ 平城宮跡国有地管理への助言
⑦ 藤原宮跡国有地管理への助言　ほか

－2　緊急事案発生への対応提案

○事件、事故等緊急事案対応への対応策提案、対応手配等協力

① 平城宮跡内危険箇所表示対応
② 平城宮跡内水路増水対応
③ 平城・藤原宮跡内倒木対応　ほか



藤原宮跡民有地等境界柵整備状況

2 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における整備管理業務の実施

－1　平城宮跡及び藤原宮跡における草刈り業務（別途業務外注）管理の実施

○計画及び実施工程等の調整
○施工箇所の点検・確認
○事前の調整（地元自治会等への説明会同席、要望への反映）
○周辺住民等からの要望・苦情の聴取
○聴取内容、施工箇所変更などの業者への伝達

－2　平城宮跡及び藤原宮跡における整備、改修・修繕等の実施にかかる調整対応を実施

○計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認

① 平城宮跡第一次大極殿・朱雀門ほか復原施設修繕等、遺構展示館ほか便益施設修繕及び設備更新等
② 平城宮跡東方官衙暫定整備
③ 平城宮跡遺構展示館養生シート更新
④ 平城・藤原宮跡水路修繕等
⑤ 藤原宮跡民有地等境界柵整備
⑥ 平城宮跡（植栽剪定）
⑦ 藤原宮跡（植栽剪定）ほか

【実績値】

1－1　不具合対応策提案及び整備管理業務の実施（対応策提案件数　350 件）

1－2　緊急事案発生への対応提案（対応提案件数　6 件）

2－1　草刈り業務管理の実施　平城宮跡 704,435.38 ㎡・藤原宮跡 436,174.56 ㎡、(地元要望調整等対応件数　192 件)

2－2　計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認（調整対応件数　64 件）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（醍醐町個人住宅建築）発掘調査　(③-1)

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市
受託経費：466 千円

【担当部課】	都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)	【事業責任者】	玉田芳英（都城発掘調査部長）

【スタッフ】尾野善裕（考古第二研究室長）、山本崇（上席研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○橿原市醍醐町における個人住宅の建て替えによる発掘調査であり、橿原市からの受託事業として実施した。調査地点は藤原宮の内裏北官衙地区にあたる。
・調査地：奈良県橿原市醍醐町 87
・調査期間： 2 年 1 月 14 日（火）～1 月 21 日（火）
・調査面積：約 14 ㎡

○調査成果
・現地表面から約 0.5mの深度で、整地土かと思われるにぶい黄橙色シルト層を、0.7mで同じく褐灰色シルト層を検出し、それぞれの上面で精査を実施したが、いずれの面でも顕著な遺構を認めなかった。
・遺物は黄褐色シルト層上面から江戸時代以降の染付磁器片 1 点が出土したほか、時期不明の土器片が黄褐色シルト層上面と、黄褐色シルト層中から各 1 点出土したにとどまる。
・顕著な遺構は検出しなかったが、宮の造営に伴うと考えられる整地土を検出し、あまり調査の手が及んでいなかった当該地の様相を解明する上で貴重な手がかりを得た。



調査区全景（東から）

【実績値】
出土遺物：土器・陶磁器片 3 点。
・記録作成数：遺構実測図 1 枚、写真 5 枚、メモ写真 30 枚。
論文等数：3 件（①～③）。
尾野善裕「藤原宮内裏北官衙地区の調査―第 201-9 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』（3 年 6 月予定）

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．業務改善の取組
事業名	（１）組織体制の見直し

【年度計画】
・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。
・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の検討を継続し、設置する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019年ICOM京都大会の実施に向けて、4月に一般職員を1名を追加で派遣した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、日本博の事業を円滑に進めるため、4月に課長補佐級職員1名、一般職員1名を派遣した。
・情報セキュリティの確保・維持のため、4月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国際業務の推進体制整備の一環として、元年度は追加でICOM京都大会準備室への人員配置を行うことができた。また、本部情報担当の人員を増員することで、機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。 国際業務の推進体制整備、情報セキュリティへの対応を、引き続き進めていく。

【中期計画記載事項】
組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って、組織の機能向上のための組織・体制の見直しを実施した。29年度の審議役の職の新設に引き続き、「2019年ICOM京都大会」に向けて追加で職員の派遣を行うことで、事業を推進した。 2年度以降も、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向けた国際業務の推進体制整備を、情報セキュリティへの対応と併せて引き続き進めていく。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6120

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（２）人件費管理の適正化

【年度計画】
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・人事給与統合システムの更新を行った。本システムにより、機構全体として統一的な処理を実施し、人件費のシミュレーション等を行うことにより、人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案することできるようになり、元年度も適正な人件費管理を行っている。
・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。2年度も引き続き公表することとしている。

【補足事項】
・当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠している。また、国と異なる諸手当はない。
・ラスパイレス指数は、30年度は、事務・技術職員が99.2、研究職員が98.1となっており、その水準維持に努めた。なお、元年度のラスパイレス指数は2年9月に総務省ウェブサイトにて公表予定である。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に沿って、国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表している。

【中期計画記載事項】
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	30年度に引き続き、中期計画に沿って人件費管理の取り組みを実施している。 2年度も引き続き、着実に人件費管理の取り組みを検討、実施する。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6130

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（３）契約・調達方法の適正化

【年度計画】
①契約監視委員会を実施する。
②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　山下登

【実績・成果】
①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が元年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
第 1 回契約監視委員会（12 月 2 日開催）
第 2 回契約監視委員会（2 年 6 月 8 日～18 日書面審議予定）
②東京国立博物館（レストラン、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（飛鳥資料館ミュージアムショップ、平城宮跡資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施済み。元年度においては、同様に貸借期間終了に伴い京都国立博物館にて、ミュージアムショップ・レストランの企画競争を実施した。今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。
③・11 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（21 人が参加）
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	30 年度	元年度	増減
件数	136 件	186 件	50 件

【補足事項】

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。

【中期計画記載事項】
「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を上回ることができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6140

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（４）共同調達等の取組の推進

【年度計画】
本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、トイレ洗浄機器等賃貸借の共同調達を引き続き実施する。他施設での実施についても、引き続き周辺機関と協議する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　山下登

【実績・成果】
・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。（再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館）。
・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC用紙及びトイレットペーパー）。
・奈良国立博物館では、 トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進める。
・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙及びトイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。
・奈良文化財研究所では、PPC用紙及びトイレットペーパーについて、近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については、引き続き検討を進める。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。

【中期計画記載事項】
各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6151

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・統合メールシステムを導入し、5施設（東博・京博・奈良博・奈文研・IRCI）で運用を開始した。（10月～2年1月）
・次期機構ネットワーク構築（2年度予定）に向けた準備として、各施設ネットワーク環境の調査及び概要設計を行った。（11月～2年2月）

【補足事項】
・統合メールシステムについて、東文研は継続検討、九博は対象外とした。
・現グループウェアであるサイボウズの外部化（2年度予定）について準備を進めるとともに、次期グループウェアの検討を開始した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
一般管理費	974百万円	中期目標期間中15%以上効率化	―		1,080	831	754	1,277
業務経費	5,965百万円	中期目標期間中5%以上効率化	―		6,580	5,417	6,159	5,956

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
機構統合メールシステムの導入により、異動時におけるメールアドレスの取扱いを効率化し、また、クラウド化によるサーバ及びシステム管理の負担を軽減することができた（一部施設は従来どおり）。
次期機構ネットワーク構築に向けた調査等を進め、2年度の構築スケジュールを立てることができた。

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化（略）

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
導入した統合メールシステムにより、サービスの質を維持しつつ管理運用が効率的となった。
機構共通事務システムの基盤である機構ネットワークの今中期目標期間内の更新に向け、必要な準備を進めることができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6152

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　②計画的なアウトソーシング

【年度計画】
以下の業務の外部委託を継続して実施する。
（東京国立博物館）
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
・資料館業務の一部
・施設内店舗業務
（京都国立博物館）
・看視案内業務及び設備保全業務の一部
・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務
（奈良国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
（九州国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務等
・警備業務、看視案内業務及び清掃業務
（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）
・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　山下登

【実績・成果】
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館では、引き続き茶室、大講堂等の施設貸出業務及び音声ガイド貸出業務について民間委託を実施している。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり外部委託を実施している。

【中期計画記載事項】
（略）事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
　具体的には以下の措置を講じる。
（略）②計画的なアウトソーシング

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり外部委託を実施している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6153

中項目	1．業務改善の取組
事業名	（5）一般管理費等の削減　③使用資源の減少

【年度計画】
・省エネルギー　光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
・廃棄物減量化　使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
・リサイクルの推進　廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　山下登

【実績・成果】
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等）
・使用資源の推移等

光熱水使用量

事項	30年度	元年度	増減	増減率
電気（kwh）	25,705,596	26,112,714	407,118	1.58%
ガス（㎥）	1,941,360	2,042,038	100,677	5.19%
水道（㎥）	157,555	156,080	−1,475	−0.94%

日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、以下の外的要因により使用量は電気とガスについて増加した。
電気使用量　奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う電気使用量の増加があった。（前年度比8.69%増）
ガス使用量　奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う空調用機器運転に係る使用量の増加があった。（前年度比66.53%増）

廃棄物排出量

事項	30年度	元年度	増減	増減率
一般廃棄物（kg）	210,462	187,701	−22,761	−10.81%

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
光熱水量								
電気量(kwh)	26,112,714	−	−	経年変化	24,981,029	25,475,017	25,703,795	25,705,596
ガス量(㎥)	2,042,038	−	−		1,888,670	1,961,450	1,984,170	1,941,360
水道量(㎥)	156,080	−	−		143,070	144,711	154,269	157,555
廃棄物排出量(kg)	187,701	−	−		225,151	225,453	232,251	210,462

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	各施設においては計画通り節減に努めており、光熱水使用量及び廃棄物排出量の増加は30年度の外的要因によるところが大きい。

【中期計画記載事項】
（略）事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には以下の措置を講じる。
（略）③使用資源の減少
・省エネルギー　・廃棄物減量化　・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	各施設においては計画どおり節減に努めており、光熱水使用量及び廃棄物排出量の増加は30年度の外的要因によるところが大きい。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6200

中項目	２．業務の電子化
事業名	業務の電子化

【年度計画】
機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。
・政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、「e国宝」「ColBase」の運用を継続した。(処理番号1321HAを参照)
・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。
・web給与明細システムへ、出張旅費等の支払履歴表示機能を追加した。(7月)
・統合メールシステムを導入した。(処理番号6151を参照)

【補足事項】
・人事給与統合システムの更新を行った。(2年3月)
・今後の各事務システムの継続運用とネットワークインフラ増強として、次期機構ネットワーク構築（2年度予定）の準備を進めた。(処理番号6151を参照)

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに、必要なシステム更新・機能追加を適宜行い、今後の運用に向けた各種対応を進めた。

【中期計画記載事項】
機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	29年度から元年度まで段階的に進めてきたメールシステムの統合とクラウド化について、計画通り実施することができた（一部施設は従来どおり)。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6300

中項目	３．予算執行の効率化
事業名	予算執行の効率化

【年度計画】
運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務を設定するとともに、収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にする。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施している。

【中期計画記載事項】
運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7110

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（１）自己収入拡大への取組

【年度計画】
機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　山下登

【実績・成果】
展示事業等収入については、下表のとおり1,979,222千円となり、目標を上回った。

	目標値	元年度
展示事業等収入	1,538,510 千円	2,016,303千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。
※受託研究・受託事業を除く。
東京国立博物館と文化財活用センターの共同ファンドレイジング事業である「＜冬木小袖＞修理プロジェクト」を２年１月から開始。「東京国立博物館所属　重要文化財　小袖　白綾地秋草模様　尾形光琳筆　江戸時代・18 世紀」の修理費等 1,500万円を個人や企業からの寄附金により実施を目指すプロジェクト。
元年度中に寄附金 3,252千円を獲得。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
自己収入額 （展示事業等収入）	2,016,303千円	1,538,510千円	A		1,817,119	1,714,563	2,260,173	1,917,262

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	計画どおり取り組みを実施しており、目標を上回ることができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	計画どおり取り組みを実施しており、目標を上回ることができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7120

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（2）外部資金の獲得

【年度計画】
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　山下登

【実績・成果】
寄附金については、下表のとおり 807,636 千円となり、目標値を上回った。

	目標値	元年度
寄附金	439,574 千円	884,196千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
寄付金等額 （その他寄付金等）	884,196千円	439,574千円	A		795,744	753,812	732,210	827,718

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（中略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 7130A

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（3）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を様々な年齢層に向けて開催した。
②
・元年度も、会場のユニークベニュー利用、ロケ地撮影、茶室、講堂等の外部への貸し出しを積極的に行った。
・施設貸出については、ウェブサイトによる周知とともに、リピーターを増やすべく会場の下見や当日利用時などにきめ細やかなサービスを心がけるなど、利用者の満足度向上に努めた。
・ユニークベニュー利用による収入は、18件74,763千円であった（30年度実績14件51,288千円）。
・ロケ地利用による収入は、286件18,558千円であった（30年度実績298件25,687千円）。
③元年度も入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマ、ビアガーデンなど26件のイベントを実施し、約27,500人の参加があった。また国際交流事業として「留学生の日」を実施し無料観覧（総合文化展のみ）のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い、444人の参加があった。

【補足事項】
②
・施設の有料貸出について、表慶館の長期貸出など積極的な取り組みにより、ユニークベニュー利用の収入が大幅に増加した（30年度比＋23,475千円）。
・30年度にロケ地利用を実施した映画の公開に合わせて雑誌の特集が組まれたタイミングに、当館のロケ地利用紹介の広告を出稿し、映像制作関係者や一般の方々に向けて当館のロケ地利用の認知を上げることができた。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	674件	－	－		652	747	866	781
うち有償利用件数	451件	－	－		434	529	581	485

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	バリエーションに富んだ当館の施設や敷地を活用すべく積極的に受け入れを行ったことにより、大幅な収益増とすることができた。また、リピーター確保のため、外部委託業者とともにきめ細かなサービスを心掛けた。引き続き貴重な収入源である施設の有料貸出推進に向けて努力する。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	保有資産である各種建物や敷地の積極的な貸出を行ったことにより、ユニークベニュー利用について 30 年度以上の収入と実績を上げることができた。元年度後半からは表慶館をはじめ、各施設における館内事業により、外部貸出が可能な施設や期間が大幅に減少したため、施設利用希望者の要望に応えられない場面が増えている。引き続き利用可能な施設や時間帯の外部活用を図る。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　7130B

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（３）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　西尾佐枝子

【実績・成果】
（博物館４施設）
①記念講演会、土曜講座、夏期講座及びトークイベント等を開催した。
②外部サイトにロケーション撮影の案内を掲載した他、明治古都館・グランドロビーなどの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内（利用時間、料金等）を当館ホームページに掲載した。
③従前の「京都・らくご博物館」の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の割引観覧やグッズの無料配布を実施した。また、大学・企業・近隣地域等と連携し、講堂や庭園でイベントを開催した。

【補足事項】
①講座・講演会等
・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については（処理番号 1311B1）参照
・「キャンパスメンバーズ向け講演会」計２回　場所：平成知新館講堂　参加人数：203 人（処理番号 1313B）
・「トークイベント いまひとたびの『風神雷神』 原田マハと京博の研究者たち」
　場所：平成知新館講堂　参加人数：180 人
②外部への施設貸出
・ブランド展示会、茶会、講演会、野外イベント等の会場として、またロケーション撮影スポットとして、各施設の貸出を実施した。
・ICOM 京都大会期間中、オフサイトミーティングや閉会式等のイベント会場として各施設を提供した。
③コンサート等のイベント
・「京都・らくご博物館」計３回　場所：平成知新館講堂　参加者数：405 人
・「トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー」　場所：平成知新館　参加者数：60 人
・明治古都館を特別に公開した。（9 月 1 日～6 日）
・「十二単お服上げの再現―現代につながる王朝の美」　場所：平成知新館講堂
　参加人数：754 人
・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加者数：38 人
・「新春能」　場所：平成知新館講堂 参加人数：393 人
・「芸舞妓 春の舞」　場所：平成知新館講堂 参加人数：365 人


新春能

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	196件	－	－		112	105	122	165
うち有償利用件数	164件	－	－		104	93	86	143

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ウェブサイトや外部ロケ地ポータルサイトに掲載し、外部に対して積極的に広報を行った。問い合わせ、利用件数ともに増加しており、一定の広報効果とMICE開催地としての認知度の上昇があったと考えられる。
入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベントを試みた。元年度は特に、平常展の集客を図るため、講堂・庭園等において展覧会や文化財に関連したイベントを実施した。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
施設貸出にかかる広報・運営に注力するとともに、入館者拡大のための新規イベントを実施した。その結果、中期計画通りに順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　7130C

中項目	１．　自己収入拡大への取組
事業名	（３）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（博物館４施設）
①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。
③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、インバウンド対策として、「英語落語in奈良博」を9月1日に実施し、148人の参加があった。

【補足事項】
①講座・講演会
公開講座(13回)、親子講座（1回)、サンデートーク(11回)、正倉院展ボランティア解説(89回)、特別鑑賞会(6回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等
③イベントの実施
・講堂：「改元記念講演会『ようこそ新元号！～これまでの奈良博、これからの奈良博～』」、「夏休み親子新聞教室ではがき新聞づくり」、「英語落語in奈良博」、「御即位記念 第71回正倉院展親子鑑賞会」、「お水取り講話と現地解説の会」、「お水取り展鑑賞とお松明」
・地下回廊：「オリジナル絵巻を作ろう」、「抹茶体験」、「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」、「チョコパンケーキを作って食べよう」
・会議室：「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」
・仏教美術資料研究センター：「FM802 Daiwa Sakura Aid FOR THE GENERATION 番組公開収録」、「新元号制定記念コンサート」、「FM COCOLO Daiwa Sakura Aid GO GO ゴンチチ 番組公開収録」、「仏教美術資料研究センターの一般開放」
・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」
・展示室：「仏像供養（年4回)」、
・庭園・茶室：「春の庭園散策ツアー」、「Daiwa Sakura Aid Concert」、「秋の庭園開放」、「おん祭茶会」
・敷地内：「トラりんグリーティング」、「MASERATI MEETS NARA 2019」、「奈良博ブライダルショー世界に一つだけ、あなたのWedding」等
○会場提供
・講堂：「4機関協定締結記念シンポジウム『奈良とは何か？』」、「奈良シニア大学講義」、「京都府立大学文学部歴史学科新入生合宿研修」、「仏教芸術学会シンポジウム」、「近畿美術館博物館・美大研修」等
・仏教美術資料研究センター：「行基生誕1351年記念シンポジウム」、ブライダル撮影、ブライダルフェア等
・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、雑誌撮影、ブライダル撮影等
・敷地内：「なら燈花会」、「第3回春日野音楽祭まちなかステージ」、「春日若宮おん祭」等


奈良博ブライダルショー世界に一つだけ、あなたのWedding

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	166件	－	－		117	113	111	112
うち有償利用件数	84件	－	－		33	21	19	18

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また、インバウンドプロモーションとして、関西文化の日プラスの日に「英語落語 in 奈良博」を実施し、全内容英語のみとし、外国人観光客を多数集客することができた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	コンサート会場、ブライダルファッションショー会場、マセラティユーザー展示会場及び大学講義会場として施設を利用するなど、地方自治体と連携したイベントを実施することで博物館の認知度を向上及び自己収入を獲得することができ、順調に施設を活用できた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　7130D

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（３）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（博物館４施設）
①　特別展およびトピック展等に関する講演会・講座等を開催した。
　・特別展関連講演会　11回
　・特集展示関連講演会　4回
②ミュージアムホールおよび茶室、研修室等の外部団体への貸出を積極的に行った。
③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。
　また、これまで有償貸与の対象ではなかったエントランスホールの貸出について制度化し、10月に貸出を行った。

【補足事項】
①展示関連の講演会等の開催
1）特別展及び文化交流展（特集展示）関連イベント
・特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念講演会
「鎌倉彫刻の巨匠運慶・快慶とその次世代の仏師たち」
（4月27日　参加者数：120人）
・特集展示「文化財よ、永遠に」関連講演会『修理、果てしなき挑戦』
（9月28日　参加者数：80人）
②外部団体への施設の貸出
・10月20日　太宰府市民茶会（太宰府茶道文化連盟）
・11月15日　ふくおか文化ボランティアフォーラム（NPO法人文化ボランティアとびうめの会）
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたイベントの開催
・ミュージアムコンサート「オカリナ×ギター 秋のアンサンブル」（9月14日　参加者数：330人）
・みゅーじあむ寄席（9月22日　参加者数：256人）
・「～山鹿の伝統来れり～山鹿の灯」（10月26日　参加者数：350人）



「～山鹿の伝統来れり～山鹿の灯り」の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	349件	－	－		392	355	280	328
うち有償利用件数	77件	－	－		118	116	96	75

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 会議・昼食利用のための会議室の貸与及び講演会・コンサートのためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を順調に履行できた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 会議室に関しては会議や昼食利用等の貸与を定期的に行い、有効利用の推進を順調に履行できた。また、エントランスホールの有償貸与について制度化し、体制を整えた。2年度以降も引き続きコンサートや講演会等を積極的に受入れることで、施設の有効利用の推進に取り組む。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7130E

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（3）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　川島美奈子

【実績・成果】
・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを元年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。
・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。

【補足事項】
・第53回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
・有償貸付例：「文化財建造物保存修理研究会　研究発表会」
（11月9日、文化財建造物保存修理研究会）


オープンレクチャーの様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	125件	－	－		186	185	200	198
うち有償利用件数	7件	－	－		7	9	10	13

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施し、施設利用の拡大を図ることができた。なお、外部機関への有償貸付は8件実施した。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間4年目である元年度は、30年度に引き続き、第53回オープンレクチャーを実施することができた。2年度も同様に、当研究所の保有資産の有効利用を推進する予定である。

【書式Ａ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7130F

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（３）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長　菊本恵二

【実績・成果】

施　設　名	元年度
平城宮跡資料館　講堂	77件　（内　有償貸与　4件）
平城宮跡資料館　小講堂	111件　（内　有償貸与　4件）
飛鳥資料館　講堂	21件　（内　有償貸与　0件）
その他（収蔵庫等）	15件　（内　有償貸与　11件）
合　　計	224件　（内　有償貸与　19件）

【補足事項】
30年度実績

施　設　名	30年度
平城宮跡資料館　講堂	72件　（内　有償貸与　6件）
平城宮跡資料館　小講堂	135件　（内　有償貸与　5件）
飛鳥資料館　講堂	5件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	20件　（内　有償貸与　17件）
合　　計	232件　（内　有償貸与　28件）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	224件	－	－		256	296	347	232
うち有償利用件数	19件	－	－		43	52	35	28

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
・講堂、小講堂が奈良県のイベント（天平祭）に使用されなくなる等して利用件数が減少したが、他の施設においては、貸与を積極的に行い、特に飛鳥資料館では前年度比4倍の増加となった。
・2年度以降については、元年度の減少理由の改善案を検討し、利用者のニーズに沿った施設の有効利用の推進を本来業務の支障の無い範囲で実施する。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度も引き続き、一般利用申し出に対する有効利用の推進等を行い、自己収入の増加を図った。今中期計画においても、本来業務に支障の無い範囲で実施しながら、前中期目標期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7300

中項目	３．決算情報・セグメント情報の充実等
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等

【年度計画】
独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
30年度に引き続き、30年度決算（元年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（27年1月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。
・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。
・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施している。

【中期計画記載事項】
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施している。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 8000

大項目	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画
中項目	１．予算　２．収支計画　３．資金計画
事業名	予算、収支計画、資金計画

【年度計画】
１．予算　別紙のとおり
２．収支計画　別紙のとおり
３．資金計画　別紙のとおり

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
・元年度当初予算について、30年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。
・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用が図られた。
・精算払の外部資金により資金繰りが困難となる施設に対し、あらかじめ資金の貸与を行うなど、法人全体として効率的な資金管理を実施した。
・総務担当理事を中心とした検討チームを立ち上げ、有識者や関係各所の意見を踏まえ、４博物館および飛鳥資料館の平常展観覧料金を2年4月から改定することを発表した。
・四半期ごとに入金される運営費交付金について、国に対し各期の必要額をあらかじめ伝えておくことにより、計画的な資金管理を実施した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応した。

【中期計画記載事項】
管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9100

大項目	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．内部統制
事業名	内部統制

【年度計画】
　内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

担当部課	本部事務局総務企画課 監査室	事業責任者	課長　伊藤進吾 監査室長　清水功

【実績・成果】
（内部統制委員会、リスク管理委員会の開催）
・内部統制委員会を3回開催した。（5月14日、9月11日、2年1月28日）
・リスク管理委員会を3回開催した。（5月14日、9月11日、2年1月28日）
・洗い出したリスクの内、新たに12件についてリスク管理計画を策定した。
・30年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。
（内部監査及び監事監査等のモニタリング）
・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
　会計監査　10月17日～11月29日（全施設）
　給与簿監査　10月23日～30日（本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター）
　法人文書管理監査　11月～2年3月（各施設による自己点検結果を基に、機構全体について書面監査を行った）
　情報システム監査・情報セキュリティ監査　9月10日～24日（１）ペネトレーション監査（奈良国立博物館、アジア太平洋無形文化遺産研究センター）
（30年度監査の再診断として実施：奈良文化財研究所）
1月22日～24日（２）マネジメント監査　（本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所）
・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。
2年1月～2月　全施設（書面監査）
2年2月（本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所）
　ソフトウェア等監査　各施設で実施し会計監査の際確認を行った。
・監事監査を以下の日程で行った。
　定期監査（業務）　6月25日
　定期監査（会計）　決算時の監査　6月25日
　臨時監査（業務・会計）　12月3日　本部、東京国立博物館、東京文化財研究所
2年2月13日～14日　京都国立博物館、九州国立博物館
（研修の実施）・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。（処理番号9430参照）

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、内部統制委員会とリスク管理委員会を各3回開催した。内部統制とリスク管理の運用状況を把握することで計画の確認、見直しを行い、新たに12件のリスク管理計画を策定した。 元年度より、情報システム監査・情報セキュリティ監査について、システムの脆弱性監査と運用確認を分けて実施した。 また、内部監査及び監事監査等・各種研修を積極的に実施した。

【中期計画記載事項】
　コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画の4年目として、29年度及び30年度に策定したリスク管理計画の運用を進めることができた。元年度に新たに策定された計画についても運用を進める。 内部監査や研修については、第3回の内部統制委員会で審議し承認された計画に従って、2年度以降も取り組みを行うこととする。 また、2年度以降も事業継続計画の策定を引き続き行う。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	２．その他
事業名	（１）自己評価

【年度計画】
運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・元年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。
・自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会：4月22日／博物館部会・総会：5月30日）に提出し、外部有識者による評価が行われた。
・外部有識者の意見等を踏まえ「平成30年度自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。
・運営委員会（7月30日）を開催し、機構の管理運営の重要事項について理事長への助言がなされた。30年度の運営委員会で挙がった意見について、組織・事務・事業の改善状況を報告した。

【補足事項】



外部評価委員会 研究所・センター調査研究等部会（4 月 22 日）



外部評価委員会 総会（5 月 30 日）



運営委員会（7 月 30 日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	（判定根拠、課題と対応） 外部評価委員会及び運営委員会を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施した。

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 自己評価の在り方を検討し、自己点検評価を博物館及び研究所・センターを単位とした一定の事業等のまとまりと再整理した。また、自己点検評価実施のほか、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、自己評価の結果を組織・事務・事業等の改善に反映させることができた。 2年度以降も、事業評価の在り方について検討を進めるとともに、引き続き自己評価を実施し事業等への反映を図る。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9220

中項目	２．その他
事業名	（２）情報セキュリティ対策

【年度計画】
情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。
また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

担当部課	情報システム・セキュリティ委員会	事業責任者	最高情報セキュリティ責任者(CISO)

【実績・成果】
・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成26年度版)」準拠の情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT連絡会にて情報共有、検討を行った。
・平成30年度版政府統一基準に準拠するよう、規程等の改正を実施した（2年3月24日改正、2年4月1日施行）。
・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検をe-learningにて実施した。（2年2月3日～28日）
・情報セキュリティ監査を、外部機関に委託して実施した。(9月10日、11日、2年1月22日、24日)
・セキュリティレベルの向上・平準化を目的としたメールシステムの統合を実施した。(10月～2年1月)
・セキュリティ向上を目的とした次期ネットワーク構築調査を実施した。(11月～2年2月)
・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(12月16日)

【補足事項】
・情報システム・セキュリティ委員会を1回開催した。(12月5日)
・NICH-CERT連絡会を1回開催した。(10月30日)
・情報セキュリティ監査は、関西2施設（奈良博・IRCI）のシステムを対象に脆弱性診断を実施（9月10日、11日）するとともに、東京地区（本部・東博・東文研）を対象にマネジメント監査を実施した。(2年1月22日、24日)
・30年度に脆弱性診断を実施した関西2施設（京博・奈文研）のシステムを対象にフォローアップ診断を実施した。(9月24日)
・監査法人によるシステム監査では特に指摘事項はなかった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり、政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づき、必要な情報セキュリティ対策を実施するとともに、最新の政府機関統一基準に基づく規程等の改正を実施した。また、メールシステムの機構内統合についても、計画通り実施した。

【中期計画記載事項】
情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。
また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり、政府統一基準を踏まえた規程・体制にて運用を継続し、改正等を行うとともに、情報セキュリティ対策を適切に実施した。

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　9300

中項目	３．施設設備に関する計画
事業名	施設設備に関する計画

【年度計画】

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

（別紙）　　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・東京国立博物館	994	施設整備費補助金
仮設収蔵庫等整備	994	
	994	

担当部課	本部事務局環境整備課	事業責任者	課長　城山美香

【実績・成果】

（東京国立博物館）

・管理棟（仮称）新営工事等は、10月に工事を竣工し、現在枯らし期間中である。
・本館空調機整備他工事は、2年1月に竣工した。
・本館防水他改修工事は、2年3月に竣工した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	概ね初期の目標を達成している。

【中期計画記載事項】

施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。

（別紙４）　　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・東京国立博物館	19,419	施設整備費補助金
仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事（平成 28 年度～32 年度）	19,374	
柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事　（28 年度）	45	
・京都国立博物館	992	施設整備費補助金
本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事（平成 28 年度～32 年度）	992	
・奈良文化財研究所	1,646	施設整備費補助金
本庁舎建替工事　（平成 28 年度～30 年度）	1,619	
飛鳥資料館煙突（冷暖房機用）取替工事	27	

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	概ね初期の目標を達成しているが、今後の施設整備計画と予算確保については、一層の取組が必要である。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9410

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（１）中長期的な人事計画の策定 （２）評価制度の導入

【年度計画】
（１）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。
（２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
（１）中長期的な人事計画の策定
・事務系職員の人事については、9月から10月にかけて各施設の副館長等にヒアリングを行った。また、交流機関と10月に令和2年度以降の人事交流について打ち合わせを行った。
・研究職の人事に関して、採用については、理事長、理事、施設の長で構成する研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用を必要とする専門性（分野）、採用時期等を審議し、決定している。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みを設けている。
・人件費管理の観点から、雇用経費を外部資金等の運営費交付金以外を財源とすることで、人員の確保を図っている。

（２）評価制度の導入
・29年10月より常勤職員を対象として評価制度の施行を開始し、31年度も引き続き施行を実施した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 事務系職員の人事について、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通した採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んでいる。 評価制度については、29 年 10 月から施行を開始し、元年度も引き続き施行を実施した。

【中期計画記載事項】
中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 事務系職員の人事について、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通した採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んでいる。 評価制度については、2年度も試行期間として引き続き施行し、課題等を洗い出す。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9420

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施 （４）女性の活躍の推進

【年度計画】
(3)性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。
(4)女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施
・19年度に、人事交流若しくは国立大学法人等職員採用試験に頼らず機構が独自に採用できる制度を導入した。
・20年度に、常勤の研究職員に準じた人事制度（アソシエイトフェロー制度）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う者又は専門的知識を有する者を採用できる制度を導入した。
・26年度に、高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保するため、専門制度を導入した。
・28年度に、60歳を超える優秀な人材を採用することができるよう、任期付職員制度の改定を行った。
・29年度は、係員相当の職以外も担当できるよう再雇用制度の改定を行った。

（４）女性の活躍の推進
・7月にハラスメント防止を目的とした研修を実施し、外部講師による専門的見地からの講義により、ハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。
・11月に初任層（係員級～主任級）を対象とした外部講師よる集合研修を実施し、当該研修のなかで仕事の質を高める、組織全体への波及、ダイバーシティの推進にも触れる等、初任層として求められる役割についての理解を深めた。

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 機構発足時より、採用にかかる様々な制度設計を行うことにより、能力や適性に応じた採用・人事を着実に実施できている。 また、ハラスメントやダイバーシティについて社会的に頻繁に問題が取りざたされる情勢の中で、集合研修等を実施し、ハラスメント防止やダイバーシティ推進の理解を深められるよう努めた。

【中期計画記載事項】
②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。
③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度も、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。また、就業環境の整備やハラスメント防止の注意喚起、研修等を引き続き実施する。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9430

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（５）職員のキャリアパス形成のための研修

【年度計画】
職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
本年は以下の研修を実施した。なお、係員級～主任級を対象とした初任層研修は、31年度に新規に実施した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
＜階層別＞			
新任職員研修	7月17日～18日	30年度以降の新任職員等	61名
初任層研修	11月1日、13日	係員級～主任級	45名
＜分野別＞			
ハラスメント相談員研修	5月21日、6月5日	各施設ハラスメント相談員等	38名
研究倫理教育研修 (e-ラーニング等)	5月13日他(各施設で実施)	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	271名
会計事務研修	11月19日～20日	機構内の会計系職員	21名
施設系職員研修	3月5日～6日	機構内の施設系職員	12名（予定）
＜能力開発＞			
CS（来館者満足度）向上・クレーム対応研修	6月21日、26日	来館者対応を担当する職員	47名
ハラスメント防止に関する研修	7月18日	30年度以降の新任職員等、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	61名
健康管理に関する研修	7月18日	30年度以降の新任職員等	61名
情報セキュリティ研修	7月18日	30年度以降の新任職員等	61名
コンプライアンス教育研修 （科研費説明会と併せて実施）	9月25日他(各施設で実施)	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	407名

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	30年度の中間層研修に続いて、元年度は初任層研修を機構発足後初めて実施し、職位に応じた研修を実施し、職員のキャリアパスに寄与することができた。

【中期計画記載事項】
④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って階層別研修を実施することで、職員のキャリアパスに寄与することができた。2年度以降も引き続き、職員のキャリアパスの形成のため、各種研修や人事交流を企画・立案・実施していく。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２２，４３８
	延面積		７２，２２２
展示館	展示面積	計	１８，１９９
	収蔵庫面積	計	７，８３６
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，５７３
		収蔵庫面積	４，０２８
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７３
	平成館	建	５，５４２
		延	１９，４０６
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，１１９
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
	※休館中	延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
		延	１，９９６
		展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	３，６１３
		延	９，７６５

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，２３４
	延面積		３１，０４４
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	４，８８９
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	２，８９６
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	旧管理棟	建	６０６
		延	１，９８８
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	８２１
		延	２，７８６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	８１１
		延	１，４７１
		収蔵庫面積	８８０
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，７０７
		延	１，６７６

【奈良国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７６９
	延面積		１９，１１６
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，５２２
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７１８
		延	７１８
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１５９，８４４		
			（法人　１０，７９８ 県　１４９，０４６）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，５１６

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

	土地面積	建物	
本庁舎地区	８，８７９	建築面積 延面積	２，８１２ １１，３８７
平城宮跡地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建築面積 延面積	１０，６３１ １６，１５０
藤原地区	２０，５１５	建築面積 延面積	６，０１６ ９，４７７
飛鳥地区	１７，０９３	建築面積 延面積	２，６５７ ４，４０４

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　（㎡）

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７
総室数		４室

※建物は大阪府堺市より借用。

令和元年度

（第 13 期事業年度）

財　務　諸　表

独立行政法人国立文化財機構

目　　次

１．貸借対照表

２．行政コスト計算書

３．損益計算書

４．純資産変動計算書

５．キャッシュ・フロー計算書

６．利益の処分に関する書類

７．注記事項（重要な会計方針等）

８．附属明細書

貸 借 対 照 表

令和2年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金及び預金		4,409,631,458	運営費交付金債務（注）		519,505,453
たな卸資産		55,752,799	預り寄附金（注）		1,900,870,796
立替金		12,768,890	未払金		2,485,136,064
前払費用		4,348,744	未払費用		85,650,051
未収金		1,300,759,784	前受金		4,305,385
その他の流動資産		10,458,149	預り金		288,670,969
賞与引当金見返（注）		272,831,153	賞与引当金		272,831,153
環境対策引当金見返（注）		117,763,580	環境対策引当金		117,763,580
流動資産合計		6,184,314,557	その他の流動負債		1,502,508
			流動負債合計		5,676,235,959
Ⅱ 固定資産			Ⅱ 固定負債		
1有形固定資産			資産見返負債		
建物	95,784,483,379		資産見返運営費交付金（注）	2,438,054,866	
減価償却累計額	−43,624,408,228	52,160,075,151	資産見返寄附金（注）	348,032,155	
構築物	4,616,470,017		資産見返物品受贈額（注）	20,344,956	
減価償却累計額	−2,950,177,636	1,666,292,381	資産見返その他補助金（注）	42,859,604	
機械・装置	738,898,464		建設仮勘定見返運営費交付金（注）	7,295,153	
減価償却累計額	−556,211,311	182,687,153	建設仮勘定見返寄附金（注）	3,114,342	
車両運搬具	73,535,458		資産見返負債合計	2,859,701,076	
減価償却累計額	−62,431,516	11,103,942	引当金		
工具器具備品	9,761,255,665		退職給付引当金	2,023,776,324	
減価償却累計額	−7,035,564,153	2,725,691,512	環境対策引当金	157,525,368	
収蔵品		122,756,311,418	引当金合計	2,181,301,692	
土地		44,410,675,104	その他の固定負債		
建設仮勘定		9,829,934	長期未払金	17,157,973	
有形固定資産合計		223,922,666,595	固定負債合計		5,058,160,741
			負債合計		10,734,396,700
2無形固定資産					
ソフトウエア		123,118,790	（純資産の部）		
電話加入権		3,477,600	Ⅰ 資本金		
その他の無形固定資産		2,463,184	政府出資金		104,713,813,740
無形固定資産合計		129,059,574	資本金合計		104,713,813,740
3投資その他の資産			Ⅱ 資本剰余金		
長期前払費用		54,432	資本剰余金	166,802,466,809	
退職給付引当金見返（注）		2,023,776,324	その他行政コスト累計額		
環境対策引当金見返（注）		157,525,368	減価償却相当累計額（−）（注）	−47,610,911,105	
投資その他の資産合計		2,181,356,124	減損損失相当累計額（−）（注）	−3,376,800	
固定資産合計		226,233,082,293	除売却差額相当累計額（−）（注）	−3,146,755,105	
			その他行政コスト累計額合計	−50,761,043,010	
			資本剰余金合計		116,041,423,799
			Ⅲ 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金（注）		625,077,326
			目的積立金（注）		75,035,155
			積立金（注）		143,775,846
			当期未処分利益		83,874,284
			（うち当期総利益）		(83,874,284)
			利益剰余金合計		927,762,611
			純資産合計		221,683,000,150
資産合計		232,417,396,850	負債純資産合計		232,417,396,850

（注記） 1. その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額は32,024,823,196円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

行政コスト計算書

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　損益計算書上の費用		
業務費	9,864,203,950	
一般管理費	2,439,647,397	
財務費用	1,272,906	
雑損	2,100,953	
臨時損失	2,566,999,017	
損益計算書上の費用合計		14,874,224,223
Ⅱ　その他行政コスト		
減価償却相当額	3,386,786,610	
減損損失相当額	0	
除売却差額相当額	8	
その他行政コスト合計		3,386,786,618
Ⅲ　行政コスト		18,261,010,841

（行政コスト計算書に係る注記）

1．臨時損失のうち、281,940,605円は会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入、2,000,199,229円は会計基準改訂に伴う退職給付費用、275,288,948円は会計基準改訂に伴う環境対策引当金繰入であり、平成30事業年度以前の発生分であります。

2．独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	18,261,010,841
自己収入等	−3,828,013,738
法人税等及び国庫納付額	0
機会費用	170,046,757
独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	14,603,043,860

3．機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引から生ずる機会費用の計算方法
国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

(2) 政府出資等の機会費用の計算に使用した利率
10年利付国債の令和2年3月末利回りを参考に0.005%で計算しております。

(3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法
当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

損 益 計 算 書

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,903,449,371	
業務経費			
収集保管業務費	404,729,239		
展覧業務費	2,321,277,688		
教育普及業務費	180,779,008		
博物館研究業務費	291,096,288		
博物館支援業務費	111,757,527		
基礎研究業務費	279,690,476		
応用研究業務費	111,488,233		
国際遺産保護業務費	107,472,859		
情報公開業務費	272,023,194		
研修協力業務費	55,688,825		
受託業務費	1,326,090,385	5,462,093,722	
減価償却費		498,660,857	9,864,203,950
一般管理費			
人件費		974,477,279	
一般管理経費		1,373,474,195	
減価償却費		91,695,923	2,439,647,397
財務費用			1,272,906
雑損			2,100,953
経常費用合計			12,307,225,206
経常収益			
運営費交付金収益(注)		6,575,214,734	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入(注)	1,304,082,001		
その他受託収入(注)	34,076,367	1,338,158,368	
入場料収入		1,134,648,220	
展示事業等附帯収入		518,092,821	
財産利用収入		317,829,480	
寄附金収益(注)		498,960,387	
施設費収益(注)		589,832,248	
その他補助金収益(注)		231,050,275	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入(注)	513,716,098		
資産見返寄附金戻入(注)	44,559,445		
資産見返物品受贈額戻入(注)	1,615,679		
資産見返その他補助金戻入(注)	16,736,116		
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(注)	704,400		
建設仮勘定見返施設費戻入(注)	3,555,042	580,886,780	
財務収益			
受取利息		528	
雑益		45,741,314	
賞与引当金見返に係る収益(注)		272,831,153	
退職給付引当金見返に係る収益(注)		236,740,579	
経常収益合計			12,339,986,887
経常利益			32,761,681
臨時損失			
固定資産除却損		15,235	
減損損失		9,555,000	
会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入		281,940,605	
会計基準改訂に伴う退職給付費用		2,000,199,229	
会計基準改訂に伴う環境対策引当金繰入		275,288,948	2,566,999,017
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入(注)		14	
資産見返その他補助金戻入(注)		15,221	
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(注)		9,555,000	
賞与引当金見返に係る収益(注)		281,940,605	
退職給付引当金見返に係る収益(注)		2,000,199,229	
環境対策引当金見返に係る収益(注)		275,288,948	2,566,999,017
当期純利益			32,761,681
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)			1,006,915
業務拡充積立金取崩額(注)			50,105,688
当期総利益			83,874,284

（注記）1. ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は526,660円であり、当該損益を除いた当期総利益は83,347,624円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

3. 臨時損失に計上した会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入281,940,605円、会計基準改訂に伴う退職給付費用2,000,199,229円、会計基準改訂に伴う環境対策引当金繰入275,288,948円は、平成30事業年度以前の発生分であります。

4. 臨時利益に計上した賞与引当金見返に係る収益281,940,605円は、会計基準改訂に伴い期首に計上した賞与引当金見返に係る収益、退職給付引当金見返に係る収益2,000,199,229円は、会計基準改訂に伴い期首に計上した退職給付引当金見返に係る収益、環境対策引当金見返に係る収益275,288,948円は、会計基準改訂に伴い期首に計上した環境対策引当金見返に係る収益であります。

純資産変動計算書

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：円）

	Ⅰ 資本金		Ⅱ資本剰余金					Ⅲ 利益剰余金						純資産合計
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金	その他行政コスト累計額			資本剰余金合計	前中期目標期間繰越積立金	目的積立金	積立金	当期未処分利益		利益剰余金合計	
				減価償却相当累計額（－）	減損損失相当累計額（－）	除売却差額相当累計額（－）						うち当期総利益		
当期首残高	104,713,813,740	104,713,813,740	161,484,045,628	-44,234,887,904	-3,376,800	-3,135,991,688	114,109,789,236	626,084,241	245,898,330	128,858,248	62,422,099	62,422,099	1,063,262,918	219,886,865,894
当期変動額														
Ⅰ 資本金の当期変動額														0
Ⅱ 資本剰余金の当期変動額														
固定資産の取得			5,318,421,181				5,318,421,181							5,318,421,181
固定資産の除売却				10,763,409		-10,763,417	-8							-8
減価償却				-3,386,786,610			-3,386,786,610							-3,386,786,610
固定資産の減損					0		0							0
Ⅲ 利益剰余金の当期変動額														
（1）利益の処分又は損失の処理														
前中期目標期間からの繰越し								0					0	0
利益処分による積立									47,504,501	14,917,598	-62,422,099	-62,422,099	0	0
利益処分による取り崩し													0	0
国庫納付金の納付													0	0
（2）その他														
当期純利益											32,761,681	32,761,681	32,761,681	32,761,681
前中期目標期間繰越積立金取崩額								-1,006,915			1,006,915	1,006,915	0	0
目的積立金取崩額									-218,367,676		50,105,688	50,105,688	-168,261,988	-168,261,988
当期変動額合計	0	0	5,318,421,181	-3,376,023,201	0	-10,763,417	1,931,634,563	-1,006,915	-170,863,175	14,917,598	21,452,185	21,452,185	-135,500,307	1,796,134,256
当期末残高	104,713,813,740	104,713,813,740	166,802,466,809	-47,610,911,105	-3,376,800	-3,146,755,105	116,041,423,799	625,077,326	75,035,155	143,775,846	83,874,284	83,874,284	927,762,611	221,683,000,150

キャッシュ・フロー計算書

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−4,861,672,235
業務支出	−6,532,723,242
科学研究費支出	−222,624,160
消費税等支払額	−395,436,800
運営費交付金収入	8,592,869,000
科学研究費収入	239,825,533
展示事業等収入	1,740,377,753
財産利用収入	320,705,002
受託収入	1,061,014,463
寄附金収入	883,752,846
その他補助金による収入	157,292,402
その他の業務収入	14,454,932
小計	997,835,494
利息の受取額	528
利息の支払額	−1,271,559
業務活動によるキャッシュ・フロー	996,564,463
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	−3,990,274,288
無形固定資産の取得による支出	−26,655,657
施設費による収入	2,830,090,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	−1,186,839,945
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−13,650,062
財務活動によるキャッシュ・フロー	−13,650,062
Ⅳ　資金減少額	−203,925,544
Ⅴ　資金期首残高	4,613,557,002
Ⅵ　資金期末残高	4,409,631,458

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	4,409,631,458 円
資金期末残高	4,409,631,458 円

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	211,981,723 円
工具器具備品、ソフトウェア	82,187,564 円
合計	294,169,287 円

②ファイナンス・リースによる資産取得　　9,158,400 円

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　当期未処分利益		83,874,284
当期総利益	83,874,284	
Ⅱ　利益処分額		
積立金	83,874,284	
独立行政法人通則法		
第４４条第３項により		
主務大臣の承認を受けた額		
業務拡充積立金	－	83,874,284

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（平成 30 年 9 月 3 日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関する Q&A」（平成 31 年 3 月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、管理部門の職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）、減価償却費及び財務費用については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の職員給与、法定福利費並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～１７年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７第１項）の減価償却に相当する額については、減価償却相当累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

（３）リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

３．賞与引当金の計上基準

役職員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。なお、役職員の賞与については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上しております。

４．退職給付に係る引当金の計上基準

職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

退職一時金については、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。このうち、運営費交付金により財源措置がなされる見込みである退職一時金については、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

５．環境対策引当金の計上基準

ＰＣＢ廃棄物（安定器）の処理費用について、今後発生すると見込まれる額を計上しております。なお、処理費用については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、環境対策引当金と同額を環境対策引当金見返として計上しております。

６．たな卸資産の評価基準及び評価方法

（１）貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

（２）未成受託研究支出金･･･個別法による低価法を採用しております。

７．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

８．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

（会計方針の変更）

１．賞与引当金の計上基準

役職員への賞与については、運営費交付金により財源措置されることから、前事業年度まで引当金を計上しておりませんでしたが、独立行政法人会計基準等の改訂により、当事業年度より、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を賞与引当金として計上するとともに、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上しております。

これらが経常利益及び当期純利益に与える影響はありません。

２．退職給付に係る引当金の計上基準

退職一時金については、運営費交付金により財源措置される部分については、前事業年度まで引当金を計上しておりませんでしたが、独立行政法人会計基準等の改訂により、当事業年度より、当事業年度末における退職給付債務を退職給付引当金として計上するとともに、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

これらが経常利益及び当期純利益に与える影響はありません。

３．環境対策引当金の計上基準

ＰＣＢ廃棄物（安定器）の処理費用については、運営費交付金により財源措置されることから、前事業年度まで引当金を計上しておりませんでしたが、独立行政法人会計基準等の改訂により、当事業年度より、今後発生すると見込まれる額を環境対策引当金として計上するとともに、環境対策引当金と同額を環境対策引当金見返として計上しております。

これらが経常利益及び当期純利益に与える影響はありません。

（表示方法の変更）

１．純資産の部の表示方法の変更

損益外減価償却累計額及び損益外減損損失累計額について、前事業年度まで資本剰余金の控除項目として表示しておりましたが、独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より、その他行政コスト累計額の減価償却相当累計額及び減損損失相当累計額として表示しております。

損益外固定資産除売却差額について、前事業年度まで資本剰余金に含めて表示しておりましたが、独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より、その他行政コスト累計額の除売却差額相当累計額として表示しております。

損益外固定資産除売却差額について表示方法を変更したことにより、資本剰余金の当期首残高が 3,135,991,688 円増加し、除売却差額相当累計額の当期首残高が 3,135,991,688 円増加しております。

Ⅱ．固定資産の減損

１．当年度に減損を認識した固定資産

（１）減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

資産名	京都国立博物館管理棟第二期補強外工事実施設計業務
主な用途	設計
資産科目	建設仮勘定
場所	京都国立博物館
帳簿価額	9,555,000 円

（２）減損の認識に至った経緯

前年度までは、現在行われている京都国立博物館本館（明治古都館）の耐震改修工事が完了した後に、管理棟含む周辺施設の保存活用に係る検討を踏まえて当工事の実施を予定しておりました。

京都国立博物館本館（明治古都館）の耐震改修工事は 2033（令和 15）年度に竣工予定であることや、管理棟の工事実施には国宝・重要文化財の修理を行っている修理技術者の移転先の選定が必要であることから、工事の実施見込について客観的に示すことが難しい旨、当年度において明らかになりました。

そのため、現時点においては当工事の実施目途がたたないこととして、減損を認識しました。

（３）減損額のうち損益計算書に計上している金額

9,555,000 円

（４）減損額のうち損益計算書に計上していない金額

0 円

（５）回収可能サービス価額の算定方法の概要

回収可能サービス価額は正味売却価額より測定しており、売却ができないため 0 円であります。

Ⅲ．重要な債務負担行為

該当なし

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	4,409,631,458	4,409,631,458	―
(2)未収金	1,300,759,784	1,300,759,784	―
(3)未払金	(2,485,136,064)	(2,485,136,064)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法に関する事項

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、（　）で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫１棟の天井材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが、当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

Ⅶ．退職給付に係る注記

１．採用している退職給付制度の概要

当機構では、役職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度及び国家公務員共済組合法の退職等年金給付制度を採用しています。非積立型の退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

２．確定給付制度

（１）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区　　分	平成31年4月1日～令和2年3月31日
期首における退職給付引当金	0
独立行政法人会計基準改訂に伴う調整額	2,000,199,229
退職給付費用	273,129,754
退職給付の支払額	△249,552,659
期末における退職給付引当金	2,023,776,324

（２）退職給付に関連する損益

（単位：円）

区　　分	平成31年4月1日～令和2年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	273,129,754

（３）退職等年金給付制度

当法人の退職等年金給付制度への要拠出額は、43,787,430円です。

附　属　明　細　書

第13期

自：平成31年 4月 1日
至：令和2年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第13期　附属明細書

自：平成31年 4月 1日
至：令和2年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７　特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第９１　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本剰余金の明細

１２．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１３．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１４．　役員及び職員の給与の明細

１５．　セグメント情報

１６．　科学研究費補助金の明細

１７．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(減価償却費)	建物	2,798,391,787	113,437,792	0	2,911,829,579	1,754,748,655	126,636,764	0	0	0	1,157,080,924	
	構築物	171,892,084	22,531,509	0	194,423,593	124,859,401	9,505,818	0	0	0	69,564,192	
	機械・装置	114,758,571	0	0	114,758,571	62,640,206	17,034,283	0	0	0	52,118,365	
	車両運搬具	58,137,777	8,565,457	0	66,703,234	55,599,303	2,545,493	0	0	0	11,103,931	
	工具器具備品	5,617,541,833	523,611,395	38,481,485	6,102,671,743	4,622,716,143	392,781,214	0	0	0	1,479,955,600	
	計	8,760,722,052	668,146,153	38,481,485	9,390,386,720	6,620,563,708	548,503,572	0	0	0	2,769,823,012	
有形固定資産(減価償却相当額)	建物	89,608,617,307	3,264,036,493	0	92,872,653,800	41,869,659,573	2,966,422,323	0	0	0	51,002,994,227	
	構築物	4,332,153,564	89,892,860	0	4,422,046,424	2,825,318,235	142,206,823	0	0	0	1,596,728,189	
	機械・装置	626,629,912	0	2,490,019	624,139,893	493,571,105	68,122,746	0	0	0	130,568,788	
	車両運搬具	6,832,224	0	0	6,832,224	6,832,213	0	0	0	0	11	
	工具器具備品	3,021,981,346	512,559,073	8,273,398	3,526,267,021	2,412,848,010	209,953,526	0	0	0	1,113,419,011	
	計	97,596,214,353	3,866,488,426	10,763,417	101,451,939,362	47,608,229,136	3,386,705,418	0	0	0	53,843,710,226	
非償却資産	工具器具備品	130,116,901	2,200,000	0	132,316,901	0	0	0	0	0	132,316,901	
	収蔵品	121,311,450,215	1,444,861,203	0	122,756,311,418	0	0	0	0	0	122,756,311,418	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	2,002,575,120	7,810,334	2,000,555,520	9,829,934	0	0	0	0	0	9,829,934	
	計	167,854,817,340	1,454,871,537	2,000,555,520	167,309,133,357	0	0	0	0	0	167,309,133,357	
有形固定資産合計	建物	92,407,009,094	3,377,474,285	0	95,784,483,379	43,624,408,228	3,093,059,087	0	0	0	52,160,075,151	
	構築物	4,504,045,648	112,424,369	0	4,616,470,017	2,950,177,636	151,712,641	0	0	0	1,666,292,381	
	機械・装置	741,388,483	0	2,490,019	738,898,464	556,211,311	85,157,029	0	0	0	182,687,153	
	車両運搬具	64,970,001	8,565,457	0	73,535,458	62,431,516	2,545,493	0	0	0	11,103,942	
	工具器具備品	8,769,640,080	1,038,370,468	46,754,883	9,761,255,665	7,035,564,153	602,734,740	0	0	0	2,725,691,512	
	収蔵品	121,311,450,215	1,444,861,203	0	122,756,311,418	0	0	0	0	0	122,756,311,418	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	2,002,575,120	7,810,334	2,000,555,520	9,829,934	0	0	0	0	0	9,829,934	
	計	274,211,753,745	5,989,506,116	2,049,800,422	278,151,459,439	54,228,792,844	3,935,208,990	0	0	0	223,922,666,595	
無形固定資産(減価償却費)	ソフトウエア	496,896,736	45,756,271	54,679,354	487,973,653	369,645,223	41,853,208	0	0	0	118,328,430	
	計	496,896,736	45,756,271	54,679,354	487,973,653	369,645,223	41,853,208	0	0	0	118,328,430	
無形固定資産(減価償却相当額)	ソフトウエア	2,600,777	4,871,552	0	7,472,329	2,681,969	81,192	0	0	0	4,790,360	
	計	2,600,777	4,871,552	0	7,472,329	2,681,969	81,192	0	0	0	4,790,360	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	6,854,400	0	0	6,854,400	0	0	3,376,800	0	0	3,477,600	
	その他無形固定資産	2,795,143	372,441	704,400	2,463,184	0	0	0	0	0	2,463,184	
	計	9,649,543	372,441	704,400	9,317,584	0	0	3,376,800	0	0	5,940,784	
無形固定資産合計	ソフトウエア	499,497,513	50,627,823	54,679,354	495,445,982	372,327,192	41,934,400	0	0	0	123,118,790	
	電話加入権	6,854,400	0	0	6,854,400	0	0	3,376,800	0	0	3,477,600	
	その他無形固定資産	2,795,143	372,441	704,400	2,463,184	0	0	0	0	0	2,463,184	
	計	509,147,056	51,000,264	55,383,754	504,763,566	372,327,192	41,934,400	3,376,800	0	0	129,059,574	
投資その他の資産	長期前払費用	2,132,840	54,432	2,132,840	54,432	0	0	0	0	0	54,432	
	退職給付引当金見返	0	2,236,939,808	213,163,484	2,023,776,324						2,023,776,324	
	環境対策引当金見返	0	157,525,368	0	157,525,368						157,525,368	
	計	2,132,840	2,394,519,608	215,296,324	2,181,356,124	0	0	0	0	0	2,181,356,124	

(注)当期増加額のうち1,731,765,032円は東京国立博物館仮設収蔵庫整備工事によるものであります。

2. たな卸資産の明細

（単位：円）

種　類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	37,186,695	36,935,483	0	22,524,368	0	51,597,810	
未成受託研究支出金	13,071,340	4,154,989	0	13,071,340	0	4,154,989	
計	50,258,035	41,090,472	0	35,595,708	0	55,752,799	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

（単位:円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘要
			目的使用	その他		
賞与引当金	0	554,771,758	281,940,605	0	272,831,153	
環境対策引当金	0	275,288,948	0	0	275,288,948	
計	0	830,060,706	281,940,605	0	548,120,101	

(注)賞与引当金の当期増加額には、会計基準改訂に伴い期首に計上した平成30事業年度分 281,940,605円を含んでいます。

(注)環境対策引当金の当期増加額には、会計基準改訂に伴い期首に計上した平成30事業年度分 275,288,948円を含んでいます。

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
退職給付債務合計額	0	2,236,939,808	213,163,484	2,023,776,324	
退職一時金に係る債務	0	2,236,939,808	213,163,484	2,023,776,324	
退職給付引当金	0	2,236,939,808	213,163,484	2,023,776,324	

(注)退職給付引当金の当期増加額には、会計基準改訂に伴い期首に計上した平成30事業年度以前分2,000,199,229円を含んでいます。

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本剰余金の明細

（単位:円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
施設費補助金	43,051,399,327	3,703,097,990	0	46,754,497,317	施設費による特定資産の取得
目的積立金	515,342,463	168,261,988	0	683,604,451	目的積立金による特定資産の取得
運営費交付金	21,443,883,611	1,005,399,480	0	22,449,283,091	運営費交付金による収蔵品の取得
寄附金等	892,370,370	227,480,000	0	1,119,850,370	寄附金による収蔵品の取得
贈与	95,568,990,359	214,180,955	0	95,783,171,314	寄贈品の受け入れ
収蔵品編入	12,059,498	768	0	12,060,266	
計	161,484,045,628	5,318,421,181	0	166,802,466,809	

12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

期首残高	当期交付額	当期振替額					引当金見返との相殺額	期末残高
		運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金	小計		
455,238,411	8,592,869,000	6,575,214,734	445,795,622	7,088,033	1,005,399,480	8,033,497,869	495,104,089	519,505,453

(2)運営費交付金債務の当期振替額及び主な使途の明細

①運営費交付金収益への振替額及び主な使途の明細　　(単位:円)

区分	運営費交付金収益	運営費交付金の主な使途	
		費用	主な使途
業務達成基準による振替額			
国立博物館等の事業	3,433,618,423	3,415,609,650	人件費:1,937,618,079円、 一般管理費:0円、 業務費:1,477,991,571円、その他:0円
文化財研究所等の事業	1,880,413,361	1,891,803,510	人件費:1,191,593,262円、 一般管理費:15,263,297円、 業務費:684,946,951円、その他:0円
共通	48,460,343	32,087,460	退職手当:131,777円、 一般管理費:31,955,683円、 業務費:0円、その他:0円
期間進行基準による振替額	1,212,722,607	1,192,247,910	人件費:838,564,628円、 一般管理費:352,627,877円、 その他:1,055,405円
合計	6,575,214,734	6,531,748,530	

②資産見返運営費交付金及び建設仮勘定見返運営費交付金、資本剰余金への振替額並びに主な使途の明細　　(単位:円)

セグメント	資産見返運営費交付金への振替		建設仮勘定見返運営費交付金への振替		資本剰余金への振替	
	振替額	主な使途	振替額	主な使途	振替額	主な使途
国立博物館等の事業	362,334,985	東京国立博物館資料館昇降機No.10:50,192,000円 東京国立博物館本館13室V9展示ケース:32,786,008円 東京国立博物館本館13室V7展示ケース:25,564,722円 その他:253,792,255円	6,715,592	陳列品の高精細複製品の制作 文化財活用センター:6,715,592円	1,004,836,500	陳列品購入 東京国立博物館:169,200,000円 京都国立博物館:273,800,000円 奈良国立博物館:100,440,000円 九州国立博物館:461,396,500円
文化財研究所等の事業	64,773,011	奈良文化財研究所日本ファイリング中軽量棚引戸付 UG300-75:7,228,440円 東京文化財研究所ハイパースペクトルカメラ NH-1S:4,854,600円 奈良文化財研究所トヨタ ヴェルファイア ハイブリッドX:4,402,736円 その他:48,287,235円	372,441	特許出願審査 奈良文化財研究所:372,441円	562,980	研究所収蔵品購入 奈良文化財研究所:562,980円
共通	18,687,626	人事給与システム用仮想化サーバー:3,077,388円 人事給与統合システムバージョンアップ:2,998,600円 人事給与システム用DBサーバー:2,200,398円 その他:10,411,240円	0		0	
合計	445,795,622		7,088,033		1,005,399,480	

(3)引当金見返との相殺額の明細　　（単位:円）

セグメント	引当金見返との相殺	
	相殺額	主な相殺額の内訳
国立博物館等の事業	308,596,235	賞与引当金見返:162,099,050円 退職給付引当金見返:146,497,185円
文化財研究所等の事業	166,982,127	賞与引当金見返:100,764,594円 退職給付引当金見返:66,217,533円
共通	19,525,727	賞与引当金見返:19,076,961円 退職給付引当金見返:448,766円
合計	495,104,089	

(4)運営費交付金債務残高の明細　　（単位:円）

運営費交付金債務残高		使用見込み
業務達成基準を採用した業務に係る分	469,505,453	○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細は別表1のとおりです。
期間進行基準を採用した業務に係る分	－	○翌事業年度への繰越額はない。
配分留保額	50,000,000	○予算配分を留保した運営費交付金債務の繰越事由と必要性は別表2のとおりです。
計	519,505,453	

別表1　翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細

セグメント	業務名称	施設名	繰越事由、債務残高及び使用見込み
国立博物館等の事業	収集保管業務	東京国立博物館	文化財修理（大型深鉢式土器）について、作業に想定以上の内容が含まれることが判明し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に550千円使用予定。
			文化財購入について、手続きに必要な日数を確保することが困難であったことから、翌期に60,800千円使用予定。
			ガラス乾板及び棚の移動作業について、収蔵庫の環境調査の結果、有害物質が検出されたため予定していた搬入が延期となり、翌期に3,875千円使用予定。
		九州国立博物館	文化財購入について、手続きに必要な日数を確保することが困難であったことから、翌期に53,730千円使用予定。
			寄託寄贈増進費について、新型コロナウイルスの影響により予定していた調査が延期となり、翌期に303千円使用予定。
	展覧業務	東京国立博物館	賛助会芳名顕彰板について、仕様の再検討に時間を要し、年度内の納品が困難であったことから、翌期に7,320千円使用予定。
			デジタルインフォメーションサイネージについて、コンテンツ製作・映像機器の賃借期間が令和2年度末である。翌期に9,330千円使用予定。
		京都国立博物館	展示ケースモーター交換について、新型コロナウイルスの影響により、年度内の納品が困難であったことから、翌期に666千円使用予定。
			仮想化基盤装置、サイネージ用ストレージについて、新型コロナウイルスの影響により、年度内の納品が困難であったことから、翌期に12,625千円使用予定。
		九州国立博物館	室町展について、返却先の改修工事後に返却を行う予定であったが竣工が伸び、年度内の完了が困難であったことから、翌期に3,500千円使用予定。
			古代エジプト展について、多言語化音声ガイド制作内容の再調整が発生し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に2,344千円使用予定。
			特集展示きゅーはくどうぶつえんの会場造作について、内容に変更が生じたため調整に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に2,032千円使用予定。
			海外交流展（タイ）に関する調査・打合せについて、新型コロナウイルスの影響により予定していた派遣、招へいが延期となり、翌期に2,825千円使用予定。
			海外交流展（韓国）に関する調査・打合せについて、新型コロナウイルスの影響により予定していた派遣、招へいが延期となり、翌期に2,459千円使用予定。
			文化交流展示室展示ケース修理等について、環境調査、衣桁製作に時間を要し、年度内の完了が困難であったとから、翌期に9,886千円使用予定。
			特別展室壁付ケース部品更新について、特別展の会場施工・撤収工事期間に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に2,310千円使用予定。
			館内案内印刷について、内容の再調整が必要となり、年度内の完了が困難であったことから、翌期に2,477千円使用予定。
			展覧各所修繕について、令和2年3月にファンタイマー制御変更の必要性が生じ、年度内の納品が困難であったことから、翌期に658千円使用予定。
	教育普及業務	東京国立博物館	会員制度の変更に関する周知用パンフレットについて、料金改定の検討が遅れ、年度内の納品が困難であったことから、翌期に1,200千円使用予定。
		京都国立博物館	colbase画像サーバ増強について、新型コロナウイルスの影響により、年度内の納品が困難であったことから、翌期に963千円使用予定。
		奈良国立博物館	法隆寺金堂壁画写真ガラス原板デジタルデータ接合作業について、令和元年度から令和2年度にかけての2ケ年の事業であり、翌期に3,465千円使用予定。
		文化財活用センター	デジタルアーカイブ運用費について、仕様の検討に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に10,835千円使用予定。
			レプリカ・VR作成について、工期が2ケ年度にわたり、令和3年2月に完了を予定している。翌期に26,993千円使用予定。
			体験型展示について、仕様の検討に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に11,382千円使用予定。
	博物館研究業務	東京国立博物館	「重要文化財　旧十輪院宝蔵壁画　保存処置」事業が次年度にも及ぶため、覆い屋設置リース代、解体などの作業が令和2年度になったため、翌期に1,140千円使用予定。
			150年史製作・印刷について、原稿データ整理に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に1,403千円使用予定。
		京都国立博物館	寄託予定品の作品調査について、新型コロナウイルスの影響により予定していた調査が延期となり、翌期に688千円使用予定。
			サイネージ用ストレージについて、新型コロナウイルスの影響により、年度内の納品が困難であったことから、、翌期に5,600千円使用予定。
		奈良国立博物館	『鹿園雑集』22号印刷製本事業について、発表予定の研究に関する新知見があり、追加検証に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期1,247千円使用予定。
			『文化財保存修理所　修理報告書』第2号印刷製本事業について、編集作業に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に986千円使用予定。
	博物館支援業務	東京国立博物館	海外交流展について、新型コロナウイルスの影響により実施予定が令和2年度に延期となり、翌期に5,300千円使用予定。
			中国故宮博物院との学術交流について、新型コロナウイルスの影響により実施予定が令和2年度に延期となり、翌期に499千円使用予定。
		奈良国立博物館	複製模造品制作事業について、当初計画していた彩色方法から変更となり、年度内の完了が困難であったことから、翌期に1,766千円使用予定。
			借用列品返却事業について、専門業者による修理が必要となり、年度内の完了が困難であったことから、翌期に234千円使用予定。
		文化財活用センター	文化財修理（土師器）について、工期が2ケ年度にわたり、令和2年9月に完了を予定している。翌期に599千円使用予定。
	一般管理費	九州国立博物館	館用車の購入について、仕様の検討に時間を要し、年度内の納車が困難であったことから、翌期に3,169千円使用予定。
		文化財活用センター	ファンドレイジング活用費について、特別展「きもの」が延期となり、きもの体験コーナー設置の年度内の完了が困難であったことから、翌期に734千円使用予定。

文化財研究所等の事業	基礎研究業務	奈良文化財研究所	記念物の保存・活用に関する調査研究について、新型コロナウイルスの影響により予定していた研究集会が延期となり、翌期に530千円使用予定。
			平城宮・京の発掘調査について、新型コロナウイルスの影響により予定していた発掘調査が延期となり、翌期に2,100千円使用予定。
			平城宮・京出土遺物の調査・研究について、新型コロナウイルスの影響により予定していた作業が延期となり、翌期に550千円使用予定。
			中国との共同研究について、新型コロナウイルスの影響により予定していた中国での現地調査が延期となり、翌期に700千円使用予定。
			韓国国立文化財研究所との共同研究について、新型コロナウイルスの影響により予定していた発掘交流及び共同研究が延期となり、翌期に1,800千円使用予定。
			出版物（文化的景観）について、新型コロナウイルスの影響により出版業者側の作業が遅れ、年度内の完了が困難であったことから、翌期に3,901千円使用予定。
	応用研究業務	東京文化財研究所	研究機器の計画的整備について、新型コロナウイルスの影響により予定していた作業が延期となり、翌期に25,300千円使用予定。
		奈良文化財研究所	計画的な設備・機器の整備について、新型コロナウイルスの影響により予定していた作業が延期となり、翌期に8,118千円使用予定。
			古代日本の都城遺跡に関する調査研究について、新型コロナウイルスの影響により物品の調達が遅れ、年度内の完了が困難であったことから、翌期に3,800千円使用予定。
	国際遺産保護業務	東京文化財研究所	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信について、新型コロナウイルスの影響により予定していた海外調査が延期となり、翌期に956千円使用予定。
			在外日本古美術品保存修復協力事業について、相手先美術館の都合により修復計画が変更となり、年度内の完了が困難であったことから、翌期に2,882千円使用予定。
		アジア太平洋無形文化遺産研究センター	「無形文化遺産保護に関する調査研究」実施にかかる出版について、新型コロナウイルスの影響により現地（ベトナム）側の作業が遅れ、年度内の完了が困難であったことから、翌期に127千円使用予定。
	情報公開業務	奈良文化財研究所	博物館における多言語化の推進について、新型コロナウイルスの影響により予定していた作業が延期となり、翌期に7,148千円使用予定。
	一般管理費	東京文化財研究所	写真原版室空調設備更新工事について、オリンピック準備の影響による工事機器・資材の需要増により、年度内に完了しなかったことから、翌期に12,980千円使用予定。
		奈良文化財研究所	本庁舎建物新営設備について、国宝木簡用の収蔵箪笥の一部に改修を加える必要が生じ、収蔵品の移転が完了しなかったことから、翌期に27,000千円使用予定。
共通	一般管理費	国立文化財機構	退職手当について、役員等が再任となったことから、退職時に44,489千円使用予定。
		本部事務局	環境整備課事務費について、新型コロナウイルスの影響により予定していた研修会が延期となり、翌期に499千円使用予定。
			情報システムネットワーク統合について、次期ネットワーク構築の詳細設計に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に62,400千円使用予定。
			平成29年度に更新を行った財務会計システムについて、後年度まで保守を予定しており、翌期に4,636千円使用予定。
			財務会計システムの改修について、仕様の検討に時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に3,475千円使用予定。
			監査室事務費について、新型コロナウイルスの影響により予定していた監査が延期となり、翌期に220千円使用予定。

別表2　予算配分を留保した運営費交付金債務残高と繰越事由

セグメント	繰越事由と必要性
共　通	予定外退職者の退職手当や災害等不測の事態、その他理事長が必要と判断する案件に対応するため、本部に50,000千円を留保し、翌期以降該当する案件が発生した場合に予算配分を行う。

13. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

13－1 施設費の明細　　（単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
東京国立博物館仮設収蔵庫整備工事	1,848,438,280	0	1,731,765,032	116,673,248	
東京国立博物館本館設備改修工事	473,159,000	0	0	473,159,000	
計	2,321,597,280	0	1,731,765,032	589,832,248	

(注)その他の内訳は、施設費収益:589,832,248円です。

13－2 補助金等の明細　　（単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返補助金等	資産見返補助金等	収益計上	
国立文化財機構文化芸術振興費補助金	138,376,268	0	0	138,376,268	
東京国立博物館文化芸術振興費補助金	18,784,925	0	0	18,784,925	
東京国立博物館文化資源活用事業費補助金	66,897,747	0	0	66,897,747	
京都国立博物館文化芸術振興費補助金	1,991,335	0	0	1,991,335	
アジア太平洋無形文化遺産研究センター政府開発援助ユネスコ活動費	5,000,000	0	0	5,000,000	
計	231,050,275	0	0	231,050,275	

(注)収益計上の内訳は、その他補助金収益:231,050,275円です。

14. 役員及び職員の給与の明細

（単位:千円，人）

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 3,840 ） 44,454	（ 3 ） 3	（ 0 ） 0	（ 0 ） 0
職員	（ 929,447 ） 3,029,208	（ 464 ） 384	（ 222 ） 249,553	（ 4 ） 20
合計	（ 933,287 ） 3,073,661	（ 467 ） 387	（ 222 ） 249,553	（ 4 ） 20

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については平成31年4月～令和2年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　　理事長　965,000円（報酬月額）
理事2名　895,000円（報酬月額）、818,000円（報酬月額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、理事80,000円、監事120,000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

15. セグメント情報　（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	国立博物館等	文化財研究所等	計	共　通	合　計
Ⅰ行政コスト					
損益計算書上の費用合計	9,952,648,123	4,258,036,563	14,210,684,686	663,539,537	14,874,224,223
その他行政コスト					
減価償却相当額	2,863,405,386	519,891,160	3,383,296,546	3,490,064	3,386,786,610
減損損失相当額	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	0	8	8	0	8
その他行政コスト合計	2,863,405,386	519,891,168	3,383,296,554	3,490,064	3,386,786,618
行政コスト	12,816,053,509	4,777,927,731	17,593,981,240	667,029,601	18,261,010,841
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	9,461,794,576	4,203,597,508	13,665,392,084	937,651,776	14,603,043,860
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益					
事業費用					
業務費	6,941,964,911	2,922,239,039	9,864,203,950	0	9,864,203,950
人件費	2,473,167,980	1,430,281,391	3,903,449,371	0	3,903,449,371
業務経費	4,103,325,366	1,358,768,356	5,462,093,722	0	5,462,093,722
収集保管業務費	404,729,239	0	404,729,239	0	404,729,239
展覧業務費	2,321,277,688	0	2,321,277,688	0	2,321,277,688
教育普及業務費	180,779,008	0	180,779,008	0	180,779,008
博物館研究業務費	291,096,288	0	291,096,288	0	291,096,288
博物館支援業務費	111,757,527	0	111,757,527	0	111,757,527
基礎研究業務費	0	279,690,476	279,690,476	0	279,690,476
応用研究業務費	0	111,488,233	111,488,233	0	111,488,233
国際遺産保護業務費	0	107,472,859	107,472,859	0	107,472,859
情報公開業務費	0	272,023,194	272,023,194	0	272,023,194
研修協力業務費	0	55,688,825	55,688,825	0	55,688,825
受託業務費	793,685,616	532,404,769	1,326,090,385	0	1,326,090,385
減価償却費	365,471,565	133,189,292	498,660,857	0	498,660,857
一般管理費	1,607,505,305	476,784,309	2,084,289,614	355,357,783	2,439,647,397
人件費	436,555,985	345,540,017	782,096,002	192,381,277	974,477,279
一般管理経費	1,105,375,847	116,371,064	1,221,746,911	151,727,284	1,373,474,195
減価償却費	65,573,473	14,873,228	80,446,701	11,249,222	91,695,923
財務費用	167,547	1,105,359	1,272,906	0	1,272,906
雑損	1,605,495	495,458	2,100,953	0	2,100,953
事業費用計	8,551,243,258	3,400,624,165	11,951,867,423	355,357,783	12,307,225,206
事業収益					
運営費交付金収益	4,070,719,463	2,209,372,259	6,280,091,722	295,123,012	6,575,214,734
受託収入	801,502,076	536,656,292	1,338,158,368	0	1,338,158,368
入場料収入	1,132,688,140	1,960,080	1,134,648,220	0	1,134,648,220
展示事業等附帯収入	466,472,714	50,500,967	516,973,681	1,119,140	518,092,821
財産利用収入	302,442,002	15,387,478	317,829,480	0	317,829,480
寄附金収益	310,474,760	144,272,088	454,746,848	44,213,539	498,960,387
施設費収益	589,832,248	0	589,832,248	0	589,832,248
その他補助金収益	166,983,450	56,665,195	223,648,645	7,401,630	231,050,275
資産見返負債戻入	428,636,223	136,221,698	564,857,921	16,028,859	580,886,780
財務収益	519	9	528	0	528
雑益	16,155,670	2,430,081	18,585,751	27,155,563	45,741,314
賞与引当金見返に係る収益	144,626,670	99,004,286	243,630,956	29,200,197	272,831,153
退職給付引当金見返に係る収益	144,695,380	115,688,366	260,383,746	−23,643,167	236,740,579
事業収益計	8,575,229,315	3,368,158,799	11,943,388,114	396,598,773	12,339,986,887
事業損益	23,986,057	−32,465,366	−8,479,309	41,240,990	32,761,681
Ⅳ臨時損益等					
臨時損失	1,401,404,865	857,412,398	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
臨時損失計	1,401,404,865	857,412,398	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
臨時利益	1,401,404,865	857,412,398	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
臨時利益計	1,401,404,865	857,412,398	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
当期純利益	23,986,057	−32,465,366	−8,479,309	41,240,990	32,761,681
目的積立金取崩額	31,810,188	19,302,415	51,112,603	0	51,112,603
当期総利益	55,796,245	−13,162,951	42,633,294	41,240,990	83,874,284
Ⅴ総資産					
流動資産	2,587,501,771	798,656,087	3,386,157,858	2,798,156,699	6,184,314,557
固定資産	209,844,756,877	16,264,802,212	226,109,559,089	123,523,204	226,233,082,293
建物	42,629,788,124	9,513,113,467	52,142,901,591	17,173,560	52,160,075,151
収蔵品	122,566,926,551	189,384,867	122,756,311,418	0	122,756,311,418
土地	40,238,675,104	4,172,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	4,409,367,098	2,390,303,878	6,799,670,976	106,349,644	6,906,020,620
総資産計	212,432,258,648	17,063,458,299	229,495,716,947	2,921,679,903	232,417,396,850

（注）

１．事業の種類の区分方法及び事業の内容
中期目標等における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しております。
（１）国立博物館等の事業
有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業を行っております。
東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館を設置し、事業を行っております。
（２）文化財研究所等の事業
文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業を行っております。
東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、事業を行っております。

２．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は355,357,783円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

３．事業費用のうち目的積立金を財源とする金額は50,105,688円です。内訳は東京国立博物館13,500,000円、京都国立博物館5,244,058円、奈良国立博物館13,066,130円、東京文化財研究所17,300,000円、奈良文化財研究所995,500円であります。

４．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は396,598,773円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

５．総資産のうち共通の項目に含めた金額は2,921,679,903円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

５．施設別の事業費用，事業収益及び事業損益等の情報は以下のとおりであります。

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	本部事務局	合　計
Ⅰ行政コスト										
損益計算書上の費用合計	4,740,802,783	1,404,014,870	1,409,684,447	1,524,105,109	1,523,787,242	2,591,160,614	143,088,707	13,336,643,772	1,537,580,451	14,874,224,223
その他行政コスト										
減価償却相当額	990,825,361	1,100,454,040	398,737,017	373,388,968	103,119,550	416,771,610	0	3,383,296,546	3,490,064	3,386,786,610
減損損失相当額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	0	0	0	0	0	8	0	8	0	8
その他行政コスト合計	990,825,361	1,100,454,040	398,737,017	373,388,968	103,119,550	416,771,618	0	3,383,296,554	3,490,064	3,386,786,618
行政コスト	5,731,628,144	2,504,468,910	1,808,421,464	1,897,494,077	1,626,906,792	3,007,932,232	143,088,707	16,719,940,326	1,541,070,515	18,261,010,841
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	4,190,187,564	2,229,904,906	1,335,117,056	1,706,585,050	1,376,352,132	2,753,524,989	73,720,387	13,665,392,084	937,651,776	14,603,043,860
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益										
事業費用										
業務費	2,861,826,447	939,702,431	1,010,520,214	1,255,874,905	996,029,474	1,823,734,237	102,475,328	8,990,163,036	874,040,914	9,864,203,950
人件費	1,120,013,031	407,912,897	346,621,351	373,172,448	489,892,705	913,801,228	26,587,458	3,678,001,118	225,448,253	3,903,449,371
業務経費	1,645,962,298	450,112,520	617,061,157	746,376,367	456,653,057	826,535,687	75,579,612	4,818,280,698	643,813,024	5,462,093,722
収集保管業務費	137,664,609	119,603,443	16,255,139	131,206,048	0	0	0	404,729,239	0	404,729,239
展覧業務費	988,226,613	249,853,688	515,723,569	567,473,818	0	0	0	2,321,277,688	0	2,321,277,688
教育普及業務費	89,080,217	7,181,804	15,253,427	6,231,152	0	0	0	117,746,600	63,032,408	180,779,008
博物館研究業務費	172,975,264	49,242,861	45,178,530	17,934,738	0	0	0	285,331,393	5,764,895	291,096,288
博物館支援業務費	39,028,016	17,063,964	5,834,492	4,743,679	0	0	0	66,670,151	45,087,376	111,757,527
基礎研究業務費	0	0	0	0	48,426,351	231,264,125	0	279,690,476	0	279,690,476
応用研究業務費	0	0	0	0	76,592,667	34,895,566	0	111,488,233	0	111,488,233
国際遺産保護業務費	0	0	0	0	53,848,595	25,635,277	27,988,987	107,472,859	0	107,472,859
情報公開業務費	0	0	0	0	69,545,661	202,477,533	0	272,023,194	0	272,023,194
研修協力業務費	0	0	0	0	35,645,051	20,043,774	0	55,688,825	0	55,688,825
受託業務費	218,987,579	7,166,760	18,816,000	18,786,932	172,594,732	312,219,412	47,590,625	796,162,040	529,928,345	1,326,090,385
減価償却費	95,851,118	81,677,014	46,837,706	136,326,090	49,483,712	83,397,322	308,258	493,881,220	4,779,637	498,660,857
一般管理費	1,121,396,003	181,185,910	182,438,366	122,485,026	228,661,339	215,460,265	32,662,705	2,084,289,614	355,357,783	2,439,647,397
人件費	179,658,008	89,044,315	108,806,963	59,046,699	162,817,056	153,666,225	29,056,736	782,096,002	192,381,277	974,477,279
一般管理経費	914,344,743	83,083,968	59,739,254	48,207,882	65,116,911	47,648,184	3,605,969	1,221,746,911	151,727,284	1,373,474,195
減価償却費	27,393,252	9,057,627	13,892,149	15,230,445	727,372	14,145,856	0	80,446,701	11,249,222	91,695,923
財務費用	167,547	0	0	0	85,165	1,020,194	0	1,272,906	0	1,272,906
雑損	1,595,665	0	9,830	0	4,669	490,789	0	2,100,953	0	2,100,953
事業費用計	3,984,985,662	1,120,888,341	1,192,968,410	1,378,359,931	1,224,780,647	2,040,705,485	135,138,033	11,077,826,509	1,229,398,697	12,307,225,206
事業収益										
運営費交付金収益	1,477,114,543	707,202,876	605,490,406	978,699,613	767,028,364	1,386,626,278	55,717,617	5,977,879,697	597,335,037	6,575,214,734
受託収入	224,719,820	7,166,760	18,816,000	18,786,932	172,240,119	316,825,548	47,590,625	806,145,804	532,012,564	1,338,158,368
入場料収入	652,652,284	108,271,342	275,921,139	95,843,375	0	1,960,080	0	1,134,648,220	0	1,134,648,220
展示事業等附帯収入	281,461,272	46,197,744	116,184,777	22,628,921	10,676,811	39,824,156	0	516,973,681	1,119,140	518,092,821
財産利用収入	189,458,839	81,881,716	24,996,169	6,105,278	3,835,289	11,552,189	0	317,829,480	0	317,829,480
寄附金収益	187,352,089	31,589,441	38,618,810	49,089,965	70,155,631	51,548,762	22,567,695	450,922,393	48,037,994	498,960,387
施設費収益	589,832,248	0	0	0	0	0	0	589,832,248	0	589,832,248
その他補助金収益	98,843,342	20,806,047	6,025,333	8,012,281	26,021,748	25,643,447	5,000,000	190,352,198	40,698,077	231,050,275
資産見返負債戻入	125,615,192	90,734,641	60,729,855	151,556,535	46,817,293	89,096,147	308,258	564,857,921	16,028,859	580,886,780
財務収益	427	67	25	0	0	9	0	528	0	528
雑益	10,880,855	3,522,181	298,806	1,453,828	805,246	1,624,835	0	18,585,751	27,155,563	45,741,314
賞与引当金見返に係る収益	73,121,117	28,773,226	23,648,709	19,083,618	35,041,428	61,985,714	1,977,144	243,630,956	29,200,197	272,831,153
退職給付引当金見返に係る収益	60,011,275	14,269,875	38,813,128	31,601,102	58,953,932	54,323,181	2,411,253	260,383,746	−23,643,167	236,740,579
事業収益計	3,971,063,303	1,140,415,916	1,209,543,157	1,382,861,448	1,191,575,861	2,041,010,346	135,572,592	11,072,042,623	1,267,944,264	12,339,986,887
事業損益	−13,922,359	19,527,575	16,574,747	4,501,517	−33,204,786	304,861	434,559	−5,783,886	38,545,567	32,761,681
Ⅳ臨時損益等										
臨時損失	755,817,121	283,126,529	216,716,037	145,745,178	299,006,595	550,455,129	7,950,674	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
臨時損失計	755,817,121	283,126,529	216,716,037	145,745,178	299,006,595	550,455,129	7,950,674	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
臨時利益	755,817,121	283,126,529	216,716,037	145,745,178	299,006,595	550,455,129	7,950,674	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
臨時利益計	755,817,121	283,126,529	216,716,037	145,745,178	299,006,595	550,455,129	7,950,674	2,258,817,263	308,181,754	2,566,999,017
当期純利益	−13,922,359	19,527,575	16,574,747	4,501,517	−33,204,786	304,861	434,559	−5,783,886	38,545,567	32,761,681
目的積立金取崩額	13,500,000	5,244,058	13,066,130	0	17,311,309	1,991,106	0	51,112,603	0	51,112,603
当期総利益	−422,359	24,771,633	29,640,877	4,501,517	−15,893,477	2,295,967	434,559	45,328,717	38,545,567	83,874,284
Ⅴ総資産										
流動資産	1,500,424,718	302,759,415	429,135,383	355,182,255	348,811,103	421,370,637	28,474,347	3,386,157,858	2,798,156,699	6,184,314,557
固定資産	97,545,241,865	51,249,657,162	30,892,244,084	30,157,613,766	5,580,335,970	10,673,627,780	10,838,462	226,109,559,089	123,523,204	226,233,082,293
建物	15,892,599,267	14,424,750,327	5,175,534,088	7,136,904,442	2,465,328,095	7,047,785,372	0	52,142,901,591	17,173,560	52,160,075,151
収蔵品	52,441,097,306	26,788,701,153	21,262,508,284	22,074,619,808	0	189,384,867	0	122,756,311,418	0	122,756,311,418
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	2,378,757,292	964,308,782	579,191,508	487,109,516	465,007,875	1,914,457,541	10,838,462	6,799,670,976	106,349,644	6,906,020,620
総資産計	99,045,666,583	51,552,416,577	31,321,379,467	30,512,796,021	5,929,147,073	11,094,998,417	39,312,809	229,495,716,947	2,921,679,903	232,417,396,850

16. 科学研究費補助金の明細

（単位:円）

種　　目	当　期　受　入　額	件　数	摘要
科　学　研　究　費 新　学　術　領　域　研　究	（　7,763,000） 2,328,900	 5	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ｓ　）	（　21,167,428） 6,240,000	 5	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ａ　）	（　53,251,759） 16,067,100	 52	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ｂ　）	（　59,855,936） 17,956,781	 78	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ｃ　）	（　36,094,670） 10,828,401	 49	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　萌　芽　研　究	（　1,505,000） 451,500	 3	
科　学　研　究　費 挑戦的研究（開拓・萌芽）	（　9,405,000） 2,821,500	 8	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　（　Ａ　）	（　11,600,000） 3,480,000	 4	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　（　Ｂ　）	（　7,700,000） 2,310,000	 13	
科　学　研　究　費 若　手　研　究	（　18,246,098） 5,473,829	 19	
科　学　研　究　費 研究活動スタート支援	（　3,900,000） 1,170,000	 4	
研究成果公開促進費 デ　ー　タ　ベ　ー　ス	（　4,500,000） 0	 1	
研究成果公開促進費 ひらめき☆ときめきサイエンス	（　330,000） 0	 1	
特　別　研　究　員　奨　励　費	（　700,000） 210,000	 1	
国際共同研究加速基金 国際共同研究強化（Ｂ）	（　2,610,000） 783,000	 3	
計	（　238,628,891） 70,121,011	 246	

（注）当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は外数として（　　）書きで記載しております。

17. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

17－1 未収金の明細 （単位:円）

取引先	未収金の内訳	金額
文化庁	施設整備費補助金 他	643,613,581
東京上野税務署	消費税還付金	245,288,863
独立行政法人日本芸術文化振興会	日本博受託事業「法隆寺金堂壁画と百済観音」委託料 他	150,252,041
内閣府	内閣府受託事業「高御座御帳台等の一般参観実施業務」委託料	57,842,896
陸前高田市長	陸前高田市受託事業「被災美術工芸資料修理業務」委託料	45,756,081
その他		158,006,322
合計		1,300,759,784

17－2 未払金の明細 （単位:円）

取引先	未払金の内訳	金額
株式会社大林組	東京国立博物館本館防水等改修工事	378,695,900
株式会社三ツワフロンテック	マイクロフォーカスX線CT画像処理用ソフトウェア 他	114,744,005
大丸株式会社	国立アイヌ民族博物館交流室 椅子 他	76,697,617
富士通株式会社 北海道支社	アイヌ民族関係資料等情報公開システム導入業務 他	55,325,820
エクスロン・インターナショナル株式会社	エックス線検出器(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨﾃｸﾀｰ FPD XRD1611) 他	48,722,432
コクヨ株式会社	大型仏像用免震装置付展示ケース製作設置業務 法隆寺観音菩薩立像新規展示ケース 他	47,300,000
アズビル・三冷・太平 東京国立博物館共同企業体	建物設備運転・監視等業務 他	46,584,358
株式会社丹青社	東京国立博物館鑑賞ガイダンスシステム作成業務(令和元年度分) 開発費・サーバ利用料 他	39,868,400
東京上野税務署	令和元年度消費税中間申告(第10期、第11期)納付	37,660,600
キヤノン株式会社	風神雷神図・夏秋草図屏風の高精細複製品の制作	33,599,626
その他		1,605,937,306
合計		2,485,136,064

17－3 資産見返運営費交付金の明細 （単位:円）

区分	金額
建物	1,087,289,607
構築物	43,061,156
機械・装置	52,118,363
車両運搬具	10,197,112
工具器具備品	1,143,815,885
ソフトウエア	99,689,120
その他無形固定資産	1,883,623
合計	2,438,054,866

令和元年度

（第 13 期事業年度）

決 算 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

令和元年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	国立博物館等				文化財研究所等				合　計			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備　考	予 算 額	決 算 額	差　額	備　考	予 算 額	決 算 額	差　額	備　考
収　入												
運営費交付金	6,154,760,000	6,121,779,000	−32,981,000		2,438,109,000	2,471,090,000	32,981,000		8,592,869,000	8,592,869,000	−	
施設整備費補助金	993,952,000	2,321,597,280	1,327,645,280	（注記）1	−	−	−		993,952,000	2,321,597,280	1,327,645,280	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	187,005,000	187,005,000	（注記）2	−	53,932,000	53,932,000	（注記）2	−	240,937,000	240,937,000	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	−	−	−		−	5,000,000	5,000,000	（注記）3	−	5,000,000	5,000,000	（注記）3
展示事業等収入	1,853,332,000	1,946,027,698	92,695,698		77,420,000	70,275,750	−7,144,250		1,930,752,000	2,016,303,448	85,551,448	
受託収入	74,313,000	801,502,076	727,189,076	（注記）4	530,732,000	536,656,292	5,924,292		605,045,000	1,338,158,368	733,113,368	（注記）4
その他寄附金等	580,694,000	682,559,005	101,865,005	（注記）5	68,084,000	201,637,217	133,553,217	（注記）5	648,778,000	884,196,222	235,418,222	（注記）5
計	9,657,051,000	12,060,470,059	2,403,419,059		3,114,345,000	3,338,591,259	224,246,259		12,771,396,000	15,399,061,318	2,627,665,318	
支　出												
運営事業費	8,008,092,000	8,159,310,060	151,218,060		2,515,529,000	2,524,357,084	8,828,084		10,523,621,000	10,683,667,144	160,046,144	
管理費	1,400,591,000	1,376,802,694	−23,788,306		411,024,000	463,500,372	52,476,372		1,811,615,000	1,840,303,066	28,688,066	
人件費	614,749,000	603,654,735	−11,094,265		212,248,000	262,404,746	50,156,746	（注記）6	826,997,000	866,059,481	39,062,481	
一般管理費	785,842,000	773,147,959	−12,694,041		198,776,000	201,095,626	2,319,626		984,618,000	974,243,585	−10,374,415	
業務費	6,607,501,000	6,782,507,366	175,006,366		2,104,505,000	2,060,856,712	−43,648,288		8,712,006,000	8,843,364,078	131,358,078	
人件費	1,842,523,000	1,879,990,203	37,467,203		1,055,264,000	998,736,829	−56,527,171		2,897,787,000	2,878,727,032	−19,059,968	
収集保管事業費	1,559,809,000	1,432,366,999	−127,442,001		−	−	−		1,559,809,000	1,432,366,999	−127,442,001	
展覧事業費	2,405,335,000	2,609,830,222	204,495,222		−	−	−		2,405,335,000	2,609,830,222	204,495,222	
教育普及事業費	296,223,000	381,291,360	85,068,360	（注記）7	−	−	−		296,223,000	381,291,360	85,068,360	（注記）7
博物館研究事業費	311,210,000	396,503,632	85,293,632	（注記）7	−	−	−		311,210,000	396,503,632	85,293,632	（注記）7
博物館支援事業費	192,401,000	82,524,950	−109,876,050	（注記）7	−	−	−		192,401,000	82,524,950	−109,876,050	（注記）7
基礎研究事業費	−	−	−		426,331,000	421,764,801	−4,566,199		426,331,000	421,764,801	−4,566,199	
応用研究事業費	−	−	−		169,541,000	155,626,639	−13,914,361		169,541,000	155,626,639	−13,914,361	
国際遺産保護事業費	−	−	−		135,281,000	134,471,856	−809,144		135,281,000	134,471,856	−809,144	
情報公開事業費	−	−	−		302,292,000	332,414,918	30,122,918		302,292,000	332,414,918	30,122,918	
研修協力事業費	−	−	−		15,796,000	17,841,669	2,045,669	（注記）8	15,796,000	17,841,669	2,045,669	（注記）8
施設整備費	993,952,000	2,321,597,280	1,327,645,280	（注記）1	−	−	−		993,952,000	2,321,597,280	1,327,645,280	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	174,385,080	174,385,080	（注記）2	−	51,665,195	51,665,195	（注記）2	−	226,050,275	226,050,275	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費	−	−	−		−	5,000,000	5,000,000	（注記）3	−	5,000,000	5,000,000	（注記）3
受託事業費	74,313,000	795,994,410	721,681,410	（注記）4	530,732,000	537,869,704	7,137,704		605,045,000	1,333,864,114	728,819,114	（注記）4
その他寄附金等	580,694,000	664,324,929	83,630,929	（注記）9	68,084,000	204,851,343	136,767,343	（注記）9	648,778,000	869,176,272	220,398,272	（注記）9
計	9,657,051,000	12,115,611,759	2,458,560,759		3,114,345,000	3,323,743,326	209,398,326		12,771,396,000	15,439,355,085	2,667,959,085	

（注記）

1. 過年度予算の令和元年度への繰越によるものであります。

2. 文化庁による「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」、「博物館を中核とした文化クラスター形成事業」、「文化財多言語解説整備事業」及び「観光拠点整備事業」によるものであります。

3. 文部科学省による「消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究事業」によるものであります。

4. 受託収入及び受託事業費（博物館）の差額は、当初の受入見込みになかった受託調査研究等の契約があったためであります。

5. 文化財保存活用基金及び賛助会等の寄附金によるものであります。

6. 一般管理人件費の差額は、退職手当の予算計上区分の相違によるものであります。

7. 教育普及事業費、博物館研究事業費、博物館支援事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組替によるものであります。

8. 研修協力事業費の差額は、自己収入財源による業務拡充によるものであります。

9. その他寄附金等の差額は、寄附金等財源による事業拡充によるものであります。

10. 損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）博物館収蔵品の取得支出1,004,836,500円は決算報告書上、収集保管事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、下記の各事業経費に表示されております。
一般管理費98,160,770円、収集保管業務費85,636,755円、展覧業務費250,082,112円、教育普及業務費119,452,249円、博物館研究業務費62,673,295円、博物館支援業務費64,561,272円、
基礎研究業務費187,390,460円、応用研究業務費34,290,756円、国際遺産保護業務費57,781,223円、情報公開業務費75,598,298円、研修協力業務費30,745,974円。

（3）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち589,832,248円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

（4）損益計算書に計上されている業務人件費のうち10,818,695円、展覧業務費のうち66,897,747円、博物館支援業務費のうち100,085,703円、国際遺産保護業務費のうち5,000,000円、
研修協力業務費のうち48,248,130円は決算報告書上、文化芸術振興費補助金等に計上されております。

（5）損益計算書に計上されている一般人件費のうち7,110,006円、一般管理経費のうち50,055,555円、業務人件費のうち6,900,332円、収集保管業務費のうち88,454,136円、
展覧業務費のうち166,754,619円、教育普及業務費のうち856,065円、博物館研究業務費のうち29,092,406円、基礎研究業務費のうち42,339,018円、応用研究業務費のうち4,735,674円、
国際遺産保護業務費のうち25,782,226円、情報公開業務費のうち37,528,175円、研修協力業務費のうち20,345,000円は決算報告書上、寄附金に計上されております。

（6）損益計算書に計上されている財務費用のうち726,129円は決算報告書上、受託事業費に計上されております。

令和元年度

（第13期事業年度）

事 業 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

目　次

１．法人の長によるメッセージ
２．法人の目的、業務内容
３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）
４．中期目標
５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等
６．中期計画及び年度計画
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉
(1)ガバナンスの状況
(2)役員等の状況
(3)職員の状況
(4)重要な施設等の整備等の状況
(5)純資産の状況
(6)財源の状況
(7)社会及び環境への配慮等の状況
８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策
(1)リスク管理の状況
(2)業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況
９．業績の適正な評価の前提情報
１０．業務の成果と使用した資源との対比
(1)自己評価
(2)当中期目標期間における主務大臣による過年度の総合評定の状況
１１．予算と決算との対比
要約した決算報告書
１２．財務諸表
要約した財務諸表
１３．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報
各財務諸表の概要
１４．内部統制の運用に関する情報
１５．法人の基本情報
(1)沿革
(2)設立に係る根拠法
(3)主務大臣
(4)組織図
(5)事務所（従たる事務所を含む）の所在地
(6)主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況
(7)主要な財務データの経年比較
(8)翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画
１６．参考情報
(1)要約した財務諸表の科目の説明
(2)その他公表資料等との関係の説明

独立行政法人国立文化財機構　令和元年度事業報告書

１．法人の長によるメッセージ

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」といいます。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合されて設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

博物館においては、今年度も延べ 425 万人という多くのお客様をお迎えすることができました。平常展示において延べ 170 万人（東京国立博物館 103 万人、京都国立博物館 16 万人、奈良国立博物館 16 万人、九州国立博物館 35 万人）のお客様にご来館いただいたことに加え、特別展示にも数多くのお客様にご来館いただきました。また、国からの交付金や皆様からのご寄附により、4 館で 87 件の文化財を購入できたほか、4 館で 125 件の文化財をご寄贈いただき、収蔵品を充実させることができました。

研究所・センターにおいては、東京文化財研究所では基礎的・探求的な調査研究や文化遺産保護に関する国際協働事業などを着実に実施したほか、奈良文化財研究所では国や地方公共団体が行う文化財関連事業を継続的に支援したことに加え、平城宮跡・藤原宮跡や飛鳥地域の寺院遺跡における発掘調査で今後の調査研究につながる大きな成果が得られました。アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは引き続きアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究を推進しました。

平成 30 年 7 月に設置された文化財活用センターにおいては、文化財に親しむためのコンテンツ開発とモデル事業の推進や、東京国立博物館とともに東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施するなど、各種事業を着実に進めました。

施設整備の面では、東京国立博物館文化財管理棟が完成いたしました。老朽化の著しい建物や設備の整備を計画的に進めるとともに、2021 年に延期となった 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、引き続き国内外の皆様に日本の文化財の魅力を発信できる環境の整備を進めて参りました。

現在、新型コロナウイルス感染拡大により、世界全体がその影響を受けている状況下、私ども機構も博物館等の臨時休館を行うなどの措置を講じ、今現在も今後どのような状況となるのか不透明な部分を残しておりますが、私ども機構は、国の文化財行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命の下、引き続き、文化財の収集保管、展示公開、調査研究、そして国際協力という四つの大きな柱を機能させ、更なる活性化を推進して参ります。

私どもの事業実施に対し、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

２．法人の目的、業務内容

(1)法人の目的

機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 2 条第 1 項第 1 号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第 3 条）

(2)業務内容

機構は、独立行政法人国立文化財機構法第 3 条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第 1 号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第 2 号、第 3 号及び前 3 号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第 2 号、第 3 号及び第 5 号から第 7 号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）

（概要）

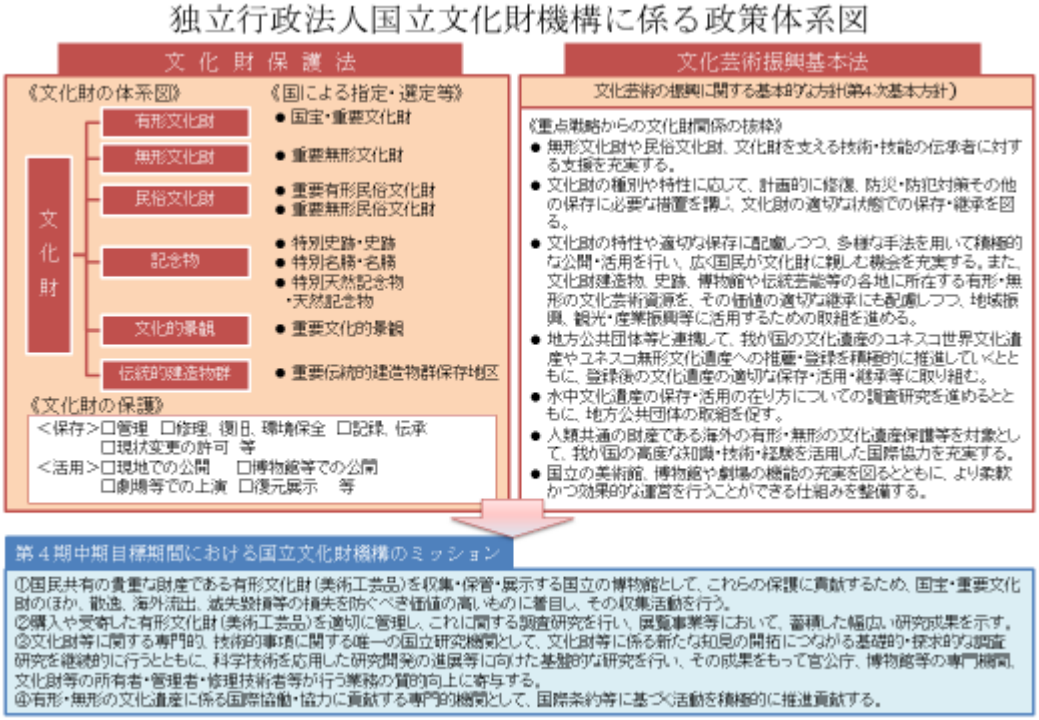
我が国は、諸外国を魅了する有形・無形の文化財を有しているとともに、多くの人が地域に根付いた伝統行事に参加するなど、世界に誇るべき文化・伝統があり、これを維持、継承、発展させることはもとより、日本人自身がその価値を十分に認識した上で、国内外へ更に発信していくことが求められています。

他方、人口減少社会の到来とともに、過疎化、少子高齢化等が更に進み、地域コミュニティが衰退し、文化芸術の担い手も不足する恐れが指摘されております。

こうした状況認識の下、機構は、我が国の博物館並びに文化財研究に関するナショナルセンターとして、有形文化財（美術工芸品）の保護並びに文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、政策実施機能を的確に発揮しつつ効果的かつ効率的な業務運営を確保することが期待されております。

機構は、我が国における文化財施策の一翼を担い、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図り、次代へ継承するとともに、国内外に我が国の歴史・伝統文化を発信するため、我が国の博物館及び文化財研究に関する中核的拠点として、有形文化財の収集・保存・管理・展示等に取り組みます。また、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究、文化財の保存と活用のための研究、並びにそれらに関する調査手法の研究開発を総合的に実施するとともに、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護及びそのための研究の促進、並びに文化財等の防災・救援に寄与いたします。さらに、これら機構の取組の成果についての積極的な公開・活用に取り組みます。

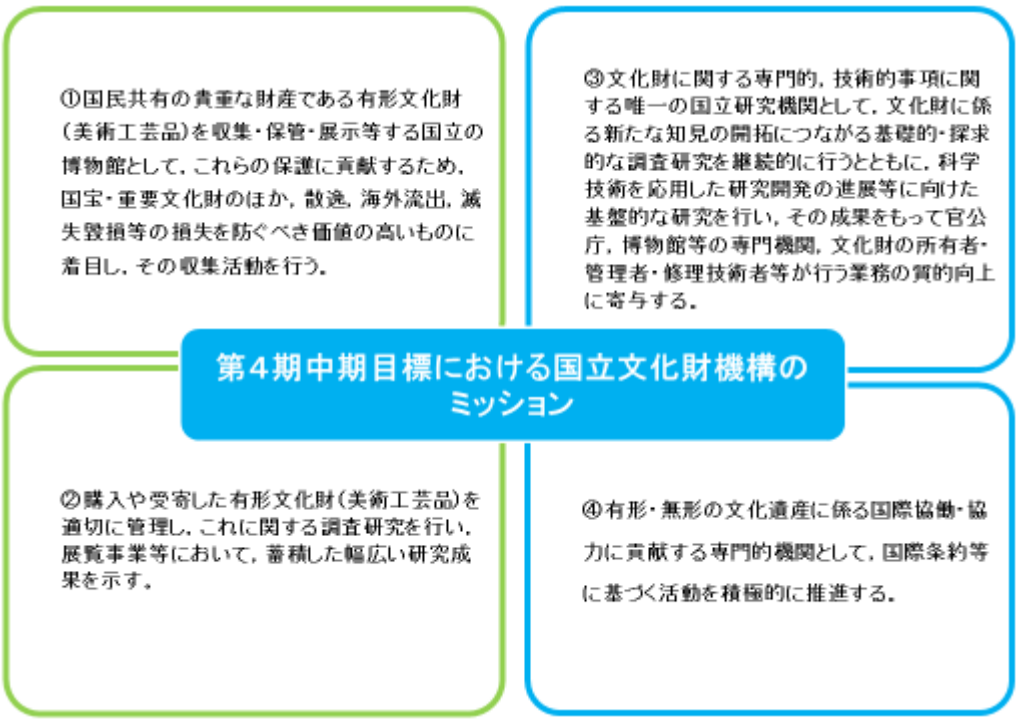
（政策体系図）



４．中期目標

(1)概要

機構は、我が国の博物館並びに文化財研究に関するナショナルセンターとして、有形文化財（美術工芸品）の保護並びに文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、中核的な役割を担っております。 この役割に応えるため、平成 28 年度からの第 4 期中期目標期間において、以下の四つのミッションを遂行いたします。



中期目標の期間は、平成 28 年（2016 年）4 月 1 日か令和 3 年（2021 年）3 月 31 日までの 5 年間となります。詳細につきましては、第 4 期中期目標をご参照ください。

(2)一定の事業等のまとまりごとの目標

機構は、中期目標における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しています。具体的な区分は、以下の 2 区分です。

① 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
② 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等

「文化財の保存と活用を目指して」

独立行政法人は国が提供していた行政サービスをより柔軟に実施するために国から独立した組織です。「独立行政法人国立文化財機構」は、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の４博物館を設置し、有形文化財を収集し、保管して国民の皆様の観覧に供するとともに、４博物館と東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの計７施設にて文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存と活用を図ることを目的としています。

これにより文化財の保存と活用をより一層効率的かつ効果的に推進し、文化財保護行政を支えてまいります。

６．中期計画及び年度計画

中期目標を達成するための中期計画と当該計画に基づく年度計画を作成しています。中期計画と当事業年度に係る年度計画との関係は以下のとおりです。

中期計画	平成 31 年度年度計画
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	
①博物館の施設設備の整備	①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。 （４館共通） 1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。
②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集	②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 各博物館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
2) 寄贈・寄託品の受入れ等	2)寄贈・寄託品の受入れ等 （４館共通） 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。
③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理	③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品・寄託品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を蓄積して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 （４館共通） ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ 文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
2)有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。	2)有形文化財の保存 収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （４館共通） ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。

3)有形文化財の修理 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。	3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携のもと、緊急性の高いものから順次、計画的に修理する。 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （４館共通） ア 修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
4)文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。	4)文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
（２）展覧事業	
展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。	東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。また、日本博事業及び紡ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。
①平常展 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。	①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） 1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 2)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。
②特別展等 1)特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 （東京国立博物館）年３～４回程度 （京都国立博物館）年１～２回程度 （奈良国立博物館）年２～３回程度 （九州国立博物館）年２～３回程度 2)海外展等 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。	②特別展等 1)特別展 （４館共通） ア 中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。 イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。 （東京国立博物館）年８回予定 （京都国立博物館）年２回予定 （奈良国立博物館）年３回予定 （九州国立博物館）年４回予定
③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1)快適な観覧環境の提供 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、	③観覧環境の向上等 1)快適な観覧環境の提供 （４館共通） ア 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4 言語(日、英、

乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。	中、韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。	2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 （４館共通） ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（３）教育・普及活動	
日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。	日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。また、日本博事業において訪日外国人を含めた多くの来館者への教育普及事業に取り組む。
①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。	①教育活動の充実等
1)学習機会の提供 講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。	1)学習機会の提供 （文化財活用センター） ア 企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発し、提供する。文化財の理解を促進するため、積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。 （４館共通） ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
2)ボランティア活動の支援 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。	2)ボランティア活動の支援
3) 大学との連携事業等の実施 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。	3)大学との連携事業等の実施 （４館共通） ア キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。	4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 （４館共通） 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。
5)博物館支援者増加への取組	5)博物館支援者増加への取組

企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。	（４館共通） 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 オ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1)有形文化財に関する情報の発信 ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。	1)有形文化財に関する情報の発信 （文化財活用センター） ア ４館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」について、掲載画像を増やし、その充実を図る。 イ ４館収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開し、更新に着手する。 （４館共通） 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
2)資料の収集と公開 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。	2)資料の収集と公開 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料、国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
3)広報活動の充実 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。	3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 （機構本部） ア 機構の概要、年報を作成する。 イ 機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。 ウ 文化財活用センターウェブサイトをリニューアルし、センターに関する情報の提供を行う。 （４館共通） ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 （４館共通） ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実 （４館共通） ア ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	
文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。	文化財の保存と活用を推進するとともに、次代へ継承し、我が国の文化の向上に資するため、以下の調査研究を行い、展覧事業・教育活動等並びに定期刊行物等において、その成果を発信する。 （４館共通）

① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究	ア 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 2)特別展等の開催に伴う調査研究 国内外の博物館等と連携しながら、特別展等の開催に向けた各種調査研究を実施する。 3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究
②その他 有形文化財に関連する調査研究	②その他有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究
③国内外の博物館等との学術交流等	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等 （４館共通） 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。 4)ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 に参加し、積極的に協力する。
④調査研究成果の公表	④調査研究成果の公表
（５）国内外の博物館活動への寄与	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （文化財活用センター・４館共通） 1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
②国内外の博物館等への援助・助言等	②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 2)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	
国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。	
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等

	3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 5)水中文化遺産に関する調査研究
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	
文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。 ①文化財の調査手法に関する研究開発	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 8)建造物の彩色に関する調査研究 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
（３）文化遺産保護に関する国際協働	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2)文化遺産保護協力事業の推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2)文化遺産保護協力事業の推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集の成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・同地域における無形文化遺産保護及び無形文化遺産の保護に関する条約への研究を通じた貢献方策について検討するための研究者フォーラムの実施 ・同地域における無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究の実施 ・アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	
文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。	
①文化財情報基盤の整備・充実	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。 2)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。
②調査研究成果の発信	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 3)ウェブサイトの充実
③展示公開施設の充実	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展 2) 定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	
我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。	
①文化財に関する研修の実施	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと協力して行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
②文化財に関する協力・助言等	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理す

	る文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
④連携大学院教育の推進	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進
⑤文化財等の防災・救援等への寄与	⑤文化財等の防災・救援等への寄与 1)体制づくり 地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。 2)調査研究等の実施 3)人材育成・事業啓発活動等の実施
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．業務改善の取組	
（１）組織体制の見直し （２）人件費管理等の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 （４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減	（１）組織体制の見直し （２）人件費管理の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少
２．業務の電子化	
機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術 を活用した業務の効率化に努める。	機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。
３．予算執行の効率化	
運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．自己収入拡大への取組	
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。	（１）博物館の入場料の見直しを検討する。 （２）機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。 （３）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （４）保有資産の有効利用の推進
２．固定的経費の節減	
管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。	
３．決算情報・セグメント情報の充実等	
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。
４．保有資産の処分	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	
１.予算、2.収支計画及、3.資金計画	
Ⅴ　短期借入金の限度額	
Ⅵ　不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画	
Ⅶ　重要な財産の処分等に関する計画	
Ⅷ　剰余金の使途	
決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。 １．文化財の購入・修理 ２．調査研究、出版事業の充実 ３．展覧事業の充実 ４．来館者サービス、情報提供の質的向上 ５．国際協力 ６．老朽化した施設設備への対応の充実	
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．内部統制	
コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善て内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。	内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。
２．その他	
（１）自己評価	（１）自己評価 運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

（2）情報セキュリティ対策	（2）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。
3．施設設備に関する計画	
4．人事に関する計画	
（1）方針 ①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。 ②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。 ③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。 ④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。 （2）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。	（1）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。 （2）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。 （3）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。 （4）女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。 （5）職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。 （6）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。
5．中期目標期間を超える債務負担	
6．積立金の使途	

詳細につきましては，中期計画と当事業年度に係る年度計画をご参照ください。

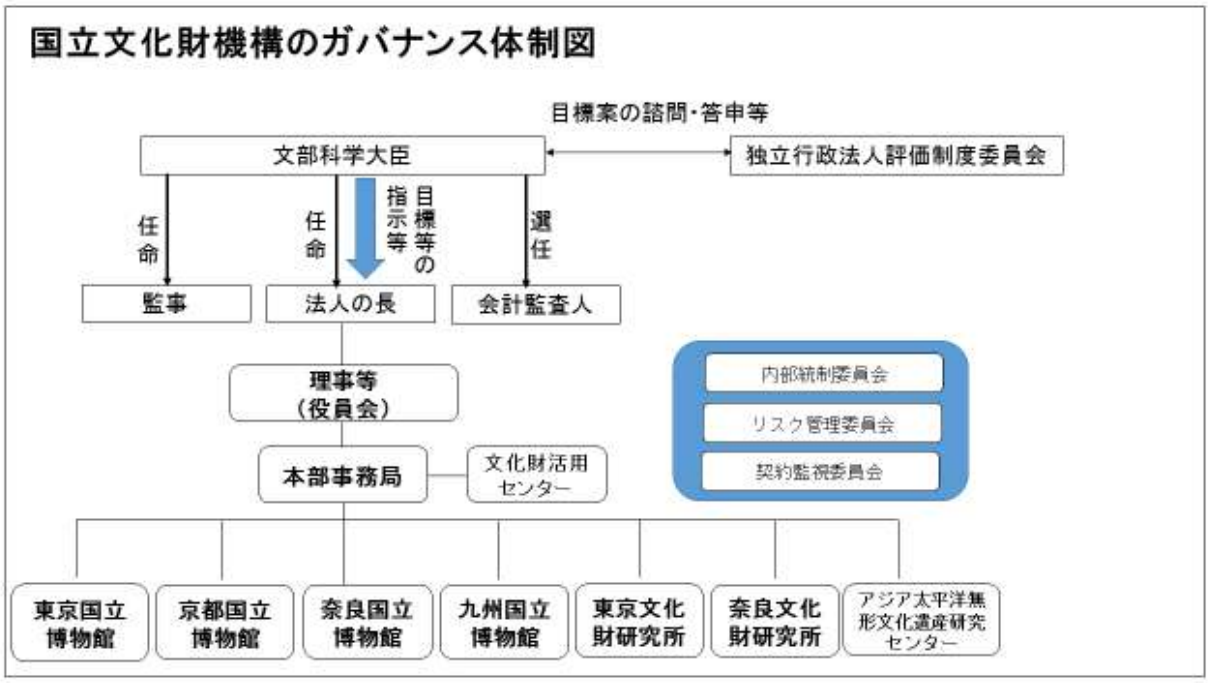
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉

(1)ガバナンスの状況

国立文化財機構は、機構が達成すべき業務運営に関する中期目標に基づき法令等を遵守しつつ有効かつ効率的に業務を行うために内部統制の基本方針を定めており、以下のとおり機構の業務の適正を確保するための内部統制に係る体制を整備しております。

1　業務の有効性及び効率性を確保するための体制の整備	（1）内部統制の推進体制の整備 ・内部統制委員会の設置 （2）倫理行動指針・倫理規程の遵守 （3）中期計画及び年度計画の作成 （4）年度計画に基づく業務の適切な管理 （5）職務権限等に関する規程等の制定 ・組織に関する規程、文書決裁に関する規程等の制定 （6）運営委員会等の設置 ・外部有識者からなる運営委員会の設置 ・業務実績の法人による自己点検評価に関する評価を行う外部評価委員会の設置 （7）役員会の設置 （8）契約監視委員会の設置 （9）最高情報責任者及び最高情報セキュリティ責任者の設置 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 (10) 監査室の設置 (11) 人的資源の管理
2　法令等の遵守体制の整備	（1）コンプライアンス違反等への対応の措置 （2）内部通報・外部通報に関する仕組の確保 （3）反社会的勢力への対応 （4）法令遵守等に関する役職員等への周知 ・コンプライアンスに関する研修の実施 （5）違反行為等に対する処分
3　損失危機管理の体制の整備	（1）リスク管理に関する規程の制定 （2）業務リスクへの対応 ・リスク管理委員会におけるリスク管理の実施
4　情報保存管理の体制の整備	（1）情報システム・情報セキュリティに関する規程等の制定 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 （2）個人情報保護に関する規程の制定 （3）文書管理に関する規程の制定
5　資産の管理及び処分の体制の整備	（1）固定資産に関する規程の制定
6　財務報告等の信頼性確保の体制の整備	（1）財務諸表等の作成が、関係法令、関係諸規程に基づき適正に行われるための体制の整備

なお、国立文化財機構のガバナンス体制図は下記のとおりです。



内部統制システムの整備に関する事項の詳細については、業務方法書等をご参照ください。

(2)役員等の状況

①役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴

役 職	氏 名	任 期	担 当	経 歴	
理事長（常勤）	松村 恵司	自 平成 29 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日		昭和 52 年 10 月 昭和 62 年 10 月 平成 07 年 04 月 平成 18 年 04 月 平成 20 年 04 月 平成 21 年 04 月 平成 23 年 03 月 平成 23 年 10 月 平成 29 年 04 月	奈良国立文化財研究所 文化庁 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 (独)文化財研究所奈良文化財研究所都城発掘調査部上席研究員・考古第一研究室長 (独)国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長 文化庁文化財部文化財鑑査官 退官 (独)国立文化財機構理事((兼)奈良文化財研究所長) (独)国立文化財機構理事長((兼)奈良文化財研究所長)
理 事（常勤）	島谷 弘幸	自 平成 29 年 10 月 1 日 至 令和 3 年 9 月 30 日	文化財の収集、保管、公開、調査研究担当	昭和 59 年 04 月 平成 06 年 07 月 平成 13 年 04 月 平成 15 年 04 月 平成 19 年 04 月 平成 20 年 04 月 平成 23 年 04 月 平成 27 年 04 月 平成 29 年 10 月	東京国立博物館 東京国立博物館学芸部美術課書跡室長 (独)東京国立博物館学芸部資料課長 (独)東京国立博物館文化財部展示課長 (独)東京国立博物館文化財部長 (独)東京国立博物館学芸研究部長 (独)東京国立博物館副館長((兼) (独)国立文化財機構本部調整役) (独)九州国立博物館館長 (独)国立文化財機構理事((兼)九州国立博物館長)
理 事（常勤）	杉野 剛	自 平成 29 年 7 月 11 日 至 令和 3 年 3 月 31 日	総務、財務、施設担当	昭和 59 年 04 月 平成 15 年 07 月 平成 17 年 07 月 平成 18 年 10 月 平成 20 年 07 月 平成 22 年 07 月 平成 23 年 09 月 平成 24 年 09 月 平成 26 年 04 月 平成 27 年 08 月 平成 28 年 06 月 平成 29 年 07 月	文部省 文部科学省高等教育局専門教育課長 文部科学省研究振興局学術研究助成課長 文部科学省高等教育局私学行政課長 厚生労働省医政局医事課長 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長 文部科学省生涯学習局主任社会教育官 (命)生涯学習総括官 文部科学省国立教育政策研究所次長 (独)日本学生支援機構理事長代理 文部科学省高等教育局私学部長 国立教育政策研究所長 (独)国立文化財機構理事

理　事 (非常勤)	林田 スマ	自 平成 29 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日	教育普及、生涯学習、男女共同参画担当	昭和43年04月 昭和55年05月 平成08年04月 平成21年04月 平成29年04月	RKB毎日放送 フリーアナウンサー 大野城まどかぴあ女性センター所長（現　男女平等推進センター） 大野城まどかぴあ女性センター館長（現　男女平等推進センター）　現在に至る (独)国立文化財機構理事
監　事 (非常勤)	久留島典子	自 平成 27 年 4 月 1 日 至 令和 2 年度財務諸表承認日		昭和56年04月 平成04年04月 平成11年04月 平成14年04月 平成25年04月 平成27年04月 平成27年04月	東京大学史料編纂所助手 東京大学史料編纂所助教授 東京大学史料編纂所教授　現在に至る 東京大学総長補佐 国立大学法人東京大学史料編纂所長 国立大学法人東京大学副学長 国立大学法人東京大学附属図書館長 (独)国立文化財機構監事
監　事 (非常勤)	中元 文徳	自 平成 26 年 7 月 1 日 至 令和 2 年度財務諸表承認日		昭和50年03月 平成15年09月 平成16年04月 平成21年04月 平成24年04月 平成26年04月	監査法人中央会計事務所 公認会計士中元文徳事務所代表　現在に至る 国立大学法人金沢大学監事 熊本学園大学会計専門職大学院専任教授　現在に至る 国立大学法人総合研究大学院大学監事　現在に至る (独)国立文化財機構監事

②会計監査人の氏名又は名称

EY 新日本有限責任監査法人

(3)職員の状況

常勤職員は令和元年度末現在 387 人（前期末比 9 人増）、平均年齢は 45 歳（前期末に同じ）です。このうち、国等からの出向者は 19 人、令和 2 年 3 月 31 日退職者は△14 人です。

(4)重要な施設等の整備等の状況

①当事業年度に完成した主要な施設等

＜東京国立博物館＞

仮設収蔵庫整備工事

②当事業年度継続中の主要な施設等の新設・拡充

該当なし

③当事業年度に処分した主要な施設等

該当なし

(5)純資産の状況

①資本金の額及び出資者ごとの出資額（前事業年度末からのそれぞれの増減を含む）

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

②目的積立金の申請状況、取崩内容等

当期未処分利益 84 百万円については、83 百万円について目的積立金として申請する予定です。前中期目標期間繰越積立金取崩額 1 百万円は、受託研究費及び使途不特定寄附金購入資産に係る減価償却相当分の取崩です。業務拡充積立金取崩額 50 百万円は、業務拡充積立金による費用計上相当額の取崩です。

(6)財源の状況

①財源の内訳（運営費交付金、施設費、補助金、自己収入など）

令和元年度の法人単位の収入決算額は 15,399 百万円であり、その内訳は以下のとおりです。

（単位：百万円）

区　分	金　額	構成比率
運営費交付金	8,593	55.8%
施設整備費補助金	2,322	15.1%
文化芸術振興費補助金	241	1.6%
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	5	0.0%
展示事業等収入	2,016	13.1%
受託収入	1,338	8.7%
その他寄附金	884	5.7%
合計	15,399	100%

②自己収入に関する説明（自己収入の概要、収入先等に関する簡潔な説明など）

機構では、年間を通じて博物館を開館し、収蔵品を観覧に供する外、年複数回の特別展覧会を開催し、今年度は 11 億 35 百万円の入場料収入を得ています。この外に展示事業等附帯収入として 5 億 18 百万円を得ています。主な内訳としては、年間パスポート収入 98 百万円、ミュージアムショップやレストランの販売手数料収入 82 百万円、科学研究費補助金間接経費収入 70 百万円などです。また財産利用収入として 3 億 18 百万円を得ています。主な内訳としては、文化財画像利用等に伴う版権・特許権使用料 55 百万円、ショップやレストラン等の建物年間貸付料 62 百万円、イベント等の建物貸付料 73 百万円などです。

(7)社会及び環境への配慮等の状況

①独立行政法人国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応

機構では、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の規定に基づき、また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に即して、同法第 7 条に規定する行政機関等における障害を理由とする差別の禁止事項に関し、機構の役員及び職員が適切に対応するために必要な事項を定めております。

・不当な差別的取扱いの禁止
・合理的配慮の提供
・監督者の責務
・懲戒処分等
・相談体制の整備

・研修・啓発

詳細につきましては、国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領をご参照ください。

②女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画

機構では、働き方の多様化を促進することにより、職員が仕事と子育てを両立することができ、女性の潜在的能力を活用することによって、職員全員が働きやすい環境をつくり、各人がその能力を十分に発揮する強い組織とするため、行動計画を策定しております。

１．計画期間　平成２８年４月１日～令和３年３月３１日の５年間

２．内容

目標１　所定外労働時間を削減するため、ノー残業デーを設定し、実施する。

目標２　年次有給休暇の取得率を６０％以上とする。

目標３　計画期間内に、育児休業の取得状況を次の水準以上にする。

・女性職員　育児休業の取得率を８０％以上とする。

・男性職員　計画期間内に、育児休業取得者が１人以上とする。

目標４　介護休業等の取得状況を把握し、職場環境の整備を実施する。

目標５　計画期間内に、管理職（課長級以上）に占める女性割合を１３％以上とする。

詳細につきましては、国立文化財機構における女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画をご参照ください。

③環境物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第７条第１項の規定に基づき、環境物品等の調達の推進を図るための方針を定め、同条第３項の規定に基づき公表しております。

詳細につきましては、環境物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。

④障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律第６条の規定に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進に関する基本方針に即して、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を定めております。

詳細につきましては、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。

⑤独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針

機構では、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律第５条の規定に基づき、中小企業者に関する国等の契約の基本方針に即して、中小企業者に関する契約の方針を定めております。

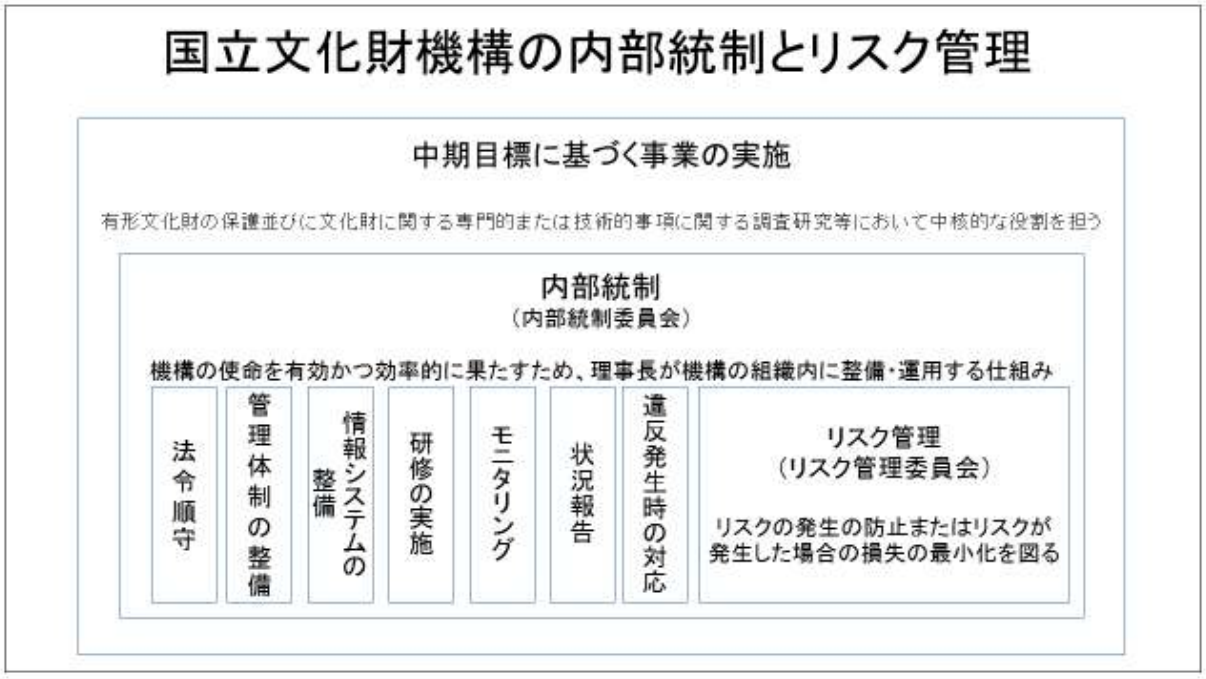
詳細につきましては、独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針をご参照ください。

８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策

(1)リスク管理の状況

①リスク管理に関する規程の整備

平成２６年６月の独立行政法人通則法の改正（平成２７年４月１日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、リスク管理に関して、業務実施の障害となる要因を事前にリスクとして識別、分析及び評価し、当該リスクへの適切な対応をとるべく、独立行政法人国立文化財機構リスク管理規程を平成２８年３月２５日に制定し、平成２８年４月１日から施行しております。同リスク管理規程は、機構のリスク管理体制を整備し、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化を図り、もって機構の業務の円滑な運営に資することを目的としております。内部統制とリスク管理の関係は下記図をご参照ください。



②リスク管理にかかる組織体制

機構におけるリスク管理にかかる組織体制は、リスク管理を担当するリスク管理担当理事を指名し、機構におけるリスク管理に関する取組みを総括整理しております。また、リスク管理の取組みを推進するため、機構にリスク管理総括部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

リスク管理総括部門には、総括リスク管理責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設にはリスク管理責任者を置き、各施設の長を充てております。総括リスク管理責任者及びリスク管理責任者は、所属する各施設のリスク管理の状況の把握に努め、また、所属する各施設の職員のうちからリスク管理補助者を指定し、各施設におけるリスク管理の整備及び運用を担当させております。

③リスク管理委員会の設置

機構では、リスク管理委員会を設置しております。リスク管理委員会は、リスク管理を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設のリスク管理責任者が

指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。なお、リスク管理委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

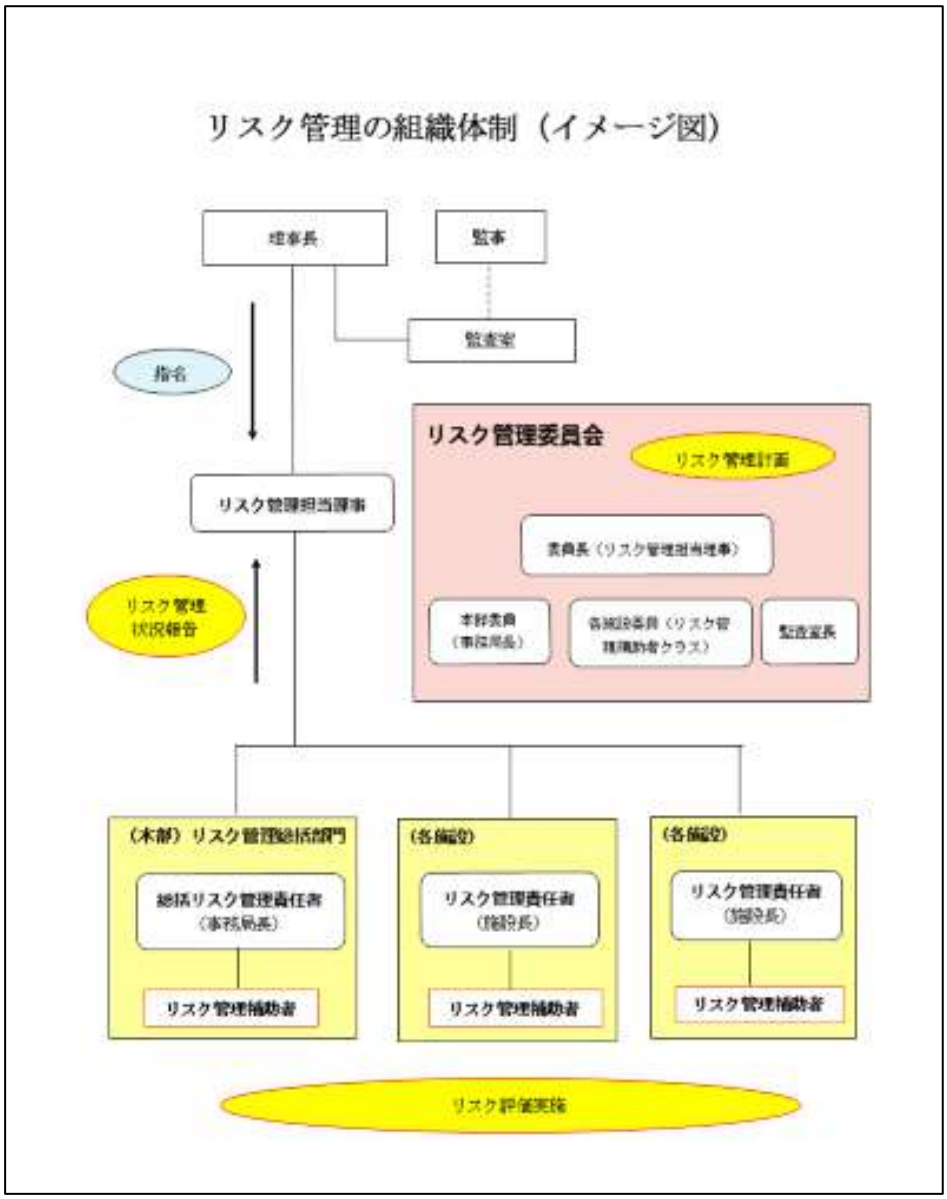
・機構全体で対応すべきリスクの評価、当該リスクへの対応策の取りまとめ及び当該対応策の推進状況の点検に関する事項
・重大な危機の再発防止に関する事項
・その他委員会が必要と認めた事項

リスク管理委員会では、機構全体で対応すべきリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類の上、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

各施設の管理責任者等は、同リスク管理計画に基づき、各施設における当該リスクの管理を行い、また、常時、リスクへの対応に関しモニタリングし、定期的にリスク管理委員会へリスク管理計画の実施状況について報告しております。

なお、平成２８年度から令和元年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成２８年度：２回
平成２９年度：２回
平成３０年度：３回
令和 元 年度：３回



(2)業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況

機構では、機構に関連するリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類して、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

このうち、法人設立の目的から、文化財の毀損の発生に関するリスクが最もリスクレベルの高いものであると評価しております。

具体的には、文化財の展示・撤収作業中、輸送、撮影・調査中における文化財の毀損の発生が想定され、人的要因（習熟していない職員の作業等）、物的要因（文化財の脆弱性等）及び設備要因（温湿度等の環境変化等）などの発生要因を把握し、常日頃から適切かつ迅速な対応がとれるよう努めております。

９．業績の適正な評価の前提情報

事業の種類及び事業の内容

事業の種類	設置施設	事業の内容 （中期目標における一定の事業等のまとまり）
国立博物館等	東京国立博物館 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業
文化財研究所等	東京文化財研究所 奈良文化財研究所 アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業

１０．業務の成果と使用した資源との対比

(1)自己評価

評価項目		評定 (注)	行政コスト
全体の評定		B	
(大項目名 1)	国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	
(中項目名 1)	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	
(小項目 1-1)	有形文化財の収集・保管、次代への継承	B	923 百万円
(項目 1-1-1)	博物館の施設設備の整備	B	
(項目 1-1-2)	有形文化財の収集等	B	
(項目 1-1-3)	有形文化財の管理・保存・修理等	B	
(小項目 1-2)	展覧事業	A (注 2)	3,345 百万円
(項目 1-2-1)	平常展	B	
(項目 1-2-2)	特別展等	A	
(項目 1-2-3)	観覧環境の向上等	B	
(小項目 1-3)	教育・普及活動	B	399 百万円
(項目 1-3-1)	教育活動の充実等	B	
(項目 1-3-2)	有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	B	
(小項目 1-4)	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	823 百万円
	外部資金を活用した調査研究	B	

（項目 1-4-1）	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	B	
（項目 1-4-2）	その他有形文化財に関連する調査研究	B	
（項目 1-4-3）	国内外の博物館等との学術交流等	A	
（項目 1-4-4）	調査研究成果の公表	B	
（小項目 1-5）	国内外の博物館活動への寄与	B	276 百万円
（項目 1-5-1）	国内外の博物館等への有形文化財の貸与	B	
（項目 1-5-2）	国内外の博物館等への援助・助言等	B	
（中項目名 2）	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	A	
（小項目 2-1）	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	A	948 百万円
（項目 2-1-1）	有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究	A	
（項目 2-1-2）	無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究	A	
（項目 2-1-3）	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	B	
（小項目 2-2）	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	A	371 百万円
（項目 2-2-1）	文化財の調査手法に関する研究開発の推進	A	
（項目 2-2-2）	文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	B	
（小項目 2-3）	文化遺産保護に関する国際協働	A	244 百万円
（項目 2-3-1）	文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	B	
（項目 2-3-2）	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	A	
（小項目 2-4）	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	A	559 百万円
（項目 2-4-1）	文化財情報基盤の整備・充実	A	
（項目 2-4-2）	調査研究成果の発信	A	
（項目 2-4-3）	展示公開施設の充実	A	
（小項目 2-5）	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	A	151 百万円
（項目 2-5-1）	文化財に関する研修の実施	A	
（項目 2-5-2）	文化財に関する協力・助言等	B	
（項目 2-5-3）	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	A	
（項目 2-5-4）	連携大学院教育の推進	B	
（項目 2-5-5）	文化財等の防災・援助等への寄与	A	
（大項目名 2）	業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	業務改善の取組	B	
（小項目１-1）	組織体制の見直し	B	
（小項目１-2）	人件費管理等の適正化	B	
（小項目１-3）	契約・調達方法の適正化	A	
（小項目１-4）	共同調達等の取組の推進	B	
（小項目１-5）	一般管理費等の削減	B	
（中項目名 2）	業務の電子化	B	
（小項目 2-1）	業務の電子化	B	
（中項目名 3）	予算執行の効率化	B	
（小項目 3-1）	予算執行の効率化	B	
（大項目名 3）	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	自己収入拡大への取組	A	
（小項目１-1）	自己収入拡大への取組	A	
（小項目１-2）	外部資金の獲得	A	
（小項目１-3）	保有資産の有効利用の促進	B	

（中項目名 2）	固定的経費の節減	B	
（小項目 2-1）	（大項目 2　中項目 1　小項目 1-5 と同じ）	B	
（中項目名 3）	決算情報・セグメント情報の充実等	B	
（小項目 3-1）	決算情報・セグメント情報の充実等	B	
（大項目名 4）	予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	B	
（中項目 1）	1.予算、2.収支計画及、3.資金計画	B	
（小項目 1-1）	予算、収支計画、資金計画	B	
（大項目名 5）	その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	内部統制	B	
（小項目 1-1）	内部統制	B	
（中項目名 2）	その他	B	
（小項目 2-1）	自己評価	B	
（小項目 2-2）	情報セキュリティ対策	B	
（中項目名 3）	施設設備に関する計画	B	
（小項目 3-1）	施設設備に関する計画	B	
（中項目名 4）	人事に関する計画	B	
（小項目 4-1）	中長期的な人事計画の策定	B	
（小項目 4-2）	評価制度の導入		
（小項目 4-3）	能力や適性に応じた採用・人事の実施	B	
（小項目 4-4）	女性の活躍の推進		
（小項目 4-5）	研修及び人事交流等の検討	B	

（注1）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

（注2）部会評価を反映しＡ評価とした。

詳細につきましては、自己点検評価報告書をご参照ください。

(2)当中期目標期間における主務大臣による過年度の総合評定の状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評定（注）	B	B	B	―	―

（注）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

１１．予算と決算との対比

要約した決算報告書

（単位：百万円）

区　　分	予　算	決　算	差額理由
《収入》			
運営費交付金	8,593	8,593	
施設整備費補助金	994	2,322	繰越予算
文化芸術振興費補助金	－	241	文化庁補助金交付
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	－	5	文部科学省補助金交付
展示事業等収入	1,930	2,106	入場料、科研費等収入増加
受託収入	605	1,338	受託研究費等収入増加
その他寄附金等	649	884	賛助会等
合　　計	12,771	15,399	
《支出》			
運営事業費	10,523	10,683	
・人件費	3,724	3,744	文化財活用センター設置等
・業務経費	6,799	6,939	
施設整備費	994	2,322	
文化芸術振興費	－	226	
政府開発援助ユネスコ活動費	－	5	
受託事業費	605	1,334	
その他寄附金等	649	869	
合　　計	12,771	15,439	

詳細につきましては、決算報告書をご参照ください。

１２．財務諸表

要約した財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、損益計算書、純資産変動計算書、キャッシュ・フロー計算書）

①貸借対照表

令和２年３月31日　　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	4,410	運営費交付金債務	519
未収金	1,301	未払金	2,485
その他	473	その他	2,672
流動資産合計	6,184	流動負債合計	5,676
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	2,860
建物	52,160	その他の固定負債	2,198
収蔵品	122,756	固定負債合計	5,058
土地	44,411	負債合計	10,734
工具器具備品	2,726	純資産の部	
建設仮勘定	10	資本金	104,714
その他	1,860	資本剰余金	116,041
無形固定資産	129	利益剰余金	928
その他の資産	2,181	純資産合計	221,683
固定資産合計	226,233		
資産合計	232,417	負債純資産合計	232,417

②行政コスト計算書

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ　損益計算書上の費用	14,874
Ⅱ　その他行政コスト	3,387
Ⅲ　行政コスト	18,261

③損益計算書

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	12,307
業務費	
人件費	3,903
業務経費	5,462
減価償却費	499
一般管理費	
人件費	974
一般管理経費	1,373
減価償却費	92
その他	3
経常収益(B)	12,340
運営費交付金収益	6,575
受託収入	1,338
入場料収入	1,135
展示事業等収入	518
財産利用収入	318
寄附金収益	499
施設費収益	590
その他補助金収益	231
資産見返負債戻入	581
その他	555
臨時損失(C)	2,567
臨時利益(D)	2,567
前中期目標期間繰越積立金取崩額(E)	1
業務拡充積立金取崩金(F)	50
当期総利益(B－A＋D－C＋E＋F)	84

④純資産変動計算書

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	Ⅰ資本金	Ⅱ資本剰余金	Ⅲ利益剰余金	純資産合計
当期首残高	104,714	114,110	1,063	219,887
当期変動額	0	1,931	-135	1,796
当期末残高	104,714	116,041	928	221,683

⑤キャッシュ・フロー計算書

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	996
人件費支出	-4,862
運営費交付金収入	8,593
その他補助金による収入	157
自己収入等	4,246
その他の支出	-7,152

その他収入	14
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-1,187
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-13
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	-204
Ⅴ資金期首残高(E)	4,614
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	4,410

詳細につきましては、財務諸表をご参照ください。

１３．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報

主要な財務データの簡潔な説明（資産、負債、行政コスト、経常費用、経常収益、当期総利益、キャッシュ・フローなど）

(1)各財務諸表の概要

①貸借対照表

令和元年度末現在の資産合計は、2,324 億 17 百万円と前年度比 24 億 76 百万円（1.1%）の増加となりました。これは東京国立博物館管理棟の新営等により建物が 33 億 77 百万円増加、収蔵品が購入及び寄贈等により 14 億 45 百万円増加、会計基準改訂に伴い引当金見返が 25 億 72 百万円増加した反面、東京国立博物館管理棟工事の完了等により建設仮勘定が 19 億 93 百万円減少、有形固定資産の減価償却が 39 億 35 百万円進んだことが主な要因です。

令和元年度末現在の負債合計は、107 億 34 百万円と前年度比 6 億 80 百万円(6.8%)の増加となりました。これは会計基準改訂に伴い引当金が 25 億 72 百万円増加した反面、東京国立博物館管理棟工事の完了により建設仮勘定見返施設費が 19 億 75 百万円減少したことが主な要因です。

令和元年度末現在の純資産合計は、④純資産変動計算書で説明します。

②行政コスト計算書

令和元年度の行政コストは、182 億 61 百万円となりました。損益計算書上の費用が 148 億 74 百万円、その他行政コストが 33 億 87 百万円です。その他行政コストは、主に減価償却相当額 33 億 87 百万円です。

③損益計算書

令和元年度の経常費用は、123 億 7 百万円と前年度比 10 億 84 百万円（9.7%）の増加となりました。これは文化財活用センター設置や退職手当支給等により業務人件費が 2 億 38 百万円増加、国立アイヌ民族博物館設立準備に係る受託業務等により受託業務費が 5 億 61 百万円増加、東京国立博物館の本館設備改修等により一般管理経費が 1 億 73 百万円増加したことが主な要因です。

また、令和元年度の経常収益は、123 億 40 百万円と前年度比 10 億 56 百万円(9.4%)の増加となりました。これは国立アイヌ民族博物館設立準備に係る受託業務等により受託収入が 5 億 63 百万円増加、東京国立博物館管理棟工事の完了により施設費収益が 4 億 74 百万円増加したことが主な要因です。

以上による経常利益 33 百万円に、臨時損失 25 億 67 百万円と臨時利益 25 億 67 百

万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 1 百万円及び業務拡充積立金取崩金 50 百万円を加え、令和元年度当期総利益は前年度比 21 百万円（34.4%）増加の 84 百万円となりました。臨時損失及び臨時利益は、工具器具備品等の除却に伴う除却損および戻入益のほか、会計基準改訂に伴う賞与引当金、退職給付引当金および環境対策に係る引当金繰入および戻入です。

④純資産変動計算書

令和元年度末現在の純資産合計は、2,216 億 83 百万円と前年度比 17 億 96 百万円（0.8%）の増加となりました。これは資本剰余金が 19 億 32 百万円増加したことが主な要因で、資本剰余金の増加は、資産増加に伴う増加 53 億 18 百万円と減価償却による減少 33 億 87 百万円の差し引きによるものです。

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入が 9 億 97 百万円と前年度比 17 億 68 百万円（64.0%）減少しました。これは業務支出が 11 億 70 百万円増加したほか、消費税等支払額が 3 億 85 百万増加したことが主な要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 11 億 87 百万円と前年度比 12 億 98 百万円（52.2%）減少しました。これは有形固定資産の取得による支出が 25 億 58 百万円減少したほか、施設費による収入が 12 億 77 百万円減少したことが主な要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 13 百万円と前年度とほぼ同額です。当該区分は、リース債務の支払による支出のみです。

１４．内部統制の運用に関する情報

①内部統制に関する規程の整備

平成２６年６月の独立行政法人通則法の改正（平成２７年４月１日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、機構に対する社会的信頼を確保し、機構の使命と社会的責任を果たすことを目的として、独立行政法人国立文化財機構内部統制規程を平成２８年３月２５日に制定し、平成２８年４月１日から施行しております。内部統制とリスク管理の関係は、８．業務運営上の課題・リスク及びその対策の（１）リスク管理の状況①リスク管理に関する規程の整備箇所をご参照ください。

②内部統制にかかる組織体制

国立文化財機構における内部統制にかかる組織体制は、内部統制の推進を担当する内部統制担当理事を指名し、機構における内部統制に関する取組みを総括整理しております。また、内部統制の取組みを推進するため、機構に内部統制推進部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

内部統制推進部門には、総括内部統制推進責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設には内部統制推進責任者を置き、各施設の長を充てております。総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、所属する本部・各施設において、職員が内部統

制を遵守するよう監督するとともに、内部統制の整備及び運用の状況の把握に努め、また、所属する本部・各施設の職員のうちから内部統制推進管理者を指定し、本部・各施設における内部統制の整備及び運用管理を担当させております。

③内部統制委員会の設置

機構では内部統制委員会を設置しております。内部統制委員会は、内部統制の推進を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設の内部統制推進責任者が指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。内部統制委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

・機構における内部統制の整備及び運用に係る基本方針に関すること
・内部統制におけるモニタリング体制に関すること
・その他内部等統制の整備の推進に関する事項

内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告に基づき、必要な改善策を検討しております。

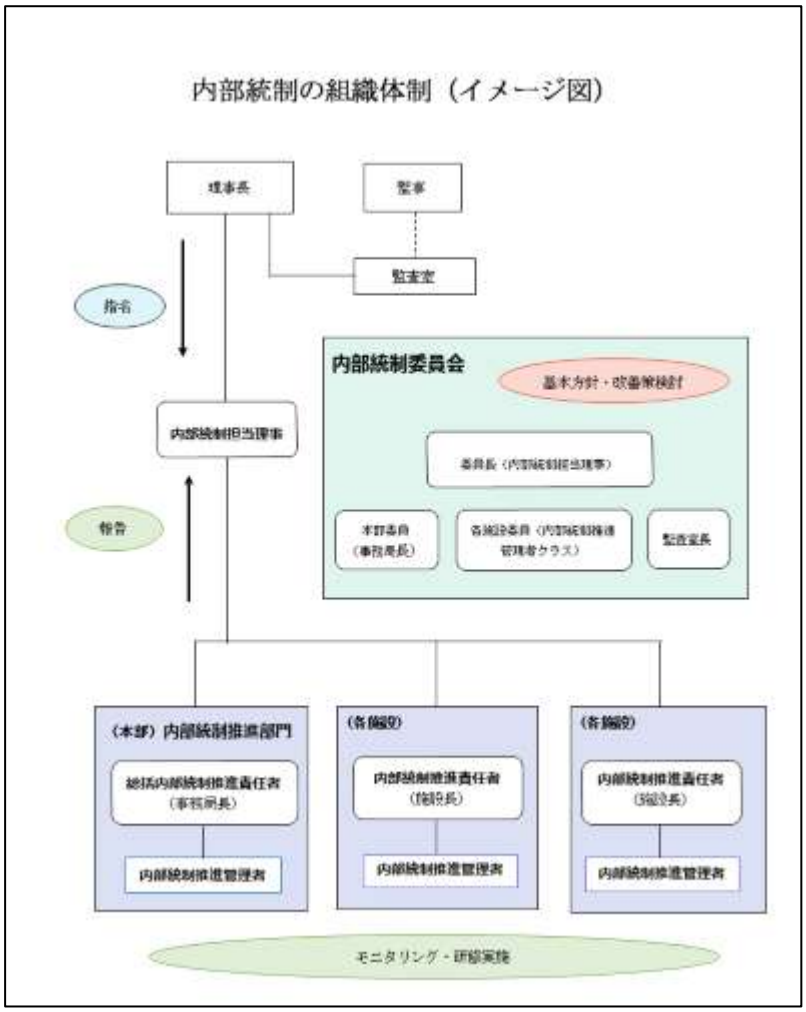
④管理体制の整備

総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、本部・各施設における業務執行に係る意思決定プロセス、経費支出の承認プロセスに係るチェックシステムの構築に努めております。また、調査研究業務に関する不正防止のため、調査研究資金の管理状況の把握及び管理体制の整備に努めております。内部統制の推進に必要な知識及び技能を習得させ、又は向上させるために必要な研修を行っております。

このほか、内部統制体制の円滑な運営を図るため、内部統制に関する情報の伝達が確実に行われるよう情報システムの整備に努めております。情報システムを活用した効率的な業務運営のために、積極的に事務処理の効率化及び高度化を推進しております。

なお、平成２８年度から令和元年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成２８年度：２回
平成２９年度：２回
平成３０年度：３回
令和 元 年度：４回


内部統制の組織体制（イメージ図）
理事長
監事
監査室
指名
内部統制委員会
基本方針・改善策検討
内部統制担当理事
委員長（内部統制担当理事）
本部委員
（事務局長）
各施設委員（内部統制推進
管理者クラス）
監査室長
報告
（本部）内部統制推進部門
総括内部統制推進責任者
（事務局長）
内部統制推進管理者
（各施設）
内部統制推進責任者
（施設長）
内部統制推進管理者
（各施設）
内部統制推進責任者
（施設長）
内部統制推進管理者
モニタリング・研修実施

１５．法人の基本情報

(1)沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

平成 23 年 10 月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

平成 30 年 7 月　文化財活用センターを設置

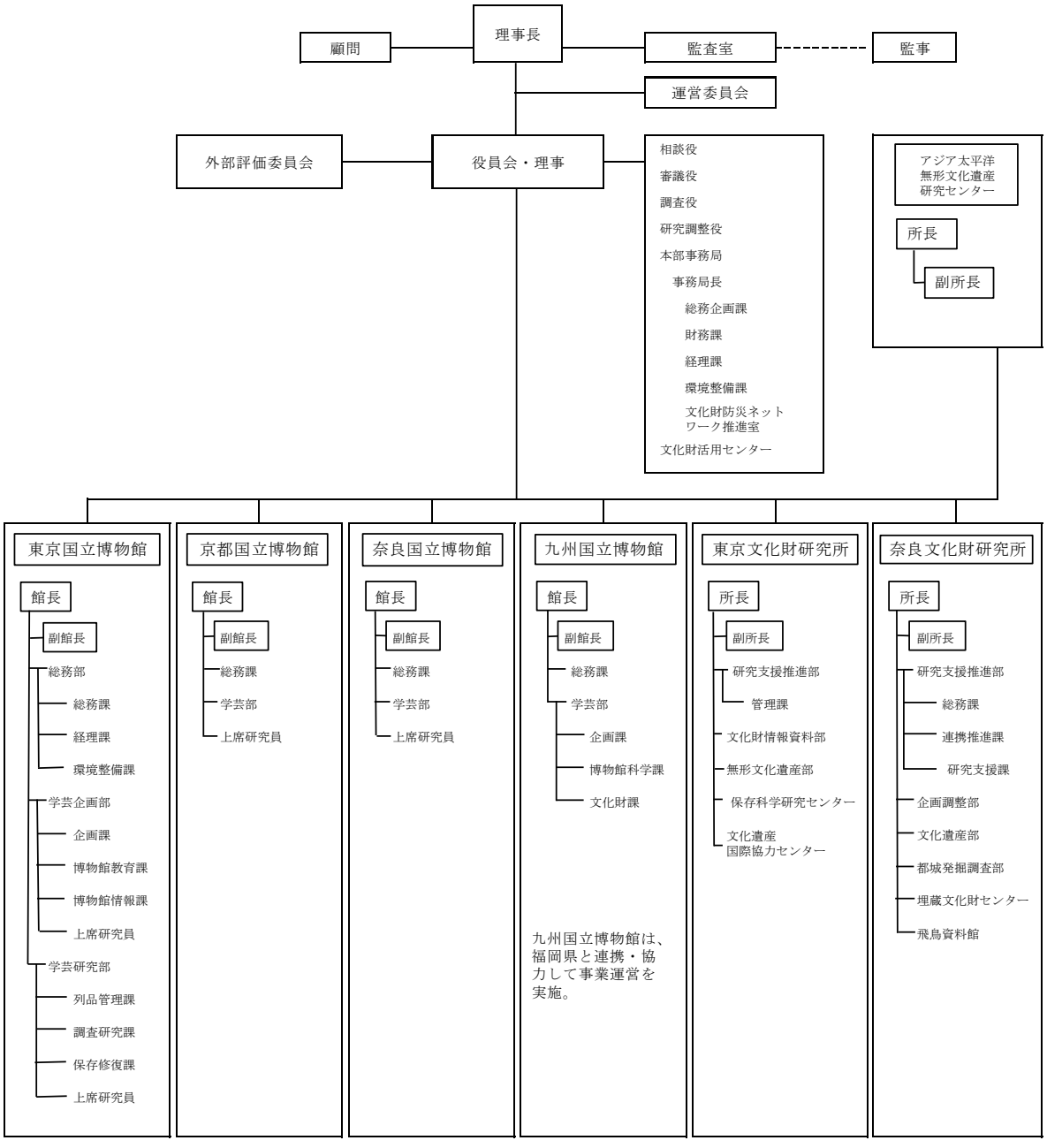
(2)設立に係る根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

(3)主務大臣

文部科学大臣（文化庁企画調整課）

(4)組織図（令和 2 年 3 月 31 日現在）



(5)事務所（従たる事務所を含む）の所在地

本部：東京都台東区上野公園 13－9

支部：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）
東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）
京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）
奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）
奈良県奈良市二条町 2－9－1（奈良文化財研究所）
福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）
大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 堺市博物館内
（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

(6)主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況

法人の名称、その業務と当該独立行政法人等の業務の関係等

当事業年度は該当ありません。

(7)主要な財務データの経年比較

（単位：百万円）

区　　分	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度
資産	221,434	222,995	232,458	229,941	232,417
負債	9,650	11,550	11,689	10,054	10,734
利益剰余金	1,054	794	1,002	1,063	928
純資産	211,784	211,444	220,769	219,887	221,683
行政コスト	—	—	—	—	18,261
経常費用	10,421	10,161	10,112	11,223	12,307
経常収益	10,521	10,270	10,321	11,284	12,340
当期総利益	139	164	210	62	84
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,642	1,651	2,575	2,765	996
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,804	-2,569	-926	-2,485	-1,187
財務活動によるキャッシュ・フロー	-35	-27	-31	-14	-13
資金期末残高	3,674	2,729	4,348	4,614	4,410

(8)翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画

【予算】

（単位：百万円）

収　入	金　額	支　出	金　額
運営費交付金	8,633	管理経費	1,968
施設整備費補助金	198	人件費	849
展示事業等収入	2,090	一般管理費	1,119
受託収入	636	業務経費	8,755
その他寄附金等	780	人件費	2,883
		事業費	5,872
		施設整備費	198
		受託事業費	636
		その他寄附金等	780
合　計	12,337	合　計	12,337

【収支計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
費用の部	10,710
経常経費	10,710
管理経費	1,845
事業経費	8,151
減価償却費	714
財務費用	0
臨時損失	0
収益の部	10,710
運営費交付金収益	6,711
展示事業等の収入	2,090
受託収入	636
その他寄附金等	559
資産見返負債戻入	714
財務収益	0
臨時利益	0
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

【資金計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
資金支出	12,337
業務活動による支出	9,997
投資活動による支出	2,312
財務活動による支出	28
資金収入	12,337

業務活動による収入	12,139
運営費交付金による収入	8,633
展示事業等による収入	2,090
受託収入	636
その他寄附金等	780
投資活動による収入	198
施設整備費による収入	198
財務活動による収入	0

詳細につきましては，中期計画と当事業年度に係る年度計画をご参照ください。

１６．参考情報

(1)要約した財務諸表の科目の説明

①貸借対照表

現金及び預金　：現金、銀行預金（定期預金含む）
未収金　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など
その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など
有形固定資産　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの
建設仮勘定　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など
無形固定資産　：ソフトウエア、電話加入権など
その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用
運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額
未払金　：退職給付（アソシエイトフェローを除く）、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの
その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など
資産見返負債　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額
その他（固定負債）　：リース長期未払金など
資本金　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　：剰余金の累計額

②行政コスト計算書

損益計算書上の費用　：損益計算書における一切の費用
その他行政コスト　：行政コストに含まれるものであって、独立行政法人の会計上の財産的基礎が減少する取引に相当するものであるが、独立行政法人の拠出者への返還により生じる会計上の財産的基礎が減少する取引には相当しないもの

③損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費
減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益　：運営費交付金のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

④純資産変動計算書

資本金、資本剰余金、利益剰余金：①貸借対照表と同様

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

(2)その他公表資料等との関係の説明

関連する報告書等



国立文化財機構ＨＰ



東京国立博物館ＨＰ



京都国立博物館ＨＰ



奈良国立博物館ＨＰ



九州国立博物館ＨＰ



東京文化財研究所ＨＰ



奈良文化財研究所ＨＰ



アジア太平洋無形文化遺産研究センターＨＰ



文化財保存活用センターＨＰ



文化財防災ネットワークＨＰ



国立文化財機構　概要



国立文化財機構　年報

独立行政法人国立文化財機構の
令和元年度における業務の実績に関する評価

令和２年９月

文部科学大臣

１－１－１　中期目標管理法人　年度評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項				
法人名	独立行政法人国立文化財機構			
評価対象事業年度	年度評価	令和元年度（第Ⅳ期）		
	中期目標期間	平成 28 年～令和２年度		

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣	文部科学大臣			
法人所管部局	文化庁	担当課、責任者	企画調整課、清水幹治	
評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、坂本修一	

３．評価の実施に関する事項
令和２年２月・３月　理事との実績見込等について意見交換を行った。 令和２年６月・７月　各種事業を実施している国立文化財機構職員との意見交換（随時）を実施した。 令和２年８月　監事に対する意見聴取を書面にて行った。 令和２年８月　令和元年度の業務の実績に関する自己評価書等について、有識者会合委員に対し書面により意見聴取を行った。

４．その他評価に関する重要事項
特になし

１－１－２　中期目標管理法人　年度評価　総合評定

１．全体の評定						
評定 （S、A、B、C、D）	B	（参考）本中期目標期間における過年度の総合評定の状況				
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度
		B	B	B	B	
評定に至った理由	法人全体に対する評価に示すとおり、全体として中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。					

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	以下に示すとおり、一部、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められており、全体として、中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められる。 Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 Ⅰ－１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信（B） Ⅰ－２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施（A） Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項（B） Ⅲ　財務内容の改善に関する事項（B） Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画（B） Ⅴ　その他の事項（B）
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和２年２月から休館やプログラムの休止を行っており、評価に当たっては、各種事業や自己収入への影響について考慮することが必要である。

３．項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	【国内外の博物館活動への寄与】 地方においても文化財の保存・活用が求められる中、それらにかかる情報等の需要については拡大すると考えられ、文化財活用センターと各館が連携し、引き続き、各地域での文化財の保存・活用に資する取組が期待される。（P.15 参照） 【地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等】 大規模災害に対応した文化財防災に関する社会からの期待により一層応えられるよう、これまでの蓄積・ノウハウ・機関間ネットワークを活用し、文化財防災に関する組織体制や活動の充実強化が望まれる。（P.51 参照）
その他改善事項	特になし
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし

４．その他事項	
監事等からの意見	令和元年度から独立行政法人会計基準の変更があったが、機構では適切に対応されている。
その他特記事項	特になし

※　評定区分は以下のとおりとする。

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

Ｂ：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。

Ｃ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。

Ｄ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

１－１－３　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定総括表

中期目標（中期計画）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	項目別調書No.	備考
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項							
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	—	—	B	B		Ⅰ－１	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	—	—	—	—			
①国立博物館の施設設備の整備	（B）	（B）	—	—			
②有形文化財の収集等	（B）	（A）	—	—			
③有形文化財の管理、保存、修理等	—	—	—	—			
有形文化財の管理、保存	（B）	（B）	—	—			
有形文化財の修理等	（B）	（B）	—	—			
（２）展覧事業	—	—	—	—			
①展覧事業（平常展・特別展等）	（B）	（A）	—	—			
②観覧環境の向上等	（B）	（B）	—	—			
（３）教育・普及活動	—	—	—	—			
①教育活動の充実等	（B）	（B）	—	—			
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	（B）	（B）	—	—			
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	—	—	—	—			
①有形文化財に関連する調査研究	（B）	（B）	—	—			
②国内外の博物館等との学術交流等	（B）	（B）	—	—			
③調査研究成果の公表	（B）	（B）	—	—			
（５）国内外の博物館活動への寄与	—	—	—	—			
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	（B）	（B）	—	—			
②国内外の博物館等への援助・助言等	（B）	（B）	—	—			
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	—	—	A	A		Ⅰ－２	
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	（B）	（B）	—	—			
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	—	—	—	—			
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進	（A）	（B）	—	—			
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	（B）	（A）	—	—			
（３）文化遺産保護に関する国際協働	—	—	—	—			
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	（B）	（B）	—	—			
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	（B）	（A）	—	—			
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	（A）	（A）	—	—			
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	—	—	—	—			
①地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	（B）	（B）	—	—			
②平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	（A）	（B）	—	—			
③文化財等の防災・救援等への寄与	（A）	（A）	—	—			
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項							
組織体制の見直し	（B）	（B）	B	B		Ⅱ	
人件費管理等の適正化	（B）	（B）					
契約・調達方法の適正化	（B）	（B）					
一般管理費の削減	（B）	（B）					
業務の電子化	（A）	（B）					
予算執行の効率化	（B）	（B）					
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項							
自己収入拡大への取組	（B）	（A）	B	B		Ⅲ	
決算情報・セグメント情報の充実等	（B）	（B）					
Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画							
予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	（B）	（B）	B	B		Ⅳ	
Ⅴ　その他の事項							
内部統制	（B）	（B）	B	B		Ⅴ	
自己評価・情報セキュリティ対策	（B）	（B）					
施設設備に関する計画	（B）	（B）					
人事に関する計画	（B）	（B）					

※１　重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。

※２　難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。

※３　重点化の対象とした項目については、各標語の横に「重」を付す。

※４　「項目別調書No.」欄には、令和元年度の項目別評定調書の項目別調書No.を記載。

※５　評定区分は以下のとおりとする。

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上とする。）。

Ｂ：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の100%以上120%未満）。

Ｃ：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%以上100%未満）。

Ｄ：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

なお、「Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項」、「Ⅲ．財務内容の改善に関する事項」及び「Ⅳ．その他の事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価せざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定しがたい場合には、以下の評定とする。

Ｓ：－

Ａ：難易度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。

Ｂ：目標の水準を満たしている（「Ａ」に該当する事項を除く。）。

Ｃ：目標の水準を満たしていない（「Ｄ」に該当する事項を除く。）。

Ｄ：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要。

１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ－１	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
業務に関連する政策・施策	12　文化芸術の振興 12－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法第12条第２号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
収蔵品件数（件）	（東博）	実績値	―	116,932	117,190	117,460	119,064	119,871	
	（京博）	実績値	―	7,532	7,794	7,977	8,075	8,130	
	（奈良博）	実績値	―	1,883	1,886	1,893	1,908	1,911	
	（九博）	実績値	―	525	583	878	1,164	1,279	
	（４館計）	実績値	―	126,872	127,453	128,208	130,211	131,191	
文化財購入費（百万円）	（東博）	実績値	―	226	662	253	147	279	
	（京博）	実績値	―	798	130	292	106	384	
	（奈良博）	実績値	―	140	5	550	102	100	
	（九博）	実績値	―	609	641	641	908	461	
	（４館計）	実績値	―	1,773	1,438	1,736	1,263	1,224	
寄託品件数（件）	（東博）	実績値	―	3,072	3,075	3,109	3,130	2,591	
	（京博）	実績値	―	6,112	6,189	6,235	6,434	6,520	
	（奈良博）	実績値	―	1,956	1,958	1,962	1,974	1,974	
	（九博）	実績値	―	885	905	934	931	1,300	
	（４館計）	実績値	―	12,056	12,127	12,240	12,469	12,385	
寄贈品件数（件）	（東博）	実績値	―	148	44	84	72	28	
	（京博）	実績値	―	405	251	172	86	31	
	（奈良博）	実績値	―	2	1	1	9	0	
	（九博）	実績値	―	8	22	261	181	66	
	（４館計）	実績値	―	563	318	518	348	125	
各年度における	（東博）	実績値	―	―	180	180	133.8	133.8	
	（京博）	実績値	―	―	100	100	100	100	
	（奈良博）	実績値	―	―	99	99	99	99	

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	8,925,336	8,178,201	8,624,908	9,657,051	
決算額（千円）	8,699,185	9,449,056	10,574,317	12,115,612	
経常費用（千円）	6,418,247	6,570,340	7,267,907	8,551,243	
経常利益（千円）	75,653	183,733	80,728	23,986	
行政コスト（千円）	―	―	―	12,816,054	
行政サービス実施コスト（千円）	7,679,590	7,032,313	7,835,106	―	
従事人員数	97	100	98	98	

※予算額は、４国立博物館の年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の決算額を計上している。
※予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

	収蔵施設の収容率(%)	(九博)	実績値	－	－	80	85	80	80	
		(4館計)	実績値	－	－	－	－	－	－	
	資料等のデジタル化件数(件)	(東博)	実績値	24,471	30,013	25,334	26,972	25,575	26,475	
		(京博)	実績値	3,816	5,966	5,820	4,444	3,380	5,333	
		(奈良博)	実績値	5,373	3,875	3,081	3,017	3,047	3,001	
		(3館計)	実績値	33,660	39,854	34,235	34,433	32,002	34,809	
	修理件数（本格修理）(件)	(東博)	実績値	－	86	68	69	26	24	
		(京博)	実績値	－	12	14	11	17	12	
		(奈良博)	実績値	－	11	7	6	6	8	
		(九博)	実績値	－	22	18	19	40	31	
		(合計)	実績値	－	131	107	105	89	75	
	修理のデータベース化件数	(東博)	実績値	－	90	61	48	42	19	
		(京博)	実績値	－	113	151	180	149	171	
		(奈良博)	実績値	－	66	62	69	63	74	
		(九博)	実績値	－	－	－	－	－	－	
		(合計)	実績値	－	269	274	297	254	264	
	博物館の年間総来館者数(人)	(東博)	実績値	－	1,994,508	1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632	
		(京博)	実績値	－	653,336	384,340	941,931	477,884	376,061	
		(奈良博)	実績値	－	455,859	449,322	549,211	527,786	612,755	
		(九博)	実績値	－	884,128	922,468	668,269	700,391	674,277	
		(合計)	実績値	－	3,987,831	3,663,777	4,728,996	3,849,021	4,251,725	
	平常展来館者数(人) (基準値は、前中期目標期間実績の年度平均) ※京博の庭園開放は平常展来館者数に含む。	(東博)	計画値	－	362,470	512,186	512,186	512,186	512,186	
			実績値	－	747,944	761,709	1,030,180	989,508	1,030,652	
			達成度	－	206.3%	148.7%	201.1%	193.2%	201.2%	
		(京博)	計画値	－	123,089	166,600	136,309	141,041	130,629	
			実績値	－	205,526	186,162	136,862	146,314	158,664	
			達成度	－	167.0%	111.7%	100.4%	103.7%	121.5%	
			実績値		※1,699	※11,417	※15,676	※11,168	※13,908	
		(奈良博)	計画値	－	69,600	118,173	118,173	118,173	118,173	
			実績値	－	95,208	145,676	135,776	140,829	160,869	
			達成度	－	136.8%	123.3%	114.9%	119.2%	136.1%	
		(九博)	計画値	－	380,690	387,744	387,744	387,774	387,744	
			実績値	－	412,621	393,590	350,848	349,114	348,563	
			達成度	－	108.4%	101.5%	90.5%	90.0%	89.9%	
		(合計)	実績値	－	1,462,998	1,498,554	1,669,342	1,636,933	1,712,656	

	平常展観示替件数(件)	(東博)	計画値	－	5,500	6,009	6,009	6,009	6,009	
			実績値	－	6,930	8,538	6,616	5,981	5,813	
			達成度	－	126.0%	142.1%	110.1%	99.5%	96.7%	
		(京博)	計画値	－	700	919	919	919	919	
			実績値	－	1,145	943	973	1,021	1,140	
			達成度	－	163.6%	102.6%	105.9%	111.1%	124.0%	
		(奈良博)	計画値	－	180	314	314	314	314	
			実績値	－	286	427	210	232	239	
			達成度	－	158.9%	136.0%	66.9%	73.9%	76.1%	
		(九博)	計画値	－	600	1,253	1,253	1,253	1,253	
			実績値	－	1,513	1,654	1,594	1,779	1,641	
			達成度	－	252.2%	132.0%	127.2%	142.0%	131.0%	
	平常展観示総件数(件)	(東博)	計画値	－	7,200	－	－	－	－	
			実績値	－	8,911	10,918	10,223	9,253	9,267	
			達成度	－	123.8%	－	－	－	－	
		(京博)	計画値	－	1,000	－	－	－	－	
			実績値	－	1,438	1,068	978	1,038	1,147	
			達成度	－	143.8%	－	－	－	－	
		(奈良博)	計画値	－	600	－	－	－	－	
			実績値	－	620	664	548	462	461	
			達成度	－	103.3%	－	－	－	－	
		(九博)	計画値	－	700	－	－	－	－	
			実績値	－	2,628	2,208	1,894	1,995	1,894	
			達成度	－	375.4%	－	－	－	－	
	平常展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	計画値	80	80	74	74	74	74	
			実績値	－	82	71	87.3	89.2	90.2	
			達成度	－	102.5	96.0	118.0	120.5	121.9	
		(京博)	計画値	80	80	79	79	79	79	
			実績値	－	83	75	84.4	89.7	79.1	
			達成度	－	103.8	95.0	106.8	113.5	100.1	
		(奈良博)	計画値	80	80	79	79	79	79	
			実績値	－	78	88.9	90.1	92.5	93.2	
			達成度	－	97.5	112.5	114.1	117.1	118.0	
		(九博)	計画値	80	80	67	67	67	67	
			実績値	－	72	73.8	77.8	73.6	77.1	
			達成度	－	90.0	110.1	116.1	109.9	115.1	
	特別展来館者数(人)	(東博)	実績値	－	1,246,564	1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980	
		(京博)	実績値	－	446,111	186,761	789,393	320,402	203,489	
		(奈良博)	実績値	－	360,651	303,646	413,435	386,957	451,886	
		(九博)	実績値	－	471,507	528,878	317,421	351,277	325,714	
		(合計)	実績値	－	2,524,833	2,165,223	3,059,654	2,212,088	2,539,069	

特別展開催回数(回)※海外展を含む	(東博)	計画値	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	
		実績値	－	6	13	7	9	8	
		達成度	－	150	300	175	225	200	
	(京博)	計画値	1～2	2～3	1～2	1～2	1～2	1～2	
		実績値	－	3	2	2	2	2	
		達成度	－	100	100	100	100	100	
	(奈良博)	計画値	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	
		実績値	－	3	4	3	3	3	
		達成度	－	133.3	100	100	100	100	
	(九博)	計画値	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	
		実績値	－	4	5	4	4	4	
		達成度	－	133.4	166.7	133.4	133.4	133.4	
	(合計)	実績値	－	17	23	16	18	17	
特別展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	計画値	80	80	71	71	71	71	
		実績値	－	75	87.9	86.4	84.2	86.6	
		達成度	－	125.0	123.8	121.7	118.6	122.0	
	(京博)	計画値	80	80	89	89	89	89	
		実績値	－	87	78.1	81.9	94.6	71.6	
		達成度	－	125	114	92	106.3	80.4	
	(奈良博)	計画値	80	80	80	80	80	80	
		実績値	－	79	86.4	88.1	89.8	91.4	
		達成度	－	125	108	110.1	112.3	114.3	
	(九博)	計画値	80	80	86	86	86	86	
		実績値	－	88	85.9	87.2	86.7	84	
		達成度	－	115	100	101.4	100.8	97.7	
海外巡回数(回)	(東博)	実績値	－	1	5	2	2	0	
	(京博)	実績値	－	0	0	0	0	0	
	(奈良博)	実績値	－	1	0	0	0	0	
	(九博)	実績値	－	0	1	1	0	0	
	(合計)	実績値	－	2	5	2	2	0	
来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	80	－	70.4	68.1	71.3	71.7	
	(京博)	実績値	80	－	40.2	63.4	73.1	67.4	
	(奈良博)	実績値	80	－	68	70.5	75.8	81.9	
	(九博)	実績値	80	－	77.2	63.7	61.6	70.2	
外国人アンケートの満足度(%)	(東博)	実績値	－	－	69.7	74.8	72.7	76.9	
	(京博)	実績値	－	－	69.3	73.5	82.9	67.3	
	(奈良博)	実績値	－	－	67.7	69.7	79.8	79.1	
	(九博)	実績値	－	－	78.8	84.6	78.1	80.8	
講演会回数(回)	(東博)	計画値	－	－	128	128	128	128	
		実績値	－	146	160	199	93	97	
		達成度	－	－	125	155.5	72.7	75.8	

10

	(京博)	計画値	－	－	26	26	26	26	
		実績値	－	39	45	32	37	28	
		達成度	－	－	173	123.1	142.3	107.7	
	(奈良博)	計画値	－	－	28	28	28	28	
		実績値	－	28	26	26	27	25	
		達成度	－	－	92.9	92.9	96.4	89.3	
	(九博)	計画値	－	－	90	90	90	90	
		実績値	－	87	77	84	80	69	
		達成度	－	300	85.6	93.3	88.9	76.7	
	(合計)	実績値	－	－	308	341	237	219	
講演会等参加人数(回)	(東博)	実績値	－	18,080	21,453	29,393	12,206	11,691	
	(京博)	実績値	－	4,845	5,132	4,014	4,357	3,285	
	(奈良博)	実績値	－	3,974	3,518	3,437	3,569	3,261	
	(九博)	実績値	－	6,212	5,369	6,299	4,491	4,862	
	(合計)	実績値	－	33,111	35,472	43,143	24,623	23,099	
キャンパスメンバーズ加入校数(件)	(東博)	実績値	－	48	52	53	56	60	
	(京博)	実績値	－	29	27	29	32	32	
	(奈良博)	実績値	－	27	25	27	28	27	
	(九博)	実績値	－	25	25	25	23	23	
	(合計)	実績値	－	129	129	134	139	142	
ボランティア数(人)	(東博)	実績値	－	173	169	151	149	159	
	(京博)	実績値	－	214	215	270	264	255	
	(奈良博)	実績値	－	157	150	143	159	150	
	(九博)	実績値	－	352	307	313	295	274	
	(合計)	実績値	－	896	841	877	867	838	
講座会等加入件数(件)	(東博)	実績値	－	464	455	559	621	686	
	(京博)	実績値	－	368	362	452	485	521	
	(奈良博)	実績値	－	74	73	76	93	102	
	(九博)	実績値	－	－	－	2団体	45	47	
	(合計)	実績値	－	906	890	1,089	1,244	1,356	
友の会・メンバーズパス加入者数	(東博)友の会	実績値	－	2,041	2,337	2,967	2,939	3,145	
	パスポート	実績値	－	18,157	23,778	－	－	－	
	ベーシック	実績値	－	2,789	2,369	－	－	－	
	*プレミアムパス	実績値	－	－	－	21,718	18,354	19,853	
	小計	実績値	－	22,987	28,484	24,685	21,293	22,998	
	(京博)パスポート	実績値	－	7,108	5,493	－	－	－	
	メンバーズパス	実績値	－	－	－	1,814	1,112	1,073	
	(奈良博)	実績値	－	3,591	3,739	－	－	－	

11

		パスポート								
		※プレミアムカード	実績値	－	－	－	1,664	1,406	1,357	
		（九博）友の会	実績値	－	206	268	83	73	91	
		パスポート	実績値	－	5,571	5,748	－	－	－	
		※プレミアムパス	実績値	－	－	－	5,108	5,214	4,415	
		小計	実績値	－	5,777	6,016	5,191	5,287	4,506	
		（合計）	実績値	－	39,463	43,732	33,354	29,098	29,934	
	体験型プログラム等実施回数（回）	（東博）	実績値	－	1,042	827	703	702	671	
		（京博）	実績値	－	268	553	467	482	429	
		（奈良博）	実績値	－	23	21	26	28	33	
		（九博）	実績値	－	639	2,143	2,041	1,873	1,993	
		（合計）	実績値	－	1,972	3,544	3,237	3,085	3,126	
	体験型プログラム等参加者数（人）	（東博）	実績値		198,393	199,167	272,867	309,901	360,572	
		（京博）	実績値		16,200	21,333	282,014	47,198	94,743	
		（奈良博）	実績値		380	384	399	436	363	
		（九博）	実績値		8,860	7,796	8,651	4,914	4,047	
		（合計）	実績値		223,833	228,680	563,931	362,449	459,725	
	ウェブサイトアクセス件数（件）	（東博）	実績値	3,925,429	6,724,460	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	
		（京博）	実績値	2,274,464	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	
		（奈良博）	実績値	953,946	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	
		（九博）	実績値	1,696,500	2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955	
		「e国宝」	実績値	－	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	
	学術雑誌等への論文掲載数（件）	（文活）	実績値	－	－	－	－	3	－	
		（東博）	実績値	－	116	97	135	126	108	
		（京博）	実績値	－	34	38	62	57	58	
		（奈良博）	実績値	－	27	29	37	37	50	
		（九博）	実績値	－	20	40	35	39	40	
		（合計）	実績値	－	197	204	269	259	256	
	海外研究者招へい数（人）	（東博）	実績値	－	83	73	35	79	55	
		（京博）	実績値	－	2	2	2	14	3	
		（奈良博）	実績値	－	13	9	17	12	12	
		（九博）	実績値	－	51	43	9	21	3	
		（合計）	実績値	－	149	127	63	126	73	
	研究員派遣数（人）	（東博）	実績値	－	47	60	67	52	78	
		（京博）	実績値	－	17	21	21	35	18	
		（奈良博）	実績値	－	20	16	22	20	33	
		（九博）	実績値	－	77	67	47	45	31	
		（合計）	実績値	－	161	164	157	152	160	

	定期的刊物等の刊行数（件）	（東博）	実績値	16	16	16	16	16	15	
		（京博）	実績値	11	11	10	11	11	12	
		（奈良博）	実績値	5	4	6	6	6	6	
		（九博）	実績値	5	5	5	5	5	6	
		（合計）	実績値	37	36	37	38	38	39	
	テーマ別展示の開催件数（件）	（東博）	実績値	－	31	33	28	28	18	
		（京博）	実績値	－	7	9	8	9	7	
		（奈良博）	実績値	－	4	4	4	4	5	
		（九博）	実績値	－	8	6	6	9	8	
		（合計）	実績値	－	50	52	46	50	37	
	講演会等の開催回数（回）	（東博）	実績値	－	146	160	199	159	97	
		（京博）	実績値	－	39	45	32	37	28	
		（奈良博）	実績値	－	28	26	26	27	25	
		（九博）	実績値	－	87	77	84	80	69	
		（合計）	実績値	－	300	308	341	303	219	
	文化財の貸与件数（件）	（東博）	実績値	－	992	946	914	1,355	954	
		（京博）	実績値	－	303	367	349	289	348	
		（奈良博）	実績値	－	145	165	210	134	136	
		（九博）	実績値	－	90	83	71	80	50	
		（合計）	実績値	－	1,530	1,561	1,544	1,858	1,488	
	公私立博物館等に対する援助・助言件数（件）	（機構）	実績値	－	－	－	－	2	9	
		（文活）	実績値	－	－	－	－	20	68	
		（東博）	実績値		139	120	138	131	139	
		（京博）	実績値	－	65	112	168	140	152	
		（奈良博）	実績値	－	58	62	72	71	66	
		（九博）	実績値	－	67	87	105	72	86	
		（合計）	実績値	－	329	381	483	436	520	

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
Ⅲ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和元年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記の通り。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細からＢ評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 有形文化財の保存と継承及び有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信については、全体的に順調に推移している。 収蔵・展示施設及びこれらに関連するメンテナンスサイクルの確立に向け、現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体の作業を進捗させたこと、特に、東京国立博物館では、令和元年10月、文化財管理棟が完成し、収蔵施設の拡充を図ったことは評価できる。 寄附金の活用や積立金により、重要文化財「浜松図屏風（伝土佐光重筆）」や重要文化財「短刀 銘長谷部国重」など、価値の高い文化財を多く購入できており、収蔵品件数が順調に増加している。 展覧事業については、多言語化や開館時間の延長などのサービスの向上を図るとともに、平常展では展示替えやテーマ性を持った特集陳列等、特別展では国民の関心を集める企画や国際的な周年事業に合わせた展覧などにより、年間総来館者数が前年度に比べ約49万人増加したことは評価できる。また、平常展、特別展ともに来館者の満足度は高く、全体として、展覧事業に関する努力の成果がうかがえる。 教育普及活動については、東京国立博物館での親と子のギャラリーにおいて、よろい着用イベントを通じて日本の歴史・文化の理解促進に努め、外国人観光客の満足度向上にも貢献したことは評価できる。このほか、キャンパスメンバーズの加入校数、賛助会等加入件数、ボランティア数も順調に増加している。 また、インターネットや多言語媒体の活用により、外国人観光客の誘致に積極的に取り組むとともに、ウェブサイトアクセス件数が目標値を大きく上回る結果となったことは評価できる。 海外も含めた博物館等からの要請に応え、所蔵品・寄託品を貸与し、特に、奈良国立博物館では、考古資料の相互貸借事業により例年以上に多くの作品を「里帰り」させ、地域活性化にも貢献していることは評価できる。さらに、公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言についても着実に取り組んでおり、ナショナルセンターを意識した活動の成果がうかがえる。 **＜今後の課題・指摘事項＞** 地方においても文化財の保存・活用が求められる中、それらにかかる情報等の需要については拡大すると考えられ、文化財活用センターと各館が連携し、引き続き、各地域での文化財の保存・活用に資する取組の充実が期待される。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・館内の保存環境は最近整備されてきているが、施設が古いものが多いことからも万全なモニタリングが必要である。 ・有形文化財の収集、修理等について適切かつ全体的将来的計画に沿って行われており評価できる。収蔵施設の拡充に関しては将来的展望の面で問題は残っている。 ・有形文化財の修理は目立たないが保存活用の基礎となるものである。その公開も含めて重要性について理解をえる必要がある。修理所の特別公開は来館者にとってうれしいものである。 ・展示ツール、体験ツール開発、地方巡回など文化財活用センターと各館が協働した活用の枠組み拡充も図られてきている。 ・コロナ禍におけるオンラインギャラリーツアーは今後さまざまな局面で有用になると考えられる。 ・奈良博の「わくわく動物ギャラリー」は夏休みこども企画であり、展示が分かりやすくて内容も充実していた。地元の市教委やキャンパスメンバーの教育大学との連携もあり、人材育成の面でも大いに評価される。 ・2019年の ICOM 京都大会に協力するなど、海外との学術交流を積極的に展開した。 ・文化財防災ネットワーク推進室を軸に、全国的な連携・協力体制を整備した。発生した災害による被災事故の救援活動に貢献した。
（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①国立博物館の施設設備の整備	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。	【指標】 中期目標の期間の最終年度（平成32年度）までに，収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルを確立すること。 〈目標水準の考え方〉 「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）平成27年3月」において，文部科学省は，各独立行政法人に対して，平成28年度までのできるだけ早い時期に行動計画を，平成32年度までに個別施設計画を策定するよう促すこととされている。	**＜主要な業務実績＞** ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の建物や設備について調査を行った。本館保存活用計画検討WGを開催し、本館の保存活用計画について作成スケジュールや策定内容等を確認した。（東博） ・10月に竣工した文化財管理棟で実施する「見せる修理所」を中心としたバックヤードツアーの開催に向けて、ツアー概要や建物内の利用方法等を検討した。（東博） ・収蔵、展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け、施設毎の劣化調査や工事履歴の取りまとめを行った。（京博） ・本館免震改修他工事に関して2年度発掘予定範囲について文化庁、京都府・市と協議を行った。また設計・監理業務の与条件設定や設計監理業務委託費の算定等について国土交通省、文化庁、京都府・市等と協議を行った。本館（内外壁、屋根、小屋裏）及び袖塀の劣化調査を行った。（京博） ・各種設備のメンテナンス更新計画及び状況調査を行い、概算要求を行っ	**＜評定と根拠＞** 当機構は、メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体の作業を進捗させた。 東京国立博物館では、本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟は令和元年10月末に完成した。2年度に文化財の搬入を実施する予定である。 本館保存活用計画策定に向けて令和元年度は未調査だった約半数の部屋の調査を行い、報告書をまとめた。また、本館保存活用計画の第1章計画の概要、第4章防災計画、第6章保護に係る諸手続きを策定した。 京都国立博物館では、メンテナンスサイクルについては、これまでに引き続き各種調査を行った。 本館免震改修他工事については、施設整備費が措置されず工事や発掘調査が行えなかったが、その中でも本館及び袖塀の劣化調査の実施や2年度の発掘調査に関する行政等との協議及び設計監理業務発注段階での各種懸案事項の抽出、検証等を行った。 奈良国立博物館では、メンテナンスサイクルの更新計画に基づき緊急度の高	

				た。展示室の適正な温湿度管理のため、老朽化した空調機メンテナンス計画に基づき、機器のメンテナンス修繕を行った。展示室等、監視カメラの健全な状態を保持するため記録装置の一部更新を行った。（奈良博） ・エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行った。（奈良博） ・引き続き収蔵、展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル計画の検討を行った。（九博） ・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い空調機器のうち、プレート式熱交換器のプレート交換や洗浄を行った。また、エアハンドリングユニット（空気調和機）の腐食箇所塗装等、一部改修工事を行った。老朽化している、収蔵庫前室の監視カメラ設備の更新を行った。また、施設の10年整備計画について、より精度を向上させるため、一部改修内容の見直しを検討した。（九博）	い事項について概算要求を行った。 また、監視カメラの記録装置について一部不具合が発生したため運営費補助金にて更新を行った。 九州国立博物館では、空調設備の改修を行うなど、年度計画どおり、展示や調査の施設の維持管理を目的とした改修を行った。 **＜課題と対応＞** 各館、各所でのメンテナンスサイクルの構築へ向けた取り組みを着実に実施している。	
	②有形文化財（美術工芸品）の収集等	②有形文化財の収集等	②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 各博物館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 2)寄贈・寄託品の受入れ等 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入	【中期目標・計画上の評価指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集に関する取組状況（収集件数、文化財購入費、寄贈・寄託品件数） 〈目標水準の考え方〉 ・　国立博物館が購入する価値の高い有形文化財（美術工芸品）は，所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数　131,191件 元年度新収品　980件（うち購入87件、寄贈125件、編入768,件） ※30年度新収品2,005件 ・文化財購入費　1,224百万円 ※元年度1,263百万円（39百万円減） ・寄託品件数　12,385件 元年度新規寄託618件、返却702件。 ※30年度　12,469件（84件減） 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。 ○購入 ・購入件数は87件（元年度購入件数154件）であった。 ・購入文化財のうち代表的なものは、「浜松図」を主題とする屏風のなかでも最古の部類に入る作品であり、室町時代やまと絵の研究にとって、また安土桃山時代、江戸時代の大画面障壁画等の研究にとって、きわめて重要である重要文化財「浜松図屏風」（東博）や、祥啓系の現存作は小幅の掛軸が多く、希少な屏風作例として大変貴重であり、また的確なモ	**＜評定と根拠＞** 当機構では、各館の収集方針に従い、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集し、収蔵品件数は30年度4館合計130,211件のところ、元年度は131,191件に増加した。 各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 寄附金の活用や積立金により購入件数・質ともに高水準の実績を上げることができている。寄託品件数は30年度は12,469件のところ、元年度は12,385件であった。着実に新規寄託を受け入れているが、減少の要因は、東博において、公益財団法人大倉文化財団が展示施設をリニューアル工事するために一時預りしていた作品を、完成に伴い返却したことによるところが大きい。 購入については、重要文化財「浜松図屏風（伝土佐光重筆）」（東博）、重要文化財　短刀　銘長谷部国重（京博）など、非常に価値の高い多くの逸品を購入することができた。 ・現存作例の少ない室町時代やまと絵屏風の代表作を購入できたことは、当館の収集の歴史において特筆すべきできごとであった。また、収集機会が少ない西域美術のコレクションの充実を図ることもできた。重要文化財「浜松図屏風」など、当館の展示・研究に寄与する

		れる。		チーフ描写や整理された画面空間、透明感のある彩色表現など、鑑賞性の高い優品である重要美術品「山水人物図屏風」（東博）、このほか、重要文化財　法華経巻第五（冊子）、重要文化財　短刀　銘長谷部国重（京博）など。 ○寄贈 ・作品の寄贈については17人の所蔵者から、28件の文化財を受け入れた。このうち、「染付竹虎文大鉢」は初期伊万里のひとつ、小さな高台で大きな鉢を支える形は、磁器の焼成技術が未だ十分でなかった頃の作であることを示す。染付の筆運びが未熟ながら、のびやかでおおらかな表現も初期伊万里染付大皿の特徴として挙げられ、また染付大鉢として三つの脚をもつ珍しい作例であり、初期伊万里の優品として展示に大いに活用できる。（東博） ・新規寄贈品件数31件（京博） ・九州在住の方より56件の筑紫箏に関する貴重資料の寄贈を受け入れた。ほかにも10件の寄贈を受け入れた。新規寄贈件数66件。（九博） ○寄託 ・作品の寄託については6機関12個人から、29件の文化財を新規に受け入れた。重要文化財は「五秘密像」「聖徳太子絵伝」の絵画2件、「蘭渓道隆（大覚禅師）坐像」、「地蔵菩薩立像」「不動明王立像」の彫刻3件、「桜山鵲蒔絵硯箱」の漆工1件の寄託を受けた。（東博） ・元年度は、国宝「夜色楼台図　与謝蕪村筆」、重要文化財「霰地真形釜」、重要文化財「洲浜千鳥螺鈿硯箱」をはじめとして新規寄託品を網羅的に受け入れることができた。新規寄託品件数149件。（京博） ・重要文化財「絹本著色融通念仏縁起絵」1幅（安楽寺）、奈良市指定文化財「絹本著色当麻曼荼羅図」1幅（来迎寺）、重要文化財「大和竹林寺忍性墓出土品」1括（竹林寺）、重要文化財「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」	作品11件を購入することができた。（東博） ・重要文化財2件を含む、京都に関わりの深い作品を購入することができた。また、京都の社寺に伝来していた資料的価値も高い作品を多く購入する等、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入する事ができた。（京博） ・限られた予算のなか、彫刻、書跡、工芸の3分野からバランス良く新収することができた。いずれも仏教美術にかかわる品で、書跡1件については奈良の歴史研究にも資するものであり、当館が所蔵するに相応しい。（奈良博） ・元年度も30年度同様に収集件数を大きく伸ばすことができた。当館として収蔵するべき文化交流展示室内において開室した寄贈者顕彰室及び新収品展において紹介し、寄贈者を顕彰した。 寄贈については、重要文化財を含む計125件もの受入があり、各館の所蔵品を補う受け入れができた。九州国立博物館では、30年度に受贈した作品は、文化交流展示室内において開室した寄贈者顕彰室及び新収品展において紹介し、寄贈者を顕彰した。 寄託については、重要文化財「五秘密像」（東博）、国宝「夜色楼台図　与謝蕪村筆」（京博）、重要文化財「絹本著色融通念仏縁起絵」1幅（安楽寺）（奈良博）、九博においては天神像などまとまったコレクションを含む432件の新規受け入れがあるなど、全体での618件を新規に受け入れた。 寄託者・寄贈者とのこれまでの地道な信頼関係により、順調に寄贈寄託を受けることができた。博物館が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができている。	

				363 枚（法隆寺）、重要文化財「法隆寺金堂壁画写真原板」83 枚（株式会社便利堂）をはじめ、重要文化財を含む質の高い作品 8 件を新規に寄託で受け入れた。（奈良博） ・432 件の新規寄託があった。当館とゆかりの深い天神像のまとまったコレクションや、仙厓関係資料など、いずれも当館での活用が大いに見込まれる作品の寄託を受け入れた。（九博）	**＜課題と対応＞** 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、今後も更に寄贈や寄託の充実を図っていく。
③有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 有形文化財（美術工芸品）の状態に応じて，収蔵施設の収容率，温湿度等の環境を一定の基準で管理し，必要に応じて改善等の措置に要する予算等の計画を策定すること。	③有形文化財の管理・保存・修理等 1）有形文化財の管理 2）有形文化財の保存	③有形文化財の管理・保存・修理等 1）有形文化財の管理 収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品・寄託品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を蓄積して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 2）有形文化財の保存 収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。	【指標】 ・収蔵施設等の改善等に係る取組状況 （各年度における収蔵施設の収容率） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財の収蔵施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，文化財を適切な環境で保管するため，温湿度，照度，生物生息及び空気汚染等への対策を確実に行うことが求められている。このうち収容能力は収蔵品の増加に伴い不足していくことが避けられない。収容率は収蔵品数に大きく影響されるが購入・寄託・寄贈等による増加数の予測が困難であることから数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** ・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行った。 ・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。 ・収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。（４館） ・収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図った。また、収蔵品の保存カルテを作成した。（４館）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、収蔵品の管理・保存は、収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図った。 元年度の 4 館の収蔵施設の収容率は東博 133.8%、京博 100%、奈良博 99%、九博 80%である。 博物館にとって収蔵品・寄託品の増加への対応は喫緊の課題であり、収蔵スペースの確保については、各館とも安全かつ効率的な収納について検討を継続し、対応している。 東京国立博物館では、本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟は 10 月末に完成した。
				・「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム protoDB）protoDB で更新されたデータを「国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）」に自動的に反映する機能を開発した。（東博） ・デジタル・アーカイブ化した美術品台帳のテキストおよび画像データを、29 年度に導入した「収蔵品データ管理システム」に取り込むと同時に、検索機能を実装して機能を拡張した。また、収蔵品データの整備を推進した。（東博） ・収蔵庫等 36 ヵ所を対象に生物生息調査及び害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。生物生息調査結果から改善を要すると判断した 7 か所の修理室、収蔵庫に対して除塵防黴清掃を実施した。また、収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを 452 件作成した。（東博）	東京国立博物館では、元年度も、年度計画に従ってデジタル化やアーカイブ化について順調に成果を上げることができた。 館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、輸送中の振動に関する調査を実施した。
				・元年度は、金工収蔵庫の改善を実施すべく、金工作品収納用の刀袋を作成した。これにより、従来の刀袋では懸念されていた虫害被害を解消できるようになり、作品保護を強化する事ができた。（京博） ・外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化を促進した。マイクロフィルムのデジタル化は、劣	京都国立博物館では、館内でのスキャニング枚数が増えたこと及び外注も増やしたことにより、既存フィルムのデジタル化件数が増加した。マイクロフィルムのデジタル化は劣化が激しいものを除き、終了した。8×10 フィルムのデジタル化が終了した。 30 年度に引き続き、展示・収蔵施設の温湿度環境モニタリング・空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ

				化の進行したフィルムを残し、全て終了した。劣化が進行したフィルムは元年度にデュープフィルムを作成しており、2 年度にスキャニングする予定である。（京博） ・貸与に伴う点検時を主体として行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、217 件作成した。（京博） ・平成知新館では専用 LAN 経由環境モニタリングシステムを構築し継続的な温湿度調査を実施している。また定期的に全館を網羅した昆虫類の生息調査を実施し、随時、収蔵庫内の浮遊菌・付着菌調査、検知管による空気質調査を実施している。改修工事が終了した東収蔵庫は、温湿度調査・昆虫類生息調査モニタリングを開始し、作品移動前の環境調査として有機酸等の空気質調査を開始した。（京博）	解析結果をもとに、包括的な環境管理体制の構築を目指し、各施設の施設整備関連部署との連携強化をより進めることができた。外部収蔵庫（KICK）では、年間と通して温湿度のモニタリング・昆虫類生息調査等を実施し、文化財の受け入れに適切な保管環境を維持した。
				・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月 1 回（計 12 回）開催した。（奈良博） ・館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約 2 か月に 1 度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することによりＩＰＭを推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示・収蔵環境の衛生保持に努めた。（奈良博）	奈良国立博物館では、毎月 1 回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、収蔵庫等の温湿度変異調査の報告・改善・検討を行った。また、文化財を保管・展示している諸室の適切な温湿度維持のため、改善に向けた検討を行い、計画的にメンテナンスを行うことで、環境改善の問題確認、改善に取り組むことができた。 30 年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。
				・施設設備に関しては収蔵庫 10 か所の扉の点検を行い、開閉時に電気錠にエラーが出る傾向の高い扉については、施工業者に依頼し、調整作業を行った。また、収蔵品の棚卸し作業のため、収蔵庫内の Wi-Fi 環境を整備した。当館は所蔵品以外にも長期借用（約 1,500 件）、寄託品（約 900 件）など数多く管理している。元年度から 3 年間計画にて収蔵品の棚卸しを開始した。収蔵品の棚卸し準備として全点の調書を整備した。（九博） ・文化財害虫の発生を防止するため、温湿度管理、生物処理、昆虫トラップの観察などを徹底して行った。展示室・収蔵庫の温度・湿度データを蓄積し、すぐに活用できるようにした。通常の粘着トラップを館内全域約 440 か所に設置し、2 週間ごとに交換・観察した。さらに面積の広い捕虫粘着シート（虫ベチャシート）も活用し、文化財害虫の進入経路等の把握に努め、文化財害虫に対して早期に対処することができた。（九博） ・展示室・収蔵庫等の空気質について調	九州国立博物館では、年度計画どおり、収蔵庫の点検整備を行い、必要に応じた修理、調整を行った。寄託品の所在確認を行ったほか、収蔵品の棚卸しが本格的に始動し、計画性をもって作業を進めた。 収蔵庫、展示室、展示ケースの温度・湿度データを蓄積し、文化財を安全に保存・活用するための環境整備をすることができた。また、地元 NPO 法人と市民ボランティアとの連携を行い、IPM 活動の体制を維持することができた。

				査を進めた。調査結果をもとに、より良い展示・収蔵空間を作り出すための方策を検討し、温湿度の調査結果とともに環境保全に努めた。（九博）	＜課題と対応＞ ―	
	3）有形文化財の修理 4）文化財修理施設等の運営	3）有形文化財の修理 3）-1 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携のもと、緊急性の高いものから順次、計画的に修理する。 3）-2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 4）文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。	【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の修理に関する取組状況（修理件数，修理のデータベース化件数） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。 ・有形文化財に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	＜主要な業務実績＞ 4館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行った。 ・修理件数（本格修理）　75 件 詳細はアウトプット情報を参照。 ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。（4 館）	＜評定と根拠＞ 当機構では、緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。収蔵品等の修理においては、運営費が限られる中、寄附金や助成金を活用しており、本格修理件数は 30 年度合計 89 件から元年度合計 75 件となった。これは複数年度計画によるものである。 また、修理のデータベース化についても、収蔵品修理資料のデータベース化の調査、修理報告書サーバの更新等各種整備を継続して実施することができ、修理のデータベース化件数は 30 年度合計 254 件から元年度合計 264 件と増加した。 文化財保存修理所等については、京博、奈良博及び九博では施設の修繕等を行った。奈良博では、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とするため文化財保存修理所の特別公開を実施した。
				・保存修復課に、彫刻や工芸品など立体の修理技術者 1 名、装こう関連修理技術者のアソシエイトフェロー1 名を配置し、館内で実施する館蔵品の応急（対症）修理を行った。作品の劣化予防のために 452 件の応急修理を実施した。また、修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む 250 件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めて、24 件の本格修理を実施した。（東博） ・商山四皓図（N-4）の赤外線撮影調査、蛍光 X 線分析を行い、劣化状況の確認と材料、描画技術の調査研究を行った。雛雀図（TA-355）、五馬図巻（TA-694）の紫外線蛍光撮影調査と赤外線撮影調査、月次風俗図屏風（A-11090）の赤外線撮影調査、X 線撮影調査し修理方針作成に寄与した。また、引き渡し後となったが五馬図巻の蛍光 X 線分析、繊維組成試験を行い、本体の材質を調査し修理方針作成に寄与した。	東京国立博物館では、緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、寄附金の獲得に努め、国宝 3 件、重要文化財 1 件を含む修理を実施した。なお、本格修理の件数が減少しているのは、30 年度からの継続事業に修理費をあてたことなどによるためで、中期修理計画は予定通りに運用している。応急修理件数は 30 年度より増加しているが、これは貸与促進事業等に貸し出す作品の応急修理件数等が増えたことも要因である。 修理作品決定から引き渡しまでの限られた時間で元年度の主要な修理作品の科学分析や光学調査を行うことができた。
				・緊急性の高い作品を優先に、12 件の本格修理を行った（絵画 2 件、書跡 3 件、金工 2 件、考古 5 件）。（京博） ・X 線 CT 撮影では、たとえば東寺蔵の	京都国立博物館では、元年度も多分野にわたって、緊急性の高い収蔵品から計画的に修理を行う事ができた。また、4 か年事業の重要文化財「大手鑑（八十

				二間観音像調査では、内部構造・ほぞの構造ついて、上杉神社蔵の明代冠服類では冠の複数ある布地材の重複関係について可視化することができ、修理前に画像提供することで修理指針に貢献することが可能となった。また、非破壊的な分析調査では、修理所工房からの依頼による調査として絹本・紙本の絵画資料の彩色材料調査や古楽器の調査を実施した。彩色材料等の情報についての蓄積とともに、修理技術者との情報共有を図ることができた。（京博）	業）の修理についても最終年度として完了し、本年度の修理件数についても予定通り進行する事ができた。 また、元年度も継続して従来から実施している展示前状態調査や文化財修理所各工房からの修理前・後調査依頼を受け入れ、透過 X 線撮影、X 線 CT 撮像、FT-IR 分析、蛍光 X 線分析等の調査を行った。修理前調査では、文化財の構造調査、材料調査を実施し多くの情報を修理技術者と共有することができ、修理方針の策定などに役立てた。
				・館蔵品本格修理 8 件のうち、新規 7 件、30 年度からの継続事業 1 件を実施した（内訳：絵画 2 件、彫刻 2 件、書跡 1 件、工芸 2 件、考古 1 件）。年度内に 6 件が完了した。（奈良博） ・29 年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第 1 号を刊行した。26～29 年度の材質調査や銘文集成なども掲載することで、修理実績や内容を広く伝えることができた。（奈良博） ・紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。また、文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、30 年度に引き続き京都大学生存圏研究所と連携し樹種同定調査を行った（実施計 2 件）。（奈良博） ・2 年 1 月 9 日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。報道機関を含む 148 人の参加があった。（奈良博）	奈良国立博物館では、30 年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。 京都大学と引き続き連携して彫刻作品の樹種同定調査を行うとともに、絵画作品の赤外線撮影を実施するなど、8 回の調査を実施し、修理所との連携を進めている。
				・館蔵品を中心に、損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財 36 件（本格 31 件、応急 5 件）の修理を実施した。当館の寄付会員制度「賛助会」の寄付金を使用し、「渡唐天神像」と「深鉢形土器」（当館所蔵）の本格修理を行った。「深鉢形土器」については修理後に平常展示で公開した。「渡唐天神像」については 1 年保管した後の 2 年度に公開する予定である。（九博） ・当館文化財保存修復施設にて、当館経費による修理 27 件及び所有者等負担による修理 39 件、合計 66 件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による 9 件の修理事業を実施した。（九博）	九州国立博物館では、重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む 31 件の本格修理を計画的に実施することができた。また、修復施設使用者の協力が得られたことで、保存状態調査を効率的、的確に行うことができた。 九州等所在文化財 66 件の修理のために当館修復施設を活用した。また、漆工品の CT 調査や紙文化財の材質分析を行い修理方針を検討するなど、伝統的な修理に科学調査の結果を取り入れ、適切な修理を実施することができた。 ＜課題と対応＞ ―

	（2）展覧事業 有形文化財（美術工芸品）の保護は，保存と活用のバランスをとりながら行うことが肝要であるが，国立博物館は国全体の 22%に相当する国宝・重要文化財（美術工芸品）を収蔵等しており（収蔵品 1,084 件，寄託品 1,403 件，平成 27 年度当初），これらを公開することは，文化財保護法に基づく重要な役割のひとつである。また国宝・重要文化財にかかわらず，国立博物館は約 13 万 8 千件（平成 27 年度当初）の収蔵品等について，専門的な調査研究を行い，その成果を反映しながら展覧事業において計画的に展示することが使命である。 　さらに収蔵品等以外の文化財も含め特定のテーマの下に企画する特別展は，新たな知見を拓き，文化財の価値をより広く深く理解することに大きく寄与するものであり，質の高い展示を提供する必要がある。 　以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 ①　平常展 収蔵品等の状態に留意しつつ，できるだけ多くそれらを平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう努めること。 ②　特別展等 調査研究の成果を基にした特定のテーマの特別展や，国際文化交流の進展を目的する特別展等（外国における展覧事業も含む）を，計画的に開催することとし，その質の向上に努めること。	（2）展覧事業 展覧事業については，我が国の博物館の中核的拠点として，国民のニーズ，学術的動向等を踏まえ，かつ国際文化交流にも配慮しながら，開催目的，期待する成果，学術的意義を明確にして，質の高い魅力あるものを目指す。また，2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに，見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説，並びに音声ガイド等の導入により，日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに，展覧事業について常に点検・評価を行い，改善を図る。 ①平常展 平常展は，展覧事業の中核と位置付け，各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに，最新の研究成果を基に，日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い，展示に関する説明の充実，多言語化に取り組み，国内外からの来館者の増加を図る。なお，平常展の来館者数，展示替件数及び来館者アンケートの満足度については，各施設の工事等による影響を勘案し，前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②特別展等 1)特別展 2)海外展	2）展覧事業 東京、京都、奈良、九州 4 館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施す る。また、日本博事業及び特ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。 ①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。 ②特別展等 1)特別展 2)海外展	【中期目標・計画上の評価指標】 ・平常展の来館者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・平常展の展示替件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・平常展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） ・（関連指標）平常展の展示総件数 【中期目標・計画上の評価指標】 ・特別展に関する取組状況（特別展の開催回数、特別展の来館者数） ・特別展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上）	**＜主要な業務実績＞** ・博物館の年間総来館者数 元年度合計 4,251,725 人 ※30 年度 3,849,021 人（約 40 万人、10.5%増） 内訳はアウトプット情報を参照 （平常展） ・平常展来館者数　1,712,656 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・平常展陳列替件数 ・平常展陳列総件数 ・平常展来館者アンケート満足度 それぞれアウトプット情報を参照 ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。（4 館） ・満足度調査等を実施し、集計結果をもとに環境改善に努めた。 ・本館 11 室、本館特別 5 室、東洋館 3 室で特別企画を実施したほか、特別展にかかわる展示、毎年恒例の「博物館に初もうで」「東洋館でアジアの旅」など、充実した展覧事業を行った。そのほか、新技術を活用した展示として「8K で文化財　国宝「聖徳太子絵伝」」が好評を博し、新規来館者の獲得につなげることができた（東博） ・特別企画「京博寄託の名宝　美を守り、美を伝える」は、日本初となる ICOM 京都大会の開催にあわせて、特別企画の枠組みで平成知新館全館を使い、京都国立博物館が預かっている名品を展示した。展示件数 139 件のうち、国宝 36 件、重要文化財 59 件であり、平成 26 年秋の平成知新館オープン記念展「京へのいざない」、平成 29 年秋に開催した開館 120 周年記念特別展覧会「国宝」に匹敵する名品展示となった。（京博） ・独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実を図るべく、特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　―特集　春日大社にまつわる絵師たち―」、特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」、特別陳列「お水取り」を実施した。（奈良博） ・NHK 福岡放送と共催で「びじゅチューン！」とのコラボレーション企画の展示を行った。体験型の展示は好評で、SNS でも来館者による投稿が行われ、広報活動にもつながった。（九博） ・特集展示「縄文王国やまなし」では、釈迦堂遺跡を中心に山梨県から出土した土器や土偶等を紹介し、会場は写真撮影可能とした。図録は図書として刊行した。（九博） （特別展） ・特別展来館者数　2,539,069 人 ・特別展開催回数　17 回 ・特別展来館者アンケート満足度 内訳はアウトプット情報を参照 ・特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」では東寺（教王護国寺）は、平安京遷都に伴って、王城鎮護の官寺として西寺とともに建立され、中国から密教を持ち帰った空海がその根本道場とした。密教は造形作品を重視することから東寺にも多くの優れた文化財が伝わる。本展では、講堂安置の 21 体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝 11 体、重文 4 体、合計 15 体を出品したほか、彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰を展示した。463,991 人（達成率：232.0%）満足度　81.0%（東博） ・特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品雪舟、永徳から光琳、北斎まで」では、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』―皇室の至宝・国宝プロジェクト―」の一環として開催した特別展であり、皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した。通期 106,593 人（達成率 213.2%）満足度　89.4%（東博） ・日中文化交流協定締結 40 周年特別展「三国志」では、中国国内 18 の直轄市・省・自治区から三国志ゆかりの文物を集めた大型展。プロローグで後世に語り継がれた物語性の強い三国志の世界を紹介し、続く第 1 章～第 5 章、エピローグにかけて漢時代から西晋時代の出土文物により三国志の時代の実像を明らかにする。三国志の時代の出土文物を中心とする展覧会は本邦初であり、中国においても前例がない。曹操の墓と副葬品について考古学的に再検証し、後漢から三国時代にかけての埋葬制度の中での位置づけを明らかにした。また、中国東北部に割拠した公孫氏や南部の土豪ゆかりの文物を通して、三国志の時代の複雑な社会構造を浮き彫りにした。特に公孫氏関連の文物では日本列島とのつながりを明らかにした。337,639 人（達成率：281.4%）満足度 85.1%（東博）	**＜評定と根拠＞** 当機構博物館の元年度の年間総来館者数は、合計 4,251,725 人で、30 年度合計 3,849,021 人より約 40 万人増加した来館者を得た。質の高い展示等を数多く実施し、来館者満足度は概ね高く、また多言語化や夜間開館等により、外国人来館者を含む来館者のニーズに応えたことを反映している。 （平常展） 各館の特色を十分に活かし、テーマ別、時代順等の展示を行った。 ・平常展来館者数については、4 館合計で 30 年度 1,636,933 人のところ、元年度は 1,712,656 人となった。 ・平常展展示替件数については、全体的な計画の元で適切に行った。東博、奈良博は計画値がそれぞれ 6,009 件、314 件のところ、実績値は 5,813 件、239 件と下回ったが、京博、九博は計画値がそれぞれ、919 件、1,253 件のところ、実績値は 1,140 件、1,641 件と上回った。 また、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。 ・来館者のニーズに応え、平常展来館者アンケート満足度は 4 館とも目標を上回った。 ・全ての作品キャプションに英語・中国語・韓国語訳を付し、また来館者アンケートや音声ガイドにも上記 3 か国の多言語化を導入し、外国人来館者へのサービス向上を進めた。（4 館） （特別展） ・特別展開催回数は、予定の開催回数をこなし、30 年度 18 回のところ、元年度は 17 回行った。 ・30 年度は 2,212,088 人のところ、元年度は 2,539,069 人であった。約 33 万人増加しており、全体として順調である。 ・事前調査や普段の調査研究の成果を反映した質の高い展覧会を企画し、実施した。 ・東京国立博物館の特別展「正倉院の世界―皇室が守り伝えた美―」は、天皇の勅封によって厳重にまもられてきた正倉院宝物を中心に、当館が所蔵する法隆寺献納宝物などを合わせて展示し、古代の日本の国際色豊かな文化を紹介する展覧会である。正倉院宝物と法隆寺献納宝物という古代アジアの交流の実態を示す世界的に貴重な文化財を同時公開することや、正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動について紹介することにより、目標人数を大きく上回る来場者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。362,076 人（達成率：181.0%）満足度 85.1%	

					・特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」では、絵巻であった佐竹本三十六歌仙絵が大正 8 年（1919）に一歌仙ずつ分割され、くじ引きによって別々に所有されてからちょうど100年の節目を迎える年に、離ればなれに伝わっている佐竹本断簡を多く集結させることに主眼を置いた企画を行った。佐竹本やその分割に関わる作品（くじ引きに使用された竹筒など）によって事件を振り返るとともに、平安時代から鎌倉時代にかけての絵巻物や古筆といった王朝美術の名品や、さらには佐竹本の所有者であった近代数寄者たちの茶道具を展示した。136,811 人（達成率：171.0%）満足度 72.9%（京博）	・京都国立博物館の時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」は、時宗という宗派に焦点を当てた展覧会は数少なく、ゆかりのある京都にて大規模な展示を実現できたことの意義は大きい。来館者目標にはわずかに及ばなかったが、文化財をとおして時宗が果たしてきた歴史的役割を視覚的に提示することができた。66,678 人（達成率：95.2%）満足度 70.2%	
					・特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」では、公益財団法人藤田美術館が所蔵する、国宝 9 件、重要文化財 53 件すべてを展示した。(会期中展示替えあり)。展示構成では、仏教美術を中心に、奈良にゆかりのあるものを紹介した。国宝・曜変天目茶碗を中心とした茶道具、茶掛けなどの墨蹟、仏教説話画、仏像、仏画、仏教工芸、経典、仮面、能装束、工芸、考古資料など多彩なコレクションを通じて、コレクションを創始した藤田傳三郎の功績を紹介した。158,078 人（達成率：316.2%%）満足度　89.3%（奈良博）	・奈良国立博物館の御即位記念　第 71 回正倉院展は、30 年度より来館者数が増加し、満足度の上昇も見られた。出陳宝物の内容もさることながら、パネルや音声ガイドの充実等に注力したことが、上記結果に繋がったものと考える。正倉院宝物がまとまって公開されるほぼ唯一の機会であり、中には史上初めて一般に公開される初出陳品も含まれるなど、本展開催に伴う学術的意義は大きい。また、出陳品には、宮内庁正倉院事務所による近年の調査で成果の示されたものも含まれており、最新の知見を広く紹介する場ともなった。277,133 人（達成率：154.0%）満足度 87.4%	
					・特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」では、室町幕府の初代足利尊氏から 15 代義昭まで、歴代将軍の栄枯盛衰と個性ある魅力に迫りつつ、南北朝時代から戦国時代におたる 240 年間の激動の時代と重厚な文化を概観できる展示内容とした。展示室では歴代の肖像画やゆかりの深い絵画・古文書・工芸品を数多く紹介したほか、特に将軍会所における唐物を用いた座敷飾りを実物資料によって復元し、また寺外で初の一斉公開となる京都・等持院所蔵の歴代将軍木像 13 軀を、一堂に鑑賞できる空間で展示した。86,399 人（達成率：216.0%）満足度　87.9%（九博）	・九州国立博物館の日中文化交流協定締結 40 周年　特別展「三国志」は、発掘によって得られた出土資料から三国志の歴史の新たな側面に光を当てようとした本展覧会は、「日中文化交流協定締結 40 周年」という時宜にかなった国際学術事業であり、大きな成果を挙げたと言える。ポスター・ちらし・インターネット・SNS・新聞広告・各種ミニコミ誌・テレビ出演・ラジオ出演・出張講座等で積極的な広報を展開し、1 日平均来場者数 1,800 人以上をほぼ会期全体にわたって維持した。また、「視覚に障がいのある方を対象とした観覧ツアー」の実施や「ナイトミュージアム　英雄（ヒーロー）現る!!」では手話通訳をつけることで、視覚・聴覚に障がいのある方でも展覧会を楽しんで頂けた。140,155 人（達成率：200.2%）満足度 78.0%	
					・平常展・特別展ではアンケートを実施して来館者の満足度を把握し、会期中の対応や次の展覧会への改善へ活かした。（4 館）		
					（海外展）		

					・海外展回数　0 件	**＜課題と対応＞** ―	
③観覧環境の向上等 外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう，来館者の満足度を満たす多言語化，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化等を推進するとともに開館時間の延長等，混雑時の対応やミュージアムショップやレストラン等のサービスの改善等，来館者に配慮した運営を行うものとする	③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1)快適な観覧環境の提供 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等	③観覧環境の向上等 1)快適な観覧環境の提供 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等	【指標】 ・観覧環境に関する来館者アンケート（上位評価が 80％を超えること） 【関連指標】 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況 ・多言語表記に関する外国人アンケート 〈目標水準の考え方〉 ・来館者アンケートは，展覧事業だけでなく，テナント事業者が運営するショップ，レストラン等も含め，幅広い観点で実施し，観覧環境の向上に資するものとする。 ・多言語表記は，展示の解説パネル等のみならず，導線や各種施設，サービスの提供に関するものも含め，アンケートに基づく改善に努める。	**＜主要な業務実績＞** 施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。（4 館） ・多言語（7 言語）による案内パンフレットの製作・配布を行った。（4 館） ・特別展音声ガイドの貸出を行った。（4 館） ・平常展音声ガイドは 4 言語での提供を行った。（4 館） ・平常展及び各特別展時において外国人を含む来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。（4 館） ・ミュージアムショップと協力し、オリジナルグッズの開発を行った。（4 館） ・特別展に関連したメニューを提供した（4 館） ・平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4 言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、外国人来館者にも理解しやすいよう翻訳のリライトを行った。正門から平成館への動線上にバナーを増設し、構内のスムーズな誘導への環境整備を実施した。また本館に 3 か所、多言語案内によるデジタルサイネージを設置した。本館各展示室の趣旨に関する説明パネル（入口解説）について、解説内容の改訂、及び視認性の良いデザインへの変更を行った。（東博） ・アプリ「トーハクなび」を継続して提供した。また、「トーハクなび」のログ解析を継続し、利用者の使用動向の調査・研究を行った。さらに、来館者への貸出サービスとして、日本語・英語は「トーハクなび」の iPod 端末を、中国語・韓国語はアプリのコンテンツの一部を翻訳し、インストールした音声ガイド端末の貸出を行った。音声ガイドについては、一点作品解説提供の範囲を東洋館、法隆寺宝物館へも拡大した。また鑑賞ガイドについては、言語によるデバイスの差異を解消するべく、新規の鑑賞ガ	**＜評定と根拠＞** 当機構では来館者アンケートを実施し、随時館の運営に反映している。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズ等を踏まえ展覧会ごとに観覧料金及び開館時間の弾力化などに取り組んだ。 来館者アンケート満足度については、目標 80%のところ、3 館が下回る結果となったが、混雑する展覧会は概ね満足度が下がる傾向にあり、また設備面、環境面も各館特有の条件や文化財固有の条件設定があるため、引き続き満足度が向上するように継続して取り組む。 各館施設のバリアフリー化は一定の水準に達している。更に、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく、検討・工夫を継続して行っている。 ミュージアムショップ・レストランにおいて、オリジナルグッズの開発や、特別展に関連したメニューを提供するなどの取組みを行った。 英中韓の 3 か国語の多言語化に取り組み、外国人来館者のサービス向上を図った。 東京国立博物館では、本館の入口解説、本館 2 階の「日本美術の流れ」の解説について、内容及びデザインにリニューアルをし、来館者等が日本文化に親しんでいただく観覧環境を整備した。 また、夜間開館の拡充に合わせて敷地内の照度を上げるとともに、来館者サービスの要ともいえる正門プラザ内のインフォメーションカウンターを正門に移動し、視認性を向上させることができた。 公開中のアプリ「トーハクなび」は 17,033 件のダウンロード実績をあげた。貸出サービスにおいては、アプリ端末および音声ガイド端末合わせて年間 30,962 件を貸出した。アプリ・音声ガイドの作品解説提供範囲も拡大している。ほかに障がい者のための環境整備、7 言語の「総合案内パンフレット」の制作・配布、3 言語の「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。 昨今の来館者の増加に対応するため、快適な観覧環境の維持・向上を目的として柔軟な開館時間の設定や整理券の導入、大型看板の設置など、来館者の利便性の向上に資する取り組みを実施し	

					イドアプリ開発・制作を行った。（東博） ・御即位記念特別展「正倉院の世界」では、開館時間を 30 分早めるなど、来館者の安全を重視した柔軟なサービスの提供を心掛けた。さらに、待ち時間対策のため、整理券を導入した。（東博） ・元年度も題箋及び解説等の 4 言語（日・英・中・韓）対応を継続実施した。特別展の音声ガイドについては人気声優を起用し利用者の増加と満足度の向上を図った。名品ギャラリー（平常展）の題箋や解説等は内容を充実させ 4 言語化を推進した。館内施設のバリアフリー化も推進した。（京博） ・当館が監修し、トラりんが研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの 1 巻と 2 巻（全 4 巻予定）を発売した。また、当館収蔵品等をモチーフに、新たに絵葉書、鉛筆、ノートのオリジナルグッズを開発、販売した。（京博） ・正倉院展会期中に無料の託児室を開設し、保育士 2 人が常駐して満 1 歳児から未就学児まで、2 時間以内の預かりを実施した。日本国内のみならず海外からの来館者にも利用され、託児数 121 人の利用があった。また、名品展、特別展では、4 言語の音声ガイドを提供し、題箋の作品名、技法、時代等の情報については、全て 4 言語で提供した。音声ガイドについては、音声ガイドスクリプト（日・英・中・韓）の設置や骨伝導イヤホンを使用した音声ガイドの貸し出しを行い、貸出台数実績は 67,512 台と堅調に増加した。（奈良博） ・通年で記述式のアンケートを実施するとともに、複数回にわたって対面式のアンケートを実施した。外国人観光客を含む来館者から寄せられた意見を館内で共有・検討し、改善に努めた。（奈良博） ・エントランスホールから展示室への誘導をより分かりやすくするため、ホール正面の壁に案内パナーを設置した。その他のホール内の案内サインについても整理・見直しを進め、ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた案内看板を作成、設置した。 （九博） ・ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議の上、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品の提供のほか、カフェのドリンクメニューの追加など、サービス向上に努めた。また、アンテナショップ「九州国立博物	た。 京都国立博物館では、快適な観覧環境の提供を行うべく、博物館内の施設のバリアフリー化を実施した。題箋を含め各種表示の多言語化を充実させることで外国人来館者に対する観覧環境を向上させることに努めた。名品ギャラリー（平常展）案内サイン等についても視認性を高めるように努め、幅広い層の来館者等に配慮した観覧環境を提供した。 奈良国立博物館では、無料託児室の設置は利用者から好評を得ており、元年度の託児室利用者数は 30 年度よりも増加した。また、来館者が多く混雑が予想される展覧会については、詳細な待ち時間の速報や誘導サインの増設を行い、快適な観覧環境の確保に努めた。音声ガイドスクリプトや骨伝導イヤホンを導入し、より多くの来館者に博物館を楽しんでいただけるよう工夫することができた。 対面アンケートによってアンケート回収率が向上し、より広く来館者の意見を集めることができた。得られたアンケート結果は館内で共有した上で改善に取り組み、ミュージアムショップやレストランに関する結果についても館内で情報を共有した。 九州国立博物館では、ユニバーサルデザイン、5 言語（日・英・中（簡・繁）・韓）を取り入れた館内案内看板を設置する等、来館者に対する快適な観覧環境を向上させることができた。 オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努めたことで売上にも貢献することができた。	

				館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努めた。（九博） ・太宰府天満宮のイベントに合わせ、臨時の夜間開館を実施した。（九博）	**＜課題と対応＞** 混雑対策については、引き続き検討を重ね、観覧環境の向上に努めていく。	
（3）教育普及活動等 講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に努めること。 講演会等のほか，体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により，幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供すること。 その他教育普及活動として，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組に努めること。 ①教育普及活動の充実	（3）教育・普及活動 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。 ①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。 なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 1）学習機会の提供 2）ボランティア活動の支援 3）大学との連携事業等の実施 4）国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	（3）教育・普及活動 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。また、日本博事業において訪日外国人を含めた多くの来館者への教育普及事業に取り組む。 ①教育活動の充実等 1）学習機会の提供 2）ボランティア活動の支援 3）大学との連携事業等の実施 4）国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 5）博物館支援者増加への取組	【中期目標・計画上の評価指標】 ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・（関連指標）講演会等の参加者数 ・（関連指標）児童生徒を対象とした教育普及活動の実施実績 【中期目標・計画上の評価指標】 ・（関連指標）ボランティアの受入人数 【中期目標・計画上の評価指標】 ・（関連指標）大学生、大学院生を対象とした教育普及活動の実施実績	**＜主要な業務実績＞** ○学習機会の提供 特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ガイドツアー、体験型プログラムなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。（4 館） ・講演会の参加者数　23,099 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・キャンパスメンバーズ加入校数 142 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・ボランティアに対する研修を行った。人数内訳はアウトプット情報を参照 ・保存修理事業者を対象とした研修会を実施した。（4 館） ・友の会・パスポート会員等の加入を促進した。（4 館）　内訳はアウトプット情報を参照 ・インターンシップの受け入れを行った。（4 館）	**＜評定と根拠＞** 当機構では講座・講演会をはじめ、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなど多様なプログラムを各館で提供した。 講演会回数は東博、京博、奈良博、九博で計画値がそれぞれ 128、26、28、90（回）のところ、97、28、25、69（回）であった。コロナウイルス感染拡大防止対策のため予定していた講演会等が中止になったこともあり、開催回数のみを見れば目標を下回っている館もあるが、対象者を広げるためのプログラムの開発等を進めるなど将来につながる機会を作ることができている。 キャンパスメンバーズの加入校数については、継続的な取組みの結果、前年度 139 校のところ 142 校と加入校を増やすことが出来た。 ボランティアについては教育活動を行い、その活動を継続して支援した。ボランティア数は 30 年度 867 人のところ、838 人になった。 賛助会等加入件数については、順調に加入者数が増え、支援者の増加となっている。また、パスポートについては、29 年度新設された国立博物館メンバーズパスも順調に増加している。	

	5)博物館支援者増加への取組				企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげた。 大学との連携事業等については、各種の事業を継続して実施している。	
				・企業等との連携や共同研究プロジェクトの締結を引き続き行い、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。30 年度に締結したキヤノン株式会社、凸版印刷株式会社とは契約を継続し、新たにシャープ株式会社との共同研究プロジェクトを締結した。（文化財活用センター） ・「国宝 聖徳太子絵伝」の高精細画像を使用した映像による作品鑑賞コンテンツの英語対応の改修を行ったほか、「法隆寺献納宝物 伎楽面 迦楼羅・呉女」、着付け体験用の小袖・振袖（「見返美人図 菱川師宣筆」に描かれるきものと帯、「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆」、「重要文化財 振袖 白綾地衝立鷹模様」）の復元模造、「重要文化財 風神雷神図・夏秋草図屏風」「国宝 花下遊楽図屏風」「見返り美人図」の高精細複製品を制作した。「伎楽装束 裳・袍」は引き続いて制作を行い、そのほか「重要文化財 遮光器土偶」「みみずく土偶」のハンズオンレプリカ、日本文化を紹介する映像コンテンツの制作を開始した。（文化財活用センター） ・開発したコンテンツを体験型展示に活用し全国に巡回することで文化財への理解を深める機会を各地で提供したほか、企業等への高精細複製品貸出事業や、教育機関を対象とした複製品による教育プログラム事業を実施し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。（文化財活用センター）	文化財活用センターでは、企業と連携したレプリカの開発、アウトリーチによる活用、体験型展示の開発と地方巡回等、文化財に親しむ機会を創出すると共に活用の枠組を広げることができた。 30年度開催した企画展示「なりきり美術館」を、九州国立博物館（8月6日～10月14日）と、富山県美術館（8月10日～10月20日）2か所で開催し、九州国立博物館では会期中（62日間）88,214人、富山県美術館では会期中（60日間）33,140人の入場者がコンテンツを体験した。 ８ｋで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』（10月29日～11月24日/27日間）を開催し、19,293人がコンテンツを体験した。満足度調査では87.8%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
				・総合文化展を中心とした展示や、作品に関連したプログラム等を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。特集「親と子のギャラリー　日本のよろい！」では、収蔵品の甲冑と共によろいの各パーツの制作見本を展示し、日本のよろいの種類や構造をわかりやすく示した。また、セットで体験してもらうよう日本文化体験スペース「日本のよろい！」を階下（特別４室）に設け、ハンズオン展示やよろい着用イベントを通じ、来館者の体験と理解をさらに深めることを目指した。（東博） ・元年度も学校との連携事業を計画通り実施した。スクールプログラムは学年、人数、目的に応じた15のコースを設け、パンフレット、ウェブサイト、教員研修の場で告知し、ウェブサイト、ファックスで申込を受け付けた。児童・生徒の鑑賞体験の充実に寄与し、日本・アジアの伝統文化への関心を高め、理解を促した。（東博） ・元年度は159人のボランティアを受け入れた。ボランティア活動支援のため、研修会、解説会、マニュアル作成などを引き続き行った。特に、元年度からはボランティアが各自でマニュアルを活用しやすいように、オリジナルのファイルを作成して配布した。（東博） ・上野「文化の杜」新構想に基づき、上野全体の共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行や講演会、コンサートを実施した。（東博）	東京国立博物館では、体験型プログラムを589回実施(332,209人参加)し、年度計画を順調に達成している。加えて元年度夏休み時期の親と子のギャラリーは入場者が14万人を超えた。参加体験型展示に関する調査研究という点でも良い事例となった。 174校6,049人（小学校19校692人、中学校98校3,174人、高校57校2,183人）のスクールプログラム、24校76人の職場体験の受入れなど、学校との連携事業を幅広くかつ順調に実施し、年度計画を達成している。職場体験の申込方法を変更し、ウェブサイト上のフォーム申込を加えたことで、申込数の増加につながった。 イベント時のボランティア支援により、「博物館でアジアの旅」において、アジアとのかかわりに焦点をあてた街歩きツアー、本館ハイライトツアー、「キッズデー」における子ども対象の東洋館ツアー、法隆寺宝物館ガイドなど、新たなガイドを実施したことで、参加対象や内容の充実につながった。 上野文化の杜の事業として、国立西洋美術館との連携企画の実施、研究員の顔が見えるコンテンツへの協力など、上野地区での認知度向上を積極的に実施することができた。
				・「さわって発見！ミュージアム・カート」（113日・概算45,477人参加）、特別展関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」（51日・3,896人、解説プリント11,200部・4言語）、「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」（37日・5,662人、解説プリント10,600部・4言語）、特集展示「赤ってじつはどんな色？」（37日・38,963人）を実施した。（京博） ・「文化財に親しむ授業」（7回・683人）、「文化財に親しむ授業スペシャル！」（4回・84人）を実施、リーフレット（3,000部・4言語）を刊行した。また、「記者体験 in 京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1回・134人）に協力した。（京博） ・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会（4日）を実施した。京博ナビゲーターは平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにてボランティア活動を行った。特別展期間中はワークショップを毎日実施し、計9,558人の参加があった。また、文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（21名）に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。（京博）	京都国立博物館では、入門的な特集展示の実施、多言語化の推進に加え、ICOM京都大会関連のイベント開催など、柔軟な姿勢で様々な教育プログラムを実施することができた。入門的な特集展示「赤ってじつはどんな色？」では、関連ギャラリートークだけでなく30年度の活動を踏まえ、4言語のワークシートを京博ナビゲーターの活動と連携させることで、さらなる展示理解・参加者の満足度の向上を促した。さらに元年度はICOM京都大会に関連した２つのイベント（文化財に親しむ授業スペシャル！、記者体験 in 京都国立博物館）を新規に実施し、多くの子ども達に文化財に親しむ機会を提供できた。 年度計画に基づき教育普及補助活動の充実を図ることができた。ボランティアは30年度と同程度の人数255人を受け入れた。元年度は文化財ソムリエが例年の活動にはなかったICOM京都大会関連の２つのイベント（文化財に親しむ授業スペシャル！、記者体験 in 京都国立博物館）で新しい作品を題材にした鑑賞会を行った。また京博ナビゲーターは、特集展示の４言語ワークシートと連動した活動を新規に行うなど、活動内容の面で充実を図ることができた。
				・奈良市教育委員会との連携事業による世界遺産学習の一環として、仏像館見学や仏像クイズを通じて地域の文化遺産について親子で学ぶＥＳＤ（持続発展教育）プログラム「親子で学ぼう奈良の仏像」を7月24日・25日に実施した。わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関連した事業として、親子による絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつえん」が開催され、関連事業の絵本づくりワークショップと合わせて、子供が楽しく美術に親しむ場を提供することができた。また、世界遺産学習を実施することで、地	奈良国立博物館では、30年度に引き続き、奈良市教育委員会との連携事業であるＥＳＤプログラムや展覧会に関連したワークショップ等を実施した。特に元年度の夏は、親子での鑑賞を意識したわくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」が開催され、関連事業の絵本づくりワークショップと合わせて、子供が楽しく美術に親しむ場を提供することができた。また、世界遺産学習を実施することで、地

					うぶつ」を奈良教育大学との連携事業として 8 月 17 日に実施した。地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品の画像を公開し、当館の収蔵品について紹介した。地下回廊で仏像模型及びパネルを引き続き設置し、文化財に関する情報を公開した。（奈良博） ・年度当初の計画のもと、研究員によるボランティア対象の研修を計 14 回、ボランティア同士での勉強会を計 31 回実施し、ボランティアによる解説の資質向上に努めた。また、それらの研修や勉強会による学習を生かし、展示室内におけるデスク活動を計 2,122 回、なら仏像館においてツアー解説を計 494 回、そして庭園案内ガイドを計 5 回実施した。さらには学校団体を計 34 校受け入れた。（奈良博） ・キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」を 8 月 17 日に実施し 37 人の参加があった。（奈良博） ・展示への理解を深めることを目的として、研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を日中と夜間に週変わりで行った。「夜のミュージアムトーク」は、ハンズオンの資料等を用い、様々な年齢層に親しみやすい内容で行った（実施回数：昼 25 回、夜 22 回　参加人数：昼 815 人、夜 678 人）。また、潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施した（活動回数：14 回）。古代染め、古代食作り、古代のムラ作りなどを行い、活動発表として「古代の宴へようこそ！」を実施、一般にも広く考古学の楽しさを伝えるイベントを実施した。また、活動記録をまとめた冊子「女子的考古学のススメを製作した。（九博） ・アウトリーチ活動として「きゅーはくきゃらばん」を 26 回実施した。当館所有の体験型コンテンツを中心に、新規に開発したプログラムも提供した。国立淡路青少年自然の家、横浜高島屋や兵庫県立考古博物館、玄海少年自然の家などでワークショップを実施し、うち 11 回は、元年度に寄贈された移動博物館車「きゅーはく号」により熊本県立装飾古墳館、長崎歴史文化博物館、朝倉市民センターなどで楽器体験等を実施した。（九博）	域の文化遺産や仏教美術等についての理解促進に貢献することができた。 ボランティアによる作品や庭園等の案内等の教育事業を継続的に実施し、来館者への教育の充実を図った。さらに元年度は、名品展に加え、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内においても、ボランティアが計 326 回の活動を行うなど、教育普及をより強化できた。 キャンパスメンバーズである大学との連携事業は、大学の教育プログラムとして毎年実績を重ねることにより、歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができた。 九州国立博物館では、講演会、ミュージアムトーク等、教育普及活動を継続して実施できた。新たな取組みとして、文化交流展（平常展）・特別展の双方において、障がい者に対応したプログラムを開発・実施し、教育普及の対象を広げることができた。 元年度から導入された博物館車「きゅーはく号」を活用したアウトリーチ活動に積極的に取り組んだ。博物館車のメリットを活かしたワークショップの在り方をを模索し、体験活動を質・量ともに充実させることができた。 **＜課題と対応＞** 29 年度より新たに導入した会員制度「国立博物館メンバーズパス」及び「メンバーズプレミアムパス」「プレミアムカード」について、引き続き周知を行い、さらなる会員の増加、リピーターの拡大を図る必要がある。	

	②有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信と広報の充実 展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報に努めるとともに，ウェブサイトにおいて収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図ること	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。 1）有形文化財に関する情報の発信 2）資料の収集と公開 3）広報活動の充実	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1）有形文化財に関する情報の発信 2）資料の収集と公開 3）広報活動の充実 3）-1 広報計画の策定と情報提供 3）-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3）-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実	〈主な定量的指標〉 ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉 ・　国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施などに戦略的に取り組み，ウェブサイトのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	**＜主要な業務実績＞** ・調査研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開した。（4 館） ・年間スケジュールリーフレットを制作し、送付及び館内配布した。（4 館） ・ColBase について所蔵品データの修正や画像の追加を行い（画像追加 6,349 枚）、画像の高精細化に国指定品から着手した（347 件分掲載済み）。さらに、2 年 1 月には改修を行い、対象に奈良文化財研究所を加えたほか、各館の公開データベースのデータを ColBase に定期的に自動で取り込む機能を追加して、作業の効率化を図り、最新のデータを迅速に反映させるようにした。また、画面デザインを変更し、より見やすく機能的にするとともに、音声等、画像以外のデジタルデータを登録できるようにした。（文化財活用センター・東博） ・e 国宝の維持管理を行った。2 年 10 月のリニューアルを目指し、平成 22 年以降の指定品のデータの追加を準備したほか、解説文、多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。（文化財活用センター・東博） ・文化財活用センターウェブサイトをリニューアルオープン（4 月 24 日）し、利用者にとって必要な情報が探しやすいよう、サイトデザインや機能を一新した。あわせてロゴマークを制作した。また、ぶんかつブログを開始し、2 年 3 月末現在までに 30 本の記事を掲載した。（文化財活用センター） ・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,840 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。国立国会図書館のレファレンス協同データベースに参加した。データを蓄積することにより、レファレ	**＜評定と根拠＞** 当機構では、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。 各館ウェブサイトアクセス件数合計は前中期期間目標値は合計 15,131,386 件のところ、元年度は合計 16,937,495 件にも上り、各館とも目標を大幅に超えた。 広報については、各館ともキャラクター（東博・京博）や文化大使（京博・奈良博）などを用い、また、アンテナショップからの情報発信（九博）など多様なメディアを通して積極的に行っている。 YouTube やツイッター等を利用し、効果的に広報した。（4 館） 文化財活用センター及び東京国立博物館では、ColBase 及び e 国宝を適切に維持管理し、ColBase の改修を実施した。 文化財活用センターでは、ウェブサイトリニューアルに加えて、SNS を活用した情報発信や、文化財活用センターロゴマークの制作と活用など、中期計画通りに積極的な広報を行うことができた。 東京国立博物館では、外部の大学図書館等の間での文献複写サービスを継続して行い、館内外における利便性が向上した。また収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。 公式キャラクターについては、キッズデー、トーハクビアナイトなど適正な時機に登場し、来館者が博物館に親しんでいただけるよう活動したほか、「群馬古墳フェスタ」イベントに参加するなど、公式キャラクターを活用した広報活動を充分に行うことができた。	

					ンスサービスの拡充と広報に資することができた（2,801 件登録）。ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外）、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。（東博） ・広報大使として公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を活用、キッズデーなどイベント開催時を中心に登場して館内で来館者と触れ合うほか、博物館外でのイベントに参加、広報活動に努めた。公式キャラクターを用いた LINE スタンプを制作を開始し、2 年度に完成、有料販売する予定で進めている。（東博） ・新型コロナウィルス感染防止のため閉室となった展示のうち、特集「おひなさまと日本の人形」などについて、展覧会場内で研究員が解説する動画を制作、「オンラインギャラリーツアー」と題し You Tube にて公開した。SNS では高評価のコメントが多数寄せられ、休館中の取り組みとして多くのメディアに掲載された。（東博） ・上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイト、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベント情報の広報を積極的に実施した。（東博）		
					・ICOM 京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―」では、通常のポスター・チラシに加えて、英・中（簡・繁）・韓対応のチラシ、うちわ型のチラシを製作した。図録についても 4 言語（日、英、中、韓）で作品解説を付した。（京博） ・公式キャラクターを活用し、当館の収蔵作品について研究員が平易な言葉で日本美術を紹介する「トラりんと学ぶ日本美術」（淡交社）の監修を行った。（京博） ・ウェブサイトアクセス件数は、4,948,829 件であり目標値を大幅に上回ることができた。件数は国宝展に次ぐ値となった。（京博）	京都国立博物館では、定期刊行物の作成及び年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を充分に行うことができた。また、外国人観光客を意識したチラシの製作や、公式キャラクターを活用した刊行物を監修するなど、当館の認知度が向上できた。また、公式キャラクターを活用して各種施設やイベントへ出演、ブログやツイッターでも継続して情報発信するなど、当館に馴染みのない層へも PR できた。	
					・収蔵品データベースの充実をはかり、画像データの登録件数増加に注力した。また、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開について、2 年度もしくは 3 年度の公開を目指し準備を進めた。翻訳担当者の協力を得て基礎情報の翻訳を行い、テストサイトの構築まで進めることができた。（奈良博） ・図書管理システムのクラウド化を実施し、情報基盤の整備と安定稼働に力を入れた。（奈良博） ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの	奈良国立博物館では、デジタル撮影、既存原板のデジタル化、データベースへの登録件数ともに例年に準じた成果をあげることができた。中国語・韓国語版収蔵品データベースの公開に向けて、順当に作業を進めている点も評価できる。 「いのりの世界のどうぶつえん」では奈良県下等の小中学校の全生徒へチラシを配布する等、積極的な広報活動を行った。	

					の世界のどうぶつえん」では、ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」を 4 言語（日・英・中・韓）で制作・配布した。（奈良博）		
					・既存の広報展開先に加え、佐賀空港や JR 九州（長崎・鹿児島）、市内ホテル及び県内書店などと連携し特別展広報を実施した。ポスター・チラシ・ウェブコンテンツのほか、参道フラッグやアンテナショップの日除け幕等を活用し、積極的な情報発信を図った。また、アンテナショップ入り口に特集展示バナーを設置し、太宰府天満宮参拝客への展覧会 PR を図った。（九博） ・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」に当館の情報を掲載したり、九州観光推進機構が主催する「九州インバウンド商談会」で当館のチラシを配布する等、海外への広報・営業活動を展開した。古都太宰府ナイトエリア創出委員会や九州国立博物館を愛する会と「花菖蒲コンサート」等の地域連携イベントを実施し、広報活動の充実を図った。（九博） ・リアルタイムな展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。また、リアルタイムな展示・イベント情報等のメールマガジンを月 2 回配信した。ウェブサイトの 4 言語（日・英・中・韓）について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、工夫した情報発信を行った。（九博）	九州国立博物館では、既存の広報先だけでなく、空港や駅などの利用者を対象とした広報活動を展開させた。特に国際線の就航している空港や旅行者が利用する駅やホテルなど、インバウンドを見込んだ情報提供を行い、計画を達成することができた。 元年度も引き続き、ポスター・チラシなどの制作や活用を行ったほか、夜間開館に合わせ、「太宰府古都の光」等、古都太宰府ナイトエリア創出委員会によるイベントを実施した。近隣地域の諸団体と連携したイベントを実施したことで、夜間開館の周知を図ることができた。 ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、駐車場の満車状況をリアルタイムに案内するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信ができた。その他、30 年度に引き続きウェブサイトのアクセス数、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。	
					・ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数（アウトプット情報を参照）の向上を図った。（アクセス件数：16,937,495 件） ・SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行った。（4 館）	**＜課題と対応＞** ColBase については、引き続きシステムを維持するとともに、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続する。 e 国宝については、利便性やデータの品質改善を含めたシステムの更新を行う。	

	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財の保存と活用を推進するとともに、次代へ継承し、我が国の文化の向上に資するため、以下の調査研究を行い、展覧事業・教育活動等並びに定期刊行物等において、その成果を発信する。 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 2）特別展等の開催に伴う調査研究 3）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究 1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 2）博物館情報、文化財情報に関する調査研究	【指標】 なし	**＜主要な業務実績＞** ・各博物館とも、有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究を実施することができた。 ・特別調査（「法隆寺献納宝物」（第41次）、「書跡」第17回、「工芸」第11回、「彫刻」第9回、「絵画」第4回）（東博） 研究員による意見交換や調査等を行った。特別調査「絵画」第4回では、当館所蔵の儒教関係絵画について、機構内外の複数の研究者で調査した。国立4館から専門研究者16名が参加した。儒教美術をテーマとする研究者と共同開催したことによって、テーマごとに類別して把握しやすくできた。儒教絵画の主題となっている内容について制作年代や環境などを考えるための手掛かりとなる知見を得られた。 ・特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究（東博） 平成館企画展示室にて特集を開催し、本テーマに沿う列品35件を展示した。本特集にあたり、通常では陳列されない作品の調査を行い、その成果を踏まえて展示作品を精選したことで、展示作品のレベルの向上、より分かりやすい展示に資することができた。その結果、展示作品の見どころを紹介したリーフレットの作成や、通常の解説では分かりにくいさまざまな宮中儀礼の解説パネルを作成し、理解の促進を図ることができた。 ・近畿地区社寺文化財の調査研究（京博） 元年度は、大阪南部河内地域の社寺調査4年計画最終年度にあたり、河内長野市に所在する観心寺において第4、第5回目の悉皆調査、八尾市に所在する教興寺、河南町に所在する高貴寺において彫刻作品の調査を行った。また、28～30年度に行った金	**＜評定と根拠＞** 当機構では、有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。 ・特別調査「絵画」第4回では、特定の分野や主題を集中的に調査することで、普段のなかでは得られない多角度からの意見や知見を得られ、今後の基礎情報の整備や展示活用の面でとても有意義な成果を得た。（東博） ・特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究では、元年は上皇陛下のご退位に続き、天皇陛下の即位という歴史的な年となり、こうした機会に普段は接することのない天皇と宮中儀礼をテーマとしたことは非常に意義のあるものである。本特集出品作の中には、即位礼や大嘗祭で用いられる高御座、御帳台、また実際の儀式が行われた悠紀殿、主基殿を描いた作品もあり、展示作品から確認する機会が提供できた。会期後半の高御座の一般観覧とあわせ、作品への理解が深められた。（東博） ・河内地域の仏教文化と歴史に関して科学研究費助成事業に申請し、それに基づく調査研究を実施した。本事業は4年計画であり、各年度とも1ヶ所以上の寺院を当該地域から選択し、全研究員参加による悉皆調査を行った。元年度は当初予定の観心寺に加え、教興寺、高貴寺の2カ寺において彫刻を中心に調査を行うこと	

					剛寺における社寺調査の成果を、科学研究費補助金［基盤研究（A）］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究〈金剛寺編〉』として、30～元年度に行った観心寺における社寺調査の成果を、科学研究費補助金［基盤研究（A）］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究〈観心寺編〉』として公表した。	ができた。また、これまでの調査成果を2冊の報告書というかたちでまとめることができた。（京博） ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究では、調査の成果は、元年度発行の刊行物や展示に反映された。特に元年度は、特別展、特別陳列で奈良に関係のある彫刻を数多く展示することができ、その調査過程で判明した新事実を図録や講座等で積極的に公表することができた。 元年度中に行われた調査で得られた知見や、撮影された写真は、2年度以降に開催の特別展や特別陳列、あるいは講座等に反映させる予定である。（奈良博）
					・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（奈良博） 南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、Ｘ線ＣＴ等の光学的手法による調査を行った。館蔵の二十八部衆像、東寿院阿弥陀如来立像、出光美術館木造地蔵菩薩立像等についてはＣＴスキャン調査を行い、目視では確認不可能な構造の把握や、像内納入品の存在など多くの新知見を得ることができた。また、当館が長年行ってきた写真資料の蓄積についても、高精細デジタル画像撮影を行い、多くの成果が得られた。さらに、大阪・藤田美術館木造空也上人立像については、調査の過程で、イギリス王室が所有する古写真（ロイヤル・コレクション・トラスト管理）の中に本像を写したものがあることが判明し、本像がかつて奈良に所在し、明治時代の奈良博覧大会とも関連が推測される貴重な品であることが判明した。	
					・特別陳列「お ん祭と春日信仰の美術〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究（奈良博） 京都府立京都学・歴彩館が所蔵する原家寄贈資料の一部について詳しい調査を行い、本年の特集テーマにふさわしい作品を選定した。また、京都の原家に伝えられた春日大社の式年造替に関連する資料の一部は春日大社にも奉納されており、これに含まれる未紹介の史料や絵画粉本類の調査や関連する春日大社所蔵粉本類もあわせて調査した。この調査成果により、元年度の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の特集テーマ「春日大社にまつわる絵師たち」にふさわしい作品を選定でき、大変充実した特別陳列にすることができた。また、従来未紹介であった春日大社所蔵の資料を多数展示し、広く紹介することができた。	・特別陳列「お ん祭と春日信仰の美術〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究では、本展は春日大社の伝統行事「春日若宮おん祭」を紹介する例年の展覧会であるが、本年はおん祭を描いた絵画を集めて展示するとともに、これまでの研究で紹介されることのなかった、江戸時代に式年造替に関わった絵師に関する資料群の調査を行い、その存在を評価し、展示を通じて広く公表することができた。例年、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、祭礼の一部を取り上げてテーマ設定がなされることが多かったが、元年度は絵師にスポットをあてることによって、未紹介の資料を多数紹介しながら、新しい視点で展覧会を構成することができた。（奈良博）
					・特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究（九博） 資料調査では、長崎県対馬市の妙光寺所蔵の対馬市指定有形文化財「大般若波羅蜜多経」597帖について、書誌データ収集と状態の記録撮影を行	・特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究では、対馬ゆかりの渡来版経が一堂に会する機会は今までになかったが、本展においてそれが可能になった。展覧事業を通じて、研究成果をより広く、

				った。この妙光寺所蔵「大般若波羅蜜多経」に付属する経箱全 30 合の赤外線撮影も行った。また、金剛峯寺所蔵の重要文化財「高麗版大蔵経」と公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋所蔵の「碛砂版大蔵経」の調査を行った。 10 月 29 日から 12 月 22 日まで、特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」を開催した。対馬に伝来した、中国や朝鮮半島で印刷された経典（版経）を展示した。対馬に所在する渡来版経のほか、かつては対馬に所在したが、現在は島外で保管されている渡来版経もあわせて紹介した。関係各所の協力のもと、対馬ゆかりの渡来版経が一堂に会する特集展示を実施できた。	また効果的に発信できた。また、盗難や破損など対馬の文化財を取り巻く不安が残る状況のもと、対馬の渡来版経が持つ文化財の価値を多くの人々が認識できる機会となった。（九博）	
				・御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」に関する調査研究（東博） 特別展開催準備にあたって、出陳予定の作品を調査し、正倉院宝物については、「聖武天皇と光明皇后にゆかりのある宝物」「正倉院に伝わった染織品」「正倉院に伝わった香木」「正倉院の楽器」「正倉院宝物の保存活動」などの観点により調査を行った。また、当館の法隆寺献納宝物について、正倉院宝物との比較という観点で調査を行った。本展では、調査研究の成果を特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」において反映し、両宝物が守り伝えられてきた歴史を振り返り、文化財保存への関心を高めるきっかけを提供した。	・御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」に関する調査研究では、正倉院宝物と法隆寺献納宝物の、両宝物は、古代アジアにおける人々や文化の東西交流の実態をしめす世界的に貴重な文化財であり、両宝物を同時公開することは、古代の日本文化がもっていた国際性に対する理解を一層深める絶好の機会であり、このような展示は当館でしか行うことができない。本展では明治時代以降の正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、研究者のみならず、一般市民が文化財保護に対する関心を高める契機になるものとなった。（東博）	
				・特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」ほか特別展に関する調査研究（京博） 特別展開催のため、散逸する佐竹本三十六歌仙絵各断簡の捜索・出品交渉を行った。出品が決定したものについては、図録等印刷物掲載のための新規撮影や、作品調査を行った。また、一部については先行集術のうえ、館内の科学分析機器による詳細な調査を実施した。 佐竹本三十六歌仙絵が一般向けの展観として最も多く集まったのは 1986 年の 20 件であったが、今回はこれをはるかにしのぐ 31 件が集結した。絵はもちろんのこと、分割によって付された各断簡の表具を一度に鑑賞することができるまたとない機会となった。 図録には各断簡の法量等データ・作品解説のほか、新規撮影を多く実施して表具を含む全図写真を掲載した。佐竹本三十六歌仙絵がこれだけの規模で集結する機会は将来数十年にわたって見込まれないことを考えると、この図録は展覧会時の基礎情	・特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」ほか特別展に関する調査研究では、本展は佐竹本三十六歌仙絵が分割されてから 100 年という節目に開催したもので、広報への注力も奏功して多くの人々の関心を呼び、目標数（8 万人）を大きく超える約 13 万 7000 人の来場者を迎えることができた。このたびの展覧会では、佐竹本三十六歌仙絵を伝えてきた茶の湯文化の豊かさを知らしめることに成功した。 佐竹本三十六歌仙絵それ自体の作品研究を進め、これに関連する書画の展示を行うことによって、その絵画史上／書道史上／和歌文学史上の高い価値を再認識することができた。各分野の研究者の関心も高く、今後佐竹本三十六歌仙絵を通した中世王朝文化の学際的な研究が進むことが期待される。また、改元直後の展覧会ということもあり、一般来場者が王朝文化への興味をさらに増す機会ともなったといえるが、王朝文化が息づく京都に位置する当館から研究成果を発信した意義もここに認められ	

				報を後世に伝える貴重な研究文献になった。 佐竹本三十六歌仙絵のうち、「小大君」（大和文華館蔵）・「藤原高光」（逸翁美術館蔵）・「坂上是則」（文化庁蔵）については、当館に設置された機器を利用して透過 X 線分析・蛍光 X 線調査を行い、顔料などに関する多くの新知見が得られた。また、その現場には NHK の撮影が入り、後日の番組放送によって博物館における文化財科学分析調査の実態と意義を広く発信することができた。	る。（京博）	
				・特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」に関する調査研究（九博） 室町幕府の初代足利尊氏から 15 代義昭まで、歴代将軍の栄枯盛衰と個性ある魅力に迫りつつ、南北朝時代から戦国時代にわたる 240 年間の時代と文化について紹介する特別展（会期：7 月 13 日～9 月 1 日）の準備として調査研究を実施した。30 年度までの調査研究成果や図録・文献等による情報を元に、特別展開催のための内容・構成を深化させた。調査研究に基づいて作品件数 134 件、4 章構成の特別展として結実させた。	・特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」に関する調査研究では、本特別展では室町将軍が積極的に主導した、日本と東アジアとの交流、および公家文化や大陸文化を複合した新たな美の価値観の形成について、近年の研究蓄積を踏まえて紹介するとともに、15 人の歴代将軍を切り口とすることで、室町時代の歴史と芸術文化に係る新たな展覧会を作り上げた。展示構成・空間、各種イベント、教育普及プログラム、いずれも好評を得て目標値（4 万人）を大きく上回る来館者（85,356 人）を得た。（九博）	
				・博物館教育及びボランティアに関する調査研究（京博） 本研究では、館内で活動するボランティア「京博ナビゲーター」を実例に、対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究を行った。第 1 期京博ナビゲーターに向けたアンケートの分析調査を 30 年度に引き続き行い、論文を執筆した（2 年 5 月刊行予定）。また元年度は、30 年度の活動分析を踏まえ、あらたに特集展示のワークシートと連動した取り組みを実践した。 「文化財に親しむ授業」で講師を務める大学生及び大学院生のボランティア「文化財ソムリエ」の育成に関する実践と研究を行った。元年度は ICOM 京都大会に関連したイベント「文化財に親しむ授業スペシャル！」や「記者体験 in 京都国立博物館」を実施した。これまでの研究成果を活用し、子どもや海外からの来館者を対象とした教育的な特集展示を企画立案し、実施した。	・博物館教育及びボランティアに関する調査研究では、京博ナビゲーターについては、来館者アンケートなどから、その活動が来館者の主体的な興味・関心を引き出し、博物館における効果的な教育普及活動として機能していることが確認できた。 文化財ソムリエ育成については、スクーリングなどを通じて多様なプログラムを立案・実践することにより、文化財ソムリエの主体的な参加を促し、多様で質の高い鑑賞授業を行った。 海外を含めた外部機関から視察もあり、当館の教育普及活動が国内外の機関に周知・評価を得られていることが確認できた。（京博）	
				・文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究（奈良博） デジタル撮影の安定的な稼働を目指し、撮影機材、環境、保存用ストレージ、体制等の整備を行い、多数の撮影を実施した。情報システムや公開用データベースの更新を適宜行い、情報の公開と拡充に積極的に取り組んだ。また法隆寺、国立情報学研究所との共同研究についてあらたに覚書を	・文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究では、拝観や移動、調査の機会が稀少な文化財を画像データとして蓄積し、共有可能な研究資源としていくことには大きな意義がある。学術的に重要でありながら撮影の機会を得ることが難しい文化財について、継続的に調査を実施して質の高い画像データを取得して公開に繋げていることの意味は非	

				締結し、実施した。 特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」、特別陳列「法徳寺の仏像 ―近代を旅した仏たち―」等の開催と連動して、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の文化財の撮影を行った。 「藤田美術館展」では、図録掲載のすべての作品について新規の撮影を実施し、精度の高い文化財写真の収集と公開を実現させた。 金堂壁画写真ガラス原板（法隆寺所蔵。363 枚）について、同寺が国庫補助事業により行っているデジタル化に協力し、あわせて国立情報学研究所高野研究室との共同研究により、デジタル化が完了した一部の高精細画像をもちいてデジタルコンテンツを制作した。コンテンツは特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」において一般に公開した。	常に大きい。近年では、文化財写真の黎明期を伝えるガラス乾板のデジタル化にも取り組むなど、更なる発展も視野に入れている。（奈良博）	
				・学術雑誌等への論文掲載数 256 件 内訳はアウトプット情報を参照	**＜課題と対応＞** ―	
	③国内外の博物館等との学術交流等 我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。 さらに、2019 年 ICOM 京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する	③国内外の博物館等との学術交流等 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。 4)ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 に参加し、積極的に協力する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜主要な業務実績＞** 海外研究者の招へい、研究員の海外派遣を通して、海外の博物館・研究者との交流を行った。 ・海外研究者招へい数　73 人 ・研究員派遣数　160 人 内訳はアウトプット情報を参照	**＜評定と根拠＞** 当機構では海外研究者招へい数は昨年度人数を下回ったが、研究員派遣数は例年より上回った。例年同様、海外との交流は 4 館とも活発に行った。 国際シンポジウムや国際研究セミナー等を各館で実施し、学術交流協定により、情報交換とネットワークの強化を実現している。 中国、韓国、米国、タイ等などの博物館美術館等から研究者を招聘し、専門的な内容の講演会を実施し、今後の学術協定の締結や特別展開催に向け、有意義なものとするなど、交流を推進できた。（4 館）
				・中国、韓国、欧米の博物館・美術館等から計 55 人の研究者を招へい・受け入れ、研究交流を行った。また、中国、韓国、マレーシア、イスラエル、米国、ヨーロッパなど 19 ヵ国・地域の博物館・美術館等へ研究職員を 89 人派遣し、収蔵品とその活用に関する研究及び研究交流を行った。（東博） ・文化庁支援による北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として日本美術専門家会議（2 年 1 月 31 日、東京国立博物館）及び国際シンポジウム「展示室で語る『日本美術』」（2 年 2 月 1 日、同館）を開催した。（東博） ・第 25 回 ICOM（国際博物館会議）京都大会に参加した。（東博） ・韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館等との学術交流協定に基づき、研究員の交流・派遣を行うとともに、海外での文化財調査や特別展など共	韓国国立中央博物館・中国上海博物館との協定に基づく主体的な招へいに加え、海外の優れた研究者を招聘するとともに、当館研究員を海外に派遣し研究者交流を活発化することにより、博物館活動の向上を図ることができた。 元年度で 6 度目となる北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業には 13 ヵ国 30 人の参加があった。「展示室で語る『日本美術』」というテーマのもと、欧米の研究者による日本美術に関する活発な議論が交わされ、交流を通じて相互理解を図ることができた。また、海外における日本美術展の当館クーリエ派遣などの取り組みにより海外研究者・博物館関係者との交流が進み、今後の展覧会等事業や研究交流につながっている。 さらに、外国人来館者向けに展示室のパネルや作品の多言語解説の改善を行った。（東博）
				同事業の企画・実施準備、国際会議に研究員を派遣した。（東博） ・外国人来館者に日本美術をより深く理解し、楽しんでもらうため、多言語対応担当者を継続的に海外に派遣し、各国の公私立博物館の多言語化の対応状況を調査した。特別展及び平常展において、外国語のパネルを増設や展示作品の多言語解説の改善等、外国人へのサービス向上を図った。（東博）	
				・日本博物館協会に設置された「ICOM 京都大会準備室」への職員の派遣や、大会運営のための各種委員への職員の就任等を通して、ICOM 京都大会運営に積極的に協力した。会議、国際委員会、関連プログラム等に職員を派遣し、世界の博物館関係者とネットワークを構築した。当館を会場とする各国際委員会のワークショップやオフサイトミーティング、大会エクスカーションに協力した。KYOTO 博物館子どもフォーラム実行委員会に参画し、当館での KYOTO 博物館子どもフォーラム開催に協力した。大会のクロージングセレモニーにおいて、明治古都館（本館）を閉会式場、庭園をパーティー会場として提供したほか、平成知新館では大会参加者向けに ICOM 京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝　美を守り、美を伝える」の特別鑑賞会を実施する等、開催地京都の国立博物館として大会の締め括りに尽力した。ICOM 京都大会 2019 記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来」の実行員会事務局に参画した。（京博） ・海外からの研究者 3 人を招聘した。また、研究交流及び研修等のため、職員 18 人を海外へ派遣した。（京博）	元年度も外国人招へいや海外の研究者との研究交流を行った。 ICOM 京都大会においては、人員及び会場の提供、関連イベントの実施に当たって積極的な協力を行い、開催地の国立博物館としての役割を十分に果たすことができた。さらに、前後にも ICOM 京都大会に関連したシンポジウム開催に積極的に協力した。（京博）
				・中国と韓国から研究者等 12 人を招聘し、文化財にかかる最新の研究動向や、博物館活動の現状と今後の方向性等について、情報交換した。特別展「昆沙門天」でアメリカの美術館から展示品を輸送するに際し、先方のクーリエを招聘した。また、職員のべ 33 人を諸外国に派遣し、現地の研究者と研究交流を図り、また博物館活動全般についての研修を実施した。（奈良博） ・ICOM2019 京都大会に多数の職員が参加するとともに、委員会の一つ COMCOL において 2 人が口頭報告した。また、COMCOL のプレカンファレンス（8 月 29 日～31 日）を受け入れ、会場を提供し、基調講演したほか、奈良県内の現地見学等にも同行した。 ・韓国の国立慶州博物館、中国の上海博物館及び河南博物院との間で、学術交流協定に基づいて職員を相互に派遣し、それぞれの専門分野について	学術交流協定を結ぶ海外の機関との間では相互に研究者等を派遣し、交流を図ることができた。また、2 件の海外展に全面的に協力し、クーリエや講演等で多数の研究者等を派遣し、現地での研究交流を実施できた。 ICOM 京都大会では、国際委員会の一つである COMCOL の事業に全面的に協力し、世界各国の研究者等と交流することができた。（奈良博）

					研究交流を実施した。（奈良博） ・海外の博物館・美術館等の研究者を3人招へいした。また、当機構職員2人を大韓民国国立扶餘博物館並びに国立公州博物館へ派遣し、研究交流、調査研究を行った。（九博） ・ICOM（国際博物館会議）京都大会2019へ19人が参加・協力した。 ・ストックホルムにて開催された IPM の国際コンファレンス”Integrated Pest Management for Cultural Properties”に当館の研究員2人が成果発表と情報収集のため参加した。当館開催の IPM セミナーにて、広く国内の関係者に紹介した。（九博）	職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣するなど 30 年度に引き続き計画に沿った事業を実施できた。 また、ICOM 京都大会 2019 に職員 19 人が参加し、国内外の博物館・美術館等とのネットワークを構築できた。（九博） **＜課題と対応＞** ―	
		④調査研究成果の公表 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。	④調査研究成果の公表	【指標】 ・調査研究の成果に基づき，定期刊行物等を前中期目標期間の実績以上刊行する。 【関連指標】 ・調査研究活動の成果の多様な方法による公開等の取組状況 （特別展の開催回数，テーマ別展示の開催件数，講演会等の開催回数） 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館における有形文化財に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。また展覧事業に関連し，論文等として学術的な成果物を公表することにより，広範囲の学術研究の進展にも資することができることから，関連指標として特別展，テーマ別展示，講演会等の開催回数若しくは件数を設定する。	**＜主要な業務実績＞** 博物館における調査研究成果の発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行した。 ・紀要、『MUSEUM』、『博物館ニュース』等の定期刊行物15件を刊行するとともに、文化財修理報告等を計画どおり刊行することができた。また、ハンドブック改訂版の制作や、特集展示の刊行物を増やすことで充実した情報を提供することができた。（東博） ・「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開し、加えて、特集印刷物リーフレットの PDF ファイル版をウェブサイトに掲載することで、さらなる情報公開に努めた。（東博） ・研究紀要 3 冊ほか定期刊行物を発行した。その他、特別展覧会等図録を2冊、特別企画にて 1 冊刊行した。（京博） ・『京都国立博物館寄託の名宝　美を守り、美を伝える』は、特別企画に関連した図録であると同時に、28 年ぶりに寄託の名品を紹介する収蔵品目録でもある。当館研究員が編集及び執筆を行っていることに加え、日本語・英語・中国語・韓国語を併記した意欲的な図書となった。（京博） ・研究紀要『鹿園雑集』21 号(4 月 30 日	**＜評定と根拠＞** 当機構では、研究紀要、展覧会図録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等について、多数刊行し、調査研究成果の公表を順調に行った。（4館）定期刊行物は 4 館合計で目標 37 件のところ、39 件と目標値を上回る刊行ができた。 テーマ別展示の開催件数も 4 館合計で 30 年度 50 件のところ、37 件であった。講演会等の開催回数は 4 館合計で 30 年度 303 回のところ、219 回となった。 印刷物 PDF ファイル版のウェブサイト公開等の取り組みを行った。（4館） 東京国立博物館では、究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などを順調に刊行するとともに、展覧会に合わせて『東京国立博物館セレクション小袖』の日本語版と英語版を出すことで、内外の来館者からの要望が高い出版物を刊行し、販売部数を伸ばすことができた。また、ウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信を行うことができた。 京都国立博物館では、計画的に定期刊行物を発行し、博物館活動の周知に貢献した。 『学叢』には、館蔵品、寄託品の調査に関する論文や作品解析などによる研究結果の紹介も含まれている。また、特別企画の図録は、最新の研究成果を盛り込むとともに多言語対応をし、充実した内容となるよう心掛けた。 奈良国立博物館では、文化財研究の成	

					刊行）を刊行し、併せて当館ウェブサイト及び奈良国立博物館リポジトリに PDF 形式で掲載することで、研究成果を広く公表した。（奈良博） ・東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査に関する報告書『信貴山 朝護孫子寺蔵国宝　信貴山縁起絵巻 調査研究報告書ー研究・資料編ー』を元年度末に刊行した。（奈良博） ・当館の文化財修理の報告として、『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第 1 号を刊行 (6 月 30 日) した。（奈良博） ・研究紀要『東風西声』第 15 号を刊行した（部数 950 部）。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第 2 号（発行部数 750 部）を編集、刊行した。（九博） ・『九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館所蔵品、当館経費で修理を行った当館以外の国立博物館等所蔵文化財、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財について、修理に関する記録をまとめたものである。第 2 号では、18 年度から 20 年度までの文化財修理を対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。（九博）	果を研究紀要『鹿園雑集』21 号として刊行、報告するとともに、ウェブサイト及びリポジトリでの公開を実施した。また、これまで『鹿園雑集』の一部として報告していた文化財修理事業について、30 年度から編集・準備をしてきた『奈良国立博物館 文化財保存修理所修理報告書』として単独で刊行することができた。第 1 号を刊行、美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等に送付し、当館の文化財修理事業について広く伝えることができ、より充実した内容を報告できるようになった。 その他定期刊行物についても、例年以上に公開することができた。 九州国立博物館では、研究紀要や図録等を刊行し、調査研究の成果を報告できた。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第 2 号も予定通り刊行し、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財の修理に関する記録を公開することができた。 **＜課題と対応＞** ―	
（5）国内外の博物館活動への寄与 国内外からの博物館等からの有形文化財（美術工芸品）の貸与等の依頼に対し，国宝・重要文化財の場合は文化財保護法の規定にのっとり適切に対処するとともに，各文化財の保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し，積極的に応じること	（5）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。	（5）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与に関する取組状況（有形文化財（美術工芸品）の貸与件数） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与については，適切な保管・展示環境が維持されることを必要条件とし，さらに国宝・重要文化財について	**＜主要な業務実績＞** 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数　1,488 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、5 機関に 71 件の作品を貸与した。 ・国内の博物館等 116 機関に 864 件の作品を貸与した。長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。大規模貸与事業として高岡市美術館「明治金工の威風 ―高岡の名品、同時代の名工」	**＜評定と根拠＞** 当機構では、貸与先からの要請に博物館 4 館が積極的に対応した結果、文化財の貸与件数は、昨年度は合計 1,858 件のところ 1,488 件であった。海外への貸与も行った。 貸与先の環境と作品の状態を確認し、収蔵品の保存状況に配慮し貸出を行っている。 東京国立博物館では、国内外の博物館等 130 機関に 954 件の作品を貸与した。貸与促進事業も順調に推移し、全体としてほぼ例年なみの貸与を行うことができ、内外の博物館の展示の充実に寄与することができた。	

				は，法令等にのっとり文化庁の許可等が必要であるため，依頼内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ貸与に関する目標値を設定することになじまないため，貸与件数をモニタリングし評価する。	に32件を貸与し、小規模貸与事業として三重県立美術館「没後200年記念 増山雪斎展」に10件、三内丸山遺跡センター「あおもり土偶展」に5件、キリシタン関係遺品特化型貸与事業として、大分県立先哲史料館「RWC2019記念・開館25周年記念 大分のキリスト教史」に17件、千葉県立美術館「令和元年度アート・コレクション＋近代洋画の先駆者　浅井忠 11―トーハクの名画がやってきた！」に7件を貸与した。（東博） ・海外の博物館等14機関に90件の作品を貸与した。米国・メトロポリタン美術館「源氏物語の世界」展に5件、中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵文物精品」展に12件、米国・クリーブランド美術館「神ー日本美術における神性の発見」展に1件、米国・ナショナル・ギャラリー・オブ・アート「日本美術に見る動物の姿 The Life of Animals in Japanese Art」展に28件、中国国家博物館「アジア文明連合展覧会」展に11件、中国・上海博物館「十五世紀中期景徳鎮磁器」展に2件、中国・故宮博物院「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展に8件、米国・ロサンゼルス・カウンティ美術館「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展に3件、英国・大英博物館「Nara: sacred images from early Japan(奈良―日本の信仰と美のはじまり)」展に2件、中国・浙江省博物館「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展に8件、韓国・国立中央博物館特別展「加耶本性ー剣と弦」展に4件、中国・蘇州博物館「須静観止ー蘇州潘氏の収蔵」展に2件、ヴィクトリア&アルバート博物館「Kimono: Kyoto to Catwalk」に2件を貸与した。（東博）		
					・国内外あわせ61機関（機関は延べ件数）に対し、計348件の収蔵品・寄託品貸与を行った。元年度より新たに兵庫県立考古博物館、たつの市立龍野歴史文化資料館、鳥取県立博物館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。 収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら先方の要望に応じた。具体的な例としては、館蔵品である「流水に帆両絵小鼓胴」をICOM 京都大会の開会式において能「石橋」を演ずるに際し、大倉流小鼓方16世宗家・大倉源次郎氏が使用するために貸与する事で、大会の成功に貢献する事ができた。（京博）	京都国立博物館では、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品・寄託品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。 また、元年度より考古資料の相互貸借事業を実施し、各地域で出土した作品を各地域にある博物館にて展示させる事ができた。	
					・収蔵品と寄託品を国内合わせて32の機関に計136件の貸出を行った。文化財活用センターの進める文化財貸与事業の規定整備に協力し、列品貸与のスムーズな仕組みを整えた。京都府立山城郷土資料館、大阪大学総合学術博物館、茨城県立歴史館及び群馬県立歴史博物館と考古資料の相互貸借事業を実施した。（奈良博）	奈良国立博物館では、作品の貸与件数は例年に劣らず良好であり、各地の博物館・美術館の展覧会に大きく貢献することができた。考古資料の相互貸借事業は例年以上に多くの作品を「里帰り」させ、かつ地方文化財を奈良の地で広く紹介することができた。	
					・国内21機関・海外2機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。貸与件数は50件であった。海外の貸与先機関は、韓国国立晋州博物館、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館であった。（九博）	九州国立博物館では、要請先施設の状況を総合的に勘案して、適切に貸与を実施し、公私立博物館等の展示の充実に寄与することができた。 **＜課題と対応＞** ―	
	②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める	②国内外の博物館等への援助・助言等	【指標】 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし評価する。	**＜主要な業務実績＞** 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　520件 内訳はアウトプット指標に掲載 ・当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。（4館） ・例年通り、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等について、139件の援助・助言を行った。新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。環境調査を実施した新規貸与館は、21館（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係3件）であった。（東博） ・国内外の様々な機関の要請に応じて、様々な職員がそれぞれの専門性に応じて152件の援助、助言、指導及び協力を行った。元年度も様々な機関からの要請を受け、他館への展示指導や多言語化業務など専門性の高い分野での協力を行った。文化財防災に関して、諸外国への発信としては、多国籍の研究者へ向けた発信ができた。（京博） ・9月に開催されたICOM京都大会においては、準備段階から様々な援助を行うとともに、大会期間中も多くの職員を派遣し、世界中の博物館関係者との広域なネットワーク形成に導いた。（京博） ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を、64件実施した。海外の機関に対しても学術・技術的に援助するなど、様々な分野で実施できた。博物館・美術館及	**＜評定と根拠＞** 当機構では、公私立博物館等から博物館4館への要請に対して、依頼内容に応じて例年多数の助言・協力を行っており、30年度436件のところ元年度は520件と堅調に増加している。	

					び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関して2件の講師派遣を行い、文化財防災の意識向上に役立てた。（奈良博） ・九州地域だけでなく日本全国の要請に対応し、86 件の援助・助言を行った。IPM セミナー、IPM 研修及び館内向け IPM 研修を実施した。IPM セミナーは、5 月にストックホルムにて開催された IPM の国際コンファレンスの内容についての報告、東京文化財研究所からの文化財の微生物調査に関する最新の知見についての報告、また当館の IPM の活動の最新情報についての報告を含む専門講座として開催した。（九博）	**＜課題と対応＞** ―	

４．その他参考情報
予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。

１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ－２	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
業務に関連する政策・施策	12　文化芸術の振興 12－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第 12 条第２号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（九博）	実績値	―	1	2	5	0	0	
	（東文研）	実績値	―	17	13	12	14	16	
	（奈文研）	実績値	―	102	37	61	56	81	
	（合計）	実績値	―	120	52	73	70	97	
報告書等の刊行数（件）	（九博）	実績値	―	―	2	1	0	0	
	（東文研）	実績値	―	―	3	3	9	3	
	（奈文研）	実績値	―	―	16	17	13	11	
	（合計）	実績値	―	―	21	21	22	14	
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究①文化財の調査手法に関する研究開発の推進									
①文化財の調査手法に関する研究開発									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	0	0	0	4	5	
	（奈文研）	実績値	―	11	30	36	22	19	
	（合計）	実績値	―	11	30	36	26	24	
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	―	―	1	1	1	1	
	（奈文研）	実績値	―	―	0	1	0	0	
	（合計）	実績値	―	―	1	2	1	1	
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	15	18	17	12	12	
	（奈文研）	実績値	―	2	4	15	16	19	
	（合計）	実績値	―	17	22	32	28	31	
報告書等の	（東文研）	実績値	―	―	4	4	4	5	

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	3,199,097	4,529,562	3,425,332	3,114,345	
決算額（千円）	4,743,377	6,029,565	3,513,645	3,323,743	
経常費用（千円）	3,403,730	3,184,946	3,523,444	3,400,624	
経常利益（千円）	13,681	101	-3,149	-32,465	
行政コスト（千円）	―	―	―	4,777,928	
行政サービス実施コスト（千円）	3,118,227	3,137,159	3,526,065	―	
従事人員数	88	90	87	92	

※予算額は、２研究所・センターの年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、２研究所・センターの決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所・センターの全常勤研究職員の人数を計上している。

	刊行数（件）	（奈文研）	実績値	－	－	1	2	1	0	
		（合計）	実績値	－	－	5	6	5	5	
	（３）文化遺産保護に関する国際協働①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進									
	国際情報の収集等事業の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	3	2	3	3	
		（奈文研）	実績値	－	－	3	3	3	3	
		（合計）	実績値	－	－	6	5	6	6	
	研修・ワークショップ等の参加者の満足度（％）	（東文研）	実績値	－	－	100	100	100	100	
		（奈文研）	実績値	－	－	－	－	－	－	
	共同研究等の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1	1	0	0	
		（奈文研）	実績値	－	－	2	3	2	3	
		（合計）	実績値	－	－	3	4	2	3	
	国際協力事業の実施件数（件）	（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）	実績値	－	－	5	6	5	5	
	閲覧室開室日数（日）	（東文研）	実績値	－	－	137	137	137	125	
		（奈文研）	実績値	－	－	243	183	219	198	
	閲覧室利用人数（人）	（東文研）	実績値	－	－	923	931	1,070	988	
		（奈文研）	実績値	－	－	475	380	295	278	
	文化財資料受入総数（件）（東文研）	図書	実績値	－	104,577	114,509	117,696	121,599	124,229	
		雑誌	実績値	－	128,778	158,763	162,609	164,256	166,976	
		その他	実績値	－	35,046	36,348	37,722	44,814	46,169	
		計	実績値	－	268,401	309,620	318,027	330,669	337,374	
	文化財資料受入総数（件）（奈文研）	図書	実績値	－	351,586	361,275	359,584	368,440	377,407	
		雑誌	実績値	－	89,734	93,623	96,691	99,644	102,616	
		その他	実績値	－	－	－	9,978	17,016	20,229	
		計	実績値	－	441,320	454,898	456,275	468,084	480,023	
	文化財データベース公開件数（件）	（東文研）	実績値	18	－	22	26	28	30	
		（奈文研）	実績値	22	－	25	31	24	17	
	データベース件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,164,416	1,233,111	1,271,388	1,288,551	
		（奈文研）	実績値	－	－	1,341,997	1,417,962	1,316,283	1,348,102	
	ウェブサイトアクセス件数（件）	（東文研）	実績値	－	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	
		（奈文研）	実績値	－	605,211	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	

	定期刊行物刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	12	12	12	12	
		（奈文研）	実績値	－	－	10	10	10	10	
		（合計）	実績値	－	－	22	22	22	22	
	学術ポジトリ公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,510	3,454	3,560	3,634	
		（奈文研）	実績値	－	－	4,389	61,861	4,992	5,572	
	講演会等開催数（件）	（東文研）	実績値	－	－	5	2	2	2	
		（奈文研）	実績値	－	－	12	19	17	13	
		（合計）	実績値	－	－	17	21	19	15	
	講演会等の来場者数（人）	（東文研）	実績値	－	－	798	357	317	323	
		（奈文研）	実績値	－	－	6,400	4,440	3,986	3,315	
		（合計）	実績値	－	－	7,198	4,797	4,303	3,638	
	文化財研修（東文研）	件数	実績値	1	－	1	1	1	1	
		受講者数	実績値	30	－	27	31	30	31	
		研修成果活用実績	実績値	80	－	100	100	100	100	
	文化財研修（奈文研）	件数	実績値	13	－	15	14	15	14	
		受講者数	実績値	156	－	167	178	211	199	
		研修成果活用実績	達成度	80	－	100	100	100	100	
	専門的・技術的な援助・助言（件）	（東文研）	実績値	－	－	793	678	596	184	
		（奈文研）	実績値	－	－	405	353	301	291	
		（文化財活用センター）	実績値	－	－	－	－	53	134	
		（合計）	実績値	－	－	1,198	1,031	950	609	

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和元年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は、下記のとおり	**＜自己評価書参照箇所＞** 以下の詳細からＡと評価した。	評定	A
						＜評定に至った理由＞ 以下に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施については、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与したことは評価できる。 アメリカのゲッティ・リサーチ・ポータルに、東京文化財研究所の貴重書のデジタル画像全文公開を行い、我が国の文化財情報の海外発信に努めたことは評価できる。このほか、「歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実戦的研究」の成果は歴史的建造物の指定・登録に大きく貢献している。また、「無形文化財の保存・継承に関する調査研究、資料のデジタル化」及び「無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究」については、過疎化や少子高齢化に伴い継承が困難になっている無形文化財、無形民俗文化財の保存継承に寄与するものであり、評価できる。 奈良文化財研究所における飛鳥地域等の発掘調査では、調査により、藤原京や大官大寺の造営に伴う大規模な整地層と７世紀前半代の遺構を確認するなど、重要な成果を得たことは評価できる。また、日本全国の発掘調査報告書等をデジタル化して公開する「全国遺跡報告総覧」の事業等、我が国の発掘情報の活用に資する取組に加え、多方面にわたる研究資料の収集・整理及びそれに基づく調査研究成果の公開・活用について評価できる。 アジア太平洋地域における無形文化財遺産保護のほか、災害リスクマネジメントに関する調査、緊急保護支援が必要な国の実態等の研究を行うなど、多方面にわたる無形文化遺産保護の国際的充実に資する業務を展開したことが評価できる。 大規模災害に対応する文化財等の防災や被災文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、関係者の要望を踏まえつつ、全国的な連携・協力体制の整備に向けて取り組んだことは評価できる。 **＜今後の課題＞** 大規模災害に対応した文化財防災に関する社会からの期待により一層応えられるよう、これまでの蓄積・ノウハウ・機関間ネットワークを活用し、文化財防災に関する組織体制や活動の充実強化が望まれる。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・東京文化財研究所・奈良文化財研究所が行う調査研究はいずれも日本の文化財保護においてきわめて重要な役割を果たしてきている。奈良文化財研究所などは日本の古代国家形成を解明する調査成果を上げて注目されるが、他多様なテーマに関しても文化財機構全体の調査・研究事業や全国・海外への協力支援と密接に関係する論文・報告書などの成果も堅調。新たに『奈文研論叢』を刊行したことも大いに評価される。 ・４件の研究テーマは長年の成果により研究機関・地方公共団体関係者からの信頼も厚い。とりわけ地方に多くある埋蔵文化財と関連した探査・計測方法、年輪年代学、動植物遺体に関するテーマは現場に直結した成果を収めている。また、飛鳥資料館における展示『骨ものがたり』は研究過程そのものを見せる新しい試みであり、幅広い年齢層から関心を集める企画で大いに評価できる。 ・文化財保護において海外から日本に対する期待は極めて大きいが、その多くは文化財機構が担っている。世界遺産に関する環境影響評価は世界遺産に関係する地方公共団体にとって大きな拠り所

						となる。各国の文化財法令シリーズも地味だが重要。 ・無形文化遺産は存在そのものが目立たず重視されない傾向があるなかで、急速に社会が変容する現代、文化財機構が果たす役割は大きい。財源を確実に確保する必要がある。 ・資料閲覧のほかに多くのデータベースが大きな役割を果たしている。埋蔵文化財の発掘調査報告書の「全国遺跡報告総覧」は登録データを拡大し、利便性も高めており大いに機能している。 ・学芸員研修、文化財担当者研修ともに長年地方公共団体にとって貴重な機会となっている。また、日常的に発掘調査、保存活用計画、整備などでの現場の指導・支援は重要。最近注目される防災に関しても代替できない役割を果たしている。 ・文化財防災ネットワーク推進室を軸に、全国的な連携・協力体制を整備した。発生した災害による被災事故の救援活動に貢献した。
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①　有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究 ②　無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究 ③　記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1）我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 2）建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 3）歴史資料・書跡資料に関する調査研究 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1）重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 2）重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 3）無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1）史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 2）古代日本の都城遺跡に関する調査研究	〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 27件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究（東文研） 前年度に引き続き、当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ（IRDB）で公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』、各種報告書を115件新たに追加し合計13タイトル3,631件の論文のフルテキストを公開した。 アメリカのゲッティ・リサーチ・ポータルに、当研究所刊行物および所蔵資料のデータを追加し、合計1,392件のデータを公開し、研究協議を行った。 ・近・現代美術に関する調査研究と資料集成（東文研） 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進め、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡	**＜評定と根拠＞** 当機構で設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に大きく寄与した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、30年度は合計70件のところ、元年度は97件となった。報告書等の刊行数も同様にモニタリング数値として見ているが、30年度は合計22件のところ、元年度は17件となった（モニタリング指標）。 ・「文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究」では、国内外のインターネット利用者に対してオープン・アクセスによる利用拡大を行い、公開コンテンツ数をさらに拡充し、その成果発表では多くの反響を得た。 また、ゲッティ研究所のポータルサイトを通じて当研究所の貴重書のデジタル画像の全文公開を行った点に高い独創性を示し得た。1930年の開所以来の蓄積・実績に立脚しつつ、我が国における文化財情報の外部発信についてイニシアチブを取るとともに、その発信を安定・継続的に行える環境を整えた。（東文研） ・「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」では、平成25年度以降続けている黒田清輝宛書簡の翻刻を元年度も精力的に進めた点を高く評価した。久米美術館との共同研究に大きな進展がみられ、黒田清輝と久米桂一郎の間で	

			3) 重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 5) 水中文化遺産に関する調査研究		を翻刻、その成果を研究会で発表した。29 年度に行ったカリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館でのヨシダ・ヨシエ旧蔵資料調査に基づき、『美術研究』430 号にその報告を掲載した。 仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査をしばたの郷土館で行い、その成果を部内研究会で口頭発表した。	交わされた末公刊の書簡を読み解き、二人の交流の跡は勿論、資料中に登場するヨーロッパの美術家に関する情報から、中期計画に掲げた西欧の美術動向との関係をうかがうことができた。 また、有名な「伊達政宗騎馬像」の作者でありながら等閑視されてきた小室達の調査研究を進めた点を評価した。(東文研)	
					・美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開（東文研） 研究成果公開では、昨年度より実施している個人蔵漆器の研究成果を「琉球漆器 朱漆螺鈿山水人物箔絵盆の科学的調査」として発表した。 先年より調査研究を行ってきた甲賀市水口所在十字形洋剣に対する研究成果をICOM 京都大会、第 53 回オープンレクチャー、水口町郷土史会にて講演・報告し、国内外への成果の公表に努めた。 研究データの整備と公開では、インターネット公開中の『美術研究』バックナンバー・データ検索情報を追加整備し、利用者の検索に対する便宜促進を図った。英文要旨の無い 155 号以前を対象とした検索用キーワードの抽出作業を開始した。	・「美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開」では、これまで注目されることのなかった甲賀市水口所在の十字型洋剣の調査成果について、ICOM 国際会議をはじめ所内外で報告・講演を行い、その公表に努めた点を評価した。 また、ネット公開されているバックナンバーデータについて、海外からの広い利用促進を念頭に置いた検索便宜の充実を図ることができた。(東文研)	
					・歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究（奈文研） 法隆寺古材調査では、調査成果を報告書にまとめるべく図面の作成と執筆・編集作業に入った。また、奈良県社寺建築悉皆調査では、奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、調査協力を行い、13 市町村全社寺の台帳を作成した。 受託調査においては、日南市飫肥歴史的建造物活用ガイドライン作成のための調査研究（宮崎県日南市）をはじめとする計 8 件の調査研究業務を受託した。	・「歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究」では、悉皆調査及び個別建造物調査を継続的かつ精力的に行っている。今後、地元が作成する文化財保存活用地域計画の基礎資料となる点や歴史的建造物の指定・登録の促進に大きく貢献している点を高く評価した。 受託調査各事業では、自治体や所有者の求めに応じて行っているが、いずれも文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものである。(奈文研)	
					・近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（奈文研） 仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 87 函～第 98 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。御経蔵	・「近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究」では、特に仁和寺調査においては、現在研究が盛んな室町時代の重要古文書を多く公表しており、適時性の高い成果を得ることができた。	

					第 150 函の古文書については、釈文を詳細に検討し、史料集を公刊した。唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、掛軸・印信の整理作業や、聖教第 8 函の写真撮影等を行った。また宝蔵の鎌倉時代の木札に関する考察を公表した。 興福寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、井坊家記録の調書作成、二条家記録の写真撮影を実施した。	また、室町時代の古文書の公表は今後の研究の基礎となるものであり、発展性も高いと評価した。その他の調査においても、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性に優れている。(奈文研)	
					・無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（東文研） 古典芸能に関する調査研究、文化財保存技術としての楽器製作技術（能管、楽箏、箏、尺八製作技術ほか）及び材料（竹材製造技術及び第一次加工技術）の調査研究、染織技術及び文化財保存技術（原材料である靭皮繊維の栽培技術や加工技術）に関する調査研究を実施した。 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成においては、平家（菊央雄司氏ほかによる復元曲 1 曲）、宮薗節（宮薗千碌師ほかによる古典曲・新曲各 1 曲）、講談及び落語の正本芝居噺（一龍斎貞水師・8 席・神田松鯉師 6 席・林家正雀師 2 席）の実演記録を作成した。	・「無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」では、文化財の保存技術が注目される中、技術保持者の高齢化が問題となっている伝統楽器製作技術や工芸技術、及び道具や材料の調査研究を継続的に行っている点を高く評価した。古典芸能に関しては、一つの材料から複数ジャンルの楽器製作者、実演家を繋ぎ、材料でジャンルを横断する協力体制を整え、研究に着手した点、工芸技術（染織分野）においては、これまで作品調査からは識別困難であった靭皮繊維について現地調査を通じて特徴の把握に努めている。 無形文化財と文化財保存技術に関する包括的な研究が深化していると評価した。(東文研)	
					・無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（東文研） 風俗慣習調査では、盆行事等の調査研究（奈良県十津川村等）を実施した。民俗芸能調査では、民俗芸能の分類に拘わる調査研究（鹿児島県瀬戸内町ほか 5 県）を実施した。 民俗技術調査では、民具製作技術（徳島市・長野市等における箕製作技術等）、和船製作技術（岐阜県美濃市）、食の技術（徳島県那賀町等における製茶技術等）の調査研究を実施した。無形文化遺産アーカイブスの開発と公開においては、被災地における無形文化遺産調査として、東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査を実施した。 また、記録保存・活用に拘わる研究（福島県浪江町、宮城県女川町等）を実施した。 日本博参画プロジェクト「東	・「無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究」では、伝承地域の過疎化や少子高齢化により継承の危機に晒されている無形民俗文化財・選定保存技術の調査は社会的ニーズが高い。無形民俗文化財の研究部としては国内唯一の存在であり、全国の関係者とのネットワーク構築を促進させていることは、無形民俗文化財の保護体制の整備・強化に貢献するものとして、評価できる。 前中期計画において重点的に行ってきた東日本大震災の被災地域における無形民俗文化財の調査・研究を継続しつつも発展させ、自然災害のみならず地域の過疎化や少子高齢化、環境や社会構造の変化により継承の危機にある無形文化遺産の保護・活用にも貢献できていると評価した。(東文研)	

					京シシマイコレクション」として民俗芸能公演（参加者3,300人／日本芸術文化振興会、東京国立博物館と3者共催）、及びフォーラムを開催（参加者108人）した。		
					・我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）（奈文研） 令和元年度遺跡整備・活用研究集会を開催した。テーマは「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」とした。『平成30年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書 史跡等の保存活用計画』を2年3月に刊行した。 平城宮跡の活用に関する実践的研究に関しては、今後、研究所として行う平城宮跡の活用の内容について関係者で検討を進め、基本的な方針を定めた。また、元年を記念して即位関連遺構の活用を図るために、第一次大極殿前で発見された幢旗遺構のAR表示を行い、体験会で一般の参加者105人から好評を得た。東区朝堂院に表示している大嘗宮跡に関しては復元イラストを作成し、パンフレットの配布を行った。	・「我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）」では、文化財保護法改正を受けて史跡等の保存活用計画の必要性が高まり、史跡等の活用は昨今においては適切なテーマであり、遺跡の地域間交流でのテーマは今後の発展性が見込めると評価した。また、毎年必要とされる研究テーマを選んでおり、遺跡の保存活用という点では継続性をもって研究を深化させている。（奈文研）	
					・平城宮東方官衙地区の発掘調査（奈文研） 主要官衙が展開する平城宮東方官衙地区の様相を明らかにするための調査を実施した。 調査面積は、1200㎡。主な検出遺構は、基壇建物3棟、掘立柱建物1、柱穴列1、築地塀1条、暗渠1基であった。主な出土遺物は、須恵器・土師器、瓦、帯金具であった。調査所見としては、当該地区の中心となる大型の東西棟基壇建物と、それに取り付く様に東西に隣接する南北棟基壇建物を確認し、建物規模・配置、近隣の出土遺物から、実務官衙の頂点たる太政官庁（弁官曹司）の可能性が高いと考えられる。またこれに先行する南北棟掘立柱建物や、分厚い整地の様子など、多くの調査成果を得た。	・「平城宮東方官衙地区の発掘調査」では、文化庁による平城宮跡の整備計画と呼応するとともに、古代日本都城の解明等を図るための発掘調査を継続的に実施できている。 この発掘調査では、周辺の調査成果や、関連する区画施設の調査成果を十分に反映して調査を行い、遺構や遺物の特徴から官衙機能の比定（今日の内閣官房に当たる施設）をおこなうことができ、古代国家史の重要な知見を得ることができた。また、平城宮の造成に関する知見を蓄して将来の調査に資する情報を得た点を評価した。（奈文研）	
					・藤原宮大極殿院地区の発掘調査（奈文研） 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（飛鳥藤原第200次調査）を実施した。	・「藤原宮大極殿院地区の発掘調査」では、大極殿後方東回廊と北へのびる造営溝の検討から、大極殿の北方に何らかの建物が存在した可能性が生じたことと、藤原宮中	

					調査地は、大極殿の北東に当たる大極殿院内庭部及び東面北回廊、調査面積は、1,179㎡。調査成果としては、東面北回廊から西にのびる新たな回廊（大極殿後方東回廊）を発見し、従来礫敷広場と考えられてきた大極殿の北方が回廊によって区画されていたことが明らかとなった。 また、宮造営期の運河や溝の付け替え状況などから、大極殿院北半部の造営過程を考えるうえで重要な所見を得ることができた。	枢部の構造と古代官都の発展過程の研究に関する重要な新事実を明らかすることができ、藤原宮の様相解明のための長期的な調査研究の一環として、今後の継続調査に資する成果を得たと評価した。（奈文研）	
					・飛鳥地域等の発掘調査（奈文研） 大官大寺南方の発掘調査（第203次）を実施した。大官大寺の南方から山田道の間はこれまで調査されておらず、その様相解明を目指している。調査地は、明日香村奥山、調査面積は、120㎡。調査成果としては、東四坊坊間路両側溝の可能性のある南北溝2条、藤原京や大官大寺の造営などに伴う大規模な整地層を複数確認した。また、下層調査により7世紀前半代の人工的な東西溝、それに沿う塀または柵列の可能性のある柱穴を確認した。 条坊側溝の可能性のある南北溝の確認は、香具山以南の条坊施工の有無と大官大寺の占地を考えるうえで重要な成果である。 また、山田道以北にも7世紀前半代の遺跡が展開しているという大きな成果を得た。	・「飛鳥地域等の発掘調査」では、大官大寺南方の様相を解明するための調査を行った。 この調査により、大官大寺南方において条坊両側溝の可能性のある南北溝や大規模な整地層を確認しただけでなく、その下層に7世紀前半代の遺構が展開することを明らかにするなど、飛鳥地域における継続的な調査研究に資する成果を得たことを高く評価した。（奈文研）	
					・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等（奈文研） 過去の発掘調査による図面・写真資料の作成・整理・分析研究とともに、出土遺物の整理・分析研究を進めた。とりわけ、藤原宮大極殿院の東北部で大極殿後方東回廊を確認した第200次調査を含む、これまでの大極殿院地区の調査研究成果を検討した結果、藤原宮と前期難波宮との構造的類似が明確となり、古代宮都の発展過程をより鮮明化できるようになったことは、学術的に大きな価値がある。 また、『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』を刊行し、弥生時代の	・「飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等」では、藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進め、古代日本の都城の解明を図るという中期計画は、大極殿院地区におけるこれまでの調査成果を検討した結果、古代宮都の発展過程を解明する上できわめて重要な成果を得ることができたことにより、所期の計画を上回る、大きな形で達成された。 また一連の整理・分析研究においても、『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』を刊行し、前方後円墳出現の過程を考える上で重要な研究成果を公表したこと、飛鳥時代の土器に関するシンポジウムが好評を博したことなど、これまでの調査研究の蓄積が大きな成果に結びつい	

					墳丘墓から前方後円墳へと発展していく過程を考える上で重要な研究成果を公表した。 飛鳥地域関係では、石神遺跡の遺構及び出土品の整理・分析作業を重点的かつ継続的に行った。その結果、飛鳥時代の土器編年を見直す十分な量のデータを蓄積することができたため、シンポジウム「飛鳥時代の土器編年再考」を開催し、内外から多数の研究者の参加を得て好評裏に終了した。 ・学術雑誌等への論文掲載数97件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数14件 内訳はアウトプット情報を参照	たと評価した。（奈文研） ＜課題と対応＞ ―	
	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究				
	① 文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。	①文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や３D記録製作等について研究開発を進める。 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発	〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 以下 4 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研） デジタル画像の形成方法の研究開発では、不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討した。東京国立博物館所蔵の平安仏画、京都国立博物館所蔵の国宝十二天像など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。 研究成果の公開は、東京国立博物館所蔵の国宝平安仏画 4 作品を対象に、長辺 30,000 pixel の高精細写真を自由に拡大・縮小し閲覧可能なウェブコンテンツを作成し、公開した。また、このうち普賢菩薩像を対象に、異なる光源で撮影された写真や、調査研究成果などの情報を含むウェブコンテンツを作成した。 「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催し、123 人の参加を得た。 『春日権現験記巻七・巻八光学調査報告書』を刊行した。 ・埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発（奈文研） 平城宮、飛鳥・藤原地域等にて SLAM・SfM-MVS 等の技術を応用した遺構計測を実施した。 日本文化財科学会第 36 回大会・日本考古学協会第 85 回大会において成果を発表した。 第 4 回文化財方法論研究会を共同開催し、研究発表とワークショップによる研究成果と技術の普及を行った。 廉価型 GNSS 測量器の精度・作業効率を比較し有効性を評価した。 日本の遺跡における効率的なマルチチャンネル地中レーダーの試験を実施し、取得手法・機材の改良を行った。 奈良県平城宮跡・藤原宮跡・キトラ古墳壁画・京都府恭仁宮跡、山口県周防鋳銭司跡などの計測・探査を実施した。 平城宮・京瓦基準資料の三次元計測を進め、データを蓄積した。 文化財担当者研修及び文化庁・北海道・高知県・科学研究費新領域研究総括班等の依頼により、三次元計測の利用と活用に関する講習会を実施した。 宮都出土及び山内考古資料など土器資料の三次元計測による簡便な土器製作技法の検討を行った。 web や AR・VR、ゲームを利用	**＜評定と根拠＞** 当機構で設定した本研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、30 年度は合計 26 件のところ、元年度は 24 件となった(モニタリング指標)。報告書等の刊行数は 30 年度は合計 1 件のところ、元年度も 1 件となった(モニタリング指標)。 ・「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」では、高精細の画像取得・蓄積は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえるものである。「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」の参加者数をみても、この分野への関心の高さを示している。 光学的調査では、独自に開発・選択した技術・機材を最大に活用、通常の機材では記録不能な可視光の全範囲に加え、可視光、蛍光も同一の画角で記録できている点を評価した。 データのウェブサイト公開では、長辺 30,000 pixel という高精細画像の円滑な拡大・縮小を可能としたことなど、ウェブサイトの特徴を生かしたコンテンツが作成できていると評価した。（東文研） ・「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」では、地方公共団体等からの遺跡の計測・探査の実施及び技術指導の依頼、並びに災害復旧に伴う緊急調査の要請が多く、これらに対して即応して成果を上げた。 廉価な機器等を改良して文化財に特化した計測手法を確立し、その技術を応用した新規の機材開発を開始している。既存の調査・研究の蓄積との連携に配慮しつつ、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な方法として提案した手法の広範な普及を促したことにより、文化財の調査方法の改良と得られたデータの利活用への基礎技術を担いつつある。 考古学研究及び発掘調査の手法開発に寄与する研究開発と、研究発表や講習会開催などによる成果の普及を行い、成果を上げた。 独法化以前からの研究資産・研究水準を引き継ぎつつ、不断の技術開発と現在の文化財の調査研究及び保護に要求される水準に沿った研究を進め、成果を上げている。（奈文研）	

					した文化財デジタルデータの活用について、実際のデータを用いて試行した。 ・年輪年代学研究（奈文研） 出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。 恭仁京の範囲内と考えられる京都府岡田国遺跡から出土した井戸枠材の年輪年代測定を行い、奈良時代前期の年代を得ることができた。 平城宮跡から出土した参河贄荷札の年輪年代学的検討を行い、同一材に由来する荷札木簡の組み合わせを複数、見出した。 現生木調査では、京都府芦生、奈良県吉野について試料収集を行い、年輪変動の地域性を検討するデータ蓄積を行った。 ・動植物遺体の研究開発（奈文研） 中沢浜貝塚（岩手県）、金井下新田遺跡（群馬県）、前田耕地遺跡（東京都）、保美貝塚（愛知県）などの遺跡から出土した動物遺存体を分析した。 東京都の前田耕地遺跡から出土した動物遺存体について分析した。これまで知られていたサケの歯以外にも多くの焼骨が出土しており、クマ属やシカ科などを対象とした狩猟活動も行っていたことを明らかにした。 現生標本の収集と公開では、マグロ類やウニ類の標本を作製し、標本見学に対応した。 研究成果の発信として、日本動物考古学会、日本植生史学会、日本花粉学会、海洋考古学会などで研究発表を行った。 研究成果の社会還元や普及啓発として、『骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事』の展示や図録作成に携わり、イベントや公開講座（子供向け・大人向け）も実施した。そのほかにも、愛知県、新潟県、大阪府で一般向けの講演をした。 ・学術雑誌等への論文掲載数	・「年輪年代学研究」では、発掘調査や寺社等の解体修理の進捗状況に対応した年輪年代調査を実施した。 従来、年代測定を目的に応用されてきた年輪年代学的手法を、木簡の同一材推定に応用し、荷札木簡について同一材を見出すなどのきわめて独創性の高い観点から、古代史学への大きな波及が期待できる。デジタル画像技術の活用により、多数の削屑木簡を調査対象として供するなど、効率的かつ正確に年輪年代調査を実施した。各地域の現生木の年輪データの蓄積を継続的に実施し、標準年輪曲線の拡充を図っている。（奈文研） ・「動植物遺体の調査研究」では、文化財保護法の改正を踏まえて、数多くの展示や講演、講座を行い、普及啓発を積極的に進めた。特に、研究過程を見せる手法や研究そのものを展示するユニークなイベントなどにより、考古学における動植物遺体の調査研究の重要性と面白さを小学生から大人までの広い年代層にアピールしたことは特筆できる成果である。また、脆弱な出土資料のオーバーユースを避けながら、保存と活用の両立を実現することができている。さらに、現生骨格標本のデジタルアーカイブにより、発掘調査現場での記録の効率化を可能にした。東日本大震災の復興事業に対しても継続的な支援を実施している。（奈文研）	

					24 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　1 件 内訳はアウトプット情報を参照	**＜課題と対応＞** ―	
	② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究 2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究 7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 8) 建造物の彩色に関する調査研究 9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 以下 12 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研） ・保存と活用のための展示環境の研究（東文研） ・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研） ・屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究（東文研） ・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究（東文研） ・考古遺物の保存処理法に関する調査研究（奈文研） ・遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究（奈文研） ・建造物彩色に関する研究（奈文研） ・近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（東文研） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（東文研） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） ・古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研） 歴史的木造建造物における環境低負荷型の殺虫処理方法である湿度制御温風殺虫処理について、日光山中禅寺鐘楼で行われた現地処理後の害虫モニタリング調査を実施し、成果を論文や国際会議等で発信した。 文化財害虫の簡易・迅速モニタリング手法の開発のため、文化財害虫の遺伝子解析と	**＜評定と根拠＞** 当機構が設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に大きく寄与した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、30 年度は合計 28 件のところ、元年度は 31 件となった(モニタリング指標)。報告書等の刊行数は 30 年度は合計 5 件のところ、元年度も 5 件となった(モニタリング指標)。 ・「文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究」では、管理保全計画策定の中で高い需要が期待される歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処置方法の普及に向けた実践研究を先導して行った点を高く評価した。 文化財害虫の遺伝子解析に基づく新規データベースの構築と虫糞等からの同定手法の確立に向けた研究課題には高い独創性があると評価した。 微生物に起因する文化財の劣化現象の解明という基盤的な研究	

					データベースの構築を進めた。虫害等からの同定手法構築に向けた基礎研究も実施し、遺伝子抽出手法を標準化した。 古墳壁画の微生物劣化機構解明に関する研究で、これまで対象となっていなかった健全な壁画の微生物群集解析を行い、研究成果を学術雑誌にまとめた。 油彩画表面に発育したカビの各種顔料上での発育特性について調査研究を行った成果について学術雑誌を通じて報告した。 浮遊菌を簡易・迅速に測定できる新たな機器（リアルタイム浮遊菌数測定器）を用いて、収蔵庫等の保存環境での浮遊菌の実態を把握するため生態解析を取り入れた調査研究を実施し、成果を学会で報告した。	課題について、古墳壁画を調査の対象として継続的に研究を行って成果を得ており、古墳壁画の現地保存に資する研究成果を得た。 歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処理の課題において、大学や他の研究機関と連携協力体制を作り、それぞれの専門性を生かした分担業務を行いながら効率よく研究を遂行することができたと評価した。（東文研）	
					・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研） 可搬型蛍光Ｘ線分析装置による材料調査として、絵画、工芸品などの調査を実施した。日本絵画の調査においては、平安仏画の背景の彩色や、室町期絵画の白色顔料の利用実態などについて新知見を得た。 構成元素の含有量が既知である金箔の試料を用いて、可搬型蛍光Ｘ線分析装置及び据置型蛍光Ｘ線分析装置から得られる分析データの精度や確度に関する定量的な評価を実施した。 元年度に導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けて、撮影条件や設置方法に関する基礎実験を行った。 工芸品等に用いられている金属製装飾部分の腐食をもたらす、保存箱などから発せられる化学物質量を分析するためのサンプリングバッグ法の改良を行った。 研究成果発表では、これまでに得られた調査結果などをまとめて、論文２件、学会発表３件の研究成果発表を行った。また、これまでに調査を実施した絵画作品に関する報告書『国宝日月四季山水図光学調査報告書』を刊行した。	・「文化財の材質・構造・状態調査に関する研究」では、絵画、工芸品などの様々な種類の文化財の調査時に、それぞれの目的に応じて最適な分析手法を選択し、可搬型分析装置を用いた調査を迅速に実施した。文化財に用いられている金属部分の腐食の原因となる化学物質量を分析するためのサンプリングバッグ法の改良を行った。 元年度に新たに導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けて、撮影条件や設置方法に関する基礎実験を行った。 主に蛍光Ｘ線分析装置の設置方法やデータ解析法の改良を重ねることにより、分析調査の効率が向上した。 構成元素の濃度が既知である標準試料を用いて分析精度に関する定量的な再評価を行うことにより、分析結果の精度を担保している。（東文研）	
					・文化財修復材料と伝統技法に	・「文化財修復材料と伝統技法に関	

					関する調査研究（東文研） 絵画の基底材に関する調査では、東京国立博物館との共同研究で絵画基底材料としての絹糸の形状と織組織に関する基礎データを収集した。また、自然布に関して、FT-IR とデジタルマイクロスコープによる観察での識別を目的に基礎データを収集した。漆に関する調査では、日本の漆技法に関して、特に従来全く研究されていないタンパク質を利用した変わり塗りについて現地調査と試料採取を行った。これらの分析と劣化に関する調査を 2 年度以降進める予定である。 「文化財修復処置に関するワークショップ- ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法 -」 をイタリアの保存科学者を招聘して開催した（応募者 60 人から 20 人を選考）。また、「文化財修復処置に関する研究会 ―クリーニングとゲルの利用について―」を開催した。参加者は 84 人であった。 30 年度の「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」の内容と関連する資料を掲載した『文化財修復の現状と諸問題に関する研究会』報告書を刊行した。	する調査研究」では、クリーニング材料として注目されているゲルについてのワークショップ・研究会を日本で初めて行った点を評価した。 伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている。得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や保存環境の提言が見込まれる。複数のテーマを効率的に遂行しつつ、一定の成果を得られた。２年度以降にこれらの成果を文化財修復の現場や美術史研究への還元を目的とする研究を遂行する見通を立てることができたと判断した。（東文研）	
					・高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） 東文研と当研究所で構成する古墳壁画保存対策 PT（発掘班・保存整備班・修復班・材料調査班・生物環境班）にて、下記を実施した。 石材の修理に関する事項として、石材の劣化状態について現状を把握するとともに、石材の安定化を補完するための方策を検討した。また、石室石材の物理的性質に関する調査研究を行った。 発掘調査に関する事項として、石室解体事業に係るデータ整理・分析、記録作成を行った。石室目地漆喰等の資料の安定台を作製した。キトラ古墳出土漆塗木棺の保存のための調査を行った。 壁画の現状を把握するため、種々の分析調査を実施した。蛍光Ｘ線分析結果のデータ集を刊行した。壁画を安全に測定することのできるＸ線回折装置の開発を進め、完成	・「高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究」では、30年度に引き続き、元年度はキトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効率よく実施した点を評価した。 古墳の環境等の調査研究を実施し、喫緊の課題となっている熊本地震で被災した装飾古墳等の復旧に資するデータを提示した。壁画を安全に分析することのできるＸ線回折装置を完成させた。石室石材を搬送するための振動に関する基礎データを集積することができた。古墳壁画保存対策 PT において東京文化財研究所とともに役割分担を行い、各班で計画的に事業を遂行することができた。高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び保存・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に今後も対応していくことにしている。（奈文研）	

					させた。 キトラ古墳壁画保存管理施設において、壁画の保存及び活用に関する取組として、環境調査、体験イベント、一般公開、非公開時の展示企画等を行った。 類似古墳調査の一環として、視察調査を行った。 古墳壁画の保存活用に関する検討会に職員を派遣した。 高松塚古墳壁画の一般公開に職員を派遣し、壁画に関する解説を行った。 ・学術雑誌等への論文掲載数 31 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　5 件 内訳はアウトプット情報を参照	**＜課題と対応＞** ―	
	（３）文化遺産保護に関する国際協働 　文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成 26 年 2 月 21 日　外務省・文部科学省告示第 1 号）（以下「基本方針」という。）」等に従い行うこととし，以下のとおり目標を定める。 ①　文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 基本方針第 1 の 4（2）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2）文化遺産保護協力事業の推進 3）文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2）文化遺産保護協力事業の推進 3）文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	【指標】 ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数，諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度，諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することとする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** 11 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」（東文研） 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報については後述の世界遺産研究協議会を開催して関係自治体等関係者に対して情報の周知を図るとともに、その報告書、講演等を通じて成果の公表を行った。 ・6 月 30 日～7 月 11 日 第 43 回世界遺産委員会（バクー） ・10 月 28 日～11 月 3 日 第 31 回国際文化財保存修復研究センター総会及び第 92 回、93 回理事会（ローマ）等 中国の主要な文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その背景に関する説明と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［24］中国』として刊行した。 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して情報・知見の周知を図るとともに、報告書『世界遺産研究協議会 遺産影響評価とは何か』を刊行した。併せて、より高い効果を上げるべく、他の研究会等の機会も利用し、情報の周知を図った。 ・「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」（東文研） カンボジアのアンコール・タネイ遺跡の保存整備に関してアンコール地域保存管理機構（APSARA）との協力事業を継続した。5 月から同遺跡東門の修復工事の実施に向けた散乱石材の収集と整理を進めるとともに、6 月の国際調整委員会（ICC）で工事計画に関する報告を行った。8 月から上部構造の解体に着手し、11 月に予定範囲の解体を完了、12 月の ICC において修復工事の進捗等に関する報告を行った。2 年 3 月に基壇外装の解体を行うとともに組立に向けた課題等の検討を進めた。このほか修復工事の関連調査として、東門及び東門西方の十字テラス周囲の発掘調査を行った。また東京大学生産技術研究所の協力を得て構造物の三次元計測や基壇の土質試験を行った。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、文化財保護に関する国際協力に関して、事業を有機的・総合的に展開し、文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に大きく寄与したといえる。 国際情報の収集等事業の実施件数は、国等の要請や相手国との連携の必要性から、計画通りに実施できるとは限らないので、モニタリング指標として見ているが、30 年度は合計 6 件のところ、元年度も 6 件となった。また研修・ワークショップ等の参加者の満足度は昨年度同様 100%であった。 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」では、近年特に注目を集め、かつ自治体等での対応が早急に求められている世界遺産に関する遺産影響評価など、文化遺産保護の最新の国際動向を把握し、ウェブサイトでの活動報告や報告書等で得られた知見と分析内容を公開するとともに、関連組織や自治体等関係者に詳細かつ時宜に適う提供ができた。スタッフの専門知識と独自のネットワークを活用して独自の情報を収集し、継続的なトレンドに関する知見を基にした分析と発信を行った。 文化財保護法令シリーズにおいて法令の正確な翻訳のみならず、その背景に関する説明を付し、また世界遺産研究協議会においては参加者に有用な情報を多面的に提供するなど国際情報の発信に大きな発展を得た。スタッフが関わる他の関連業務で得られた周辺情報も統合するなど、国内外のネットワークを通じ最小限の規模で着実に事業を進めることができた。 世界遺産委員会等の国際会議に継続的に参加することにより、単に最新の情報のみならず、長期的トレンドを踏まえた分析に基づいて有用な情報を提供した。また、文化財保護法令シリーズについては我が国においても興味を持たれることが多い中国を取り上げ、24 冊目を刊行することができた。（東文研） ・「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」では、カンボジアの協力事業は、同国機関との綿密な連携のもとで実施する点に高い適時性及び継続性を有し、中でも目下進行中のタネイ東門修復工事は同国側主体の遺跡保護事業におけるロールモデルの構築を意図している。予定より前倒しで進行した解体作業に伴って年度当初の目標を上まわる成果があげられた。またカンボジアの協力事業は、協定に基づいて奈良文化財研究所と分担実施する点で効率性があり、今後の発展が期待できる。 アルメニア及びイランを対象国とした研修は、いずれも先方要請に応えて実施している点に適時性があり、かつ過年度からの継続性がある。また先方要望に合わせ研修内容を調整している点に効率性が認められる。（東文研）	

					10月、アルメニアに外部専門家を含む4人を派遣し、エチミアジン大聖堂博物館及び歴史文化遺産科学研究センターにおいて染織文化遺産に関する保存修復研修を行った。 11月、イランから専門家4人を招聘し、博物館の環境管理及び文化財の生物被害防止に関する研修を行った。国立民族学博物館及び京都国立博物館の協力を得て日本の博物館における具体的な総合的有害生物管理（IPM）や防災対策等の現地見学を行った。		
					・「ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力」（奈文研） 5月、海外ワークショップのための事前準備に専門職員1人を派遣するなどの協力を行った。 6月、個別研修カントリーレポートを奈良文化財研究所で開催し、6人の専門家が出席して意見交換を行った。 8月、ACCU実施の文化遺産の保護に資する研修2017（集団研修）「木造建造物の保存と修復」に研究者1人、専門職員1人を派遣するなどの協力を行った。 11月、ACCU実施の文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（カンボジア）に専門職員2人を派遣するなどの協力を行った。 11月、ACCU実施の2019年度国際会議「文化遺産保護と地域コミュニティ」に研究者3人を派遣するなどの協力を行った。 12月、ACCU事業委員会に研究者1人を派遣するなどの協力を行った。	・「ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力」では、ACCUが実施する事業について、機会に応じて適切に協力を行った。写真や建造物など、奈文研の得意とする分野について独自性のある協力を行った。研修や事業の性格に応じて異なるメンバーを派遣するなど効率的な協力を行った。30年度から続く事業であり、今後のさらなる協力関係について確認の上、2年度以降も継続予定である。（奈文研）	
					・文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数 6件 ・諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度 100% ・諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数 3件	**＜課題と対応＞** ―	

	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 基本方針第1の4（2）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。 特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集の成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・同地域における無形文化遺産保護及び無形文化遺産の保護に関する条約への研究を通じた貢献方策について検討するための研究者フォーラムの実施 ・同地域における無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究の実施 ・アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集	【指標】 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 ・以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関し、以下の調査研究等を行った。 (1)無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 － 教育を題材として(ユネスコ活動費補助金) ・ベトナム、フィリピンとも新たにMOUを締結し、同国内でのモニタリング用にベトナム、フィリピンで印刷を配布し、ガイドラインの現場における有効性や課題を明らかにするために IRCI と専門家がモニタリングを実施した：フィリピン、ベトナム ・10 月のモニタリングを踏まえ、ベトナム、フィリピンの協力機関、日本国内のリソースパーソンらを招き、国際ワークショップを開催した。 ・30年度に作成したガイドラインを上記ワークショップの内容をふまえ、改訂出版し、IRCI のウェブサイトで公開した（2年3月）。 (2)アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する基礎的調査研究(文化財保存活用基金) アジアの紛争後国家等における無形文化遺産の現状に関する現地調査 ・アフガニスタン、スリランカ（北部）、東ティモールについて、パートナー機関と具体的調査方針を最終調整した。現地調査機関（大学）と連携し、30 年度特定済みの消滅の危機に瀕する無形遺産について、卓上調査を含む現地調査を実施するなどした。治安悪化のため、コミュニティへのアクセスに課題があり、状況を見極めつつ調査を行った。 ・紛争後状況における無形文化遺産の調査研究に関するワークショップ等を以下のとおり開催した： ① Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia ②Discussion on the Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Afghanistan ③ IRCI Working Group Session for Study of	**＜評定と根拠＞** 無形文化遺産保護は喫緊の課題であることに加え、紛争・災害に関する事業「アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する基礎的調査研究」について緊急時における無形文化遺産への関心が高まりつつある国際的動向と合致し先駆的と評価できること、事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 － 教育を題材として」も国際的枠組である持続可能な開発目標への貢献を目指すものであることから適時性及び独創性を高く評価した。またこれらの事業は対象国・ユネスコ等から高く評価されており、今後の活動への期待が大きい。人員が限られているなか、国内外専門家や他現地機関等との連携により、効率的に活動を実施できた。 なお、国際協力事業の実施件数は、国等の要請や相手国との連携の必要性から、計画通りに実施できるとは限らないので、モニタリング指標として見ているが、30年度は5件のところ、元年度は5件となった。	

					Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia (Bamiyan, Afghanistan) (3)情報公開等：『IRCI 概要2019』日・英版作成 ・国際協力事業の実施件数 5件	**＜課題と対応＞** 事業の性質上、予算の大半を競争的資金に依存しており、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてある。	
	（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開すること。	（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。	（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。	【指標】 図書，雑誌等の公開に関する取組状況（資料閲覧室・図書資料室の開室日数，利用者数，文化財に関する資料・図書等の総件数） 文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・データベースのデータ件数 ・データベース等へのアクセス件数 〈目標水準の考え方〉 文化財に関する専門図書等の公開施設を設け，書誌情報等による検索サービスを提供し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。なお，当該施設は文化財に関する希少な資料・図書等を収集・整理し公開するものである。一般図書とは異なりその利用に当たっては制限が必要となることとなり，あらかじめ数値目標を設定せず，上記の取組をモニタリングし総合的に評価する。 文化財に関する各	**＜主要な業務実績＞** 9 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 ・専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充（東文研） 文化財情報の発信として、4半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催し(5月13日、8月6日、10月18日、2年3月31日)、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議を行った。 美術資料のデータ化と公開として、永青文庫所蔵「洋人奏楽図屏風」に関するデジタルコンテンツ等を作成し、資料閲覧室内専用端末にて公開を開始した。 所蔵図書・雑誌資料の書誌情報の標準化と所蔵資料管理の改良として、約30万件の蔵書について、図書館システムを稼働し、バーコード管理整備を開始した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用を行った。 資料閲覧室等の開室日数は東文研、奈文研で30年度はそれぞれ137日、219日のところ、元年度は125日、198日となり、利用人数は、30年度は東文研、奈文研でそれぞれ、1,070人、295人のところ、元年度は988人、278人となった。 文化財に関する資料・図書等の総件数は、東文研、奈文研で30年度はそれぞれ合計330,669件、468,084件のところ、元年度は337,374件、480,023件であった 文化財に関するデータベースの公開件数は、東文研、奈文研で目標値がそれぞれ28件、24件のところ、元年度はそれぞれ30件、17件となった。奈文研のデータベースの公開件数の減少は、サーバーの効率的利用及びデータベースの機能強化のため、元年度にデータベースの統合を行ったものである。 ・「専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充」では、国際的なオープンアクセス需要への対応のため、当研究所の活動と研究成果を広く周知することを継続的に行った。当研究所が有する専門性・独自性の高い文化財情報の公開を念頭におき、唯一無二の『売立目録』のデジタルアーカイブの公開と改良を進めた。国内外の関係機関と連携して、国内外への情報発信を積極的に行い、研究会などを通じて連携を強化した。効率性においては、今年度より稼働した図書館システムを活用し、入力作業を効率よく行った。当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業を年間通じて順調に進めた。あわせて、高い利便性と安定した資料の保管の双方に配慮しつつ、資料閲覧室としての公共	

				種データベースを構築して，情報通信回線を通じて公開し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。	売立目録デジタル・アーカイブの公開として、当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録約2500冊収載内容のテキストと画像が検索できるシステムを開発し、5月8日より公開開始して研究情報を提供するとともに、さらなる活用を目指して2年2月25日に公開研究会を行った。 資料閲覧室の運営・管理 資料受け入れ数：和漢書 1,853件、洋書777件、展覧会図録・報告書等1,355件、雑誌2,720件（合計6,705件）・閲覧室利用状況：公開日総数125日・年間利用者合計988人 ・文化財に関するデータベースの充実（奈文研） 文化財情報データベースの充実として、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関し、データの入力・更新を行うとともに、公開データベースを更新した。 全国遺跡報告総覧の登録データ件数 PDF数 24,008件 書誌登録数 63,994件 遺跡抄録件数 128,125件 文化財報告書の電子公開に関する理解を深めるために「報告書データベース作成に関する説明会」を全国5か所で開催した。 ・図書の収集・整理・公開・提供（奈文研） 資料の収集・整理・保管・提供では、書庫内において資料の配置場所が明確になるように表示板を増やして資料の配置が分かりやすくなるように工夫した。書庫内に閲覧机を増設することにより、書庫内における閲覧スペースの拡張を行った。 閲覧室の照明器具を増設することにより、閲覧机上の明るさを増強した。研究室が管理する資料の遡及登録を開始した。 購入図書 199冊、寄贈図書7,061冊、雑誌 2,423冊、一般利用者 229人、利用冊数1,990冊、来館者複写件数758件、遠隔利用：複写受付件数 405件、貸借貸出冊数102冊	性と高い専門性を保持した運営を行い、週3回、一般利用者への所蔵資料の提供を行った。 元年度は、文化財研究の専門機関として国内外から重要視されていた売立目録についてデジタル・アーカイブを完成・公開し、研究支援を飛躍的に推進したと評価した。（東文研） ・「文化財に関するデータベースの充実」では、最新のデータを提供して充実を図っている。全国遺跡報告総覧のように他に類を見ないデータを提供しており、独自のデータ解析も提供している。既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。 サーバーの効率的利用及びデータベースの機能強化のため、データベースの統合を行い、データベースの公開件数は減少したが、主力の全国遺跡報告総覧では、登録データ件数・ダウンロード件数ともに増加しており、大規模なデータベースを維持し、確実なデータ提供を多年にわたって実現している。これらにより、内容豊なデータベースとして著しく発展していると評価した。（奈文研） ・「図書の収集・整理・公開・提供」では、光度不足だった閲覧室に照明器具を増設することにより、資料を閲覧しやすい環境となった。 研究室が管理している資料を図書館システムに登録することにより、蔵書検索システムへの反映など、所内全体での利用が容易となった。書庫内に閲覧机を増設することにより、研究員の調査・研究に更なる利便性の向上を図った。また、図録の配架場所に都道府県別の仕切り板を入れ、資料の配架状況を分かりやすくしたことにより、資料の調査及び配架作業の効率化を図った。継続性においては、従来の継続的な業務を滞りなく行った。（奈文研）	

		②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。		・文化財に関する調査研究の成果について、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信した。（東文研、奈文研） ・定期刊行物の刊行を行った。（東文研）（奈文研） ・薬師寺典籍文書データベース、大宮家文書データベース、考古関連雑誌論文情報補完データベース、遺跡報告内論考データベースの各データベースをクラウド化し、運用と公開の効率化を図った。（奈文研） ・奈文研ブログ「コラム作寶樓」月2回更新、新たに7月より毎月1研究室を紹介する「巡報研究室」の配信を開始した。（奈文研） ・2件のウェブデータベース（新海竹太郎資料、内国勧業博覧会美術出品目録）の新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善を実施した。また、30年度に引き続き、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携し、データベース管理システム Oracle による所内データベースを適宜改良して利便性を向上させた。（東文研） ・論文や学会発表を通じてデータベース構築関連の成果を公表した。また、プロジェクト「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」と連携し12月2日に「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催、123人の参加を得た。（東文研）	・元年度も所期の計画通り、各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行することができた。（東文研）（奈文研） ・現地説明会開催、ウェブ公開とも適時に情報を発信した。また、調査研究内容の新規性及び卓越性を持たせ発信することができている。個々のデータベース登録数も増え、多様なブログ、新規コラム等を更新することによりHPの内容を一層充実させた。 継続性については、定期刊行物、講演会、ウェブ公開など従来から継続的に実施している上、データベースをクラウド化するなどし、恒久的な提供が認められると評価した。（奈文研） ・データベースの構築、新規公開やデータ追加は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえ、時宜に適ったものである。画像及びテキストの両方を扱えるデータベースの構築を継続、今後のデータベースの多様化にも対応した。ウェブサイト更新による情報発信、セキュリティ水準向上への対応も継続的に実施した。（東文研）	
		③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。		以下の展覧会を開催した。（奈文研） ○平城宮跡資料館 ・春期特別企画展「高御座ー奈良朝の玉座」（4月22日～6月2日）（33日間・14,456人） ・夏期企画展「ならのみやこのしょくぶつえん」（7月20日～9月1日、9月5日）（34日間・9,162人）ギャラリートーク2回、ワークショップ2回 ・秋期特別展「地下の正倉院展	平城宮跡資料館については、特別展・企画展5件、特別公開1件、飛鳥資料館については、特別展・企画展4件を開催し、歴史的な地域の特性を活かした展示を行った。（奈文研） 平城宮跡資料館で新天皇の即位、新元号の発布を記念して、高御座展、元号に関わる木簡展を実施したほか、第一次大極殿内で幢幡レプリカの特別公開を実施できた。また、藤原宮跡資料室においても『藤原宮木簡 四』の刊行にあわせた特集展示を行えた。平城宮跡資料館・夏展は、奈良国立博物館と連携したもので、同館の「折りの世界の動物たち」展と同時期に開催した。奈良にある国	

		訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。			ー年号と木簡」（10月12日～11月24日）（37日間・13,257人） ギャラリートーク3回 ・新春ミニ展示「平城京の子」（2年1月4日～1月26日）（20日間・4,456人） ・冬期企画展「発掘された平城2019」（2年2月1日～2月26日）（22日間3,515人）ギャラリートーク2回（※2年2月27日～3月29日の間は新型コロナウイルス対策として臨時休館とした。） ・第一次大極殿における幢幡レプリカ特別公開（4月27日～2年1月5日） ○飛鳥資料館 ・春期特別展「骨ものがたりー環境考古学の研究室のお仕事」（4月23日～6月30日）（61日間・10,024人）関連イベント「体験！研究員のお仕事」3回、「研究員を展示！」4回。 ・夏期企画展「第10回写真コンテスト作品展「あすかの古墳」」（7月19日～9月1日）（40日間・3,070人） ・秋期特別展「飛鳥ー自然と人と」（10月11日～12月1日）（44日間・6,506人）関連イベント「飛鳥の森を探る」「ふるさと飛鳥を語る」 ・冬期企画展「飛鳥の考古学2019」実施（2年1月24日～2月26日）（29日間、1,331人）（※2年2月27日～3月15日の間は新型コロナウイルス対策として臨時休館とした。） ○藤原宮跡資料室 ・常設展示に加え、ロビーにて①『藤原宮木簡四』刊行記念の木簡特集展示「埋（うず）もれた大宮びとの横顔―薬・まじない・庄園の木簡」（4月8日～4月26日）、②都城発掘調査部藤原地区の2018年発掘調査成果速報展示（7月1日～12月27日）を実施。 解説ボランティア研修等では、解説ボランティアの育成に資するため、平城宮跡資料館及び平城宮跡歴史公園平城宮いざない館（受託事業）における特別展、企画展にかかる展示解説研修の実施、発掘調査の現地説明会、及び勉強会を実施した。解説ボランティアに関する会議は、平城宮跡解説ボランティア懇談会（毎月1回）、平城宮跡解説ボランティア連絡会議（毎	立文化財機構の施設同士がはじめて連携し、関連のあるテーマの展覧会を行うという試みであった。まさに奈良ならではの企画だったといえる。また、飛鳥資料館・春展でも埋文センター環境考古学研究室とその研究員を展示するなど、奈文研ならではの独創的な展示を行うことができた。平城宮跡資料館・夏展で英・中・韓国語版のリーフレット・チラシ、飛鳥資料館・春展で英・中・韓語版パンフレットを作成し、展示の多言語化のノウハウを培った。平城宮跡資料館・夏展では、造花類を多用するとともに、切り花・切り枝の真空パック展示を試みるなど、植物の展示方法を探った。また、飛鳥資料館・秋展は地元の地域社会・環境を強く意識した展示でもあり、これからの展示・活動の方向性を示している。各館の特別展・企画展は、ほぼ定期で継続的に実施するが、内容を変えつつ、飛鳥の関連イベントや平城のワークショップやギャラリートークなども充実させ、新たな入館者層の掘り起こしやリピーターの獲得を目指している。 平城宮跡資料館では特別展・企画展を年間5件開催し、目標値超えした。また、飛鳥では年間4件の目標値を達成できた。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。（奈文研） 解説ボランティアへの当研究所からの最新の情報提供、改善等の意見を随時取り入れるための「平城宮跡解説ボランティア連絡会議」、意見を検討するため研究部と事務部が一体となって組織した「平城宮跡解説ボランティア懇談会」を定期的に開催したことにより、情報発信内容等が効果的に進んでいる。解説ボランティアの資質向上のため、平城宮跡における研究所の最新の調査研究成果を踏まえた勉強会、発掘調査	

					月 1 回開催)、平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会 (2 か月に 1 回) を開催した。	現地説明会を実施するとともに、展示内容に即した解説研修を適宜企画し実施した。勉強会、研修を実施するとともに班長出席による連絡会議を毎月実施し、ボランティアからの意見を随時取り入れるようにすることで、活動の活性化や運用改善が進められた。以上により、活動が順調に進んでいると判断した。 **＜課題と対応＞** ―	
	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について、研修項目，課程等の体系を示し，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施すること。	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	【指標】 ・研修の実施件数 (前中期目標の期間の実績以上) ・研修の受講者数 (前中期目標の期間の実績以上) ・研修成果の活用状況 (アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上) 〈目標水準の考え方〉 ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は，我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては，各研修の目的，項目及び課程等の研修体系を策定するとともに，アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し，適宜研修プログラム等に反映する。	**＜主要な業務実績＞** 21 件のテーマを設定し、研修及び協力等を実施した。 研修等に関して主な実績は以下のとおり。	**＜評定と根拠＞** 当機構では下記のとおり研修及び協力等を行い、また、連携大学院教育の推進を行った。東文研、奈文研の文化財研修の件数及び受講者数、研修成果活用実績の目標値はそれぞれ 1 件、13 件、30 人、156 人、80%、80%のところ、1 件、14 件、31 人、199 人、100%、100%となり、すべて目標値を達成した。	
		①文化財に関する研修の実施	①文化財に関する研修の実施 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと協力して行う。 2) 研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。	【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況 (行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等) 〈目標水準の考え方〉 ・行政機関が実施する発掘調査や史跡整備事業を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じて都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	・博物館・美術館等保存担当学芸員研修を実施し、31 名が受講した。研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から 100%満足との回答を得ており、充実した研修が実施できた。(東文研) ・遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 14 課程の研修を実施し、延べ 199 名が受講した。なお、研修受講者に対するアンケート調査では、全員から「有意義であった」「役に立った」との回答を得た。(奈文研)	・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」では、文化財の保存と活用が求められた自治体の要望に応え、講義・実習を整理し、応募者は定員の 2 倍を超えた。当研究所の強みを生かし、材料、構造、製作技術と保存活用の関係について多彩な講義を展開した。また、当研究所の専門性を理解してもらう場にもなっており、資料保存の考え方や技術普及について向上が見込める。文化財活用センターと共催することで外部発信力が上がるとともに、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応えることができた。地域における保存活用計画の策定にも有益な知識の提供を行い、地域に成果を還元した。(東文研) ・「文化財担当者研修」では、堆積・地質学基礎課程、史跡保存活用計画策定課程、文化財防災・減災課程など、公共性、緊急性が特に高い研修を行い、これへの対応を行った。いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性を実施した。発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に寄与した。基本的に 5 日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を実施した。文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 9,900 人となった。(奈文研)	
		②文化財に関する協力・助言等	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。 2) 蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3) 地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。		協力・助言については、以下の内容で 609 件実施した。 ・文化財の収集、保管に関する指導助言 (東文研) 24 件 ・無形文化遺産に関する助言 (東文研) 32 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言 (東文研) 41 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言 (東文研) 42 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言 (東文研) 20 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言 (東文研) 25 件 保存環境調査に関する相談窓口については、元年度より、東文研から文化財活用センターに一本化した。 ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 (奈文研) 238 件 ・地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言 (奈文研) 32 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言 (奈文研) 10 件 ・地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究 (奈文研) 11 件 ・文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力 (文化財活用センター) 134 件 蓄積されている調査研究の成果を活かし、以下の通り他機関	専門的・技術的な援助・助言件数については、内容に応じて都度検討することになるので、モニタリング数値として見ているが、30 年度は東文研、奈文研、文化財活用センターでそれぞれ 596 件、301 件、53 件だったところ、元年度は 184 件、291 件、134 件となった。 「文化財の虫菌害に関する調査・助言」(東文研) では、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、災害などの初期対応で生物被害の拡大抑止のために緊急の対応が必須であるが、必要な情報や調査を最短時間で優先的に提供し、適切に対応することができたといえる。文化財の虫害・菌害対策について経験を有するそれぞれの専門がいる点で他機関にはない独自性があると判断した。限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。 「地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言」(奈文研) では、地方公共団体からの要請に基づき、水路改修及び道路付替の事前調査を適時適切に実施した。橿原市別所町の調査 (第 201-3 次) において、30 年度に引き続き条坊遺構を検出できた。農閑期に集中する受託事業の発掘調査 (第 201-3 次・第 201-5 次・第 201-9 次・第 202 次) を遅滞なく適切に遂行した。飛鳥・藤原地域の調査を 50 年以上にわたり続けている。 元年度も地方公共団体等の要請に基づき、当研究所の培ってきた調査	

				等との共同研究及び受託研究を実施した。 ・受託研究 11 件及び共同研究（東文研） ・受託研究 45 件（奈文研）	研究の成果を活かし、的確に受託研究を遂行することができた。（東文研）（奈文研）	
				28 年（2016 年）熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会で組織された検討委員会に職員を委員として派遣した。31 年 1 月に発生した地震により被災した和水町の江田船山古墳並びに塚坊主古墳の復旧支援のため、職員を委員として派遣した。元年台風 19 号による浸水被害を受けた川崎市市民ミュージアムの文化財レスキュー支援のため、職員を派遣した。10 月 31 日に発生した火災により被災した首里城の地下遺構の保存に関する指導助言のため、職員を派遣した。また、その修理のための基礎データとして、地下遺構の琉球石灰岩に対して非破壊強度試験を実施した。（奈文研）	「被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力」（奈文研）では、災害発生後に関係機関と連絡をとり、情報収集に努め、要請に応じて迅速に対応した。 火災により被災した石灰岩製の遺構の強化処置法として新規の処置法の検討に着手した。地震により被災した古墳の復旧方針の策定は、それぞれの古墳が有する構造的特徴および被害状況により大きく異なる。被害状況の調査を通して、各古墳の復旧方針を検討することは今後、発生が想定される地震災害時の復旧対策においても重要な指針を与えるものということができる。被害状況を迅速に把握するための三次元計測等を応用した。また、教育委員会及び関係機関とのネットワークを活用して適切な対応を実施した。地震により被災した古墳の復旧は長期にわたる。職員を各市町が組織した委員会に委員として派遣することは、継続して復旧支援に寄与するものである。
	④連携大学院教育の推進	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。		東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進を行った。（東文研） 京都大学・奈良女子大学・奈良大学との間での連携大学院教育の推進を行った。（奈文研）	初期の計画通り、両研究所において連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に寄与した。 ＜課題と対応＞ ―	
	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。 また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1）文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整	【指標】 なし	**＜主要な業務実績＞** 宮跡内の現状等について、文化庁、国土交通省等に情報提供及び助言の協力を行った。（奈文研）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記の通り平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力を行った。（奈文研）	
				文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・公開等への協力において、特別史跡平城宮跡内及び藤原宮跡内の現状等について、下記の通り情報提供及び助言を行った。 ・消防訓練実施への協力 ・平城宮跡歴史公園第一次大極殿施設復原整備工事への協力 ・第一次大極殿復原整備工事関係資料提供等 ・発生事案の報告及び対応 ・平城宮跡及び藤原宮跡等の保	・「文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・公開等への協力」において、文化庁施設の公開・利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備・維持管理及び修繕等の相談に対応している。また、文化庁施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っている。今後も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。（奈文研）

		備、管理事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力 2）ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力		存整備に関する検討委員会への参加 ・平城宮跡保存・活用連絡協議会及び WG への参加 また、平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び整備管理業務を実施した。 ・平城宮跡等草刈り管理業務 ・平城宮跡施設整備計画の情報提供等 ・復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応 ・宮跡内植栽管理への助言 ・国有地管理への助言 ・発生事案への報告及び対応 国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力において、平城宮いざない館第４展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について、国土交通省国営飛鳥歴史公園ならびに管理センターに協力を行った。 ・奈文研所蔵品の貸出 369 件 ・改修すべき箇所の提示と改修：20 か所 ・展示物の管理 日報の作成、データロガーによる温湿度モニタリング、貸出等対応 ・専門知識による助言・協力・監修：31 件 ・質問・案内対応：65 件 ・平城宮跡資料館、大極殿における幟幡特別展示との共同事業の企画・実施 ワークシート作製３件、通路でのミニ展示１回、チラシ配布	・「国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力」において、30 年度行った開館１年目の修正・訂正後に、新たに確認、発生した改修箇所を指摘、11 月 11 日に改修した。これにより、いざない館の展示はおおむね万全なものとなり、順調な運営に資することができた。また、10 月の即位礼正殿儀に合わせて、国交省、管理センターの依頼に基づき、大極殿で行っていた幟幡レプリカ特別公開へいざなうミニ展示を行った。 平城宮跡資料館を中心する宮跡内諸施設との連携した企画を実施、平城宮跡の一体的な活用を一歩進めた。また、平城宮跡資料館の展示とのコラボ企画を行うなど、効率的に両館の活動をサポートした。 展示室４の基本構想作成段階からかかわり続け、いざない館開館後も学芸業務を受託しており、より長期の協力を行なうことができると評価した。（奈文研）
				文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力において、下記の通り実施した。 ・キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行った。 ・キトラ古墳壁画の第 11～14 回公開事業を実施した。各公開では壁画とともに解説パネル・出土遺物レプリカ・模型等を展示した。また、壁画の解説映像の製作・上映を行った。 ・壁画公開期間にあわせてキトラ天文図を解説する移動プラネタリウムのイベントを実施した。 ・壁画公開時にチラシ、ポスタ	・「文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力」において、公開する壁画が５面と限られる中で、ポスターや展示室の造作を毎年変えるなどの努力を継続している。天井壁画の最古の天文図を解説するプラネタリウム企画や、石室ペーパークラフトなど、他ではできない独自企画を実施していることも高く評価できる。 今後もキトラ古墳の魅力をわかりやすく伝える、オリジナリティの高い企画を実施していくことで、国宝キトラ古墳壁画の公開を軸としながら、多様な魅力を生み出すことが期待できる。（奈文研）

					ー、解説リーフレットを作成した。解説リーフレットは英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語を毎回用意して外国語対応を充実させた。 ・壁画国宝指定記念のチラシ、ポスターを作成し告知した。また記念として石室のペーパークラフトを作成し、第13回公開参加者に配布した。ペーパークラフトを用いたワークショップを開催し、ファイバースコープ体験も行った。 ・壁画非公開期間においても展示室の公開を実施した。キトラ古墳石室模型や中国の天文図拓本などを展示した。お正月展示にあわせて「十二支子」の解説シートを作成した。 ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力において、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの共催、後援事業等において、人員及会場提供等の協力を行った。 ・第 17 回平城宮跡クリーン大会（共催） ・第38～40回平城宮跡歴史講座 ・「平城京歴史講座」（講師派遣協力） ・秋の遺跡見学会への協力 ・平成 30 年度平城宮跡歴史公園ガイド研修会への協力 ・ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月１回開催、年計12回開催） ・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省４者での会議：2か月に１回開催、年計６回開催） 周辺自治会等への協力として、自治会主催の歴史教室への講師派遣、周辺中学校の職場体験への協力を行った。 ・「佐保川地域ふれあい会館の歴史教室」（佐保川自治連合会）への講師派遣、 ・職場体験（富雄中学校ほか）への協力	・「ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力」において、ＮＰＯ法人と継続して協力し、平城宮跡の清掃や普及活動を行うと共に、ＮＰＯ法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月一回実施した。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴い情報共有、意見交換を行うためＮＰＯ法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との４者会議を開始したこと等により連携協力関係が進んでいると評価とした。ＮＰＯ法人の歴史講座等の支援や、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、広く情報発信を行うことができた。ＮＰＯ法人の共催、後援事業において、当研究所の施設を有効かつ効果的に活用できた。ＮＰＯ法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。（奈文研） ＜課題と対応＞ ―	
		⑤文化財等の防災・救援等への寄与 巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。 1)体制づくり 有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。 3)人材育成等の実施 文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。	⑤文化財等の防災・救援等への寄与 1)体制づくり 地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。 3)人材育成・事業啓発活動等の実施	【指標】 なし	**＜主要な業務実績＞** 文化財防災ネットワーク推進室を中心として、5 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 1)体制づくり ・常設体制による事業実施を目指し、文化庁へ概算要求を提出し、令和２年度から運営費交付金によって継続実施されることが決定した。 ・文化遺産防災ネットワーク推進会議（参画団体 24 団体）第 10、11 回を開催した。推進会議では、推進事業の活動状況と参画機関による情報交換等を行い、提案された「文化遺産防災ネットワーク推進会議 活動ガイドライン」について承認された。推進会議参画団体は１団体増え、25 団体となった。また、台風 19 号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫の水没事故に対しては推進会議参画団体のうち 10 団体が集合して救援活動を行うなど、実践的な成果を挙げるに至った。 ・文化遺産防災ネットワーク有識者会議：第 10、第 11 回を開催した。 ・活動ガイドライン策定ワーキンググループ（WG）会議（元年度：4 回開催）を開催した。 ・4 博物館・2 研究所が分担して全国を 6 つのブロックに分けて担当し、都道府県における文化財防災の体制と課題の調査、県内各種会合へ参加、ブロック内協議会等の開催を行った。 ・自然災害発生時の行動に結び付けるための地域の実情に即した「活動ガイドライン」の作成について検討した。 ・国内で発生した自然災害における文化財被災情報を収集：台風 19 号で被災した川崎市市民ミュージアムにおける収蔵品救出活動実施のための体制構築と、技術面での支援等を行った。各都道府県で発生した台風 19 号をはじめとした自然災害に対して、文化財被害に関する情報収集と支援活動を行った。 ・地方公共団体・文化財関連団体等の主催する講演会・研修会等への講師派遣 ・地域連携を重点に置いた研修会の開催：文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記の通り文化財等の防災・救援等への寄与に取り組んだ。 1)体制づくり 動産文化財を対象とする推進会議参画団体のための活動ガイドラインの完成をみたことにより、都道府県に対して当推進事業との連携を積極的に推奨することが可能になった。 各地で開催する研修会や講演等を通じ、文化財防災のための地域連携の在り方や防災対策、被災文化財の保全方法など、広範な内容をもって事業の有用性を伝えることができた。	

					動産文化財と動産文化財ー現状の課題と今後の連携に向けてー」（11 月 19 日）［九州国立博物館］会場：研修室 対象：都道府県の文化財等担当者、博物館・美術館学芸員等、受講者数：41 人 ・国内の研究集会等に参加し、地域における文化財の保全や災害時の活動体制に関する情報収集や発表を行った。 情報収集：全国消防長会東近畿支部予防業務研究会（6 月 18 日）、地域ブロック研究会（10 月 3 日） 文化財保存修復学会(6 月 22 日)において、文化財防災ネットワーク推進事業の成果を発表した。 ・報告書『都道府県及び指定都市地域防災計画における文化財等の保全に関する記載一覧及び抜粋』を刊行し、専門家及び一般市民の情報収集に貢献するため、各都道府県の教育委員会、国内の博物館、大学、図書館等に納本した。 2)調査研究等の実施 ア ・阪神淡路・東日本両震災の救援委員会記録の整理・分析研究を行った。阪神淡路大震災の救援委員会の活動に係る記録のデータを、確実に保存するため、資料のスキャンによるデジタル化を進めた。 ・歴史的建造物と動産文化財の一体的な防災・救援体制構築に　関する研究を行った。千葉県のヘリテージマネージャーの建物調査（6 月 17 日）に同行し、課題等を検討した。 ・文化財防災体制のあり方に関する調査研究として、各地でのシンポジウム・研修会等に参加し、関係団体への聞き取り調査を行った。 ・全国文化財等データベース・全国文化財保護条例データベースの構築を行った。都道府県のデータベース構築推進委員会を 5 ブロックに分けて開催し、データベース構築の進捗状況と課題を協議した。委員会を通じてネットワークを構築した。 ・自然史標本リスト共有システムの確立のための調査を行った。陸前高田市立博物館に仮保管されている津波によ	2)調査研究等の実施 ア 各種の文化財データベースの構築を進め、各種の災害による多岐にわたる文化財被害に備えるための防災データベースを確立しつつある。各施設が取り組んできた特色ある文化財データベースは、データ収集から利用の段階に進みつつあり、平常時・災害発生時の活用が期待される	

					り被災した市内貝塚出土自然遺物を調査し、汚損した袋の入れ替えやラベル情報等の記録類をデータ化して目録化作業を実施した。元年度は 96 袋分の被災資料について作業を完了した。 ・歴史的災害痕跡データベースの運用・活用を行った。 ・文化財が被災した災害に関する事例集の作成（歴史資料）を行った。 ・九州地区における近年の災害を対象として、文化財が被災した災害に関する事例集の作成を行った。28 年熊本地震や 29 年九州北部豪雨などの九州地区の被災文化財のその後について、福岡県、大分県、熊本県にて調査を行い、災害後の課題を検討した。 ・文化財が被災した災害に関する事例集（自然史資料）の作成を行った。これまでに刊行された被災自然史資料の救出活動に関連する文献を集成し、関連文献一覧表を作成した。収集した記事や論文、Web サイトは30年度分も含め合計 163 件となった。 ・都道府県との連携による文化遺産保全リスト・地図作成を行った。 イ ・非常災害時に活用できる非常用収蔵庫の試験的な運用のため、けいはんなオープンイノベーションセンター内の二つの収蔵庫について、落下防止対策、浮遊菌等調査、温湿度管理等を実施し、安定的な保管管理のためのデータを取得した。 ・自然災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣　化診断・応急処置等の方法や安定的保管のための保存環境に関する研究を行った。 ウ ・無形文化遺産総合データベースのデータ収集と公開を進めた。 ・無形文化遺産の防災のための動態記録を調査及び作成を行った。被災後の民俗芸能の復興についての記録として、宮城県女川町の獅子振りの実演を記録した。 3)人材育成等の実施 文化遺産防災ネットワーク推	イ 文化財防災拠点として収蔵施設維持管理の試験的運用を順調に進めている。 また、被災文化財の保全処置及び保管環境に関する科学的な研究を進めている。集中豪雨で被災した紙資料の保全、カビの発生による環境汚染対策等、緊急性のある課題にも対応している。 ウ 無形文化遺産の防災に関する情報発信が強化され、機構としての特色を示していると評価した。 3)人材育成等の実施 一連の研修・シンポジウムの実施、	

					進会議の参画団体・関係団体と情報共有を図りながら、以下の通り情報公開を行った。 ・文化財防災ネットワーク推進事業の英語版ウェブサイトのコンテンツの簡略化と活動情報の追加更新、内容の充実化などのリニューアルを行った。（訪問者数 182,485 件） ・文化財防災ネットワーク推進事業を紹介した英文パンフレットの内容の追加更新し、英文を改訂し、レイアウトを刷新し、ICOM 京都大会等で配布した。（1,000 部） ・文化財防災ネットワーク推進事業の紹介パンフレットについて、元年度活動内容等の更新を行った。（2,000 部） 被災資料の応急処置などに関わる動画の作成・公開を行った。 ・関係学会・博物館との共同により、自然史資料の応急処置動画（日・英）を作成し、ウェブサイトで公開した。日本語版の動画については、DVD-ROM とマニュアルハンドブックを作成し、実際の応急処置作業に活用いただけるよう、関係団体に配布した。 ・各地で開催される研究集会における情報収集を実施した。 ・一般市民向けのシンポジウムを以下の通り開催した。 1. シンポジウム「文化財を守り伝える 2 東日本大震災から 8 年の今、これから」（10 月 26 日）会場：けいはんなオープンイノベーションセンター2 階ミュージアムホール、参加者数：30 人 2. 文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「地域防災と文化財―身近にある文化財、それをまもり伝える意味」（12 月 7 日）［推進室］会場：東京国立博物館 平成館大講堂、参加者数：134 人 研修・研究会を実施し、防災・減災・レスキューといった視点から、被災文化財の応急処置等の技術の習得を促進した。 ・文化財等防災ネットワーク研修（11 月 6 日～7 日）会場：奈良文化財研究所、対象：地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸	国外の専門家との交流によって、事業の基盤が確立することができた。 人材育成のための教育プログラム作成作業について、国内の大学機関、行政機関との意見交換のほか、国際的な概念と方法論等を導入することを目的として ICCROM の研修へメンバーを派遣し、外国人専門家を招聘するなどし、より積極的に取り組みを推進した。	

					員、参加者数：16 人 ・文化財防災に関する研修「北海道内の文化財防災を考える」（12 月 19 日）会場：北海道立近代美術館、対象：地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員、参加者数：26 人 文化財防災に関わる外国機関等と積極的に連携し、我が国の防災に関する経験を国際貢献に役立てた。 ・人材育成のための教育プログラム作成作業に資するため、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）主催「2019 年度緊急時における文化財の応急処置に関する国際研修」に参加した。（11 月 11 日～12 月 5 日 於： ICCROM イタリア・ローマ） 人材育成・啓発活動等を行うための有効な教材の作成に着手した。	＜課題と対応＞ これまでの活動実績と、今後は動産・不動産、有形・無形、指定・未指定を問わない防災体制構築について取り組むとする展望が評価され、現行の補助金による事業から、2 年度以降は運営費交付金による事業実施が認められた。	

４．その他参考情報
特になし。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅱ	業務運営の効率化に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
一般管理費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間中15%以上効率化	1,079,716	831,109	753,613	1,277,028	974,244		9.77%減（前中期実績値比）
業務経費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間中5%以上効率化	6,580,389	5,417,416	6,158,978	5,955,580	5,964,637		9.36%減（前中期実績値比）
光熱水量	電気量（kwh）	実績値	－	24,981,326	25,475,017	25,703,795	25,705,596	26,112,714		1.58%増
	ガス量（㎥）	実績値	－	1,888,670	1,961,450	1,984,170	1,941,360	2,042,038		5.19%増
	水道量（㎥）	実績値	－	143,075	144,711	154,269	157,555	156,080		0.94%減
廃棄物排出量(kg)		実績値	－	225,151	225,453	232,251	210,462	187,701		10.81%減

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和元年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記の通り。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細から B 評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 **＜今後の課題・指摘事項＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である。 ・文化財活用センターを核とする柔軟な人事に期待したい。 ・研究環境の充実化は必須。

１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとする。特に，2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて，横断的に国際業務を推進する体制の整備に努めることとする。	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，組織・体制等の見直しを行う。特に，2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて，機構の事業全体を通じて，各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。	（１）組織体制の見直し ・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。 ・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の検討を継続し、設置する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜主要な業務実績＞** ・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019年ICOM京都大会の実施に向けて、4月に一般職員を1名を追加で派遣した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、日本博の事業を円滑に進めるため、4月に課長補佐級職員1名、一般職員1名を派遣した。 ・情報セキュリティの確保・維持のため、4月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、国際業務の推進体制整備の一環として、元年度は追加で ICOM 京都大会準備室への人員配置を行うことができた。また、本部情報担当の人員を増員することで、機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。国際業務の推進体制整備、情報セキュリティへの対応を、引き続き進めていく。 ＜課題と対応＞ ―	
（２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。	（２）人件費管理等の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。	（２）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜主要な業務実績＞** ・人事給与統合システムの更新を行った。本システムにより、機構全体として統一的な処理を実施し、人件費のシミュレーション等を行うことにより、人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案することできるようになり、元年度も適正な人件費管理を行っている。 ・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。2年度も引き続き公表することとしている。 ・当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠している。また、国と異なる諸手当はない。 ・ラスパイレス指数は、30年度は、事務・技術職員が99.2、研究職員が98.1となっており、その水準維持に努めた。また、元年度のラスパイレス指数は事務・技術職員が97.4、研究職員が98.1となった。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、年度計画に沿って、国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表している。 ＜課題と対応＞ ―	
（３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。	（３）契約・調達方法の適正化 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」 （平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事	（３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜主要な業務実績＞** ・独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成27年5月25日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が元年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第1回契約監視委員会（12月2日開催） 第2回契約監視委員会（2年6月18日書面審議） ・東京国立博物館（レストラン、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（飛鳥資料館ミュージアムショップ、平城宮跡資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施済み。30年度においては、同様に貸借期間終了に伴い京都国立博物館にて、ミュージアムショップ・レストランの企画競争を実施した。今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・11月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（21人が参加） ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施できた。 ＜課題と対応＞ ―	

		由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。			一般競争入札件数 | 年度	30 年度	元年度	増減
---	---	---	---
件数	136 件	186 件	50 件			
	（４）共同調達等の取組の推進 周辺の機関と連携し，コピー用紙等の消耗品や役務について，共同して調達する取組を年度計画等に具体的な対象品目等を定めた上で進めるものとする。	（４）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。	（４）共同調達等の取組の推進 周辺の他機関を含めた共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 上野地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、トイレ洗浄機器等賃貸借 京都地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー 九州地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、ガソリン		＜主要な業務実績＞ ・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。 （再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館）。 ・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC用紙及びトイレットペーパー）。 ・奈良国立博物館では、トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進める。 ・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙及びトイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。 ・奈良文化財研究所では、PPC用紙及びトイレットペーパーについて、近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については、引き続き検討を進める。	＜評定と根拠＞ 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進することができた。 ＜課題と対応＞ ―	
	（５）一般管理費等の削減 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成25年12月24日閣議決定）等を踏まえ，国民に対して提供するサービスの質の維持向上に十分配慮しつつ，自主的・戦略的な業務運営を行い，最大限の成果を挙げていくために，調達の合理化を推進するなど一層の業務の効率化を推進することとする。具体には，文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，	（５）一般管理費等の削減 中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務	（５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努め	〈主な定量的指標〉 文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を図ること	＜主要な業務実績＞ ・統合メールシステムを導入し、5施設（東博・京博・奈良博・奈文研・IRCI）で運用を開始した（10月～2年1月）。東文研は継続検討、九博は福岡県のシステムを利用しているため対象外とした。 ・次期機構ネットワーク構築（2年度予定）に向けた準備として、各施設ネットワーク環境の調査及び概要設計を行った。(11月～2年2月) ・現グループウェアであるサイボウズの外部化（2年度予定）について準備を進めるとともに、次期グループウェアの検討を開始した。 ・各施設とも警備業務や来館者対応、清掃業務等について、外部委託を行っている。 ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館では、引き続き茶室、大講堂等の施設貸出業務及び音声ガイド貸出業務について民間委託を実施している。 ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。	＜評定と根拠＞ 当機構では、効率化について、可能なものについて実施済である。 各施設においては計画通り節減に努めており、光熱水使用量の増加は当年度の外的要因によるところが大きい。 一般管理費の削減については、前中期実績値に対し9.77%減少した。 業務経費は、前中期実績値に対し9.36%減少した。 ＜課題と対応＞ ―	

	一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を図ることとする。	を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進	る。 ・廃棄物減量化 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。		・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等） ・使用資源の推移等 日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、以下の外的要因により使用量は電気とガスについて増加した。 電気使用量　奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う電気使用量の増加があった。(前年度比8.69%増) ガス使用量　奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う空調用機器運転に係る使用量の増加があった。(前年度比66.53%増)		
	２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，オープンデータの推進，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。	２．業務の電子化 機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。	２．業務の電子化 機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜主要な業務実績＞ ・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。 ・政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、「e国宝」「ColBase」の運用を継続した。 ・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。 ・web給与明細システムへ、出張旅費等の支払履歴表示機能を追加した。(7月) ・統合メールシステムを導入した。	＜評定と根拠＞ 当機構では、機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに、必要なシステム更新・機能追加を適宜行い、今後の運用に向けた各種対応を進めた。 ＜課題と対応＞ ―	
	３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	３．予算執行の効率化 収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜主要な業務実績＞ ・「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。	＜評定と根拠＞ 当機構では、計画通り取組を実施している ＜課題と対応＞ ―	

４．その他参考情報
【契約に係る規程類】 ①独立行政法人国立文化財機構会計規程 ②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程 ③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則

④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則
⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則
⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則
⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項
⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項
⑨契約情報公表に必要な事項に関する取扱
⑩独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項
⑪独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項
⑫標準型プロポーザル方式の実施要項
⑬公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項
⑭調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑮研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑯広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑰情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式
⑱独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて
⑲令和元年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画
【審査体制】
①内部のチェック体制
各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており、また新たな随意契約を締結する場合は、調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。
東京国立博物館における１千万円を超える物品調達の場合の例
[購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同主任チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定　（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁）
[予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁
[一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結]
[物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成]
[支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い]
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他の業務運営に関する重要事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
自己収入額（千円）	－	実績値	1,538,510	1,817,119	1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303		受託研究・受託事業を除く
寄付金等額	－	実績値	439,574	795,744	753,812	732,210	827,718	884,196		
施設の有効利用件数	（東博）	実績値	－	652	747	866	781	680		
うち有償利用件数		実績値	－	434	529	581	485	457		
施設の有効利用件数	（京博）	実績値	－	112	105	122	165	196		
うち有償利用件数		実績値	－	104	93	86	143	164		
施設の有効利用件数	（奈良博）	実績値	－	117	113	111	112	166		
うち有償利用件数		実績値	－	33	27	19	18	84		
施設の有効利用件数	（九博）	実績値	－	392	355	280	328	349		
うち有償利用件数		実績値	－	118	116	96	75	77		
施設の有効利用件数	（東文研）	実績値	－	186	185	200	198	145		
うち有償利用件数		実績値	－	7	9	10	13	7		
施設の有効利用件数	（奈文研）	実績値	－	256	296	347	247	224		
うち有償利用件数		実績値	－	43	52	35	29	19		
施設の有効利用件数	機構合計	実績値	－	1,715	1,801	1,926	1,831	1,760		
うち有償利用件数	機構合計	実績値	－	739	826	827	763	808		

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
Ⅴ　財務内容の改善に関する事項	Ⅲ　財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和元年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記の通り。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細より、Ｂ評価とした。	評定	Ｂ
						＜評定に至った理由＞ 　中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 　自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 **＜今後の課題・指摘事項＞** 　― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・ファンドレイジング事業、映画等のロケーションのための建物等の利用など、外部資金獲得に積極的に取り組んだ。 ・さまざまな試みや取組は評価される。ただ収入と	

							結びつく「観光」だけにならないよう心がける必要がある。また、コロナでしばらくインバウンドが期待できないなかで、より地域や国内を重視した取組が求められる。
	１．自己収入拡大への取組 展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，寄附金等の外部資金の募集，保有財産の有効利用の推進，競争的資金の獲得等多様な取組を進めることとし，前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得るものとする。	１．自己収入拡大への取組 展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め，自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。	１．自己収入拡大への取組 （１）機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。 （２）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （３）保有資産の有効利用の推進 （博物館４施設） ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。 （文化財研究所２施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	中期目標・計画上の評価指標】 ・展示事業等収入額（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・（関連指標）その他寄附金等収入額	＜主要な業務実績＞ 自己収入については、2,016,303千円となり、目標値1,538,510千円を大幅に上回った。 寄附金については、884,196千円となり、目標値439,574千円を大幅に上回った。 東京国立博物館と文化財活用センターの共同ファンドレイジング事業として、「東京国立博物館蔵 重要文化財 小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆 江戸時代・18 世紀」の修理費等を個人や企業からの寄附金1,500万円の獲得を目指す「＜冬木小袖＞修理プロジェクト」を２年１月から開始した。２年間を予定し、元年度中に寄附金3,271千円を獲得した。 【実物資産の保有状況】 令和２年４月１日現在 東京国立博物館 土地120,270㎡、建物(延面積)78,471㎡ 京都国立博物館 土地53,182㎡、建物(延面積)31,044㎡ 奈良国立博物館 土地78,760㎡、建物(延面積)19,116㎡ 九州国立博物館 土地159,844㎡(うち九博10,798㎡) 建物(延面積)30,675㎡(うち九博9,300㎡) ※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地155,679㎡、建物5,780㎡を分有している。また、建物のうち15,595㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 土地4,181㎡、建物(延面積)10,516㎡ 奈良文化財研究所 土地46,487㎡、建物(延面積)41,418㎡ 保有資産の有効利用の推進 元年度の貸付総件数は1,760件に上り、多数の貸付が実施されている。 詳細は自己点検評価報告書参照 （東博） ①講座・講演会等を様々な年齢層に向けて開催した。 ②今年度も、会場のユニークベニュー利用、ロケ地撮影、茶室、講堂等の外部への貸し出しを積極的に行った。 ・施設貸出については、ウェブサイトによる周知とともに、リピーターを増やすべく会場の下見や当日利用時などにきめ細やかなサービスを心がけるなど、利用者の満足度向上に努めた。 ・ユニークベニュー利用による収入は、18件74,763千円であった（30年度実績14件51,288千円）。 ・ロケ地利用による収入は、286件18,558千円であった（30年度実績298件25,687千円）。 ③入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマ、ビアガーデンなど26件のイベントを実施し、約27,500人の参加があった。また国際交流事業として「留学生の日」を実施し無料観覧（総合文化展のみ）のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い、444人の参加があった。 （京博） ①記念講演会、土曜講座、夏期講座及びトークイベント等を開催した。 ・記念講演会、土曜講座、夏期講座等を開催した。	＜評定と根拠＞ 当機構では、自己収入も目標を大幅に上回り、実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理され、有効に利用されている。また、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も積極的に行った。 （東京国立博物館） バリエーションに富んだ当館の施設や敷地を活用すべく積極的に受け入れを行ったことにより、大幅な収益増とすることができた。 また、リピーター確保のため、外部委託業者とともにきめ細かなサービスを心掛けた。 引き続き貴重な収入源である施設の有料貸出推進に向けて努力する。 （京都国立博物館） 明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ウェブサイトや外	

					・「キャンパスメンバーズ向け講演会」計２回　場所：平成知新館講堂　参加人数：203人 ・「トークイベント いまひとたびの『風神雷神』原田マハと京博の研究者たち」 場所：平成知新館講堂　参加人数：180人 ②外部サイトにロケーション撮影の案内を掲載した他、明治古都館・グランドロビーなどの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内（利用時間、料金等）を当館ホームページに掲載した。 ・ブランド展示会、茶会、講演会、野外イベント等の会場として、またロケーション撮影スポットとして、各施設の貸出を実施した。 ・ICOM京都大会期間中、オフサイトミーティングや閉会式等のイベント会場として各施設を提供した。 ③従前の「京都・らくご博物館」の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の割引観覧やグッズの無料配布を実施した。また、大学・企業・近隣地域等と連携し、講堂や庭園でイベントを開催した。 ・「京都・らくご博物館」計３回　場所：平成知新館講堂　参加者数：405人 ・「トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー」　場所：平成知新館　参加者数：60人 ・明治古都館を特別に公開した。（9月1日～6日） ・「十二単お服上げの再現―現代につながる王朝の美」 場所：平成知新館講堂 参加人数：754人 ・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加者数：38人 ・「新春能」　場所：平成知新館講堂 参加人数：393人 ・「芸舞妓 春の舞」 場所：平成知新館講堂 参加人数：365人 （奈良博） ①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 ・公開講座(13回)、親子講座（1回）、サンデートーク(11回)、正倉院展ボランティア解説(89回)、特別鑑賞会(6回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等 ②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。 ③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、インバウンド対策として、「英語落語in奈良博」を９月１日に実施し、148人の参加があった。 ・講堂：「改元記念講演会『ようこそ新元号！～これまでの奈良博、これからの奈良博～』」、「夏休み親子新聞教室ではがき新聞づくり」、「英語落語in奈良博」、「御即位記念 第71回正倉院展親子鑑賞会」、「お水取り講話と現地解説の会」、「お水取り展鑑賞とお松明」 ・地下回廊：「オリジナル絵巻を作ろう」、「抹茶体験」、「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」、「チョコパンケーキを作って食べよう」 ・会議室：「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」 ・仏教美術資料研究センター：「FM802 Daiwa Sakura Aid FOR THE GENERATION 番組公開収録」、「新元号制定記念コンサート」、「FM COCOLO Daiwa Sakura Aid GO GO ゴンチチ 番組公開収録」、「仏教美術資料研究センターの一般開放」 ・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」 ・展示室：「仏像供養（年４回）」、 ・庭園・茶室：「春の庭園散策ツアー」、「Daiwa Sakura Aid Concert」、「秋の庭園開放」、「おん祭茶会」 ・敷地内：「トラりんグリーティング」、「MASERATI MEETS NARA 2019」、「奈良博プライダルショー世界に一つだけ、あなたのWedding」等 ○会場提供 ・講堂：「４機関協定締結記念シンポジウム『奈良とは何か？』」、「奈良シニア大学講義」、「京都府立大学文学部歴史学科新入生合宿研修」、「仏教芸術学会シンポジウム」、「近畿美術館博物館・美大研修」等	部ロケ地ポータルサイトに掲載し、外部に対して積極的に広報を行った。問い合わせ、利用件数ともに増加しており、一定の広報効果とMICE開催地としての認知度の上昇があったと考えられる。 入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベントを試みた。元年度は特に、平常展の集客を図るため、講堂・庭園等において展覧会や文化財に関連したイベントを実施した。 （奈良国立博物館） それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。 また、インバウンドプロモーションとして、関西文化の日プラスの日に「英語落語 in 奈良博」を実施し、全内容英語のみとし、外国人観光客を多数集客することができた。	

					・仏教美術資料研究センター：「行基生誕1351年記念シンポジウム」、ブライダル撮影、ブライダルフェア等 ・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、雑誌撮影、ブライダル撮影等 ・敷地内：「なら燈花会」、「第3回春日野音楽祭まちなかステージ」、「春日若宮おん祭」等 （九博） ①特別展及びトピック展等に関する講演会・講座等を開催した。 ・特別展関連講演会　11回 ・特集展示関連講演会　4回 1）特別展及び文化交流展（特集展示）関連イベント ・特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念講演会 「鎌倉彫刻の巨匠運慶・快慶とその次世代の仏師たち」 （4月27日　参加者数：120人） ・特集展示「文化財よ、永遠に」関連講演会『修理、果てしなき挑戦』（9月28日　参加者数：80人） ②ミュージアムホールおよび茶室、研修室等の外部団体への貸出を積極的に行った。 ・10月20日　太宰府市民茶会（太宰府茶道文化連盟） ・11月15日　ふくおか文化ボランティアフォーラム（NPO法人文化ボランティアとびうめの会） ③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。 また、これまで有償貸与の対象ではなかったエントランスホールの貸出について制度化し、10月に貸出を行った。 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたイベントの開催 ・ミュージアムコンサート「オカリナ×ギター 秋のアンサンブル」（9月14日　参加者数：330人） ・みゅーじあむ寄席（9月22日　参加者数：256人） ・「～山鹿の伝統来れり～山鹿の灯」（10月26日　参加者数：350人） （東文研） ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを元年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。 ・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。 （奈文研） ・当研究所ウェブサイトに講堂等の一時使用について、掲載し、広く周知して、利用者の獲得を図った。 平城宮跡資料館　講堂77件（有償4件） 平城宮跡資料館　小講堂111件（有償4件） 飛鳥資料館　講堂21件（有償0件） その他（収蔵庫棟）15件（有償11件）	（九州国立博物館） 今年度は、これまで有償貸与の対象ではなかったエントランスホールの貸出について制度化し、10月に貸出を行った。 会議・昼食利用のための会議室の貸与及び講演会・コンサートのためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を順調に履行できた。 （東京文化財研究所） 施施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施し、施設利用の拡大を図ることができた。なお、外部機関への有償貸付は7件実施した。 （奈良文化財研究所） 講堂、小講堂が奈良県のイベント（天平祭）に使用されなくなる等して利用件数が減少したが、他の施設においては、貸与を積極的に行い、特に飛鳥資料館では前年度比4倍の増加となった。 2年度以降については、元年度の減少理由の改善案を検討し、利用者のニーズに沿った施設の有効利用の推進を本来業務の支障の無い範囲で実施する。 ＜課題と対応＞ ―	
	2．固定的経費の節減 管理業務の節減を行なうとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図る。	2．固定的経費の節減 管理業務の節減を行なうとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図る。	2．固定的経費の節減		Ⅱ1．（5）一般管理費等の削減に関する事項に取組んだ。		
	3．決算情報・セグメント情報の充実等 文化財機構の財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 4．保有資産の処分	3．決算情報・セグメント情報の充実等 機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 4．保有資産の処分	3．決算情報・セグメント情報の充実等 独立行政法人会計基準等を踏まえ、決算情報・セグメント情報の充実を図る。	（主な定量的指標） 特になし （その他の指標） 特になし	**＜主要な業務実績＞** 前年度に引き続き、元年度決算（2年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（27年1月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では計画通り取組を実施している ＜課題と対応＞ ―	

4．その他参考情報

目的積立等の状況

（単位：百万円、％）

	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末
前期中(長)期目標期間繰越積立金	629	627	626	625	
目的積立金	58	246	293		
積立金	107	129	144		
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0	0	0	
運営費交付金債務	367	473	455	520	
当期の運営費交付金交付額(a)	8,388	8,325	8,808	8,593	
うち年度末残高(b)	367	473	455	520	
当期運営費交付金残存率(b÷a)	4.4%	5.7%	5.2%	6.1%	

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅳ	予算、収支計画及び資金計画 1．予算　2．収支計画　3．資金計画		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 ３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 １．予算 ２．収支計画 ３．資金計画	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和元年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記の通り。 **＜主要な業務実績＞** ・元年度当初予算について、30 年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。 ・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用が図られた。 ・精算払の外部資金により資金繰りが困難となる施設に対し、あらかじめ資金の貸与を行うなど、法人全体として効率的な資金管理を実施した。 ・総務担当理事を中心とした検討チームを立ち上げ、有識者や関係各所の意見を踏まえ、４博物館及び飛鳥資料館の平常展観覧料金を令和２年４月から改定することを発表した。 ・四半期ごとに入金される運営費交付金について、国に対し各期の必要額をあらかじめ伝えておくことにより、計画的な資金管理を実施した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応した。よってＢ評価とした。 ＜課題と対応＞ ―	評定	Ｂ
						＜評定に至った理由＞ 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 **＜今後の課題・指摘事項＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・修復専門職員の育成・採用が強く望まれる。		

４．その他参考情報

特になし。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅴ	その他の事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
Ⅵ　その他業務運営に関する事項	Ⅸ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和元年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記の通り。	**＜評定と根拠＞** 以下詳細によりＢ評価とした。 **＜課題と対応＞** ―	評定	Ｂ
						＜評定に至った理由＞ 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 **＜今後の課題・指摘事項＞** ― **＜その他事項＞** ―		
１．内部統制 法令等を遵守するとともに，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定整備・運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに，監事による	１．内部統制 コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、	１．内部統制 内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	**＜主要な業務実績＞** ・内部統制委員会を３回開催した。（5 月 14 日、9 月 11 日、2 年 1 月 28 日） ・リスク管理委員会を３回開催した。（5 月 14 日、9 月 11 日、2 年 1 月 28 日） ・洗い出したリスクの内、新たに 12 件についてリスク管理計画を策定した。 ・30 年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。 （内部監査及び監事監査等のモニタリング） ・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 会計監査　　10 月 17 日～11 月 29 日　全施設 給与簿監査　　10 月 23 日～30 日 本部事務局、東京国立博物館、 東京文化財研究所、奈良文化財研究所 アジア太平洋無形文化遺産研究センター 法人文書管理監査　11 月～2 年 3 月 （各施設による自己点検結果を基に、機構全体について書面監査を行った）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、30 年度に引き続き、内部統制委員会とリスク管理委員会を各３回開催した。内部統制とリスク管理の運用状況を把握することで計画の確認、見直しを行い、新たに 12 件のリスク管理計画を策定した。 元年度より、情報システム監査・情報セキュリティ監査について、システムの脆弱性監査と運用確認を分けて実施した。 また、内部監査及び監事監査等・各種研修を積極的に実施した。 ＜課題と対応＞ ―		

	監査機能・体制を強化する。	研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。			情報システム監査・情報セキュリティ監査 （1）ペネトレーション監査　9月10日～24日 奈良国立博物館、アジア太平洋無形文化遺産研究センター 30年度監査の再診断として実施：奈良文化財研究所 （2）マネジメント監査　2年1月22日～24日 本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所 ・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。 2年1月～2月　全施設（書面監査） 2年2月　本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所 ソフトウェア等監査 各施設で実施し会計監査の際確認を行った。 ・監事監査を以下の日程で行った。 定期監査（業務）　6月25日 定期監査（会計）　決算時の監査　6月25日 臨時監査（業務・会計） 12月3日 本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所 2年2月13日～14日　京都国立博物館、九州国立博物館 （研修の実施） ・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。		
	2．その他 （1）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。 （2）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ，情報セキュリティ・ポリシーを適時適切に見直すとともに，これに基づき情報セキュリティ対策を講じ，情報システムに対するサイバー攻撃への防御力，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また，対策の実施状況を毎年度把握し，ＰＤＣＡサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	2．その他 （1）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方についても適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （2）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。	2．その他 （1）自己評価 運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （2）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。	（主な定量的指標） 特になし （その他の指標） 特になし	**＜主要な業務実績＞** ・元年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。 ・上記自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会：4月22日／博物館部会・総会：5月30日）に提出し、外部有識者による評価が行われた。 ・外部有識者の意見等を踏まえ「平成30年度自己評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。 ・運営委員会（7月30日）を開催し、機構の管理運営の重要事項について理事長への助言がなされた。また、30年度の運営委員会で挙がった意見について、組織・事務・事業の改善状況を報告した。 ・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成26年度版)」準拠の情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT連絡会にて情報共有、検討を行った。 ・平成30年度版政府統一基準に準拠するよう、規程等の改正を実施した（2年3月24日改正、2年4月1日施行）。 ・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検をe-learningにて実施した。（2年2月3日～28日） ・情報セキュリティ監査を、外部機関に委託して実施した。(9月10日、11日、2年1月22日、24日) ・セキュリティレベルの向上・平準化を目的としたメールシステムの統合を実施した。(10月～2年1月) ・セキュリティ向上を目的とした次期ネットワーク構築調査を実施した。(11月～2年2月) ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(12月16日)	**＜評定と根拠＞** 当機構では、外部評価委員会等を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施した。 計画どおり、政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づき、必要な情報セキュリティ対策を実施するとともに、最新の政府機関統一基準に基づく規程等の改正を実施した。また、メールシステムの機構内統合についても、計画通り実施した。 ＜課題と対応＞ ―	

		を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。	検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。				

４．その他参考情報
特になし。

独立行政法人国立文化財機構の
第４期中期目標期間の終了時に見込まれる
業務の実績に関する評価

令和２年９月

文部科学大臣

１－２－１　中期目標管理法人　中期目標期間評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象中期目標期間	見込評価（中期目標期間実績評価）	第４期中期目標期間（最終年度の実績見込を含む。）
	中期目標期間	平成 28 年～令和２年度

２．評価の実施者に関する事項			
主務大臣	文部科学大臣		
文化庁	文化庁	担当課、責任者	企画調整課、清水幹治
大臣官房	大臣官房	担当課、責任者	政策課、坂本修一

３．評価の実施に関する事項
令和２年２月・３月　理事との実績見込等について意見交換を行った。 令和２年６月・７月　各種事業を実施している国立文化財機構職員との意見交換（随時）を実施した。 令和２年８月　監事に対する意見聴取を書面にて行った。 令和２年８月　第４期中期目標期間の終了時に見込まれる業務の実績に関する自己評価書等について、有識者会合委員に対し書面により意見聴取を行った。

４．その他評価に関する重要事項
平成 30 年７月、文化財の活用に関する新たな方法や機会を開発し情報基盤の整備を目指すことを目的として、文化財活用センターを開設した。

１－２－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　総合評定

１．全体の評定	
評定 （S、A、B、C、D）	B
評定に至った理由	法人全体に対する評価に示すとおり、全体として中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	以下に示すとおり、一部、中期目標に定められた以上の業務の進捗が認められており、全体として、中期目標に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められる。 Ⅰ　　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 Ⅰ－１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信（B） Ⅰ－２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施（A） Ⅱ　　業務運営の効率化に関する事項（B） Ⅲ　　財務内容の改善に関する事項（B） Ⅳ　　予算、収支計画及び資金計画（B） Ⅴ　　その他の事項（B）
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和２年２月から休館やプログラムの休止などを行っており、各種事業や自己収入への影響について考慮することが必要である。

３．課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	【国内外の博物館活動への寄与】 今後は、文化財活用センターとの貸与促進事業を国立４館に広げ、多様な人々が日本の文化財に親しむ新たな機会を創出することで、文化財の活用を通じて次世代への継承にもつながる取組の充実が期待される。(P15 参照) 【地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等】 文化財防災、被災文化財の救援活動に対する社会的な要請・ニーズを踏まえ、今後は、文化財防災ネットワーク推進室の機能を充実させ、各研究所等の研究成果の活用と人材育成を進めるとともに、各博物館と連携した防災ネットワークの推進により、ナショナルセンターとしての使命・役割を積極的に果たしていくことが期待される。(P44 参照) 【自己収入拡大への取組】 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館制限により、各種事業や自己収入への影響が懸念されるため、ウィズコロナ時代に対応した新たな観覧環境の提供と財源確保策の確立が望まれる。(P87 参照)
その他改善事項	特になし
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし

４．その他事項	
監事等からの意見	特になし
その他特記事項	特になし

※　評定区分は以下のとおりとする。

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期目標における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

Ｂ：全体としておおむね中期目標における所期の目標を達成していると認められている。

Ｃ：全体として中期目標における所期の目標を下回っており、改善を要する。

Ｄ：全体として中期目標における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

１－２－３　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定総括表

中期目標	年度評価					中期目標期間評価	項目別調書No.	備考
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	見込評価		
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項								
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	—	—	B	B		B	Ⅰ－1	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	—	—	—	—				
①国立博物館の施設設備の整備	（B）	（B）	—	—				
②有形文化財の収集等	（B）	（A）	—	—				
③有形文化財の管理、保存、修理等	—	—	—	—				
有形文化財の管理、保存	（B）	（B）	—	—				
有形文化財の修理等	（B）	（B）	—	—				
（２）展覧事業	—	—	—	—				
①展覧事業（平常展・特別展等）	（B）	（A）	—	—				
②観覧環境の向上等	（B）	（B）	—	—				
（３）教育・普及活動	—	—	—	—				
①教育活動の充実等	（B）	（B）	—	—				
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	（B）	（B）	—	—				
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	—	—	—	—				
①有形文化財に関連する調査研究	（B）	（B）	—	—				
②国内外の博物館等との学術交流等	（B）	（B）	—	—				
③調査研究成果の公表	（B）	（B）	—	—				
（５）国内外の博物館活動への寄与	—	—	—	—				
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	（B）	（B）	—	—				
②国内外の博物館等への援助・助言等	（B）	（B）	—	—				
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	—	—	A	A		A	Ⅰ－2	
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	（B）	（B）	—	—				
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	—	—	—	—				
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進	（A）	（B）	—	—				
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	（B）	（A）	—	—				
（３）文化遺産保護に関する国際協働	—	—	—	—				
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	（B）	（B）	—	—				
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	（B）	（A）	—	—				
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	（A）	（A）	—	—				
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	—	—	—	—				
①地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	（B）	（B）	—	—				
②平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	（A）	（B）	—	—				
③文化財等の防災・救援等への寄与	（A）	（A）	—	—				
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項								
組織体制の見直し	（B）	（B）	B	B		B	Ⅱ	
人件費管理等の適正化	（B）	（B）						
契約・調達方法の適正化	（B）	（B）						
一般管理費の削減	（B）	（B）						
業務の電子化	（A）	（B）						
予算執行の効率化	（B）	（B）						
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項								
自己収入拡大への取組	（B）	（A）	B	B		B	Ⅲ	
決算情報・セグメント情報の充実等	（B）	（B）						
Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画								
予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	（B）	（B）	B	B		B	Ⅳ	
Ⅴ　その他の事項								
内部統制	（B）	（B）	B	B		B	Ⅴ	
自己評価・情報セキュリティ対策	（B）	（B）						
施設設備に関する計画	（B）	（B）						
人事に関する計画	（B）	（B）						

※１　重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。

※２　難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。

※３　評定区分は以下のとおりとする。

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、中期目標における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期目標値の120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期目標値の120%以上）。

Ｂ：中期目標における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期目標値の100%以上120%未満）。

Ｃ：中期目標における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期目標値の80%以上100%未満）。

Ｄ：中期目標における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた、抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期目標値の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

なお、「Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項」、「Ⅲ．財務内容の改善に関する事項」及び「Ⅳ．その他の事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価せざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定しがたい場合には、以下の評定とする。

Ｓ：－

Ａ：難易度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。

Ｂ：目標の水準を満たしている（「Ａ」に該当する事項を除く。）。

Ｃ：目標の水準を満たしていない（「Ｄ」に該当する事項を除く。）。

Ｄ：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要。

１－２－４－１　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―１	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
関連する政策・施策	12　文化芸術の振興 12－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第 12 条 第２号
当該項目の重要度、困難度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
収蔵品件数（件）	（東博）	実績値	―	116,932	117,190	117,460	119,064	119,871	
	（京博）	実績値	―	7,532	7,794	7,977	8,075	8,130	
	（奈良博）	実績値	―	1,883	1,886	1,893	1,908	1,911	
	（九博）	実績値	―	525	583	878	1,164	1,279	
	（4館計）	実績値	―	126,872	127,453	128,208	130,211	131,191	
文化財購入費（百万円）	（東博）	実績値	―	226	662	253	147	279	
	（京博）	実績値	―	798	130	292	106	384	
	（奈良博）	実績値	―	140	5	550	102	100	
	（九博）	実績値	―	609	641	641	908	461	
	（4館計）	実績値	―	1,773	1,438	1,736	1,263	1,224	
寄託品件数（件）	（東博）	実績値	―	3,072	3,075	3,109	3,130	2,591	
	（京博）	実績値	―	6,112	6,189	6,235	6,434	6,520	
	（奈良博）	実績値	―	1,956	1,958	1,962	1,974	1,974	
	（九博）	実績値	―	885	905	934	931	1,300	
	（4館計）	実績値	―	12,056	12,127	12,240	12,469	12,385	
寄贈品件数（件）	（東博）	実績値	―	148	44	84	72	28	
	（京博）	実績値	―	405	251	172	86	31	
	（奈良博）	実績値	―	2	1	1	9	0	
	（九博）	実績値	―	8	22	261	181	66	
	（4館計）	実績値	―	563	318	518	348	125	
各年度にお	（東博）	実績値	―	―	180	180	133.8	133.8	
	（京博）	実績値	―	―	100	100	100	100	

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	8,925,336	8,178,201	8,624,908	9,657,051	
決算額（千円）	8,699,185	9,449,056	10,574,317	12,115,612	
経常費用（千円）	6,418,247	6,570,340	7,267,907	8,551,243	
経常利益（千円）	75,653	183,733	80,728	23,986	
行政コスト（千円）	―	―	―	12,816,054	
行政サービス実施コスト（千円）	7,679,590	7,032,313	7,835,106	―	
従事人員数	97	100	98	98	

※予算額は、４国立博物館の年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の決算額を計上している。
※予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

	ける収蔵施設の収容率(%)	(奈良博)	実績値	―	―	99	99	99	99	
		(九博)	実績値	―	―	80	85	80	80	
		(4館計)	実績値	―	―	―	―	―	―	
	資料等のデジタル化件数(件)	(東博)	実績値	24,471	30,013	25,334	26,972	25,575	26,475	
		(京博)	実績値	3,816	5,966	5,820	4,444	3,380	5,333	
		(奈良博)	実績値	5,373	3,875	3,081	3,017	3,047	3,001	
		(3館計)	実績値	33,660	39,854	34,235	34,433	32,002	34,809	
	修理件数(本格修理)(件)	(東博)	実績値	―	86	68	69	26	24	
		(京博)	実績値	―	12	14	11	17	12	
		(奈良博)	実績値	―	11	7	6	6	8	
		(九博)	実績値	―	22	18	19	40	31	
		(合計)	実績値	―	131	107	105	89	75	
	修理のデータベース化件数	(東博)	実績値	―	90	61	48	42	19	
		(京博)	実績値	―	113	151	180	149	171	
		(奈良博)	実績値	―	66	62	69	63	74	
		(九博)	実績値	―	―	―	―	―	―	
		(合計)	実績値	―	269	274	297	254	264	
	博物館の年間総来館者数(人)	(東博)	実績値	―	1,994,508	1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632	
		(京博)	実績値	―	653,336	384,340	941,931	477,884	376,061	
		(奈良博)	実績値	―	455,859	449,322	549,211	527,786	612,755	
		(九博)	実績値	―	884,128	922,468	668,269	700,391	674,277	
		(合計)	実績値	―	3,987,831	3,663,777	4,728,996	3,849,021	4,251,725	
	平常展来館者数(人) (基準値は、前計期目標期間実績の年度平均) ※京博の庭園開放は平常展来館者数	(東博)	計画値	―	362,470	512,186	512,186	512,186	512,186	
			実績値	―	747,944	761,709	1,030,180	989,508	1,030,652	
			達成度	―	206.3%	148.7%	201.1%	193.2%	201.2%	
		(京博)	計画値	―	123,089	166,600	136,309	141,041	130,629	
			実績値	―	205,526	186,162	136,862	146,314	158,664	
			達成度	―	167.0%	111.7%	100.4%	103.7%	121.5%	
			実績値		※1,699	※11,417	※15,676	※11,168	※13,908	
		(奈良博)	計画値	―	69,600	118,173	118,173	118,173	118,173	
			実績値	―	95,208	145,676	135,776	140,829	160,869	
			達成度	―	136.8%	123.3%	114.9%	119.2%	136.1%	
		(九博)	計画値	―	380,690	387,744	387,744	387,774	387,744	
			実績値	―	412,621	393,590	350,848	349,114	348,563	
			達成度	―	108.4%	101.5%	90.5%	90.0%	89.9%	

	に含む。	(合計)	実績値	―	1,462,998	1,498,554	1,669,342	1,636,933	1,712,656	
	平常展示替件数(件)	(東博)	計画値	―	5,500	6,009	6,009	6,009	6,009	
			実績値	―	6,930	8,538	6,616	5,981	5,813	
			達成度	―	126.0%	142.1%	110.1%	99.5%	96.7%	
		(京博)	計画値	―	700	919	919	919	919	
			実績値	―	1,145	943	973	1,021	1,140	
			達成度	―	163.6%	102.6%	105.9%	111.1%	124.0%	
		(奈良博)	計画値	―	180	314	314	314	314	
			実績値	―	286	427	210	232	239	
			達成度	―	158.9%	136.0%	66.9%	73.9%	76.1%	
		(九博)	計画値	―	600	1,253	1,253	1,253	1,253	
			実績値	―	1,513	1,654	1,594	1,779	1,641	
			達成度	―	252.2%	132.0%	127.2%	142.0%	131.0%	
	平常展示総件数(件)	(東博)	計画値	―	7,200	―	―	―	―	
			実績値	―	8,911	10,918	10,223	9,253	9,267	
			達成度	―	123.8%	―	―	―	―	
		(京博)	計画値	―	1,000	―	―	―	―	
			実績値	―	1,438	1,068	978	1,038	1,147	
			達成度	―	143.8%	―	―	―	―	
		(奈良博)	計画値	―	600	―	―	―	―	
			実績値	―	620	664	548	462	461	
			達成度	―	103.3%	―	―	―	―	
		(九博)	計画値	―	700	―	―	―	―	
			実績値	―	2,628	2,208	1,894	1,995	1,894	
			達成度	―	375.4%	―	―	―	―	
	平常展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	計画値	80	80	74	74	74	74	
			実績値	―	82	71	87.3	89.2	90.2	
			達成度	―	102.5	96.0	118.0	120.5	121.9	
		(京博)	計画値	80	80	79	79	79	79	
			実績値	―	83	75	84.4	89.7	79.1	
			達成度	―	103.8	95.0	106.8	113.5	100.1	
		(奈良博)	計画値	80	80	79	79	79	79	
			実績値	―	78	88.9	90.1	92.5	93.2	
			達成度	―	97.5	112.5	114.1	117.1	118.0	
		(九博)	計画値	80	80	67	67	67	67	
			実績値	―	72	73.8	77.8	73.6	77.1	
			達成度	―	90.0	110.1	116.1	109.9	115.1	
	特別展来館者数(人)	(東博)	実績値	―	1,246,564	1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980	
		(京博)	実績値	―	446,111	186,761	789,393	320,402	203,489	
		(奈良博)	実績値	―	360,651	303,646	413,435	386,957	451,886	
		(九博)	実績値	―	471,507	528,878	317,421	351,277	325,714	

		（合計）	実績値	－	2,524,833	2,165,223	3,059,654	2,212,088	2,539,069	
	特別展開催回数(回)※海外展を含む	（東博）	計画値	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	
			実績値	－	6	13	7	9	8	
			達成度	－	150	300	175	225	200	
		（京博）	計画値	1～2	2～3	1～2	1～2	1～2	1～2	
			実績値	－	3	2	2	2	2	
			達成度	－	100	100	100	100	100	
		（奈良博）	計画値	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	
			実績値	－	3	4	3	3	3	
			達成度	－	133.3	100	100	100	100	
		（九博）	計画値	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3	
			実績値	－	4	5	4	4	4	
			達成度	－	133.4	166.7	133.4	133.4	133.4	
		（合計）	実績値	－	17	23	16	18	17	
	特別展来館者アンケート満足度(%)	（東博）	計画値	80	80	71	71	71	71	
			実績値	－	75	87.9	86.4	84.2	86.6	
			達成度	－	125.0	123.8	121.7	118.6	122.0	
		（京博）	計画値	80	80	89	89	89	89	
			実績値	－	87	78.1	81.9	94.6	71.6	
			達成度	－	125	114	92	106.3	80.4	
		（奈良博）	計画値	80	80	80	80	80	80	
			実績値	－	79	86.4	88.1	89.8	91.4	
			達成度	－	125	108	110.1	112.3	114.3	
		（九博）	計画値	80	80	86	86	86	86	
			実績値	－	88	85.9	87.2	86.7	84	
			達成度	－	115	100	101.4	100.8	97.7	
	海外巡回数(回)	（東博）	実績値	－	1	5	2	2	0	
		（京博）	実績値	－	0	0	0	0	0	
		（奈良博）	実績値	－	1	0	0	0	0	
		（九博）	実績値	－	0	1	1	0	0	
		（合計）	実績値	－	2	5	2	2	0	
	来館者アンケート満足度(%)	（東博）	実績値	80	－	70.4	68.1	71.3	71.7	
		（京博）	実績値	80	－	40.2	63.4	73.1	67.4	
		（奈良博）	実績値	80	－	68	70.5	75.8	81.9	
		（九博）	実績値	80	－	77.2	63.7	61.6	70.2	
	外国人アンケートの満足度(%)	（東博）	実績値	－	－	69.7	74.8	72.7	76.9	
		（京博）	実績値	－	－	69.3	73.5	82.9	67.3	
		（奈良博）	実績値	－	－	67.7	69.7	79.8	79.1	
		（九博）	実績値	－	－	78.8	84.6	78.1	80.8	
	講義等回数(回)	（東博）	計画値	－	－	128	128	128	128	
			実績値	－	146	160	199	93	97	

10

			達成度	－	－	125	155.5	72.7	75.8	
		（京博）	計画値	－	－	26	26	26	26	
			実績値	－	39	45	32	37	28	
			達成度	－	－	173	123.1	142.3	107.7	
		（奈良博）	計画値	－	－	28	28	28	28	
			実績値	－	28	26	26	27	25	
			達成度	－	－	92.9	92.9	96.4	89.3	
		（九博）	計画値	－	－	90	90	90	90	
			実績値	－	87	77	84	80	69	
			達成度	－	300	85.6	93.3	88.9	76.7	
		（合計）	実績値	－	－	308	341	237	219	
	講義会等参加人数(回)	（東博）	実績値	－	18,080	21,453	29,393	12,206	11,691	
		（京博）	実績値	－	4,845	5,132	4,014	4,357	3,285	
		（奈良博）	実績値	－	3,974	3,518	3,437	3,569	3,261	
		（九博）	実績値	－	6,212	5,369	6,299	4,491	4,862	
		（合計）	実績値	－	33,111	35,472	43,143	24,623	23,099	
	キャンパスメンバーズ加入校数(件)	（東博）	実績値	－	48	52	53	56	60	
		（京博）	実績値	－	29	27	29	32	32	
		（奈良博）	実績値	－	27	25	27	28	27	
		（九博）	実績値	－	25	25	25	23	23	
		（合計）	実績値	－	129	129	134	139	142	
	ボランティア数(人)	（東博）	実績値	－	173	169	151	149	159	
		（京博）	実績値	－	214	215	270	264	255	
		（奈良博）	実績値	－	157	150	143	159	150	
		（九博）	実績値	－	352	307	313	295	274	
		（合計）	実績値	－	896	841	877	867	838	
	賛助会等加入件数(件)	（東博）	実績値	－	464	455	559	621	686	
		（京博）	実績値	－	368	362	452	485	521	
		（奈良博）	実績値	－	74	73	76	93	102	
		（九博）	実績値	－	－	－	2団体	45	47	
		（合計）	実績値	－	906	890	1,089	1,244	1,356	
	友の会・メンバーズバス加入者数	（東博）友の会	実績値	－	2,041	2,337	2,967	2,939	3,145	
		バスコート	実績値	－	18,157	23,778	－	－	－	
		ベーシック	実績値	－	2,789	2,369	－	－	－	
		※プレミアムバス	実績値	－	－	－	21,718	18,354	19,853	
		小計	実績値	－	22,987	28,484	24,685	21,293	22,998	
		（京博）バスコート	実績値	－	7,108	5,493	－	－	－	
		メンバーズバス	実績値	－	－	－	1,814	1,112	1,073	

11

		（奈良博）パスポート	実績値	－	3,591	3,739	－	－	－	
		※プレミアムカード	実績値	－	－	－	1,664	1,406	1,357	
		（九博）友の会	実績値	－	206	268	83	73	91	
		パスポート	実績値	－	5,571	5,748	－	－	－	
		※プレミアムパス	実績値	－	－	－	5,108	5,214	4,415	
		小計	実績値	－	5,777	6,016	5,191	5,287	4,506	
		（合計）	実績値	－	39,463	43,732	33,354	29,098	29,934	
	体験型プログラム等実施回数（回）	（東博）	実績値	－	1,042	827	703	702	671	
		（京博）	実績値	－	268	553	467	482	429	
		（奈良博）	実績値	－	23	21	26	28	33	
		（九博）	実績値	－	639	2,143	2,041	1,873	1,993	
		（合計）	実績値	－	1,972	3,544	3,237	3,085	3,126	
	体験型プログラム等参加者数（人）	（東博）	実績値		198,393	199,167	272,867	309,901	360,572	
		（京博）	実績値		16,200	21,333	282,014	47,198	94,743	
		（奈良博）	実績値		380	384	399	436	363	
		（九博）	実績値		8,860	7,796	8,651	4,914	4,047	
		（合計）	実績値		223,833	228,680	563,931	362,449	459,725	
	ウェブサイトアクセス件数（件）	（東博）	実績値	3,925,429	6,724,460	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	
		（京博）	実績値	2,274,464	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	
		（奈良博）	実績値	953,946	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	
		（九博）	実績値	1,696,500	2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955	
		「e国宝」	実績値	－	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	
	学術雑誌等への論文掲載数（件）	（文活）	実績値	－	－	－	－	3	－	
		（東博）	実績値	－	116	97	135	126	108	
		（京博）	実績値	－	34	38	62	57	58	
		（奈良博）	実績値	－	27	29	37	37	50	
		（九博）	実績値	－	20	40	35	39	40	
		（合計）	実績値	－	197	204	269	259	256	
	海外研究者招へい数（人）	（東博）	実績値	－	83	73	35	79	55	
		（京博）	実績値	－	2	2	2	14	3	
		（奈良博）	実績値	－	13	9	17	12	12	
		（九博）	実績値	－	51	43	9	21	3	
		（合計）	実績値	－	149	127	63	126	73	
	研究員派遣数（人）	（東博）	実績値	－	47	60	67	52	78	
		（京博）	実績値	－	17	21	21	35	18	
		（奈良博）	実績値	－	20	16	22	20	33	
		（九博）	実績値	－	77	67	47	45	31	
		（合計）	実績値	－	161	164	157	152	160	

	定期刊行物等の刊行数（件）	（東博）	実績値	16	16	16	16	16	15	
		（京博）	実績値	11	11	10	11	11	12	
		（奈良博）	実績値	5	4	6	6	4	6	
		（九博）	実績値	5	5	5	5	5	6	
		（合計）	実績値	37	36	37	38	36	39	
	テーマ別展示の開催件数（件）	（東博）	実績値	－	31	33	28	28	18	
		（京博）	実績値	－	7	9	8	9	7	
		（奈良博）	実績値	－	4	4	4	4	5	
		（九博）	実績値	－	8	6	6	9	8	
		（合計）	実績値	－	50	52	46	50	37	
	講演会等の開催回数（回）	（東博）	実績値	－	146	160	199	159	97	
		（京博）	実績値	－	39	45	32	37	28	
		（奈良博）	実績値	－	28	26	26	27	25	
		（九博）	実績値	－	87	77	84	80	69	
		（合計）	実績値	－	300	308	341	303	219	
	文化財の貸与件数（件）	（東博）	実績値	－	992	946	914	1,355	954	
		（京博）	実績値	－	303	367	349	289	348	
		（奈良博）	実績値	－	145	165	210	134	136	
		（九博）	実績値	－	90	83	71	80	50	
		（合計）	実績値	－	1,530	1,561	1,544	1,858	1,488	
	公私立博物館等に対する援助・助言件数（件）	（機構）	実績値	－	－	－	－	2	9	
		（文活）	実績値	－	－	－	－	20	68	
		（東博）	実績値		139	120	138	131	139	
		（京博）	実績値	－	65	112	168	140	152	
		（奈良博）	実績値	－	58	62	72	71	66	
		（九博）	実績値	－	67	87	105	72	86	
		（合計）	実績値	－	329	381	483	436	520	

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	
Ⅲ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置				評定	B
					＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 東京、京都、奈良、九州の４つの国立博物館では、収蔵・展示施設及び設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた作業が着実に実施され、全体として収蔵品は順調に増加しており、緊急性の高い収蔵品から計画的な修理が行われている。資料等のデジタル化については、前中期目標期間見込評価時と比べ、31,504件増加し、積極的な取組の成果がうかがえる。 展覧事業については、各館ともに、多言語化、バリアフリー化等の観覧環境に配慮し、それぞれの特色を活かした展示が行われ、平常展、特別展ともに、来館者の満足度が高く、来館者総数が前中期目標期間見込評価時を大きく上回るなど、今期の努力の成果が実績として表れている。 教育普及活動についても、講演会等参加者数、ボランティア数は前中期目標期間見込評価時の実績を上回り、ウェブサイトアクセス件数に至っては、前期の２倍となるなど、各館における情報発信が効果的に行われている。 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究では、定期刊行物の件数が前中期目標期間見込評価時を上回り、計画的な調査研究と成果の発信が行われている。 国内外の博物館活動に対して、各館ともに、有形文化財の貸与や援助・助言等を積極的に進めており、平成 30 年度に設置した文化財活用センターにおける取組や文化財等防災ネットワーク形成に関する取組を通じて、ナショナルセンターとしての業務を着実に進めている。 ＜今後の課題＞ 今後は、文化財活用センターとの貸与促進事業を国立４館に広げ、多様な人々が日本の文化財に親しむ新たな機会を創出することで、文化財の活用を通じて次世代への継承にもつながる取組の充実が期待される。 ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・保管施設の容量が今後不足することを見据えつつ整備計画が進められている。 ・中期目標期間中、各館の特色を生かした平常展、特別展を実施し、アンケートの満足度も総じて高い。令和元年度末は新型コロナウイルス感染症の影響で一か月閉館したが、年間総来館者数はその前年度を上回るなど、当初の目標を達成していると認められる。 ・引き続きレストランおよびカフェのさらなる質の向上をめざすことが望ましい。 ・文化財の貸与件数は４館あわせて毎年度高い水準にある。文化財活用センターと共同で収蔵品貸与促進事業を始めるなど、新たな展開も期待できる。 ・文化財活用センターについては、長年の実績がある博物館、研究所との違いやすみ分けが外側からは分かりにくい面がある。ナショナルセンターとしての役割を明確にする必要はないだろうか。 ・令和元年の ICOM 京都大会を契機に、海外の博物館等とのネットワークを一層強化した。国の文化施設として中核的な役割を担った。	
１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		＜実績報告書等参照箇所＞ 第 4 期中期目標期間実績補足資料 P 1～ 29	＜自己評価＞ 国立文化財機構が設置する東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館及び 30 年 7 月に設置した文化財活用センターを中心として、有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信にかかる業務を着実に実施し、以下の詳細からＢ評価とした。		

（１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 文化財機構が設置する東京国立博物館，京都国立博物館，奈良国立博物館及び九州国立博物館（以下総称して「国立博物館」という。）は，それぞれの設置の経緯を踏まえ，既に多くの収蔵品及び寄託品（以下「収蔵品等」という。）を収集・保管している。多くの文化財は，経年の自然劣化と材質の脆弱性等によるコンディションの変化にさらされており，収蔵品等の収蔵施設と展示施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，温湿度，照度，防虫，防カビ等の環境を最適の状態にすることが求められている。このため国立博物館は，施設設備を適切に維持管理し，その長寿命化を図るとともに，収蔵機能の最適化を図る必要がある。	（１）有形文化財の収集・保管，次代への継承		＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い有形文化財の収集・保管にかかる業務を計画的に実施した。 （日的） 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な有形文化財の収集を行う。 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展していると評価した。 東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館においては、収蔵機能の最適化を図るべく、適切な施設設備の維持管理を行った。 東京国立博物館では、令和元年 10 月、本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟が完成した。2 年度に文化財の搬入を実施する予定である。 有形文化財（美術工芸品）の収集等については、調査研究の成果に基づき、体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため、計画的に行い、その結果、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集することができている。また、寄贈・寄託ともに着実に受け入れを進めた。 有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等については，収蔵品等の状態に応じて適切な保存・展示環境を整えるとともに，必要な修理等を施した。緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も継続的に行っている。	

	また，有形文化財（美術工芸品）の収集等については，国立博物館における調査研究の成果に基づき，体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため，計画的に行うこととする。 有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等については，その状態に応じて適切な保存・展示環境を整えるとともに，必要な修理等を施すこととする。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。			かし、博物館活動を充実させる。 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。		
	①国立博物館の施設設備の整備 ・施設設備の点検・診断の結果に基づき，必要な対策を適切な時期に，着実かつ効率的に実施するとともに，これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し，次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を構築し，継続的に発展させていくこと。 ・東京国立博物館の本館及び表慶館，京都国立博物館の本館	①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。	【指標】 中期目標の期間の最終年度（平成32年度）までに，収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルを確立すること。 （目標水準の考え方） 「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）平成27年3月」において，文部科学省は，各独立行政法人に対して，平成28年度までのできるだけ早い時期に行動計画を，平成32年度までに個別施設計画を策定するよう促すこ	〈主要な業務実績〉 以下のとおり、博物館の施設設備の整備に関する取り組みを行った。 ・建物の長寿命化を見据えて館内設備機器（建物附属）の現状の調査、検証を29年9月に完了した。（東博）（28～29年度） ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の建物や設備について調査を実施した。（東博）（元年度） ・本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟は令和元年10月末に完成した。（東博）（元年度） ・建物全体を免震構造とするこ	＜自己評価＞ ４館ともに、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組んだ。施設設備の点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用し、継続させている。2年度も引き続き、実施する。	

	並びに奈良国立博物館の本館は，有形文化財（美術工芸品）の収蔵・展示施設であると同時に，建物自体が重要文化財であることを考慮し，適切な保存を図りながら活用を図ること。	（東京国立博物館） 開館後約80年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。 （京都国立博物館） 京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。 （奈良国立博物館） 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。 （九州国立博物館） 開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維	ととされている。	と、創建当時の姿を適切に保持することなどを盛り込んだ、明治古都館（本館）基本計画を策定した。（京博）（28年度） ・明治古都館免震改修他工事に向けた埋蔵文化財発掘調査を実施し、30年度は建物外周部の調査を行った。2年度は本館北側建物内外の調査を行う予定である。（京博）（30年度） ・東収蔵庫改修工事（減築、内外装改修等工事）が完了した。（京博）（30年度） ・収蔵・展示施設等に関するメンテナンスサイクルの確立に向け、外壁や防水等建築にかかる劣化損傷調査（予備調査）を行った。また、施設毎の劣化調査や工事履歴の取りまとめを行った。（京博）（30～元年度） ・南門施設（カフェ）空調設備が設置より19年経過し老朽化がみられ、また、空調機に温室効果が高い冷媒が使われていたため、空調設備更新工事を実施した。（京博）（元年度） ・各種設備の状況調査及び各資料に基づき、メンテナンスサイクルの更新計画表を作成した。（奈良博）（28～29年度） ・構内バリアフリー対策として側溝蓋の改修を行った。（奈良博）（30年度） ・開館から１０年が経過し、施設整備の必要性が増したため、１０年整備計画を策定し、メンテナンスサイクルの検討を行った。（九博）（28年度） ・監視カメラや空調機器等の改修工事を実施したほか、各施設・設備の維持管理・改修・更		

		持管理を目的とした改修等計画を推進する。		新・長寿命化等を計画的に実施していくための九州国立博物館個別施設計画を策定した。（九博）（30年度） ・メンテナンスサイクルの確立 各館ではメンテナンスサイクルの構築へ向けた取り組みを着実に実施している。	＜課題と対応＞ ―	
	②有形文化財（美術工芸品）の収集等 ・国立博物館は，中期目標の期間における有形文化財（美術工芸品）の収集に関する方針を，自らの調査研究の成果に基づき策定し，互いに情報を共有しながら購入を進めること。また，寄贈の申出があった場合は，同様に調査研究の成果に基づき，適切に取り扱うこと。 ・他の所有者からの国宝・重要文化財の寄託については，文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第48条による文化庁長官による公開（勧告・承認出品）又は同法第53条による所有者以外による公開（公開承認施設における公開）のための役割を担っていることに留意し，適切に取り扱うこと。	②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸地域	【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集に関する取組状況 （収集件数，文化財購入費，寄贈・寄託品件数） （目標水準の考え方） ・国立博物館が購入する価値の高い有形文化財（美術工芸品）は，所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	（主要な業務実績） 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数　131,191件（元年度末） ・28年度収集件数　525件（うち購入63件、寄贈318件、編入144件） ・29年度収集件数　754件（うち購入64件、寄贈518　件、編入172件） ・30年度収集件数　2,005件（うち購入154件、寄贈348件、編入1,503件） ・元年度収集件数　980件（うち購入87件、寄贈125件、編入768件） ・文化財購入費　1,224百万円（元年度） ・寄託品件数　12,385件(元年度末) 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。	＜自己評価＞ ４館とも、各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 購入については、購入件数・質ともに順調である。寄附金の活用等により安定的な文化財購入予算が確保できている。 寄贈・寄託については、個人コレクターや社寺等との信頼関係を維持・拡大し、寄贈・寄託の推進に努めており、継続的な受入れを維持し順調である。また、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を構築することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができている。 ＜課題と対応＞ 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、今後も更に寄贈や寄託の充実を図っていく。	

		等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2）寄贈・寄託品の受入れ等 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。				
	③有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 ・有形文化財（美術工芸品）の状態に応じて，収蔵施設の収容率，温湿度等の環境を一定の基準で管理し，必要に応じて改善等の措置に要する予算等の計画を策定すること。 ・収蔵品等の管理に必要なデータの整備（画像データ，テキストデータ等）を進めること。 ・国立博物館は，有形文化財（美術工芸品）の状態に応じた修理等方針を策定し，計画的に修理等を行うこと。	③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標	【指標】 ・収蔵施設等の改善等に係る取組状況 （各年度における収蔵施設の収容率） （目標水準の考え方） ・有形文化財（美術工芸品）の収蔵施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，文化財を適切な環境で保管するため，温湿度，照度，生物生息及び空気汚染等への対策を確実に行うことが求められている。このうち収容能力は，棚等の工夫の余地が一定程度あるものの，収蔵品の増加に伴い不足していくことが避けられない。したがって，国立博物館ごと	（主要な業務実績） 収蔵品等を常時、適切な保存及び管理環境下に置くため、以下の取組みを行った。 1） ・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を継続して行った。（4館） ・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。（4館） ・収蔵品の作品情報を作成し、文化財情報システムに随時登録し、データ整備を推進した。(4館) ・元年度から3か年計画にて収蔵品の棚卸しを開始した（九博）（元年度） 2） ・適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度に関してデータを収集し、適切	＜自己評価＞ ４館ともに、国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理・保存は、徹底した取り組みを実施している。収蔵・展示施設の環境についても、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図った対応ができている。収蔵スペースついては、改修工事や新営工事の実施により、確保を図っており、各館とも安全かつ効率的な収納について検討を継続し、対応している。 収蔵品等の修理においては、緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の導入と活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。 文化財保存修理所等については、京博、奈良博及び九博では施設の修繕等を行い、整備充実を図った。	

		の期間の実績以上を目指す。 2)有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 3)有形文化財の修理 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 4)文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。	に中長期的な収蔵施設の需要予測に基づく管理・保存方針を平成 29 年度までに策定し，予算計画等を立案することとする。なお，収容率は収蔵品数に大きく影響されるが購入・寄託・寄贈等による増加数の予測が困難であること，一定の基準で管理可能な収蔵施設の確保に当たっては一定の予算措置が必要となることから数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 【指標】 ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（前中期目標の期間の実績以上） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数 103,975 件(平成 23～26 年度実績総数) （目標水準の考え方） ・データの蓄積は，膨大な収蔵品等について行う作業がある一方，写真撮影や修理等の機会に新たに取得するデータを追加する作業もあり，業務の優先度，必要性に応じて計画的に行う必要がある。	な温度・湿度管理に努めた。(４館) 3） ・緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理した。(４館) ・27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組んだ。(東博)(28～元年度) ・元年度は、４か年事業の重要文化財「大手鑑（八十葉）の修理について最終年度として完了した。(京博)（元年度） ・修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てた。(４館) ・国宝「埴輪 挂甲の武人」などの蛍光Ｘ線分析による材質の調査を行い、材質調査や修理方針の決定などに寄与した。また、特別展「運慶」では瀧山寺所蔵「聖観音立像」などのＸ線撮影を行い調査、展示活動に寄与した。(東博)（28 年度） ４） ・継続して、文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行った。文化財保存修理所等を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図った。(京博・奈良博・九博)（28～元年度） ・収蔵施設の収容率（元年度） 東博 133.8%、京博 100%、奈良博 99%、九博 80% ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数 元年度 34,809 件	＜課題と対応＞ ―	

			【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の修理に関する取組状況 （修理件数，修理のデータベース化件数） （目標水準の考え方） ・有形文化財（美術工芸品）は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。 ・有形文化財（美術工芸品）に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 （想定される外部要因） ・有形文化財（美術工芸品）の修理等には，一定のまとまった予算措置が必要であり，その状況によって計画を変更	（東博 26,475 件、京博 5,333 件、奈良博 3,001 件） ・修理理件数（本格修理） 元年度 75 件 （東博 24 件、京博 12 件、奈良博 8 件、九博 31 件） ・修理のデータベース化件数 元年度 264 件 （東博 19 件、京博 171 件、奈良博 74 件）		

			せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。			
	（２）展覧事業 有形文化財（美術工芸品）の保護は，保存と活用のバランスをとりながら行うことが肝要であるが，国立博物館は国全体の 22％に相当する国宝・重要文化財（美術工芸品）を収蔵等しており（収蔵品 1,084 件，寄託品 1,403 件，平成 27 年度当初），これらを公開することは，文化財保護法に基づく重要な役割のひとつである。また国宝・重要文化財にかかわらず，国立博物館は約 13 万 8 千件（平成 27 年度当初）の収蔵品等について，専門的な調査研究を行い，その成果を反映しながら展覧事業において計画的に展示することが使命である。更に収蔵品等以外の文化財も含め特定のテーマの下に企画する特別展は，新たな知見を拓き，文化財の価値をより広く深く理解することに大きく寄与するものであり，質の高い展示を提供する必要がある。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。	（２）展覧事業 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。		＜主要な業務実績＞ 各年度ともに年度計画に従い展覧事業を計画的に実施した。 （目的） 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展していると評価した。 東京、京都、奈良、九州国立博物館においては、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら展覧会事業を実施した。 平常展を展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、専門的かつ最新の研究成果を基にその成果を反映しながら、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を計画的に行った。 また、展示に関する説明の充実、多言語化に関する取り組み、夜間開館の実施など、来館者のニーズを踏まえた改善を常に図っている。 特別展においては、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことができた。元年度は、京都国立博物館で 2019 年 ICOM 京都大会を記念した特別企画「京博寄託の名宝」を開催するなど、政府の文化政策と連動した活動の実施ができている。	

	① 平常展 ・収蔵品等の状態に留意しつつ，できるだけ多くそれらを平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう努めること。	①平常展 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。	【指標】 ・平常展の来館者数（前中期目標の期間の実績以上） ・平常展の展示替件数（前中期目標の期間の実績以上） ・平常展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・平常展の来館者数 4,095,851 人（平成 23～26 年度実績総数） ・平常展の展示替件数 29,846 件（平成 23～26 年度実績総数） 【関連指標】 ・平常展の展示総件数 （目標水準の考え方） ・平常展は，国立博物館が収蔵等する有形文化財（美術工芸品）の特徴に基づく展示を行うこととし，来館者数，展示替件数に関する目標は，前中期目標の期間の実績以上であることとする。 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間にお	＜主要な業務実績＞ ・平常展来館者数　1,712,656 人（元年度） ・平常展の展示替件数 ・平常展の来館者アンケート ・平常展の展示総件数 （内訳はアウトプット情報を参照）	＜自己評価＞ ４館ともに、各館の特色を活かした展示を実施した。定期的な展示替の実施や、テーマ性を持った特集展示等を随時開催し平常展の充実に努めている。 平常展来館者数については、元年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から年度末の約一か月の間、臨時休館としたが、初期の目標値を達成した。今中期目標期間を通して、一部の館で目標値に達しない年度もあったが、全体としては着実に達成している。 平常展の展示替件数については、展示面積や平常展開催日数などの影響により目標値を下回る館もあったが、全体としては定期的な取り組みのもと、順調に推移している。 平常展の来館者アンケートについては、４館いずれも目標値を上回る満足度を得ることができている。今度もアンケートやウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見・要望を館内で共有し、展示内容や解説の改善をはじめとするフィードバックを行うことで、満足度の向上を目指していく。	

			いても実施しているが，展示に関する満足度について５段階評価で上位２位以上を選択した割合は国立博物館の平均で 73%となっている（見込評価時点）。 （想定される外部要因） ・平常展については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。		＜課題と対応＞ ―
	② 特別展等 ・調査研究の成果を基にした特定のテーマの特別展や，国際文化交流の進展を目的する特別展等（外国における展覧事業も含む）を，計画的に開催することとし，その質の向上に努めること。	②特別展等 1)特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 （東京国立博物館）	【指標】 ・特別展に関する取組状況（特別展の開催回数，特別展の来館者数） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・特別展の来館者数 8,824,511 人(平成 23～26 年度実績総数) ・特別展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） （目標水準の考え方） ・特別展の企画は，国立博物館が継続的に行っている調査研究の成果や，諸外国との国際文化交流の計画に関係して，通常２，３年程度の期間を要する。また，多くの特別展は新開社，	＜主要な業務実績＞ 以下のとおり、特別展等を実施した。 ・特別展の開催回数 元年度 17 回 （東博 8 回、京博 2 回、奈良博 3 回、九博 4 回）（元年度） ・特別展の来館者数 元年度 2,539,069 人 （東博 1,557,980 人、京博 203,489 人、奈良博 451,886 人、九博 325,714 人） ・特別展の来館者アンケート満足度 元年度　東博 86.6%、京博 80.4%、奈良博 91.4%、九博 84% （内訳はアウトプット情報を参照）	＜自己評価＞ 特別展においては、４館ともに、基礎的な調査研究や、特別展に係る事前調査等の成果を踏まえて、展覧会を実施しており、我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行えている。 特別展開催回数は、常に目標値を上回る実績を残した。 特別展来館者数は、多くの展覧会において各年度計画で設定した数値目標を上回っており、全体として順調である。 特別展ではアンケートを実施し、来館者の満足度の把握に努め、会期中の対応や次の展覧会への改善に活かした。 平常展同様に、４館いずれも目標値を上回る満足度を得ることができた。 海外展においては、海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介した。

		年３～４回程度 （京都国立博物館） 年１～２回程度 （奈良国立博物館） 年２～３回程度 （九州国立博物館） 年２～３回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。 2)海外展等 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。	放送事業者等との共催であり，独自の計画のみで完結しない性質を持っている。したがって特別展は，中期目標又は中期計画において定性的又は定量的な指標を示すことが困難であり，文化財機構が年度計画において定める具体的な数値目標について評価することとする。 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度について５段階評価で上位２位以上を選択した割合は国立博物館の平均で 82%となっている（見込評価時点）。 （想定される外部要因） ・特別展については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。		＜課題と対応＞ ―
	③ 観覧環境の向上等 ・外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう，来館者の満足度を満たす多言語化，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化等を推進すると	③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1)快適な観覧環境の	【指標】 ・観覧環境に関する来館者アンケート（上位評価が 80%を超えること） 【関連指標】 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況	＜主要な業務実績＞ 以下のとおり、観覧環境の向上等に関する取り組みを行った。 ・多言語（7 言語）による案内パンフレットの製作・配布を行った。（４館） ・特別展音声ガイドの貸出を行った。（４館）	＜自己評価＞ ４館ともに、外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう、来館者の満足度を満たす多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等を推進した。平常展及び特別展における題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4 言語にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図り、来館者等

	ともに開館時間の延長等，混雑時の対応やミュージアムショップやレストラン等のサービスの改善等，来館者に配慮した運営を行うものとする	提供 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。	・多言語表記に関する外国人アンケート （目標水準の考え方） ・来館者アンケートは，展覧事業だけでなく，テナント事業者が運営するショップ，レストラン等も含め，幅広い観点で実施し，観覧環境の向上に資するものとする。 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況は，法令改正等にも注意しながら，基準を満たしているかモニタリングする。 ・多言語表記は，展示の解説パネル等のみならず，導線や各種施設，サービスの提供に関するものも含め，アンケートに基づく改善に努める。	・平常展音声ガイドは４言語での提供を行った。（４館） ・平常展及び各特別展時において外国人を含む来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。（４館） ・平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、４言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、外国人来館者にも理解しやすいよう翻訳のリライトを行った。（東博）（元年度） ・御即位記念特別展「正倉院の世界」では、開館時間を 30 分早めるなど、来館者の安全を重視した柔軟なサービスの提供を心掛けた。さらに、待ち時間対策のため、整理券を導入した。（東博）（元年度） ・収蔵品等をモチーフに、新たに絵葉書、鉛筆、ノートのオリジナルグッズを開発、販売した。（京博）（元年度） ・正倉院展会期中に無料の託児室を開設し、保育士２人が常駐して満 1 歳児から未就学児まで、２時間以内の預かりを実施した。（奈良博）（元年度） ・エントランスホールから展示室への誘導をより分かりやすくするため、ホール正面の壁に案内バナーを設置した。その他のホール内の案内サインについても整理・見直しを進め、ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた案内看板を作成、設置した。（九博）（元年度） ・観覧環境に関する来館者アンケート ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況 ・多言語表記に関する外国人アンケート （内訳はアウトプット情報を参照）	の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行った。 また、来館者アンケートを実施し、館の運営やサービスに随時反映させている。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズを踏まえた開館時間延長も行っている。 ＜課題と対応＞ ―	

	（３）教育普及活動等 国立博物館が行う講演会等のイベントや各種図録の出版等の教育普及活動は，展覧事業の効果を高めるとともに，有形文化財（美術工芸品）の収集や修理等を含め，国立博物館の多様な業務を広く普及する上で不可欠であり，その重要性は高まっている。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。	（３）教育・普及活動 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。		（主要な業務実績） 中期計画に従い事業を継続して実施した。 （目的） 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京、京都、奈良、九州国立博物館においては、講演会、ギャラリートーク等を開催し、来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に取り組んだ。講演会等のほか、体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により、幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供することができている。その他教育普及活動として、ボランティアの受入れや博物館支援者増加にも継続して取り組んだ。 有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信においては、展覧事業のみならず各種事業に関しても、積極的な広報に努めている。ウェブサイトにおいて、収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関するデータベースを構築・情報を公開し、また、その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図る取り組みを継続した。	
	① 教育普及活動の充実 ・講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に努めること。 ・講演会等のほか，	①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等の開催回数について	【指標】 ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の参加者数 ・児童生徒，大学生，大学院生を対象とした教育普及活動の実施実績 ・ボランティアの受入	（主な事業テーマ） ・学習機会の提供（４館）（28～元年度）（文化財活用センター）（元年度） ・ボランティア活動の支援（４館）（28～元年度） ・大学との連携事業等の実施（４館）（28～元年度） ・国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	＜自己評価＞ ４館ともに、「学習機会の提供」では、特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなどの多様なプログラムを各館で提供し、幅広い層に楽しむ機会を提供した。また、文化財活用センターが中心となり、企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむための	

	体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により，幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供すること。 ・その他教育普及活動として，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組に努めること。	は、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 1)学習機会の提供 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 2)ボランティア活動の支援 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。 3) 大学との連携事業等の実施 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 保存科学、修理技術	人数 ・賛助会等支援組織の会員数 （目標水準の考え方） ・講演会等は，平常展及び特別展の内容に応じて企画するが，開催の回数は概ね毎年一定の規模を保つことが重要であることから，前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。	（４館）（28～元年度） ・博物館支援者増加への取組（４館）（28～元年度） ・講演会等の開催回数 219 回（元	レプリカやＶＲ等映像コンテンツの開発・提供を実施した。 ４館ともに「ボランティア活動の支援」では、各館でボランティアの対象の研修を実施するなどボランティアによる解説の質的向上に努めた。 九州国立博物館においては、来館者サービスの充実を図るとともに、「地域・市民とともに歩む博物館」の象徴的な存在である“九博ボランティア”の活動を、より多くの施設や団体に認知いただけるよう今後も広報していく予定である。 ４館ともに「大学との連携事業等の実施」では、キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施し、概ね順調にキャンパスメンバーズ加入大学数を増やしている。また、インターンシップ事業を継続することを通じて、人材育成に寄与することができている。 ４館ともに「国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与」では、保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催し、文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与した。 ４館ともに「博物館支援者増加への取組」では、企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図るべく、会員制度によるリピーターの拡大に努めた。また、会員制度利用者を対象とした事業を実施や、企業等と連携した広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 ＜課題と対応＞

	及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。 5)博物館支援者増加への取組 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。		年度） （内訳はアウトプット情報を参照）	学習機会の提供においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ハンズオン型の体験プログラムの実施が困難となっており、今後のウイズコロナ時代の体験型プログラムの在り方について検討を進める必要がある。 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与においては、インターンの受け入れ等を継続して実施しているが，日常業務や現場作業との日程調整が難しく、受け入れ日数、人数の上限を想定しつつ、質と量を充実していくことが課題である。
	②　有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信と広報の充実 ・展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報に努めるとともに，ウェブサイトにおいて収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図ること。	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。 1)有形文化財に関する情報の発信 ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2)資料の収集と公開 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努め	【指標】 ・ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） （目標水準の考え方） ・国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施などに戦略的に取り組み，ウェブサイト	（主な事業テーマ） ・有形文化財に関する情報の発信（４館）（28～元年度）（文化財活用センター）（元年度） ・資料の収集と公開（４館）（28～元年度） ・広報活動の策定と情報提供（４館）（28～元年度） ・マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動（４館）（28～元年度） ・広報印刷物、ウェブサイト等の充実（４館）（28～元年度）	＜自己評価＞ 文化財活用センター・東京国立博物館における「有形文化財に関する情報の発信」では、４館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」について、掲載画像を増やし、その充実を図るべく、元年度は ColBase の改修を実施した。対象に奈良文化財研究所を加えたほか、各館の公開データベースのデータを ColBase に定期的に自動で取り込む機能を追加して、作業の効率化を図り、最新のデータを迅速に反映させるようにした。２年度も引き続きシステムを維持するとともに、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続する予定である。 ４館ともに「資料の収集と公開」では、国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努めている。 奈良国立博物館においては、図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図るため、仏教美術に関連する図書資料の

		る。 3)広報活動の充実 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。	のアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	・ウェブサイトのアクセス件数（元年度） 東博：8,235,810 件 京博：4,948,829 件 奈良博：1,704,901 件 九博：2,047,955 件	収集を積極的に行い、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。 ４館ともに広報については、各館とも多様なメディアを通して積極的に行っている。 「広報印刷物、ウェブサイト等の充実」では、ウェブサイトへのアクセス件数は総じて順調に増加しており、目標値以上の成果を達成した。 東京国立博物館においては、元年度は、メールマガジンを読みやすい構成に変更し、その結果、SNS のフォロワー数を充分に確保することができた。今後はツイッター、インスタグラムのフォロワー数をさらに増やすとともに、ツイッターのクイズ機能等の活用、若年層に訴求するような画像を発信し、新たなユーザー開拓を図る予定である。(東博)（元年度） ＜課題と対応＞ ―	
	（４）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。 【中期目標期間において推進するべき具体の調査研究の方針】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展示等に係る調査研究 収蔵予定又は収蔵している有形文化財（美術工芸品）若しくは特別展等で借用する有形文化財（美術工芸品）について，科学的手法を適切に用いて，学術的・芸術的な価値の究明とコンディションの分析等を行い，適切な保管・展示の環境維	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究、各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究、及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信する。	【指標】 ・調査研究の成果に基づき，定期刊行物等を前中期目標期間の実績以上刊行する。（参考） 前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・定期刊行物等の刊行数 144 件（平成 23～26 年度実績総数） 【関連指標】 ・調査研究活動の成果の多様な方法による公開等の取組状況 （特別展の開催回数，テーマ別展示の開催件数，講演会等の開催回数） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・特別展の開催回数 69 回（平成 23～26 年度実績総数） ・テーマ別展示の開催件数　225 件（平成 23～26 年度実績総数） ・講演会等の開催回数 1,060 件（平成 23～26 年度実績総数） （目標水準の考え方） ・国立博物館における有形文化財（美術工芸品）に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。また展覧事業に関連し，論文等として学術的な成果物を公表することにより，広範囲の学術研究の進展にも資することができることから，関連指標として特	〈主要な業務実績〉 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度 152 件 29 年度 134 件 30 年度 90 件 元年度 81 件 （※28、29 年度は科学研究費にかかる調査研究を含む。） （目的） 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 （主な研究テーマ） ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ・特集展示等の調査研究（４館）（28～元年度） ・特別調査「法隆寺献納宝物」、「書跡」、「工芸」、「彫刻」、「絵画」（東博）（28～元年度） ・近畿地区社寺文化財の調査研究（京博）（28～元年度） ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（奈良博）（28～元年度） ・Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究（九博）（28～元年度） ほか	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京、京都、奈良、九州国立博物館において、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に必要な調査研究を計画的に実施し、その成果は、展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信することに結び付けた。 その結果、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与していると評価した。 ＜自己評価＞ 京都国立博物館における「特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究」(28 年度)では、生誕 300 年という節目の年に、京都を代表する画家である伊藤若冲の作品を特集展示し、図録等を通してその魅力をわかりやすく紹介した。 その準備段階における調査研究では、山水図及び歌仙絵という若冲研究上注目される領域において新知見を得た。 奈良国立博物館における「南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究」では、継続して、南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、Ｘ線ＣＴ等の光学的手法による調査を行っており、データの収集・蓄積に十二分の成果をあげている点を評価した。 特に元年度は、特別展、特別陳列で奈良に関係のある彫刻を数多く展示することができ、その調査過程で判明した新事実を図録や講座等で積極的に公表することができた。館蔵の二十八部衆像、東尊院阿弥陀如来立像、出光美術館木造地蔵菩薩立像等についてはＣＴスキャン調査を行い、目視では確認不可能な構造の把握や、像内納入品の存在など多くの新知見を得ることができた。	

	持や修理等の処置に資すること。また，将来にわたる収集活動，展覧事業の企画等に資するよう，有形文化財（美術工芸品）全般に及ぶ調査研究を行うこと。 定期刊行物，図版目録，特別展等図録，研究紀要及び調査報告書等（以下「刊行物等」という。）に関する刊行計画を策定し，これに従い刊行して，有形文化財(美術工芸品）に関する調査研究の成果等の発信に努めること。 また，著作権処理の可能なものについては，学術情報リポジトリ等を参考にウェブサイトで公表するよう努めること。		別展，テーマ別展示，講演会等の開催回数若しくは件数を設定する。	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ・特別展、共催展等の事前調査（４館）（28～元年度）	京都国立博物館における「開館120周年記念特別展覧会「国宝」に関する調査研究」(29年度）では、京都や関西圏を中心に、日本全国の国宝の文化財を調査し、その成果をもとに、近年では例のない210件もの国宝を一堂に展示し、かつ、それぞれの分野で蓄積されてきた研究成果だけでなく、ＣＴ等の最新機器を用いた調査や文化財修復の過程での新発見なども積極的に公開できたことは、京都国立博物館が120年にわたって文化財に寄り添ってきた過程や成果を公表する絶好の機会となった。	
				3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ・博物館環境デザインに関する調査研究（東博）（28～元年度） ・博物館教育及びボランティアに関する調査研究　（東博・京博）（28～元年度） ・凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究（東博）（28～元年度） ほか	京都国立博物館における「博物館教育及びボランティアに関する調査研究」では、第一に、来館者サービスボランティア「京博ナビゲーター」の活動を実例に、対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究を行った。来館者アンケートなどから、その活動が来館者の主体的な興味・関心を引き出し、博物館における効果的な教育普及活動として機能していることが確認できた。また、アンケートの分析調査を行い、論文を執筆した。また、元年度は、昨年の活動分析を踏まえ、あらたに特集展示のワークシートと連動した取り組みを実践するなど、教育活動に関する調査研究を継続して実施できている。	
		②その他 有形文化財に関連する調査研究 文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また、		②その他有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ・収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究（奈良博）（28～元年度） ・文化財の材質・構造等に関する共同研究（九博）（28～元年度） ほか	九州国立博物館における「石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）」では、弥生時代～古墳時代の墳墓の埋葬施設（室、槨、棺）への赤色顔料の塗布について、その種類や塗布範囲の調査を行い、時期差や地域差、階層差等の有無を検討することを目的とした。科学研究費助成事業４年計画の最終年度である28年度の成果としては、石棺では棺内面全体ではなく部分的にしか赤色顔料を塗布しないものが一定量認められることが明らかになった。この違いについては、石棺の時期差、地域差、石材の産地の差、石棺形態の差などとの相関関係が認められた。赤色顔料の種類や塗布範囲に時期差や地域差が認められることが判明した点で大きな成果を得た。	

		将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。		2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 ・博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究（東博）（28～元年度） ・創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究（東博）（28～元年度） ・文化財情報に関する調査研究（京博）（28～元年度） ・文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究（奈良博）（28～元年度）	東京国立博物館における「博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究」(28年度）では、幕末期における西欧の博物館との接触から、維新後における博物館の創設を経て、帝室博物館の成立に至る明治期を中心とした博物館史を、世界史的な視野で再構成するための基礎的な資料調査と研究を、特に所蔵品の流通に着目して行った。美術・工芸の分野からその意義を語られることが多かったシカゴ・コロンブス博覧会に関して、考古資料に関して新知見が得られたことで、当時の国際舞台における博物館の役割について新たな視点をひらくとともに、明治時代の日本における考古資料に対する認識に関する研究に道を開いた。また、本研究は、東京国立博物館百五十年史編纂に向けて「創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究」につなげることができた。	
		③国内外の博物館等との学術交流等 我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動		③国内外の博物館等との学術交流等 ・国内外の博物館等との学術交流等（４館）（28～元年度）	４館においては、海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし海外の研究者との交流を促進するとともに、海外の博物館・美術館等に研究者を派遣した。特に、京都国立博物館においては、元年度はICOM京都大会をきっかけとして、国際博物館の日・ICOM京都大会	

		について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。 さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。 ④調査研究成果の公表 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。		

			る。	・文化財の貸与件数　1,488 件（元年度） （内訳はアウトプット情報を参照）	つの国立博物館の収蔵品に広げる。 今後も継続して内外の有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に対して重要な寄与を果たしていく予定である。 ＜課題と対応＞ ―	
	②　国内外の博物館等への援助・助言等・国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じること。	②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。	【指標】 ・国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〔目標水準の考え方〕 ・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし評価する。	（主要な業務実績） 国内外からの博物館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　520 件（元年度） （内訳はアウトプット情報を参照）	＜自己評価＞ ４館及び文化財活用センターでは、国内外の博物館等からの要請に応じて、例年多数の専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、継続して、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努めている。 元年９月に開催された ICOM 京都大会においては、準備段階から様々な援助を行うとともに、大会期間中も多くの職員を派遣し、世界中の博物館関係者との広域なネットワーク形成に導いた。 博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財防災に貢献するべく、継続して国内外の博物館・美術館へ調査実施と意見交換を行っており、順調に調査研究の基盤を構築している。 ＜課題と対応＞ ―	

４．その他参考情報
予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。

12ー４ー１　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―２	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12ー２　文化財の保存及び活用の充実	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第 12 条第２号
当該項目の重要度、困難度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（九博）	実績値	―	1	2	5	0	0	
	（東文研）	実績値	―	17	13	12	14	16	
	（奈文研）	実績値	―	102	37	61	56	81	
	（合計）	実績値	―	120	52	73	70	97	
報告書等の刊行数（件）	（九博）	実績値	―	―	2	1	0	0	
	（東文研）	実績値	―	―	3	3	9	3	
	（奈文研）	実績値	―	―	16	17	13	11	
	（合計）	実績値	―	―	21	21	22	14	
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究①文化財の調査手法に関する研究開発の推進									
①文化財の調査手法に関する研究開発									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	0	0	0	4	5	
	（奈文研）	実績値	―	11	30	36	22	19	
	（合計）	実績値	―	11	30	36	26	24	
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	―	―	1	1	1	1	
	（奈文研）	実績値	―	―	0	1	0	0	
	（合計）	実績値	―	―	1	2	1	1	
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	15	18	17	12	12	
	（奈文研）	実績値	―	2	4	15	16	19	
	（合計）	実績値	―	17	22	32	28	31	

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	3,199,097	4,529,562	3,425,332	3,114,345	
決算額（千円）	4,743,377	6,029,565	3,513,645	3,323,743	
経常費用（千円）	3,403,730	3,184,946	3,523,444	3,400,624	
経常利益（千円）	13,681	101	-3,149	-32,465	
行政コスト（千円）	―	―	―	4,777,928	
行政サービス実施コスト（千円）	3,118,227	3,137,159	3,526,065	―	
従事人員数	88	90	87	92	

※予算額は、２研究所・センターの年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、２研究所・センターの決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所・センターの全常勤研究職員の人数を計上している。

	報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	－	－	4	4	4	5	
		（奈文研）	実績値	－	－	1	2	1	0	
		（合計）	実績値	－	－	5	6	5	5	
	（３）文化遺産保護に関する国際協働①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進									
	国際情報の収集等事業の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	3	2	3	3	
		（奈文研）	実績値	－	－	3	3	3	3	
		（合計）	実績値	－	－	6	5	6	6	
	研修・ワークショップ等の参加者の満足度（％）	（東文研）	実績値	－	－	100	100	100	100	
		（奈文研）	実績値	－	－	－	－	－	－	
	共同研究等の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1	1	0	0	
		（奈文研）	実績値	－	－	2	3	2	3	
		（合計）	実績値	－	－	3	4	2	3	
	国際協力事業の実施件数（件）	（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）	実績値	－	－	5	6	5	5	
	閲覧室開室日数（日）	（東文研）	実績値	－	－	137	137	137	125	
		（奈文研）	実績値	－	－	243	183	219	198	
	閲覧室利用人数（人）	（東文研）	実績値	－	－	923	931	1,070	988	
		（奈文研）	実績値	－	－	475	380	295	278	
	文化財資料受入総数（件）（東文研）	図書	実績値	－	104,577	114,509	117,696	121,599	124,229	
		雑誌	実績値	－	128,778	158,763	162,609	164,256	166,976	
		その他	実績値	－	35,046	36,348	37,722	44,814	46,169	
		計	実績値	－	268,401	309,620	318,027	330,669	337,374	
	文化財資料受入総数（件）（奈文研）	図書	実績値	－	351,586	361,275	359,584	368,440	377,407	
		雑誌	実績値	－	89,734	93,623	96,691	99,644	102,616	
		その他	実績値	－	－	－	9,978	17,016	20,229	
		計	実績値	－	441,320	454,898	456,275	468,084	480,023	
	文化財データベースの公開件数（件）	（東文研）	実績値	18	－	22	26	28	30	
		（奈文研）	実績値	22	－	25	31	24	17	
	データベース件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,164,416	1,233,111	1,271,388	1,288,551	
		（奈文研）	実績値	－	－	1,341,997	1,417,962	1,316,283	1,348,102	
	ウェブサイトアクセス件数	（東文研）	実績値	－	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	
		（奈文研）	実績値	－	605,211	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	

	（件）									
	定期刊行物刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	12	12	12	12	
		（奈文研）	実績値	－	－	10	10	10	10	
		（合計）	実績値	－	－	22	22	22	22	
	学術ホームページ公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,510	3,454	3,560	3,634	
		（奈文研）	実績値	－	－	4,389	61,861	4,992	5,572	
	講演会等開催数（件）	（東文研）	実績値	－	－	5	2	2	2	
		（奈文研）	実績値	－	－	12	19	17	13	
		（合計）	実績値	－	－	17	21	19	15	
	講演会等の来場者数（人）	（東文研）	実績値	－	－	798	357	317	323	
		（奈文研）	実績値	－	－	6,400	4,440	3,986	3,315	
		（合計）	実績値	－	－	7,198	4,797	4,303	3,638	
	文化財研修（東文研）	件数	実績値	1	－	1	1	1	1	
		受講者数	実績値	30	－	27	31	30	31	
		研修成果活用実績	実績値	80	－	100	100	100	100	
	文化財研修（奈文研）	件数	実績値	13	－	15	14	15	14	
		受講者数	実績値	156	－	167	178	211	199	
		研修成果活用実績	達成度	80	－	100	100	100	100	
	専門的・技術的な援助・助言（件）	（東文研）	実績値	－	－	793	678	596	184	
		（奈文研）	実績値	－	－	405	353	301	291	
		（文化財活用センター）	実績値	－	－	－	－	53	134	
		（合計）	実績値	－	－	1,198	1,031	950	609	

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行う。		＜実績報告書等参照箇所＞ 第 4 期中期目標期間実績補足資料 P 30～ 47	＜自己評価＞ 国立文化財機構が設置する東京文化財研究所、奈良文化財研究所及び文化財防災ネットワーク推進室を中心として、文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等を着実に実施し、研究成果の公開・発信を進展させた。また、30 年 7 月に設置した文化財活用センターでは、文化財の保存環境に関する相談窓口を設け、自治体等に対し継続的な支援体制の構築に努めていることなど、ナショナルセンターとしての役割を十分に果たしていると評価し、以下の詳細からＡ評価とした。	評定	A
					＜評定に至った理由＞ 以下に示すとおり、中期目標に定められた以上の業務の達成が認められるため。 東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは、それぞれの実績を基に基礎的・探究的な調査研究を進め、文化財の保存修復・保存技術をはじめ、文化財の調査手法に関する研究開発への貢献や無形文化財・無形民俗文化財等の継承、文化遺産保護に関する国際協力など、その活動は多岐にわたり、目標とする以上の成果を挙げていることが認められる。 東京文化財研究所では、ゲッティ・リサーチ・ポータルに過去 83 年にわたる刊行物全文データを公開し、アジア諸国で初めて研究成果を世界に発信したことは評価できる。また、少子高齢化が進んでいる現状を踏まえ、高齢化や過疎化によって継承が困難となっている無形文化財や無形民俗文化財に関する調査研究において、技術保持者等への聞き取り調査や所在調査等を実施し、その成果を公表するなど、文化財の今後の継承に寄与したことは評価できる。 奈良文化財研究所では、日本全国の発掘調査報告書等のデジタル化・データベース化を進め、着実にデータの充実を図ることで、世界屈指の考古学情報の国内外の活用に寄与していることは評価できる。このほか、歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究をはじめ、東大寺東塔院や飛鳥地域の発掘調査、埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発、文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究など、多岐にわたる調査研究を進め、水中文化遺産に関する調査研究では、発展性の高い新しい埋め戻し法を開発するなど、それぞれにおいて成果を挙げたことは評価できる。 アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のほか、災害リスクマネジメントに関する調査、緊急保護支援が必要な国の実態等の研究を行うなど、無形文化遺産保護の国際的充実に資する事業を推進したことは評価できる。 いずれも調査研究報告書や論文等により、その成果を広く公表・発信し、社会に還元している。 特に、東京文化財研究所及び奈良文化財研究所では、平成 31 年３月に修理が完了した国宝高松塚古墳壁画保存修理事業に長期間にわたり協力し、修理の完了に貢献したことは高く評価できる。また、奈良文化財研究所は、平成 28 年９月に開館したキトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営及び壁画公開事業にも協力しており、国等の関係機関との連携協力の成果は評価できる。このほか、両研究所では、文化財に関する研修や専門的・技術的な援助・助言等を通じ、我が国の文化財行政等を支える人材育成にも尽力しており、社会への貢献度は高い。 文化財防災ネットワーク推進室においては、法人内の各施設が地区分担を担い、地域文化財防災ネットワーク構築を促進し、各地での研修会等において、文
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。		＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　計 26 件 29 年度　計 25 件 30 年度　計 26 件 元年度　計 26 件 （目的） 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための後述の調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組み、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与することができたと評価した。		

					化財防災対策や被災文化財の保全方法等についての情報発信に取り組むとともに、災害発生時の迅速な救援活動を実現するため、地域間連携・組織間連携のガイドラインを策定したことは評価できる。また、平成 28 年４月に発生した熊本地震の際には、熊本に重点化した情報収集やレスキュー活動の指導助言を実施することで、被災地での文化財救出体制の構築に尽力した。さらに、令和元年台風 19 号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫水没事故に対して、10 団体が結集した救援活動の主導的な役割を果たし、実践的な成果を挙げたことは評価できる。 ＜今後の課題＞ 文化財防災、被災文化財の救援活動に対する社会的な要請・ニーズを踏まえ、今後は、文化財防災ネットワーク推進室の機能を充実させ、各研究所等の研究成果の活用と人材育成を進めるとともに、各博物館と連携した防災ネットワークの推進により、ナショナルセンターとしての使命・役割を積極的に果たしていくことが期待される。 ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・文化財に関するアーカイブの拡充に努めた。データベース等へのアクセス件数は両所あわせて 2000 万件を超すなど、順調に展開した。 ・文化財防災ネットワーク推進室を軸に、全国的な連携・協力体制を整備した。発生した災害による被災事故の救援活動に貢献した。
①有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究 文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，各時代の絵画・彫刻，古代建築，近畿地方を中心とする寺社の歴史資料・書跡資料，重要伝統的建造物群保存地区の候補となりうる伝統的建造物群に関する研究に重点的に取り組むものとする。	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 1)我が国の美術を中心とする有形文化財	（評価軸） ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。 ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。 （主な定量的指標） 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モ	＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　6 件 29 年度　6 件 30 年度　6 件 元年度　6 件 （主な研究テーマ） ・文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究（東文研）（28～元年度） ・日本東洋美術史の資料学的研究（東文研）（28～元年度） ・近・現代美術に関する調査研究と資料集成（東文研）（28～元年度） ・美術作品の様式表現・制作技	＜自己評価＞ 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所では、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与することができた。また、有形文化財の保存修復等に寄与することができた。 ○下記を例とする研究成果の公開等により、美術工芸品の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与したと評価した。 ・「文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究」（東文研）においては、アメリカのゲッティ研究所が運営するゲッティ・リサーチ・ポータルに 29 年度よりアジア諸国から初めて情報を提供	

	等に関する調査研究 我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 建造物に関しては、古代建築の保存に資するため、法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また、近世・近代の建造物等の調査研究を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。	ニタリング指標）	術・素材に関する複合的研究と公開（東文研）（28～元年度） ・歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究（奈文研）（28～元年度） ・近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（奈文研）（28～元年度） 調査研究の一例を挙げると、「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」（東文研）では、28年度には、黒田清輝と親交が深く、制作と並行して美術雑誌等で西洋美術の紹介に努めた画家、久米桂一郎の関連資料について共同研究を実施すべく久米美術館と覚書を交わし、資料のデジタル化に着手した。29年度には、久米美術館との共同研究により、同館が所蔵する久米桂一郎宛黒田清輝書簡の翻刻作業を行った。30 年度及び元年度には、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進め、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡を翻刻、その成果を研究所内研究会で口頭発表した。元年度は、黒田清輝と久米桂一郎の間で交わされた未公刊の書簡を読み解き、二人の交流の跡は勿論、資料中に登場するヨーロッパの美術家に関する情報から、中期計画に掲げた西欧の美術動向との関係をうかがうことができ、久米美術館との共同研究に大きな進展がみられた。	し、2年目となる30年度は『日本美術年鑑』、『美術研究』、『保存科学』など東京文化財研究所刊行物の過去83年にわたる刊行物の全文データ 546件を公開し、これまでほぼ日本国内のみに限られていた研究成果の公開発信を世界的に増強した。今後も継続的に専門性の高い研究資料コンテンツの公開・活用を推進する予定である。 ・「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」（東文研）においては、佐竹永海・永湖・永陵の作品及び黒田清輝宛書簡の翻刻・考察を行い、作品の背景となる時代等について新たな知見を得た（28年度）。東京文化財研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、養母貞子及び洋画家山本芳翠からの書簡の翻刻を『美術研究』（東京文化財研究所刊行）に掲載することができた（29年度）。女性画家や美人画家への関心の高まりに合わせ、栗原玉葉、武村耕靄といった、これまで殆ど等閑視されてきた女性画家について、新出の作品や未公刊の日記等の資料を調査し、研究所内研究会や研究誌『美術研究』をはじめ、所外の展覧会やシンポジウムでも研究成果を発表、その画業を丹念に追いながら明治から大正にかけての女性画家の経済的基盤を明らかにするなど、大きな進展を得ることができた。(30年度) ・「日本東洋美術史の資料学的研究」（東文研）においては、京都府個人蔵の「四条河原遊楽図」の本格的調査を行い 新たな知見を得た。(29年度)。呉春筆「白梅図屏風」研究において基底材に絵絹ではなく「葛」が用いられていた可能性がはじめて指摘された。(29年度) ・「美術作品の様式表現・制作技術・素

	3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。			材に関する複合的研究と公開」（東文研）においては、これまで注目されることのなかった甲賀市水口所在の十字型洋剣の調査成果について、 ICOM国際会議をはじめ所内外で報告・講演を行い、その公表に努めた。（元年度） ○下記を例とする研究成果の公開等により、建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与したと評価した。 ・「歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究」（奈文研）においては、法隆寺古材調査によって、古代建造物の技法に関して 成果をまとめるとともに、出雲市内の神社本殿の悉皆調査、岡山県矢掛町や同県津山市の伝統的建造物群の調査も行い、文化財建造物や伝統的建造物群の保存に資することができた。（28～29年度） 法隆寺古材調査のとりまとめにより古代建築の技法を明らかにするとともに、岡山県津山市の伝統的建造物群調査によりその価値を明らかにして保存方策を含む報告書を作成した（30年度）。 ・「近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究」（奈文研）においては、奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、調査協力をおこない、13 市町村全社寺の台帳を作成した（元年度）。 ○下記の調査研究の実施により、有形文化財の保存修復等に寄与したと評価した。 ・「近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究」（奈文

					研）において、仁和寺・薬師寺等、未整理のものを含む歴史資料・書跡資料の調査を行って内容を把握するとともに、その保存を図り、活用可能な状態に整理した（28年度）。 薬師寺・仁和寺をはじめ、諸社寺の歴史資料及び書跡資料の調査研究を進め、それぞれの内容を明らかにするとともに、当麻寺や金峯山寺など緊急性の高い資料の調査にも着手し、今後の保存に関する方向性を示すことができた（29年度）。 薬師寺所蔵の歴史資料について長年の調査研究の成果として目録を公刊して全貌を示すとともに、春日大社関係の大宮家文書や興福寺関係資料をはじめとする諸社寺の歴史資料及び書跡資料の調査研究を進め、それぞれの内容を明らかにすることができた（30年度）。 唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、掛軸・印信の整理作業や、聖教第8函の写真撮影等を行った（元年度）。
	②　無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究 無形の文化財の現状把握と記録に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，重要無形文化財を中心とする古典芸能，伝統工芸技術及びそれに関わる文化財保存技術，重要無形民俗文化財を中心とする民俗芸能，風俗慣習，民俗技術に関する研究に重点的に取り組むものとする。	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。 1）重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究 重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。 2）重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究 無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。	〈評価軸〉 ・無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果 （評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28年度　3件 29年度　3件 30年度　3件 元年度　3件 （主な研究テーマ） ・無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（東文研）（28～元年度） ・無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（東文研）（28～元年度） ・無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集（東文研）（28～元年度） 調査研究の一例を挙げると、「無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」（東文研）では、28年度には、現状記録を要する無形文化遺産の記録作成として、当研究所による講談の記録作成は平成14年度に溯るが、連続口演の機会が激減している講談の実演記録を継続して作成した（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席）。また、伝承が危ぶまれている正本芝居噺の実演記録を作成した（林家正雀師2席）。29年度は、無形の文化財を支える保存技術が注目される中、技術保持者の高齢化が大きな問題となっている伝統楽器製作技術、及び工芸技術にとって重要な材料である膠や絹糸製造について調査研究を行った。30年度は、本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術（雅楽管楽器、能管、地歌駒・撥、琵琶、箏、太棹三味線ほか）及び道具・材料（ヤスリ、竹ほか）の調査研究を実施した。元年度は、講談の長編語り物、演奏機会の少ない平家や重要無形文化財の宮薗節について継続的に記録を作成し、かつこれまで作成した記録一覧の公表に着手した。	＜自己評価＞ 東京文化財研究所では、無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与することができた。 ○下記を例とする調査研究の実施により、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与していると評価した。 ・「無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」（東文研）においては、日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究を実施し、高齢化が進む技術保持者等への広範な聞き取り調査により大きな進展を得た（29年度）。演奏機会の少ない重要無形文化財の宮薗節について、29年度より宮薗千穐氏（重要無形文化財・各個認定）等への綿密な聞き取り調査等を実施し、これを進展させ、30年度に記録作成を開始することができた。当初は古典曲の記録を念頭に置いていたが、聞き取り調査を進める過程で、「新曲」に分類されるレパートリーの演奏機会が特に少ないとわかったため、30年度は古典に加えて新曲も記録作成（各11曲）し、今後の進展が期待できる調査研究を実施しえた（30年度）。 ・「無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究」（東文研）においては、継承の危機に瀕している無形文化財の内、社会的な認知度が低い選定保存技術に関して、『選定保存技術資料集』（日・英2ヵ国語版）を刊行した（28年度）。 ・国内の無形文化財について、全国的な統括リストが存在しないことを受け、文化庁及び全国地方自治体の協力の下、無形民俗文化財を中心とする網羅的な所在調査を実施し、併せて「無形文化遺産アーカイブス」の開発と公開を行った（28年度）。 ・民俗技術「箕」の製作技術に関する「箕サミット―編み組み細工を語る」を開催した。国指定重要無形民俗文化財である「箕」づくりの技術を持つ3団体による実演とパネルディスカッションを行うなど、他では実施されていない機会をつくることができた。その成果として、報告書『箕箕サミット2017の記録』を刊行した（29年度）。 無形民俗技術の調査の成果として『船大工那須清一と鵜舟を造る』『曳

					山金工品修理調査報告書』を刊行した（元年度）。 以上の通り、過疎化や高齢化によって継承の危機に瀕している無形文化財、無形民俗文化財等の継承に寄与することができた。	
	③　記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究 　文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，古代日本の都城遺跡（平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡）の発掘調査，史跡等の保存と活用の在り方，近世・近代の庭園，重要文化的景観及びその候補となりうる文化的景観の保存・活用実態，水中文化遺産及び古代官衙遺跡等に関する研究に重点的に取り組むものとする。	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。 5)水中文化遺産に関する調査研究 　国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資	（評価軸） ・記念物の保存・活用に寄与しているか。 ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。 ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。 ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。 （主な定量的指標） 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果 （評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28年度　16件 29年度　16件 30年度　17件 元年度　18件 （主な研究テーマ） ・我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）（奈文研）（28～元年度） ・我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）（奈文研）（28～元年度） ・平城宮東院地区の発掘調査（奈文研）（28～元年度） ・平城宮東院朝堂院東門の発掘調査（奈文研）（30～元年度） ・東大寺東塔院の発掘調査（奈文研）（28～元年度） ・藤原宮大極殿院地区の発掘調査（奈文研）（28～元年度） ・藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）（奈文研）（28年度） ・飛鳥地域等の発掘調査（奈文研）（28～元年度） ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等（奈文研）（28～元年度） ・平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究（奈文研）（28～元年度） ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究（奈文研）（28～元年度） ・中国、韓国との共同研究（奈文研）（28～元年度） ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究（奈文研）（28～元年度） ・遺跡データベースの作成と公開（奈文研）（28～元年度） ・古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行（奈文研）（28～元年度） ・古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行（奈文研）（28～元年度） ・水中遺跡の保存活用に関する調査研究（九博）（28～29年度） ・水中文化遺産に関する調査研究（奈文研）（30～元年度） 調査研究の一例を挙げると、「藤原宮大極殿院地区の発掘調査」（奈文研）では、発掘調査による古代国家の形成過程の解明という中期計画の目標に基づき、藤原宮大極殿院地区の発掘調査と研究を進めた。28年度は、大極殿院東門と東面南回廊の調査（第190次）を実施し、それらの規模と構造を明らかにした。とりわけ梁行２間の複廊である回廊が、東門との取付部では棟通り柱１基のみとなり、柱間寸法が異なるなど特異な構造となることが判明した。29年度は、大極殿院回廊東北隅部の調査（第195次）を実施し、その規模と構造を明らかにした。また、回廊造営段階の排水溝や整地を確認するなど、藤原宮造営期の状況を明らかにした。30年度は、大極殿院北面回廊中央部分の	＜自己評価＞ 奈良文化財研究所では、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。 ○下記を例とする調査研究の実施により、記念物の保存・活用に寄与していると評価した。 ・「我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）」（奈文研）においては、遺跡整備・活用研究集会を「近世城跡の近現代」をテーマとして実施し、近代以降の近世城跡の変容を様々な観点から具体的に取り上げ、それらの歴史的位置付けを明らかにしようと試みた。29年度は「遺跡等を活かした地域づくり・観光振興」という独特なテーマで遺跡等の整備と活用の事例を検討し、新たな活用に関する方向性を議論した。30年度は「史跡等の保存活用計画」をテーマとして開催し、文化財保護法の改正により法定となった保存活用計画の作成に当たっての技術的な課題等を共有することができた（28～30年度）。 28年度の研究集会の成果をまとめた報告書『近世城郭と近現代』を刊行し、成果の活用を促進した（28年度）。 ・「我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）」（奈文研）においては、庭園の歴史に関する研究（近世）では、元年度は「庭園文化の近世的展開」をテーマに研究会を開催し、研究会の報告書を刊行した（元年度）。 ○下記を例とする調査研究の実施により、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与していると評価した。 ・「東大寺東塔院の発掘調査」（奈文研）においては、東大寺東塔跡の調査を行い、鎌倉再建期のみならず、天平創建期の基壇外装を良好な状態で確認し、当初の規模や構造を明らかにする重要な成果を得た（28年度）。さらに東塔を囲む回廊等の調査をおこない、東塔院の規模や構造について重要な知見を得た（29～元年度）。 ・「平城宮東院地区の発掘調査」（奈文研）においては、平城宮内最大規模の井戸や、全国でも初例となる井戸と一体的に利用される溝・建物で構成される水場空間の発見など、律令国家の王権中枢部解明に関する重要な知見を得ることができた。（29年度）また、国内でも初となる８世紀の調理用の地上式竈とみられる遺構を検出し、東院の厨施設の実態を解明できた。（30年度） ・「平城宮東区朝堂院東門の発掘調査」（奈文研）では、奈良時代後半の東門の正確な規模の確定と奈良時代後半とは規模・構造の大きく異なる奈良時代前半の様相も明らかにすることができ、さらに東区朝堂院全体の規模を確定できた（30年度）。 ・平城宮東方官衙の発掘調査（奈文研）を実施し、太政官（弁官曹司）の中心	

		する。		調査（第 198 次）を実施し、北面回廊全体の柱配置と柱間寸法を明らかにした。また、北面回廊が複廊構造であることを確定し、その中央に北門が開くことを確認した。そのほか、大極殿院北部の造営過程において、運河を入念に埋め立て、排水溝を付け替え、二段階にわたって礫敷をほどこすなど、排水と地盤沈下への対応に苦慮していたことが新たに判明した。元年度は、大極殿院東面北回廊と内庭部の調査（第 200 次）を実施し、従来空閑地と考えられてきた大極殿院北半部が、東面北回廊から西へのびる大極殿後方東回廊によって南北に画されていたことを明らかにした。これは藤原宮の構造について再考を促すとともに、前期難波宮内裏地区との類似性から、古代宮殿の発展性をより明確にした成果といえる。また、建物造営に伴う造営溝の検討から、複雑な造営過程の様相も明らかになりつつある。今後も継続的に発掘調査を進め、藤原宮大極殿院の構造解明を目指す予定である。	建物とみられる平城宮内の官衙としては最大級規模の基壇建物とその関連施設の発見など、平城宮のみならず古代律令国家の解明にとっても重要な成果を得ることができた（元年度）。 ・「飛鳥地域の発掘調査」（奈文研）においては、古代山田道の規模と構造を把握するとともに、その南側で古墳時代後期前半に池を掘削し、それを７世紀後半にかけて埋め立てた状況を確認した。古代山田道周辺では６～７世紀にかけ、大規模な造成が繰り返されてきたことを明らかにし、飛鳥地域の開発史に新たな知見を加えることができた（29 年度）。 ・「飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等」（奈文研）においては、『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』（28 年度）、『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』（元年度）を刊行した。 ○下記を例とする調査研究の実施により、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与していると評価した。 ・「文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究」（奈文研）においては、文化的景観に関する研究集会を開催し、現状に関する情報を集約するとともに、今後の在り方に関して意見を交換した。また、文化的景観学検討会を開催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に関する検討を進めた。成果の一部を、四万十市及び岐阜市の文化的景観についてまとめ、『文化的景観スタディーズ第３冊』として公表した。さらに宇治	

				市・金沢市等で実地調査を行い、文化的景観の保護の在り方について検討を深めた（28 年度）。 文化的景観と考古学との関係をテーマとした文化的景観に関する研究集会を開催して、文化的景観の概念及び調査・計画等の体系化を進展させることができた。また、京都市等の現地調査・研究では保存計画や整備・活用計画の策定について検討を深めることができた。（30 年度） ○下記を例とする調査研究の実施により、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与していると評価した。 ・「水中文化遺産に関する調査研究」（奈文研）では、九州国立博物館と共同し、発展途上にある日本の水中遺跡の調査研究において、市町村教育委員会による遺跡の状況把握が可能な、安価で簡便な調査方法の確立に見通しを得ることができた。また、鷹島海底遺跡の元寇船の水中での現地保存に迅速に対応し、発展性の高い埋め戻し法を開発することができた（30 年度）。 鷹島海底遺跡において発見された元寇沈船を良好に現地保存するため、砂嚢と酸素不透過性シートを用いた埋め戻しが実施されている。この方法による埋め戻しの有効性を検証するため、海底遺跡現地において、温度と溶存酸素をモニタリングするとともに、銅板、鉄板および木材の試験片を同時に埋設し、海底暴露試験を実施した。これまで海水中の溶存酸素の長期にわたる連続測定は困難であったが、新たな測定法を導入したことにより、効率よく溶存酸素のデータの蓄積が可能となった（元年度）。	・学術雑誌等への論文掲載数 97 件（元年度） ・報告書等の刊行数 14 件（元年度） 内訳はアウトプット情報を参照	

	（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。		＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28年度　計15件 29年度　計16件 30年度　計16件 元年度　計16件 （目的） 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究を実施した。 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与した。 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進めた。国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進し、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与することができた。	
	①　文化財の調査手法に関する研究開発 　文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。	①文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 文化財の現状及び経	〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標〉 ・具体的な研究成果 〈評価指標〉 ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28年度　4件 29年度　4件 30年度　4件 元年度　4件 （主な研究テーマ） ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研）（28～元年度） ・埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発（奈文研）（28～元年度） ・年輪年代学研究（奈文研）（28～元年度） ・動植物遺体の調査研究（奈文	＜自己評価＞ ○下記を例とする研究開発の実施により、科学技術を的確に応用した文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与していると評価した。 ・「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」（東文研）においては、デジタル画像の形成方法の研究開発について、不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討し多数の光学調査を行った（28～29年度）。 東京文化財研究所所蔵のみならず鎌倉芳太郎撮影ガラス乾板（重要文化財）など、30年度は外部機関が所蔵するガラス乾板を対象に、緊急性に	

		年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や３Ｄ記録製作等について研究開発を進める。 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。		研）（28～元年度） 調査研究の一例を挙げると、「年輪年代学研究」（奈文研）では、年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発を行い、出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進めている。28年度は、薬師寺東塔で解体された部材に関する年輪年代学的計測を行い、729年・730年の年代を得ることができ、東塔の建立年代に貴重なデータを提供した。29年度は、薬師寺東塔の建造年代に関する調査で見出した木部材が、『扶桑略記』などの記述と整合的な730年に伐採されたと分かり、東塔の木部構造が藤原京の本薬師寺から移建したのではなく、平城京で新造されたものであると確定されるなどの重要な知見を得たほか、従来年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を木簡の同一材推定に活用する等、研究手法の応用を進めた。30年度は、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施しており、従来は年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を木簡の同一材推定に活用し、接合する削屑の事例を見出すなど、研究手法の応用を進めた。元年度は、年輪年代学研究を実施することで、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研	呼応した画像取得を実施することができた。画像取得にあたっては、一般的に用いられるスキャナではなく、撮影時に膜面に触れる恐れがなくガラス乾板を傷めにくいカメラを用い、カメラメーカーとも共同して、ガラス乾板からの画像取得という目的に特化したソフトウェアやカメラ等の機材のカスタマイズを行った。さらに、ガラス乾板から取得したデジタルネガの明暗反転にとどまらず、被写体や調査目的に応じた明度の調整を行うなど、東京文化財研究所独自の調査手法による鮮明な画像を取得できた（30年度）。 東京国立博物館所蔵の平安仏画、京都国立博物館所蔵の国宝十二天像など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた（元年度）。 これらの研究開発は、研究成果報告にまとめ公表するなど、継続して大きな成果を上げていると評価した（28～元年度）。 ・「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」（奈文研）では、埋蔵文化財の探査・計測方法において、遺跡におけるLiDARによる計測の試験的な計測と成果の精度、作業効率の評価を行う等、計測方法に関する実例研究を進め、調査手法の効率性等の向上に寄与した（29年度）。 ・遺跡・遺物の形状を計測記録する技術について、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な方法を開発しており、研究発表や講習会開催などによる成果の普及を行うことで、これまで取り組んできた遺跡・遺物の詳細なデータを従来の数十分の一の	

				究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による京都府芦生、奈良県吉野についての試料収集をおこない、年輪変動の地域性を検討する年輪データの蓄積を行った。 ・学術雑誌等への論文掲載数 24 件（元年度） ・報告書等の刊行数1件(元年度) 内訳はアウトプット情報を参照	時間と労力で計測・記録する手法を普及段階に進めた（30～元年度）。	
② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存に関する研究の進展を図ることとし，生物被害の予防と対策，文化財の保存環境と維持管理，文化財の材質・構造等の科学的分析，屋外文化財の劣化予防，文化財の修復方法と材料，考古遺物の保存処理法，建造物の彩色技法と材料，近代文化遺産の保存修復，高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策に関する研究に重点的に取り組むものとする。	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため、浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について	〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　11 件 29 年度　12 件 30 年度　12 件 元年度　12 件 （主な研究テーマ） ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研）（28～元年度） ・保存と活用のための展示環境の研究（東文研）（28～元年度） ・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研）（28～元年度） ・屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究（東文研）（28～元年度） ・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究（東文研）（28～元年度） ・考古遺物の保存処理法に関する調査研究（奈文研）（28～元年度） ・遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究（奈文研）（28～元年度） ・建造物の彩色に関する調査研究（奈文研）（28～元年度）	＜自己評価＞ ○下記を例とする調査研究の実施により、科学技術を的確に応用した文化財の保存・修復の質的向上に寄与していると評価した。 ・「文化財の材質・構造・状態調査に関する研究」（東文研）においては、煉瓦造建造物に析出している塩類の可搬型Ｘ線回折分析装置を用いたその場分析の結果と、周辺の温湿度環境・レンガの含水量との比較により、劣化と保存環境に関する検討を行った結果を学会で発表した（30 年度）。日本絵画の彩色材料の使い方に関する新知見を得るとともに、金属文化財の腐食評価のためのガスサンプリング方法の改良を行った（元年度）。 ・「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」（東文研）においては、セロファンテープ等の粘着テープを有機溶媒によって除去する方法や緑青焼けを起こしている作品の修復方法に応用できる成果を得た。また、粘着テープや油汚損の除去に用いるジェルクリーニング方法の検討を実施した。特にジェルからの作品への残留物質の有無の確認に焦点を当てて取り組んだ（28～29 年度）。 油汚損の文化財クリーニングへの適	

		基礎研究を行う。屋外環境においては、木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 文化財の展示照明として導入が進む白色 LED、有機 EL 光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また、文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料		・近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（東文研）（28～元年度） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（東文研）（28～元年度） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研）（28～元年度） ・古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究（奈文研）（28～元年度） 調査研究の一例を挙げると、「文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究」（東文研）では、歴史的建造物、古墳環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法に関する基礎研究を行う。28 年度は、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処置の歴史的建造物への適用に向けた研究に着手した。処理効果判定のための害虫生息調査において、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップを新たに適用して成果を得た。29 年度は、国内で初めてとなる現地処理を日光山内の社寺において実施し、現地での応用まで展開させた。その際、処理対象となる木材害虫について殺虫効果の評価試験を実施することができた。引き続き 30 年度には、日光山中禅寺鐘楼で国内 2 例目となる現地処理を実施し、東京文化財研究所が開発した殺虫処理効果判定システムを導入した。元年度は、環境低負荷型の殺虫処置方法である	用などを目的に、ゲルを使用した場合の現場適用方法を検討した。汚れの除去効果に加え、作業環境の評価も行い、安全な有機溶媒の使用方法を調査した。ゲルを使用した新たな文化財クリーニング法に関するワークショップ・研究会を開催するとともに、伝統的材料としての漆や膠に関する劣化調査や科学分析を行った（30～元年度）。 ・「近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究」（東文研）では、近代文化遺産のうち鉄構造物の保存修復に関する調査研究においては、世界遺産登録や国指定等が進む一方で保存修復の理念・技術が未だ確立していない現状から、国外の先進事例を踏まえて課題を包 括的に整理し、産官学の専門家と共同研究を実施した（29 年度）。 ・「高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究」（東文研）においては、キトラ古墳壁画の彩色に関する科学的分析を行うとともに、壁画表面のクリーニング方法、特に以前に使用された修理材料のある中での汚れの除去方法に焦点を当てて、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法に関する検討を行った。これは日本では従来行われていない修復方法であり、得られた成果を修復現場に還元できた（28 年度）。 ・「高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究」（奈文研）においては、高松塚古墳とキトラ古墳の壁画調査・修復及び保存・公開に対して技術的な協力を行い、それぞれの保存・修復・公開に寄与した。加えて、古墳壁画の新しい分析手法とし	

		の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 屋外に所在する石造物や木造建造物等について、凍結劣化や塩類風化、頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因、及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法について調査研究を行う。 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物		湿度制御温風殺虫処理について、殺虫処理効果判定法の検討を行うとともに、殺虫方法の普及に向けて成果発信を行うなど、順調に研究業務が遂行された。 ・学術雑誌等への論文掲載数 31件（元年度） ・報告書等の刊行数5件(元年度) 内訳はアウトプット情報を参照	て携帯型X線回折装置の開発・改良及び漆喰試料を用いた試用実験を行った。さらに、模擬石室における環境モニタリング及び模擬石室内での暴露試験を実施し、恒久的保存に向けた問題に取り組み、新しい方向性を示すことができた（28年度）。 高松塚古墳の石室解体事業について、正式報告書として「特別史跡高松塚古墳発掘調査報告」を刊行し、調査研究の質的向上に寄与した。さらにこの成果を熊本地震により被災した装飾古墳の被害状況調査に即応させ、3次元レーザー計測ならびにSfM/MVS（多視点ステレオ写真測量）による地形計測、地中レーダー探査による墳丘内の構造調査を行い、効率的に顕著な成果をあげ、被災文化財の保存・修復支援にも大きな貢献ができた（29年度）。 キトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効率よく実施するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に対応した。また、国営飛鳥歴史公園のキトラ古墳地区の運用が開始された後、キトラ古墳の整備に関する報告書を作成した（30年度）。	

		の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。 8)建造物の彩色に関する調査研究 南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため、技法及び材料調査を実施するとともに、復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類、合成樹脂等の複				

		合的な材料が使われている美術工芸品など、近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し、保存管理計画等の策定に寄与する。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。				
	（３）文化遺産保護に関する国際協働 文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成26年2月21日　外務省・文部科学省告示第１号）（以下「基本方針」という。）」等に従い行うこととし，以下のとおり目標を定める。 また，アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関し，ユネスコと日本国政府の間の協定に基づき設立されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターについて，以下のとおり目標を定める。 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 ・基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令に	【指標】 ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数，諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度，諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数） （目標水準の考え方） 以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することとする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力	＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28年度　計10件 29年度　計9件 30年度　計9件 元年度　計12件 （目的） 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2）文化遺産保護協力事業の推進 3）文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 ＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 主な事業は以下のとおり。 28年度　9件 29年度　8件 30年度　8件 元年度　11件 （主な事業テーマ） ・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（東文研）（28～元年度） ・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（奈文研）（28年度） ・イギリスセインズベリー日本藝術研究所との共同研究（奈文研）（28～元年度） ・アジア諸国等文化遺産保存修復協力（東文研）（28～元年度） ・保存修復技術の国際的応用に関する研究（東文研）（28～元年度） ・西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業（奈文研）（28～元年度） ・カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復（奈文研）（28～元年度）	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調かつ大きく進展している。 東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、文化遺産の保護に関する国際的な協力を行うことを目的として、我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に大きく貢献した。 ＜自己評価＞ 下記を例とする事業の実施により、文化遺産国際協力の推進に寄与していると評価した。 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」（東文研）においては、海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行うことを目的として、国際会議やシンポジウム等に出席し、収集した情報については世界遺産研究協議会を開催して関係自治体等関係者に対して情報の周知を図るとともに、その報告書、講演等を通じて成果の公表を行った。２年度はコロナウイルス感染症の影響により、国際的な国際会議への参加や国際シンポジウムの開催等が困難になることが想定されるが、専門家間の交流や情報交換は継続的に行い、国際協力を推進する（元年度）。 ・「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」（東文研）においては、アジア諸国における文化遺産保護水準の向上に資するための協力として、相手国協力機関と共同でアンコール・タネイ寺院跡の保存整備の実施に向けた調査研究を推進するとともに、同遺	

		ついて条文を和訳し、法令集として刊行する。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。 2)文化遺産保護協力事業の推進 諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。	の推進に関する基本的な方針」 第１　文化遺産国際協力の基本的方向 ４．文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ③　独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター（以下「センター」という。）は，文化遺産の保存修復及び調査研究の分野において，国際協力を推進する極めて重要な専門機関であり，その卓越した機能を生かし，世界各地で積極的な協力活動を実施している。センターは，教育研究機関及び民間団体等と協力しつつ，自らが有する知識，技術，経験等を活用して，文化遺産国際協力を更に推し進めるとともに，コンソーシアムを中心とした我が国の国際協力推進体制を支えていくことが望まれる。このため，国は，センターが文化遺産国際協力に関係する海外諸機関との連携における中核的な役割を発揮できるように，その体制の整備充実を図る。	・在外日本古美術品保存修復協力事業（東文研）（28～元年度） ・国際研修（東文研）（28～元年度） ・ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力（東文研・奈文研）（28～元年度）	跡東門の修復工事に着手し、実践的な文化遺産の保護の推進に貢献することができた。また、アルメニアとイランを対象とした各研修では、対象国の要望を踏まえた即応性のある講義及び実習を実施し、研修参加者のみならず協力機関等関係者から高い評価を受けた（元年度）。 ・「西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業」（奈文研）においては、28年度からウズベキスタンで壁画の修復事業への協力を開始し、元年度に完了した。元年度は、サマルカンド考古学研究所でファヤズテパ遺跡出土壁画の保存修復作業に協力し、国際セミナー「中央アジア西部の仏教遺跡と出土壁画について：ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画を中心に」を奈文研で開催して、35人の参加を得た（元年度）。 ・「保存修復技術の国際的応用に関する研究」（東文研）においては、国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進した。元年度は、トルコ・カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施、ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院（NO.1205）の外壁調査と保存修復方法の検討及び施工実験、ミャンマー・バガン遺跡における壁画の技法及び人文学的調査を実施し、文化遺産の保存修復及び管理活用に関する調査研究に加えて、現地の若手専門家を積極的に受け入れた人材育成事業を展開することができた。また、調査研究の成果を具体的に

		3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。			・共同研究等の実施件数 28年度　3件 29年度　4件 30年度　2件 元年度　3件 内訳はアウトプット情報を参照	対象となる文化財の保存修復に反映させ示すことができた結果、当事国関係者より高い評価を得ることができた（元年度）。
	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 ・基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の④に掲げる文化財機構の役割に従い，文化遺産国際協力を推進する。	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。 特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとと	【指標】 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数） （目標水準の考え方） ・以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」 第１　文化遺産国際協	＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 主な事業は以下のとおり。 28年度　1件 29年度　1件 30年度　1件 元年度　1件 （主な事業テーマ） ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究（IRCI）（28～元年度） 「アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究」においては、以下の事業を継続的に実施している。 ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実 ・無形文化遺産保護に関する研	＜自己評価＞ アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）では、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のため、事業を計画に従い実施し、中期目標の達成に向け大きな進展を得ていると評価した。 ・28年度は「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」に着手し、順調な活動を行うことができた。東京文化財研究所無形文化遺産部の協力を得て、アジア３ヵ国（フィリピン、ベトナム 、ミャンマー）及びオセアニア３ヵ国（バヌアツ、フィジー、マーシャル諸島）における現地調査や、ワーキンググループ会合を開催した。第３回会合では、フィリピン、バヌアツ、フィジー、バングラデシュ等から参加者を招き、国際会合として開催、国内外の研究機関・研究者との連携を強化し、保護の実践や方法論等についての議論を深化させることができた。 ・29年度は、災害リスクマネジメント

		もに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	力の基本的方向 ４．文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ④　また，平成 23 年 10 月には，日本国政府とＵＮＥＳＣＯ（国際連合教育科学文化機関（以下「ユネスコ」という。）との協定に基づき，ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際調査研究センターとして，独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋地域無形文化遺産研究センターが設置された。当該センターにおいては，我が国の無形文化遺産に関する国際協力の拠点として，東京文化財研究所等の関係機関と連携しつつ，アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進することが望まれる。	究の活性化に資する国際会議・研究者フォーラムの開催 ・同地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究の実施 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集	事業が順調に進展していることに加え、29 年度よりアジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究を開始し、危機に瀕した無形文化遺産の実態や保護事例について、具体的に研究する体制を整備した。また、これまで継続的に行ってきたマッピング事業によりアジア太平洋地域を対象とした情報収集も進み、外部機関との連携による 2 件の国際会議を開催することができ、域内における研究促進に貢献した。 ・30 年度は、無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-において、ベトナム、フィリピンの 2 か国の、フォーマル、ノンフォーマル教育に無形文化遺産の要素を取り入れた教材用のガイドラインを作成した。また、自然災害に関する地域ワークショップを開催し、災害時の無形文化遺産保護やその防災・復興への活用についての提言が採択され、各国での今後の活動の進展が期待できる有意義な成果を得た。 ・元年度は、30 年度に開始した無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-において、30 年度作成したガイドラインの有効性を検証するためモニタリングを実施し、その結果を議論するワークショップを通じ研究のさらなる促進を図ることができた。また、東京文化財研究所と共に開催した国際研究者フォーラム（「無形文化遺産研究の展望ー持続可能な社会にむけて」）では、よりアカデミックな内容で SDGｓの議論を深めることができた。これらは今後における SDGs 関連事業の基礎をなすものとなっている。ポストコンフリクト事業	

				・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況 （国際協力事業の実施件数） 28 年度　5 件 29 年度　6 件 30 年度　5 件 元年度　5 件	では各国研究機関等との連携体制が整い、紛争により危機に瀕した無形文化遺産について情報収集及び記録作成が進展した。30 年度に特定した消滅の危機に瀕する無形遺産について、卓上調査を含む現地調査を実施するなど、治安悪化など不安定な状況にもかかわらず具体的な活動が進行した。 今後は、継続中の事業についてはより具体的な情報収集や分析を進め、事例研究として成果を上げるとともに、国内外の研究機関との連携を強化しつつ、無形文化遺産保護の国際的充実と研究の推進に努める。	
	（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。		＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　計 9 件 29 年度　計 9 件 30 年度　計 9 件 元年度　計 9 件 （目的） 文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する取り組みを実施した。	
	・研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的とし	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財情報の計画	【指標】 図書，雑誌等の公開に関する取組状況（資料	＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。	＜自己評価＞ 以下の通り、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子	

	て，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開すること。	的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。	閲覧室・図書資料室の開室日数，利用者数，文化財に関する資料・図書等の総件数） 文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・データベースのデータ件数 ・データベース等へのアクセス件数 〈目標水準の考え方〉 文化財に関する専門図書等の公開施設を設け，書誌情報等による検索サービスを提供し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。なお，当該施設は文化財に関する希少な資料・図書等を収集・整理し公開するものである。一般図書とは異なりその利用に当たっては制限が必要となることとなり，あらかじめ数値目標を設定せず，上記の取組をモニタリングし総合的に評価する。 文化財に関する各種データベースを構築して，情報通信回線を通じて公開し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。	28年度　3件 29年度　3件 30年度　3件 元年度　3件 （主な事業テーマ） ・専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充（東文研）（28～元年度） ・文化財に関するデータベースの充実（奈文研）（28～元年度） ・図書の収集・整理・公開・提供（奈文研）（28～元年度）	化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充に取り組んだ。 図書、雑誌等の公開に関する取組状況として、元年度は、資料閲覧室等の開室日数は東文研、奈文研それぞれ、125日、198日、利用人数は988人、278人であった。文化財に関する資料・図書等の総件数は、東文研、奈文研それぞれ、337,374件、480,023件であった 文化財に関するデータベースの公開件数は、東文研、奈文研で目標値がそれぞれ18件、22件のところ、元年度はそれぞれ30件、17件となった。奈文研のデータベースの公開件数の減少は、サーバーの効率的利用及びデータベースの機能強化のため、元年度にデータベースの統合を行ったものであり、データベースの充実を目的としたものである。 ・「専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充」（東文研）においては、元年度は、文化財研究の専門機関として国内外から重要視されていた売立目録についてデジタル・アーカイブを完成・公開し、研究支援を飛躍的に推進した。あわせて資料閲覧室としての公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた（元年度）。 2年度以降も当研究所が行う文化財の調査研究とその成果を集約しつつ、データベースの継続的拡充を行い、専門的アーカイブと総合的レファレンスの充実を推進する。 ・「文化財に関するデータベースの充実」（奈文研）においては、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関し、データの入力・更新を行うとともに、公開データベースを更新した。文化財情報に関す	

				・図書，雑誌等の公開に関する取組状況 資料閲覧室・図書資料室の開室日数（東文研125日、　奈文研198日）（元年度）、利用者数（東文研988人、奈文研278人）（元年度）、文化財資料総数（東文研337,374件、奈文研480,023件）（元年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・文化財に関するデータベースの公開件数（東文研30件、奈文研17件） ・データベースのデータ件数（東文研　1,288,551　件、奈文研1,348,102件） ・データベース等へのアクセス件数（東文研2,989,314件、奈文研17,604,865件）	る基礎的な研究を積み重ねつつ、継続性が重要なデータベースの充実を着実に進めている。他機関と協力して進める大規模データベースである全国遺跡報告総覧は、頻出用語表示機能などのデータ解析機能を付加し、今後の発展も引き続き期待される（元年度）。	

	・調査研究の成果を刊行物，講演会等を通じて広く公表するとともに，平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開すること。なお可能な限り，調査研究に関する論文等について，学術情報リポジトリ等としてウェブサイトでの公開に努めること。	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。	【指標】 ・定期刊行物等の刊行件数（前中期目標の期間の実績以上） ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績以上） ・公開施設における特別展・企画展の開催件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の来場者数 ・公開施設の来館者数 ・学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数 （目標水準の考え方） ・定期刊行物等は，文化財研究所の調査研究等の成果を普及するために，重要な役割を担うものであり，一定の規則性をもって企画されるべきものである。定期刊行物等の種別によって，刊行の時期や部数等が異なるが，全体的な規模としては，原則として前中期目標の期間の実績以上となるよう刊行計画を策定し，これを達成することを目標とする。 ・一般を対象とする講演会等の開催回数は，毎年一定程度の規模を保つことが重要であり，前中期目標の期間の実績以上とすることを目標	主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　4 件 29 年度　4 件 30 年度　4 件 元年度　4 件 （主な事業テーマ） ・定期刊行物の刊行（東文研）（28～元年度） ・定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催ウェブサイトの充実（奈文研）（28～元年度） ・オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（東文研）（28～元年度） ・文化財情報基盤の整備・充実（東文研）（28～元年度） ・平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開（奈文研）（28～元年度） ・平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善（奈文研）（28～元年度）	＜自己評価＞ 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信することができた。 ・「定期刊行物の刊行」（東文研）においては、所期の計画通り、学術誌としての一定の水準を保ちつつ各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行した（28～元年度）。 ・「定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催ウェブサイトの充実」（奈文研）においては、計画通り定期刊行物を刊行するとともに、目標を上回る回数の公開講演会や現地説明会等を実施し、調査研究成果を適時、多元的に発信している。また、全国遺跡報告総覧などウェブサイトの利用率も順調に上昇している（28～元年度）。 ・「平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開」（奈文研）においては、各年度、所期の目標以上に実施し、各館の展示等の充実と、来館者の理解を促進することができた。30 年度には、奈良文化財研究所新庁舎の完成に合わせ、研究所業務を紹介する夏期企画展を平城宮跡資料館にて開催するなど、各館・室で時期に適った企画を実施している（28～元年度）。 ・「平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善」（奈文研）においては、30 年 1 月から新たなボランティア制度のもと、定期的な勉強会、展示研修等を通じて、解説ボランティアの育成を行い、継続して資質の向上に努めている。また、連絡会議を定期的に開催して意見等を取り	

			とする。 ・奈良文化財研究所の平城宮跡資料館・飛鳥資料館は，発掘調査等の研究成果を適時に展示することが重要であり，特別展・企画展開催件数を前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。	・定期刊行物等の刊行件数（東文研 12 点、奈文研 10 点）（元年度） ・講演会等の開催回数（東文研 2 回、奈文研 13 回）（元年度） ・平城宮跡資料館特別展・企画展 5 件・特別公開 1 件、飛鳥資料館特別展・企画展 4 件（元年度）	入れつつ、円滑な活動を実施することができた（28～元年度）。 ＜課題と対応＞ ―	

	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ・地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について，研修項目，課程等の体系を示し，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施すること。	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。		＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　計 25 件 29 年度　計 26 件 30 年度　計 26 件 元年度　計 26 件 （目的） 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。	＜自己評価＞ 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京文化財研究所、奈良文化財研究所及び文化財活用センターにおいて、我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修を実施し、文化財保護に携わる人材を育成する取り組みを行った。 また、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、文化財活用センター及び文化財防災ネットワーク推進室において、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行った。 いずれの取り組みもナショナルセンターとしての役割を十分に果たしていると評価した。	
		①文化財に関する研修の実施 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。	【指標】 ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修成果の活用状況（アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上） （目標水準の考え方） ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は，我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては，各研修の目的，項目及び課程等の研修体系を策定するとともに，アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し，適宜研修プログラム等に反映する。	＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　2 件 29 年度　2 件 30 年度　2 件 元年度　2 件 （主な事業テーマ） ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修（東文研）（28～元年度） ・文化財担当者研修（奈文研）（28～元年度） ・研修の実施件数（東文研 1 件、奈文研 14 件） ・研修の受講者数（東文研 31 件、奈文研 199 件） ・研修成果の活用状況（東文研 100%、奈文研 100%）	＜自己評価＞ 以下の通り、文化財に関する研修を実施し、文化財保護に携わる人材の育成に寄与したと評価した。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所の文化財研修の件数、受講者数及び研修成果活用実績の目標値はそれぞれ 1 件、13 件、30 人、156 人、80%、80%のところ、1 件、14 件、31 人、199 人、100%、100%となり、すべて目標値を達成した。 ・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」（東文研）においては、勤務館において資料保存に携り、設備や問題点を把握している学芸員を対象とした研修を継続して実施している。元年度からは、文化財活用センターと共催で開催した。共催とすることで外部発信力が上がるとともに、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応える充実した内容にすることができた。また、研修成果の活用実績に関するアンケートを引き続き実施し、カリキュラム等に関するニーズを把握、必要に応じた見直しを行った（28～元年度）。 ・「文化財担当者研修」（奈文研）においては、遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 14 課程の研修を実施し、延べ 199 人が受講した（課程数・受講者数などは元年度実績）。研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修を継続して実施することができている（28～元年度）。	
	・文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，可能な限り専門的・技術的見地から適切な協力等を行うこと。	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じ	【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） （目標水準の考え方） ・行政機関が実施する発掘調査や史跡整備	＜主要な業務実績＞ 中期計画に従い事業を継続して実施した。 （主な事業テーマ） ・文化財の収集、保管に関する指導助言、ほか（東文研）（奈文研）（28～元年度） ・文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・	＜自己評価＞ ・国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行った（東文研）（奈文研）（28～元年度）、（文化財活用センター）（30～元年度）。 ・国・地方公共団体等からの共同研究	

		て、文化財に関する協力・助言を行う。 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 ④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 ⑤文化財等の防災・救援等への寄与 巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。 1)体制づくり 有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制	事業を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じて都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	管理等への協力平城宮復原整備研究（奈文研）（28～元年度） ・国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力（奈文研）（28～元年度） ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力（奈文研）（28～元年度） ・ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力（奈文研）（28～元年度） ・東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進（東文研）（28～元年度） ・京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進（奈文研）（28～元年度） ・文化財等の防災・援助等への寄与（防災）（28 年度） ・体制づくり（防災）（29～元年度） ・調査研究等の実施（防災）（29～元年度） ・人材育成・事業啓発活動等の実施（防災）（30～元年度） 指導・助言については、以下のような内容で実施した。 総数の推移 28 年度 1,198 件 29 年度 1,031 件 30 年度 950 件 元年度 609 件 内訳の推移 ・文化財の収集、保管に関する指導助言（東文研） 28 年度 11 件 29 年度 19 件	及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できている（東文研）（奈文研）（28～元年度）。 ・「国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力」（奈文研）及び「文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力」（奈文研）においては、28 年の国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園に向けて、文化庁と国土交通省の双方と連携し協力した。当研究所の豊富な知見を生かし、四神の館の展示内容について効率よく助言や情報提供を行うことができた。また、キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行うとともに、壁画を季節に合わせて公開した。（28～元年度） ・「国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力」（奈文研）においては、国土交通省が進めてきた平城宮跡歴史公園のガイダンス施設「平城宮いざない館」の建設に向けて、出土品等の展示を行う詳覧ゾーンについて協力を行い、30 年 3 月 24 日に開館した。 開館後も、第 4 展示室の展示の監修・学芸業務を中心に、いざない館の活動について、国土交通省国営飛鳥歴史公園及び管理センターに継続的な協力を実施した（29～元年度）。 ・「東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進」（東文研）及び「京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進」（奈文研）においては、各専門分野に関する講義、実習	

		づくりに向けた検討を行う 。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う 。 ウ 無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う 。 3)人材育成等の実施 文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。		30 年度 28 件 元年度 24 件 ・無形文化遺産に関する助言（東文研） 28 年度 10 件 29 年度 22 件 30 年度 25 件 元年度 32 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言（東文研） 28 年度 41 件 29 年度 42 件 30 年度 44 件 元年度 41 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言（東文研） 28 年度 58 件 29 年度 60 件 30 年度 60 件 元年度 42 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言（東文研） 28 年度 15 件 29 年度 14 件 30 年度 11 件 元年度 20 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（東文研） 28 年度 658 件 29 年度 521 件 30 年度 428 件 元年度 25 件 （国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査に関わる相談窓口は、元年度から文化財活用センターに一本化した。） ・文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力（文化財活用センター） 30 年度 53 件 元年度 134 件	を通し、継続して大学院生の研究指導を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に寄与した（28～元年度）。 文化財防災ネットワーク推進室においては、以下の通り、文化財等の防災・救援等へ寄与した。 ・「体制づくり」においては、地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行うため、文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催した。また、機構各施設が地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進した。各地で開催する研修会や講演等を通じ、文化財防災のための地域連携の在り方や防災対策、被災文化財の保全方法など、広範な内容をもって事業の有用性を伝えることができた。そのほか、災害発生時の迅速な救援活動を実現するため、地域間連携・組織間連携のガイドライン策定を行い、元年度に完成させた。推進会議参画団体のための活動ガイドラインの完成をみたことにより、都道府県に対して当推進事業との連携を積極的に推奨することが可能になった（防災ネットワーク推進室）（28～元年度）。 ・令和元年 10 月、台風 19 号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫の水没事故に対しては推進会議参画団体のうち 10 団体が集合して救援活動を行うなど、実践的な成果を挙げるに至った。（元年度）	

				・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（奈文研） 28年度 339件 29年度 238件 30年度 273件 元年度 238件 ・地方公共団体等の要請による平城京域発掘調査等への協力・援助（奈文研） 28年度 45件 29年度 47件 30年度 9件 元年度 32件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言（奈文研） 28年度 13件 29年度 9件 30年度 6件 元年度 10件 ・被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力（奈文研） 28年度 8件 29年度 59件 30年度 13件 元年度 11件	・「調査研究等の実施」においては、文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を継続して実施した。各施設が取り組んできた特色ある文化財データベースは、データ収集から利用の段階に進みつつあり、平常時・災害発生時の活用が期待される（28～元年度）。	

１－２－４－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅱ	業務運営の効率化に関する事項		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
一般管理費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間中15%以上効率化	1,079,716	831,109	753,613	1,277,028	974,244		9.77％減（前中期実績値比）
業務経費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間中5%以上効率化	6,580,389	5,417,416	6,158,978	5,955,580	5,964,637		9.36％減（前中期実績値比）
光熱水量	電気量（kwh）	実績値	－	24,981,326	25,475,017	25,703,795	25,705,596	26,112,714		1.58%増
	ガス量（㎥）	実績値	－	1,888,670	1,961,450	1,984,170	1,941,360	2,042,038		5.19%増
	水道量（㎥）	実績値	－	143,075	144,711	154,269	157,555	156,080		0.94%減
廃棄物排出量(kg)		実績値	－	225,151	225,453	232,251	210,462	187,701		10.81%減

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
			業務実績	自己評価	（見込評価）
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 １．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとする。特に，第25回世界博物館大会（2019年ICOM京都大会）及び2020年東京大会の開催等を	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機		＜実績報告書等参照箇所＞ 第4期中期目標期間実績補足資料 P 48～ 51 ＜主要な業務実績＞ ○2019年ICOM京都大会に向けた体制整備 ・28年10月1日付けで本部事務局長に京都国立博物館副館長を併任させ、2019年ICOM京都大会の実施に向けた組織体制の構築の検討を開始した。30年3月に ICOM京都大会準備室に職員を1名派遣	＜自己評価＞ 評定：B 中期目標の達成に向け順調に進展していると評価した。 ＜自己評価＞ 2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた組織・体制等の見直しを実施した。2019年 ICOM京都大会においては、人員及び会場の提供、関連イベントの実施に当たって積極的な協力を行い、開催地の国立博物館としての役割を十分に果たすことができた。2年度も、延	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた組織・体制等の見直しを実施するとともに、平成30年には文化財活用センターを設置し、社会の要請等を踏まえた組織・体制の充実強化を図っていることは評価できる。 ＜今後の課題＞ － ＜その他事項＞ －

	踏まえ，法人の事業全体を通じて，横断的に国際業務を推進する体制の整備に努めることとする。	構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。		した。30年10月に審議役の職を新設した。併せてICOM京都大会の実施に向けて、課長級職員を1人派遣した。31年4月に一般職員1名を追加で派遣した。 ○2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた体制整備 ・日本博の事業を円滑に進めるため、31年4月に課長補佐級職員1名、一般職員1名を派遣した。 ○情報セキュリティの確保・維持 ・29年7月に情報担当のアソシエイトフェローを1名採用し、本部情報担当分門の設置を推進した。30年10月に本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。31年4月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。 ○組織・体制等の見直し ・30年7月1日付にて本部に文化財活用センターを開設した。 ・機構における定年退職者の知識・経験等を活用することができる仕組みを構築するため、任期付職員制度の見直しを行った。28年度定年退職者3名を、29年4月1日付けで任期付職員として採用した。（28～29年度）	期となった2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組みを継続する予定である。	

	（2）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。	（2）人件費管理等の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。		＜主要な業務実績＞ ○法人の給与水準 給与については、独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に決定している。 ○対国家公務員指数の検証と公表 給与水準は事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準である。 対国家公務員指数の状況： ・28年度 事務・技術職員　98.7% 研究職員　99.8% ・29年度 事務・技術職員　98.5% 研究職員　99.7% ・30年度 事務・技術職員　99.2% 研究職員　98.1% ・元年度 事務・技術職員　97.4% 研究職員　98.1%	＜自己評価＞ 対国家公務員指数を下回っており、給与水準は適正である。 なお、検証結果、取組実績等を法人及び総務省ウェブサイトにおいて公表している。 ＜課題と対応＞ ―	
	（3）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計	（3）契約・調達方法の適正化 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、		＜主要な業務実績＞ ・「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成27年5月25日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、各年度に2回、機構が締結した契約の点検・見直しを行った。	＜自己評価＞ 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き調達等の合理化の取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行った。また、随意契約によ	

	画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。	随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。		・東京国立博物館（レストラン、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、京都国立博物館（南門カフェ、平成知新館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（飛鳥資料館ミュージアムショップ、平城宮跡資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施済み。今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。 28 年度：27 人 29 年度：24 人 30 年度：22 人 元年度：21 人参加 ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施した。 ・一般競争入札件数 28 年度：155 件 29 年度：129 件 30 年度：136 件 元年度：186 件	ることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施している。 ＜課題と対応＞ ―	

	（４）共同調達等の取組の推進 周辺の機関と連携し，コピー用紙等の消耗品や役務について，共同して調達する取組を年度計画等に具体的な対象品目等を定めた上で進めるものとする。	（４）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。		＜主要な業務実績＞ ・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。 （再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館） ・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した。(PPC 用紙及びトイレットペーパー) ・奈良国立博物館では、トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近	＜自己評価＞ 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進した。	

				隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進めることとしている。 ・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙及びトイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。 ・奈良文化財研究所では、PPC用紙及びトイレットペーパーについて、近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については、引き続き検討を進める。	＜課題と対応＞ －	
	（５）一般管理費等の削減 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成25年12月24日閣議決定）等を踏まえ，国民に対して提供するサービスの質の維持向上に十分配慮しつつ，自主的・戦略的な業務運営を行い，最大限の成果を挙げていくために，調達の合理化を推進するなど一層の業務の効率化を推進することとする。具体には，文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進	（５）一般管理費等の削減 中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜主要な業務実績＞ ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ・共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 ・業務の効率的な運用と情報共有化のため、機構共通の業務システム及び基盤となるネットワークの運用を継続した。特に情報共有については、グループウェア上の機構内全職員に共有すべき重要情報を整理統合したコンテンツ「機構内共有情報」を29年3月27日に設け、「行事予定一覧」や「機構内研究関連情報」等の共有を効率的かつ分かりやすく行える体制とし、情報の共有化の推進と強化を行った。 ②計画的なアウトソーシング ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施した。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託した。 ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ③使用資源の減少（省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進） ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者へ	＜自己評価＞ 一般管理費等の削減について、引き続き、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る取り組みを実施した。 光熱水使用量の削減にかかる取り組みにおいては、日常の節電節水の徹底、冷暖の省エネ運転等の実施により節減に努めているが、奈良文化財研究所の本庁舎移転等に伴い必然的な増加があり、当初計画外の外的要因の影響を受けるところが大きい。	

				の古紙売り払い、再生紙の発注等) ・使用資源の推移等 日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、以下の外的要因により、元年度の使用量は、電気は30年度比1.58%増、ガスは30年度比5.19%増であった。 ・電気使用量 元年度は、奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う電気使用量の増加があった。 ・ガス使用量 元年度は、奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う空調用機器運転に係る使用量の増加があった。	＜課題と対応＞ －	
	2．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，オープンデータの推進，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。	2．業務の電子化 機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。		＜主要な業務実績＞ ・機構内の博物館4館の各館所蔵品データを横断的に検索する「国立博物館所蔵品統合検索システム」（略称：ColBase）を29年3月27日に公開した。本システム上のコンテンツの利用については、「政府標準利用規約（第2.0版）」に準拠、商業利用を含む二次利用を可能とし、また国際的に普及しているクリエイティブコモンズ（NPO法人）によるCC-BYライセンスと互換性があるものとなった。これにより政府が推進するオープンデータ政策にも合致することとなった。 ・7月1日発足の文化財活用センターへシステムの運用を引き継ぎ、政府の方針に沿ってオープンデータを推進するため、「e国宝」「ColBase」の運用を継続した。 ・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。 ・グループウェア「サイボウズ」のサーバーを更新した。(31年2月22日)	＜自己評価＞ 機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努めた。とりわけ、30年7月1日に発足した文化財活用センターにおいては、「e国宝」「ColBase」の運用を継続して行い、政府の方針に沿ったオープンデータの推進に取り組んでいる。 また、機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに、必要なシステム更新・機能追加を適宜行い、今後の運用に向けた各種対応を進めた。 ＜課題と対応＞ －	
	3．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	3．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。		＜主要な業務実績＞ 「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定,平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。	＜自己評価＞ 計画どおり取組を実施している。 ＜課題と対応＞ －	

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
自己収入額（千円）	－	実績値	1,538,510	1,817,119	1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303		受託研究・受託事業を除く
寄付金等額	－	実績値	439,574	795,744	753,812	732,210	827,718	884,196		
施設の有効利用件数	（東博）	実績値	－	652	747	866	781	680		
うち有償利用件数		実績値	－	434	529	581	485	457		
施設の有効利用件数	（京博）	実績値	－	112	105	122	165	196		
うち有償利用件数		実績値	－	104	93	86	143	164		
施設の有効利用件数	（奈良博）	実績値	－	117	113	111	112	166		
うち有償利用件数		実績値	－	33	21	19	18	84		
施設の有効利用件数	（九博）	実績値	－	392	355	280	328	349		
うち有償利用件数		実績値	－	118	116	96	75	77		
施設の有効利用件数	（東文研）	実績値	－	186	185	200	198	145		
うち有償利用件数		実績値	－	7	9	10	13	7		
施設の有効利用件数	（奈文研）	実績値	－	256	296	347	247	224		
うち有償利用件数		実績値	－	43	52	35	29	19		
施設の有効利用件数	機構合計	実績値	－	1,715	1,801	1,926	1,831	1,760		
うち有償利用件数	機構合計	実績値	－	739	826	827	763	808		

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
			業務実績	自己評価	（見込評価）
Ⅴ　財務内容の改善に関する事項 １．自己収入拡大への取組 展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，寄附金等の外部資金の募集，保有財産の有効利用の推進，競争的資金の獲得等多様な取組を進めることとし，前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得るものとする。 （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・展示事業等収入額 5,875,431 千円（平成 23～26 年度実績総額　ただし，平成 24 年度の消費税還付による収入 260,696 千円を含む） ・その他寄附金等収入額　1,402,126 千円（平成 23～26 年度実績総額）	Ⅲ　財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．自己収入拡大への取組 展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。	＜主な定量的指標＞ ＜その他の指標＞ ＜評価の視点＞	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 4 期中期目標期間実績補足資料 P 55～ 57 【保有資産の保有状況】 令和２年４月１日現在 東京国立博物館 　土地 120,270 ㎡、建物(延面積)78,471 ㎡ 京都国立博物館 　土地 53,182 ㎡、建物(延面積)31,044 ㎡ 奈良国立博物館 　土地 78,760 ㎡、建物(延面積)19,116 ㎡ 九州国立博物館 　土地 159,844 ㎡(うち九博 10,798 ㎡) 建物(延面積)30,675 ㎡(うち九博 9,300 ㎡) ※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有している。また、建物のうち15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 土地 4,181 ㎡、建物(延面積)10,516 ㎡ 奈良文化財研究所 土地 46,487 ㎡、建物(延面積)41,418 ㎡	＜自己評価＞ 評定：B 中期目標の達成に向け順調に進展していると評価した。 機構全体として、自己収入の増加に向けた積極的な取り組みを進めた結果、自己収入及び寄付金等のいずれも、毎年度、目標値を大きく上回る結果となった。 自己収入においては、目標値 1,538,510 千円のところ、29 年度実績は 2,260,173 千円であり、146.9%増となった。寄付金等においては、目標値 439,574 千円のところ、30 年度実績は 884,196 千円であり、201.1%増となった。 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、元年度までと同等の取り組みは困難であると想定されるが、引き続き、自己収入の確保及び寄付金獲得の取り組みを図る予定である。 博物館・研究所の本来業務以外にも、会議・セミナーのための講堂・会議室の貸与や、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸出すなど部外者に対しても積極的な貸出しを行い、適切に保有資産の有効利用を推進した。2 年度も同様に適正に管理し、本来業務に支障のない範囲で有効活用に努める予定である。 ＜課題と対応＞ ―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 ＜今後の課題＞ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館制限により、各種事業や自己収入への影響が懸念されるため、ウィズコロナ時代に対応した新たな観覧環境の提供と財源確保策の確立が望まれる。 ＜その他事項＞ －
２．固定的経費の節減	２．固定的経費の節減		＜主要な業務実績＞ Ⅱ１．（５）一般管理費等の削	＜自己評価＞ ―	

	管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。	管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。		減に関する事項に取組んだ。	＜課題と対応＞ ―	
	３．決算情報・セグメント情報の充実等文化財機構の財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	３．決算情報・セグメント情報の充実等機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。		＜主要な業務実績＞ 各年度決算において、「独立行政法人会計基準」(27 年 1 月改訂) に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント (事業区分) 毎の情報を公表した。	＜自己評価＞ 計画どおり取組を実施している。 ＜課題と対応＞ ―	
	４．保有資産の処分保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年 9 月 2 日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行うこととする。	４．保有資産の処分保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年 9 月 2 日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。		＜主要な業務実績＞ 処分した保有資産はなかった。	＜自己評価＞ ― ＜課題と対応＞ ―	

４．その他参考情報
特になし

１－２－４－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅳ	予算、収支計画及び資金計画 1．予算　2．収支計画　3．資金計画		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値 （前中期目標期間最終年度値等）	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 ２年度	（参考情報） 当該年度までの累積値等、必要な情報

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	（見込評価）		
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 ３．予算執行の効率化 　独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。	（主な定量的指標） 特になし （その他の指標） 特になし	＜実績報告書等参照箇所＞ 第４期中期目標期間実績補足資料 P 51～ 54 ＜主要な業務実績＞ ・各年度当初予算については、前年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。また、運営費交付金は四半期ごとの入金であるが、あらかじめ国へ四半期ごとの必要額を伝えることにより、計画的な資金管理を実施した。 ・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用を図った。 ・年度内に新たに発生した法人全体又は各施設に関わる業務で緊急性且つ必要性が高いと認められた事業に関しては、理事長了承の下、あらかじめ本部で留保していた予算（理事長裁量経費）を該当施設へ速やかに予算配分することで業務遂行に支障をきたさない運営を実施した。 ・獲得した外部資金の中には精算払のものもあり、資金繰りの悪化が予想される施設にはあらかじめ資金の貸与を行うことで法人全体として効率的な資金管理を実施した。 ・総務担当理事を中心とした検討チームを立ち上げ、有識者や関係各所の意見を踏まえ、４博物館及び飛鳥資料館の平常展観覧料金を２年４月から改定した。	＜自己評価＞ 評定：B 中期目標の達成に向け順調に進展していると評価した。当機構では、概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、各年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応できている。 ＜課題と対応＞ ―	評定	B	＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 ＜今後の課題＞ － ＜その他事項＞ －

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
V	その他の事項		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和２年度行政事業レビュー番号　0392、0393

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	
Ⅵ　その他業務運営に関する事項	Ⅸ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		＜実績報告書等参照箇所＞ 第４期中期目標期間実績補足資料 P 57～ 60	＜自己評価＞ 評定：Ｂ 当機構では、すべての項目に対し順調に実施した。 ＜課題と対応＞ ―	評定	B
					＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 ＜今後の課題＞ － ＜その他事項＞ －	
１．内部統制 法令等を遵守するとともに，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定整備・運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制を強化する。	１．内部統制 コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜主要な業務実績＞ 機構の業務の適正を確保するため、以下の内部統制に係る体制の整備・運用を実施した。 ○業務の有効性及び効率性を確保するための体制の整備 ・内部統制規程の制定（28 年度施行）、「内部統制の基本方針」の制定（28 年度） ・内部統制委員会の開催 28 年度 2 回、29 年度 2 回 30 年度 3 回、元年度 4 回 ・倫理行動指針の制定（28 年度）及び倫理規程の遵守 ・中期計画及び年度計画の作成等 ・年度計画に基づく業務の適正な管理 ・職務権限等に関する規程等の制定 ・運営委員会の開催 各年度１回 ・役員会の開催 28 年度 7 回、29 年度 8 回 30 年度 7 回、元年度 8 回 ・契約監視委員会の開催 各年度２回 ・最高情報責任者及び最高情報セキュリティ責任者の設置（28 年度） ・監査室の設置（28 年度） ・人的資源の管理、等 ○法令等の遵守体制の整備 ・公益通報者保護規程の制定（28 年度施行） ・コンプライアンスに関する研修（28～元年度） ・違反行為等に対する処分、等 ○損失危機管理の体制の整備 ・リスク管理に関する規程の制定（28 年度施行） ・リスク管理委員会の開催 28 年度 2 回、29 年度 2 回 30 年度 3 回、元年度 4 回 ○情報保存管理の体制の整備 ・情報システム・情報セキュリティに関する規程等の制定 ・情報システム・セキュリティ委員会の開催 28 年度 2 回、29 年度 2 回 30 年度 1 回、元年度 1 回	＜自己評価＞ 法令等を遵守し、事業を実施した。また、以下の通り内部統制環境の整備・運用を継続して取り組んでいる。 ・コンプライアンスの徹底を図るべく、関係諸規程の整備を進めている。 ・機構の業務に関する重要事項については役員会で審議し、年８回開催することにより、業務の適正かつ円滑な執行を図ることができている。また、役員会の決定事項は、法人内グループウェアを運用し、役職員に対するミッションの周知を図っている。 ・機構の管理運営の重要事項に当たっては、毎年度開催している運営委員会等により助言を受け、理事長のトップマネジメントを補助する役割を果たしている。 ・役員会や各種会議を通じて、情報の収集やリスクを把握に努め、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握をしている。 ・監事よる業務及び会計にかかる監査を定期的に実施し、監査結果を各種事業に反映させている。	

				・個人情報保護や文書管理に関する規程の整備 ・運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」での協議を踏まえて理事長が行った。また、29年度より、理事長の勤務地（奈文研）と本部の所在地（東博）が離れていることから、引き続き「相談役」に東京国立博物館長を充てるとともに、新たに京都国立博物館を充て、トップマネジメントとそれを支える体制を整えた。 ・各施設間で調整を図る必要がある課題については、毎年度、「国立文化財機構７施設連絡協議会」で協議を行った。なお、28年度より、これまでの「国立文化財機構７施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」の２つの会議を、会議の省力化等のために一本化した。 ・監事による監査機能・体制の強化への取り組みとして、監事監査要項、監査実施基準、監査計画（毎年度初策定）をもとに、毎年度、定期及び臨時監査を実施し、有効な監査体制を継続した。 ・監事監査、内部監査等を行った。毎年度、運営委員会を１回開催し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。	＜課題と対応＞ ―	

	２．その他 （１）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。	２．その他 （１）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜主要な業務実績＞ ２．（１） 外部有識者が委員となっている外部評価委員会を毎年度３回（部会２回、総会１回）開催し、外部有識者による評価を実施した。また、外部有識者の意見等を踏まえ、「自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。 毎年度、運営委員会を開催し、機構の管理運営の重要事項について、理事長への助言がなされた。	＜自己評価＞ 外部評価委員会及び運営委員会を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価やその結果を組織、事務、事業等の改善に反映させた。	
	（２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ，情報セキュリティ・ポリシーを適時適切に見直すとともに，これに基づき情報セキュリティ対策を講じ，情報システムに対するサイバー攻撃への防御力，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 　また，対策の実施状況を毎年度把握し，ＰＤＣＡサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	（２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。		２．（２） 情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成 26 年度版)」準拠の情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT 連絡会にて情報共有、検討を行った。	中期計画通り、政府機関の統一基準を踏まえた規程・体制にて運用を継続し、必要な改正等を行うとともに、情報セキュリティ対策を適切に実施した。	
		３．施設設備に関する計画		＜主要な業務実績＞ ３． 以下の通り、施設設備に関する	＜自己評価＞ 概ね初期の目標を達成している。	

		施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。		計画い沿った整備を推進した。 （東京国立博物館） ・28年度当初予算より、仮設収蔵庫建設に伴う建設用地の埋蔵文化財発掘調査を実施し29年3月に完了した。また、仮設収蔵庫等整備は、29年11月より建物本体工事を実施し、令和元年10月に竣工した。 ・本館空調機整備他工事は、2年1月に竣工した。 ・本館防水他改修工事は、2年3月に竣工した。 ・柳瀬荘黄林閣（重要文化財）の茅葺屋根の部分葺き替え改修を実施した（29年2月完了）。 （京都国立博物館） ・文化財保存修理所燻蒸設備の更新工事を実施した。（28～29年度） ・東収蔵庫の改修工事を実施した。（28～30年度）。 ・本館耐震改修工事を行うための埋蔵文化財調査にかかる予算を確保し、30年度は建物外周部の調査を行い、2年度は本館北側建物内外の調査を行う予定である。（30年度） （奈良国立博物館） ・なら仏像館の観覧環境及び展示機能充実のため、内装、照明・空調設備及び展示ケース・展示台を更新した。（27度予算を繰り越し、28年4月末に竣工） （奈良文化財研究所） ・新庁舎建設工事の変更契約を28年5月に行い、着工した。新庁舎建設工事が平成30年	今後の施設整備計画と予算確保については、一層の取組が必要である。	

				3月に完成した。 ・30年度、仮庁舎から新庁舎への移転、仮庁舎解体及び現状復旧を実施した。 ・30年度、飛鳥資料館の冷暖房機用煙突について、飛鳥資料館煙突（冷暖房機用）取替工事で新たに煙突を設置し、既存の煙突を封じ込めた。		
		４．人事に関する計画 （１）方針 ①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。 ②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。 ③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。		＜主要な業務実績＞ ４．（１） ・研究職員の人事に関して、28年度、人事選考委員会において、研究職員の人事の在り方（採用、施設間異動、他機関への異動、女性職員の幹部登用）について検討した。 採用については、理事長、理事、施設の長で構成する研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用を必要とする専門性（分野）、採用時期等を審議し、決定することとした。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みとした。 ・事務系職員の人事については、毎年度、各施設へのヒアリングを実施した。 ・29年10月より常勤職員を対象として評価制度の施行を開始した。 ・その他、地方公共団体から研修生を受け入れ、交流の促進を図った。 ・能力や適性に応じた採用・人事を実施するため、28年度には、60歳を超える優秀な人材を採用することができるよ	＜自己評価＞ ・事務系職員の人事について、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究系職員の人事についても、人事選考委員会を通した採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んでいる。 ・中期計画に沿って階層別研修を実施することで、職員のキャリアパスに寄与することができた。2年度以降も引き続き、職員のキャリアパスの形成のため、各種研修や人事交流を企画・立案・実施していく。	

		④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。		う、任期付職員制度の改定を行った。29 年度は、係員相当の職以外も担当できるよう再雇用制度の改定を行った。 ・女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を実施した。28 年度は、育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法の改正に伴い、機構における関係規程を改正した。また、ハラスメント防止を目的とした研修を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。29 年度は、育児と仕事の両立の観点より、有期雇用職員の育児に関する休暇について有給化の改正を行った。30 年度は、全職員向けにＥラーニングによるハラスメント防止研修を実施し、ハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。 能力、適性に応じた採用及び人事配置を行うべく、下記の通り、常勤職員等の計画的な採用を実施した。 ○28 年度採用等 ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 2 名、技能・労務職員 3 名、研究職員 11 名、及び新たに平成 26 年度より機構の専門的分野・事項を取り扱う職として専門職制度を創設し、専		

				門職 1 名の計 17 名を採用した。 ・平成 20 年度に整備した有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の人事制度により、平成 28 年度は東京国立博物館で 7 名、京都国立博物館で 2 名、東京文化財研究所で 9 名、奈良文化財研究所で 8 名及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで 4 名の計 30 名を採用した。 ・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。 ○29 年度採用等 ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 1 名、技能・労務職員 2 名、研究職員 10 名、及び新たに平成 26 年度より、機構の専門的分野・事項を取り扱う職として専門職制度を創設し、専門職 1 名の計 14 名を採用した。 ・アソシエイトフェローを 29 年度は機構全体で計 34 名を採用した。 ・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。 ○30 年度採用等 ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 11 名、技能・労務職員 2 名、研究職員 14 名、専門職 7 名の計 34 名を採用した。 ・アソシエイトフェローを 30		

				年度は機構全体で計 30 名を採用した。 ・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。 ○元年度採用等 ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 13 名、技能・労務職員 1 名、研究職員 11 名、専門職 3 名の計 28 名を採用した。 ・アソシエイトフェローを、元年度は機構全体で計 32 名を採用した。 ・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。 グローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図るべく、下記の通り、多種の研修を実施した。 ○28 年度研修件数及び参加者数 9 件（延べ 895 名） ・新任職員研修会 1 件（45 名） ・会計事務研修会 1 件（27 名） ・施設系職員研修会 1 件(13 名) ・研究倫理教育研修（e-ラーニング等）1 件（300 名） ・ハラスメント防止に関する研修 1 件（80 名） ・情報セキュリティ研修 1 件（45 名） ・接遇研修 1 件（45 名） ・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（260 名） ・産業医による講習会 1 件（80 名）		

				○29 年度研修件数及び参加者数 10 件（延べ 728 名） ・管理職研修 1 件（45 名） ・新任職員研修 1 件（53 名） ・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1 件（160 名） ・会計事務研修 1 件（47 名） ・施設系職員研修 2 件（21 名） ・ハラスメント防止に関する研修 1 件（60 名） ・情報セキュリティ研修 1 件（45 名） ・接遇研修 1 件（17 名） ・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（280 名） ○30 年度研修件数及び参加者数 12 件（延べ 1,571 名） ・中間職研修 1 件（55 名） ・新任職員研修 1 件（44 名） ・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1 件（216 名） ・会計事務研修 1 件（24 名） ・施設系職員研修 2 件（26 名） ・ハラスメント防止に関する研修 1 件（47 名） ・健康管理に関する研修 1 件（47 名） ・情報セキュリティ研修 1 件（43 名） ・接遇研修 1 件（22 名） ・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（371 名） ・ハラスメント講座、情報セキュリティ入門講座 1 件（676 名） ○元年度研修件数及び参加者数 11 件（延べ 1,085 名） ・新任職員研修 1 件（61 名） ・初任層研修 1 件（45 名）		

				・ハラスメント相談員研修　1件（38名） ・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1件（271名） ・会計事務研修1件（21名） ・施設系職員研修1件（12名） ・CS（来館者満足度）向上・クレーム対応研修1件（47名） ・ハラスメント防止に関する研修1件（61名） ・健康管理に関する研修 1 件（61名） ・情報セキュリティ研修 1 件（61名） ・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1件（407名）	＜課題と対応＞ ―
		（２）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 １３，６４４百万円但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。		＜主要な業務実績＞ ４．（２） Ⅱ１．（２）人件費管理等の適正化に関する事項に取り組んだ。	＜自己評価＞ ―
		５．中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が		＜主要な業務実績＞ ５． ―	＜自己評価＞ ―

		中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。				
		６．積立金の使途 前中期目標期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。		＜主要な業務実績＞ ６． ―	＜自己評価＞ ―

４．その他参考情報
特になし

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和元年度－

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

目次

1. 外部評価委員会評価結果

2. 外部評価委員会委員名簿

博物館部会

研究所・センター部会

令和元年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価に対する外部評価委員会評価結果

全体評定　B

中期目標大項目	自己点検評価	中項目	自己点検評価	小項目	自己点検評価	部会評価	総会評価	業務のまとまり
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	A	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	(1)有形文化財の収集・保管、次世代への継承	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 A 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	博物館
				(2)展覧事業	A (部会評価を反映)	A 名児耶 A 浜田 A 小松 B 榊原 B 出川 A	A 河合 A 小笠原 A 坂本 A 名児耶 A 寺崎 A	
				(3)教育・普及活動	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 A 出川 B	B 河合 B 小笠原 A 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
				(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
				(5)国内外の博物館活動への寄与	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
		2．文化財及び海外の文化遺産保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	A	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	A	A 寺崎 A 寺田 A 児島 A 斎藤 A 柳林 A — —	A 河合 B 小笠原 A 坂本 A 名児耶 A 寺崎 A — —	研究所・センター
				(2)科学技術を応用した研究開発の進展に向けた基盤的な研究	A	A 寺崎 A 寺田 A 児島 A 斎藤 A 柳林 A — —	A 河合 B 小笠原 A 坂本 A 名児耶 A 寺崎 A — —	
				(3)文化遺産保護に関する国際協働	A	A 寺崎 A 寺田 A 児島 A 斎藤 A 柳林 A — —	A 河合 B 小笠原 A 坂本 A 名児耶 A 寺崎 A — —	
				(4)文化財に関する情報資料の収集・整備に関する調査研究成果の公開・活用	A	A 寺崎 A 寺田 A 児島 A 斎藤 A 柳林 A — —	A 河合 A 小笠原 A 坂本 A 名児耶 A 寺崎 A — —	
				(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	A	A 寺崎 A 寺田 A 児島 S 斎藤 A 柳林 A — —	A 河合 A 小笠原 A 坂本 A 名児耶 A 寺崎 A — —	
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項	B					— —	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	法人共通
Ⅲ．財務内容の改善に関する事項	B					— —	B 河合 A 小笠原 A 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
Ⅳ．予算、収支計画及び資金計画	B					— —	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
Ⅴ．その他事項	B					— —	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和元年度－

総会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（総会）
まとめ

機構全体評価へのコメント	
河合委員長	評価すべき全項目にわたって所期の目標をほぼ達成している。有形文化財の収集、管理については着実に努力の成果が上がっていることが認められ、展覧会事業においては平常展に安定した観覧者の増加が認められることは特に評価したい。外部資金の導入については引き続き工夫と努力のあることを期待する。調査研究に顕著の成果が認められるが、その成果を日常の展示（特別展を含む）や教育普及活動等の場に反映することが期待される。事務の効率化をすすめることに努めるとともに、増員を含めた常勤研究職員の安定した確保のための人件費の継続的な獲得には特段の努力を願いたい。後継者養成を一つの使命とするナショナルセンターとしてしての当機構博物館・研究所には、それがいわば責務であると考える故である。
小笠原委員	私自身は、下記のとおり、単純にAが8個でBの6個を上回っており、総合的にはAだと思われる。年度末近くにコロナ禍があったにもかかわらず、展覧収入等の自己収入の確保が目標比及び前年比達成している点及び有形文化財に関する教育・普及活動に一定以上の成果があったことを高く評価したい。
坂本委員	特別展を密にすることによって博物館事業の収益性を高めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大によって「新しい生活様式」が求められるなか、展覧会の事業計画や業績評価をどうするのか、根本から考え直す必要がありそうだ。しかし一方で、諸外国と比較して国の文化政策や文化活動への支援はそもそも手厚いとはいえず、今春には入場料金を値上げして来場者の負担増に頼る形に至っている。これから先、ますます経済活動が優先されて文化が後回しになる可能性さえあり、機構としても、after コロナあるいは with コロナ時代の新しい役割を、関連機関と連携して打ち出していただきたい。
名児耶委員 （博物館部会長） ※以降同じ	全体として、年度末のコロナウィルス騒動の影響をあまり感じさせず、昨年同様に運営、活動は一定の成果を維持していたと評価できる。こうした状況を維持することが重要だが、コロナウィルス騒動への対策等、これからは、日常的業務の中でも異常事態への対応のあり方も検討しなければないと思う。地道な活動を維持するための人材や予算の確保についての努力も続けてもらいたい。
寺崎委員 （研究所・センター部会長） ※以降同じ	全体として、所期の目標を十分に達成していると考える。

〔博物館業務〕

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価　B　　委員評価　B

	委員評価	
河合委員長	B	第四期中期目標に基づき当該項目の計画はほぼ達成したものと評価する。各委員からのコメントにも文化財の購入、寄贈、寄託の推進に引き続き務めることが望まれている。ここにいま一つ提言すれば、美術品の美術館・博物館における公開の促進に関する法律に基づく登録美術品制度の周知とその活用に一層の努力をされたいのである。
小笠原委員	B	新規購入や譲受等の収集及びその保管は非常に地道な作業であるかと思われるが、所期の目標を達成していると思われる。
坂本委員	B	文化財の収集活動は、歴代の担当者と所蔵家との長年の信頼関係が各館に受け継がれているからこそ。毎年、成果をあげており、評価したい。
名児耶委員	B	新規購入は、かなり重要な作品があり充実したと思われる。寄贈、寄託品の受入れも順調。以前にもお願いしたが、既存資料を補填して充実した平常陳列の構築を願います。特に目立つ事業ではないが、着実に文化財を維持していくことは、文化財機構の重要な使命である。
寺崎委員	B	四館ともに計画的、かつ着実に運営されていると考える。

（２）展覧事業		
自己点検評価　A（博物館部会委員評価反映）		委員評価　A
河合委員長	委員評価 A	平常展示における各館の工夫と努力の成果が、単に入館者増という一点でなく、観覧者の満足度においても着実に上がっていることを高く評価したい。わたし個人としては、入場者数を意識するとしても、特段特別展に偏ること無く、平常展のさらなる充実が図られることを期待している。さらに、蛇足を恐れず私見を述べることが許されるなら、外国人入館者の期待するところは特別展ではないからである。
小笠原委員	A	年度末のコロナ禍の影響があったにもかかわらず、それまでの「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」等の特別展において多くの来館者があった成果であり、今後は「新常態」対応など大変かと思われるが、さらなる展開を期待したい。
坂本委員	A	とりわけ平常展の来館者が着実に伸びている点は、今後の博物館活動普及のために意義深い。特別展とセットの入館だけに期待するのではなく、平常展独自のテーマ性、とくにターゲットやタイミングに工夫が凝らされていることを、高く評価したい。
名児耶委員	A	平常展での入館者の増加が評価できる。特別展も全体に日本文化の原点や基本のものが充実し、意欲的と評価できる。さらに東京国立博物館の特別展開催数の増加も、評価できるが、昨年も述べたように、特別展の回数はもう少し減らして、一つ一つの展示にじっくりと取り組むことも必要かと思う。
寺崎委員	A	年度末に COVID-19 の影響があったにもかかわらず、平常展・特別展ともに多くの入館者を得た点を高く評価したい。特に平常展が例年以上に増加しているのは、魅力的な特集展示が多かったからではなかろうか。印象に残ったものとして、「京博寄託の名宝」、「版経東漸」（九国博）などがあった。 ただし、今後、外国からの来館者が減少し、さらに平常展の入館料金の値上げが重なると、次年度以降が大いに心配である。
（３）教育・普及活動		
自己点検評価　B		委員評価　B
河合委員長	委員評価 B	当初計画の通りの目標をほぼ達成しているものと評価ずる。美術館・博物館における教育・普及事業は、将来その博物館の命脈をつなぐ鍵となるもいえる。各館はそれを念頭においたであろう、それぞれの創意工夫や努力の跡が認められる。この点に関しては、特に文化財活用センターの今後の動向に注視したい。
小笠原委員	A	今後ますますオンライン等を活用した教育・普及活動が期待されるが、当年度は目標を上回るアウトプットがあったと思われる。
坂本委員	B	会員制度について、会員数が伸び悩んでいるのはなぜなのか。課題はさまざまにあるようだが、新しい時代の博物館のありようと合わせて、検討が必要になるのではないか。
名児耶委員	B	子供向けのギャラリートーク他、各館の取組がかなり成果を挙げきており、A評価に近いと思うが、さらなる若年対応の発展も考えてほしい。
寺崎委員	B	各館の努力により、各種講座やプログラムの実施など、所期の目標を達成していると考える。
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
自己点検評価　B		委員評価　B
河合委員長	委員評価 B	榊原委員の調査研究は博物館活動すべての基礎となるとのコメントに同調する。その上に立って各館は、当初計画に相応の成果をあげているものと評価したい。その成果が研究員の学術的成果や展示、教育普及事業に有効に反映するよう引き続き努められることが望まれる。
小笠原委員	B	所期の目標を達成している。
坂本委員	B	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」が開幕目前にして中止となった。積み重ねてきた金堂壁画関連の調査研究を公開する機会となるはずだっただけに残念だ。しかし、これらの研究成果は今後、一層の研究推進に生かすとともに、文化財保護への機運を社会全体で高めるために活用いただけるよう切望する。
名児耶委員	B	おおむね実績報告書のとおりと判断できる。多くの調査報告書の発行など、活発な活動を評価するが、博物館活動での調査研究が、目先の特別展の忙しさのため制限されないことを期待する。とくに、長期保管している文化財のさらなる研究も進めてほしい。

寺崎委員	B	各館ともに展示業務が多忙な中で、調査研究を着実に継続し、紀要・報告書などに成果を発表している点に敬意を表したい。
（５）国内外の博物館活動への寄与		
自己点検評価　B　　委員評価B		
河合委員長	委員評価 B	文化財の調査研究、学術交流、有形文化財の貸与、文化財関係事業に関する助言などに、各館それぞれがほぼ当初計画の通りの成果をあげている。奈良博の「令和まほろばプラン」の取り組みは具体性があり理解し易く実現の期待がもてる。また、文化財活用センターにあっては、今後、この項の活動についての具体的かつ明確な計画とその成果の報告が望まれよう。
小笠原委員	B	今後はコロナ禍とそれによるオリパラの開催の可否などの影響が懸念される。今年度は所期の目標を達成したといえる。
坂本委員	B	ＩＣＯＭ京都大会の開催は世界の博物館関係者とのネットワークづくりに大きく貢献したと推察する。これを糧として、活動の質と幅を広げることにつなげたい。
名児耶委員	B	おおむね実績報告書のとおり、しっかりと目的を果たしていると思われる。これからも、日本の文化理解のための海外に向けた活動の持続を期待する。日本の文化の理解が世界の人々に日本を理解される早道であるから、極めて重要な活動である。
寺崎委員	B	―
〔研究所・センター業務〕		
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
河合委員長	委員評価 B	各研究所、センターは、当初の計画通りの成果を上げている。奈良文化財研究所においては、記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究について、引き続き目標に向かった努力が期待される。
小笠原委員	A	自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。
坂本委員	A	―
名児耶委員	A	文化財そのもの、文化財関連で現状を把握調査すべき事柄は多い。現在の各研究所でそれら全てを調査研究することは困難と思われるが、報告される活動報告から見る限り、着実に成果を挙げていると判断できる。ますますの発展を望む。
寺崎委員	A	両研究所ともに大きな成果を挙げているものと評価できる。特に、東文研のデジタル・アーカイブの充実、奈文研による藤原宮大極殿院の発掘調査の新発見などが注目され、引き続き研究を推進してもらいたい。
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
河合委員長	委員評価 B	可搬型分析機械を用いた文化財の素地・構造、及び保存状態に関する調査研究等において顕著な成果を上げていることが認められる。引き続き文化財の保存修復および保存技術の進展に向けた当該研究に対する努力が必要である。
小笠原委員	A	自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （最新の科学技術を駆使した要素材料や作業技法の開発行為は非常に興味深いと思われた。）
坂本委員	A	毎年、報告書を拝見して、化学や物理などのさまざまな科学的手法が用いられていることに感心する。年輪年代学を同時代性の研究に役立てたり、動物の遺存体を分析して当時の狩猟対象を明らかにしたりといった、生物学的アプローチも興味深い。こうした手法は一部、講演会などでも紹介しておられるようで、ぜひ普及させていただきたい。

名児耶委員	A	活動報告から判断して成果を挙げていると認められる。文化財のために年代測定など、研究の基本となるデータの集積を着実に進めていることは、評価できる。こうしたことの継続が重要であるので、それを維持してほしい。
寺崎委員	A	両研究所ともに、これまで積極的に科学技術を取り入れ、調査研究に応用し、文化財研究を推進してきたが、今年度も十分な実績をあげたものと評価できる。特に、東文研による仏画・仏像に対する光学的調査、奈文研の遺跡・遺物データの計測・記録手法の改良などが注目される。
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
自己点検評価　A		委員評価　A
河合委員長	委員評価 B	文化財遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信に顕著な成果を上げていることが認められよう。文化財遺産の保存・修理に関する人材の育成等には、国際協働を堅持し、さらなる成果を上げるよう引き続き努力されることが望まれよう。
小笠原委員	A	自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （私も委員の方がご指摘された米中の対立などにより政治的経済的な外交が混迷を深めている現代こそ文化による国際交流は意義があると思われる。）
坂本委員	A	ＩＣＯＭ京都大会の開催や、来年に予定されているオリンピック・パラリンピック東京大会 2020 など、国際的な交流拡大のトレンドに乗じ、国際協働のさらなる前進を望みたい。
名児耶委員	A	ICOM の京都大会への参加や、わが国の修復技術の発信は重要であり、そうした活動の国際協力等、自己評価の通りと思うが、これらに関わる予算が減じられないことを希望する。この活動も、文化財を維持していく上で重要であることは当然だが、やはり継続してほしいし、継続していることで評価されるべきことと思う。
寺崎委員	A	三機関ともに国際協働に取り組み、文化財の調査・修理・保存といった分野で、技術支援・人材育成・情報交換を行っており、そうした成果も着実にあがっているものと判断される。
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
自己点検評価　A		委員評価　A
河合委員長	委員評価 A	文化財に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張に、当初目的以上の顕著な成果を上げていることが評価される。今後とも専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充を期待したい。
小笠原委員	A	自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （今後はオンライン会議等による密な連携がより重要と思われる。）
坂本委員	A	イベント開催や刊行物の発行に加えて、ウェブサイトやブログの充実、ＳＮＳによる情報発信にも取り組んでおられ、スピード感ある公開・活用を目指している点を評価する。
名児耶委員	A	研究の成果の公開と活用は研究所の重要な使命の一つであり、講演会やシンポジウム、印刷物、さらにウェブサイトを通して公開していることが評価できる。これも地道な活動であるが、時には博物館と共同で、若い人も含めた一般への周知活動も考えて良いかと思う。
寺崎委員	A	報告書の刊行、データベースの作成・更新、講演会開催など、限られた人員と予算の中で、十分な成果の公開を行っていると判断される。今後も継続して充実をはかってもらいたい。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
自己点検評価　A		委員評価　A
河合委員長	委員評価 A	各研究所・センターとも、もてる専門知識を提供することで地方公共団体等に対して、文化財保護と活用に関するナショナルセンターとしての役割を十分に果たしているものと評価できる。自然災害の増加のなかで、被災地、被災機関等に対する救援活動も重要な役割を果たしたことも評価の対象となる。
小笠原委員	A	自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （地震、風水害等の天災対応の活動は精力的だったと考える。）

坂本委員	A	近年、台風などによる豪雨災害が多発している。今後とも地方公共団体と連携して、文化財の保全や復旧に支援をお願いしたい。
名児耶委員	A	広範囲な研究成果をもとに全国の関係団体への助言については、研究所ならでの基本的活動で、報告通り実施され自己点検評価は妥当である。 今後も活動の継続、広がりを期待する。
寺崎委員	A	地方公共団体等に対する研修・助言・調査協力は、順調に進められていると判断される。台風 19 号被害など、大きな災害がおこった時の緊急対応などの点も大いに評価すべきであろう。
〔法人共通業務〕		
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B		委員評価　B
河合委員長	委員評価 B	限られた予算と人材のなかで業務運営の効率化をさらにすすめるには、相当な工夫と努力が必要である。機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化はその一方策として図られて良いと思う。
小笠原委員	B	情報セキュリティの確保・維持、人件費管理や一般管理費の適正化を含む予算執行の効率化、共同調達等の取り組み、メールシステムの統合やクラウド化等の業務の電子化は所期の目標が達成されたほか、契約・調達方法の適正化については、競争性ある契約のシフトで、経費の効率化を達成したことで目標を超えて達成したと思われる。
坂本委員	B	オリパラ東京大会 2020 が延期されたことに伴い、大会そのものも部分的な縮減や見直しが必要になりそうだ。その影響で、機構法人としても対応を迫られる局面があるだろう。適宜適切な対応を望みたい。
名児耶委員	B	予算執行の効率化対策、自己収入拡大へ取組等、目標達成は自己評価通り。 ICOM の京都大会は、概ね成功、オリンピック・パラリンピックの延期により来年度に繋がる活動の基盤の構築を期待したい。
寺崎委員	B	計画どおり実施されたものと判断される。
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B		委員評価　B
河合委員長	委員評価 A	外部資金の獲得、入場料の増収など自己収入拡大への取り組みは必要であり、相当の成果を上げているものと評価する。保有資産の有効利用の促進も図られるべき今後の課題であろう。
小笠原委員	A	下期末のコロナ禍のなかでも、自己収入が、目標を大きく超えたこと及び前年度を６％以上も上回っていることは特筆すべきことだと思われる。外部資金の確保も前年度を下回るものの、目標を大きく超過している。各種主要業務の取り組みが功を奏した結果が数値に明確に出ているもので高く評価した。
坂本委員	B	計画通りに実行に努め、目標を上回っていることを確認した。新型コロナウイルス感染拡大の今後の財務状況に与える影響について注視していきたい。
名児耶委員	B	予算確保は難しいが、博物館や研究所が国民にとってもっと身近な存在であることを周知させる広報活動などにより、寄付を得やすい状況ができればよいと思う。経営努力目標は評価できるが、数字上 A となることよりも様々な活動を裏付ける予算と人員は確保続けることを期待する。現状維持ができることが一番大切であろう
寺崎委員	B	―
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
自己点検評価　B		委員評価　B
河合委員長	委員評価 B	ナショナルセンターに相応しい優秀な人材の継続的な確保には、それに見合う人件費の確得が不可欠である。その実現には、周到かつ継続的な収支計画と資金計画が必要であり、そのための努力と施策が機構本部には必要となろう。
小笠原委員	B	計画通りの達成と考える。
坂本委員	B	―
名児耶委員	B	経営努力は評価できるが、現状維持ができ、少しずつ拡大することが一番大切であろう。
寺崎委員	B	―

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
河合委員長	委員評価 B	Ⅳにも記したように、中長期的な人事計画の策定、能力や適性に応じた採用と適材適所を旨とした人事の実施が必要である。ことに専門性の高い研究職員には、仕事の継続性に対する配慮が必要である。
小笠原委員	B	内部統制面においてや施設整備及び情報セキュリティにおいても堅実に業務遂行がなされていると思われる。人事も採用及び運用（ダイバーシティやリテンションのための研修等）の両面において所定の目標を達成していると思われる。
坂本委員	B	デジタル人材の育成や交流は大きな課題。関連機関との連携等もふくめて検討してほしい。
名児耶委員	B	リスク管理、情報セキュリティーシステムの管理等の対策を評価。もっと開かれた施設として認知される努力も望みたい。
寺崎委員	B	―
その他（総合的な事項、自己点検評価について等）		
河合委員長	毎年コメントすることではあるが、限られた資金と人材によるなかで，職員の持てる力と努力によって、第４期中期目標・計画をほぼ満たすに足る相当の成果を上げていることを改めて評価したい。ただ、博物館部会と研究所センター部会での評価・評定基準に些かのズレがあるのが個人的には気になることころである。また、研究所部会の寺崎部会長が指摘するように、「総会・部会の開催方式が変わり、特に研究所・センター部会委員（博物館部会も同様）が総会に参加できなくなったことに異論が多く出された」と言う点に関しての「開催方法」についての検討は、いま一度なされる必要もあろうかと思われるので、本部におかれては議論されたい。いずれにせよ、万一再検討がなされたなら、その結果は各委員に周知する必要があろう。	
小笠原委員	特にありませんが、以前から指摘のとおり、自己点検評価作業のより簡素化をできる範囲で行い、業務負担を軽減化していただいたほうがよろしいかと考える。	
坂本委員	この数カ月間、オンライン展示が世界中に普及し、東博のインスタグラムにも充実したコンテンツが発信されていたことを評価する。とはいえ、リアルの展示の価値が軽減することはなく、むしろリアルだからこその価値が再評価される気配もある。いかに高価値を提供できるかという点に、機構の可能性もかかっている。ぜひ大きな目で将来の展開を構想していただきたい。 平常展の料金を４月から引き上げた。新型コロナウイルス感染拡大と時期が重なり、いまだに周知も不十分かとは思うが、値上げによる影響はしっかりとフォローをお願いしたい。そのうえでクラウドファンディングやふるさと納税などに代表される新しいミュージアムファンディングの仕組みを模索していただきたい。	
名児耶委員	博物館、研究所の活動を、もっと一般に認知されるためのわかりやすい展示、普及活動と専門家、研究者や多くの博物館施設を牽引する活動を期待する。 また前回にも述べたが、現在の状況は、活動の幅が広く、職員がギリギリの状態で対応しているように感じられる。もっと人員、予算に余裕があるよう状況で、運営されることで、より一般人に共感をよぶ活動が生まれるのではないかと考える。	
寺崎委員	各機関ともに広範囲で高度な内容の調査・研究・普及活動を展開し、その成果は極めて高く評価すべきであるが、それらの多くは個々の職員の非常な努力によって支えられているように思われる。予算・人員の慢性的不足は限界に近づいているのではなかろうか。個人的には、運営交付金の増加が望めないのであれば、業務の見直し・縮小も検討してゆく必要があるのではないか、と考える。 最後に、研究所・センター部会委員より、①外部評価委員会の総会および部会の開催方式について引き続き検討してもらいたいこと、②ＩＲＣＩの人員・予算の充実を求める意見、がともに複数出されたことを付言する。	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（総会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
河合　正朝	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
評価すべき全項目にわたって所期の目標をほぼ達成している。有形文化財の収集、管理については着実に努力の成果が上がっていることが認められ、展覧会事業においては平常展に安定した観覧者の増加が認められることは特に評価したい。外部資金の導入については引き続き工夫と努力のあることを期待する。調査研究に顕著の成果が認められるが、その成果を日常の展示（特別展を含む）や教育普及活動等の場に反映することが期待される。事務の効率化をすすめることに努めるとともに、増員を含めた常勤研究職員の安定した確保のための人件費の継続定な獲得には特段の努力を願いたい。後継者養成を一つの使命とするナショナルセンターとしてしての当機構博物館・研究所には、それがいわば責務であると考える故である。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕　自己点検評価　B　　部会評価　B

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B	B	【委員コメント】 第四期中期目標に基づき当該項目の計画はほぼ達成したものと評価する。各委員からのコメントにも文化財の購入、寄贈、寄託の推進に引き続き務めることが望まれている。ここにいま一つ提言すれば、美術品の美術館・博物館における公開の促進に関する法律に基づく登録美術品制度の周知とその活用に一層の努力をされたいのである。

（2）展覧事業

	委員評価	
A （部会評価を反映）	A	【委員コメント】 平常展示における各館の工夫と努力の成果が、単に入館者増という一点でなく、観覧者の満足度においても着実に上がっていることを高く評価したい。わたし個人としては、入場者数を意識するとしても、特段特別展に偏ること無く、平常展のさらなる充実が図られることを期待している。さらに、蛇足を恐れず私見を述べることが許されるなら、外国人入館者の期待するところは特別展ではないからである。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B	B	【委員コメント】 当初計画の通りの目標をほぼ達成しているものと評価ずる。美術館・博物館における教育・普及事業は、将来その博物館の命脈をつなぐ鍵となるもいえる。各館はそれを念頭においたであろう、それぞれの創意工夫や努力の跡が認められる。この点に関しては、特に文化財活用センターの今後の動向に注視したい。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B	B	【委員コメント】 榊原委員の調査研究は博物館活動すべての基礎となるとのコメントに同調する。その上に立って各館は、当初計画に相応の成果をあげているものと評価したい。その成果が研究員の学術的成果や展示、教育普及事業に有効に反映するよう引き続き努められることが望まれる。

（５）国内外の博物館活動への寄与		
B	委員評価 B	【委員コメント】 文化財の調査研究、学術交流、有形文化財の貸与、文化財関係事業に関する助言などに、各館それぞれがほぼ当初計画の通りの成果をあげている。奈良博の「令和まほろばプラン」の取り組みは具体性があり理解し易く実現の期待がもてる。また、文化財活用センターにあっては、今後、この項の活動についての具体的かつ明確な計画とその成果の報告が望まれよう。
〔研究所・センター業務〕　自己点検評価　A　　部会評価　A		
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
A	委員評価 B	【委員コメント】 各研究所、センターは、当初の計画通りの成果を上げている。奈良文研においては、記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究について、引き続き目標に向かった努力が期待される。
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
A	委員評価 B	【委員コメント】 可搬型分析機械を用いた文化財の素地・構造、及び保存状態に関する調査研究等において顕著な成果を上げていることが認められる。引き続き文化財の保存修復および保存技術の進展に向けた当該研究に対する努力が必要である。
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
A	委員評価 B	【委員コメント】 文化財遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信に顕著な成果を上げていることが認められよう。文化財遺産の保存・修理に関する人材の育成等には、国際協働を堅持し、さらなる成果を上げるよう引き続き努力されることが望まれよう。
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
A	委員評価 A	【委員コメント】 文化財に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張に、当初目的以上の顕著な成果を上げていることが評価される。今後とも専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充を期待したい。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
A	委員評価 A	【委員コメント】 各研究所・センターとも、もてる専門知識を提供することで地方公共団体等に対して、文化財保護と活用に関するナショナルセンターとしての役割を十分に果たしているものと評価できる。自然災害の増加のなかで、被災地、被災機関等に対する救援活動も重要な役割を果たしたことも評価の対象ととなる。
〔法人共通業務〕		
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価 B	【委員コメント】 限られた予算と人材のなかで業務運営の効率化をさらにすすめるには、相当な工夫と努力が必要である。機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化はその一方策として図られて良いと思う。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価 A	【委員コメント】 外部資金の獲得、入場料の増収など自己収入拡大への取り組みは必要であり、相当の成果を上げているものと評価する。保有資産の有効利用の促進も図られるべき今後の課題であろう。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
B	委員評価 B	【委員コメント】 ナショナルセンターに相応しい優秀な人材の継続的な確保には、それに見合う人件費の確得が不可欠である。その実現には、周到かつ継続的な収支計画と資金計画が必要であり、そのための努力と施策が機構本部には必要となろう。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価 B	【委員コメント】 Ⅳにも記したように、中長期的な人事計画の策定、能力や適性に応じた採用と適材適所を旨とした人事の実施が必要である。ことに専門性の高い研究職員には、仕事の継続性に対する配慮が必要である。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】

毎年コメントすることではあるが、限られた資金と人材によるなかで，職員の持てる力と努力によって、第４期中期目標・計画をほぼ満たすに足る相当の成果を上げていることを改めて評価したい。ただ、博物館部会と研究所センター部会での評価・評定基準に些かのズレがあるのが個人的には気になることころである。また、研究所部会の寺崎部会長が指摘するように、「総会・部会の開催方式が変わり、特に研究所・センター部会委員（博物館部会も同様）が総会に参加できなくなったことに異論が多く出された」と言う点に関しての「開催方法」についての検討は、いま一度なされる必要もあろうかと思われるので、本部におかれては議論されたい。いずれにせよ、万一再検討がなされたなら、その結果は各委員に周知する必要があろう。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（総会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
小笠原　直	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
私自身は、下記のとおり、単純にＡが８個でＢの６個を上回っており、総合的にはＡだと思われる。年度末近くにコロナ禍があったにもかかわらず、展覧収入等の自己収入の確保が目標比及び前年比達成している点及び有形文化財に関する教育・普及活動に一定以上の成果があったことを高く評価したい。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕　自己点検評価　B　　部会評価　B

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B	B	【委員コメント】 新規購入や譲受等の収集及びその保管は非常に地道な作業であるかと思われるが、所期の目標を達成していると思われる。

（２）展覧事業

自己点検評価	委員評価	
A （部会評価を反映）	A	【委員コメント】 年度末のコロナ禍の影響があったにもかかわらず、それまでの「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」等の特別展において多くの来館者があった成果であり、今後は「新常態」対応など大変かと思われるが、さらなる展開を期待したい。

（３）教育・普及活動

自己点検評価	委員評価	
B	A	【委員コメント】 今後ますますオンライン等を活用した教育・普及活動が期待されるが、当年度は目標を上回るアウトプットがあったと思われる。

（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

自己点検評価	委員評価	
B	B	【委員コメント】 所期の目標を達成している。

（５）国内外の博物館活動への寄与		
B	委員評価 B	【委員コメント】 今後はコロナ禍とそれによるオリパラの開催の可否などの影響が懸念される。今年度は所期の目標を達成したといえる。

〔研究所・センター業務〕　自己点検評価　A　　部会評価　A

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
A	委員評価 A	【委員コメント】 自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
A	委員評価 A	【委員コメント】 自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （最新の科学技術を駆使した要素材料や作業技法の開発行為は非常に興味深いと思われた。）
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
A	委員評価 A	【委員コメント】 自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （私も委員の方がご指摘された米中の対立などにより政治的経済的な外交が混迷を深めている現代こそ文化による国際交流は意義があると思われる。）
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
A	委員評価 A	【委員コメント】 自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （今後はオンライン会議等による密な連携がより重要と思われる。）
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
A	委員評価 A	【委員コメント】 自己点検評価及び部会の各委員の全員の評価どおりとする。 （地震、風水害等の天災対応の活動は精力的だったと考える。）

〔法人共通業務〕

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

	委員評価	【委員コメント】
B	B	情報セキュリティの確保・維持、人件費管理や一般管理費の適正化を含む予算執行の効率化、共同調達等の取り組み、メールシステムの統合やクラウド化等の業務の電子化は所期の目標が達成されたほか、契約・調達方法の適正化については、競争性ある契約のシフトで、経費の効率化を達成したことで目標を超えて達成したと思われる。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

	委員評価	【委員コメント】
B	A	下期末のコロナ禍のなかでも、自己収入が、目標を大きく超えたこと及び前年度を６％以上も上回っていることは特筆すべきことだと思われる。外部資金の確保も前年度を下回るものの、目標を大きく超過している。各種主要業務の取り組みが功を奏した結果が数値に明確に出ているもので高く評価した。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

	委員評価	【委員コメント】
B	B	計画通りの達成と考える。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

	委員評価	【委員コメント】
B	B	内部統制面においてや施設整備及び情報セキュリティにおいても堅実に業務遂行がなされていると思われる。人事も採用及び運用（ダイバーシティやリテンションのための研修等）の両面において所定の目標を達成していると思われる。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】
特にありませんが、以前から指摘のとおり、自己点検評価作業のより簡素化をできる範囲で行い、業務負担を軽減化していただいたほうがよろしいかと考える。

（参考）
【年度計画に対する総合評価】
評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（総会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
坂本　弘子	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	**元年度**	2 年度
	B	B	B	**B**	—

【委員コメント】
特別展を密にすることによって博物館事業の収益性を高めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大によって「新しい生活様式」が求められるなか、展覧会の事業計画や業績評価をどうするのか、根本から考え直す必要がありそうだ。しかし一方で、諸外国と比較して国の文化政策や文化活動への支援はそもそも手厚いとはいえず、今春には入場料金を値上げして来場者の負担増に頼る形に至っている。これから先、ますます経済活動が優先されて文化が後回しになる可能性さえあり、機構としても、after コロナあるいは with コロナ時代の新しい役割を、関連機関と連携して打ち出していただきたい。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕　自己点検評価　B　　部会評価　B

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B		【委員コメント】 文化財の収集活動は、歴代の担当者と所蔵家との長年の信頼関係が各館に受け継がれているからこそ。毎年、成果をあげており、評価したい。

（2）展覧事業

	委員評価	
A （部会評価を反映）		【委員コメント】 とりわけ平常展の来館者が着実に伸びている点は、今後の博物館活動普及のために意義深い。特別展とセットの入館だけに期待するのではなく、平常展独自のテーマ性、とくにターゲットやタイミングに工夫が凝らされていることを、高く評価したい。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B		【委員コメント】 会員制度について、会員数が伸び悩んでいるのはなぜなのか。課題はさまざまにあるようだが、新しい時代の博物館のありようと合わせて、検討が必要になるのではないか。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B		【委員コメント】 特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」が開幕目前にして中止となった。積み重ねてきた金堂壁画関連の調査研究を公開する機会となるはずだっただけに残念だ。しかし、これらの研究成果は今後、一層の研究推進に生かすとともに、文化財保護への機運を社会全体で高めるために活用いただけるよう切望する。

（５）国内外の博物館活動への寄与		
B	委員評価	【委員コメント】 ＩＣＯＭ京都大会の開催は世界の博物館関係者とのネットワークづくりに大きく貢献したと推察する。これを糧として、活動の質と幅を広げることにつなげたい。

〔研究所・センター業務〕　自己点検評価　A　　部会評価　A

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
A	委員評価	【委員コメント】
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
A	委員評価	【委員コメント】 毎年、報告書を拝見して、化学や物理などのさまざまな科学的手法が用いられていることに感心する。年輪年代学を同時代性の研究に役立てたり、動物の遺存体を分析して当時の狩猟対象を明らかにしたりといった、生物学的アプローチも興味深い。こうした手法は一部、講演会などでも紹介しておられるようで、ぜひ普及させていただきたい。
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
A	委員評価	【委員コメント】 ＩＣＯＭ京都大会の開催や、来年に予定されているオリンピック・パラリンピック東京大会 2020 など、国際的な交流拡大のトレンドに乗じ、国際協働のさらなる前進を望みたい。
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
A	委員評価	【委員コメント】 イベント開催や刊行物の発行に加えて、ウェブサイトやブログの充実、ＳＮＳによる情報発信にも取り組んでおられ、スピード感ある公開・活用を目指している点を評価する。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
A	委員評価	【委員コメント】 近年、台風などによる豪雨災害が多発している。今後とも地方公共団体と連携して、文化財の保全や復旧に支援をお願いしたい。

〔法人共通業務〕

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】 オリパラ東京大会 2020 が延期されたことに伴い、大会そのものも部分的な縮減や見直しが必要になりそうだ。その影響で、機構法人としても対応を迫られる局面があるだろう。適宜適切な対応を望みたい。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】 計画通りに実行に努め、目標を上回っていることを確認した。新型コロナウイルス感染拡大の今後の財務状況に与える影響について注視していきたい。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
B	委員評価	【委員コメント】

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】 デジタル人材の育成や交流は大きな課題。関連機関との連携等もふくめて検討してほしい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】

★この数カ月間、オンライン展示が世界中に普及し、東博のインスタグラムにも充実したコンテンツが発信されていたことを評価する。とはいえ、リアルの展示の価値が軽減することはなく、むしろリアルだからこその価値が再評価される気配もある。いかに高価値を提供できるかという点に、機構の可能性もかかっている。ぜひ大きな目で将来の展開を構想していただきたい。

★平常展の料金を４月から引き上げた。新型コロナウイルス感染拡大と時期が重なり、いまだに周知も不十分かとは思うが、値上げによる影響はしっかりとフォローをお願いしたい。そのうえでクラウドファンディングやふるさと納税などに代表される新しいミュージアムファンディングの仕組みを模索していただきたい。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（総会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
名児耶　明	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
全体として、年度末のコロナウィルス騒動の影響をあまり感じさせず、昨年同様に運営、活動は一定の成果を維持していたと評価できる。こうした状況を維持することが重要だが、コロナウィルス騒動への対策等、これからは、日常的業務の中でも異常事態への対応のあり方も検討しなければないと思う。地道な活動を維持するための人材や予算の確保についての努力も続けてもらいたい。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕　自己点検評価　B　　部会評価　B

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B		【委員コメント】 新規購入は、かなり重要な作品があり充実したと思われる。寄贈、寄託品の受入れも順調。以前にもお願いしたが、既存資料を補填して充実した平常陳列の構築を願います。特に目立つ事業ではないが、着実に文化財を維持していくことは、文化財機構の重要な使命である。

（2）展覧事業

	委員評価	
A （部会評価を反映）		【委員コメント】 平常点での入館者の増加が評価できる。特別展も全体に日本文化の原点や基本のものが充実し、意欲的と評価できる。さらに東京国立博物館の特別展開催数の増加も、評価できるが、昨年も述べたように、特別展の回数はもう少し減らして、一つ一つの展示にじっくりと取り組むことも必要かと思う。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B		【委員コメント】 子供向けのギャラリートーク他、各館の取組がかなり成果を挙げきており、A 評価に近いと思うが、さらなる若年対応の発展も考えてほしい。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B		【委員コメント】 おおむね実績報告書のとおりと判断できる。多くの調査報告書の発行など、活発な活動を評価するが、博物館活動での調査研究が、目先の特別展の忙しさのため制限されないことを期待する。とくに、長期保管している文化財のさらなる研究も進めてほしい。

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	
B		【委員コメント】 おおむね実績報告書のとおり、しっかりと目的を果たしていると思われる。これからも、日本の文化理解のための海外に向けた活動の持続を期待する。日本の文化の理解が世界の人々に日本を理解される早道であるから、極めて重要な活動である。

〔研究所・センター業務〕　自己点検評価　A　　部会評価　A		
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
A	委員評価	【委員コメント】 文化財そのもの、文化財関連で現状を把握調査すべき事柄は多い。現在の各研究所でそれら全てを調査研究することは困難と思われるが、報告される活動報告から見る限り、着実に成果を挙げていると判断できる。ますますの発展を望む。
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
A	委員評価	【委員コメント】 活動報告から判断して成果を挙げていると認められる。文化財のために年代測定など、研究の基本となるデータの集積を着実に進めていることは、評価できる。こうしたことの継続が重要であるので、それを維持してほしい。
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
A	委員評価	【委員コメント】 ICOM の京都大会への参加や、わが国の修復技術の発信は重要であり、そうした活動の国際協力等、自己評価の通りと思うが、これらに関わる予算が減じられないことを希望する。この活動も、文化財を維持していく上で重要であることは当然だが、やはり継続してほしいし、継続していることで評価されるべきことと思う。
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
A	委員評価	【委員コメント】 研究の成果の公開と活用は研究所の重要な使命の一つであり、講演会やシンポジウム、印刷物、さらにウェブサイトを通して公開していることが評価できる。これも地道な活動であるが、時には博物館と共同で、若い人も含めた一般への周知活動も考えて良いかと思う。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
A	委員評価	【委員コメント】 広範囲な研究成果をもとに全国の関係団体への助言については、研究所ならでの基本的活動で、報告通り実施され自己点検評価は妥当である。 今後も活動の継続、広がりを期待する。
〔法人共通業務〕		
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】 予算執行の効率化対策、自己収入拡大へ取組等、目標達成は自己評価通り。 ICOM の京都大会は、概ね成功、オリンピック・パラリンピックの延期により来年度に繋がる活動の基盤の構築を期待したい。
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】 予算確保は難しいが、博物館や研究所が国民にとってもっと身近な存在であることを周知させる広報活動などにより、寄付を得やすい状況ができればよいと思う。経営努力目標は評価できるが、数字上 A となることよりも様々な活動を裏付ける予算と人員は確保続けることを期待する。現状維持ができることが一番大切であろう

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
B	委員評価	【委員コメント】 経営努力は評価できるが、現状維持ができ、少しずつ拡大することが一番大切であろう。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】 リスク管理、情報セキュリティーシステムの管理等の対策を評価。もっと開かれた施設として認知される努力も望みたい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】

博物館、研究所の活動を、もっと一般に認知されるためのわかりやすい展示、普及活動と専門家、研究者や多くの博物館施設を牽引する活動を期待する。

また前回にも述べたが、現在の状況は、活動の幅が広く、職員がギリギリの状態で対応しているように感じられる。もっと人員、予算に余裕があるよう状況で、運営されることで、より一般人に共感をよぶ活動が生まれるのではないかと考える。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（総会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
寺崎　保広	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】　全体として、所期の目標を十分に達成していると考える。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕　自己点検評価　B　　部会評価　B

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B		【委員コメント】　四館ともに計画的、かつ着実に運営されていると考える。

（2）展覧事業

自己点検評価	委員評価	
A （部会評価を反映）		【委員コメント】　年度末に COVID-19 の影響があったにもかかわらず、平常展・特別展ともに多くの入館者を得た点を高く評価したい。特に平常展が例年以上に増加しているのは、魅力的な特集展示が多かったからではなかろうか。印象に残ったものとして、「京博寄託の名宝」、「版経東漸」（九国博）などがあった。 ただし、今後、外国からの来館者が減少し、さらに平常展の入館料金の値上げが重なると、次年度以降が大いに心配である。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B		【委員コメント】　各館の努力により、各種講座やプログラムの実施など、所期の目標を達成していると考える。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B		【委員コメント】　各館ともに展示業務が多忙な中で、調査研究を着実に継続し、紀要・報告書などに成果を発表している点に敬意を表したい。

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	
B		【委員コメント】

〔研究所・センター業務〕　自己点検評価　A　　部会評価　A		
2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
A	委員評価	【委員コメント】　両研究所ともに大きな成果を挙げているものと評価できる。特に、東文研のデジタル・アーカイブの充実、奈文研による藤原宮大極殿院の発掘調査の新発見などが注目され、引き続き研究を推進してもらいたい。
（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
A	委員評価	【委員コメント】　両研究所ともに、これまで積極的に科学技術を取り入れ、調査研究に応用し、文化財研究を推進してきたが、今年度も十分な実績をあげたものと評価できる。特に、東文研による仏画・仏像に対する光学的調査、奈文研の遺跡・遺物データの計測・記録手法の改良などが注目される。
（3）文化遺産保護に関する国際協働		
A	委員評価	【委員コメント】　三機関ともに国際協働に取り組み、文化財の調査・修理・保存といった分野で、技術支援・人材育成・情報交換を行っており、そうした成果も着実にあがっているものと判断される。
（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
A	委員評価	【委員コメント】　報告書の刊行、データベースの作成・更新、講演会開催など、限られた人員と予算の中で、十分な成果の公開を行っていると判断される。今後も継続して充実をはかってもらいたい。
（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
A	委員評価	【委員コメント】　地方公共団体等に対する研修・助言・調査協力は、順調に進められていると判断される。台風 19 号被害など、大きな災害がおこった時の緊急対応などの点も大いに評価すべきであろう。
〔法人共通業務〕		
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】　計画どおり実施されたものと判断される。
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
B	委員評価	【委員コメント】

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
B	委員評価	【委員コメント】

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】

各機関ともに広範囲で高度な内容の調査・研究・普及活動を展開し、その成果は極めて高く評価すべきであるが、それらの多くは個々の職員の非常な努力によって支えられているように思われる。予算・人員の慢性的不足は限界に近づいているのではなかろうか。個人的には、運営交付金の増加が望めないのであれば、業務の見直し・縮小も検討してゆく必要があるのではないか、と考える。

最後に、研究所・センター部会委員より、①外部評価委員会の総会および部会の開催方式について引き続き検討してもらいたいこと、②ＩＲＣＩの人員・予算の充実を求める意見、がともに複数出されたことを付言する。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和元年度－

博物館部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（博物館部会）

まとめ

自己点検評価　B　　委員評価　B

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
名児耶 部会長	委員 評価 B	報告の通りと判断できる。新規購入や寄贈、寄託品の受入れも順調と判断できる。特に目立つ事業ではないが、着実にわが国の文化財を維持していくことは、文化財機構の最重要な使命である。
浜田 副部会長	B	国立博物館は、地方の文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国の宝を守るため、従来にも増して、購入を含む積極的な資料収集を進める必要に迫られていると考える。今後も、相応の資料収集のための予算確保とともに、収蔵スペースと収蔵環境の確保にも務めていただきたい。
小松委員	B	
榊原委員	A	各館限られた予算の中でよく収集の実を上げたと評価したい。その収集の方法として改めて寄託の充実を図りたい。購入となると所蔵者の事情もあった実現が難しいこともあるだろうが、寄託ならばそのハードルも低いからである。今回東京国立博物館が購入した浜松図屏風も、京都国立博物館の百犬図も、長らくそれぞれの館に寄託されていた作品だと記憶する。二点を寄託してもらうことに成功した先人たちへの敬意と感謝も込めてＡと評価する。
出川委員	B	国立文化財機構として、博物館の根幹である館蔵品の充実に努められていると思います。資料のデジタル化されたものについては、今後、誰でも高精細画像でアクセスできるように期待しています。
（２）展覧事業		
自己点検評価　B　　委員評価　A		
名児耶 部会長	委員 評価 A	平常展での入館者が、前年よりも増えている点が評価できる。特別展も全体に日本文化の原点や基本のものが充実し、意欲的と評価できる。さらに東京国立博物館の特別展開催数の増加も、評価できるが、昨年も述べたように、特別展の回数はもう少し減らして、一つ一つの展示にじっくりと取り組むことも必要かと思う。
浜田 副部会長	A	年度末は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により各館とも臨時休館となり、展示にも大きな影響を与えたが、多くの特別展において、目標値を大きく超える入館者を迎えたことは評価したい。その一方で、大半が達成率 200%を超えるという点が気になった。予測は難しいと思うが、目標値の設定方法を再検討する必要があるのかもしれない。
小松委員	B	
榊原委員	B	各館特別展の企画に力を注ぎ充実した内容となったが、やや時流に流された感があるのも否めない。そうした中、「毘沙門天－北方鎮護のカミ」展と「室町将軍―戦乱と美の室町十五代―」展の優れた内容は大いに評価したい。 今後の研究に資するところ大であろう。またすべての館で平常陳列を重視しテーマ性、企画性を持たせている点、さらなる展開を期待する。
出川委員	A	「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」「美を紡ぐ」「三国志」「正倉院の世界」「佐竹本三十六歌仙絵」「毘沙門天―北方鎮護のカミ」「室町将軍―戦乱と美の室町十五代」など話題性もあり一般にも分かり易い展示で、かつ質の高い内容の展覧会が開催されたことは大いに評価されます。
（３）教育・普及活動		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
名児耶 部会長	委員 評価 B	かなり成果を挙げきており、A 評価に近いと思うが、さらなる発展も考えてほしい。
浜田 副部会長	B	資料の保存と公開は相反するものであるが、民間企業と連携した、文化財の活用に向けての、レプリカや VR 等の映像コンテンツの開発は、資料保存の上でも重要であると考える。また、収蔵品データベースの外国語版の制作については、日本の文化財資源を世界に発信する意味で推進を期待したい。

小松委員	B	
榊原委員	A	講演会の開催だけでなく、学校教育との連携や館外活動の充実体験型教育プログラムの導入などさまざまな工夫で教育普及活動を展開している点、大いに評価する。その努力が明日の来館者となるだろう。
出川委員	B	様々な形で学習の機会が工夫されていると思います。
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
自己点検評価　B　委員評価　B		
名児耶 部会長	委員 評価 B	おおむね実績報告書のとおりと判断します。多くの調査報告書の発行など、活発な活動を評価しますが、博物館活動での調査研究が、目先の特別展の忙しさのため制限されないことを期待します。とくに、長期保管している文化財のさらなる研究も進めてほしい。
浜田 副部会長	B	博物館の保存環境等に関する研究は、地方の小規模博物館では取り組みが難しいテーマであることから、国立博物館の果たす役割は大きいと考える。展示ケースや展示支持具の開発、文化財の安全輸送システムやＩＰＭシステム等の研究成果が、全国の博物館活動に反映されることを期待したい。
小松委員	B	
榊原委員	B	調査研究は博物館活動すべての基礎となる。多忙な業務の中、よくこれを果たしていることに敬意を表したい。さらなる調査研究の充実を図りたい。
出川委員	B	展覧会活動にも反映される意欲的な調査研究がなされていたと思います。
（５）国内外の博物館活動への寄与		
自己点検評価　B　委員評価　B		
名児耶 部会長	委員 評価 B	おおむね実績報告書のとおり、しっかりと目的を果たしていると思われる。これからも、日本の文化理解のための海外に向けた活動の持続を期待します。日本の文化の理解が世界の人々に日本を理解される早道であるから。
浜田 副部会長	B	全国の文化財担当者や、博物館学芸員に対する技術研修の更なる促進に期待したい。昨年も触れたが、国としての学芸員に対する研修の体系化を図ることが課題と思われる。
小松委員	B	
榊原委員	B	昨年も要望したが、地方への出前展の充実を願う。地方の人間が、美術史上の優品に接する機会はあるようで実は余りない。地方の人間がそんな機会を願うことにも一理あると思うのだが。
出川委員	B	地震などに対する防災設備の調査研究の実績が上がっている点が評価されます。
その他（総合的な事項、自己点検評価について等）		
名児耶 部会長	概ね自己評価のとおりと判断できるが、これからもこうした状況を維持していけるように望みます。	
浜田 副部会長	9 月に、日本で初めて国際博物館会議（ＩＣＯＭ）の大会が京都で開催されたが、大会の成功には、京都国立博物館を中心とした各国立博物館が果たした役割は大きいと考える。これを機会に、博物館間の一層の国際交流が推進されることを期待したい。 また、11 月には、文化庁文化審議会に博物館部会が発足したが、目先の観光振興のために文化財を消耗させ、経済振興のために文化財を消費することは、あってはならないということを肝に銘じておきたい。	
小松委員	毎年のことではあるが、限られた人員、予算のなかで各機関とも最善を尽くして業務を遂行している点に敬意を表したい。困難なことではあるが、今後は、IT 技術などを活用したさらなる業務の効率化、外部資金調達の努力などが求められることになるだろう。なお、評価対象年度外の出来事ではあるが、新型コロナウィルスの蔓延によって博物館事業が大きな影響を受けている。今後、このような事態に対して有効な施策が打てるのかどうか、新年度には機構に属する施設が総力をあげて検討していく必要があると思う。	
榊原委員	酷しいコロナ禍の中、ときに三密状態にならざるを得ない特別展はどうなるのか。その対策は。コロナ後の展覧会のあり方を模索しなければならない。	
出川委員	COVID19 の感染拡大予防のための臨時休館等の影響を除けば、所期の目標を十分に達成していると思います。また ICOM 京都大会に訪れた世界各国の博物館関係者にも各館の所蔵品展示が行き届いていました。	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（博物館部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
名児耶　明	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
概ね自己評価のとおりと判断できるが、これかもこうした状況を維持していけるように望みます。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B		【委員コメント】 報告の通りと判断できる。新規購入や寄贈、寄託品の受入れも順調と判断できる。特に目立つ事業ではないが、着実にわが国の文化財を維持していくことは、文化財機構の最重要な使命である。

（2）展覧事業

	委員評価	
B	A	【委員コメント】 平常点での入館者が、前年よりも増えている点が評価できる。特別展も全体に日本文化の原点や基本のものが充実し、意欲的と評価できる。さらに東京国立博物館の特別展開催数の増加も、評価できるが、昨年も述べたように、特別展の回数はもう少し減らして、一つ一つの展示にじっくりと取り組むことも必要かと思う。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B		【委員コメント】 かなり成果を挙げきており、A 評価に近いと思うが、さらなる発展も考えてほしい。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B		【委員コメント】 おおむね実績報告書のとおりと判断します。多くの調査報告書の発行など、活発な活動を評価しますが、博物館活動での調査研究が、目先の特別展の忙しさのため制限されないことを期待します。とくに、長期保管している文化財のさらなる研究も進めてほしい。

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	
B		【委員コメント】 おおむね実績報告書のとおり、しっかりと目的を果たしていると思われる。これからも、日本の文化理解のための海外に向けた活動の持続を期待します。日本の文化の理解が世界の人々に日本を理解される早道であるから。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（博物館部会）

外部評価委員名	※国立文　化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
浜田　弘明	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】9 月に、日本で初めて国際博物館会議（ＩCOM）の大会が京都で開催されたが、大会の成功には、京都国立博物館を中心とした各国立博物館が果たした役割は大きいと考える。これを機会に、博物館間の一層の国際交流が推進されることを期待したい。

また、11 月には、文化庁文化審議会に博物館部会が発足したが、目先の観光振興のために文化財を消耗させ、経済振興のために文化財を消費することは、あってはならないということを肝に銘じておきたい。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B		【委員コメント】国立博物館は、地方の文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国の宝を守るため、従来にも増して、購入を含む積極的な資料収集を進める必要に迫られていると考える。今後も、相応の資料収集のための予算確保とともに、収蔵スペースと収蔵環境の確保にも務めていただきたい。

（2）展覧事業

	委員評価	
B	A	【委員コメント】年度末は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により各館とも臨時休館となり、展示にも大きな影響を与えたが、多くの特別展において、目標値を大きく超える入館者を迎えたことは評価したい。その一方で、大半が達成率 200%を超えるという点が気になった。予測は難しいと思うが、目標値の設定方法を再検討する必要があるのかもしれない。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B		【委員コメント】資料の保存と公開は相反するものであるが、民間企業と連携した、文化財の活用に向けての、レプリカや VR 等の映像コンテンツの開発は、資料保存の上でも重要であると考える。また、収蔵品データベースの外国語版の制作については、日本の文化財資源を世界に発信する意味で推進を期待したい。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B		【委員コメント】博物館の保存環境等に関する研究は、地方の小規模博物館では取り組みが難しいテーマであることから、国立博物館の果たす役割は大きいと考える。展示ケースや展示支持具の開発、文化財の安全輸送システムやＩPMシステム等の研究成果が、全国の博物館活動に反映されることを期待したい。

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	
B		【委員コメント】全国の文化財担当者や、博物館学芸員に対する技術研修の更なる促進に期待したい。昨年も触れたが、国としての学芸員に対する研修の体系化を図ることが課題と思われる。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（博物館部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
小松　大秀	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
毎年のことではあるが、限られた人員、予算のなかで各機関とも最善を尽くして業務を遂行している点に敬意を表したい。困難なことではあるが、今後は、IT 技術などを活用したさらなる業務の効率化、外部資金調達の努力などが求められることになるだろう。なお、評価対象年度外の出来事ではあるが、新型コロナウィルスの蔓延によって博物館事業が大きな影響を受けている。今後、このような事態に対して有効な施策が打てるのかどうか、新年度には機構に属する施設が総力をあげて検討していく必要があると思う。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	【委員コメント】
B		

（2）展覧事業を

	委員評価	【委員コメント】
B		

（3）教育・普及活動

	委員評価	【委員コメント】
B		

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	【委員コメント】
B		

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	【委員コメント】
B		

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（博物館部会）

外部評価委員名	※国立文　化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
榊原　悟	

全体評価	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
酷しいコロナ禍の中、ときに三密状態にならざるを得ない特別展はどうなるのか。その対策は。
コロナ後の展覧会のあり方を模索しなければならない。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B	A	【委員コメント】各館限られた予算の中でよく収集の実を上げたと評価したい。その収集の方法として改めて寄託の充実を図りたい。購入となると所蔵者の事情もあった実現が難しいこともあるだろうが、寄託ならばそのハードルも低いからである。今回東京国立博物館が購入した浜松図屏風も、京都国立博物館の百犬図も、長らくそれぞれの館に寄託されていた作品だと記憶する。二点を寄託してもらうことに成功した先人たちへの敬意と感謝も込めてＡと評価する。

（2）展覧事業

	委員評価	
B	B	【委員コメント】各館特別展の企画に力を注ぎ充実した内容となったが、やや時流に流された感があるのも否めない。そうした中、「毘沙門天ー北方鎮護のカミ」展と「室町将軍―戦乱と美の室町十五代―」展の優れた内容は大いに評価したい。 今後の研究に資するとこ大であろう。 またすべての館で平常陳列を重視しテーマ性、企画性を持たせている点、さらなる展開を期待する。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B	A	【委員コメント】講演会の開催だけでなく、学校教育との連携や館外活動の充実体験型教育プログラムの導入などさまざまな工夫で教育普及活動を展開している点、大いに評価する。その努力が明日の来館者となるだろう。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B	B	【委員コメント】調査研究は博物館活動すべての基礎となる。多忙な業務の中、よくこれを果たしていることに敬意を表したい。さらなる調査研究の充実を図りたい。

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	
B	B	【委員コメント】昨年も要望したが、地方への出前展の充実を願う。地方の人間が、美術史上の優品に接する機会はあるようで実は余りない。地方の人間がそんな機会を願うことにも一理あると思うのだが。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（博物館部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
出川　哲朗	

全体評価	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
	B	B	B	B	—

【委員コメント】
COVID19 の感染拡大予防のための臨時休館等の影響を除けば、所期の目標を十分に達成していると思います。また ICOM 京都大会に訪れた世界各国の博物館関係者にも各館の所蔵品展示が行き届いていました。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔博物館業務〕

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価	委員評価	
B	B	【委員コメント】 国立文化財機構として、博物館の根幹である館蔵品の充実に努められていると思います。資料のデジタル化されたものについては、今後、誰でも高精細画像でアクセスできるように期待しています。

（2）展覧事業

	委員評価	
B	A	【委員コメント】 「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」「美を紡ぐ」「三国志」「正倉院の世界」「佐竹本三十六歌仙絵」「毘沙門天―北方鎮護のカミ」「室町将軍―戦乱と美の室町十五代」など話題性もあり一般にも分かり易い展示で、かつ質の高い内容の展覧会が開催されたことは大いに評価されます。

（3）教育・普及活動

	委員評価	
B	B	【委員コメント】 様々な形で学習の機会が工夫されていると思います。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

	委員評価	
B	B	【委員コメント】 展覧会活動にも反映される意欲的な調査研究がなされていたと思います。

（5）国内外の博物館活動への寄与

	委員評価	
B	B	【委員コメント】 地震などに対する防災設備の調査研究の実績が上がっている点が評価されます。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和元年度－

研究所・センター部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（研究所・センター部会）

まとめ

自己点検評価　A　　委員評価　A

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
寺崎 部会長	委員 評価 A	各機関ともに限られた予算・人員の制約の中で、大きな成果を挙げているものと評価できる。自己点検評価「A」は妥当と考える。 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（奈文研）では、予想もしない遺構が検出され、古代都城中枢部の変遷を考える上で重要な知見が得られた。引き続き調査を進め、解明に努めてもらいたい。
寺田 副部会長	A	各機関が積極的に事業に取り組み、目標を超える成果を上げている。 日本の伝統音楽文化を支える楽器作りの技術の伝承は危機に瀕していると言ってよい。プロジェクト 2121E は、喫緊の課題に取り組んでおり高く評価できるが、対象が限られているため、プロジェクトを継続、拡大する可能性を検討していただきたい。
児島委員	A	近年デジタル・アーカイブの充実に努めて来られており、令和元年度も成果がみられた。緊急事態宣言が続く現状、オープンアクセスの画像、文献の資料の重要性は一層増しており、今後も期待する。黒田、久米書簡は現在の黒田日記のようなかたちで公開できるとよい。ゲッティとのリンクはトップページに表示して欲しい。
斎藤委員	A	―
柳林委員	A	【奈良文化財研究所（奈文研）】 奈文研は平城宮跡（奈良市）の発掘調査で知られるが、最初は現在の奈良国立博物館（以下、奈良博）のところにあり、南都の諸大寺の仏教美術や堂塔伽藍、古文書を調査、研究し、保存するための役割が主だった。その旧庁舎は奈良博の図書館として活用され、重要文化財になっている。 このような歴史的経緯を顧みると、奈文研の法隆寺など歴史的建造物の実践的研究や、近畿を中心とする古寺社等の歴史資料の調査研究は極めて重要な活動だ。地道で息の長い作業は保存にも大きく寄与しており、小さな寺社までも大切な歴史的財産として対象にする姿勢は、少ない研究人員と予算という厳しい環境の中で評価され、市町村の頼りになっている。法隆寺の古材調査も大変な労苦を伴う作業で、名建築の変遷をたどる貴重な資料になる。十分な成果を期待したい。 考古学的には、東大寺東塔の調査が大変注目される。奈良県立橿原考古学研究所との共同調査は非常に力強いもので、鎌倉時代と奈良時代の２期の遺構を確認し、門や回廊での時代の違いを突き止めた。これらは東塔復元原案の作成に役立っており、適時性、発展性、効率性、継続性も「A」とし、年度計画評価も「A」でよい。 藤原宮大極殿東北部（橿原市）の調査は、大極殿後方に東西に延びる回廊を発見し、藤原宮の構造に再考を促す画期的な成果になった。存在が想定されていなかった遺構で、メディアでも大きく取り上げられ、今後の調査に関心が集まる。 【東京文化財研究所（東文研）】 無形文化遺産に対する積極的な取り組みは高く評価をされてよい。とくに唯一の研究部を持つ無形民俗文化財の調査研究と保存に向けての情熱あふれる取り組みは全国のネットワーク構築を推進し、頼りがいのある存在として素晴らしい実績を残している。少子化や自然災害などで危機に瀕している各地の無形文化遺産の映像などをデジタル化して記録していく活動にも努めており、意欲的な作業に頭が下がる。とりわけ、東日本大震災後のリーダーシップは特筆に値する活動だ。 また、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（ＩＲＣＩ、大阪府堺市）と協力して、昨年１１月に国際シンポジウムを開いたことは喜ばしい。ＩＲＣＩは人員、予算が不十分なだけに、今後も共同して調査研究や保存に取り組んでもらいたい。無形文化遺産は人々の精神的な支えにもなりうる意味で重要だ。期待したい。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
寺崎 部会長	委員 評価 A	科学的な手法を文化財研究に応用する分野は、各機関ともに最先端をゆき全国の当該分野研究を牽引しているが、今年度も十分な成果をあげたと認められ、自己点検評価「A」は妥当と考える。 ②文化財の保存修復及び保存技術に関する調査研究では、プロジェクト毎の自己評価のBが８件であるが、Aでも良いのではないかと思われるものがいくつかあった。
寺田 副部会長	A	遺跡、遺物のデータを計測・記録する手法の開発と普及（プロジェクト 2212F）は、今後の考古学的調査の省力化に大きく貢献することが期待できる。
児島委員	A	―
斎藤委員	A	―
柳林委員	A	【東京文化財研究所】 科学技術の進歩は目覚ましく、特に東文研の絵画や工芸品に対する光学的研究は意欲的で画期的な成果を挙げている。国宝十二天像や春日権現験記絵巻などに対する彩色材料や技法の調査は、独自に開発した技術や機材を最大限に活用してこれまで分からなかった技法を解明した。利用範囲を広げてさらに成果を挙げてほしい。 文化財修復措置に関する研修と研究会が昨年１０月に開かれた。イタリアの保存科学者を招いたが、応募者６０人から２０人を選んでの開催は受講したい人々の期待に沿えない対応であり残念だ。スペースや日時の限定などがあるのは分かるが内容がよく、学びたい人が多いということだけに、受講者を少しでも増やす努力はされたのだろうか。漏れた方々を救済するチャンスを与えてあげたい。 【奈良文化財研究所】 「高松塚古墳、キトラ古墳の恒久保存に関する調査研究」は、東文研との長い年月にわたる共同事業だ。高松塚古墳ではカビなどで劣化した国宝の壁画を、異例の石室解体で救う１２年越しの取り組みであり、難事業だったが、カビなどをかなり除去し、保存処理を施した。事業は終わり、今後は莫大な費用をかけた修理だっただけに壁画の公開などが求められると思うが、石材の劣化対策なども残っており、拙速は厳に慎みたい。いずれにしても関係者の労苦をたたえたい。 カビが生えて黒くなった壁画の部分は、装潢師の地道な長年の作業のお陰で、美しさを取り戻したのは称賛に値する。文化庁は２度とこのようなことが起きてはならないことを当事者として改めて肝に銘じていただきたい。この研究成果が全国の装飾古墳や海外の壁画遺産などの保存に寄与することを切に願う。高松塚古墳の発掘調査（昭和４７年）に少しだが参加した一人としても期待している。
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
寺崎 部会長	委員 評価 A	各機関ともに、限られた人員で、文化財に関する保存・修理・調査等の分野において国際協力を進めており、高く評価できる。したがって、自己点検評価「A」は妥当と考える。 ただし、プロジェクト毎の自己評価としては、Aが３件、Bが９件となっている。上記（２）と同様に、こちらの評価を少し上げても良いのではなかろうか。
寺田 副部会長	A	活動内容を総合的に判断すれば、「A」判定は妥当であると考える。ただ、個別プロジェクト 12 件のうち「A」評価はわずか 3 件に過ぎず、年度計画評価の算出方法に準じて計算すると、平均値は 3.25、つまり「B」評定となる。全体として「A」と自己評価するのであれば、その理由（個別プロジェクトの自己評価との整合性）を述べる必要はないだろうか。またこのような場合、評定の責任者を明らかにしてほしい。ちなみに、個別プロジェクトには責任者名が記載されている。 ３機関とも世界各地の研究機関などと積極的に協働して大きな成果をあげており、成果の公開・共有も周到に行われている。
児島委員	A	―
斎藤委員	A	―

柳林委員	A	【国立文化財機構】 文化や文化財への取り組みは世界平和に大きく貢献する。「平和の大使」とも呼ばれるゆえんだ。それは人々の心や精神を豊かにし、励まし、生きる喜びを与えてくれる。自信を呼び起こし、地域や国を愛する心や気持ちを醸成する。だから大切にしたい。次世代へ守り伝えていきたい。 国立文化財機構の意義はまさにそれを中心になって進めることであり、誇りを持って仕事に向き合っていただきたい。文化遺産の保護はその大切な部門だ。経済優先になりがちな社会にあって、文化の位置や役割を高めることが肝心で、文化を通じた国際協働はこれからさらに力を入れるべき分野だろう。 【東京文化財研究所】 カンボジアのアンコール地域で継続する遺跡の修復事業は着実に進んでいる。奈文研も２５年にわたって同地域の遺跡の修復作業にかかわり、祠堂を解体して一から復元するという難関事業に取り組んでいる。東文研も奈文研と情報を共有しながら、発展途上国の文化行政に貢献していることは喜ばしい。 加えて、カンボジアの考古学者や文化財保存の技術者を育てることにも大きな力を注いでもらいたい。すでにそのことは奈文研で行われており、ノウハウを共有し、日本の研究者が帰った後も文化財保存を自国で自立してできることが最終目標といってもいい。技術や知恵、知識を惜しみなくカンボジアなどに伝えてほしい。 また、東文研で昨年９月、メキシコで同１０月にそれぞれ行われた「紙の保存と修復」の研修は、実習を伴う内容で多くの外国の研究者に喜ばれ、開催後のフォローもしっかりしており、大きな成果を挙げている。日本人の繊細で緻密な作業を伝授するこの研修は、海外の博物館や美術館などから常に強い開催の要望があるだけに、いっそうの発展が望まれる。参加者の満足度は１００％であり、「適時性」「発展性」「効率性」も「A」で、年度計画評価も中期計画評価も「A」でよい。 【奈良文化財研究所】 奈文研は上記にも書いたアンコール地域での祠堂の解体と再構築を行った。昨年１２月にはこのプロジェクトの２５周年記念式典が現地であり、カンボジアから感謝されたという。ユネスコの現地視察もあり、高い評価を受けたことは喜ばしい。 昨年９月に京都で会ったＩＣＯＭ（国際博物館会議）には研究員４人を派遣し、オフサイトミーティングも行うなど国際協働に取り組んだ。また、４月にはイギリス・セインズベリー日本芸術研究所と共同研究に関する協議を行って６月に「シルクロードの両極における信仰の伝来」をテーマに国際セミナーを開催した。 このほか、ミャンマーやウズベキスタン、ロシア、中国など多様な国々との情報交換を行ったほか、ユネスコ・アジア文化センターの研修やワークショップ、国際会議などにも精力的に協力し、国際貢献を果たしたことは大きな成果だ。 【アジア太平洋無形文化遺産研究センター（ＩＲＣＩ）】 ＩＲＣＩは今年で発足１０年目を迎えた。ユネスコの目的に貢献するため、調査・研究を行うカテゴリー２センターとして、人材育成を担当する中国、情報ネットワークを担う韓国とともに役割を分担して２０１１年に設置された。 ところが主体をなす研究部の正職員は今でもわずか１人で、あとはアソシエイトフェローが４人を占めている状態だ。任期付きで不安定な身分のアソシエイトフェローが多数を占める状況は他の機関でもみられ、毎年、改善を要望しているが、予算面で難しいのが現実だ。だからといって放っておいていいはずはない。絶えず、正職員の増加を求めていきたい。 ＩＲＣＩも継続的な取り組みが必要な分野だけにこの状態を早く解消したい。来年、満１０年を迎える中で改善していただきたい。中国や韓国のカテゴリー２センターは人員も予算も充実していると聞く。同時に設置された他の２つのセンターにそん色のないような態勢を、機構も国も作り上げてほしい。 少ない人員と予算で懸命に活動している状況が、自己点検評価報告書からはっきりと読み取れる。文化財保存活用基金を活用して紛争後のアフガニスタンや東ティモールなどのパートナー機関と連携をとり、治安悪化が心配される中で無形文化遺産の現地調査や卓上調査を精力的に実施した。また、東京や京都で３回ものワークショップを開催し、無形文化遺産の情報収集や記録作成、保護に向けての取り組みについて意見を交換。いくつもの課題が前進した。 しかし、驚いたのは継続性が「C」評価だったこと。ＩＲＣＩの叫びが聞こえてくるようだ。素晴らしい活動なのに事業予算の安定的確保が難しいとして「C」評価にした。無念さが伝わる。機構としての前向きな対応を切実に願う。継続性が「C」

		であってもＩＲＣＩの責任ではないから、中期計画評価は「A」であってよい。科学研究費を東文研の協力で何とか引き出せないだろうか。今後も東文研と共同歩調をとって国際社会の信頼に応える精力的な活動を続けていってほしい。
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
自己点検評価　A　委員評価　A		
寺崎 部会長	委員 評価 A	自己点検評価「A」は妥当と考える。 定期刊行物・データベース・講演会など、研究成果の公開・活用は、社会的に大きな意味を持っているといえる。今後も継続して充実をはかってもらいたい。
寺田 副部会長	A	成果の公開には、様々なイベントが企画されており評価できるが、今後コロナウィルスの拡散防止対策の一環として、ネットの活用を含めた創造的な公開の方法を模索して欲しい。例えば、Zoom や Skype などを活用した相互交流的な現地説明会や講演会、ヴァーチャル展示など。
児島委員	A	―
斎藤委員	A	―
柳林委員	A	どんなに素晴らしい研究や業績であっても、情報が公開され、国民や世界の人々に共有される状況でなければならない。「文化財は国民共有の財産」だからだ。その意味で、情報の公開と活用が極めて重要なことは論を待たない。 【東京文化財研究所】 美術品入札会での目録「売立目録」に注目し、重要と思われる明治末期から戦前までの１００冊の内容をデジタルアーカイブで公開したことは極めて注目され、高い評価を与えられてよい。視点が素晴らしい。 明治以降、武家や豪商などが経済的な苦境から所蔵する美術品を手放すケースがあり、日本や東洋美術を代表するような名品までもが売りに出された。東文研はこれらの売立目録を２５３２冊も所蔵しており、一大コレクションだ。従来からカードなどで情報は公開、利用されてきたが、２０１５年から東京美術倶楽部との共同で目録のデジタル化事業に取り組み、昨年、デジタルアーカイブとして完成した。 売立目録には、行方不明の美術品や関東大震災、第二次大戦などで失われた美術品などもあり、得られる情報は豊富だ。売りに出した当時の所有者の経済的状況がわかるなど戦前における政治、経済、社会史的な研究の重要な資料になるほか、目録を経年的にたどれば不明の美術品に近づくことが可能になるかもしれない。 最近、１億円の値がついた銅鐸が最初のカラーページに載った売立目録を見たことがあった。見ているだけで楽しい売立目録だが、今後もしっかりと収集し、できるだけ多くの図版が入った目録の公開をお願いしたい。買い取った人を突き止めることは難しいが、それらを探ることで美術品の動きに迫るのも可能かもしれない。 【奈良文化財研究所】 新庁舎（奈良市）が２年前にオープンした。立派な庁舎と充実した設備は考古学のナショナルセンターとして調査、研究、保存を担う機関としてふさわしい。 ところが重要な情報公開にとって肝心の一般の人が利用できる資料閲覧室や図書資料室が狭いように感じた。そのことはすでに外部評価で報告したと思う。 今回、利用者の立場で改善してくれたことに感謝したい。書庫内に閲覧机を増設し、閲覧スペースを拡張するとともに、閲覧室の照明器具を増やして机上の明るさをいっそう増強した。利用しやすくするための改良であり、喜ばれていると思う。ただ、一般利用者は２２９人にとどまって少ない。膨大な図書をさらに利用してもらうような取り組みを望む。 平城宮跡資料館で行った夏期企画展「ならのみやこのしょくぶつえん」は、奈良国立博物館の「祈りの世界の動物たち」と同時期に開催。奈良にある国立文化財機構の施設が連携し、関連するテーマで展覧会を行った初めての試みだった。好評で、両方の展覧会を見る人もおり、今後も機会あるごとに連携して関連展示を実現していただきたい。奥の深い展示になる。今回は入館料がどうだったか不明だが、共通券を出して割引があるようにすれば入館者にとってより便利だろう。

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
寺崎 部会長	委員 評価 A	自己点検評価「A」は妥当と考える。 各種団体に対する文化財の調査指導・研修等についても、長年にわたって継続して実施されており、その実績を高く評価したい。
寺田 副部会長	A	両研究所とも、地方公共団体などに対する専門的知識の提供や地方における人材育成において、文化財に関する国の中核機関としての役割を十分に果たしている。
児島委員	S	全国各地の被災文化財に対する継続的な取り組みは大変意義深い。特に台風をはじめとする自然災害の増加の中で、指針を示し、情報の収集、公開をおこなった。台風 19 号による被災館への救援活動も重要であった。
斎藤委員	A	―
柳林委員	A	【東京・奈良文化財研究所】 ・東文研、奈文研とも、ナショナルセンターとして全国の行政機関や研究機関を指導し、助言する役割を担う。その責務を果たすために多彩なプログラムを用意して自治体職員を研修したり、全国に出かけて指導したりしている。とくに日進月歩の文化財調査における最新の技術を伝え、地方でも活用することが重要だから、両研究所員の苦労も並大抵ではないが、地方のレベルアップに尽力していただきたい。 ・奈文研の文化財担当研修は昭和４９年から続いており、延べ９９００人もの受講者を数えた。今年度も１４課程に目標値を上回る１９９人もの受講者があり、技術の向上に大きく貢献した。一方、東文研でも博物館や美術館の保存担当学芸員を対象に研修を実施したり連携大学院の学生を教えたりして、人材育成に貢献していることは高い評価を受けて当然である。
その他（総合的な事項、自己点検評価について等）		
寺崎 部会長	・昨年度から、総会・部会の開催方式がかわり、特に研究所・センター部会委員が総会に参加できなくなったことに異論が多く出された点については、その後、検討がなされたのであろうか。一案として、従来のようにセンター部会と総会・博物館部会を別の月に分散するのではなく、同一場所で２日間にわたって集中して開催すればセンター部会委員も総会に参加できるのではないか、などと思うが、そうした方式は難しいのであろうか。より良い開催方法を引き続き検討していただきたい。 ・「自己点検評価報告書」を検討する際には、前年度の報告書等と比較しながら読むことになるが、同一プロジェクトで、前年度と比べて自己評価が上下したものについては、その理由を明記してもらうと良いのではなかろうか。プロジェクトによっては、自己評価が変動しているにもかかわらず、前年度とほぼ同文の「評定理由」になっているものも散見する。 ・また、実績を示す件数についても、可能ならば、前年度比を示してもらうと、一つの目安になると思われる。そうした点でいえば、各機関の研究員による論文発表数が、前年度に比べて大きく増加していることは高く評価される。多忙な中で研究成果を公にする努力を重ねている研究員諸氏に対して、敬意を表したい。	
寺田 副部会長	・少数ではあるが、実績概要の記述が不十分な報告書が存在する（96、97、106 頁など）。設定された目的に対して、どのような活動を行ったか、どのような知見があったのかを記述していただくと評価がしやすくなる。 ・前年度にも指摘した通り、IRCI は無形文化遺産に関して重要な活動を行なっているが、活動の継続性が予算的に担保されていないのは大きな問題である。全体予算が逼迫する状況下、他機関と同じく自助努力が求められることは言うまでもないが、機構におけるセンターの位置付けを再考したうえで、予算配分に配慮が必要ではないだろうか。	
児島委員	・新型コロナウィルスの蔓延する現状、特に展覧会事業への影響は大きい。大規模動員展が今後維持できるかわからないが、現実の文化財、美術品に触れることの重要性、それらを保存して受け継ぐことの必要性に多くの人が気づく機会となるのではないか。一方で様々な危機に際して、文化財研究所、センターがこれまでに蓄積してきた活動や経験値が有効であり、力を発揮している。予算的な困難が予想されるが、今後も継続的な一層の活動が望まれる。	
斎藤委員	文化財を調査するために、つねに新しい技術の探索と研究開発を継続的に行っており、また、それらを文化財の特質にあわせてうまく適用している点が高く評価できる。開発・応用・文化財保護・得られた成果の情報発信のそれぞれが連動して機能しており、研究者のみならず行政機関や一般に対しても有用な業績を積み重ねているといってよい。	
柳林委員	・新型コロナウイルスの感染拡大で、国の財政が危機的な状況に陥ることが危惧される。そんな中で漸減する国から機構への運営費交付金がさらに削減されないか心配だ。そのような	

	ことがないように今から対策を考えておくべきだろう。いつもしわ寄せがくるのは文化行政だからだ。 ・今年４月７日の参議院文教科学委員会で文化芸術問題が俎上にのぼった。萩生田文科相や今里譲・文化庁次長は「文化芸術振興を倍増するのを支援」「（博物館などが）役割を十分果たせるよう必要な人材確保に向けた支援に努める」「博物館支援策をしっかりと講じる」と答えている。脳裏に焼き付けてほしい。 ・博物館や機構の自己点検評価報告書や機構を評価する資料を送ってほしい。研究所と博物館は密接に関係する。機構をバックアップするためにも資料がいただきたいし、オブザバーでもいいので総会にも出席させていただきたい。そこで博物館や機構関係者と交流することで報告の中身が一段と濃くなる。「以前のように博物館にもかかわりたい」との委員の要望に、松村理事長は昨年、「何とかする」と述べている。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（研究所・センター部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
寺崎　保広	

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔研究所・センター業務〕

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価	委員評価	
A		【委員コメント】　各機関ともに限られた予算・人員の制約の中で、大きな成果を挙げているものと評価できる。自己点検評価「A」は妥当と考える。 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（奈文研）では、予想もしない遺構が検出され、古代都城中枢部の変遷を考える上で重要な知見が得られた。引き続き調査を進め、解明に努めてもらいたい。

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

	委員評価	
A		【委員コメント】　科学的な手法を文化財研究に応用する分野は、各機関ともに最先端をゆき全国の当該分野研究を牽引しているが、今年度も十分な成果をあげたと認められ、自己点検評価「A」は妥当と考える。 ②文化財の保存修復及び保存技術に関する調査研究では、プロジェクト毎の自己評価のBが８件であるが、Aでも良いのではないかと思われるものがいくつかあった。

（3）文化遺産保護に関する国際協働

	委員評価	
A		【委員コメント】　各機関ともに、限られた人員で、文化財に関する保存・修理・調査等の分野において国際協力を進めており、高く評価できる。したがって、自己点検評価「A」は妥当と考える。 ただし、プロジェクト毎の自己評価としては、Aが３件、Bが９件となっている。上記（2）と同様に、こちらの評価を少し上げても良いのではなかろうか。

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

	委員評価	
A		【委員コメント】　自己点検評価「A」は妥当と考える。 定期刊行物・データベース・講演会など、研究成果の公開・活用は、社会的に大きな意味を持っているといえる。今後も継続して充実をはかってもらいたい。

（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

	委員評価	
A		【委員コメント】　自己点検評価「A」は妥当と考える。 各種団体に対する文化財の調査指導・研修等についても、長年にわたって継続して実施されており、その実績を高く評価したい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）
【委員コメント】 ・昨年度から、総会・部会の開催方式がかわり、特に研究所・センター部会委員が総会に参加できなくなったことに異論が多く出された点については、その後、検討がなされたのであろうか。一案として、従来のようにセンター部会と総会・博物館部会を別の月に分散するのではなく、同一場所で２日間にわたって集中して開催すればセンター部会委員も総会に参加できるのではないか、などと思うが、そうした方式は難しいのであろうか。より良い開催方法を引き続き検討していただきたい。 ・「自己点検評価報告書」を検討する際には、前年度の報告書等と比較しながら読むことになるが、同一プロジェクトで、前年度と比べて自己評価が上下したものについては、その理由を明記してもらうと良いのではなかろうか。プロジェクトによっては、自己評価が変動しているにもかかわらず、前年度とほぼ同文の「評定理由」になっているものも散見する。 ・また、実績を示す件数についても、可能ならば、前年度比を示してもらうと、一つの目安になると思われる。そうした点でいえば、各機関の研究員による論文発表数が、前年度に比べて大きく増加していることは高く評価される。多忙な中で研究成果を公にする努力を重ねている研究員諸氏に対して、敬意を表したい。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている Ｂ：所期の目標を達成している※ Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する ※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（研究所・センター部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
寺田　吉孝	

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔研究所・センター業務〕

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価	委員評価	【委員コメント】
A	A	・　各機関が積極的に事業に取り組み、目標を超える成果を上げている。 ・　日本の伝統音楽文化を支える楽器作りの技術の伝承は危機に瀕していると言ってよい。プロジェクト 2121E は、喫緊の課題に取り組んでおり高く評価できるが、対象が限られているため、プロジェクトを継続、拡大する可能性を検討していただきたい。

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

	委員評価	【委員コメント】
A	A	・　遺跡、遺物のデータを計測・記録する手法の開発と普及（プロジェクト 2212F）は、今後の考古学的調査の省力化に大きく貢献することが期待できる。

（3）文化遺産保護に関する国際協働

	委員評価	【委員コメント】
A	A	・　活動内容を総合的に判断すれば、「A」判定は妥当であると考える。ただ、個別プロジェクト 12 件のうち「A」評価はわずか 3 件に過ぎず、年度計画評価の算出方法に準じて計算すると、平均値は 3.25、つまり「B」評定となる。全体として「A」と自己評価するのであれば、その理由（個別プロジェクトの自己評価との整合性）を述べる必要はないだろうか。またこのような場合、評定の責任者を明らかにしてほしい。ちなみに、個別プロジェクトには責任者名が記載されている。 ・　３機関とも世界各地の研究機関などと積極的に協働して大きな成果をあげており、成果の公開・共有も周到に行われている。

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

	委員評価	【委員コメント】
A	A	・　成果の公開には、様々なイベントが企画されており評価できるが、今後コロナウィルスの拡散防止対策の一環として、ネットの活用を含めた創造的な公開の方法を模索して欲しい。例えば、Zoom や Skype などを活用した相互交流的な現地説明会や講演会、ヴァーチャル展示など。

（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

	委員評価	【委員コメント】
A	A	・　両研究所とも、地方公共団体などに対する専門的知識の提供や地方における人材育成において、文化財に関する国の中核機関としての役割を十分に果たしている。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）
【委員コメント】 ・　少数ではあるが、実績概要の記述が不十分な報告書が存在する（96、97、106 頁など）。設定された目的に対して、どのような活動を行ったか、どのような知見があったのかを記述していただくと評価がしやすくなる。 ・　前年度にも指摘した通り、IRCI は無形文化遺産に関して重要な活動を行なっているが、活動の継続性が予算的に担保されていないのは大きな問題である。全体予算が逼迫する状況下、他機関と同じく自助努力が求められることは言うまでもないが、機構におけるセンターの位置付けを再考したうえで、予算配分に配慮が必要ではないだろうか。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている Ｂ：所期の目標を達成している※ Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する ※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（研究所・センター部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
児島　薫	

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔研究所・センター業務〕

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価	委員評価	【委員コメント】
A		近年デジタル・アーカイブの充実に努めて来られており、令和元年度も成果がみられた。緊急事態宣言が続く現状、オープンアクセスの画像、文献の資料の重要性は一層増しており、今後も期待する。黒田、久米書簡は現在の黒田日記のようなかたちで公開できるとよい。ゲッティとのリンクはトップページに表示して欲しい。

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

	委員評価	【委員コメント】
A		

（3）文化遺産保護に関する国際協働

	委員評価	【委員コメント】
A		

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

	委員評価	【委員コメント】
A		

（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

	委員評価	【委員コメント】
A	S	全国各地の被災文化財に対する継続的な取り組みは大変意義深い。特に台風をはじめとする自然災害の増加の中で、指針を示し、情報の収集、公開をおこなった。台風 19 号による被災館への救援活動も重要であった。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】

新型コロナウィルスの蔓延する現状、特に展覧会事業への影響は大きい。大規模動員展が今後維持できるかわからないが、現実の文化財、美術品に触れることの重要性、それらを保存して受け継ぐことの必要性に多くの人が気づく機会となるのではないか。一方で様々な危機に際して、文化財研究所、センターがこれまでに蓄積してきた活動や経験値が有効であり、力を発揮している。予算的な困難が予想されるが、今後も継続的な一層の活動が望まれる。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（研究所・センター部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異なる場合でもコメントがございましたらご記入願います。
齋藤　努	

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔研究所・センター業務〕

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価	委員評価	【委員コメント】
A	A	

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

	委員評価	【委員コメント】
A	A	

（3）文化遺産保護に関する国際協働

	委員評価	【委員コメント】
A	A	

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

	委員評価	【委員コメント】
A	A	

（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

	委員評価	【委員コメント】
A	A	

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

【委員コメント】

文化財を調査するために、つねに新しい技術の探索と研究開発を継続的に行っており、また、それらを文化財の特質にあわせてうまく適用している点が高く評価できる。開発・応用・文化財保護・得られた成果の情報発信のそれぞれが連動して機能しており、研究者のみならず行政機関や一般に対しても有用な業績を積み重ねているといってよい。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書（研究所・センター部会）

外部評価委員名	※国立文化財機構の自己点検評価と異なる評価をされる場合は「委員評価」欄に評価※（参考参照）をご記入いただき、必ずコメントをご記入願います。 また、異ならない場合でもコメントがございましたらご記入願います。
柳林　修	

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

〔研究所・センター業務〕

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価 A	委員評価 A	【奈良文化財研究所（奈文研）】 奈文研は平城宮跡（奈良市）の発掘調査で知られるが、最初は現在の奈良国立博物館（以下、奈良博）のところにあり、南都の諸大寺の仏教美術や堂塔伽藍、古文書を調査、研究し、保存するための役割が主だった。その旧庁舎は奈良博の図書館として活用され、重要文化財になっている。 このような歴史的経緯を顧みると、奈文研の法隆寺など歴史的建造物の実践的研究や、近畿を中心とする古寺社等の歴史資料の調査研究は極めて重要な活動だ。地道で息の長い作業は保存にも大きく寄与しており、小さな寺社までも大切な歴史的財産として対象にする姿勢は、少ない研究人員と予算という厳しい環境の中で評価され、市町村の頼りになっている。法隆寺の古材調査も大変な労苦を伴う作業で、名建築の変遷をたどる貴重な資料になる。十分な成果を期待したい。 考古学的には、東大寺東塔の調査が大変注目される。奈良県立橿原考古学研究所との共同調査は非常に力強いもので、鎌倉時代と奈良時代の２期の遺構を確認し、門や回廊での時代の違いを突き止めた。これらは東塔復元原案の作成に役立っており、適時性、発展性、効率性、継続性も「A」とし、年度計画評価も「A」でよい。 藤原宮大極殿東北部（橿原市）の調査は、大極殿後方に東西に延びる回廊を発見し、藤原宮の構造に再考を促す画期的な成果になった。存在が想定されていなかった遺構で、メディアでも大きく取り上げられ、今後の調査に関心が集まる。 【東京文化財研究所（東文研）】 無形文化遺産に対する積極的な取り組みは高く評価をされてよい。とくに唯一の研究部を持つ無形民俗文化財の調査研究と保存に向けての情熱あふれる取り組みは全国のネットワーク構築を推進し、頼りがいのある存在として素晴らしい実績を残している。少子化や自然災害などで危機に瀕している各地の無形文化遺産の映像などをデジタル化して記録していく活動にも努めており、意欲的な作業に頭が下がる。とりわけ、東日本大震災後のリーダーシップは特筆に値する活動だ。 また、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（ＩＲＣＩ、大阪府堺市）と協力して、昨年１１月に国際シンポジウムを開いたことは喜ばしい。ＩＲＣＩは人員、予算が不十分なだけに、今後も共同して調査研究や保存に取り組んでもらいたい。無形文化遺産は人々の精神的な支えにもなりうる意味で重要だ。期待したい。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
A	委員評価 A	【東京文化財研究所】 科学技術の進歩は目覚ましく、特に東文研の絵画や工芸品に対する光学的研究は意欲的で画期的な成果を挙げている。国宝十二天像や春日権現験記絵巻などに対する彩色材料や技法の調査は、独自に開発した技術や機材を最大限に活用してこれまで分からなかった技法を解明した。利用範囲を広げてさらに成果を挙げてほしい。 文化財修復措置に関する研修と研究会が昨年１０月に開かれた。イタリアの保存科学者を招いたが、応募者６０人から２０人を選んでの開催は受講したい人々の期待に沿えない対応であり残念だ。スペースや日時の限定などがあるのは分かるが内容がよく、学びたい人が多いということだけに、受講者を少しでも増やす努力はされたのだろうか。漏れた方々を救済するチャンスを与えてあげたい。 【奈良文化財研究所】 「高松塚古墳、キトラ古墳の恒久保存に関する調査研究」は、東文研との長い年月にわたる共同事業だ。高松塚古墳ではカビなどで劣化した国宝の壁画を、異例の石室解体で救う１２年越しの取り組みであり、難事業だったが、カビなどをかなり除去し、保存処理を施した。事業は終わり、今後は莫大な費用をかけた修理だっただけに壁画の公開などが求められると思うが、石材の劣化対策なども残っており、拙速は厳に慎みたい。いずれにしても関係者の労苦をたたえたい。 カビが生えて黒くなった壁画の部分は、装潢師の地道な長年の作業のお陰で、美しさを取り戻したのは称賛に値する。文化庁は２度とこのようなことが起きてはならないことを当事者として改めて肝に銘じていただきたい。この研究成果が全国の装飾古墳や海外の壁画遺産などの保存に寄与することを切に願う。高松塚古墳の発掘調査（昭和４７年）に少しだが参加した一人としても期待している。
（３）文化遺産保護に関する国際協働		
A	委員評価 A	【国立文化財機構】 ・文化や文化財への取り組みは世界平和に大きく貢献する。「平和の大使」とも呼ばれるゆえんだ。それは人々の心や精神を豊かにし、励まし、生きる喜びを与えてくれる。自信を呼び起こし、地域や国を愛する心や気持ちを醸成する。だから大切にしたい。次世代へ守り伝えていきたい。 国立文化財機構の意義はまさにそれを中心になって進めることであり、誇りを持って仕事に向き合っていただきたい。文化遺産の保護はその大切な部門だ。経済優先になりがちな社会にあって、文化の位置や役割を高めることが肝心で、文化を通じた国際協働はこれからさらに力を入れるべき分野だろう。 【東京文化財研究所】 カンボジアのアンコール地域で継続する遺跡の修復事業は着実に進んでいる。奈文研も２５年にわたって同地域の遺跡の修復作業にかかわり、祠堂を解体して一から復元するという難関事業に取り組んでいる。東文研も奈文研と情報を共有しながら、発展途上国の文化行政に貢献していることは喜ばしい。 加えて、カンボジアの考古学者や文化財保存の技術者を育てることにも大きな力を注いでもらいたい。すでにそのことは奈文研で行われており、ノウハウを共有し、日本の研究者が帰った後も文化財保存を自国で自立してできることが最終目標といってもいい。技術や知恵、知識を惜しみなくカンボジアなどに伝えてほしい。 また、東文研で昨年９月、メキシコで同１０月にそれぞれ行われた「紙の保存と修復」の研修は、実習を伴う内容で多くの外国の研究者に喜ばれ、開催後のフォローもしっかりしており、大きな成果を挙げている。日本人の繊細で緻密な作業を伝授するこの研修は、海外の博物館や美術館などから常に強い開催の要望があるだけ

		に、いっそうの発展が望まれる。参加者の満足度は１００％であり、「適時性」「発展性」「効率性」も「A」で、年度計画評価も中期計画評価も「A」でよい。 【奈良文化財研究所】 奈文研は上記にも書いたアンコール地域での祠堂の解体と再構築を行った。昨年１２月にはこのプロジェクトの２５周年記念式典が現地であり、カンボジアから感謝されたという。ユネスコの現地視察もあり、高い評価を受けたことは喜ばしい。 昨年９月に京都で会ったＩＣＯＭ（国際博物館会議）には研究員４人を派遣し、オフサイトミーティングも行うなど国際協働に取り組んだ。また、４月にはイギリス・セインズベリー日本芸術研究所と共同研究に関する協議を行って６月に「シルクロードの両極における信仰の伝来」をテーマに国際セミナーを開催した。 このほか、ミャンマーやウズベキスタン、ロシア、中国など多様な国々との情報交換を行ったほか、ユネスコ・アジア文化センターの研修やワークショップ、国際会議などにも精力的に協力し、国際貢献を果たしたことは大きな成果だ。 【アジア太平洋無形文化遺産研究センター（ＩＲＣＩ）】 ＩＲＣＩは今年で発足１０年目を迎えた。ユネスコの目的に貢献するため、調査・研究を行うカテゴリー２センターとして、人材育成を担当する中国、情報ネットワークを担う韓国とともに役割を分担して２０１１年に設置された。 ところが主体をなす研究部の正職員は今でもわずか１人で、あとはアソシエイトフェローが４人を占めている状態だ。任期付きで不安定な身分のアソシエイトフェローが多数を占める状況は他の機関でもみられ、毎年、改善を要望しているが、予算面で難しいのが現実だ。だからといって放っておいていいはずはない。絶えず、正職員の増加を求めていきたい。 ＩＲＣＩも継続的な取り組みが必要な分野だけにこの状態を早く解消したい。来年、満１０年を迎える中で改善していただきたい。中国や韓国のカテゴリー２センターは人員も予算も充実していると聞く。同時に設置された他の２つのセンターにそん色のないような態勢を、機構も国も作り上げてほしい。 少ない人員と予算で懸命に活動している状況が、自己点検評価報告書からはっきりと読み取れる。文化財保存活用基金を活用して紛争後のアフガニスタンや東ティモールなどのパートナー機関と連携をとり、治安悪化が心配される中で無形文化遺産の現地調査や卓上調査を精力的に実施した。また、東京や京都で３回ものワークショップを開催し、無形文化遺産の情報収集や記録作成、保護に向けての取り組みについて意見を交換。いくつもの課題が前進した。 しかし、驚いたのは継続性が「C」評価だったこと。ＩＲＣＩの叫びが聞こえてくるようだ。素晴らしい活動なのに事業予算の安定的確保が難しいとして「C」評価にした。無念さが伝わる。機構としての前向きな対応を切実に願う。継続性が「C」であってもＩＲＣＩの責任ではないから、中期計画評価は「A」であってよい。科学研究費を東文研の協力で何とか引き出せないだろうか。今後も東文研と共同歩調をとって国際社会の信頼に応える精力的な活動を続けていってほしい。

（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
A	委員評価 A	どんなに素晴らしい研究や業績であっても、情報が公開され、国民や世界の人々に共有される状況でなければならない。「文化財は国民共有の財産」だからだ。その意味で、情報の公開と活用が極めて重要なことは論を待たない。 【東京文化財研究所】 美術品入札会での目録「売立目録」に注目し、重要と思われる明治末期から戦前までの１００冊の内容をデジタルアーカイブで公開したことは極めて注目され、高い評価を与えられてよい。視点が素晴らしい。 明治以降、武家や豪商などが経済的な苦境から所蔵する美術品を手放すケースがあり、日本や東洋美術を代表するような名品までもが売りに出された。東文研はこれらの売立目録を２５３２冊も所蔵しており、一大コレクションだ。従来からカードなどで情報は公開、利用されてきたが、２０１５年から東京美術倶楽部との共同で目録のデジタル化事業に取り組み、昨年、デジタルアーカイブとして完成した。 売立目録には、行方不明の美術品や関東大震災、第二次大戦などで失われた美術品などもあり、得られる情報は豊富だ。売りに出した当時の所有者の経済的状況がわかるなど戦前における政治、経済、社会史的な研究の重要な資料になるほか、目録を経年的にたどれば不明の美術品に近づくことが可能になるかもしれない。 最近、１億円の値がついた銅鐸が最初のカラーページに載った売立目録を見たことがあった。見ているだけで楽しい売立目録だが、今後もしっかりと収集し、できるだけ多くの図版が入った目録の公開をお願いしたい。買い取った人を突き止めることは難しいが、それらを探ることで美術品の動きに迫るのも可能かもしれない。 【奈良文化財研究所】 新庁舎（奈良市）が２年前にオープンした。立派な庁舎と充実した設備は考古学のナショナルセンターとして調査、研究、保存を担う機関としてふさわしい。 ところが重要な情報公開にとって肝心の一般の人が利用できる資料閲覧室や図書資料室が狭いように感じた。そのことはすでに外部評価で報告したと思う。 今回、利用者の立場で改善してくれたことに感謝したい。書庫内に閲覧机を増設し、閲覧スペースを拡張するとともに、閲覧室の照明器具を増やして机上の明るさをいっそう増強した。利用しやすくするための改良であり、喜ばれていると思う。ただ、一般利用者は２２９人にとどまって少ない。膨大な図書をさらに利用してもらうような取り組みを望む。 平城宮跡資料館で行った夏期企画展「ならのみやこのしょくぶつえん」は、奈良国立博物館の「祈りの世界の動物たち」と同時期に開催。奈良にある国立文化財機構の施設が連携し、関連するテーマで展覧会を行った初めての試みだった。好評で、両方の展覧会を見る人もおり、今後も機会あるごとに連携して関連展示を実現していただきたい。奥の深い展示になる。今回は入館料がどうだったか不明だが、共通券を出して割引があるようにすれば入館者にとってより便利だろう。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
A	委員評価 A	【東京・奈良文化財研究所】 ・東文研、奈文研とも、ナショナルセンターとして全国の行政機関や研究機関を指導し、助言する役割を担う。その責務を果たすために多彩なプログラムを用意して自治体職員を研修したり、全国に出かけて指導したりしている。とくに日進月歩の文化財調査における最新の技術を伝え、地方でも活用することが重要だから、両研究所員の苦労も並大抵ではないが、地方のレベルアップに尽力していただきたい。 ・奈文研の文化財担当研修は昭和４９年から続いており、延べ９９００人もの受講者を数えた。今年度も１４課程に目標値を上回る１９９人もの受講者があり、技術の向上に大きく貢献した。一方、東文研でも博物館や美術館の保存担当学芸員を対象に研修を実施したり連携大学院の学生を教えたりして、人材育成に貢献している

		ことは高い評価を受けて当然である。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

・新型コロナウイルスの感染拡大で、国の財政が危機的な状況に陥ることが危惧される。そんな中で漸減する国から機構への運営費交付金がさらに削減されないか心配だ。そのようなことがないように今から対策を考えておくべきだろう。いつもしわ寄せがくるのは文化行政だからだ。
・今年４月７日の参議院文教科学委員会で文化芸術問題が俎上にのぼった。萩生田文科相や今里譲・文化庁次長は「文化芸術振興を倍増するのを支援」「（博物館などが）役割を十分果たせるよう必要な人材確保に向けた支援に努める」「博物館支援策をしっかりと講じる」と答えている。脳裏に焼き付けてほしい。
・博物館や機構の自己点検評価報告書や機構を評価する資料を送ってほしい。研究所と博物館は密接に関係する。機構をバックアップするためにも資料がいただきたいし、オブザバーでもいいので総会にも出席させていただきたい。そこで博物館や機構関係者と交流することで報告の中身が一段と濃くなる。「以前のように博物館にもかかわりたい」との委員の要望に、松村理事長は昨年、「何とかする」と述べている。

（参考）

【年度計画に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している※
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	河　合　正　朝	（千葉市美術館館長）
委員	小笠原　　直	（監査法人アヴァンティア法人代表　代表社員 公認会計士）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館館長）
委員	坂　本　弘　子	（朝日新聞社常勤監査役）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館長）
委員	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
委員	寺　田　吉　孝	（国立民族学博物館名誉教授）
委員	名児耶　　明	（元公益財団法人五島美術館副館長）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	柳　林　　修	（読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー、 元読売新聞編集委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館部会

部会長	名児耶　　明	（元公益財団法人五島美術館副館長）
副部会長	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館館長）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館館長）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター部会

部会長	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
副部会長	寺　田　吉　孝	（国立民族学博物館名誉教授）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	柳　林　　修	（読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー、元読売新聞編集委員）

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
31.　4.　19	第１回役員会（東京国立博物館）
31.　4.　22	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター調査研究等部会・奈良文化財研究所）
元.　5.　14	第１回内部統制委員会（東京国立博物館）
元.　5.　14	第１回リスク管理委員会（東京国立博物館）
元.　5.　30	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会及び総会・東京国立博物館）
元.　6.　19	監査法人の監査結果（平成 30 年度）通知
元.　6.　19	第２回役員会（東京文化財研究所）
元.　6.　25	平成 30 年度定期監事監査（東京国立博物館）
元.　6.　28	独立行政法人国立文化財機構の平成 30 年度自己評価書の提出
元.　6.　28	独立行政法人国立文化財機構の第 12 期事業年度財務諸表の提出
元.　7.　17	令和元年度独立行政法人国立文化財機構新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京国立博物館）（～7 月 18 日）
元.　7.　25	第３回役員会（奈良文化財研究所）
元.　7.　30	独立行政法人国立文化財機構運営委員会（東京国立博物館）
元.　9.　27	第４回役員会（奈良国立博物館）
元.　10.　21	第１回７施設連絡協議会(東京国立博物館)
元.　9.　11	第２回内部統制委員会（東京国立博物館）
元.　9.　11	第２回リスク管理委員会（東京国立博物館）
元.　11.　1	令和元年度独立行政法人国立文化財機構階層別研修（東京国立博物館）（11 月 13 日にも同内容を開催）
元.　11.　12	第５回役員会（東京国立博物館）
元.　12.　5	情報システム・セキュリティ委員会（東京国立博物館）
元.　12.　12	第６回役員会（九州国立博物館）
2.　1.　24	第７回役員会（東京国立博物館）
2.　1.　28	第３回内部統制委員会（東京国立博物館）
2.　1.　28	第３回リスク管理委員会（東京国立博物館）
2.　3.　4	第２回７施設連絡協議会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、メール開催）
2.　3.　23	臨時役員会（東京国立博物館）
2.　3.　24	第８回役員会（東京国立博物館）

（文化財活用センター）

年　月　日	記　　事
31. 4. 1	VR 作品「空海 祈りの形」（TNM & TOPPAN ミュージアムシアター、3.27～6.30）を凸版印刷株式会社、東京国立博物館との共同により制作、公開
31. 4. 16	複製品貸与「平家物語　一の谷・屋島合戦図屏風」（キヤノン株式会社、ショールーム）
31. 4. 20	貸与促進事業小規模貸与企画「没後 200 年記念 増山雪斎展」三重県立美術館にて開催（～6.16）
31. 4. 24	文化財活用センターウェブサイトをリニューアル
元. 5. 9	第 1 回文化財活用センター連絡調整委員会を開催
元. 5. 13	SHARP 株式会社との連携による「８Ｋモニターを用いた文化財の活用方法の開発に関する共同研究プロジェクト」を発足
元. 6. 15	ぶんかつアウトリーチプログラム「屏風体験！松林図屏風をプロデュース」（板橋区立上板橋第二小学校）を実施
元. 7. 3	VR 作品「VR 刀剣 三日月宗近 岡田切吉房」（TNM & TOPPAN ミュージアムシアター、～10.6）を凸版印刷株式会社、東京国立博物館との共同により制作、公開
元. 7. 5	ぶんかつアウトリーチプログラム「屏風体験！松林図屏風をプロデュース」（杉並区立杉並第二小学校）を実施
元. 7. 8	令和元年度美術館・博物館等保存担当学芸員研修を東京文化財研究所と共同で実施（～7.19）
元. 7. 18	複製品貸与　国宝「洛中洛外図屏風（舟木本）」（凸版印刷株式会社、丸ビルホール）（～7.19）
元. 7. 20	貸与促進事業小規模貸与企画「あおもり土偶展」三内丸山遺跡センターにて開催（～9.1）
元. 7. 29	複製品貸与　国宝「松林図屏風」（キヤノン株式会社、グッドデザイン賞審査会場）（～8.3）
元. 7. 31	保存環境調査・管理に関する講習会【第 1 回　-北川式検知管による空気環境調査と評価ー】を実施
元. 8. 6	体験型展示「びじゅチューン！×きゅーはく　なりきり美術館」を九州国立博物館と共同で開催（～10.14）
元. 8. 10	体験型展示「びじゅチューン！×TAD　なりきり美術館」を富山県美術館と共同で開催（～10.20）
元. 8. 26	令和２年度東京国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館選定委員会を実施
元. 9. 2	複製品貸与 重要文化財「風神雷神図屏風」（京都文化協会、ICOM 会場）（～9.16）
元. 9. 14	複製品貸与 国宝「松林図屏風」、重要文化財「風神雷神図/夏秋草図屏風」、「土偶」、「火焔型土器」（新潟県立歴史博物館）（～11.30）
元. 9. 17	複製品貸与 重要文化財「風神雷神図屏風」（キヤノン株式会社、建仁寺）（～9.27）
元. 9. 20	貸与促進事業大規模貸与企画「明治金工の威風　―高岡の名品、同時代の名工」高岡市美術館にて開催（～10.20）
元. 9. 21	貸与促進事業キリシタン関係遺品貸与企画「大分のキリスト教史」大分県立先哲史料館にて開催（～11.4）

元. 10. 2　ぶんかつアウトリーチプログラム「教員向け研修会（大田区教研小中連携図工・美術研究部会)」（大田区立馬込中学校）を実施

元. 10. 4　複製品貸与 重要文化財「風神雷神図屏風/夏秋草図屏風」（糸魚川市相馬御風記念館）（～11.5）

元. 10. 9　VR 作品「正倉院―時を超える想い」（TNM & TOPPAN ミュージアムシアター、～12.22）を凸版印刷株式会社、東京国立博物館との共同により制作、公開

元. 10. 29　「8K で文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」を東京国立博物館と共同で開催（～11.24）

元. 11. 6　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（三重県立四日市高等学校）を実施

元. 11. 23　公開シンポジウム 2019「複製がひらく文化財の未来」を開催

元. 12. 12　保存環境調査・管理に関する講習会【第 2 回　-資料保存用資材としての中性紙ー】を実施

元. 12. 16　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（栃木市立都賀中学校）を実施（～12.25）

元. 12. 17　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（鷗友学園女子中学高等学校）を実施

元. 1. 2　VR 作品「日本工芸の名宝 色絵月梅図茶壺・八橋蒔絵螺鈿硯箱」（TNM & TOPPAN ミュージアムシアター、～2.26 ※新型コロナウイルスの影響により期間を短縮）を凸版印刷株式会社、東京国立博物館と共同で公開

元. 1. 14　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（東京都立小石川中等教育学校）を実施

2. 1. 17　ファンドレイジング事業「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」を開始

2. 1. 21　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（大田区立馬込小学校）を実施

2. 1. 28　貸与促進事業小規模貸与企画「近代洋画の先駆者　浅井忠　―トーハクの名画がやってきた！―」千葉県立美術館にて開催（～3.1）

2. 1. 29　第 2 回文化財活用センター連絡調整委員会を開催

2. 2. 12　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（鷗友学園女子中学高等学校）を実施（～2.25）

2. 2. 13　ANA アバター×ぶんかつアウトリーチプログラム「【特別編】自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（姫島村立姫島中学校・姫島小学校）を大分県、大分県教育委員会、姫島村、姫島村教育委員会、東京国立博物館、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、大分県立美術館、ＡＮＡホールディングス株式会社との共同で実施（～2.18）

2. 2. 20　ColBase（国立博物館所蔵品統合検索システム）をリニューアル

（文化財防災ネットワーク推進室）

年　月　日	記　　事
31.　4.　15	第7回推進会議活動ガイドライン策定ワーキンググループ会議（京都国立博物館）
31.　4.　19	平成31年度第1回文化財防災ネットワーク推進本部会議（東京国立博物館）
31.　4.　23	平成31年度文化財防災ネットワーク推進室全体会議（奈良文化財研究所）
元.　5.　20	第8回推進会議活動ガイドライン策定ワーキンググループ会議（京都国立博物館）
元.　5.　25	第10回文化遺産防災ネットワーク有識者会議（京都国立博物館）
元.　5.　29	第10回文化遺産防災ネットワーク推進会議（東京国立博物館）
元.　6.　19	令和元年度第2回文化財防災ネットワーク推進本部会議（東京文化財研究所）
元.　6.　24	第9回推進会議活動ガイドライン策定ワーキンググループ会議（黒田記念館）
元.　7.　29	第10回推進会議活動ガイドライン策定ワーキンググループ会議（京都国立博物館）
元.　8.　22	第11回文化遺産防災ネットワーク有識者会議（東京国立博物館）
元.　9.　27	令和元年度第3回文化財防災ネットワーク推進本部会議（奈良国立博物館）
元. 10.　7	文化財防災ネットワーク推進事業フォローアップ会議（1日目:京都国立博物館、2日目:東京国立博物館）（～10月8日）
元. 10. 26	シンポジウム 文化財を守り伝える2「東日本大震災から8年の今、これから」（けいはんなオープンイノベーションセンター）
元. 11.　6	文化財等防災ネットワーク研修（奈良文化財研究所）（～11月7日）
元. 11. 12	令和元年度第4回文化財防災ネットワーク推進本部会議（東京国立博物館）
元. 12.　7	文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「地域社会と文化財―身近にある文化財、それをまもり伝える意味」（東京国立博物館）
元. 12. 12	令和元年度第5回文化財防災ネットワーク推進本部会議（九州国立博物館）
元. 12. 19	令和元年度文化財防災ネットワーク事業研修会「北海道における文化財防災を考える」（北海道立近代美術館）
2.　2.　4	第11回文化遺産防災ネットワーク推進会議（東京国立博物館）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
31. 4. 2	キャンパスメンバーズ会員校の学生限定「ハッシュタグキャンペーン」（～6 月 2 日）
31. 4. 10	記念公演「真言声明 ―東寺の音と共に―」（4 月 17 日）
31. 4. 15	秋篠宮同妃両殿下および両内親王殿下　特別展　御即位 30 年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」お成り
31. 4. 17	特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」10 万人セレモニー
31. 4. 24	皇太子同妃両殿下　特別展　御即位 30 年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」行啓
31. 4. 26	上野ミュージアムウィーク　－「国際博物館の日」記念事業 2019－（～5 月 19 日）
31. 4. 27	上野の森バレエホリデイ　野外シネマ×バレエホリデイ
元. 5. 1	天皇陛下御即位記念　総合文化展無料観覧日
元. 5. 11	東京シシマイコレクション 2020 プレ ～東日本大震災から復活したシシマイ～（5 月 12 日）
元. 5. 12	国際博物館の日記念ツアー「上野の山で動物めぐり～ツノのある動物～」
元. 5. 16	特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」30 万人セレモニー
元. 5. 18	国際博物館の日　総合文化展無料観覧日
元. 5. 21	高円宮妃殿下　特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 ―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―」お成り
元. 5. 28	特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」40 万人セレモニー
元. 6. 15	石井啓一国土交通大臣　総合文化展視察
元. 6. 16	初夏のコンサート
元. 6. 18	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」開幕記念式典及び特別内覧会
元. 6. 30	初夏東博寄席 2019
元. 7. 8	日中文化交流協定締結 40 周年記念　特別展「三国志」開幕記念式典及び特別内覧会
元. 7. 17	日本文化体験　日本のよろい！（～9 月 1 日）
元. 7. 26	トーハク BEER NIGHT! 2019（～7 月 27 日）
元. 8. 2	特別展「三国志」10 万人セレモニー
元. 8. 4	トーハクキッズデー
元. 8. 27	特別展「三国志」20 万人セレモニー
元. 8. 31	クラリネットコンサート
元. 9. 10	博物館でアジアの旅　LOVE♡アジア（ラブラブアジア）（～10 月 14 日）
元. 9. 10	スペシャルツアー「愛を探す旅 ―添乗員はトーハク研究員―」（10 月 8 日）
元. 9. 13	特別展「三国志」30 万人セレモニー
元. 9. 14	仏像大使　トークショー
元. 9. 20	インドネシアの伝統芸能「ジャワの影絵芝居 ワヤン･クリ」（9 月 21 日）
元. 9. 20	博物館で野外シネマ 映画「この世界の片隅に」（～9 月 21 日）
元. 9. 23	秋のコンサート
元. 9. 27	マットでリラックスヨガ in 表慶館
元. 9. 30	住友財団修復助成 30 年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」開幕記念式典及び特別内覧会

元. 10. 11　TOKYO まちなかコンサート ～芸術の秋、音楽さんぽ～
元. 10. 12　台風 19 号の影響により臨時休館（～10 月 13 日 13 時）
元. 10. 13　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」開幕記念式典及び特別内覧会
元. 10. 18　東京国立博物館評議員会
元. 10. 19　シンポジウム「文化財よ、永遠に―文化財修理の最前線」
元. 10. 22　即位礼正殿の儀　総合文化展無料観覧日
元. 10. 24　三笠宮彬子女王殿下　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」お成り
元. 10. 29　8K で文化財　国宝「聖徳太子絵伝」2019（～2 月 2 日）
元. 10. 29　秋の庭園開放（～12 月 8 日）
元. 10. 31　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」10 万人セレモニー
元. 10. 31　創エネ・あかりパーク 2019 に伴う夜間開館およびライトアップ（～11 月 4 日）
元. 11.　3　留学生の日
元. 11.　3　文化の日　総合文化展無料観覧日
元. 11.　4　カタール国シェイク・ハマド・ビン・アブドラ・アルサーニ殿下ご来館（～11 月 6 日）
元. 11.　5　特別展「人、神、自然－ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界－」開幕記念式典及び特別内覧会
元. 11.　6　高円宮妃殿下　特別展「人、神、自然－ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界－」お成り
元. 11.　8　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」20 万人セレモニー
元. 11. 11　上皇上皇后両陛下　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」行幸啓
元. 11.　6　高円宮妃殿下　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」お成り
元. 11. 13　東大寺講演会
元. 11. 19　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」30 万人セレモニー
元. 11. 22　秋篠宮皇嗣同妃両殿下　御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」お成り
元. 11. 26　第 16 回「台東区の伝統工芸職人展」（～12 月 1 日）
元. 12.　6　Daiwa Sakura Aid presents トーハク ジャズフェスティバル（～12 月 7 日）
元. 12.　7　東博ボランティアデー2019（～12 月 8 日）
元. 12. 15　クリスマスコンサート
元. 12. 21　特別公開「高御座と御帳台」報道内覧会
2.　1.　2　博物館に初もうで（～1 月 26 日）
2.　1. 14　日本書紀成立 1300 年　特別展「出雲と大和」開幕記念式典及び特別内覧会
2.　1. 15　記念公演「雅楽・石見神楽」
2.　1. 21　萩生田光一文部科学大臣　特別展「出雲と大和」及び総合文化展視察
2.　1. 25　日本文化との出会い「外国人のための浮世絵摺り実演」（英語実施）
2.　1. 26　新春東博寄席 2020
2.　2.　1　国際シンポジウム　展示室で語る「日本美術」
2.　2. 14　特別展「出雲と大和」10 万人セレモニー

2.　2. 21　　北村誠吾内閣府特命担当大臣　特別展「出雲と大和」視察

2.　2. 27　　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～2 年 6 月 1 日）

2.　3. 10　　吉野山の桜植樹式

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
31.	4.	11	香港中文大学文物館「博物館専門研修交流プログラム」受入
31.	4.	12	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」 記者発表、開会式、内覧会
31.	4.	13	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」（～6 月 9 日）
31.	4.	13	記念講演会「時宗教団の変遷」
31.	4.	20	仏教美術研究上野記念財団　研究発表と座談会「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」
31.	4.	26	キャンパスメンバーズ限定講演会
31.	4.	27	記念講演会「一遍・真教の念仏思想」
31.	4.	28	記念イベント「時宗声明と踊躍念仏」
元.	5.	1	御即位記念　ポストカード配布
元.	5.	11	記念講演会「国宝 一遍聖絵―旅と風景、その魅力と謎―」
元.	5.	18	記念講演会「時宗のみほとけ―阿弥陀と祖師像を中心に―」
元.	5.	24	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会
元.	5.	24	京都・らくご博物館【春】～新緑寄席～Vol.52
元.	5.	25	記念講演会「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」
元.	5.	26	国際博物館の日・ＩＣＯＭ京都大会開催記念シンポジウム
元.	6.	2	菅内閣官房長官視察
元.	6.	11	衛生管理講習会「足の爪のトラブルについて」
元.	6.	18	全国消防長会東近畿支部予防業務研究会
元.	7.	6	土曜講座「重要文化財　太刀　銘国吉について―鎌倉時代前期の山城鍛冶再考―」
元.	7.	13	土曜講座「赤ってじつはどんな色？」
元.	7.	20	土曜講座「鳥取・兵庫の原始・古代文化―山陰と山陽の交流点―」
元.	7.	26	第８６回夏期講座「日本人と自然Ⅰ」（～7 月 27 日）
元.	8.	2	文化財を教室に！―複製を活用した事例紹介と交流会―
元.	8.	3	土曜講座「海を渡った扇―橋本雅邦最後の大仕事―」
元.	8.	4	特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリートーク
元.	8.	5	普通救命講習
元.	8.	9	らくご博物館【夏】～納涼寄席～Vol.53
元.	8.	10	夏休み企画「トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー」
元.	8.	14	ＩＣＯＭ京都大会開催記念　特別企画「京博寄託の名宝」（～9 月 16 日）
元.	8.	19	文化財保存修理所における大学院生インターンシップ（～9 月 20 日）
元.	8.	20	社会科教員のための向上講座
元.	8.	23	名品ギャラリー来館者１００万人セレモニー
元.	8.	24	土曜講座「寄託制度と博物館」
元.	8.	26	京都市立中学校美術部員「記者体験」in 京都国立博物館
元.	8.	31	ＩＣＯＭ　ＤＲＭＣ(Disaster Risk Management Committee)ワークショップ
元.	9.	1	ＩＣＯＭ京都大会（～9 月 7 日、京都国際会議場ほか）
元.	9.	1	ＩＣＯＭ　ＵＭＡＣワークショップ

元. 9. 1　ＩＣＯＭ　ＣＯＳＴＵＭＥミーティング
元. 9. 1　明治古都館（本館）特別公開（～9 月 6 日）
元. 9. 1　秋篠宮皇嗣殿下・妃殿下お成り
元. 9. 2　凸版印刷ＶＲ上映及び京都造形芸術大学作品展示（～9 月 4 日）
元. 9. 5　ＩＣＯＭ京都大会開催記念　風神雷神図屏風特別展示（～9 月 16 日）
元. 9. 5　ＩＣＯＭ　ＩＣＥＥオフサイトミーティング
元. 9. 5　ＩＣＯＭＡＭオフサイトミーティング
元. 9. 5　鈴木俊一国務大臣（東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当）視察
元. 9. 6　ＩＣＯＭ京都大会エクスカーション　文化財保存修理所視察
元. 9. 6　カルコン美術対話委員会
元. 9. 6　ＩＣＯＭ京都大会開催記念カルコン美術対話委員会公開シンポジウム「日本美術史と国際交流―課題と可能性」
元. 9. 7　ＫＹＯＴＯ博物館子どもフォーラム
元. 9. 7　ＩＣＯＭ京都大会閉会式
元. 9. 7　ＩＣＯＭ京都大会クロージング・パーティー
元. 9. 7　無料観覧日
元. 9. 13　保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
元. 9. 14　土曜講座「モノから聞こえる物語―「唐鏡」はどこから来たのか―」
元. 10. 4　特別展「聖地をたずねて　西国三十三所の信仰と至宝」報道発表（読売新聞東京本社）
元. 10. 11　特別展「流転１００年　佐竹本三十六歌仙と王朝の美」記者発表、開会式、内覧会
元. 10. 11　「京都へのいざないプラン」プレスリリース
元. 10. 12　特別展「流転１００年　佐竹本三十六歌仙と王朝の美」（～11 月 24 日）
元. 10. 12　臨時休館（台風１９号の影響による）
元. 10. 13　開幕記念講演会「冷泉家の歴史と文化―冷泉流歌道をめぐって－」
元. 10. 19　記念講演会「歌仙絵の成立と展開―佐竹本への道のり―」
元. 10. 22　即位礼正殿の儀記念　ポストカード配布
元. 10. 26　シンポジウム「文化財を守り伝える②　東日本大震災から 8 年の今、これから」（けいはんなオープンイノベーションセンターミュージアムホール）
元. 11. 1　留学生の日
元. 11. 1　キャンパスメンバーズ向け講演会
元. 11. 2　記念講演会「歌仙絵の最高峰―佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒―」
元. 11. 4　特別講演「巡る美　変わる美―流転する日本文化―」
元. 11. 7　特別展「流転１００年　佐竹本三十六歌仙と王朝の美」５万人セレモニー
元. 11. 15　京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～Vol.54
元. 11. 16　記念講演会「佐竹本三十六歌仙絵への想い」
元. 11. 16　文化財保存修理所インターンシップ報告会
元. 11. 18　臨時開館
元. 11. 18　特別展「流転１００年　佐竹本三十六歌仙と王朝の美」１０万人セレモニー
元. 12. 20　特別展「聖地をたずねて」新春特集展示　記者発表
2. 1. 4　新春イベント　能楽公演

2. 1. 11　土曜講座「三十三間堂の仏像」
2. 1. 12　新春イベント　芸舞妓　春の舞
2. 1. 18　土曜講座「動物埴輪はなぜ造られたかー動物と古墳時代の人々ー」
2. 1. 25　土曜講座「江戸時代後期、御所造営にともなう賢聖障子の製作過程」
2. 1. 27　総合防災訓練
2. 2. 1　土曜講座「おそるべきねずみたち」
2. 2. 3　ミュージアム日本専門家連携・交流事業　ワークショップ・京都視察（～2 月 5 日）
2. 2. 8　土曜講座１９００回記念「京都国立博物館の過去・現在・未来Ⅱ」
2. 2. 9　トークイベント「いまひとたびの『風神雷神』 原田マハと京博の研究者たち」
2. 2. 11　ICOM 京都大会開催記念シンポジウム　日本のミュージアムの未来「ICOM 京都大会を振り返るー成果と課題ー」
2. 2. 14　評議員会
2. 2. 15　土曜講座「近世陶磁器の彩色材料」
2. 2. 19　ミュージアム・パートナー事業報告会
2. 2. 22　土曜講座「近世の画家のスケッチ」
2. 2. 23　ICOM 京都大会開催記念シンポジウム　日本のミュージアムの未来「ICOM 京都大会の成果を生かすー今後の博物館制度ー」
2. 2. 27　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～2 年 3 月 22 日）
2. 2. 28　修復から明らかになった新知見　記者説明会
2. 3. 13　「トラりんチャンネル展覧会」だリン♪公開
2. 3. 19　「トラりんチャンネル展覧会２」鏡だリン♪公開
2. 3. 24　庭園無料公開（～4 月 9 日）
2. 3. 27　特別展「聖地をたずねて」ワークショップナビゲーター研修（～3 月 28 日）
2. 3. 27　「トラりんチャンネル展覧会３」縄文土器だリン♪公開
2. 3. 29　「トラりんチャンネル展覧会４」雛まつりと人形だリン♪公開

（奈良国立博物館）

年　月　日	記　　事
31.　4.　4	春季仏像供養法要
31.　4. 12	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」開会式、内覧会　（会期 4 月 13 日～6 月 9 日）
31.　4. 14	もっと知りたい！奈良博の魅力「春の庭園を散策しませんか」
31.　4. 14	京都国立博物館マスコット「トラりん」グリーティング
31.　4. 20	公開講座「藤田傳三郎と藤田美術館 伝統と未来」
31.　4. 21	サンデートーク「仏像の『かざり』をめぐって」
31.　4. 21	もっと知りたい！奈良博の魅力「春の庭園を散策しませんか」
31.　4. 16	賛助会員特別鑑賞会
31.　4. 17	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会
31.　4. 30	改元記念講演会　ようこそ新元号！～これまでの奈良博、これからの奈良博～
元.　5.　1	名品展無料観覧日（天皇陛下御即位慶祝）
元.　5.　5	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」
元.　5. 10	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」7 万人セレモニー
元.　5. 11	公開講座「国宝 曜変天目茶碗の謎にせまる」
元.　5. 12	もっと知りたい！奈良博の魅力「春の庭園を散策しませんか」
元.　5. 18	名品展無料観覧日（国際博物館の日）
元.　5. 19	サンデートーク「古代寺院の堂内荘厳」
元.　5. 19	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」
元.　5. 22	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」10 万人セレモニー
元.　5. 25	公開講座「藤田美術館の仏教美術コレクション」
元.　5. 25	Daiwa Sakura Aid FOR THE GENERATION FM802 番組公開収録
元.　5. 25	Daiwa Sakura Aid Presents 新元号制定記念コンサート
元.　5. 26	藤田美術展関連イベント「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」
元.　6. 16	サンデートーク「古神宝の世界」
元.　7. 13	京都国立博物館マスコット「トラりん」来訪
元.　7. 13	わくわくびじゅつギャラリー　いのりの世界のどうぶつえん（～9 月 8 日まで）
元.　7. 13	特別陳列　法徳寺の仏像　－近代を旅した仏たち－（～9 月 8 日まで）
元.　7. 21	サンデートーク「再び、空海の舎利信仰の源流についてースリランカから東寺まで―」
元.　7. 23	夏季仏像供養法要
元.　7. 26	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり
元.　7. 27	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」
元.　8.　9	Daiwa Sakura Aid Presents ジュスカグランペールコンサート（～8 月 10 日）
元. 8.　17	絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」
元. 8.　18	サンデートーク「文化財を科学するⅥ」
元.　8. 21	夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」（～8 月 23 日まで）
元.　8. 24	公開講座「近代を旅した仏たち―奈良ゆかりの仏像を中心に―」
元.　9.　1	名品展無料観覧日（関西文化の日プラス）
元.　9.　1	英語落語

元. 9. 15　サンデートーク「平安時代の寺社参詣」
元. 9. 26　正倉院展無障碍祈願法要
元. 10. 2　秋季仏像供養法要
元. 10. 13　サンデートーク「第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」
元. 10. 25　特別展「御即位記念　第71回 正倉院展」開会式、特別招待日（会期10月26日～11月14日）
元. 10. 26　正倉院展　法華寺御流のいけばな展示（～11月14日まで）
元. 10. 26　正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」（～11月14日まで）
元. 10. 26　正倉院展「野点のお茶席」（～11月14日まで）
元. 10. 26　正倉院展短歌コンクール受賞作品展示（～11月14日まで）
元. 10. 27　第71回正倉院展 親子鑑賞会
元. 10. 28　賛助会員特別鑑賞会
元. 10. 29　プレミアムカード会員特別鑑賞会
元. 11. 1　留学生の日
元. 11. 1　正倉院展1000万人セレモニー
元. 11. 2　公開講座「正倉院に伝わる作り物をめぐって―仮山残欠を中心に―」
元. 11. 2　FM COCOLO Daiwa Sakura Aid GO GO ゴンチチ公開録音
元. 11. 3　正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
元. 11. 4　特別講演会「遺愛とその輝き」
元. 11. 8　特別展「第71回 正倉院展」20万人セレモニー
元. 11. 9　公開講座「正倉院の風鐸―金銅鎮鐸について―」
元. 11. 14　無料観覧日（御即位記念）
元. 11. 23　名品展無料観覧日（関西文化の日）（～11月24日）
元. 11. 23　もっと知りたい！奈良博の魅力「秋の庭園を散策しませんか」（～11月24日）
元. 11. 24　サンデートーク「東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐって―追憶の天平仏画」
元. 12. 6　特別陳列「重要文化財　法隆寺金堂壁画写真ガラス原板　－文化財写真の軌跡－」開会式、招待日（会期12月7日～令和 2年1月13日）
元. 12. 7　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（～令和 2年1月13日）
元. 12. 10　正倉院展満願法要
元. 12. 15　サンデートーク「古写真と仏像研究」
元. 12. 17　名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
元. 12. 17　おん祭「茶会」
元. 12. 18　春日若宮おん祭で使用される備品の展示（～令和 2年1月13日）
元. 12. 15　サンデートーク「古写真と仏像研究」
元. 12. 17　名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
元. 12. 21　公開講座「春日大社にまつわる絵師たち」
元. 12. 24　特集展示「新たに修理された文化財」（～令和2年1月13日）
元. 12. 28　ゆかりの刀剣神社・博物館スタンプラリー（～令和2年2月26日）
2. 1. 9　文化財保存修理所特別公開
2. 1. 11　奈良文化クラスター事業 春日大社、奈良国立博物館連携シンポジウム「最古の刀－日本

刀成立の謎に迫る」

2. 1. 11　公開講座「文化財写真の軌跡―150年のあゆみ―」
2. 1. 19　サンデートーク「室町時代の“公務員”？－幕府官僚の実態に迫る」
2. 1. 22　第66回文化財防火デー消防訓練
2. 1. 22　冬季仏像供養法要
2. 2. 3　特別展「毘沙門天－北方鎮護のカミ－」開会式、招待日　（会期2月4日～2月26日）
2. 2. 3　名品展無料観覧日（節分の日）
2. 2. 4　毘沙門天関連展示オンラインゲーム「なむあみだ仏っ！－蓮台UTENA－」のキャラクター等身大パネル展示（～2月26日）
2. 2. 4　特別陳列「お水取り」（～2月26日）
2. 2. 4　賛助会員特別鑑賞会
2. 2. 4　お水取り展　修二会お松明展示（～2月26日）
2. 2. 8　お水取り「講話」と「現地解説」の会
2. 2. 11　公開講座「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」
2. 2. 11　親子ワークショップ「チョコパンケーキを作って食べよう」
2. 2. 12　プレミアムカード会員特別鑑賞会
2. 2. 14　奈良国立博物館ブライダルショー世界に一つだけ、あなたのWedding（～2月15日）
2. 2. 15　公開講座「毘沙門天の源流を探る―インドからガンダーラ・西域へ―」
2. 2. 16　サンデートーク「鏡を楽しむ」
2. 2. 27　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～2年6月1日）

（九州国立博物館）

年　月　日	記　　事
31.　4.　6	第 81 回はじめての茶道体験
31.　4.　6	夜の博物館たんけん隊
31.　4. 20	九州国立博物館　夜間開館２周年記念　九博応援大使　サラ・オレイン　ミニ・コンサート
31.　4. 22	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」開会式および内覧会
31.　4. 23	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」開催（～6 月 16 日）
31.　4. 24	移動博物館車両　きゅーはく号　贈呈式
31.　4. 27	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念講演会「鎌倉彫刻の巨匠　運慶・快慶とその次世代の仏師たち」
元.　5.　1	新元号「令和」揮毫大会「元号を書いてみよう！」
元.　5.　3	きゅーはくで楽しく！わく☆わくワークショップ
元.　5.　4	夜の博物館たんけん隊
元.　5.　4	きゅーはく夢ひろば（～5 日）
元.　5.　4	「きゅーはく号」体験イベント（～5 日）
元.　5.　6	新元号記念特別企画「令和」関連特別講演会「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」
元.　5. 11	なりきり学芸員体験
元.　5. 17	きゅーはくカフェコンサート
元.　5. 18	文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
元.　5. 24	国立扶餘博物館・国立公州博物館研究者招聘記念講演会 『ふたつの百済-その歴史と文化-』
元.　5. 25	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念講演会「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」
元.　5. 26	第 87 回親子で茶道体験
元.　5. 26	九州国立博物館杯　特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念 第 14 回さいふごま大会
元.　6.　1	夜の博物館たんけん隊
元.　6.　1	太宰府天満宮　九州国立博物館共催　花菖蒲コンサート
元.　6.　1	九博ホタル鑑賞会
元.　6.　2	太宰府天満宮　九州国立博物館共催　花菖蒲コンサート
元.　6.　2	第 82 回はじめての茶道体験
元.　6.　7	きゅーはくカフェコンサート
元.　6.　8	太宰府天満宮　九州国立博物館共催　花菖蒲コンサート
元.　6.　9	太宰府天満宮　九州国立博物館共催　花菖蒲コンサート
元.　6.　9	馬頭琴ワークショップ
元.　7.　6	夜の博物館たんけん隊
元.　7. 12	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」開会式および内覧会
元.　7. 13	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」開催（～9 月 1 日）
元.　7. 13	ガムランワークショップ　ジャワのガムラン演奏体験～アジアの青銅楽器の魅力～
元.　7. 14	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」記念講演会「室町将軍家の東アジア外交」

元.　7. 15　九州国立博物館杯　特別展「室町将軍」記念　第15回さいふごま大会
元.　7. 19　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」関連イベント
実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～
元.　7. 19　きゅーはくカフェコンサート
元.　7. 20　リレー講座「足利十五代－ムロマッチクな男たち－」「名刀乱舞！足利将軍」
元.　7. 20　第8回スケッチしナイト☆
元.　7. 21　トレジャーハンターみっちーとDr.ランディのきゅーはくディスカバリー
「タイムマシンにのって」
元.　7. 27　「いこうよ！あじっぱ夏祭り2019」（～28日）
元.　7. 28　第88回親子で茶道体験
元.　8.　1　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」関連イベント
視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧ツアー
元.　8.　3　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」記念講演会
「室町将軍の再評価－本当に弱かったのか－」
元.　8.　3　夜の博物館たんけん隊
元.　8.　4　博多祇園山笠「飾り山笠」展示関連（～7日）
元.　8.　4　シンポジウム「2019全国高等学校　歴史学フォーラム」
元.　8.　6　びじゅチューン！きゅーはくなりきり美術館（～10月14日）
元.　8.　7　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」関連イベント
実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～
元.　8. 10　なりきり考古学者体験【拓本体験】
元.　8. 10　特集展示「更紗　生命の花咲く布」関連イベント　茜染めワークショップ
元.　8. 11　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」関連イベント華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストレーション「いけばなにおける室町時代」
元.　8. 12　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」開催記念シンポジウム
「京都・等持院　歴代足利将軍像の謎に迫る」
元.　8. 17　令和元年度留学生スペシャルイベント「茶室探訪 in 九博」
元.　8. 23　きゅーはくカフェコンサート
元.　8. 24　第89回親子で茶道体験
元.　8. 28　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」関連イベント
視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧ツアー
元.　9.　7　夜の博物館たんけん隊
元.　9.　7　東九州神楽人の祭展　神楽公演「京築神楽」「高鍋神楽」「庄内神楽」「京築神楽」
（～8日）
元.　9.　7　神楽体験ワークショップ「御幣づくり」（～8日）
元.　9.　8　東九州神楽人の祭展　神楽装束体験（庄内神楽）
元.　9. 14　修復の現場お見せします！特別公開『博物館科学・文化財保存修復施設』
元.　9. 14　第83回はじめての茶道体験
元.　9. 14　ミュージアムコンサート　オカリナ×秋のアンサンブル
元.　9. 16　文化交流展無料観覧日（敬老の日）

元.　9.　22　第6回みゅーじあむ寄席　ミュージカル落語「三国志」
元.　9.　25　4階文化交流展示室 特別無料観覧 with「太宰府 古都の光」
元.　9.　25　九州国立博物館文化交流展特集展示「更紗　生命の花咲く布」記念イベント
～インドの風～神秘の舞とシタール演奏
元.　9.　28　特集展示「文化財よ、永遠に」関連講演会「修理、果てしなき挑戦」
元.　9.　28　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」関連イベント
視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧ツアー
元.　9.　29　なりきり学芸員体験
元.　9.　30　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」開会式および内覧会
元.　10.　1　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」開催（～2年1月5日）
元.　10.　3　第1回評議員会
元.　10.　5　ワークショップ「修理のヒミツにふれてみよう！」
元.　10.　5　夜の博物館たんけん隊
元.　10.　14　びじゅチューン！なりきり美術館＆三国志コンサート
元.　10.　18　きゅーはくカフェコンサート
元.　10.　20　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」講演会
「ここまで分かった“リアル三国志” － 新発見の考古資料から読み解く －」
元.　10.　22　文化交流展無料観覧日（即位礼正殿の儀）
元.　10.　23　IPMセミナー
元.　10.　27　第90回親子で茶道体験
元.　10.　27　九州国立博物館杯　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念
第16回さいふごま大会
元.　11.　2　夜の博物館たんけん隊
元.　11.　3　文化交流展無料観覧日（留学生の日）※留学生のみ
元.　11.　3　第10回留学生イベント　留学生向け「文化交流ツアーin九博 2019」
元.　11.　5　醍醐の桜　植樹式
元.　11.　7　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」5万人セレモニー
元.　11.　9　きゅーはくミュージアムコンサート「中国悠久の調べ」
元.　11.　10　第84回はじめての茶道体験
元.　11.　17　文化交流展無料観覧日（家族の日）※中学生以下のお子様の同伴者2名まで
元.　11.　17　特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会
元.　11.　19　令和 元年度文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災ー現状の課題と今後の連携に向けてー」
元.　11.　22　夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム～英雄(ヒーロー)現る‼」【手話通訳付き！】
元.　11.　23　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」関連イベント「夜な夜な三国志」
元.　11.　24　実測体験　なりきり考古学者体験
元.　11.　30　特集展示「縄文王国やまなし」関連講演会　日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」
元.　11.　30　特集展示「縄文王国やまなし」関連イベント「黒曜石にさわってみよう」、「縄文服を着てみよう」、「縄文土器の拓本カードを作ろう」（～12月1日）

元. 12. 1 映画「縄文にハマる人々」無料上映会＆トークイベント
元. 12. 5 視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展「三国志」観覧ツアー
元. 12. 6 夜の九博☆ファンタジア 2019「キラキラ博物館」（～7 日）
元. 12. 7 夜の博物館たんけん隊
元. 12. 11 視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展「三国志」観覧ツアー
元. 12. 13 日中文化交流協定締結 40 周年記念特別展「三国志」10 万人セレモニー
元. 12. 14 日中文化交流協定締結 40 周年記念特別展「三国志」記念特別講演「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」「三国志の時代と卑弥呼の鏡」
元. 12. 14 夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム～英雄(ヒーロー)現る‼」【手話通訳付き！】
元. 12. 20 きゅーはくカフェコンサート
元. 12. 22 第 91 回親子で茶道体験
元. 12. 22 第 7 回みゅーじあむ寄席　年忘れ落語会「春風亭一之輔、三遊亭天どん二人会」
2. 1. 1 きゅーはくニッポンの正月　刀剣オリジナルカレンダープレゼント（～5 日）
2. 1. 1 きゅーはくニッポンの正月「ニッポンの凧」（～13 日）
2. 1. 2 きゅーはくニッポンの正月「九博で書初め」（～3 日）
2. 1. 2 きゅーはくニッポンの正月　ジャンボだるま落としに挑戦！（～3 日）
2. 1. 4 夜の博物館たんけん隊
2. 1. 18 令和元年度　文化庁　地域と共働した博物館創造活動支援事業　連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～」
2. 1. 19 特集展示「刀剣ことはじめ」関連イベント　ワークショップ＆実演公開
2. 1. 25 第 85 回はじめての茶道体験
2. 1. 31 きゅーはくカフェコンサート
2. 2. 1 手話通訳付きバックヤードツアー
2. 2. 3 特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」開会式および内覧会
2. 2. 4 特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」開催（～2 月 26 日）
2. 2. 8 なりきり学芸員体験
2. 2. 9 特集展示「刀剣ことはじめ」関連イベント　ワークショップ＆実演公開
2. 2. 9 特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」記念講演会「フランス絵画の栄光ー古典主義からロマン主義まで」
2. 2. 14 第 44 期「棋聖戦」7 番勝負第 4 局太宰府対局（～15 日）
2. 2. 15 第 9 回スケッチしナイト☆
2. 2. 15 「焼き物コースターを作ろう ～印花に挑戦！～」第 1 回【焼き物講座・装飾体験「印花に挑戦！」】
2. 2. 24 ユニバーサルガイド養成プレセミナー
2. 2. 27 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～2 年 6 月 1 日）
2. 3. 10 第 2 回評議員会（書面会議にて開催）

（東京文化財研究所）

年　月　日	記　　事
31.　4. 13	国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来に伝えるために－歴史教育を通した戦後イラクの復興への挑戦－」
31.　4. 16	ズィー・カール大学 2 名　施設見学
元.　5.　9	湿度制御温風殺虫処理に関する専門家研究集会
元.　5. 11	東京シシマイコレクション 2020 プレ（東京国立博物館）（～5 月 12 日）
元.　6. 11	国際研修「壁画保存に向けた応急処置方法の検討と実施」（トルコ・聖テオドラ（タガール）教会）（～6 月 15 日）
元.　6. 21	文化財防災に関する研究協議会
元.　6. 24	「ブータンの歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」に係る専門家会合
元.　6. 26	韓国国立文化財研究所文化財保存科学センター3 名　施設見学
元.　7.　8	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7 月 19 日）
元.　7. 15	ワークショップ「壁画を有する煉瓦造寺院外壁の保存修復」「壁画保存修復」（ミャンマー・宗教文化省考古・国立博物館局バガン支局）（～7 月 27 日）
元.　7. 23	ミニシンポジウム「戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けて―松澤宥アーカイブを例に」
元.　7. 24	文化遺産国際協力コンソーシアム第 25 回研究会「文化遺産保護の国際動向―世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産―」
元.　7. 24	シリア人専門家研修「歴史的都市および建造物の復興に向けた調査計画手法」（～8 月 6 日）
元.　7. 25	シリア古物博物館総局 2 名　施設見学
元.　7. 29	国際集会「日本絵画の修復」（ポーランド・日本美術技術博物館 Manggha）（～7 月 30 日）
元.　8. 14	ワークショップ「染織品の保存と修復」（國立臺灣師範大學文物保存維護研究発展中心）（～8 月 23 日）
元.　8. 28	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム（韓国）（～8 月 31 日）
元.　9.　2	青山学院大学 11 名　施設見学
元.　9.　8	第 4 回箕の研究会
元.　9.　9	国際研修「紙の保存と修復」（～9 月 27 日）
元.　9. 10	国際シンポジウム「博物館とその周辺のエジプト学研究の最前線」
元.　9. 12	東北芸術工科大学 25 名　施設見学
元.　9. 18	青山学院大学 26 名　施設見学
元.　9. 20	世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」
元.　9. 20	韓国文化財庁文化財活用局世界遺産チーム 3 名　研究交流
元.　9. 22	歴史的集落保全に関する第 4 回エンジニアワークショップ（ネパール・キルティプル市）
元.　9. 30	国立台湾歴史博物館 3 名　施設見学
元. 10.　3	日本女子大学物質生物縦の会 21 名　施設見学
元. 10.　7	インドネシアバンドン工科大学芸術デザイン学部工業デザイン課 5 名　施設見学
元. 10.　7	国際研修「染織文化遺産保存修復ワークショップ」（アルメニア・エチミアジン大聖堂、歴史文化遺産科学研究センター）（～10 月 16 日）

元. 10. 8　文化財修復処置に関するワークショップ-ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法-（～10 月 10 日）
元. 10. 11　文化財修復処置に関する研究会　－クリーニングとゲルの利用について－
元. 10. 21　中国貴州省関係者 13 名　施設見学
元. 10. 23　無形文化遺産に関するワークショップ（ネパール・コカナ）
元. 10. 29　帝京大学文化財研究所文化財科学研究センター7 名　施設見学
元. 10. 30　国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（メキシコ・CNCPC-INAH）（～11 月 13 日）
元. 11. 1　第５３回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」（～11 月 2 日）
元. 11. 20　文化庁（研修生）10 名　施設見学
元. 11. 25　「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」（～11 月 29 日）
元. 11. 28　熊谷市文化財保護審議会 9 名　施設見学
元. 12. 1　文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―」（政策研究大学院大学　想海樓ホール）
元. 12. 1　歴史的集落保全に関する第 5 回エンジニアワークショップ（ネパール・キルティプル市）
元. 12. 2　文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー
元. 12. 2　ワークショップ「漆工品の保存と修復」（ドイツ・ケルン市博物館東洋美術館）（～12 月 6 日）
元. 12. 10　スレイマニヤ博物館 3 名　施設見学
元. 12. 10　復旦大学中華古籍保護研究院 18 名　施設見学
元. 12. 17　国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて（～12 月 18 日）
元. 12. 18　アジア太平洋無形文化遺産研究センター21 名　施設見学
元. 12. 19　令和元年度防災ネットワーク推進事業研修会「北海道における文化財防災を考える」（北海道立近代美術館）
元. 12. 20　第 14 回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」
元. 1. 5　カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第 3 回市長会議（ネパール・キルティプル市）
2. 1. 16　伝統民家の保存と活用に関するワークショップ（ブータン・内務文化省文化局）
2. 1. 18　東京シシマイフォーラム（東京シシマイコレクション 2020 プレ）
2. 1. 31　国際シンポジウム「アラビア半島の考古学 - オーストリア隊と日本隊の最新の成果から」
2. 1. 31　文化遺産国際協力コンソーシアム第 26 回研究会「文化遺産と SDGs II　－世界では、いま何が語られているのかー」（JP タワー　ホール&カンファレンス）
2. 2. 6　第 13 回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ　青花紙―花からつくる青色―」
2. 2. 6　「無形文化遺産の防災」連絡会議
2. 2. 14　「無形文化遺産の防災」連絡会議
2. 2. 17　公益財団法人文化財建造物保存技術協会 12 名　施設見学
2. 2. 20　東京学芸大学 15 名　施設見学
2. 2. 21　「無形文化遺産の防災」連絡会議

2. 2. 25　研究会「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して―」

2. 3. 8　歴史的集落保全に関する第6回エンジニアワークショップ（ネパール・シャンカラプル市）

（奈良文化財研究所）

年　月　日	記　　事
31.　4.　6	第17回平城宮跡クリーン大会実施
31.　4.　8	藤原宮跡資料室　特集展示「埋（うず）もれた大宮びとの横顔―薬・まじない・荘園の木簡」（～4月26日）
31.　4. 22	平城宮跡資料館　春期特別企画展「高御座―奈良朝の玉座―」（～6月2日）
31.　4. 23	飛鳥資料館　春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」（～6月30日）
元.　5. 18	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第25回）（～5月24日）
元.　5. 18	重要文化財キトラ古墳壁画の公開（第11回）（～6月16日）
元.　6.　7	平城宮跡大極殿院地区の発掘調査(平城第612 次）現地説明会
元.　6. 10	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（～6月14日）
元.　6. 15	奈良文化財研究所　第124回公開講演会
元.　6. 22	第4回文化財方法論研究会　―文化財研究を進める技術を考える―（～6月23日）
元.　7.　1	藤原宮跡資料室　ロビー展示「2018年飛鳥藤原地区発掘調査速報展」（～12月27日）
元.　7.　1	文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」（～7月5日）
元.　7.　6	４機関協定締結記念シンポジウム
元.　7. 13	古代土器研究集会「飛鳥時代の土器編年再考」（～7月14日）
元.　7. 19	飛鳥資料館　夏期企画展「第10回写真コンテスト「あすかの古墳」」（～9月1日）
元.　7. 20	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第26回）（～7月26日）
元.　7. 20	重要文化財キトラ古墳壁画の公開（第12回）（～8月18日）
元.　7. 20	平城宮跡資料館　夏期企画展「ならのみやこのしょくぶつえん」（～9月1日・9月5日） ※ギャラリートーク2回、ワークショップ2回実施
元.　8.　8	飛鳥資料館夏休みイベント「つくろう!!ミニチュア玉枕」 阿武山古墳から出土した玉枕のミニチュアをビーズで作るイベント（～8月9日）
元.　8. 21	「奈良の都の木簡に会いに行こう!2019」（日本学術振興会「ひらめき★ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」採択事業）（～8月22日）
元.　9. 10	考古学・文化財データサイエンス研究集会「考古学ビッグデータの可能性と世界的潮流」（～9月11日）
元.　9. 17	文化財担当者専門研修「堆積・地質学基礎課程」（～9月20日）
元.　9. 21	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第27回）について（～9月27日）
元.　9. 21	国宝キトラ古墳壁画の公開（第13回）（～10月20日）
元.　9. 24	文化財担当者専門研修「遺跡GIS課程」（～9月27日）
元.　9. 29	平城宮東方官衙地区の発掘調査(平城第615 次）現地説明会
元.　9. 30	文化財担当者専門研修「出土木器調査課程」（～10月4日）
元. 10.　5	第11回東京講演会「奈良の都、平城宮の謎を探る」
元. 10.　6	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第200 次）現地説明会
元. 10. 11	飛鳥資料館　秋期特別展「飛鳥―自然と人と―」（～12月1日）
元. 10. 11	2019年度第1回　報告書データベース作成に関する説明会
元. 10. 12	平城宮跡資料館秋期特別展「地下の正倉院展－年号と木簡－」（～11月24日）

※ギャラリートーク 3 回実施

元. 10. 14　キトラ古墳　遺跡見学・乾拓体験会

元. 10. 15　文化財担当者専門研修「保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程」（～10 月 24 日）

元. 10. 29　第 4 回国際遺跡研究セミナー「中央アジア西部の仏教遺跡と出土壁画について　ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画を中心に」

元. 11. 9　奈良文化財研究所　第 125 回公開講演会

元. 11. 10　東大寺東塔院跡発掘調査現地説明会

元. 11. 18　文化財担当者専門研修「文化財三次元計測課程」（～11 月 22 日）

元. 11. 21　第 3 回中央アジア旧石器研究集会

元. 11. 21　2019 年度第 2 回 報告書データベース作成に関する説明会

元. 11. 25　文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（～12 月 5 日）

元. 12. 4　2019 年度第 3 回 報告書データベース作成に関する説明会

元. 12. 5　文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」（～12 月 12 日）

元. 12. 12　文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」（～12 月 19 日）

元. 12. 13　第 23 回古代官衙・集落研究集会「灯明皿と官衙・集落・寺院」（～12 月 14 日）

2. 1. 18　国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 28 回）（～1 月 24 日）

2. 1. 18　国宝キトラ古墳壁画の公開（第 14 回）（～2 月 16 日）

2. 1. 20　国際セミナー「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存」

2. 1. 20　文化財担当者専門研修「文化財デジタルアーカイブ課程」（～1 月 24 日）

2. 1. 24　飛鳥資料館冬期企画展 「飛鳥の考古学 2019」（～2 月 26 日）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 2 月 27 日から休館

2. 2. 1　第 20 回古代瓦研究会シンポジウム「鴟尾・鬼瓦の展開 I－鴟尾―」（～2 月 2 日）

2. 2. 1　平城宮跡資料館冬期企画展「発掘された平城 2019」（～2 月 26 日）

※ギャラリートーク 2 回実施

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 2 月 27 日から休館

2. 2. 3　文化財担当者専門研修「史跡保存活用計画策定課程」（～2 月 7 日）

2. 2. 4　2019 年度第 4 回 報告書データベース作成に関する説明会

2. 2. 7　関西アジア史談話会　第 5 回定例研究集会／
奈良文化財研究所　第 8 回国際遺跡研究セミナー

2. 2. 12　研究集会　水中遺跡保護行政の実態Ⅱ

2. 2. 12　文化財担当者専門研修「文化財防災・減災課程」（～2 月 14 日）

2. 2. 13　キトラ古墳　遺跡見学・乾拓体験会

2. 2. 17　2019 年度第 5 回 報告書データベース作成に関する説明会

2. 2. 18　文化財担当者専門研修「保存科学Ⅴ（材質・構造調査）課程」（～2 月 21 日）

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年　月　日	記　　事
元.　5. 21	Expert Meeting on Intangible Cultural Heritage in Emergencies （パリ、フランス）（～5 月 22 日）への参加
元.　7.　2	UNESCO 2019 Forum on Education for Sustainable Development and Global Citizenship （ハノイ、ベトナム）（～7 月 3 日）への参加
元.　8. 28	Regional Meeting for Strengthening the Use of ICH in Education（全州、韓国）（～8 月 30 日）への参加
元.　9.　1	第 25 回 ICOM 京都大会 2019（京都）（～9 月 7 日）への参加
元.　9.　2	第 7 回 C2 センター会合（アルジェ、アルジェリア）（～9 月 3 日）への参加
元. 10. 16	Review on Capacity-building Workshops (2012-2018) and Recommendations on future Activities organized by CRIHAP への参加（成都、中国）（～10 月 19 日）
元. 10. 25	韓国 C2 センター（ICHCAP）2019 年運営理事会への参加（ソウル、韓国）
元. 11.　1	International Conference “The Safeguarding an Promotion of Dong Ho Woodblock Paintings in Contemporary Life” への参加（ハノイ、ベトナム）（～11 月 2 日）
元. 11. 11	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）第 8 回運営理事会を開催
元. 11. 28	国際シンポジウム“Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage’s contribution to sustainable development: Focusing on education”を開催（東京）（～11 月 29 日）
元. 12.　9	第 14 回無形遺産条約政府間会合への参加（ボゴタ、コロンビア）（～12 月 14 日）
元. 12. 17	国際研究者フォーラム「無形文化遺産の展望－持続可能な社会にむけて」（～12 月 18 日）を開催（東京）
2.　1. 14	中国 C2 センター（CRIHAP）第 9 回運営理事会への参加（北京、中国）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（令和２年３月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
清　水　　眞　澄	三井記念美術館長	委員長
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	副委員長
安　藤　　裕　康	独立行政法人国際交流基金理事長	
上　原　　眞　人	公益財団法人辰馬考古資料館長	
神　居　　文　彰	平等院住職	
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員	
木　下　　直　之	静岡県立美術館長	
佐　藤　　禎　一	元ユネスコ代表部特命全権大使	
檀　　ふ　み	女優	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	
古　瀬　　奈津子	お茶の水女子大学基幹研究院教授	
鉾　井　　修　一	京都大学名誉教授	
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館理事長	
西　村　　泰　彦	宮内庁長官	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（令和２年３月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
青　柳　正　規	東京藝術大学特任教授	会長
浦　井　正　明	寛永寺長臈	副会長
石　澤　良　昭	上智大学 アジア人材養成研究センター所長	
江　本　敏　男	東京都立上野高等学校長	
ロバート・キャンベル	日本文学研究者・国文学研究資料館館長	
小　西　祐　一	台東区立根岸小学校長	
齊　藤　裕　司	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
澤　　和　樹	東京藝術大学長	
中　井　敬　三	東京都教育委員会教育長	
服　部　征　夫	台東区長	
早　川　　徹	日本空港ビルデング株式会社企画管理本部総務グループ広報・ブランド戦略室長	
林　　良　博	独立行政法人国立科学博物館長	
平　井　邦　明	台東区立忍岡中学校長	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
馬　渕　明　子	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
室　瀬　和　美	漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
林　原　行　雄	立命館大学客員教授	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（令和２年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
金　田　　章　裕	京都府立京都学・歴彩館長	会長
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	副会長
後　藤　　典　生	高台寺　常任教師	
榊　田　　隆　之	京都信用金庫　理事長	
鈴　鹿　　可奈子	株式会社聖護院八ッ橋総本店　専務取締役	
住　友　吉左衛門	公益財団法人住友財団　理事長	
千　　宗　守	茶道　武者小路千家　家元	
辻　　弘　嗣	株式会社京都ホテル　顧問	
中　本　　晃	株式会社島津製作所代表取締役会長	
松　本　　伸　之	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
村　上　　圭　子	京都市副市長	
森　口　　邦　彦	染織作家　重要無形文化財「友禅」保持者	
吉　田　　憲　司	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館長	
冷　泉　　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫　常務理事	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（令和２年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
浅　野　　秀　剛	公益財団法人大和文化館長 あべのハルカス美術館長	
植　野　　康　夫	株式会社南都銀行取締役会長	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
川　井　　徳　子	ノブレスグループ代表	
佐々木　　丞　平	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	
多　川　　俊　映	興福寺寺務老院	
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	
田　淵　　裕　久	近鉄グループホールディングス株式会社監査役	
筒　井　　寛　昭	東大寺長老・東大寺総合文化センター総長	
東　野　　治　之	奈良大学名誉教授・大阪大学名誉教授	
中　野　　聖　子	株式会社ホテルサンルート奈良代表取締役社長	
西　川　　明　彦	宮内庁正倉院事務所長	
は　な	モデル・ナレーター・エッセイスト・タレント	
松　村　　恵　司	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	
山　下　　保　典	奈良県地域振興部長	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（令和２年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学名誉教授	副会長
阿　川　　佐和子	作家	
今泉　　今右衛門	陶芸作家	
歌　川　　信　郎	ＮＨＫ福岡拠点放送局長	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長	
大　曲　　昭　恵	福岡県副知事	
川　嵜　　隆　生	株式会社西日本新聞社相談役	
楠　田　　大　蔵	太宰府市長	
倉　富　　純　男	西日本鉄道株式会社代表取締役社長執行役員	
鈴　木　　幸　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）ガバナー	
高　良　　倉　吉	琉球大学名誉教授	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（令和２年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
河　合　　正　朝	千葉市美術館館長	委員長
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	副委員長
小笠原　　直	監査法人アヴァンティア法人代表 代表社員　公認会計士	
坂　本　　弘　子	朝日新聞社常勤監査役	
小　松　　大　秀	公益財団法人永青文庫館長	
栄　原　　永遠男	大阪歴史博物館館長	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館館長	
名児耶　　明	公益財団法人五島美術館副館長	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
石　川　　日出志	明治大学文学部教授	
児　島　　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
寺　崎　　保　広	奈良大学文学部教授	
寺　田　　吉　孝	国立民族学博物館教授	
柳　林　　修	元読売新聞編集委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（令和２年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
名児耶　　明	公益財団法人五島美術館副館長	部会長
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
小　松　　大　秀	公益財団法人永青文庫館長	
栄　原　　永遠男	大阪歴史博物館館長	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館館長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

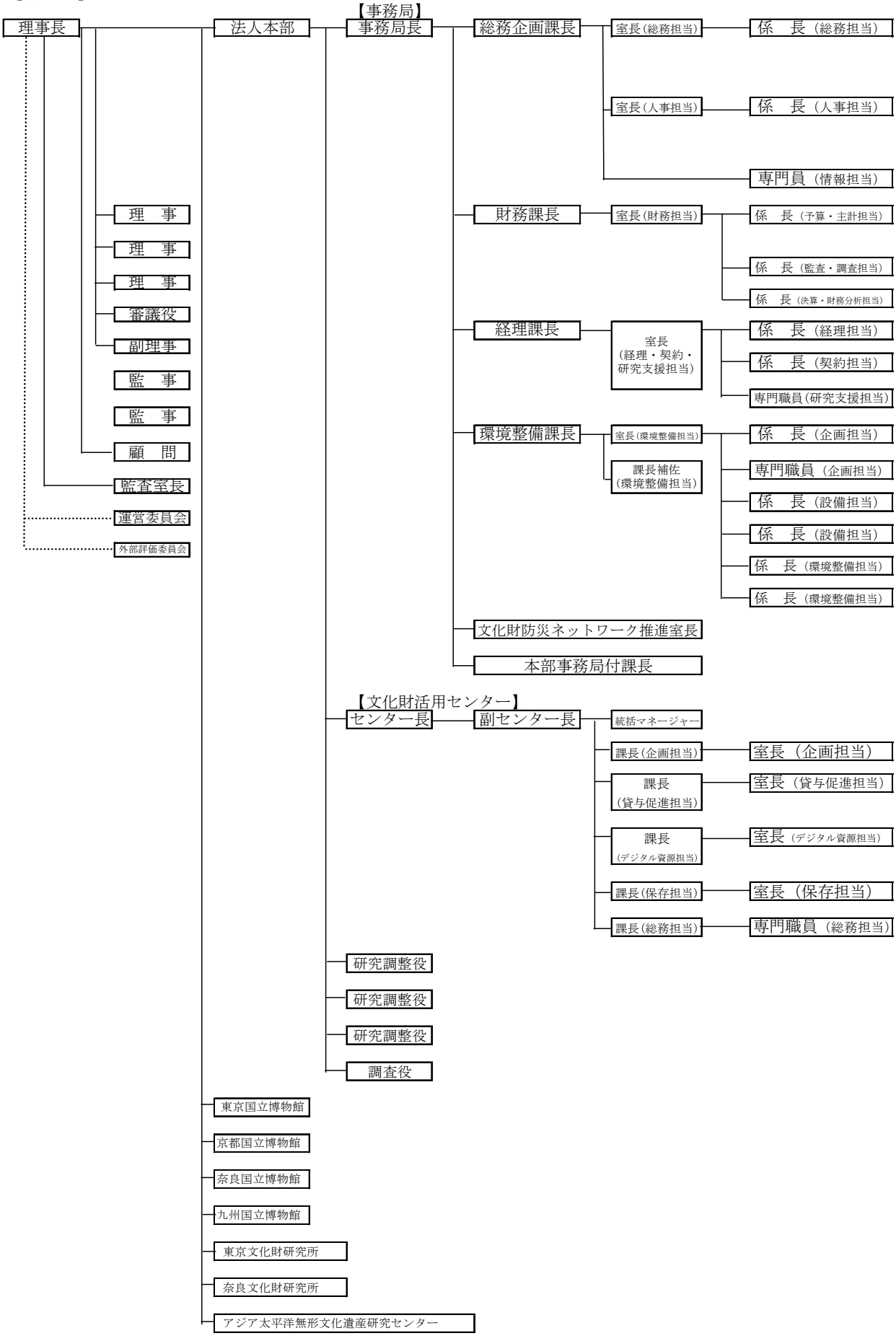
研究所・センター調査研究等部会委員名簿

（令和２年３月31日現在、敬称略）

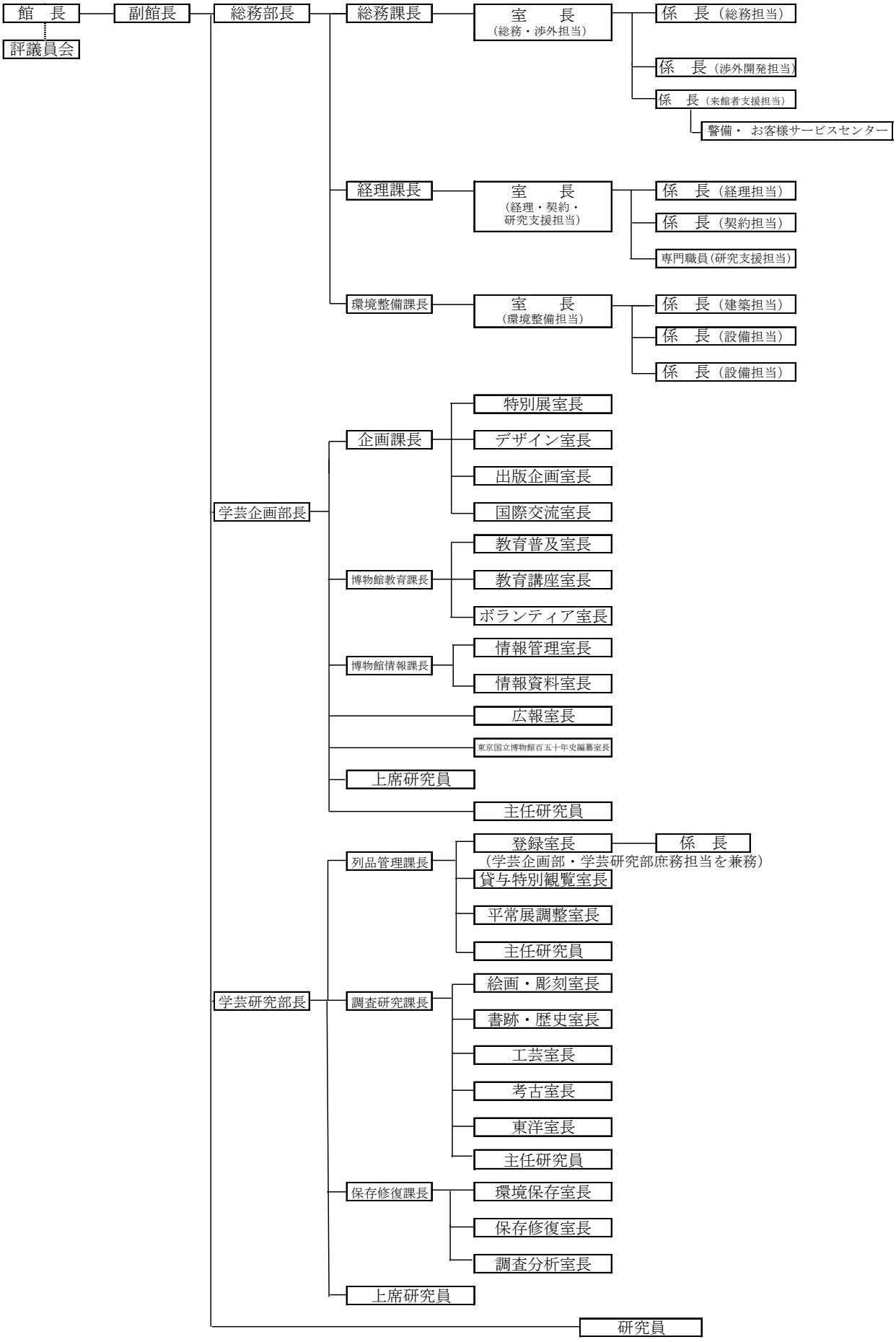
氏　　名	現　　職	備　考
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	部会長
寺　崎　　保　広	奈良大学文学部教授	
石　川　　日出志	明治大学文学部教授	
児　島　　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
寺　田　　吉　孝	国立民族学博物館教授	
柳　林　　修	元読売新聞編集委員	

独立行政法人国立文化財機構　組織図　　令和2年3月31日現在

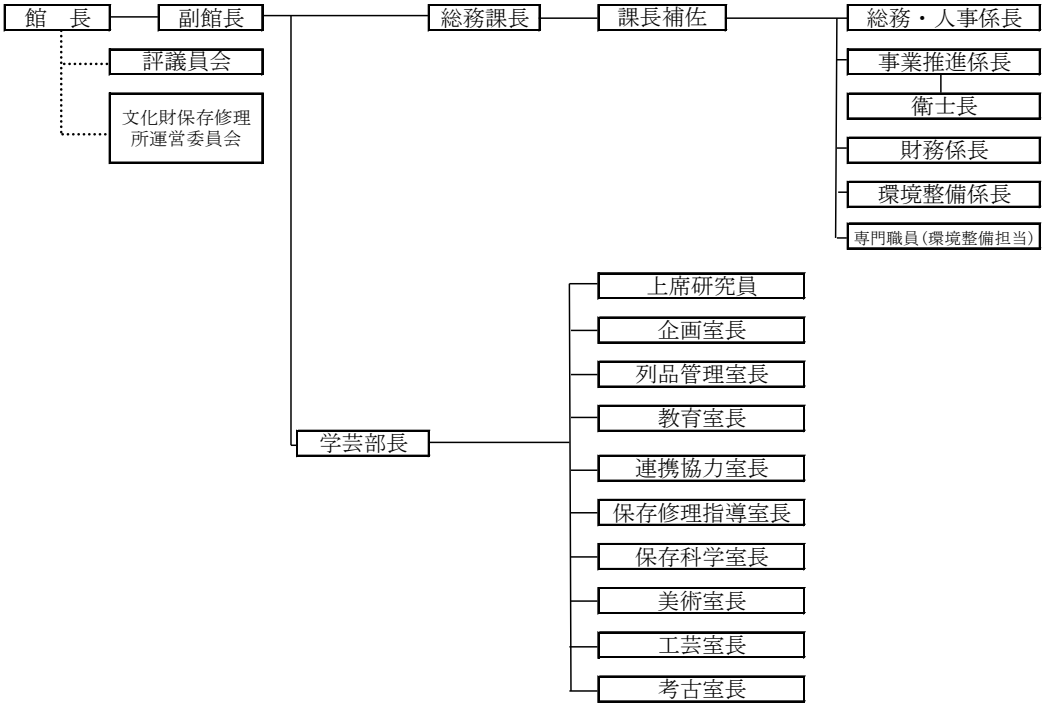
【機構図】



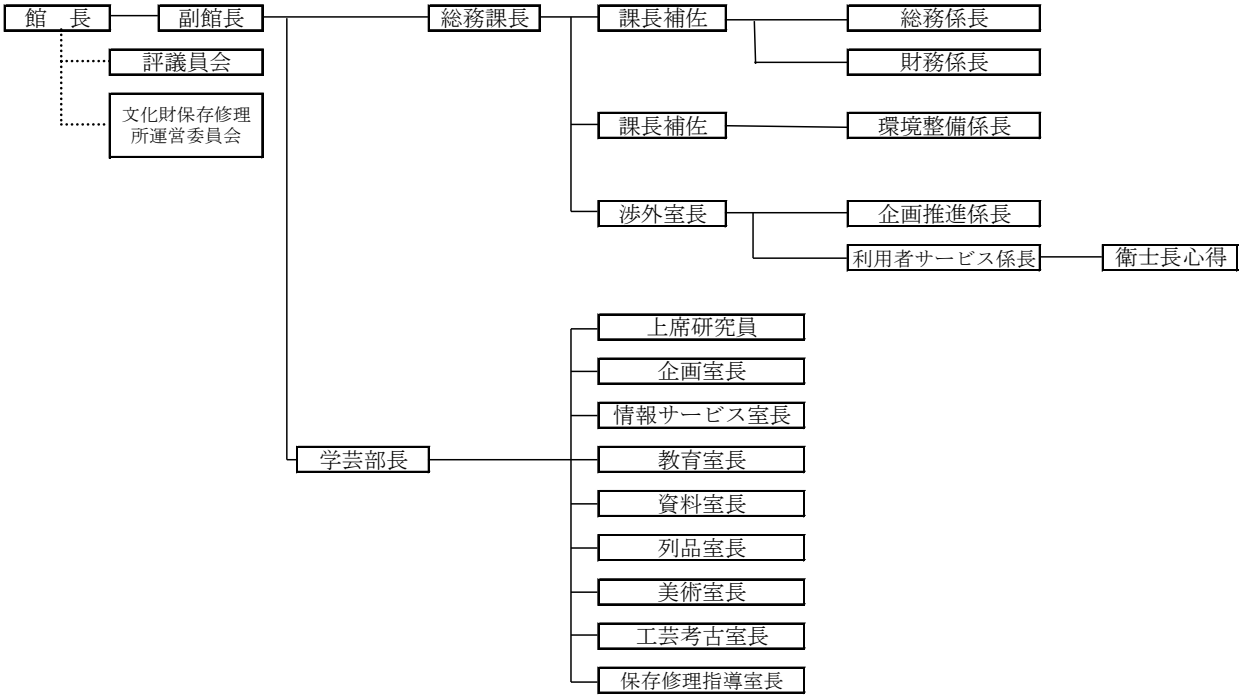
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（来館者支援担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約・
研究支援担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員(研究支援担当)
環境整備課長
室　長
（環境整備担当）
係　長（建築担当）
係　長（設備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
東京国立博物館百五十年史編纂室長
上席研究員
主任研究員
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
係　長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
主任研究員
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
調査分析室長
上席研究員
研究員

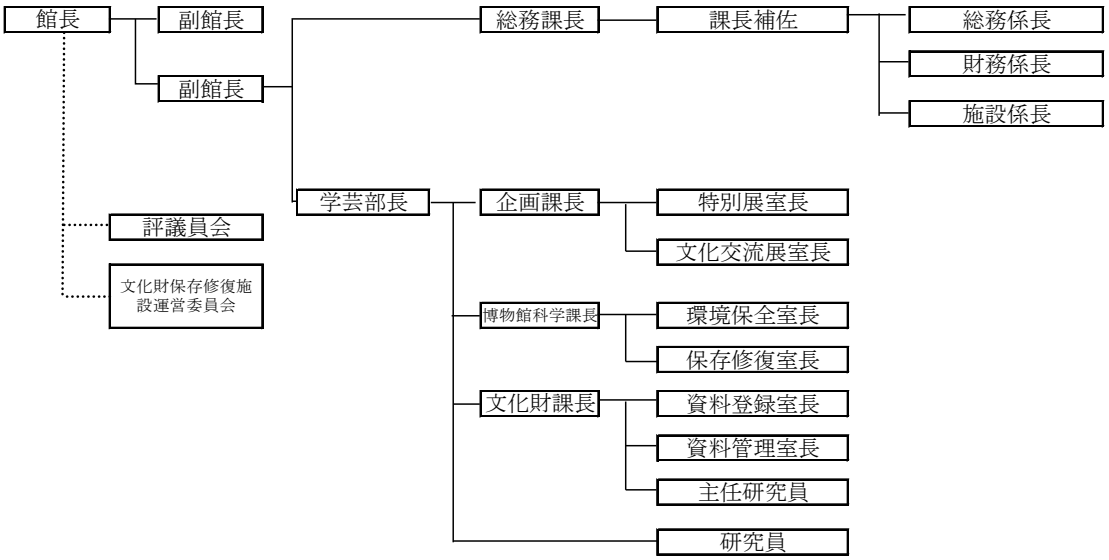
【京都国立博物館】



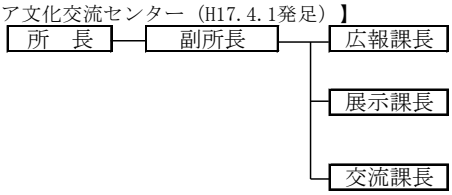
【奈良国立博物館】



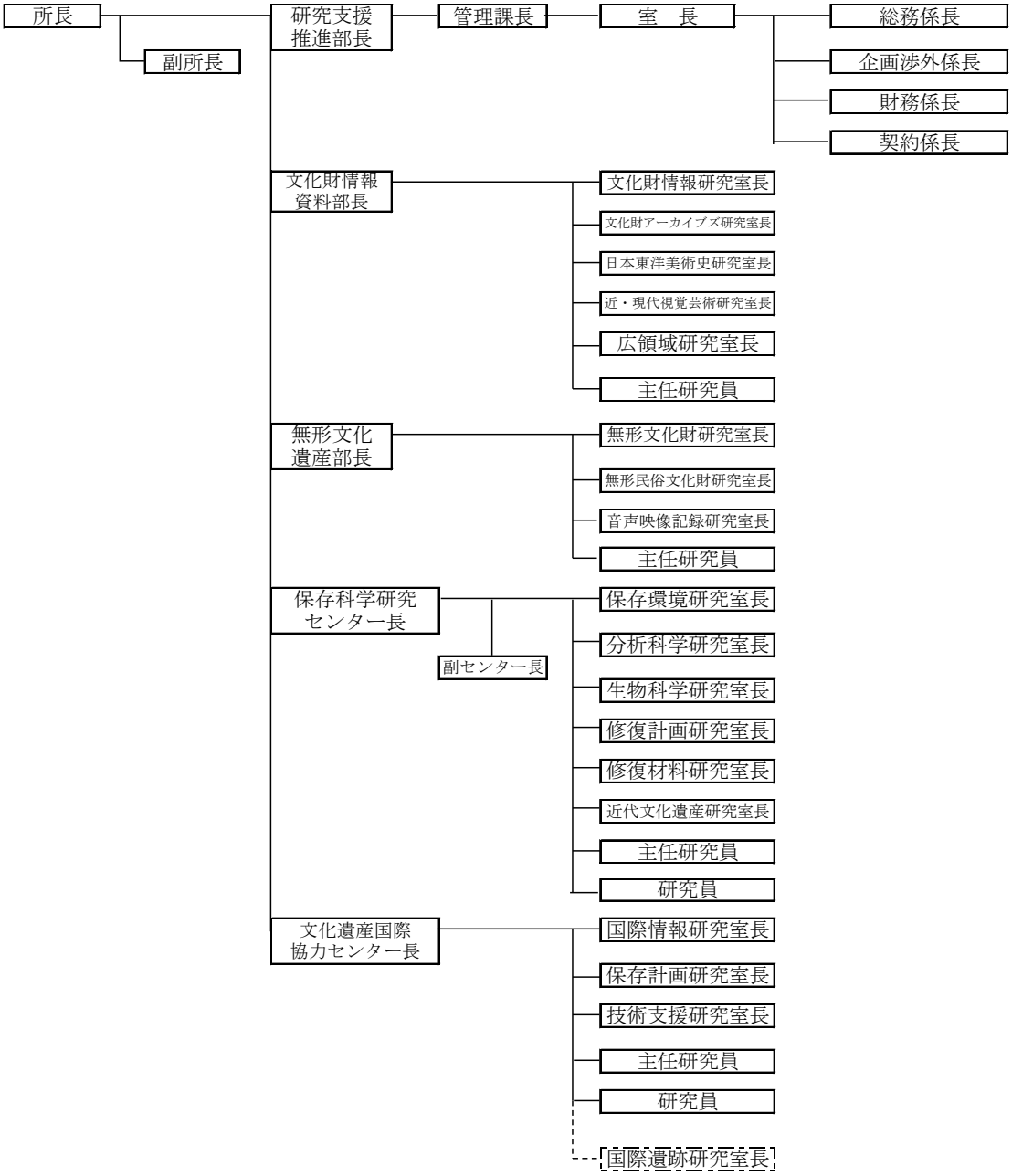
【九州国立博物館】



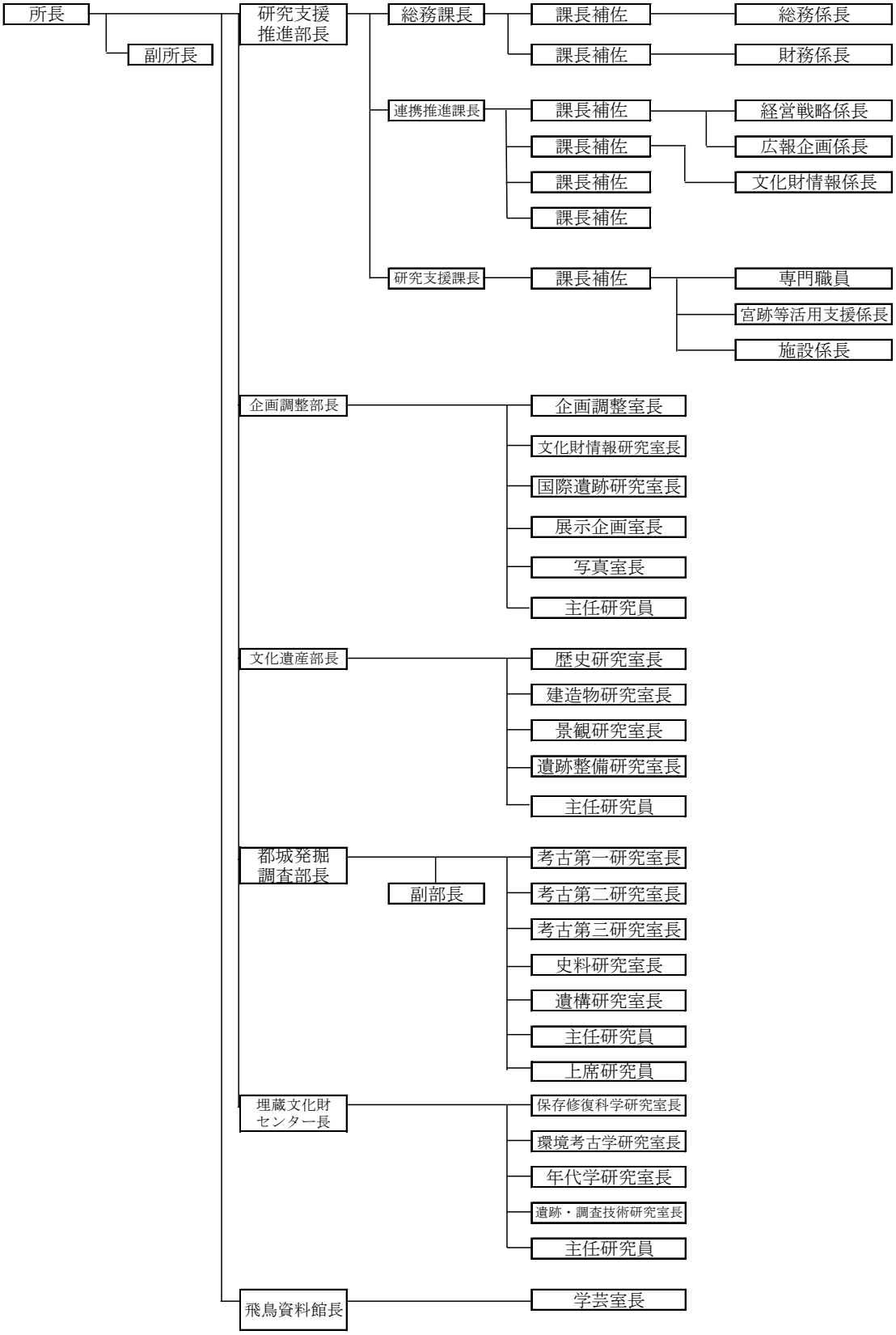
【福岡県立アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



【東京文化財研究所】


所長
副所長
研究支援推進部長
管理課長
室　長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
文化財情報資料部長
文化財情報研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
日本東洋美術史研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声映像記録研究室長
主任研究員
保存科学研究センター長
副センター長
保存環境研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復計画研究室長
修復材料研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
技術支援研究室長
主任研究員
研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】



【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



令和元年度　自己点検評価報告書　統計表

令和元年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-② 有形文化財の収集等

1-(1)-②-1 収蔵品一覧表 ・・・

1-(3) 教育・普及活動
1-(3)-① 教育普及活動の充実等
1-(3)-①-1 学習機会の提供(過去５か年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
1-(3)-①-6 留学生の日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
1-(3)-①-7 ボランティア受入実績 (p.174 ◎共通資料 b)
1-(3)-①-8 友の会・パスポート等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
1-(3)-①-9 賛助会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
1-(3)-①-10 渉外活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数） (p.30 1-(1)-③-2)
1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
1-(3)-②-3 特別観覧件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
1-(3)-②-5 広報実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
1-(3)-②-6 広報刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数 (p.268 ◎共通資料 d)
1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧 (p.203 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.209 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧 (p.234 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.259 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-①-5 客員研究員一覧 (p.265 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-② その他の有形文化財に関連する調査研究
1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧 (p.203 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.209 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧 (p.234 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.259 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-②-5 客員研究員一覧 (p.265 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等
1-(4)-③-1 研究交流実績一覧 (p.178 ◎共通資料 c-①)
1-(4)-④ 調査研究成果の公表
1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧 (p.254 ◎共通資料 c-⑥)
1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展 (p.162 ◎共通資料 a-③)
1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績 (p.51 1-(3)-①-2)
1-(5) 国内外の博物館活動への寄与
1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
1-(5)-①-3 海外への列品貸与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
1-(5)-①-5 収蔵品貸与促進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等
1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 133

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
2-(1)-1 調査研究テーマ一覧 (p. 203 ◎共通資料 c-②)
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p. 209 ◎共通資料 c-③)
2-(1)-3 論文等発表実績一覧 (p. 234 ◎共通資料 c-⑤)
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧 (p. 254 ◎共通資料 c-⑥)
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p. 259 ◎共通資料 c-⑦)
2-(1)-6 客員研究員一覧 (p. 265 ◎共通資料 c-⑧)
2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
2-(2)-1 調査研究テーマ一覧 (p. 203 ◎共通資料 c-②)
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p. 209 ◎共通資料 c-③)
2-(2)-3 論文等発表実績一覧 (p. 234 ◎共通資料 c-⑤)
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧 (p. 254 ◎共通資料 c-⑥)
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p. 259 ◎共通資料 c-⑦)
2-(2)-6 客員研究員一覧 (p. 265 ◎共通資料 c-⑧)
2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）・・ 150
2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）・・ 150
2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況(刊行物件数) (p. 254 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）・・ 151
2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 (p. 178 ◎共通資料 c-①)
2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 (p. 203 ◎共通資料 c-②)
2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 (p. 209 ◎共通資料 c-③)
2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 (p. 232 ◎共通資料 c-④)
2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 (p. 234 ◎共通資料 c-⑤)
2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 (p. 254 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 (p. 268 ◎共通資料 d)
2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実
2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
2-(4)-② 調査研究成果の発信
2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧 (p. 254 ◎共通資料 c-⑥)

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧 (p.232 ◎共通資料 c-④)
2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数 (p.268 ◎共通資料 d)
2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数・・・・・・・・ 154
2-(4)-③ 展示公開施設の充実
2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別)(過去５か年) (p.159 ◎共通資料 a-①)
2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) (p.160 ◎共通資料 a-②)
2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展 (p.162 ◎共通資料 a-③)
2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 155
2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等
2-(5)-②-1 専門的・技術的な協力・助言の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
2-(5)-③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (p.174 ◎共通資料 b)
2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与
2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (p.178・191 ◎共通資料 c-①1)・3))
2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (p.232 ◎共通資料 c-④)
2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (p.268 ◎共通資料 d)
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1.業務改善の取組
1-(5) 一般管理費等の削減
1-(5)-① 施設の有効利用件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
◎共通資料
a 展示
a-①来館者数推移(入館料別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
a-②来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
a-③平常展・特別展・海外展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
b ボランティア受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
c 調査研究
c-① 研究交流実績一覧
1) 海外研究者招聘・受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
2) 他機関の共同研究への参画実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
3) 研究者海外派遣実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
c-② 調査研究テーマ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
c-③ 学会、研究会等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
c-④ シンポジウム開催実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 232
c-⑤ 論文等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 234
c-⑥ 調査研究刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 254
c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 259
c-⑧ 客員研究員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 265
d ウェブサイトアクセス件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 268
e 令和元年度平常展・特別展アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 269

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表　　（単位：件）　令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	131,191	135	1,002	119,871	89	646	8,130	29	200	1,911	13	114	1,279	4	42
絵画	13,756	35	218	11,191	21	104	2,124	9	60	305	4	44	136	1	10
書跡	3,533	37	174	1,891	14	60	1,376	17	78	151	5	29	115	1	7
彫刻	1,437	1	49	1,112	0	24	149	0	3	151	1	16	25	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,417	3	61	16,426	1	17	601	2	31	165	0	11	225	0	2
刀剣	3,490	21	57	3,464	19	57				16	0	0	10	2	0
陶磁	4,498	0	21	2,963	0	13	1,348	0	3	81	0	0	106	0	5
漆工	4,762	6	31	3,951	4	19	529	0	3	106	2	5	176	0	4
染織	4,873	2	29	3,772	0	20	959	1	8	94	1	1	48	0	0
考古	30,354	5	76	28,621	5	55	699	0	11	736	0	8	298	0	2
民族資料	1,375	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料	6,669	0	12	6,249	0	5	296	0	2	0	0	0	124	0	5
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	2,267	0	2	2,267	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	709	4	31	709	4	31									
東洋 書跡	1,714	10	13	1,714	10	13									
東洋 彫刻	812	0	20	812	0	20									
東洋 金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
東洋 陶磁	3,057	0	11	3,057	0	11									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	609	0	1	609	0	1									
東洋 考古	5,951	0	2	5,951	0	2									
東洋 民族	3,555	0	0	3,555	0	0									
法隆寺献納宝物	324	11	184	324	11	184									
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2									
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　令和2年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森薀資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,083箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35,479箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,263箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
[都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,872点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約40,343箱
土器　　整理箱	約16,792箱
土製品	約15,056点
木器・木製品	約34,323点
木簡	約35,323点
建築部材	約2,990点
金属製品	約19,947点
石器・石製品	約14,536点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-② -2(参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5か年)

(単位:件)　令和2年3月31日現在

		平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	138,897	333	2,380	139,582	327	2,172	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180
	東京国立博物館	120,004	142	892	120,267	143	894	120,569	144	903	122,194	144	897	122,462	141	891
	京都国立博物館	13,644	119	1,003	13,983	114	818	14,212	115	822	14,509	116	812	14,650	117	815
	奈良国立博物館	3,839	67	439	3,844	65	411	3,855	66	417	3,882	66	418	3,885	65	420
	九州国立博物館	1,410	5	46	1,488	5	49	1,812	5	51	2,095	6	53	2,579	6	54
収蔵品	国立博物館 計	126,872	131	963	127,455	132	983	128,208	134	997	130,211	135	994	131,191	135	1,002
	東京国立博物館	116,932	87	634	117,192	88	636	117,460	89	643	119,064	89	644	119,871	89	646
	京都国立博物館	7,532	28	183	7,794	28	198	7,977	29	202	8,075	29	196	8,130	29	200
	奈良国立博物館	1,883	13	112	1,886	13	112	1,893	13	113	1,908	13	113	1,911	13	114
	九州国立博物館	525	3	34	583	3	37	878	3	39	1,164	4	41	1,279	4	42
寄託品	国立博物館 計	12,025	202	1,417	12,127	195	1,189	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178
	東京国立博物館	3,072	55	258	3,075	55	258	3,109	55	260	3,130	55	253	2,591	52	245
	京都国立博物館	6,112	91	820	6,189	86	620	6,235	86	620	6,434	87	616	6,520	88	615
	奈良国立博物館	1,956	54	327	1,958	52	299	1,962	53	304	1,974	53	305	1,974	52	306
	九州国立博物館	885	2	12	905	2	12	934	2	12	931	2	12	1,300	2	12

1-(1)-②-3 令和元年度新収品一覧表

（単位：件）　令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	980			807			55			3			115		
計	87	125	768	11	28	768	24	31	0	3	0	0	49	66	0
絵画	31	9	0	3	1	0	22	7	0	0	0	0	6	1	0
書跡	2	8	0	0	6	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0
彫刻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	12	0	0	4	0	1	8	0	1	0	0	1	0	0
刀剣	0	1	0	0	1	0			0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	11	0	0	3	0	1	3	0	0	0	0	0	5	0
漆工	1	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	7	0
染織	3	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	3	0	0
考古	34	10	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	34	4	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	3	50	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	49	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	767	0	0	767	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	3	1	0	3	1	0									
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0									
東洋 彫刻	4	0	0	4	0	0									
東洋 金工	0	1	0	0	1	0									
東洋 陶磁	0	1	0	0	1	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	0	0	0	0	0									
東洋 考古	0	4	0	0	4	0									
東洋 民族	0	1	0	0	1	0									
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	1									
黒田記念館収蔵品	1	1	0	1	1	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,106			525			754			2,005			980		
小計	43	563	500	63	318	144	64	518	172	154	348	1,503	87	125	768
絵画	14	10	0	13	36	0	18	17	5	8	22	0	31	9	0
書跡	5	29	0	7	42	0	8	47	2	3	50	0	2	8	0
彫刻	0	2	0	1	3	0	5	2	0	2	3	0	1	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	5	48	0	1	32	0	3	253	8	3	21	0	3	12	0
刀剣	0	11	0	0	2	0	0	0	10	1	0	0	0	1	0
陶磁	5	211	0	6	143	0	10	123	5	15	44	0	1	11	0
漆工	3	135	0	2	7	0	2	12	93	4	23	0	1	8	0
染織	2	4	0	4	8	0	1	7	47	30	21	0	3	7	0
考古	0	11	0	4	6	4	11	18	2	81	120	2	34	10	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	16	500	17	8	134	4	2	0	6	1	0	3	50	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料													0	0	767
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	15	0	3	1	0
東洋 書跡	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	18	0	0	0	0
東洋 彫刻	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
東洋 金工	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0
東洋 陶磁	0	5	0	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	8	2	0	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
東洋 考古	0	48	0	0	0	5	0	11	0	0	3	0	0	4	0
東洋 民族	0	22	0	0	27	0	0	21	0	0	0	0	0	1	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0

1-(1)-②-4 令和元年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計39件)

（１）購入（11件）

＜絵画＞（3件）

1　名称	重要文化財　浜松図屏風（はままつずびょうぶ）	品　質	紙本着色
作 者 等	伝土佐光重筆	員　数	6曲1双
時　代	室町時代・15世紀	寸 法 等	本紙　各 縦160.4cm 横355.4cm
作品概要	屏風装。6曲1双の大画面を一つの連続したフレームとして、雄渾な浜辺の景とそこに生いる松を描く。右左隻の天地三分の二以上を海の水流が占め、その手前の海岸線に大きく屈曲する背の高い松と岩を配す。山型を重ねた波はリズミカルに配され、海原には漁をする舟の姿も確認できる。下地に雲母を掃き、雲や霞に金銀の切箔や砂子を撒くなど、室町時代やまと絵屏風の典型的な技法を用いる。従来、里見家本「浜松図屏風」と呼ばれてきた、現存最古級の「浜松図屏風」である。昭和二十年代後半に見いだされ、その出現により室町時代やまと絵「再評価」のきっかけとなった作品である。		

2　名称	重要美術品　山水人物図屏風（さんすいじんぶつずびょうぶ）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	伝賢江祥啓（生没年不詳）筆	員　数	4曲1双
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙各 縦78.4cm 横195.6cm
作品概要	屏風装。4曲1双の中屏風。向かって右隻には、梅花の咲く汀に高士（林和靖か）と従者二名、また水辺には船上で釣りをする高士を描く。左隻には、松樹の下で菊花に囲まれて酒を嗜む高士（陶淵明か）と従者、さらに酒肴を運ぶ二名の姿を描く。画面に款印はないものの、整理された岩皴、芦や樹木の描写、特徴的な形態の遠山、藍や代赭を多用する色彩感覚など、いずれも関東水墨画の中心的画人である賢江祥啓（生没年不詳）の画風にきわめて近似する。昭和47年（1972）に神奈川県立博物館（現・神奈川県立歴史博物館）で開催された特別展「鎌倉の水墨画―画僧祥啓の周辺―」に出陳されて以降、長らく所在不明であった。		

3　名称	葡萄栗鼠図（ぶどうりすず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	元賀（生没年不詳）筆	員　数	1幅
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙 縦47.8cm 横28.2cm
作品概要	掛幅装、牙軸。画面上部に葡萄の葉と房を表し、下部には斜めに横切る枝茎と、葡萄の実をくわえて見上げる栗鼠を描く。葡萄・栗鼠ともに多産の象徴であり、そうした吉祥画として制作されたものとみられる。葡萄の実や葉は没骨で表すのに対し、栗鼠は細線を駆使して描くなど、随所に対比的な表現がみられ、また骸骨のような枝茎の奇態が印象的な作品である。画風や表現の比較により、朝鮮王朝時代中期頃の葡萄図との関係が指摘されている。山口県立美術館所蔵の元賀筆「葡萄図」と元来一対をなしていた画幅である。		

＜東洋絵画＞（3件）

4　名称	如来像（にょらいぞう）	品　質	土壁彩色
作 者 等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸 法 等	高17.0cm 幅12.0cm 奥行5.5cm
作品概要	如来坐像1尊を描いた壁画の断片。如来は頭の後ろに頭光、身体の後ろに身光をそれぞれ表わす。着衣の形式は通肩である。両手は腹部の前で禅定印を結ぶ。坐勢は結跏趺坐である。壁の下地層にはスサが残っているほか、レンガの上に塗ったであろう痕跡が認められる。本作品は下地層がかなり厚いことから、おそらくホータンの平地に建てられた寺院、しかもかなり大きな建造物の壁面の一部であったと考えられる。		

5　名称	菩薩像（ぼさつぞう）	品　質	土壁彩色
作 者 等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸 法 等	高17.0cm 幅13.5cm
作品概要	菩薩2尊を描いた壁画の断片。右側の菩薩は頭の後ろに光背を表わす。両手で器物を持って前に差し出し、蓮の上に坐す。左側の菩薩も右側の菩薩と同様に、頭の後ろに光背を表わし、両手で器物を持って前に差し出す。ただし下半身は欠損する。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		

6　名称	蓮華（れんげ）	品　質	土壁彩色
作 者 等		員　数	1面
時　代	7～8世紀	寸 法 等	高18.5cm 幅22.3cm
作品概要	蓮華を描いた壁画の断片。蓮華の左右両側に線が引かれていることから、装飾文様の一部であったと考えられる。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		

＜東洋彫刻＞(4件)

7　名称	象（ぞう）	品　質	ストゥッコ
作 者 等		員　数	1個
時　代	6世紀	寸 法 等	高17.0cm 幅11.0cm 奥行5.8cm
作品概要	正面向きの象を表わしたストゥッコの断片。象の左耳、前脚を欠損する。ホータン出土の本作品は、大谷探検隊がクチャ地方のクムトラ石窟で採取した象形装飾（TC-506-2）に類似する。おそらく作品は、仏堂などに安置された仏像の台座に貼り付けられていたものと考えられる。		

8　名称	飛天像（ひてんぞう）	品　質	ストゥッコ
作 者 等		員　数	1個
時　代	6世紀	寸 法 等	高13.3cm 幅10.0cm 奥行4.0cm
作品概要	飛天を表わしたストゥッコの断片。飛天は頭の後ろに光背を表わす。右腕、左前腕は欠損する。本作品は、大谷探検隊がホータンで採取したストゥッコ製の「飛天上半身像」（TC-501-3）と同様のものであるといえる。おそらく本作品は、仏堂内の壁体上方に貼り付けられていたものと考えられる。		

9　名称	天部像（てんぶぞう）	品　　質	ストゥッコ、彩色
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	6～7世紀	寸 法 等	高12.0cm 幅10.5cm 奥行3.5cm
作品概要	蓮華化生した姿を表わしたストゥッコの断片。頭に宝冠を戴き、両手で長い瓔珞の両端をつまむ。本作品は、大谷探検隊がホータンで採取したストゥッコ製の「月天像」（TC-501-1）、「蓮華化生像」（TC-501-2）などと図像学的にも類似するとともに、彩色の残りもよい。おそらく本作品は、仏堂内の壁面に貼り付けられていたものと考えられる。		

10　名称	連珠文装飾（れんじゅもんそうしょく）	品　　質	ストゥッコ、彩色
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	6～7世紀	寸 法 等	高8.2cm 幅10.5cm 奥行1.8cm
作品概要	連珠文装飾を表わしたストゥッコの断片。表面に赤、緑、青などの彩色を施す。おそらく本作品は、仏堂内の壁面の際、あるいは仏像の台座などに貼り付けられていたと考えられる。		

＜黒田記念館収蔵品＞(1件)

11　名称	佐野昭肖像（さのあきらしょうぞう）	品　　質	カンヴァス・油彩
作 者 等	黒田清輝（1866～1924）筆	員　　数	1面
時　　代	明治32年(1899)	寸 法 等	縦40.2cm 横32.3cm
作品概要	黒田清輝と親交の深かった彫刻家の佐野昭（1865～1955）の肖像である。佐野は工部美術学校で彫刻を学んだ後、宮内省内匠寮の片山東熊に師事し、明治28年には内匠寮の技手として採用、東宮御所（現、迎賓館赤坂離宮）の彫刻装飾等を担当する。一方で白馬会に参加し、中心メンバーであった黒田清輝らと公私にわたり親交を結んだ。 作品左上には「明治三十二年一月五日／駿州静浦保養館ニ於テ写ス　黒田清輝」とあるが、黒田の日記にも明治32年の正月は佐野らと沼津の静浦で迎え、佐野の肖像画を手がけたことが記されている。旅先で制作された小品ということもあり、写真で伝えられる佐野の風貌をよく捉えながらも、細部まで丹念に描きこまれたものではないが、親しい人物を感興に任せてのびやかな筆致で描き出している点で、当時の洋画界に清新な作風をもたらした黒田の持ち味が発揮された作といえる。 額縁は佐野がこの作品のためにフランスから取り寄せたものであるという話が伝わっている。ただ、下辺中央にある「S.KURODA」と記された装飾プレートは後補であろう。額裏面左には「清輝」と記されたシールが貼付。四隅の止め金具と裏蓋は近年の新調で、裏蓋には東京美術倶楽部鑑定委員会発行の鑑定証書（平成12年5月25日付）が添付されている。		

（２）寄贈（28件）

＜絵画＞(1件)

1　名称	髪（かみ）	品　　質	絹本着色
作 者 等	池田蕉園（1886～1917）筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	明治44年(1911)	寸 法 等	本紙 縦157.4cm 横164.8cm 総寸 縦178.8cm 横183.2cm
作品概要	屏風装。髪の様子を合わせ鏡で確認する振袖を着た若い女性と、その手伝いをしているとみられる小袖をきた年増の女性を描く。若い女性は勝山髷に結いながら鉄漿、引き眉はしておらず、前髪の櫛のところに赤いリボン状の飾りをつけ、袖の長い華やかな振袖を着、背後には絞り模様のある白い着物を無造作に掛けた衣桁が描かれているので、婚礼前の少女が事前に婚礼衣装や髷の合わせを行う期待感に満ちた幸せなひと時を描いたものとも考えられる。		

＜書跡＞(6件)

2　名称	和歌（わか）	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	尾上柴舟（1876～1957）筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	本紙 縦26.8cm　横39.5cm
作品概要	掛幅装。『古今和歌集』「春」上下から４首選んで認めた書である。		

3　名称	書状(長尾雨山宛)（しょじょう（ながおうざんあて））	品　　質	紙本墨書
作 者 等	岡倉天心（1862～1913）筆	員　　数	1通・1幅
時　　代	明治40年(1907)	寸 法 等	書簡本紙 縦24.5cm 横33.5cm　掛幅本紙 縦23.8cm 横32.5cm
作品概要	掛幅装。唐時代の詩人李白の「塞上曲」を踏まえ、岡倉天心が作詞した漢詩にたいして長尾雨山に批評を請うた書状と漢詩部分を掛幅に仕立てたものからなる。書状から明治40年2月雨山へ依頼をしていることがわかる。漢詩部分を掛幅装に仕立てたのは旧蔵者の安田靫彦である。 長尾雨山(1864～1942)は、明治～昭和時代前期の漢学者、書家。五高、東京高師などの教授を歴任。明治36年に上海へ渡航し教科書の編集にあたる。大正3年帰国、京都に住む。平安書道会副会長。没後に「中国書画話」が刊行された。		

4　名称	書状(丸山貫長宛)（しょじょう（まるやまかんちょうあて））	品　　質	紙本墨書
作 者 等	岡倉天心（1862～1913）筆	員　　数	3通
時　　代	明治25年(1892)～26年(1893)	寸 法 等	① 縦18.0cm 横145.5cm ② 縦18.5cm 横117.0cm ③ 縦18.5cm 横77.0cm
作品概要	いずれも岡倉天心(1863～1913)が丸山貫長(1843～1927)に宛てた書状である。 丸山貫長は豊科高家(とよしなたきべ)熊倉(現安曇野市)の生まれ。幼名を伊太郎、法名を公雄と称し、虎洞・虚心・竪海・精進山人等と号した。嘉永4年(1851)、父に従って江戸に出て浅草大護院道本について書を学ぶ。安政5年(1858)、穂高牧(現安曇野市)の真言宗満願寺で僧籍に入り、公忠和尚に従って4年間修行する。文久元年(1861)から明治12年(1879)までの19年間、大和の長谷寺で修学、主として能満院海如和尚に就いて研鑽する。 この間、明治7年には、長谷寺普門院住職となり、訓導を拝命。明治9年、廃仏毀釈のため廃寺となった満願寺を再興するため、観音講社を設立し再興に奔走。その後、室生寺住職17年間、同寺の文化財保存に尽し、その後、大蔵寺住職となり、18年間勤め三等司教を拝命。また、法隆寺にて九面観音を摸刻したほか、『不二宗義真教興隆論』・『如意法憧』等の著述も残す。大正9年(1920)に、大阪府観心寺の国宝大随求菩薩像を五十余日かけて模写。昭和2年6月、84歳で死去。 岡倉天心との関係は、明治21年(1888)近畿地方社寺調査の際、天心一行が室生寺を訪ねた際に出会ったことがきっかけである。国の施策とはまったく別個に奈良の山中において文化財保護に取り組んでいた丸山貫長の行動に感銘、また仏道の師とも仰ぎ、終生親しく接した。		

5　名称	和歌（わか）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	中山愛親（1741～1814）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	本紙 縦32.1cm 横40.6cm
作品概要	掛幅装、牙軸。天には藍、地には紫の紙の繊維を雲形に漉き込んだ打曇紙に、濃いめの墨を長鋒の筆に染めて、古歌1首を和様の筆致で揮毫する。墨継ぎは1行目「百」、3行目「前」、4行目「阿」、6行目「春」、10行目「あ」の4度で、全11行からなる。 この和歌は、平安末から鎌倉初期の天台座主で歌人の慈円（1155～1225）の作で、富士山の噴煙がたなびく春の曙の空を詠んだもの。正治2年（1200）後鳥羽院に指名された歌人が百首を詠進した『正治後度百首』の一首で、『古今和歌集』巻第一春歌上に収められる。 その書は、漢字・仮名とも筆致は円運動を多用し、丸みを誇張した字形が連続する。球体が膨張したような字姿で和歌が揮毫されるが、最終の文字である「空」だけは書風が異なり、紙面全体を効果的に引締める。		

6　名称	燕（つばめ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	手島右卿（1901～87）筆	員　数	1面
時　代	昭和35年(1960)	寸 法 等	本紙 縦70.0cm 横51.0cm
作品概要	額装。「燕」一文字を料紙全体を使って表現した、手島右卿の代表作といえる作品。手島右卿自身がこれについて次のように説明している。「つばめが飛びまわる流動的な感じを線の動きで出したもので、『つばめ返し』のような感じの線も出ていると思う。ムーヴメントに一番重きをおいた」（『現代の書道Ｖ草書２』1969年、講談社）。このように、文字の意味を視覚的形象で表現することを、手島右卿は「象書（しょうしょ）」といって提唱した。		

7　名称	いろは屏風（いろはびょうぶ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	貫名菘翁（1778～1863）筆	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代・万延元年（1860）	寸 法 等	各扇寸法 縦130.8cm 横52.2cm 総寸 各隻 縦172.0cm 横405.0cm
作品概要	屏風装。いろは四十七文字を、1紙あたり1行4字を基本に、12枚の料紙に揮毫し、それらを各扇に貼りこんで一双の屏風に仕立てたもの。その書は、字形こそ平仮名だが、唐様書法に裏打ちされた漢字の線質で一貫する。連綿は「き」から「ゆ」への1箇所のみで、残りの平仮名はすべて単体で揮毫される。		

＜金工＞(4件)

8　名称	自在蝗置物（じざいいなごおきもの）	品　質	銀鍛造
作 者 等	高瀬好山（1869～1934）作	員　数	1個
時　代	大正～昭和時代・20世紀	寸 法 等	体長7.2cm
作品概要	銀鍛造、蝗の体、顔、足、羽などを銀板の鍛造で成形し、各部にややゆるぎを持たせて鋲留めする。高瀬好山は明治～昭和初期にかけて活動した金工家で、中でも銀・銅・真鍮・鉄などを用いて動物や昆虫などを写実的かつ動くように組み上げる「自在置物」の制作、プロデュース、及び輸出経営に力を注いだことで知られる。		

9　名称	蓬莱鏡（ほうらいきょう）	品　質	銅鋳造
作 者 等		員　数	1面
時　代	室町時代・15～16世紀	寸 法 等	径11.3cm 縁高1.1cm 縁幅0.35cm 重量360.0g
作品概要	銅鋳造、円形。直角式中縁。鏡背は中線二重圏を設け、内外区にまたがり州浜、流水、２羽の鶴、松樹、竹樹、岩などのいわゆる蓬莱文を鋳表する。中央には向かって左を向く亀鈕を鋳表する。２羽の鶴の嘴と亀の口が接する。		

10　名称	蓬莱鏡（ほうらいきょう）	品　質	銅鋳造
作 者 等		員　数	1面
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	径11.3cm 縁高1.3cm 縁幅0.3cm 重量481.0g
作品概要	銅鋳造、円形。直角式中縁。鏡背は細線二重圏を設け、内外区にまたがり州浜、流水、２羽の鶴、松樹、竹樹、岩などのいわゆる蓬莱文を鋳表する。中央には向かって左を向く亀鈕を鋳表する。２羽の鶴の嘴と亀の口が接する。		

11　名称	杏葉紋双鶴柄鏡（ぎょうようもんそうかくえかがみ）	品　質	銅鋳造
作 者 等		員　数	1面
時　代	室町時代～安土桃山時代・16世紀	寸 法 等	鏡 径9.6cm 縁高0.4cm 縁幅0.25cm 柄 長11.6cm 幅1.7cm 重量181g
作品概要	銅鋳造、円形。直角式低縁の鏡の下部中央に柄が接する。鏡背は二重圏細線を設け、内区中央に上向きの亀鈕、鈕の下部に相対する杏葉紋、上部に相対する２羽の鶴を鋳表する。２羽の鶴の嘴と亀の口が接する。柄の先端に円孔１個を開ける。		

＜刀剣＞(1件)

12　名称	太刀（たち）	品　質	鍛鉄製
作 者 等	綾小路定利	員　数	1口
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	刃長71.5cm 反2.0cm
作品概要	形状　鎬造、庵棟、身幅やや細く、腰反り高く、先伏しごころ、小鋒。腰元刃先、物打棟に切込がある。 地鉄　小板目、地沸・地景入り、沸映り淡く立つ。 刃文　小乱に小互の目交り、浅くのたれ、小沸つき、小足よく入り、打ちのけ頻りにかかり、匂口深く、佩裏うるむところがある。 帽子　表裏、のたれ込み、先焼詰ごころに小丸。 茎　磨上、先切、鑢目（新旧ともに）勝手下り、目釘孔2、佩表に「定利」の銘がある。		

＜陶磁＞(3件)

13　名称	錆地染付桃文皿（さびじそめつけももももんさら）	品　　質	磁質
作 者 等	伊万里	員　　数	1枚
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高3.8cm 径17.7cm 高台径6.5cm
作品概要	磁胎。高さ約1.5cmの高台がつく円形の中皿。ろくろ成形で、底から口縁にむかってほぼ水平に広がり、口縁がわずかに外側に開いて細い鍔縁となっている。見込みの一部と、畳付をのぞいて全体に鉄の釉薬が掛けられる。見込みの掛け残し（白抜き）の部分には桃を表わし、染付で桃の実と葉の輪郭を描いて、透明釉が掛けられている。高台の内側にわずかな亀裂（窯疵）がある。		

14　名称	染付竹虎文大鉢（そめつけたけとらもんおおばち）	品　　質	磁質
作 者 等	伊万里	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高14.5cm 口径45.5cm 底径10.0cm
作品概要	磁胎。ろくろ成形で径の小さな底から口に向かって大きく鉢状に引き上げ、口近くで一度垂直に立ち上げたのち、口縁を外側に開いて鍔縁とする。口縁の端は小さく刻んだ形をとる。底は内側にくりぬかれた碁笥底の形で、底の周りに丸文を貼り付けた三つの小さな脚がつく。見込みと口縁、口縁下の立ち上がり部分内外に染付で文様が描かれ、畳付をのぞいて全体に透明釉がかけられている。見込みの文様は竹林と虎で、虎の視線の先には岩山と雉が器面いっぱいに描きこまれる。		

15　名称	染付山水文大鉢（そめつけさんすいもんおおばち）	品　　質	磁質
作 者 等	伊万里	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高13.8cm 口径45.0cm 高台径12.5cm
作品概要	磁胎。ろくろ成形で径の小さな高台から口に向かって大きく鉢状に引き上げ、口縁を外側に開いて鐔縁としている。見込みと口縁、口縁下の立ち上がり部分に染付で文様が描かれ、外側の口縁下部には二重圏線が引かれる。畳付をのぞいて全体に透明釉がかけられている。見込みの文様は、高くそびえたつ岩山、山にかかる雲、帆かけ船の列など山水画を思わせる風景が器面いっぱいに描きこまれる。		

＜考古＞(3件)

16　名称	の字状石製品（のじじょうせきせいひん）	品　　質	石製（蛇紋岩）
作 者 等	新潟市西蒲区下木島出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(前期～中期)・前4000～前2000年	寸 法 等	縦4.4cm 横4.4cm 厚0.3cm 重量7.9g 円環部 径1.6cm ：孔径0.2cm
作品概要	石製の装身具である。「の字状石製品」とは、平仮名の「の」の字に似ることから命名された。全面を研磨することで平滑に仕上げ、尾部は擦切によって作り出される。中央の孔は両面からの研磨によって穿孔されている。縄文時代前期末から中期初頭にかけて中部日本を中心に分布する。		

17　名称	鼉龍鏡（だりゅうきょう）	品　　質	青銅製
作 者 等	新潟市 菖蒲塚古墳出土	員　　数	1面
時　　代	古墳時代・4世紀	寸 法 等	面径23.7cm
作品概要	古墳時代の倭鏡（日本列島製）。中心にある鈕座には珠文と櫛歯文が巡る。内区にある四体の神獣像は、棒状の巨を口にくわえた胴長の獣像とその上に乗った神像からなる。内区外周には半円方形帯が巡り、斜面には鋸歯文が施される。外区には内側から退化した表現の鳥文や菱雲文、素文が巡る。中国製の画文帯神獣鏡をモデルに作られた鏡であり、鼉龍鏡の中でも大型で、比較的古い段階に作られた作品。類似する鏡として沖ノ島17号遺跡11号鏡がある。本鏡は畿内地域で製作され、地方首長へ贈与されたものである。		

18　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	新潟市布目出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(前期)・前4000～前3000年	寸 法 等	高37.3cm 口径28.5cm
作品概要	北陸地方の縄文時代前期前葉に位置付けられる布目式土器の標識資料。底部は尖底をなし、胴部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる深鉢形土器である。口縁部は4単位の波状口縁をなす。口縁部上端と胴上半の突帯状の段に刻目文を巡らせ、地文には羽状縄文が全面に施される。胎土には植物繊維及び雲母や石英などの各種鉱物が混和剤として用いられている。		

＜歴史資料＞(1件)

19　名称	香道賤家梅（こうどうしずがやのうめ）	品　　質	紙本墨書・着色
作 者 等	牧文龍（生没年不詳）撰	員　　数	15冊
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	縦24.4cm 横15.5cm
作品概要	袋綴装。 【各冊墨付丁数】(1)69丁(2)62丁(3)53丁(4)66丁(5)58丁(6)65丁(7)58丁(8)57丁(9)65丁(10)67丁(11)63丁(12)64丁(13)58丁(14)62丁(15)82丁。 香道に関する百科全書的な著作で、第1冊から第12冊までは諸流派で行われる各種の組香（香道の競技）の規則や立物など使用する道具類、勝負の記録方法などを詳述する。第13、14冊は香道具や組香に使われる立物を細密な着色で描く。第15冊は歴史上の香道の宗匠の伝記や著名な香木、香の調合の処方などの知識をまとめる。		

＜東洋絵画＞(1件)

20　名称	白色ターラー菩薩像（しろいろたーらーぼさつぞう）	品　　質	綿本着色
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	清時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦45.0cm 横36.5cm　総寸 縦92.5cm 横56.5cm
作品概要	掛幅装（軸亡失）。額に第三眼、両手足にそれぞれ目を表わすことから、描かれるのはターラー菩薩と知られる。左手は屈臂して蓮茎を執り、右手は垂下して掌を仰ぎ、与願印とする。条帛、天衣、裙を着け、蓮華座上で右脚を上に結跏趺坐する。頭光と身光を表わす。画面上方には右左に日月と、これに対応するように二尊を表わすが、尊名は不明。エーカジャターとアショーカカーンタ・マーリーチー、赤色ターラーと緑色ターラー、二十一種ターラーのうち二尊である可能性がある。木綿地に顔料で描かれており、軸装のうえ全体を覆う保護布（メンジ）を2枚かける。表装は清朝末ごろのものと思われ、清朝統治下の外モンゴル（現モンゴル国）で製作されたチベット仏教の軸装仏画（タンカ）と考えられる。		

＜東洋金工＞(1件)

21　名称	五花鏡（ごかきょう）	品　　質	銅鋳製
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	高麗時代・11～12世紀	寸 法 等	径11.1cm 厚さ0.5cm
作品概要	五弁花形の青銅鏡で、鏡背の中央に小ぶりな平頭鈕を有する。鈕座は花弁状を呈する。鏡背は五花形の界線で内外区を分かつ。内区には鈕を挟んだ対角上に鏡縁を地として立つ鴛鴦一対をあらわす。その合間には葉を茂らせた瑞花が展開する。外区には花弁ごとに独立した唐草文を配す。 五花鏡は日本製の鏡に由来する鏡式である。本品は錆色の具合や類例から朝鮮半島由来と判断でき、類品の盛行時期から高麗時代の11世紀から12世紀と判断する。		

＜東洋陶磁＞(1件)

22　名称	五彩花鳥文大皿（ごさいかちょうもんおおざら）	品　　質	磁製
作 者 等	中国・景徳鎮窯	員　　数	1枚
時　　代	明時代・17世紀	寸 法 等	高6.1cm 口径35.0cm 高台径22.4cm
作品概要	硬質磁胎。丸みをもって浅く立ち上がった大皿。口縁を四分した上下の部分は直口形とし、左右は波形に表わし、口紅を施す。下絵付けの青花で見込みに二羽の雉と、笹、牡丹、躑躅らしき植物を描き、口縁下に四方襷や紗綾、渦文などを帯状に巡らす。裏面は梅などの樹木に鳥がとまる図がざっくりと配される。絵付けは手慣れた筆致であるが、細部は崩れて大様な印象である。一方、赤、黄色、緑の上絵付けで隙間を埋めるように四方襷、鱗などの地文が細やかに配される。また、裏面の窯疵を緑の上絵具でなぞっている。高台内には青花で二重円を描き、内側に「大明嘉靖年製」と角福銘を配し、この二つの銘を赤で四角く囲んでいる。		

＜東洋考古＞(4件)

23　名称	銅鼓（どうこ）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	18～19世紀	寸 法 等	高52.5cm 面径65.5cm
作品概要	失蝋鋳造による青銅鼓。鼓面は円盤状で、光芒を中心に20本の三重突線が同心円状にめぐる。縁辺にはそれとは別に縄文をめぐらせる。突線の合間にはスタンプによる鳥文、魚文、円文、菱文、輪つなぎ文、波状文を配す。鼓面四方には抱接行動をとる三段重ねのカエルを配す。胴部は、三重突線により上、中、下位に分け、また疑似筆線を四方にいれる。左右に双耳をつける。器壁には円文、菱文、輪つなぎ文、波状文、綾杉文、羽文を配す。胴部の一側面には、樹木をあらわし鳥や果実を配する。樹木の中軸上に象と蝸牛を立体的にあらわす。 本品は、形態からHeger Type Ⅲ（西盟型）に分類される。同型式はミャンマー東北部から雲南省南西部、ラオス北部、タイ北部に分布する。なかでも象、蝸牛、樹木などの装飾は比較的新しい段階の銅鼓にみられる特徴である。		

24　名称	八禽鏡（はちきんきょう）	品　　質	銅鋳製
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	前漢～後漢時代・前1～後1世紀	寸 法 等	径8.6cm 厚さ0.3cm
作品概要	円盤形の鏡で、鏡面はわずかに凸面をなす。鏡背の中央に半球鈕を設ける。鈕座は線圏を有する幅射文をなし、内外に斜行櫛葉文帯をめぐらせる。その間を円座を有する乳４個で区画し、区画の間を細線により向かい合う鳥を２羽ずつ、鳥は鏡縁を天、鈕を地として計８羽を配する。鏡縁はやや熟く幅広で素文とする。これらの文様の鋳出は総じて精細さを欠き、踏み返し鏡とみられる。文様の盛行期と鈕座の特徴から前漢時代末、前１世紀頃を上限とする。		

25　名称	漆器片（しっきへん）	品　　質	夾紵漆塗
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	前漢時代・前1世紀	寸 法 等	縦4.3cm 横6.5cm
作品概要	夾紵胎に布着せとし、胴部外面と口縁の内外面とを黒漆塗り、胴部内面を朱漆塗りとする。湾曲の具合から、本来の形状は径18～21cm程度の円筒形の容器であることがわかる。外面には圏線、櫛歯文、雲気文を錐刻する。文様構成と技法から、前漢時代・前1世紀頃の作とみられる。		

26　名称	古代エジプト資料（こだいえじぷとしりょう）	品　　質	石製、土製ほか
作 者 等		員　　数	一括
時　　代	先王朝時代・前4千年紀～ローマ時代・3世紀頃	寸 法 等	
作品概要	古代エジプトの浮彫や彫像の断片、土器、石製品などで構成されるコレクションで、先王朝時代からローマ時代までの資料を含む。		

＜東洋民族＞(1件)

27　名称	バタク文書（ばたくもんじょ）	品　　質	樹皮製
作 者 等	インドネシア、スマトラ島北部	員　　数	1帖
時　　代	20世紀前半	寸 法 等	縦6.5cm 横7.4cm 厚3.6cm
作品概要	インドネシアのスマトラ島北部のトバ湖周辺に居住するバタク族に由来する手稿本である。同民族はオーストロネシア語系のバタク語を話し、本品に記されている固有の文字をもつ。バタクの中の一部族であるトバでは、祖先崇拝、アニミズム、シャーマニズムの伝統があり、ダトゥ（datu）と呼ばれる司祭やシバソ（sibaso)と呼ばれる女性のシャーマンによって儀礼が執り行われていた。本品は、こうしたトバ族による儀礼や呪術に関する知識や方法を記した、いわば「手引書」のような性格の文書である。 本品はなめした樹皮を蛇腹状に折り畳んだもので、片手に収まるサイズである。外側のページには木の薄板が貼りつけられており、これが表紙となっている。折り畳まれた樹皮の両面に、黒色インクでバタク文字による文章が記され、所々で挿絵も見られる。文字が記されているページは56ページに及ぶ。		

＜黒田記念館収蔵品＞(1件)

28　名称	西洋婦人像（せいようふじんぞう）	品　　質	カンヴァス・油彩
作 者 等	黒田清輝（1866～1924）筆	員　　数	1面
時　　代	明治25年（1892）	寸 法 等	縦32.0cm 横24.6cm
作品概要	つば広の帽子を被った西洋婦人の半身を描く。明るい色彩を用い、顔貌部分を除けばラフな筆致でまとめられ、「外光派」と呼ばれた黒田清輝の作風をよく示している。画面左下に「Sèïki Kouroda / Grez 1892」のサインがあり、明治25年（1892）に、フランス留学中の黒田が好んで滞在した小村グレー・シュル・ロワンで制作したことがわかる。隈元謙次郎氏の著書『黒田清輝』（日本経済新聞社、1966年）では、同年に黒田がサロン出品に向けて制作を試みた「夏図」の習作と位置づけられている。 キャンバス裏面は裏蓋が施され、近年修復した跡が見られる。下方に日動画廊のラベル、また額裏面左上には昭和40年（1965）にブリヂストン美術館で開催された「黒田清輝生誕百年記念展覧会」のラベル、右上には昭和55年（1980）に北九州市立美術館で開催された「日本の洋画家による滞欧作展」のキャプションが貼付されている。		

（３）編入(768件)

＜法隆寺献納宝物＞(1件)

1　名称	裳残欠（もざんけつ）	品　　質	絹製、夾纈、纐纈
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	奈良時代・8世紀	寸 法 等	縦101.4cm 横212.5cm
作品概要	女性の装束である裳の残欠。ただし、実際には伎楽の呉女のための装束と考えられる。白地白絹を裏地として、緑地目結文纐纈平絹を表地とする。さらに上層には緑地平絹と夾纈羅が重なる。裳の本体が四層もの裂で構成されることは考え難いので、緑地平絹と夾纈羅については褶（ひらみ）である可能性が考えられる。また四層の裂を包み込むかたちで、上部には緑地平絹の腰帯がつき、同じ裂を用いた肩紐が縫製されている。正倉院にのこされる奈良時代の裳が、基本的に腰帯で身体に巻き付ける構造であることからすれば、肩紐がつく点は珍しいものと言える。		

＜写真資料＞(767件)

2　名称	写真資料（しゃしんしりょう）	品　　質	鶏卵紙、ゼラチンシルバープリント、プラチナプリント等
作 者 等		員　　数	767件
時　　代	江戸～明治時代・19世紀	寸 法 等	
作品概要	767件の中には、東京国立博物館誕生の原点ともいえる湯島聖堂博覧会写真、19世紀に各国で開催された万国博覧会にかかる写真、江戸時代・文久年間に幕府から条約交渉のため渡欧した使節の肖像写真、近年(平成20年)、ガラス原板(奈良市所蔵)が重要文化財に指定された工藤利三郎撮影による「社寺建築写真帖」などが含まれる。		

【京都国立博物館】(計55件)

（１）購入（24件）

＜絵画＞（22件）

1　名称	百犬図 （ひゃっけんず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	伊藤若冲	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	縦143.0cm、横84.4cm
作品概要	8世紀の京都画壇を代表する画家の一人、伊藤若冲（1716～1800）による絹本著色の大幅である。多くの展覧会出品歴、書籍掲載歴があり、すでに若冲の代表的作品の一つとして広く知られている。本作のように一つのモチーフを数多く（本作の場合は59匹）描くこの種の作品は、基本的には「ものづくし」の趣向による吉祥画と見られ、多産・豊穣などを寓意すると考えられる。特に、犬の場合は多産や子孫繁栄の意味合いが強い。画面中央付近に「笑」の字とも見える毛並みをもつ犬が混じる点も、吉祥的意味合いを強めている。竹と犬を描く、いわゆる「一笑図」との関連も考えられよう。いずれにしても、本作が吉祥画としての側面をもつことは間違いない。		

2　名称	円山応挙関係資料　三井南家伝来（まるやまおうきょかんけいしりょう　みついみなみけでんらい）	品　　質	紙本墨画ほか
作 者 等		員　　数	1括（480件）
時　　代	江戸～昭和時代（18～20世紀）	寸 法 等	
作品概要	三井南家に伝来した、円山応挙関係の資料一括である。現所蔵者が三井家から直接買い受けたものという。粉本・絵手本・図案集等計480件からなり、応挙および円山派の絵画制作にかかわる貴重な資料群である。大阪市立美術館で開催された応挙展（2003年）をはじめ、すでにいくつかの展覧会に出品歴がある。三井家は応挙の有力なパトロンであり、本家だけでなく三井北家・南家とも応挙と関係があったが、本資料が伝来した経緯については必ずしも明らかではない。資料の内容や書き込み等から判断する限りでは、応挙に私淑し自らも絵筆を執った三井南家九代目当主高徳（1874～1937）が収集した資料が大部分を占めると見られ、高徳の手になる模本類も多く含まれる。一部の模本には、円山派の画家山本桃谷など原本所蔵者も記されており、資料の収集や模写原本の借覧に際しては、同時代の円山派画家などさまざまなつてを頼ったものと思われる。高徳模本には「千夜千枚」との印が捺されるものが多くあり、三井物産監査役等をつとめるかたわら模写を日課として画技の習得に励んでいた様子がうかがえる。		

3　名称	金剛界曼荼羅三摩耶会図像（こんごうかいまんだらさまやえずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	平安時代　天永三年（1112）	寸 法 等	縦30.1cm、横1007.5cm
作品概要	本品は金剛界曼荼羅三昧耶会の三昧耶形を列挙した図像で、非常に薄い楮打紙に諸処に乾性油を引いて図像を転写したものである。教王護国寺（東寺）宝菩提院旧蔵品で、奥書朱書から天永三年に円堂御本を写したものと知られる。十二世紀前半に遡及する紀年銘のある図像は稀少で、伝来が明瞭な点においても、基準作として極めて高い価値を有する。		

4　名称	十巻抄　観音下・天等下（じゅっかんしょう　かんのんげ・てんとうげ）	品　　質	紙本淡彩・墨書
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦30.3cm、全長1226.0cm
作品概要	『十巻抄』は、平等房永厳あるいは勝定房恵什の撰になるとされる、平安時代末期に編纂された図像集である。原本は伝わらず、鎌倉時代に遡る写本が三種（醍醐寺、逸翁美術館、円通寺）重要文化財に指定され伝存する。本品は、教王護国寺（東寺）観智院に伝来したもので、逸翁美術館本、円通寺本を遡る十三世紀後半の作である。もとは十巻が完存し、図像も彩色が施された絵仏師の手になると考えられるもので、『十巻抄』の善本として知られていた。戦後に東寺から流出し、奈良国立博物館に仏頂等一巻・経法一巻、帝塚山大学博物館、ハーバード大学美術館等に分蔵が確認されている。史料的価値は上述の通りであるが、彩色図像として美術品的価値も極めて高い。		

5　名称	宗宝僧正画稿一紙・宗杲僧正画稿三紙（そうほうそうじょうがこういっし・そうごうそうじょうがこうさんし）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幀
時　　代	室町時代　15世紀	寸 法 等	①宗宝像縦22.9cm、横15.9cm、②宗杲像（一）縦12.2cm、横11.5cm、③宗杲像（二）縦23.3cm、横9.3cm、④宗杲像（三）縦26.9cm、横10.0cm、⑤宗宝像附属題記縦15.4cm、横3.5cm、⑥宗杲像（一）附属題記7.8cm、横1.9cm、⑥宗杲像（二）附属題記8.8cm、横3.0cm、額総寸縦61.0cm、横46.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院に伝来し、『東寺』（朝日新聞社、1958年）で初めて紹介されたもので、観智院蔵真言八祖像の箱から発見されたとされる。観智院四世宗宝・同五世宗杲の肖像紙形で、現在は額装されている。その修正を重ねた様相から、宗宝・宗杲の寿像と推測される。本図と一緒に収められていた観智院蔵真言八祖像の制作年代は、永享六年（一四三四）と判明しており、本図の制作年の大凡を傍証していると言える。宗宝・宗杲の肖像としては、もっとも由緒の正しい作で、東寺観智院の歴史を考える上でも他に類のない貴重な遺品である。		

6　名称	金剛童子図像（こんごうどうしずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	平安～鎌倉時代　12～13世紀	寸 法 等	縦20.9cm、全長308.1cm
作品概要	本品は、金剛童子という天台宗寺門派・三井寺系統で尊信された尊格をまとめたものであるが、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵になる。楮打紙に罫線を引いた料紙に図像と所説を交互に記載するが、最初から罫線を引いた料紙を使用しており、図像は罫線の上に描かれる。また、図像部分には乾性油を引いた痕跡が残る。料紙の状況や図像の線描の質から、絵仏師に絵を描かせたのではなく、僧侶が図像と所説を交互に順次写していったものと思われる。蓋裏墨書に田山方南（1903～1980）が「平安時代所描」と記すが、制作年代は十二～十三世紀と見られる。当時における真言宗と天台宗との宗派を超えた図像蒐集活動を示す例として貴重な作品である。		

7　名称	烏枢瑟摩明王図像（うすさまみょうおうずぞう）	品　　質	紙本白描・墨書
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦26.6cm、全長490.4cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵で、烏枢瑟摩明王の諸図像十五図をまとめたものであるが、宇治経蔵本などの珍奇な図像が収載されていることから大正新脩大蔵経図像部第六巻に「烏枢瑟摩明王図像（一巻）　京都観智院蔵本」として収録されており、戦前から著名であった作品である。蓋裏墨書に田山方南が「平安時代所描」と記すが、表紙と本紙の継目裏に定円（花押）の署判があることから、鎌倉時代、十三世紀前半の作と見られる。定円は、明恵の弟子ともされており、観智院には他にも定円伝領本が複数存在しており、これらは勧修寺・実任の収集図像がもとになっているとされる。東寺観智院第十三世・賢賀の修理奥書がある。伝来の判明する史料的価値の高い図像で、大正新脩大蔵経図像部掲載本の原本の情報が確認できるのは研究上重要な意義を有する。		

8　名称	大日経十二火神図像　（だいにちきょうじゅうにかしんずぞう）	品　　質	紙本淡彩
作 者 等	賢宝	員　　数	1巻
時　　代	南北朝時代　14世紀	寸 法 等	縦26.7cm、全長181.9cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵で、観智院第二世・賢宝（1333～98）の自筆になる貴重な図像である。賢宝は、杲宝、頼宝とともに東寺三宝といわれた当代随一の学僧であり、本品に筆者注記はないが、図像注記の文字から間違いないものと推定されている。『大日経』護摩品に説く護摩の真意義にかなう真実の十二火神を描いたもので、巻首第一智火・第二行満の二火神を失うほか、第九意生・第十一（経文不説）の二火神を失っている。他に類品が残されていない珍奇な図像であり、大正新脩大蔵経図像部第七巻に「大日経十二火神像（一巻）　京都東寺観智院蔵本」として収録されており、戦前から著名であった作品である。大正新脩大蔵経図像部掲載本の原本の情報が確認できるのは研究上重要な意義を有する。		

9　名称	理趣経十八会曼荼羅図(りしゅきょうじょうはちねまんだらず)	品　　質	紙本白描、朱書
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦27.6cm、全長639.8cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）宝菩提院旧蔵で、宿紙に近い紙質に描かれていることから鎌倉時代初頭の作と考えられる。巻首に継紙（横16.5）があり、「惣録云　理趣経十八会曼荼羅十八禎　仁寂（下略）」三行の墨書は観智院第二世・賢宝（1333～98）自筆とされる。巻首継紙墨書の述べるとおり、理趣経十八会曼荼羅を集成したもので、絵仏師の手になる優秀な作行きを示しており、鎌倉時代前期に遡る伝来の明確な図像として貴重なものである。		

10　名称	不動曼荼羅図像断簡(ふどうまんだらずぞうだんかん)	品　　質	各紙本白描
作 者 等		員　　数	2幀
時　　代	平安時代　12世紀	寸 法 等	①二重院構成　本紙縦50.5cm、横30.2cm ②一院構成　本紙縦53.6cm、横30.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵で、②本紙下部旧軸付紙との境界に「定円本（花押）」墨書、②本紙脇に短冊形（旧軸付紙切取、縦10.5、横2.0）貼込があり、そこに墨書「権少僧都経円（花押）」とある。定円は、明恵の弟子ともされ、経円は修理大夫高階経雅の子で遍智院成賢僧正の附法であり、勧修寺・実任（1097～1169）の収集図像を歴代伝領した様をよく示している。大正新脩大蔵経図像部第六巻に「不動曼荼羅（別項金剛童子図像同巻）　京都観智院蔵本」として所載されるもので、三図のうち中間図を欠失している。もともとは、大正新脩大蔵経図像部第六巻に同じく収載される「金剛童子図像一巻　長寛元年写　京都観智院蔵本」の後に継がれていたものである。金剛童子図像に長寛元年（1163）の年記があり、本図もほぼ同時期の制作になると考えられる。これらは、戦後に東寺から流出し、古美術商の手によって分割されたものが再蒐集されたもので、原態を失っているのは残念であるが、平安時代の基準作として重要な位置を占める作品である。		

11　名称	宝楼閣曼荼羅図像断簡（ほうろうかくまんだらずぞうだんかん）	品　　質	各紙本白描
作 者 等		員　　数	2幀・1幅
時　　代	平安時代　12世紀	寸 法 等	①一幀・巻首部　②一幀　③一幅・巻末部　①縦29.5cm、横52.2cm、②縦29.9cm、横51.9cm、③縦28.6cm、横21.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵で、③巻末旧軸付紙との境界に「定円本（花押）/伝領之/権少僧都経円之」とある。定円は、明恵の弟子ともされ、経円は修理大夫高階経雅の子で遍智院成賢僧正の附法であり、勧修寺・実任の収集図像を歴代伝領した様をよく示している。大正新脩大蔵経図像部第五巻に「宝楼閣曼荼羅（一巻）　京都観智院蔵本」として所載されるものであり、本来四紙からなり、①と②の間の一紙分を欠失している。これらは、戦後に東寺から流出し、古美術商の手によって分割されたものを再蒐集されたものである。宝楼閣曼荼羅の異伝を収集した図像としても、また平安時代に遡る由緒の明確な優作としても貴重な作品である。		

12　名称	軍荼利明王図像（ぐんだりみょうおうずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　承久三年（1221）	寸 法 等	縦39.7cm、横28.0cm
作品概要	本品は、旧東寺伝来の図像で、もとは五大明王を一巻としていたが、戦後分割され、諸家に分蔵されるに至ったと見られる。巻末と思われる大威徳明王図像（個人蔵）に奥書「承久三年辛未八月」とあり、制作年代が判明する。ヴィナーヤカを脇侍とすることからもわかるように、非常に珍しい図像であり、基準作としても貴重な図像である。		

13　名称	降三世明王図像（ごうざんぜみょうおうずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幀
時　　代	鎌倉時代　承久三年（1221）	寸 法 等	縦35.8cm、横27.3cm
作品概要	本品は、旧東寺伝来の図像で、もとは五大明王を一巻としていたが、戦後分割され、諸家に分蔵されるに至ったと見られる。巻末と思われる大威徳明王図像（個人蔵）に奥書「承久三年辛未八月」があり、制作年代が判明する。足下の大自在天及び同妃の下に荷葉を敷くことからもわかるように、非常に珍しい図像であり、基準作としても貴重な図像である。		

14　名称	十二神将真達羅大将図像　定智原本（じゅうにしんしょうしんだらたいしょうずぞう　じょうちげんぼん）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦43.8cm、横32.2cm
作品概要	本品は、薬師如来の眷属である十二神将のうちの真達羅大将を描いたものである。かつて十二神将揃った形で高山寺に伝来し、その後、益田鈍翁（1848～1938）の所蔵となり、俗に「益田家本」と称され著名なものであったが、現在は諸家に分蔵されている。大村西崖『仏教図像集古』「五本十二神将」巻頭 に収載され、かつての姿を知ることができる。もともとはメクリの状態で高山寺に伝来したと見られ、鈍翁が軸装に改めたものと思われる。安底羅大将像（メトロポリタン美術館蔵）裏書に「長寛三歳五月十八日　定智本」とあり、また「唐本云々　以帥都維那[定智/長覚房]、令摸畢云々已上　月上院本　玄証（花押）」とあったとされ、その由緒が知られる。すなわち、長寛二年（一一六四）に絵仏師・定智が描いた図を図像蒐集で知られる玄証（1146～1222）が写し、高野山月上院に所蔵された後、高山寺に移されたものである。色注があり、彩色本を写したものであったことがわかる。高山寺伝来の玄証収集図像は「玄証本」と称されているが、その中にあっても由緒がはっきりしている点で屈指の貴重な作品である。		

15　名称	日天子図像（にってんしずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	平安～鎌倉時代　12世紀	寸 法 等	縦54.1cm、横29.9cm
作品概要	本品は、画面中央上部裏に「高山寺」朱文長方印があることからもわかるように、高山寺に伝来したもので、朝日新聞社創立者の村山龍平（香雪、1850～1933）の旧蔵になるものである。村山香雪は、高山寺図像の流出に際し、まとまった収集をおこなっており、香雪美術館・村山家に現在もその多くが収蔵されているが、一部は戦後に整理されて村山家から流出している。本品もその一点で、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。ラベルには「玄証筆　日天子像」とあるが、玄証本かは本図の情報からは確定できない。しかし、制作年代は平安～鎌倉時代であり、その可能性が高い。日天子という非常に珍しい図像である点も貴重である。		

16　名称	地蔵菩薩図像　定智原本（じぞうぼさつずぞう　じょうちげんぼん）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦52.5cm、横28.6cm
作品概要	宣字坐に半跏する地蔵菩薩像を描く。画面上部裏に「高山寺」朱文長方印があり、高山寺伝来と確認される。画面右上隅に裏書墨書（切断し表裏反転のうえ表装）があり、「百号　地蔵菩薩像　定智筆写了」とあることから、十二世紀に活躍が知られる絵仏師・定智筆の原本を写したものと判明し、定智の画蹟をうかがう貴重な遺品であると言える。「玄証本」と称される玄証（1146～1222）蒐集図像の一環であった可能性が高く、制作年代も十三世紀の初頭に置かれるものである。本品は、鐘淵紡績株式会社社長を務めた武藤山治（1867～1934）旧蔵になることが同自筆蓋表墨書「伝定智筆　地蔵尊之像」からも判明するが、武藤山治の収蔵選集図録である『聴松清鑒』にも「第五十七地蔵菩薩図　定智筆　高山寺伝来」として掲出され、鍾愛の品だったことが知られる。優秀な線描から美術品としても高い価値を有する。		

17　名称	不動明王図像（ふどうみょうおうずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦98.8cm、横45.3cm
作品概要	箱側ラベルに「高山寺　白描不動」とあるが、高山寺印は本図には確認されない。しかし、右上隅端裏書「百二号」とあり、この附番は高山寺旧蔵図像に見られることから、高山寺伝来品であることは間違いないと考えられる。下辺中央部に端裏書「不動尊」とある。 制作年代は十三世紀前半に置かれるものである。		

18　名称	深沙大将図像（じんじゃだいじょうずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦100.9cm、横50.7cm
作品概要	本品は、玄奘三蔵のインド行において流砂に出現して守護したという深沙大将を描く。画面裏に「高山寺」朱文長方印があることからもわかるように高山寺に伝来したもので、端裏書墨書「深砂太王　七十五号　月上院」とあることから、玄証蒐集図像であったと考えられる。制作年代も鎌倉時代初期と考えられる。本図は、朝日新聞社創立者の村山龍平（香雪）の旧蔵になるものであり、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。由緒来歴の明確な玄証本の基準作として貴重な作品である。		

19　名称	十二天羅刹天図像　珍海様（じゅうにてんらさつてんずぞう ちんかいよう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦90.8cm、横49.1cm
作品概要	本図は、平安時代後期の画僧・珍海（1092～1151）の創案になると考えられる十二天図像のうちの羅刹天を写したものである。この十二天の図像形式が珍海に手になることは、重要文化財に指定されている旧反町家本（大阪市立博物館・東京国立博物館に分蔵）の画中注記から判明する。珍海は南都の画僧であるが、真言宗小野流と所縁が深く、小野流の灌頂儀礼の整備に際し、屏風の形式に適合するようこのような立像式十二天像を創案したと見られる。本品に色注が施されていることからわかるように、珍海の十二天は彩色本であった。本品は、裏面に「高山寺」朱文長方印が捺されていることからもわかるように、高山寺に伝来し、もとは十二天完備していたと見られる。制作年代も旧反町家本とほとんど隔たらない十三世紀初頭の作と見られ、玄証本と証される玄証蒐集図像の一部をなしていたと推測される。本十二天図像は、当館に伊舎那天像（A甲786）が既に所蔵されている他、奈良国立博物館に帝釈天像が所蔵されている。もと村山香雪の旧蔵品で、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。旧反町家本に匹敵する珍海様十二天像の善本として高い価値を有する作品である。		

20　名称	文殊菩薩図像（もんじゅぼさつずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦61.0cm、横53.0cm
作品概要	二重円光に蓮華座上に坐し、右手に三鈷剣、左手に梵篋を載せた開敷蓮華を執る文殊菩薩を描く。色注が施されていることから、彩色本を底本としていたと見られる。左上隅端裏書「文殊菩薩」とあり、十三世紀初頭の作と見られる。作品自体には他の情報はないが、本図は高山寺に伝来した玄証本と証される玄証蒐集図像の一部をなしていたと推測される。なぜなら、本図は村山香雪の旧蔵になり、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製のなることが明らかだからである。香雪は高山寺図像をまとめて入手しており、本図もその一部と見るべきであり、箱側ラベル「玄証　文殊図　（楕円ラベル）「番外二十三」」もこれを傍証している。蓋表墨書「高山寺白描文殊菩薩」及び蓋裏墨書「昭和廿五年十月八日　吉原生」は、村山家からの流出後に記されたもので、香雪蒐集品の変遷を知る上で参考になる情報である。		

21　名称	別尊雑記　宝楼閣　（べっそんざっき　ほうろうかく）	品　　質	紙本白描、墨書
作 者 等	不明	員　　数	1巻
時　　代	南北朝時代　14世紀	寸 法 等	縦28.9cm、全長722.4cm
作品概要	本品は、平安時代後期に心覚（1117～80）が編纂した『別尊雑記』の写本で、本奥書に「以正本私加点白六是也　竟空記之」とあることから、徳治三年（1308）竟空加点奥書原本を写した別尊雑記一具の零本であることが判明する。本品は日本画家の堂本印象（1891～1975）の旧蔵になる。徳治三年竟空加点奥書原本も現存が確認され、『思文閣古書資料目録』善本特集第十三集（通巻百七十三号、2001）に馬頭・十一面巻が掲出されている。この原本は、有力寺院に蔵されていたと見られ、本品と更に別系統になる写本が立命館ARC(藤井永観文庫)に観音巻が所蔵（eik2-0-82）されている。原本は竟空加点奥書を白緑で記し、その言葉通り白緑点を施しているが、本品等の諸写本は白緑を朱に変えて写しているのが特徴である。また、本品は朱書・朱点を施すが竟空加点本奥書を墨書で記すのに対し、藤井永観文庫本は朱書で記し、朱墨の階調も明るい点が異なり、制作年代も藤井永観文庫本が遡る。本品は、鎌倉時代の雰囲気を多分に残した暢達な書体から原本をさほど下らない時期に写されたものと考えられ、十四世紀、南北朝時代の作と考えられる。中世における密教図像の伝写拡散過程を考察する上で興味深い史料であると言える。また、京都画壇の大立者であり収集家として知られた堂本印象を記念する遺品であり、鑑賞史の観点からも意義が高い作品である。		

22　名称	重要文化財　法華経巻第五（冊子）　（ほけきょうかんだいご（さっし））	品　　質	彩牋墨書
作 者 等	不明	員　　数	1帖
時　　代	平安時代　11世紀	寸 法 等	18.1×11.2cm
作品概要	『妙法蓮華経』巻第五「提婆達多品第十二」「勧持品第十三」「安楽行品第十四」「従地涌出品第十五」を華麗な料紙に書写した冊子。早くも昭和6年には旧国宝に指定された名品である。 全40丁。もとは粘葉装であったが、現状は綴葉装とする。一部脱落・錯簡がある。料紙は北宋舶来と考えられる唐紙を用いており、その多くは縹・黄・白などの具引き地に、雲母摺りによって唐草文や花菱文などが表されている。平安貴族の法華経信仰と高い美意識が結合した装飾経ということができよう。特徴的な点は、宮廷風俗や女性を描く下絵が6図含まれていることである。いわゆる大和絵の技法で描かれた各図の主題は明らかでなく、歌絵か物語絵かなど議論が分かれている。なお、同時代の類品として『観普賢経冊子』（重文、五島美術館）が知られる。		

＜金工＞（1件）

23　名称	重要文化財　短刀 銘 長谷部国重（たんとう　めい　はせべくにしげ）	品　　質	鉄、鍛造
作 者 等	長谷部国重	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代　14世紀	寸 法 等	全長47.0cm　刃長37.3cm
作品概要	南北朝時代の京都で繁栄した刀工集団・長谷部派の名工、国重の手による短刀。 　国重をはじめとする長谷部派は大和鍛冶をその祖に持ち、鎌倉時代後期に鎌倉に移住したのち、相州鍛冶の祖である新藤五国光の影響を受けたと考えられる。鎌倉幕府の崩壊後は京都に集住して信国派と並ぶ南北朝時代の山城鍛冶を代表する流派となった。国重は京都に移住後の同流派の実質的な初代で、弟の国信と共に多くの名品を遺している。国重は弟の国信に比して在銘の現存作例が短刀に偏重しているのが特徴で、しかもその数は極めて少ない。国重の代表的な作例としては福岡市博物館所蔵の国宝「刀　金象嵌銘長谷部国重本阿（花押）／黒田筑前守（名物圧切長谷部）」がつとに名高いが、これすらも後年の鑑定家（本阿弥光徳）による極めの金象嵌銘であり、国重自身の銘ではない。		

＜陶磁＞（1件）

24　名称	色絵古裂文食籠（いろえこれつもんじきろう）	品　　質	施釉陶器
作 者 等	永樂和全	員　　数	1合
時　　代	江戸時代～明治時代（19世紀）	寸 法 等	高6.8cm　口径28.7cm×28.5cm
作品概要	器の表面に布を押し当て、その上から絵付けして布の質感を表した団扇形の重箱である。布目はもともと装飾技法として生み出されたものではなく、型づくり成型の際に型から生地を外しやすくするために型に布を敷く成型技法のひとつで、器表に布目が残るのが特徴となっている。古くから行われている技法で、桃山時代の織部焼などでは布目の様子を装飾ととらえ、文様の一部に取り入れるなどされている。 さて、本作は京焼の名工、永樂和全（1823 - 1869）の作である。永樂家は土風炉師として知られた家で、もとは西村姓を称した。永樂家では江戸時代の寛政年間（1789 - 1801）から文化文政年間（1804 - 1830）頃になると、上絵付を施した鮮やかな色彩の京焼も流行することから、土風炉だけでなく、施釉陶器の生産も行われるようになった。		

（２）寄贈（31件）

＜絵画＞（7件）

1　名称	岡本豊彦像（おかもととよひこぞう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	塩川文麟	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　19世紀	寸 法 等	103.0×42.5cm
作品概要	四条派の画家岡本豊彦の肖像で、代々岡本家に伝わった。裃姿に脇差をさして端坐する姿を描く。この画像は、門人らが豊彦の月命日に参集した際に掛けたという。岡本家の伝えによると文麟の描いた豊彦像はもう一点あり、そちらは竹内栖鳳が所蔵していたというが現在の所在は不明。現在知られる豊彦の肖像はこの一点しかなく、伝来が確かな点でも貴重な作である。		

2　名称	七星如意輪観音像（しちせいにょいりんかんのんぞう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	不明	員　　数	1幅
時　　代	南北朝時代　十四世紀	寸 法 等	縦121.7cm　横55.9cm
作品概要	如意輪観音と北斗七星との信仰を融合させた不空訳とされる『七星如意輪秘密要経』に依拠する尊格。しかし、通常は中央に輪宝を配した曼荼羅構成をとるが、本図では六臂如意輪観音に上部に北斗七星を配し、下部に諸童子を描く。このような表現をとる七星如意輪像では現存最古の作であり、日本中世の仏教信仰を考える上で重要な位置を占める。		

3　名称	山水図屏風（さんすいずびょうぶ）	品　　質	紙本金地墨画
作 者 等	鶴澤探索	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	各160.8×352.2cm
作品概要	総金地の画面に水墨で山水人物を描く作品。探索の画風は幅広いが、本作は探幽に始まる典型的な江戸狩野様式を継承している。瀟湘八景を思わせるモチーフも散見はされるが、全体として特定の画題をあらわしたものではないと見られる。法眼に叙された明和6年（1769）41歳以降の作。		

4　名称	山水長巻模本（さんすいちょうかんもほん）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	山岡山泉	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代　20世紀	寸 法 等	37.5×1619.4cm
作品概要	国宝「四季山水図巻（山水長巻）」の模本。45歳で会社を退職後、絵画を習い始めた山岡山泉は専ら古画の模写を行うようになる。特に雪舟には深く傾倒したことが知られ、なかでも毛利家に許され直接原本にあたった「四季山水図巻（山水長巻）」の模写は10点を数える。本作はこれまで知られていなかった1点。		

5　名称	関羽図（かんうず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	長澤蘆雪	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	98.5×35.4cm
作品概要	馬上で青龍刀を抱える関羽を描く。筆者についてはなお慎重な検討が必要だが、長澤家伝来の下絵に全く同一図様のものがあり、資料的にも興味深い。賛は公卿の高辻胤長による。		

6　名称	龍虎図（りゅうこず）	品　　質	絹本墨画
作 者 等	狩野惟信	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	118.8×46.2cm
作品概要	対峙する龍虎を水墨で描く作。様式的には探幽以降の江戸狩野の典型を示すもので、墨のにじみやぼかしを用いた虎の縞模様、渦巻く雲の表現には手際の良さを見せる。落款から、惟信が法眼に叙された天明元年（1781）以降、法印に叙される寛政6年（1794）までの作とわかる		

7　名称	免税図扇面（めんぜいずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	伝王式丹題	員　数	1幀
時　代	中国・清時代（18世紀）	寸 法 等	縦17.2cm　上弦49.0cm　下弦20.8cm
作品概要	清時代に繁栄した揚州の市場の賑わいを描いた図に「免税図」と題した四言詩が記された扇面。題詩の筆者とされる王式丹（1645～1718）は字を方若、号を楼村といい、江蘇宝応の人。康熙42年（1703）の状元（科挙の最終試験の殿試での第一位）である。本詩は日照不足などによる市場の低迷にたいする免税の施策を讃えた内容である。ただし、王の詩集『楼邨詩集』には収録されておらず、書写された文字にも震えなどがみられることから、伝称作品の可能性が考えられる。とはいえ、清時代の社会文化をうかがう資料として活用が期待されよう。		

＜書跡＞（2件）

8　名称	十牛図第九返本還源題辞并頌（じゅうぎゅうずだいくへんぽんかんげんだいじならびにじゅ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝夢窓疎石筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	縦33.3cm　横47.3cm
作品概要	十牛図は、禅の修行過程を牧牛になぞらえ、10の図と頌により表現したもの。本幅はそのうち第9図（返本還源）の題辞と頌で、署判はないが、筆者を夢窓疎石（1275～1351）と伝える。たしかに、夢窓は観応元年（1350）8月、光厳・光明の両天皇をむかえた天龍寺おいて、十牛図の頌を講説するなど、関係性は皆無ではない。しかし、「臨幸私記」（重要文化財、鹿王院蔵）をはじめ、夢窓の基準作と比較して自筆とみなすのは難しく、後世に写されたと考えるほうが妥当である。虎林中虔ら天龍寺僧3名による寛文11年（1671）11月日付の極書が附属しており、墨蹟の受容史という観点からは面白い作品といえる。		

9　名称	行書雲林詩（ぎょうしょうんりんし）	品　質	紙本墨書
作 者 等	于右任	員　数	1幅
時　代	中国・中華民国時代（20世紀）	寸 法 等	縦153.6cm　横41.1cm
作品概要	清末の革命に参じ、中華民国の国民政府では長らく監察院院長をつとめた政治家の于右任（名は伯循、陝西三原の人、1879～1964）による行書幅。中国書写の改革を目指し「標準草書」を提唱した書家としても知られた于ののびやかな字姿をみせる典型的な作例で、落款は1920年代のものに似ている。中国末尾に「雲林詩」とあるように、書写されているのは元の四大家の一人、倪瓚（号は雲林、江蘇無錫の人、1301～1374）が詠んだ「舟過梁溪」（『清閟閣全集』巻七収録）である。		

＜金工＞（8件）

10　名称	短刀　銘日州住信濃守国廣作／天正十九年二月吉日（たんとう　めいにっしゅうじゅうしなののかみくにひろさく／てんしょうじゅうきゅうねんにがつきちじつ）	品　質	鉄　鍛造
作 者 等	堀川国広	員　数	1口
時　代	室町時代・天正十九年	寸 法 等	全長45.2cm、刃長33.9cm、反り0.5cm
作品概要	桃山時代の新刀期を代表する名工・堀川国広の「天正打ち」と呼ばれる時代の作品。刀身に彫られた大黒天の彫刻と天正十九年の年紀が非常に重要な基準作。		

11　名称	短刀　銘山城国幡枝寓朝尊（たんとう　めいやましろのくにはたえだぐうちょうそん）	品　質	鉄　鍛造
作 者 等	南海太郎朝尊	員　数	1口
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	全長28.9cm、刃長21.0cm、反り0.3cm
作品概要	高知出身の刀工である南海太郎朝尊が京都・幡枝八幡宮周辺に居住していた時期の作品。		

12　名称	短刀　銘為資光作　刀身銘やきたちはさやにをさめてますらをの／こころますますとくへかりけり　正三位有功造并詠（たんとう　めいすけみつのためつくる　とうしんめいやきたちはさやにをさめてますらをの／こころますますとくへかりけり　しょうさんみありことつくるならびによむ）	品　質	鉄　鍛造
作 者 等	千種有功	員　数	1口
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	全長50.8cm、刃長37.6cm、反り0.6cm
作品概要	公卿で歌人としても高名な千種有功が自身の和歌を刀身に彫刻した作品。		

13　名称	短刀　銘石見大掾藤原国助（たんとう　めいいわみだいじょうふじわらのくにすけ）	品　質	鉄　鍛造
作 者 等	石見大掾国助	員　数	1口
時　代	桃山時代・17世紀	寸 法 等	全長50.4cm、刃長37.1cm、反り0.8cm
作品概要	石見大掾国助は兄である河内守国助とともに堀川国広の門下となり、伊勢や神戸で活動した刀工。本作は石見大掾国助の作品の中でも優れた出来栄えの物である。		

14　名称	短刀　銘国昌（たんとうめいくにまさ）	品　質	鉄　鍛造
作 者 等	国昌	員　数	1口
時　代	桃山時代・17世紀	寸 法 等	全長31.9cm、刃長22.9cm、反り無し
作品概要	国昌は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

15　名称	脇差　銘国徳（わきざし　めいくにのり）	品　質	鉄　鍛造
作 者 等	国徳	員　数	1口
時　代	桃山時代・17世紀	寸 法 等	全長60.1cm、刃長47.9cm、反り1.4cm
作品概要	国徳は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

16　名称	脇差　銘国時（わきざし　めいくにとき）	品　　質	鉄　鍛造
作 者 等	国時	員　　数	1口
時　　代	桃山時代・17世紀	寸 法 等	全長70.9cm、刃長56.6cm、反り1.5cm
作品概要	国時は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

17　名称	脇差　銘平安城藤原弘幸（わきざし　めいへいあんじょうふじわらのひろゆき）	品　　質	鉄　鍛造
作 者 等	弘幸	員　　数	1口
時　　代	桃山時代・17世紀	寸 法 等	全長65.2cm、刃長51.8cm、反り1.4cm
作品概要	弘幸は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

＜陶磁＞（3件）

18　名称	信楽壺（しがらきつぼ）	品　　質	焼締陶器
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	室町時代　15世紀	寸 法 等	高47.0cm　口径14.7×15.8cm　底径13.7×13.7cm　胴径41.5cm
作品概要	信楽焼の壺である。口縁部や全体の形状から、室町時代（15世紀）に作られたものと考えられる。窯の中での焼成中に灰を被り、それが溶けて肩部から胴裾に向かって釉流れがみられる。口縁部に欠損がみられるものの、釉や器表の発色も良い。箱書によれば、大正から昭和時代に活躍した、映画監督の清水宏の旧蔵品である。		

19　名称	色絵貼花果花宝尽文双耳瓶（いろえちょうかかかほうじんもんそうじびん）	品　　質	色絵磁器
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国・清時代　19-20世紀	寸 法 等	高46.3cm　口径17.7×17.9cm　高台径17.3cm　胴径21.0cm
作品概要	鮮やかな色調の釉薬を多用し、器面全体に花や果実、宝尽の文様を描いたり、貼り付けるなどした耳付きの瓶である。印などはみられないが、形状や色調などから、清時代末の光緒年間（1875-1908）以降に民窯において作られたものと考えられる。		

20　名称	色絵金彩楼台形香炉（いろえきんさいろうたいけいこうろ）	品　　質	施釉陶器
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	江戸時代　18～19世紀	寸 法 等	総高34.0cm
作品概要	赤、青、緑の釉薬を基調とし、そこに金彩を用いて彩りをみせる楼台形の香炉である。京焼の呼び名の一つである、いわゆる古清水と呼ばれる色絵陶器の作品である。古清水は飲食器に限らず、人形や団扇、瓢箪、青銅器に至るまで多種多様な形状を模した作品が作られており、本作もそういった作品の一つといえる。		

＜漆工＞（1件）

21　名称	句入富士蒔絵盆（くいりふじまきえぼん）	品　　質	木製　挽物製　漆塗り　蒔絵
作 者 等	中山胡民製	員　　数	1枚
時　　代	明治元年（一八六八）	寸 法 等	径24.0cm　高2.4cm
作品概要	大坂の豪商、十代鴻池善右衛門（炉粋、1841～1920）が、明治元年の遷都の折に道中勘定役として東京行を無事に果たしたことを記念して、江戸の蒔絵師、中山胡民(1870没)に注文し、近親者や交流のあった数寄者に配った盆。東海道の富士を金銀青金の薄肉高蒔絵で表す。当館には先に数寄者用20枚のうちの一枚が廣海家から寄贈されている。そちらには句はなく、作者銘があり、共箱に「東京土産」とある。その附属の書付によれば、親族用20枚は讃入りである。本品には、作者銘もなく、後添えの箱しかないが、廣海家の書付のとおり、金平蒔絵で「月花を／さそい合けり／都鳥／炉粋」の句が記されている。当館の調査と展示によって胡民製と判る品であり、そのために寄贈を受けた。		

＜染織＞（7件）

22　名称	白繻子地瑞花鳥丸文様繍坎肩（しろしゅすじずいはなとりまるもんようぬいかんけん）	品　　質	絹地　刺繍
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	中国　清時代　19～20世紀	寸 法 等	丈38.2cm　肩巾30.4cm　裾巾47.8cm
作品概要	刺繍の坎肩。法量からみておそらく子ども用であろう。坎肩とは、袖のない上半身だけの衣服。内周は白繻子地で、花喰鶴、鴛鴦、鶺鴒の三つの丸文を主文様とし、その周りに蘭、牡丹、水仙などの花と蝶を散らす。刺繍の技法は平繍と金糸駒繍が主に用いられ、縹・浅葱・萌葱濃淡・灰・茶・紅の濃淡・鶸・濃茶絹糸と金糸を使用する。内周と外周の境には、リボン状の飾りを付す。外周は紺繻子地で、縁に白と桃色の組紐状の飾りと、白いリボン状の飾りを付し、縁を浅葱の繻子地でくるむ。首元に五個、両脇に各二個のボタンが付く。裏地は紅平絹。		

23　名称	納戸紋紗地桃丸文様繍坎肩（なんどもんしゃじももまるもんようぬいかんけん）	品　　質	絹地　刺繍
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	中国　清時代　19～20世紀	寸 法 等	丈41.5cm　肩巾29.5cm　裾巾57.0cm
作品概要	刺繍の坎肩。法量からみておそらく子ども用であろう。坎肩とは、袖のない上半身だけの衣服。内周は花文様を織り出した納戸色の文紗で、蝙蝠と桃、銭を組み合わせた丸文三つを主文様とし、その周囲に椿、仏手柑、葡萄、瑞花などを散らす。刺繍の技法は平繍と金糸駒繍、相良繍を用い、紅の濃淡三種、橙、萌葱の濃淡、黄、白絹糸と金糸を使用する。内周と外周の境には、黄色のリボン状の飾りをめぐらす。外周には、瑞花雑宝唐草文様の繻子地浮織の生地を用い、縁を黒の繻子地で縁取る。首元と右脇に各二個のボタンが付く。裏地なし。		

24　名称	花色繻子地貝桶文様繍掛袱紗（はないろしゅすじかいおけもんようぬいかけふくさ）	品　　質	絹地　刺繍
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	江戸時代　嘉永7年（1854）	寸 法 等	縦81.5cm　横69.5cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。四隅に桃色の絹房がつく。表地は繻子地。華やかな青地に貝桶一対を刺繍によってあらわす。裏地は赤縮緬。畳紙が付属し、嘉永7年11月に高谷家が新調したとの墨書がある。三条室町にあった高谷家は白生地商の分家。		

25　名称	紺繻子地亀文様繍掛袱紗（こんしゅすじかめもんようぬいかけふくさ）	品　　質	絹地刺繍
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	江戸時代　19世紀	寸 法 等	縦75.0cm　っ横68.8cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。四隅に水色に金糸を混ぜた絹房がつく。表地は繻子地。深い紺地に、水中に遊ぶ五匹の石亀を刺繍によってあらわす。裏地は赤縮緬。畳紙が付属し、高谷いとの実家である遠藤家の誂品であることが分かる。遠藤家は京都二条城の近くで両替商を営んでいた豪商。		

26　名称	赤縮緬地小槌鼠文様繍掛袱紗（あかちりめんこづちねずみもんようぬいかけふくさ）	品　　質	絹地　染・刺繍
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	明治～大正時代　19世紀	寸 法 等	縦77.5cm　横67.0cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。四隅に水色の絹房がつく。表地は紋縮緬地。鮮やかな赤い地色に小槌の周りで遊ぶ二匹の白鼠が主に刺繍によってあらわされるが、そのうちの一匹は白上げによる染め分けで表現される。裏地は萌葱地に五七桐を白上がりであらわした平絹。下絵が付属し、美大卒の画家で、後に芸能評論家として知られた高谷仙外（伸・1896～1966）筆かもしれない。		

27　名称	赤木綿地洋花文様銅版更紗掛袱紗（あかもめんじようかもんようどうばんさらさかけふくさ）	品　　質	木綿地染
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	江戸～明治時代　19世紀	寸 法 等	縦79.0cm　横77.0cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。表地はヨーロッパ製の木綿地の銅板更紗。鮮やかな赤い地色に白・黄・桃・萌葱で、中央に大きな団花文を置き、その四隅に花束文をあしらい、外周を連続する花束文で埋める。裏地は塩瀬。		

28　名称	市松人形（いちまつにんぎょう）	品　　質	人形：桐塑彩色　衣裳：絹地　染
作 者 等		員　　数	1躯
時　　代	明治時代　19世紀	寸 法 等	高67.0cm
作品概要	着せ替えのできる男子人形。濃鼠地と紺地の二種類の型友禅染の振袖、紅地に鹿の子絞りの帽子と涎掛が付属。「四条□小路　吉田喜三郎」との包紙とともに、蓋表に「男人形　位登」と墨書された桐箱に入る。高谷いと（1865～1942）遺愛品。		

＜考古＞（3件）

29　名称	均整唐草文軒平瓦（きんせいからくさもんのきひらかわら）	品　　質	土製瓦質
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	長41.0cm、瓦当幅27.0cm、瓦当高6.4cm
作品概要	奈良時代後半の東大寺系の均整唐草文軒平瓦。完形。灰黒色。出土値は不詳だが、寄贈者の父親が瓦工事業者だったために昭和の時代に奈良で仕事をしていたため、ある寺院からもらったものという。完形を保つ奈良時代の瓦であり、展示効果が高いもの。		

30　名称	小型菊文瓦（こがたきくもんがわら）	品　　質	土製瓦質
作 者 等		員　　数	3点
時　　代	江戸時代末～明治時代	寸 法 等	①長23.2cm,径11.5cm　②長9.5cm,径9.0cm　③長9.2cm.径7.2cm
作品概要	いずれも黒色燻焼きの軒丸瓦。①と②は十六弁の菊文、③は八弁の菊文である。近世末～近代の京都の瓦。御所に関わるものであろう。展示にはまだ不向きであるが、資料として研究できるもの。		

31　名称	丸瓦破片（まるがわらはへん）	品　　質	土製瓦質
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	奈良時代	寸 法 等	残存長10.5cm　残存幅10.0cm
作品概要	凹面側に布目があり、焼成が灰白色で硬質であるので、奈良時代にさかのぼる丸瓦と判断した。出土値は不明だが奈良県内の古寺での採集品か。小破片ではあるが、研究資料となりうる遺物。		

【奈良国立博物館】　（計3件）

（１）購入（3件）

＜彫刻＞（1件）

1　名称	木造二十八部衆立像のうち　迦楼羅王、五部浄居天、毘沙門天、毘楼博叉天 （もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうぞうのうち　かるらおう、ごぶじょうごてん、びしゃもんてん、びるばくしゃてん）	品　　質	木造、彩色（現状古色塗り）
作 者 等		員　　数	4軀
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	［迦楼羅王］総高61.8cm　像高53.5cm ［五部浄居天］総高62.8cm　像高55.5cm ［毘沙門天］総高62.7cm　像高55.2cm ［毘楼博叉天］総高61.8cm　像高53.4cm
作品概要	4軀いずれも像高・作風が近く、一具の二十八部衆像であったと考えられる。各像とも自然な姿勢をとり、甲や衣の表現は的確であり、仏師の優れた技量がうかがえる。鎌倉時代中期（13世紀半ば）頃に遡る作品と推定され、京都・妙法院（三十三間堂）の二十八部衆像に近い大変貴重な作例と判断される。		

＜書跡＞（1件）

2　名称	南都寺社古文書・古記録等 （なんとじしゃこもんじょ・こきろくとう）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	22通
時　　代	奈良時代～室町時代（8～15世紀）	寸 法 等	縦25.6cm～32.3cm 横16.4cm～53cm
作品概要	東大寺や春日大社周辺に伝来した古文書・古記録の一群で、奈良市内の石崎家の旧蔵品。二曲一隻の屏風に貼られて伝来したもの。東京大学史料編纂所により明治37年に調査され、『平安遺文』や『鎌倉遺文』、『大日本史料』などにも本文書が収録されている。古くは天平勝宝2年（750）の摂津職関連の断簡があり、正倉院文書との関連が注目される。また長久4年（1043）の「藤原実遠解」は東大寺領黒田庄経営に関わる学史的にも有名な文書を含んでいる。最新の文書でも長享元年（1487）年の春日大社造替に関わる記録である。南都の地域史のみならず、我が国の古代・中世史料として第一級の価値をもつと判断される。		

＜工芸＞（1件）

3　名称	熊野三所権現懸仏 （くまのさんしょごんげんかけぼとけ）	品　　質	銅造　鍍金　鍍錫
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	径32.7cm
作品概要	一枚の円板に阿弥陀如来、千手観音、薬師如来の三尊の半肉彫像を貼り付けた懸仏。三尊はそれぞれ熊野本宮、熊野那智社、熊野新宮の本地仏である。鏡板を木胎とせず銅板作りとし、天蓋や華瓶を付属せず、また鐶座に獅噛を採用しない点などは初期の懸仏の特徴を備えている。また仏像の表情や肉取、光背などの表現より、本品は13世紀半ばから後半頃の作と推定される。中世の熊野信仰に関わる工芸遺品としてきわめて貴重である。		

【九州国立博物館】（115件）

（１）購入（49件）

＜絵画＞（6件）

1　名称	釈迦三尊図（しゃかさんぞんず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	伝顔輝筆	員　　数	3幅
時　　代	中国　元時代・13-14世紀	寸 法 等	本紙：各　縦135.5　横77.2　表装：各　縦233.0　横99.1 軸長107.4
作品概要	岩上の草座に坐す釈迦牟尼、蹲る青い獅子に乗る文殊菩薩、同じく白象に座す普賢菩薩を3幅に描く。長髪を垂らし体毛を蓄える尊容は特異で、原色の濃彩と肉身の隈取りにも特徴があり、全体的に粗野で奇異な印象を与える。一方で、各尊の朱衣を金泥文様で丁寧に埋め尽くし、文殊の梵篋に『円覚経』の経文を忠実に筆写するなど、本図には大胆なデフォルメと緻密な細部が意識的に並存する。図像学的にみるなら、本図のような草座の釈迦は近年、夏安吾本尊の可能性が指摘されており、仏教文化史上、極めて重要である。中国・元時代を代表する仏教絵画として著名で、日本における中国美術の受容史を理解する上でも意義の大きい作品である。京都・鹿王院旧蔵。		

2　名称	天神飛梅図（てんじんとびうめず）	品　　質	紙本着色
作 者 等	狩野山雪筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦102.5　横29.1　表具：縦191.8　横40.8　軸長46.2
作品概要	菅原道真は、愛し育てた紅梅に「東風吹かば匂い起こせよ梅の花、主なしとて春な忘れそ」と詠み、別れを惜しみつつ京を離れる。悲しむ梅は、後を追いたい気持ちが極まって飛び発ち、一夜にして主人の住む大宰府に降り立った。この飛梅伝説を視覚化したユニークな作品。絶妙の位置に飛梅が描かれる。強い意志を秘めた表情、切れ長でつりあがった眼は「怒り天神」の伝統を引きつつ、山雪の人物画の特徴をしめす。いきいきとした精悍な表情は秀逸。筆者山雪は、江戸初期、京都の狩野派の優れた絵師で、個性的な画風から「奇想の系譜」に位置づけられる。その数少ない日本画題作品としても貴重であり、山雪の人物画の魅力を伝える傑作である。		

3　名称	猛虎図（もうこず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	土方稲嶺筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・享和3年(1803)	寸 法 等	本紙：縦181.0　横98.3　表具：縦248.0　横116.6　軸長：125.2
作品概要	こちらに歩み寄る虎一頭、松樹に憩う二羽の鵲（かささぎ）。中国・朝鮮半島でも描かれた「鵲虎図(じゃっこず)」で、鵲は吉兆のしるしとされる。すみずみにいたる圧倒的な毛描きによって、猛虎は迫真的に表現されている。場所によって毛足の長さを変化させ、所々に胡粉を交えキラリと光る硬い毛を表わすなど質感描写が見事。享保16年（1731）、長崎に来航した中国人画家、沈南蘋の新しい写生画風「南蘋流」は、以降の日本絵画に画期的な影響を及ぼす。その南蘋流をもとに自らの画風を確立した土方稲嶺（1741～1801）は、近年ことに注目を集めている。その稲嶺が63歳時に描いた新出の大作であり、南蘋画風を消化し自らの画に高めた傑作である。		

4　名称	プレンク像（ぷれんくぞう）	品　　質	絹本墨画金泥
作 者 等	石川大浪筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙：縦128.8　横55.5　表具：縦190.0　横66.8　軸長72.2
作品概要	オーストリアの外科医でとくに西洋眼科学の権威プレンク（1735～1807）の肖像画。画の下１行目の大字が像主名で「JOSEPH JACOB PLNCK」。その下に４行にわたりオランダ語で像主の説明がなされる。一番下の朱印は、石川大浪「iSiKAWA」のモノグラム。筆者の石川大浪（1765～1817）は、幕臣、旗本で、杉田玄白、前野良沢、大槻玄沢ら蘭学者と交わり、洋風画で名をあらわす。重要文化財「杉田玄白像」（早稲田大学図書館）の筆者としても知られる。その近年見出された優品で、舶来された洋書の挿図をもとにしつつ、金のボタン以外は墨のみで陰影をほどこしながら皮膚や衣服の起伏を質感ゆたかに描き、迫真的な表現を実現している。		

5　名称	桃花雉子図（とうかきじず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	狩野山楽筆・龍岩瑞顕賛	員　　数	1幅
時　　代	安土桃山–江戸時代・17世紀初頭	寸 法 等	本紙：縦112.1　横50.0　表具：縦205.0　横63.5　軸長68.8
作品概要	季節は春。桃の花咲き誇り、岩下に蒲公英や菫が顔をみせ、草が優しい風に揺らぐ。奥には雪解けの水が勢いよく流れ、番の雉子が奇岩上に羽を休める。桃の枝は、先へ先へと伸び、生命力旺盛な動勢をしめす。画面下から上へＳ字状の動線を構図の軸とし、墨の濃淡の繊細な使い分けによって、優美な画面を生み出している。作者狩野山楽（1559–1635）は、狩野永徳の桃山文化様式を唯一引き継いだ巨匠。賛者の龍岩瑞顕（1560–1636）は、３度妙心寺住持となった禅僧で山楽と同時代人。時代の躍動的な空気を見事に表した優品である。かつて山楽の基準作として注目されていた作品だが、第二次世界大戦後、所在不明となり、近年、再発見された。		

6　名称	牡丹図（ぼたんず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	小田野直武筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙：縦42.0　横57.5　表具：縦133.0　横68.0　軸長76.3
作品概要	紅白の牡丹を対角線上に配置。陰影による立体感、波打つ葉の柔らかな質感など即物描写は抜群、匂うような花弁描写は見事で、日本の画材で油絵のような表現を実現している。筆者小田野直武(1749–80)は秋田藩士で、藩の招いた平賀源内(1728–79)から洋画を習う。江戸では杉田玄白(1733–1817)ら蘭学者とも交流し、『解体新書』の挿絵を担当。蘭癖の藩主、佐竹曙山(1748–85)・義躬(1749–1800)らに洋画技法を教え、秋田蘭画の創始者となった。31歳で夭折。日本で最も早く西洋画法による迫真的な絵画を描いた史的意義はきわめて大きい。直武の洋風画制作は1773～80年のわずか７年。数少ないその現存作として、きわめて貴重な優品である。		

＜書跡＞（1件）

7　名称	富士画賛「冨士の根の」（ふじがさん　ふじのねの）	品　　質	紙本墨画・墨書
作 者 等	烏丸光広筆・賛	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦33.9　横48.2　表具：縦120.8　横62.8　軸長67.2
作品概要	烏丸光広(1579–1638)による墨画と和歌賛。中央に富士山とその麓にたなびく雲・霞を淡墨で素早く描き、その左右に富士の自詠を一首書き付ける。料紙全体における富士山と文字の配置、変化する墨色が見事である。烏丸光広は、安土桃山時代から江戸時代前期の公卿、歌人であり、この時代の“三筆”本阿弥光悦(1558–1637)・近衛信尹(1565–1614)・松花堂昭乗(1584–1639)とならび称される能書でもある。その教養と豪放な性格で徳川家康や秀忠に厚遇され、朝廷と江戸幕府との調停役を務めたことから、たびたび東海道を行き来した。その際に富士山を実見しており、紀行文「東行記」（東京国立博物館所蔵、B–2749 ）をはじめ富士山を題とした画賛の作例も複数知られている。 釈文「冨士の根の／雪も霞も／たち消て／白きを後の／今朝の空哉　光広」		

＜金工＞（1件）

8　名称	龍頭金具（りゅうとうかなぐ）	品　　質	鑞形鋳造
作 者 等	タイ	員　　数	1本
時　　代	タイ　スコータイ時代・15世紀	寸 法 等	総高84.5　茎長18.2
作品概要	鉄製の心棒を軸とした鑞形鋳造による青銅製の装飾金具。青銅部分は弓なりに曲線を描く龍形の神獣ナーガをかたどったもので、東南アジアのタイにおいてはスコータイ時代、アユタヤー時代の作例として類品が確認されており、王室儀礼用に用いられたものと考えられている。芯材に緩やかに湾曲させた鉄芯を用い青銅部が非常に薄づくりであることなど、当時の鋳造技術の高さを理解することができる一品である。		

＜漆工＞（1件）

9　名称	花鳥蒔絵螺鈿聖龕（かちょうまきえらでんせいがん）	品　　質	木製漆塗
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	安土桃山–江戸時代・16–17世紀	寸 法 等	高67.5　幅27.5　奥行13.5
作品概要	頭頂部に三角形の破風を設けた大型の聖龕である。観音開の扉表には土坡から伸びる桜、椿等に鳥を、蓋裏には菊、桔梗を描き、破風内には唐草を描く。破風の下と基台は連弁と唐草を表わす。また龕の正面にはアーチ状の開口を設けて、花瓶、連弁文、幾何学文等で縁取る。内部には頭光と星、唐草文を描く。 空間を埋め尽くすような文様構成や平蒔絵を基調に螺鈿や針描を交えた技法はいわゆる南蛮漆器に共通しているが、大型で複雑な構造や、内外面に施された入念な加飾からは特別な注文品であったことがうかがえる。絵画を収めた聖龕は、重文「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」（九州国立博物館所蔵）など国内外に伝存するものの、立体像を収めるこの種の聖龕は稀少で、まことに貴重である。		

＜染織＞（3件）

10　名称	カシミヤ・ショール　赤地ペイズリー棕櫚文様綴織縫い合わせ（かしみや・しょーる　あかじぺいずりーしゅろもんようつづれおりぬいあわせ）	品　　質	毛、2/2綾組織綴織（一部双糸）
作 者 等	カシミール地方	員　　数	1枚
時　　代	19世紀	寸 法 等	縦145.0　横305.0
作品概要	カシミヤ山羊の毛で織られた長方形のショール。中心に黒い円形の裂をはぎ合わせ、枝葉を広げたアブラヤシ様の文様とペイズリー文様を配し、その周囲には蛇行する滑らかな曲線が表わされる。全体の織地は赤い基布を中心に緑色、水色、茶色地に大小さまざまな文様を綴織した裂地をはぎ合わせている。本品に表わされた蛇行する曲線や棕櫚文様などは、西洋人の好みがうかがえ、ペイズリー文様はシク期(19世紀前半)のものに比べると胴部の膨らみが少ないことなどから、ドグラ期(19世紀後半)の制作と考えられる。		

11　名称	カシミヤ・ショール　赤縞地立木ペイズリー文様綴織縫い合わせ（かしみや・しょーる　あかしまじたちきぺいずりーもんようつづれおりぬいあわせ）	品　　質	毛、2/2綾組織綴織（一部双糸）
作 者 等	カシミール地方	員　　数	1枚
時　　代	19世紀	寸 法 等	縦144.0　横330.0
作品概要	カシミヤ山羊の毛で織られた長方形のショール。横方向に8段の矩形を設け、区画内に幹をくねらせた立木文様、ペイズリー文様、蛇行した曲線、花唐草文様等が織り出されている。対角線上中心には白地に棘状の突起をもった団子繋ぎ状の文様を織り出す。本品のようにペイズリー文様が長く引き伸ばされて流線状となったりゼンマイ形のペイズリー文様や、中心に鉤爪状の輪郭を呈するねじれまがった形に配するものは、ドグラ期(19世紀後半)の作例に見られる。全体に綴織技術が精巧であり、それぞれの裂地のはぎ合わせ処理も繊細な1枚である。		

12　名称	カシミヤ・ショール　赤地ペイズリー花唐草文様綴織刺繍縫い合わせ（かしみや・しょーる　あかじぺいずりーはなからくさもんようつづれおりししゅうぬいあわせ）	品　　質	毛、2/2綾組織綴織（一部双糸）
作 者 等	カシミール地方	員　　数	1枚
時　　代	19世紀	寸 法 等	縦171.0　横176.0
作品概要	正方形のショールの中心に黒い星形の布地を置く。正方形八等分線が文様の基礎となり、先端が蔦草のように枝分かれした複雑なペイズリー文や曲線を隙間なく埋め尽くす。織地は赤い基布を中心とし、赤色の経糸に黒色、緑色、水色、黄色などの緯糸で文様を織り出す。本品のように正方形八等分線が文様の骨組みとなり、中心に黒い花型モチーフを配する文様構成は、19世紀後半の特徴といえる。正方形ショールは、ヨーロッパで1925年頃から流行した細いウエストを強調するロマンティックスタイルのドレスにあわせて、三角にたたんで羽織られたという。		

＜考古＞（34件）

13　名称	響銅王子形水瓶（きょうどうおうじがたすいびょう）	品　　質	蓋付の王子形（卵形・棗形）水瓶
作 者 等	中国	員　　数	1合
時　　代	中国　唐時代・7-8世紀	寸 法 等	高20.3　胴径8.0
作品概要	蓋付の王子形水瓶で、身の口に蓋が被さる。身は丸みを帯びた卵形の胴部に外反りの台脚、および細長い頚部がつく。台脚内面のやや下よりの部位には、平底がある。平底は別作りの円板を接合した「嵌め底」であると考えられる。底部外面には七重の同心円を刻む。中心から数えて5番目と6番目の同心円の間に「法静」の2文字を行書で刻す。底部内面では中心から少しはずれた箇所に、柱状のパーツ「嵌め金」がわずかに突出する。蓋は中央が甲盛り状に隆起し、その頂部には宝珠形の鈕がある。蓋の内面は中央から分厚い板状の舌状部が突出し、そこにピンセット状金具を鋲で留める。ピンセット状金具は2本の細長い板金からなる。		

14　名称	礫器（れっき）	品　　質	珪岩製の片刃礫器
作 者 等	伝北西アフリカ　サハラ砂漠出土	員　　数	1個
時　　代	旧石器時代・180万年前-80万年前	寸 法 等	長12.2　幅9.0　厚6.8
作品概要	初期人類が使用した石器。表面は砂漠の砂に揉まれたためか角が少し取れている。500万年前以降のアフリカ大陸においてサルからヒトへと進化していった人類は、300万年前に石器を作り出した。石器の製作と使用は脳や身体の発達を促し、人類の進化に大きな影響を与えた。初期の石器は、本品のような亜角礫・亜円礫の一端を直線状に粗く打ち欠いて刃部を作り出した簡単なもので、礫器と呼ばれる。		

15　名称	握斧（あくふ）	品　　質	珪岩製
作 者 等	伝北アフリカ　サハラ砂漠北西出土	員　　数	1個
時　　代	旧石器時代・120万年前-50万年前	寸 法 等	長17.8　幅9.0　厚6.0
作品概要	初期人類が使用した石器。500万年前以降のアフリカ大陸においてサルからヒトへと進化していった人類は、300万年前に石器を作り出した。石器の製作と使用は脳や身体の発達を促し、人類の進化に大きな影響を与えた。本品のような粗い両面加工による両側に刃部を持つ尖頭形の石器は握斧と呼ばれ、初期の石器である礫器に後続するものである。		

16　名称	石斧（せきふ）	品　　質	頁岩製
作 者 等	伝福島県河沼郡旧日橋村出土	員　　数	1個
時　　代	旧石器時代～縄文時代・14000年前-10000年前	寸 法 等	長29.4　幅10.5　厚3.9
作品概要	後期旧石器時代終末期～縄文時代草創期の大型石斧である。刃部を一部欠く。全面が粗く研磨され剥離面の凹凸は残っており、未完成品の可能性もある。この時代の大型石斧を持つ文化は、シベリア・極東ロシア地域から伝わったと言われる。大型石斧は祭祀具と考えられ、弥生時代の青銅器の祭器化現象を考える上でも興味深いものである。本体裏面には「明治四十五年夏／本郡日橋村地内／小川中／ヨリ／發見／ス／紫水」の墨書がある。土門拳(1909-1990)旧蔵。		

17　名称	大珠（たいしゅ）	品　　質	翡翠製
作 者 等	千葉県成田市名古屋出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	長6.5　幅3.5　厚2.0
作品概要	縄文時代中期の東日本を中心に分布する翡翠製の大珠。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。短冊形で、穿孔は中央上寄りに総体片面から行なわれ、側面は定角式磨製石斧を思わせる平坦で面取りのある形状をなす。縄文時代中期～後期の日本列島では、大珠と呼ばれる細長い形態の緑色石材製垂飾が流行したが、本品はその一例である。		

18　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	直径59.0　高59.5
作品概要	縄文時代中期の東関東地方を中心に分布する土器。大型で均整の取れた姿で、口縁部には棘を持つ渦巻文、胴部には縄文が施される。この時期の日本列島では新潟の火焔型土器をはじめとする過剰に装飾された土器が各地で大流行したが、本品はその一例である。		

19　名称	有孔球状土製品（ゆうこうきゅうじょうどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4000年前-3000年前	寸 法 等	短径4.5　長径4.7　長5.8
作品概要	球形で中央に孔のある土製品。孔を中心に両端に沈線による文様が施されている。縄文時代後晩期の北陸地方や関東地方を中心に分布し、類品は九州北部でも出土している。		

20　名称	勾玉（まがたま）	品　　質	翡翠製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸 法 等	長2.7　幅2.6　厚2.2
作品概要	複数条の刻みを持つＤ字形に近い歪な形態の勾玉。獣形勾玉と呼ばれる。縄文時代後晩期の東日本を中心に分布し、九州にも分布する形態。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。弥生時代の北部九州の首長も好んだ形態の勾玉である。		

21　名称	勾玉（まがたま）	品　　質	翡翠製
作 者 等	伝青森県南部出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸 法 等	長3.0　幅1.8　厚0.7
作品概要	頭部に刻みを持つ整った形態の勾玉。定形勾玉と呼ばれる。縄文時代後晩期の東日本を中心に分布し、九州にも分布する形態。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。弥生時代の北部九州の首長も好んだ形態の勾玉である。		

22　名称	骨角器（こっかくき）	品　　質	カメの骨製、サメの骨製、シカの骨製、シカの角製、イノシシの牙製、ヒトの歯
作 者 等	1.千葉県銚子市　余山貝塚出土、35.岩手県陸前高田市　獺沢貝塚出土、53.伝茨城県稲敷市　椎塚貝塚出土、他は出土地不明	員　　数	53個
時　　代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸 法 等	1：長4.0　幅1.3　厚1.6 2：長2.5　幅2.4　厚1.0 3：長14.2 幅1.4　厚0.6 4：長13.3 幅0.6　厚0.6 5：長12.2 幅0.7　厚0.6 6：長11.9 幅0.9　厚0.5 7：長7.8　幅0.7　厚0.5 8：長7.0　幅0.6　厚0.4 9：長6.9　幅0.5　厚0.5 10：長5.0　幅0.5　厚0.5 11：長4.7　幅0.5　厚0.4 12：長2.8　幅0.4　厚0.4 13：長14.5 幅1.0　厚0.8 14：長12.6 幅1.2　厚0.6 15：長8.1　幅1.0　厚0.5 16：長7.1　幅1.2　厚0.6 17：長6.7　幅0.9　厚0.5 18：長6.6　幅1.0　厚0.4 19：長6.5　幅0.9　厚0.5 20：長6.6　幅1.2　厚0.4 21：長5.6　幅1.1　厚0.6 22：長4.9　幅0.5　厚0.3 23：長4.1　幅0.8　厚0.5 24：長8.9　幅0.9　厚0.4 25：長6.9　幅1.3　厚0.4 26：長6.6　幅1.7　厚0.5 27：長8.0　幅1.7　厚0.7 28：長7.3　幅1.1　厚0.5 29：長5.0　幅1.2　厚0.6 30：長3.8　幅1.5　厚0.7 31：長7.7　幅1.5　厚0.8 32：長7.6　幅1.0　厚0.7 33：長5.2　幅0.7　厚0.6 34：長3.5　幅0.6　厚0.3 35：長6.7　幅2.0　厚0.5 36：長5.9　幅1.0　厚0.6 37：長4.8　幅1.0　厚0.9 38：長7.5　幅2.7　厚0.7 39：長7.3　幅2.4　厚0.7 40：長2.8　幅1.1　厚0.5 41：長5.8　幅1.4　厚0.7 42：長5.7　幅1.0　厚0.7 43：長4.2　幅1.0　厚0.4 44：長5.6　幅0.8　厚0.6 45：長4.5　幅0.8　厚0.5 46：長4.0　幅0.8　厚0.6 47：長3.9　幅1.1　厚0.6 48：長3.8　幅0.7　厚0.4 49：長4.1　幅0.7　厚0.3 50：長15.7　幅2.8　厚1.5 51：長10.0　幅5.3　厚2.1 52：長7.6　幅1.5　厚1.3 53：長2.6　幅1.0　厚0.6
作品概要	骨角器は、貝塚でしか遺存しない貴重なもので、装身具と利器の多様性や食料資源の多様性などを知ることができる。1・2は垂飾、3～12は笄、13～23はヤス状刺突具、24～33は逆刺付刺突具　34は逆刺　35は有孔組合式刺突具　36・37は釣針、38～40は磨製刃器、41～49は鏃、50～52は鹿角片、53は歯である。		

23　名称	石剣（せっけん）	品　　質	粘板岩製
作 者 等	伝新潟県出土	員　　数	2本
時　　代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	1：長径3.1　短径2.4　長56.9　2：長径2.5　短径2.0　長27.2
作品概要	縄文時代晩期の東北地方を中心に分布する石剣。１は完存、２は先端側３分の1程度が残る。剣状で、沈線と敲打で表現された区が特徴的である。全面に漆状の黒色物質が薄っすら付着している。縄文時代の石棒類は、その起源を先行する骨刀類に求める見解が多いものの、中国東北部やシベリアで出土する青銅製刀子・短剣に求める見解もあり、今後の研究が注目される。箱蓋表貼紙には「霹歴礮」、箱蓋裏には「越後蒲原郡古鷹ノ里／武埴姓都知多庫（朱文方印）「壎」」の墨書がある。		

24　名称	土偶（どぐう）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・3000年前－2300年前	寸 法 等	高17.8　幅13.4　厚6.3
作品概要	縄文時代晩期の東北地方を中心に分布する亀ヶ岡文化の土偶。雪眼鏡（遮光器）を掛けたような眼部表現から、遮光器土偶と呼ばれる。本品は中空で、下半身は別個体の遮光器土偶のものが近時修理で接合されている。上半身はバランスが良く、精緻な文様と丁寧な黒色磨研により見事な造形美を見せる。亀ヶ岡文化では祭祀具や工芸技術が発達し、多様な形態を持つ精巧な作りの土器、土製品、石製品が多数製作された。本品はそうした亀ヶ岡文化の特徴をよく示す品である。それらの一部は九州にも伝わり、弥生文化の成立にも大きな影響を与えた。		

25　名称	土偶（どぐう）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	高9.5　幅13.3　厚6.2
作品概要	縄文時代晩期の関東地方を中心に分布する土偶。顔面が木菟に似ることから、木菟土偶と呼ばれる。木菟土偶は中実で作られることが多く、本品のような中空のものは数が少ない。中空の木菟土偶は、同時期の東北地方を中心に分布する中空の遮光器土偶の影響を受けて成立したといわれており、両地域の交流を物語る品である。		

26　名称	石器（せっき）	品　　質	1：独鈷状石器。安山岩製　2：磨製石斧。緑色片岩製。
作 者 等	伝福島県南会津郡下郷町 五百地遺跡出土	員　　数	2個
時　　代	弥生時代・前4世紀-後1世紀	寸 法 等	1：縦20.5　横3.7　高2.9　2：縦8.2　横4.8　高1.8
作品概要	弥生時代前半期の独鈷状石器と磨製石斧。独鈷状石器には中央部に赤色顔料が付着する。弥生時代には、縄文系と呼ばれる縄文時代に系譜が辿れる石器・石製品が出土することがある。それらには地域性があり、近畿地方以北では独鈷状石器が、近畿地方では石棒が、九州地方では刻みや器体長軸方向の穿孔のある翡翠製垂飾が出土する。磨製石斧は、やや片刃状を呈するため、続縄文時代の北海道で顕著に見られる片刃石斧の影響を受けたものである可能性がある。		

27　名称	壺形土器（つぼがたどき）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	続縄文時代・前2世紀-後1世紀	寸 法 等	最大径26.0、口径11.5、括部径8.0、底径8.0、高33.2
作品概要	続縄文時代前半期の北海道南西部を中心に分布する土器。胴部中央付近に最大径のある壺型の器形や胴部に施された縦方向の縄文が特徴的である。続縄文時代とは、北海道において縄文時代に続く時代で、本州以南の弥生時代・古墳時代に並行する時代を指す。寒冷のため稲作が行なわれず、縄文時代から続く狩猟採集漁労を生業としながら鉄器が使用されていた。続縄文時代の資料は、日本列島における文化の多様性を知る上で貴重である。		

28　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道北見地方出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代・前2世紀-後3世紀	寸 法 等	最大径24.0、底径7.2、高27.0
作品概要	続縄文時代前半期の北海道東部を中心に分布する土器。口縁部から胴部上半の貼付文や胴部に施された縦方向の縄文が特徴的である。続縄文時代とは、北海道において縄文時代に続く時代で、本州以南の弥生時代・古墳時代に並行する時代を指す。寒冷のため稲作が行なわれず、縄文時代から続く狩猟採集漁労を生業としながら鉄器が使用されていた。続縄文時代の資料は、日本列島における文化の多様性を知る上で貴重である。		

29　名称	取手付長頸瓶（とってつきちょうけいへい）	品　　質	ガラス製
作 者 等	イラン	員　　数	1口
時　　代	サーサーン朝・5-7世紀	寸 法 等	口径2.0　胴径8.0　底径8.0　総高15.5
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄褐色でほぼ透明の瓶。隆さが低く銀化した円筒形の胴部には、7角形の断面を持つ細長い頸が取り付けられている。頸部にはほとんど銀化が見られない。頸部及び胴部には、幾何学的な文様が刻まれている。頸部口縁部近くと胴部上面は取手で繋がれている。取手上部に取り付けられた丸みを帯びたラクダのような装飾は、同時代の金属製容器から影響を受けているものと思われる。こうした長頸容器は、バラ油と蒸留水との混合物を濾過した化粧水の一種であるバラ水用と考えられる。		

30　名称	取手付瓶（とってつきへい）	品　　質	ガラス製容器
作 者 等	イラン	員　　数	1口
時　　代	サーサーン朝-初期イスラム期・6-8世紀	寸 法 等	口径6.5　胴径11.5　底径6.0　総幅12.5　高15.0
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の瓶。あまり銀化していない。突出した底部（高2.0cm）に丸みを帯びた胴部が載り、さらに頸部が口縁部に向かって少し広がっている。取手は胴部肩部と口縁部付近を繋いでいる。胴部には八弁花文が6回繰り返され、間には植物文が施されている。口縁近くの取手上部には、金属器の影響を受けたと思われる指止めが見られる。底面にはポンテ痕がある。型吹き装飾は、文様を施した金属やストゥッコ製の割型に、熔けて柔らかくなったガラスたねを吹き込んで、型の凹凸を写し取る技術である。その後、宙吹き技法で息を吹き込み全体の形を整えている。		

31　名称	切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）	品　　質	ガラス製
作 者 等	イラン	員　　数	1口
時　　代	イスラーム時代・8-9世紀	寸 法 等	口径2.5　胴径5.5　底径2.6 高6.8
作品概要	吹きガラス技法で作られた短い頸付きの薄緑色で透明の小瓶。土中により、表面及び内面は著しく銀化しており、ほぼ全面白色不透明となっている。ほぼ球形を呈する胴部の底面は平たく研磨されており、ポンテ痕は見られない。頸部には縦長の楕円形切子が一段10個、胴部には4段にわたって円形切子（上から11、12、12、10個）が施されている。胴部の円形切子は切り合っていない。香油入れと考えられる。ササーン朝期の碗に典型的な切子（カット）装飾だが、本作品の制作時期は少し下がるものと思われる。		

32　名称	吸角器（きゅうかくき）	品　　質	ガラス製
作 者 等	イラン	員　　数	1個
時　　代	アッバース朝・10世紀	寸 法 等	口径7.5　底径3.5　高8.5　総幅13.5
作品概要	吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の丸底コップで、胴部側面には斜め下方に向かって曲りながら徐々に細くなる管が取り付けられている。大きく割れているが、欠失部分はほとんどなく、復元済み。胴部に直線状の管が取り付けられた容器は、バラやアルコールの蒸留用の器具であるのに対し、曲がった管付きの容器は、皮膚に吸い付けて容器内部を陰圧とし、患者の身体から膿や悪血を吸い出す吸角器とみなされる。吸い玉あるいは吸い瓢(ｽｲﾌｸﾍﾞ)とも呼ばれる吸角器は、今日でも使われている医療器具である。		

33　名称	取手付瓶（とってつきへい）	品　　質	ガラス製
作 者 等	イラン	員　　数	1個
時　　代	サーマーン朝・10-11世紀	寸 法 等	口径3.0　胴径8.5　底径6.5　高12.5
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の瓶。一部銀化している。絞った胴部頂部に頸部を接合しており、胴部頂部付近と頸部口縁部を指当てつきの細い取手で繋いでいる。口縁部に小さな欠失部がある。少し凹んだ底部にはポンテ痕あり。穏やかな稜を持つ胴は12面体を呈し、型吹きガラス技法で作られた作品であることを示している。胴部と頸部の接合部分を絞っているのは、バラ水を室内で広範囲に振り撒くためと考えられる。本作品は、大変薄手で、軽く作られており、技術的にもすぐれている。		

34 名称	長頸瓶（ちょうけいへい）	品　質	ガラス製
作者等	イラン	員　数	1口
時　代	セルジューク朝・12-13世紀	寸法等	口径1.5　胴径10.0　底径6.0　高24.7　底高1.0
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の瓶。割型を用いて植物文を胴部に写し、細長い頸部下方に細い紐状のガラス線を巻き付けて装飾している。少し凹んだ底にはポンテ痕あり。バラ水は、バラ油と蒸留水の混合物を濾過して得られる化粧水の一種であり、身辺を清浄に保ち、部屋に撒水して客を歓迎したり、料理に用いるなど、さまざまな使い道がある。細長い頸部を持つフラスコ瓶で保存することが多く、本作品もそうした用途に使われていたものと思われる。中東のダマスカスは、バラ水の生産拠点として有名である。		

35 名称	多彩釉刻文鉢（たさいゆうこくもんはち）	品　質	陶器
作者等	イラン・ニシャプール	員　数	1口
時　代	アッバース朝・9世紀	寸法等	口径24.5　底径10.5　高7.5
作品概要	ゆるやかに外反する鉢で、赤褐色の胎土のほぼ全面に白化粧土を掛け、内面には植物文や幾何学文などを刻んでいる。そうした刻線にほぼ沿うような形で、緑色、紫色、黄土色などの絵の具で彩色し、底面近くにまで透明鉛釉を施し焼成している。底面はほぼ平滑に仕上げられている。複数の色を用い、比較的低温度で焼成した陶器で、釉が一方向に流れているため少し傾けた状態で伏焼きされたことが分かる。黄土色・緑色・紫色・茶色などを用いる唐三彩と似ており、ペルシア三彩と呼ばれる。唐三彩は時代的に先行するのみならず、輸出用ではなく副葬品として作られてものであるところから、この種のペルシア三彩の発生と発展に貢献したのは、時期的に近い遼三彩と考えられる。		

36 名称	多彩鳥文鉢（たさいとりもんはち）	品　質	陶器
作者等	イラン・ジュルジャーン	員　数	1口
時　代	サーマーン朝・10-11世紀	寸法等	口径19.5　底径7.5　高8.0
作品概要	淡紅色の胎土のほぼ全面に白化粧土を掛け、大きく開く器形を示す鉢。底面はほぼ平滑で、外面には彩色が見られない。白化粧土の上に、焦げ茶色、黄土色などの絵の具を塗り、その上から透明な鉛釉を施している。内面全体に、横向きの鳥を大きく描き、周囲には茎で繋がれた3つの花文を配している。鳥は、茎を咥えているようである。花の周りの連珠文は、この種の鳥文鉢でよく用いられるもので、本作品は多彩鳥文鉢の典型例といえる。大きく開いた器の内面に動物文を描くこのような多彩鉢は、類品多数が見つかったカスピ海沿岸近くのサーリーにちなみ、「サーリー手」と呼ばれる。窯址は未発見のままであるが、実際の生産地はジュルジャーンと考えられている。		

37 名称	ラスター彩人物文平鉢（らすたーさいじんぶつもんひらばち）	品　質	陶器
作者等	イラン・レイ	員　数	1口
時　代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	口径19.0　底部径7.0　高5.5　底部高2.0
作品概要	茶褐色の胎土を用いた、高台から緩やかに外反し、肩の辺りからほぼ水平に広がる器形を持つ平鉢。器形を整えて白釉を掛けて焼成した後、銅などの酸化物を含む絵具で人物図などを描き、再度還元焼成したもの。その結果、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。見込み中央にある13葉の枠内に描かれた向かい合って坐る女性（？）2名は、ともに帽子をかぶり、両手を両膝に載せているようである。13葉の枠と肩内面近くの空間には、倣文字文が描かれている。肩部から外周部にかけては、文様帯2段がある。内側では縦線と幾何学文を繰り返すが、外側ではラスター彩の帯部分を鋭く尖ったものでひっかいて倣文字文を描いている。		

38 名称	ランプ（らんぷ）	品　質	陶器
作者等	イラン・ゴルガン	員　数	2個
時　代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	1：青釉ランプ　底径8.0×9.0　高9.5　2：緑釉ランプ　底径5.5×6.0　高8.3
作品概要	持ち運べる、取手と台付きのランプ2個；1.青釉ランプ。碗の口縁部は火を点す灯心を支えるために絞られている。台の屈曲する縁部は、いったん内側に折れ込んで再び立ち上がっており、碗は台中央にある徐々に細くなる支柱で固定されている。台口縁部と碗側面は取手によって繋がれている。2. 1とよく似た形だが緑釉を施したランプ。生活に不可欠なランプは、世界各地で、さまざまな形態と材質で作られてきた。本作品は、セルジューク朝のイランで広く使われていた台付きの青釉ランプと緑釉ランプである。トルコ石に似た空色を呈する青釉は、アルカリ釉と酸化炎焼成した銅の絵具による。		

39 名称	青釉取手付水注（せいゆうとってつきすいちゅう）	品　質	陶器
作者等	イラン・レイ	員　数	1口
時　代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	口径3.0　胴径9.0　高台径5.2　高15.5　高台高1.0
作品概要	薄い灰白色の胎土を用い、12面取りの胴部に丸みを帯びた肩部が載り、先端が細く伸びた口縁部を持つ細い頸部へ連なる器形を示す水注。口縁部上部と肩部を取手が繋いでいる。全面に青釉が厚く掛けられており、一部は銀化している。アルカリ釉と酸化炎焼成した銅の絵具から生まれる、トルコ石色の釉薬の発色が美しい。実用品であり、装飾は突出した注口部分に限られている。		

40 名称	藍釉鎬文壺（らんゆうしのぎもんこ）	品　質	陶器
作者等	イラン・ゴルガン	員　数	1口
時　代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	口径8.5　胴径13.0　高台径8.5　高18.5　高台高1.7
作品概要	藍釉を内部を含む全面に掛けた壺。高台から大きく開き、角度を変えて少し外反する胴部は、肩部から内側に折れこみ、太く短い頸部を支えている。縦に伸びる鎬文を繰り返す胴部以下には釉が見られない。肩部には、型押し文が繰り返されている。肩及び頸部根元には圏線が巡っている。酸化コバルトによる紺色の発色が美しい。明代に青花（染付）用にイスラム圏から輸入されたコバルトを回青と呼ぶ。		

41 名称	ラスター彩取手付水注（らすたーさいとってつきすいちゅう）	品　質	陶器
作者等	イラン・カシャーン	員　数	1口
時　代	セルジューク朝・12-13世紀	寸法等	胴径8.0　底部径5.0　高16.0　底部高1.0
作品概要	高台から緩やかに立ち上がり肩部で折れ曲がる大振りの胴部に、太く短い頸部がのった水注。頸部口縁部には上方に伸びる注口が作られ、頸部下方には突帯が巡っている。取手は、頸部上部と肩部を繋いでいる。白釉は、高台近くに垂れ落ちているほど厚く、内部を除く全面に掛けられている。胴部には、太・細線と唐草とともに鳥2羽が繰り返されている。頸部には、円文中の花文と唐草文を描く。最初の焼成後、酸化金属の絵具で模様を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。鳥の嘴のような注口を持つ水注は、同時代の金属器の姿を写したもので、当時の金属使用禁止令に応えたものとされる。		

42　名称	ラスター彩十字型タイル（らすたーさいじゅうじがたたいる）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・カシャーン	員　　数	1枚
時　　代	イル・ハーン朝・13世紀	寸 法 等	縦21.6　横20.7　厚1.7
作品概要	三角形の頂点を持つラスター彩十字型タイル。十字の中央には、立ち止まって後を振り返る様子の動物の姿が横向きにあらわされている。身体には斑点があり、長い尻尾と長い耳が見られる。足下には植物が生えており、残る空間も植物文で埋め尽くされている。白釉で全面を覆って焼成後、酸化金属の絵具で動物や植物文を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。この種の十字型タイルは、八稜星形タイルをモスクや宮殿の壁に貼り付けた際にできる隙間を埋めるために大量に作られた。カシャーンは、セルジューク朝期のラスター彩タイルの生産地として有名である。		

43　名称	ラスター彩人物瑞鳥文星型タイル（らすたーさいじんぶつずいちょうもんほしがたたいる）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・カシャーン	員　　数	1枚
時　　代	イル･ハーン朝・13世紀	寸 法 等	縦21.0　横21.0 厚2.0
作品概要	正方形を45度ずらして重ねた八稜星形のラスター彩タイル。八稜画面外周の白い区画には倣文字文が、また八角形内部には左手の坐る人物と右手の頭をもたげた瑞鳥（鳳凰か）が向かい合わせに描かれている。人物は左手を膝に置き、右手には持物を取っている。周囲の草花などは、天国を連想させる庭園の表現と思われる。一部の輪郭線や大きな植物の茎などは藍色で描かれている。白釉で全面を覆って焼成後、酸化金属の絵具で動物や植物文を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。この種のタイルは、セルジューク朝期以降、王宮、モスクなどの建築物の内外装に盛んに用いられれた。		

44　名称	ラスター彩龍文タイル（らすたーさいりゅうもんたいる）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・カシャーン	員　　数	1枚
時　　代	イル・ハーン朝・13世紀	寸 法 等	縦29.0　横29.0　厚2.0
作品概要	ほぼ方形で、主文に龍を描くラスター彩タイル。植物文や龍の身体などの文様を盛り上げて表現している。方形画面のうち、上から4分の1ほどは植物文の、また一番下には二重円文の細い装飾帯が描かれている。残る部分には、振り向きながら大きく口を開けて火を吐く、横向きの龍が大きく描かれている。全面に白釉を掛けて焼成してから金属の酸化物の絵具で地の部分や龍の身体を覆う鱗を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な輝きを呈するようになった。モンゴル系のイル・ハーン朝が成立したため、ラスター彩タイルに中国独自の文様（龍や鳳凰など）が表現されるようになった。文化交流の生き証人としてきわめて貴重である。		

45　名称	藍釉鳥文星型タイル（らんゆうとりもんほしがたいる）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・カシャーン	員　　数	1枚
時　　代	イル・ハーン朝・13世紀	寸 法 等	縦20.0　横20.0　厚1.5
作品概要	正方形を45度ずらして重ねた八稜星形タイル。植物やソデグロヅルと思われる鳥3羽を多少盛り上げて表現している。灰色の鳥の羽や花の細部を、灰色の細い線で描いている。藍釉を背景に描かれてた鳥の体勢は変化に富んでおり、中国からの影響が認められよう。この種の八稜星形タイルは、先端が三角形の十字型タイルと組み合わせて用いられ、王宮やモスクなどの建築物の内外面を飾った。カシャーンは、セルジューク朝期のラスター彩タイルの生産地として有名である。		

46　名称	緑釉取手付長頸壺（りょくゆうとってつきちょうけいこ）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・ニシャプール	員　　数	1口
時　　代	イル・ハーン朝・13世紀	寸 法 等	口径4.5　胴径16.0　高台径8.0　高32.0　高台高1.5
作品概要	赤褐色の胎土で成形した長頸壺。高台に量感溢れる洋梨型の胴部が載り、撫で肩の頂点から細長い頸部が少し広がりながら立ち上がっている。頸部上端は、液体を注ぎやすいよう少し内側に屈曲している。指止めを持つ取手は、肩部と頸部中程を繋いでいる。頸部と取手の接合部すぐ下には、突帯が見られる。頸部から肩部にかけて、また底部近くには輪文が繰り返されている。高台にかかるほど厚手の緑釉が全面に掛けられ、さらに茶褐色と濃い緑色の絵具が釉薬に溶け込んでいる。頸部根元と取手の一部は候補と見られるほか、高台は一部欠失している。充実した器形は、中国陶磁からの影響を示している。		

＜歴史資料＞（3件）

47　名称	オルテリウス『世界の舞台』（おるてりうす　せかいのぶたい）	品　　質	紙本銅版、手彩色
作 者 等	アブラハム・オルテリウス編	員　　数	1冊
時　　代	アントウェルペン・1579年刊	寸 法 等	縦42.3　横29.2　高6.3
作品概要	『世界の舞台』（Theatrum Orbis Terrarum）は、大航海時代の成果をもとに、アントウェルペン（現ベルギー）出身の地理学者・地図作者のアブラハム・オルテリウスが編集した世界最初の地図帳。本品は1579年のラテン語版で、93葉115種の地図が収録される。1579年版の特筆すべき点は3点あり、まず1点目は歴史地図3図とプトレマイオス『地理学』所載の地名リストを追加したことである。2点目はそれまでの版になかったオルテリウスの肖像画が掲載されたことである。3点目はこの版以降、プランタン印刷所で印刷・販売されたことである。1579年版の発行部数は不詳だが、100部ほどだったと推測される。近代的な世界地図帳（アトラス）の嚆矢であり、商人や航海者による世界地図の需要に応えたものでもある本品は、ヨーロッパとアジアとの邂逅を示す優品であると考えられる。		

48　名称	今川了俊自筆書状（いまがわりょうしゅんじひつしょじょう）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	今川了俊筆	員　　数	1幅
時　　代	南北朝時代・永和2年(1376)	寸 法 等	本紙：縦27.6　横52.4　表装：縦118.0　横54.4　軸長59.7
作品概要	本品は永和2年(1376)2月19日付、松浦党の一派である佐志氏に宛てた、今川貞世（了俊）の自筆書状。永和2年に松浦党の一派であった波田武が南朝方に翻ったため、家臣の中賀野義員(生没年不詳)に兵をつけて肥前・黒川に派遣したが、軍勢が少なかったため、佐志氏に対して、松浦党の有浦氏に援軍をつけるように依頼したもの。本文書は了俊自筆の書状で、南北朝期の九州の一様相を伝える史料として貴重である。中廻しの裂は京都国立博物館所蔵「前田家伝来名物裂」の「変り蜀江文様黄緞」と同類のものであり、格調高い。和歌や連歌を嗜み、紀行文などを著した文化人としての側面も持つ了俊の自筆書状として、本品は茶席の掛物として使用された可能性もある。		

49　名称	徳川家康黒印状（とくがわいえやすこくいんじょう）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・慶長10年(1605)-慶長19年(1614)	寸 法 等	本紙：縦20.8　横57.2　表装：縦102.5　横59.7　軸長64.6
作品概要	宗義智宛、徳川家康の黒印が捺された御内書。家康のもとに朝鮮人参と卓が届いたことへの返礼である。大正15年(1926)に宗伯爵家が朝鮮総督府朝鮮史編修会に無期限貸与したうちの徳川家康文書のうちの一つである。朝鮮史編修会が撮影したガラス乾板写真が韓国・国史編纂委員会に残っており、当時の装丁は江戸時代の装丁（巻子装）のままであったことが確認できる。本品は近代に流出してしまった宗家文書を構成する重要な一要素である。		

（２）寄贈（66件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	花木図押絵貼屏風（かぼくずおしえばりびょうぶ）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	鶴亭筆	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代・明和4年(1767)	寸 法 等	各図：縦133.0　横50.5　各隻：縦168.3　横380.0
作品概要	芭蕉、竹、蘭、松、菊、蘇鉄、梅、木蓮など、各扇にさまざまな花木を水墨で描く。筆者鶴亭（1722～85）は、江戸中期、長崎の黄檗宗聖福寺の僧。熊斐から沈南蘋の画法を学び、黄檗絵画の影響も受け独自のスタイルを確立。20歳代半ばに還俗し大坂へ移住し、京坂の黄檗僧、南画家たちと交流した。安永6年(1777)、宇治の万福寺紫雲院住持となったが数年後退き、諸国遍歴後、江戸で没。南蘋画風を関西に広めた点で、その絵画史的な意義は大きい。本屏風は鶴亭46歳時の作で、黒白の強烈な対比、シャープな形態、リズミカルな筆づかいなど、鶴亭の魅力が遺憾なく示されている。この種、水墨による花木の押絵貼屏風は、鶴亭から若冲へも影響した。		

＜陶磁＞（5件）

2　名称	白磁碗（はくじわん）	品　　質	白磁
作 者 等	中国南部	員　　数	1口
時　　代	中国　北宋時代・11世紀	寸 法 等	口径16.2　高台径6.1　高5.7
作品概要	轆轤成形により、底部から外に開いて立ち上がり、そのまま太く厚めの玉縁状の口縁となる。やや幅広の高台を削り出し、高台とその周辺を除いて全体にやや灰白色の釉薬をかける。胎土はやや荒く灰白色で、釉薬も灰緑色がかっているのが特徴。博多遺跡群など日本各地で出土する典型的な白磁碗の作例であり、北宋時代に日常の器として福建や広東など中国南部沿岸地域で大量に作られたものと考えられる。インドネシアで出土したと推定され、白磁碗が貿易陶磁器として日本のみならず、インドネシアでも普及していたことを示す貴重な遺例である。		

3　名称	青磁鎬蓮弁文碗（せいじしのぎれんべんもんわん）	品　　質	青磁
作 者 等	中国・龍泉窯	員　　数	1口
時　　代	中国　南宋-元時代・13世紀	寸 法 等	口径16.1　高台径5.1　高5.5
作品概要	轆轤成形により、底部から外に開いて立ち上がり、そのまま口縁となる。外側に鎬蓮弁文を彫り出す。中国・南宋～元時代、12世紀後半から14世紀前半にかけて、日本の中国陶磁の輸入は爆発的なピークを迎えた。本作品のような蓮弁文を彫りあらわした青磁碗はその代表であり、13世紀前半に輸出が増加し、日本国内の遺跡から出土する中国陶磁の大部分を占め、太宰府や博多遺跡群からも出土している。同時期の龍泉窯の製品は日本のみならず世界中に普及しており、インドネシアで出土したと推測される本作品は、蓮弁文碗がインドネシアにも普及していたことを示す貴重な作例である。		

4　名称	緑釉鉄彩鉄線唐草文四耳壺（りょくゆうてっさいてっせんからくさもんしじこ）	品　　質	陶器
作 者 等	唐津（武雄）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀中頃	寸 法 等	口径12.0　底径12.3　高27.7
作品概要	胴部に線彫りで唐草文を施し、鉄線花は印刻であらわす。口縁から腰までの外面全体に白化粧を施し、その上に緑釉をかけ、部分的に鉄釉を施す。肩には、三本の鎬を施した環状の耳を4つ付ける。本作品は1640年代-70年代に武雄領内で製作された壺で、「古武雄」とも呼ばれる。安土桃山時代を中心に日本の上層階級の器として需要のあった、中国・福建省近辺で焼かれた華南三彩壺を写したもので、相当量の伝世品が見られる。佐賀藩の御用茶師であった上林茶店に類似品が伝世しており、この手の耳付壺は茶壺として用いられた可能性が高い。17世紀に武雄地域で焼成され、市井に普及した唐津焼（武雄系）の伝世例として貴重である。		

5　名称	象嵌雲鶴文大皿（ぞうがんうんかくもんおおざら）	品　　質	陶器
作 者 等	唐津（御茶碗窯）	員　　数	1枚
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高10.3　口径46.7　底径17.6
作品概要	平らな底部よりゆったりと立ち上がり、そのまま外に大きく広がり口縁となる。見込の中央に二重の圏線を施し、その内側に雲・鶴文を印刻し黒色顔料を象嵌する。唐津焼は西日本を代表する陶器で、九州・山口に展開する朝鮮半島系の窯の中でも最も古い歴史を持つ。唐津藩は寛永年間(1624-44)より徳川幕府に唐津焼を献上しており、なかでも藩命により、享保19年(1734)から明治4年(1871)の廃藩まで、唐津・唐人町の御茶碗窯で作られた御用品を「献上唐津」と呼ぶ。本作品は、類品に比べて釉薬が白いように見受けられるが、印刻・象嵌などの装飾技法は唐津焼らしい特徴を示しており、献上唐津の製品と考えられる。類品の少ない献上唐津の大皿として貴重な作例である。		

6　名称	青花山水人物図詩文角皿（せいかさんすいじんぶつずしぶんかくざら）	品　質	磁器
作者等	中国・景徳鎮窯	員　数	1枚
時　代	中国　清時代・19世紀	寸法等	口径23.5×17.0　底径23.5×17.0　高1.5
作品概要	清時代に作られた青花磁器の角皿。板作りにより平らな底部を作り、高めの縁を四方に付けて角を面取りする。見込には呉須で山水図をあらわし、側面に「大學経一章」の一説を記す。景徳鎮窯を中心として中国で作られた青花磁器は、15世紀に渡来して以降、食膳具あるいは懐石道具として頻繁に用いられた。明末清初の動乱により中国磁器の生産と輸出が一時的に止むと、その間に伊万里焼が市場を席巻したが、江戸後期になると中国陶磁の人気が再燃し、民間まで普及した。本作品には、箱蓋表に「唐焼角皿　文政十一初冬求之」と墨書があり、中国陶磁の人気が復活していた文政11年(1828)までには渡来していたことが分かる。江戸後期に日本で需要のあった青花磁器の作例として貴重である。		

＜漆工＞7件

7-13　名称	平調切律管（ひょうじょうぎりりっかん）など	品　質	竹、象牙、革、紫檀、螺鈿
作者等	治貞力　など	員　数	7件
時　代	20世紀　など	寸法等	
作品概要	筑紫箏は筑紫箏曲または筑紫流箏曲と呼ばれ、安土桃山時代に雅楽の合奏曲である越天楽から誕生し、江戸時代に佐賀藩内で伝承されたといわれる箏曲である。明治時代、大正時代にも、今泉千秋、野田聴松によって筑紫箏は受け継がれたものの、その後は消滅したと考えられた。しかし昭和になって、村井れいと井上ミナの2名が伝承者であることが判明した。村井、井上両氏は昭和32年(1957)に文化財保護委員会（現・文化庁）から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財（筑紫箏）の技芸者」として登録され、研究者やメディアから大いに注目を受けた。しかし、両氏とも伝授者を残さなかったため、筑紫箏の伝承者は消滅した。本コレクションは村井氏が残した資料群を中心としており、筑紫箏の曲譜だけでなく、筑紫箏の伝承の歴史を伝える資料も含んでいる。現在伝承者が不在になってしまった筑紫箏の歴史と、筑紫箏を残そうと奮闘した人々の活動を伝える資料である。　※「18-66」と一括の資料である。 1　平調切律管　1点 2　琴柱頭　1点 3　律管　1点 4　律管　1点 5　つめ　9点 6　琴柱　13点 7　村井れい旧蔵箏「初雁」　1面		

＜考古＞（4件）

14　名称	三脚石器（さんきゃくせっき）	品　質	頁岩製
作者等	伝山形県米沢市広幡町成島出土	員　数	3個
時　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸法等	1：縦5.0　横4.7　厚1.5 2：縦4.0　横3.4　厚1.7 3：縦3.0　横2.7　厚7
作品概要	縄文時代中期～後期の東日本の日本海側で出土する特徴的な石器。同地域で出土する類似した形態の三角形土版・岩版との関係性が考えられる。		

15　名称	石棒（せきぼう）	品　質	粘板岩製
作者等	伝山形県北部出土	員　数	1本
時　代	縄文時代・4000年前-3000年前	寸法等	短径4.5　長径5.5　長37.5
作品概要	頭部側面の枠状線刻と１対の突起、頭部下方の鍔状装飾、体部に残る斜行する敲打痕を特徴とする石棒で、縄文時代後期の東日本を中心に分布するもの。半分程度を欠損する。縄文時代の石棒類は、その起源を先行する骨刀類に求める見解が多いものの、中国東北部やシベリアで出土する青銅製刀子・短剣に求める見解もあり、今後の研究が注目される石器である。		

16　名称	五鈴杏葉（ごれいぎょうよう）	品　質	青銅鋳造
作者等		員　数	1個
時　代	古墳時代・6世紀	寸法等	縦11.4　横8.5　高3.0
作品概要	青銅鋳造の鈴付杏葉。吊手孔に鉄製品の断片と鉄錆が付着しており、本来は吊手金具に装着されていたと判断できる。本体は剣菱形で内部の区画に小さな突起を鋳込む。本品は吊手の装着等の資料残存状況から見て、轡等の他馬具とともに馬装一括品として古墳に副葬されていたものと想定される。五鈴の補修は古墳から持ち出された後の近代以降の補修である。鈴付杏葉は古墳時代中期（5世紀）に日本列島に導入された後、古墳時代後期（6世紀）と通じて用いられた。馬形埴輪の装飾表現にも、鈴付馬具は多用されている。当該期の豪族は服装・武装等で「鈴」を多用する傾向にあり、本品も豪族所有品の一つと位置づけられる。		

17　名称	馬鈴（ばれい）	品　質	青銅鋳造
作者等	伝奈良県奈良市（大和国山辺郡丹波市エボ古墳（都介野人丸神社付近））出土	員　数	1個
時　代	古墳時代・6-7世紀	寸法等	直径9.0　高10.0
作品概要	直径9㎝にもなる鋳造大型鈴で、丸に小型鈴を入れ込む二重構造。大型鈴の器面は稜線で区画され、十六面体の外形となる。頂部には「U」字形の紐がつき、表面は丁寧な面取りが施されている。紐下端の稜線は鮮明で、吊紐による顕著な使用痕跡は確認できない。後世の補修等もなく出土時の状態をほぼ保つことから、来歴のとおり、もともとは古墳に納められた副葬品であったと判断できる。他鉄製品の錆が付着することから、他副葬品と接する形で墓室内に置かれていたと見られる。二重構造をもつ馬鈴の類例には、宮崎県・持田古墳群27号墳出土品があり、稀少ながら日本各地の豪族間で同様の馬鈴が保有されていたと見られる。		

＜歴史資料＞（49件）

18-66　名称	筑紫箏譜　乾（つくしそうふ　けん）など	品　　質	紙本墨書、紙本印刷、紙本ガリ版、アルバム装、紙本ペン書き、アルバム装、活字印刷
作 者 等	前川禮子写、野田聴松写、松井通昭筆、前川ユリ子写、佐賀県社会教育課　など	員　　数	49件
時　　代	明治、大正、昭和など	寸 法 等	

作品概要

筑紫箏は筑紫箏曲または筑紫流箏曲と呼ばれ、安土桃山時代に雅楽の合奏曲である越天楽から誕生し、江戸時代に佐賀藩内で伝承されたといわれる箏曲である。明治時代、大正時代にも、今泉千秋、野田聴松によって筑紫箏は受け継がれたものの、その後は消滅したと考えられた。しかし昭和になって、村井れいと井上ミナの2名が伝承者であることが判明した。村井、井上両氏は昭和32年(1957)に文化財保護委員会（現・文化庁）から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財（筑紫箏）の技芸者」として登録され、研究者やメディアから大いに注目を受けた。しかし、両氏とも伝授者を残さなかったため、筑紫箏の伝承者は消滅した。本コレクションは村井氏が残した資料群を中心としており、筑紫箏の曲譜だけでなく、筑紫箏の伝承の歴史を伝える資料も含んでいる。現在伝承者が不在になってしまった筑紫箏の歴史と、筑紫箏を残そうと奮闘した人々の活動を伝える資料である。

1	筑紫箏譜　乾	1点
2	筑紫箏譜　坤	1点
3	筑紫箏譜　奥	1点
4	筑紫箏譜　別曲	1点
5	倫説集	1点
6	筑紫箏曲譜	1点
7	筑紫箏秘曲	1点
8	筑紫口唱歌奥秘	1点
9	音律学抜書	1点
10	松響閣箏話	1点
11	筑紫流箏手附小伝	1点
12	松琴譜　筑紫箏奥詠八曲・五曲・附曲	1点
13	古曲筑紫箏話	1点
14	琴学大意　乾	1点
15	能支者の万津　完	1点
16	律調	1点
17	のちのしるしに	1点
18	秘調	1点
19	秘調	1点
20	音律調	1点
21	音律調	1点
22	音律調	1点
23	筑紫箏曲由来私考	1点
24	筑紫箏略話	1点
25	里舞勢津集	1点
26	筑紫箏譜	1点
27	筑紫箏研究資料・楽譜	1点
28	漢書律歴志日　禮楽論(上・下)	1点
29	古曲筑紫箏略話	1点
30	筑紫箏曲譜　上	1点
31	筑紫箏譜　乾	1点
32	筑紫箏譜　乾	1点
33	越天楽・梅の枝・四季の乱・乱曲	1点
34	秋夏の曲・花の筵・一名想失恋	1点
35	筑紫箏曲譜　坤	1点
36	帰雁・紅葉・鹿・雨夜曲・岩間波・雲井怨・小倉曲	1点
37	曲名なし	1点
38	筑紫箏・目録・社会教育課	1点
39	佐賀県における芸能調査	1点
40	筑紫箏曲新聞切抜	1点
41	佐賀県における発表会	1点
42	楽譜・浮雲・三夕・秋風辞・其ノ他	1点
43	第六回東洋音楽会大会	1点
44	アルバム	1点
45	雑(スクラップブック)	1点
46	筑紫箏譜略話	1点
47	新聞切抜	1点
48	新聞切抜	2点
49	佐賀県における芸能調査	1点

11-(1)-②-5　有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）

令和2年3月31日

	令和元年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,224,836	87	1,004,836	86	220,000	1(2)	0	0
東京国立博物館＊	279,200	11	169,200	11	110,000	(1)	0	0
京都国立博物館※	383,800	24	273,800	23	110,000	1(1)	0	0
奈良国立博物館	100,440	3	100,440	3	0	0	0	0
九州国立博物館	461,396	49	461,397	49	0	0	0	0

＊東京国立博物館購入1件分は運営費交付金と寄附金の両方を財源として購入した文化財のため、実際の文化財購入は11件となる。
※京都国立博物館購入中1件分は運営費交付金と文化財保存活用基金の両方を財源として購入した文化財のため、実際の文化財購入は24件となる。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　令和2年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		12,385	194	1,178	2,591	52	245	6,520	88	615	1,974	52	306	1,300	2	12
絵画		3,749	56	418	395	12	62	2,301	29	247	556	15	106	497	0	3
書跡		1,657	68	266	366	9	28	877	42	199	359	16	36	55	1	3
彫刻		824	8	187	135	2	39	262	1	63	419	5	83	8	0	2
建築		5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工		992	14	85	133	5	18	559	2	36	207	7	30	93	0	1
刀剣		258	8	57	227	8	48				16	0	9	15	0	0
陶磁		1,453	1	7	114	0	2	1,025	1	4	8	0	0	306	0	1
漆工		732	15	57	81	6	14	504	4	16	121	5	26	26	0	1
染織		674	7	37	68	2	4	530	3	30	49	2	3	27	0	0
考古		955	13	35	161	4	13	422	6	10	237	2	11	135	1	1
民族資料		114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料		67	0	12	1	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	162	2	14	162	2	14									
	書跡	24	1	0	24	1	0									
	彫刻	11	0	0	11	0	0									
	金工	2	0	1	2	0	1									
	陶磁	166	1	1	166	1	1									
	漆工	28	0	1	28	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	487	0	0	487	0	0									
	民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品		13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　令和2年3月31日現在

		国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
		30年度	元年度			30年度	元年度			30年度	元年度			30年度	元年度			30年度	元年度		
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計		12,469	618	702	12,385	3,130	29	568	2,591	6,434	149	63	6,520	1,974	8	8	1,974	931	432	63	1,300
絵画		3,438	447	136	3,749	481	6	92	395	2,251	90	40	2,301	555	2	1	556	151	349	3	497
書跡		1,690	54	87	1,657	393	6	33	366	876	6	5	877	359	0	0	359	62	42	49	55
彫刻		927	12	115	824	240	5	110	135	264	1	3	262	418	3	2	419	5	3	0	8
建築		5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工		993	11	12	992	134	4	5	133	554	7	2	559	212	0	5	207	93	0	0	93
刀剣		262	0	4	258	231	0	4	227					16	0	0	16	15	0	0	15
陶磁		1,421	57	25	1,453	128	3	17	114	1,001	31	7	1,025	8	0	0	8	284	23	1	306
漆工		741	10	19	732	92	1	12	81	495	9	0	504	121	0	0	121	33	0	7	26
染織		895	3	224	674	286	0	218	68	533	3	6	530	49	0	0	49	27	0	0	27
考古		943	17	5	955	162	1	2	161	420	2	0	422	236	1	0	237	125	13	3	135
民族資料		114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料		67	4	4	67	5	0	4	1	37	0	0	37	0	2	0	2	25	2	0	27
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	184	2	24	162	184	2	24	162												
	書跡	39	0	15	24	39	0	15	24												
	彫刻	31	1	21	11	31	1	21	11												
	金工	6	0	4	2	6	0	4	2												
	陶磁	170	0	4	166	170	0	4	166												
	漆工	30	0	2	28	30	0	2	28												
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
	考古	488	0	1	487	488	0	1	487												
	民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品		13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　令和2年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		32	0	4	30	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画		7	0	4	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡		18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画				1	0	0	0	0	0						
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	14～28℃	29～77%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～26℃	31～73%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	21～31℃	40～66%
	収蔵庫	09：30～17：00	22～30℃	48～72%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	21～31℃	39～58%
	収蔵庫	09：30～17：00	12～29℃	44～66%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	22～23℃	53～59%
	収蔵庫	24時間運転	23～24℃	52～55%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	17～24℃	38～74%
	収蔵庫	24時間運転	22～24℃	53～58%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	休止中		
	収蔵庫	8：30～17：30	18～25℃	50～60%
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～65%
	収蔵庫	8：40～17：20	20～25℃	55～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	18～25℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	18～25℃	50～60%
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

令和2年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	487件	画像	5,333件	画像	3,001件	
和古書・漢籍	20,916件			文字	4,465件	（完了）
洋古書	5,559件					

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　令和2年3月31日現在

合計		1,574		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		740	80	754
絵画		170	5	186
書跡		16	1	50
彫刻		52	0	3
建築		0	0	0
金工		83	0	8
刀剣		25	59	0
陶磁		45	1	3
漆工		37	0	0
染織		21	0	29
考古		99	6	4
歴史資料		34	0	14
民族資料		0	0	6
和書		21	0	137
写真資料		33	0	122
東洋	絵画	20	2	92
	書跡	5	3	17
	彫刻	1	0	1
	金工	0	0	0
	陶磁	25	1	0
	漆工	2	0	0
	染織	0	1	10
	考古	12	1	2
	民族	0	0	2
法隆寺献納宝物		0	0	0
その他（黒田含）		39	0	68

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	217	107	96
絵画	59	32	7
書跡	11	5	1
彫刻	7	12	1
建築	0	0	0
金工	15	5	6
刀剣		0	1
陶磁	21	0	0
漆工	20	4	1
染織	15	1	1
考古	57	34	12
民族資料	0	0	2
歴史資料	12	9	4
和書	0	0	0
写真資料	0	0	0
その他	0	5	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

令和2年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		75	24	12	8	31
絵　画		13	5	2	2	4
書　跡		7	2	3	1	1
彫　刻		3	0	0	2	1
建　築		0	0	0	0	0
金　工		9	1	2	0	6
刀　剣		1	0	－	0	1
陶　磁		1	1	0	0	0
漆　工		2	0	0	1	1
染　織		3	1	0	1	1
考　古		23	6	5	1	11
民族資料		2	0	0	0	2
歴史資料		3	0	0	0	3
和　書		0	0	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	2	2			
	書　跡	3	3			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	0	0			
	染　織	1	1			
	考　古	1	1			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

1-(1)-③-5 修理概況
【東京国立博物館】（計24件）

＜絵画＞（5件）

1 列品番号	A-1	品　質	絹本着色
名　称	普賢菩薩像（ふげんぼさつぞう）	員　数	1幅
時　代	平安時代	寸 法 等	縦159.1 横74.5
年代世紀	12c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂は、中廻し、一文字、風帯は修理して再使用、他の総縁、軸首は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱、帙を新調する。（元年度は3の途中まで、2年度は5の途中まで）		

2 列品番号	A-1155	品　質	紙本墨画着色
名　称	扇面雑画（せんめんざつが）	員　数	60面のうち15面
時　代	江戸時代	寸 法 等	36.5×63.8
年代世紀	18～19c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 本紙を取り外す。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。 4. 新規裏打ちを行う。 5. 中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。（元年度は2まで）		

3 列品番号	A-11090	品　質	紙本着色
名　称	月次風俗図屏風（つきなみふうぞくずびょうぶ）	員　数	8曲1隻
時　代	室町時代	寸 法 等	総寸 縦114.2 横301.0; 本紙　第1扇 41.8 × 61.4, 第2扇 42.2 × 61.0, 第3扇 40.3 × 61.1, 第4扇 42.0 × 61.3, 第5扇 42.1 × 61.9, 第6扇 40.3 × 61.8, 第7扇 39.9 × 61.5, 第8扇 40.1 × 61.7
年代世紀	16c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行う。 5. 新調した骨木地に下張りを施し、いずれも新調した襲木、表装裂地、裏貼裂で屏風装に仕立てる。（元年度は1の途中まで、2年度は4の途中まで）		

4 列品番号	A-12453	品　質	紙本着色
名　称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦78.5 横28.0
年代世紀	15c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去する。 4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂（上下のみ新調）、軸首を修理して再使用し、掛幅装（三段表具）に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

5 列品番号	A-12454	品　質	紙本着色
名　称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦79.3 横27.3
年代世紀	16c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去する。 4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を修理して再使用し、掛幅装（三段表具）に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱（墨書のある旧箱蓋板は新調箱底に納める）を新調する。		

＜東洋絵画＞(2件)

6 列品番号	TA-355	品　質	絹本墨画淡彩
名　称	雛雀図（すうじゃくず）	員　数	1幅
時　代	南宋時代	寸 法 等	21.6×22.5
年代世紀	13c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分には補彩を施す。 6. 表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、桐製二重箱、中性紙布貼帙を新調して収納する。（元年度は3の途中まで）		

7 列品番号	TA-694	品　質	紙本墨画淡彩
名　称	五馬図巻	員　数	1巻
時　代	北宋時代	寸 法 等	本紙 縦27.8 長さ256.5
年代世紀	11c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、現状の補紙は検討の上処置する。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 題簽・見返し・隔水・巻き込み紙・天地表装紙は補修の上再使用、爪、軸首も再使用する。紐は新調し、表紙は復元新調して巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻芯・桐材印籠箱を新調する。旧箱・旧八双をまとめて中性紙保管箱に収納し、作品を収めた収納箱と並置する外箱を新調し、中性紙布貼帙にまとめて収納する。（元年度は2まで、2年度は4まで）		

＜書跡＞(2件)

8 列品番号	B-3178	品　質	紙本墨書
名　称	医心方(いしんぽう)	員　数	30巻、1冊

時　　代	平安時代～江戸時代	寸 法 等	
年代世紀	12c～17c	施工会社	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（27年度から28年度にかけて1. 2巻、1. 冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）		

9　列品番号	B-3493	品　　質	彩箋墨書
名　　称	色紙華厳経断簡（泉福寺経）（しきしけごんきょうだんかん(せんぷくじきょう)）	員　　数	1枚
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙 縦24.0 横50.0
年代世紀	12c	施工会社	㈱坂田墨珠堂
修理内容	1. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 2. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 4. 新規補紙部分に補彩を施す。 5. 台紙、表装裂、軸首を新調し、三段表具の掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻添え軸、包裂、桐製印籠箱を新調する。（元年は3の途中まで）		

＜東洋書跡＞(3件)

10　列品番号	TB-1458	品　　質	紙本墨書
名　　称	行書三帖巻（ぎょうしょさんじょうかん）	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	(1)叔晦帖：縦24.5 横29.6 (2)李太師帖：縦26.0 横34.5 (3)張李明帖：縦25.8 横31.3
年代世紀	11c～12c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 見返し、紐、コハゼ、軸首は補修の上再使用し、新調した表紙にて巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調して収納する。（元年度は2まで、2年度は4まで）		

11　列品番号	TB-1701	品　　質	紙本墨書
名　　称	行草書五言古詩軸（ぎょうそうしょごごんこしじく）	員　　数	1幅
時　　代	元時代	寸 法 等	縦28.0　横83.2
年代世紀	14世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂の中廻し、一文字、風帯、軸首は修理して再使用、上下は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱を新調する。		

12　列品番号	TB-1706	品　　質	紙本墨書
名　　称	楷書八言聯（かいしょはちごんれん ）	員　　数	2幅
時　　代	清時代	寸 法 等	各 縦188.0 横36.0
年代世紀	同治4年（1865）	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分には補彩を施す。 6. 軸首裂は再使用するほか、表装裂は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻き添え軸、桐製保存箱を新調し、収納する。（元年度は2まで）		

〈金工〉(1件)

13　列品番号	E-14365	品　　質	鉄製
名　　称	経筒(きょうづつ)	員　　数	5合
時　　代	鎌倉時代～室町時代	寸 法 等	① 蓋口径6.2 蓋高1.5 筒身径6.5 筒身高10.8 ； ② 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.5 筒身高10.5 ； ③ 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.4 筒身高11.0 ； ④ 蓋口径5.3 蓋高2.5 筒身径6.5 筒身高11.2 ； ⑤ 蓋口径6.2 蓋高0.3 筒身径6.5 筒身高11.3
年代世紀	14c～16c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

〈陶磁〉(1件)

14　列品番号	G-125	品　　質	
名　　称	色絵金襴手双鳳文飾壺（いろえきんらんでそうほうもんかざりつぼ）	員　　数	1合
時　　代		寸 法 等	通蓋高46.4 高39.5 口径23.2 胴径34.8
年代世紀	明治25年(1892)	施工会社	ますぶち工房
修理内容	1. 破損部をクリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部を補填・整形する。 4. 補填部に補彩を施す。		

〈東洋陶磁〉(1件)

15　列品番号	TG-2003	品　　質	陶製
名　　称	白釉黒地白花牡丹文枕（はくゆうくろじはくかぼたんもんまくら）	員　　数	1個
時　　代	北宋時代	寸 法 等	高19.3 長径29.5 短径27.0
年代世紀	12c	施工会社	東京藝術大学
修理内容	1. クリーニングする。 2. 解体する。 3. 接合する。 4. 破損箇所の強化を行なう。 5. 除去した旧補填部の充填を行なう。 6. 補填部の補彩を行なう。 7. 保存箱を新調する。 （元年度は2の途中まで）		

〈染織〉（1件）

16　列品番号	X-55-20120531-005(伝来未詳品)（今後正式に登録予定）	品　　質	絹製、平絹
名　　称	袍残欠	員　　数	1領
時　　代	奈良時代	寸 法 等	丈134 裄142.0
年代世紀	8c	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　沢田むつ代、三田覚之
修理内容	1. 仮貼りされている和紙からはがす。 2. 部分ごとに解体する。 3. 加湿のうえで仕立て前の一枚裂の状態に展開する。 4. 楮紙にて裏打ちする。 5. 本来の仕立てに従って組み立てる。 6. 展示台を兼ねた保存箱を作製する。		

〈東洋染織〉（1件）

17　列品番号	TI-421	品　　質	絹製、羅・繧繝
名　　称	九条袈裟　紫地唐草文様印金／草花文様繧繝（くじょうけさ むらさきじからくさもんようじんきん/くさばなもんようこくし）	員　　数	1肩
時　　代	元～明時代	寸 法 等	長231.5 幅：右端 101.5 中央89.8 左端92.0
年代世紀	14c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 解体する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、新規裏打ちを行う。 4. 補修絹を加工し、欠損部に補絹を行う。 5. 裏地補強用の裂を染め、全面に留めつける 6. 芯地を新調し、本体裂を部位ごとに留め付け、表地を仕立てる。 7. 紐、紐座を補修し、元の位置に留め付ける。 8. 表地と裏地を合わせ、全体を仕立てる。 9. 中性紙製収納箱を作製し、袈裟を収める。（元年度は4の途中まで）		

〈考古〉（6件）

18　列品番号	J-5621	品　　質	土製
名　　称	埴輪 頭巾を被る男子（はにわ ずきんをかぶるだんし）	員　　数	土製
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高77.1cm
年代世紀	6c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填個所に補彩を施す。		

19　列品番号	J-8897	品　　質	鉄製、金銅製
名　　称	方頭大刀（ほうとうたち）	員　　数	1口
時　　代	奈良時代	寸 法 等	刀身（残存長） 45.5 ； 刀身（残存幅） 3.5 ； 柄（残存長） 12.5 ； 柄（残存幅） 3.5
年代世紀	8c	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理をする。 3. 樹脂含浸による補強をする。 4. 接合する。 5. 補強個所の補彩を施す。 6. 安定台（展示台）を作成する。（元年度は2の途中まで）		

20　列品番号	J-8898	品　　質	鉄製
名　　称	鉄板（てついた）	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦（残存） 31 ； 横（残存） 16 ； 厚（最大） 3
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理をする。 3. 樹脂含浸による補強をする。 4. 接合する。 5. 補強個所の補彩を施す。 6. 安定台（展示台）を作成する。（元年度は2の途中まで）		

21　列品番号	J-20254	品　　質	土製
名　　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　　数	1個
時　　代	弥生時代(後期)	寸 法 等	高21.5 胴径12.6 底径7.4
年代世紀	1c～3c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化・接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填個所に補彩する。		

22　列品番号	J-36876	品　　質	土製
名　　称	猪形土製品（いのししがたどせいひん）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(後～晩期)	寸 法 等	高3 長7.2 幅2.9
年代世紀	前2000～前400年	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分(左耳・四肢)を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。		

23　列品番号	J-38899-1	品　　質	土製
名　　称	土師器 二重口縁壺（はじき にじゅうこうえんつぼ）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	口径21.5 現存高28.5 胴径28.0
年代世紀	3c～4c	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。		

〈東洋考古〉（1件）

24　列品番号	TJ-4317	品　　質	鉄製鍛造
名　　称	鋏（はさみ）	員　　数	1個
時　　代	三国時代(新羅)	寸 法 等	推定復原長15cm、幅6cm（刃部：長7.5cm　環部：横6cm）
年代世紀	6c初頭	施工会社	㈱東都文化財保存研究所

修理内容	1. 旧接合部を除去する。 2. クリーニングする。 3. 脱塩及び強化処理をする。 4. 接合、補填をする。 5. 補填箇所に補彩を施す。 6. 展示台を作成する。（元年度は3の途中まで）

【京都国立博物館】（計12件）

＜絵画＞（2件）

1 名　称	天保九如図・四季草花図屏風(てんぽうきゅうじょず・しきそうかずびょうぶ)	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	160.4×363.6cm/172.0×375.6cm
品　質	紙本着色/紙本金地着色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・損傷を調査し、記録する。　・危険個所の剥落止めを行う。　・屏風装を解装し、下地から本紙を取り外す。　・剥落止めおよびクリーニングを行う。　・彩色部分には有機系絵具が多用されていることから、水の使用は最小限に止める。 ・欠失部への補紙等、本紙の補修を行う。　・「天保九如図」と「四季草花図」をそれぞれ独立した屏風装として仕上げる。「天保九如図」は金具を再使用して取り付け、「四季草花図」は金具を新調する。　・補彩ののち写真撮影を行う。		

2 名　称	阿弥陀八大菩薩図（あみだはちだいぼさつず）	員　数	1幅
時　代	朝鮮王朝時代（16世紀）	寸 法 等	縦148.2cm　横159.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　・解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。　・本紙と表装裂地を取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。　・本紙の汚れを除去する。　・絵具層の剥落止を行う。　・本紙の肌裏紙を除去する。　・本紙の欠損部分には、本紙と組成の近い補修絹を入れる。　・各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。　・補修絹には補彩を施すが、違和感なく鑑賞できる処置とする。　・掛幅装に仕立てる。表装裂地や軸首などは新調する。　・桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。　・修理後の記録をとり、報告書を作成する。		

＜書跡＞（3件）

3 名　称	重要文化財　大手鑑（八十葉） （おおてかがみ（はちじゅうよう））	員　数	1帖
時　代	奈良～室町時代（8～16世紀）	寸 法 等	縦44.6cm、横60.8cm
品　質	両面折帖装	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・修理前に本紙現状の写真撮影を行い、本紙表面及び損傷状況、装丁の調査・記録を行う。・墨、朱、金銀泥、顔料等の耐久性を確認し、必要に応じて膠水による剥落止めを施す。・各本紙を画帖本体から取り外し、現在の肌裏紙を除去する。・旧補修紙等を取り除く。・各本紙の損傷状況に応じてクリーニングを行い、経年による酸化物等の汚れを除去する。・解装後に本紙の材質、折目痕等の痕跡、裏面の状況等に応じて本紙補修を施す。・本紙に美濃紙による肌裏打ちを施し、仮張り乾燥を行う。鳥の子紙を貼り合わせて画帖台紙を作製する。画帖台紙に本紙を貼り込む。・二つ折りにした画帖台紙の一面を貼り合わせ、互い違いに開くように連結する。・向かい合う本紙同士の擦れを軽減するため、台紙のノドを除く三方に覆輪を取り付ける。・見返しの金箔台紙を再用する。・新たに表紙を作製する。表紙裂は金襴にて新調し、金具は現在のものを再用する。・画帖台紙に見返し及び表紙を取付け、元通りの画帖仕立てとする。・桐製の保存箱及び包裂を新調し、画帖を収納する。・修理後に写真撮影を行う。・修理報告書を作成する。（28年度より4か年事業）		

4 名　称	古文書（三通）（こもんじょ（さんつう））	員　数	1巻
時　代	平安時代　承和14年（847）、天安元年（857）、貞観7年（865）	寸 法 等	第1通：縦28.8cm　横49.3cm、第2通：縦29.4cm　横45.0cm、第3通：縦28.2cm　横43.2cm
品　質	紙本墨書	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・本紙の状態等を調査、記録し、写真撮影を行う。・巻子の継ぎ目を外し、1紙ずつ状態に解装する。　・墨が不安定な部分には、剥落止めをほどこす。　・本紙の欠失箇所には、同質の補修紙を作製のうえ、補填する。　・本紙の脆弱な箇所に補強及び裏打ちをほどこす。　・中性紙製のフォルダと保存箱を新調する。　・処置の完了した本紙を.フォルダに収め、重ねて保存箱に収納する。		

5 名　称	和歌扇面　（わかせんめん）	員　数	4幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	辺14.7cm　上弦41.7cm　下弦21.5cm
品　質	紙本墨書	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	・写真撮影を行い、本紙の現状を調査する。　・解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。　・本紙を下地から取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。　・本紙の汚れを除去する。　・墨層の剥落止を行う。　・本紙の旧肌裏紙を除去する。　・本紙欠失箇所及び周囲に、本紙繊維に類似した補修紙にて補紙を施す。　・各種裏打を施す。　・中性紙ボードにてマットを作成する。　・中性紙の帙を作成し、修理完了の本紙及びマットを収納する。　・修理後の記録をとり、報告書を作成する。		

＜金工＞（2件）

6 名　称	槍　銘奥州白川臣手柄山正繁／享和元年二月日	員　数	1口
時　代	江戸時代・享和元年（1801）	寸 法 等	刃長21.2cm
品　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。 研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影ないし押形の製作を行い、報告書を提出する。		

7 名　称	刀　銘奥州白川臣手柄山正繁／享和元年二月日	員　数	1口
時　代	江戸時代・享和元年（1801）	寸 法 等	刃長69.8cm
品　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の金肌拭いで仕上げてあるため、本来の刃文とは異なる刃文になっている。よって本来の刃文の確認が容易な差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。 研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影ないし押形の製作を行い、報告書を提出する。		

＜考古＞（5件）

8 名　称	短甲（京都府相楽郡和束町 原山古墳出土）（たんこう　きょうとふさがらぐんわづかちょう　はらやまこふんしゅつど）	員　数	1個
時　代	古墳時代中期（5世紀）	寸 法 等	全高44.5cm、全幅45.5cm、くびれ幅31.5cm、現存裾幅35.5cm、【右前胴】高35.5cm、引合板幅3.0cm、【左前胴】現存高33.0cm、引合板幅3.5cm、【蝶番】一辺2.5cm
品　質	鉄製	施工会社	公財）元興寺文化財研究所
修理内容	①修理前に現状調査を行い、修理前および修理途中の写真(デジタル)撮影、および現状を記録（寸法・損傷状態等）する。　②着手に先立ち、本体および破片表面の付着物に注意して汚れ等を除去し、現状記録を追加する。　③本体欠損部の旧修理補填材(石膏等)を取り外し、除去する。　④本体および破片の旧修理補填材(泥･接着剤等)を除去する。　⑤本体および破片の接合関係調査を行い、仮接合する。　⑥本体および破片にアクリル系樹脂を樹脂含浸して強化する。　⑦本体および破片をアクリル系樹脂で接着する。　⑧欠失部をエポキシ系樹脂等で補填・補強して復原する。　⑨補填部の内外面に、周囲の色調に合わせた顔料を補彩して仕上げる。　⑩展示・保管時に、安全な姿勢を保つ安定台を安全な方法(3D等)を用いて製作する。　⑪修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。　※２ヶ年継続：令和元年度は、工程⑦まで。		

9 名　称	西宮山古墳　土師器 坩 （にしみややまこふん　はじき　つぼ）	員　数	1個
時　代	古墳時代（6世紀）	寸 法 等	口径11.2cm、胴径13.5cm、高12.3cm
品　質	土師質	施工会社	元興寺文化財研究所
修理内容	①　着手前および修理途中に、現状調査（寸法・損傷状態等）を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。②　③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③　本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④　本体および破片をクリーニングする。⑤　本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥　本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦　欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧　補填部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨　修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

10 名　称	西宮山古墳　須恵器 高杯④ （にしみややまこふん　すえき　たかつき　）	員　数	1個
時　代	古墳時代（6世紀）	寸 法 等	口径9.6cm、脚径8.8cm、高12.5cm
品　質	陶質	施工会社	(株）東都文化財保存研究所
修理内容	①　着手前および修理途中に、現状調査（寸法・損傷状態等）を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。②　③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③　本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④　本体および破片をクリーニングする。⑤　本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥　本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦　欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧　補填部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨　修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

11 名　称	西宮山古墳 須恵器 杯蓋①、④、⑬ （にしみややまこふん　すえき　つきふた　）	員　数	3個
時　代	古墳時代（6世紀）	寸 法 等	①直径11.8cm、口径11.3cm、高4.8cm、④口径15.0cm、高4.8cm、⑬口径15.0cm、高4.7cm
品　質	陶質	施工会社	(株）東都文化財保存研究所
修理内容	①　着手前および修理途中に、現状調査（寸法・損傷状態等）を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。②　③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③　本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④　本体および破片をクリーニングする。⑤　本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥　本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦　欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧　補填部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨　修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

12 名　称	西宮山古墳　須恵器 杯身⑲ （にしみややまこふん　すえき　つきみ　）	員　数	1個
時　代	古墳時代（6世紀）	寸 法 等	直径15.3cm、口径12.8cm、高4.0cm
品　質	陶質	施工会社	(株）東都文化財保存研究所
修理内容	①　着手前および修理途中に、現状調査（寸法・損傷状態等）を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。②　③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③　本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④　本体および破片をクリーニングする。⑤　本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥　本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦　欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧　補填部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨　修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

【奈良国立博物館】（計8件）

＜絵画＞（2件）

1 名　称	絹本著色道宣律師像（けんぽんちゃくしょくどうせんりっしぞう）	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	縦112.5cm　横56.2cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失・折れなどを改善するため、表装を解体し、裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。はじめに損傷地図を作成し、現在の状態を明らかにした上で、乾式肌上げ法により肌裏紙を除去する。濾過水を用いて汚れを除去し、徽の痕跡箇所については状態を観察した上で、必要に応じてエタノールによる殺菌処理を行う。クリーニング後、剝落止めを行い、本紙の欠失部分には電子線劣化絹で補填する。折れ伏せを施し、新調した肌裏紙をあてる。新たな補絹箇所には地色補彩を施す。表装はすべて新調し、現在の袋明朝表具から二段仏表具に改装する。太巻添軸、桐印籠箱、四方帙を新調する。旧箱内の附属品は旧箱に納入したままにする。（継続2か年事業のうち第2年目）		
指　定	重要文化財		

2 名　称	絹本著色聖徳太子絵伝（けんぽんちゃくしょくしょうとくたいしえでん）	員　数	2幅
時　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	(第1幅)縦157.8cm　横86.5cm　(第2幅)縦157.2cm　横86.7cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存

修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めを行う。旧補絹を全て除去した後、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために裏面から薄楮紙のごく細い帯を貼り付けて補強する折れ伏せを施し、本紙料絹の色調に合わせて新調した裏打紙（肌裏紙・中裏紙・増裏紙・総裏紙）をあてる。表装裂は全て新調して二段仏表具に仕立てる。上下軸・啄木・桐製太巻添軸も新調。桐製印籠箱を新調し、旧箱蓋と旧上巻絹の墨書を本紙とともに収納。（継続3か年事業のうち第1年目）

＜彫刻＞（2件）

3 名　称	木造毘沙門天立像（もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう）	員　数	1軀
時　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	像高55.0cm
品　質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	本格修理。(1)首枘または首枘穴にヒノキの薄板を接着して頭部の①を元に戻し、尊容を整える。（2）亡失している持物の戟を新補する。（3）右鰭袖背面、持物の宝塔の相輪、岩座より下方の亡失箇所については補わない。（4）沓上にかかる裙裾の亡失箇所は、形状を検討のうえ、ヒノキ材で補作する。（5）彩色の浮きについては、樹脂等で剝落止めを行う。（1か年事業）		

4 名　称	木造伎楽面　力士（もくぞうぎがくめん　りきし）	員　数	1軀
時　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	縦34.0cm　横19.5cm
品　質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	（1）埃を筆等で除去する。（2）漆層の浮き上がりは、樹脂等で剝落止めを行う。（3）頭頂の隙間や左縁辺の割れおよび欠失箇所は、調査のうえ、必要があれば樹脂等で接着する。（4）髻の新補は行わない。（1か年事業）		

＜書跡＞（1件）

5 名　称	天永二年十一月二十一日東大寺注進状案 （てんえいにねんじゅういちがつにじゅういちにちとうだいじちゅうしんじょうあん）	員　数	1通
時　代	平安時代（12世紀）	寸 法 等	縦28.8cm　長97.4cm
品　質	紙本墨書	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	修理前に十分な調査を行う。初めに表面に付着する埃等をドライクリーニングで除去した上で、墨・朱印に剝落止めを施す。汚れが広がりそうな箇所のみ、少量の水分を与え汚れを除去する。紙継ぎを外した後、損傷箇所周囲の折れ部分に加湿して形状を整える。なお、伝来過程でついた皺や料紙本来の凸凹を残すため、全体に水分を入れるクリーニング、プレスは行わない。料紙の紙質調査に基づき、適切な補修紙を作成する。欠失箇所に補修紙を補填し、料紙を適切に継ぎ直す。新たに八双・紐をつけた覆表紙を作製し、中性紙製巻芯に巻き取った上で覆表紙をかける。中性紙製保存箱を新手に作製する。（1か年事業）		

＜漆工＞（1件）

6 名　称	金銅装山伏笈（こんどうそうやまぶしおい）	員　数	1背
時　代	室町時代（15～16世紀）	寸 法 等	笈：幅55.3cm 奥行27.5cm 高76.3cm　五仏：像高10.7～11.2cm
品　質	笈：木製 漆塗 金銅装　五仏：木造 漆箔 玉眼	施工会社	北村工房
修理内容	①笈本体は全体にクリーニングを行い、上段の扉は外して、割損部に刻苧漆を充塡して補強する。欠失した端喰の復元は行わない。木地接合部に生じた亀裂は、破損の進行が危惧される箇所に刻苧漆を充塡して補強する。虫蝕部は、状況に応じてアクリル系樹脂や刻苧漆を充塡して補強する。帖木の欠損部は補わず、刻苧漆等で形状を整える。脚部の木地損傷部分は、刻苧漆で形状を整える。金具の歪みやめくれは修整する。欠失した棚板は、ヒノキ材で補作し、色調を合わせて仕上げる。なお、刻苧漆による処置を行った箇所は、表面を研磨するなどして周囲と調和するように仕上げる。鋲や釘の欠失は、損傷移行に至らない場合は現状のままとし、補足は必要最小限とする。②扉絵は、ドライクリーニング、剝落止めを行った上で、全面に養生貼りした後に、加湿して扉板より外す。取り外した扉絵は、濾過水を使用したクリーニング、欠失箇所の補塡と裏打ちを行い、扉板に細かく浮け張りを施した後に、貼り戻す。基本的に料紙の皺は伸ばさず、現状を維持する。また補彩も行わない。③五仏は埃を除去した上で、樹脂等を用いて漆箔の剝落止めを行う。金具類は折れ・歪みを修整する。なお、欠失部の補塡は行わない。また胸部の釘痕は現状のままとし、胸飾の補足も行わないものとする。動揺する光背はいったん取り外し、取り付け部の調整を行った上で復位する。台座や指先、髻などの欠失部は、必要に応じて樹脂等で補強・修整するが、基本的に補足は行わず現状のままとする。台座蓮弁の割損箇所は、樹脂等で接着するが、欠失の補足は行わない。光背の接着痕は有機溶剤等で除去する。なお、別保存する光背の残欠は形状不適合のため復位しない。補修箇所には全て古色を施す。下水板付の保存箱を作製し、五仏を収める。なお、①～③のいずれの工程においても、事前に十分な調査を行い、事後には修理前・中・後を記録した報告書を作成する。（2か年事業のうち第1年目）		

＜染織＞（1件）

7 名　称	刺繍種子地蔵菩薩像（ししゅうしゅしじぞうぼさつぞう）	員　数	1幅
時　代	南北朝～室町時代（14～15世紀）	寸 法 等	縦45.3cm　横34.0cm
品　質	絹本刺繍・著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	表装を解体し、裏打紙を取り替える解体修理を行う。十分現況の調査した上で、軸装を解体し肌裏紙以外の裏打紙を除去する。濾過水を用いて汚れを溶かし出して除去し、剝落止めを行った上で、表打ちを施し、透過台に張り込む。乾式肌上げ法によって肌裏紙と補修紙を除去し、本紙欠失箇所に電子線劣化絹を裏面から新たに補う。肌裏打ちを行った後、繡糸の乱れを整え、必要に応じて極細い絹糸で縫い綴じ、その後増裏打ちを行う。折れの強い部分は、極細く切った楮紙を用いて折れ伏せを施し補強する。新調した表装裂を用いて二段仏表具の形式に付け廻しをし、中裏打ち、総裏打ちを行って表装を仕上げる。補絹箇所には表から補彩を施す。端喰金具は歪みを調整して再使用し、軸首も再使用して装着する。啄木、上下軸は新調し、軸装の形式に仕立てる。巻きの負担を軽減するため太巻添軸を新調し、それに伴って保存箱も新調し、桐印籠箱と裂貼り帙を作製する。（1か年事業）		

＜考古＞（1件）

8 名　称	埴製枕・金銅製龍文帯金具（五條猫塚古墳出土） （はにせいまくら・こんどうせいりゅうもんおびかなぐ　ごじょうねこづかこふんしゅつど）	員　数	9点
時　代	古墳時代（5世紀）	寸 法 等	埴製枕：縦24.1cm 横30.9cm 高15.1cm 金銅製龍文鋲帯金具：縦4.8～2.5cm 横6.0～4.1cm
品　質	埴製枕：土製 素焼き 赤彩 金銅製龍文鋲帯金具：銅板製 鍍金	施工会社	(公財)元興寺文化財研究所
修理内容	埴製枕：①処理前の状態を写真撮影、X線撮影、肉眼観察等で記録。②古い接合の解体、有機溶剤等による洗浄を行う。③素焼きの表面保護に適切な合成樹脂等の含浸・塗布による強化処理。④再接合、欠損部の復元・補填、補彩等を行う。 金銅製龍文鋲帯金具：①処理前の状態を写真撮影、肉眼・顕微鏡観察および蛍光X線等の分析により有機物の状態把握と性質解明。②銅錆や鉄錆、土等のクリーニング。③樹脂含浸・塗布による強化処理、防錆処理を行う。④破断部分の強化処理。可能な部分は復元も試みる。⑤保管箱の作成。　以上の修理物件に関して、 処理中に使用した薬剤名や写真記録、作業工程、費やした時間等の修理に関する情報を整理し、修理報告書を作成する。（1か年事業）		

【九州国立博物館】（計31件）

＜絵画＞（4件）

1 名　称	花鳥図巻（かちょうずかん）	員　数	1巻
時　代	中国　清時代・康熙51年(1712)	寸 法 等	縦35.6cm 横919.5cm
品　質	絹本著色巻子装	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体 本紙に装着されている表紙、軸巻き、軸木を取り外す。本紙同士の紙継ぎを外す。2.洗浄 本作品は、水溶性の顔料を多用しているとうかがえるため、水を用いた汚れ除去は行わない。但し、埃を払い、虫糞除去などのドライクリーニングは行う。3.接合・組立 表紙裂と見返し料紙はそれぞれ補修を行い、新調した竹製八双を取付けて元の表紙に組み立てる。新調した軸木に元の軸首を取付ける。新規に軸巻絹を作製する。表紙、本紙、軸巻絹を繋ぎ合わせ、軸木を付け、新調した紐を付けて巻子装に仕上げる。4.強化・整形 絵具層に膠水溶液にて剥落止を施す。但し、耐水性が低い絵具層については行わない。肌裏紙を取り替え、更に3層の裏打ちを施して、柔軟で強度のある仕上がりにする。5.補填 本紙料絹の欠失箇所に、電子線劣化絹にて補填する。6.補彩 補填を行った箇所に、周囲と調和する補彩を施す。7.収納等太巻添軸を新調する。元の箱に枕を取り付け、新調した包裂に包み納入する。元年度は4の途中以降を施工。（30年度より、2か年継続事業）		

2 名　称	渡海羅漢図巻（とかいらかんずかん）	員　数	1幅
時　代	画：中国　明時代・17世紀　賛：寛文6、7年(1666-67)　跋：天和3年(1686)9月9日	寸 法 等	縦 29.8cm　　全長 1309.5cm　　紙数 35紙
品　質	羅漢図：紙本著色、題・賛・跋：紙本墨書、象牙軸	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、絵具層の調査や紙質検査を行ってあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように巻子装を解体し、本紙の継ぎを全て取り外す。2.強化・整形 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨及び彩色絵具に、兎膠水溶液 0.5～3%を用い、剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際にも必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧して汚れを吸取紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。クリーニングによって現状の作品の風合いを損なわないようにすること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4.強化・整形 再度、墨、彩色絵具に免膠水溶液0.5～3% を用い、剥落止めを行う。5.解体 肌裏紙の糊浮きが著しいため、湿りを与えずに肌裏紙を除去する。湿りを与えずに除去できない部分にのみ、必要最小限の湿りを与えて除去を行う。6.補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備･調整し、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて本紙の裏面より欠失箇所に補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように補修紙の糊代部を削って補修を行う。7.強化・整形。本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.接合・組立。美栖紙にて古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調の表紙裂及び天地裂、見返しを薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と見返しを合わせる。　本紙を継ぎ、新調した天地裂地を付け廻しする。椿と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。9.補彩 本紙の持っている地色を基本として行い、それに加え現在の経年劣化した本紙料紙の状態を加味した色合いにも考慮して補彩を施す。最終的な調整として、所有者と協議の上、欠失部（補紙を施した箇所）周辺の状態にも応じ、鑑賞を行う上で支障のないように微調整を行う。10.接合・組立 軸首は再使用、軸巻 紙、中軸、八双、紐は新調し、巻子装に仕立てる。11.収納等 今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。桐屋郎中箱・漆塗桐台差紐付外箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。 元年度は8の以降を施工。（30年度より、2か年継続事業）		
所蔵者	福岡・千眼寺		

3 名　称	渡唐天神像（ととうてんじんぞう）	員　数	1幅
時　代	明時代・16世紀	寸 法 等	本紙：縦58.3cm　横29.8cm　　表装：縦139.4cm　横42.2cm　軸長47.8cm
品　質	絹本著色、掛軸装、木製漆塗軸	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、彩色の調査、料絹の情報等あらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.強化・整形 クリーニングで水を使用するにあたり、不安定な彩色層が移動する恐れがあることから、膠着力が低下し、表面の擦れにより不安定になっている彩色層に、必要に応じて免膠水溶液1～3% を用いて剥落止めを行う。膠水溶液の塗布は効果を確認し、必要に応じて繰り返し行うが、クリーニングに耐えられる必要最低限に留め、膠による汚れの移動、際付きによるシミや、光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。クリーニングによって微かな表現がより良く見えるようになること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4.強化・整形 クリーニング後、絵具層の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～3%を用い、再度剥落止めを行う。5.解体 旧補絹の大半は表面より本紙料絹の上から施されているため、協議にて除去が決定した旧補絹を表養生を行う前に除去する。旧補絹を除去した後、梅の花表現に使われている膿脂部分がにじまないようにシクロドデカンを用いて防水加工を施す。その後、常温で抽出した布海苔水溶液にて本紙表面に3層の養生を施して本紙料絹を固定し、裏面より最小限の湿りにて除去を行う乾式肌上げ法で丁寧かつ慎重に肌裏紙を除去した後に、裏面から施された旧補絹を除去する。6.補填 本紙欠失箇所と本紙の周囲に本紙と同組織の電子線劣化絹を選定し、本紙料絹の色合いを考慮した下染めを施し、裏面より補絹を行う。7.強化・整形 本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.接合・組立 肌裏打ち後、肌裏紙と同様に天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管したもの）を用いて増裏打ちを行う。その後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調した表装裂地は、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹を用い、2段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う 。9.補彩 現在の経年変化した料絹の色合いを踏まえて補彩を施す。欠失部（補絹箇所）周辺の状態も考慮し、鑑賞を行う上で支障のないよう所有者と協議の上で最終的な微調整を行う。10.接合・組立 軸首、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。11.収納等 今後の新たな折れ・絵具層や料絹の損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。		

4 名　　称	宗義調像（そうよししげぞう）	員　　数	1幅
時　　代	安土桃山～江戸時代・16～17世紀	寸 法 等	本紙：縦75.2cm　横45.6cm　　表具：縦160.8cm　横58.9cm　軸張64.2cm
品　　質	紙本著色、掛軸装（三段表具）、軸首プラスチック製	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や絵具の調査等を行ってあらゆる情報の記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.強化・整形 クリーニングで水を使用するにあたり、不安定な絵具層が移動する恐れがあることから、膠着力が低下し、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に、必要に応じて免膠水溶液1～3%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液の塗布は効果を確認し、必要に応じて繰り返し行うが、クリーニングに耐えられる必要最低限に留め、膠による汚れの移動、際付きによるシミや、光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。クリーニングによって微かな表現がより良く見えるようになること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4.強化・整形 クリーニング後、絵具層の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～3%を用い、再度剥落止めを行う。5.解体 常温で抽出した布海苔水溶液にて本紙表面に3層の養生を施して本紙料紙を固定し、裏面より最小限の湿りにて除去を行う乾式肌上げ法での肌裏紙除去を丁寧かつ慎重に行う。6.補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、裏面より欠失箇所に補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように補修紙の糊代部分を削って補修する。7.強化・整形 本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.接合・組立 肌裏打ち後、肌裏紙と同様 に天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管したもの）を用いて増裏打ちを行う。その後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調した表装裂地は、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹を用い、2段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補彩 現在の経年変化した料紙の色合いを踏まえて補彩を施す。欠失部（補紙箇所）周辺の状態も考慮し、鑑賞を行う上で支障のないよう所有者と協議の上で最終的な微調整を行う。10.接合・組立 軸首、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。11.収納等 今後の新たな折れ・絵具層や料紙の損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。		

＜書跡＞（1件）

5 名　　称	重要文化財　鷹尾神社大宮司家文書 （たかおじんじゃだいぐうじけもんじょ）	員　　数	93点
時　　代	鎌倉～室町時代　13-16世紀	寸 法 等	(1)縦27.5cm横35.5cm　(2)縦25.6cm横33.5cm　(3)縦21.5横24.0cm　(4)縦26.1cm横39.0cm　(5)縦23.5cm横32.7cm　(6)縦30.3cm横34.2cm　(7)縦29.7cm横36.9cm　(8)縦32.2cm横57.8cm　(9)縦30.0cm横171.0cm　(10)縦32.2cm横48.3cm (11)縦28.5cm横43.1cm　(12)縦28.1cm横71.5cm　(13)縦31.2cm横94.4cm　(14)縦33.2cm横52.6cm　(15)縦28.0cm横39.5cm(16)縦30.7cm横90.6cm　(17)縦27.2cm横72.2cm　(18)縦24.0cm横60.3cm　(19)縦24.5cm横26.7cm　(20)縦28.5cm横33.2cm　(21)縦28.0cm横38.2cm　(22)縦30.5cm横44.9cm　(23)縦27.9cm横45.7cm　(24)縦26.8cm横72.5cm　(25)縦27.6cm横41.2cm　(26)縦31.7cm横104.4cm　(27)縦32.1cm横102.3cm　(28)縦30.5cm横43.3cm　(29)縦25.9cm横142.0cm　(30)縦26.8cm横35.2cm (31)縦27.2cm横110.3cm　(32)縦29.9cm横41.9cm　(33)縦29.6cm横37.1cm (34)縦31.7cm横51.3cm　(35)縦29.5cm横40.8cm　(36)縦26.2cm横69.4cm (37)縦21.0cm横31.0cm　(38)縦25.8cm横32.1cm　(39)縦28.8cm横44.5cm (40)縦30.3cm横189.4cm　(41)縦32.6cm横155.4cm　(42)縦30.5cm横232.8cm　(43)縦26.9cm横35.0cm　(44)縦28.4cm横46.1cm　(45)縦28.2cm横32.3cm　(46)縦31.8cm横117.2cm　(47)縦31.8cm横117.2cm　(48)縦27.5cm横30.0cm(49)縦30.0cm横36.8cm　(50)縦27.2cm横36.6cm　(51)縦28.5cm横38.5cm　(52)縦28.5cm横40.0cm　(53)縦26.5cm横43.8cm　(54)縦29.8cm横44.1cm　(55)縦29.8cm横43.3cm　(56)縦30.2cm横111.7cm　(57)縦46.9cm横43.0cm　(58)縦28.2cm横31.9cm　(59)縦27.4cm横36.8cm　(60)縦31.9cm横44.8cm　(61)縦29.3cm横37.9cm　(62)縦28.0cm横46.5cm　(63)縦32.5cm横38.8cm　(64)縦25.5cm横30.0cm　(65)縦23.4cm横46.3cm　(66)縦26.8cm横29.1cm　(67)縦27.5cm横34.0cm　(68)縦29.0cm横38.0cm　(69)縦29.2cm横26.8cm　(70)縦15.0cm横39.5cm　(71)縦25.6cm横34.1cm　(72)縦26.6cm横76.7cm　(73)縦26.2cm横39.4cm　(74)縦25.1cm横39.9cm　(75)縦22.4cm横43.9cm　(76)縦23.4cm横43.9cm　(77)縦28.6cm横109.2cm (78)縦19.2cm横39.4cm　(79)縦24.0cm横37.2cm　(80)縦38.5cm横55.8cm (81)縦27.7cm横123.1cm　(82)縦31.0cm横80.5cm　(83)縦27.0cm横37.2cm (84)縦29.7cm横250.6cm　(85)縦27.9cm横227.9cm　(86)縦23.6cm横108.3cm　(87)縦21.4cm横120.6cm　(88)縦20.5cm横74.6cm　(89)縦29.2cm横982.6cm　(90)縦29.8cm横979.0cm　(91)縦24.6cm横19.1cm　(92)縦26.6cm横16.5cm　(93)縦27.0cm横76.0cm　(94)縦27.0cm横19.0cm
品　　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行う。額装のものについては装丁を解体する。2.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行い、本紙に堆積した埃や塵を除去する。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて膠水溶液を用いて剥落止めを行う。効果を確認し、必要に応じて都度繰り返し行う 。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないようにする等細心の注意を払い行う。4.強化・整形（フラットニング） 折れや破損によって収縮した本紙を伸ばし、繊維の毛羽立ちを押さえて、あばれや皺を改善することで本紙を安全に扱えるようにするために、ゴアテックスを用いて軽い湿りを加えて軽い圧をかけ、平らに整える。5.解体　必要最小限の湿りを与え、裏打紙や旧補修・補強紙等を除去する。除去に際しては所有者や関係各所と協議の上で行う。6.補填　各本紙の紙質・状態に合わせて手漉きにて補修紙を作製し、欠失箇所に手繕いにて補修を施す。竪帳については、漉き嵌めによる補修を、紙数が多い続紙についてはDIIPS法（象嵌式）による補修を施す。7.強化・整形（裏打ち）強度的に裏打ちが必要なものについては、所有者や関係各所との協議を行った上で裏打ちを行う。8.接合・組立　続紙については、所有者や関係各所との協議を行った上で、糊離れが生じていた紙継ぎ箇所を 新糊を用いて適正な位置に継ぎ直す。冊子については、新調した紙嵯りを用い、元の形態に綴じ直す。9.収納等　竪紙（額装を解体した一紙を含む）、折紙、続紙、竪帳については、本紙を楮紙にて包み、新調した桐桷貪箱に収納し、油単を新調する。元年度は6の途中から施工（30年度より、3か年継続事業）。		
所蔵者	個人蔵		

＜彫刻＞（1件）

6 名　称	如来坐像（にょらいざぞう）	員　数	1軀
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	像高137.0cm　髪際高117.0cm　膝張112.5cm　膝奥89.0cm 付属品　台座:木製箱形礼盤1(幅107.5cm 奥行91.8cm 高18.3cm)
品　質	桧材・寄木造・漆箔仕上げ（現状素地古色）	施工会社	美術院
修理内容	1.解体 本身本は矧ぎ目に打たれた後補の鉄釘や鉄鎹を抜きすべて解体する。台座は天板のみを解体する。2.洗浄 埃除去工程。箪・刷毛等で丁寧に埃を掃き取り、舞い上がった埃はクリーナーで吸い取り除去する。塵埃や汚れは精製水で除去する。3.接合・組立 接合工程。台座框の緩む箇所は矧ぎ目に膠を差し入れて接合するが、強度が必要な際はエポキシ系樹脂を用いて接合する。台座天板は隙間に桧材の薄板を差し入れて膠で接合する組み上げ工程。本躰の目違いや傾きなどを修整しながら、膠と麦漆（必要に応じて点付）を用いて各矧ぎ目を接合し組み上げる。接合部表面や鎹を埋め込んだ箇所は木屎漆を充填した後削り整える。4.強化・整形 剥落止め工程。台座漆層の浮き上がりは状況に応じて、メチルセルロースにアクリル樹脂エマルション（商品名プライマル AC2235)を混合したものを用いるか 、水溶性アクリル樹脂（商品名バインダー17）で下処置した後アクリル樹脂エマルション（商品名プライマルAC2235)を用いるかのどちらかの方法により剥落止めを行う。台座白下地彩色の浮き上がりは膠で剥落止めを行う。材質強化工程。本躰の虫蝕朽損や鼠害により劣化した木質部はアクリル樹脂（商品名パラロイドB72 溶剤メチルエチルケトン）を含浸して材質強化を行う。彫刻面の欠損部で木質の朽損がある場合は上記と同様にアクリル樹脂を用いて材質強化を行うが、朽損が少ない場合は材質強化を行わず、桧材を膠で貼り付けて木屎漆で整形を行うか、あるいは木屎漆のみで整形を行う。台座天板の朽損箇所は本躰と同様にアクリル樹脂（商品名商品名パラロイドB72溶剤メチルエチルケトン）を含浸して材質強化を行う。隙間・亀裂箇所処置工程。台座天板の矧ぎ目の隙間や框の亀裂箇所は、広い箇所には桧材を差し入れ、狭い箇所にはブチラール樹脂（商品名デンカブチラール溶剤ブチルアルコール＋エチルアルコール)に砥の粉と顔料を混合したものを用いて隙間や亀裂を埋める。5.補填 虫蝕処贋工程。本躰の虫蝕孔はブチラール樹脂（商品名デンカブチラール溶剤ブチルアルコール＋エチルアルコール)に砥の粉と顔料を混合し、セロファン紙で作った三角錐型容器に詰め充填する。虫蝕朽損及び鼠害により彫刻面が欠損している箇所は、損傷移行を防止する範囲で、桧材や木屎漆で整形する（すべて埋めずに虫損箇所を残す）。補足工程。本躰後頭部上方の亡失する矧ぎ材及び両手先を桧材で補足する。形状不適合な右脇納衣遊離部は修整して形状を整えるか、新たに補足するかを協議の上行う。白毫を桧材で新補する。台座の天板の欠損部を桧材で補足する。構造補強工程。台座が像の荷重に耐えられるよう桧材で中枠等の内部構造を新補し、天板の落ち込みを戻し、像を安定して安置できるようにする。6.補彩 古色工程。新たに補足する箇所（白毫・後頭部上方矧ぎ材・両手先）を周囲に合わせて、漆・水干絵具・アクリル絵具を用いて古色を施す。解体後接合する矧ぎ目表面は、木屎漆で表面を整え、錆漆で下地を行い、上記と同様の古色を施す。古色修整工程。過去の修理において施された古色の変色部について、精製水を用いて綿棒等で一旦除去し、新たに漆・水干絵具・アクリル絵具を用いて修整を行う。漆塗工程。台座天板の欠損部や矧ぎ目処置を行った箇所及び台座礼盤座右前柱の表面が剥落する箇所は、下地として木屎漆で整形し、漆塗を施す。7.収納等 保存台の製作等は行わない。		

＜金工＞（6件）

7 名　称	霙杜若の図真形釜（みぞれかきつばたのずしんなりか	員　数	1口
時　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径11.8cm　口径11.7cm　最大径21.6cm　総高15.2cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.釜の赤錆は竹箆や箙(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.替蓋は弱酸性、弱塩基性による液体で中和させ、その後色調合わせを行う。		

8 名　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　数	1口
時　代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径10.2cm　口径10.2cm　最大径20.6cm　総高16.0cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.釜の鐶羽、胴部、金漆のひび割れ部分に漆を局部的に染み込ませ、乾燥後、金漆で繕いを行う。2.鐶羽裏の過度に盛られた金漆を、展示の際見えない程度に電動軸付砥石で研磨し除去する。3.鐶羽、胴部、真底の赤錆は竹箆や箙(ササラ)による除去後、煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。4.替蓋は弱酸性、弱塩基性による液体で中和させ、その後色調合わせを行う。		

9 名　称	梅の図平釜（うめのずひらがま）	員　数	1口
時　代	江戸時代前期・17世紀	寸 法 等	蓋径（蓋なし）　口径14.3cm　最大径27.5cm　総高11.7cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.釜の赤錆は竹箆や箙(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.金漆の劣化は、漆を局部的に染み込ませて乾燥後、金漆で繕いを行い色調合わせを行う。4.釜外部、直羽上部の真鍮製鎹についてはそのままの状態で残す。5.蓋を唐金蓋で新調する。		

10 名　称	黒木(束柴)釜（くろき(たばしば)がま	員　数	1口
時　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.3cm　口径12.4cm　最大径26.5cm　総高20.4cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.釜の赤錆は竹箆や箙(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.底側面の金漆の割れと剥離は、漆を割れ部分に浸透させ乾燥。4.金漆にて繕い色調合わせを行う。		

11 名　称	鳥居宝珠の図甑口釜 （とりいほうじゅのずこしきぐちがま）	員　数	1口
時　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.3cm　口径12.1cm　最大径26.8cm　総高18.8cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.釜の赤錆は竹箆や箙(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.真底の藁と同化した赤錆は、腐食が進行しえぐれている場合には金漆にて繕い色調合わせを行う。		

12 名　称	桐紋撫肩釜（きりもんなてがたかま）	員　数	1口
時　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径(鉄蓋)12.2cm(唐金蓋)12.0cm　口径12.2cm　最大径26.3cm　総高16.3cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.釜、共蓋の赤錆は竹箆や箙(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.替蓋は弱酸性、弱塩基性による液体で中和させ、その後色調合わせを行う。		

＜刀剣＞（1件）

13 名　称	脇差　銘備州長船康永、応永卅一年二月日 （わきざし　めいびしゅうおさふねやすなが、 おうえいさんじゅういちねんにがつじつ）	員　数	1口
時　代	室町時代・応永31年(1424年)	寸 法 等	刃長45.6cm　反0.7cm
品　質	鉄・鍛造	施工会社	小宮光敏
修理内容	1.改正砥で錆を取り、姿（形）を直す。2.改正砥の砥石目を名倉砥の砥石目にする。3.名倉砥の砥石目を内曇砥の砥石目にする。（この時に刃文が見えてくる）4. 内曇砥の砥石目を刃艶砥で整える。（刃艶砥は内曇砥を薄くして和紙を漆で裏張りしたもの）5.地艶砥で地鉄を整える。（地艶砥は鳴滝砥を薄くして和紙を漆で裏張りしたもの）6.刃取りを行う。（刃文にかかった地艶砥の砥石目を刃艶砥の砥石目に戻す）7.差込み拭いをかける。（磁鉄鉱を細かい粉末にして油で溶いたもの）8.ナルメを行う。（切先の仕上げ）9.鎬地・棟を鉄の棒で磨く。		

＜漆工＞（1件）

14 名　称	花鳥螺鈿箪笥（かちょうらでんたんす）	員　数	1基
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高142.3cm×縦42.0cm×横63.1cm
品　質	木製漆塗	施工会社	（同）大西漆芸修復スタジオ
修理内容	1.解体 箪笥の扉が開閉の際に下部で擦れている、蝶番の金具を取り外す。2.洗浄 クリーニング作業では、漆塗膜に傷が入らないように柔らかい毛棒で塵や汚れを払い落とす。漆塗膜に付着しているカビ汚れは、柔らかい木綿布や綿棒に極小量の水分を与えたもので少しずつ拭き取りながら除去作業を行う。必要に応じ弱いアルコールを使用した除去も行うが、高濃度での使用は行わない事とする。カビ汚れの下には、漆塗膜上に時代を感じさせる経年の汚れが残されていることから、必要以上にクリーニング作業は行わない事とする。過去の補修で塗られた黒色塗料は、溶剤を使用しながら柔らかい木綿布や綿棒で拭き取り、可能な限り除去を行う。ただし、螺鈿下に入り込んだ黒色塗料は除去が不可能なため現状のままとする。3.接合 木地構造の安定処置では、亀裂箇所に充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈をして含浸し、構造の安定処置を行う。剥離塗膜の接着では、塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈をして含浸し、圧着固定を行い塗膜の安定処置を行う。螺鈿の剥離箇所には、10%濃度の膠水を用いて剥離下に含浸し、圧着固定を行い螺鈿の安定処置を行う。4.強化・整形 箪笥を受ける甲板の隅金具が当たり木地が露出している箇所に生漆を含浸し強化する。5.補填 亀裂部と欠損部に刻苧の充填を行い形態の復元を行う。刻苧箇所に錆漆下地を付けて表面肌を整え、欠損部と周辺漆塗膜との段差を緩和させる。また、触手による再剥落を防止するため、塗膜際に極小量の錆漆下地を付ける。6.補彩 補填部分に漆固めを実施し、作品に合わせ色と質感を整える。7.組立 取り外していた扉は、開閉時に下部が擦れない位置で取り付けて仕上げる。その際、マイナスネジ頭の鋲は再利用をするか、オリジナルの釘に合わせて親補するか担当者と改めて協議をする必要がある。そのため、事前調査としてX線CT調査結果や解体時の状況、再利用が可能な耐久性であるのか検討した上で、担当者と相談して決定をする。8. 台脚上面には、箪笥設置時の損傷を回避するため養生板の新調を行う。扉の開閉時に、抽出の金具と扉裏が当たらないように薄紙や布を抽出上段から垂らして打損が生じないようにする。8.修理報告書 修理前・修理途中・修理後の画像、損傷状況、処置内容、使用材料、新知見等を掲載する。元年度は本体部分を施工。（30年度より、2か年継続事業）。		

＜染織＞（1件）

15 名　称	前田家伝来名物裂帖 （まえだけでんらいめいぶつぎれちょう）	員　数	1冊
時　代	中国　元～ 明時代　（13～17 世紀）	寸 法 等	縦110. 5cm　横 49. 0cm 厚 3. 0cm
品　質	雲母引き台紙 20 枚を糸綴じした冊子	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体に耐えられないと判断した雲母の浮き箇所に、剥落止めの処置を施す。台紙を表、中、裏の3層に剥がし、糸綴じ部分と中層を残し表裏それぞれをノド部分から切り離す。ただし、構造的に困難であると判明した場合は、糸綴じを切り台紙を表裏2倍に剥がす。2. 解体前に、表面的な埃を、柔らかい刷毛か筆で裂を傷めないよう慎重に払う。3. 台紙を表、 裏に剥がし分離した後、補強のために新調した1mm厚程度の台紙と貼り合わせる。新調する台紙は現状と同じ大きさで、厚みのある堵紙（江渕栄貫製）を数枚貼り合わせて、薄くても軽拡で強度のあるものにする。それぞれを貼り合わせる糊は、小麦澱粉糊に布海苔を混合してやや柔軟性のある仕上がりにする。裂や金糸などの浮きは、糊差しにて止める。印金や雲母の剥離は、膠水溶液や布海苔にて部分的な剥落止めを行う。4.38 面の台紙を引出し1段に1面ずつ入れる桐製箪笥を作製する。ただし、箪笥は9 段のものと10 段のものを2棹ずつ作製し、収蔵庫の棚に収納出来るようにする。台紙を引出しに収納する際には、染色品の保護に使用されている、酸とアルカリを含まないノンバッファー紙（製品名：ピュアガード）を台紙表面全体に被せる。元年度は4以降を施工。（29年度より、3か年継続事業）。		

＜考古＞（11件）

16 名　称	埴輪　馬（はにわ　うま）	員　数	1点
時　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	総高94.0、幅32.0、体長93.0 cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体　資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、接着剤や石膏による修理部分をデザインカッターやリュウター、アセトンや注射器、綿棒やブラシ等を用いて解体し、クリーニングを行う。2.強化・整形　必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）　を塗布し、樹脂による強化を行う（接合断面や接地面は全て）。表面も必要に応じて行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3.接合・組立。3-1エポキシ系接着剤（ハイスーパー5）で破片を大まかに接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂アラルダイトXNR-6504主剤、XNI-1-6504: 硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行うこの段階で部位ごとに幾つかのパーツに仕上げる。3-2大まかなパーツの接合作業完了後同様に部位のパーツを接合しながら、まず馬の下半分の接合を行い、脚のバランスを調整しながら仕上げる。次に上半分の接合を行い（バランスによっては頭部の接合は最終段階とする）、完了後下部と上部を接合して作業を完了させる　4.補填　組立完了後、全体の接合部分の隙間や復元部分をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR-6504主剤、XNI-1-6504:硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）　を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。5.補彩色　修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。6.収納等（安定台製作）馬の下半分の接合・復元完了後、現地にて資料取りを行い安定台座を製作する。安定台座天板に足に合わせた落とし込みと突起を設けて、四本の脚がずれない様にする。埴輪の移動や展示も台に載せたまま行える様に、指掛けとサラシの固定部分を兼ねた隙間を設ける。材質は木製とし、脚受の部分はエポキシ樹脂やシリコン、ウレタン等を用いて脚を安全に固定する。仕上げは展示にも耐えられる様に、ウレタン塗装の艶消し仕上げとする。元年度は3-2以降施工。（30年度より、2か年継続事業）。		

17 名　称	長胴異形壺形土器（ちょうどういかたつぼがたどき）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前1000年-前400年	寸 法 等	高33.2cm　直径6.8cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2.口縁部の破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR－6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて口縁形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.復元部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

18 名　称	注口土器（ちゅうこうどき）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前2000年～前1000年	寸 法 等	高29.6cm　口径11.0cm　最大幅25.4cm　底径5.0cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。この際、内部の泥を落とさないように注意する。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

19 名　称	三角柱状土製品（さんかくちゅうじょうどせいひん）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前3000年～前2000年	寸 法 等	縦7.0cm　横6.0cm　高4.2cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングをおこなう。この際黒いススを落とさない様に注意する。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化をおこなう。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。復元形状は同形資料の残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

20 名　称	鐸形土製品（たくがたどせいひん）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前2000年～前1000年	寸 法 等	直径4.5cm　高5.3cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

21 名　称	鉢形土器（はちがたどき）	員　数	1点
時　代	縄文時代・1万年前～6000年前	寸 法 等	直径14.0cm　高12.0cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

22 名　称	浅鉢形土器（あさばちがたどき）	員　数	1点
時　代	縄文時代・5000年前～4000年前	寸 法 等	最大径57.0cm　底部径10.5cm　内面段部径39.5cm　高24.0cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.過去の修理の補填材や接着剤をデザインカッターやリュウターなどを用いた機械的方法、あるいはアセトンなどの溶剤を使用して取り除き解体する。状況によっては完全に解体できない可能性も考えられる。次に、接合面などのクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。表面も必要に応じて樹脂強化行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3.エポキシ系接着剤（ハイスーパー５）で破片を大まかに接合後、隙間や欠損部分をエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した接着剤を使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の保存箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

23 名　称	腰飾（こしかざり）	員　数	1点
時　代	縄文時代・3000年前～2300年前	寸 法 等	縦15.5cm　横10.0cm　高2.0cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.過去の修理の補填材や接着剤をデザインカッターやリュウターなどを用いた機械的方法、あるいはアセトンなどの溶剤を使用して取り除き解体する。次に、接合面などのクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。表面も必要に応じて樹脂強化行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3.エポキシ系接着剤（ハイスーパー５）で破片を大まかに接合後、隙間や欠損部分をエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した接着剤を使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

24 名　称	腰飾（こしかざり）	員　数	1点
時　代	縄文時代・3000年前～2300年前	寸 法 等	縦6.9cm　横3.3cm　高1.4cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。表面も必要に応じて樹脂強化行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

25 名　称	鍍金鳥形鎮子（ときんとりがたちんし）	員　数	2個
時　代	中国　前漢時代・紀元前2世紀-紀元前1世紀	寸 法 等	1：奥行7.5cm　幅5.9cm　高5.0cm 2：奥行6.8cm　幅5.0cm　高4.7cm
品　質	土製焼成(埴製)	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.刷毛等を用いて、慎重に表面に付着している砂土などを除去する。有機溶剤(エタノール、キシレン、酢酸エチル混合液)を用い、表面の汚れを除去する。2.鍍金部分はアクリル樹脂（TOA インクララック等)を塗布し、保護措置を行う。3.純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定しＯppmに近くなるまで脱塩処理を行う（実施については協議・検討する）。4.ベンゾトリアゾールのエタノール溶液に含浸し防錆処置を行う。含浸後は十分に乾燥させる。常圧含浸、乾燥作業を繰り返す。含浸後、光沢を調整する。5.脱塩後に発生した錆等のクリーニング作業を行う。6.アクリル樹脂（TOA インクララック等)を含浸させる。含浸後十分に乾燥する。7.亀裂箇所をアクリル樹脂(パラロイドB72等)で充填補強後、エポキシ樹脂の充填を行う。8.違和感がないように、修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。9.元の収納箱に納入する。10.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

26 名　称	三角形土版（さんかっけいどばん）	員　数	1点
時　代	縄文時代・5000年前～4000年前	寸 法 等	縦5.2cm　横4.7cm　高2.5cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR－6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

＜民俗資料＞（2件）

27 名　称	龍神図（りゅうじんず）	員　数	1点
時　代	19～20世紀	寸 法 等	縦66.8cm　横45.5cm
品　質	紙本著色	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.墨・絵具層の剥落止め、強化を膠水溶液にて行う。2.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を表面から噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法で本紙のクリーニングを行う。3.汚れの除去後、再度膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。4.裏面からの最小限の湿りにて旧肌裏紙を全て除去する。5.本紙の色調に合わせた染薄美濃紙にて新糊を用い、新たに肌裏を打つ。6.美栖紙にて古糊を用い、増裏を打つ。7.折れ箇所及び今後折れが発生すると思われる箇所に、美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。8.表装裂地を新調し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。9.本紙と表装裂地とを掛軸装の形に付け廻しする。10.美栖紙に古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りをする。11.宇陀紙に古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りして十分に乾燥する。12.補修を施した箇所に本紙基調色にて補彩を施す。13.新調した軸首・上下軸木・啄木・吊鐶等を取り付け、掛軸装に仕立てる。14.桐太巻添軸・桐印籠箱を新調し、本紙を包裂に包んで納入する。15.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

28 名　称	土瓶（どびん）	員　数	1点
時　代	19世紀	寸 法 等	蓋:高2.6cm　径14.7cm　身:高22.2cm　口径13.2cm　幅22.6cm
品　質	粘土	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.過去の修理の補填材や接着剤をデザインカッターやリュウターなどを用いた機械的方法、あるいはアセトンなどの溶剤を使用して取り除き解体する。状況によっては完全に解体できない可能性も考えられる。次に、接合面などのクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パラロイドＢ72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.エポキシ系接着剤（ハイスーパー５）で破片を大まかに接合後、隙間や欠損部分をエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR－6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した接着剤を使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

＜歴史資料＞（3件）

29 名　称	重要文化財 対馬宗家関係資料 （つしまそうけかんけいしりょう）	員　数	19箱1～7巻
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙　縦18.0-34.5 cm　横45.5-56.9 cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損低状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあら ゆる情報について記録を行った後、本紙に負担が掛からないように巻子装を解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提として、過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の水の量によるクリーニングに留めることとする。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。都度効果を確認し、必要に応じて繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその塁は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4.解体 必要最小限の湿りを与え、裏打紙を除去する。5.補填 本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。補修紙の作製はDIIPS法にて作製する。6.強化・整形（裏打ち）。薄美濃紙にて、自社で炊 いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。7. 接合・組立。肌裏打ち後、本紙の厚みや硬さが異なり、厚み調整が必要な場合は美栖紙にて古糊を用いて増裏打ち行う。折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性がある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。椿と雁皮の混合紙を用い新糊と布海苔の混合糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りし十分に乾燥させる。復元新調した表紙裂地は薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、仮張り後、新糊と布海苔の混合糊を用いて表紙裂と見返し（再使用）を貼り合わせる。元の通り継ぎ合わせた本紙と表紙見返しを継ぎ合わせ、再使用した軸首・八双・中軸・紐等を取り付けて巻子装に仕立て る。8.収納等。今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調して巻子を太く巻き、新調したウコン染めの包裂に本紙を包み、保存する。元年度は巻5～7の3巻を施工。（30年度より、2か年継続事業）。		

30　名　　称	広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）	員　　数	4面
時　　代	（採拓）昭和９年頃(1934年) （原碑）朝鮮・三国時代・414年	寸 法 等	第1面：上半分縦264.3cm　横148.0cm　下半分縦275.0cm　横145.0cm 第2面：縦528.0cm　横122.0cm　第3面：縦532.0cm　横178.0cm 第4面：縦530.0cm　横120.0cm
品　　質	拓本　折り畳み	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査紙のあらゆる情報について記録を行う。2.強化・整形（剥落止め）　膠着力の低下や、表面の擦れにより不安定になっている墨に、兔膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際、その量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出 ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。その後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水。以下同）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過剰なクリーニングは行わず、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とする。4.強化・整形（剥落止め）　再度、墨に兔膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。5.補填（補修）　本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、小麦澱粉糊（新糊）を用いて欠失箇所の補修を行う。また、補修紙を用いて本紙の四方周囲に足し紙をする。補修紙は、本紙と補修紙の重なりによる凹凸 が最小限になるように補修紙の糊代部分を削り、補修を行う。また、料紙の継ぎ及び旧補填箇所の重なりも最小限になるよう極力削り、平滑にする。6.強化・整形　本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙にて、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立　肌裏打ち後、美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。表装裂地を新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂を付け廻し、袋表装の形に仕立てる。8.強化・整形　本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを2層行う。中裏打ち後、宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.接合・組立　軸首、上下軸木、啄木、打込鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。10.収納等　新調した4幅入り中性紙箱に納入する。元年度は第2面を施工（30年度より、4か年継続事業）。		

31　名　　称	小早川隆景書状（こばやかわたかかげしょじょう）	員　　数	1幅
時　　代	室町時代・永禄12年(1569)	寸 法 等	本紙(前半部分)：縦13.0cm 横39.0cm 本紙(後半部分)：縦13.0cm 横38.6cm 表装：縦146.5cm 横58.0cm　軸長63.5cm
品　　質	紙本墨書　掛幅装	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.墨の剥落止め、強化を膠水溶液にて行う。2.上下軸木を取り外し、表装の解体を行う。3.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を用い、本紙のクリーニングを行う。4.汚れの除去後、再度墨書の剥落止めを行う。5.裏面からの最小限の湿りにて旧肌裏紙を除去する。6.本紙と同質の補修紙を作成し、本紙裏面より損傷箇所の補修を行う。7.表向きに変更されている本紙部分を元の形に戻し、本紙を続紙の状態に継ぎ合わせて仕上げる。8.仮巻芯、桐印籠箱を新調し本紙を納入する。8.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和2年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		264	19	171 (5,337)	74 (1,020)
絵　画		125	4	87 (2,214)	34 (358)
書　跡		45	1	38 (1,197)	6 (203)
彫　刻		43	0	19 (1,384)	24 (289)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		0	0	0 (2)	0 (4)
刀　剣		102	0	－	0 (0)
陶　磁		0	0	0 (1)	0 (0)
漆　工		8	0	0 (39)	8 (109)
染　織		9	3	4 (194)	2 (21)
考　古		6	5	1 (16)	0 (0)
民族資料		2	1	1 (5)	0 (2)
歴史資料		18	0	18 (227)	0 (31)
和　書		1	1	0 (0)	0 (0)
写真資料		33	0	－	0 (0)
その他		3	0	3 (43)	0 (2)
東洋	絵　画	0	0		
	書　跡	0	0		
	彫　刻	0	0		
	金　工	1	1		
	陶　磁	0	0		
	漆　工	1	1		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	2	2		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		2	2		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

令和2年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	14か所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8か所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	9か所 （本体建物6、屋外3）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	6基 （平成知新館4,東収蔵庫1） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	2台	23台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	13台 （検札4、平成知新館7、倉庫保管2）	16台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 12か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーキープ 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
元年度整備事項	平成館和式便器を洋式便器（温水洗浄便座付）に更新した。		地図やピクトグラム等を利用して館外誘導サインをよりわかりやすい内容に更新した。また、あわせて4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた外国人や障がい者にもわかりやすい館内案内看板を作成した。また、以前より要望があった繁体字を追加した5言語（日・英・中（簡・繁）・韓）表記とした。

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和2年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
元年度計（台）：	334,164台	元年度計（台）：	50,191台	元年度計（台）：	67,512台	元年度計（台）：	69,176台
・特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」（31.4.2～4.29）	7,977台	・時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」（日、英、中、韓）	7,298台	・特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展　―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」	16,003台	・特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	6,587台
・特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」（31.4.1～6.2）	107,598台	うち日本語版	5,717台	うち日本語版	14,633台	うち日本語版	6,433台
特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 ―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―」	14,871台	うち英語版	312台	うち英語版	157台	うち英語版	39台
特別展「三国志」	91,321台	うち中国語版	1,204台	うち中国語版	1,191台	うち中国語版	90台
御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」	82,352台	うち韓国語版	65台	うち韓国語版	22台	うち韓国語版	25台
特別展「人、神、自然－ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界－」	－	・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」（日、英、中、韓）	27,385台	・「御即位記念　第71回正倉院展」	43,746台	・特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」	17,624台
日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	30,045台	うち日本語版	25,637台	うち日本語版・一般向け	40,243台	うち日本語版	17,362台
		うち英語版	433台	うち日本語版・子供向け（東大寺博士版）	1,217台	うち英語版	83台
		うち中国語版	1,267台	うち英語版・一般向け	224台	うち中国語版	150台
（参考） 30年度ダウンロード件数		うち韓国語版	48台	うち中国語版・一般向け	2,020台	うち韓国語版	29台
・「トーハクなび」		名品ギャラリー（平常展）	15,508台	うち韓国語版・一般向け	42台	・日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」	29,536台
Android版	4,080件	うち日本語版	6,463台	・特別展「毘沙門天　―北方鎮護のカミ―」	1,921台	うち日本語版	24,840台
iOS版	12,953件	うち英語版	877台	うち日本語版	1,838台	うち英語版	133台
アプリ端末貸出（日英）	12,307件	うち中国語版	8,011台	うち英語版	21台	うち中国語版	348台
音声ガイド貸出（中韓）	18,655件	うち韓国語版	157台	うち中国語版	62台	うち韓国語版	41台
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	0件			うち韓国語版	0台	うちコーエー版	4,174台
				・なら仏像館名品展	5,842台	・特別展「ルネユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	6,239台
				うち日本語版	2,687台	うち日本語版	6,179台
				うち英語版	490台	うち英語版	24台
				うち中国語版	2,634台	うち中国語版	24台
				うち韓国語版	31台	うち韓国語版	12台
						・文化交流展示	9,190台
						うち日本語版	1,796台
						うち英語版	2,447台
						うち中国語版	3,197台
						うち韓国語版	1,750台

1-(2)-③-5 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

令和2年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
137件(外国語)	50件(外国語)	93件(外国語)	172件(外国語)
137件(日本語)	50件(日本語)	93件(日本語)	172件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計137件(外国語)/137件(日本語)
- ・総合文化展（特集を除く）　99件（外国語）／99件（日本語）　含国宝室
- ・特集　28件（外国語）／28件（日本語）
- ・黒田記念館　10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計50件(外国語)/ 50件(日本語)
- ・名品ギャラリー（特集展示等を除く）　31件（外国語）／31件（日本語）
- ・特集展示「新収品展」　1件（外国語）／ 1件（日本語）
- ・特集展示「赤ってじつはどんな色？」　1件（外国語）／ 1件（日本語）
- ・ICOM京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝」　13件（外国語）／13件（日本語）
- ・特集展示「子づくし―干支を愛でる―」　1件（外国語）／ 1件（日本語）
- ・特集展示「神像と獅子・狛犬」　1件（外国語）／ 1件（日本語）
- ・特集展示「京都御所障壁画　紫宸殿」　1件（外国語）／ 1件（日本語）
- ・特集展示「雛まつりと人形」　1件（外国語）／ 1件（日本語）

※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計93件(外国語)/93件(日本語)
- ・名品展（珠玉の仏たち）　7件（外国語）／ 7件（日本語）*1,*2
- ・名品展（珠玉の仏教美術）　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
- ・名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
- ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」　11件（外国語）／11件（日本語）*2
- ・特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」　1件（外国語）／ 1件（日本語）*2
- ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　5件（外国語）／ 5件（日本語）*2
- ・特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板 ―文化財写真の軌跡―」　8件（外国語）／ 8件（日本語）*2
- ・特集展示「新たに修理された文化財」　9件（外国語）／ 9件（日本語）*2(一部)
- ・特別陳列「お水取り」　3件（外国語）／ 3件（日本語）*2
- ・模型展示「仏像の手の形（印相）」　9件（外国語）／ 9件（日本語）
- ・模型展示「仏像の制作過程」　14件（外国語）／14件（日本語）
- ・パネル展示「奈良国立博物館の概要」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
- ・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
- ・パネル展示「仏像の見方」　4件（外国語）／4件（日本語）*3

*1 28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供。29年10月より日本語音声ガイドを追加提供した。
*2 日・英・中・韓の4言語を併記
*3 日・英・仏・中・韓の5言語を併記

【九州国立博物館】計 172 件(外国語)/ 172 件(日本語)
- ・文化交流展示（特集展示を除く）　131 件(外国語)/131 件(日本語)
- ・文化交流展示　特集展示等　41 件(外国語)/ 41 件(日本語)
  - うち「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」　7 件(外国語)/ 7 件(日本語)
  - 「住友財団修復助成 30 年記念　文化財よ、永遠に」　5 件(外国語)/ 5 件(日本語)
  - 「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」　4 件(外国語)/ 4 件(日本語)
  - 「縄文王国やまなし」　12 件(外国語)/ 12 件(日本語)
  - 「新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」　7 件(外国語)/ 7 件(日本語)
  - 「刀剣ことはじめ ー刀剣ワールド財団と九博の名刀ー」　6 件(外国語)/ 6 件(日本語)
- ・4 言語（日・英・中・韓）音声ガイドを提供した。

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和2年3月31日現在

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	146回	160回	125回	93回	97回
講演会等　参加者数	18,080人	21,453人	21,692人	12,206人	11,691人
①講演会	23回	32回	26回	23回	20回
	6,023人	9,153人	6,999人	6,249人	6,051人
アンケート結果	89.00%	88.00%	88.09%	86.16%	84.89%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	12回	10回
	2,369人	2,793人	2,716人	2,822人	2,630人
アンケート結果	94.00%	88.80%	89.57%	89.57%	84.75%
・記念講演会	9回	14回	7回	7回	7回
	3,005人	5,048人	2,589人	2,189人	2,591人
アンケート結果	93.00%	93.00%	84.45%	85.24%	84.19%
・シンポジウム	1回	2回(3日)	3回	1回	2回
	284人	579人	920人	250人	575人
アンケート結果	1	ー	83%	ー	ー
・テーマ別講演会	1回	1回	0回	3回	1回
	365人	210人	0人	988人	255人
アンケート結果	86.00%	94.00%	ー	84.20%	93.46%
・その他講演会	0回	3回	4回	0回	0回
	0人	523人	774人	0人	0人
アンケート結果	0.00%	92.00%	ー	ー	ー
②列品解説（ギャラリートーク等）	120回	125回	96回	64回	71回
	11,669人	11,123人	14,026人	5,108人	4,791人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	352人	947人	551人	728人	645人
アンケート結果	97.00%	96.80%	89.00%	88.50%	92.93%
④公開講座	2回	2回	2回	5回	5回
	36人	230人	116人	121人	204人
アンケート結果	98.00%	100.00%	96.49%	100.00%	100.00%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	39回	45回	32回	37回	28回
講演会等　参加者数	4,845人	5,132人	4,014人	4,357人	3,285人
①土曜講座	32回	38回	22回	19回	13回
	3,721人	4,123人	2,433人	1,969人	1211人
アンケート結果	83%	82%	83%	80%	85%
②記念講演会	1回	1回	4回	12回	9回
	200人	190人	800人	1,884人	1,465人
アンケート結果	-	ー	86%	80%	81%
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	206人	210人	212人	198人	201人
アンケート結果	80%	94%	90%	90%	78%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	91人	69人	49人	39人	50人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	4回	4回	4回	3回
	627人	540人	520人	267人	358人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	28 回	26回	26回	27回	25回
講演会等　参加者数	3,974人	3,518人	3,437人	3,569人	3,261人
①特別展等講座	15回	13回	13回	14回	13回
	2,123人	1,972人	2,141人	1,853人	1,838人
アンケート結果	79%	87%	91%	88%	92%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	609人	555人	525人	478人	386人
アンケート結果	95%	89%	91%	95%	94%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	11回
	1,242人	991人	771人	1，238人	1,037人
アンケート結果	85%	88%	87%	88%	92%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	87回	77回	84回	80回	69回
講演会等　参加者数	6,212人	5,369人	6,024人	4,491人	4,862人
①特別展記念講演会	3回	3回	2回	2回	6回
	710人	675人	359人	150人	1,336人
アンケート結果	ー	ー	ー	ー	ー
②講演及びシンポジウム	38回	25回	26回	16回	16回
	4,096人	3,293人	3,521人	2,166人	2,033人
アンケート結果	ー	-			ー
③ミュージアムトーク	46回	49回	56回	62回	47回
	1,406人	1,401人	2,144人	2,175人	1,493人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	48校	52校	53校	56校	60校
京都国立博物館	29校	27校	29校	32校	32校
奈良国立博物館	27校	25校	27校	28校	27校
九州国立博物館	25校	25校	25校	23校	23校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**97回**	**回数計**	**28回**	**回数計**	**25回**	**回数計**	**69回**
	参加者計	**11,691人**	**参加者計**	**3,285人**	**参加者計**	**3,261人**	**参加者計**	**4,862人**
	講演会	20回 6,051人	土曜講座	13回 1,211人	特別展等講座	15回 1,838人	特別展記念講演会	6回 1,336人
	列品解説（ギャラリートーク等）	71回 4,791人	記念講演会	9回 1,465人	夏季講座	1回 386人	講演及びシンポジウム	16回 2,033人
	連続講座（2日間）	1回 645人	夏期講座（2日間）	1回 201人	サンデートーク	11回 1,037人	ミュージアムトーク	47回 1,493人
	公開講座	5回 204人	社会科教員のための向上講座	1回 50人				
			セミナー・シンポジウム等	3回 358人				
	その他展示に関連するイベント	52回 12,604人	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	15回 1,073人	その他展示に関連するイベント	31回 14,615人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1） 講演会　　20回　　6,051人

①月例講演会

10回　　2,630人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
1	4月6日	国宝「花下遊楽図屏風」を読み解く	高橋真作（絵画・彫刻室研究員）	324人	87.59%
2	5月25日	密教の仏たち	西木政統（貸与特別観覧室研究員）	392人	87.18%
3	6月22日	日本のよろい	佐藤寛介（工芸室研究員）	250人	93.75%
4	7月20日	東洋館で「三国志の時代」を考える	谷豊信（特任研究員）	379人	89.54%
5	8月24日	文殊菩薩と春日若宮の美術	増田政史（絵画・彫刻室研究員）	313人	79.14%
6	9月28日	アジア美術に見える愛の表現	勝木言一郎（東洋室長）	218人	84.80%
7	10月5日	焼き締め茶陶の美	横山梓（保存修復室研究員）	174人	82.80%
8	11月30日	江戸時代の美術に見る東西交流	鷲頭桂（絵画・彫刻室主任研究員）	193人	77.64%
9	12月14日	日本における中国書画の愛好	六人部克典（登録室研究員）	156人	60.50%
10	1月11日	能面の造形と魅力	川岸瀬里（教育普及室研究員）	231人	89.57%

※11、12は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

11	2月22日	東アジアの宮廷文化	猪熊兼樹（特別展室長）	0人	0.00%
12	3月7日	装飾古墳の人類史	河野一隆（調査研究課長）	0人	0.00%

②記念講演会

7回　　2,591人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
1	4月27日	東寺の歴史と真言密教の至宝	新見康子（東寺 文化財保護課長）	372人	86.75%
2	5月11日	東寺と仏像曼荼羅	丸山士郎（広報室長）	380人	78.89%
3	7月13日	リアル三国志の世界	市元塁（東洋室主任研究員）	353人	81.52%
4	7月27日	三国志から見た邪馬台国	渡邉義浩（早稲田大学理事・文学部教授、大隈記念早稲田佐賀学園理事長）	384人	89.47%
5	10月20日	正倉院をまもる	西川明彦（宮内庁正倉院事務所長）	364人	91.94%
6	11月17日	正倉院宝物研究の最前線	猪熊兼樹（特別展室長） 三田覚之（工芸室研究員）	347人	88.20%
7	1月18日	古代の出雲と大和－「日本書紀」成立1300年	佐藤信（東京大学名誉教授）	391人	73.37%

※8、9は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

8	3月21日	法隆寺金堂壁画と写した人々	瀬谷愛（保存修復室長）	0人	0.00%
9	3月28日	百済観音の世界	三田覚之（工芸室研究員）	0人	0.00%

③シンポジウム

2回　　575人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
1	10月19日	文化財よ、永遠に―文化財修理の最前線	司会・MC：今津節生（奈良大学文学部文化財学科教授） 講師：三輪嘉六（前九州国立博物館館長）、根立研介（京都大学文学研究科教授）、有賀祥隆（東京藝術大学客員教授）、陰山修（公益財団法人美術院所長）、半田昌規（株式会社半田九清堂代表取締役社長）、小松大秀（公益財団法人永青文庫館長）、室瀬和美（漆芸家・重要無形文化財保持者）、ウエダ・ターニャ（ボストン美術館修復士）	261人	92.92%
2	2月1日	国際シンポジウム　展示室で語る「日本美術」		314人	－

④テーマ別講演会

1回　　255人

	実施日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
1	2月8日	連携講演会「文徴明とその時代」	鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）、富田淳（学芸企画部長）	255人	93.46%

⑤その他講演会

0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　71回　　4,791人

①ギャラリートーク

32回　　3,038人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
1	4月2日	絵画に咲く桜	大橋美織（絵画・彫刻室研究員）	90人
2	4月16日	特集「平成31年 新指定国宝・重要文化財」への招待（書跡）	藤田励夫（文化庁　主任文化財調査官）	62人
3	4月19日	建安21年の神獣鏡	市元塁（東洋室主任研究員）	79人
4	4月23日	特集「平成31年 新指定国宝・重要文化財」への招待（彫刻）	奥健夫（文化庁　主任文化財調査官）	210人
5	4月26日	特集「平成31年 新指定国宝・重要文化財」への招待（絵画・工芸）	綿田稔（文化庁　文化財調査官） 伊東哲夫（文化庁　文化財調査官）	66人
6	5月18日(2回)	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	阿部楓子（教育講座室アソシエイトフェロー）	114人
7	5月28日	顔壺に込められた弥生人の願い	井上洋一（副館長）	159人
8	5月31日	装飾古墳鑑賞入門	河野一隆（調査研究課長）	169人
9	6月18日	奈良・長谷寺の難陀龍王立像	浅見龍介（企画課長）	240人
10	6月28日	レンズの向こうの博物館	酒井晶（情報管理室アソシエイトフェロー）	58人
11	7月2日	当館所蔵の沖縄のやきもの	三笠景子（特別展室主任研究員）	113人
12	7月23日	邪馬台国時代の土器	山本亮（特別展室研究員）	121人
13	8月4日	日本のよろいのお話	酒井元樹（教育普及室主任研究員）	52人
14	8月4日	日本の文字のお話	丸山猶計（登録室長）	55人
15	8月4日	土にうめられたたからもののお話	伊藤信二（博物館教育課長）	45人
16	8月6日	日本のよろい！	酒井元樹（教育普及室主任研究員）	88人
17	8月9日	アイヌの暮らし	飯田茂雄（考古室研究員）	91人
18	8月20日	縄文土器の大きさ	井出浩正（教育講座室長）	102人
19	9月3日	信玄の弟・武田逍遥軒とその作品	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）	73人
20	10月29日	平家納経（模本）の世界	恵美千鶴子（百五十年史編纂室長）	106人
21	11月1日	国宝「聖徳太子絵伝」－微笑みの太子に出会う－	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）、高木結美（文化財活用センター企画担当専門職）	160人
22	11月3日	「中国绘画主题与日本禅僧的生活空间」中国の画題と日本の禅宗寺院	武瀟瀟（国際交流室アソシエイトフェロー）	32人
23	11月3日	「Journey through the Floating World」浮世の旅	フランク・ウィットカム（国際交流室アソシエイトフェロー）	55人
24	11月19日	木で造られた日本の彫刻の保存と修理	野中昭美（保存修復室研究員）	120人
25	11月26日	ボランティア活動を始める前に、知っておきたいこと	鈴木みどり（ボランティア室長）	17人
26	12月3日	正倉院の幡	澤田むつ代（客員研究員）	76人
27	1月21日	大黒天と鼠	河野正訓（考古室研究員）	130人
28	1月28日	狩野永敬『十二ヶ月花鳥図屏風』	遠藤楽子（百五十年史編纂室主任研究員）	77人
29	1月31日	旧石器の狩猟具	飯田茂雄（考古室研究員）	82人
30	2月4日	文徴明と明時代の書画	六人部克典（登録室研究員）	121人
31	2月18日	帝室技芸員 三代清風与平	今井敦（博物館情報課長）	75人

※32、33、34、35は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

32	2月28日	江戸の書にみる人情	丸山猶計（登録室長）	0人
33	3月17日	器に咲く桜	今井敦（博物館情報課長）	0人
34	3月24日	仏教絵画に描かれた桜	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）	0人
35	3月31日	博物館でお花見を　鑑賞ガイド	阿部楓子（教育講座室アソシエイトフェロー）	0人

②特別展関連ギャラリートーク

2回　　345人

	開催日	テーマ・講師等	講師等	参加者数
1	11月12日	古代オリエントの工芸品	小野塚拓造（平常展調整室研究員）	244人
2	12月10日	古代世界の工芸品の細部に迫る	小野塚拓造（平常展調整室研究員）	101人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

37回　　1,408人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
1	12月5日、1月24日、2月13日、2月18日、2月20日	5回	ヴィンツェンツォ・ラグーザの『日本の婦人像』	小梨貞子	101人
2	1月7日、1月8日、1月16日、1月21日、1月30日、2月2日	6回	雪村の「鷹山水図屏風」の画面構成について	笹尾梨良	248人
3	1月9日、1月11日、1月25日、2月4日、2月8日、2月12日	6回	宝慶寺石仏龕のかたちとその意味	中西希	364人
4	1月12日、1月18日、1月22日、1月23日、1月28日、1月29日	6回	「雪中群鶏」にみる渡辺省亭の洋風表現	榎本佳	206人
5	1月15日、1月19日、1月26日、2月1日、2月6日、2月9日	6回	「十二ヶ月花鳥図屏風」の魅力	内田夏帆	223人
6	1月17日	1回	青木繁が描きだした神話画「日本武尊」	柯輝煌	40人
7	1月31日、2月5日、2月21日	3回	「子日蒔絵棚」にみる光悦の意匠	泉山真悠	83人
8	2月14日、2月16日、2月19日、2月23日	4回	宮川香山と明治の「日本」	橋詰果歩	143人

3)　連続講座　　2日間（計1回）　　1回　　645人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	"良い"の割合
1	1月24日～25日	連続講座「出雲と大和」 第1講「弥生絵画を鑑賞する―近畿と山陰地方の弥生絵画の比較を通して―」講師：橋本裕行（奈良県立橿原考古学研究所 企画部企画課長） 第2講「最新技術で眺める大和の古墳」講師：西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所 技術アドバイザー） 第3講「仏教の伝来と仏像の造像」講師：皿井舞（平常展調整室長） 第4講「古代出雲における青銅器の特質」講師：増田浩太（島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員） 第5講「日本海文化としての出雲の古墳時代―考古学から見た地域王国論―」講師：河野一隆（調査研究課長） 第6講「出雲大社巨大本殿と古代出雲世界」講師：松尾充晶（島根県立古代出雲歴史博物館）	645人	92.93%

4)　公開講座　　5回　　204人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
1	8月26日～27日 8月29日～30日	教育連携事業「博物館学講座」 8月26日　「東京国立博物館について・課題説明」教育講座室 「博物館の来館者対応」　武田卓（総務課来館者支援担当） 「博物館の展示デザイン」　矢野賀一（デザイン室長） 「博物館教育論」　藤田千織（教育普及室長） 8月27日　「展示見学・『課題』取り組み」　教育講座室 「文化財の撮影」　藤瀬雄輔（登録室）、西川夏永（登録室） 「博物館の出版」　松尾美貴（出版企画室長） 「博物館の広報」　小島佳（広報室） 「『課題』取り組み」　教育講座室、木下史青（上席研究員） 8月29日　「博物館の文化財をとりまく各種事務」丸山猶計（登録室長） 「博物館の保存と修理」　荒木臣紀（調査分析室長） 「絵画作品について」　沖松健次郎（絵画・彫刻室長） 「実習　作品の取り扱い・展示」　絵画・彫刻室、教育講座室 「『課題』取り組み」　教育講座室、木下史青（上席研究員） 8月30日　「博物館の調査研究」　河野一隆（調査研究課長） 「博物館のボランティア活動」　鈴木みどり（ボランティア室長） 「『課題』取り組み」　教育講座室、木下史青（上席研究員） 「発表・質疑応答・『課題』講評」　教育講座室、木下史青（上席研究員）	38人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	8月28日	教育連携事業「博物館セミナー」 「博物館の運営」　竹之内勝典（総務課長） 「総合文化展の仕組み」　皿井舞（平常展調整室長） 「特別展の仕組み」　猪熊兼樹（特別展室長） 「博物館の情報アーカイブと活用」田良島哲（特任研究員） 「博物館の教育普及活動」　伊藤信二（博物館教育課長） 「博物館の国際交流」　楊鋭（国際交流室長） 「博物館の文化財活用」　小林牧（文化財活用センター副センター長）	166人	平成館大講堂

5)　その他展示に関連する事業　　52回　　12,064人

	実施日	内容	会場	参加者数
1	4月10日（2回） 4月17日（2回）	記念公演「真言声明 ―東寺の音と共に―」 出演：東寺真言宗　僧侶	平成館大講堂	1,505人
2	5月12日	国際博物館の日記念ツアー「上野の山で動物めぐり～ツノのある動物～」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	38人
3	9月10日	博物館でアジアの旅　スペシャルツアー 「愛を探す旅－添乗員はトーハク研究員－『工芸に表現された愛』」 添乗員：猪熊兼樹（特別展室長）、小野塚拓造（平常展調整室研究員）、三笠景子（特別転室主任研究員）	東洋館ミュージアムシアター、東洋館3室、東洋館10室	195人
4	9月20日（2回） 9月21日（2回）	博物館でアジアの旅　インドネシアの伝統芸能「ジャワの影絵芝居 ワヤン･クリ」出演：スミリール	表慶館1階	366人
5	9月28日（3回）	博物館でアジアの旅　マットでリラックスヨガ in 表慶館 講師：渡辺美保	表慶館1階	50人

6	10月4日（3回）	博物館でアジアの旅　気軽に椅子ヨガ in 東洋館 講師：渡辺美保	東洋館1室	63人
7	10月8日	博物館でアジアの旅　スペシャルツアー 「愛を探す旅－添乗員はトーハク研究員－『絵画に表現された愛』」 添乗員：勝木言一郎（東洋室長）、植松瑞希（出版企画室研究員）、市元塁（東洋室主任研究員）	東洋館ミュージアムシアター、東洋館8室、東洋館5室	204人
9	7月17日～9月1日（15回）	日本文化との出会い　よろい体験	本館特別4室	365人
10	10月8日～10月20日（11回）	日本文化との出会い　書体験	本館2階ラウンジ	1,466人
11	11月3日	日本文化との出会い　留学生のためのきもの体験	本館地下みどりのライオン	40人
12	11月24日	おとなのためのワークショップ「屏風体験！」	応挙館	21人
13	12月14日	おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下みどりのライオン	13人
14	1月2日、3日（2回）	博物館で初もうで「2020鼠草紙すごろく」カレンダー/ワークシート配布	本館2階便殿前	6,900人
15	1月15日（2回）	記念公演「雅楽・石見神楽」 出演：おやさと雅楽会、江津市石見神楽連絡協議会	平成館大講堂	741人
16	1月25日　（2回）	日本文化との出会い　浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオン	97人

※17～19は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

17	2月29日	おとなワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下みどりのライオン	0人
18	3月27日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」	本館地下みどりのライオン、X線CT室、実験室、修理室2、修理室3、平成館企画展示室	0人
19	3月29日　（2回）	日本文化との出会い　浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオン	0人

【京都国立博物館】

1)　土曜講座　　13回　　1,211人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	7月6日	重要文化財　太刀　銘 国吉（号 小夜左庵国吉）について―鎌倉時代前期の山城鍛冶再考―	主任研究員　末兼俊彦	125人
2	7月13日	赤ってじつはどんな色？	研究員　安部真里奈	116人
3	7月20日	鳥取・兵庫の原始・古代文化―山陰と山陽の交流点―	主任研究員　古谷毅	53人
4	8月3日	海を渡った扇―橋本雅邦最後の大仕事―	研究員　福士雄也	75人
5	8月24日	寄託制度と博物館	主任研究員　呉孟晋	133人
6	9月14日	モノから聞こえる物語―「唐鏡」はどこから来たのか―	教育室長　永島明子	122人
7	1月11日	三十三間堂の仏像	連携協力室長　淺湫毅	122人
8	1月18日	動物埴輪はなぜ造られたか―動物と古墳時代の人々―	主任研究員　古谷毅	69人
9	1月25日	江戸時代後期、御所造営にともなう賢聖障子の製作過程	帝京大学准教授　鎌田純子	84人
10	2月1日	おそるべきねずみたち	教育室長　永島明子	104人
11	2月8日	京都国立博物館の過去・現在・未来　Ⅱ	館長　佐々木丞平	110人
12	2月15日	近世陶磁器の彩色材料	保存科学室長　降幡順子	44人
13	2月22日	近世の画家のスケッチ	研究員　福士雄也	54人

※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため、2年2月29日、3月7日、3月14日、3月21日の土曜講座は中止。

2)　記念講演会　　9回　　1,465人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月13日	時宗教団の変遷	大正大学専任講師　長澤昌幸	115人
2	4月27日	一遍・真教の念仏思想	時宗教学研究所　顧問（兼真光寺　住職） 長島尚道	121人
3	5月11日	国宝 一遍聖絵―旅と風景、その魅力と謎―	研究員　井並林太郎	171人
4	5月18日	時宗のみほとけ―阿弥陀と祖師像を中心に―	連携協力室長　淺湫毅	110人
5	5月25日	一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰	遊行寺宝物館　館長　遠山元浩	190人
6	10月13日	冷泉家の歴史と文化 －冷泉流歌道をめぐって－	冷泉家時雨亭文庫 理事長（兼京都美術工芸大学　学長）　冷泉為人	168人
7	10月19日	歌仙絵の成立と展開―佐竹本への道のり―	東京国立博物館　主任研究員　土屋貴裕	190人
8	11月2日	歌仙絵の最高峰―佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒―	研究員　井並林太郎	200人

9	11月16日	佐竹本三十六歌仙絵への想い	研究員　降矢哲男	200人

3)　夏期講座　　1回　　201人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月26日	第1講 木のほとけ	連携協力室長　淺湫毅	201人
		第2講 オランダの風土と絵画 ―平坦な大地と光の魅力―	京都市芸術大学　准教授　深谷訓子	
		第3講 巡礼・遊行・観光	学芸部長　朝賀浩	
	7月27日	第1講 中世寺社境内の風景 ―絵画・縁起絵・参詣遊楽図―	大和文華館　学芸部長　泉万里	
		第2講 仏典にみる自然 ―蝶と鳥の意味するもの―	研究員　上杉智英	
		第3講 モネの庭と日本人の自然観	京都産業大学　准教授　エマニュエル マレス	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　50人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月20日	講義「特別企画＜京博寄託の名宝＞鑑賞ポイント」	主任研究員　呉孟晋	50人

5)　ギャラリートーク・シンポジウム等　3回　　358人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	4月20日	研究発表と座談会　「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」	京都国立博物館企画室研究員 井並林太郎 他	121人
2	8月4日（2回実施）	特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリー・トーク	研究員　安部真里奈	54人
3	2月11日	ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム　日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会を振り返る-成果と課題-	国立民族学博物館長　吉田憲司　他	183人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

※新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、2年2月23日に予定していたICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会の成果を生かす-今後の博物館制度-」は中止となった。

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　13回　　1,838人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月20日	「藤田傳三郎と藤田美術館 伝統と未来」	藤田美術館館長　藤田清	190人
2	5月11日	「国宝 曜変天目茶碗の謎にせまる」	大阪市立東洋陶磁美術館 学芸課長代理　小林仁	194人
3	5月25日	「藤田美術館の仏教美術コレクション」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	127人
4	7月27日	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」	学芸部主任研究員　中川あや	88人
5	8月24日	「近代を旅した仏たち―奈良ゆかりの仏像を中心に―」	学芸部主任研究員　山口隆介	146人
6	11月2日	「正倉院に伝わる作り物をめぐって―仮山残欠を中心に―」	学芸部工芸考古室長　清水健	141人
7	11月3日	「即位と正倉院宝物」 ①「正倉院宝物と御即位関係品」 ②「赤漆文欟木御厨子をめぐって」 ③「宮廷と正倉院宝物―唐文化との関わり―」 ④パネルディスカッション	①元宮内庁正倉院事務所長　米田雄介 ②宮内庁正倉院事務所主任研究官　佐々田悠 ③奈良国立博物館長　松本伸之 ④米田雄介、佐々田悠、松本伸之、 学芸部長　内藤栄	214人
8	11月4日	「遺愛とその輝き」	高志の国文学館館長　中西進	155人
9	11月9日	「正倉院の風鐸―金銅鏡鐸について―」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室員　細川晋太郎	117人
10	12月21日	「春日大社にまつわる絵師たち」	学芸部主任研究員　北澤菜月	33人
11	1月11日	「文化財写真の軌跡―150年のあゆみ―」	学芸部資料室長　宮崎幹子	114人
12	2月11日	「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」	東大寺長老　北河原公敬	125人
13	2月15日	「毘沙門天の源流を探る―インドからガンダーラ・西域へ―」	名古屋大学／龍谷大学 名誉教授　宮治昭	194人
14	2月29日	「唐宋時代の毘沙門天像―王朝の守護神―」	奈良女子大学文学部准教授　佐藤有希子	臨時休館のため開催せず

15	3月14日	「日本における毘沙門天像の展開」	学芸部上席研究員　岩田茂樹	臨時休館のため開催せず

2)　夏季講座　第48回「仏教美術にみる動物のすがた」

1回　　386人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月21日	「原始・古代の祈りと動物造形」	学芸部主任研究員　中川あや	386人
		「正倉院宝物とシルクロードの動物意匠」	学芸部列品室長　吉澤悟	
		「八部衆像にみられる動物表現」	金沢美術工芸大学准教授　水野さや	
	8月22日	「十二支と美術」	早稲田大学文学学術院教授　川瀬由照	
		「師子と狛犬」	和歌山県立博物館長　伊東史朗	
		「涅槃図と動物たち―仏画の中の掟破り―」	京都国立博物館保存修理指導室長　大原嘉豊	
	8月23日	「密教図像の動物たち」	大和文華館学芸員　古川攝一	
		「神使の信仰と造形」	学芸部工芸考古室長　清水健	

3)　サンデートーク　　11回　　1,037人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月21日	「仏像の『かざり』をめぐって」	学芸部研究員　三本周作	129人
2	5月19日	「古代寺院の堂内荘厳」	学芸部アソシエイトフェロー　萩谷みどり	123人
3	6月16日	「古神宝の世界」	学芸部工芸考古室長　清水健	66人
4	7月21日	「再び、空海の舎利信仰の源流について―スリランカから東寺まで―」	学芸部長　内藤栄	139人
5	8月18日	「文化財を科学するⅥ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	89人
6	9月15日	「平安時代の寺社参詣」	学芸部主任研究員　斎木涼子	106人
7	10月13日	「第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	学芸部列品室長　吉澤悟	32人
8	11月24日	「東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐって―追憶の天平仏画」	学芸部教育室長　谷口耕生	64人
9	12月15日	「古写真と仏像研究」	学芸部主任研究員　山口隆介	113人
10	1月19日	「室町時代の“公務員”？－幕府官僚の実態に迫る」	学芸部アソシエイトフェロー　佐藤稜介	80人
11	2月16日	「鏡を楽しむ」	学芸部主任研究員　中川あや	96人
12	3月15日	「旧帝国奈良博物館本館と片山東熊―日本人建築家と日本近代建築の誕生―」	学芸部資料室長　宮崎幹子	臨時休館のため開催せず

4)　その他展示に関連するイベント　　15回　　1,073人

	実施日	内容	会場	参加者
1	5月5日	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」	地下回廊	31人
2	5月19日	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」	地下回廊	42人
3	5月26日	藤田美術展関連イベント「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」	会議室	27人
4	7月13日	いのりの世界のどうぶつえん関連イベント 奈良博＜－＞奈文研　シャトルバス運行	敷地内	267人
5	7月26日	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	50人
6	7月27日	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」	講堂	88人
7	8月17日	絵本づくりワークショップ 「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」	地下回廊	37人
8	10月26日～11月14日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	－
9	10月27日	正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	135人
10	12月18日～1月13日	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	－
11	1月9日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	148人
12	1月11日	奈良文化クラスター事業 春日大社、奈良国立博物館連携シンポジウム 「最古の刀－日本刀成立の謎に迫る」	館外	200人
13	2月4日～2月26日	毘沙門天関連展示 オンラインゲーム「なむあみだ仏っ！－蓮台UTENA－」のキャラクター等身大パネル展示	地下回廊	－
14	2月4日～2月26日	お水取り展　修二会お松明展示	展示室	－
15	2月8日	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	48人

16	3月4日	お水取り展鑑賞とお松明	講堂	臨時休館のため開催せず

【九州国立博物館】

善

1)特別展記念講演会　　6回　　1,336人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月27日	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」 「鎌倉彫刻の巨匠　運慶・快慶とその次世代の仏師たち」	東京国立博物館　皿井　舞	120人
2	5月25日	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」	千本釈迦堂大報恩寺住職 菊入諒如	160人
3	7月14日	特別展「室町将軍−戦乱と美の足利十五代−」 「室町将軍家の東アジア外交」	北海道大学准教授　橋本雄	202人
4	8月3日	特別展「室町将軍−戦乱と美の足利十五代−」 「室町将軍家の再評価」	国際日本文化研究センター助教　呉座勇一	301人
5	12月14日	特別展「三国志」記念特別講演会 「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」 「三国志の時代と卑弥呼の鏡」	河南省文物考古研究院第一研究室副主任 潘偉斌 九州大学大学院人文科学研究院准教授 辻田淳一郎	306人
6	2年2月9日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 記念講演会「フランス絵画の栄光ー古典主義からロマン主義まで」	美術評論家・美術史家、大原美術館館長 高階秀爾	247人

2)講演及びシンポジウム等　　16回　　2,033人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月6日	新元号記念特別企画「令和」関連特別講演会 「梅花の宴〜遠の朝廷の文華〜」 主催者挨拶 特別講演会「梅花の宴〜遠の朝廷の文華〜」 特別対談「曲水の宴と蘭亭序」 特別企画「令和」、万葉歌碑のご案内	館長　島谷弘幸 太宰府発見塾塾長　森 弘子 太宰府発見塾塾長森 弘子・館長　島谷弘幸 展示課研究員　小嶋 篤	120人
2	6月29日	九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座「更紗〜生命の花咲く布」『令和 』と旅人〜遠の朝廷　大宰府より〜」	展示課研究員　小嶋　篤	37人
3	7月20日	特別展「室町将軍−戦乱と美の足利十五代−」リレー講座 「足利十五代−ムロマチックな男たち−」 「名刀乱舞！足利将軍」	展示課主任研究員　一瀬　智 京都国立博物館主任研究員　末兼俊彦	230人
4	8月4日	2019全国高校全国高等学校歴史学フォーラム 「近代以降の紙幣の変遷とその背景を探る」 「鴨沂高校とその周辺から考える歴史〜モノから史料に〜」 「長崎県壱岐市大久保遺跡の研究〜縄文時代晩期貝殻粉混和土器に関する一考察〜」 「雑誌『ひだびと』で江馬修は何をめざしたのか」 「土器の文様について〜この線描けるかな〜」 「目には見えない、人々の「祈り」を明らかにする〜桐生市における文献調査とフィールドワーク〜」 「野馬土手〜相馬の「万里の長城」〜」	福岡県立糸島高等学校（歴史部） 京都府立鴨沂高等学校（京都文化コース） 長崎県立壱岐高等学校（東アジア歴史中国語コース） 岐阜県立関高等学校（地域研究部・文芸部） 奈良県立橿原高等学校（考古学研究部） 群馬県立桐生高等学校（地歴部） 福島県立相馬高等学校（郷土部）	300人
5	8月10日	アクロス・文化学び塾 「室町将軍15代の武と美」	展示課主任研究員　一瀬　智	76人
6	8月11日	華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストレーション	華道家元池坊次期家元　池坊專好	271人
7	8月12日	特別展「室町将軍−戦乱と美の足利十五代−」開催記念 シンポジウム　京都・等持院　歴代足利将軍像の謎に迫る 「等持院像の位置づけ」 「等持院像の調査報告」 「足利将軍の仏事について−等持院・等持寺を中心に−」 「室町将軍の身体観ー画像と彫像の比較分析ー」	京都大学　根津研介 展示課長　楠井隆志 立命館大学　大田壮一郎 東京大学　髙岸　輝	254人
8	8月31日	九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座「更紗〜生命の花咲く布」	学芸部文化財課長　原田あゆみ	18人
9	9月28日	特集展示「文化財よ、永遠に」講演会 「修理、果てしなき挑戦」 【開会挨拶】 「住友財団の助成について」 「住友財団の意義と歴史」 「修理の意義について―所蔵者の立場から―」 「梅林寺・楊柳観音菩薩像の修理について」 「百按司墓木棺の修理について」 「千光寺・千手観音立像の修理について」 【閉会挨拶】	館長 島谷弘幸 公益財団法人住友財団 蓑 康久 前九州国立博物館長 三輪嘉六 梅林寺老師 東海大玄 国宝修理装潢師連盟理事 藤井良昭 元興寺文化財研究所 雨森久晃 浦仏刻所 浦 叡學 学芸部長 小泉惠英	80人
10	10月6日	九博ふるさとセミナー 「令和 と共に歩む　第1弾」 講演「筑紫・大伴・大伴部」	展示課研究員　小嶋　篤	73人

11	10月20日	ここまで分かった“リアル三国志” －新発見の考古資料から読み解く－」	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	238人
12	11月9日、10日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会【対馬講演】 経典調査10年の歩み―対馬の宝を守るために―」 「中世日朝関係のなかの大蔵経―贈物としての経典」 「対馬のさまざまな版経 ―渡来の地・継承の地―」 「九州国立博物館展覧会「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の見どころ」	京都府立大学　横内裕人 東京大学史料編纂所　須田牧子 長崎県立対馬歴史民俗資料館　瓜生 翠 学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	40人
13	11月17日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会【九博講演】 「経典調査10年の歩み―対馬の宝を守るために―」 「宋元時代の大蔵経―対馬所在本を中心に―」 「対馬の版経の学術的意義―特に高麗の大蔵経を中心として―」 「中世日朝関係における大蔵経輸入」 「反響当然!?「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の魅力と楽しみ方」	京都府立大学　京都府立大学 京都大学人文科学研究所　梶浦 晋 佛教大学　馬場久幸 東京大学史料編纂所　須田牧子 学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	80人
14	11月19日	令和 元年度文化財防災ネットワーク推進事業セミナー 「不動産文化財と動産文化財の防災ー現状の課題と今後の連携に向けてー」 開会挨拶 【講演①】福岡県における歴史的建造物等の保護と防災への取り組み 【講演②】熊本地震における被災歴史的建造物復旧支援の取り組み―建築士会の活動を通じて― 【トークセッション】 司会 パネリスト 閉会挨拶	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健 福岡県教育庁文化財保護課 課長技術補佐　田上稔 （公社）熊本県建築士会まちづくり委員会委員長　山川満清 学芸部長　小泉惠英 熊本県教育庁文化課 主幹　豊田理絵 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長　高妻洋成 福岡県教育庁文化財保護課 課長技術補佐　田上稔 （公社）熊本県建築士会まちづくり委員会委員長　山川満清 学芸部博物館科学課長　木川りか	41人
15	11月30日	特集展示「縄文王国やまなし」関連講演会 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」 「山梨県の縄文世界」 「長野県の縄文世界」 「中部高地の黒曜石の世界」	山梨県韮崎市教育委員会　閏間俊明 長野県富士見町井戸尻考古館館長　小松隆史 長野県茅野市尖石縄文考古館学芸員　山科 哲	25人
16	2年1月18日	連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～ 」 各遺跡紹介「東の都・斎宮と斎王」 「西の都・大宰府」 基調報告「王権祭祀から律令祭祀へ」 報告1「考古資料からみた斎宮・伊勢神宮の成立」 報告2「考古資料からみた宗像君と沖ノ島祭祀」 シンポジウム コーディネーター	斎宮歴史博物館調査研究課　山中由紀子 九州歴史資料館文化財調査室　吉田東明 愛知教育大学名誉教授　西宮秀紀 斎宮歴史博物館調査研究課　宮原佑治 展示課研究員　小嶋　篤 九州歴史資料館学芸調査室　酒井芳司	150人
17	2年2月23日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム　「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」 基調講演「金銀装大刀と豪族」 「象嵌大刀と刀装具の世界」 「筑紫の豪族の馬装」 「九州北部の豪族と筑紫大宰」 パネルディスカッション 「筑紫の大宰と豪族」	島根県松江北高等学校　大谷晃二 展示課　小嶋　篤 古賀市教育委員会　西　幸子 九州歴史資料館　酒井芳司	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
18	2年3月8日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 講演会	エコール・ド・ルーヴル出身 小柳由紀子	同上
19	2年3月13日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 講演会	九州大学言語文化研究院准教授 倉片健作	同上
20	2年3月15日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 講演会	ソルボンヌ大学考古学博士 グザヴィエ・ミシェル田中	同上

3)　ミュージアムトーク　　47回 参加者総数　　1,493人

・担当研究員数　　延べ 37人　　※うち夜間開催分は 678人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月2日	埴輪の輪	展示課研究員　小嶋　篤	30人
2	4月13日	夜のミュージアム・トーク 速報！きゅーはくに入った東洋考古の宝物	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	8人
3	4月16日	長崎青貝細工と広東漆器	学芸部文化財課資料登録室長　川畑　憲子	25人

4	4月27日	夜のミュージアム・トーク 文化財たちのかいてきなお部屋	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子	20人
5	4月30日	海底に残る蒙古襲来の現場	交流課主任研究員　今井涼子	55人
6	5月11日	夜のミュージアム・トーク 石器作りの道具	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	20人
7	5月14日	「鎖国」の誕生	学芸部企画課特別展室研究員　松浦晃佑	20人
8	5月25日	夜のミュージアム・トーク 仏像のレプリカをさわってみよう！	展示課長　楠井隆志	25人
9	5月28日	手話と仏像	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤　信	75人
10	6月8日	夜のミュージアム・トーク 金の技にせまる！	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤　信	30人
11	6月11日	北へと広がる、弥生文化	学芸部企画課特別展室研修生　無津呂健太郎	30人
12	6月22日	夜のミュージアム・トーク 水面に丸木舟を浮かべて	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 小川香菜恵	15人
13	6月25日	お坊さんと水墨画	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑　靖紀	25人
14	7月2日	倭人、戈をつくる	展示課主任研究員　小澤佳憲	25人
15	7月13日	百済のレンガ　つくりかたとつかいかた	学芸部企画課長　白井克也	25人
16	7月17日	夜のミュージアム・トーク 海賊船を探せ！	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	25人
17	7月27日	夜のミュージアム・トーク 文化財を食べるムシ	学芸部博物館科学課長　木川りか	20人
18	7月30日	館蔵名品展「更紗　生命の花咲く布」 ～更紗でたどる東西交流史～	学芸部文化財課長　原田あゆみ	50人
19	8月10日	夜のミュージアム・トーク 仏像の手に秘められた物語	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤　信	25人
20	8月13日	重要文化財になった異色の辞令書	展示課主任研究員　一瀬　智	20人
21	8月24日	夜のミュージアム・トーク 木材の中にひそむ虫をさがす	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	30人
22	8月27日	18世紀、京の絵画がおもしろい	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	30人
23	9月3日	世界を旅した布、更紗	学芸部企画課アソシエイトフェロー 桑原有寿子	30人
24	9月14日	夜のミュージアム・トーク 文化財長もちのひみつ	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 大橋有佳	25人
25	9月18日	よみがえった文化財	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子	30人
26	9月28日	夜のミュージアム・トーク 手話通訳付きミュージアムトーク	学芸部文化財課長　原田あゆみ 学芸部企画課アソシエイトフェロー	80人
27	10月1日	三国志の時代の武器と馬具	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	30人
28	10月12日	夜のミュージアム・トーク 文化財のお医者さん	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子	25人
29	10月16日	三国志の時代の武器と馬具	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	35人
30	10月26日	夜のミュージアム・トーク なんで？どうして？土偶のなぞ	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 小川香菜恵	25人
31	10月29日	プレミアムミュージアムトーク 縄文王国やまなし	釈迦堂遺跡博物館学芸員　一瀬一浩	50人
32	11月9日	夜のミュージアム・トーク 縄文土器の作り方	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	50人
33	11月12日	北斎の日新除魔図	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	20人
34	11月23日	夜のミュージアム・トーク 遣唐使船が運んだもの	展示課主任研究員　齋部麻矢	25人
35	11月26日	描かれた異国の人びと	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑　靖紀	20人
36	11月30日	夜のミュージアム・トーク プレミアムミュージアムトーク 大切なお経を未来に伝えるために	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑 修理工房宰匠株式会社 代表取締役 藤井良昭	25人
37	12月3日	長崎の関帝信仰	展示課長　楠井隆志	35人
38	12月14日	夜のミュージアム・トーク 日本の人はお経コレクターだった!?	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	30人
39	12月17日	大宰大弐　平清盛と大内義隆	展示課主任研究員　一瀬　智	20人
40	1月11日	夜のミュージアム・トーク 刀剣ことはじめ	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史	70人
41	1月15日	国宝　初音の調度について	学芸部文化財課資料登録室長　川畑　憲子	60人
42	1月25日	夜のミュージアム・トーク 木材の中にひそむ虫をさがす　パート2	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	60人
43	1月28日	古墳時代への誘い	展示課研究員　小嶋　篤	20人
44	2月8日	夜のミュージアム・トーク 金属の色　いろいろ～古い鏡の不思議～	学芸部博物館科学科環境保全室主任研究員 秋山純子	25人
45	2月11日	棋聖戦開催記念　遣唐使・吉備真備と囲碁	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤　信	35人
46	2月22日	夜のミュージアム・トーク アジアのやきもの　時空の旅	展示課主任研究員　小澤佳憲	20人
47	2月26日	「はらのむし」誕生ヒストリー	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 樋笠逸人	20人
48	3月3日	「本物」の文化財とは？	学芸部博物館科学課長　木川りか	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
49	3月14日	夜のミュージアム・トーク ペンダントをつけたつぼ	学芸部企画課長　白井克也	同上
50	3月17日	文化交流展のたのしみかた	学芸部特任研究員　臺信祐爾	同上
51	3月28日	夜のミュージアム・トーク 考古学者のお道具箱	学芸部企画課研修生　無津呂健太郎	同上
52	3月31日	日本の中の小さな異国－出島と唐人屋敷－	交流課主任研究員　今井涼子	同上

4)　その他展示に関連するイベント

31回　　14,615人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）	備考
1	文化交流展	5月1日	新元号「令和」揮毫大会「元号を書いてみよう！」	エントランス	720人	
2		5月3日	きゅーはくで楽しく！ わく☆わくワークショップ 「令和」の古代文字フレームをつくろう！	研修室	80人	
3		5月4日、5日	「きゅーはく号」体験イベント 韓服を着てみよう！	屋外	—	
4		7月21日	トレジャーハンターみっちーとDr.ランディのきゅーはくディスカバリー 「タイムマシンにのって」	ミュージアムホール	110人	
5		8月6日～10月14日	びじゅチューン！きゅーはくなりきり美術館	文化交流展示室、他	—	
6		8月10日	特集展示「更紗　生命の花咲く布」関連イベント茜染めワークショップ	研修室	20人	
7		9月14日	修復の現場お見せします！特別公開『博物館科学・文化財保存修復施設』	バックヤード、修復施設等	53人	
8		9月25日	特集展示「更紗　生命の花咲く布」記念イベント ～インドの風～神秘の舞とシタール演奏	4階文化交流展示室および屋外、他	100人	
9		10月5日	ワークショップ「修理のヒミツにふれてみよう！」	研修室	25人	
10		11月30日～12月1日	特集展示「縄文王国やまなし」関連イベント 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」 【体験イベント】 ・黒曜石にさわってみよう ・縄文服を着てみよう ・縄文土器の拓本カードを作ろう	エントランス	475人	
11		12月1日	特集展示「縄文王国やまなし」関連イベント 映画「縄文にハマる人々」無料上映会＆トークイベント	ミュージアムホール	142人	
12		2年1月19日、2月9日	ワークショップ＆実演公開「刀剣を見て触れて体感してみよう！」 〈体験〉五寸釘でペーパーナイフ作成、鐔型チャームへの銀象嵌体験、刀剣の研磨体験、刀の重さ体験 〈実演公開〉研磨実演、象嵌実演など	研修室	338人	
13		2年2月4日～2月9日	「刀剣ことはじめ」関連ブース 菊池氏発祥950年 第4回菊池一族と延寿鍛冶展～日本の名刀展～PRブース	エントランス	—	
14		2年3月7日	きゅーはく女子考古部presents 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	新型コロナウイルス感染予防拡散防止のため閉館により中止	
15	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	4/23～5/6	グッズ1000円以上お買い上げの方限定 「六観音しおり」プレゼント	グッズショップ	—	
16		4/26～6/15までの金曜日・土曜日（16日間）	プレゼント企画　夜間開館×特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」梅が枝餅引換券プレゼント！	展示室入口	1,684人	
17		5月26日	都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念 第14回さいふごま大会	ミュージアムホール	40人	
18	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」	7月13日	おっきいこんのすけ撮影会	エントランスホール	—	
19		7月13日～9月1日	刀剣男士・大般若長光の等身大パネル設置	エントランスホール	—	
20		7/13～8/31までの金曜日・土曜日および7/24、7/25（17日間）	プレゼント企画　夜間開館×特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」梅が枝餅引換券プレゼント！	展示室入口	2,935人	
21		7月15日	九州国立博物館杯 特別展「室町将軍」記念 第15回さいふごま大会	ミュージアムホール	50人	
22		7月19日、8月7日	実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	10人	
23		8月1日、28日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	25人	

24	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	9月22日	九州国立博物館特別展「三国志」開催記念 第6回ミュージカル寄席 ミュージカル落語「三国志」	ミュージアムホール	256人	
25		10/4～12/21までの金曜日・土曜日および1/3、1/4（26日間）	【プレゼント企画】夜間開館×特別展「三国志」梅ヶ枝餅引換券＆カプセルトイ引換券をプレゼント！	展示室入口	4,614人	
26		10月14日	井上涼　なりきり美術館＆三国志コンサート	ミュージアムホール	581人	
27		10月27日	九州国立博物館杯 日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念 第16回さいふごま大会	ミュージアムホール	80人	
28		11月22日、12月14日	特別展「三国志」夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム　英雄(ヒーロー)現る‼～もしも、卑弥呼の使者が曹操に出会ったら～」【手話通訳付き！】	特別展示室	700人	
29		11月23日	日中文化交流協定締結４０周年記念　特別展「三国志」関連イベント「夜な夜な三国志」 「夜な夜な大合戦」 「夜なべでＭＹ缶バッジ」 「今夜だけは。。。プレミアム生ガイド#呉」 「孔明の危機？！三国志的イルミネーション」 「来場者プレゼント」	ミュージアムホール、エントランス、屋外、特別展示室入口、等	400人	
30		12月5日、12月11日	視覚に障害をお持ちの方に向けた 特別展「三国志」観覧ツアー	特別展示室	30人	
31	特別展「フランス絵画の精華」　ルネ・ユイグのまなざし　大様式の形成と変容	2年2月7日～2月22日までの金曜・土曜日（6日間）	プレゼント企画 夜間開館×特別展「フランス絵画の精華」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展示室入口	1,147人	
32		2年2月22日	古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひととき	ミュージアムホール	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
33		2年3月1日	特別展「フランス絵画の精華」記念　第17回さいふごま大会	ミュージアムホール	同上	
34		2年3月3日～15日	フランス・スタンド	エントランス	同上	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**876回**	**回数計**	**447回**	**回数計**	**68回**	**回数計**	**2,053回**
	参加者計	**367,301人**	**参加者計**	**95,957人**	**参加者計**	**2,531人**	**参加者計**	**13,909人**
	体験型プログラム等	671回 360,572人	体験型プログラム等	429回 94,743人	体験型プログラム等	33回 363人	体験型プログラム等	1,933回 4,047人
	学校との連携事業	205回 6,729人	学校との連携事業	18回 1,214人	学校との連携事業	35回 2,168人	学校との連携事業	120回 9,862人
	児童生徒を対象とした刊行物	6件 477,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 35,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 82,500部	児童生徒を対象とした刊行物	2件 120,000部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 1,217台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　671回　　360,572人

①ハンズオン展示等

552回　　209,471人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	276回	54,230人	実際に体験した人数
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	276回	155,241人	実際に体験した人数

②ワークショップ

20回　　1,229人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月14日	ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	
2	7月13日、14日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	2回	49人	7/13：22名 7/14：27名
3	7月13日、14日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	2回	43人	7/13：16名 7/14：27名
4	8月4日	みんなでつくる貼り交ぜびょうぶ(ぬりえ)	本館2階ラウンジ	1回	672人	キッズデーイベントとして実施
5	8月4日	紙芝居「ぶんぶく茶釜」	本館2階4室	2回	110人	①30名 ②80名 キッズデーイベントとして実施
6	8月4日	紙芝居「じごくのそうべえ」	本館2階2室	2回	105人	①上巻：70名 ②下巻：35名 キッズデーイベントとして実施
7	8月4日	見学ガイドアプリ 「学校版トーハクなび」貸出サービス	本館2階	1回	60人	キッズデーイベントとして実施
8	8月20日、9月7日	ファミリーワークショップ「おどし体験！」	本館地下教育普及スペース	3回	50人	①8/20：16名 ②9/7 AM：14名 ③9/7 PM：20名
9	11月24日	ファミリーワークショップ「屏風体験！」	本館地下教育普及スペース、応挙館	1回	29人	
10	11月30日、12月1日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	40人	11/30：20名 12/1：20名
11	11月30日、12月1日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	39人	11/30：17名 12/1：22名
12	12月14日	ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	1回	14人	
13	2月29日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	1回	人	※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止
14	3月27日、28日、29日、30日、31日	桜ワークショップ「春らんまん　桜ぬりえ」	本館2階ラウンジ	0回	人	※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

③その他の体験型プログラム　　— 回　　— 人

④児童生徒を対象とした展示

98回　144,733人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月16日～5月26日	特集「親と子のギャラリー　ツノのある動物」	平成館企画展示室	37回	―	通常の展示室のため、人数のカウントを行っていない
2	7月17日～9月23日	特集「親と子のギャラリー　日本のよろい！」（「日本文化体験　日本のよろい！」と合同）	本館特別5室、特別4室	61回	144,733人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　5,139人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月4日	トーハクキッズデー	本館、平成館考古展示室	1回	5,139人	未就学児から中学生までの入館者数を計数

2)学校との連携事業　205回　6,729人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

178回　6,086人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	本館地下教育普及スペース、大講堂、展示室等	174回	6,049人	174校
2	5月17日、10月28日、12月17日、2月13日	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、展示室等	4回	37人	4校

②出前授業等　― 回　― 人

③職場体験

24回　76人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館、東洋館ほか	24回	76人	24校、延べ65日

④教員を対象とした研修　3回　567人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月26日	「スクールプログラム」教員研修＋特別展「三国志」教員研修	大講堂	1回	242人	
2	10月3日	東京都教職員研修センター　専門性向上研修（社会科）	本館地下教育普及スペースほか	1回	18人	東京都の小中高社会科教員を対象にした研修への協力
3	1月17日	特別展「出雲と大和」教員研修	大講堂	1回	307人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　6件　477,000部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」ジュニアガイド	90,000部	
2	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」ジュニアガイド	200,000部	
3	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」ジュニアガイド	50,000部	
4	日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」ジュニアガイド	50,000部	
5	親と子のギャラリー「日本のよろい！」ワークシート	80,000部	
6	博物館に初もうで　カレンダー付きワークシート	7,000部	

②音声ガイド　― 件　― 台

③その他メディア　― 件　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　429回　94,743人

①ハンズオン展示等

319回　45,477人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	さわって発見！ミュージアム・カート	京都国立博物館　平成知新館	113回	45,477人	参加者は概算。年始を除く名品ギャラリー開室日の毎日実施。新型コロナウィルス感染予防・拡大防止のための臨時休館にともない、2月27日から3月22日のミュージアム・カートは中止となった。
2	通年	デジタル絵巻	京都国立博物館　平成知新館	206回	―	開館日の毎日、参加者数カウント不可。新型コロナウィルス感染予防・拡大防止のための臨時休館にともない、2月27日から3月22日のデジタル絵巻公開は中止となった。

※新型コロナウイルス感染拡大予防・拡散防止のため、2年2月27日から3月22日のミュージアム・カートは中止となった。

②ワークショップ

92回　9,971人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月13日～6月9日の開館日	一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～	京都国立博物館　平成知新館	51回	3,896人	特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連ワークショップ
2	11月9日・10日	スタンプでうちわをデザインしよう！	国立淡路青少年交流の家	2回	363人	「ミュージアム・キッズ！全国フェア in あわじ」（こども☆ひかりプロジェクト主催）
3	10月12日～11月24日の開館日	顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～	京都国立博物館　平成知新館	37回	5,662人	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連ワークショップ ※10/12、10/13は台風接近により活動休止。11/18は臨時開館になったため、臨時活動を行った.
4	11月23日・24日	スタンプでバッグをデザイン！	羽生水郷公園	2回	50人	参加者は概算 「世界キャラクターさみっとin羽生」（世界キャラクターさみっとin羽生実行委員会主催）

③その他の体験型プログラム

10回　60人

1	4月14日 7月13日	トラりん登場！	奈良国立博物館	2回	—	奈良博の特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展　曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」及びわくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に合わせ出張した。参加者数カウント不可
2	6月16日	トラりん登場！	京都府立植物園	1回	—	当館の特集展示「赤ってじつはどんな色？」にちなんで京都府立植物園で赤い花を探しながら博物館の紹介をした。参加者数カウント不可
3	6月22日 3月1日	トラりん登場！	京都市青少年科学センター	2回	—	当館の特集展示「赤ってじつはどんな色？」及び「雛まつりと人形」にちなんで京都市青少年科学センターで博物館の紹介をした。参加者数カウント不可
4	7月27日	トラりん登場！	京都市動物園	1回	—	当館の特集展示「赤ってじつはどんな色？」にちなんで京都市動物園で赤い動物を探しながら博物館の紹介をした。参加者数カウント不可
5	8月10日	トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー	京都国立博物館　平成知新館	1回	60人	平成知新館壁面の化石を子供を中心とした参加者と探すツアーを実施した。講師は京都市青少年科学センターから招聘した。
6	11月10日	トラりん登場！	国立淡路青少年交流の家	3回	—	「ミュージアムキッズ！全国フェア2019」（こどもひかりプロジェクト主催）にて、当館の紹介を実施した。参加者数カウント不可

④児童生徒を対象とした展示

1回　38,963人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月2日～8月12日	特集展示「赤ってじつはどんな色？」	京都国立博物館　平成知新館	1回	38,963人	参加者は当該期間の入館者数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

7回　272人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月4日（2回実施）	特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリートーク	研究員　安部真里奈	2回	54人	特集展示「謎とき美術！最初の一歩」関連イベント
2	8月26日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館　平成知新館	1回	134人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き，国宝や重要文化財を鑑賞し、作品に対する考えや感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ 主催：京都市教育委員会・京都市中学校美術科教育研究会
3	9月7日（4回実施）	KYOTO博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」	京都国立博物館　平成知新館	4回	84人	ＩＣＯＭ京都大会を記念し、当館で開催されるKYOTO博物館子どもフォーラム（主催：KYOTO博物館子どもフォーラム実行委員会）のプログラムの一つとして、「文化財に親しむ授業スペシャル！」を実施。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ

2)学校との連携事業　　18回　　1,214人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

7回　　328人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月16日	京都府立福知山高等学校附属中学校	京都国立博物館	1回	44人	博物館の仕事紹介、特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」解説、自由観覧
2	5月17日	静岡県駿東郡長泉町立北中学校	京都国立博物館	1回	3人	博物館の歴史、特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」解説、自由観覧
3	9月11日	京都市立八瀬小学校	京都国立博物館	1回	11人	名品ギャラリー解説、自由観覧
4	10月19日	京都府立鴨沂高等学校	京都国立博物館	1回	16人	絵巻の鑑賞ポイント解説と取り扱い体験
5	11月12日	滋賀県立守山高等学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館の仕事に関するインタビュー対応
6	11月19日	京都市立嵐山東小学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館の仕事に関するインタビュー対応
7	1月10日	大谷高等学校	京都国立博物館	1回	252人	名品ギャラリー解説、自由観覧

②出前授業等

7回　　683人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月3日～5日	文化財に親しむ授業　京都市立京都御池中学校9年生	京都市立京都御池中学校	1回	240人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月19日	文化財に親しむ授業　京都市立砂川小学校　6年生	京都市立砂川小学校	1回	80人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	9月12日	文化財に親しむ授業　京都市立大藪小学校　6年生	京都市立大藪小学校	1回	70人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月3日	文化財に親しむ授業　京都市立春日野小学校6年生	京都市立春日野小学校	1回	50人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	10月25日	文化財に親しむ授業　京都市立大塚小学校　6年生	京都市立大塚小学校	1回	103人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	11月29日	文化財に親しむ授業　京都市立朱雀第四小学校6年生	京都市立朱雀第四小学校	1回	40人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月17日	文化財に親しむ授業　京都市立朱雀中学校　1年生	京都市立朱雀中学校	1回	100人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　　― 回　　― 人

④教員を対象とした研修

2回　　68人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―	京都国立博物館	1回	18人	発表者：南洋平（和歌山県立粉河高等学校）、松村祐花（文化財ソムリエ／京都女子大学）、　東明日香（文化財ソムリエ／同志社大学）、安部真里奈（京都国立博物館 研究員）
2	8月20日	社会科教員のための向上講座（（小）社会科授業実践力向上講座（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	50人	講義「特別企画＜京博寄託の名宝＞鑑賞ポイント」呉孟晋（京都国立博物館 主任研究員） 主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

2回　　135人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	11月12日	京都市立烏丸中学校 鑑賞の授業	京都市立烏丸中学校	1回	44人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」（複製） 複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	12月9日	京都市立洛西中学校 鑑賞の授業	京都市立洛西中学校	1回	91人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製） 複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

3　　35,000部

	名　　称	発行部数	備　　考
1	特集展示「赤ってじつはどんな色？」関連ワークシート	18,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。
2	博物館Dictionary No.215～220	12,000部	7月、8月、9月、1月、2月、3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。220号は臨時休館となったため配架は出来なかったが、他の号と同様、公式ウェブサイトに掲載した。
3	平成知新館こどもガイド　第2版	5,000部	2015年に発行した「平成知新館こどもガイド」を第2版として一部内容を改訂して増刷した。

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　4件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんTwitter	—	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　33回　363人

①ハンズオン展示等　— 回　— 回

②ワークショップ　12回　228人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月5日	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」	地下回廊	2回	31人	午前・午後１回ずつ実施
2	5月19日	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」	地下回廊	2回	42人	午前・午後１回ずつ実施
3	5月26日	藤田美術展関連イベント「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」	会議室	2回	27人	午前・午後１回ずつ実施
1	7月24日～25日	親子で学ぼう 奈良の仏像	講堂・展示室	2回	144人	
4	7月26日	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	1回	50人	
5	8月17日	絵本づくりワークショップ 「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」	地下回廊	2回	37人	午前・午後１回ずつ実施
6	2月11日	親子ワークショップ「チョコパンケーキを作って食べよう」	地下回廊	1回	41人	午前・午後１回ずつ実施

③その他の体験型プログラム　— 回　— 人

④児童生徒を対象とした展示　20回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月26日～11月14日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	20回	—	2018度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　1回　135人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月27日	御即位記念 第71回正倉院展　親子鑑賞会	講堂	1回	135人	

2)学校との連携事業　35回　2,168人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応　10回　833人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月～3月	学校プログラム	講堂・なら仏像館	10回	833人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

②出前授業等　— 回　— 人

③職場体験　1回　3人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月25日～7月26日	職場体験（奈良県立青翔中学校）	全館	1回	3人	

④教員を対象とした研修　— 回　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業　24回　1,332人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂・なら仏像館	24回	1,332人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　3件　82,500部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展　曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」のジュニアガイド「藤田でんざぶろうからの挑戦状」	22,000部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

2	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」のワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」	42,500部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。日本語・英語・中国語・韓国語の4言語でそれぞれ作成し、発行。日本語版は13,500部、英語版は7,000部、中国語版は19,000部、韓国語版は3,000部、それぞれ発行した。
3	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」のうちわ型クイズ式ワークシート	18,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド　　1件　　1,217台

	名　称	台数	備　考
1	御即位記念 第71回正倉院展（日本版・子供向け）	1,217台	利用台数

③その他メディア　　― 件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　1,933回　　4,047人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

1,783回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	3月5日～6月30日	針聞書の世界～はらのむしランキング～	あじぎゃら	118回	―	展示日数
2	4月9日～9月16日	世界のゲーム	あじ庵	161回	―	展示日数
3	5月8日～2年3月31日	世界各国の帽子たち	あじっぱ	302回	―	展示日数
4	6月18日～12月15日	インドネシアの伝統芸能	ディスプレイ	181回	―	展示日数
5	7月2日～11月17日	世界の美しい入れものたち	あじぎゃら	139回	―	展示日数
6	7月22日～11月17日	令和～太宰府の歌碑	あじぎゃら	118回	―	展示日数
7	8月20日～2月2日	衣装体験～クバヤとカイン	あじ庵	166回	―	展示日数
8	10月1日～2年3月31日	日本屋台 ～伝統的な生活	あじっぱ	156回	―	展示日数
9	10月8日～2年3月31日	ウズヘキスタン屋台～シタールの響き	あじっぱ	149回	―	展示日数
10	11月19日～2年3月8日	お年玉切手の郷土人形	あじっぱ	110回	―	展示日数
11	12月17日～2年3月31日	刺繍の集い	ディスプレイ	104回	―	展示日数
12	2年2月4日～3月31日	お雛様かざりとさげもん	あじ庵	57回	―	展示日数
13	2年3月10日～3月31日	はらのむしの仲間たち	あじぎゃら	22回	―	展示日数
				1,783回		

②ワークショップ　　20回　　1,096人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月11日、9月29日、2年2月8日	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	6回	36人	小学校3年生以上（大人も可）、各回6人
2	6月9日	馬頭琴コンサート＆ワークショップ	ミュージアムホールホール	1回	10人	小学生以上、10名
3	7月13日	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	1回	28人	小学生以上、各回28名
4	7月19日、8月7日	実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	4回	33人	視覚障害者10名含む
5	7月27日、28日	行こうよ！ あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	1回	940人	
6	8月4日	歴史学フォーラム ～グループディスカッション	ミュージアムホール	1回	19人	フォーラム参加生徒対象
7	8月10日、11月24日	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	6回	30人	小学校4年生以上（大人も可）、各回5人
				20回	1,096人	

③その他の体験型プログラム　　36回　　2,951人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月3日、5月4日	きゅーはく夢広場（民族衣装体験）	九州国立博物館	2回	150人	
2	5月9日	きゅーはくきゃらばん（古代衣装体験）	水巻町立伊左座小学校	1回	80人	
3	6月23日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・衣装体験）	熊本県立装飾古墳館	1回	180人	
4	6月28日	きゅーはくきゃらばん（古代文字スタンプづくり）	大野城市立大利小学校	1回	40人	

5	8月7日、8月7日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	福岡県庁	2回	40人	
6	10月14日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・衣装体験）	長崎歴史文化博物館	1回	65人	
7	10月19日、20日	きゅーはくきゃらばん（拓本作り）	横浜高島屋	2回	100人	
8	10月24日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	大野城市立下大利小学校	1回	60人	
9	10月28日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	大野城市立大野東小学校	1回	80人	
10	11月1日、2日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	兵庫県立考古博物館	1回	100人	
11	11月9日、10日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	国立淡路青少年交流の家	2回	180人	
12	11月9日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	宗像市立河東西小学校	1回	150人	
13	11月10日	紙芝居「まちこの冒険」	石人山・弘化谷古墳公園	2回	40人	きゅーはく女子考古部の活動
14	11月17日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験・鬼瓦作り）	朝倉市民センター	1回	100人	
15	11月22日、12月14日	三国志ナイトミュージアム「英雄（ヒーロー）現る!!～もしも卑弥呼の使者が曹操に出会ったら～」	特別展室	6回	700人	
16	11月23日	きゅーはくきゃらばん（民族衣装体験）	玄海少年自然の家	1回	156人	
17	11月24日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・衣装体験）	なみきスクエア	1回	250人	
18	11月26日	きゅーはくきゃらばん（古代文字スタンプ作り）	大野城市立大野小学校	1回	80人	
19	11月30日、12月1日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験・中国の展示）	九州芸文館	2回	100人	
20	12月2日	きゅーはくきゃらばん（ウズベキスタンの帽子づくり、民族楽器・衣装・玩具体験）	久留米市立篠山小学校	1回	80人	
21	12月5日、12月11日	三国志視覚障害者向け観覧ツアー	特別展室	2回	30人	
22	12月7日	きゅーはくきゃらばん(歴史体※鬼瓦・勘合等)	福岡市市民福祉プラザ	1回	80人	
23	2年1月12日、13日	きゅーはくきゃらばん(民族楽器体験)	佐賀県立博物館・美術館	2回	**110人**	

④児童生徒を対象とした展示　　94回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月23日～6月16日	特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」わかりやすいパネル、展示、動画	展覧会会場	49回	—	開催日数
2	7月13日～9月1日	特別展「室町将軍ー戦乱と美の足利15代」わかりやすいパネル、体験コーナー	展覧会会場	45回	—	開催日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　— 回　　— 人

2)学校との連携事業　　120回　　9,862人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

40回　　2,530人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月23日	田川市立田川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	50人	
2	5月28日	新宮町立新宮中学校相島分校	研修室・文化交流展示室	1回	17人	
3	5月31日	田川市立金川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	59人	
4	6月5日	久留米市立長門石小学校	研修室・文化交流展示室	1回	61人	
5	6月11日	大任町立今任小学校	研修室・文化交流展示室	1回	18人	
6	6月13日	春日市立白水小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	95人	
7	6月14日	中間市立中間中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	105人	
8	6月14日	柳川市立皿垣小学校・有明小学校	研修室・文化交流展示室	1回	28人	
9	6月18日	古賀市立舞の里小学校	研修室・文化交流展示室	1回	53人	
10	6月21日	久留米市立善導寺小学校	研修室・文化交流展示室	1回	66人	
11	6月21日	久留米市立青峰小学校	研修室・文化交流展示室	1回	26人	
12	6月26日	古賀市立花見小学校	研修室・文化交流展示室	1回	83人	

13	7月2日	飯塚市立穂波西中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	130人	
14	7月9日	田川市立後藤寺中学校	研修室・文化交流展示室	1回	67人	
15	7月10日	直方市立感田小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	124人	
16	7月17日	豊前市立角田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	13人	
17	8月27日	八女市立黒木中学校	研修室・文化交流展示室	1回	6人	
18	8月30日	久留米市立櫛原中学校	研修室・文化交流展示室	1回	75人	
19	9月11日	直方市立上頓野小学校	研修室・文化交流展示室	1回	64人	
20	9月13日	みやま市立山川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	45人	
21	9月20日	大川市立田口小学校	研修室・文化交流展示室	1回	47人	
22	10月24日	行橋市立行橋中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	199人	
23	10月30日	大刀洗町立菊池小学校	研修室・文化交流展示室	1回	62人	
24	11月1日	飯塚市立鯰田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	33人	
25	11月6日	芦屋町立芦屋東小学校	研修室・文化交流展示室	1回	28人	
26	11月15日	直方市立中泉小学校	研修室・文化交流展示室	1回	43人	
27	11月19日	太宰府市立国分小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	110人	
28	11月20日	鞍手町立古月小学校	研修室・文化交流展示室	1回	19人	
29	11月27日	古賀市立千鳥小学校	研修室・文化交流展示室	1回	52人	
30	11月28日	行橋市立椿市小学校	研修室・文化交流展示室	1回	36人	
31	12月4日	飯塚市立飯塚第二中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	103人	
32	12月13日	行橋市立仲津中学校	研修室・文化交流展示室	1回	48人	
33	12月17日	うきは市立山春小学校	研修室・文化交流展示室	1回	19人	
34	2年1月10日	大任町立大任中学校	研修室・文化交流展示室	1回	49人	
35	2年1月15日	飯塚市立立岩小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	140人	
36	2年1月17日	鞍手町立西川小学校	研修室・文化交流展示室	1回	15人	
37	2年1月23日	太宰府市立水城西小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	160人	
38	2年1月24日	豊前市立八屋小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	53人	
39	2年2月6日	太宰府市立太宰府東小学校	研修室・文化交流展示室	1回	72人	
40	2年2月19日	久留米市立西牟田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	57人	
41	2年2月27日	筑紫野市立天拝中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室		人	新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため中止

②出前授業等

5回　214人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月5日、6月19日	総合学習飛び梅タイム「歴史探訪コース」	太宰府中学校	2回	14人	
2	10月1日	博物館ガイダンス	ゆめさが大学佐賀校	1回	120人	
3	10月10日	博物館ガイダンス	ゆめさが大学鹿島校	1回	40人	
4	11月11日	博物館ガイダンス	ゆめさが大学唐津校	1回	40人	

③職場体験

17回　87人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～11月 2年2月～3月	中学校等職場体験	全館	17回	87人	

④教員を対象とした研修

1回　13人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	「先生のための博物館活用術！」	研修室、展示室	1回	13人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

57回　7,018人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	12月18日～20日	高校生インターンシップ	会議室・あじっぱ・あじぎゃら	1回	6人	
2	4月1日～２年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	56回	7,012人	93パック

①刊行物　2件 120,000部

	名　　称	冊数	備　　考
1	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」ワークシート	70,000部	
2	特別展「日中文化交流協定締結50周年記念三国志」	50,000部	

②音声ガイド　―　―

③その他メディア　― 件　― 回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和2年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	22 人	インターンシップ	2 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	8 人
	大学との連携講座	1 件 38 人	大学との連携講座	1 件 6 人	大学との連携講座	2 件 11 人	大学との連携講座	2 件 128 人
	見学対応	18 回 374 人	見学対応	2 回 42 人	見学対応	3 回 106 人	見学対応	2 回 44 人
	その他	1 回 166 人	その他	23 回 349 人	その他	― 回 ― 人	その他	13 回 250 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　22 人

受入期間	7月3日～2年3月31日		
受入部署	学芸企画部／出版企画室、国際交流室、博物館教育課、教育普及室、教育講座室、ボランティア室、情報管理室 学芸研究部／考古室、保存修復課 総務部／総務課		
参加者数	22 人	学校数	17 大学／　1 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　38 人

期　　間	8月26日～8月30日		
回　　数	5回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、本館地下みどりのライオン、本館2階会議室		
参加者数	38 人	学校数	24 大学／　1 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を実施した。		

3)　見学対応　　18 回　　374 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	374 人	学校数	17 大学／　1 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	鑑賞の支援及び、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4)　その他　　1 回　　166 人

期　　間	8月28日		
回　　数	1 回		
開催場所	平成館大講堂		
参加者数	166 人	学校数	31 大学／　2 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を実施した。		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　2 人

受入期間	8月19日～8月30日、9月9日～9月20日		
受入部署			
参加者数	2 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。11月16日には平成知新館4F研修室にて2名による報告会を行った。（出席者19名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　6 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館

受入人数	6 人
担当研究員数	4 人

3) 見学対応　　2 回　　42 人

期　　間	11月6日		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	25 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	美術教育などを専門に学ぶ大学生・大学院生を対象に、当館の博物館教育活動の概要を解説した。		

4) その他　　23 回　　349 人

期　　間	9月13日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館　文化財保存修理所		
参加者数	15 人	学校数	10 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を実施した。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行い、学生の意欲や目的意識の向上を図った。		

期　　間	5月16日、5月23日、5月30日、6月20日、6月27日、7月4日、7月11日、8月29日、9月12日、9月19日、9月26日、10月10日、10月17日、11月7日、11月14日、12月5日、12月12日、1月9日、2月6日、2月20日		
回　　数	20		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	19 人	学校数	8 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

期　　間	4月26日、11月1日		
回　　数	2		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	203 人	学校数	32 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「国宝一遍聖絵と時宗の名宝」、特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙と王朝の美」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　2 件　　11 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	2 人　（前期1人、後期1人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	奈良国立博物館
受入人数	9 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　3 回　　106 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	106 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	鑑賞の支援及び、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、奈良国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　8 人

受入期間	8月19日～8月23日（5日間）		
受入部署	学芸部博物館科学課		
参加者数	8 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	5 人		
事業内容	文化財修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。		

2) 大学等との連携講座　　2 件　　128 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	12月5日、6日
開催場所	九州国立博物館
受入人数	38 人
担当研究員数	8 人

内　　容	筑紫女学園大学アジア文化学科「体験ーミュージアムデ学ぶアジア」連携講座
実施日	4月17日
開催場所	筑紫女学園大学
受入人数	90 人
担当研究員数	1 人

3) 見学対応　　2 回　　44 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	44 人	学校数	2 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	当館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。		

4) その他　　13 回　　250 人

期　　間	4月16日、23日、5月8日、5月14日、5月15日		
回　　数	5回		
開催場所	筑紫女学園大学		
参加者数	200 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	バックヤードツアー		

期　　間	8月21日～9月2日（10日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	15 人	学校数	11 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	5月17日、6月7日、7月19日、8月23日、10月18日、12月20日、2年1月31日		
回　　数	7回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	35 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和2年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
60校	32校（※）	27校（※）	23校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（60校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,602人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,039人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学、 文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）	7,771人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,318人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,744人	20年4月1日	
6	東京大学	35,050人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,498人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学、杉野服飾大学短期大学部、杉野学園ドレスメーカー学院）	1,248人	20年4月1日	
9	大正大学	5,686人	20年4月1日	
10	東海大学	32,318人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,690人	20年4月1日	
12	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校）	634人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,377人	20年4月1日	
14	立教大学	23,492人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,760人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,786人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,977人	20年4月1日	
18	法政大学	40,097人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,359人	20年4月1日	
20	昭和女子大学	6,605人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	5,084人	20年5月1日	
22	東洋大学	34,449人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,169人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部・芸術学研究科）	4,902人	20年6月1日	
25	文教大学	9,730人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,987人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,363人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,985人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,727人	22年4月1日	
30	学習院大学	10,783人	22年4月1日	
31	東京工業大学	11,402人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,461人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	3,357人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,740人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,975人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,942人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,717人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	2,928人	25年4月1日	
39	中央大学（文学部・文学研究科）	4,389人	25年6月1日	
40	麗澤大学	3,075人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	45,035人	25年8月1日	
42	共立女子大学・共立女子短期大学	6,062人	26年4月1日	
43	成城大学（文芸学部・文学研究科）	1,958人	26年4月1日	
44	日本文化大學	849人	27年4月1日	
45	鶴見大学（文学部・文学研究科）	1,501人	27年5月1日	
46	十文字学園女子大学	3,802人	27年6月1日	
47	早稲田大学	54,551人	27年6月1日	
48	東京外国語大学	4,697人	28年4月1日	
49	横浜国立大学	10,665人	28年4月1日	
50	國學院大學・國學院大學北海道短期大学部	12,328人	28年4月1日	
51	聖心女子大学	2,758人	28年5月1日	
52	津田塾大学	3,583人	29年8月1日	
53	清泉女子大学	2,008人	29年10月1日	
54	立正大学（文学部）	2,302人	30年4月1日	
55	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	7,496人	30年4月1日	
56	明治大学（文学部・文学研究科）	3,917人	30年5月1日	
57	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	7,889人	31年4月1日	
58	明星大学	9,097人	31年4月1日	
59	宝塚大学	997人	元年5月29日	
60	東洋英和女学院大学	2,726人	元年6月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

【京都国立博物館】

① 加入校数（32校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	12,326人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,546人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,681人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	992人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人　京都女子学園	7,060人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,023人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,319人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	21,038人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	901人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,380人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学 文芸学部・総合文化研究科	2,191人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,798人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,371人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	15,313人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	4,038人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社	40,013人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	3,636人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,183人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	1,096人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都教育大学	2,310人	20年7月1日	奈良博との共通加入	
21	京都市立芸術大学	1,070人	20年8月1日	京博のみ	
22	大阪大学	24,323 人	20 年 12 月 1 日	奈良博との共通加入	
23	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	4,697人	21年8月1日	奈良博との共通加入	
24	学校法人　関西大学	30,893人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
25	京都府立大学	2,116人	23年7月1日	京博のみ	29年4月に一時退会、10月に再入会
26	学校法人　京都産業大学	14,949人	24年8月1日	京博のみ	
27	学校法人　立命館	40,715人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
28	学校法人　二本松学院	2,430人	29年4月1日	京博のみ	
29	四天王寺大学 人文社会学部	1,854人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
30	学校法人　関西学院	27,769人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
31	大手前大学	2,506人	30年6月1日	京博のみ	
32	大阪大谷大学	3,176人	30年11月1日	奈良博との共通加入	

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,310人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,546人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,681人	18年5月15日	京博との 2 館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	992人	18年6月9日	京博との 2 館併用	
5	京都精華大学	3,023人	18年6月28日	京博との 2 館併用	
6	京都橘大学	5,319人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	21,038人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
8	京都大学	23,380人	18年8月22日	京博との 2 館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,191人	18年8月24日	京博との 2 館併用	
10	奈良佐保短期大学	284人	18 年 11 月 29 日	奈良博のみ	
11	佛教大学	15,313人	19年4月1日	京博との 2 館併用	
12	奈良大学	3,636人	19 年 5 月 2 日	京博との 2 館併用	
13	京都工芸繊維大学	4,038人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
14	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,013人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
15	奈良先端科学技術大学院大学	1,138人	19年11月7日	京博との 2 館併用	
16	就実大学　人文科学部	1,096人	20年4月1日	京博との 2 館併用	
17	天理大学	3,232人	20 年 7 月 1 日	奈良博のみ	
18	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,310人	20年7月1日	京博との 2 館併用	
19	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,323人	20年12月1日	京博との 2 館併用	
20	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,697人	21年8月1日	京博との 2 館併用	
21	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,822人	23年6月1日	京博との 2 館併用	
22	奈良工業高等専門学校	1,097人	23年7月1日	奈良博のみ	
23	立命館大学	42,958人	26年4月1日	京博との 2 館併用	
24	京都女子大学	7,060人	29年4月1日	京博との 2 館併用	
25	四天王寺大学　人文・社会学部	1,854人	29年5月1日	京博との 2 館併用	
26	学校法人　関西学院	27,769人	30年4月1日	京博との 2 館併用	
27	大阪大谷大学	3,176人	30年11月1日	京博との 2 館併用	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 8月17日に奈良教育大学と連携して展覧会に関連した親子向けのワークショップを実施。

【九州国立博物館】

① 加入校数（23校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	西南学院大学	8,561人	19年4月1日	
4	筑紫女学園大学	2,565人	19年4月1日	
5	福岡教育大学	3,000人	19年4月1日	
6	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
7	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
8	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
9	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
10	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
11	西南学院高等学校	1,308人	19年4月1日	
12	筑紫女学園高等学校	1,513人	19年4月1日	
13	筑紫台高等学校	1,587人	19年4月1日	
14	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
15	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
16	放送大学福岡学習センター	2,508人	19年5月1日	
17	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	411人	20年4月1日	
18	九州大学	18,973人	20年5月1日	
19	九州情報大学	440人	21年4月1日	
20	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,083人	21年5月1日	
21	日本赤十字九州国際看護大学	464人	23年4月1日	
22	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
23	福岡有朋高等専修学校	433人	29年4月1日	

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 11 月 3 日(日・祝) 9：30～21：00	○来館者数　16,216 人 参加者数　444 人《803 人》 内　留学生　420 人 同伴者　24 人 ＡＬＴ　0 人 ・無料観覧（総合文化展のみ） ※「文化の日」のため総合文化展無料観覧 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：393 人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：491 人 ・ギャラリートーク（中国語・英語） 参加者数：87 人 ・留学生のための自分で着てみるきもの体験 参加者：40 人 ・留学生のためのお茶体験 参加者：110 人	・留学生アンケート回答者数 20 人 （回収率 4.5%） ・来館頻度：初めて 75%、2 回目以降 20% ・認知経路：ポスター55%、インターネット 25% 他 ・出身国：中国 40%　他 ・また博物館に来たいか：ぜひ来たい 65%、来たい 35%、たぶん来ない 0%、来ない 0%
京都国立博物館 11 月 1 日(金) 9：30～20：00	○参加者数　38 人《39 人》 留学生　38 人《39 人》 ・特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」観覧料を団体料金に割引 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティグッズプレゼント ・キャンパスメンバーズ対象講演会の開放	・留学生アンケート回答者数 1 人 （回収率 2%） ・来館頻度：来たことがある 100% ・「留学生の日」：初めて 100% ・認知経路：ポスター・チラシを見て 100%、HP を見て 100%、チラシをもらって 100%、友人・教師 0%　他 0% ・展示内容：とても良かった 100%、良かった以下 0% ・出身国：中国
奈良国立博物館 11 月 1 日(金) 9：00～18:00 (正倉院展会期中のため 9：00 開館)	○来館者数　12,175 人《12,336 人》 留学生　71 人《109 人》 ・「正倉院展」(特別展)及び「名品展」の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難のため）
九州国立博物館 11 月 3 日(日・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,867 人《1,298 人》 留学生　8 人《　22 人》 留学生限定文化交流ツアーin 九博参加者 18 人 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin 九博	・留学生アンケート回答者数 16 人(回収率 88%) ・出身国：中国 8 人、台湾 6 人、カナダ 1 人、不明 1 人 ・来館回数：1 回 6 人、2 回 4 人、3 回 1 人、4 回 1 人、不明 4 人 ・認知経路（複数回答）：チラシ・ポスター4 人、ホームページ 1 人、学校から 6 人、友達から 4 人、ガイドブック 3 人、留学生イベントをきっかけに知った 9 人 ・満足度（文化交流ツアーin 九博）：とてもよかった 16 人 ・文化交流ツアーin 九博の全体の流れやスタッフの対応：とてもよかった 14 人、よかった 2 人 ※アンケートは「留学生限定文化交流ツアーin 九博」参加者のみから回収。

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成 30 年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会(29年4月1日改定)　　令和2年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	3,145 人	8,000 円
九州国立博物館	91 人	10,000 円

メンバーズプレミアムパス(29年4月1日より新設)　　令和2年3月31日現在

区分(年会費) / 館名	会員数	一般(5,000 円)	一般(3,100 円)	学生(3,500 円)	学生(3,000 円)	学生(2,100 円)	家族(10,000 円)
東京国立博物館	15,816 人	15,467 人	−	349 人	−	−	−
奈良国立博物館(奈良博プレミアムカード)	1,112 人	1,075 人	−	−	26 人	−	11 人
九州国立博物館	4,369 人	−	2,370 人	−	−	1,999 人	−

国立博物館メンバーズパス（４館共通/29年4月1日より新設） 令和2年3月31日現在

区分(年会費) / 館名	会員数	一般(2,000 円)	学生(1,000 円)
東京国立博物館	4,037 人	3,828 人	209 人
京都国立博物館	1,073 人	1,026 人	47 人
奈良国立博物館	245 人	222 人	23 人
九州国立博物館	46 人	42 人	4 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券6枚贈呈、総合文化展招待券6枚贈呈、『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートチケット割引、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券8枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
②『奈良国立博物館展示案内』（年1回）の配布
③当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
④当館レストランでの飲食料金の割引
⑤近隣他館の入館料金割引または無料
⑥当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
・4月17日（水）　特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」
　特別鑑賞会　参加人数179人
・10月29日（火）　特別展「第71回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数182人
・2月12日（水）　特別展特別展「毘沙門天－北方鎮護のカミ－」
　特別鑑賞会　参加人数166人

【九州国立博物館】
①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は２回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和2年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		（一般社団法人 清風会）	（ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・ﾊﾟｰﾄﾅｰ）		
件数	686件	513件	8件	102件	47件
内訳	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:4人 特別会員（団体）:21団体 特別会員（個人）:15人 維持会員（団体）:54団体 維持会員（個人）:592人	賛助会員（団体）:31団体 特別会員（団体）:25団体 特別会員（個人）:74人 普通会員（団体）:21団体 普通会員（個人）:362人	団体会員:7 件 個人会員:1 件	特別支援会員:4団体 特別会員:4団体 一般会員（団体）:18団体 一般会員（個人）:76人	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:2人 特別会員（個人）:4人 維持会員（個人）:20人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:2団体 維持会員（団体）:18団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】
①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引
⑦東大寺講演会開催案内送付
⑧コンサートチケットの割引

【京都国立博物館】
①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】
①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館カレンダー』（年1回）の贈呈
⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑥当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑦当館レストランでの飲食料金の割引
⑧当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・4月16日（火）　特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」
　特別鑑賞会　参加人数58人
・10月28日（月）　特別展「第71回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数142人
・2月4日（火）　特別展「毘沙門天－北方鎮護のカミ－」
　特別鑑賞会　参加人数34人

【九州国立博物館】
①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和 2 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　1 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	11 月 26 日～12 月 1 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	4,814	

2) 館主催・協力イベント　26 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 2 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2019　桜の街の音楽会 坂東真奈実＆黒川実咲	法隆寺宝物館	184	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
2	4 月 3 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2019「東博でバッハ vol.45」石川滋	法隆寺宝物館	128	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
3	4 月 11 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2019「東博でバッハ vol.46」上野通明	法隆寺宝物館	136	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
4	4 月 19 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	295	主催：東京国立博物館、東大寺
5	4 月 27 日	イベント	上野の森バレエホリデイ　野外シネマ	表慶館前	467	主催：文化庁、上野の森バレエホリデイ実行委員会
6	5 月 11 日～12 日	イベント	東京シシマイコレクション 2020 プレ	本館前庭	2,215	主催：東京文化財研究所,日本芸術文化振興会,東京国立博物館
7	6 月 16 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	167	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
8	6 月 30 日	イベント	初夏東博寄席	平成館大講堂	419	主催：東京国立博物館
9	7 月 26 日～27 日	イベント	トーハクＢＥＥＲ　ＮＩＧＨＴ！	平成館前庭	3,296	主催：東京国立博物館
10	8 月 4 日	イベント	キッズデー　日本の楽器のコンサート	平成館大講堂	374	主催：東京国立博物館
11	8 月 31 日	音楽会	クラリネットコンサート	平成館大講堂	602	主催：東京国立博物館、東京クラリネット・クワイアー
12	9 月 20 日～21 日	イベント	博物館で野外シネマ	本館前庭	5,678	主催：東京国立博物館
13	9 月 23 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	240	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
14	10 月 11 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO まちなかコンサート	本館大階段	174	主催：東京文化会館他 共催：東京国立博物館他
15	10 月 31 日～ 11 月 4 日	イベント	創エネ･あかりパーク 2019 に伴うライトアップ	本館前庭	―	主催：「創エネ・あかりパーク 2019」実行委員会 協力：東京国立博物館
16	11 月 13 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	296	主催：東京国立博物館、東大寺
17	11 月 26 日～ 12 月 1 日	展示会	第 16 回台東区の伝統工芸職人展	平成館ラウンジ	4,814	主催：台東区 共催：東京国立博物館
18	12 月 6 日～7 日	音楽会	トーハクジャズフェスティバル	平成館ラウンジ　他	750	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業株式会社
19	12 月 15 日	音楽会	クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	255	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
20	2 年 1 月 2 日～3 日	イベント	和太鼓（湯島天神白梅太鼓）	本館前	3,089	主催：東京国立博物館
21	2 年 1 月 2 日～3 日	イベント	獅子舞（葛西囃子中村社中）	本館前	2,289	主催：東京国立博物館
22	2 年 1 月 2 日	イベント	寄席文字	平成館ラウンジ	120	主催：東京国立博物館
23	2 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	854	主催：東京国立博物館
24	2 年 1 月 26 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	350	主催：東京国立博物館
25	2 年 2 月 12 日	音楽会	文化の杜の音めぐり	本館大階段	312	主催:上野文化の杜新構想実行委員会
26	2 年 3 月 14 日	イベント	「日本博」2020　オープニング・セレモニー　記念講演「月雪花にあそぶ―日本の音と声と舞」	本館前庭	―	主催：文化庁、日本芸術文化振興会

【京都国立博物館】

1) 会場提供　95 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 1 日、5 日、8 日	研修会	従事者研修	研修室、会議室	40	
2	4 月 4 日、10 日、13 日、24 日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
3	4 月 5 日、12 日、19 日、26 日、5 月 10 日、17 日、24 日、31 日、6 月 7 日、14 日、21 日、28 日、7 月 5 日、12 日、19 日	授業	授業「伝統芸術入門（茶道）」	茶室	17	
4	4 月 6 日	茶席	茶席	茶室	7	
5	4 月 7～11 日	イベント	化粧品会社発表会	明治古都館、平成知新、技術資料参考館	119	
6	4 月 12 日～6 月 9 日	イベント	特別展にかかる音声ガイドの貸出等	平成知新館	20	
7	4 月 12 日～6 月 9 日	イベント	特別展にかかる物販・図録の販売等	平成知新館	20	
8	4 月 15 日	鑑賞会	時宗展清浄光寺貸切鑑賞会	講堂、展示室	58	
9	4 月 18 日	研修会	修理技術者資格制度 新任者研修	研修室	18	
10	4 月 20 日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
11	4 月 21 日	講演会	時宗展政田マリ講座	講堂	49	
12	4 月 24 日	イベント	映像上映・演奏	講堂	30	
13	4 月 27 日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	180	
14	4 月 27 日、28 日	茶席	茶会	茶室	50	
15	4 月 28 日	コンサート	時宗展声明公演	講堂	204	
16	5 月 12 日、16 日、19 日、22 日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
17	5 月 16 日	審査	修理技術者資格制度　登録審査	研修室、会議室	12	
18	5 月 18 日	茶席	茶席	茶室	30	
19	5 月 24 日	研修会	損保ホールディングス企業研修	茶室、展示室	27	
20	5 月 26 日	講演会	国際博物館の日・ICOM 京都大会 2019 開催記念シンポジウム	講堂	200	
21	5 月 30 日	茶道教室	茶道教室	茶室	9	
22	6 月 7 日	講演会	日本結晶成長学会特別講演会	講堂	120	
23	6 月 11 日	茶席	茶席	茶室	10	
24	6 月 12 日、15 日	茶道教室	茶道教室	茶室	12	
25	6 月 18 日	研修会	全国消防長会東近畿支部予防業務研究会	講堂	145	
26	6 月 19 日、23 日、26 日	茶道教室	茶道教室	茶室	18	
27	6 月 21 日	会議	京都市内博物館施設連絡協議会　総会	講堂	100	
28	6 月 25 日	説明会	ICOM 京都大会出展者説明会	講堂	200	
29	6 月 28 日	研修会	国宝修理装こう師連盟 加盟工房従業員に対する講習会	講堂	120	
30	7 月 2 日、11 日、19 日	茶道教室	茶道教室	茶室	25	
31	7 月 14 日	茶席	茶会	茶室	10	
32	7 月 15 日、16 日	イベント	京まふ 2019 実行委員会及び記者会見	明治古都館、大会議室	150	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
33	7月22日	研修会	修理技術者資格制度 中・上級講習会	研修室、会議室	12	
34	7月26日	会議	修理技術者資格制度 試験準備委員会	研修室、会議室	12	
35	8月18日、19日	コンサート	「天体と音楽」テーマの科学・音楽コミュニケーション	講堂、接客室１、２	285	
36	8月26日	イベント	市立中学校美術部員「記者体験」	講堂、展示室	134	
37	8月31日	会議	ICOM-DRMC ワークショップ	会議室１、研修室	30	
38	9月1日	会議	ICOM-UMAC ワークショップ	会議室１、研修室	30	
39	9月1日	会議	ICOM COSTUME ミーティング	研修室	10	
40	9月1日～4日	イベント	京都の名宝×トッパンＶＲ	講堂	1110	
41	9月1日～7日	イベント	臨時出張所開催（切手等販売所）	エントランスロビー	5	
42	9月2日	イベント	訪日外国人向けＶＲ上映付きツアーのテスト実施	講堂	15	
43	9月5日、13日	茶道教室	茶道教室	茶室	16	
44	9月5日	会議	ICOMAM オフサイトミーティング	技術資料参考館	30	
45	9月5日	会議	ICOM-ICEE オフサイトミーティング	講堂	50	
46	9月7日	イベント	ICOM 京都大会閉会式	明治古都館、技術資料参考館	200	
47	9月7日	イベント	ICOM 京都大会閉会パーティー	庭園	1500	
48	9月15日、9月16日	茶席	お茶会の開催	茶室	60	
49	9月17日	研修会	社内研修	講堂	100	
50	9月19日～23日	イベント	海外ブランドの企画展	明治古都館、庭園、接客室	300	
51	9月19日、28日	茶席	茶道教室	茶室	12	
52	9月22日	茶席	茶席	茶室	5	
53	10月1日	資格試験	修理技術者資格制度 試験	研修室、会議室１、会議室２	23	
54	10月2日、4日	研修会	従事者研修	研修室、会議室	40	
55	10月4日、11日、18日、25日、11月8日、15日、22日、29日、12月6日、13日、20日、1月10日、17日、24日、31日	授業	授業「伝統芸術入門（茶道）Ⅱ」	茶室	17	
56	10月6日～11日	研修会	指定文化財　企画・展示セミナー	会議室１	30	
57	10月10日、17日、19日、23日	茶道教室	茶道教室	茶室	26	
58	10月11日～11月24日	イベント	特別展にかかる音声ガイドの貸出等	平成知新館	20	
59	10月11日～11月24日	イベント	特別展にかかる物販・図録の販売等	平成知新館	20	
60	10月15日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室２	2000	
61	10月20日	イベント	大阪ダイハツ優績店奥様のつどい貸切パーティー	グランドロビー、講堂	110	
62	10月21日、22日	茶席	雑誌「きもの Salon」茶会	茶室	36	
63	10月21日～28日	イベント	展示商談会	明治古都館	360	
64	10月23日	講演会	日経名古屋支社主催　販売店主・ロータリークラブ観覧ツアー	講堂	50	
65	10月25日～27日	茶席	お茶会の開催	茶室	100	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
66	10 月 29 日	講演会	展覧会講座の開催	研修室	10	
67	10 月 29 日	講演会	講演会	講堂	50	
68	10 月 29 日	講演会	京都新聞マーケティングフォーラム	講堂	30	
69	10 月 30 日	鑑賞会	日経読者特別鑑賞会	展示室、接客室２	800	
70	10 月 31 日	講演会	文化財保護に関する講演会	研修室	49	
71	11 月 2 日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
72	11 月 5 日	資格試験	修理技術者資格制度 試験	研修室、会議室１、会議室２	23	
73	11 月 6 日、14 日	茶席	お茶会の開催	茶室	15	
74	11 月 6 日、16 日、17 日、23 日、24 日	イベント	秋は夕暮れ企画	庭園	436	
75	11 月 7 日	茶席	「わん・碗・ＯＮＥ茶会」開催	茶室	50	
76	11 月 9 日、10 日	茶席	茶会	茶室	100	
77	11 月 13 日	茶道教室	茶道教室	茶室	6	
78	11 月 20 日	イベント	コンサート	講堂、接客室１	200	
79	11 月 22 日	講演会	講演会	講堂	50	
80	11 月 27 日	茶席	茶会	茶室	5	
81	11 月 29 日、30 日	研修会	修理技術者資格制度 講習会	研修室、会議室２	11	
82	12 月 1 日	講演会	公開シンポジウム「文化財を考える」	講堂	210	
83	12 月 5 日、7 日	茶道教室	茶道教室	茶室	11	
84	12 月 8 日	イベント	表彰式（京都景観賞京町家部門）	講堂	200	
85	12 月 14 日	イベント	ドレスアップナイト	明治古都館、本館前広場	100	
86	12 月 15 日	講演会	天平会第 850 回例会・研修講演	講堂	50	
87	2 年 1 月 8 日	研修会	河井寛次郎についての研究会	接客室１	8	
88	2 年 1 月 14 日、1 月 18 日、1 月 22 日	茶道教室	茶道教室	茶室	18	
89	2 年 1 月 26 日	茶席	茶会	茶室	40	
90	2 年 2 月 2 日	講演会	副葬品学習講座	講堂	50	
91	2 年 2 月 8 日	上映会	映像上映会	講堂	28	
92	2 年 2 月 15 日	茶道教室	茶道教室	茶室	3	
93	2 年 2 月 16 日	コンサート	アンサリーワンマンライブ	講堂	200	
94	2 年 2 月 24 日	会議	ICOM に関係したシンポジウムの開催	講堂、接客室２	150	
95	2 年 3 月 11 日	結婚式	結婚式	明治古都館	80	

2） 館主催・協力イベント　　27 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 13 日	講演会	記念講演会「時宗教団の変遷」	講堂	116	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連イベント
2	4 月 24 日	イベント	映像上映・演奏	講堂	30	主催：アジア・アメリカ現代音楽協会　後援：当館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
3	4月27日	講演会	記念講演会「一遍・真教の念仏思想」	講堂	121	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝 一辺聖絵と時宗の名宝」関連イベント
4	4月27日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	180	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
5	5月11日	講演会	記念講演会「国宝 一遍聖絵―旅と風景、その魅力と謎―」	講堂	171	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝 一辺聖絵と時宗の名宝」関連イベント
6	5月18日	講演会	記念講演会「時宗のみほとけ―阿弥陀と祖師像を中心に―」	講堂	110	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝 一辺聖絵と時宗の名宝」関連イベント
7	5月24日	イベント	京都・らくご博物館（春）	講堂	173	主催：当館　制作協力：米朝事務所
8	5月25日	講演会	記念講演会「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」	講堂	190	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝 一辺聖絵と時宗の名宝」関連イベント
9	6月18日	研修会	全国消防長会東近畿支部予防業務研究会	講堂	145	主催：全国消防長会東近畿支部　共催：当館
10	8月9日	イベント	京都・らくご博物館（夏）	講堂	119	主催：当館　制作協力：米朝事務所
11	8月10日	イベント	トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー	講堂、グランドロビー	60	主催：当館
12	8月18日、19日	コンサート	「天体と音楽」テーマの科学・音楽コミュニケーション	講堂、接客室１、接客室２	285	主催：「天体と音楽」実行委員会　後援：当館
13	8月20日	講座	講義「特別企画＜京博寄託の名宝＞鑑賞ポイント」	講堂	39	主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会・京都市立高等学校社会科研究会
14	8月26日	イベント	記者体験 in 京都国立博物館	講堂、展示室	134	主催：京都市教育委員会、京都市中学校美術科教育研究会　共催：当館
15	9月1日～4日	イベント	京都の名宝×トッパンＶＲ	講堂	1,110	主催：凸版印刷株式会社　共催：当館
16	9月7日	イベント	KYOTO 博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」	グランドロビー、講堂、庭園	84	主催：KYOTO 博物館子どもフォーラム実行委員会（ICOM 京都大会 2019 京都推進委員会、京都府ミュージアムフォーラム、京都市内博物館施設連絡協議会、当館）
17	10月13日	講演会	開幕記念講演会「冷泉家の歴史と文化 ―冷泉流歌道をめぐって」	講堂	168	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
18	10月19日	講演会	記念講演会「歌仙絵の成立と展開 ―佐竹本への道のり―」	講堂	190	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
19	11月2日	講演会	記念講演会「歌仙絵の最高峰 ―佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒―」	講堂	200	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
20	11月8日、9日	イベント	十二単お服上げの再現―現代につながる王朝の美	講堂	754	主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、当館、日本経済新聞社、学校法人国際文化学園 国際文化理容美容専門学校 衣紋道東京道場
21	11月15日	イベント	京都・らくご博物館（秋）	講堂	113	主催：当館　制作協力：米朝事務所
22	11月16日	講演会	記念講演会「佐竹本三十六歌仙絵への想い」	講堂	200	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
23	11月20日	イベント	コンサート	講堂、接客室１	200	主催：Hijiya Music Club　後援：当館
24	12月1日	講演会	公開シンポジウム「文化財を考える」	講堂	210	主催：一般社団法人文化財保存修復学会　後援：当館
25	2年1月4日	イベント	新春能	講堂	393	主催：当館
26	2年1月12日	イベント	芸舞妓　春の舞	講堂	365	主催：当館
27	2年2月9日	イベント	トークイベント「いまひとたびの『風神雷神』　原田マハと京博の研究者たち」	講堂	180	主催：当館

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　　41 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 7 日	茶会	茶会	茶室	114	茶道審和会　岸正博
2	4 月 11 日	茶会	茶会	茶室	20	学茶会　黒川宗賢
3	4 月 15 日、4 月 22 日	貸切	藤田美術館展 貸切ギャラリートーク	新館	240	ジェイアール東海ツアーズ
4	4 月 15 日、5 月 20 日	貸切	藤田美術館展 藤田関係者貸切ツアー	新館	62	藤田美術館
5	毎週木曜日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため 史跡探訪部講座開催のため	講堂	各回 150 各回 80 総合計 5,000	奈良シニア大学　森田緑
6	5 月 15 日	撮影	関西テレビ「よ～いドン！」 水曜日コーナー	敷地内	―	(株)ブリッジ
7	5 月 17 日	講座・セミナー	新入生合宿研修のため	講堂	40	京都府立大学文学部歴史学科　諫早直人
8	5 月 21 日	撮影	ブライダル前撮り撮影	茶室	6	Wakana style + 峪口治恵
9	5 月 21 日	撮影	ブライダル前撮り撮影	関野ホール	6	Wakana style + 峪口治恵
10	5 月 29 日	講座・セミナー	施設見学のため	講堂	24	東京芸術大学美術研究科文化財保存学　土屋裕子
11	6 月 1 日	貸切	藤田美術館展貸切鑑賞会	新館	36	クラブツーリズム
12	6 月 4 日	ツアー	藤田美術館展ツアー	新館	27	淡交社
13	6 月 11 日～13 日	調査	交通量を把握するため一時使用	敷地内	1	中央コンサルタンツ㈱
14	6 月 22 日	撮影	奈良テレビ「ゆうドキッ！」「奈良をつくった偉人」	敷地内	―	C-core　清水真巳子
15	7 月 10 日	イベント	クリーンアップならディアパーク２０１９	敷地内	―	奈良の鹿愛護会
16	7 月 25 日	撮影	Web ｻｲﾄ「まいどなニュース」「鹿だまり」の撮影	敷地内	1	(株)おふぃす・ともとも 國松珠実
17	8 月 2 日	講座・セミナー	教員対象の研修	講堂	30	大阪府高等学校美術・工芸教育研究会　松村理身
18	8 月 4 日	イベント	MASERATI MEETS NARA	敷地内	120	(株)ツーアンドフォー
19	8 月 5 日～14 日	イベント	「なら燈花会」ろうそくやオブジェを設置	当館敷地	―	なら燈花会の会
20	8 月 17 日	講義	集中講義	講堂	42	奈良女子大学
21	8 月 28 日	講座・セミナー	日独学生青年リーダー交流事業の一環として職員との交流	講堂	40	国立曽爾青少年自然の家
22	8 月 29 日	撮影	成人式前撮り	関野ホール	6	ブライダル着付け＊百花＊
23	9 月 1 日	イベント	春日野音楽祭まちなかステージ	敷地内	―	春日野音楽祭実行委員会
24	9 月 9 日	撮影	ウェディングフォト	関野ホール	6	Wakana style + 峪口治恵
25	10 月 2 日～4 日	茶会と撮影	茶会及び撮影	茶室	20	藤田美術館
26	10 月 26 日	講座・セミナー	「行基誕生 1351 年記念シンポジウム」開催	関野ホール	150	（一社）近畿建設協会
27	10 月 26 日～11 月 14 日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	―	(財)仏教美術協会
28	10 月 26 日～11 月 14 日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	―	㈲日本クリーンシステムズ
29	10 月 26 日～11 月 14 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	校倉な会
30	10 月 26 日～11 月 14 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	なら和み館
31	10 月 26 日～11 月 14 日	キャンペーン	郵便切手・はがき類の販売	新館西側敷地	―	奈良中央郵便局
32	11 月 2 日	撮影	「歴史街道　わたしたにのまちの歴史と文化」番組撮影	敷地内	―	近畿ケーブルネットワーク放送事業部
33	11 月 6 日	講座・セミナー	法華寺　講演	会議室	70	法華寺
34	11 月 20 日、11 月 21 日	茶会	茶会	茶室	30	学茶会　黒川賢成
35	11 月 22 日	撮影	ウェディングフォト	茶室	6	Wakana style + 峪口治恵
36	11 月 30 日	講座・セミナー	平成薬師寺をめぐるシンポジウム開催のため	講堂	125	大阪大学文学研究科 教授　藤岡穣
37	12 月 17 日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	敷地内	―	春日大社
38	2 年 1 月 12 日	茶会	茶会	茶室	20	はっけい会　三木ひとみ
39	2 年 2 月 4 日～6 日	茶会	珠光茶会	茶室・展示室	87	珠光茶会実行委員会
40	2 年 2 月 8 日～14 日	イベント	なら瑠璃絵オブジェの設置	庭園	―	なら瑠璃絵実行委員会
41	2 年 2 月 15 日、16 日	イベント	ブライダルフェア、記念撮影	関野ホール	―	Wakana style + 峪口治恵

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考

※以下は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

42	2年1月28日	敷地提供	小学生による、外国人観光客との交流及びインタビュー	敷地内	―	傘置小学校 新型コロナウィルス感染症対応のためキャンセル
43	3月1日～14日	ツアー	特別陳列「お水取り」 定期観光バスによる見学ツアー	展示室	―	奈良交通 臨時休館のため使用実績無し

2）館主催・協力イベント　48件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月4日	法要	春季仏像供養	なら仏像館	100	
2	4月14日	イベント	京博マスコット「トラりん」グリーティング	敷地内	―	
3	4月14日、21日、5月12日	イベント	庭園ツアー （ボランティア室）	園地	150	
4	4月16日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	58	
5	4月17日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	179	
6	4月30日	イベント	改元記念公演会「ようこそ新元号！～これまでの奈良博、これからの奈良博～」	講堂	249	
7	5月5日	イベント	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」	地下回廊	31	
8	5月19日	イベント	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」	地下回廊	42	
9	5月25日	イベント	Daiwa Sakura Aid FOR THE GENERATION FM802番組公開収録	関野ホール	138	
10	5月25日	イベント	Daiwa Sakura Aid Presents 新元号制定記念コンサート	関野ホール	70	
11	5月26日	イベント	藤田美術展関連イベント「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」	会議室	27	
12	6月17日～9月9日	展示	唐招提寺の蓮展示	敷地内の池	―	
13	7月6日	イベント	奈良とは何か？	講堂	125	奈良女子大学
14	7月13日	イベント	京博マスコット「トラりん」来訪	敷地内	―	
15	7月13日～9月8日	イベント	いのりの世界のどうぶつえん関連イベント　奈良博＜－＞奈文研　シャトルバス運行	敷地内	267	
16	7月23日	法要	夏季仏像供養	なら仏像館	100	
17	7月26日	イベント	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	50	読売新聞奈良支局
18	7月27日	イベント	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」	講堂	88	中川あや
19	8月9日、10日	イベント	Daiwa Sakura Aid Presents ジュスカグランペールコンサート	庭園	389	
20	8月17日	イベント	絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」	地下回廊	37	奈良教育大学大学院
21	9月1日	特別鑑賞	関西文化の日プラス	なら仏像館	279	
22	9月1日	イベント	英語落語	講堂	148	
23	10月2日	法要	秋季仏像供養	なら仏像館	100	
24	10月26日～11月14日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館1Fロビー	―	
25	10月26日～11月14日	イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	地下回廊	―	
26	10月26日～11月14日	展示	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	―	主催：奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ
27	10月26日～11月14日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ・庭園	16,000	結の会
28	10月27日	鑑賞会	正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	135	主催：奈良国立博物館・読売新聞社
29	10月28日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂	142	
30	10月29日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	182	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
31	11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	71	
32	11月2日	イベント	FM COCOLO Daiwa Sakura Aid GO GO ゴンチチ公開録音	関野ホール	118	
33	11月23日、24日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	2,561	
34	11月23日、24日	特別公開	庭園散策ツアー	庭園	2,333	
35	12月17日	茶会	おん祭「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	89	主催：裏千家　泉本宗悠
36	12月18日～2年1月13日	展示	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	－	
37	12月28日～2年3月1日	イベント	ゆかりの刀剣神社・博物館スタンプラリー	なら仏像館	－	主催：春日大社、読売新聞社
38	2年1月2日～5日	特別鑑賞	おん祭展　無料チラシ配布	春日大社境内	3,285	
39	2年1月9日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	148	
40	2年1月11日	イベント	奈良文化クラスター事業 春日大社、奈良国立博物館連携シンポジウム「最古の刀－日本刀成立の謎に迫る」	春日大社　感謝・共生の館	200	主催：春日大社、読売新聞社
41	2年1月22日	法要	冬季仏像供養	なら仏像館	100	
42	2年2月4日～3月22日	イベント	毘沙門天関連展示　オンラインゲーム「なむあみだ仏っ！－蓮台 UTENA－」のキャラクター等身大パネル展示	地下回廊	－	
43	2年2月4日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂	34	
44	2年2月4日～3月22日	展示	お水取り展　修二会お松明展示	展示室	－	
45	2年2月8日	イベント	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	48	
46	2年2月11日	イベント	親子ワークショップ「チョコパンケーキを作って食べよう」	地下回廊	41	
47	2年2月12日	鑑賞会	プレミアムカード会員 特別鑑賞会	講堂	166	
48	2年2月14日、15日	イベント	ブライダルショー	敷地内	－	Wakana style + 峪口治恵

※以下は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

49	2年2月4日～6日	特別鑑賞	お水取り展　無料チラシ配布	東大寺境内	－	チラシ配布したが臨時休館のため使用実績無し
50	2年3月4日	講演・鑑賞鑑賞	お水取り展鑑賞とお松明	講堂・展示室	－	結の会　告知はしたが臨時休館のため開催せず
51	2年3月7日、8日	特別公開	仏教美術資料研究センター公開	仏教美術資料研究センター	－	告知はしたが臨時休館のため開催せず

【九州国立博物館】

1) 会場提供　10 件（イベント、講演会等）

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 21 日	イベント	第 15 回太宰府門前真舞祭	研修室、和室、館外	900	主催：太宰府門前真舞祭実行委員会
2	8 月 1 日	講演会	「足利将軍」内容講演会	研修室	40	主催： 福岡県歴史研究会
3	10 月 19 日、20 日	イベント	市民茶会	茶室、和室、研修室	250	主催：太宰府茶道文化連盟
4	11 月 7 日、8 日	研究会	分子アーキテクトニクス研究会	ミュージアムホール、研修室、和室	50	主催：九州大学先導物質化学研究所 アルブレヒト研究室（分子アーキテクトニクス研究会）
5	11 月 8 日～10 日	展示会	令和モダン bonbon felt tina 展 展示販売会とワークショップ	研修室	150	主催：(有)ティナ・コーポレーション
6	11 月 15 日	イベント	ふくおか文化ボランティアフォーラム 2019 「新しいボランティア像を追う！」	ミュージアムホール	100	主催：NPO 法人文化ボランティアとびうめの会
7	11 月 20 日	イベント	特別展「三国志」事前レクチャー	ミュージアムホール	120	主催：公益財団法人佐世保地域文化事業財団
8	11 月 26 日	イベント	新作ツアー発表会	研修室	20	主催：㈱ワールド航空サービス
9	12 月 13 日	講演会	第２回講座「長崎における関帝信仰」	研修室	70	主催：博悠会
10	2 年 1 月 25 日	イベント	有岡奈保　小池優介　デュオコンサート	ミュージアムホール	150	主催：個人

2) 館主催・協力イベント　153 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 6 日	イベント	第 81 回はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
2	4 月 6 日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	23	主催：九州国立博物館
3	4 月 6 日、 7 日、13 日、 14 日	イベント	ダンス・ザ･イフク／太ンス宰府ク ひびのこづえのコスチューム・アートが太宰府で踊る　＜「海の生きものをつくろう」ワークショップ＞	研修室	200	主催：NPO 法人太宰府アートのたね
4	4 月 6 日、 7 日、13 日、 14 日	イベント	ダンス・ザ･イフク／太ンス宰府ク ひびのこづえのコスチューム・アートが太宰府で踊る　＜パフォーマンスプログラム＞	ミュージアムホール	785	主催：NPO 法人太宰府アートのたね
5	4 月 20 日	イベント	九州国立博物館　夜間開館２周年記念 九博応援大使　サラ・オレイン　ミニ・コンサート	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
6	4 月 24 日	式典	移動博物館車両　きゅーはく号　贈呈式	屋外	－	主催：九州国立博物館
7	4 月 27 日	講演会	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」 「鎌倉彫刻の巨匠　運慶・快慶とその次世代の仏師たち」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
8	5 月 1 日	イベント	新元号「令和」揮毫大会「元号を書いてみよう！」	エントランス	720	主催:九州国立博物館
9	5 月 3 日	イベント	きゅーはくで楽しく！ わく☆わくワークショップ わくわく 1　「令和」の古代文字フレームをつくろう！ わくわく 2　マイチャームをつくろう！ わくわく 3　古代文字のひらがなであ・そ・ぼ	研修室	80	主催：九州国立博物館
10	5 月 4 日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	123	主催：九州国立博物館
11	5 月 4 日、5 日	イベント	きゅーはく夢ひろば 「きゅーはく夢ステージ」 「はらのむし夢ラリー」 「願いよかなえ！夢こいのぼり in 九博」 「オリジナルはらのむしうちわを作ろう！」	ミュージアムホール、他	880	主催：九州国立博物館
12	5 月 4 日、5 日	イベント	「きゅーはく号」体験イベント 韓服を着てみよう！	屋外	－	主催：九州国立博物館
13	5 月 6 日	イベント	「あなたの知らない折り紙の世界」～一枚の折り紙が織りなす不思議～	エントランス	30	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
14	5月6日	講演会	新元号記念特別企画「令和」関連特別講演会 「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
15	5月11日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	12	主催：九州国立博物館
16	5月17日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	115	主催：九州国立博物館
17	5月24日	講演会	国立扶餘博物館・国立公州博物館研究者招聘記念講演会 『ふたつの百済-その歴史と文化-』	研修室	38	主催：九州国立博物館、九州国立博物館振興財団
18	5月25日	講演会	特別展「大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念講演会「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
19	5月26日	イベント	第87回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
20	5月26日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念　第14回さいふごま大会	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
21	5月31日	イベント	ライブペイントプロジェクト	エントランス	100	主催：九州国立博物館
22	6月1日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	62	主催：九州国立博物館
23	6月1日	イベント	太宰府天満宮　九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：川波幸恵（バンドネオン）	ミュージアムホール	440	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
24	6月1日	イベント	九博ホタル鑑賞会	北側散策路	200	主催：九州国立博物館
25	6月2日	イベント	太宰府天満宮　九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：竜馬四重奏（ヴァイオリン、笛、鼓）	ミュージアムホール	720	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
26	6月2日	イベント	第82回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
27	6月7日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館
28	6月8日	イベント	太宰府天満宮　九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：佐藤和哉（篠笛）	ミュージアムホール	950	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
29	6月9日	イベント	太宰府天満宮　九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：ドラン（モンゴル馬頭琴）	ミュージアムホール	600	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
30	6月9日	イベント	馬頭琴ワークショップ	ミュージアムホール	10	主催：九州国立博物館
31	6月25日～30日	イベント	上海・福岡友好書道聯展	エントランス	－	主催：九州国立博物館
32	7月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	48	主催：九州国立博物館
33	7月13日	イベント	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」 おっきい　こんのすけ撮影会	エントランスホール	－	主催：九州国立博物館
34	7月13日～ 9月1日	展示	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」 刀剣男士・大般若長光の等身大パネル設置	エントランスホール	－	主催：九州国立博物館
35	7月13日	イベント	ガムランワークショップ ジャワのガムラン演奏体験～アジアの青銅楽器の魅力～	ミュージアムホール	13	主催：九州国立博物館
36	7月14日	講演会	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」 記念講演会「室町将軍家の東アジア外交」	ミュージアムホール	202	主催：九州国立博物館
37	7月15日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「室町将軍」記念　第15回さいふごま大会	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
38	7月19日	イベント	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	2	主催：九州国立博物館
39	7月19日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	130	主催：九州国立博物館
40	7月20日	講演会	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」リレー講座 「足利十五代－ムロマッチクな男たち－」 「名刀乱舞！足利将軍」	ミュージアムホール	230	主催：九州国立博物館
41	7月20日	イベント	第8回スケッチしナイト☆	文化交流展示室	19	主催：九州国立博物館
42	7月21日	イベント	トレジャーハンターみっちーとDr.ランディのきゅーはくディスカバリー 「タイムマシンにのって」	ミュージアムホール	110	主催：九州国立博物館
43	7月23日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「水彩画」	研修室	62	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
44	7月24日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「パステル画」	研修室	51	主催：九州国立博物館
45	7月25日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「ボタニカルアート」	研修室	51	主催：九州国立博物館
46	7月26日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「日本画」	研修室	46	主催：九州国立博物館
47	7月27日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「テンペラ画」	研修室	51	主催：九州国立博物館
48	7月27日、28日	イベント	「いこうよ！あじっぱ夏祭り2019」	ミュージアムホール	940	主催：九州国立博物館
49	7月28日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「漫画（童画）」	研修室	53	主催：九州国立博物館
50	7月28日	イベント	第88回親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
51	7月30日～8月4日	イベント	「菊池一族 － 室町将軍を悩ませた肥後もっこす －」パネル展	エントランス	－	主催：菊池市役所菊池一族プロモーション室
52	8月1日	イベント	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	19	主催：九州国立博物館
53	8月3日	講演会	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」 記念講演会「室町将軍の再評価－本当に弱かったのかー」	ミュージアムホール	301	主催：九州国立博物館
54	8月3日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	32	主催：九州国立博物館
55	8月4日～7日	展示	博多祇園山笠「飾り山笠」展示関連	エントランス	－	主催：九州国立博物館
56	8月4日	イベント	日本の四季　夏だ！マイうちわを作ろう！	エントランス	50	主催：九州国立博物館
57	8月4日	シンポジウム	2019全国高等学校　歴史学フォーラム	ミュージアムホール、研修室	300	主催：九州国立博物館
58	8月6日	イベント	井上涼さんとめぐるびじゅチューン！きゅーはくナイトミュージアム	文化交流展示室、他	台風のため中止	主催：九州国立博物館
59	8月7日	イベント	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	31	主催：九州国立博物館
60	8月6日～10月14日	イベント	びじゅチューン！きゅーはくなりきり美術館	文化交流展示室、他	－	主催：九州国立博物館
61	8月10日	イベント	なりきり考古学者体験【拓本体験】	あじっぱ	15	主催：九州国立博物館
62	8月10日	イベント	特集展示「更紗　生命の花咲く布」関連イベント茜染めワークショップ	研修室	20	主催：九州国立博物館
63	8月11日	イベント	きゅーはくで楽しく！ わくわく☆ワークショップ	研修室	100	主催：九州国立博物館
64	8月11日	講演会	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」 華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストレーション 「いけばなにおける室町時代」	ミュージアムホール	271	主催：九州国立博物館
65	8月12日	シンポジウム	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」開催記念 シンポジウム「京都・等持院　歴代足利将軍像の謎に迫る」	ミュージアムホール	254	主催：九州国立博物館
66	8月17日、18日	イベント	吉野ヶ里　Days in 九博	ミュージアムホール	1,130	主催：佐賀県立博物館・美術館、海の中道海浜公園事務所（国営吉野ヶ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同体、吉野ヶ里公園管理センター
67	8月17日	イベント	令和 元年度留学生スペシャルイベント「茶室探訪 in 九博」	茶室、特別展示室、他	7	主催：九州国立博物館
68	8月23日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	95	主催：九州国立博物館
69	8月24日	イベント	古代文字のひらがなであ・そ・ぼ！	エントランス	120	主催：九州国立博物館
70	8月24日	イベント	第89回親子で茶道体験	茶室	53	主催：九州国立博物館
71	8月27日～9月8日	展示	東九州神楽人の祭展 京築・庄内・高鍋神楽の魅力を紹介	エントランス	－	主催：京築連携アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
72	8月28日	イベント	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」視覚に障害をお持ちの方に向けた特別観覧ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	6	主催：九州国立博物館
73	9月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	23	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
74	9月7日、8日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽公演「京築神楽」「高鍋神楽」「庄内神楽」「京築神楽」	ミュージアムホール	750	主催：京築連携アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
75	9月7日、8日	イベント	神楽体験ワークショップ「御幣づくり」	研修室	30	主催：京築連携アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
76	9月8日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽装束体験（庄内神楽）	エントランス	－	主催：京築連携アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
77	9月14日	イベント	修復の現場お見せします！ 特別公開『博物館科学・文化財保存修復施設』	バックヤード、修復施設等	53	主催：九州国立博物館
78	9月14日	イベント	第83回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
79	9月14日	イベント	ミュージアムコンサート オカリナ×秋のアンサンブル	ミュージアムホール	330	主催：九州国立博物館
80	9月22日	イベント	九州国立博物館特別展「三国志」開催記念 第6回みゅーじあむ寄席 ミュージカル落語「三国志」	ミュージアムホール	256	主催：九州国立博物館
81	9月25日	イベント	4階文化交流展示室 特別無料観覧 with「太宰府 古都の光」	4階文化交流展示室および屋外、他	－	主催：太宰府ブランド創造協議会事務局
82	9月25日	イベント	九州国立博物館文化交流展特集展示 「更紗　生命の花咲く布」記念イベント ～インドの風～神秘の舞とシタール演奏 プログラム1「インド舞踊パフォーマンス」 プログラム2「更紗トーク＆オールライブパフォーマンス」 プログラム3「クリスタルボウルヒーリングパフォーマンス」	4階文化交流展示室および屋外、他	100	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会、世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業実行委員会
83	9月28日	講演会	特集展示「文化財よ、永遠に」講演会 「修理、果てしなき挑戦」	ミュージアムホール	80	主催：公益財団法人住友財団、九州国立博物館
84	9月28日	イベント	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	6	主催：九州国立博物館
85	9月29日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	12	主催：九州国立博物館
86	10月5日	イベント	ワークショップ「修理のヒミツにふれてみよう！」	研修室	25	主催：九州国立博物館
87	10月5日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	108	主催：九州国立博物館
88	10月11日	イベント	日比野克彦ワークショップ開催　～太宰府と海～	研修室	50	主催：NPO法人太宰府アートのたね
89	10月14日	イベント	びじゅチューン！なりきり美術館＆三国志コンサート	ミュージアムホール	581	主催：九州国立博物館
90	10月18日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
91	10月20日	講演会	日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」関連　講演会「ここまで分かった“リアル三国志” －新発見の考古資料から読み解く－」	ミュージアムホール	238	主催：九州国立博物館
92	10月20日	イベント	折り紙イベント 日本の四季 月見うさぎをつくろう！	エントランス	50	主催：九州国立博物館
93	10月22日～ 11月4日	展示	山鹿の灯「灯籠展示」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
94	10月23日	講演会	IPMセミナー	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
95	10月26日	イベント	山鹿の灯「山鹿灯籠　灯籠踊り」「八千代座こども歌舞伎」	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
96	10月26日	イベント	山鹿の灯「山鹿灯籠<擬宝珠ランプ>製作体験」	エントランス	30	主催：九州国立博物館
97	10月27日	イベント	第90回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
98	10月27日	イベント	九州国立博物館杯　日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念第16回さいふごま大会	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
99	11月2日	イベント	きゅーはくの森でネイチャービンゴ！ ～きゅーはくの森で秋めぐり～	館外（きゅーはくの森）	15	主催：九州国立博物館
100	11月2日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	77	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
101	11月3日	イベント	第10回留学生イベント 留学生向け「文化交流ツアーin 九博2019」 留学生限定イベント「マイ勾玉作り」	研修室、バックヤード他	18	主催：九州国立博物館
102	11月5日	イベント	醍醐の桜　植樹式	屋外	30	主催：九州国立博物館
103	11月6日	イベント	特集展示「縄文王国やまなし」開催観光イベント	エントランス	－	主催：笛吹市・甲州市組合立釈迦堂遺跡博物館
104	11月9日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「中国悠久の調べ」	ミュージアムホール	380	主催：九州国立博物館
105	11月10日	イベント	九博でアートを楽しもう展 「イラストレーター谷口親子トーク」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
106	11月10日	イベント	第84回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
107	11月17日	講演会	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
108	11月19日	講演会	令和 元年度文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災ー現状の課題と今後の連携に向けてー」	研修室	41	主催：九州国立博物館
109	11月19日 ～12月1日	展示	宮地嶽第52回光の道全国競書大会作品展	エントランス	－	主催：宮地嶽光の道全国競書大会実行委員会
110	11月22日、 12月14日	イベント	夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム～英雄(ヒーロー)現る‼」【手話通訳付き！】	特別展示室	700	主催：九州国立博物館
111	11月23日	イベント	日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」関連イベント 「夜な夜な三国志」	ミュージアムホール、エントランス、他	400	主催：九州国立博物館
112	11月24日	イベント	実測体験　なりきり考古学者体験	あじっぱ	15	主催：九州国立博物館
113	11月24日	イベント	第3回 きゅーはくで楽しく！ わくわく☆ワークショップ	研修室	80	主催：九州国立博物館
114	11月30日	講演会	特集展示「縄文王国やまなし」関連講演会 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」	ミュージアムホール	25	主催：甲信縄文文化発信・活性化協議会
115	11月30日～ 12月1日	イベント	特集展示「縄文王国やまなし」関連イベント「黒曜石にさわってみよう」、「縄文服を着てみよう」、「縄文土器の拓本カードを作ろう」	エントランス	475	主催：甲信縄文文化発信・活性化協議会
116	12月1日	イベント	映画「縄文にハマる人々」無料上映会 ＆トークイベント	ミュージアムホール	142	主催：九州国立博物館
117	12月5日、 12月11日	イベント	視覚に障害をお持ちの方に向けた 特別展「三国志」観覧ツアー	特別展示室	30	主催：九州国立博物館
118	12月6日、7日	展示	夜の九博☆ファンタジア2019 「キラキラ博物館」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
119	12月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	24	主催：九州国立博物館
120	12月7日	イベント	夜の九博☆ファンタジア2019 「Angelicハンドベルコンサート／福岡女学院大学ハンドベル部」「ミュージアムゴスペルコンサート①／Sounds of DAZ」「ミュージアムゴスペルコンサート②／TEAM SURPRISE with HAKATA Sing For Joy」「夜の九博X’masコンサート／小林知加（アルパ）＆永田望（バイオリン）」	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
121	12月7日	イベント	夜の九博☆ファンタジア2019 「ステンドグラスワークショップ」	研修室	50	主催：九州国立博物館
122	12月8日	イベント	古代文字のひらがなであ・そ・ぼ！	エントランス	93	主催：九州国立博物館
123	12月14日	講演会	日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念特別講演会 「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」 「三国志の時代と卑弥呼の鏡」	ミュージアムホール	306	主催：九州国立博物館
124	12月14日、15日	イベント	孫次凧ワークショップ	エントランス	70	主催：九州国立博物館
125	12月20日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
126	12月22日	イベント	第91回親子で茶道体験	茶室	63	主催：九州国立博物館
127	12月22日	イベント	第7回みゅーじあむ寄席　年忘れ落語会 「春風亭一之輔、三遊亭天どん二人会」	ミュージアムホール	256	主催：九州国立博物館
128	2年1月1日～5日	イベント	きゅーはくニッポンの正月 刀剣オリジナルカレンダープレゼント	文化交流展示室	－	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
129	2年1月1日～13日	展示	きゅーはくニッポンの正月 「ニッポンの凧」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
130	2年1月2日、3日	イベント	きゅーはくニッポンの正月 「九博で書初め」	エントランス	1,035	主催：九州国立博物館
131	2年1月2日、3日	イベント	きゅーはくニッポンの正月 ジャンボだるま落としに挑戦！	ミュージアムホール	149	主催：九州国立博物館
132	2年1月4日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	23	主催：九州国立博物館
133	2年1月7日～13日	イベント	第4回ＭＯＡ美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	－	主催：九州国立博物館
134	2年1月12日	イベント	第4回ＭＯＡ美術館児童作品展 in 九州国立博物館　表彰式 関連イベント①ＮＰＯ法人太宰府アートのたね　ジェルグラスとウィンドスターをつくろう！②茶の湯を楽しもう	ミュージアムホール、他	180	主催：九州国立博物館
135	2年1月15日～26日	展示	第34回筑紫地区中学校美術展	エントランス	－	主催：筑紫地区中学校美術教育研究会
136	2年1月15日～ 1月19日	展示	令和元年度　文化庁　地域と共働した博物館創造活動支援事業 連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～」	ミュージアムホール	－	主催：斎宮歴史博物館
137	2年1月18日	講演会	令和元年度　文化庁　地域と共働した博物館創造活動支援事業 連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～」	ミュージアムホール	150	主催：斎宮歴史博物館
138	2年1月19日、 2月9日	イベント	特集展示「刀剣ことはじめ」関連イベント ワークショップ＆実演公開「刀剣を見て触れて体感してみよう！」 〈体験〉五寸釘でペーパーナイフ作成、鐔型チャームへの銀象嵌体験、刀剣の研磨体験、刀の重さ体験 〈実演公開〉研磨実演、象嵌実演など	研修室	338	主催：九州国立博物館
139	2年1月25日	イベント	第85回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
140	2年1月31日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
141	2年2月1日	イベント	第4回「きゅーはくで楽しく！わくわく☆ワークショップ」	研修室	35	主催：九州国立博物館
142	2年2月1日	イベント	手話通訳付きバックヤードツアー	館内	70	主催：九州国立博物館
143	2年2月4日 ～2月9日	展示	菊池氏発祥950年第4回菊池一族と延寿鍛冶展 PR ブース	エントランス	—	主催：菊池一族まつり実行委員会（菊池観光協会）
144	2年2月5日、6日	イベント	広川町の工芸品 PR 及び販売	エントランス	—	主催：広川町観光協会
145	2年2月8日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	3	主催：九州国立博物館
146	2年2月9日	講演会	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 記念講演会「フランス絵画の栄光―古典主義からロマン主義まで」	ミュージアムホール	247	主催：九州国立博物館
147	2年2月11日～16日	展示	九州女子大学　第52回卒業書作展	エントランス	—	主催：九州女子大学人間発達学科人間基礎専攻
148	2年2月11日～24日	展示	アイヌ文化魅力発信プロジェクト	エントランス	—	主催：文化庁企画調整課
149	2年2月14日、15日	展示	第44期「棋聖戦」7番勝負第4局太宰府対局	和室、ミュージアムホール	130	主催：読売新聞東京本社棋聖戦事務局
150	2年2月15日	イベント	第9回スケッチしナイト☆	文化交流展示室	16	主催：九州国立博物館
151	2年2月15日	イベント	「焼き物コースターを作ろう ～印花に挑戦！～」第1回【焼き物講座・装飾体験「印花に挑戦！」】	研修室	23	主催：九州国立博物館
152	2年2月18日 ～3月1日	展示	令和元年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～ぶらり古墳めぐり～」	エントランス	—	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
153	2年2月24日	講座	ユニバーサルガイド養成プレセミナー	研修室	40	主催：世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業実行委員会

※以下は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

154	2年2月22日	イベント	特別展「フランス絵画の精華」関連コンサート　古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひととき	ミュージアムホール	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
155	2年2月23日	講演会	九州国立博物館「大宰府学研究」事業 シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」	ミュージアムホール	同上	主催：九州国立博物館
156	2年2月26日	イベント	博多伝統芸能～博多芸妓の世界～	ミュージアムホール	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
157	2年2月29日	イベント	第92回親子で茶道体験	茶室	同上	主催：九州国立博物館
158	2年2月29日	イベント	第12回 九博子どもフェスタ ～博物館って ともだちだ！～	ミュージアムホール、エントランス、研修室、展示室	同上	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館ボランティア
159	2年3月1日	イベント	九州国立博物館杯　特別展「フランス絵画の精華」記念　第17回さいふごま大会	ミュージアムホール	同上	主催：九州国立博物館
160	2年3月3日 ～3月15日	イベント	特別展「フランス絵画の精華」関連イベント　フランス・スタンド 展示：3/3(火)～3/15(日) 講演会：3/8(日)、13(金)、15(日) ワークショップ：3/8(日)、15(日)	エントランス、研修室	同上	主催：アンスティチュ・フランセ九州
161	2年3月6日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	同上	主催：九州国立博物館
162	2年3月7日	イベント	きゅーはく女子考古部 presents 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	同上	主催：九州国立博物館
163	2年3月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	同上	主催：九州国立博物館
164	2年3月8日	イベント	第86回はじめての茶道体験	茶室	同上	主催：九州国立博物館
165	2年3月14日	イベント	「焼き物コースターを作ろう ～印花に挑戦！～」第2回【うわぐすり掛け体験・うわぐすりのお話】	研修室、交流サロン	同上	主催：九州国立博物館
166	2年3月20日、21日、22日、28日、29日	イベント	さくらまつりスタンプラリー	太宰府市内各所	同上	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会、世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業実行委員会
167	2年3月20日	イベント	「焼き物コースターを作ろう ～印花に挑戦！～」第3回【作品受取・お披露目会】	研修室、交流サロン	同上の理由により延期	主催：九州国立博物館
168	2年3月28日	イベント	太宰府・令和さくらまつり (1) 大伴旅人になりきろう！万葉衣装体験 (2) 万葉の世界を体験しよう！ (3) 桜コンサート♪	エントランス、ミュージアムホール、研修室他	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会、世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業実行委員会

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和2年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		元年度新規	総数	元年度新規	総数	元年度新規	総数	元年度新規	総数
写真原板(フィルム)		104件	323,877件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		13,943件	114,105件	5,990件	42,892件	4,752件	57,262件	2,100件	22,552件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	3,821冊	212,589冊	2,650冊	153,456冊	2,027冊	91,902冊	2,708冊	190,837冊
	漢書	193冊	41,002冊	200冊	22,303冊	32冊	5,301冊	0冊	0冊
	洋書	253冊	14,795冊	113冊	4,762冊	48冊	2,037冊	40冊	2,785冊
	計	4,267冊	268,386冊	2,963冊	180,521冊	2,107冊	99,240冊	2,748冊	193,622冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

*1 マイクロフィルムは劣化(ビネガーシンドローム)のため、30年度に59件を廃棄（デジタル化済）

*2 館外に別置しシステムに登録していなかった図書（70,312冊）も加えた。30年度に増えた和書は5,068冊、洋書は108冊の計5,176冊である。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
利用者数	5,936人	4,730人	4,971人	4,616人	4,080人
閉架図書（閲覧）	4,521件	4,862件	4,905件	5,314件	4,649件
マイクロフィルム（閲覧）	399件	588件	502件	456件	398件
レファレンスサービス	4,006件	5,014件	4,861件	5,113件	5,152件
コピーサービス	25,395枚	30,818枚	30,066枚	33,832枚	27,286枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和2年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	331	7	324	123	4	121	88	2	86	57	1	56	61	0	61
写真撮影	85	3	82	2	1	5	28	1	27	25	1	24	26	0	26
映画撮影	5	4	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							1	1	0				0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	16	0	16	6	0	6	3	0	3	2	0	2	4	0	4
模造							1	0	1				0	0	0
熟覧	277	0	277	162	0	162	55	0	55	30	0	30	30	0	30

点数

令和2年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,789	11	1,778	850	4	1,195	226	3	223	177	4	173	187	0	187
写真撮影	230	6	224	18	1	17	73	1	72	62	4	58	77	0	77
映画撮影	6	5	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							2	2	0	0	0	0	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	23	0	23	6	0	6	3	0	3	2	0	2	11	0	11
模造							1	0	1				0	0	0
熟覧	1,530	0	1,530	823	0	1,172	147	0	147	113	0	113	98	0	98

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和2年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,147	825	322				735	580	155	322	184	138	1	1	0
		カラー													89	60	29
	プリントでの提供	モノクロ	74	66	8				72	66	6	2	0	2			
		カラー	2	0	2				0	0	0	2	0	2			
画像再利用			107	71	36							106	70	36	1	1	0

点数

令和2年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	4,365	2,425	1,940				2,852	1,697	1,155	1,192	500	692	3	3	0
		カラー													318	225	93
	プリントでの提供	モノクロ	170	104	66				116	104	12	54	0	54			
		カラー	118	0	118				0	0	0	118	0	118			
画像再利用			542	107	435							541	106	435	1	1	0

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・びじゅチューン！×きゅーはく　なりきり美術館

会期	8月6日（火）～10月14日（月）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け媒体、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	キヤノン(株)綴プロジェクトによる高精細複製品を活用。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約2000件、ポスター約100件、近隣小学校、施設等配布、館内配布
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計20回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	なりきり美術館フォトコンテストの開催
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	LOVE FM 76.1エリアレポート、アフター6ジャンクション
雑誌	―
インターネットメディア	九州福岡おたくメディア、計量計測データバンク、Eテレウォッチング、だざいふなび、など
その他	

・びじゅチューン！× TAD　なりきり美術館

会期	8月10日（土）～10月20日（日）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け媒体、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約2000件、ポスター約100件、近隣小学校、施設等配布、館内配布
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計20回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	なりきり美術館フォトコンテストの開催
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	富山経済新聞
テレビ、ラジオ	NHKニュース（富山放送局）、アフター6ジャンクション
雑誌	
インターネットメディア	Eテレウォッチング、金沢日和、金沢富山最新イベントお出かけ情報
その他	

・伎楽面「呉女」・「迦楼羅」の復元模造完成

会期	10月8日（火）～11月24日（日）（27日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	東京国立博物館「総合文化展」および「正倉院の世界展」で初公開
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―

新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計4回、ぶんかつブログ（前編/後編）での紹介計2回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	zakzak、@nifty ビジネス 、excite.ニュース、読売新聞オンライン、Infoseekニュースほか、計54媒体
その他	ニュースリリースリツイート150件

・8Kで文化財　国宝「聖徳太子絵伝」

会期	10月29日（火）～11月24日（日）（27日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	英語版コンテンツ初公開
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内で来館者に配布（チラシ）、国内の美術館・博物館、大学、マスコミ媒体等に送付
交通広告	上野駅・鶯谷駅へのB1ポスター掲出（4枠）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつ・東博WEBサイトでの紹介、東博メールマガジン、ぶんかつ・東博SNS(Twitter/Instagram)の情報発信計6回、ぶんかつブログでの紹介
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	livedoor、グノシー、朝日新聞デジタル&M 、LINEニュース、ロイター.co.jp、ほか、計67 媒体
その他	SNS関連掲載約50件

・公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」

会期	11月23日（土・祝）
ターゲット	一般の美術・歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	文化財活用センター公開シンポジウム初開催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内で来館者に配布（チラシ）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計4回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―

インターネットメディア	朝日新聞デジタル&M 、読売新聞オンライン、ニコニコニュース 、SankeiBiz 、SANSPO.COM ほか、計55媒体
その他	SNS関連掲載約20件

【東京国立博物館】
(1) 総合文化展（平常展）

・「博物館でお花見を」

会期	3月12日(火)～4月7日(日) 27日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	871件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	交通広告（B1駅貼り）：JR（上野・鶯谷)、東京メトロ(表参道、銀座駅、六本木駅、新宿駅)、東急(中目黒駅、自由が丘駅、武蔵小杉駅、二子玉川駅) 交通広告（サイネージ）：東京駅八重洲北口、新宿駅東口、六本木駅、秋葉原駅
新聞・雑誌広告	朝日新聞(夕刊)2回、読売新聞(夕刊)2回、日本経済新聞(夕刊)、ジャパンタイムズ2回、ジャパンニューズ
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	@Pressによるリリース配信、フェイスブックでのバナー広告を実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、ジャパンタイムズ、ジャパンニューズ
テレビ、ラジオ	TBSラジオ「アフター6ジャンクション」、JCOMチャンネル、フジテレビ「もしもツアーズ」、日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」
雑誌	うえの、ぴあ「おとなの桜旅」
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、ママともプラス　ほか
その他	―

・特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」

会期	6月18日(火)～9月23日(月・祝) 86日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	8件発送(室生寺：ポスター100枚・チラシ3000枚、長谷寺：ポスター500枚・チラシ6000枚、岡寺ポスター10枚・チラシ300枚、安倍文珠院10枚・チラシ500枚、奈良まほろば館チラシ1000枚)
交通広告	交通広告（B1駅貼り）：東急線（渋谷）、JR（上野・鶯谷・新宿・東京）、メトロ（上野、表参道・銀座・六本木・神保町・明治神宮・日本橋）、都営（浅草） 交通広告（サイネージ）：東JR上野駅
新聞・雑誌広告	朝日（朝刊）、読売（夕刊）、日経（朝刊）×3、OZTRIP、PEACH SELECT
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日経新聞、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術博物館、ゆうがた5
雑誌	月刊うえの、美術の窓、サライ、散歩の達人、芸術新潮、婦人公論、和楽、新美術新聞、女性セブン　ほか
インターネットメディア	WEB版美術手帖、OBIKAKE、モモモサーバー、レッツエンジョイ、和楽WEB、Internet Museum、Walkerplus ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―

人数等	―
④報道内覧会	
実施日	6月18日（火）
人数等	49媒体　69名

・親と子のギャラリー／日本文化体験　「日本のよろい！」

会期	7月17日(水)～9月23日(月・祝) 69日間
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親、外国人
重点項目	夏休みの家族向け媒体、訪日観光客向け媒体、インターネット媒体
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1094件(1都3県博物館・美術館・中学･小学校(台東･墨田･文京)、インターナショナルスクール、ホテル、大使館等)
交通広告	上野駅デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	訪日観光客向け日英併記ウェブサイト（LIVE JAPAN、TimeOutTokyo、att.JAPAN　各日英1ページずつ）、ジャパンタイムズ、Spotlight（ジャパンタイムズ折り込み媒体）、こども新聞、トーキョーブックマーク
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによるリリース発信など
その他	ツイッター広告（@Press配信）、ツアー形式の報道向け体験会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	教育家庭新聞
テレビ、ラジオ	テレビ：NHK、TOKYOMX/BS11、フジテレビ ラジオ：J-WAVE、NHKラジオ第二「ベトナム語／インドネシア語ニュース」
雑誌	ママともぷらす、Walker Plus、目の眼　ほか
インターネットメディア	JNTOウェブサイトおよびFacebook、サンケイリビング Living東京Web、モモモサーバー、チラシミュージアム、att.JAPAN Facebook
その他	―

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月10日(火)～10月14日（月・祝）(35日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1199件(1都3県博物館・美術館、ギャラリー・画廊、高校(台東･墨田･文京)、インターナショナルスクール、大使館、専門学校（都内アート服飾系）、ホテル・旅館等)
交通広告	交通広告（B1駅貼り）：東京メトロ（表参道・日本橋駅・上野駅）、東急（渋谷駅・中目黒） 交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅・東京駅）、東京メトロ（六本木駅・恵比寿駅・明治神宮前（原宿））、京成電鉄（京成上野駅）
新聞・雑誌広告	朝日新聞（夕刊）、ジャパンタイムズ、ジャパンニューズ Peach SELECT東京’19（LCC機内誌）、OZ magasine TRIP秋’19
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ツイッター・フェイスブックでの広告配信、当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など。
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞、船橋よみうり
テレビ、ラジオ	ニュースたいとう
雑誌	うえの
インターネットメディア	インターネットミュージアム、ウェブ版美術手帖、レッツエンジョイ東京、Walkerplus、CONFORT、OBIKAKE、モモモサーバー
その他	―

・住友財団修復助成30年記念特別企画「文化財よ、永遠に」

会期	10月1日(火)～12月1日（日）(55日間)
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1146件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	JR駅貼り（上野、鶯谷、東京、新宿）、上野駅サイネージ、メトロ（上野、表参道・六本木・神保町・明治神宮）、都営（浅草）、東急（渋谷）
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞　各1回
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信　など。
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、日経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術博物館、日曜美術館
雑誌	月刊うえの、典蔵、美術の窓、美術展ナビ、時空旅人、一個人、ぴあ　ほか
インターネットメディア	confort、Walkerplus、レッツエンジョイ東京、OBIKAKE、ココシル上野　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	3月18日（平成館大講堂）
人数等	38媒体 46名出席
④報道内覧会	
実施日	9月30日
人数等	51媒体 65名

・「博物館に初もうで」

会期	2020年1月2日（木）～1月26日（日）（23日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,149件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	東京駅八重洲北・南北通路サイネージ、上野駅サイネージ、秋葉原セット（電気街口・中央改札・昭和通り）JR駅貼り（上野、鶯谷、秋葉原）東京メトロ・東急・京成・都営駅貼り（【メトロ】上野駅、表参道、六本木、日本橋、九段下、明治神宮前、根津、【都営】浅草、上野御徒町、【東急】二子玉川、自由が丘、【京成】京成上野
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、ジャパンニューズ各1回、ジャパンタイムズ2回、Hanako
テレビ広告	
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信　SNS広告など
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ひるまえほっと、ニュースたいとう　ほか
雑誌	美術手帖、婦人画報、冬ぴあ　ほか
インターネットメディア	ファッションプレス、美術手帖、モモサーバー、インターネットミュージアム、レッツエンジョイほか
その他	

(2) 特別展、共催展等

・特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」

会期	3月5日（火）～4月29日（月・祝）（56日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター、和菓子協会等)に送付、館内配布
交通広告	JR東日本NSWボード(32駅、32面)、上野駅ホーム前ボード、東京メトロプラチナボード(15駅20面)、京成電鉄タイアップチラシ、京成電鉄中吊づり、京成電鉄駅貼
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信、SNS:当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、産経新聞など
テレビ、ラジオ	テレビ朝日「ワイドスクランブル」、日本テレビ「深層NEWS」
雑誌	サライ(小学館、3月号)、毎日が発見(毎日が発見、3月号)、時空旅人(三栄書房、3月号)、BRUTUS(マガジンハウス、3月号）、花saku(PR現代、3月号)、一個人(KKベストセラーズ、3月号)、究極漢字(コスミック出版、3月号)など
インターネットメディア	美術手帖(株式会社BTCompany)、ファッションプレス(株式会社カーリン)、レッツエンジョイ東京(株式会社ぐるなび)など
その他	―
③報道発表会	
実施日	2018年11月29日(木)　文部科学省記者会見室
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	3月4日(月)
人数等	96人

・特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」

会期	3月26日（火）～6月2日（日）（69日間）
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	JR 駅ボード、駅サイネージ　JR上野駅 J・ADビジョン、JR山手線マルチビジョン、JR東日本ADビジョン、東京メトロボード、京王タイアップ広告、首都圏私鉄広告ボード、上野さくらテラス柱巻き広告、上野エリアフラッグ　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞　ほか
テレビ広告	NHK　スポット枠
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(東京国立博物館、読売新聞社、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	外部での講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞、読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	テレビ東京「新 美の巨人たち」、NHK「日曜美術館」本編、NHK「運慶特集」、フジテレビ「1hセンス」、BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」、FMヨコハマ「Lovely Day」 ほか
雑誌	一個人、宝島社MOOK、サライ、Discover Japan、芸術新潮、東洋経済、ELLE JAPON、BRUTUS、ぴあMOOK 空海と東寺、歴史人、ノジュール、発見上手、エクラ、BAILA、MyAge　ほか
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、Ozmall、インターネットミュージアム、PRESIDENT Online、東洋経済オンライン、ダイヤモンド・オンライン、ファッションプレス　ほか

その他	―
③報道発表会	
実施日	2018年10月17日（平成館大講堂）
人数等	58媒体 78名出席
④報道内覧会	
実施日	3月25日
人数等	141媒体 241名出席

・特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 ―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―」

会期	5月3日（金・祝）～6月2日（日）（31日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件（美術館・博物館、東京都および神奈川、千葉、埼玉中学校、高校、近隣小学校、大学など）
交通広告	JR東日本NSWボード(32駅、32面)、上野駅ホーム前ボード、東京メトロUボードゴールド(17駅20面)、京成電鉄タイアップチラシ、京成電鉄中吊づり、京成電鉄駅貼
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、地方紙ほか
テレビ、ラジオ	調布ＦＭ
雑誌	美術の窓(生活の友社、1月号)、時空旅人(三栄書房、3月号)、BRUTUS(マガジンハウス、3月号)、月刊うえの（5月号）、書道界（5月号）、月刊ギャラリー（5月号）、月刊美術（5月号）、週刊現代（4/15）ほか
インターネットメディア	美術手帖(株式会社BTCompany)、ファッションプレス(カーリン)、シニアコム、博物館美術館写真広報、コモレバwebほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2018年11月29日(木)　文部科学省記者会見室
人数等	
④報道内覧会	
実施日	5月8日(水)
人数等	95媒体114人

・日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」

会期	7月9日（火）～9月16日（月・祝）（70日間）
ターゲット	中国考古・美術に興味のある層、三国志愛好家、中国歴史愛好家など
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約7300件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	ＪＲ ＳＷボード３０駅、ＪＲ秋葉原駅ホーム前ボード１面、ＪＲ秋葉原駅エスカシート４面、ＪＲ山手線まど上チャンネル、ＪＲ山手線Ｂ３まど上ポスター、 東京メトロプラチナボード１０駅、東京メトロ日比谷線新型車両ドア横Ｂ３ポスター、私鉄５社フレコミボード 東急、小田急、京王、相鉄、京急の43駅 東急線ドア横Ｂ３ポスター、東急線横浜駅メガセット（ボード）、東武線東武日比谷線、東武半蔵門線ドア横Ｂ３ポスター、京王線駅貼りB1ポスター 、 京王線電車内中吊りＢ３ポスター、京王線新宿駅ステラボード、ＪＲ上野駅改札内アドビジョン、上野駅前「桜テラス」前柱巻き、上野のれん会ペナント
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事14回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(東京国立博物館、NHKプロモーション、朝日新聞社)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館ツイッター,フェイスブック、インスタグラムでの情報発信ほか
その他	コーエーテクモゲームスのゲーム（三國志、三國無双シリーズ）・横山光輝の漫画・川本喜八郎の人形劇とコラボレーション、ツイッター、フェイスブックへ広告出稿、外部での講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞、毎日小学生新聞、東洋経済日報、船橋よみうり、群馬東部よみうり、北総よみうり、陸奥新報、公明新聞、都政新聞、新美術新聞、日本教育新聞、ほか
テレビ、ラジオ	NHKBSプレミアム「三国志　特集番組」、NHKBSプレミアム「偉人たちの健康診断」、NHKEテレ「日曜美術館　アートシーン」、NHK総合「歴史秘話　ヒストリア」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、J-WAVE、TBSラジオ、ほか
雑誌	美術展完全ガイド2019、日経おとなのOFF、美術の窓、2019美術展ぴあ、JTB Style、時空旅人、ユリイカ、「宝島社ムック 『史実 三国志』」、月刊「うえの」、Pen、週刊SPA！、週刊文春、芸術新潮、AERA、など多数
インターネットメディア	NHK NEWSWEB、ニコニコ生放送、アートアジェンダ、「好書好日」、歴人マガジン、美術手帖WEB、レッツエンジョイ東京、展玩、ダイヤモンドソサイエティ、モモモサーバー、ココシル、SPICE、インターネットミュージアム、アートの定理、和楽WEB、ロケットニュース、LINEニュース、チラシミュージアムなど多数
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月20日(水)（平成館大講堂）
人数等	57媒体　95人出席
④報道内覧会	
実施日	7月8日（月）　※吉川晃司氏への取材会も実施
人数等	157媒体246名　※吉川晃司氏取材会は22媒体33名

・御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」

会期	10月14日（月・祝）～11月24日（日）（42日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約9000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JR NTボードIハーフセット44駅50面(10/1～31)、東武日比谷線ドア横 B3ポスター200枚(10/12～11/11)、東武半蔵門線ドア横B3ポスター250枚(10/12～11/11)、京成タイアップ、広告列車貸切(9/20～11/24)ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞ほか
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	ツイッター、フェイスブックへ広告出稿
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞　ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「読売テレビ開局60年　正倉院の奇跡～守り継がれた天皇の倉」(10/19放送)、NHK総合　NHKスペシャル「天皇が創った至宝～正倉院宝物が伝える日本誕生～」(10/30放送)、NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」(11/3放送)
雑誌	ノジュール（JTBパブリッシング、11月号）、典蔵古美術（11月号）、ディスカバージャパン（エイ出版社、11月号）、pen（CCCメディアハウス、11月号）、皇室（扶桑社、11月号）　ほか
インターネットメディア	ダイヤモンドオンライン、シネフィル、ここにしかない美術室、きものsalon、美術展ナビ、ぴあニュース、LINEチケットほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月17日(水)
人数等	51媒体、77人
④報道内覧会	
実施日	10月13日(日)
人数等	111媒体、176人

・特別展「人、神、自然－ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界－」

会期	11月6日（水）～ 2020年2月9日（日）（96日間）
ターゲット	日本美術ファン、考古ファン、海外美術ファン

重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約120件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JR　SW1Aフル30駅30面(11/15～30)、東京メトロ　電飾看板20駅20面(11月上旬から1か月間)、東武日比谷線乗り入れドア横210枚(12/1～31)、東武半蔵門線乗り入れドア横200枚(11/5～12/4)、京王線交通広告タイアップ駅貼りB1ポスター100枚、中吊りB3ポスター970枚(11月～2020年1月中適宜掲出)ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信
その他	ツイッター、フェイスブック、ウェブサイトバナー広告出広
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞　ほか
テレビ、ラジオ	FM群馬「G★FORCE」
雑誌	アサヒカメラ(朝日新聞出版、11月号)、「毎日が発見」(毎日が発見、11月号)、「ムー」(学研プラス、12月号)、「美しいキモノ」(ハースト婦人画報社、冬号)、「一個人」(ベストラセラーズ、2020年1月号)ほか
インターネットメディア	OBIKAKE、ファッションプレス、モモモサーバー、個展ナビ、レッツエンジョイ東京　ほか
その他	ジャパンタイムズ、Eye-Aiほか
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	11月5日（火）
人数等	63人

・特別公開「高御座と御帳台」

会期	12月22日（日）～2020年1月19日（日）　(29日間)
ターゲット	日本美術ファン
重点項目	ウェブサイト、チラシによる一般への情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ウェブサイト及びツイッター、フェイスブック
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞、東京新聞ほか
テレビ、ラジオ	テレビ朝日ニュース、NHKニュース、日本テレビニュース、TBSニュース、フジテレビニュース、テレビ東京ニュース
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	12月21日(土)
人数等	11媒体、25人出席

・日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」

会期	2020年1月15日（水）～3月8日（日）（54日間）
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、考古ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JR　NTボード（87駅94面）、ADビジョン東京駅ｾｯﾄ（89面）、 東京メトロ　Uボードゴールド（17駅20面）、臨時集中張(1駅3面)、電飾看板（1駅1面） 私鉄（メトロ）　フレコミボード（43駅43面）、ドアヨコ（B3 450枚）　ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（1月7日　社告、1月12日　編集特集、1月15日　全5段広告）ほか
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	4回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事 9回、メールマガジンでの情報配信、公式ウェブサイト
その他	両県アンテナショップでのPR展開、両県観光PRおよび古代出雲歴博PRの着ぐるみグリーティング会、外部での講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、山陰中央新報、中国新聞、宗教新聞、読売新聞、島根日日新聞、中国新聞、共同通信　ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」　ほか
雑誌	時空旅人、美術の窓、一個人、IMPRESSION GOLD、芸術新潮、医師協MATE、はれ予報、日経おとなのOFF、和楽　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、ウェブ版美術手帖、和楽WEB、レッツエンジョイ東京、地域新聞、シニアコム、OBIKAKE、博物館美術館写真広報、Libera、和テンション、WEBキャリア・マム　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	6月4日　平成館大講堂
人数等	48媒体 70名出席
④報道内覧会	
実施日	2020年1月14日
人数等	―
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、京都新聞　ほか45件
テレビ、ラジオ	KBS京都テレビ「きらきん！」、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」　ほか2件
雑誌	一個人（KKベストセラーズ）、和楽（小学館）、美術の窓（生活の友社）　ほか59件
インターネットメディア	Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか33件
その他	―

【京都国立博物館】
(1)名品ギャラリー（平常展）

・特集展示「新収品展」

会期	7月2日（火）～8月4日（日）（30日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―

雑誌	プレシャス（小学館）、四条56号（四条繁栄会）　ほか計2件
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）
その他	―

・特集展示「赤ってじつはどんな色？」

会期	7月2日（火）～8月12日（日）（37日間）
ターゲット	小中学生および保護者、海外からの旅行者、一般の日本美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	トラりんによる出張PR（奈良博、京都府立植物園、京都市青少年科学センター、京都市動物園）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、yomiっこ（奈良ライフ）　ほか計4件
インターネットメディア	京都で遊ぼうART（エグザム）、京都観光Navi（京都市）
その他	―

・特別企画「京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―」

会期	8月14日（水）～9月16日（月・祝）（30日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、ICOM京都大会の参加者
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	京都駅地下東口フラッグ、京都市地下鉄車内広告（烏丸線）、サイネージ(大阪地下鉄梅田駅構内、阪急連絡通路、JR京都駅地下東口、京都市地下鉄四条駅)、駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	産経新聞（関東版、関西版4回）、京都新聞（番組欄全5段）
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	タクシー会社・ホテルコンシェルジュ等対象特別鑑賞会開催、トラりんによる出張PR（京都府立植物園、京都市青少年科学センター、京都市動物園、祇園祭後祭エコ屋台村、乾杯の夕べ（国立京都国際会館））
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、京都新聞　ほか45件
テレビ、ラジオ	KBS京都テレビ「きらきん！」、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」　ほか2件
雑誌	一個人（KKベストセラーズ）、和楽（小学館）、美術の窓（生活の友社）　ほか59件
インターネットメディア	Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか33件
その他	―

・新春特集展示「子づくし―干支を愛でる―」

会期	2年1月2日（木）～2月2日（日）（28日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、月刊書道界（藤樹社）　ほか7件
インターネットメディア	ぴあアプリ（ぴあ）、京都観光Navi（京都市）　ほか1件
その他	名鉄観光サービスツアーパンフレット　ほか1件

・特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」

会期	2年1月2日（木）～2月2日（日）（28日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、京都ファン、皇室ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	関西・中国・四国じゃらん（じゃらん）、マイ奈良（アサコムニッセイシャ）　ほか1件
インターネットメディア	ぴあアプリ（ぴあ）、京都観光Navi（京都市）　ほか1件
その他	―

・特集展示「神像と獅子・狛犬」

会期	2年1月2日（木）～3月22日（日）（70日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、彫刻ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―

テレビ、ラジオ	―
雑誌	きょうの歳時記（エイブル）、マイ奈良（アサコムニッセイシャ）
インターネットメディア	ぴあアプリ（ぴあ）、京都観光Navi（京都市）
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	2年2月15日（土）～3月22日（日）（32日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	京都観光Navi冊子（京都市）、電車＆ウォーク（JR西日本）
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」

会期	4月13日（土）～6月9日（日）（51日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、絵巻ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,194件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車、阪急電車、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	タクシー会社対象特別鑑賞会開催、トラりんによる出張PR（奈良博、大学3校）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）
雑誌	芸術新潮（新潮社）、日経おとなのOFF（日経BP社）　ほか152件
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）、Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）　ほか49件
その他	―
③報道発表会	
実施日	30年10月23日（火）
人数等	25媒体、47人出席（場所：大正大学）
③報道発表会	
実施日	30年12月17日（月）
人数等	12媒体、15人出席（場所：京都国立博物館）

④報道内覧会	
実施日	4月12日（金）
人数等	49媒体、58人出席

・特別展「流転100年 三十六歌仙絵と王朝の美」

会期	1年10月12日（土）～11月24日（日）（38日間）※10月12日は台風のため臨時休館、11月18日に臨時開館
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン、茶道ファン、古典文学ファン
重点項目	広く一般のマスコミおよびSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,155件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅)、JR大阪駅サイネージ、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	日経新聞、京都新聞
テレビ広告	ＮＨＫ2分ミニ、スポット
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回・YouTube、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト・ツイッター、共催者（読売新聞社）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	タクシー会社・ホテルコンシェルジュ等対象特別鑑賞会開催、京都国際マンガ・アニメフェアとの広報連携、トラりんによる出張PR（龍谷ミュージアム、西本願寺、ミュージアムキッズ！全国フェア、大学4校）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本経済新聞、京都新聞、毎日新聞、朝日新聞、中日新聞、東京新聞　ほか122件
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）、歴史秘話ヒストリア（NHK）、8K特集（NHK）、新・美の巨人たち（東京テレビ） ほか3件
雑誌	和樂（小学館）、婦人画報（ハースト婦人画報社）、なごみ（淡交社）、茶道雑誌（河原書店）、週刊文春（文藝春秋社）　ほか109件
インターネットメディア	ニコニコ生放送（ドワンゴ）、サライjp（小学館）　ほか64件
その他	50プラス（JR東海ツアーズ）　ほか18件
③報道発表会	
実施日	30年2月15日（金）
人数等	54媒体、65人出席（場所：東京国立博物館 応挙館）
③報道発表会	
実施日	5月29日（水）
人数等	22媒体、36人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	10月11日（金）
人数等	58媒体、74人出席

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	近鉄奈良駅デジタルサイネージ広告
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	

種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	7月13日（土）～9月23日（月・祝）、12月7日（土）～2年1月13日（月・祝）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」

会期	7月13日（土）～9月8日（日）（46日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン、
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『新美術新聞』、『月刊大和路ならら』 6月号、『近鉄ニュース』7月号、『マイ奈良』8月号、『ならリビング』、『ぴあMOOK「世界の名画と日本の名品100」』、『yomiっこ』8月号
インターネットメディア	『ART AgendA アートアジェンダ』、『ホルベインアーチストナビ』、『ＡＤＣ文化通信』、『花形文化通信』、『ウェブ版美術手帖』、『ARTことはじめ』
その他	『なら探検ミュージアム』　ほか

・特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」

会期	7月13日（土）～9月8日（日）（46日間）

ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン、
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『新美術新聞』、『月刊大和路ならら』 6月号、『近鉄ニュース』7月号、『マイ奈良』8月号、『ならリビング』、『ぴあMOOK「世界の名画と日本の名品100」』、『yomiっこ』8月号
インターネットメディア	『ホルベインアーチストナビ』『美術新聞』7/1号『奈良ぶら』『桜井市立埋蔵文化財センターHP』 ほか
その他	『なら探検ミュージアム』　ほか

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　［特集］春日大社にまつわる絵師たち」

会期	12月7日（土）～2年1月13日（月・祝）（33日間）
ターゲット	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』12月号、『マイ奈良』12月号、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』12月号、『近鉄ニュース』12月号、『関西ウォーカー』26号　ほか
インターネットメディア	『ART AgendA』、『JR西日本おでかけネット』、『じゃらんnet』、『Yahooロコ』、『YahooJapan』、『地球の歩き方』　ほか
その他	—

・特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板　―文化財写真の軌跡―」

会期	12月7日（土）～2年1月13日（月・祝）（33日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等

ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『マイ奈良』12月号、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』12月号
インターネットメディア	『あをによしなら旅ネット』、『ART AgendA』、『関西ぶんかなび』　ほか
その他	『なら探検ミュージアム』　ほか

・特別陳列「お水取り」

会期	2年2月4日（火）～3月22日（日）（45日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	
インターネットメディア	
その他	

(2)特別展、共催展等

特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展　曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」

会期	4月13日（土）～6月9日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、茶道愛好家向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、茶道愛好家向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	交通広告：ポスター（JR西日本、大阪メトロ、近鉄、阪神電車、阪急電鉄、奈良交通（バスマスク））、チラシ（近鉄主要駅、関西国際空港）、デジタルサイネージ（梅田駅、JR奈良駅、関西国際空港）、近鉄奈良駅ステッカー ほか
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『ごごナマ』『日曜美術館アートシーン』『ぐるっと関西おひるまえ』『NHKニュース』NHK、『Nキャス』奈良テレビ、『ラジオ深夜便』NHKラジオ
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』ぴあMOOK『美術展ぴあ2019』『和樂』2・3月合併号」『東京ウォーカー特別編集～ごほうびLIFE～Vol.2』『和樂』4・5月合併号、『美術の窓・アートコレクターズ4月号、関西シーン春号、AGORA 5月号、『典藏（台湾）』、『三聯生活週刊（北京）』
インターネットメディア	『和樂Web』、『奈良県観光公式サイト「あをによしなら旅ネット」』『ぱーぷる』3-4月号イベントページ、『Web日刊ぱーぷる』、『JR西日本』、『YahooJapan』、『じゃらんnet』、『地球の歩き方』、『ホルベインアーチストナビ』　ほか
その他	『近くて、いい旅　電車&ウォーク』JR西日本、『アサヒメイト』朝日友の会、『50プラス』JR東海ツアーズ、『なら探検ミュージアム』、『ホッと！HANSHIN』 、『7ぴあ』、『ザ・淀川』、『yomiっこ』ほか
③報道発表会	
実施日	2月19日
人数等	36 媒体、46人出席（場所：東京記者クラブ）
実施日	2月27日
人数等	8媒体、8人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月12日
人数等	36媒体、48人出席

・特別展「御即位記記念 第７１回正倉院展」

会期	10月26日（土）～11月14日（木）（20日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、JR大阪駅、JR京都駅、JR東京駅、JR名古屋駅、大阪メトロ、近鉄主要駅、京阪主要駅、東京メトロ主要駅、奈良交通、阪急電鉄、阪急梅田駅）、チラシ（JR大阪駅、近鉄主要駅、大阪メトロ、南海なんば駅、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）　ほか
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	10月21日・23日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM、映像広告：キャンパスメンバーズの大学
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、中外日報　ほか
テレビ、ラジオ	『かんさい情報ネット ten！』『ウェークアップ！　ぷらす』『情報ライブ　ミヤネ屋』読売テレビ、『ならナビ』『ＮＨＫニュース』『日曜美術館』NHK、『ミント』毎日放送　ほか
雑誌	『月刊大和路ならら』7月号、『美術展』ぴあ2019-2020、『関西秋ウォーカー』、観光情報誌『ならり』秋号、『ノジュール』9月号、『阪急交通社会員誌　バスの旅』、『Kansai Scene Magazine』 秋号、『月刊奈良』10月号、『エクラ』11月号、『月刊なごや』9月号、『マイ奈良』10月号、『ノジュール』11月号、『茶の湯』10月号、『歴史の旅人』、『週間朝日』、『マイタウン奈良』、『典蔵古美術（台湾）』11月号、『英語版冊子　ODAIBAムック「皇室 The Imperial Family」』、『月刊目の眼』11月号、『関西冬ウォーカー』、『和樂』12・1月合併号、『関西ウォーカー』23号、『一個人』12月号、『るるぶドライブ関西ベストコース21』、『ＡＥＲＡ』、『マイタウン奈良』、『マイ奈良』11月号、　ほか
インターネットメディア	『インターネットミュージアム』、『和樂Web』、『ART AgendA』、『クラブツーリズムHP』、『なら旅ネット』、『紡ぐJapan Art & Culture』、『南都銀行　観光ポータルサイト「ええ古都なら」』、『Japantravel』、『わたしは奈良派Webサイト』、『JR西日本おでかけネット』、『じゃらんnet』、『Yahooロコ』、『奈良ぶら』、『るるぶWeb』、『日刊webタウン情報ぱーぷる』、『奈良市観光協会公式HP』、『関西ぶんか考』、『JNTO「Visit Japan International」Facebook』、『Lmaga.jp』　ほか
その他	―

③報道発表会	
実施日	5月17日
人数等	17媒体、25人出席（場所：当館講堂）
実施日	8月8日
人数等	14媒体、27人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	10月25日
人数等	32媒体、75人出席

・特別展「毘沙門天 ―北方鎮護のカミ―」

会期	2年2月4日（火）～3月22日（日）（42日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、大阪メトロ、近鉄、阪神電車、阪急電鉄）、チラシ（近鉄主要駅、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港） ほか
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞 ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』NHK奈良放送局
雑誌	『芸術新潮』12月号Ⅰ『和樂』2・3月、合併号『季節の旅』京都ホテルオークラ、『一個人』1月号、『日経おとなのＯＦＦ』『月刊なごや』『美術の窓・アートコレクターズ』2月号 『歴史の旅人』冬号、『新美術新聞「美術館ギャラリーガイド」』2月、『ホッと！HANSHIN』2月号、『茶の湯』令和2年2月号、『マイ奈良』2月号、『近鉄ニュース』2月号、『歴史街道』2020/3
インターネットメディア	『ART AgendA』、『Lmaga.jp』、『あをによしなら旅ネット』、『ARTLOGUE』、『関西ぶんかなび』、『ウェブ版「美術手帖」』、『ARTことはじめ』 ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	12月18日
人数等	4媒体、15人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	2年2月3日
人数等	21媒体、26人出席

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・新収品展 Part1

会期	3月5日(火)～5月6日(月・休)（56日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、土器等文化財に関心のある一般市民等
重点項目	当館季刊情報誌、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・新元号記念特別企画　「令和」

会期	4月23日(火)～12月22日(日)（212日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、元号ファン、万葉集ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	JR長崎・鹿児島とのタイアップ、展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、産経新聞、聖教新聞
テレビ、ラジオ	TNC、RKB
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、女性自身、女性セブン、九州walker、旅と鉄道、るるぶ ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノ、TABICHANNEL、よかなび、ほか
その他	—

・新収品展 Part2

会期	6月4日(火)～7月15日(月・祝)（36日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、陶磁器ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	当館季刊情報誌、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・特集展示　館蔵名品展「更紗　生命の花吹く布」

会期	7月30日(火)～10月20日(日)（72日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、織物・染色ファン、手芸ファン、インテリアに興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	69件（友の会会員等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、インフルエンサーでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、サンデー北九州 ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノ、だざいふなび、月刊いーみるほか
その他	―

・特集展示　住友財団修復助成30周年記念　文化財よ、永遠に

会期	9月10日(火)～11月4日(月・休)（49日間）
ターゲット	文化保護に関心のある一般市民、一般の歴史・考古学ファン、仏像・寺社仏閣ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,190件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄福岡駅、太宰府駅、西鉄車内中づり・動画
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK、ケーブルステーション福岡、TV熊本
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国 ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、ARTNE、よかなび、ファンファン福岡、イセバほか
その他	マスコミ内覧会開催7社出席

・特集展示　版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～

会期	10月29日(火)～12月22日(日)（48日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏教文化ファン、対馬に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	67件（友の会会員等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄福岡駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、長崎新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンクほか
その他	―

・特集展示　縄文王国やまなし

会期	10月29日(火)～12月22日(日)（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、土器ファン、縄文文化に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	67件（友の会会員等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、JR博多駅中心の23駅、西鉄福岡駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、日本旅行ほか
その他	―

・特集展示　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度

会期	2年1月1日（水・祝）～26日（日）（23日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	75件（友の会会員等）
交通広告	JR博多駅デジタルサイネージ68面、JR博多駅中心の23駅、西鉄福岡駅、西鉄太宰府駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、 webプレスリリース実施
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	現代ビジネス、東洋経済オンライン、ニコニコニュース、産経ニュース、トライシー、読売新聞オンライン、プレシデントオンライン、時事ドットコム、朝日新聞デジタル、フクオカーノ、イベントバンク、とれまがニュース、博多経済新聞、マピオンニュース等、約50社
その他	

・特集展示　刀剣ことはじめ－刀剣ワールド財団と九博の名刀－

会期	2年1月1日（水・祝）～2月24日（月・休）（48日間）

ターゲット	一般の歴史ファン、刀剣ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	75件（友の会会員等）
交通広告	JR博多駅デジタルサイネージ68面、JR博多駅中心の23駅、西鉄福岡駅、日鉄太宰府駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、webプレスリリース実施
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置、オリジナルグッズの制作・配布
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	現代ビジネス、東洋経済オンライン、ニコニコニュース、産経ニュース、トライシー、読売新聞オンライン、プレシデントオンライン、時事ドットコム、朝日新聞デジタル、フクオカーノ、イベントバンク、とれまがニュース、博多経済新聞、マピオンニュース等、約50社
その他	

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：特別展「京都大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」

会期	4月23日(火)～6月16日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約1,190件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	JR博多駅、西鉄福岡駅・太宰府駅、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	読売新聞、西日本新聞
テレビ広告	KBC、FBS、TV山口・長崎・熊本、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁デジタルサイネージ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、熊本日日新聞、
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび　ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、アートアジェンダ、プラスフクオカ、じゃらん、アルトネ、ManabiJapanほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	31年2月20日
人数等	5媒体、6人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月23日
人数等	13媒体、16人出席

・特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」

会期	7月13日(土)～9月1日(日)（45日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、美術ファン、日本美術ファン、茶道・華道関係者等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,260件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄電車・JR九州タイアップチラシ等、西鉄福岡駅・太宰府駅、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	TVQ、TNC、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁及び天神中央公園デジタルサイネージ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、京都新聞、公明新聞
テレビ、ラジオ	TNC、TVQ、NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊いーみる、九州walker、芸術新潮、和樂、ぶんかる、月刊書道界、一個人、アートコレクターズ、ひととき、月刊絵手紙、茶の湯　ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、ふくおかサポートネット、イセバ、アートアジェンダ、よかなび、和樂、FukuokaNow、ARTNE、フクオカーノ、ここにしかない美術館、クラブオフ　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月27日
人数等	30媒体44人出席（場所：東京都千代田区 福扇華 半蔵門店）
実施日	5月9日
人数等	8媒体15人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月12日
人数等	12媒体、25人出席

・日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」

会期	10月1日(火)～2年1月5日(日)（77日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、中国歴史ファン、考古学ファン、ゲームファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,240件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄電車・バスタイアップチラシ等、西鉄福岡駅・太宰府駅、JR博多駅、佐賀空港、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞、朝日新聞
テレビ広告	NHK、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁デジタルサイネージ、県内書店で三国志フェア
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞、宇部新報、地元新聞(日田市)
テレビ、ラジオ	NHK、TVQ、TNC
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊いーみる、九州walker、リビング福岡、るるぶ、時空旅人、シティ情報Fukuoka、月刊ぷらざ大分、和樂、でかなび、遊人、FICF、くるめすたいる　ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、ふくおかサポートネット、クラブオフ、アートアジェンダ、イセバ、よかなび、だざいふなび、美術手帖　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月31日
人数等	12媒体、32人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	9月30日
人数等	12媒体、26人出席

・特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」

会期	2年2月4日(火)～3月29日(日)（48日間）
ターゲット	西洋美術および絵画ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,300件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）（予定）
交通広告	主要バス停シティスケープ、JR九州・西鉄電車・バスタイアップチラシ等、西鉄福岡駅・太宰府駅、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞・毎日新聞、聖教新聞、サンデー新聞
テレビ広告	KBC、yab、NCC、KAB、RKB、TOS、MRT、NHK、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁デジタルサイネージ、書店・百貨店タイアップ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞・読売新聞・毎日新聞、聖教新聞、サンデー新聞
テレビ、ラジオ	KBC、TVQ、TV熊本、LOVEFM
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊いーみる、九州walker、リビング福岡、るるぶ、時空旅人、シティ情報Fukuoka、月刊ぷらざ大分、和樂、でかなび、西鉄旅行、美術展びあ　ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、ふくおかサポートネット、クラブオフ、アートアジェンダ、イセバ、よかなび、だざいふなび、美術手帖　ほか
その他	
③報道発表会	
実施日	10月30日
人数等	9媒体、14人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	2年2月3日
人数等	14媒体、38人出席

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（月）～2年2月26日（水）（279日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・特別企画展「高御座（たかみくら）－奈良朝の玉座－」

会期	4月27日（土）～6月2日（日）（33日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月26日
人数等	4媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん―土の中の花鳥風月―」

会期	7月20日（土）～9月1日（日）、9月5日（34日間）
ターゲット	高校生以下及びその家族
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月19日
人数等	3媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	

実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「地下の正倉院展－年号と木簡－」

会期	10月12日（土）～11月24日（日）（37日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ　ほか
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	10月11日
人数等	13媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・新春ミニ展示「平城京の子」

会期	2年1月4日（土）～26日（日）（20日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・冬期企画展「発掘された平城 2019」

会期	2年2月1日（土）～26日（水）（22日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月29日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	2年1月31日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	4月1日（月）～2年2月26日（水）（322日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載 新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	—
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	ＫＣＮ番組取材への協力
雑誌	
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	—

・速報展

①「埋（うず）もれた大宮びとの横顔―薬・まじない・庄園の木簡」

②飛鳥寺旧境内の調査（197-1・2・6次）飛鳥寺所用軒瓦、風鐸等

③藤原宮大極殿院の調査（第195・198次）大極殿院出土軒瓦・不明瓦製品等

④坂田寺SG100出土の瓦（石神遺跡第7次）

⑤石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）

⑥藤原宮外周帯の調査（第197-4次）藤原宮造営期の井戸および井戸枠の原寸大写真

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（月）～2年2月26日（水）（277日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」

会期	4月23日（火）～6月30日（日）（61日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	環境考古学研究室でおこなっている調査研究の活動を紹介し文化財への理解解を深める
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,370件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事18回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、日経新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	マイ奈良、月刊大和路ならら、ぱーぷる、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアムほか
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	4月22日

人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏期企画展「第１０回 写真コンテスト「飛鳥の古墳」」

会期	7月19日（金）～9月1日（日）（40日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約835件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアム、登竜門
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「飛鳥－自然と人と」

会期	10月11日（金）～12月1日（日）（44日間）
ターゲット	地域住民、歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥における人と自然の関わりを通して、飛鳥の遺跡と文化財研究の魅力と成果を紹介
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,425件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事9回、SNSでの情報配信
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良、NHKラジオ
雑誌	奈良のミュージアム、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、「ええ古都なら」、インターネットミュージアム、、イベントバンク　ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—

④報道内覧会	
実施日	10月10日（水）～15日（火）の期間中に個別対応
人数等	４人

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2019」

会期	2年1月24日（金）～2月26日（水）（29日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月15日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,420件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	2年1月23日
人数等	
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊行物名	発行部数	配布先
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者等に配布 ・マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、国内の美術館・博物館等に配布
2020年度東京国立博物館収蔵品貸与促進事業・2019年度東京国立博物館収蔵品（キリシタン関係遺品）貸与促進事業実施対象館募集告知チラシ	1,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
東京国立博物館ニュース	隔月刊年6回	各50,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
東京国立博物館「案内と地図」 2020.3改訂	日本語	122,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校、観光案内所等に送付
	英語	80,000部	
	中国語（簡体字）	24,500部	
	中国語（繁体字）	9,000部	
	韓国語	10,000部	
	フランス語	16,000部	
	スペイン語	10,000部	
	ドイツ語	7,500部	

【京都国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
京都国立博物館だより	202号（4・5・6月）	20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
	203号（7・8・9月）	15,000部	
	204号（10・11・12月）	30,000部	
	205号（31年1・2・3月）	15,000部	
Kyoto National Museum Letter	Vol.141（4・5・6月）	3,000部	観覧者
	Vol.142（7・8・9月）	3,000部	
	Vol.143（10・11・12月）	3,000部	
	Vol.144（31年1・2・3月）	3,000部	
京都国立博物館 平成知新館 展示案内 増刷	中国語（簡体字）	10,000部	観覧者
	中国語（繁体字）	5,000部	
	韓国語	2,000部	
	フランス語	1,000部	
平成知新館こどもガイド　第2版	5,000部		観覧者（子ども）対象 2015年に発行した「平成知新館こどもガイド」を第2版として一部内容を改訂して増刷した
Kyoto National Museum Guide 2019	5,000部		観覧者、関係機関、ICOM京都大会2019参加者

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号	20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約5,200件に発送 館内で来館者に配布
	夏号	20,000部	
	秋号	30,000部	
	冬号	20,000部	
奈良国立博物館リーフレット	日本語版	40,000部	館内で来館者に配布
	英語版	8,000部	
	フランス語版	2,000部	
	ドイツ語版	2,000部	
	中国語版（簡体字）	10,000部	
	中国語版（繁体字）	8,000部	
	韓国語版	2,000部	
	スペイン語版	2,000部	
奈良国立博物館展示案内	35,000部		館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　40,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　6,000部 英語版　7,000部 ドイツ語版　1,000部 フランス語版　1,000部 スペイン語版　1,000部 合計　63,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　14,000部 合計　14,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　2,500部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　400部 合計　3,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(40)号　50,000部 夏(41)号　50,000部 秋(42)号　50,000部 冬(43)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　2019年間スケジュール	24,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
九州国立博物館　わくわく通信	年5回　総数　715,000枚	・近郊の小中学校に配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

令和2年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		246	228	18	130	116	14	61	60	1	32	31	1	23	21	2
合　計		1,488	1,388	100	954	864	90	348	347	1	136	133	3	50	44	6
絵画		416	410	6	215	210	5	135	134	1	55	55	0	11	11	0
書跡		46	45	1	16	15	1	22	22	0	7	7	0	1	1	0
彫刻		205	190	15	163	149	14	17	17	0	25	24	1	0	0	0
建築		13	13	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
金工		90	86	4	56	53	3	27	27	0	7	6	1	0	0	0
刀剣		35	30	5	31	26	5				2	2	0	2	2	0
陶磁		91	64	27	58	36	22	27	27	0	0	0	0	6	1	5
漆工		66	63	3	32	30	2	21	21	0	11	10	1	2	2	0
染織		66	53	13	40	28	12	22	22	0	3	3	0	1	0	1
考古		243	229	14	135	121	14	61	61	0	25	25	0	22	22	0
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		39	39	0	18	18	0	16	16	0	1	1	0	4	4	0
和書		21	21	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		28	28	0	28	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	20	20	0	20	20	0									
	書跡	5	3	2	5	3	2									
	彫刻	1	1	0	1	1	0									
	金工	4	2	2	4	2	2									
	陶磁	29	21	8	29	21	8									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	28	28	0	28	28	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		40	40	0	40	40	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
貸与先件数		273	244	242	321	246
合　計		1,530	1,561	1,544	1,858	1,488
絵画		432	560	454	586	416
書跡		81	109	133	83	46
彫刻		313	136	185	192	205
建築		3	13	13	13	13
金工		92	85	88	83	90
刀剣		22	41	48	97	35
陶磁		116	80	98	77	91
漆工		54	99	114	58	66
染織		48	72	54	89	66
考古		201	193	211	214	243
民族資料		37	23	2	36	0
歴史資料		20	61	27	26	39
和書		18	19	39	30	21
写真資料		0	0	0	0	28
東洋	絵画	20	14	32	20	20
	書跡	7	18	7	28	5
	彫刻	6	3	6	12	1
	金工	0	0	0	48	4
	陶磁	13	8	20	44	29
	漆工	2	9	3	2	2
	染織	0	7	0	3	0
	考古	0	2	7	94	28
	民族	0	0	0	10	0
法隆寺献納宝物		33	2	1	11	0
黒田記念館収蔵品		12	7	2	2	40

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

令和2年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	208	1,231	126	918	42	217	20	55	20	41
国内	191	1,135	113	830	41	216	19	54	18	35
国・国立	33	226	19	137	7	69	4	16	3	4
地方・公立	111	733	64	570	21	103	14	35	12	25
私立団体	47	176	30	123	13	44	1	3	3	6
海外	17	96	13	88	1	1	1	1	2	6

○寄託品

令和2年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	82	258	19	36	35	131	22	82	6	9
国内	80	254	18	34	35	131	21	80	6	9
国・国立	15	67	5	9	5	26	4	31	1	1
地方・公立	41	106	9	18	16	50	13	32	3	6
私立団体	24	81	4	7	14	55	4	17	2	2
海外	2	4	1	2	0	0	1	2	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和2年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　14件　　海外貸与文化財90件[うち寄託品2件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	平成14年1月1日 ～令和2年12月31日	東洋彫刻2件
2	「源氏物語の世界」展	メトロポリタン美術館	平成31年3月5日 ～ 6月16日	5件 絵画1,書跡1,漆工1,染織2
3	「シルクロード国立博物館館蔵文物精品」展	中国国家博物館	平成31年4月20日 ～6月16日	12件 彫刻5,陶磁2, 考古3,東洋陶磁2
4	特別展「神ー日本美術における神性の発見」	クリーブランド美術館	平成31年4月26日 ～6月17日	漆工1件
5	「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展	独立行政法人国際交流基金【ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントンD.C.）】	6月2日～ 8月18日	28件 絵画2,彫刻5, 金工2,刀剣5, 陶磁3,染織8,考古3
6	「アジア文明連合展覧会」	中国国家博物館	5月10日 ～ 8月20日	11件 絵画2,彫刻1,金工1,陶磁3,考古4
7	「十五世紀中期景徳鎮磁器」展	上海博物館	5月28日 ～ 9月1日	東洋陶磁2件
8	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」	故宮博物院 斎宮・景仁宮	7月15日 ～ 10月20日	8件 陶磁6,東洋陶磁2
9	「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展	独立行政法人国際交流基金【ロサンゼルス・カウンティ美術館】	9月22日～12月8日	3件 彫刻1,陶磁2
10	「Nara: sacred images from early Japan(奈良―日本の信仰と美のはじまり)」	奈良県【大英博物館 三菱商事日本ギャラリー】	10月3日 ～ 11月24日	彫刻2件 [うち寄託2]
11	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」	浙江省博物館 武林館区	11月15日 ～令和2年2月16日	8件 陶磁6,東洋陶磁2
12	特別展「加耶本性ー剣と弦」	大韓民国国立中央博物館	12月3日 ～令和2年2年3月1日	考古4件
13	特別展「須静観止ー蘇州潘氏の収蔵」	蘇州博物館	12月20日 ～令和2年2年3月15日	東洋書跡2件
14	「Kimono: Kyoto to Catwalk」	ヴィクトリア＆アルバート博物館	令和2年2月29日 ～ 6月21日	染織2件

【京都国立博物館】　海外貸与先1件　　海外貸与文化財 1件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	「Where the Truth Lies: The Art of Qiu Ying」	ロサンゼルス・カウンティ美術【ロサンゼルス・カウンティ美術（アメリカ合衆国カリフォルニア州）】	2年1月21日 ～2年6月30日	絵画1件

【奈良国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 3件[うち寄託品 2件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「奈良―日本の信仰と美のはじまり」	奈良県【大英博物館（イギリス・ロンドン）】	9月11日～12月16日	彫刻1件 工芸2件

【九州国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 6件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	特別展「朝鮮陶磁、肥前の色をまとう」	韓国国立晋州博物館【韓国国立晋州博物館】	9月10日～12月27日	陶磁5件
2	「KIMONO:KYOTO TO CATWALK」	英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館【英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館】	2年2月4日～2年10月23日	染織1件

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	松山市考古館	8月31日～31年3月29日	43	42
2	徳島市立考古資料館	8月31日～31年3月29日	26	18

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	鳥取県立博物館	6月24日～令和2年3月31日	4（48点）	7
2	たつの市立龍野歴史文化資料館	6月24日～令和2年3月31日	37（279点）	5
3	兵庫県立考古博物館	6月24日～令和2年3月31日	1（1点）	7

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	京都府立山城郷土資料館	4月24日～2年3月31日	1（266点）	3
2	大阪大学総合学術博物館	6月7日～2年4月下旬	7（9点）	16
3	茨城県立歴史館	7月5日～2年4月下旬	2（7点）	3（4点）
4	群馬県県立歴史博物館	8月5日～2年4月30日	1（1点）	1（17点）

1-（5）-①-5　収蔵品貸与促進事業

【東京国立博物館】

	貸与先名	展覧会名称	期間	貸与件数（件）
1	三重県立美術館	「没後200年記念　増山雪斎展」	4月20日 ～ 6月16日	10
2	三内丸山遺跡センター	「あおもり土偶展」	7月20日 ～ 9月1日	5
3	高岡市美術館	企画展「明治金工の威風―高岡の名品、同時代の名工」	9月20日 ～ 10月20日	32
4	大分県立先哲史料館	RWC2019記念・開館25周年記念「大分のキリスト教史」	9月21日 ～ 11月4日	17
5	千葉県立美術館	「令和元年度アート・コレクション＋近代洋画の先駆者 浅井忠11―トーハクの名画がやってきた！―」	2年1月28日 ～ 4月12日	7

（参考）

その他（収蔵品・寄託品以外）の貸与

【東京国立博物館】

	区分	貸与先	期間	貸与件数（件）	貸与先件数（件）
1	図書	富山県［立山博物館］	9月14日～11月4日	1	1
2	古写真・美写	奈良国立博物館	12月7日 ～2年1月13日	5	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和2年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
491 件	139 件	152 件	66 件	86 件
	本部文化財活用センター		文化財防災ネットワーク推進本部	
	107 件		9 件	

【本部文化財活用センター】107件 （内保存維持・管理にかかる指導・助言 68件）

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会 委員	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
2	東京都建設局公園緑地部	葛西臨海水族園事業計画検討会委員	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
3	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡保存活用検討委員会 委員	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
4	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	「日本博（仮称）2020」に係る準備及び実施	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
5	ADO全日本デパートメントストアーズ開発機構	リーダシップ研修	5月24日	文化財活用センター副センター長 小林牧
6	文化庁	令和元年度ミュージアム・マネジメント研修講師	11月28日	文化財活用センター副センター長 小林牧
7	独立行政法人日本芸術文化振興会	特別展示「日本の伝統芸能」（仮称）会場デザイン・設計及び設営業務に関する企画選定委員会委員	9月～12月	文化財活用センター企画担当 松嶋雅人
8	内閣府	デジタルアーカイブ・ジャパン推進委員会 実務者検討委員会 構成員	9月5日～2年9月4日	文化財活用センターデジタル資源担当課長 今井敦
9	国立国会図書館	ジャパンサーチの連携促進に向けた説明会「ジャパンサーチ発信！～連携拡大に向けて」報告とパネルディスカッション参加	7月17日	文化財活用センター デジタル資源担当室長 村田良二
10	文化庁	令和元年度文化遺産・観光コンテンツバンク事業委託（海外広報・利活用環境整備）技術審査委員会委員	8月7日～2年3月	文化財活用センター デジタル資源担当室長 村田良二
11	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～2年3月31日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
12	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～2年6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
13	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会実行委員会委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
14	文化庁	「収蔵庫収蔵棚一式」調達に係る仕様策定委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
15	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会打ち合わせ	5月17日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
16	文化庁	公開承認施設担当者会議講師	6月20日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
17	公益社団法人高知県文化財団	第2回学芸員専門研修講師	6月5日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
18	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	6月24日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
19	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	8月～12月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
20	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会 委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
21	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
22	人間文化研究機構 国文学研究資料館	2019年度アーカイブス・カレッジ講師	9月10日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
23	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第39回文化財防虫防菌処理実務講習会講師	10月10日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
24	人間文化研究機構 国立民族学博物館	国際フォーラム「地域文化を活用する－地域振興、地域活性に果たす役割」での発表及び意見交換	10月29日～11月1日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人

25	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会実行委員会委員	9月～3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
26	公益社団法人高知県文化財団	第3回学芸員専門研修講師	11月21日	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
27	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会実行委員会及び会場下見	12月19日、20日	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
28	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会プログラム作成委員	2年2月1日～3年1月31日	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
29	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
30	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
31	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会打ち合わせ	5月16日～17日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
32	一般社団法人文化財保存修復学会	第10回文化遺産防災ネットワーク推進会議参加	5月29日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
33	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会42回大会打ち合わせ	6月6日～7日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
34	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第39回文化財防虫防菌処理実務講習会講師	10月10日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
35	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	8月～12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
36	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会実行委員会委員	9月～3年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
37	東京文化財研究所	第59号保存科学誌編集委員	12月2日～2年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
38	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会プログラム作成委員	2年2月1日～3年1月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
39	合同会社志事創業社	丸の内プラチナ大学　アートフルライフ・デザインコース講師	10月1日	文化財活用センター総務担当課長　樋口理央

・保存環境維持・管理に関する指導・助言　68件

40	朝来市埋蔵文化財センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
41	遠山記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
42	三重県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
43	肥後の里山ギャラリー	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
44	三内丸山遺跡センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
45	豊川市桜ケ丘ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
46	佐川美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
47	秋田市立千秋美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
48	敦賀市立博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
49	姫路文学館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
50	高岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
51	春日大社国宝殿	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
52	埼玉県立さきたま史跡の博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
53	津山洋学資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
54	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
55	高知県立坂本龍馬記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
56	松伯美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
57	姫路市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～8月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
58	東京都庭園美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
59	大田区立郷土博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～8月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
60	だて歴史文化ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
61	明治大学博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人

62	京都国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
63	名古屋市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
64	長崎歴史文化博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
65	美浦村文化財センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
66	タルイピアセンター（岐阜県垂井町）	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	9月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
67	千葉県立中央博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～2年1月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
68	刈谷市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～2年2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
69	兵庫県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～2年2月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
70	京都府立丹後郷土資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
71	東京都写真美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～2月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
72	出雲弥生の森博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
73	大野城心のふるさと館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～2年3月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
74	東京美術倶楽部	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
75	十日町市博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
76	石水博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
77	泉屋博古館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
78	秋田県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
79	東京ステーションギャラリー	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
80	和歌山県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
81	安芸高田市歴史民俗博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
82	渋谷区立松涛美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
83	中之島香雪美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
84	日光東照宮宝物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
85	指宿市考古博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～10月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
86	筆の里工房	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
87	浜松市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
88	比叡山国宝殿	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
89	青森県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
90	京都市京セラ美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
91	明治神宮ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
92	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
93	すみだ北斎美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
94	足利市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	31年2月～4月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
95	あべのハルカス美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	8月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
96	新潟県立近代美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
97	神奈川県立歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
98	青森県立郷土館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～8月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
99	高知県立歴史民俗資料館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～11月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
100	愛知県美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	11月～2年3月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
101	豊橋市美術博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
102	藤沢市アートスペース	貸与促進事業応募館の保存環境調査	8月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人
103	千葉県立中央博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	10月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
104	高知県立歴史民俗資料館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	7月～11月	文化財活用センター保存担当 室長　吉田直人

105	古河歴史博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	2年1月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人、同研究員　間渕創
106	出雲弥生の森博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	12月～2年1月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
107	土浦市立博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	31年2月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人

【東京国立博物館】139件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	独立行政法人国立美術館	多言語対応に関する助言及び視察対応	4月23日	副館長　井上洋一、企画課国際交流室専門職　君波妙子
2	澤田美喜記念館	彫刻の調査方法について	9月27日～12月13日	副館長　井上洋一、保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
3	韓国国立中央博物館	博物館の広報活動に関する助言	9月25日	学芸企画部上席研究員　鬼頭智美、広報室専門職　小島佳、アソシエイトフェロー　江原香
4	国立民族学博物館	平成30年度「博物館学集中コース」研修講師	10月2日	学芸企画部上席研究員　鬼頭智美
5	宗教法人 浅草寺	風雷神門の展示照明設備改修の仕様等に関する対応・助言	12月2日	学芸企画部上席研究員　木下史青
6	鹿児島市立美術館	展示照明設備改修に向けての仕様等に関する相談への対応・助言	10月18日	学芸企画部上席研究員　木下史青
7	文化庁	第１１回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー	10月9日	学芸企画部上席研究員　木下史青
8	神宮の杜芸術祝祭実行委員会	明治神宮（宝物殿他会場）の展示に関する監修・助言	8月20日	学芸企画部上席研究員　木下史青
9	新宿区立漱石山房記念館	展示照明設備の運用方法等に関する現地視察対応・助言	7月16日	学芸企画部上席研究員　木下史青
10	福島県立博物館	『興福寺と会津 福島復興祈念展』の照明デザイン	6月6日、7月4日	学芸企画部上席研究員　木下史青
11	神奈川県教育委員会	文化財保護審議会委員	4月1日～	企画課長　浅見龍介
12	アメリカ・ナショナルギャラリー（国際交流基金）	共同キュレーター	4月1日～2年3月31日	企画課長　浅見龍介
13	文化庁	美術工芸品買取鑑査委員	7月29日	企画課長　浅見龍介
14	国立新美術館	「古典×現代2020　時空を超える日本のアート」古典監修	9月～	企画課長　浅見龍介
15	関市教育委員会	春日神社能面調査	11月8～10日	企画課長浅見龍介、博物館教育課教育普及室研究員　川岸瀬里
16	九州国立博物館	寄贈予定能面調査	2年3月31日	企画課長　浅見龍介
17	大手前大学史学研究所	兵庫県加古川市行者塚古墳出土資料の整理報告に関する助言	12月21日	企画課特別展室研究員　山本亮
18	愛知県陶磁美術館	展示室改修及び展示ケース新設に関する助言	7月8日	企画課デザイン室長　矢野賀一
19	岡山県立博物館、黒川設計事務所	展示室改修及び展示ケース新設に関する助言	7月25日	企画課デザイン室長　矢野賀一
20	黒川設計事務所	展示室改修及び展示ケース新設に関する助言	12月17日	企画課デザイン室長　矢野賀一
21	文化庁	「文化財多言語解説整備事業」　運営委託業務	4月1日～5日	企画課国際交流室長　楊鋭
22	文化庁	「文化財多言語解説整備事業」　評価検証業務	4月1日～5日	企画課国際交流室長　楊鋭
23	長野県立美術館	解説や案内などの多言語化対応	4月5日	企画課国際交流室長　楊鋭
24	大倉集古館	出版・刊行物についての助言	4月15日、5月27日	企画課出版企画室長　松尾美貴
25	日本工芸会	日本伝統工芸展第一次監査委員	8月7日	博物館教育課長　伊藤信二

26	奈良県まちづくり推進局平城宮跡事業推進室	ICT技術を用いた学校旅行への対応について	12月18日	博物館教育課教育普及室長　藤田千織
27	公益財団法人五島美術館	講演会「日本人好みの中国陶磁と明末の中国文化」	11月9日	博物館情報課長　今井敦
28	町田市立博物館	寄贈資料の個別評価	12月1日	博物館情報課長　今井敦
29	町田市立博物館	町田市立博物館運営委員	7月1日～3年6月30日	博物館情報課長　今井敦
30	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会	6月19日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
31	東京大学	デジタルアーカイブ関係機関連絡会に参加	12月18日	博物館情報課情報管理室長　村田良二、主任研究員　阿児雄之
32	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	7月1日～2年3月31日	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
33	大阪市立図書館	所蔵資料のオープンデータ化	4月～2年3月	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
34	科研費基盤研究（A）「仏教学デジタル知識基盤の継承と発展」（代表：下田正弘）基盤構築班	シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」での事例発表	2年1月17日	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
35	専門図書館協議会	全国研究集会における著作権分科会（第3分科会）の企画提案・助言と司会	1月～6月21日	博物館情報課情報資料室専門職　山崎美和
36	大倉集古館	開館の広報についての助言	4月15日	広報室専門職　小島佳、宇野裕喜
37	セラミックアート美術館（仮称）	開館の広報についての助言	4月22日	広報室専門職　小島佳
38	サントリー美術館	リニューアル後の広報についての助言	11月21日	広報室専門職　小島佳
39	21_21 DESIGN SIGHT、上野の森美術館ほか都内美術館	コロナウイルス感染防止策の広報対応についての助言	2年2月24日	広報室専門職　小島佳
40	国立西洋美術館	展示紹介動画についての助言	2年3月18日	広報室専門職　小島佳
41	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
42	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
43	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
44	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
45	港区立郷土歴史館	「日本・オーストリア国交のはじまり －写真家が見た明治初期日本の姿－」出品作品に関する助言	7月26日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
46	京都国立博物館	当館館史関係資料における佐竹本三十六歌仙絵についての言及に関する助言	9月19日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
47	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM京都大会運営委員	7月～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
48	ロイヤルオンタリオ博物館（カナダ）	明治期の東博とトロント博物館との物品交換に関する情報および資料提供	2年2月1日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
49	宮内庁三の丸尚蔵館	修理に掛かる企画競争審査委員	4月4日～2年3月31日	学芸研究部長　田沢裕賀
50	文化庁	登録美術品絵画・彫刻調査研究協力者	4月4日～2年3月31日	学芸研究部長　田沢裕賀
51	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月6日～2年3月31日	学芸研究部長　田沢裕賀
52	公益財団法人千葉市教育振興財団	千葉市美術館評価委員会委員	6月13日～3年6月12日	学芸研究部長　田沢裕賀
53	西洋美術館	展覧会連携トークイベント講師	7月26日	学芸研究部長　田沢裕賀
54	新宿区立漱石山房記念館	特別展記念講演会講師	11月10日	学芸研究部長　田沢裕賀
55	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	12月1日～3年11月30日	学芸研究部長　田沢裕賀
56	文京区立森鴎外記念館	運営協議会委員	12月～3年12月	学芸研究部特任研究員　田良島 哲

57	独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館・図書館	秩父宮記念スポーツ博物館・図書館資料の価値づけ及び収集方針策定等ワーキンググループ委員（座長）	10月～2年10月	学芸研究部特任研究員　田良島 哲
58	広島県教育委員会	広島頼家関係資料調査指導委員会委員	4月1日～2年3月31日	列品管理課登録室長　丸山猶計
59	（公財）日本習字教育財団	学術研究助成審査委員	4月1日～2年3月31日	列品管理課登録室長　丸山猶計
60	長崎県	長期貸与品の保存環境の確認及び現地指導	2年1月17日	列品管理課登録室長　丸山猶計
61	蘇州博物館	展覧会「須静観止―清代蘇州潘氏的収蔵―」への作品解説提供	9月30日	列品管理課登録室研究員　六人部克典
62	鎌倉市教育委員会	文化財審議委員	6月1日～	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
63	仏教芸術学会	仏教芸術学会委員	29年6月～	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
64	仏教芸術学会	論文の査読	元年～	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
65	東北大学	集中講義	7月23日～26日	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
66	文化庁	買取評価員	11月29日	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
67	イラクズィー・カール大学	東京国立博物館所蔵のイラク出土資料、およびその展示について紹介、解説。	4月16日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
68	ダマスカス国立博物館	東京国立博物館の展示、特に作品の安全確保について情報共有	7月24日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
69	イラン国立博物館	東京国立博物館の展示、収蔵品の保管などについて紹介	11月29日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
70	イラクスレイマニエ国立博物館	東京国立博物館の展示、収蔵品の保管などについて紹介	12月10日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
71	千葉市教育委員会	千葉市指定文化財（金光院所蔵　両界曼荼羅図）の修理のための調査・助言	4月11日	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
72	文化庁	文化財購入に際しての価格評価	12月13日	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
73	泉屋博古館	ギャラリートーク「中国元明絵画と室町水墨」	9月28日	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作、ほか外部研究者
74	墨田区教育委員会	墨田区登録有形文化財（絵画）調査	2年2月4日～5日	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作
75	横浜市歴史博物館	臨済宗円覚寺派永田山寶林寺調査	2年2月25日	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作
76	文化庁	調査員（文化財第一課）	4月14日～2年3月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
77	文化庁	文化審議会専門委員	4月26日～2年3月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
78	文化庁	美術工芸品買取審査会議の委員	7月29日～2年3月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
79	公益社団法人日本工芸会	第66回日本伝統工芸展審査委員	7月31日、8月1日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
80	東京文化財研究所	ワークショップ「染織品の保存と修復」講師（台北師範大学）	8月13日～8月15日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
81	財団法人五島美術館	「美意識のトランジョン」展展示指導	10月23日、11月18日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
82	静岡県教育委員会	県指定文化財（浅間神社所蔵腹巻）の修理監督	12月5日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
83	静嘉堂文庫美術館	備前刀－その歴史と魅力－	4月21日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
84	栃木県小山市	刀剣レプリカ製作に関連する調査研究	5月	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
85	静岡県三嶋大社	『三嶋大社古神宝集合！』展　展示協力	7月	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
86	九州国立博物館	『室町将軍』展　展示協力	7月	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
87	大分県立美術館	『日本の美意識－刀剣と金工－』展　展示協力	9月	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
88	文化庁	文化財買取協議会	9月30日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
89	岡山県瀬戸内市	文化財がひらく 瀬戸内市の未来	10月19日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
90	津山郷土博物館	津山藩主松平家伝来武器・武具の調査	12月27日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介

91	岡山城天守閣	岡山城主ゆかりの名刀	2年1月18日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
92	岡山県瀬戸内市	瀬戸内市長船が生んだ日本刀の王者　備前刀	2年2月15日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
93	広島県尾道市	『尾道市史』編纂に伴う資料調査	2年3月17日～18日	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
94	公益財団法人五島美術館	会員向け講演会	4月6日、5月4日、12月7日	調査研究課工芸室研究員　福島修
95	公益財団法人 遠山記念館	寄贈作品の評価	2年1月19日	調査研究課工芸室研究員　福島修
96	東京芸術大学大学美術館	漆工品の修理検討会議出席	2年1月28日	調査研究課工芸室研究員　福島修
97	国立アイヌ民族博物館設立準備室	展示検討委員会委員	7月16日～2年3月31日	調査研究課考古室長　品川欣也
98	国立アイヌ民族博物館設立準備室	国立アイヌ博物館で行う特別展にかかる援助・助言	11月26日	調査研究課考古室長　品川欣也
99	石壮里博物館(韓国)	石壮里博物館・特別展「海を越えた先史人たち」　展覧会準備への助言	4月1日～5月31日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
100	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	4月1日～2年3月31日	調査研究課東洋室長　勝木言一郎
101	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	12月1日～2年11月30日	調査研究課東洋室長　勝木言一郎
102	中国国家文物局	2019年全国展览策划与实施培训班における講師	4月24日	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
103	永青文庫	早春展「古代中国・オリエントの美術」出品文化財に係る助言	9月6日、10月28日	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
104	泉屋博古館	特別展「瑞獣伝来」関連文化財に係る助言	9月20日	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
105	九州国立博物館	九博特別展「三国志」開催に係る展示協力	9月23日～9月28日	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
106	韓国国立慶州博物館	2020年秋季特別展に係る助言	11月21日	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
107	九州国立博物館	鉄鏡検討会実施に係る協力	12月16日	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
108	日本相撲協会（相撲博物館）	温湿度計の機種選択について	4月	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
109	古代出雲歴史博物館	資料のデジタル化について	7月7日～9月24日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
110	陸前高田市立博物館	紙資料の修復方法について	12月2日～12月5日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
111	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発及び修理（漆工品）」	4月1日～2年3月31日	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛、同保存修復室研究員　野中昭美、同研究補佐員　土屋良子、ほか外部研究者
112	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発及び修理（市指定）」	4月1日～2年3月31日	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛、同保存修復室研究員　野中昭美、同研究補佐員　土屋良子、ほか外部研究者
113	文化庁・国立近代美術館	「十二の鷹」構造解析についての助言協力	5月9日～	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
114	東京芸術大学	CTスキャンデータから３Dデータ作製についての協力・助言	4月、8月	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
115	筑波大学	アフガニスタン出土塑像の構造について	2年1月20日	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、同専門職　宮田将寛
116	東京国立近代美術館	鈴木長吉「十二の鷹」の科学的調査	2年3月9日	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、同専門職　宮田将寛
117	島根県立　八雲立つ風土記の丘	埴輪に施されている過去の修理について	2年3月10日	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、同専門職　宮田将寛
118	祐天寺 研究所	両面厨子の構造、使用されている彩色材料について	2年3月16日	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、同専門職　宮田将寛
119	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～2年3月31日	保存修復課環境保存室長　和田浩
120	長崎県浦上教会	展示環境整備に関する助言	11月25日	保存修復課環境保存室長　和田浩
121	長崎県歴史文化博物館	展示環境整備に関する助言	4月1日～2年3月31日	保存修復課環境保存室長　和田浩
122	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	4月1日～2年3月31日	保存修復課環境保存室長　和田浩
123	東京都市社会教育課長会文化財部会	文化財防災に関する講演	7月18日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔

124	東京都市社会教育課長会文化財部会埋蔵文化財担当者連絡会	文化財防災に関する講演	9月26日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔
125	茨城県博物館協会	文化財防災に関する講演	12月18日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔
126	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	28年6月1日～2年5月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
127	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	5月～2年3月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
128	公益財団法人日本博物館協会	博物館総合調査委員会	4月1日～2年3月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
129	小田原市教育委員会（小田原市郷土文化館）	夢見遊山いたばし見聞楽講演会「松永耳庵の茶道具」	11月3日	保存修復課保存修復室研究員　横山梓
130	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料修理（皮革資料）」	4月1日～2年3月31日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、同研究補佐員　桜井彩、小関那央子、ほか外部研究者
131	福島県立博物館	水害損レスキューに使用する材料について	5月10～14日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
132	NPO　文化財保存支援機構	「文化財の保存修復を目指す人のための実践コース」講習会のディスカッションへの登壇	11月16日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
133	岩手県立美術館	陶磁器の修理方法に関して	11月29日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
134	花巻市立博物館	陶器の修理に関して	12月17日～29日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
135	東京藝術大学大学院　美術研究科 文化財保存学専攻　保存修復工芸室	保存修復のキャリアパスについての集中講義	2年1月15日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
136	東北芸術工科大学	講座「絵画技法演習」における絵画技法に関する特別講義	12月7日、12月14日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　大山龍顕
137	東京文化財研究所	和紙製造に関する調査協力 2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究内、「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業（(②−5)	2年3月10日～11日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　大山龍顕
138	国立科学博物館	臨時売店運営事業者選定委員会委員	7月2日～	東京国立博物館　経理課長　數馬厚人
139	青山学院大学	「プロジェクトマネジメント論」特別講師	6月19日	東京国立博物館　総務課長　竹之内勝典

【京都国立博物館】152件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	文化庁	日本遺産審査委員会委員	4月1日～4月30日	学芸部連携協力室専門職　リンネマリサ
2	京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財調査研究センター評議員	4月～6月	館長　佐々木丞平
3	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～7月31日	学芸部連携協力室長　淺湫毅
4	京都商工会議所	「文化×知恵産業展」実行委員会オブザーバー	4月～9月5日	館長　佐々木丞平
5	佛教大学(通信学部)	非常勤講師（集中）	4月～9月30日	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
6	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～12月31日	学芸部長　朝賀浩
7	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月～2年1月19日	学芸部企画室長　山川曉
8	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員	4月～2年1月30日	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
9	ICOM日本委員会	ICOM京都大会2019組織委員会委員	4月～2年3月	館長　佐々木丞平
10	ICOM京都大会推進委員会	ICOM京都大会2019京都推進委員会委員	4月～2年3月	館長　佐々木丞平
11	宮内庁京都事務所	御所離宮懇談会委員	4月～2年3月	館長　佐々木丞平
12	企業メセナ協議会	審査委員長	4月～2年3月	館長　佐々木丞平
13	奈良国立博物館	奈良国立博物館評議員	4月～2年3月	館長　佐々木丞平
14	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館評議員	4月～2年3月	館長　佐々木丞平
15	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM京都大会2019運営委員	4月～2年3月	副館長　栗原祐司 総務課専門職員　関谷泰弘 総務課総務・人事係長　三島貴雄 学芸部連携協力室専門職　リンネマリサ
16	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～2年3月	副館長　栗原祐司
17	水平社博物館	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	4月～2年3月	副館長　栗原祐司
18	大阪市経済戦略局	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会委員	4月～2年3月	副館長　栗原祐司
19	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～2年3月	学芸部上席研究員　宮川禎一 学芸部企画室長　山川曉 学芸部連携協力室長　淺湫毅 学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
20	仏教美術研究上野記念財団	研究委員会委員	4月～2年3月	学芸部企画室長　山川曉 学芸部連携協力室長　淺湫毅 学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
21	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル

22	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊 学芸部美術室長　羽田聡
23	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画（美術史班） ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
24	護国院	紀三井寺参詣曼荼羅修理委員会専門委員	4月～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
25	同志社女子大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
26	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画（材料調査班） ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
27	近畿大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部美術室長　羽田聡
28	花園大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部美術室長　羽田聡
29	鶴見大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
30	奈良大学	通信教育部指導教員	4月～2年3月	学芸部工芸室研究員　降矢哲男
31	國學院大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
32	聖心女子大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
33	國学院大学博物館	客員教授	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
34	野田市	野田市史編さん委員会専門委員	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
35	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～2年3月	学芸部企画室長　山川曉 学芸部連携協力室長　淺湫毅
36	サントリー美術館	川鍋暁斎展引継の立ち会い	4月2日	学芸部保存修理指導室研究員　福士雄也
37	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト技術支援委員	4月3日～10月31日	副館長　栗原祐司
38	日本経済新聞社	奇想の系譜展　撤収作業立会い	4月8日～9日	学芸部保存修理指導室研究員　福士雄也
39	MIHO MUSEUM	2019年春季特別展「国宝　曜変天目と破草鞋」における学術講演	4月14日 4月29日	企画室長　山川曉 学芸部長　朝賀浩
40	京都造形芸術大学	非常勤講師	4月16日～7月23日	学芸部美術室研究員　福士雄也
41	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保存活用大綱検討懇話会委員	5月10日～2年3月	学芸部企画室長　山川曉
42	智積院智山専修学院	「仏画入門」講師	5月16,31日	学芸部連携協力室長　淺湫毅 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
43	野崎家塩業歴史館	資料調査	5月21日～22日	学芸部教育室長　永島明子
44	artKYOYO準備委員会	artKYOYO準備委員会実行委員	5月27日～9月30日	館長　佐々木丞平
45	清風会	清風会理事	5月27日～2年3月	館長　佐々木丞平
46	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会委員	6月1日～2年3月	学芸部企画室長　山川曉
47	九州国立博物館	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」作品借用及び・撤収	6月7日～9月1日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
48	三菱財団	三菱財団理事	6月14日～2年3月	館長　佐々木丞平
49	京都古都文化保存協会	京都古文化保存協会評議員	6月26日～2年3月	館長　佐々木丞平
50	アール・ブリュットネットワーク	アール・ブリュットネットワーク企画委員	7月1日～2年3月	副館長　栗原祐司
51	京都府教育委員会	京都府文化財保存活用大綱専門家会議委員	7月～12月31日	学芸部長　朝賀浩
52	草津市教育委員会	青花紙保存継承懇話会委員	7月～2年3月	学芸部企画室長　山川曉
53	朝日新聞大阪本社	第8回「メディアセッション京都」パネリスト	7月2日	館長　佐々木丞平
54	文化庁	「令和元年度全国博物館長会議(第26回)」における基調講演	7月3日	館長　佐々木丞平
55	九州国立博物館	令和元年度九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会出席	7月5日	学芸部長　朝賀浩
56	メトロポリタン美術館	「源氏物語展」作品返却協力	7月5日～7月11日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ 学芸部企画室アソシエイトフェロー　ヘルフェンベルガーファビエン
57	野崎家塩業歴史館	資料調査	7月9～10日	学芸部教育室長　永島明子
58	京都文化博物館	「横山華山展」「池大河展」講演・ギャラリートーク	7月7、13日～8月18日	学芸部美術室研究員　森道彦
59	多治見市陶器意匠研究所	特別講義講師	7月17日	学芸部工芸室研究員 降矢哲男
60	西日本新聞社	九州国立博物館特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」講師派遣	7月20日	学芸部工芸室主任研究員 末兼　俊彦
61	鬼北町教育委員会	町指定有形文化財等妙寺所蔵仏画等に係る調査指導	7月25日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
62	東京大学近世貿易陶磁調査研究グループ	近世貿易陶磁調査グループ第１３回勉強会	7月27日	学芸部工芸室研究員 降矢哲男
63	国宝修理装潢師連盟	上級講習会における講義の講師	7月26日	学芸部長　朝賀浩
64	京都伝統工芸大学	日本美術史	7月29～30日	学芸部企画室長　山川曉
65	文化庁	文化財調査（仁和寺）	7月29日・8月2日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英
66	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	8月1日～2年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
67	はびきの市民大学	古墳時代における山の祭祀と河内平野（百舌鳥・古市古墳群をより深く知るための-世界遺産講座Ⅸ）	8月2日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
68	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣	8月2日	学芸部企画室長　山川曉

69	越前市教育長	文化財調査（陽願寺）	8月5日	学芸部美術室主任研究員 呉　孟晋
70	神戸大学	非常勤講師	8月17日～8月31日	学芸部保存科学室長　降幡順子
71	国立歴史民俗博物館	「対馬宗家歴代肖像・墓塔研究会」第1回研究会	8月20～21日	学芸部長　朝賀浩
72	奈良国立博物館	夏期講座「仏教美術に見る動物のすがた」講師	8月22日	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
73	アジア水中考古学研究所	長崎県上対馬にて港遺構「矢櫃」の調査	8月24～27日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男
74	九州国立博物館	九州国立博物館特別展「室町将軍ー戦乱と美の足利十五代ー」作品返却立ち合い	8月28日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
75	阿波市教育委員会	聖幢寺所蔵の涅槃図調査	8月28日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
76	堂本印象美術館	展覧会「堂本印象 ほとけを描く ほとけを愛でる」講師	8月31日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
77	花園大学歴史博物館	秋季企画展「東海の名刹奥山方広寺」図録作品解説執筆	9月	学芸部企画室アソシエイトフェロー　伊藤旭人
78	大阪市博物館機構	大阪歴史博物館館長会議委員	9月～12月31日	学芸部長　朝賀浩
79	読売新聞西部本社事業部	特別展「侍～もののふのびの系譜～」に係る職員の派遣	9月3～4日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
80	大阪大谷大学	科学研究費補助金による研究遂行のための出張	9月9～10日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英
81	九州国立博物館	九州国立博物館特別展「室町将軍ー戦乱と美の足利十五代ー」作品返却立ち合い	9月10,13,19日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
82	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	9月10日～2年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子 学芸部美術室研究員　森道彦
83	（株）アマゾンラテルナ	作品輸送、貸与等業務	9月13日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男
84	大阪日本民芸館	秋季特別展にかかる資料の中国語訳	9月14日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　周思敏
85	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修講師	9月16日	学芸部保存科学室アソシエイトフェロー　中屋奈緒
86	東京国立博物館	科研調査	9月17～18日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
87	佛教大学	非常勤講師	9月20日～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
88	たつの市立龍野歴史文化資料館	ミュージアムトーク「西宮古墳の出土遺物」	9月21日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
89	京都橘大学	非常勤講師	9月21日～2年3月	学芸部美術室研究員　福士雄也
90	石川県立美術館	第５回修復工房セミナー講演	9月23日	学芸部長　朝賀浩
91	（株）NHKプラネット近畿総支社	特別展「流転100年佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」講師	9月24～25日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男 学芸部企画室研究員　井並林太郎
92	姫路市立美術館	「姫路市立美術館環境改善業務委託」公募型プロポーザルに係る審査	9月25日	学芸部長　朝賀浩
93	京都新聞COM	講演会等の講師	9月25日、10月10日、10月21日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男
94	京都新聞COM	講演会等の講師	9月25日、10月17日、10月29日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
95	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館ニュース『視る』執筆	9月27日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル
96	京都文化博物館	展示図録「道具と材料の職人譜」及びリーフレット「令和の職人譜・文化財修理の道具と材料」の監修・助言	10月～11月	学芸部美術室研究員　森道彦
97	日本芸術文化振興会	展示ケース等造作業務企画選定委員会委員	10月1日～12月31日	学芸部長　朝賀浩
98	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	10月1日～2年3月31日	学芸部上席研究員　宮川禎一
99	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月1日～2年3月31日	学芸部連携協力室長　淺湫毅
100	全日本不動産協会高知県本部	第55回全国不動産会議高知県本部「記念講演」	10月3日	学芸部上席研究員　宮川禎一
101	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」アーカイブ・ワーキング・グループ	10月3日	学芸部列品管理室主任　岡田愛
102	観光庁	分かりやすい多言語解説整備推進委員	10月3日～2年3月31日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
103	公益財団法人京都鴨沂会	教養講座「埴輪と古墳時代の人々」講師	10月5日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
104	読売新聞西部本社	特別展「侍～もののふの美の系譜～」作品展示替え	10月6～7日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
105	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	10月7日	学芸部長　朝賀浩 学芸部上席研究員　宮川禎一 学芸部列品管理室主任　岡田愛
106	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	10月7～8日	総務課事業推進係主任　澁谷完滋
107	文化庁	「文化財にかかる多言語解説案内板デザイン・表記等指針制作委託業務」検討委員会委員	10月8日～2年2月28日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
108	文化庁	国立アイヌ民族博物館における展示解説の多言語化の支援	10月8日～2年3月31日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
109	京都新聞COM	特別展関連企画講師	10月10日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男

110	NHK文化センター京都支社	「流転100年佐竹本三十六歌仙絵の魅力と真実」講師	10月18日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
111	國學院大學博物館	ミュージアムトーク「古墳時代の空間構造」講師	10月26日	学芸部考古室主任研究員　古谷毅
112	文化庁	漆工品分野における指定候補作品選定	10月24日	学芸部教育室長　永島明子
113	（株）NHKプラネット近畿総支社長	特別展「流転100年佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」講師	10月24日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男 学芸部企画室研究員　井並林太郎
114	長谷ビル	京都市京セラ美術館ウェブサイト広報にかかる資料の中国語訳	10月26日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　周思敏
115	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「絵画」）	10月28～30日	学芸部長　朝賀浩 学芸部美術室主任研究員　呉孟晋 学芸部美術室研究員　福士雄也
116	NHK文化センター大阪総支	特別展『流転100年佐竹本三十六歌仙と王朝の美』講師	10月31日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
117	森記念秋水美術館	森記念秋水美術館が所蔵する中国作品の調査・指導	10月31日	学芸部工芸室研究員　降矢哲男
118	正倉院	正倉院宝物模造品作製事前調査	11月6日～11月8日	学芸部保存科学室長　降幡順子
119	花園大学歴史博物館	第3回「恵林寺曝涼展（虫干し）」に関する業務	11月8日～10日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　伊藤旭人
120	伝統技術伝承者協会	伝統技術材料・用具製作者の職業体験に関する一般・児童向けワークショップ（和紙・金工・組紐）	11月10日、11月17日、12月24日、12月22日	学芸部美術室研究員　森道彦
121	一般社団法人　清風会	見学会（陽明文庫）講演	11月15日	学芸部美術室長　羽田聡 学芸部連携協力室研究員　上杉智英
122	白山市立博物館	白山市立博物館特別講演会講師	11月17日	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
123	九州国立博物館	科学研究費助成事業（基盤研究B）「在欧日本仏教の包括的調査・デジタル化とそれぞれに基づくジャポニズムの総合研究」	11月17日～23日	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦　列品管理室主任　岡田愛
124	九州国立博物館	令和元年度 独立行政法人国立文化財機構文化防災ネットワーク推進セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災―現状と今後の連携にむけて―」	11月19日	学芸部長　朝賀浩
125	東京国立博物館	小山科研調査	11月22日	学芸部連携協力室専門職　リンネ・マリサ
126	静岡市	静岡市歴史文化施設建設に向けた、展示資料の製作に係る所蔵者との協議における指導及び助言	11月22日	学芸部連携協力室長　淺湫毅
127	文化庁	文化施設を中心とした文化観光の在り方に関する検討	11月25日、12月19日	学芸部連携協力室専門職　リンネ・マリサ
128	国宝修理装潢師連盟代表	「修理技術者初級講習会」講師	11月29日	学芸部長　朝賀浩
129	鳥取県地域づくり推進部文化財局	令和元年度とっとり弥生の王国青谷かみじち遺跡土曜講座講師	11月30日	学芸部保存科学室長　降幡順子
130	伝統技術伝承者協会	「令和元年度 第９回研修会」講師	11月30日	学芸部美術室研究員　森道彦
131	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員	12月1日～2年3月	副館長　栗原祐司
132	京都女子大学	「教養科目A（芸術と表現2）」講義	12月6日	学芸部連携協力室専門職　リンネ・マリサ
133	東京国立博物館	小山科研調査	12月8日～19日	学芸部連携協力室専門職　リンネ・マリサ
134	文化庁	文化財の買取評価	12月13日	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
135	京都造形芸術大学	歴史遺産Ⅱ-2（文化遺産学特論）非常勤講師	12月21日	学芸部企画室長　山川暁
136	杉野服飾大学	非常勤講師	12月21日～ 2年3月19日	総務課総務・人事係員　落合広倫
137	東京国立博物館	小山科研調査	2年1月25日～26日	学芸部連携協力室専門職　リンネ・マリサ
138	國學院大學	非常勤講師(集中)	2年1月25日～28日	副館長　栗原祐司
139	公益財団法人日本博物館協会	令和元年度研究協議会講師	2年1月31日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　趙　ウニル

140	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム出席	2年2月1日	副館長　栗原祐司
141	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム及び日本美術専門家会議出席	2年2月1日～3日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
142	福井県教育庁	文化財調査	2年2月18日	学芸部保存科学室長　降幡順子
143	東国大学仏教文化研究院	シンポジウム発表	2年2月20日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英
144	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館企画審査委員（ホームページリニューアル）	2年2月21日	総務課事業部推進係主任 澁谷完滋
145	嘉麻市教育委員会	「掘ったバイ筑豊2019の古代史シンポジウム」講師	2年2月22日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
146	株式会社ジャッツ	JNTO主催 IME2020「国際会議主催者セミナー」講師	2年2月26日	副館長　栗原祐司
147	朝日新聞社	特別展「きもの KIMONO」協力	2年2月27日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
148	文化財活用センター	冬木小袖プロジェクト及び花下遊楽図プロジェクションマッピング展示にかかる広報	2年3月27日～28日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　志賀優維 学芸部企画室アソシエイトフェロー　三浦由槻
149	九州歴史資料館	資料調査の指導協力	2年3月6日～7日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
150	一般社団法人　清風会	見学会（飛鳥寺ほか）講演	2年3月8日	学芸部上席研究員　宮川禎一
151	東京国立博物館	日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究	2年3月10～20日	専門職　リンネマリサ
152	大阪大谷大学	科研協力	2年3月11日～12日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英

【奈良国立博物館】66件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良県	奈良県文化財保護審議会委員	4月～6月	学芸部長 内藤栄
2	アメリカ合衆国　クリーブランド美術館	クリーブランド美術館主催「神道」展に対し、集荷・展示・返却等協力	4月～8月	上席研究員　岩田茂樹 教育室長　谷口耕生 工芸考古室長　清水健 工芸考古室員　三本周作 列品室主任研究員　山口隆介
3	ICOM京都大会2019組織委員会	運営委員会委員として運営に協力	4月～2年3月	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ
4	奈良女子大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部長　内藤栄
5	奈良女子大学	客員教授	4月～2年3月	企画室長　野尻忠
6	神戸大学	教授、准教授として講義	4月～2年3月	情報サービス室長　岩井共二 列品室長　吉澤悟
7	公益社団法人　日本工芸会	顧問	4月～2年3月	館長　松本伸之
8	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	4月～2年3月	上席研究員 岩田茂樹
9	法隆寺	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 壁画(材料調査班)･ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	保存修理指導室長 鳥越俊行
10	法隆寺	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 壁画(美術史班)･ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	教育室長 谷口耕生
11	五條市教育委員会	五條市史編集委員	4月～2年3月	工芸考古室長 清水健
12	大学共同利用期間法人人間文化研究機構国立民族学博物館	共同研究員として研究会へ出席	4月～2年3月	保存修理指導室長　鳥越俊行

13	公益財団法人　藤田美術館	所蔵品の保管に関する援助	4月～33年度	学芸部長　内藤栄 上席研究員　岩田茂樹 企画室長　野尻忠 列品室長　吉澤悟 保存修理指導室長　鳥越俊行 工芸考古室長　清水健 教育室長　谷口耕生 情報サービス室長　岩井共二 資料室長　宮崎幹子 情報サービス室主任研究員　北澤菜月 列品室主任研究員　山口隆介 美術室主任研究員　斎木涼子 教育室主任研究員　中川あや 工芸考古室員　三本周作 資料室主任　佐々木香輔
14	国立歴史民俗博物館	共同研究員（『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究）として、研究会に参加、助言	4月15日、6月29日、12月1日、2年3月6日	工芸考古室長　清水健
15	NHK大阪放送局	藤田美術館展　NHK公開講演会に講師として協力	5月8日～9日	情報サービス室長　岩井共二
16	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	理事会に委員として出席し助言	5月9日、2年3月10日	館長　松本伸之
17	文化庁	X線回析装置　仕様策定委員会に出席、助言	5月13日	保存修理指導室長　鳥越俊行
18	奈良文化財研究所	三仏寺所蔵歴史資料の調査について協力	5月14日～15日	教育室主任研究員　中川あや
19	公益財団法人髙梨学術奨励基金事務局	公益財団法人髙梨学術奨励基金理事として会議に参加し、助言	5月21日、2年3月18日	館長　松本伸之
20	上海博物館	展覧会「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品」に対し、集荷・展示・返却等協力	5月21日、6月26日～28日、12月6日～11日、2年1月11日～14日	学芸部長　内藤栄 企画室長　野尻忠 工芸考古室長　清水健
21	京都国立博物館	修理所運営委員会に委員として出席、助言	5月24日	学芸部長　内藤栄
22	東北歴史博物館	南都六大寺展の会議に出席、助言	5月29日、7月17日、9月20日、2年2月14日	学芸部長　内藤栄 列品室長　吉澤悟 情報サービス室長　岩井共二 教育室長　谷口耕生 工芸考古室長　清水健
23	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さんに伴う仏像等美術工芸品調査協力	6月9日、6月29日	教育室長　谷口耕生 情報サービス室長　岩井共二 列品室主任研究員　山口隆介 資料室主任　佐々木香輔
24	東大寺総合文化センター	目録整備のための原本調査に協力	6月13日～14日、9月3日	美術室主任研究員　斎木涼子
25	一般財団法人　仏教美術協会	評議員として定時評議委員会に出席、助言	6月17日、2年3月16日	館長　松本伸之
26	長野県埋蔵文化財センター	小島・柳原遺跡群調査指導委員会委員として委員会に出席、助言	6月30日	学芸部長　内藤栄
27	公益財団法人日本博物館協会	参与として参与会に参加、助言	7月2日	館長　松本伸之
28	九州国立博物館	令和元年度九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会に委員として出席、助言	7月5日	学芸部長　内藤栄
29	中宮寺奉賛会	総会に出席、助言	7月5日	館長　松本伸之
30	宮内庁	正倉院懇談会会員として懇談会に出席、助言	7月10日	館長　松本伸之
31	法隆寺	講演「金銅仏の系譜―中国と日本―」第69回夏季大学	7月28日	館長　松本伸之
32	文化庁	仁和寺所蔵文化財調査に協力	7月29日、7月31日	企画室長　野尻忠 美術室主任研究員　斎木涼子
33	ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産の保護に資する研修2019の講師として協力	8月5日	教育室主任研究員　中川あや
34	奈良女子大学	学芸員課程資格関連科目「博物館情報・メディア論」の講師として協力	8月17日	教育室主任研究員　中川あや

35	COMCOL（国際コレクション委員会）	ICOM Kyoto 2019 関連 COMCOL プレカンファレンス・オフサイトミーティングの企画・運営に協力	8月29日～31日、9月5日	企画室長　野尻忠 企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ 情報サービス室アソシエイトフェロー　ルイン メアリー 企画室　松木悠
36	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する特別調査に協力	9月5日	情報サービス室主任研究員　北澤菜月
37	読売新聞社	正倉院フォーラム大阪の講師として協力	9月23日	館長　松本伸之
38	読売新聞社	正倉院フォーラム東京の講師として協力	9月29日	館長　松本伸之
39	法隆寺	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会　アーカイブ・ワーキンググループ	9月30日～2年3月	資料室長　宮崎幹子 資料室主任　佐々木香輔
40	京都府立大学	非常勤講師	9月30日～2年3月	資料室長　宮崎幹子
41	京都美術工芸大学	正倉院展出前授業講師	10月1日	学芸部長　内藤栄
42	島根県教育庁文化財課	石見銀山遺跡科学調査指導会に出席し、科学調査に関して助言、指導	10月2日	保存修理指導室長　鳥越俊行
43	斎宮歴史博物館	特別展「東雲の斎王　大来皇女と壬申の乱」において、重要文化財の展示・撤収作業について援助、助言	10月3日、11月14日	上席研究員　岩田茂樹
44	名古屋市博物館	正倉院フォーラム名古屋での講演	10月5日	工芸考古室長　清水健
45	神戸市	神戸市文化財保護審議会への出席	10月8日	上席研究員　岩田茂樹
46	文化庁	国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議に出席、助言	10月16日	情報サービス室主任研究員　北澤菜月
47	文化庁	第9回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会の講師として協力	10月21日	資料室主任　佐々木香輔
48	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「絵画」）に協力	10月28日～30日	教育室長　谷口耕生 情報サービス室主任研究員　北澤菜月
49	五條市教育委員会	特別展「榮山寺」の展示・撤収について援助、助言	11月11日、12月13日	美術アソシエイトフェロー　萩谷みどり
50	愛知県教育委員会	愛知県文化財建造物担当者課題研修会の講師として協力	11月14日	保存修理指導室長　鳥越俊行
51	三重県教育委員会	三重県文化財講習会の講師として協力	11月27日	保存修理指導室長　鳥越俊行
52	文化庁	買取評価委員会に出席、助言	12月13日	教育室長　谷口耕生
53	上海博物館	講演会講師として協力	12月15日	館長　松本伸之
54	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員	11月～2年3月	教育室長　谷口耕生
55	法隆寺	法隆寺フォーラムの講師として協力	11月2日	館長　松本伸之
56	兵庫県立考古博物館	企画展「龍 翔ける！」関連講演会の講師として協力	12月7日	教育室主任研究員　中川あや
57	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	2年1月～3月	情報サービス室長　岩井共二
58	国立アイヌ民族博物館	新設の博物館の環境並びに調査機器設置場所について調査・助言	2年1月25日	保存修理指導室長　鳥越俊行
59	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム「展示室で語る『日本美術』」及び専門家会議に出席	2年1月31日～2月2日	資料室長　宮崎幹子 情報サービス室主任研究員　北澤菜月 企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ 情報サービス室アソシエイトフェロー　メアリールイン
60	川崎市市民ミュージアム	被災美術品等の救出及び一時保管等の作業援助	2年2月12日～14日、2月19日～21日、2月24日～26日	工芸考古室員　三本周作 保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介
61	上牧町、NHK奈良放送局	毘沙門天展　NHK公開講演会に講師として協力	2年2月24日	上席研究員　岩田茂樹
62	公益財団法人松伯美術財団	理事会に理事として出席し助言	2年3月11日	館長　松本伸之
63	文化庁	文化財用X線CTスキャナー 仕様策定委員会に出席、助言	2年3月18日～31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
64	文化庁	収蔵庫収蔵棚 仕様策定委員会に出席、助言	2年3月18日～31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
65	奈良女子大学	経営協議会委員として助言	2年3月26日	館長　松本伸之
66	仁和寺	仁和寺所蔵の文化財調査への協力	2年3月26日～27日	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介

【九州国立博物館】86件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益財団法人福岡文化財団	評議員	4月1日～6月1日	館長　島谷弘幸
2	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月1日～6月20日	館長　島谷弘幸
3	公益財団法人三重県文化振興財団	2019年度みえ文化芸術祭・第70回みえ県展・書部門審査員	4月1日～7月31日	館長　島谷弘幸
4	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～8月31日	館長　島谷弘幸
5	文部科学省	文化審議会（文化功労者選考分科会）委員	4月1日～9月1日	館長　島谷弘幸
6	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会委員	4月1日～11月30日	館長　島谷弘幸
7	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
8	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
9	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
10	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
11	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
12	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
13	一般財団法人公園財団	研究顧問	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
14	立正大学	「立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト」外部評価委員	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
15	ICOM京都大会2019組織委員会	組織委員	4月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
16	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長　小泉惠英
17	公益財団法人大分芸術文化スポーツ振興財団	事業評価委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長　小泉惠英
18	福岡県立美術館	協議会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長　小泉惠英
19	熊本県	平成28年熊本地震被災文化財等復旧復興基金活用動産文化財検討委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長　小泉惠英
20	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	4月1日～2年3月31日	学芸部長　小泉惠英
21	九州歴史資料館	協議会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
22	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
23	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
24	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
25	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
26	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
27	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館	2019年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
28	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	4月1日～2年3月31日	総務課長　國谷勝伸
29	太宰府天満宮	御本殿調査有識者会議委員	4月1日～17日	学芸部文化財課主任研究員　山下善也
30	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子
31	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲等剣類登録審査会補助員	4月1日～2年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
32	徳之島町教育委員会	徳之島町水中遺跡調査指導委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
33	アート・ドキュメンテーション学会	2019年度年次大会実行委員会委員	4月1日～6月30日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職　竹内俊貴
34	同上	アート・ドキュメンテーション学会役員（幹事）	4月1日～2年3月31日	同上
35	文化庁	「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員	4月5日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
36	公益社団法人日本工芸会西部支部	第54回西部伝統工芸展審査委員	4月10日～4月11日	学芸部文化財課長　原田あゆみ

37	日本芸術文化振興会	「日本博」主催・共催事業に関する審査・評価委員会委員	4月15日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
38	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会第41回大会実行委員	4月22日～2年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子
39	東京国立博物館	東京国立博物館百五十年史に関わる調査・打合せ	5月8日	学芸部特任研究員　臺信祐爾
40	東京文化財研究所	第2回湿度制御温風処理に関する専門家研究集会	5月9日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
41	東京国立博物館	東京国立博物館百五十年史に関わる調査・打合せ	5月16日～17日	学芸部企画課長　白井克也
42	大野城心のふるさと館	講師	5月19日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
43	文化庁	技術審査委員	5月22日～31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
44	大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	6月1日～2年3月31日	学芸部企画課長　白井克也
45	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	6月18日～2年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
46	同上	同上	6月18日～2年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子
47	福岡市博物館	協議会委員	7月1日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
48	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員	7月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
49	文化遺産国際協力コンソーシアム	第33回西アジア分科会	7月5日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
50	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	金井下新田遺跡出土の赤色顔料に関する指導・助言	7月11日～12日、11月19日～20日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
51	上ノ国町教育委員会	水中遺跡の推進にかかる現地指導	7月24日～8月1日、10月5日～7日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
52	福岡県教育庁 教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会臨時専門委員	7月25日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
53	一般財団法人沖縄美ら島財団	絵画分野第1回表装ワーキング会議	7月26日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子
54	クリーブランド美術館	クリーブランド美術館主催特別展「神道」展にかかる作品返却・輸送の同行	7月30日～8月1日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子
55	公益財団法人日展	第6回　日展審査員	8月1日～12月31日	館長　島谷弘幸
56	文化庁	博物館振興に関する検討委員会委員	8月5日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
57	九州産業大学	講師	8月26日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
58	奈良文化財研究所	考古学・文化財データサイエンス研究集会	9月10日～11日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課　専門職　竹内俊貴
59	大分県立歴史博物館	協議会委員	9月11日～2年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
60	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第43回福岡県伝統的工芸品展審査委員	9月13日	学芸部長　小泉惠英
61	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　第42回大会実行委員	9月19日～2年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子
62	対馬市	対馬博物館の展示業務にかかる指導・調査	10月4日～5日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
63	同上	同上	10月4日～5日	学芸部企画課アソシエイトフェロー　大澤信
64	オランダ文化遺産庁	ファンボッセ号調査プロジェクトについての会議	10月7日～9日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
65	日本文化財科学会	日本文化財科学会第37回大会実行委員会委員	10月9日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
66	福岡市美術館	美術資料収集審査員	10月22日～2年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
67	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「書跡」）	10月23日～24日	学芸部文化財課研究員　松浦晃佑
68	同上	同上	10月23日～25日	学芸部文化財課アソシエイトフェロー　樋笠逸人
69	福岡県	新・福岡県立美術館建設地選定委員会委員	10月23日～2年3月31日	学芸部長　小泉惠英
70	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料策定委員会委員	10月25日～2年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
71	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「絵画」）	10月28日～30日	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
72	同上	同上	10月28日～30日	学芸部文化財課主任研究員　山下善也
73	西之表市教育委員会	鉄製品等保存保護処理業務にかかる指導助言	10月31日～11月2日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
74	日田市教育委員会	講師	11月1日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
75	文化庁	文化施設を中心とした文化観光の在り方に関する検討会議委員	11月14日～2年3月31日	館長　島谷弘幸
76	岡山市立オリエント美術館	資料選択評価委員	11月22日	学芸部特任研究員　臺信祐爾
77	福岡市文化財活性化実行委員会（福岡市経済観光文化局文化財活用課）	展示解説員	12月15日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子

78	福岡市別府小学校	講師	12月19日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
79	特定非営利活動法人文化財保存支援機構	講師	2年1月18日	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子
80	上海博物館	講師	2年1月19日～20日	館長　島谷弘幸
81	早稲田大学総合研究機構文化財総合調査研究所	国別セッション（タイ）の司会進行	2年1月23日～25日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
82	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム及び日本美術専門家会議	2年1月31日～2月2日	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子
83	福井県立美術館	美術資料審査・評価委員会審査委員	2年2月1日	学芸部文化財課主任研究員　山下善也
84	伊仙町	伊仙町水中遺跡調査指導委員	2年2月1日～3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞
85	出雲市	講師	2年2月11日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
86	文化庁	「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員（国際的文化フェスティバル展開推進事業（長期開催型））	2年2月13日～3月31日	館長　島谷弘幸

【文化財防災ネットワーク推進室】9件

1	静岡県	第1回静岡県文化財保護審議会大綱策定部会 静岡県文化財保護審議会委員（臨時委員）	7月18日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
2	法隆寺管長	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 壁画ワーキンググループ専門委員	7月23日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
3	日本建築家協会	JIA文化財修復塾 近畿支部 現地講習1「文化遺産の防災について」講師	8月25日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
4	大分県	令和元年度第1回大分県文化財保存活用大綱策定委員会 大分県文化財保存活用大綱策定委員	9月10日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
5	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「歴史的建造物に付属する動産文化遺産の価値」講師	9月11日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
6	川崎市市民ミュージアム （台風19号により被災）	救出活動及び受援体制の構築、作品等の救出、洗浄と乾燥といった応急処置、一時保管など一連の作業を効率的に行うための指導助言	10月16日～2年3月12日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健　他
7	文化庁、岩手県	世界遺産平泉の拡張（柳の御所遺跡）に関する国際専門家会議	11月22日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
8	国立国会図書館	第30回保存フォーラム「収蔵資料の防災一日頃の備え・災害対応・連携協力」にて講演	12月19日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
9	大分県市町村会議（県埋文センター）	地域の防災体制構築に関する講演	2年2月6日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

令和2年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：研修、ワークショップ	10月1日～19日	アルメニア・染織文化遺産保存修復専門家	19	2	－	
		11月24日～30日	イラン国立博物館、文化財保存専門家	7			
2	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	9月9日～27日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	19	1	100	
3	国際研修「International Course on Paper Conservation in Latin America」：メキシコ研修	10月30日～11月13日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	15	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2019（集団研修）「木造建造物の保存と修復」	9月4日～10月3日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	30	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2019（個別テーマ研修）「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月24日～8月7日	キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンの専門家	15	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（カンボジアで開催）	11月19日～11月25日	カンボジア人の専門家	7	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】0件

【奈良文化財研究所】　3件

	名称	機関名	備考
1	学術交流に関する協定書	カザフスタン、ホッジ・アフメダ・ヤサウィ記念国際カザフ-トルコ大学	
2	学術交流に関する協定書	カザフスタン、マルグラン記念考古学研究所	
3	学術交流に関する協定書	タジキスタン、科学アカデミー歴史学考古学民族学研究所	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）
（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】11件 令和2年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」 研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第一回ワーキンググループ会合	6月26日～27日	東南アジア地域の専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費 運営費交付金
2	IRCI研究データベース改善のためのワーキンググループ会合	7月22日～23日	ミャンマー大学の専門家、無形文化遺産の専門家	2日	1	文化庁受託経費 運営費交付金
3	Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia	7月31日～8月3日	アフガニスタンの専門家、研究者	4日	1	文化財保存活用基金
4	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage' s contribution to sustainable development: Focusing on education The Philippines	10月7日～8日	フィリピン専門家、研究者	2日	1	ユネスコ活動費補助金 運営費交付金
5	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage' s contribution to sustainable development: Focusing on education Viet Nam	10月24日～25日	ベトナム専門家、研究者	2日	1	ユネスコ活動費補助金 運営費交付金
6	第八回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会	11月11日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
7	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 － 教育を題材として」事業国際ワークショップ	11月28日～29日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギス共和国、マレーシアの専門家、研究者	2日	1	ユネスコ活動費補助金 運営費交付金
8	国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて	12月17日～18日	アジア太平洋地域の無形文化遺産研究者、専門家	2日	1	文化庁受託経費
9	IRCI Discussion on the Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Afghanistan	12月24日～25日	アフガニスタンの専門家	2日	1	文化財保存活用基金
10	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」 研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第二回ワーキンググループ会合	2月4日～5日	東南アジア、南アジア地域の専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費 運営費交付金
11	IRCI Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia （Bamiyan, Afghanistan）	3月10日～13日	アフガニスタンの専門家、研究者	4日	1	文化財保存活用基金

2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 （後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和2年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		125日			198日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		988人			278人		
		30年度末	元年度追加	元年度末	30年度末	31年度追加	31年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	121,599件	2,630件	124,229件	368,440件	8,967件	377,407件
	雑誌	164,256件	2,720件	166,976件	99,644件	2,972件	102,616件
	その他（図録・報告書等）	44,814件	1,355件	46,169件	17,016件	3,213件	20,229件 ＊
	計	330,669件	6,705件	337,374件	468,084件	11,939件	480,023件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和2年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	30件	17件
データベースのデータ件数（件）	1,288,551件	1,348,102件
データベース等へのアクセス件数（件）	2,989,314件	16,652,307件
（ホームページへのアクセス件数（件））	2,985,796件	953,883件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】　2件　323人　令和2年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第５３回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	11月1～2日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	151人	
2	第１４回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」	12月20日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	172人	

【奈良文化財研究所】　13件　3,315人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	平城宮大極殿院地区の発掘調査(平城第612次）現地説明会	6月7日	奈良市佐紀町669ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮大極殿院地区の発掘調査(平城第612次）の現地説明会を開催した。	180人	
2	平城宮東方官衙地区の発掘調査(平城第615次）現地説明会	9月29日	奈良市佐紀町1118ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮東方官衙筑の発掘調査(平城第615次）現地説明会を開催した。	892人	
3	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第200次)現地説明会	10月6日	橿原市高殿町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第200次）現地説明会を開催した。	971人	
4	第124回公開講演会	6月15日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	149人	
5	第11回東京講演会「奈良の都、平城の謎を探る」	10月5日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	東京で、奈良文化財研究所の調査研究についての講演会を開催した。	464人	
6	第125回公開講演会	11月9日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	150人	
7	第1回 報告書データベース作成に関する説明会	10月11日	佐賀県立生涯学習センター　アバンセ	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	80人	
8	第2回 報告書データベース作成に関する説明会	11月21日	新潟県埋蔵文化財センター	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	80人	
9	第3回 報告書データベース作成に関する説明会	12月4日	広島県立総合体育館	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	60人	
10	第4回 報告書データベース作成に関する説明会	2年2月4日	愛知県生涯学習推進センター	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	60人	

11	第5回 報告書データベース作成に関する説明会	2年2月17日	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	100人	
12	第２３回古代官衙・集落研究集会「灯明皿と官衙・集落・寺院」	12月13日～14日	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所		104人	
13	国際セミナー「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存」	2年1月20日	奈良文化財研究所本庁舎2階　大会議室	文化庁・奈良文化財研究所	本セミナーは、２０１９年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」の成果の一部である。	25人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和2年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	3,634件	5,572件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）　（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　　1件　　受講者 31人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月8日～19日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	31人	100%	100%	

【奈良文化財研究所】　　14件　　受講者 199人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	建築遺構調査課程	6月10日～14日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な、上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修	8人	100%	100%	
2	建造物保存活用基礎課程	7月1日～5日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修	20人	100%	100%	
3	堆積・地質学基礎課程	9月17日～20日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	近現代建築の価値の理解、その保存方法および活用方法について、理念、制度、修理、耐震対策、管理、活用等の面から講義をおこない、近現代建築の保存に取り組む自治体担当者としての必要な知識の習得を目指す研修	32人	100%	100%	
4	遺跡ＧＩＳ課程	9月24日～27日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	木質文化財を調査する際に必要となる木材科学，年代学，保存科学などの科学的な基礎知識を習得し，担当現場に生かすことを目指す研修	8人	100%	100%	
5	出土木器調査課程	9月30日～10月4日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡等の発掘調査で必要とされる、地層・基礎土木・土壌等に関する基礎的な専門知識や調査技術、さらにそれらに根ざした環境復原方法の習得を目指す研修	4人	100%	100%	
6	保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程	10月15日～24日	8	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修	11人	100%	100%	
7	文化財三次元計測課程	11月18日～22日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡・遺物の正確な記録を取る方法と、情報の保存活用手法としてのGISやデータベースの利用に関する専門知識と技術を習得し、遺跡情報の公開・利活用を目指す研修	12人	100%	100%	
8	文化財写真課程	11月25日～12月5日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	低湿地遺跡の発掘調査から報告書作成までについて必要な知識を習得することを目的とする研修	11人	100%	100%	
9	報告書編集基礎課程	12月5日～12日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	本課程では、金属製遺物の劣化現象に対する理解を深め、保存処理および処理前後の環境調整が劣化の抑制にもたらす効果について、保存処理工程および処理に係る劣化状態調査の実習と講義を交えて学ぶ研修	24人	100%	100%	

10	報告書デジタル作成課程	12月12日 ～19日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録の中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財写真分野の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得できる研修	13人	100%	100%	
11	文化財デジタルアーカイブ課程	2年1月20日 ～24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得するための研修	18人	100%	100%	
12	史跡保存活用計画策定課程	2年2月3日 ～7日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集やコンテンツ制作の技術について、デジタル編集を中心に据えた実習で、技術を習得することを目的とした研修	16人	100%	100%	
13	文化財防災・減災課程	2年2月12日 ～14日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	座学・隣地講義を通して史跡の整備計画について基本的知識を吸収し、基本構想・基本計画の立案演習を行う研修	12人	100%	100%	
14	保存科学Ⅴ（材質・構造調査）課程	2年2月18日 ～21日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	木簡・墨書土器・漆紙文書など、出土文字資料の調査のための実践的な技術や知識の習得を目的とする研修	10人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

【文化財防災ネットワーク推進本部】 3件　　受講者 83人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財等防災ネットワーク研修	11月6日 ～7日	2	地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	1日目：講義3件「文化財防災ネットワークについて」「水損紙資料の微生物被害と応急処置」「被災した民俗資料の応急処置」、2日目：被災した写真資料の応急処置・講義2件「水損紙資料のレスキュー①」紙資料の水洗と乾燥(実習)「水損紙資料のレスキュー②」泥落とし、水損書籍の対処(実習)、意見交換	16人	100%	100%	会場：奈良文化財研究所
2	文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災-現状の課題と今後の連携に向けて-」	11月19日	1	都道府県及び市町村等の文化財担当者、博物館・美術館等の学芸員	講演にて行政と建築士会の日常的な関りや、熊本地震時の建築士会の具体的な活動事例の紹介、トークセッションでは、建造物等の不動産文化財関係者と動産文化財関係者の間の文化財防災における連携体制構築の可能性について、講師やパネリストとの意見交換。	41人	100%	100%	会場：九州国立博物館
3	文化財防災に関する研修「北海道内の文化財防災を考える」	12月19日	1	地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	「北海道内の文化財防災を考える」をテーマに東日本大震災の事例、道内における過去の事例や取り組み等について取り上げ、参加者相互による討議を深め、ネットワークの形成や防災対策の強化を目指す。	26人	100%	100%	会場：北海道立近代美術館

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和2年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
609件	184件	291件	134件

【東京文化財研究所】　184件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	24件
2	無形文化遺産に関する助言	32件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	41件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	42件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	20件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	25団体

【奈良文化財研究所】　291件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	238件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	10件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	32件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	11件

【本部文化財活用センター】　134件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	134件

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）　◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和2年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,740	1,391	674	196	166	349	349	125	224
	うち有償	808	782	457	164	84	77	26	7	19
	うち無償	932	609	223	32	82	272	323	118	205
茶室	総件数	180	180	101	32	26	21			
	うち有償	115	115	58	32	15	10			
	うち無償	65	65	43	0	11	11			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	940	606	258	45	63	240	334	125	209
	うち有償	228	213	78	21	48	66	15	7	8
	うち無償	712	393	180	24	15	174	319	118	201
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	196	181	29	18	73	55	15	0	15
	うち有償	82	71	29	14	21	1	11	0	11
	うち無償	114	110	0	4	52	54	4	0	4
撮影利用	総件数	424	424	286	101	4	33	0	0	0
	うち有償	383	383	286	97	0	0	0	0	0
	うち無償	41	41	0	4	4	33	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	135,908	133,937	104,903	26,614	925	775	1,971	465	1,506
茶室	5,518	5,518	4,140	1,079	180	119			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	8,417	7,823	5,882	1,107	349	485	594	465	129
その他（左記以外の建物、敷地）	100,922	99,545	76,323	21,935	396	171	1,377	0	1,377
撮影利用	21,051	21,051	18,558	2,493	0	0	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

令和2年3月31日現在

年度				27	28	29	30	元
国立文化財機構	総来館者数			4,146,847	3,810,178	4,875,133	3,977,125	4,358,044
	平常展	計		1,536,565	1,577,811	1,736,421	1,706,401	1,753,198
		有料	一般	636,504	653,711	778,185	747,422	713,037
			大学生	76,590	71,850	76,093	73,196	66,176
			小・中・高生	0	0	159	0	0
			友の会	139,076	152,643	185,553	192,482	189,313
		無料	一般（黒田含む）	107,574	108,272	107,824	116,321	78,584
			小・中・高・大生	176,248	183,375	206,900	204,691	193,984
		招待者等		400,573	407,960	381,707	372,289	512,104
	特別展	計		2,610,282	2,232,367	3,138,712	2,270,724	2,604,846
		有料	一般	1,678,816	1,404,313	2,049,172	1,510,156	1,721,359
			高・大生	113,109	76,242	105,410	112,381	91,077
			小・中生	34,820	31,337	29,312	22,558	26,793
			友の会	66,016	56,725	56,008	22,245	20,405
		無料	小・中生・一般	122,894	82,184	98,848	91,328	94,201
		招待者等		594,627	581,566	799,962	512,056	651,011
東京国立博物館	総来館者数			1,994,508	1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632
	平常展	計		747,944	761,709	1,030,180	989,508	1,030,652
		有料	一般	383,579	381,817	525,037	478,770	435,389
			大学生	42,528	41,159	48,052	43,486	37,542
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	108,147	119,573	160,739	172,646	170,236
		無料	高校生	27,108	24,623	32,714	27,701	21,911
			小・中生	52,386	55,176	70,686	66,933	62,703
		招待者等		87,619	101,677	143,888	145,696	258,794
		黒田記念館（無料）		46,577	37,684	49,064	54,276	44,077
	特別展	計		1,246,564	1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980
		有料	一般	811,089	733,704	995,261	764,691	1,038,356
			高・大生	61,790	36,115	41,210	54,270	51,783
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	11,889	10,714	11,684	1,988	1,642
		無料	小・中生	51,547	26,992	20,051	37,968	37,024
		招待者等		310,249	338,413	471,199	294,535	429,175
京都国立博物館	総来館者数			653,336	384,340	941,931	477,884	376,061
	平常展	計		205,526	186,162	136,862	146,314	158,664
		有料	一般	124,229	110,054	80,789	87,013	95,014
			大学生	21,478	14,192	12,016	13,028	12,370
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	15,234	15,248	9,341	7,058	6,552
		無料	高校生	15,261	10,773	13,069	14,608	14,943
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		29,324	35,895	21,647	24,607	29,785
	庭園開放	計		1,699	11,417	15,676	11,168	13,908
		有料	一般	825	5,572	8,082	6,114	7,688
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	93	635	505	196	256
		無料	大学生	56	1,040	436	362	689
			高校生	235	2,117	2,777	1,638	1,815
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		490	2,053	3,876	2,858	3,460
	特別展	計		446,111	186,761	789,393	320,402	203,489
		有料	一般	306,503	109,451	579,728	227,508	130,145
			高・大生	18,021	8,885	31,654	29,472	10,227
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	19,001	10,511	13,192	3,166	3,291
		無料	小・中生	7,803	7,233	17,566	10,023	6,240
		招待者等		94,783	50,681	147,253	50,233	53,586
奈良国立博物館	総来館者数			455,859	449,322	549,211	527,786	612,755
	平常展	計		95,208	145,676	135,776	140,829	160,869
		有料	一般	30,165	63,886	60,294	63,675	75,109
			大学生	3,204	7,431	6,518	6,534	7,981
			小・中・高生	0	0	159	0	0
			友の会	3,957	5,290	4,250	3,196	3,414
		無料	小・中・高生	18,221	31,133	28,257	28,492	34,407
		招待者等		39,661	37,936	36,298	38,932	39,958
	特別展	計		360,651	303,646	413,435	386,957	451,886
		有料	一般	267,663	219,776	298,133	284,723	342,015
			高・大生	13,852	12,674	17,109	15,684	14,385
			小・中生	9,843	7,685	11,792	13,443	11,045
			友の会	16,265	15,750	16,058	3,901	2,970
		無料	小・中生	0	202	420	269	0
		招待者等		53,028	47,559	69,923	68,937	81,471
九州国立博物館	総来館者数			884,128	922,468	668,269	700,391	674,277
	平常展	計		412,621	393,590	350,848	349,114	348,563
		有料	一般	93,457	89,006	101,029	109,272	97,786
			大学生	9,072	8,766	9,253	9,950	8,068
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	11,645	11,897	10,718	9,386	8,855
		無料	高校生	26,765	23,788	22,730	28,868	24,056
			小・中生	34,381	33,435	34,789	34,730	32,905
		招待者等		237,301	226,698	172,329	156,908	176,893
	特別展	計		471,507	528,878	317,421	351,277	325,714
		有料	一般	283,603	333,172	168,511	226,615	205,067
			高・大生	18,463	17,722	14,820	12,369	14,180
			小・中生	24,977	23,652	17,520	9,115	15,748
			友の会	18,861	19,750	15,074	13,190	12,502
		招待者等		125,603	134,582	101,496	89,988	78,217
平城宮跡資料館	総来館者数			105,334	102,053	104,279	90,558	71,408
	平常展	無料	一般	50,064	62,210	50,598	53,775	26,562
	特別展	無料	一般	55,270	39,843	53,681	36,783	44,846
藤原宮跡資料館	総来館者数			10,933	8,378	8,162	8,270	7,945
	平常展	無料	一般	10,933	8,378	8,162	8,270	7,945
飛鳥資料館	総来館者数			42,749	35,970	33,696	29,276	26,966
	平常展	計		12,570	8,669	8,319	7,423	6,035
		有料	一般	4,249	3,376	2,954	2,578	2,051
			大学生	308	302	254	198	215
		無料	小・中・高生	1,835	1,290	1,442	1,359	555
		招待者等		6,178	3,701	3,669	3,288	3,214
	特別展	計		30,179	27,301	25,377	21,853	20,931
		有料	一般	9,958	8,210	7,539	6,619	5,776
			大学生	983	846	617	586	502
		無料	小・中・高生	8,274	7,914	7,130	6,285	6,091
		招待者等		10,964	10,331	10,091	8,363	8,562

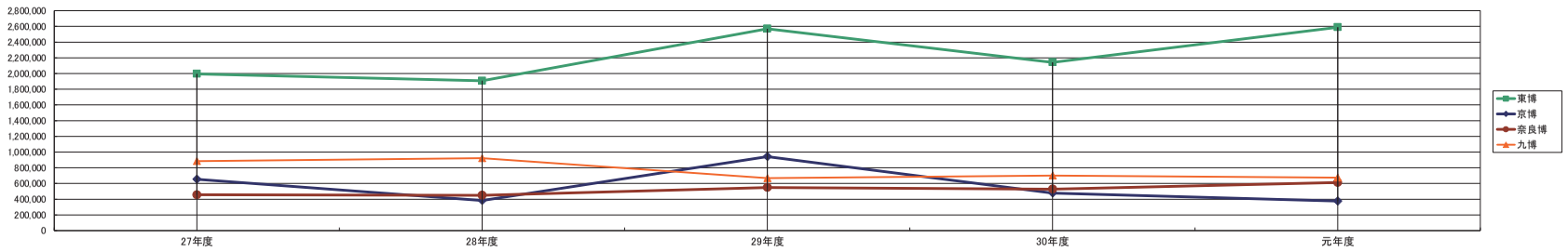
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成27～令和元年度）

国立文化財機構　合計

	27年度		28年度		29年度		30年度		元年度	
合計	総　合　計	4,146,847	総　合　計	3,810,178	総　合　計	4,875,133	総　合　計	3,977,125	総　合　計	4,358,044
	平常展のみの来館者	1,536,585	平常展のみの来館者	1,577,811	平常展のみの来館者	1,736,421	平常展のみの来館者	1,706,401	平常展のみの来館者	1,753,198
	特別（共催）展計	2,610,262	特別（共催）展計	2,232,367	特別（共催）展計	3,138,712	特別（共催）展計	2,270,724	特別（共催）展計	2,604,846

1）国立博物館

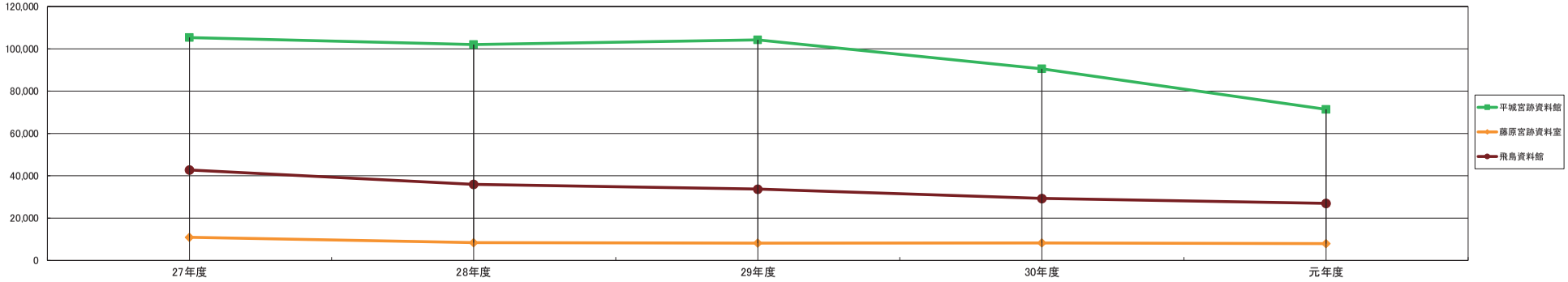


	27年度		28年度		29年度		30年度		令和元年度	
計	総　計	3,987,831	総　計	3,663,777	総　計	4,728,996	総　計	3,849,021	総　計	4,251,725
	平常展のみの来館者	1,462,998	平常展のみの来館者	1,498,554	平常展のみの来館者	1,669,342	平常展のみの来館者	1,636,933	平常展のみの来館者	1,712,656
	特別（共催）展計	2,524,833	特別（共催）展計	2,165,223	特別（共催）展計	3,059,654	特別（共催）展計	2,212,088	特別（共催）展計	2,539,069
東博	総計（黒田記念館含む）	1,994,508	総計（黒田記念館含む）	1,907,647	総計（黒田記念館含む）	2,569,585	総計（黒田記念館含む）	2,142,960	総計（黒田記念館含む）	2,588,632
	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	747,944	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	761,709	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,180	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	989,508	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,652
	特別（共催）展計	1,246,564	特別（共催）展計	1,145,938	特別（共催）展計	1,539,405	特別（共催）展計	1,153,452	特別（共催）展計	1,557,980
	特別展「みちのくの仏像」	16,573	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589	特別展「茶の湯」	245,795	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	67,263	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流－日本美を伝える－」	74,424
	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	72,344	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	116,100	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995	特別展「国宝　東寺-空海と仏像曼荼羅」	430,511
	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115	特別展「黄金のアフガニスタン　―守り抜かれたシルクロードの秘宝―」	154,875	「フランス人間国宝展」	70,192	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品－雪舟、永徳から光琳、北斎まで－」	106,593
	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」	※1(330,598)
	アート オブ ブルガリ１３０年にわたるイタリアの美の至宝　THE ART OF BVLGARI. 130 YEARS OF ITALIAN　MASTERPIECES	142,000	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」	324,042	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	337,639
	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	483,809	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	182,837	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)	住友財団修復助成30周年記念「文化財よ、永遠に」	※1(138,502)
	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」	133,629			顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」	362,076
	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572			特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　－日本美を伝える－	48,340	特別展「人、神、自然―アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界―」	※1(139,737)
							特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480	特別公開「高御座と御帳台」	110,484 ※4(204,801)
									日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」	136,054
									特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」 ※報道内覧会のみ	199
									ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界	中止
京博	総　計	653,336	総　計	384,340	総　計	941,931	総　計	477,884	総　計	376,061
	平常展のみの来館者	205,526	平常展のみの来館者	186,162	平常展のみの来館者	136,862	平常展のみの来館者	146,314	平常展のみの来館者	158,664
	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	1,699	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	15,676	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	13,908
	特別（共催）展計	446,111	特別（共催）展計	186,761	特別（共催）展計	789,393	特別（共催）展計	320,402	特別（共催）展計	203,489
	特別展覧会　「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228	開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」	164,900	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399	特別展　時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝－遍聖絵と時宗の名宝」	66,678
	特別展観　第100回大蔵会記念 仏法東漸－仏教の典籍と美術－※３	34,696	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」	624,493	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811
	琳派誕生四〇〇年記念 特別展覧会「琳派　京を彩る」	327,925								
奈良博	総　計	455,859	総　計	449,322	総　計	549,211	総　計	527,786	総　計	612,755
	平常展のみの来館者	95,208	平常展のみの来館者	145,676	平常展のみの来館者	135,776	平常展のみの来館者	140,829	平常展のみの来館者	160,869
	特別（共催）展計	360,651	特別（共催）展計	303,646	特別（共催）展計	413,435	特別（共催）展計	386,957	特別（共催）展計	451,886
	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」	10,561	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198	特別展「快慶」	123,842	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	国宝の殿堂　藤田美術館展	158,078
	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901	生誕800年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－」	39,834	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」	72,540	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏」	45,175	特別展　御即位記念　第71回正倉院展	277,133
	特別展 第67回正倉院展	221,189	特別展 第68回正倉院展	208,614	特別展 第69回正倉院展	217,053	特別展 第70回正倉院展	245,832	特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―	16,675
九博	総　計	884,128	総　計	922,468	総　計	668,269	総　計	700,391	総　計	674,277
	平常展のみの来館者	412,621	平常展のみの来館者	393,590	平常展のみの来館者	350,848	平常展のみの来館者	349,114	平常展のみの来館者	348,563
	特別（共催）展計	471,507	特別（共催）展計	528,878	特別（共催）展計	317,421	特別（共催）展計	351,277	特別（共催）展計	325,714
	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」	77,455	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	56,314	特別展「王羲之と日本の書」	14,971	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	53,524
	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史―　A History of the World in 100 Objects」	133,174	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002	特別展「世界遺産 ラスコー展」	118,555	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代」	86,399
	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	161,172	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	87,413	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069	特別展「三国志」	140,155
	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守り抜かれたシルクロードの秘宝－」	67,641	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966	特別展「王羲之と日本の書」	55,139	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	45,636
	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484								

※１　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※２　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※３　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。
※４　()内の数値は、総合文化展や同時期開催の特別展チケットによる来場者を含んだ数値。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成27～令和元年度）

2）研究成果公開施設



	27年度		28年度		29年度		30年度		元年度	
計	総　合　計	159,016	総　合　計	146,401	総　合　計	146,137	総　合　計	128,104	総　合　計	106,319
	平常展のみの来館者	73,567	平常展のみの来館者	79,257	平常展のみの来館者	67,079	平常展のみの来館者	69,468	平常展のみの来館者	40,542
	特別（共催）展計	85,449	特別（共催）展計	67,144	特別（共催）展計	79,058	特別（共催）展計	58,636	特別（共催）展計	65,777
平城宮跡資料館	総　計	105,334	総　計	102,053	総　計	104,279	総　計	90,558	総　計	71,408
	平常展のみの来館者	50,064	平常展のみの来館者	62,210	平常展のみの来館者	50,598	平常展のみの来館者	53,775	平常展のみの来館者	26,562
	特別（共催）展計	55,270	特別（共催）展計	39,843	特別（共催）展計	53,681	特別（共催）展計	36,783	特別（共催）展計	44,846
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1　－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1　－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1　－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1　－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1　－
	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！―奈良の都の食事情―」	9,532	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	927	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん ―平城宮の考古学―」	9,205	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456
	秋期特別展「地下の正倉院展 造酒司木簡の世界」	16,830	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」	17,653	平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展―草創期の奈文研を支えた写真家―」	21,811	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853	夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」	9,162
	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658	夏のこども展示　「ナント！　すてきな！？　平城生活♪」	10,882	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展-年号と木簡-」	13,257
	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329			秋期特別展「地下の正倉院展-国宝 平城宮跡出土木簡-」	14,841			平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城京の子」	4,456
					平城宮跡資料館ミニ展示「平城京の戌」	5,220			平城宮跡資料館「発掘された平城2019」	3,515
藤原宮跡資料室	総　計	10,933	総　計	8,378	総　計	8,162	総　計	8,270	総　計	7,945
	平常展のみの来館者	10,933	平常展のみの来館者	8,378	平常展のみの来館者	8,162	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	42,749	総　計	35,970	総　計	33,696	総　計	29,276	総　計	26,966
	平常展のみの来館者	12,570	平常展のみの来館者	8,669	平常展のみの来館者	8,319	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035
	特別（共催）展計	30,179	特別（共催）展計	27,301	特別（共催）展計	25,377	特別（共催）展計	21,853	特別（共催）展計	20,931
	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725	春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史―」	9,974	春期特別展「藤原京を掘る―藤原京ー等地の調査―」	9,613	春期特別展「あすかの原風景」	8,816	春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」	10,024
	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)ーいにしえの飛鳥を想ふー」	4,088	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383	夏期企画展　飛鳥資料館第8回写真コンテスト作品展「飛鳥の路」	2,930	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428	夏期企画展飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の古墳」	3,070
	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年　「キトラ古墳と天の科学」	12,862	秋期特別展　「祈りをこめた小塔」	9,373	秋期特別展「高松塚古墳を掘る-解明された構築過程-」	9,877	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房ー日韓の技術交流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥ー自然と人とー」	6,506
	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線ー」	2,504	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571	冬期企画展「飛鳥の考古学2017」	2,957	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331

※1　平常展の一部として実施

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　311 日間（平常展のみの開館日数　89 日間）

②会　　場

(1)本　館　1階、2階

(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階

(3)法隆寺宝物館　1階、2階

(4)平成館　1階

(5)黒田記念館

③展示総件数　9,267件（うち国宝 376件、重要文化財　795件）

(1)本館・平成館企画展示室　4,081件（うち国宝 271件、重要文化財　348件）

(2)東洋館　2,920件（うち国宝　4件、重要文化財　87件）

(3)法隆寺宝物館　374件（うち国宝　11件、重要文化財　183件）

(4)平成館考古展示室　1,746件（うち国宝　90件、重要文化財　162件）

(5)黒田記念館　146件（うち国宝　0件、重要文化財　15件）

④展示替件数　5,813 件　・　展示替回数　延べ 452 回

⑤入場料金

黒田記念館以外　　一般620円、大学生410円

黒田記念館　無料

⑥特集　全18件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月26日～6月1日まで臨時休館。、2件の特集については3月27日をもって中止となり、さらに2件の特集については未公開のまま中止となった。

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　ツノのある動物	4 月 16 日 ～ 5 月 26 日	37 件
＜主な作品＞ 蓮華葡萄彫犀角杯、春日鹿曼荼羅図、自在龍置物、風神雷神図(模本)			
動物をテーマとした特集「親と子のギャラリー」は、例年、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との三館園連携企画として行っており、今回が 13 回目となる。当館は、春の行楽やゴールデンウィークで博物館を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさ・面白さを伝えることを目的とした展示を担当した。 今回の三館園のテーマは「ツノのある動物」であり、当館ではシカやウシ、サイなどの実在の動物に加えて、龍や麒麟などのツノのある空想上の動物を対象とした。本来ツノは外敵から身を守ったり、雄同士の戦いをするため武器として使用されるが、ツノの生えていない人間は、ツノに神聖さや畏怖の念を抱き、ツノのある動物を神使として霊獣視したり、空想上の瑞獣をツノが生えた姿で想像した。今回は、第 1 部「『ツノ』を見比べよう！」で実在のツノのある動物をモチーフにした作品を紹介し、人間がツノのある動物に出会い、美術・工芸・考古の諸作品にどのように表現してきたのかを見比べ、人の手を経たツノへの興味を喚起させる。続く第 2 部「『ツノ』が〇〇に大変身！」では、実在の動物のツノを素材にした工芸品と、ツノのある想像上の動物をモチーフにした作品を紹介し、人間と人間が想像した空想の動物との多様な関係を文化史的に説明した。また子どもの目線に近いところで理解を促すため、二館園の協力を得て、補助的な解説パネルの作成を行うほか、題箋等においては作品名称を一般向けの名称と子ども用の名称を併記した。 教育関連事業として、本展のリーフレットを作成するほか、5 月 18 日の国際博物館の日を記念した三館園をめぐるツアー「上野の山で動物めぐり」を三館園共同で開催した。			
東洋館 5 室	中国の青磁―蒐集と研究の軌跡	4 月 23 日 ～ 7 月 15 日	29 件(重文 2 件)
＜主な作品＞ 青磁盤、青磁牡丹唐草文大瓶、青磁蓮弁文盤、青磁花卉文水指、青磁尊形瓶、越窯址採集陶片			
本特集は、東京国立博物館が収蔵する中国青磁をとりあげた。収集の歴史をたどると、1930 年代より熱を帯びた陶磁器研究の展開と軌を一とする流れをみることができ、とくに宋代官窯研究においては東博が中心となって収集と研究が行なわれてきたことがわかる。これまでとりあげられることがなかった明治の博物館草創期の収蔵品にも注目しながら、東博の中国青磁の収集とその意義を紹介した。また、5 のケースでは坂本五郎氏旧蔵の金襴手など近年新たにコレクションに加わった名品を、関連の館蔵品とあわせて紹介した。			
平成館 企画展示室	平成 30 年度　新収品	6 月 4 日 ～ 7 月 15 日	72 件
＜主な作品＞ 阿弥陀如来立像、内裏雛（芥子雛、束帯・十二単姿）、蘭亭春禊図扇面、行書七言律詩扇面、ガルダ形飾り金具、緋襷向付			
平成 30 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分を展示した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。			
本館 14 室	やちむん―沖縄のやきもの	6 月 25 日 ～ 9 月 16 日	19 件
＜主な作品＞ カラカラ （色絵線刻格子文水注）、ユシビン （緑釉瓢形瓶）、セージャラ （色絵牡丹文小皿）、チューカー （色絵蟹文水注）、 蓋マカイ （五彩瓜蝶文蓋付碗・粉彩鹿鶴文蓋付碗）			

本特集では、東京国立博物館が所蔵する沖縄のやきものをとりあげた。東博では、明治 18 年（1885）に沖縄県より購入したものや個人から寄贈を受けたものなど、およそ 20 件にのぼる沖縄のやきものを収蔵している。その中心となるのは、那覇の中心部に位置する壺屋において色絵（上焼）生産が隆盛した 19 世紀の優品である。これらをまとめて紹介するのは初めてとなった。さらに、近年の修理によって実態が明らかになった中国清朝官窯の貴重な作例と、その琉球伝世の意義も紹介した。

本館 特別 4 室・5 室	親と子のギャラリー　日本のよろい！ （日本文化体験「日本のよろい！」と合同開催）	7月17日 ～ 9月23日	25件（重美1件）

＜主な作品＞
〇金小札紅糸中白威腹巻、甲冑製作見本十　草摺三、甲冑製作見本十一　立挙一

日本の甲冑は、皮革、金属、染織、漆などが総合的に用いられた工芸品である。しかし、使用される技術が複雑なため、理解を困難なものにしている。そこで、特別 5 室での本特集では現代に作られた甲冑の製作工程を示した製作見本と、室町時代から江戸時代の甲冑を同時に展示し、わが国で高度に発達した工芸技術の様相を具体的に紹介する。ファミリー層を対象とした特集「親と子のギャラリー」シリーズの一環として、図解なども用いた平易な解説やワークシートやハンズオン展示などの鑑賞補助ツールを活用した。また、特別 4 室を同名（日本のよろい！）の日本文化体験スペースとし、甲冑を着用した武士が描かれた高精細複製の屏風や、現代に作られたさわれる兜やよろいのハンズオン展示、曜日を限ってのよろい着用体験コーナーなどを設け、来館者の日本文化理解を促した。

本館 14 室	焼き締め茶陶の美―備前・信楽・伊賀・丹波―	9 月 18 日 ～ 12 月 8 日	22 件（重文 1 件）

＜主な作品＞
◎一重口水指 銘 柴庵、耳付水指、耳付花入、擂座花入

釉薬が掛けられない焼き締め陶は、平安時代末以来、壺、甕、擂鉢といった日用の器として、日本各地の窯で量産された。室町時代後期にまず備前、信楽が国産の陶器としては初めて茶席に取り入れられ、続く安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、茶陶としての創意が加えられたさまざまな作品が作られた。備前、信楽、伊賀、丹波で焼かれた焼き締めの茶陶を特集し、産地による個性の違いや、時代による作風の変遷をご覧いただいた。

本館 特別 1 室	平安時代の書の美―春敬の眼―	10 月 1 日 ～ 11 月 17 日	27 件（重文 1 件. 重美 4 件）

＜主な作品＞
〇大弐三位集断簡（端白切）、◎書状

平安時代の書の研究は、同時代から始まり各時代で行われてきたが、とくに明治時代以降には、筆者や書法に関して格段に研究が進んだ。その中で、現代につながる研究の基礎を作ったのが、昭和から平成にかけて書家としても活躍した飯島春敬（1906～96）である。春敬は書の収集もしており、亡くなった後もまとまって伝えられ、現存する個人コレクションとしては当代随一ともいえるほどのものである。
本特集では、以前より寄託されている春敬のコレクションを中心に、当館の平安時代の書を合わせて、春敬の研究テーマに沿って構成した。春敬の眼を通して、平安時代の書の美をご紹介した。

平成館 企画展示室	天皇と宮中儀礼	10月8日 ～ 1月19日	35件（国宝2件. 重文3件）

＜主な作品＞
高御座図、●延喜式　巻七（甲）、●延喜式　巻七（乙）、悠紀屏風　明和元年度正月・二月帖、主基屏風　明和元年度三月・四月帖、悠紀屏風　文政元年度七月・八月帖、主基屏風　文政元年度十一月・十二月帖、◎源氏物語　「行幸」、◎厳島御幸記並高倉院昇霞記（金沢文庫本）、◎熊野懐紙、賢聖障子屏風 、大宋屏風、年中行事図屏風 、年中行事図屏風

天皇を中心とする宮廷社会では様々な儀式や行事が執り行なわれてきた。こうした儀式や行事の多くは平安時代に発達し、華やかな様相を整えた。鎌倉時代以降、宮廷の衰微とともに儀式、行事も衰退・断絶したが、江戸時代になると再び復興されるに至り、江戸時代末まで行なわれた。
宮廷で行なわれる儀式や行事は、年中行事と臨時行事に分けられる。年中行事とは毎年繰り返し行なわれる行事のことで、臨時行事とは天皇の即位や大嘗祭など、その都度行なわれる儀式のことである。こうした儀式・行事は過去の先例を重視したため、絵画作品や歴史資料など、多くの記録に残されてきた。
本特集は、平成から令和への御譲位、御即位により注目の集まる天皇と宮中儀礼を、「即位礼と大嘗祭」、「悠紀主基屏風」、「御所を飾る絵画」、「年中行事」、「行幸と行幸」の５つのテーマによって紹介した。とりわけ平安時代以降、天皇が即位後に行なう大嘗祭では、その都度、悠紀主基屏風が連綿として作成されてきたが、今回展示する明和元年度の屏風は現存最古のもので、極めて貴重な作品である。本特集は、一般には接することの少ない様々な宮中の儀式、行事を知るきっかけとなった。

本館 15 室	平家納経模本の世界―益田本と大倉本―	10 月 22 日 ～ 12 月 8 日	22 件

＜主な作品＞
平家納経 厳王品 第二十七（模本） 益田本、平家納経 厳王品 第二十七（模本） 大倉本

大正から昭和にかけて田中親美（1875～1975）が制作した「平家納経」（原本：国宝、広島・嚴島神社蔵）の模本は、原本そっくりに作られた精巧な複製本である。当館には、益田鈍翁旧蔵の一組３３巻（益田本と呼ぶ）と松永耳庵旧蔵の１巻（松永本と呼ぶ）が伝わっており、現在、大倉集古館蔵の一組３３巻（大倉本と呼ぶ）の寄託も受けている。
先年、益田本と大倉本の比較調査を実施したところ、さまざまな相違点を確認でき、その原因を追究しているところである。本特集では、益田本と大倉本を並べて展示し、比較研究の成果をひろく公開した。

東洋館 8 室	中国書画精華―日本における愛好の歴史	10 月 29 日 ～ 12 月 25 日	51 件（国宝 4 件. 重文 19. 重美 4 件）

＜主な作品＞
◎洞山渡水図軸、◎竹塘宿雁図軸、◎枯木図軸、◎四睡図軸、◎寒山拾得図軸、◎史記巻第二十九河渠書第七残巻、
行書王史二氏墓誌銘稿巻、行書与林道人尺牘、●禅院額字「旃檀林」、●無隠元晦あて法語

恒例となった中国書画の名品展を開催した。我が国に舶載された中国の書画は、日本美術にも大きな影響を与えながら、日本独自の美意識に基づく鑑賞法で大切に伝えられてきた。日本における中国書画愛好の歴史をたどりながら中国書画名品の魅力を紹介した。

本館 特別 2 室	近世日本と外国文化	11 月 19 日 ～ 12 月 25 日	23 件（重文 7 件）

＜主な作品＞
桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕 聖ステファノの殉教、磔刑図、◎エラスムス立像、◎天正遣欧使節記、◎地球図

日本と西洋との本格的な交流は 16 世紀半ばに始まった。江戸時代も、いわゆる「鎖国」という幕府の統制下に置かれながら外国との通商関係が続けられ、日本にもたらされた西洋の情報や技術は、わが国で新たな文化をうみだす原動力となった。

本特集では、はじめに、近世に先立つ中世末期に日本に伝わったキリスト教にちなむ文物―油彩画、銅版画や羽根モザイクなど―を展示した。次に、旧教（カトリック）国であったスペイン、ポルトガルに代わり来日した新教（プロテスタント）国・オランダゆかりの品として、エラスムス像や西洋鍼路図を紹介した。最後に、乾隆帝に仕えたイエズス会宣教師で画家のカスティリオーネによる下絵に基づく清朝版画や、同修道会宣教師マテオ・リッチ作「坤世万国全図」（万暦 30 年・1602）を基にした屏風などを通して、近世日本にはヨーロッパの情報が中国などを介したルートからも流入していたことを紹介した。

平成館 企画展示室	生誕 550 年記念 文徴明とその時代	1 月 2 日 ～ 3 月 1 日	77 件(重文 3 件. 重美 2 件)

＜主な作品＞
草書千字文巻、◎四万山水図軸 、初夏山斎図軸、山水図巻、行書遊天池詩巻、楷書離騒九歌巻、楷書前後出師表巻、行草書千字文巻、草書宋之問詩巻

明時代の中期を代表する文人、文徴明(1470～1559)は、沈周のあとを受けて蘇州の芸苑(呉派)を主導し、90 歳の長寿を全うした。古典に根差した精緻で気品に満ちた書画は一世を風靡し、後世にも大きな影響を与え、中国の書画史上において確固たる位置を占める。

令和 2 年(2020)は文徴明の生誕 550 年にあたることから、あらためて文徴明に焦点をあて、呉派をはじめとする明時代の中期に活躍した諸家の書画とともにその功績を顕彰した。台東区立書道博物館との連携企画第 17 弾。

本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　子・鼠・ねずみ	1 月 2 日～26 日	55 件(重文 1 件)

＜主な作品＞
鼠草紙、大黒天立像、◎鼠志野鵲鴿文鉢、諸獣図 、鼠蒔絵印籠

令和 2 年（2020）の干支である子年（ねどし）に因み、「鼠」を主題とした特集展示を行なった。暦や方角を示す十二支は古代中国に成立し、十二種類の動物としてのイメージと結びつきながら、中国だけでなくその周辺地域まで広まった。本展示では、鼠に関する美術工芸品、歴史史料や考古資料を当館所蔵品より厳選し、「十二支の鼠」、「大黒天と鼠」、「さまざまな鼠色」など、複数のテーマにわけて紹介した。

本館 14 室	伝説の面打たち	1 月 2 日 ～ 2 月 24 日	23 件（重文 2 件）

＜主な作品＞
◎能面　三番叟（黒色尉）、◎能面　伝山姥 、能面　増女

「伝説上の面打の作」とされる能面は多く伝わるが、あくまでも伝承として理解され、その造形的特徴と伝承作者との関係性に目が向くことは少ない。同じ伝承作者の作品を比較すると、その伝承作者の造形的特徴と認識されてきたものをさぐる糸口となるだろう。作者の信憑性は不明だが、当館に収蔵する伝説の面打の作とされる能面を並べ、比較した。

ＣＴ調査によって得られた知見もあわせて紹介した。

平成館 企画展示室	朝鮮王朝の宮廷文化	2 月 4 日～3 月 15 日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、2 月 27 日をもって中止	52 件(重文 3 件)

＜主な作品＞
宮廷儀式図屏風 、団領（文官服）、◎雲龍金描朱漆箱 、鳳凰長生螺鈿二層箪笥 、唐衣、鳥獣華角貼箱

朝鮮王朝の調度や服飾を展示し、宮廷人や両班の生活文化を紹介する特集展示。14 世紀に建国された朝鮮は、首都を開京（現在の開城）から漢陽（現在のソウル）に遷し、景福宮・昌徳宮・昌慶宮などの宮廷を造営した。朝鮮の宮廷においては、中国の宮廷文化を受容しながら、朝鮮半島の生活様式に適した宮殿・調度・服飾などを形成して、独自の宮廷文化が開花した。ここでは宮廷ゆかりの調度や服飾とともに、宮廷人を輩出した両班が用いた生活用具をも併せて展示し、朝鮮の宮廷における生活文化を紹介した。

本館 14 室	特集おひなさまと日本の人形	2 月 26 日～3 月 22 日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、2 月 27 日をもって中止	105 件

＜主な作品＞
厨子棚 、黒棚、書棚 、三揃、古今雛 、享保雛、古式次郎左衛門雛、衣裳人形 吉弥、内裏雛（芥子雛、束帯・十二単姿）

3 月 3 日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行う。今年は、前川冨士子氏寄贈の雛飾りと日比谷家伝来の古今雛を中心に展示した。特に前川氏寄贈の雛飾りは江戸時代の江戸で作られた細密雛道具の優品であり、江戸の雛文化の頂点を示す作品が一堂に展示される貴重な機会であった。また天児・這子や立雛によって、雛人形の発展を概観するとともに、当館所蔵の衣裳人形の優品を展示することで、オリンピックイヤーでもあることから、日本の人形文化を海外にも発信するに相応しい内容とした。これらの作品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えた。

本館 14 室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3 月 24 日～4 月 26 日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、開催中止	9 件

＜主な作品＞
四季花鳥図巻 、愛染明王像、十二間星兜鉢、単鳳環頭大刀

本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げることを計画していた。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただくねらいがあった。

本年度は、本格修理完了品として「四季花鳥図巻」「愛染明王像」や「十二間星兜鉢」など 9 件を展示予定であった。

本館 14 室	法隆寺と聖徳太子―法隆寺研究の近代	3 月 24 日～5 月 10 日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、開催中止	13 件(重文 1 件)

＜主な作品＞
◎菩薩半跏像、観音菩薩立像（九面観音）（模造）、聖徳太子二王子像（模本）

法隆寺の創建に密接にかかわった聖徳太子と法隆寺の宝物を、当館に所蔵される明治期の模写・模造を取り上げながら紹介することを計画した。
江戸時代・19 世紀、松平定信が中心となって編纂された各種宝物の図版集『集古十種』の刊行や出開帳の際に写し取られた狩野派による模本集成など、博物学的な関心などから寺社の宝物に対する悉皆的な情報収集が行われた。明治時代に入り、美術の制度が成立していく中で、あらためて全国の寺社の悉皆調査が行われることになる。当館所蔵の模写・模造は、江戸時代から明治時代にかけて行われた宝物の情報収集の営みを跡付ける資料であり、また明治時代の模写・模造は日本近代美術の発展の基礎となった作品としても位置付けられる。
本展では、特に法隆寺に伝わる宝物の模写・模造に焦点を当て、あまり展示されない収蔵品の積極的な活用を目指した。同時期に本館特別５及び４室で開催される特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」をあわせて鑑賞していただくことにより、日本における文化財の保存と活用の歴史に対する理解をよりいっそう深めることを目指した。

展覧会名	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流　日本美を伝える」
会　　期	3月5日（火）～4月29日（月）（50日間）
会　　場	東京国立博物館　本館特別4・5室
主　　催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、サントリーホールディングス、資生堂、 ＪＲ東日本、積水ハウス、髙島屋、日本たばこ産業、 野村ホールディングス、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	ＪＴＢ、竹中工務店、成田国際空港、日本郵政グループ、三井住友銀行、 三菱重工業、三菱商事
作品件数	18件
来館者数	122,764人(目標50,000人、達成率：245.5%)
入場料金	一般1,100円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	88.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	宮内庁が所管する皇室ゆかりの作品の中から、上皇陛下が御即位の儀式に際して、東山魁夷、高山辰雄が平成2年（1990）に制作した「悠紀・主基地方風俗歌屏風」や、上皇上皇后両陛下が外国御訪問の際にご紹介された作品、上皇后陛下と御養蚕に係る作品などを展示した。
講演会等	なし

展覧会名	特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」
会　　期	3月26日（火）～6月2日（日）（62日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協賛	大和証券グループ
協　　賛	NISSHA
作品件数	110件
来館者数	463,991人(目標200,000人、達成率232%)
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	81%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	東寺（教王護国寺）は、平安京遷都に伴って、王城鎮護の官寺として西寺とともに建立され、中国から密教を持ち帰った空海がその根本道場とした。密教は造形作品を重視することから東寺にも多くの優れた文化財が伝わる。本展では、講堂安置の21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝11体、重文4体、合計15体を出品したほか、彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰を展示した。
講演会等	記念講演会「東寺の歴史と真言密教の至宝」新見康子（東寺文化財保護課長）4月27日（土）　372名 記念講演会「東寺と仏像曼荼羅」丸山士郎（東京国立博物館広報室長）5月11日（土）　380名

展覧会名	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品　雪舟、永徳から光琳、北斎まで」
会　　期	5月3日（金）～6月2日（日）（27日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社
協　　力	宮内庁
特別協賛	キヤノン、サントリーホールディングス、資生堂、 ＪＲ東日本、積水ハウス、髙島屋、日本たばこ産業、 野村ホールディングス、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	ＪＴＢ、竹中工務店、成田国際空港、日本郵政グループ、三井住友銀行、 三菱重工業、三菱商事
作品件数	37件
来館者数	106,593人(目標50,000人、達成率213.2%)
入場料金	一般1,100円（1,000円）、大学生700円（600円）、高校生400円（300円）中学生以下無料
アンケート結果　満足度	89.4%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』―皇室の至宝・国宝プロジェクト―」の一環として開催した特別展であり、皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」
会　　期	17月9日（火）～9月16日（月）（62日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館

主　　催	東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
後　　援	外務省、中国国家文物局、中国大使館
協　　賛	大日本印刷、三井住友海上火災保険、三井物産
協　　力	飯田市川本喜八郎人形美術館、 コーエーテクモゲームス、日本航空、光プロダクション
作品件数	162件
来館者数	337,639名（目標120,000人、達成率：281.4%）
入場料金	一般1,600円（1,300円）， 大学生1,200(900円)， 高校生900（600円）
アンケート結果　満足度	85.1%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	中国国内18の直轄市・省・自治区から三国志ゆかりの文物を集めた大型展。プロローグで後世に語り継がれた物語性の強い三国志の世界を紹介し、続く第1章～第5章、エピローグにかけて漢時代から西晋時代の出土文物により三国志の時代の実像を明らかにする。三国志の時代の出土文物を中心とする展覧会は本邦初であり、中国においても前例がない。
講演会等	記念講演会「リアル三国志の世界」（市元塁　東京国立博物館東洋室主任研究員）7月13日　353名 記念講演会「三国志から見た邪馬台国」（渡邉義浩　早稲田大学文学部教授）7月27日　384名

展覧会名	**特別展「人、神、自然―アール・サーニ　コレクションの名品が語る古代の世界―」**
会　　期	11月6日（水）～2年2月9日（日）（77日間）
会　　場	東京国立博物館　東洋館3室
主　　催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
作品件数	117件
来館者数	139,737名（目標60,000人、達成率：91.6%）
入場料金	一般620円、大学生410円、高校生以下及び満18歳未満，満70歳以上は無料
アンケート結果　満足度	91.6%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	カタール国の王族であるシェイク・ハマド・ビン・アブドラ・アール・サーニ殿下が収集されたザ・アール・サーニ・コレクションの中から、世界各地の古代文化が生み出した工芸品117件を厳選して紹介した。古代の人々は、自分たち自身をどのように表現したのか、神々や死後の世界、自然界をどのように認識したのか、「人」「神」「自然」の3つの展示テーマを設定して、古代の美術工芸品に投影された、当時の人々の意識や世界観に迫った。
講演会等	ギャラリートーク「古代オリエントの工芸品」（小野塚拓造　平常展調整室研究員）11月12日　244名 ギャラリートーク「古代世界の工芸品の細部に迫る」（小野塚拓造　東京国立博物館平常展調整室研究員））12月10日　101名

展覧会名	**御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」**
会　　期	10月14日（月）～11月24日（日）（37日間）
会　　場	東京国立博物館平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
協　　賛	岩谷産業、大和ハウス工業、凸版印刷、丸一鋼管
作品件数	116件
来館者数	362,076名（目標200,000人、達成率：181.0%）
入場料金	一般1,700円、大学生1,100円、高校生700円
アンケート結果　満足度	85.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	本展は、天皇の勅封によって厳重にまもられてきた正倉院宝物を中心に、東京国立博物館が所蔵する法隆寺献納宝物などを合わせて展示し、古代の日本の国際色豊かな文化を紹介する展覧会である。また、本展では明治時代以降の正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、正倉院宝物が現代までまもり伝えられてきた様子を紹介する。
講演会等	記念講演会「正倉院をまもる」（西川明彦　宮内庁正倉院事務所長）10月20日　364名 記念講演会「正倉院宝物研究の最前線」（猪熊兼樹　東京国立博物館特別展室長、三田覚之　東京国立博物館（当館 工芸室研究員）11月17日　347名

展覧会名	**日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」**
会　　期	令和2年1月15日（水）～3月8日（日）（47日間）＊新型コロナウイルス蔓延防止のため臨時休館（2年2月27日～3月8日）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、奈良県、島根県、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
後　　援	文化庁
作品件数	175件
来館者数	136,054名（目標150,000人、達成率：90.7%）
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	85.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	日本書紀編纂1300年を記念して島根県・奈良県・東博が共同で開催する特別展。国譲り神話で重要な役割を果たした島根県と奈良県ゆかりの名品を通して、古代日本成立の背景や特質を紹介した。本展のきっかけとなった日本書紀をはじめ、古代史を語る上で欠くことのできない荒神谷遺跡出土の銅剣・銅矛・銅鐸や石上神宮に伝わる七支刀などを展示した。

講演会等	記念講演会「古代の出雲と大和－『日本書紀』成立1300年」（佐藤信　東京大学名誉教授）1月18日　391名。 連続講座「出雲と大和」①（奈良県立橿原考古学研究所 企画部企画課長　橋本裕行、西藤清秀（同研究所 技術アドバイザー）、皿井舞（東京国立博物館 平常展調整室長）1月24日 連続講座「出雲と大和」②（増田浩太　島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員、河野一隆　東京国立博物館 調査研究課長、松尾充晶　島根県古代文化センター専門研究員）1月25日 ①、②併せて645名

展覧会名	特別公開「高御座と御帳台」
会　　期	令和元年12月22日（日）～令和2年1月19日（日）（19日間）
会　　場	東京国立博物館　本館特別4室・特別5室
主　　催	東京国立博物館、内閣府、宮内庁
作品件数	5件
担当研究員数	2人
来館者数	204,801人
展覧会の内容	10月22日、天皇陛下が即位を公に宣明されるとともに、その即位を内外の代表がことほぐ儀式として、皇居の宮殿において、即位礼正殿の儀が行われた。この度の特別公開では、即位礼正殿の儀で用いられた高御座・御帳台と威儀物を一般参観に供するとともに、即位の礼の諸儀式の写真と、装束姿を再現する人形を展示した。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　295日(名品ギャラリー開館日数：122日、特別展（一遍聖絵）開館日数：58日、特別展（佐竹本）開館日数：44日、庭園のみ開館日数：71日)
②展示総件数　1147件
③展示替件数　1140件
④入場料金　一般520円、大学生260円　※庭園のみ開館時は一般260円
⑤特集展示等：全7件
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集展示	赤ってじつはどんな色？	7月2日～8月12日	18件（うち重要文化財3件）
特集展示	新収品展	7月2日～8月4日	67件（うち重要文化財1件、重要美術品2件）
特別企画	京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―	8月14日～9月16日	139件（うち国宝36件、重要文化財59件、重要美術品2件）
新春特集展示	子づくし―干支を愛でる―	2020年1月2日～2月2日	16件（うち重要文化財2件）
特集展示	京都御所障壁画 紫宸殿	2020年1月2日～2月2日	1件
特集展示	神像と獅子・狛犬	2020年1月2日～3月22日	13件（うち重要文化財8件）
特集展示	雛まつりと人形	2020年2月15日～3月22日	45件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」
会　　期	4月13日(土)～6月9日(日)（58日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、朝日新聞社、時宗、時宗総本山清浄光寺（遊行寺）
協　　賛	京阪ホールディングス、竹中工務店
協　　力	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団、日本香堂、楽浪文化財修理所
作品件数	162件（うち国宝4件、重要文化財38件、重要美術品2件）
来館者数	66,678人（目標来館者数70000人・達成率95.3%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果　満足度	満足度77.4%
講演会等	・記念講演会 4月13日「時宗教団の変遷」講師：長澤 昌幸 氏（大正大学専任講師） 4月27日「一遍・真教の念仏思想」講師：長島 尚道 氏（時宗教学研究所顧問／真光寺住職） 5月11日「国宝 一遍聖絵―旅と風景、その魅力と謎―」講師：井並 林太郎（京都国立博物館 研究員） 5月18日「時宗のみほとけ―阿弥陀と祖師像を中心に―」講師：淺湫 毅（京都国立博物館 連携協力室長） 5月25日「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」講師：遠山 元浩 氏（遊行寺宝物館長）

展覧会名	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」
会　　期	10月12日(土)～11月24日(日)（44日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞
後　　援	京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市観光協会
協　　賛	岩谷産業、松栄堂、損保ジャパン日本興亜、ダイキン工業、竹中工務店、NISSHA、三井物産、三井不動産
協　　力	大光電機
作品件数	137件（うち国宝5件、重要文化財61件、重要美術品4件）
来館者数	136,811人（目標来館者数80000人・達成率171.0%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	満足度82.8%

講演会等	・記念講演会 10月13日「冷泉家の歴史と文化―冷泉流歌道をめぐって―」 講師：冷泉 為人 氏（冷泉家時雨亭文庫理事長・京都美術工芸大学学長） 10月19日「歌仙絵の成立と展開―佐竹本への道のり―」講師：土屋 貴裕 氏（東京国立博物館 主任研究員） 11月 2日「歌仙絵の最高峰―佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒―」講師：井並 林太郎（京都国立博物館 研究員） 11月 4日「巡る美　変わる美―流転する日本文化―」講師：彬子女王殿下 11月16日「佐竹本三十六歌仙絵への想い」講師：降矢 哲男（京都国立博物館 研究員）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：292日(名品展のみの開館日数：201日)
②展示総件数：461件
③展示替件数：239件
④入場料金：一般　520円　大学生　260円
⑤特別陳列等：全233件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）153件
　珠玉の仏教美術（西新館）175件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）11件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月26日～6月1日まで臨時休館。

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
わくわくびじゅつギャラリー	いのりの世界のどうぶつえん	7月13日～9月8日	65件（国宝5件、重要文化財18件）
特別陳列	法徳寺の仏像 ―近代を旅した仏たち―	7月13日～9月8日	7件
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　春日大社にまつわる絵師たち―	12月7日～2年1月13日	52件（国宝1件、重要文化財4件）
特別陳列	重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板　―文化財写真の軌跡―	12月7日～2年1月13日	41件（重要文化財8件）
特別陳列	お水取り	2年2月4日～3月22日	68件（重要文化財20件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」
会　　期	4月13日(土)～6月9日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿
特別協賛	―
協　　賛	ダイキン工業、大成建設、ライブアートブックス
特別協力	藤田美術館
協　　力	日本香堂、藤田観光、仏教美術協会
作品件数	128件（うち国宝9件、重要文化財53件）口
来館者数	158,078人(目標来館者数 50,000人・達成率 316.2%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	89.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	大阪・藤田美術館の所蔵品から、奈良ゆかりの仏教美術や絵巻・茶道具など名品の数々を紹介した。藤田美術館が所蔵する、国宝9件、重要文化財53件をすべて展示し、国宝・曜変天目茶碗を中心とした茶道具、茶掛けなどの墨蹟、仏教説話画、仏像、仏画、仏教工芸、経典、仮面、能装束、工芸、考古資料など多彩なコレクションを通じて、コレクションを創始した藤田傳三郎の功績を紹介した。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　511人 4月20日(土)「藤田傳三郎と藤田美術館 伝統と未来」藤田清（藤田美術館館長）/ 参加者数　190人 5月11日(土)「国宝 曜変天目茶碗の謎にせまる」小林仁（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理）/ 参加者数　194人 5月25日(土)「藤田美術館の仏教美術コレクション」岩井共二（情報サービス室長）/ 参加者数　127人 ○展覧会関連イベント 3回　参加者数合計　100人 5月5日(日・祝)「オリジナル絵巻を作ろう」／参加者数　31人 5月19日（日）「親子向け抹茶体験ワークショップ」／参加者数　42人 5月26日（日）「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」／参加者数　27人

展覧会名	御即位記念 第71回正倉院展
会　　期	10月26日（土）～11月14日（木）（20日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、ＮＴＴ西日本、関西電気保安協会、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、シオノギヘル

	スケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
作品件数	41件□
来館者数	277,133人(目標来館者数180,000人・達成率 154.0%)
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
アンケート結果　満足度	87.4%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物41件を公開する。
講演会等	○特別講演会 1回　参加者数合計　155人 11月4日(月・祝)「遺愛とその輝き」中西進（高志の国文学館 館長）/参加者数　155人 ○公開講座 2回　参加者数合計　258人 11月 2日(土)「正倉院に伝わる作り物をめぐって―仮山残欠を中心に―」清水健（工芸考古室長）/参加者数　141人 11月 9日(土)「正倉院の風鐸―金銅鎮鐸について―」細川晋太郎(宮内庁正倉院事務所保存課調査室員)/参加者数　117人 ○シンポジウム 1回　参加者数合計　214人 11月3日（日・祝）正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」/ 参加者数　214人 ○展覧会関連イベント 2回　参加者数合計　135人及び自由参加 10月26日(土)～11月14日(木) 正倉院展短歌コンクール受賞作品展示　/ 参加者数　-人 10月27日(日) 第71回正倉院展親子鑑賞会 / 参加者数　135人

展覧会名	**特別展「毘沙門天 ―北方鎮護のカミ―」**
会　　期	2年2月4日(火)～3月22日(日)（42日間）　※新型コロナウイルス蔓延防止のため臨時休館(2年2月27日～3月22日)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館第1室
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
特別協賛	―
協　　賛	ライブアートブックス
特別協力	―
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	37件（うち国宝2件、重要文化財18件）□
来館者数	16,675人(目標来館者数50,000人・達成率 33.4%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	97.5%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	四天王の中で北方を守護するカミである多聞天は、「毘沙門天」として単独の像として造像、信仰され、四天王のなかでも特別の存在として扱われてきた。本展では、日本において多彩な展開を遂げた毘沙門天像のなかから、選りすぐりの優品を展示し、近年新発見された作品やそれらに関する知見をまじえつつ、毘沙門天像の魅力を紹介した。
講演会等	○公開講座 1回　参加者数合計　194人 2年2月15日「毘沙門天の源流を探る―インドからガンダーラ・西域へ―」宮治昭(名古屋大学／龍谷大学 名誉教授)

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：279 日(うち平常展のみ開館日数 89 日)＊新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館（2020/2/27～3/31（29 日間））
②展示総件数：1,894 件(うち国宝 64 件、重要文化財 285 件)
③展示替件数：1,641 件
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤特集展示・特別公開等：全 8 件

展示名称	新収品展 Part1				
開催期間	3 月 5 日(火)～ 5 月 6 日(月・休)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	75 件
内容	平成 30 年度に阿形邦三氏より寄贈された作品を中心に、考古分野の名品を公開した。				
展示名称	新収品展 Part2				
開催期間	6 月 4 日(火)～ 7 月 15 日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	26 件
内容	平成 30 年度に新たに当館の所蔵となった新収品の中から、選りすぐった作品を公開した。				
展示名称	特集展示　館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」				
開催期間	7 月 30 日(火)～ 10 月 20 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	56 件
内容	大航海時代の文化交流の中で生まれた各国好みの多様な更紗を紹介し、当館が積極的に収集してきた更紗の名品を公開した。				
展示名称	特集展示　住友財団修復助成 30 年記念「文化財よ、永遠に」				
開催期間	9 月 10 日(火)～ 11 月 4 日(月・休)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 5 テーマ、第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	38 件（うち国宝 3 件、重文 16 件）

内容	住友財団が助成を開始してから 30 年を迎えることを記念し、その助成によって修理された九州・沖縄の文化財を公開した。				
展示名称	特集展示　版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～				
開催期間	10 月 29 日(火)～ 12 月 22 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	34 件（うち重文 16 件）
内容	対馬で守り継がれてきた渡来版経や、現在は対馬島外で保管されている対馬ゆかりの渡来版経を公開した。				
展示名称	特集展示　縄文王国やまなし				
開催期間	10 月 29 日(火)～ 12 月 22 日（日）	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	56 件（うち重文 39 件）
内容	重要文化財釈迦堂遺跡出土品を中心に山梨県から出土した縄文時代の最盛期の品々を一堂に公開した。				
展示名称	特集展示　刀剣ことはじめ － 刀剣ワールド財団と九博の名刀 －				
開催期間	2 年 1 月 1 日(水・祝)～ 2 年 2 月 24 日(月・休)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	16 件(うち国宝 2 件、重文 6 件)
内容	刀剣ワールド財団の所蔵品の数々を、九博がこれまで収集してきた代表的な刀剣とともに公開した。				
展示名称	新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度				
開催期間	2 年 1 月 1 日(水・祝)～ 2 年 1 月 26 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	35 件（うち国宝 3 件）
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、乱箱、長文箱、短冊箱の 3 件と、同じ『源氏物語』をモチーフとした絵画や、盛岡藩主南部家ゆかりの婚礼調度も合わせて公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」**			
会　　期	4 月 23 日(火)～6 月 16 日(日)（49 日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、大報恩寺、読売新聞社			
作品件数	15 件(うち、重要文化財 7 件)			
来館者数	53,524 人(目標来館者数 70,000 人・達成率 76.5%)			
入場料金	一般 1,600 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円			
アンケート結果　満足度	84.6%			
講演会等	2回　参加者合計　280人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	4月27日	記念講演会「鎌倉彫刻の巨匠　運慶・快慶とその次世代の仏師たち」	東京国立博物館主任研究員　皿井　舞	120人
	5月25日	記念講演会「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」	千本釈迦堂大報恩寺住職 菊入諒如	160人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	5月26日	九州国立博物館杯 特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」記念 第14回さいふごま大会		40人
	4月26日～ 6月15日までの金曜・土曜日（16日間）	プレゼント企画 夜間開館 × 特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！		1,684人

展覧会名	**特別展「室町将軍 － 戦乱と美の足利十五代 －」**			
会　　期	7 月 13 日(土)～9 月 1 日(日)（45 日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送、テレビ西日本			
作品件数	134 件（うち、国宝 14 件、重要文化財 71 件）			
来館者数	86,399 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 216.0%)			
入場料金	一般 1,600 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円			
アンケート結果満足度	87.9%			
講演会等	6回　参加者合計　1,334人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	7月14日	記念講演会「室町将軍家の東アジア外交」	北海道大学准教授　橋本雄	202人
	7月20日	リレー講座　「足利十五代ームロマチックな男たちー」 リレー講座　「名刀乱舞！足利将軍」	展示課主任研究員　一瀬　智 京都国立博物館主任研究員　末兼俊彦	230人
	8月3日	記念講演会「室町将軍家の再評価 - 本当に弱かったのか？ - 」	国際日本文化研究センター助教 呉座勇一	301人
	8月10日	アクロス・文化学び塾「室町将軍15代の武と美」	展示課主任研究員　一瀬　智	76人

	8月11日	華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストレーション「いけばなにおける室町時代」	華道家元池坊次期家元　池坊専好	271人
	8月12日	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」開催記念シンポジウム「京都・等持院　歴代足利将軍像の謎に迫る」	京都大学　根津研介 展示課長　楠井隆志 立命館大学　大田壮一郎 東京大学　髙岸　輝	254人

イベント等

期日	イベント名	参加者
7月13日	おっきい　こんのすけ撮影会	－
7月13日 ～9月1日	刀剣男士・大般若長光の等身大パネル設置	－
7月15日	九州国立博物館杯 特別展「室町将軍」記念 第15回さいふごま大会	50人
7月19日、 8月7日	実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	10人
8月1日、 8月28日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展　観覧ツアー	25人
7月13日～8月31日までの金曜・土曜日および7月24日､25日(17日間)	プレゼント企画 夜間開館×特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」 梅が枝餅引換券プレゼント！	2,935人

展覧会名	**日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」**
会　　期	10月1日(火)～2年1月5日(日)（77日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社
作品件数	161件
来館者数	140,155人(目標来館者数70,000人・達成率　200.2%)
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
アンケート結果満足度	78.0%

講演会等

2回　参加者合計　　544人

講演会

10月20日	講演会「ここまで分かった“リアル三国志” － 新発見の考古資料から読み解く － 」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	238人
12月14日	特別展「三国志」記念特別講演会 「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」 「三国志の時代と卑弥呼の鏡」	河南省文物考古研究院第一研究室副主任 潘偉斌 九州大学大学院人文科学研究院准教授 辻田淳一郎	306人

イベント等

期日	イベント名	参加者
9月22日	九州国立博物館特別展「三国志」開催記念 第6回ミュージカル寄席　ミュージカル落語「三国志」	256人
10月14日	井上涼　びじゅチューン！なりきり美術館＆三国志コンサート	581人
10月27日	九州国立博物館杯 日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念 第16回さいふごま大会	80人
11月22日、 12月14日	特別展「三国志」夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム　英雄(ヒーロー)現る‼ ～もしも、卑弥呼の使者が曹操に出会ったら～」【手話通訳付き！】	700人
11月23日	日中文化交流協定締結４０周年記念　特別展「三国志」関連イベント「夜な夜な三国志」「夜な夜な大合戦」、「夜なべでＭＹ缶バッジ」、「今夜だけは。。。プレミアム生ガイド＃呉」、「孔明の危機？！三国志的イルミネーション」、「来場者プレゼント」	400人
12月5日、 12月11日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展「三国志」観覧ツアー	30人
10月4日～12月21日までの金曜・土曜日、1月3日、4日（26日間）	プレゼント企画 夜間開館×特別展「三国志」 梅ヶ枝餅引換券＆カプセルトイ引換券をプレゼント！	4,614人

展覧会名	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」
会　　期	2年2月4日(火)～3月29日(日)（20日間）＊新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館（2020/2/27～3/29）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、東京富士美術館、西日本新聞社、毎日新聞社、九州朝日放送
作品件数	86件
来館者数	45,636人(目標来館者数60,000人・達成率76.1%)
入場料金	一般1,600円、高大生900円、小中生500円
アンケート結果　満足度	85.4%
講演会等	1回　参加者合計　247人

講座

期日	講座名	所属・講師	参加者
2年 2月9日	記念講演会「フランス絵画の栄光 – 古典主義からロマン主義まで」	美術評論家・美術史家大原美術館館長　高階秀爾	247人
2年 3月8日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 講演会	エコール・ド・ルーヴル出身 小柳由紀子	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
2年 3月13日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 講演会	九州大学言語文化研究院准教授　倉片健作	同上
2年 3月15日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華」 講演会	ソルボンヌ大学考古学博士 グザヴィエ・ミシェル田中	同上

イベント等

期日	イベント名	参加者
2年2月22日	古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひととき	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
2年3月1日	特別展「フランス絵画の精華」記念　第17回さいふごま大会	同上
2年3月3日 ～15日	フランス・スタンド	同上
2年2月7日 ～2月22日 までの金曜・土曜日 （6日間）	プレゼント企画 夜間開館×特別展「フランス絵画の精華」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	1,147人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：128日）
②展示総件数：560件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：26,562人
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

(2)特別展、企画展等：５件

展覧会名	春期企画展(こども展示)　「高御座（たかみくら）―奈良朝の玉座―」		
会　　期	4月27日（土）～6月2日（日）(33日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	14件（0件）
来館者数	14,456人	入場料金	無料
講演会等	第一次大極殿における幢幡特別公開（4月27日～2年1月5日）		

展覧会名	夏期企画展(こども展示)　「ならのみやこのしょくぶつえん」		
会　　期	7月20日（土）～9月1日（日）、9月5日　(39日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	100件（0件）
来館者数	9,162人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク２回・ワークショップ２回、参加者数合計270人		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展　―年号と木簡―」		
会　　期	10月12日（土）～11月24日（日）（37日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	76件（国宝12件）
来館者数	13,257人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク３回・参加者数合計203人		

展覧会名	新春ミニ展示「平城京の子」		
会　　期	2年1月4日（土）～26 日（日）（20日間）	会　場	平城宮跡資料館　入口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	1件（0件）
来館者数	4,456人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	冬期企画展「発掘された平城　2019」		
会　　期	2年2月1日（土）～3月29 日（日）（22日間）	会　場	平城宮跡資料館　入口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	59件（0件）
来館者数	3,515人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク２回・参加者数合計48人		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：357日
②展示総件数：534件
③展示替回数：2回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：6件
⑥平常展来館者数　：7,002人
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】 「埋（うず）もれた大宮びとの横顔―薬・まじない・庄園の木簡」	4月8日～26日	木簡21点
飛鳥寺旧境内の調査（197-1・2・6次）	7月1日～12月27日	飛鳥寺所用軒瓦11点、風鐸1点等
藤原宮大極殿院の調査（第195・198次）	7月1日～12月27日	大極殿院出土軒瓦3点・不明瓦製品6点
坂田寺SG100出土の瓦（石神遺跡第7次）	7月1日～12月27日	坂田寺出土瓦8点、鴟尾1点
石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）	7月1日～12月27日	石神遺跡出土土器19点
藤原宮外周帯の調査（第197-4次）	7月1日～12月27日	藤原宮造営期の井戸及び井戸枠の原寸大写真2点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：116日）
②展示総件数：136件
③展示替回数：2回
④入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料　※（　）は20名以上の団体
⑤平常展のみの来館者数：4.676人
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期特別展「骨ものがたり－環境考古学の研究室のお仕事」		
会　　期	4月23日（水）～6月30日（日）（61日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	200点（0件）
来館者数	10,024人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	イベント「体験！研究員のお仕事」3回　参加者数合計126人、「研究員を展示！」４回　参加者数合計742人		

展覧会名	夏期企画展「第10回写真コンテスト作品展「あすかの古墳」」		
会　　期	7月19日（金）～ 9月1日（日）（40日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	114点（0件）
来館者数	3,070人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	－		

展覧会名	秋期特別展「飛鳥－自然と人と－」		
会　　期	10月11日（金）～12月1日（日）（44日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	31件（0件）
来館者数	6,506人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	イベント「飛鳥の森を探る」参加者数15人、「ふるさと飛鳥を語る」　参加者数37人		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」		
会　　期	2020年1月24日（金）～3月15日（日）（45日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	350点（0件）
来館者数	1,331人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	－		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和2年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
1,025人	159人	255人	150人	274人	148人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計159人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （151人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助 （通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知（「本日の博物館」シール貼替え・通年） ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） ・日本文化体験補助（通年） 【保存修復事業の補助（平成31年度は休止）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：24校 生徒数：76人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（42人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(17冊) ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用（通年） ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（通年） 【各種連携事業】 ・「キッズデー」（8月4日）内プログラム アートスタジオ、考古展示室ガイド、東洋館ツアー、法隆寺宝物館ガイド、ワークショップ補助、キッズコーナー補助、館内案内、体験コーナー ・「留学生の日」(11月3日)内プログラム 考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、刀剣・武士の装いツアー、英語ガイド、浮世絵ガイド（中国語）実施、館内案内、体験コーナー ・「博物館でアジアの旅」(9月10日～10月14日)内プログラム たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、考古展示室ガイド、東洋館ツアー、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、館内案内、体験コーナー（特に東洋館オアシスの実施） ・「博物館でお花見を」（平成31年4月1日～7日内プログラム。令和2年3月10日～31日のプログラムは、新型コロナウィルス拡大防止のため中止） 樹木ツアー、本館ハイライトツアー、館内案内、体験コーナー 【ボランティアデー開催】 ・ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、ボランティア質問コーナー、撮影コーナー、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館ガイド、アートスタジオ、浮世絵ガイド、お茶会、彫刻ガイド、陶磁ガイド、考古展示室ガイド、刀剣・武士の装いツアー、通常活動の実施。（12月7・8日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施 266回9,921人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数、令和2年2月27日～3月31日のプログラムは、新型コロナウィルス拡大防止のため中止。） ・樹木ツアー 15回404人参加 ・浮世絵ガイド 11回582人 ・浮世絵（中国語）ガイド 1回35人 ・本館ハイライトツアー 27回1,235人

種別 （登録人数）	概　要
	・法隆寺宝物館ガイド　24回1,166人 ・考古展示室ガイド　25回1,020人 ・考古ガイド（東洋館）　2回87人 ・陶磁ガイド　12回430人 ・庭園茶室ツアー　10回176人 ・お茶会　20回300人 ・彫刻ガイド　22回1,385人 ・彫刻ガイド（東洋館）　1回35人 ・英語ガイド　21回674人（留学生の日の定点ガイド含む） ・アートスタジオ　8回222人 ・たてもの散歩ツアー　14回418人 ・近代の美術ガイド　10回378人 ・東洋館ツアー　25回773人 ・刀剣・武士の装いツアー　12回440人 ・ボランティア活動紹介ツアー　6回161人
東京藝術大学大学院インターンシップ（8人）	東京藝術大学との連携事業。トーク検討会、原稿作成、リハーサルののち、各自6回ずつギャラリートークを実施予定だったが、新型コロナウィルスの拡大防止のため、2月26日以降は中止。学生にとっては研究の一助になり、ギャラリートークは学内発表とは違う貴重な経験になった。来館者にとっても展示作品についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク(研究発表)班】8人 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計37回1,408人】 「ヴィンツェンツォ・ラグーザの『日本の婦人像』」　5回101人 「雪村の『鷹山水図屏風』の画面構成について」　6回248人 「宝慶寺石仏龕のかたちとその意味」　6回364人 「『雪中群鳥』にみる渡辺省亭の洋風表現」6回206人 「『十二ヶ月花鳥図屏風』の魅力」　6回223人 「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」1回40人 「宮川香山と明治の『日本』」4回143人 「『子日蒔絵棚』にみる光悦の意匠」3回83人 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1（3）①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計42回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・基本活動関連研修　13回
- ・活動紹介ツアー研修　5回
- ・バリアフリー班研修　5回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　2回
- ・スクールプログラム班研修　11回
- ・自主企画グループ研修　2回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】（以下の展示等につき実施）　計3回
- ・特別展「国宝 東寺 空海と仏像曼荼羅」
- ・特別展「三国志」
- ・特別展「出雲と大和」

【京都国立博物館】　計255人

種　別 （登録人数）	概　要
京博ナビゲーター（201人）	京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った。 ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く名品ギャラリー開室日毎日、113日、概算45,477人） ・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」（51日、3,896人参加） ・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連ワークショップ「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」（37日、5,662人参加） ・教育普及活動の補助（夏期講座） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（4日）、活動の意欲向上と相互に交流を深めることを目的とした感謝会（1日）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(22人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(21人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（20回）を受け、下記の活動を行った。 ・京都市内の小中学校への訪問授業(7回・683人) ・記者体験in京都国立博物館（1回・134人） ・KYOTO博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」（1回・84人） ・「文化財を教室に！ー複製を活用した事例紹介と交流会―」での事例発表（1回）
京都・らくご博物館学生ボランティア（11人）	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計150人

種　別　(登録人数)	概　　要
世界遺産グループ(47人)	【世界遺産学習】 奈良市の公立小学校5年生の受け入れ　24校　1,332人 【学校団体案内】 ・小学生、中学生、高校生の受け入れ　10校　833人 【イベント補助】 ・奈良市教育委員会との共催イベント「親子で学ぼう 奈良の仏像」　2回　66組144人参加 【その他の活動】 ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内における質問対応等　295回
解説グループ(56人)	【展示案内等の活動】 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説　　通年（520回） ・なら仏像館のデスクでの質問対応と解説　　通年（1,106回） ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　170回 ・なら仏像館定時ツアー解説　通年（494回） ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内における質問対応等　31回 ・特別陳列「お水取り」ミニツアー解説　→中止
サポートグループ（47人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　10回 ・特別講演会の受付　1回 ・サンデートークの受付　11回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・イベント 改元記念特別講演会「ようこそ新元号！～これまでの奈良博 これからの奈良博～」受付と補助　1回 ・親と子のワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」　受付と補助　1回 ・イベント「親子茶会」　受付と補助　1回 ・親子ワークショップ「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」　受付と補助　1回 ・親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」　受付と補助　1回 ・絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」　受付と補助　1回 ・アンケート調査　受付と補助　14回 ・イベント「英語落語　in奈良国立博物館」　受付と補助　1回 ・第71回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・「文化財保存修理所特別公開」受付と補助　1回 ・お水取り「講話」と「現地解説」の会　受付と補助　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・夏季講座の配布資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　14回 【交流チームの活動】 ・元年度ボランティア親睦会　1回 ・庭園ツアー体験会　1回 ・世界遺産学習体験会の実施　1回 【庭園チームの活動】 ・春の庭園案内ガイドの実施　計3日　庭園入場者数 1,548人 ・秋の庭園案内ガイド実施　計2日　庭園入場者数 2,333人 ・仏教美術資料研究センター案内ガイドの実施　→中止 【通信誌チームの活動】 ・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　3回

【ボランティアに対する研修の実施】　計14回
- ・名品展研修　10回
- ・特別展、特別陳列、特集展示の研修　4回

【グループ別の勉強会の実施】計31回
- ・世界遺産グループ　　8回
- ・解説グループ　　14回
- ・サポートグループ　　9回

【各グループ共通の活動】
- ・第71回正倉院展・講堂ボランティア解説　20日　89回

【九州国立博物館】　計274人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア(62人)	文化交流展示室での案内、並びに展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(33人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。

種　別　(登録人数)	概　　要
館内案内日本語ボランティア(26人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(61人)	英語・韓国語・中国語での館内の概要・施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(26人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア(3人)	ボランティア主催イベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア(17人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア(11人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）やボランティアイベント等の活動をサポート。 他部会との交流や、他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。
学生ボランティア(5人)	高校生・大学生によるイベントの企画・実施。
フィールドボランティア（12人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ（18人）	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。
(研修)全体研修　12回、部会別研修　35回、グループ研修　72回
(対応来館者数) 展示解説(6,192人)、館内案内(7,193人)、バックヤードツアー(2,293人)

【奈良文化財研究所】　計148人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア（148人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
　平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　16回
　解説ボランティア向け現地説明会　2回
　解説ボランティア勉強会　5回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
332 人	73 人	55 人	3 人	12 人	3 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	170 人	22 人		148 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進本部			
	89 人	0 人			

【東京国立博物館】延べ　55人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	王　卓然	中国	中国文物交流中心・プロジェクト担当	特別展「アジア文明連合展覧会」にかかる作品輸送	4月21日～4月25日
2	陸　明華	中国	上海博物館・陶磁部研究館員	特別展「十五世紀中期景徳鎮陶器展」にかかる作品輸送	5月20日～5月23日
3	金　靖之	中国	上海博物館・展示部館員	特別展「十五世紀中期景徳鎮陶器展」にかかる作品輸送	同上
4	陶　蘇衛	中国	蘇州博物館・副館長	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	5月21日～5月24日
5	茅　艶	中国	蘇州博物館・副館長　研究館員	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	同上
6	楊　芸	中国	蘇州博物館・展示設計部主任　副研究館員	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	同上
7	沈　暁峰	中国	蘇州博物館・信息技術部副主任　副研究館員	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	同上
8	張　涵	中国	故宮博物院・器物部館員	特別展「天下龍泉―龍泉青磁与全球化」にかかる作品輸送	6月30日～7月4日
9	王　娟	中国	故宮博物院・文物管理処館員	特別展「天下龍泉―龍泉青磁与全球化」にかかる作品輸送	同上
10	鄭　美娟	韓国	国立中央博物館・学芸研究室アジア部学芸員	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	7月29日～8月11日
11	丁　鵬勃	中国	国家博物館・科学研究管理処処長	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	8月17日～8月22日
12	王　建平	中国	国家博物館・文保院副院長	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
13	張　潤平	中国	国家博物館・藏品保管部研究館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
14	王　志強	中国	国家博物館・科学研究管理処副研究館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
15	王　洪敏	中国	国家博物館・科学研究管理処研究館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
16	劉　文濤	中国	南京博物院・副院長	東京国立博物館・南京博物院間の人的交流および学術交流推進のため	9月4日～9月6日
17	張　楽	中国	南京博物院・陳列芸術研究所副主任	東京国立博物館・南京博物院間の人的交流および学術交流推進のため	同上
18	蘆　小慧	中国	南京博物院・文化創意部	東京国立博物館・南京博物院間の人的交流および学術交流推進のため	同上
19	韋　剛	中国	上海博物館・展示部館員	特別展「十五世紀中期景徳鎮陶器展」にかかる作品輸送	9月4日～9月7日
20	馮　澤洲	中国	上海博物館・陶磁部研究館員	特別展「十五世紀中期景徳鎮陶器展」にかかる作品輸送	同上
21	沈　瓊華	中国	浙江省博物館・陶磁部主任研究館員	特別展「天下龍泉―龍泉青磁与全球化」にかかる事前調査	9月23日～9月27日
22	江　嶼	中国	浙江省博物館・陶磁部文博館員	特別展「天下龍泉―龍泉青磁与全球化」にかかる事前調査	同上
23	李　賢珠	韓国	国立中央博物館・教育文化交流団　文化交流広報課　広報専門経歴官	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	9月24日～10月5日
24	Trần Thị Thúy Ngân	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・国際協力部	特別企画「文化財よ、永遠に」作品輸送・展示作業のため	9月25日～10月1日
25	Nguyễn Sỹ Nam	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・保管部	特別企画「文化財よ、永遠に」作品輸送・撤収作業のため	11月24日～11月27日
26	Aaron Rio	アメリカ	メトロポリタン美術館・日本美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
27	Anne Nishimura Morse	アメリカ	ボストン美術館・ウィリアム・アンド・ヘレン・パウンズ・シニア・キュレーター（日本美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
28	Rosina Buckland	カナダ	ロイヤルオンタリオ博物館・日本美術、文化担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
29	Frank Feltens	アメリカ	フリーア美術館・日本美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
30	Andreas Marks	アメリカ	ミネアポリス美術館・メアリー・グリッグス・パーク日本・韓国美術学芸部長、クラーク日本美術センター館長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月3日
31	Laura Allen	アメリカ	サンフランシスコ・アジア美術館・学芸部長・キュレーター（日本美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
32	Stephen Salel	アメリカ	ホノルル美術館・ロバート・F.ランジ財団日本美術キュレーター	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
33	Sinéad Vilbar	アメリカ	クリーブランド美術館・日本美術学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
34	Khanh Trinh	スイス	リートベルク美術館・日本・韓国美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月3日
35	Rupert Faulkner	イギリス	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館・東洋部日本美術担当主任学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
36	Menno Fitski	オランダ	アムステルダム国立美術館・アジア部長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
37	Ainura Yusupova	ロシア	プーシキン美術館・東洋絵画主任学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
38	Wibke Schrape	ドイツ	ハンブルク美術工芸博物館・東アジア課長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
39	Daan Kok	オランダ	国立民族学博物館（ライデン）・学芸員（日本・韓国）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
40	Tim Clark	イギリス	大英博物館・名誉研究員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月3日
41	Elizaveta Vaneian	ロシア	プーシキン美術館・古代東洋美術部リサーチフェロー	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
42	Nadejda Maykova	ロシア	クンストカメラ（サンクトペテルブルク）・列品管理課長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
43	Kate Newnham	イギリス	ブリストル市立美術館・シニアキュレーター（視覚芸術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
44	Greg Irvine	イギリス	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館・東洋部日本美術担当主任学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
45	Bas Verberk	ドイツ	東亜美術館（ケルン）・日本美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
46	Cora Würmell	ドイツ	ドレスデン博物館・東アジア陶磁担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
47	Mio Wakita-Elis	オーストラリア	オーストリア応用美術館・アジア美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
48	Karwin Cheung	スコットランド	スコットランド国立博物館・アシスタントキュレーター（東・中央アジア）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
49	Alban von Stockhausen	スイス	ベルン歴史博物館・民俗コレクション担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
50	Shinoda Yayoi	アメリカ	ネルソン・アトキンス美術館・学芸アシスタント(東アジア美術)	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
51	Rhiannon Paget	アメリカ	ジョン・アンド・メーブル・リングリング・ミュージアム・オブ・アート（フロリダ州）・アジア美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
52	Mary Redfern	アイルランド	チェスター・ビーティ・東洋美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
53	Manuela Moscatiello	フランス	チェルヌスキ美術館・日本美術担当	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
54	Gwen Adams	カナダ	ロイヤルオンタリオ博物館・所蔵品取扱担当者(アジア)	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
55	Hollis Goodall	アメリカ	ロサンゼルス・カウンティ美術館・キュレーター（日本美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上

【京都国立博物館】　3人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	メアリー・レウィン	アメリカ	カルフォルニア大学バークレー校東洋美術史博士後期課程	特別研究員として	4月1日～5月17日
2	趙　豊	中国	中国国立シルク博物館長	学術交流のため	8月25日～8月31日
3	ロバート・ミンツ	アメリカ	サンフランシスコ・アジア美術館副館長	連携に関する打合せ	9月7日

【奈良国立博物館】　延べ　12人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	翟　紅志	中国	河南博物院　院長補佐	博物館における文化財の調査研究及び保存・展示の協力関係を推進するため	5月7日～5月21日
2	常　国富	同上	河南博物院　総務課長	同上	同上
3	黄　銀順	韓国	国立慶州博物館　学芸研究官	文化財の調査及び研究交流	5月24日～8月20日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
4	褚　暁波	中国	上海市文化と旅游局副局長　上海市文物局副局長	博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	8月29日～9月2日
5	欧　暁川	同上	上海市文化と旅游局　文物保護管理処副処長	同上	同上
6	趙　恬君	同上	上海市文化と旅游局　博物館管理処主任科員	同上	同上
7	李　峰	同上	上海博物館　副館長	同上	同上
8	徐　立芸	同上	上海博物館　文化交流弁公室副主任	同上	同上
9	孔　寧	同上	上海博物館　館務秘書	同上	同上
10	閔 丙贊	韓国	国立慶州博物館　館長	第71回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月24日～10月26日
11	沈　承煥	同上	国立慶州博物館　企画運営課長	同上	同上
12	Robert Singer	アメリカ	ロサンゼルスカウンティーミュージアム日本館　館長	作品輸送の随伴、開梱立ち会い	12月16日～12月21日

【九州国立博物館】　延べ　3人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
1	金　東完	韓国	国立公州博物館学芸研究士	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	5月23日～6月5日
2	鄭　炫	同上	国立扶餘博物館学芸研究士	同上	同上
3	潘偉斌	中国	河南省文物考古研究所	国際シンポジウム　特別展「三国志」記念特別講演会、「鉄鏡検討会」のため	12月13日～17日

【東京文化財研究所】延べ　22人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Aranzazu Blat Burgues	カタール 国籍（スペイン）	カタール博物館イスラム美術館	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」参加のため。	9月8日～9月27日
2	Mariia Borysenko	ウクライナ	The National Conservation Area "St. Sophia of Kiev" 国立保存修復所"St. Sophia of Kiev" 科学修復部	同上	同上
3	Claudia Giostrella	イタリア	文化財・文化活動省　ピサ及びリヴォルノ県考古学・美術・景観監督局	同上	同上
4	Rosaleen Hill	カナダ	クイーンズ大学	同上	同上
5	Lindsey Hobbs	アメリカ	ニューヨーク市立公文書館	同上	同上
6	Kate Hughes	オーストラリア	ニューサウスウェールズ州立図書館	同上	同上
7	Yuyang Liu	香港	香港大学図書館	同上	同上
8	Clodagh Neligan	アイルランド	ダブリン大学トリニティカレッジ図書館	同上	同上
9	Matthias Sotiras	イギリス 国籍（フランス）	大英博物館	同上	同上
10	Kristina Virro	エストニア	タルトゥ大学図書館	同上	同上
11	Ubaldo Cesareo	イタリア	アーカイブズ・書籍資料保存修復中央研究所	佐藤科研「DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築」の研究遂行のための研究協力。	7月30日～8月12日
12	Yeshi Samdrup	ブータン	ブータン政府内務文化省　文化局　遺産保存課	「ブータンの歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業　第１回専門家会議」参加、発表のため。	6月23日～6月28日
13	Pema Wangchuk	ブータン	同上	同上	6月23日～6月28日
14	Firas Dadoukh	シリア	シリア・アラブ共和国　古物博物館総局	シリア人専門家研修（歴史的都市および建築物の復興に向けた調査計画手法）参加のため。	7月23日～8月6日
15	Muad Ghanem	シリア	同上	同上	7月23日～8月6日
16	José Luiz Pedersoli Júnior	イタリア 国籍（ブラジル）	文化遺産国際協力センター（イクロム）	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」参加のため。	9月21日～9月28日
17	Paolo Cremonesi	イタリア	フリーランス	「クリーニング材料・方法のワークショップ」参加のため。	10月5日～10月12日
18	Manijeh Hadian Dehkordi	イラン	文化遺産観光研究所	「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」参加のため。	11月24日～11月30日
19	Parastou Naeimi Taraei	イラン	同上	同上	同上
20	Fereshteh Zokaei	イラン	イラン国立博物館	同上	同上
21	Maryam Ahmadi	イラン	同上	同上	同上
22	Giovanni Boccardi	フランス	ユネスコパリ文化局　防災担当主任	化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II―世界では、いま何が語られているのか―」での講演のため。	1月29日～2月1日

【奈良文化財研究所】延べ　148人

※部分について…ＥＵ一般データ保護規則により氏名・役職は非公開とする(対象ＥＥＡ加盟国)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	※	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所 ※	共同研究打合せ	4月2日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
2	※	イギリス	Queen's College ※	シンポジウム発表、研究打合せ	4月3日～4月10日
3	※	イギリス	ヨーク大学　※	シンポジウム発表、研究打合せ	4月3日～4月13日
4	李匡悌	台湾	中央研究院・研究員	シンポジウム発表、研究打合せ	4月4日～4月9日
5	趙志軍	中国	中国社会科学院考古研究所科技考古中心・副主査	共同研究	4月5日～4月9日
6	※	イギリス	ケンブリッジ大学　※	シンポジウム発表、研究打合せ	4月5日～4月9日
7	Surat Lertlum	タイ	CRMAリサーチセンター・所長	奈文研訪問、ワークショップ	5月14日
8	※	フランス	College de France　※	奈文研訪問、木簡見学	5月15日
9～14	Sodbaatar Yangug ほか5人	モンゴル	ハラホリン市議	平城地区、飛鳥・藤原地区視察及び所長面談	5月19日～5月21日
15	王金華	中国	復旦大学文物与博物館学系・教授	共同研究	5月30日～6月5日
16	陳嘉琦	中国	復旦大学文物与博物館学系・博士課程・学生	共同研究	5月30日～6月5日
17	黄銀順	韓国	国立慶州博物館・學藝研究官	平城宮跡、周辺見学	6月19日
18	メルセデス・オクムラ	ブラジル	サンパウロ大学・講師	国際遺跡研究セミナー参加	6月24日
19～22	※ 4人	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所※	セミナー開催、斑鳩地区・飛鳥地区視察	6月25日～6月26日
23	※	イギリス	ケンブリッジ大学　※	資料調査	7月8日～7月19日
24	Joshua　D. Englehardt	メキシコ	考古学研究センター・教授	木簡見学、打ち合わせ	7月9日
25～27	Fadjar　I.　Thufail、Marsis　Sutopo、Isni Wahyuningsih 3人	インドネシア	インドネシア科学院・研究員	国際遺跡研究セミナー参加	7月10日
28～32	段清波 ほか4人	中国	西北大学 文化遺産学院・院長	保存修復科学研究室訪問	7月18日
33、34	ハイルロ・イバイドゥラエフ ほか1人	キルギス	スライマン一ト一国立歴史考古博物館科学課歴史室・副課長	ACCU個別テーマ研修2019「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月25日,26,31～8/2
35、36	ボボムロ・ボボムロエフ ほか1人	タジキスタン	タジキスタン国立考古博物館考古室・研究員	ACCU個別テーマ研修2019「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月25日,26,31～8/2
37、38	バフティヤール・コドジャエフ ほか1人	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立歴史博物館貨幣調査室・貨幣コレクション担当学芸員	ACCU個別テーマ研修2019「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月25日,26,31～8/2
39	※	イギリス	ケンブリッジ大学　※	打合せ、資料調査	7月29日～7月31日
40	Bryan D.	アメリカ	プリンストン大学・助教授	表敬訪問、研究交流	7月31日
41～89	※ 49人	イタリア	ICOM-CC, 事務局ほか	ICOM－CCオフサイトミーティング、施設見学	9月5日
90～92	Nguyen Thanh Quang ほか2人	ベトナム	タンロン・ハノイ文化財保存センター・副センター長	所長表敬・施設見学	9月5日
93	马宝杰	中国	遼寧省文物考古研究院・院長	共同研究	9月6日～9月11日
94	郭明	中国	遼寧省文物考古研究院・副研究館員	共同研究	9月6日～9月11日
95	柏艺萌	中国	遼寧省文物考古研究院・副研究館員	共同研究	9月6日～9月11日
96	陈建立	中国	北京大学考古文博学院・教授	共同研究	9月6日～9月11日
97	カズィーム・アブドゥルラエフ	トルコ	イスタンブール大学芸術学部・上級研究員	壁画の保存修復事業に関する研究会で講演、及び報告書作成の打ち合わせ	10月26日～11月3日
98	周振宇	中国	中国社会科学院考古研究所・副研究員	共同研究	11月1日～12月1日
99	唐錦琼	中国	中国社会科学院考古研究所・副研究員	共同研究	11月1日～12月1日
100～119	潘蓉 ほか19人	中国	杭州市都市計画設計研究院・副総技師	奈良の文化財の保存、遺跡の保護について視察	11月26日
120～125	丁垚 ほか5人	中国	天津大学・副教授	平城宮・京における建築史研究に関する意見交換	12月6日
126、127	金武重 ほか1人	韓国	元中原文化財研究院長	研究発表、古代官衙研究会に参加	12月12日～12月14日
128	魏興濤	中国	河南省文物考古研究院・研究員	共同研究	12月16日～12月20日
129	趙文軍	中国	河南省文物考古研究院・研究員	共同研究	12月16日～12月20日
130	慕俊紅	中国	河南省文物考古研究院・副主任	共同研究	12月16日～12月20日
131	閆海濤	中国	河南省文物考古研究院・助理館員	共同研究	12月16日～12月20日
132	郭子樺	中国	河南省文物局・副主任科員	共同研究	12月16日～12月20日
133	※	イギリス	ヨーク大学　※	日本学術振興会外国人招へい研究者(短期)	1月5日～4月4日
134	ONGGAR AKAN	カザフスタン	カザフスタン国立博物館民族遺産研究所・所長	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
135	ASSYLBEKOV KALIBEK	カザフスタン	カザフスタン国立博物館民族遺産研究所・上級研究員	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
136	KAIRMAGAMBETOV ARKHAT	カザフスタン	カザフスタン国立博物館考古資料応急処置室・室長	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
137	RAKHIMZHANOVA SAULE	カザフスタン	カザフスタン国立博物館考古資料応急処置室・研究員	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
138	DOSSAYEVA DANA	カザフスタン	カザフスタン国立博物館保存修復室・室長	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
139	ALIMGAZYYEVA ZHANSAYA	カザフスタン	カザフスタン国立博物館保存修復室・修復家	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
140	李在晄	韓国	中央大学校人文大学歴史学科・助教授	施設・資料見学、研究交流	1月22日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
141	※	リトアニア	ヴィリニュス大学　※	アドバイザリー・ミーティング	1月22日～1月27日
142	※	ドイツ	マックス・プランク人類史科学研究所　※	アドバイザリー・ミーティング	1月22日～1月27日
143	Paula Dupuy	カザフスタン	ナザルバエフ大学文化人類学（考古学）科・准教授	アドバイザリー・ミーティング	1月22日～1月27日
144	韓志仙	韓国	国立文化財研究所・學藝研究士	施設・研究交流	2月3日～2月7日
145	鄭修鈺	韓国	国立完州文化財研究所・學藝研究士	施設・研究交流	2月3日～2月7日
146	姜素英	韓国	国立文化財研究所・學藝研究士	施設・研究交流	2月3日～2月7日
147、148	孫戦偉 ほか1人	中国	陝西省考古研究院	整理室見学	2月12日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　89人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Ritthirong Jiwakanon	タイ	Director, The Institute of Thai Studies, Chulalongkorn University, Thailand	IRCI訪問、意見交換	5月22日
2	Arthit Thongtak	同上	Deputy Director, The Institute of Thai Studies, Chulalongkorn University, Thailand	同上	同上
3	Suebpong Changboonchu	同上	同上	同上	同上
4	Pram Sounsamut	同上	同上	同上	同上
5	Sergio Ribeiro	ブラジル	Director General, International Centre on Water and Transdisciplinarity (CIRAT)	IRCI訪問、意見交換	6月4日
6	Hanafi Bin Hussin	マレーシア	Deputy Dean, Department of Social Advancement and Happiness, University of Malaya	研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第一回ワーキンググループ会合出席	6月26日～27日
7	Aye Aye Thinn	ミャンマー	Director, National Museum (Nay Pyi Taw), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Religious Affairs and Culture	同上	同上
8	Mahirta	インドネシア	Head of Programme, Post Graduate Study Programme in Archaeology, Gadjah Mada University	同上	同上
9	Bui Hoai Son	ベトナム	Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies (VICAS)	同上	同上
10	Nguyen Thi Thu Trang	同上	Chief, Intangible Cultural Heritage Management Division, Department of Cultural Heritage, Ministry of Culture, Sports and Tourism	同上	同上
11	Ana Maria Theresa P. Labrador	フィリピン	Assistant Director, National Museum of the Philippines	同上	同上
12	Tiamsoon Sirisrisak	タイ	Director, Thammasat University Museum of Anthropology, Faculty of Sociology and Anthropology	同上	同上
13	Susan McIntyre-Tamwoy	オーストラリア	Associate Director, Navin Officer Heritage Consultants Pty Ltd	IRCI研究データベース改善のためのワーキンググループ会合出席	7月22日～23日
14	Mya Mya Khin	ミャンマー	Professor and Head of Anthropology Department, University of Yangon	同上	同上
15	Hlaing Hlaing Gyi	同上	Head Librarian, University of Yangon	同上	同上
16		アフガニスタン		Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia 出席	7月31日～8月3日
17		同上		同上	同上
18		同上		同上	同上
19		同上		同上	同上
20		同上		同上	同上
21	Chang Hwee Nee	シンガポール	CEO, National Heritage Board (NHB)	今後の事業協力についての打ち合わせ	9月4日
22	Gerald Wee	同上	Director of Museums and International Affairs, National Heritage Board (NHB)	同上	同上
23	Ong Jia Jing	同上	Assistant Manager, National Heritage Board (NHB)	同上	同上
24	Bulent Bankaci	トルコ	Secretary General, Sabanci Museum	AVICOM関係者としてIRCI訪問、意見交換	9月5日
25	Muumh Iznler	コスタリカ	UNAM CR	同上	同上
26	Sergei Mikhailov	ロシア	CTO, INTMEDIA	同上	同上
27	Denise Tonella	スイス	CURATOR, SWISS NATIONAL MUSEUM	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
28	Futaba Ueki	フランス	Producer, U&A	同上	同上
29	TaAiona Fialkova	ロシア	Dy director, Intmedia (Institute medit)	同上	同上
30	Sevtap Aytuğ	トルコ	Assoc.Prof., Head of New media department Uşak University	同上	9月5日
31	Paula Amaral	ブラジル	Museum of Modern Art of São Paulo	同上	同上
32	Himalchuli Gurung	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	第八回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会出席	11月11日
33	Ling Zhang	中国	Director, Division of International Organizations, Bureau for International Exchanges and Cooperation, Ministry of Culture and Tourism of the People's Republic of China	同上	11月11日
34	Dong-dae Kim	韓国	Director of the Department of World Heritage Team, Cultural Heritage Administration of the Republic of Korea	同上	同上
35	Olympia Esel Morei	パラオ	Director, Belau National Museum, Republic of Palau	同上	同上
36	Chen Hu	中国	Division of International Organizations, Bureau for International Exchanges and Cooperation, Ministry of Culture and Tourism of the People's Republic of China	第八回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会陪席	11月11日
37	Hyung-bin Park	韓国	Senior Researcher, World Heritage Division, Cultural Heritage Administration of the Republic of Korea	同上	同上
38	Yajuan Chen	中国	Director of the General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
39	Huan Yang	同上	Administrative Specialist, General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
40	Xuan Shi	同上	Training programme Specialist, General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
41	Boyoung Cha	韓国	Director, Office of Planning and Management, International Information and Networking Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
42	Soyoung Min	同上	Assistant Programme Specialist, Office of Planning and Management, International Information and Networking Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
43	Sebeen Hwang	同上	Project Consultant, Office of Planning and Management, International Information and Networking Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
44	Pham Thi Thuy Chung	ベトナム	Researcher,Vietnam Museum of Ethnology (VME)	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業国際ワークショップ出席	11月28日～29日
45	Vu Hong Nhi	同上	esearcher/Deputy Head of Education Department, Vietnam Museum of Ethnology (VME)	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業国際ワークショップ出席	11月28日～29日
46	Vu Phuong Nga	同上	Researcher/Deputy Head of the Audio-visual Department, Vietnam Museum of Ethnology (VME)	同上	同上
47	Nguyen Thi Hong Van	同上	Deputy Director, Scientific Research Management, Training and International Cooperation, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上
48	Luong Viet Thai	同上	Deputy Director, Research Management, International Relations and Training Department, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
49	Bui Thanh Xuan	同上	Deputy Director, Research Division for Continuing Education, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上
50	Renee Talavera	フィリピン	Head, Cultural Communities and Traditional Arts Section, National Commission for Culture and the Arts (NCCA)	同上	同上
51	Nilda Mangilay	同上	Subanen Cultural Master, National Commission for Culture and the Arts (NCCA)	同上	同上
52	Renefe Tremedal	同上	SLT Learning Guide Local Project Coordinator, National Commission for Culture and the Arts (NCCA)	同上	同上
53	Duong Bich Hanh	タイ	Programme Specialist for Culture, UNESCO Bangkok	同上	同上
54	Ehsanur Rahman	バングラデシュ	Executive Director, Dhaka Ahsania Mission (DAM)	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 – 教育を題材として」事業国際ワークショップ陪席	11月28日～29日
55	Kristian Apriyanta	インドネシア	Representative, Indonesia: Dewi Fortuna Community Learning Center	同上	同上
56	Almagul Osmonova	キルギス共和国	Director, Taalim-Forum public foundation	同上	同上
57	Ming Chee Ang	マレーシア	General Manager, George Town World Heritage Incorporated	同上	同上
58	Duong Bich Hanh	タイ	Culture Program Officer, UNESCO Bangkok Office, Thailand	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」出席	12月17日～18日
59	Lourdes Zorilla-Hinampas	フィリピン	Chief Language Researcher, Speech and Grammar Division, Commission on the Filipino Language, Philippines	同上	同上
60	Li Fei	中国	Associate Professor, Sichuan University, China	同上	同上
61	Vicente Miguel Diaz	アメリカ合衆国	Associate Professor, Department American Indian Studies, University of Minnesota Twin-Cities, USA	同上	同上
62	Kai U. P. Weise	ネパール	President, ICOMOS (International Council on Monuments and Sites) Nepal, Nepal	同上	同上
63	Norma Absing Respicio	フィリピン	Professor Emeritus, Faculty of Art Studies, College of Arts and Letters, University of Philippines Diliman, Philippines	同上	同上
64	Sandra Lee Morrison	ニュージーランド	Associate Professor, Faculty of Māori & Indigenous Studies, University of Waikato, New Zealand	同上	同上
65	Laretna Trisnantari Adishakti	インドネシア	Lecturer, Center for Heritage Conservation, Department of Architecture and Planning, Gadjah Mada University, Indonesia	同上	同上
66	Munirah Binti Ghazali	マレーシア	Professor, School of Educational Studies, University of Science-Malaysia, Malaysia	同上	同上
67	Jeslie del Ayre	フィリピン	Language Researcher, Speech and Grammar Division, Commission on the Filipino Language, Philippines	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」陪席	同上
68	Ge Yuqing	中国	Director of Training Division, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP), China	同上	同上
69	Liu Guozheng	同上	Training Programme Specialist, CRIHAP, China	同上	同上
70	Shi Xuan	同上	同上	同上	同上
71	Seo Jin Young	韓国	Assistant Programme Specialist, Office of Cooperation and Networking, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP), Republic of Korea	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」陪席	12月17日～18日
72		アフガニスタン		IRCI Discussion on the Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Afghanistan出席	12月24日～25日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
73		同上		同上	同上
74	Akhan Onggaruly	カザフスタン	The head of the Research Institute of the National heritage	カザフスタン国立博物館 民族遺産研究所長Akhan Onggaruly氏との打ち合わせ	1月21日
75	Nguyen Thi Hien	ベトナム	Deputy Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies (VICAS)	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」 研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第二回ワーキンググループ会合出席	2月4日～5日
76	Mahirta	インドネシア	Professor, Gadjah Mada University, Department of Archeology	同上	同上
77	Hanafi Hussin	マレーシア	Deputy Dean, Department of South East Asian Studies, Faculty of Arts and Social Sciences, University of Malaya	同上	同上
78	Nerupama Y. Modwel	同上	Principal Director of ICH Division (INTACH), INTACH	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」 研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第二回ワーキンググループ会合陪席	同上
79	Ms Saera Habib	バングラデシュ	Assistant Director, Bangla Academy	同上	同上
80	Mr S.M Shamim Akter	バングラデシュ	Assistant Director, Bangladesh Shilpakala Academy	同上	同上
81		アフガニスタン		IRCI Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia (Bamiyan, Afghanistan) 出席	3月10日～13日
82		同上		同上	同上
83		同上		同上	同上
84		同上		同上	同上
85		同上		同上	同上
86		同上		同上	同上
87		同上		同上	同上
88		同上		同上	同上
89		同上		同上	同上

【文化財防災ネットワーク推進本部】0人

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和2年3月31日現在

<table>
<tr><th>国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td rowspan="4">120人</td><td>55 人</td><td>18人</td><td>10人</td><td>14人</td><td>13人</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>65 人</td><td colspan="2">27人</td><td colspan="2">38人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">0 人</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　18人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京藝術大学美術学部	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 ―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	東京藝術大学美術学部助教 宮永美知代	学芸企画部上席研究員　木下史青
2	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	京都国立博物館長　佐々木丞平	企画課長　浅見龍介
3	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授　藤岡穣	企画課長　浅見龍介
4	東京大学	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究	東京大学大学院人文社会系研究科文学部教授　高山博	企画課特別展室アソシエイトフェロー　村松綾
5	慶應義塾大学	「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	慶應義塾大学特任講師　鳥谷真佐子	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
6	国立歴史民俗博物館	「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	国立歴史民俗博物館長　久留島浩	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
7	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	東京大学史料編纂所教授　尾上陽介	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
8	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	東京大学史料編纂所　所長 保谷徹	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
9	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	奈良国立博物館学芸部資料室長　宮崎幹子	学芸研究部特任研究員　田良島 哲
10	東京女子大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	東京女子大学教授　佐藤全敏	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
11	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授　藤岡穣	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
12	天理大学	基盤研究B「地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討」	天理大学教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
13	上智大学	基盤研究B「古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる綜合的実証研究」	上智大学特任教授　月本昭男	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
14	立教大学、Tel Aviv University	日本学術振興会二国間交流事業（共同研究・セミナー）「王国から行政州へ　―鉄器時代からペルシア時代のイスラエル北部の考古学的研究」	立教大学教授　長谷川修一、Tel Aviv University Prof. Yuval Gadot	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
15	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	町田市立博物館長、愛知県陶磁美術館総長　伊藤嘉章	調査研究課長　河野一隆
16	九州国立博物館	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」（19113559、2019年度～2021年度）	九州国立博物館主任研究員 畑靖紀	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂
17	筑波大学	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」（19090313、2019年度～2023年度）	筑波大学芸術学系助教　水野裕史	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂、東洋室長　勝木言一郎
18	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	奈良国立博物館長　松本伸之	保存修復課環境保存室長　和田浩

【京都国立博物館】延べ　10人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	北海道大学	ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究－社会価値と事業改善に着目して	文学研究科教授　佐々木亨	総務課専門職員　関谷泰弘
2	奈良大学	富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究	文学部教授　原口志津子	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
3	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
4	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	人文科学研究所教授　稲本泰生	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
5	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課係長　水野敏典	学芸部考古室主任研究員　古谷毅
6	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
7	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部部長　田沢裕賀	学芸部美術室研究員　福士雄也
8	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸企画部主任研究員　土屋貴裕	学芸部企画室研究員　井並林太郎
9	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部美術室長　羽田聡
10	早稲田大学	中世仏教美術における霊性の発生と継承に関する基礎的研究	文学学術院教授　山本聡美	学芸部企画室研究員　井並林太郎

【奈良国立博物館】延べ　14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－	教授　井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	教授　稲本泰生	教育室長　谷口耕生
4	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	教授　稲本泰生	情報サービス室長　岩井共二
5	北海道博物館	X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	学芸員　杉山智昭	保存修理指導室長　鳥越俊行
6	高野山大学	海洋交易路における仏教流伝形態の研究	名誉教授　松長有慶	学芸部長　内藤栄
7	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二	資料室長　宮崎幹子
8	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	美術室長　岩田茂樹
9	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	保存修理指導室長　鳥越俊行
10	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	企画室主任研究員　山口隆介
11	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	教授　今津節生	保存修理指導室長　鳥越俊行
12	奈良大学	古代～中世の「鑰石」と「真鍮」の研究－金に等しい価値があったころ－	名誉教授　西山要一	企画室長　野尻忠
13	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	室長　小林公治	保存修理指導室長　鳥越俊行
14	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本崇	列品室長　吉澤　悟

【九州国立博物館】　延べ　13人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	古代～中世の「鑰石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
2	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授　尾上陽介	館長　島谷弘幸
3	京都府立大学	対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究	文学部教授　横内裕人	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑
4	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部長　小泉惠英
5	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二	本部文化財活用センターデジタル資源担当専門職（併）学芸部文化財課　竹内俊貴
6	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
7	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
8	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理よび環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
9	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一麿	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子
10	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
11	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子
12	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長　原田あゆみ
13	東京文化財研究所	浮世絵版画の染料同定と摺り技術の解明	保存科学研究センター客員研究員　貴田啓子	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子

【東京文化財研究所】延べ　27人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	早稲田大学	エジプト､ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	文学学術院　教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター　研究員 前川　佳文
2	東京藝術大学	光に脆弱な文化財材料の光劣化機構の研究-低酸素環境での劣化挙動と波長依存性-	大学院美術研究科　准教授　塚田　全彦	保存科学研究センター センター長 佐野　千絵

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	法政大学	能楽及び能楽研究の国際的定位と新たな参照標準確立のための基盤研究	能楽研究所　教授　山中　玲子	特任研究員　高桑　いづみ
4	筑波大学	アンコール遺跡群における石材劣化の新展開とその集学的研究	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
5	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部　調査研究課　絵画・彫刻室　主任研究員　皿井　舞	保存科学研究センター 副センター長 早川　泰弘
6	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部　調査研究課　絵画・彫刻室　主任研究員　皿井　舞	文化財情報資料部　専門職員　城野　誠治
7	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科　教授　小椋　大輔	保存科学研究センター　研究員　水谷　悦子
8	千葉大学	デザイン実装を目的とした歴史的人工物に集積されるアイデア・工夫のモジュール化	大学院工学研究院　教授　久保　光徳	無形文化遺産部　主任研究員　今石　みぎわ
9	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山　要一	保存科学研究センター 副センター長 早川　泰弘
10	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作･修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	客員研究員　伊藤　嘉章	保存科学研究センター 修復材料研究室長　早川　典子
11	徳島大学	伊能図の成立過程に関する学際的研究－忠敬没後200年目の地図学史的検証－	大学院社会産業理工学研究部　非常勤講師　平井　松午	保存科学研究センター 副センター長 早川　泰弘
12	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科　教授　圀府寺　司	文化財情報資料部　研究員　安永　拓世
13	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部　教授　北條 芳隆	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
14	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター 修復材料研究室長　早川　典子
15	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　客員研究員　宇髙　健太郎
16	早稲田大学	デジタル･アーカイブを活用した最盛期義太夫節浄瑠璃作品の総合的研究	坪内博士記念演劇博物館　名誉教授　鳥越 文蔵	無形文化遺産部　特任研究員　飯島　満
17	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン･カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部　教授　松川　節	文化財情報資料部　文化財情報研究室長　二神　葉子
18	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部　教授　北野　信彦	保存科学研究センター 保存担当室長　吉田直人
19	東京国立博物館	失われた古代･中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸企画部企画課　主任研究員　土屋　貴裕	文化財情報資料部　日本東洋美術史研究室長　小林　達朗
20	東京国立博物館	失われた古代･中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸企画部企画課　主任研究員　土屋　貴裕	文化財情報資料部研究員　安永　拓世
21	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部　助教　野口　直人	無形文化遺産部　主任研究員　今石　みぎわ
22	金沢大学	中東部族社会の起源:アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	名誉教授　藤井 純夫	文化遺産国際協力センター 研究員　安倍　雅史
23	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	社会文化科学研究科　教授　松本 直子	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
24	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部　学術研究員　配川　美加	特任研究員　高桑　いづみ

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
25	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部　学術研究員　配川　美加	無形文化遺産部　客員研究員　星野　厚子
26	茨城大学	内生細菌共生維持機構を利用して微生物に潜在機能を付与する技術の開発	農学部　准教授　西澤　智康	保存科学研究センター　主任研究員　佐藤　嘉則
27	東京農工大学	真菌類が硫化カルボニル代謝により気体状硫黄を固定する生理的意義と代謝経路の解明	(連合)農学研究科(研究院)　教授　吉田　誠	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子

【奈良文化財研究所】延べ　38人

○科学研究費補助金　延べ　31人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	天皇家・公家文庫収蔵資料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明	教授　田島　公	都城発掘調査部史料研究室長 馬場　基
2	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授　池田　栄史	埋蔵文化財センター長 高妻　洋成
3	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授　池田　栄史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　柳田　明進
4	京都大学	古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究	教授　吉川　真司	都城発掘調査部上席研究員 山本　崇
5	駒澤大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎用的利用に関する研究	教授　林　譲	企画調整部文化財情報研究室 研究員　高田　祐一
6	駒澤大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎用的利用に関する研究	教授　林　譲	都城発掘調査部史料研究室研究員 山本　祥隆
7	福岡大学	新・日韓交渉の考古学―弥生時代―	教授　武末　純一	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
8	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授　村上　恭通	都城発掘調査部主任研究員 丹羽　崇史
9	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	助教　山田　太造	都城発掘調査部史料研究室長 馬場　基
10	国立歴史民俗博物館	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長　山崎　健
11	国立科学博物館	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海洋進出のはじまりを探る総合的研究	グループ長　海部　陽介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　芝　康次郎
12	京都大学	古代・中世東西回廊ー東南アジア大陸部交流網の歴史的動態	研究員　柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤　由似
13	東北大学	年輪幅・酸素安定同位体比標準年輪曲線ネットワーク構築とそれに基づく木材産地推定	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター 年代学研究室長　星野　安治
14	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	准教授　梶原　義実	都城発掘調査部考古第二研究室長 尾野　善裕
15	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	都城発掘調査部史料研究室長 馬場　基
16	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　小田　裕樹
17	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長　山崎　健
18	鳴門教育大学	中南米熱帯収束帯の年輪気候学と14C Bombシリーズの構築	教授　米延　仁志	埋蔵文化財センター 年代学研究室長　星野　安治
19	帝京大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授　植月　学	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
20	埼玉大学	初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の復原に関する包括的研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
21	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	教授　小椋　大輔	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷　草一郎
22	鹿児島大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	助教　新里　貴之	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
23	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	准教授　海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室 アソシエイトフェロー　李　暉
24	岩手大学	複数遺跡関連性調査のための石器接合資料生成自動化と接合手順可視化手法の確立	教授　今野　晃市	埋蔵文化財センター客員研究員 野口　淳
25	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	教授　松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
26	京都大学	「消滅」首長墳の再評価による古墳時代研究資料の基盤整備	助教　阪口　英毅	都城発掘調査部主任研究員 廣瀬　覚
27	東海大学	東南アジア港市の船体考古資料調査と保存研究	講師　木村　淳	埋蔵文化財センター長 高妻　洋成
28	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱&水分移動・応力・歪連成解析	準教授　安福　勝	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷　草一郎
29	北陸学院大学	民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相	教授　小林　正史	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
30	東京大学	アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築	教授　西秋　良宏	企画調整部長 加藤　真二
31	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	教授　中尾　央	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長　金田　明大

○学術研究助成基金助成金　延べ　7人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
2	早稲田大学	衛星画像のGIS分析による隋唐都城とシルクロード都市の空間構造の比較考古学的研究	教授　城倉　正祥	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　山藤　正敏
3	奈良女子大学	玉類の流通からみた威信財システム脱却過程に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　田村　朋美
4	慶應義塾大学	博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築	特任講師　鳥谷　真佐子	埋蔵文化財センター客員研究員野口　淳
5	島根大学	化学分析と数理統計解析に基づく高精度かつ簡便な考古学石材の原産地推定法の確立	教授　亀井　淳志	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　芝　康次郎
6	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理　佐久間　大輔	埋蔵文化財センター環境考古研究室アソシエイトフェロー松崎　哲也
7	帝塚山学院大学	災害伝承を活用した災害復興と持続可能性に関する研究	教授　安田　政彦	埋蔵文化財センター客員研究員上椙　英之

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
447人	160 人	78人	18人	33人	31人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	248 人	115人		133人	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部	
	10 人	14 人		15 人	

【本部文化財活用センター】

○職員旅費：延べ　9人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小林　牧	韓国	5 月 15 日～5 月 17 日	博物館教育国際シンポジウム出席のため	招へい共通事業費	
2	樋口　理央	中国	8 月 20 日～8 月 25 日	2019 年中国留学経験者訪中団に参加のため	文化財活用センター事務部門運営費	
3	松嶋　雅人	オーストリア	2年1月14日～1月19日	デジタルコンテ事業視察	文化財活用センター企画部門運営費	
4	髙木　結美	オーストリア	2年1月14日～1月20日	デジタルコンテ事業視察	同上	
5	松沼　穂積	オーストリア	2年1月14日～1月20日	デジタルコンテ事業視察	同上	
6	小林　牧	イギリス	2年2月22日～2月28日	貸与促進事業調査	文化財活用センター事務部門運営費	
7	救仁郷　秀明	イギリス	2年2月22日～3月1日	貸与促進事業調査	文化財活用センター調査研究事業費	
8	髙橋　美奈子	イギリス	2年2月22日～3月1日	貸与促進事業調査	文化財活用センター企画部門運営費	
9	曽田　めぐみ	イギリス	2年2月22日～3月1日	貸与促進事業調査	同上	

○その他：延べ1人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	吉田　直人	台湾	10 月 29 日～11 月 1 日	国際フォーラムでの発表及び意見交換	先方負担（人間文化研究機構）	

【東京国立博物館】延べ　78人（科学研究費助成事業を除く）

（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は89人）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	ミウォシュ・ヴォズニ	スペイン	4 月 3 日～4 月 8 日	IEO（国際展覧会マネージャー･コーディネーター)の会議、美術館の視察	自己収入	
2	銭谷　眞美	中国	4月10日～4月13日	中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵精品展」開会式出席、国際博物館長フォーラム出席	同上	
3	富田　淳	中国	4月10日～4月13日	中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵精品展」の開会式に出席する銭谷館長の随行のため	同上	
4	楊　鋭	中国	4月10日～4月13日	中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵精品展」の開会式に出席する銭谷館長の随行のため	同上	
5	ミウォシュ・ヴォズニ	イギリス	4月21日～4月27日	展覧会準備のための調査・打ち合わせ	同上	
6	今井　敦	イギリス	4月21日～4月27日	展覧会準備のための調査・打ち合わせ	同上	
7	楊　鋭	中国	4月23日～4月25日	浙江省博物館に作品貸与ための事前環境調査	同上	
8	小野塚　拓造	イギリス	4月21日～4月27日	展覧会準備のための調査・打ち合わせ	同上	
9	銭谷　眞美	中国	5月27日～5月29日	「15世紀中間期景徳鎮展磁器大展」開会式出席	同上	
10	猪熊　兼樹	韓国	6月7日～6月11日	館蔵の東洋民族資料の研究のため	同上	
11	和田　浩	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	運営費交付金	
12	矢野　賀一	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
13	白澤　利紀	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
14	齋藤　薫	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
15	楊　鋭	中国	7月9日～7月12日	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展示作業のため	自己収入	
16	勝木　言一郎	マレーシア	7月23日～7月27日	特別企画「モノでみるイスラーム世界（仮称）」開催に向けた文化財調査	文化財保存活用基金	
17	猪熊　兼樹	マレーシア	7月23日～7月27日	特別企画「モノでみるイスラーム世界（仮称）」開催に向けた文化財調査	同上	
18	田沢　裕賀	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	補助金	
19	和田　浩	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
20	黄川田　翔	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
21	矢野　賀一	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
22	富田　淳	中国	8月2日～8月11日	「中国書跡コレクションの調査研究」のため	自己収入	
23	鷲頭　桂	台湾	9月4日～9月8日	鹿島美術研究助成金にかかる作品調査	助成金	
24	丸山　士郎	ベトナム	9月22日～9月25日	特別企画「文化財よ、永遠に」借出・梱包等作業のため	同上	
25	荒木　臣紀	ドイツ	10月17日～10月21日	デジタルエックス線撮影システムの受光部品選定試験のため	運営費交付金	
26	矢野　賀一	イタリア	10月20日～10月25日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
27	勝木　言一郎	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	自己収入	
28	井上　洋一	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
29	富田　淳	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
30	楊　鋭	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
31	君波　妙子	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
32	ハーモン　レベッカ	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
33	銭谷　眞美	マレーシア	10月29日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
34	松岡　広樹	マレーシア	10月29日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
35	和田　浩	アメリカ	11月5日～11月7日	Materials Testing Symposiumへの参加	受託研究費収入	
36	福島　修	オランダ・ドイツ・ポルトガル	11月5日～11月15日	特別展ジパング展の作品調査並びに出陳交渉のため	運営費交付金	
37	矢野　賀一	イタリア	11月10日～11月16日	本館防水他改修工事に伴う展示ケース工場視察	同上	
38	瀬谷　愛	イギリス	11月11日～11月12日	展示設備の調査研究	同上	
39	品川　欣也	イタリア	11月11日～11月16日	本館防水他改修工事に伴う展示ケース工場視察	同上	
40	佐藤　寛介	イタリア	11月11日～11月16日	本館防水他改修工事に伴う展示ケース工場視察	運営費交付金	
41	福島　修	中国	11月18日～11月25日	中国・上海博物館と当館との2019年度学術交流のため	自己収入	
42	市元　塁	韓国	11月19日～11月26日	韓国・国立中央博物館と当館との2019年度学術交流のため	同上	
43	丸山　士郎	ベトナム	11月26日～11月29日	特別企画「文化財よ、永遠に」返却作業のため	助成金	
44	内　誠	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	運営費交付金	
45	富田　淳	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	同上	
46	楊　鋭	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	同上	
47	銭谷　眞美	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	同上	
48	大橋　美織	アメリカ	11月30日～12月7日	着物展にかかる調査・打ち合わせ	受託研究費収入	
49	ミウォシュ・ヴォズニ	アメリカ	11月30日～12月8日	着物展にかかる調査・打ち合わせ	同上	
50	河野　一隆	アメリカ	12月3日～12月6日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	補助金	
51	河野　正訓	アメリカ	12月3日～12月7日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	同上	
52	山本　亮	アメリカ	12月3日～12月8日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	同上	
53	韓　知延	イギリス	12月3日～12月9日	イギリスの博物館における多言語化調査	自己収入	
54	三笠　景子	韓国	12月6日～12月13日	韓国・国立中央博物館と当館との2019年度学術交流のため	同上	
55	和田　浩	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	補助金	
56	黄川田　翔	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
57	六人部　克典	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
58	矢野　賀一	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
59	野中　昭美	イギリス	2年1月8日～1月12日	管理棟修理室に導入予定のレーザークリーナー購入に伴う製品確認のため	自己収入	
60	相川　悠	イギリス	2年1月8日～1月12日	管理棟修理室に導入予定のレーザークリーナー購入に伴う製品確認のため	同上	
61	丸山　士郎	中国	2年1月12日～1月18日	四川省所在の仏教彫刻調査のため	同上	
62	増田　政史	中国	2年1月13日～1月18日	四川省所在の仏教彫刻調査のため	同上	
63	小野塚　拓造	エジプト・キプロス	2年1月17日～1月25日	イスラーム関係の史跡、博物館の視察	文化財保存活用基金	
64	和田　浩	ベルギー・オランダ	2年1月26日～1月30日	メイヴァート社視察及びアムステルダム展示調査	運営費交付金	
65	矢野　賀一	ベルギー・オランダ	2年1月26日～1月30日	メイヴァート社視察及びアムステルダム展示調査	同上	
66	鷲頭　桂	アメリカ	2年1月26日～2月2日	鹿島美術研究助成金にかかる作品調査	助成金	
67	三笠　景子	ドイツ	2年1月29日～2月2日	展示ケース製作検査及び展示調査	運営費交付金	
68	皿井　舞	ドイツ	2年1月29日～2月2日	展示ケース製作検査及び展示調査	運営費交付金	
69	神辺　知加	マレーシア	2年2月3日～2月5日	イスラム美術館展の打ち合わせのため	文化財保存活用基金	
70	勝木　言一郎	マレーシア	2年2月3日～2月5日	イスラム美術館展の打ち合わせのため	文化財保存活用基金	
71	和田　浩	ポルトガル	2年2月4日～2月8日	ICOM-CC Joint Interim Meeting　への参加	受託研究費収入	
72	黄川田　翔	フランス	2年2月8日～2月14日	収蔵の安全対策に関する調査	補助金	
73	六人部　克典	フランス	2年2月9日～2月14日	収蔵の安全対策に関する調査	補助金	
74	猪熊　兼樹	韓国	2年2月12日～2月16日	館蔵の東洋民族資料の研究のため	自己収入	
75	六人部　克典	台湾	2年2月17日～2月20日	収蔵の安全対策に関する調査	補助金	
76	黄川田　翔	台湾	2年2月17日～2月20日	収蔵の安全対策に関する調査	同上	
77	飯田　茂雄	アメリカ	2年2月18日～2月22日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	補助金	
78	市元　塁	アメリカ	2年2月18日～2月22日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	補助金	

○科学研究費助成事業：延べ11人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	瀬谷　愛	アメリカ	5月26日～6月1日	「Prince Shōtoku: The Secrets Within」Study Dayにおける口頭発表・科研にかかる調査研究のため	科学研究費	
2	中村　麻友美	韓国	6月26日～6月30日	中村科研(若手：展示解説の研究)にかかる調査のため	同上	
3	金　玄耿	韓国	6月26日～6月30日	中村科研(若手：展示解説の研究)にかかる調査のため	同上	
4	小野塚　拓造	イスラエル	8月8日～8月31日	小野塚科研(若手B:ﾌｪﾆｷｱ人の「出現」)にかかる調査のため	同上	
5	猪熊　兼樹	ベトナム	8月13日～8月19日	猪熊科研(基盤C:東ｱｼﾞｱ礼制)にかかる調査のため	同上	
6	河野　一隆	インドネシア	8月18日～8月25日	河野(一隆)分担金_伊藤科研及び河野（一隆）科研基（基盤C：ﾊﾟｾﾏ高原の装飾古墳）にかかる調査のため	同上	
7	大橋　美織	韓国	9月18日～9月20日	大橋科研（若手：江戸時代後期_風景表現）にかかる調査のため	同上	
8	小山　弓弦葉	オランダ	10月27日～11月4日	小山科研(基盤A：日本染織ｺﾚｸｼｮﾝ)にかかる調査のため	同上	
9	瀬谷　愛	フランス	11月12日～11月15日	瀬谷科研（基盤C：中世律宗絵画）にかかる調査のため	同上	
10	大橋　美織	アメリカ	2年1月23日～1月28日	大橋科研（若手：江戸時代後期_風景表現）にかかる調査研究	同上	
11	河野　正訓	韓国	2年2月11日～2月13日	河野（正訓）科研基（若手：農耕具_古代東ｱｼﾞｱ）にかかる調査のため	同上	

【京都国立博物館】延べ　18人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	栗原　祐司	韓国、中国	5月16日～5月20日	韓国博物館協会第13回国際会議（韓国）、湖南省博物館の日記念国際フォーラム（中国）	先方負担（韓国博物館協会、湖南省博物館）	
2	栗原　祐司	フランス	6月9日～6月14日	ICOM本部打合せ	先方負担（ICOM日本委員会）	
3	関谷　泰弘	フランス	6月9日～6月15日	ICOM本部打合せ	先方負担（ICOM日本委員会）	
4	呉　　孟晋	台湾	6月28日～7月1日	シンポジウム「日殖時期現代文藝的共時與差異論壇」での発表	先方負担（国立台湾美術館）	
5	呉　　孟晋	台湾	7月25日～7月30日	“Research and Exchange for International Curation on East Asian Painting with a Workshop”への参加・発表	先方負担（国立故宮博物院）	
6	降幡　順子	スペイン	9月13日～9月20日	“European Meeting on Ancient Ceramic 2019”への参加・発表	科研費	
7	リンネ　マリサ	オランダ	10月27日～11月4日	「日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究」にかかる研究協力・通訳のため	先方負担（東博）	
8	栗原　祐司	韓国	10月24日～10月27日	第7回ANMA（アジア国立博物館長会議）参加のため	先方負担（ICHCAP）	
9	栗原　祐司	マレーシア	10月28日～11月3日	第7回ANMA（アジア国立博物館長会議）参加のため	先方負担（ICOM京都大会組織委員会）	
10	末兼　俊彦	ギリシャ	11月17日～11月23日	「在欧日本仏教の包括的調査・デジタル化とそれぞれに基づくジャポニズムの総合研究」にかかる協力	先方負担（九博）	
11	岡田　愛	ギリシャ	11月17日～11月23日	「在欧日本仏教の包括的調査・デジタル化とそれぞれに基づくジャポニズムの総合研究」にかかる協力	先方負担（九博）	
12	栗原　祐司	カンボジア	11月24日～11月27日	アセアン10ヵ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割のための拠点交流事業	先方負担（上智大学）	
13	呉　孟晋	中国	11月26日～12月2日	嶺南画派記念館「先声：高剣父芸術研究国際学術検討会」広州美術学院図像与歴史高等研究院・芸術与人文学院「社会変動中的現代芸術与視覚文化」での発表	先方負担（広州美術学院）	
14	リンネ　マリサ	アメリカ	12月8日～12月19日	「日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究」にかかる通訳及びサンフランシスコ・アジア美術館との打合せ	先方負担（東博）、運営費交付金	
15	栗原　祐司	中国	2年1月13日～1月15日	中国C2センター（CRIHAP）運営理事会	先方負担（CRIHAP）	
16	呉　孟晋	アメリカ	2年1月27日～2月1日	“Where the Truth Lies: The Art of Qiu Ying”展出品作品輸送のため	先方負担（ロサンゼルス・カウンティ美術館）	
17	呉　孟晋	台湾	2年2月6日～2月9日	「線条至網路：陳澄波与他的書画収蔵」特展関連講座での発表	先方負担（国立国父紀念館）	
18	栗原　祐司	オーストラリア	2年3月6日～3月12日	多文化共生・移民博物館に関する調査	先方負担（日本博物館協会）	

【奈良国立博物館】延べ　33人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	鳥越　俊行	韓国	7月17日～7月31日	国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	他機関負担	国立慶州博物館他（韓国）
2	渡部　珠代	中国	7月25日～8月4日	上海博物館との協定に基づく学術交流	同上	上海博物館他（中国）
3	佐藤　稜介	同上	同上	同上	同上	同上
4	松木　悠	同上	同上	同上	同上	同上
5	翁　みほり	韓国	11月30日～12月23日	国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	同上	国立慶州博物館他（韓国）

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	松本　伸之	アメリカ	4月7日～4月11日	クリーブランド美術館神道展レセプション	職員旅費	クリーブランド美術館
2	堀内　しきぶ	同上	同上	同上	職員旅費	同上
3	山口　隆介	同上	5月8日～5月27日	クリーブランド美術館神道展にかかる集荷・輸送随行・現地での展示作業立会等	他機関負担	同上
4	三本　周作	同上	5月14日～5月27日	クリーブランド美術館神道展にかかる作品輸送随行・展示替え作業立ち会い等	同上	同上
5	谷口　耕生	同上	5月16日～5月26日	クリーブランド美術館神道展展示替え作業等	同上	同上
6	北澤　菜月	同上	5月20日～5月26日	仏教絵画の調査及び撮影	他機関負担	クリーブランド美術館、メトロポリタン美術館
7	萩谷　みどり	同上	同上	同上	同上	同上
9	吉澤　悟	中国	6月9日～7月1日	「大シルクロード展」（仮）の出陳作品選定と出陳交渉およびシルクロード現地調査	職員旅費	国家博物館　中国社会科学院考古研究所　他
8	内藤　栄	中国	6月20日～6月24日	染織技法による仏像調査、シンポジウム参加	科学研究費	南京博物館、南京市博物館、杭州シルク博物館
9	岩井　共二	中国	6月23日～7月1日	「大シルクロード展」（仮）の出陳作品選定	職員旅費	伊犁州博物館　他

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
				と出陳交渉およびシルクロード現地調査		
10	野尻　忠	中国	6月26日～6月28日	上海博物館特別展　東山魁夷唐招提寺御影堂障壁画展」の打ち合わせ	他機関負担	上海博物館
11	岩田　茂樹	アメリカ	6月28日～7月16日	クリーブランド美術館神道展作品撤収・輸送立会、仏教美術調査	他機関負担／職員旅費	クリーブランド美術館、シカゴ美術館
12	三本　周作	アメリカ	7月4日～7月17日	クリーブランド美術館神道展にかかる撤収作業立ち会い・作品輸送随行	他機関負担	クリーブランド美術館
13	谷口　耕生	アメリカ	7月4日～7月13日	クリーブランド美術館神道展にかかる撤収作業立ち会い・作品輸送随行	他機関負担	クリーブランド美術館
14	内藤　栄	中国	7月26日～8月1日	染織技法による仏像調査	科学研究費	ウルムチ州立博物館　他
15	谷口　耕生	イギリス	8月5日～8月10日	ロイヤルコレクショントラスト蔵古写真に関する調査	科学研究費	ウィンザー城　他
16	宮崎　幹子	同上	同上	同上	同上	同上
17	山口　隆介	同上	同上	同上	同上	同上
18	内藤　栄	中国	8月16日～8月18日	刺繍作品調査	科学研究費	保利芸術博物館、中国国家博物館、首都博物館
19	谷口　耕生	中国	8月31日～9月4日	文化財調査	他機関負担	木井寺　他
20	吉澤　悟	オランダ	9月8日～9月14日	科研の調査	科学研究費	ライデン民族学博物館他
21	北澤　菜月	アメリカ	9月18日～9月23日	科研「唐画のなかの朝鮮絵画」にかかる文化財調査	科学研究費	フリアギャラリー
22	野尻　忠	中国	12月6日～12月10日	上海博物館「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」の展示作業補助	他機関負担	上海博物館
23	清水　健	中国	12月9日～12月11日	「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」に係る展示作業	他機関負担	上海博物館
24	松本　伸之	中国	12月14日～12月17日	講演会・「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」に出席	他機関負担	上海博物館
25	内藤　栄	中国	12月14日～12月22日	科研「染織技法による仏像」調査、上海博物館特別展「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」開幕式参加・講演会	科学研究費／他機関負担	上海博物館、成都市博物館
26	野尻　忠	中国	1月11日～1月14日	上海博物館「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品」展の展示作業補助	他機関負担	上海博物館
27	北澤　菜月	台湾	2月9日～2月11日	科研「唐画のなかの朝鮮絵画」にかかる文化財調査	科学研究費	台北故宮博物院
28	山口　隆介	アメリカ	2月11日～2月16日	科研にかかる文化財調査及び資料調査	科学研究費	Asian Art Museum

【九州国立博物館】延べ　31人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	佐々木　蘭貞	韓国	4月23日～4月26日	国際会議「水中遺跡の保存処理」に参加するため	他機関負担	
2	佐々木　蘭貞	ベトナム	5月3日～5月11日	ベトナム・ハティン省及びケアン省ラム川河口部における水中考古学調査	他機関負担	
3	木川　りか	スウェーデン	5月19日～5月26日	科研【基盤（C）】「ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討」に係る学会参加・情報収集・協議	科学研究費助成事業	
4	渡辺　祐基	スウェーデン	同上	【科研（若手研究）】「博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用」に係る学会参加・情報収集・協議	科学研究費助成事業	
5	島谷　弘幸	アメリカ	6月2日～6月6日	カルコン・シンポジウム及び関連施設等視察	他機関負担	
6	佐々木　蘭貞	フランス	6月16日～6月23日	ユネスコ会議出席のため	受託費	
7	川村　佳男	中国	6月18日～6月23日	特別展「三国志」展示物の集荷・点検	他機関負担	
8	畑　靖紀	台湾	7月25日～7月31日	東アジア絵画に関する国際学術研究交流とワークショップへの出席	他機関負担	
9	原田　あゆみ	インドネシア	8月18日～8月24日	【科研（基盤 A）】「東南アジア「古代史」の下限としての 14・15 世紀に関する地域・分野横断的研究」に係る調査	科学研究費助成事業	
10	秋山　純子	韓国	8月27日～9月1日	【科研（基盤Ｃ）】「様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による面的調査の検討」に係る打ち合わせ、学会発表および情報収集	科学研究費助成事業	
11	畑　靖紀	アメリカ	9月12日～9月26日	【科研（基盤 A）】「唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―」に係る中国・朝鮮絵画の作品調査	自己収入、科学研究費助成事業	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
12	桑原　有寿子	中国	9月15日～9月20日	【科研（基盤Ａ）】「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に係る調査研究および保存環境調査/内蒙古博物院における打ち合わせおよび内蒙古文物考古研究所における調査	科学研究費助成事業	
13	大橋　有佳	韓国	10月7日～10月13日	日韓学術文化交流協定に基づき、大韓民国の博物館等施設において、学術研究および博物館活動に関する情報収集・交換を行う	自己収入、他機関負担	
14	齋部　麻耶	韓国	同上	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
15	志賀　智史	ベトナム	10月13日～10月19日	【科研（基盤Ａ）】「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に関する調査・情報収集	科学研究費助成事業	
16	西島　亜木子	台湾	11月4日～11月8日	2019 First International Conference on Cultual Accessibility and Social Inclusion参加及び教育普及事業調査	他機関負担	
17	島谷　弘幸	韓国	12月2日～12月3日	国立中央博物館特別展「加耶」開幕式出席および視察	自己収入	
18	大澤　信	韓国	同上	同上	運営費交付金	
19	白井　克也	韓国	12月9日～12月14日	海外交流展に関する協議と事前調査	自己収入	
20	佐々木　蘭貞	バーレーン	2年1月5日～1月12日	ワーディ・アッ＝サイル考古学プロジェクト参加	他機関負担	
21	秋山　純子	フランス	2年1月11日～1月18日	学振　国際交流事業（二国間交流日仏共同研究SAKURAプロジェクト）の調査･研究事業に係る日仏各チームの研究報告とまとめの打合せ､設備見学	他機関負担	
22	川村　佳男	中国	2年1月14日～1月21日	特別展「三国志」展示物の返却、点検	他機関負担	
23	畑　靖紀	台湾	2年1月30日～2月1日	【科研（基盤A）】「唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－」に係る中国・朝鮮絵画の作品調査	科学研究費助成事業	
24	小泉　惠英	韓国	2年2月8日～2月9日	特別展｢瀋陽故宮(仮）｣展にかかる情報収集	自己収入	
25	川村　佳男	同上	同上	同上	自己収入	
26	西島　亜木子	韓国	2年2月20日～2月21日	特別展「加耶」教育普及事業にかかる調査	自己収入	
27	小泉　惠英	タイ	2年2月21日～2月26日	タイとの国際交流展のための事前調査	運営費交付金	
28	原田　あゆみ	同上	同上	同上	同上	
29	渡辺　祐基	同上	同上	同上	同上	
30	桑原　有寿子	同上	同上	同上	同上	
31	島谷　弘幸	ロシア	2年2月25日～3月2日	在欧日本仏教美術の包括的調査･デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究の調査-	科学研究費助成事業	

【東京文化財研究所】延べ　115人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	淺田　なつみ	カンボジア	5月19日～6月3日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
2	淺田　なつみ	ネパール	7月14日～7月26日	カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内での現地調査	受託	
3	淺田　なつみ	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
4	淺田　なつみ	カンボジア、ネパール	9月7日～9月26日	タネイ寺院遺跡における建築調査(カンボジア)､カトマンズハヌマンドカ王宮内での現地調査およびネパール集落保全支援事業に関するワークショップへの出席(ネパール)	運営費交付金、受託	
5	淺田　なつみ	ネパール	11月29日～12月6日	歴史的集落保全に関するワークショップ運営	受託	
6	淺田　なつみ	ネパール	1月2日～1月8日	ネパール集落保全に関する第５回市長会議への出席	受託	
7	淺田　なつみ	カンボジア、ネパール	2月25日～3月8日	タネイ寺院遺跡における建築調査、パナウティの民家調査他	運営費交付金、受託	
8	安倍　雅史	イラン	6月1日～6月10日	カレ・クブ遺跡の出土資料の整理と分析	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
9	安倍　雅史	オランダ	7月9日～7月15日	Seminar for Arabian Studiesへの出席及び口頭発表	科学研究費	
10	安倍　雅史	カンボジア	12月9日～12月21日	タネイ遺跡東門基礎部の発掘調査	運営費交付金	
11	安倍　雅史	バーレーン	1月5日～1月29日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
12	安倍　雅史	バーレーン	2月3日～2月11日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
13	アレハンドロ　マルティネス	カンボジア	5月27日～6月13日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
14	アレハンドロ　マルティネス	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
15	石村　智	ミクロネシア連邦	8月8日～8月18日	スカイスケープ科研の調査	他機関負担	
16	石村　智	ネパール	10月20日～10月25日	無形文化遺産ワークショップへの参加	受託	
17	石村　智	コロンビア	12月8日～12月15日	ユネスコ無形文化遺産政府間委員会出席	運営費交付金	
18	石村　智	トンガ	11月18日～11月23日	世界無形文化遺産フェスティバルの事前打合せ	他機関負担	
19	石村　智	ドイツ	12月24日～12月31日	ドイツ所在のオセアニア資料の調査	科学研究費	
20	石村　智	ニュージーランド	2月4日～3月1日	先住民マオリの文化遺産に関する調査	先方負担	
21	ヴァル　エリフ　ベルナ	カンボジア	9月13日～9月21日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
22	ヴァル　エリフ　ベルナ	インド	9月24日～9月29日	Revisiting Sir Ratrick Geddes国際会議への論文発表	他機関負担	
23	ヴァル　エリフ　ベルナ	カンボジア	10月6日～10月26日	タネイ遺跡における測量調査	運営費交付金	
24	ヴァル　エリフ　ベルナ	カンボジア	12月9日～12月12日	アンコール遺跡調整委員会への出席及び口頭発表	運営費交付金	
25	ヴァル　エリフ　ベルナ	ブータン	1月12日～11月18日	ブータンにおける民家の保存活用に関するワークショップへの参加	受託	
26	ヴァル　エリフ　ベルナ	カンボジア	3月3日～3月19日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
27	牛窪　彩絢	ミャンマー	1月15日～1月26日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る現地調査	運営費交付金	
28	牛窪　彩絢	ミャンマー	7月10日～7月18日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
29	江村　知子	ドイツ、イギリス	10月21日～12月20日	講義および研究交流	他機関負担、運営費交付金	
30	小田　桃子	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	基金	
31	小田　桃子	中国	10月22日～10月27日	中国竹紙抄造調査・撮影	他機関負担	
32	片渕　奈美香	ドイツ	2月16日～3月1日	ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資材の梱包・日本への輸送	基金	
33	加藤　雅人	カナダ	6月10日～6月14日	在外日本古美術品保存修復協力事業における現地作品調査	運営費交付金	
34	加藤　雅人	台湾	8月12日～8月15日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
35	加藤　雅人	台湾	8月19日～8月23日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
36	加藤　雅人	ポーランド	7月26日～8月1日	在外日本古美術品保存修復協力事業における成果報告にかかる国際会議の開催	運営費交付金	
37	金井　健	カンボジア	6月1日～6月13日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
38	金井　健	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
39	金井　健	カンボジア	8月10日～8月17日	アンコール・タネイ寺院跡東門の修復工事にかかる準備	受託	
40	金井　健	ネパール	9月20日～9月25日	ネパール集落保全支援事業に関するワークショップへの出席	受託	
41	金井　健	アルメニア	10月14日～10月19日	国際研修「染色文化遺産のドキュメンテーションおよび保存修復に関する技術実習」	運営費交付金	
42	金井　健	カンボジア	10月24日～11月5日	タネイ遺跡における解体作業立会	運営費交付金	
43	金井　健	ブータン	1月14日～11月18日	ブータンにおける民家の保存活用に関するワークショップへの参加	受託	
44	金井　健	ネパール	1月4日～1月8日	ネパール集落保全に関する第４回市長会議への出席	受託	
45	金井　健	台湾	2月11日～2月14日	旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設保存修理にかかる台湾視察	先方負担	
46	川野邉　渉	イタリア	10月27日～11月2日	ICCROMの理事会と総会への参加	他機関負担	
47	間舎　裕生	カンボジア	6月19日～6月29日	タネイ遺跡の調査・打ち合わせ	運営費交付金	
48	間舎　裕生	イスラエル	8月8日～8月31日	テル・ヘレシュ遺跡の発掘調査	他機関負担	
49	間舎　裕生	アルメニア	10月1日～10月19日	国際研修「染色文化遺産のドキュメンテーションおよび保存修復に関する技術実習」	運営費交付金	
50	間舎　裕生	バーレーン	10月28日～11月5日	バハレーン・マカバ古墳群の発掘調査に参加	他機関負担	
51	間舎　裕生	カンボジア	12月1日～12月12日	タネイ寺院遺跡における同門基礎部の発掘調査	運営費交付金	
52	間舎　裕生	パレスチナ	1月11日～11月24日	国際協力機構の依頼による、ヒシャム宮殿遺跡展示施設公開に先立つサイトマネジメントプラン策定のための事前調査	他機関負担	
53	間舎　裕生	バーレーン	1月25日～2月11日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
54	菊池　理予	台湾	8月13日～8月16日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の講師	基金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
55	貴田　啓子	フランス	1月12日～1月18日	日仏各チームの研究報告会、ナノセルロース研究の情報収集	受託	
56	橘川　英規	アメリカ	2月5日～2月10日	International Terminology Working Group (ITWG) meetingへの参加	運営費交付金	
57	久保田　裕道	ネパール	8月9日～8月15日	コカナ無形文化遺産調査	受託	
58	久保田　裕道	ブータン	8月26日～9月7日	招聘芸能調査	他機関負担	
59	久保田　裕道	ネパール	10月20日～10月25日	無形文化遺産ワークショップへの参加	受託	
60	久保田　裕道	インドネシア	1月19日～1月24日	インドネシア国際協力調査	受託	
61	五木田　まきは	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	受託	
62	五木田　まきは	メキシコ	10月28日～11月8日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
63	五木田　まきは	ドイツ	2月16日～3月1日	ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資材の梱包・日本への輸送	基金	
64	後藤　里架	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	基金	
65	後藤　里架	台湾	8月12日～8月23日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
66	後藤　里架	ドイツ	11月30日～12月9日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の講師	基金	
67	後藤　里架	ドイツ	2月16日～3月1日	ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資材の梱包・日本への輸送	基金	
68	小林　公治	韓国	4月21日～4月24日	韓国内での調査および打ち合わせ	科学研究費	
69	小林　公治	カタール、オランダ、ポルトガル、スペイン	7月15日～8月6日	カタール、ヨーロッパでの螺鈿器等の調査	科学研究費	
70	小峰　幸夫	ミャンマー	1月26日～11月31日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る虫害調査	運営費交付金	
71	齊藤　孝正	台湾	8月21日～8月24日	ワークショップ「染織品の保存と修復」、市内文化施設等視察	運営費交付金	
72	齊藤　孝正	アルメニア	10月14日～10月19日	国際研修「染色文化遺産のドキュメンテーションおよび保存修復に関する技術実習」視察	運営費交付金	
73	齊藤　孝正	メキシコ	10月28日～11月4日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」視察	運営費交付金	
74	齊藤　孝正	カンボジア、ドイツ	11月30日～12月9日	タネイ遺跡保存整備事業に関する協議および奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加、ワークショップ「漆工品の保存と修復」の視察	運営費交付金	
75	境野　飛鳥	アゼルバイジャン	6月28日～7月11日	第43回世界遺産委員会への参加	運営費交付金	
76	境野　飛鳥	イタリア	10月27日～11月3日	ICCROMの理事会と総会への参加	運営費交付金	
77	境野　飛鳥	中国	10月10日～10月11日	HIAに係る国際研修の実施についての打ち合わせ	運営費交付金	
78	三本松　俊徳	カンボジア	11月30日～12月4日	タネイ遺跡保存整備事業に関する協議および奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加	運営費交付金	
79	城野　誠治	タイ	1月12日～11月18日	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	運営費交付金	
80	友田　正彦	カンボジア、ネパール	5月19日～5月29日	タネイ寺院遺跡における建築調査、ハヌマンドカ王宮修復事業に関する会議ほか	運営費交付金、受託	
81	友田　正彦	カンボジア	6月1日～6月3日	タネイ寺院遺跡における打ち合わせ及びICC専門家視察対応	運営費交付金	
82	友田　正彦	ポーランド	7月28日～8月2日	国際集会開催	受託	
83	友田　正彦	ネパール	7月5日～7月10日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査	受託	
84	友田　正彦	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
85	友田　正彦	ネパール	9月20日～9月24日	ハヌマンドカ王宮内での現地調査	受託	
86	友田　正彦	スペイン	10月1日～10月7日	ICOMOS木の委員会木造遺産保存研修コースにおける講師	他機関負担	
87	友田　正彦	カンボジア、ベトナム	10月13日～10月19日	タネイ遺跡における解体作業立会／ハノイにおける社会科学院都城研究所主催セミナー参加	運営費交付金、他機関負担	
88	友田　正彦	カンボジア、ドイツ	11月30日～12月8日	タネイ遺跡保存整備事業に関する協議および奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加、ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催	運営費交付金、基金	
89	友田　正彦	カンボジア、ブータン	1月13日～11月18日	アンコール・タネイ遺跡東門修復作業進捗確認／ブータンにおける民家の保存活用に関するワークショップへの参加	運営費交付金、受託	
90	友田　正彦	ネパール	1月4日～1月7日	ネパール集落保全に関する第３回市長会議への出席	受託	
91	友田　正彦	カンボジア	3月16日～3月19日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
92	西　和彦	アゼルバイジャン	6月28日～7月11日	第43回世界遺産委員会への参加	運営費交付金	
93	西　和彦	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
94	西　和彦	ドイツ	9月22日～9月26日	世界遺産「ル・コルビュジエの建築遺産」にかかる第５回国際常設会議への出席	他機関負担	
95	西　和彦	イタリア	10月27日～11月3日	ICCROMの理事会と総会への参加	他機関負担	
96	西　和彦	中国	10月10日～10月11日	HIAに係る国際研修の実施についての打ち合わせ	運営費交付金	
97	早川　典子	ドイツ	12月1日～12月7日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の講師	基金	
98	林　美木子	韓国	8月28日～8月31日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム出席	他機関負担	
99	林　美木子	イタリア	11月8日～12月8日	ICCROMの海外研修参加のため	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
100	二神　葉子	アゼルバイジャン	6月28日～7月11日	第43回世界遺産委員会への参加	運営費交付金	
101	二神　葉子	コロンビア	12月8日～12月16日	ユネスコ無形文化遺産政府間委員会出席	運営費交付金	
102	二神　葉子	タイ	1月12日～11月18日	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	運営費交付金	
103	堀　まなみ	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	基金	
104	米沢　玲	中国	9月19日～9月26日	江南地域における羅漢信仰の現地調査	科学研究費	
105	米沢　玲	イギリス	11月18日～11月25日	共同研究の協議・作品調査	運営費交付金	
106	前川　佳文	イタリア	5月11日～5月23日	ポンペイにおける壁画の調査研究	科学研究費	
107	前川　佳文	トルコ	6月8日～6月18日	カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施	運営費交付金	
108	前川　佳文	ミャンマー	7月10日～7月30日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
109	前川　佳文	イタリア	10月9日～10月27日	イタリア考古遺跡・地震被災地での視察調査、ミャンマー共同研究打ち合わせ	運営費交付金	
110	前川　佳文	エジプト	12月22日～1月8日	新王国時代石窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査および壁画損傷個所の応急処置	科学研究費	
111	前川　佳文	ミャンマー	1月15日～1月31日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る現地調査	運営費交付金	
112	前原　恵美	韓国	7月1日～7月19日	韓・日研究交流・研修	運営費交付金	
113	松保　小夜子	インドネシア	1月18日～1月26日	インドネシア国際協力調査	受託	
114	水谷　悦子	トルコ	12月24日～12月30日	保存環境の調査	科学研究費、他機関負担	
115	山梨　絵美子	韓国	7月17日～7月20日	韓・日研究交流・研修	運営費交付金	

【奈良文化財研究所】延べ　133人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	丹羽　崇史	アメリカ	4月6日～4月16日	第84回アメリカ考古学会（SAA 84th Annual Meeting）での発表、関連資料の調査	科学研究費	
2	杉山　洋	カンボジア	4月7日～4月11日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
3	芝　康次郎	韓国	4月17日～4月20日	科学研究費による出土遺物の調査	科学研究費	
4	杉山　洋	カンボジア	4月22日～4月26日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
5	金田　明大	ポーランド	4月22日～4月29日	CAA 2019 in クラクフへの参加	運営費交付金	
6	山口　欧志	ポーランド	4月22日～4月29日	CAA 2019 in クラクフへの参加	運営費交付金	
7	高田　祐一	ポーランド	4月22日～4月29日	アリアドネプラスに関する協議及びCAAでの発表	科学研究費	
8	丹羽　崇史	韓国	4月27日～5月5日	韓国出土施釉陶器・中国陶磁の調査	助成金	
9	佐藤　由似	カンボジア	5月1日～5月11日	ポスト・アンコール期の調査	科学研究費	
10	清野　陽一	韓国	5月15日～6月30日	国立慶州文化財研究所との発掘交流	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
11	中村　一郎	カンボジア	5月19日～5月24日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ事前調査	先方負担	
12	佐藤　由似	カンボジア	5月19日～6月2日	ポスト・アンコール期の調査	科学研究費	
13	杉山　洋	カンボジア	5月20日～5月24日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
14	大林　潤	カンボジア	5月20日～5月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
15	脇谷　草一郎	中国	5月24日～5月26日	故宮博物院文華殿の劣化状態調査に参加	運営費交付金	
16	内田　和伸	韓国	5月26日～5月30日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
17	中島　義晴	韓国	5月26日～5月30日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
18	鈴木　智大	韓国	5月31日～6月2日	揚州市・栓巌寺シンポジウムへの出席	先方負担	
19	国武　貞克	タジキスタン	6月4日～6月29日	発掘調査	科学研究費	
20	田村　朋美	タイ	6月7日～6月20日	国際会議(3rd SEMEO SPAFA International Congerence on Southerast Asian Archaeology)に出席、研究発表	科学研究費	
21	田村　朋美	ウズベキスタン	6月9日～6月13日	出土ガラスの調査	科学研究費	
22	影山　悦子	ウズベキスタン	6月9日～6月15日	ファヤズテパ遺跡出土壁画の調査、修復	助成金	
23	杉山　洋	カンボジア	6月10日～6月14日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
24	庄田　慎矢	カンボジア	6月10日～6月16日	アンコール国際調整委員会出席、西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
25	佐藤　由似	カンボジア・タイ	6月10日～6月22日	西トップ遺跡の調査、ＳＰＡＦＡ学会	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
26	高妻　洋成	中国	6月14日～6月16日	The 3nd International Sumposium on Architectural Heritage Protection Technology.	先方負担	
27	清野　孝之	フランス	6月16日～6月23日	ユネスコ水中文化遺産国際会議およびユネスコ水中文化遺産条約締約国会議への出席	文化庁受託	
28	杉山　洋	カンボジア	7月1日～7月5日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
29	庄田　慎矢	韓国	7月2日～7月6日	日韓共同研究にかかる調査研究	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
30	国武　貞克	カザフスタン	7月9日～8月7日	発掘調査	科学研究費	
31	杉山　洋	カンボジア	7月15日～7月19日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
32	加藤　真二	中国	7月20日～7月27日	河北省陽原での旧石器遺跡調査	科学研究費分担金	
33	山藤　正敏	イスラエル	7月23日～8月9日	テル・エラニ遺跡における発掘調査及び同遺跡出土土器の共同研究	渡航費:委託費、滞在費：先方負担	
34	箱崎　和久	中国	7月25日～8月3日	古代・中世寺院建築に関する資料収集	科学研究費	
35	庄田　慎矢	オーストラリア	8月1日～8月9日	Workshop "Archaeologries of Tradition"、研究打合せ	渡航費:先方負担、滞在費：先方負担(3泊分ホテル代)+科学研究費	
36	佐藤　由似	カンボジア	8月8日～8月21日	西トップ遺跡の調査	助成金	
37	丹羽　崇史	中国	8月23日～8月26日	アジア鋳造技術史学会2019西安大会への参加・発表	科学研究費	
38	国武　貞克	カザフスタン	8月23日～9月21日	発掘調査	科学研究費	
39	杉山　洋	カンボジア	8月25日～9月1日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
40	高妻　洋成	韓国	8月27日～9月1日	東アジア文化遺産保存シンポジウム	運営費交付金	
41	金田　明大	アイルランド	8月27日～9月3日	ICAP2019への参加	科学研究費	
42	田村　朋美	韓国	8月28日～9月2日	2019大田東アジア文化遺産保存国際シンポジウムに参加及び韓国出土ガラス玉の調査	科学研究費	
43	柳　成煜	韓国	8月28日～9月2日	東アジア文化遺産保存シンポジウム参加及び資料調査	運営費交付金	
44	柳田　明進	スイス	8月31日～9月9日	ICOM-CC METAL2019における学術発表及び情報交換	運営費交付金	
45	渡邉　晃宏	中国	9月5日～9月8日	首届中日韓出土簡牘研究國際論壇への参加ほか	科学研究費	
46	畑野　吉則	中国	9月5日～9月9日	首届中日韓出土簡牘研究國際論壇への参加	科学研究費	
47	馬場　基	中国	9月6日～9月9日	首届中日韓出土簡牘研究國際論壇への参加	科学研究費	
48	浦　蓉子	中国	9月10日～9月16日	中国良渚遺跡の木製品調査	他機関科学研究費	
49	李　暉	中国	9月11日～9月16日	中国浙江省寧波地区大工道具調査実施	科学研究費	
50	加藤　真二	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
51	庄田　慎矢	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
52	田村　朋美	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
53	影山　悦子	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
54	佐藤　由似	カンボジア	9月18日～10月1日	西トップ遺跡の調査	助成金	
55	島田　敏男	カンボジア	9月19日～9月23日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
56	大林　潤	カンボジア	9月19日～9月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
57	杉山　洋	カンボジア	9月19日～9月25日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
58	小田　裕樹	中国	9月20日～9月23日	東北アジア古代都城国際検討会での研究発表	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
59	山藤　正敏	キルギス	9月29日～10月13日	チュー渓谷西部の考古学調査	科学研究費	
60	国武　貞克	タジキスタン	10月8日～11月9日	タジキスタンにおける発掘調査	科学研究費	
61	石田　由紀子	中国	10月8日～11月15日	中国社会科学院考古研究所との協定書にもとづく日中学術交流への参加	先方負担	
62	庄田　慎矢	ポルトガル	10月9日～10月18日	打合せ、Wenner-Gren基金シンポジウム"Culture of Fermentation"	渡航費:先方負担、滞在費:先方負担、運営費交付金(10日宿泊費と11日日当のみ)	
63	廣瀬　覚	韓国	10月10日～10月14日	国立歴史民俗博物館共同研究「古墳時代・三国時代の日韓関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」第2回への参加	他機関負担	
64	山口　欧志	インドネシア	10月15日～10月27日	ボロブドゥール寺院遺跡の三次元計測等	他機関負担	
65	丹羽　崇史	中国	10月17日～10月22日	第二届世界古都論壇暨紀念二里頭遺址科学発掘60周年学術研討会への参加・発表、資料調査	科学研究費	
66	李　暉	中国	10月19日～10月22日	古代東アジアの重層建築に関する学術会議へ出席	科学研究費分担金	
67	杉山　洋	カンボジア	10月21日～10月28日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
68	佐藤　由似	オーストラリア	10月22日～10月28日	フリンダース大学ワークショップでの発表、遺物調査	先方負担	
69	田村　朋美	ウズベキスタン	10月26日～11月4日	ウズベキスタンにおける釉薬製造工程の調査及び出土ガラスの科学分析	科学研究費分担金	
70	庄田　慎矢	中国	10月27日～10月30日	研究発表、打合せ	科学研究費	
71	佐藤　由似	カンボジア	11月2日～11月7日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
72	渡邉　晃宏	韓国	11月8日～11月10日	韓国木簡学会・成均館大学校東アジア学術院主催2019年国際学術会議「出土資料からみた東アジアの数量詞と量制」への参加と報告	先方負担	
73	田村　朋美	中国	11月8日～11月10日	ワークショップ「Silk Koads: archaeology, museums and heritage science]に参加、講義	先方負担	
74	島田　敏男	ベトナム	11月9日～11月13日	ベトナム国ティエンザン省知事表彰出席	運営費交付金	
75	福嶋　啓人	ベトナム	11月9日～11月13日	ベトナム国ティエンザン省知事表彰出席	運営費交付金	
76	杉山　洋	カンボジア	11月10日～11月15日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
77	小池　伸彦	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
78	廣瀬　覚	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
79	田村　朋美	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
80	栗山　雅夫	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
81	松永　悦枝	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
82	大澤　正吾	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
83	丹羽　崇史	中国	11月12日～11月14日	講演・学会発表	科学研究費	
84	加藤　真二	中国	11月13日～11月18日	中国社会科学院考古研究所への訪問・発掘現場の視察	運営費交付金	
85	松村　恵司	中国	11月14日～11月18日	中国社会科学院考古研究所への訪問・発掘現場の視察	運営費交付金	
86	玉田　芳英	中国	11月14日～11月19日	中国社会科学院考古研究所への訪問・発掘現場の視察	他機関負担	
87	箱崎　和久	中国	11月15日～11月18日	中国科学技術学会委員会における講演	先方負担	
88	中村　一郎	カンボジア	11月16日～11月21日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ	先方負担	
89	庄田　慎矢	カザフスタン	11月18日～11月25日	現地ワークショップの開催	受託	
90	影山　悦子	カザフスタン	11月16日～11月25日	現地ワークショップの開催	受託	
91	佐藤　由似	カンボジア	11月19日～11月25日	ACCU文化遺産ワークショップ	先方負担	
92	丹羽　崇史	韓国	11月23日～11月27日	資料調査	科学研究費	
93	田村　朋美	韓国	11月26日～11月28日	International Symposium of 'World of Ancient Glass'に参加、研究発表	先方負担	
94	石橋　茂登	韓国	11月26日～11月29日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
95	中田　愛乃	韓国	11月26日～11月29日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
96	加藤　真二	中国	11月28日～12月5日	資料調査並びにInternational Synposium on Paleoanthropology in Commemoration of the 90th Annebersary of the Discovery of the First Skullcap og Pekinng Man への出席、発表	科学研究費分担金	
97	佐藤　由似	カンボジア	11月29日～12月13日	西トップ遺跡の調査、式典、国際会議	運営費交付金	
98	杉山　洋	カンボジア	11月30日～12月6日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
99	松村　恵司	カンボジア	12月1日～12月4日	25周年記念式典の出席、準備、運営	運営費交付金	
100	影山　悦子	カンボジア	12月1日～12月4日	25周年記念式典の準備、運営	運営費交付金	
101	庄田　慎矢	カンボジア	12月1日～12月5日	25周年記念式典の準備、運営	運営費交付金	
102	脇谷　草一郎	中国	12月1日～12月7日	2019 International Symposium on Dazu Studies and the 20th Anniversary Celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List にて研究発表	運営費交付金	
103	大澤　正吾	アメリカ	12月3日～12月8日	「北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携交流事業」に係る在外日本美術作品の調査（日本考古(原史)の埴輪・金属製品・土器等）	他機関負担	
104	石橋　茂登	イギリス	12月11日～12月18日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
105	荻山　琴美	イギリス	12月11日～12月18日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
106	庄田　慎矢	中国	12月13日～12月16日	研究発表	先方負担	
107	杉山　洋	カンボジア	12月13日～12月19日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
108	庄田　慎矢	中国	12月15日～12月17日	研究発表	先方負担	
109	佐藤　由似	カンボジア	12月22日～12月31日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
110	脇谷　草一郎	トルコ	12月24日～12月29日	ハギヤ・ソフィア大聖堂ほかにおける塩害調査	科学研究費分担金	
111	浦　蓉子	中国	12月25日～12月28日	京都大学生存圏研究所アジアリサーチノード国際シンポジウムへの参加	他機関負担	
112	田村　朋美	中国	1月11日～1月13日	中国出土ガラス製遺物の調査	科学研究費分担金	
113	李　暉	中国	1月11日～1月14日	シンポジウム講演および古建築調査	科学研究費	
114	杉山　洋	カンボジア・タイ	1月14日～1月21日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
115	山口　欧志	インドネシア	1月20日～1月24日	ボロブドゥール遺跡の三次元計測等	他機関負担	
116	佐藤　由似	カンボジア	1月30日～2月13日	ポスト・アンコール期の調査	先方負担	
117	西田　紀子	韓国	1月31日～2月4日	古代日韓交流関係の資料調査	助成金	
118	小沼　美結	韓国	1月31日～2月4日	古代日韓交流関係の資料調査	助成金	
119	山藤　正敏	イスラエル	2月8日～2月21日	イスラエル国テル・エラニ遺跡出土時の共同研究	″渡航費：二国間交流事業協同研究・セミナー委託費、滞在費：先方負担	
120	飯田　ゆりあ	ウズベキスタン	2月9日～2月15日	ファヤズテパ遺跡出土壁画の撮影	科学研究費	
121	影山　悦子	ウズベキスタン	2月9日～2月15日	ファヤズテパ遺跡出土壁画の調査、修復	助税金	
122	芝　康次郎	韓国	2月11日～2月15日	出土遺物の調査	科学研究費	
123	吉田　万智	台湾	2月12日～2月14日	土層やはぎとり等の資料調査	受託	
124	小沼　美結	台湾	2月12日～2月15日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
125	廣瀬　覚	韓国	2月17日～2月21日	日韓共同研究にかかる調査	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
126	高田　祐一	韓国	2月18日～2月21日	日韓共同研究にかかる調査	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
127	石橋　茂登	韓国	2月23日～2月26日	古代日韓関係に関わる考古資料調査	助成金	
128	庄田　慎矢	韓国	2月23日～2月26日	協議、資料調査	渡航費:先方負担、滞在費：24日先方負担・他科学研究費分担金	
129	杉山　洋	カンボジア、タイ	2月23日～2月28日	西トップ遺跡の調査と修復	科学研究費分担金	
130	佐藤　由似	カンボジア	2月24日～2月29日	アンコール遺跡群現地調査派遣	先方負担	
131	玉田　芳英	イタリア	2月24日～3月1日	古墳壁画の調査研究に関わる事例調査	受託	
132	栗山　雅夫	イタリア	2月24日～3月1日	古墳壁画の調査研究に関わる事例調査	受託	
133	中田　愛乃	イタリア	2月24日～3月1日	古墳壁画の調査研究に関わる事例調査	受託	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　14人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩本　渉	フランス	5月21日～22日	the expert meeting on intangible cultural heritage in emergencies出席	運営費交付金	
2	大貫　美佐子	同上	同上	同上	文化財活用基金	
3	岩本　渉	ベトナム	7月2日～3日	UNESCO 2019 Forum on Education for Sustainable Development and Global Citizenship出席	運営費交付金	
4	児玉茂昭	韓国	8月28日～30日	Regional Meeting for Strengthening the Use of ICH in Education出席	運営費交付金	
5	岩本渉	アルジェリア	9月2日～3日	Seventh Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage出席	文化庁受託経費	
6	大貫美佐子	フィリピン	10月7日～8日	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage' s contribution to sustainable development: Focusing on education The Philippines	運営費交付金	
7	佐々木一恵	同上	同上	同上	文部科学省補助金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
8	児玉茂昭	中国	10月16日～19日	The Review on CRIHAP Capacity Building Workshops (2012-2018) and Recommendations on Future Activities, organized by International Training Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO (CRIHAP)出席	先方負担	
9	岩本渉	ベトナム	10月24日～25日	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage's contribution to sustainable development: Focusing on education Viet Nam	文部科学省補助金	
10	佐々木一恵	同上	同上	同上	文部科学省補助金	
11	大貫美佐子	ベトナム	11月1日～2日	The Safeguarding an Promotiton of Dong Ho Woodblock Paintings in Contemporary Life	運営費交付金	
12	佐々木一恵	コロンビア	12月9日～14日	Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage Intergovernmental Committee for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage Fourteenth session出席	文化庁受託経費	
13	岩本　渉	中国	1月14日	CRIHAP理事会 陪席	文化庁受託経費	
14	三好友夏	同上	同上	同上	文化庁受託経費	

【文化財防災ネットワーク推進本部】延べ　15 人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岡田　健	中国	7月30日～8月2日	国際研修及び教育プログラム作成打合せ	平成31年度文化芸術振興費補助金	
2	田沢　裕賀	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
3	和田　浩	同上	同上	同上	同上	
4	矢野　賀一	同上	同上	同上	同上	
5	黄川田　翔	同上	同上	同上	同上	
6	林　美木子	韓国	8月28日～8月31日	東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム出席	同上	
7	林　美木子	イタリア	11月8日～12月8日	文化財保存修復研究国際センター(ICCROM)の海外研修参加	同上	
8	六人部　克典	ハンガリー	1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
9	和田　浩	同上	同上	同上	同上	
10	矢野　賀一	同上	同上	同上	同上	
11	黄川田　翔	同上	同上	同上	同上	
12	六人部　克典	フランス	2月8日～2月14日	収蔵の安全対策に関する調査	同上	
13	黄川田　翔	同上	同上	同上	同上	
14	六人部　克典	台湾	2月17日～2月20日	収蔵の安全対策に関する調査	同上	
15	黄川田　翔	同上	同上	同上	同上	

c-② 調査研究テーマ一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
157 件	83 件	36 件	11 件	18 件	18 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	72 件	22 件	50 件	0 件	
	本部文化財活用センター・東京国立博物館		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	1 件		1 件		

【本部文化財活用センター・東京国立博物館】　1件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長　小林牧

【東京国立博物館】　36件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　32件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査「法隆寺献納宝物」（第41次）	学芸研究部	調査研究課長　河野一隆
2	特別調査「書跡」第17回	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室長（保存修復課長）冨坂賢
3	特別調査「工芸」第11回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
4	特別調査「彫刻」第9回	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
5	特別調査「絵画」第4回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
6	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　河野一隆
7	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
8	仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
9	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
10	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
11	特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕
12	特集「やちむん―沖縄のやきもの」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　三笠景子
13	特集「伝説の面打たち」に関する調査研究	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
14	特集「法隆寺と聖徳太子―法隆寺研究の近代」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
15	特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」に関する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
16	特集「近世日本と外国文化」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
17	特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
18	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）冨坂賢
19	特別展「出雲と大和」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課考古室長　品川欣也
20	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長　浅見龍介
21	住友財団修復助成30年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究	学芸企画部	広報室長　丸山士郎
22	御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長　浅見龍介
23	特別展「人、神、自然　―アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界―」に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　今井敦
24	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	学芸企画部	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
25	特別展「きもの KIMONO」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
26	「スポーツ・武道の歴史と文化展」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介
27	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕
28	特別展「桃山　天下人の100年」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部長　田沢裕賀
29	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
30	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二
31	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　今井敦
32	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）冨坂賢
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
3	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
4	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

【京都国立博物館】11件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　8件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	上席研究員　宮川禎一

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
3	旧家伝来の工芸品に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
4	近畿地区社寺文化財の調査研究	学芸部	連携協力室長　淺湫毅
5	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
6	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	学芸部	企画室研究員　井並林太郎
7	特別展「聖地をたずねて-西国三十三所の信仰と至宝-」に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
8	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室長　永島明子

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存科学室長　降幡順子
3	文化財情報に関する調査研究	学芸部/総務課	美術室長　羽田聡 事業推進係主任　澁谷完滋

【奈良国立博物館】 18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	企画室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水健
4	墳墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　中川あや
8	特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　山口隆介
9	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　北澤菜月
10	特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」に関する調査研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子
11	特別展「御即位記念 第７１回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室員　三本周作
12	特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」に関する調査研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
13	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　中川あや
14	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生 主任研究員　斎木涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
2	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部文化財課	資料登録室研究員　松浦晃佑
3	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	展示課	主任研究員　今井涼子
4	「山梨・釈迦堂遺跡の縄文文化（仮）」に関する調査研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
5	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	学芸部長　小泉惠英
6	特集展示　館蔵名品展「更紗　生命の花咲く布」特集展示に関する調査研究	学芸部文化財課	課長　原田あゆみ
7	特集展示　住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」特集展示に関する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員　森實久美子
8	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室研究員　松浦晃佑
9	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」に関する調査研究	展示課	主任研究員　一瀬　智
10	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員　川村佳男
11	ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長・特別展室長 白井克也
12	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員　西島亜希子
13	身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究	展示課	主任研究員　加藤小夜子
14	特集展示「刀剣ことはじめ－刀剣ワールド財団と九博の名刀－」における観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員　望月規史

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	環境保全室主任研究員　秋山純子
4	展示ケース内の環境に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化財研究室長　前原恵美
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長　久保田裕道
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　佐野千絵
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　早川泰弘
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　佐野千絵

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　西　和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　金井健
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　50件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　島田敏男
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　18件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東方官衙地区の調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡邉晃宏
4	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡邉晃宏
5	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（611次）	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡邉晃宏
6	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
7	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
8	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
9	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡邉晃宏
10	3Dプロジェクト	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
12	中国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	副所長　渡邉晃宏
13	韓国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	副所長　渡邉晃宏
14	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島義晴

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
15	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長　金田明大
16	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	考古第三研究室長　清野孝之
17	古代官衙、集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部	部長　玉田芳英
18	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部	センター長　高妻洋成

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　星野安治
3	動植物遺体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　山崎健

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長兼保存修復科学研究室長 高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
4	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
2	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）	企画調整部	都城発掘調査部長　玉田芳英
3	文化財保護に関する国際協力の推進	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
4	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
5	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
6	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長　渡邉晃宏
2	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部 企画調整部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部・飛鳥資料館・ 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	企画調整部部長　加藤　真二 飛鳥資料館学芸室長　石橋　茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　11件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　加藤　真二

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡邉晃宏
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
4	他機関等との共同研究及び受託研究	研究支援推進部	所長　松村恵司
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　菊本惠二

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
2	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二
3	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
4	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○連携大学院教育の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	研究支援推進部	所長　松村恵司

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　岩本　渉

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
59 件	10 件	48 件	1 件

【東京文化財研究所】　10件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
2	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
3	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
4	被災資料有害物質発生状況調査業務	保存科学研究センター
5	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6	平成31年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター
7	ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業	文化遺産国際協力センター
8	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センター
9	遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査	文化遺産国際協力センター
10	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（紙資料）」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　48件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
2	2019年度文化遺産保護貢献事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	企画調整部
3	古墳等の発掘調査による採取資料等を用いた展示活用に関する情報収集・分析業務	企画調整部
4	湯浅町重要建造物調査研究業務	文化遺産部
5	重要文化財綿業会館保存活用計画調査研究業務	文化遺産部
6	高野町文化財保存活用地域計画調査	文化遺産部
7	京都市の文化的景観保存計画策定調査	文化遺産部
8	智頭の林業景観整備計画策定調査	文化遺産部
9	「あわの至宝」調査・発信事業における建造物の調査	文化遺産部
10	湯浅町内歴史的建造物悉皆調査	文化遺産部
11	高山市料亭洲さき建造物調査	文化遺産部
12	名古屋鉄道株式会社所蔵貴重図面電子化の調査研究業務	文化遺産部
13	第一次大極殿院南門復原にともなう管理施設予定地の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
14	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部　平城地区
15	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部　平城地区
16	長登銅山跡出土木簡の保存処理等総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
17	平城京左京二条二坊十四坪・十五坪・二条条間路の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
18	史跡　法華寺旧境内および名勝　法華寺庭園の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
19	重点地区平城宮周辺の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
20	史跡　法華寺旧境内の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
21	興福寺旧境内の発掘調査（614）	都城発掘調査部　平城地区
22	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡発掘調査による出土文化財の調査・研究及び報告書作成業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
23	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	特別史跡藤原宮跡（水路付替）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
27	特別史跡藤原宮跡（別所町水路改修）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
28	藤原京跡（南浦町道路改良）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
29	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
30	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務	埋蔵文化財センター
31	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	埋蔵文化財センター
32	古墳の石室及び横穴墓等の被災状況及び防災措置の調査研究委託業務	埋蔵文化財センター
33	船原古墳出土遺物の構造調査	埋蔵文化財センター
34	木造源実朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	埋蔵文化財センター
35	波怒棄館遺跡および台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
36	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター

37	元町石仏の塩害を抑制する覆屋運用手法及び石仏からの脱塩手法に関する検討業務	埋蔵文化財センター
38	令和元年度　紀伊風土記の丘出土玉類自然科学分析業務委託	埋蔵文化財センター
39	X線CTを用いた金井下新田遺跡出土ウマ頭骨の撮像と立体構造データ作成	埋蔵文化財センター
40	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究	埋蔵文化財センター
41	史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査研究	埋蔵文化財センター
42	「中世・近世石づくりのまち」調査研究事業	埋蔵文化財センター
43	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部
44	名勝　法華寺庭園（第618次）発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
45	特別史跡藤原宮跡（醍醐町個人住宅建築）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
46	X線CTを用いた金井下新田遺跡出土臼玉一連資料の撮像と立体構造データ作成	埋蔵文化財センター
47	八日市地方遺跡出土遺物の非破壊による内部構造調査	埋蔵文化財センター
48	日南市飫肥歴史的建造物活用ガイドライン作成のための調査研究	文化遺産部

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和元年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
477件	285件	94件	70件	79件	42件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	167件	64件	103件	0件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進本部		
	16件	0件	9件		

【本部文化財活用センター】　16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「デジタルデータを用いた複製の制作と活用　―教育などの活用目的に応じた複製制作の指針」	文化財活用センター副センター長　小林牧	5月16日	韓国国立中央博物館　博物館教育国際シンポジウム「デジタル化時代、博物館教育の方向と課題」
2	同上	「「文化財の活用」で私たちは何を目指すのか？」	文化財活用センター副センター長　小林牧	5月28日	静岡県博物館協会50周年記念講演会「観光と文化財の活用は博物館の新たな指針か」
3	同上	「文化財複製の制作と活用―新しい鑑賞体験をデザインする」	文化財活用センター副センター長　小林牧	7月19日	一般財団法人デジタル文化財創出機構　シンポジウム「進化する複製の未来」
4	同上	「複製がひらく文化財の未来」パネルディスカッション モデレーター	文化財活用センター副センター長　小林牧	11月23日	文化財活用センター公開シンポジウム「複製がひらく文化財の未来」
5	同上	「デジタルアーカイブ運用の技術的課題」	文化財活用センター　デジタル資源担当室長　村田良二	2年2月20日	デジタルアーカイブ学会公開セミナー「ミュージアムとジャパンサーチ」
6	同上	「明治34年集古会にみる呉服商「大彦」の小袖コレクション」	文化財活用センター　企画担当専門員　髙木結美	2年1月26日	シンポジウム「美術品としての日本染織コレクションはいかに形成されていったのか」

○その他有形文化財に関連する調査研究　10件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	展示室内の空気環境	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	6月5日	高知文化財団　第2回学芸員専門研修会
2	同上	文化財施設における保存環境の把握について	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	6月20日	文化庁　公開承認施設会議
3	同上	保存・展示環境の科学	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	6月24日	文化庁　指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
4	同上	保存科学 - 環境制御（保存環境管理）	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	9月10日	令和元年度　国文学研究資料館アーカイブズカレッジ
5	同上	文化財活用センターの役割について	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	10月10日	文化財虫菌害研究所第39回文化財防虫防菌処理実務講習会
6	同上	文化財活用センターの発足とその役割	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	10月30日	国際フォーラム「地域文化を活用するー地域振興、地域活性に果たす役割」（台湾・蘭陽博物館）
7	同上	資料保存の観点からの展示照明管理	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	11月21日	高知文化財団　第3回学芸員専門研修会
8	文化財の防災に関する調査研究	災害対策調査部会の活動について―2018年度報告ー	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	6月22日	文化財保存修復学会　第41回大会
9	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センターの設立と保存担当部門の役割について	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	6月22日	文化財保存修復学会　第41回大会
10	同上	文化財公開施設のゾーニングと虫菌害対策の方法・留意点について	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	10月10日	第39回文化財防虫防菌処理実務者講習会

【東京国立博物館】　94件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　77件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	璽印と皇帝コレクション	学芸企画部長　富田淳	4月 7日	全日本篆刻連盟
2	同上	山田正平の魅力　日中書法交流史点描	学芸企画部長　富田淳	5月31日	新潟市會津八一記念館　文芸講演会
3	同上	中国絲綢博物館	学芸企画部長　富田淳	8月4日	中国絲綢博物館
4	同上	王羲之から顔真卿へ	学芸企画部長　富田淳	10月6日	日本書道院

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	禅宗の彫刻	企画課長　浅見龍介	5月11日	三井記念美術館
6	同上	慶派仏師と三十三間堂	企画課長　浅見龍介	9月15日	京都　妙法院
7	同上	歌仙絵の成立と展開―佐竹本への道のり―	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	10月9日	京都国立博物館特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」記念講演会
8	同上	桜井市三輪山麓における弥生・古墳祭祀の問題	企画課特別展室研究員山本亮、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター主任研究員　金田明大	5月19日	日本考古学協会第85回総会
9	同上	文物が語るリアル三国志	企画課特別展室研究員山本亮	8月9日	特別展関連自治体講演会（東京都小平市・羽村市）
10	同上	近畿から見た東日本の古墳と土器	企画課特別展室研究員山本亮	10月19日	考古学研究会第51回東京例会
11	同上	奈良盆地以西の円形周溝墓	企画課特別展室研究員山本亮	11月23日	絵画文シャーマンと２世紀墳丘墓
12	同上	特別展「出雲と大和」を楽しむ	企画課特別展室研究員山本亮	2年2月6日	NHK自治体講演会（東京都青梅市）
13	同上	港区 芝丸山第８号墳	企画課特別展室研究員山本亮、調査研究課考古室研究員河野正訓、ほか外部研究者	2年2月15日	東京都遺跡調査・研究発表会45
14	同上	瀟湘八景受容の観点からみる大仙院室中障壁画と庭園	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　武瀟瀟	5月18日	第64回国際東方学者会議
15	同上	縄文の美を楽しむ―海辺の縄文文化―	物館教育課教育講座室長井出浩正	10月26日	松戸市立博物館・歴史を語る（第3回）講演会
16	同上	明早期青花瓷的両種流派―以雲堂手流派為例	博物館情報課長　今井敦	6月28日	灼爍重現　十五世紀中期景徳鎮瓷器国際学術研討会（於上海博物館）
17	同上	中国陶磁と中国文化―日本と比較して	博物館情報課長　今井敦	2年1月27日	文化服装学院
18	同上	平安時代の書の美～空海から行成まで～	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	6月29日	貞香会展講演会
19	同上	東京国立博物館所蔵 蘇州潘氏関連書画について	列品管理課登録室研究員六人部克典	12月21日	清代蔵家学術研討会暨蘇州博物館建館60周年会議
20	同上	「地獄極楽めぐり図」に描かれた絵師と歌舞伎役者	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	5月3日	蕨市制60周年記念事業 暁斎連続講演会Part.2 「暁斎が仏画に込めた想い」於蕨市民会館コンクレレホール
21	同上	「東京国立博物館所蔵　松方浮世絵コレクションの中の暁斎旧蔵品について」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	7月28日	第45回河鍋暁斎研究発表会　於蕨眼科
22	同上	「河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり図》について（12）―勝田家の奉納記録と描かれた神仏との関係性を中心に―」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	2年1月26日	第46回河鍋暁斎研究発表会　於蕨眼科
23	同上	「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」―展覧会を楽しむために―	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	4月10日	NHK自治体講演会（中央区日本橋公会堂ホール）
24	同上	「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」―展覧会を楽しむために―	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	4月14日	NHK自治体講演会（足立区生涯学習センター4階講堂）
25	同上	「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」―展覧会を楽しむために―	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	4月19日	NHK自治体講演会（江東区森下文化センター2階多目的ホール）
26	同上	「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」―展覧会を楽しむために―	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	5月11日	NHK自治体講演会（町田市中央図書館6階ホール）
27	同上	「第５回 観音堂の千手観音と二十八部衆―観音堂の仏像のみどころ―」	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	12月22日	仁和寺に学ぶ文化の継承（於仁和寺）
28	同上	大報恩寺のみほとけ　運慶次世代の仏師と京都	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	4月27日	九州国立博物館特別展記念講演会
29	同上	中世興福寺における彫刻の復古とオリジナル	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	5月8日	日本建築学会の若手研究会「復古とオリジナル」
30	同上	Breaking a Negative Cycle: Ancient Egyptian Collections in Japan and their Future	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造	9月3日	CIPEG Annual Meeting as part of the 25th ICOM General Conference, Kyoto
31	同上	Tel Rekhesh during the Late Bronze and the Early Iron Ages and its Historical Context	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造、ほか外部研究者	12月29日	Symposium "The Jezreel Valley in the LB-Iron IIA in context," Institute of Archaeology, Tel Aviv University
32	同上	南レヴァントから見た3.2kaイベントと古代地中海世界の大転換期	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造	2年2月1日	日本西アジア考古学会 公開シンポジウム「気候変動と古代西アジアー古気候から探る文化・文明の興亡」
33	同上	古墳に学ぶ技術と儀礼　パネルディスカッション	調査研究課長　河野一隆	7月21日	東京シンポジウム2019－文化遺産を考えるー

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
34	同上	先史壁画のデジタルアーカイブと公開活用	調査研究課長　河野一隆	10月24日	新潟国際情報大学
35	同上	「特別展　国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅―」	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	4月12日	NHK自治体講演会（調布市）
36	同上	「特別展　国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅―」	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	4月16日	NHK自治体講演会（板橋区）
37	同上	「特別展　国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅―」	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	4月19日	NHK自治体講演会（あきる野市）
38	同上	「特別展　「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅―」を鑑賞する」	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	4月23日	聖心女子学院生涯学習センター文化講座
39	同上	「集められた扇絵―九州国立博物館所蔵「扇面画帖」の修理報告」	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	12月15日	第5回源氏絵データベース研究会シンポジウム「室町時代源氏絵研究の最前線」（基盤研究(B)オントロジーに基づく源氏絵データベースを共有、活用した源氏絵の総合研究（研究代表者：稲本万里子））
40	同上	東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	8月27日	狩野派與中國／台日聯合工作坊（台湾中央研究院）
41	同上	「特別展　国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅―」鑑賞の手引き	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	4月13日	NHK自治体講演会（新宿区立新宿歴史博物館）
42	同上	狩野元信様式の再検討	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	8月27日	狩野派與中國／台日聯合工作坊（台湾中央研究院）
43	同上	建長寺の禅宗美術（建長寺宝物風入特別講座）	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	11月2日	第14回鎌倉芸術祭／建長まつり（建長寺）
44	同上	New Discoveries among Textiles in the Siebold Collection	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	11月2日	12th Siebold Conference, Leiden
45	同上	山中商会の初期の売買に見る日本染織の動向	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	2年1月26日	公開シンポジウム「美術品としての日本染織コレクションはいかに形成されていったのか」
46	同上	縄文の美を探る	調査研究課考古室長　品川欣也	4月16日	午餐会講演会(尚友倶楽部)
47	同上	縄文の美を捉える	調査研究課考古室長　品川欣也	6月1日	国宝指定20周年記念講演会(新潟県十日町市)
48	同上	縄文の美を楽しむ	調査研究課考古室長　品川欣也	6月21日	2019年第1回国際理解講演会(港ユネスコ協会)
49	同上	考古学者の考える美	調査研究課考古室長　品川欣也	6月30日	特別講演会(大和文華館)
50	同上	縄文文化の魅力紹介	調査研究課考古室長　品川欣也	10月9日	第101期一橋フォーラム21(如水会)
51	同上	「縄文展」をふりかえる	調査研究課考古室長　品川欣也	11月2日	オープンカレッジ第3回(宮畑遺跡史跡公園・じょーもぴあ宮畑)
52	同上	「縄文文化へのまなざし－世界から見た縄文－」	調査研究課考古室長・品川欣也	2年2月11日	シンポジウム「世界遺産と縄文－大森勝山遺跡の世界遺産登録に必要なものとは？－」(青森県弘前市)
53	同上	港区 芝丸山第８号墳	企画課特別展室研究員山本亮、調査研究課考古室研究員　河野正訓、ほか外部研究者	2年2月15日	東京都遺跡調査・研究発表会45
54	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第3次発掘調査概要報告	調査研究課考古室研究員飯田茂雄　ほか外部研究者	5月19日	第85回　日本考古学協会
55	同上	砂川遺跡とはどんな遺跡であったのか	調査研究課考古室研究員飯田茂雄	11月9日	シンポジウム「砂川遺跡-旧石器時代研究の過去・現在・未来-」
56	同上	Towards a Better Understanding of Asian Cultures: Challenges Faced by the Tokyo National Museum's Asian Gallery	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	10月29日	7th Asian National Museums Association (ANMA) Meeting and Coference
57	同上	「曹操高陵最新研究報告 -『特別展 三国志』に関連して-」	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	7月14日	三国志学会
58	同上	「策展工作中的理想与现实 -以日本三国展为例」	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	4月24日	国家文物局2019年全国展览策划与实施培训班
59	同上	「皇帝陵の考古学―三国から隋まで」	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	11月27日	学習院大学東洋文化研究所 第102回東洋文化講座
60	同上	Passage to the Pure Land: The Sedgwick Shotoku and the Cult of the Dancing Priest Ippen (1239-1289)	保存修復課保存修復室長瀬谷愛	5月28日	アメリカ・ハーバード大学美術館 Study Day
61	同上	東京国立博物館所蔵資料の保存と活用	保存修復室長・瀬谷愛	10月27日	日本ミュージアム・マネージメント学会
62	同上	津波に被災した掛軸「切り絵曼荼羅」の応急修理における一考察	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　大山龍顕	6月23日	第41回文化財保存修復学会
63	特集「やちむん―沖縄のやきもの」に関する調査研究	「東京国立博物館所蔵の琉球資料に含まれる陶磁器について」	企画課特別展室主任研究員　三笠景子	9月7日	東洋陶磁学会第2回研究会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
64	特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」に関する調査研究	明治宮殿の室内装飾に関する一考察	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	6月30日	家具道具室内史学会
65	特別展「出雲と大和」に関する調査研究	出雲と大和へのいざない	調査研究課考古室研究員 河野正訓	2年2月23日	日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」関連文化講演会（町田市立図書館）
66	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	奈良大和四寺のみほとけ	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	9月15日	クラブツーリズム主催講演会
67	御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」に関する調査研究	御即位記念特別展「正倉院の世界」	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	9月29日	正倉院フォーラム、よみうり大手町ホール
68	同上	正倉院と螺鈿紫檀五絃琵琶	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	11月09日	雅楽アジアの響き、国立劇場
69	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	法隆寺金堂壁画と百済観音	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	2年1月20日	東京大学仏教青年会
70	同上	百済観音と聖徳太子のこころ	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	2年2月23日	法隆寺シンポジウム
71	特別展「きものKIMONO」に関する調査研究	Textile & Costume galleries in Tokyo National Museum	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	9月3日	ICOM京都大会コスチューム委員会（於：京都国立近代美術館）
72	同上	Kimono: Fashioning Identities	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	9月3日	ICOM京都大会ICDAD委員会（於：稲森記念会館）
73	博物館環境デザインに関する調査研究	夏季華道綜合講座「気配をデザインする―東京国立博物館の展示」	学芸企画部上席研究員 木下史青	7月21日	未生流
74	同上	谷口吉郎・吉生記念金沢建築館開館記念「トーハクとMOMATにまつわる、建築と展示の話」	学芸企画部上席研究員 木下史青、ほか外部研究者	8月7日	銀座蔦屋書店 建築
75	同上	どくろ茶会 「どくろ茶会」とは博物館の〈負の象徴構造〉である	木下史青(東京国立博物館上席研究員・デザイン)	12月9日～18日	東京藝術大学大学院美術研究科博士課程
76	博物館教育に関する調査研究	デジタルメディア・複製を用いた体験型鑑賞：ファミリー向け特集展示「親と子のギャラリー」を例に	博物館教育課教育普及室長　藤田千織、文化財活用センター副センター長 小林牧	5月16日	2019年韓中日博物館教育国際シンポジウム（韓国・国立中央博物館）
77	博物館教育に関する調査研究、ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	モノを見る体験を豊かにするICT技術	博物館教育課教育普及室長　藤田千織	8月22日	第15回教育旅行シンポジウム「ＩＣＴを活用した教育旅行～新学習指導要領にいう『深い学び』につなげるために～」

○その他有形文化財に関連する調査研究　17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	展示用支持具の効果および機能と課題	企画課デザイン室長　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩、同アソシエイトフェロー　黄川田翔	6月30日	第38回日本展示学会大阪大会
2	同上	博物館・美術館の収蔵庫における照明計画の現状 ―安全対策としての視点から―	企画課デザイン室長　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩、同アソシエイトフェロー　黄川田翔	9月12日	2019年度(第52回)照明学会全国大会
3	同上	関東甲信越地域における文化財防災ネットワークの構築に向けた取り組み	列品管理課登録室研究員 六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
4	同上	災害対策調査部会の活動について-2018年度報告-	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
5	同上	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 ―数値解析による小屋裏の送風ファンによる環境調整方法の検討―	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
6	同上	文書保存の基礎知識~書庫環境管理と生物被害対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	8月29日	第9回公益財団法人特別区協議会・東京都公文書館共催セミナー「地方公共団体の記録資料を未来に遺す-公文書等の保存をめぐって」
7	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	博物館内輸送用防振機能付台車の開発	保存修復課環境保存室長 和田浩	11月27日	日本機械学会第28回交通・物流部門大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	同上	博物館内の作品輸送で生じる振動レベルの評価とその対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	11月21日	第57回全日本包装技術研究大会
9	同上	文化財輸送環境の保全	保存修復課環境保存室長 和田浩	2年2月27日	全国美術館会議保存研究部会第54回会合
10	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	企業・NPOが参加するオープンサイエンスのこれまでとこれから 2019年版	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之	5月28日	ジャパン・オープンサイエンス・サミット2019
11	同上	Information Logisticsを基底に学術資料や文化資源を見つめ続ける	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之	7月26日	学術野営2019
12	同上	地図 アーカイ ブ の利活用と社会実践	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之 ほか外部研究者	10月20日	第28回地理情報システム学会研究発表大会
13	同上	地域資料の“逐次公開”に関する考察	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之 ほか外部研究者	11月23日	第24回情報知識学フォーラム
14	同上	学校教育・生涯学習（一般利用）に向けた文化財・文化資源情報の在り方とは	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之	2年2月21日	歴博共同研究「総合資料学の創成」地域連携・教育ユニット研究会
15	同上	キュレーション-リアルとデジタルの間-	学芸研究部特任研究員 田良島哲	11月30日	国立国会図書館「NDLデジタルライブラリーカフェ」
16	同上	文化財画像活用の課題	学芸研究部特任研究員 田良島哲	12月23日	アートコンテンツ活用シンポジウム「デジタルアーカイブで拓くアートの未来」
17	同上	デジタルアーカイブ運用の制度的課題	学芸研究部特任研究員 田良島哲	2年2月20日	公開セミナー「ミュージアムとジャパンサーチ―その可能性と課題―」

【京都国立博物館】57件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　57件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	幕末・維新史に関する調査研究	寺田屋登勢と坂本龍馬―登勢の手紙の真意―	上席研究員　宮川　禎一	5月25日	高知県立坂本龍馬記念館「現代龍馬学会」総会基調講演
2	同上	福沢諭吉と坂本龍馬	同上	8月17日	大分県中津市城南公民館歴史講座
3	同上	坂本龍馬と剣術道場	同上	11月３日	高知県アクトランド講演会
4	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	染織品にみる大航海時代－龍光院所蔵品から－	企画室長　山川　暁	4月14日	MIHO　MUSEUM 春期特別展講演会
5	同上	Japanese Warriors' Surcoats (*Jinbaori*) in the Age of Exploration	同上	9月4日	ICOM KYOTO ICOM COSTUME国際委員会
6	同上	仏像入門	連携協力室長　淺湫　毅	5月16日	『智積院研修会』智積院
7	同上	木のほとけ	同上	7月26日	『京都国立博物館夏期講座』京都国立博物館
8	同上	美しい仏像に出会う	同上	9月24日	『高槻市北清水公民館講座　仏像へのいざない』高槻市北清水公民館
9	同上	平安時代の仏像　―定朝から運慶まで―	同上	11月16日	『大津市歴史博物館講座』大津市歴史博物館
10	『国宝一遍聖絵と時宗の名宝』展に関する調査研究	国宝一遍聖絵と時宗の名宝展のみどころ	同上	5月15日	『NHKカルチャーセンター』大阪教室
11	同上	時宗のみほとけ	同上	5月18日	『京都国立博物館夏期講座』京都国立博物館
12	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	An Exotic Three-Centuries-Old Mirror: Traditions of Archival Practice and Cross-Cultural Curiosity in Japan	教育室長　永島　明子	9月4日	*ICOM ICDAD Kyoto 2019: The Future of Tradition in the Arts, East and West.*
13	同上	古墳時代における山の祭祀と河内平野	考古室主任研究員 古谷　毅	8月2日	大阪府羽曳野市民大学「百舌鳥・古市古墳群をより深く知るための世界遺産講座」Ⅸ 第11講義
14	同上	西宮山古墳の出土遺物 －古墳時代後期における播磨の首長墓－	同上	9月21日	令和元年度 考古資料相互貸借活用促進事業 たつの市龍野歴史文化資料館館 企画展「はじめての里帰り 西宮山古墳の御宝」関連ミュージアムトーク
15	同上	埴輪と古墳時代の人々 －古代国家成立前夜の社会像－	同上	10月5日	公益財団法人京都鴨沂会 第４９回教養講座
16	同上	平常展示の重層化 －構造と再来性－	同上	10月8日	文化庁 第11回指定文化財(美術工芸品) 企画･展示セミナー

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	同上	古墳時代の空間構造 －居住・生産と古墳・祭祀－	同上	10月26日	國學院大學博物館　百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録記念 特集展示「王権と古墳-倭国統合の象徴-」関連ミュージアムトーク
18	同上	近代中国におけるデザインの展開―陳之仏を例に―	企画室主任研究員 呉　孟晋	5月18日	美術史学会第72回全国大会（於京都工芸繊維大学）
19	同上	李仲生的“超現実主義”	同上	6月30日	「日殖時期現代文藝的共時與差異論壇」（於国立台湾美術館）
20	同上	コレクションをひもとく―最近の中国絵画史研究について―	同上	7月6日	第83回大阪市立大学中国学会（於大阪市立大学）
21	同上	展出「典蔵」－簡介京都国立博物館近十年来的中国絵画展覧会―	同上	7月27日	Research and Exchange for International Curation on East Asian Painting with a Workshop（於国立故宮博物院（台湾台北））
22	同上	寄託制度と博物館	同上	8月24日	特別企画「ICOM京都大会開催記念 京博寄託の名宝 ―美を守り、美を伝える―」展土曜講座（於京都国立博物館）
23	同上	外交官須磨弥吉郎所看到的高剣父	同上	11月26日	「先声：高剣父芸術研究国際学術研討会」（於嶺南画派紀念館（中国広州））
24	同上	土方定一眼中的中国現代美術	同上	11月30日	「社会変動中的現代芸術与視覚文化」（於広州美術学院図像与歴史高等研究院・芸術与人文学院）
25	同上	陳澄波在東京：関於1920年代日本美術的動向	同上	2年2月7日	「陳澄波書畫收藏展」学術推広活動論壇（於国父紀念館（台湾台北））
26	同上	中国山水画の射程―臥遊と臨摸―	同上	2年2月15日	「それぞれの山水」展ギャラリートーク（於駒込倉庫（東京））
27	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	美麗を極める中国陶磁－松井コレクションの概要－	連携協力室研究員 降矢　哲男	5月18日	東洋陶磁学会研究会、京都国立博物館
28	特別展 「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	佐竹本三十六歌仙絵にみる近代数寄者と文化財保護	同上	6月29日	茶の湯文化学会東海例会、昭和美術館
29	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	茶碗－種類と美意識－	同上	7月17日	特別講義、多治見市陶磁器意匠研究所
30	同上	朝鮮時代の陶磁器の流れと茶碗にみる名称について	同上	7月27日	第13回 近世貿易陶磁研究調査G勉強会、東京都埋蔵文化財センター
31	特別展 「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	近代数寄者が憧れた名品－佐竹本三十六歌仙－	同上	9月25日	京都政経文化懇話会、ANAクラウンプラザホテル京都
32	同上	佐竹本三十六歌仙絵の魅力に迫る	同上	10月9日	日経アカデミア「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」、日本経済新聞社SPACE NIO
33	同上	佐竹本の所蔵者とその想い	同上	10月10日	連続講演会「佐竹本と近代数寄者をめぐる物語」、薫習館 KARANI HALL
34	同上	佐竹本三十六歌仙絵の魅力	同上	10月21日	佛教大学・京都新聞総合研究所提携講座　もっと知りたい！ 関西のミュージアム、佛教大学四条センター
35	同上	佐竹本三十六歌仙絵の魅力	同上	10月23日	日経新聞社ロータリークラブ観覧ツアー講座、京都国立博物館
36	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	10月24日	NHK公開講演会「特別展 流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」、宇治市生涯学習センター
37	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	10月29日	大阪美術商協同組合講演会、京都国立博物館
38	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	10月30日	NHK公開講演会「特別展 流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」、豊中市千里文化センター
39	同上	佐竹本三十六歌仙絵への想い	同上	11月16日	特別展 「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」記念講演会、京都国立博物館
40	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	11月22日	京都美術倶楽部講演会、京都国立博物館
41	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	知恩院の障壁画	保存修理指導室研究員 福士　雄也	5月26日	知恩院和順会館 清風会見学会講座
42	同上	俵屋宗達筆　風神雷神図屏風	同上	6月19日	京都国立博物館文化財ソムリエ講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
43	同上	海を渡った扇絵―橋本雅邦最後の大仕事―	同上	8月3日	京都国立博物館土曜講座
44	同上	近世の画家のスケッチ	同上	2年2月22日	京都国立博物館土曜講座
45	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	国宝 後鳥羽上皇像と鎌倉時代の肖像画	企画室研究員 井並　林太郎	6月2日	島本町立歴史文化資料館 「水無瀬神宮の社宝　国宝複製完成展示」講演会
46	同上	京都国立博物館の歴史 ～今年の展覧会紹介を兼ねて～	同上	6月13日	MKタクシー講演会
47	特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」に関する調査研究	『遊行上人縁起絵』の転写とその背景	同上	4月20日	研究発表と座談会　「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」（仏教美術研究上野記念財団助成研究会）
48	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	歌仙絵の最高峰～佐竹本三十六歌仙絵の魅力～	同上	9月25日	京都政経文化懇話会
49	同上	佐竹本三十六歌仙絵の美と情緒	同上	10月17日	京都新聞「佐竹本と近代数寄者をめぐる物語」連続講演会
50	同上	流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵の魅力と真実	同上	10月18日	NHK文化センター京都教室
51	同上	流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美	同上	10月21日	一般社団法人清風会記念講演会
52	同上	特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の見方・楽しみ方	同上	10月23日	日経カルチャー講演（於京都東急ホテル）
53	同上	「切断」された絵巻と100年の流転 ―佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美―	同上	10月24日	NHK公開講演会（於豊能町立ユーベルホール）
54	同上	「切断」された絵巻と100年の流転 ―佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美―	同上	10月25日	NHK公開講演会（於高槻市　生涯学習センター）
55	同上	流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美	同上	10月29日	京都マーケティング・フォーラム
56	同上	特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	同上	10月31日	NHK文化センター梅田教室
57	同上	佐竹本三十六歌仙絵の諸問題―画風・復元・伝来―	同上	12月26日	研究会「絵画の再生―改装・復元・復元根拠」（於早稲田大学）

○その他有形文化財に関連する調査研究　13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	埋蔵環境による軟質胎土の汚染に関する研究-鉄に着目して-	保存科学室長 降幡　順子	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
2	同上	博多遺跡群出土ガラス容器片の科学調査-吹きガラスに着目して-	同上	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会
3	同上	Disaster Mitigation Approaches in Kyoto National Museum	同上	8月30日	ICOM-DRMC　ワークショップ
4	同上	Conservation Science and Explorations of Cultural Excahnge-the blue color agents used to decorate ceramics	同上	9月3日	ICOM　Kyoto　2019
5	同上	Early domestic production of lead-glazed earthenware in Japan: Analytical studies of excavatied ceramics from the 7th and 8th centiries	同上	9月16日	EMAC 2019 Barcelona
6	同上	弥生のガラスと青谷上寺地遺跡	同上	11月30日	第4回青谷かみじち遺跡特別講演会
7	同上	京博におけるリスクマネジメント	同上	11月26日	イラン国立博物館等国際研修
8	同上	近世陶磁器の彩色材料	同上	2年2月15日	京都国立博物館土曜講座
9	同上	若冲と京坂の画家たち	保存修理指導室研究員 福士　雄也	4月14日	天慶院　山上宗二の遺徳を偲ぶ会
10	同上	屏風絵を楽しむために	同上	5月18日	くろちく百千足館 DNP文化プログラム事業
11	同上	若冲と京の画家たち	同上	5月31日	城陽プラネタリウム講座
12	同上	屏風絵が語る江戸初期の京都	同上	7月15日	くろちく百千足館 DNP文化プログラム事業
13	同上	研究発表に関する総合討論・コメンテーター	連携協力室研究員 上杉　智英	11月26日	ワークショップ「漢文佛教大蔵経版本概述―以大蔵経同版比較為例」（於 国際仏教学大学院大学）

【奈良国立博物館】　79件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　66件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良国立博物館の歩み　仏教美術と正倉院宝物	館長　松本伸之	4月30日	改元記念講演
2	同上	奈良とは何か？　国立博物館設置の意義	同上	7月6日	４機関協定締結記念シンポジウム
3	同上	金銅仏の系譜	同上	7月28日	第六十九回法隆寺夏季大学
4	同上	博物館のこれから	同上	8月24日	社会教育研究全国集会
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	必見　正倉院展	同上	8月25日	桜井市夏季大学
6	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	The History and Future of Nara National Museum	同上	8月28日	COMCOL基調講演
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	皇室ゆかりの宝物と唐文化	同上	9月23日	正倉院フォーラム大阪
8	同上	正倉院宝物（パネルディスカッション）	同上	9月29日	正倉院フォーラム東京
9	同上	正倉院宝物―世界の至宝を見る―	同上	10月4日	奈良経済同友会例会
10	同上	正倉院展をめぐって	同上	10月10日	関西総領事懇談会
11	同上	シルクロード文化の結晶　奈良	同上	10月19日	奈良シルクロードシンポジウム基調講演
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	聖徳太子と法隆寺（パネルディスカッション）	同上	11月2日	法隆寺フォーラム
13	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	宮廷と正倉院宝物―唐文化との関わり―	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
14	同上	唐招提寺と奈良の寺院	同上	12月15日	上海博物館展覧会記念講演
15	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展とシルクロード文化	学芸部長　内藤栄	6月22日	シンポジウム「絲綢之路博物館策展人論壇　主題と合作」
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	インドネシアの三昧耶鈴について	同上	7月13日	密教研究会学術大会
17	同上	當麻寺西塔発見の舎利容器の保存・活用と複製	同上	7月19日	シンポジウム「進化する複製の未来」―複製、復元の歴史、宗教、工芸、科学の４つの視点からの発見とその未来―
18	同上	再び、空海の舎利信仰の源流について―スリランカから東寺まで―	同上	7月21日	奈良国立博物館サンデートーク

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物成立の謎に迫る―なぜ聖武天皇の四十九日に宝物と薬が大仏に献納されたのか―	同上	8月23日	薬師寺まほろば塾講演会
20	同上	正倉院宝物の魅力と歴史、そして今年の正倉院展から	同上	9月27日	アスニーセミナー
21	同上	正倉院宝物の歴史と特徴	同上	10月1日	京都美術工芸大学出前授業
22	同上	せいぶ正倉院講座	同上	10月30日	奈良市西部公民館
23	同上	「即位と正倉院宝物」パネルディスカッション（司会進行）	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	鑑真和上と唐招提寺	同上	12月21日	「滄海之虹―唐招提寺鑑真文物与東山魁夷隔扇画展」講座
25	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物とシルクロードの動物意匠	列品室長　吉澤悟	8月21日	第48回奈良国立博物館夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」
26	同上	正倉院ガラス器の来た道	列品室長　吉澤悟	9月21日	「奈良の文化と交通を考える会」９月例会講演
27	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか	同上	10月13日	奈良国立博物館サンデートーク
28	同上	行基墓誌断片からみた行基集団	同上	11月23日、24日	第十八回 ザ・グレイトブッダ・シンポジウム「東大寺と行基菩薩」
29	同上	藤田美術館と仏教美術	情報サービス室長 岩井共二	5月8日、9日	「国宝の殿堂 藤田美術館展」NHK公開講演会（レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター／芦屋文化センタールナホール）
30	同上	藤田美術館の仏教美術コレクション	同上	5月25日	特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展　曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」公開講座
31	同上	佛従何出生／ブッダはどこから出生したか―ブッダイメージの中国化をめぐって	同上	7月27日	科研基盤研究(B)「東アジア美術における仏伝の表象」第5回ワークショップ
32	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	文化遺産としての正倉院宝物	工芸考古室長　清水健	5月26日	龍谷大学文化遺産学研究会・2019年度講演会
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	古神宝の世界	同上	6月16日	奈良国立博物館サンデートーク
34	同上	神使の信仰と造形	同上	8月23日	第48回奈良国立博物館夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」
35	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物の成り立ちと伝承	同上	10月5日	正倉院展フォーラム名古屋～宝物の魅力を語る～
36	同上	正倉院展親子鑑賞会	同上	10月27日	特別展「御即位記念 第71回正倉院展」親子鑑賞会
37	同上	正倉院に伝わる作り物をめぐって―仮山残欠を中心に―	同上	11月1日	特別展「御即位記念 第71回正倉院展」公開講座
38	同上	達磨寺本仏涅槃図をめぐって―図像の問題を中心に	教育室長　谷口耕生	7月27日	科研基盤研究(B)「東アジア美術における仏伝の表象」第5回ワークショップ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
39	同上	東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐって―追憶の天平仏画	同上	11月24日	奈良国立博物館サンデートーク
40	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良時代の写経の奥深い世界	企画室長　野尻忠	10月13日	白鶴美術館秋季展「文字を語る」講演会
41	同上	蜷川式胤と奈良の古器旧物	資料室長　宮崎幹子	6月30日	奈良学セミナー
42	同上	奈良国立博物館列品台帳の整理―現状報告―（共同発表）	同上	12月14日	科学研究費助成事業　基盤研究（Ｂ）「明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究」第一回研究会
43	同上	イギリス王室所有（ロイヤル・コレクション・トラスト保管）の文化財写真―概要と歴史的意義―（共同発表）	同上	12月14日	同上
44	同上	文化財写真の軌跡―150年のあゆみ―	同上	2年1月11日	特別陳列「重要文化財　法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」公開講座
45	同上	春日大社にまつわる絵師たち	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	12月21日	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」公開講座
46	同上	平安時代の寺社参詣	美術室主任研究員 斎木涼子	9月15日	奈良国立博物館サンデートーク
47	同上	どうぶつえんのわくわくガイド	教育室主任研究員 中川あや	7月27日	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」親子講座
48	同上	「博物館の実例Ⅲ　国立博物館の展示技法と教育活動」	同上	8月5日	文化遺産の保護に資する研修2019（文化庁、（公財）ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、奈良文化財研究所主催）
49	同上	展覧会紹介	同上	8月17日	奈良女子大学「博物館情報・メディア論」講座
50	同上	原始・古代の祈りと動物造形	同上	8月21日	第48回奈良国立博物館夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」
51	同上	唐鏡寸話―近年の研究成果から―	同上	12月7日	兵庫県立考古博物館加西分館（古代鏡展示館）秋季企画展講演会
52	同上	鏡を楽しむ	同上	2月16日	奈良国立博物館サンデートーク
53	同上	近代を旅した仏たち ―奈良ゆかりの仏像を中心に―	企画室主任研究員 山口隆介	8月24日	特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」公開講座
54	同上	古写真と仏像研究 ―奈良ゆかりの仏像を中心に―	同上	11月2日	霊山寺
55	同上	大行寺本尊阿弥陀如来像のＸ線ＣＴスキャン調査報告	同上	12月1日	大行寺
56	同上	イギリス王室所有（ロイヤル・コレクション・トラスト保管）の文化財写真 ―奈良博覧会・奈良博覧会社関係資料の可能性をめぐって―	同上	12月14日	科研費基盤研究（Ｂ）「明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究」第1回研究会
57	同上	古写真と仏像研究	同上	12月15日	奈良国立博物館サンデートーク
58	同上	仏像の「かざり」をめぐって	工芸考古室研究員　三本周作	4月21日	奈良国立博物館サンデートーク
59	教育普及活動に関する調査研究	奈良国立博物館の概要とボランティア活動についての紹介	ボランティア室アソシエイトフェロー　翁みほり	8月28日	文部科学省委託青少年国際交流推進事業　令和元年度「日独学生青年リーダー交流事業」
60	同上	子ども向け展覧会の可能性について―わくわくびじゅつギャラリー『いのりの世界のどうぶつえん』を事例として―	同上	12月20日	大韓民国・国立慶州博物館
61	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	今川義元：公家大名の実像	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	6月6日	大阪府高齢者大学校　戦国武将の生き方に学ぶ科
62	同上	室町時代の“公務員”？―幕府官僚の実態に迫る	同上	1月19日	奈良国立博物館サンデートーク
63	同上	石田三成：なぜ関ヶ原の戦いが起こったのか	同上	12月19日	大阪府高齢者大学校　戦国武将の生き方に学ぶ科
64	同上	古代寺院の堂内荘厳	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	5月19日	奈良国立博物館サンデートーク
65	同上	国宝八角円堂内装飾画について	同上	11月23日	榮山寺創建一三〇〇年記念　藤原武智麻呂公を偲ぶ会
66	同上	日本历史文化介绍	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ	12月31日	中国・貴州岑巩第一中学

○その他有形文化財に関連する調査研究　13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名

1	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財の保存・修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	Ｘ線ＣＴスキャナを用いたアイヌ民族資料製作技術の可視化	保存修理指導室長　鳥越俊行　ほか外部研究者	6月1日	日本文化財科学会
2	同上	石見銀山遺跡から出土した金属製錬に伴う廃棄資料のＸ線ＣＴ調査	同上	6月2日	日本文化財科学会
3	同上	Ｘ線ＣＴによる金銅製杏葉の構造技法に関する比較検討―鳳凰文を有する福岡県船原古墳と奈良県珠城山三号墳出土杏葉を事例として―	同上	同上	同上
4	同上	特別展「快慶」に伴うＸ線ＣＴによる快慶作品の新知見	保存修理指導室長　鳥越俊行、上席研究員　岩田茂樹、情報サービス室長　岩井共二、企画室主任研究員　山口隆介	6月22日	文化財保存修復学会
5	同上	文化財の保存と活用―ＣＴによる調査を例に―	保存修理指導室長　鳥越俊行	7月５日	第三回　Ｘ線・ＣＴテクニカルセミナー
6	同上	日本の文化財の調査と修理―奈良国立博物館を例に―	同上	7月29日	韓国国立慶州博物館学術交流セミナー
7	同上	文化財を科学するⅥ	同上	8月18日	奈良国立博物館サンデートーク
8	同上	文化財の防災について	同上	11月14日	令和元年度第二十回愛知県文化財建造物担当者課題研修会
9	同上	災害時の文化財レスキューについて	同上	11月27日	令和元年度第三十七回三重県文化財講習会
10	その他有形文化財に関連する調査研究	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	資料室長　宮崎幹子	6月4日・11月22日	同志社大学
11	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月21日・26日・2年1月12日	京都府立大学
12	有形文化財の収集に関する調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	Community Involvement in Collection from Far Away in Time: Case of Kō	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ	9月3日	第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会2019 COMCOL-CIPEG合同セッション
13	同上	Archaeological Collections of National Museums: The Project to Use Them with Communities Close to Their Original Place	企画室員　松木悠	9月3日	第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会2019 COMCOL-CIPEG合同セッション

【九州国立博物館】　42件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	Inclusive Programs in Kyushu National Museum	学芸部企画課特別展室研究員　西島亜木子	11月5日	2019 International Conference on Cultural Accessibility and Social Inclusion（会場：Chang Yung-Fa Foundation International Convention Center、台北）
2	同上	「古墳時代の赤色顔料」	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	2年2月11日	関連講演会（会場：出雲弥生の森博物館）
3	特集展示「館蔵名品展　更紗　生命の花咲く布」に関する調査研究	「更紗　生命の花咲く布」	学芸部文化財課長 原田あゆみ	8月31日	九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座（会場：旧福岡県公会堂貴賓館）
4	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」に関する調査研究	三国志がいざなう旅	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	10月9日	たびコト塾スピンオフ（会場：電気ビル共創館）
5	同上	特別展「三国志」応援セミナー	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	10月19日	Bizcoli（会場：九州化経済調査協会）
6	同上	ここまで分かった“リアル三国志” － 新発見の考古資料から読み解く －	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	10月20日	特別展「三国志」記念講演会（会場：九州国立博物館内）
7	同上	特別展解説講座「三国志」	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	11月7日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
8	同上	特別展「三国志」の見どころ	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	11月19日	ピーポート甘木文化趣味講座（会場：朝倉市総合文化センター）
9	同上	特別展「三国志」ハイライト	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	11月29日	福岡市商工会議所（会場：九州国立博物館内）
10	同上	考古学から見た三国志	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	11月29日	世界史研究会（会場：九州国立博物館内）
11	同上	発掘された三国志	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	12月18日	大野城市シニア大学（会場：九州国立博物館内）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
12	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	九州国立博物館展覧会「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の見どころ	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	11月9日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市峰地区公民館）
13	同上	対馬のさまざまな版経 ―渡来の地・継承の地―	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　瓜生翠	11月9日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市峰地区公民館）
14	同上	九州国立博物館展覧会「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の見どころ	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	11月10日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市交流センター）
15	同上	対馬のさまざまな版経 ―渡来の地・継承の地―	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　瓜生翠	11月10日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市交流センター）
16	同上	反響当然！？「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の魅力と楽しみ方	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	11月17日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：当館ミュージアムホール）
17	特集展示　住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」特集展示に関する調査研究	「文化財よ、永遠に」―展示の見どころと、赤色顔料から探る吹上遺跡―	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	11月1日	日田市教育委員会令和元年度考古学講座（会場：当館ミュージアムホール）
18	特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容	学芸部特任研究員 臺信祐爾	2年2月20日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
19	同上	ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容	学芸部特任研究員 臺信祐爾	2年2月21日	Bizcoli（会場：九州化経済調査協会）
20	同上	ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容	学芸部特任研究員 臺信祐爾	中止	大野城市　シニア大学（会場：九州国立博物館内）

○その他有形文化財に関連する調査研究　22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	Visualization of feeding process of larvae of the wood-boring beetles using X-ray computer tomography	京都大学大学院農学研究科准教授　簗瀬佳之、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、京都大学生存圏研究所研究員　藤本いずみ、京都大学生存圏研究所教授　吉村　剛、京都大学大学院農学研究科教授　藤井義久	5月12日～16日	The 50th Annual Meeting of the International Research Group on Wood Protection
2	同上	Nondestructive evaluation of development, feeding, and oviposition of the bamboo powderpost beetle, Dinoderus minutus	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、京都大学大学院農学研究科准教授　簗瀬佳之、京都大学大学院農学研究科教授　藤井義久	5月21日～23日	The 4th International Conference for Integrated Pest Management (IPM) for Cultural Heritage
3	同上	Analysis of ten years data and countermeasures to reduce significant bird strikes on the large glass walls of a museum building by lighting design	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、（一財）九州環境管理協会　岡部海都、柿本大典、大城戸博文	5月21日～23日	Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4th international conference, Stockholm
4	同上	Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack	京都大学大学院　藤井義久、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、トータルシステム研究所北原博幸、京都大学大学院　藤原裕子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、国立民族学博物館　日高真吾、千葉県立中央博物館　斉藤明子、（公財）文化財建造物保存技術協会　福岡憲	5月23日	Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4th international conference, Stockholm
5	同上	阿蘇産ベンガラの終焉	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	6月1日、2日	日本文化財科学会36回大会

6	同上	赤外線画像を使った彩色材料の検討―顔料と染料を混合した場合―	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、香川県立ミュージアム　上野進、鹿間里奈	6月1日・2日	日本文化財科学会36回大会
7	同上	被災文書等の修復処置における灰汁の利用に関する基礎的検討：灰汁の成分分析と酸性紙文書に対する影響	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、長崎県歴史文化博物館　富川敦子、久保憲司、東京文化財研究所　早川典子、高知県立紙産業技術センター　有吉正明	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
8	同上	湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除－社寺建築における効果の検証・続報-	京都大学大学院　藤井義久、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、トータルシステム研究所 北原博幸、京都大学大学院　藤原裕子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、国立民族学博物館　日高真吾、千葉県立中央博物館　斉藤明子、（公財）文化財建造物保存技術協会　福岡憲	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
9	同上	湿度制御温風処理における殺虫効果の検証	東京文化財研究所　小峰幸夫、佐藤嘉則、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学大学院　藤井義久	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
10	同上	高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素	東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京藝術大学　貴田啓子、東京文化財研究所　川野辺渉、早川典子	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
11	同上	ガラス外壁を有する博物館建造物の衝突野鳥の対策：建物の俯瞰的外観の調査と照明・音声を利用した対策について	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、（一財）九州環境管理協会　岡部海都、柿本大典、大城戸博文	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
12	同上	夜間開館開始にともなう昆虫類の侵入調査について	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、環境文化創造研究所　山崎久美子、石橋陽見子、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、環境文化創造研究所　川越和四、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
13	同上	「資料保存」	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	8月26日	2019年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」博物館マネジメント人材育成研修会、くまもと文学・歴史館
14	同上	「彩色材料に関する面的調査法の検討」	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子	8月28日～30日	東アジア文化遺産保存学会大田大会（韓国）
15	同上	考古学から見た朝鮮半島と九州の関係	学芸部企画課長兼文化交流展室長兼特別展室長　白井克也	11月5日	福岡歴史観光市民大学第18回
16	同上	「漆器の魅力　五十嵐畤絵を中心に（長沢鼎所用漆器について）」	学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子	11月2日	鹿児島国際大学主催講演会「漆の世界からみえること―長沢鼎と漆器の文化―」（会場：鹿児島国際大学博物館実習施設（鹿児島国際大学ミュージアム））

17	同上	X線CTによるオオナガシバンムシ幼虫の行動および成長の評価	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学大学院農学研究科研究員　藤原裕子、京都大学大学院農学研究科教授　藤井義久	11月30日	第31回日本環境動物昆虫学会年次大会
18	同上	文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて	学芸部博物館科学課長環境保全室長　木川りか	12月5日	IPMコーディネータ研修、（公財）文化財虫菌害研究所
19	同上	「更紗をめぐる交流史」	学芸部文化財課長　原田あゆみ	2年2月8日	「東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究」第4回研究会（会場：早稲田大学戸山キャンパス）
20	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	近年の水中文化遺産保護に対する取り組みの動向	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	7月5日	文化遺産国際協力コンソーシアム・西アジア分科会　東京文化財研究所
21	同上	昇平丸の調査：水中考古学の可能性	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	8月10日	照国講演会　照国神社　鹿児島市
22	同上	浅海底探査の新技術：ドローン搭載グリーンレーザーによる調査（仮称）	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	2年2月13日	研究集会「水中遺跡保護行政の実態Ⅱ」（水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業）　滋賀県大津市

【東京文化財研究所】　64件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　16件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	資料紹介　東京文化財研究所架蔵　平子鐸嶺自筆ノート類について―その収載内容とノート類のもつ意義―	文化財情報資料部客員研究員　津田徹英	5月31日	文化財情報資料部研究会
2	同上	河原の風景―ライプツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について―	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　江村知子	10月6日	美術史学会東支部例会
3	同上	日本絵画にみる四季の表現	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　江村知子	11月21日	イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 Third Thursday Lecture
4	同上	至高の気品―土佐光起撰『本朝画法大伝』の意義、そして意図するもの―	文化財情報資料部主任研究員　小野真由美	11月23日	美術史学会東支部例会
5	同上	東京文化財研究所のパブリックドメイン資料-文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援	文化財情報資料部研究員　橘川英規ほか	2年1月17日	パブリックドメイン資料の利用条件についてのシンポジウム
6	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	The Minakuchi Rapier, European Sword produced in Japan	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	9月3日	ICOM京都大会ICFA委員会
7	同上	南蛮漆器成立の経緯とその年代―キリスト教聖龕を中心とする検討―	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	9月24日	文化財情報資料部研究会
8	同上	日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	11月1日	第53回オープンレクチャー
9	同上	水口レイピア、日本で造られたヨーロッパの剣	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	11月9日	水口町郷土史会創立60周年記念講演会
10	同上	日本中世のガラスを探る-2018・2019年度の調査をもとに-	東海大学非常勤講師　林佳美	12月24日	文化財情報資料部研究会
11	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報の記録－文化財の写真について－	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	12月2日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	「国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」Session 1, 2においてチェアをつとめた	無形文化遺産部音声映像記録研究室長 石村智	12月17日	アジア太平洋無形文化遺産研究センター主催「国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」
2	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	講演「芸能を支えるもう一つの技―楽器製作をめぐって」	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	7月25日	武蔵野大学能楽資料センター主催関連講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	同上	「もう一つの及川コレクション―及川尊雄氏収集紙媒体資料―について」	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	2年2月1日	一般社団法人 東洋音楽学会
4	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究	モノが語る人、自然、社会―箕をめぐる民俗学的研究	無形文化遺産部　主任研究員　今石みぎわ	10月13日	日本民俗学会第71回年会
5	同上	「儀礼文化」の保護と活用について	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	2年3月8日	儀礼文化学会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　25件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	光学的調査の方法と成果-科学写真からわかること	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	12月8日	那智参宮曼荼羅絵巻本の仕立てを探る　國學院大學

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　24件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack	客員研究員　藤井義久、生物科学研究室長　佐藤嘉則他	5月23日	Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4th international conference
2	同上	湿度制御温風処理における殺虫効果の検証	アソシエイトフェロー・小峰幸夫 生物科学研究室長・佐藤嘉則他	同上	文化財保存修復学会第41回大会
3	同上	湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除 ―社寺建築における効果の検証・続報―	客員研究員　藤井義久、生物科学研究室長　佐藤嘉則他	6月23日	同上
4	同上	リアルタイム浮遊菌数測定と生態解析によって室内浮遊菌の実態に迫る	生物科学研究室長　佐藤嘉則他	9月10日	日本微生物生態学会第33回大会
5	保存と活用のための展示環境の研究	有機酸発生源探索のための簡易調査法の試案	保存科学研究センター長　佐野千絵他	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
6	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	国宝 日月四季山水図の蛍光X線分析	保存科学研究センター副センター長・早川泰弘	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
7	同上	煉瓦造窯の保存と活用に関する調査－愛知県常滑市の事例－	分析科学研究室長　犬塚将英他	同上	同上
8	同上	桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響	客員研究員　古田嶋智子、分析科学研究室長　犬塚将英	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
9	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	新宮市万歳の一遍上人名号碑と江戸時代に行われたその補修について	修復計画研究室長　朽津信明他	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
10	同上	天草市アンモナイト館における緑色生物の制御	修復計画研究室長　朽津信明他	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
11	同上	過去の写真と現状の三次元計測に基づく荒島石の侵蝕速度の検証	修復計画研究室長　朽津信明他	10月24日	日本応用地質学会2019年度研究発表会
12	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	ミャンマー産漆塗膜の硬度試験	研究員　倉島玲央他	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
13	同上	五島列島産マフノリの抽出条件に対する粘度変化	明治大学大学院　相澤真凜 保存科学研究センター　早川典子 明治大学　本多貴之	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会
14	同上	文化財保存修復に用いられる促進劣化試験後のバインダー17の構造解析	明治大学大学院　渡邊祐利乃 保存科学研究センター客員研究員　本多貴之	同上	同上
15	同上	有機溶媒を含んだゲルの文化財クリーニングへの適用	アソシエイトフェロー藤井佑果他	同上	同上
16	同上	古典的膠の製造方法と各用途的性の体系化	客員研究員宇髙健太郎、早川典子、藤井佑果、大場詩野子、岡部迪子他	同上	同上
17	同上	画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蛹方法の影響 ―大和文華館所蔵作品調査データ含めて―	修復材料研究室長　早川典子他	同上	同上
18	同上	まめのりの脂質、タンパク質、糖質成分の反応熱分解GC/MSによる検討	修復材料研究室長　早川典子他	同上	同上
19	同上	真鍮泥が紙の劣化に及ぼす影響	保存科学研究センター客員研究員・貴田啓子、保存科学研究センター修復材料研究室長・早川典子他	6月23日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	同上	琉球漆器朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査	研究員　倉島玲央他	6月22日	同上
21	同上	文化財修復に有用なポリビニルアルコール分解酵素の性質の検討	大阪産業技術総合研究所研究主任　山中勇人、客員研究員　酒井清文他	9月25日	日本防菌防黴学会第46回年次大会
22	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	近代文化遺産としての森林軌道	アソシエイトフェロー石田真弥	6月5日	林野庁屋久島森林生態系保全センター
23	同上	煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性	アソシエイトフェロー石田真弥、特任研究員　中山俊介	11月9日	産業考古学会
24	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素	生物科学研究室長　佐藤嘉則他	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　17件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	Conservation and Sustainable Development Plan of TaNei Temple: Conservation of the East Gate	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェローマルティネス・アレハンドロ、アンコール地域保存管理機構遺跡保存課セア・ソピアルン	6月11日	The 32nd Technical Session of ICC-Angkor
2	同上	Conservation and Sustainable Development Plan of TaNei Temple: Restoration Works on the East Gate	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェローヴァル・エリフ・ベルナ、アンコール地域保存管理機構遺跡保存課　セア・ソピアルン	12月10日	The 33rd Technical Session of ICC-Angkor
3	同上	Towards the Conservation and Sustainable Development of TaNei Temple: Restoration of the East Gate	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェローヴァル・エリフ・ベルナ、同保存計画研究室長金井健、同研究員　安倍雅史、同アソシエイトフェロー　間舎裕生、京都工芸繊維大学助教　アレハンドロ・マルティネス、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　淺田なつみ、同センター長　友田正彦	1月22日～1月23日	早稲田大学文化財総合調査研究所主催国際シンポジウム「文化遺産を知りそして伝えるーメコンがつなぐ文化多様性ー」
4	同上	南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力	文化遺産国際協力センター長　友田正彦	1月24日	同上
5	保存修復技術の国際的応用に関する研究	The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文	6月8日	The Ministry of Culture and Tourism of Turkey
6	同上	ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究」-バガン王朝と復興期における壁画の比較研究-	保存科学研究センターアソシエイトフェロー・鴫原由美 文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会
7	同上	Lokahteikpan Wall Painting Project, pagoda 1580	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文、ダニエラ・マーフィ(文化協会バスティオーニ)、ステファーニア・フランチェスキーニ(文化協会バスティオーニ)、 チーリン(ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局)	7月26日	The Ministry of Religious Affairs and Culture of Myanmar, Archaeology, National Museum and Library
8	同上	Me-taw-ya Pagoda Project, Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Archaeological Area and Monuments of Pagàn, Burma	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文、ダニエレ・アンジェロット(文化協会バスティオーニ)、 チーリン(ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局)	同上	同上
9	在外日本古美術品保存修復協力事業	ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵　佐々木泉玄筆『般若図』（絹本着色 掛軸装）修復事例報告	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー小田桃子、東北芸術工科大学文化財保存修復センター講師　元喜載、文化遺産国際協力センター技術支援研究室長　加藤雅人、株式会社修護　君嶋隆幸、株式会社修護　白井啓太	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業	Practical Measures of Conservation of Vernacular Dwellings in Japan	文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　金井健	6月24日	事業専門家会議
12	同上	Proposal for Practical Restoration Method of Lham Pelzom House	同上	2年1月16日	Workshop on Conservation of Traditional Houses
13	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	カトマンズ盆地内ネワール集落の無形文化要素分析による集落の位置づけに関する研究 - 2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その12-	東京大学大学院・工学系研究科都市工学専攻・修士課程・原 洪太 東京大学大学院・工学系研究科都市工学専攻・修士課程・永門 航 札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	9月5日	日本建築学会2019年大会（北陸）
14	同上	コカナにおける被災した伝統的民家の再建実態（被災後４年）、2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その11	札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	同上	同上
15	同上	コカナの震災復興から見たネワール集落の民家再建の実態と課題，ネパール地震後の文化遺産保護国際協力事業調査報告	札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	11月9日	日本都市計画学会　2019年度全国大会（第54回学術研究論文発表会）
16	同上	Effective Integration between Methods of Urban Planning and Preservation of Historic Settlements	神戸芸術工科大学芸術工学部教授　西村幸夫	2年1月5日	The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys
17	同上	Conservation Plan and Administrative Incentive for Protection of Historic District	保存計画研究室長　金井健	同上	同上

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　6件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	日本美術の記録と評価についての研究―「田中一松資料」の保存活用	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　江村知子	2年1月7日	東京文化財研究所総合研究会
2	同上	「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して―」	文化財情報資料部研究員 安永拓世ほか	2年2月25日	文化財情報資料部研究会

○調査研究成果の発信　4件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	Linked Dataを用いた地域文化遺産情報の集約	文化財情報資料部アソシエイトフェロー　三島大暉	6月25日	文化財情報資料部研究会
2	同上	Two solutions for orthographical variants problem	文化財情報資料部研究員 小山田智寛他	9月3日	2019 CIDOC annual conference
3	同上	文化財の記録作成、データベース化の意義	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	12月2日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー
4	同上	文化財情報のデータベース化およびその活用について	文化財情報資料部研究員 小山田智寛	12月2日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー

【奈良文化財研究所】　103件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　22件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	日本庭園の特質と歴史	文化遺産部研究員 高橋知奈津	7月31日	令和元年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎コース
2	同上	文化財庭園の保存管理	同上	9月3日	令和元年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎コース
3	同上	歴史的庭園の調査	同上	9月28日	令和元年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎コース
4	同上	伯耆地方の民家の庭園	同上	11月24日	令和元年度庭園の歴史に関する研究会
5	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	古代畿内の集落と官衙の成立過程に関する一考察	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	5月18日	大阪市立大学日本史学会
6	同上	参河三嶋贄荷札の年代	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	6月10日	日本史研究会古代史部会
7	同上	飛鳥時代宮都土器編年の再編に向けて一飛鳥・藤原地域を中心に一	都城発掘調査部室長　尾野善裕	7月13日	奈良文化財研究所・歴史土器研究会共催シンポジウム　飛鳥時代の土器編年再考
8	同上	飛鳥時代における須恵器食器の法量変化	都城発掘調査部主任研究員 森川実	7月13日	奈良文化財研究所・歴史土器研究会共催シンポジウム　飛鳥時代の土器編年再考

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	同上	飛鳥時代における土師器杯Ｃ・杯Ａの変遷とその区分	都城発掘調査部研究員　大澤正吾	7月13日	奈良文化財研究所・歴史土器研究会共催シンポジウム　飛鳥時代の土器編年再考
10	同上	2019年全国出土の木簡	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	12月8日	木簡学会第41回研究集会
11	同上	藤原宮出土瓦の年代と生産体制	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	11月12日	中国社会科学院考古研究所2019年度考古研究系列学術講座（第15講）
12	同上	本薬師寺と薬師寺―同笵瓦からの検討―	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	11月30日	仏教芸術学会シンポジウム
13	同上	奈良県の鴟尾	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	2年2月1日	第20回古代瓦研究会シンポジウム 鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ
14	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観からみた京の輪郭	文化遺産部研究員 惠谷浩子	5月27日	2019年度龍谷史学会定期総会学術講演会
15	同上	世界遺産と文化的景観	文化遺産部研究員 惠谷浩子	6月7日	はびきの市民大学・世界遺産講座 Ⅸ
16	同上	水がもたらす景観とその保全	文化遺産部研究員 惠谷浩子	9月28日	令和元年度歴史文化セミナー簡修館
17	同上	産業が生んだ景観と暮らし	文化遺産部研究員 惠谷浩子	11月23日	近畿産業考古学会2019年度年次大会
18	同上	京都北山杉の里・中川の文化的景観と京都	文化遺産部研究員 惠谷浩子	11月27日	第1回テリトーリオ研究会
19	同上	当たり前の風景の語り方	文化遺産部研究員 惠谷浩子	2年2月24日	横手市歴史文化基本構想中間報告会
20	同上	日本庭園の飛石における切石の利用について	景観研究室長　中島義晴	10月26日	日本造園学会関西支部大会
21	同上	「勢州稲生村三社絵図」および「神宮寺古図絵巻」に描かれた伊奈冨神社庭園（七島池）の植生	景観研究室長　中島義晴	11月10日	日本造園学会関西支部大会
22	水中文化遺産に関する調査研究	水中遺跡出土遺物の保存処理法 -鷹島海底遺跡出土遺物を中心に-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか7名	6月14日	水中考古学公開セミナー

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　71件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　29件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	古代房総における貝類利用の実態	環境考古学研究室長　山崎健	6月15日	日本動物考古学会第7回大会
2	同上	動物の骨から見た縄文人の食料	環境考古学研究室長　山崎健	6月29日	新潟県考古学講演会「縄文時代の食べ物」
3	同上	動物遺存体からみたサケ	環境考古学研究室長　山崎健	9月8日	海洋考古学会第10回研究会
4	同上	朝日遺跡の動物利用	環境考古学研究室長　山崎健	11月23日	朝日遺跡考古学講座「動物の骨角から道具を作る」
5	同上	波怒棄館遺跡出土の石器の刺さったマグロ属椎骨の分析	環境考古学研究室客員研究員 松崎哲也	6月15日	日本動物考古学会第7回大会
6	同上	人と動物の関わりからみた東北の縄文文化	環境考古学研究室客員研究員 松崎哲也	8月20日	泉北教養講座「古代史講座」
7	同上	キカシグサ属（ミソハギ科）の花粉形態	環境考古学研究室客員研究員 上中央子	12月8日	日本植生史学会第34回大会
8	年輪年代学研究	年輪年代学的手法による参河贄荷札の同一材推定	年代学研究室長 星野安治，都城発掘調査部上席研究員 山本崇	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
9	同上	‘Stable’ hydroclimate is specific to a narrow temperature window: observations from Guatemalan varves, 1413±4 to 2015±0 CE	員数22(3番目) 年代学研究室長 星野安治	7月27日	20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)
10	同上	滋賀県草津市・鞭崎神社本殿の建築的特徴	員数4(3番目) 年代学研究室長 星野安治	9月3日	2019年度日本建築学会大会
11	同上	年輪年代学的手法による木簡の同一材推定（第2報）	年代学研究室長 星野安治，都城発掘調査部主任研究員 桑田訓也，史料研究室研究員 山本祥隆	2年3月16日	第70回日本木材学会大会
12	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	Where am I in the Forest? – Application of SLAM/LiDAR Technology to Measurement and Geophysical Survey of Archaeological Sites in Forest	金田 明大・山口 欧志	4月25日	47th Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology
13	同上	桜井市三輪山麓における弥生・古墳祭祀の問題	小林青樹・金田明大・山本亮・萱原朋奈・新里 遥・中島愛理	5月18日	日本考古学協会第85回大会
14	同上	文化財の調査研究における三次元計測データの質	山口　欧志	5月19日	日本考古学協会第85回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
15	同上	渤海上京龍泉府遺跡出土紋様塼の復元ー破片資料の三次元計測データを用いた試みー	中村　亜希子	5月24日	京都・朝鮮古代研究会
16	同上	廉価型GPSの遺跡探査への利用	金田　明大・山口　欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
17	同上	文化財のデジタル記録と可視化：遺跡・遺物を残し伝える	山口　欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
18	同上	SfM-MVS技術による土中の柱と木製部材の位置関係の復元	中村　亜希子、浦蓉子、金田明大、山口欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
19	同上	GPR機材の成果の比較：より良好な成果を目指して	金田　明大・山口　欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
20	同上	新たな可視化方法の試行:文化財の特徴を捉えるために	山口　欧志	6月23日	第4回文化財方法論研究会
21	同上	国史跡黒川遺跡群を中心とした立山信仰関連文化遺産のデジタル記録とその活用	山口　欧志	6月15日	2018年度日本海学研究グループ支援事業　研究成果発表会
22	同上	文化財のための三次元計測（中級編）	山口　欧志	6月22日	第4回文化財方法論研究会
23	同上	現場の写真から出土遺物の立体的位置関係を復元する	中村　亜希子	6月22日	第4回文化財方法論研究会
24	同上	デジタル技術で結ぶ人と未来と文化財	山口　欧志		奈良文化財研究所　第１２５回公開講演会
25	同上	史跡上市黒川遺跡群の三次元計測とその活用	山口　欧志	11月10日	第19回黒川フェスティバルー中世の里、黒川郷を行くー　歴史講演会
26	同上	SfM-MVSと深度合成を組み合わせた種子圧痕等の非破壊三次元計測	山口　欧志	11月16日	山梨県考古学協会2019　設立40周年記念・臨時企画　技術で拓く文化財研究
27	同上	Metashapeによる3Dモデルの作成ー中級編ー（遺物）	山口　欧志	11月16日	山梨県考古学協会2019　設立40周年記念・臨時企画　技術で拓く文化財研究
28	同上	渤海国上京城遺跡出土塼の復元研究	中村　亜希子	12月1日	日本中国考古学会2019年度大会
29	同上	七里壁と安波賀街道の記録と調査	阿部 来・藤本 康司・山口 欧志	12月8日	日本遺産調査研究講演会「石から読み解く中世・近世のまちづくり：笏谷石編」

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　42件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	建造物の彩色に関する調査研究	モンゴル匈奴時代Chikhertyn zoo遺跡出土顔料の調査（Ⅰ）	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜　ほか4名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
2	同上	モンゴルの壁画に用いられた顔料の分析について	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか3名	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
3	同上	モンゴル9世紀ウイグル帝国遺跡出土顔料の研究（Ⅰ）	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜　ほか2名	8月29日	2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
4	同上	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の界面調査（2）－知恩寺所蔵紙本金地著色天橋立図屏風の事例調査－	保存修復科学研究室客員研究員　金旻貞	8月29日	2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
5	同上	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の海面調査（3）－大覚寺所蔵重要文化財障壁画事例調査－	保存修復科学研究室客員研究員　金旻貞 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか2名	8月29日	2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
6	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	カラム実験による埋蔵時の鉄製遺物の腐食機構に関する検討	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
7	同上	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その１）	保存修復科学研究室研究員　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
8	同上	イメージ・プロセッシングソフトウェアを用いた木簡情報分析（Ⅰ）	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜　ほか1名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
9	同上	ポータブルXRFによる丹後地域における碧玉製管玉の産地分析	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか５名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
10	同上	古代末～中世における境界領域のガラス玉－北海道および鹿児島県喜界島出土ガラス玉の産地と鉛同位体比分析－	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか１名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
11	同上	一乗谷朝倉氏遺跡出土焼損文書の保存処理Ⅰ-焼損温度と変形挙動の推定-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか4名	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
12	同上	一乗谷朝倉氏遺跡出土焼損文書の保存処理Ⅱ-医書写本『湯液本草』の安定化処理-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
13	同上	水中遺跡出土遺物の保存処理法　-鷹島海底遺跡出土遺物を中心に-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか7名	6月14日	水中考古学公開セミナー
14	同上	出土木製品の恒久的な保存と一時的な保管	保存修復科学研究室研究員　松田和貴	6月15日	奈良文化財研究所第124回公開講演会
15	同上	Distribution of products and transfer of bead-making technology of potash glass	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美 保存修復科学研究室客員研究員　大賀克彦	6月18日	The 3rd SEAMEO SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology (SPAFACON2019) Bangkok, Thailand
16	同上	木簡の定量的解析を用いたデジタルコンテンツ化の基礎研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜　ほか1名	8月29日	2020 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
17	同上	モンゴル匈奴墓出土ガラス玉類の考古科学的研究	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか４名	8月30日	2019東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin大田
18	同上	未定Ｃ群製管玉からみた朝鮮半島と日本列島	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美 保存修復科学研究室客員研究員　大賀克彦　ほか３名	8月30日	2019東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin大田
19	同上	Effect of reburial conditions on the corrosion of marine iron artifacts	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 保存修復科学研究室研究員　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか1名	9月2日	The interim meeting of the ICOM-CC Metal working group 2019
20	同上	海底遺跡における銅製文化財の腐食が抑制される埋め戻し法の検討	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 保存修復科学研究室研究員　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成 ほか1名	10月19日	日本銅学会第59回講演大会
21	同上	Ancient glass beads excavated in Japan and along the Silk Road	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	11月9日	Silk Roads: Archaeology, Museums and Heritage science, University of Nottingham, Ningbo, China
22	同上	日本出土ガラス玉類の起源と交易ルート	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	11月27日	International Symposium of 'Wold of Ancient Glass'
23	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	X線照射による大分市高瀬石仏で採取された凝灰岩の水分拡散係数の測定	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
24	同上	乾湿風化による軟岩性石造文化財の劣化メカニズムの検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか1名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
25	同上	元町石仏における脱塩を用いた塩類風化抑制手法に関する研究　－セロファンで遮られたNaCl溶液の半透性と浸透性の測定－	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか３名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
26	同上	日本における文化遺産の防災 Disaster Mitingation Sistem for Cultural Heritages in Japan	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成 保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　中島志保	6月15日	第三届建築遺産保護技術国際検討会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
27	同上	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その３）X線照射による凝灰岩の吸水速度の測定	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	6月23日	日本建築学会近畿支部発表会
28	同上	浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか１名	6月23日	日本建築学会近畿支部発表会
29	同上	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その３）X線照射による凝灰岩の吸水速度の測定	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	9月3日	2019年日本建築学会大会
30	同上	浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか１名	9月3日	2019年日本建築学会大会
31	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究　（その６）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度変動の把握と数値解析	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか２名	9月3日	2019年日本建築学会大会
32	同上	一軸圧縮下における凝灰岩のX線CTとDigital Volume Correlation	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほ４名	9月3日	2019年日本建築学会大会
33	同上	熊本地震における被災歴史的建造物復旧支援の取り組み -建築工会の活動を通じて-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	11月19日	文化財防災ネットワーク推進事業セミナー
34	同上	Conservation of Takase stone Buddhas, Oita, Japan - evaluation of countermeasures based on field survey and numerical approach	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	12月3日	2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List
35	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	モンゴルのショロン・ボンバガル古墳の環境調査、モニタリングについて	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか2名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
36	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	モンゴルのショロン・ボンバガル古墳の環境調査、モニタリングについて	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか2名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
37	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その6）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度を数値解析による再現	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか３名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
38	同上	慶陵東陵の西壁面人物図のイメージング分析法による劣化損傷の評価	保存修復科学研究室客員研究員　金旻貞 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか3名	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
39	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その6）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度を数値解析による再現	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進 ほか３名	6月22日	日本建築学会近畿支部発表会
40	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究　（その5）4年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進 ほか３名	9月4日	2019年日本建築学会大会
41	同上	文化財の調査・保存・活用に関する取り組み	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　中田愛乃	11月23日	東京都市大学　キャリアデザイン
42	同上	Environmental design of protection facility of decorated ancient tombs for condensation control	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	12月3日	2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	北朝期の葬具から見た6世紀のソグド人	国際遺跡研究室アソシエイトフェロー　影山悦子	5月18日	第64回国際東方学者会議
2	文化財保護に関する国際協力の推進	14世紀－16世紀王都に関する調査報告	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似	7月27日	東南アジア古代史研究会
3	同上	The first Theravada Buddhist temple at Angkor? Restoration of Western Prasat Top	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似	10月24日	フリンダース大学考古学科研究セミナー
4	同上	Preliminary Report of the Research and Restoration Project of Western Prasat Top	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似	12月10日	第33回アンコール国際技術調整委員会
5	同上	Emerging Archaeo-chemical Evidences of Pottery Use from Terminal Pleistocene to Early Holocene East Asia	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	8月9日	ラ・トローブ大学考古学セミナー
6	同上	Biomarker and Isotopic Approach for the Detection of Cereal Cooking	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	12月17日	International Symposium of Palaeoethnobotanical Discoveries and Studies on the Tibetan Plateau and Surrounding Areas

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　4件

○文化財情報基盤の整備・充実　4件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	Prospects and Potential for the National Digital Repository of Archaeological Site Reports	企画調整部研究員　高田　祐一	4月26日	46th annual conference of Computer Application and Quantitative Methods in Archaeology
2	同上	デジタル技術を活用した発掘調査報告書のアクセス性向上の試行	企画調整部研究員　高田　祐一	5月19日	日本考古学協会第８５回（2019年度）総会
3	同上	発掘調査報告書のデータ量を推計する	企画調整部研究員　高田　祐一	6月22日	文化財方法論研究会
4	同上	考古学デジタルデータの課題と可能性	企画調整部研究員　高田　祐一	9月10日	考古学・文化財データサイエンス研究集会「考古学ビッグデータの可能性と世界的潮流」

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

【文化財防災ネットワーク推進本部】　9件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	展示用支持具の効果および機能と課題	文化財防災ネットワーク推進室員（東京国立博物館　学芸研究部保存修復課環境保存室長）　和田浩	6月30日	日本展示学会第38回研究大会
2	同上	文化遺産の防災について	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	8月25日	JIA文化財修復塾 近畿支部 現地講習1
3	同上	中国・四国地方における地域文化財防災体制と文化財防災ネットワーク推進事業との連携について	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健 文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 中島志保	8月30日	平成31年度全文協中国・四国ブロック文化行政主管課長会議
4	同上	歴史的建造物に付属する動産文化遺産の価値	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	9月11日	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修
5	同上	博物館・美術館の収蔵庫における照明計画の現状-安全対策としての視点から-	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 黄川田翔	9月12日	第52回照明学会全国大会
6	同上	京都国立博物館の防災	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 中屋菜緒	9月16日	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修
7	同上	文化財建造物及び美術工芸品保存施設の防災について	文化財防災ネットワーク推進室員（奈良国立博物館　学芸部保存修理指導室長） 鳥越俊行	11月14日	愛知県文化財建造物担当者課題研修会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	同上	災害時の文化財レスキューについて	文化財防災ネットワーク推進室員（奈良国立博物館　学芸部保存修理指導室長） 鳥越俊行	11月27日	三重県文化財講習会
9	同上	文化財防災ネットワーク推進事業について	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 黄川田翔	12月18日	令和元年度茨城県博物館協会研修会

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和2年3月31日現在

<table>
<tr><th>国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td rowspan="4">13件</td><td>7 件</td><td>1件</td><td>2件</td><td>1件</td><td>3件</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>2 件</td><td colspan="2">2件</td><td colspan="2">0件</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="2">文化財防災ネットワーク推進本部</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2 件</td><td colspan="2">2 件</td><td></td></tr>
</table>

【東京国立博物館】　1件

○国際シンポジウム　展示室で語る「日本美術」
- 開 催 日　　令和2年2月1日
- 開催場所　　東京国立博物館　平成館大講堂
- 主　　催　　ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019
- 参加人数　　314人
- 事業内容　　欧米のミュージアムの日本美術専門家とともに、博物館においてどのように日本美術を語るべきかを議論した。

【京都国立博物館】　2件

○研究発表と座談会　「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」
- 開 催 日　　4月20日
- 開催場所　　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　　公益財団法人仏教美術研究上野記念財団
- 共　　催　　京都国立博物館
- 参加人数　　121人
- 事業内容　　テーマに基づき3名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

○シンポジウム　ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム　日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会を振り返る-成果と課題-
- 開 催 日　　2年2月11日
- 開催場所　　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　　文化庁、ICOM京都大会2019組織委員会、ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館、東京国立博物館
- 参加人数　　183人
- 事業内容　　ICOM（国際博物館会議）京都大会を振り返り、ミュージアムが抱える課題と今後の展望についてディスカッションを行った。

○シンポジウム　ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム　日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会の成果を生かす-今後の博物館制度-
- 開 催 日　　2年2月23日
- 開催場所　　東京国立博物館　講堂
- 主　　催　　文化庁、ICOM京都大会2019組織委員会、ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館、東京国立博物館

※開催予定であったが、新型コロナウイル感染拡大予防・拡散防止のため中止となった。

【奈良国立博物館】　1件

○正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
- 開 催 日　　11月3日
- 開催場所　　東大寺総合文化センター　金鐘ホール
- 主　　催　　奈良国立博物館
- 後　　援　　読売新聞社
- 参加人数　　214名
- 事業内容　　テーマに基づき3名の研究者による研究発表とパネルディスカッションを行った。
  第1部：研究発表「正倉院宝物と御即位関係品」、「赤漆文欟木御厨子をめぐって」、「宮廷と正倉院宝物―唐文化との関わり―」
  第2部：パネルディスカッション

【九州国立博物館】　3件

○公開シンポジウム　全国高等学校歴史学フォーラム2019
- 開 催 日　　8月4日
- 開催場所　　ミュージアムホール
- 主　　催　　九州国立博物館
- 共　　催　　公益財団法人九州国立博物館振興財団
- 参加者数　　300人
- 事業内容　　高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッション及びワークショップにて発表。
  「近代以降の紙幣の変遷とその背景を探る」福岡県立糸島高等学校（歴史部）、「鴨沂高校とその周辺から考える歴史～モノから史料に～」京都府立鴨沂高等学校（京都文化コース）、「長崎県壱岐市大久保遺跡の研究～縄文時代晩期貝殻粉混和土器に関する一考察～」長崎県立壱岐高等学校（東アジア歴史中国語コース）、「雑誌『ひだびと』で江馬修は何をめざしたのか」岐阜県立関高等学校（地域研究部・文芸部）、「土器の文様について～この線描けるかな～」奈良県立橿原高等学校（考古学研究部）、「目には見えない、人々の「祈り」を明らかにする～桐生市における文献調査とフィールドワーク～」群馬県立桐生高等学校（地歴部）、「野馬土手～相馬の「万里の長城」～」福島県立相馬高等学校（郷土部）

○公開シンポジウム　特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」開催記念　シンポジウム「京都・等持院　歴代足利将軍像の謎に迫る」
- 開 催 日　　8月12日
- 開催場所　　ミュージアムホール
- 主　　催　　九州国立博物館
- 参加者数　　254人
- 事業内容　　歴代将軍坐像について、近年の研究や調査など新たな成果をまじえ、さまざまな観点から将軍坐像の真相に迫った。

○国際シンポジウム　特別展「三国志」記念特別講演会、鉄鏡検討会
- 開 催 日　　12月14日，16日
- 開催場所　　ミュージアムホール
- 主　　催　　九州国立博物館
- 参加者数　　306人
- 事業内容　　特別展「三国志」関連文化財に係る研究の進展を目的に、中国より潘偉斌氏を招聘し講演会並びに鉄鏡検討会を行った。

【東京文化財研究所】　2件

○国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために－歴史教育を通した戦後イラクの復興への挑戦－」
開 催 日　31年4月13日
開催場所　東京文化財研究所
主　　催　メソポタミア考古学教育研究所、東京文化財研究所
参加者数　87人
事業内容　戦後イラクの復興に対する国際協力を紹介する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「日本絵画の修復」
開 催 日　令和元年7月29日（月）～30日（火）
開催場所　日本美術技術博物館マンガ
主　　催　文化庁，独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所，日本美術技術博物館
参加者数　350人
事業内容　実際に修復された絵画とその修復工程とともに，そこで使用された伝統技術や材料等について紹介する国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

○「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業のための国際ワークショップ
開 催 日　元年11月28日～29日
開催場所　東京国立博物館平成館3階第2会議室
主　　催　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
参加者数　22人
事業内容　無形文化遺産の、持続可能な開発目標(SDGs)への教育的観点からの貢献を目指して、フィリピン、ベトナムにて作成した教材作成手順書の内容についての議論および実際の教育現場でそれを使用した効果について検証し、参加者とともにSDGsの目標4（ターゲット4.7）に記載されている質の高い教育の推進と今後の課題について検討した。

○国際研究者フォーラム　無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて
開 催 日　元年12月17日～18日
開催場所　東京文化財研究所セミナー室
主　　催　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)、文化庁
共　　催　東京文化財研究所
参加者数　64人
事業内容　アジア太平洋地域の無形文化遺産と地域振興、地域環境、教育に関する専門家を招き、各地域における具体的な事例の紹介を通して現状と課題を把握し、無形文化遺産を通じた「持続可能な社会」への貢献について、どのような研究が今後求められ進められるべきかを議論した。

【文化財防災ネットワーク推進本部】　2件

○シンポジウム「文化財を守り伝える2　東日本大震災から8年の今、これから」
開 催 日　10月26日
開催場所　けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）2階 ミュージアムホール
主　　催　京都国立博物館
後　　援　京都府、木津川市、精華町
参加者数　30人
事業内容　東日本大震災の現地で行われた文化財レスキュー活動と被災した文化財の修理についての紹介、また、8年経過した被災地の現状と今後に向けた取り組みについて宮城県からの報告が行われた。

○文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「地域社会と文化財－身近にある文化財、それをまもり伝える意味」
開 催 日　12月7日
開催場所　東京国立博物館 平成館　大講堂
主　　催　独立行政法人国立文化財機構
後　　援　朝日新聞社
参加者数　134人
事業内容　地域の過疎化・少子高齢化などの社会状況の変化による文化財保護の在り方、地域のかけがえのない文化財を地域の人々の力でまもり、次世代に伝えることで地域の活性化や復興に役立てていくこと、などを講演テーマとしてシンポジウムを開催した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和 2 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
427 件	257 件	108 件	59 件	50 件	40 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	166 件	40 件	126 件	0 件	
	本部文化財活用センター		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	4 件		0 件		

【本部文化財活用センター】4件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　3 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター 企画担当課長　松嶋雅人	東京国立博物館の原三溪コレクション ― 近代日本画の購入経緯とその意義	「原三溪の美術 伝説の大コレクション」展図録	横浜美術館	7月13日	無
2	同上	本部文化財活用センター 企画担当課長　松嶋雅人	「マルセル・デュシャンと日本美術」展開催の目的とその成果	ZENBI 全国美術館会議機関誌 vol.16	全国美術館会議	9月1日	無
3	同上	本部文化財活用センター 企画担当課長　松嶋雅人	美を紡ぐ　緑影　中村岳陵筆	『月刊経団連』2020 年 3 月	日本経済団体連合会	2年3月1日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	本部文化財活用センター 保存担当室長　吉田直人	保存環境管理に関する人材育成の課題について	化学物質と環境 No.155 (2019.5)	エコケミストリー研究会	5月20日	無

【東京国立博物館】108件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　96件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	学芸企画部長　富田淳	文徴明と師友たち	文徴明とその時代	公益財団法人台東区芸術文化財団	2 年 1 月 2 日	無
2	同上	学芸企画部長　富田淳	文徴明と代筆・贋作	文徴明とその時代	公益財団法人台東区芸術文化財団	2 年 1 月 2 日	無
3	同上	学芸企画部長　富田淳	明清篆刻小史　文彭から呉昌碩まで	謙慎書道会特別企画　印人書画篆刻展	謙慎書道会	2 年 1 月 14 日	無
4	同上	企画課長　浅見龍介	浄光明寺　阿弥陀如来および両脇侍坐像	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記編』十六	中央公論美術出版	2 年 3 月 18 日	無
5	同上	企画課長　浅見龍介	在欧美術館・博物館所蔵の仏教美術を訪ねて(4)	『法政史学』第 92 号	法政大学	9 月	無
6	同上	企画課長　浅見龍介	在欧美術館・博物館所蔵の仏教美術を訪ねて(5)	『法政史学』第 93 号	法政大学	3 月	無
7	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	美を紡ぐ　源氏物語図扇面	『月刊経団連』2019 年 8 月号	日本経済団体連合会	8 月 1 日	無
8	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	三十六歌仙絵の成立と「時代不同歌合絵」	『大和文華』135 号	大和文華館	8 月 9 日	無
9	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	明恵上人と高山寺の美術	高山寺監修・土屋貴裕編『高山寺の美術　明恵上人と鳥獣戯画ゆかりの寺』	吉川弘文館	2 年 3 月 10 日	無
10	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	謎だらけの国宝絵巻―鳥獣戯画―	高山寺監修・土屋貴裕編『高山寺の美術　明恵上人と鳥獣戯画ゆかりの寺』	吉川弘文館	2 年 3 月 10 日	無
11	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	柿本人麻呂像と歌仙絵の系譜	『出光美術館館報』190 号	出光美術館	2 年 3 月	無
12	同上	企画課特別展室研究員　山本亮	弥生時代	史学雑誌　128(5)	史学研究会	5 月 15 日	有
13	同上	企画課特別展室研究員　山本亮	奈良県明日香村上ノ井手遺跡の新知見	古墳出現期土器研究（6）	古墳出現期土器研究会	8 月 31 日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	同上	企画課特別展室研究員 山本亮、調査研究課長 河野一隆、同考古室研究員　河野正訓、保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、同専門職　宮田将寛	奈良県松山古墳出土鉄鏡の再検討	『MUSEUM』683 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
15	同上	企画課特別展室研究員 山本亮、調査研究課考古室研究員　河野正訓、ほか外部研究者	港区 芝丸山第８号墳	東京都遺跡調査・研究発表会 45 発表要旨	東京都教育委員会	2 年 2 月 15 日	無
16	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	円形周溝墓 SZ4500 の発見とその意義	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 2 月 28 日	無
17	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	五塚原古墳の土器と乙訓地域	向日市埋蔵文化財調査報告第 117 集	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	2 年 3 月 27 日	無
18	同上	企画課特別展室アソシエイトフェロー　村松綾	カルティエの歩み一創業から 1970 年頃まで	展覧会カタログ『カルティエ、時の結晶』	日本経済新聞社	10 月	無
19	同上	企画課デザイン室主任研究員　神辺知加	帝室博物館の国立移管および国立博物館設立について―GHQ 資料に基づいた一考察	紀要 55 号	東京国立博物館	2 年 3 月 31 日	無
20	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説「孔明出山図」「故事人物図」「後赤壁図巻」「三国故事図」	特別展「三国志」図録	美術出版社	6 月 25 日	無
21	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「異形の竹」絵画化の系譜―文同を中心に	宋代史研究会研究報告第 11 集　宋代史料への回帰と展開	汲古書院	7 月 26 日	無
22	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「文氏一族の繁栄」「蘇州職業画家による詩意図」	「生誕 550 年記念　文徴明とその時代」図録	台東区立書道博物館	2 年 1 月 4 日	無
23	同上	博物館教育課長　伊藤信二	舎利によせる祈りの造形ー輪宝羯磨蒔絵舎利厨子の表現するものー	高山寺の美術　明恵上人と鳥獣戯画ゆかりの寺	吉川弘文館	2 年 3 月 10 日	無
24	同上	博物館情報課長　今井敦	唐物茶陶の研究実況とは	『淡交別冊愛蔵版　数寄・日本の心とかたち』通巻第 75 号	淡交社	4 月 10 日	無
25	同上	博物館情報課長　今井敦	明代前期の青花磁器の二つの流れ―いわゆる雲堂手をてがかりに	『灼燦重現　十五世紀中期景徳鎮瓷器国際学術研討会論文稿』	上海博物館	6 月 27 日	無
26	同上	博物館情報課長　今井敦	横河民輔の「中国陶磁」蒐集	『アジアン・インパクト日本近代美術の「東洋憧憬」』	東京美術	10 月 11 日	無
27	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	円珍書状	ビオ・シティ 78 号	ブックエンド	4 月 1 日	無
28	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	聖武天皇宸翰「雑集」	ビオ・シティ 79 号	ブックエンド	7 月 1 日	無
29	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	東京国立博物館の蜷川式胤関係資料	正倉院宝物に学ぶ 3	思文閣出版	10 月 25 日	無
30	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	法隆寺献物帳	ビオ・シティ 80 号	ブックエンド	2 年 1 月 6 日	無
31	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子	ICOM 国際委員会セッション報告「ICOMAM　武器・軍事史博物館国際委員会」	第 25 回 ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 報告書	ICOM 日本委員会	2 年 3 月	無
32	同上	学芸研究部長　田沢裕賀	亘理町・江戸家の文化財レスキュー	救い出されえた文学コレクション	新宿区立漱石山房記念館	9 月 18 日	無
33	同上	列品管理課登録室長　丸山猶計	特別展での書の教育普及事例について ―書跡の三次元モデルを中心として―	『ニューサポート』	東京書籍	4 月 1 日	無
34	同上	列品管理課登録室長　丸山猶計	特別展「王羲之と日本の書」余録	『デアルテ』	九州芸術学会	6 月 28 日	無
35	同上	列品管理課登録室長　丸山猶計	巻子本の太巻軸の改良	『書学書道史学会 会報』37 号	書学書道史学会	5 月 20 日	無
36	同上	列品管理課登録室長　丸山猶計	表紙解説「墨蹟「平常道」至道無難筆」	季刊『禅文化』255 号	（公財）禅文化研究所	2 年 1 月 25 日	無
37	同上	列品管理課登録室研究員 六人部克典	文徴明の生涯と書	『生誕 550 年記念　文徴明とその時代』	公益財団法人台東区芸術文化財団	2 年 1 月 2 日	無
38	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	上方浮世絵師 浅山芦国の墓石と修復保存活動について	『大阪春秋』174 号	新風書房	5 月 31 日	無
39	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	浅山芦国の自画像について	国際浮世絵学会会誌『浮世絵芸術』178 号	国際浮世絵学会	7 月 31 日	有
40	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり図》について(11)第三六図「田鶴遺愛の品々」に描かれた茨木の鬼女と渡辺綱について	河鍋暁斎研究誌『暁斎』第 128 号	河鍋暁斎記念美術館	8 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
41	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	東京国立博物館所蔵　松方浮世絵コレクションの中の暁斎旧蔵品について	河鍋暁斎研究誌『暁斎』第 129 号	河鍋暁斎記念美術館	11 月 10 日	無
42	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ	小論「三代歌川広重の生涯と作品」、コラム「博覧会の華―明治の高岡銅器」、小論「おわりに」、解説作品 50 点、	『はたらく浮世絵　大日本物産図会』	青幻舎	12 月 19 日	無
43	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	「東京国立博物館所蔵の木造菩薩立像と飛鳥時代の木彫像」	肥田路美編『古代寺院の芸術世界』（古代文学と隣接諸学 6）	竹林舎	5 月 10 日	無
44	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	「≪研究ノート≫東京国立博物館所蔵の如意輪観音菩薩坐像と檀像表現」	『MUSEUM』683 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
45	同上	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	蓮乗院阿弥陀如来像及び両脇侍立像	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記編』十六	中央公論美術出版	2 年 3 月 18 日	無
46	同上	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	静嘉堂文庫美術館・東京国立博物館十二神将立像	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記編』十六	中央公論美術出版	2 年 3 月 18 日	無
47	同上	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造、ほか外部研究者	The Excavations at Tel Rekhesh, Israel: The results of 2013-2017 seasons	Proceedings of the International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East Proceedings of the 10th ICAANE	Otto Harrassowitz	2 年 3 月	有
48	同上	調査研究課長　河野一隆	インドネシアのジャワ島、スマトラ島における文化財調査ノート	東風西声　第 15 号	九州国立博物館	2 年 3 月	無
49	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	コラム：妙安寺本聖徳太子絵伝について	『四天王寺亀井堂石造物調査報告書』	元興寺文化財研究所編	4 月	無
50	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	「水車のある西洋風俗図屏風」	『國華』1482 号	國華社	4 月 20 日	無
51	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	Envisioning the West: European-style Paintings in Late 16-17th century Japan	Toward the Future: Museums and Art History in East Asia, Proceedings of the 2019 CIHA Colloquium in Tokyo	CIHA 日本委員会および大塚国際美術館	2 年 3 月 31 日	無
52	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	美を紡ぐ 冨嶽三十六景・神奈川沖浪裏	『月刊経団連』2019 年 6 月号	日本経済団体連合会	6 月 1 日	無
53	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	白衣観音図	『國華』1485 号	國華社	7 月 20 日	有
54	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	The 'Nippon Kimono' Voyages to Europe	KIMONO: Kyoto to Catwalk	V & A Publishing	2 年 2 月 29 日	無
55	同上	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介	横山上野大掾藤原祐定の研究	『刀剣美術』751 号	日本美術刀剣保存協会	8 月 1 日	有
56	同上	調査研究課工芸室研究員　佐藤寛介	平成 31 年「鏡開き」参加記	『甲冑武具研究』206 号	日本甲冑武具研究保存会	6 月 10 日	無
57	同上	調査研究課工芸室研究員　福島修	「漆芸のトランジション ― 深まるワザと行きかうデザイン」	『美意識のトランジション―十六から十七世紀にかけての東アジアの書画工芸』	公益財団法人五島美術館	10 月 25 日	無
58	同上	調査研究課考古室長　品川欣也	東京国立博物館所蔵遮光器土偶解説	史跡亀ヶ岡石器時代遺跡総括報告書	つがる市教育委員会	6 月 28 日	無
59	同上	調査研究課考古室研究員　河野正訓		古墳のなぞがわかる本	岩崎書店	9 月 30 日	無
60	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	用語解説	特別展「三国志」図録	美術出版社	6 月 19 日	無
61	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	用語解説	「博物館でアジアの旅 LOVE ラブ・アジア」図録	東京国立博物館	9 月 10 日	無
62	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	Towards a Better Understanding of Asian Cultures: Challenges Faced by the Tokyo National Museum's Asian Gallery	Proceedings 7th Asian National Museums Association (ANMA) Meeting and Coference 'Social Unity through Culture, Art and History: The Museums Challenges'	Asian National Museums Association (ANMA)	10 月	無
63	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	「展覧会開催までの軌跡　三国志展の現場から」	『時空旅人』2019.7 VOL50	三栄	5 月 25 日	無
64	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	「考古遺物が切り開く三国志の新時代」	『ユリイカ』2019 年 6 月号	青土社	5 月 27 日	無
65	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	総論／章解説／節解説 3-5, 4-3, 5-1・2／入門講座 3,7,8,12／作品解説 6 他／諸葛亮「出師の表」、「三都賦」、曹丕と曹植	特別展「三国志」図録	東京国立博物館	6 月 19 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
66	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	作品解説 99	特別展「正倉院の世界」図録	東京国立博物館	10 月 14 日	無
67	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	共著「日本における中国考古学関係文献目録（2018 年）」	『中国考古学』第 19 号	日本中国考古学会	11 月 30 日	無
68	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	「孤高の東洋美術 金銀錯狩猟文鏡と金彩鳥獣雲文銅盤」	『季刊永青文庫』109 号	永青文庫	2 年 2 月 15 日	無
69	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	「皇帝陵の考古学　三国から隋まで」	『東洋文化研究』第 22 号	学習院大学東洋文化研究所	2 年 3 月 31 日	無
70	同上	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀	旧江戸城写真帖に用いられている彩色材料について	東京国立博物館　紀要	東京国立博物館	2 年 3 月 31 日	無
71	同上	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛	社寺参詣曼荼羅としての一遍聖絵	五味文彦編『一遍聖絵の全貌』	高志書院	4 月 15 日	無
72	同上	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛	法隆寺東院舎利殿の美術と中世律宗	『日本仏教の展開とその造形』	法藏館	2 年 2 月 28 日	無
73	同上	学芸研究部保存修復課研究員　横山梓	表紙解説「擂鉢形水指　丹波」	『MUSEUM』681 号	東京国立博物館	8 月 15 日	無
74	a. 特別調査「法隆寺献納宝物」（第 41 次）	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛	法隆寺舎利殿障子絵の制作背景	『法隆寺献納宝物特別調査概報 XL 文王呂尚・商山四皓図屏風 2』	東京国立博物館	2 年 3 月 30 日	無
75	特集「やちむん―沖縄のやきもの」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　三笠景子	作品紹介　蓋マカイ	『MUSEUM』680 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
76	同上	企画課特別展室主任研究員　三笠景子	理想の茶碗―「利休形」とは	利休のかたち　好み道具と「利休形」	淡交社	2 年 1 月 12 日	無
77	特集「伝説の面打たち」に関する調査研究	企画課長　浅見龍介、博物館教育課教育普及室研究員　川岸瀬里	面裏の特徴から考える伝説の面打	『伝説の面打たち』	東京国立博物館	2 年 1 月 8 日	無
78	特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」に関する調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	明治宮殿の室内装飾に関する一考察	家具道具室内史学会誌 11 号	家具道具室内史学会	6 月 30 日	有
79	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	平家納経模本の世界―益田本と大倉本―	特集「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」図録	東京国立博物館	10 月 15 日	無
80	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	藤原定家詠草「泊瀬山」	陽明文庫講座 図録 I	東京大学史料編纂所	2 年 2 月 15 日	無
81	特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究	企画課特別展室長　猪熊兼樹	『朝鮮王朝の宮廷文化』	パンフレット	東京国立博物館	2 年 2 月 4 日	無
82	特別展「出雲と大和」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	奈良時代の神仏習合	特別展「出雲と大和」図録	島根県・奈良県	2 年 1 月 9 日	無
83	同上	調査研究課考古室研究員　河野正訓	出雲と大和	『うえの』729 号	上野のれん会	2 年 1 月 1 日	無
84	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	奈良大和四寺のみほとけ	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」図録	東京国立博物館	6 月 18 日	無
85	住友財団修復助成 30 年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史（調査研究課平常展調整室長　皿井舞と共著）	コラム　七十六年ぶりに日本に里帰り―ベトナム国立歴史博物館所蔵 阿弥陀如来立像	特別企画「文化財よ、永遠に」図録	住友財団、東京国立博物館	10 月 1 日	無
86	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	住友財団修復助成 30 年記念 特別企画　文化財よ、永遠に	『うえの』726 号	上野のれん会	10 月 1 日	無
87	御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	『国家珍宝帳』記載の三つの書屏風	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」図録	東京国立博物館	10 月 14 日	無
88	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　田邊留美子	天平の香り	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」図録	東京国立博物館	10 月 14 日	無
89	同上	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造	正倉院の白瑠璃碗はどこから来たのか―これまでの研究とこれからの研究	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」図録	東京国立博物館	10 月 14 日	無
90	同上	調査研究課工芸室研究員　三田覚之	二人の聖―聖徳太子と聖武天皇ゆかりの宝物	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」図録	東京国立博物館	10 月 14 日	無
91	同上	調査研究課工芸室研究員　三田覚之	今明かされる正倉院の世界	図書館教育ニュース	少年写真新聞社	10 月 28 日	無
92	同上	調査研究課工芸室研究員　三田覚之	正倉院と螺鈿紫檀五絃琵琶	雅楽アジアの響き	国立劇場	11 月 9 日	無
93	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛	法隆寺金堂壁画と文化財保護	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」図録	東京国立博物館	2 年 3 月 13 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
94	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部上席研究員 木下史青	死の近さ ―茶の湯の美学と博物館が出会うとき	2019 年度東京藝術大学博士論文	東京藝術大学	12 月	有
95	同上	学芸企画部上席研究員 木下史青	世界につながる博物館の展示デザイン―LED 照明の標準化と東京国立博物館	電気設備学会誌	電気設備学会	2 年 1 月	無
96	レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	法隆寺献納宝物　伎楽面の復元模造制作について	『MUSEUM』682 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有

〇その他有形文化財に関連する調査研究　12件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	企画課デザイン室長　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩、同アソシエイトフェロー　黄川田翔	展示用支持具の効果および機能と課題	展示学、58 号	日本展示学会	10月15日	無
2	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	災害対策調査部会の活動について-2018 年度報告-	文化財保存修復学会第 41 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月23日	無
3	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長和田浩、同アソシエイトフェロー　黄川田翔	関東甲信越地域における文化財防災ネットワークの構築に向けた取り組み	文化財保存修復学会第 41 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月23日	無
4	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 ―数値解析による小屋裏の送風ファンによる環境調整方法の検討―	日本文化財科学会第 36 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月1日	無
5	同上	企画課デザイン室長　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩、同アソシエイトフェロー　黄川田翔	博物館・美術館の収蔵庫における照明計画の現状 ―安全対策としての視点から―	2019 年度照明学会全国大会講演論文集	照明学会	8月31日	無
6	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	保存修復課環境保存室長 和田浩	文化財の海上輸送中に生じる振動レベルの評価	『MUSEUM』680 号	東京国立博物館	6月1日	有
7	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	博物館内輸送用防振機能付台車の開発	日本機械学会 第 28 回交通・物流部門大会 講演論文集	日本機械学会	11月27日	無
8	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	博物館内の作品輸送で生じる振動レベルの評価とその対策	第 57 回全日本包装技術研究大会大会予稿集	日本包装技術協会	11月21日	無
9	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	「守り伝える」を支える：東京国立博物館 資料館の役割	現代の図書館	日本図書館協会	9月1日	無
10	同上	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	書評『専門図書館探訪 あなたの「知りたい」に応えるガイドブック』青柳英治・長谷川昭子共著	情報の科学と技術	情報科学技術協会	2年3月1日	無
11	同上	学芸研究部特任研究員 田良島哲	明治期の書籍における「題辞」の様態 ： 美術書を事例として	アート・ドキュメンテーション研究　26	アート・ドキュメンテーション学会	5月	有
12	同上	学芸研究部特任研究員 田良島哲	文化財写真の資料的意義 ―明治時代の奈良の調査を中心に―	ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集　17　明治時代の東大寺 ―近代化がもたらした光と影―	GBS 実行委員会・東大寺	11月	無

【京都国立博物館】59件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　59件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	企画室長　山川　暁	「菊棕櫚文様帷子」（名品に咲く華）	『華道』79	日本華道社	9月	無
2	同上	同上	「雪持ち橘文様小袖」（名品に咲く華）	『華道』81　52～53 頁	日本華道社	11月	無
3	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	連携協力室長　淺湫　毅	「京都国立博物館の屋外展示」	『教育美術』６月号	教育美術振興会	6月	無
4	同上	同上	「作品解説（10 件）」	『京都国立博物館寄託の名宝　美を守り、美を伝える』	京都国立博物館	8月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
5	『国宝一遍聖絵と時宗の名宝』展に関する調査研究同上	同上	「時宗のみほとけ　―遊行上人の肖像と阿弥陀―」「扉解説（二・四・五章）」「作品解説（22 件）」	『国宝一遍聖絵と時宗の名宝』	京都国立博物館・朝日新聞社	4月	無
6	同上	同上	「聞名寺　阿弥陀如来及び観音・勢至菩薩立像」	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代　造像銘記篇』一六	中央公論美術出版	2年2月	無
7	同上	保存科学室長 降幡　順子	「群馬県白山古墳出土品の研究 2」	『鹿園雑集』第 21 号	奈良国立博物館	4月30日	無
8	同上	同上	「北野廃寺跡出土多口瓶の化学的特徴について」	『平安京右京一条二坊十六町遺跡』第 2019-1 号	京都市埋蔵文化財研究所	9月30日	無
9	同上	同上	「6a 層等から出土したガラス製遺物の化学分析調査」	『青谷上寺地遺跡第 17 次発掘調査報告書』	鳥取県埋蔵文化財センター	1月31日	無
10	同上	同上	緑釉陶器釉薬の分析	『平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の他分野協働型研究』	古代学協会	2年3月20日	無
11	同上	同上	藤原宮等出土瓦と生産地遺跡出土瓦の胎土分析成果 1. 蛍光 X 線分析の成果	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	奈良文化財研究所	2年3月31日	無
12	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	教育室長　永島　明子	蒔絵と螺鈿の聖餅箱―新出作品の紹介と研究ノート―	『漆工史』第 41 号	漆工史学会	31年3月	有
13	同上	同上	「重要文化財　花鳥蒔絵螺鈿角徳利及び櫃」京都国立博物館名品に咲く華	『華道』第 81 巻[第 6 月号]	日本華道社	5月15日	無
14	同上	同上	「菊蒔絵筆筒」京都国立博物館名品に咲く華	『華道』第 81 巻[第 11 月号]	日本華道社	10月15日	無
15	同上	同上	「蝋燭に鼠根付　銘岡友」（美術館だより 329 京都国立博物館 55）	『なにわ』12 月号	大阪府警察	11月28日	無
16	同上	保存修理指導室長 大原　義豊	「平等院浄土院所蔵阿弥陀三尊像（伝釈迦三尊像）に関する考察」	『鳳翔学叢』第 15 輯	平等院	31年3月	無
17	同上	同上	「愛知県美術館所蔵木村定三コレクション《黒漆厨子》内部千体観音に関する考察」	『愛知県美術館　研究紀要　第 25 号　木村定三コレクション編』	愛知県美術館	31年3月	無
18	同上	同上	「国宝　明恵上人像（樹上座禅像）をめぐる一試論」	『学叢』４１	京都国立博物館	5月	無
19	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	「『埴輪集成図鑑』の研究（二）」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	5月25日	無
20	同上	同上	「解説」・「本文補注」	『日本古代の窯業と社会』（吉田恵二先生著作集第 2 冊）、吉田恵二先生著作集刊行会	六一書房	8月11日	無
21	同上	同上	「埴輪の母子像－原始・古代における子供の社会的位置－」	『古墳と国家形成期の諸問題』（白石太一郎先生傘寿記念論文集編集員会）	山川出版社	10月20日	無
22	同上	同上	「文化財保護法以前－考古・民俗資料の収集・研究と保護－」	『文化財の活用とは何か』（國學院大學 学術資料センター編）	六一書房	2年3月15日	無
23	同上	企画室主任研究員 呉　孟晋	漢学と中国学のはざまで―長尾雨山と近代日本の中国書画コレクション―	SGRA レポート第 84 号「第 11 回 SGRA チャイナ・フォーラム論文集：東アジアからみた中国美術史学」	関ログローバル研究会	5月	無
24	同上	同上	『良友』画報にみる中国の渡欧画家たち（要旨）	『日仏美術学会会報』第 38 号	日仏美術学会	5月	無
25	同上	同上	（動向）美術	『中国年鑑２０１９』	中国研究所	5月	無
26	同上	同上	山本竟山と長尾雨山の交友―「長尾雨山関係資料」にある山本竟山資料について―	陶徳民・中谷伸生編著『山本竟山の書と学問―湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク』	関西大学東西学術研究所	6月	無
27	同上	同上	中国絵画の「お値段」	『清風会々報』第 196 号	一般社団法人清風会	10月	無
28	同上	同上	「長尾雨山関係資料」のこれまでとこれから	『書論』第 45 号	書論研究会	11月	無
29	同上	同上	口絵解説	『書論』第 45 号	書論研究会	11月	無
30	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	連携協力室研究員 降矢　哲男	「中近世の対馬」	『考古学ジャーナル』第 725 号	ニュー・サイエンス社	4月20日	無
31	同上	同上	「天野山金剛寺開山堂出土の高麗青磁」	『葬送・墓・石塔 ： 論集 ： 狭川真一さん還暦記念論文集』	狭川真一さん還暦記念会	5月11日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
32	同上	同上	「尾形光琳画・尾形乾山作　銹絵寒山拾得図角皿」	『国華』第 1483 号	国華社	5月20日	無
33	同上	同上	「名品に咲く華　重要文化財「色絵蓮華香炉」伝野々村仁清作」	『華道』第 81 巻 8 号	日本華道社	7月15日	無
34	同上	同上	「美術館だより 326 重要文化財 色絵蓮華香炉 伝野々村仁清作一合」	『なにわ』771 号	大阪府警察職員互助会	8月22日	無
35	特別展 「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	同上	「佐竹本の流転と所蔵者の想い」	『淡交』第 911 号	淡交社	9月1日	無
36	同上	同上	「佐竹本からみえる数寄者の想い」	『茶道雑誌』第 38 巻第 10 号	河原書店	10月1日	無
37	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	保存修理指導室研究員 福士　雄也	「墨花争奇図巻　大岡春卜筆」	『華道』7 月号	日本華道社	6月	無
38	同上	同上	「池大雅筆　鸚鵡岩山水図」	『國華』1484 号	國華社	6月20日	有
39	同上	同上	「風神雷神図屏風　俵屋宗達筆」	『なにわ』8 月号	大阪府警	7月	無
40	同上	同上	「第 1 章　都の絵画」	『トラりんと学ぶ日本美術 1』	淡交社	11月	無
41	特別展「一遍聖絵と時宗の名宝」に係る調査研究	同上	作品解説	『特別展　一遍聖絵と時宗の名宝』	朝日新聞社	4月	無
42	特別展「佐竹本三十六歌仙と王朝の美」に係る調査研究	同上	作品解説	『特別展　佐竹本三十六歌仙と王朝の美』	日本経済新聞社、NHK	10月	無
43	特集展示「京都御所障壁画　紫宸殿」に係る調査研究	同上	「賢聖障子　住吉広行筆」	『なにわ』1 月号	大阪府警	12月	無
44	同上	同上	「京都御所の障壁画―紫宸殿―」	『博物館 Dictionary』218 号	京都国立博物館	2年1月	無
45	その他有形文化財に係る調査研究	同上	作品解説	令和 2 年度カレンダー	西新井大師	11月	無
46	同上	企画室研究員 井並　林太郎	作品解説	『京博寄託の名宝』図録	京都国立博物館	8月	無
47	同上	同上	「六字名号・一遍上人僧尼踊躍念仏図（金蓮寺蔵）について」	『文化学年報』69 号	同志社大学文化学会	3月	無
48	同上	同上	「敬によりて愛を成ず―華厳宗祖師絵伝―」	『高山寺の美術　明恵上人と鳥獣戯画ゆかりの寺』	吉川弘文館	3月	無
49	特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」に関する調査研究	同上	「一遍聖絵　巻二」	『なにわ』767 号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	5月	無
50	同上	同上	「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」	『国宝　一遍聖絵と時宗の名宝』（展覧会図録）	京都国立博物館、朝日新聞社、時宗、時宗総本山清浄光寺（遊行寺）	4月	無
51	同上	同上	作品解説	同上	同上	同上	無
52	同上	同上	「遊行上人縁起絵の転写について―最古級断簡三図の検討を中心に―」	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団研究報告書第四十四冊『研究発表と座談会　一遍聖絵と遊行上人縁起絵』	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	2年3月	無
53	特別展 「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	同上	「総論　佐竹本三十六歌仙絵」	『流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美』（展覧会図録）	京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK 京都放送局、NHK プラネット近畿、京都新聞	10月	無
54	同上	同上	作品解説	同上	同上	同上	無
55	同上	同上	「秘宝　佐竹本三十六歌仙絵―歌と肖像の情緒―」	『淡交』9 月号	淡交社	9月	無
56	同上	同上	「佐竹本三十六歌仙絵の魅力―和歌を味わう歌仙絵と茶の湯―」	『茶道雑誌』10 月号	河原書店	10月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
57	同上	同上	「佐竹本三十六歌仙絵　在原業平」	『なにわ』772 号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	5月26日	無
58	同上	同上	「佐竹本三十六歌仙絵　小大君」	『なにわ』773 号	同上	10月30日	無
59	同上	連携協力室研究員 上杉　智英	書誌解題	『京都国立博物館蔵　国宝　漢書楊雄伝第五十七』	勉誠出版	11月20日	無

【奈良国立博物館】50件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　47件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	学芸部長　内藤栄	仏舎利三千粒と戒律―鑑真から覚盛へ―	覚盛上人御忌記念『唐招提寺の伝統と戒律』	一般財団法人律宗戒学院	5 月	無
2	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	正倉院宝物の成立―聖武天皇の宝物・薬物の献納と戒律―（概説）	『特別展 御即位記念 第71回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月 26 日	無
3	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	鑑真和上と唐招提寺	『滄海之虹―唐招提寺鑑真文物与東山魁夷隔扇画展』展覧会図録	上海博物館	12 月	無
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	上席研究員　岩田茂樹	神像の成立とその姿 *Shinzo:Their Emergence and Forms*	『Shinto: Discovery of the Devine in Japanese Art』展覧会図録	クリーブランド美術館	4 月 8 日	無
5	同上	同上	調査報告　静岡・乗光寺　観音菩薩遊戯坐像	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4 月 30 日	無
6	同上	同上	兵庫・綱敷天満宮の伎楽面（研究ノート）	『ＭＵＳＥＵＭ』680	東京国立博物館	6 月 22 日	有
7	同上	同上	日本における毘沙門天像の展開	『特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK プラネット近畿・文化庁・独立行政法人日本芸術振興会	2 年 2 月 4 日	無
8	同上	列品室長　吉澤悟	行基墓誌断片を考えるー東大寺二月堂本尊光背断片との比較からー	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4 月 30 日	無
9	同上	同上	調査報告　群馬県白山古墳出土品の研究２（分担執筆）	同上	同上	同上	無
10	同上	同上	石田茂作の石塔供養と大茶会	『論集 葬送・墓・石塔』	狭川真一さん還暦記念会	5 月 11 日	無
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	正倉院宝物にみる「使用痕」	『古墳と国家形成期の諸問題』	白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編　山川出版社発行	10 月 25 日	無
12	同上	情報サービス室長　岩井共二	国宝の殿堂　藤田美術館～コレクションの形成と継承～（総論）	『特別展 国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK プラネット近畿	4 月 13 日	無
13	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	袈裟付木欄染羅衣と偏衫（宝物寸描）	『特別展 御即位記念 第71回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月 26 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	厨子入押出阿弥陀五尊像	『聖徳』241	聖徳宗教学部	7月	無
15	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	工芸考古室長　清水健	*The World of Shrine Treasures and Former Shrine Treasures*	『Shinto: Discovery of the Devine in Japanese Art』展覧会図録	クリーブランド美術館	4月8日	無
16	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	文化遺産としての正倉院宝物	『文化遺産研究』2	龍谷大学文化遺産学研究会	5月	無
17	同上	同上	正倉院宝物にみる東大寺大仏開眼供養の荘厳	『古代文学と隣接諸学⑥古代寺院の芸術世界』	竹林舎	5月10日	無
18	同上	同上	コラム　金銀平脱皮箱模造	『正倉院宝物に学ぶ』3	思文閣出版	10月	無
19	同上	同上	山形・洲浜の系譜―仮山残欠をめぐって（宝物寸描）	『特別展 御即位記念 第７１回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月26日	無
20	同上	同上	從天平迎向令和　正倉院展的變遷及『御即位記念 第 71 回 正倉院展』的組成概要(翻譯　顏雪雪)	『典蔵・古美術』326		11月	無
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　谷口耕生	*Kami-Buddhist Combinatory Thought and Religious Art in Japan*	『Shinto: Discovery of the Devine in Japanese Art』展覧会図録	クリーブランド美術館	4月8日	無
22	同上	同上	奈良ゆかりの藤田美術館仏教絵画コレクション（コラム）	『特別展 国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHKプラネット近畿	4月13日	無
23	同上	同上	法華堂根本曼陀羅再考―天竺之真本としての霊山変相図―	『古代文学と隣接諸学⑥古代寺院の芸術世界』	竹林舎	5月10日	無
24	同上	同上	慈母のまなざしに抱かれた修練の日々―仏眼仏母像	『高山寺の美術』	吉川弘文館	2年2月28日	無
25	同上	同上	日本中世の仏画の表装	『日本の表装と修理』	勉誠出版	2年3月25日	無
26	同上	同上	「信貴山縁起絵巻」研究序説	『信貴山 朝護孫子寺蔵国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書―研究・資料編―』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	2年3月31日	無
27	同上	企画室長　野尻忠	藤田美術館の奈良ゆかりの写経コレクション（コラム）	『特別展 国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHKプラネット近畿	4月13日	無
28	同上	資料室長　宮崎幹子	グラビア解説　法隆寺金堂壁画写真ガラス原板（三百六十三枚）のうち 第六号壁 第二列の二	『聖徳』240	法隆寺	5月	無
29	収蔵品写真・資料等の活用についての研究成果を公表する。	同上	博物館・美術館における画像公開―オープンデータ、オープンアクセスと文化財写真の意義	『アート・ドキュメンテーション通信』123	アート・ドキュメンテーション学会	10月	無
30	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	文化財写真の軌跡―百五十年のあゆみとその成果―（総論）	『特別陳列　重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―』展覧会図録	奈良国立博物館	12月7日	無
31	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	狩猟宴楽図（紫檀木画槽琵琶第二号捍撥画）の図様と表現について	『正倉院宝物の研究Ⅰ』	ライブ・アート・ブックス	10月1日	無
32	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	おん祭と春日信仰の美術　〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち（概説）	『特別陳列　おん祭と春日信仰の美術〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち』展覧会図録	仏教美術協会	12月7日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	同上	同上	「信貴山縁起絵巻」の伝来をめぐって―近世におけるその評価と住吉模本の意義―	『信貴山 朝護孫子寺蔵国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書―研究・資料編―』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	2年3月31日	無
34	同上	教育室主任研究員　中川あや	調査報告　春日東西塔院跡出土の文字叩き平瓦	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4月30日	無
35	同上	同上	飛鳥寺塔心礎出土銅製品の鉛同位体比分析	『奈良文化財研究所紀要2019』	奈良文化財研究所	6月	無
36	同上	企画室主任研究員　山口隆介	藤田美術館所蔵「安阿弥様」二作品のＸ線ＣＴスキャン調査報告（コラム）	『国宝の殿堂　藤田美術館展―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHKプラネット近畿	4月13日	無
37	同上	同上	地蔵菩薩像が旅した一世紀　―「法徳寺の仏像」に寄せて―	『特別陳列 法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―』展覧会図録	奈良国立博物館	7月13日	無
38	同上	同上	地蔵菩薩像が旅した一世紀	『美術の窓』	生活の友社	7月	無
39	同上	同上	三重・安楽寺所蔵「安阿弥様」二作品のＸ線ＣＴスキャン調査報告（特論	『三重の仏像 ～白鳳仏から円空まで～』展覧会図録	三重県総合博物館	10月	無
40	同上	同上	イギリス王室所有（ロイヤル・コレクション・トラスト保管）の文化財写真 ―奈良博覧会・奈良博覧会社関係資料の可能性をめぐって―（各論）	『特別陳列 重要文化財法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―』展覧会図録	奈良国立博物館	12月7日	無
41	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室研究員　三本周作	大仏開眼会における天皇・皇后の冠と礼服御冠残欠（宝物寸描）	『特別展 御即位記念 第７１回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月26日	無
42	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	グラビア解説　胡面水瓶	『聖徳』242	聖徳宗教学部	12月	無
43	教育普及活動に関する調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	ボランティア室アソシエイトフェロー　翁みほり	奈良国立博物館の学校向けプログラムについて	『教育美術』924	公益財団法人教育美術振興会	6月	無
44	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	戦国期における幕府奉行人家の分裂	『古文書研究』88	日本古文書学会	4月	有
45	同上	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	榮山寺八角堂内陣装飾画の性格―古代寺院の建築彩色の一例―	『古代文学と隣接諸学⑥古代寺院の芸術世界』	竹林舎	5月10日	無
46	同上	同上	「信貴山縁起絵巻」尼公巻に描かれた東大寺大仏について	『信貴山 朝護孫子寺蔵国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書―研究・資料編―』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	2年3月31日	無
47	教育普及活動に関する調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ	奈良国立博物館の展覧会パネル・題箋における多言語対応の現状と課題	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4月30日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	保存修理指導室長　鳥越俊行　ほか外部研究者	X 線 CT による金銅製杏葉の構造技法に関する比較検討	日本文化財科学会第 36 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月2日	無
2	同上	保存修理指導室長　鳥越俊行、上席研究員　岩田茂樹、情報サービス室長　岩井共二、企画室主任研究員　山口隆介	特別展「快慶」に伴うＸ線ＣＴによる快慶作品の新知見	文化財保存修復学会第 41 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月22日	無
3	同上	保存修理指導室長　鳥越俊行	奈良国立博物館における X 線 CT を使った文化財の保存活用研究	X 線 CT がもたらす文化財研究の可能性	日本文化財科学会	3月7日	無

【九州国立博物館】　40件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　16件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	筑紫女学園大学文学部教授 田村史子、日本大学生産工学部教授　塩川博義、日本大学生産工学部専任講師 中川一人、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	中部ジャワのガムランにおける『ゴング』類の分類 1 肩高水平置き『ゴング』〈Kenong クノン〉と〈Bonang ボナン〉の形と音の特性	筑紫女学園大学人間文化研究所年報第 30 号	筑紫女学園大学人間文化研究所	8 月 31 日	無
2	同上	大西漆芸修復スタジオ　大西智洋、元興寺文化財研究所　大橋有佳、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、浦添市美術館　當山綾乃	黒漆山水楼閣葡萄沈金中央卓の保存修復と光学分析調査	浦添市美術館紀要　第 15 号	浦添市教育委員会　教育部　浦添市美術館	2 年 3 月	無
3	同上	学芸部特任研究員 臺信祐爾	偉大で華やかな 300 年	『九州王国』No. 151	エー・アール・ティ株式会社	2 年 2 月 15 日	無
4	同上	学芸部特任研究員 臺信祐爾	空っぽのルーヴル美術館	紀要『東風西声』15 号	九州国立博物館	2 年 3 月	無
5	「山梨・釈迦堂遺跡の縄文文化（仮）」に関する調査研究	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	作品解説	『縄文王国やまなし』（展覧会図録）	株式会社求龍堂	10 月 29 日	無
6	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「弥生銀座」で見る「縄文銀座」の名品	『九州王国』12 月号	エー・アール・ティ株式会社	11 月 15 日	無
7	日中文化交流協定締結 40 周年記念　特別展「三国志」に関する調査研究	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	金銀に輝く青銅器－武威市雷台墓出土の酒樽をめぐって	『三国志』（展覧会図録）	東京国立博物館・九州国立博物館・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション・朝日新聞社	6 月 19 日	無
8	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	なぜ関羽は神になったのか	『三国志』（展覧会図録）	東京国立博物館・九州国立博物館・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション・朝日新聞社	6 月 19 日	無
9	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	士燮－海のシルクロードの覇者	『三国志』（展覧会図録）	東京国立博物館・九州国立博物館・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション・朝日新聞社	6 月 19 日	無
10	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	王羲之の邸宅と貴族の墓	『三国志』（展覧会図録）	東京国立博物館・九州国立博物館・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション・朝日新聞社	6 月 19 日	無
11	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男、学芸部展示課長 楠井隆志	作品解説	『三国志』（展覧会図録）	東京国立博物館・九州国立博物館・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション・朝日新聞社	6 月 19 日	無
12	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	作品解説	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』（展覧会図録）	九州国立博物館	10 月 29 日	無
13	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	渡来版経入門編その 1「渡来版経キホンのキ」	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』（展覧会図録）	九州国立博物館	10 月 29 日	無
14	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	渡来版経入門編その 2「版経の調査って何するの？」	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』（展覧会図録）	九州国立博物館	10 月 29 日	無
15	同上	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	作品解説	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』（展覧会図録）	九州国立博物館	10 月 29 日	無
16	同上	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	豆酘における文化財調査史	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』（展覧会図録）	九州国立博物館	10 月 29 日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　24件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	博物館、美術館等における生物被害防止と化学物質の使用の歴史と現状	『化学物質と環境』No.155	エコケミストリー研究会	5月	無
2	同上	京都大学大学院農学研究科准教授　簗瀬佳之、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、京都大学生存圏研究所研究員　藤本いずみ、京都大学生存圏研究所教授　吉村　剛、京都大学大学院農学研究科教授　藤井義久	Visualization of feeding process of larvae of the wood-boring beetles using X-ray computer tomography	Proceedings IRG Annual Meeting 2019	International Research Group on Wood Protection	5月	無
3	同上	学芸部文化財課長　原田あゆみ、学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子、学芸部文化財課主任研究員　山下義也、学芸部文化財課資料登録室　森實久美子、学芸部文化財課資料管理室畑靖紀	作品解説	『室町将軍』（展覧会図録）	西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本	7月13日	無
4	同上	カナダ保存研究所　トムストラング、スミソニアン自然史博物館　ジェレミーヤコブ、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	Chapter 18: Integrated Pest Management for Museum Collections	Preventive conservation: Collection storage, pp.375-406	The society for the preservation on natural history collections (SPNHC)	9月	有
5	同上	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか（共同執筆）	・『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2　特別史跡高松塚古墳生物調査報告』		文化庁、東京文化財研究所　同成社	9月	無
6	同上	学芸部文化財課主任研究員　山下義也、学芸部文化財課資料登録室　森實久美子	作品解説	『住友財団修復助成30年記念　文化財よ、永遠に』（展覧会図録）	住友財団、九州国立博物館	9月10日	無
7	同上	学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子	菊蒔絵手箱	『國華』1491号	國華社	2年1月20日	無
8	同上	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	狩野山雪筆　山水花鳥図屏風	『國華』1492号	國華社	2年2月20日	無
9	同上	東京文化財研究所　小峰幸夫、佐藤嘉則、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、北原博幸、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、国立民族学博物館　河村友佳子、日髙真吾、園田直子、京都大学　藤井義久	湿度制御した温風処理における殺虫効果の検証-続報-	保存科学　59号	東京文化財研究所	2年3月	有
10	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男、京都大学総合博物館研究員　坂川幸祐、学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	総合博物館コレクション研究<8>銀象嵌青銅環頭刀の調査	『京都大学総合博物館ニュースレター』No.48	京都大学総合博物館	2年3月	無
11	同上	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、学芸部文化財課長　原田あゆみ	タイ文化省芸術局における文化財修理の取り組みについて	紀要『東風西声』15号	九州国立博物館	2年3月	無
12	同上	学芸部企画課長兼文化交流展室長兼特別展室長　白井克也	新たに寄託された方格規矩日月四神鏡	紀要『東風西声』15号	九州国立博物館	2年3月	無
13	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	漢代温酒樽の展開と製作集団について（下）	紀要『東風西声』15号	九州国立博物館	2年3月	無
14	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	寛永十七年マカオ使節の嘆願書に関する一考察（上）	紀要『東風西声』15号	九州国立博物館	2年3月	無
15	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	所蔵品紹介「細川忠興書状」	紀要『東風西声』15号	九州国立博物館	2年3月	無
16	文化財の材質・構造等に関する研究	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子	コラム「高松松平家博物図譜の科学調査」	「江戸の超グラフィック　自然に挑む」展覧会図録	香川県立ミュージアム	4月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
17	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	阿蘇産ベンガラの終焉	日本文化財科学会 36 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	6 月	無
18	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	玉名市から出土した赤色顔料について	大原遺跡発掘調査報告書	玉名市教育委員会	2 年 3 月	無
19	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	津倉古墳から出土した赤色顔料について	津倉古墳発掘調査報告書	岡山大学文学部学芸員課程・考古学研究室	2 年 3 月	無
20	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	四戸の古墳群から出土した赤色顔料について	四戸の古墳群発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	2 年 3 月	無
21	水中文化に関する調査研究	琉球大学国際地域創造学部　教授　池田栄史、東海大学海洋学部　特任講師　木村淳、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	Recent Investigations at Takashima Underwater Site: Searching for the Lost Fleet of the Mongol Empire	Current Science 117 vol 10	Indian Academy of Science	12 月	有
22	同上	奈良文化財研究所　考古第三研究室長　清野孝之、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞、文化庁第 2 課文化財調査官　藤井幸司	展望：日本と海外における水中遺跡保護の取組の現状	『考古学研究』	考古学研究会	2 年 1 月	有
23	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	水中考古学とデジタル技術の利用	文化情報学辞典（仮称）	勉誠出版	2 年 3 月予定	有
24	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	The Greatest Discovery: The Lost Fleet of the Mongol Invasion of Japan	Our Blue Planet: An Introduction to Maritime and Underwater Archaeology	Oxford University Press	2 年 3 月以降（In Press）	有

【東京文化財研究所】40件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　16件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　9件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	筑波大学助経　水野裕史	雪村周継と臨済宗幻住派	美術研究 428 号	東京文化財研究所	9 月	有
2	同上	文化財情報資料部研究員　安永拓世	伝祇園南海筆「山水図巻」（東京国立博物館蔵）について	同上	同上	同上	有
3	同上	成城大学教授　相澤正彦	静嘉堂文庫美術館本「春日宮曼荼羅」の画風をめぐって	美術研究 429 号	同上	2 年 1 月	有
4	同上	文化財情報資料部研究員　米沢玲	研究ノート　二幅の不動明王画像―禅林寺本と高貴寺本―	美術研究 430 号	同上	2 年 3 月	有
5	同上	早稲田大学大学教授　山本聡美	研究資料　「妙法蓮華経変相図」（静嘉堂文庫蔵）にみる南宋時代寧波の信仰と社会	同上	同上	同上	有
6	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化材情報資料部研究員　橘川英規	日本戦後美術に関する「アーカイブズ」の整理・活用のあり方―UCLA 図書館所蔵ヨシダ・ヨシエ旧蔵資料を例に	同上	東京文化財研究所	同上	有
7	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	東アジア螺鈿史の観点から見た高麗螺鈿の成立	美術資料 95 号	韓国国立中央博物館	6 月	有
8	同上	金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター　神谷嘉美	南蛮漆器を中心とした平蒔絵技法と材料に関する検討	美術研究 429 号	東京文化財研究所	2 年 1 月	有
9	同上	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	日本螺鈿史試論（韓国語）	書名未確認	韓国国立中央博物館	12 月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 14 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告　第 14 号	東京文化財研究所	2 年 3 月 31 日	有
2	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美、同 客員研究員 橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 3	同上	同上	同上	有
3	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	「実演記録」の記録 1	同上	同上	同上	有

4	同上	無形文化遺産部　主任研究員　菊池理予	染織技術の技術伝播に関する調査報告	同上	同上	同上	有
5	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究	無形文化遺産部　主任研究員　今石みぎわ	近現代における阿波の発酵茶―生産のあゆみと利用の広がり	記録等の措置を講ずべき無形の民俗文化財―阿波の発酵茶	徳島県教育委員会	同上	無
6	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	民俗芸能を記録する―映像記録の可能性	文化財の保存と活用　これからを考える―民俗文化財の視点から	NPO 法人 Knit-K	同上	無
7	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究	同上	仙石原湯立獅子舞の芸態	箱根湯立獅子舞調査報告書	箱根町教育委員会	同上	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　17件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	副所長　山梨絵美子	春日権現験記絵の光学的調査	春日権現験記絵巻七・巻八光学調査報告書	東京文化財研究所	2 年 2 月 10 日	無
2	同上	ハーバード大学教授　ユキオ・リピット	「春日権現験記絵」巻七・巻八の概要	同上	同上	同上	無
3	同上	文化財情報資料部客員研究員　田中潤	春日権現験記絵 巻七・巻八にみられる装束表現 ―束帯を中心に―	同上	同上	同上	無
4	同上	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻七・巻八）〈巻七〉	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻七・巻八）〈巻八〉	同上	同上	同上	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　12件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	生物科学研究室長・佐藤嘉則	文化財の微生物被害	かびと生活	NPO 法人カビ相談センター	6 月	無
2	同上	同上	第 2 節第 12 項屋外環境にある文化財の微生物制御	最新の抗菌・防臭・空気質制御技術	テクノシステム	7 月	無
3	同上	アソシエイトフェロー・小峰幸夫	第 4 章建材・家具・額縁から発生する害虫、第 5 章書籍や紙資料を加害する害虫	アレルゲン害虫のはなし―アレルギーを引き起こす虫たち―	朝倉書店	12 月	無
4	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則	文化財 IPM とカビの制御	文化財の虫菌害	公益財団法人文化財虫菌害研究所	同上	無
5	同上	同上	虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析	『保存科学』第 59 号	東京文化財研究所	2 年 3 月	有
6	同上	アソシエイトフェロー・小峰幸夫 生物科学研究室長・佐藤嘉則他	湿度制御した温風処理の殺虫効果の検証-続報-	同上	同上	同上	有
7	同上	研究補佐員・相馬静乃 生物科学研究室長・佐藤嘉則他	油絵具に使用される材質のカビ抵抗性試験	同上	同上	同上	有
8	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター副センター長・早川泰弘	仁和寺所蔵国宝孔雀明王像の蛍光 X 線分析	同上	同上	同上	有
9	同上	客員研究員・古田嶋智子 分析科学研究室長・犬塚将英	文化財分野で用いる放散試験に向けたサンプリングバッグ洗浄効果の検討	同上	同上	同上	有
10	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	修復計画研究室長・朽津信明他	新宮市万歳の一遍上人名号碑の補修史に関する三次元計測に基づく検討	同上	同上	同上	有
11	同上	同上	資料保存施設としての経塚の保存科学的評価	同上	同上	同上	有
12	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	分析科学研究室　犬塚将英他	X 線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	同上	同上	同上	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター長　友田正彦、奈良文化財研究所特任研究員　杉山洋、同専門職員　佐藤由似、文化遺産国際協力センター研究員　安倍雅史、同アソシエイトフェロー　間舎裕生	カンボジア、アンコール遺跡群タネイ寺院正面参道関連遺構発掘調査（2017～2018）の速報	『東南アジア考古学』39 号（2019）	東南アジア考古学会	12 月	有
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	ヴァル エリフ ベルナ	Towards the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate	Mekong cultural diversity beyond borders – Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian cultural heritage studies today –	Institute for Cultural Heritage, Waseda University	2 年 3 月	無
3	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	間舎裕生	アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力	文化財保存修復学会誌 63 号	文化財保存修復学会	2 年 3 月	有
4	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	東京大学大学院・工学系研究科都市工学専攻・修士課程・原 洪太 エム・アール・アイ　リサーチアソシエイツ株式会社・永門 航 札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	カトマンズ盆地内ネワール集落の無形文化要素分析による集落の位置づけに関する研究 – 2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その 12–	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
5	同上	札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	コカナにおける被災した伝統的民家の再建実態（被災後４年）、2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 11	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	同上	無
6	同上	同上	コカナの震災復興から見たネワール集落の民家再建の実態と課題, ネパール地震後の文化遺産保護国際協力事業調査報告	日本都市計画学会都市計画論文集	日本都市計画学会	10 月	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　1件

○調査研究成果の発信　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部研究員 小山田智寛	文化財データベースの作成とその意義について	美術研究 429 号	東京文化財研究所	2 年 3 月 31 日	有

【奈良文化財研究所】126件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　81件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　9件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	都城発掘調査部主席研究員　大林潤　・　都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	岡寺本堂内陣の建地割板図について	仏教技術　第三号（2019）	中央公論美術出版	10 月	無
2	同上	都城発掘調査部主席研究員　大林潤	大和高田市藤森十二社神社本殿の建築について	奈文研論叢 1	奈良文化財研究所	2 年 1 月	有
3	同上	文化遺産部部長　島田敏男	舟知家住宅と金峯山寺周辺の吉野建民家	奈文研論叢 1	奈良文化財研究所	2 年 1 月	有
4	同上	都城発掘調査部主席研究員　大林潤	西トップ遺跡中央祠堂の建築調査	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6 月	無
5	同上	文化遺産部部長　島田敏男	津山市城西伝統的建造物調査 2	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6 月	無
6	同上	都城発掘調査部研究員 福嶋啓人	近世宿場町の伝統的町家における建築的特質	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6 月	無
7	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木 智大	和歌山県湯浅町湯浅における醸造家主屋の平面形式	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6 月	無
8	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室長 吉川聡	唐招提寺宝蔵の「諸人忌日料田畠施入目録」をめぐって	覚盛上人御忌記念　唐招提寺の伝統と戒律	律宗戒学院	5 月 19 日	無
9	同上	文化遺産部歴史研究室長 吉川聡	三徳山三佛寺の近代行場絵図	奈文研論叢 1	奈良文化財研究所	2 年 3 月	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　72 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	遺跡整備研究室長　内田和伸	史跡等の保存活用計画―歴史の重層性と価値の多様性―	平成 30 年度遺跡整備活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	2 年 3 月 16 日	無
2	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	史跡等の保存活用計画について	史跡等の保存活用計画	奈良文化財研究所	2 年 3 月 16 日	無
3	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	明治前期における名所旧跡の官有地化による保存	遺跡整備研究室長　内田和伸	奈良文化財研究所	2 年 3 月 16 日	無
4	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	史跡等の特殊な構成要素について	遺跡整備研究室長　内田和伸	奈良文化財研究所	2 年 3 月 16 日	無
5	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	遺跡整備研究室研究員　高橋知奈津	伯耆地方の民家の庭園	令和元年度庭園の歴史に関する研究会報告書	奈良文化財研究所	2 年 3 月 31 日	無
6	同上	遺跡整備研究室研究員　高橋知奈津	名勝法華寺庭園の保存活用計画	平成 30 年度遺跡整備活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	2 年 3 月 22 日	無
7	同上	遺跡整備研究室研究員　高橋知奈津	森蘊の奈文研時代	森蘊研究報告	科研費課題番号（17K18447）助成事業報告書	2 年 3 月 31 日	無
8	東大寺東塔院の発掘調査	小田裕樹ほか	東大寺東塔院の調査－第 617 次	奈良文化財研究所研究紀要 2020	奈良文化財研究所	2 年 6 月予定	無
9	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　森川実	序　言	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
10	同上	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	既往の調査と地理的・歴史的環境	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
11	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	調査日誌抄	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
12	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	基本層序と遺構検出面	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
13	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	古代の遺構	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
14	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	古墳時代の遺構	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
15	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	弥生時代の遺構	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
16	同上	都城発掘調査部主任研究員　森ｇ川実	縄文時代包含層の調査	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
17	同上	都城発掘調査部研究員　清野陽一	瓦磚類	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
18	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	飛鳥時代・平安時代の土器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子	縄文土器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	縄文時代の石器・石製品	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	弥生時代の石器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員　和田一之輔	木器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員　和田一之輔ほか	井戸枠・柱材	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員　和田一之輔	編組製品	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
25	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実ほか	ＳＺ4500 の 14Ｃ年代	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　村田泰輔ほか	大型植物遺体	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
27	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	藤原京期	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
28	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	結　語	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
29	同上	都城発掘調査部主任研究員　和田一之輔	発掘調査の概要藤原京左京八坊三坊東南坪（飛鳥藤原第 202 次）	奈文研ニュース No. 77	奈良文化財研究所	2 年 3 月予定	無
30	同上	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子	発掘調査の概要藤原京左京八坊三坊東南坪（飛鳥藤原第 202 次）	奈文研ニュース No. 78	奈良文化財研究所	2 年 6 月予定	無
31	同上	都城発掘調査部長　玉田芳英	藤原宮の礎石建物	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2 年 6 月予定	無
32	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　土橋明梨紗ほか	飛鳥寺旧境内の調査－第 197-6 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2 年 6 月予定	無
33	同上	都城発掘調査部研究員　松永悦枝ほか	藤原宮大極殿院の調査―第 200 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2 年 6 月予定	無
34	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤ほか	藤原宮外周帯の調査－第 201-3 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2 年 6 月予定	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
35	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　土橋明梨紗ほか	藤原宮東南官衙地区の調査－第201-5次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
36	同上	都城発掘調査部室長　清野孝之ほか	藤原宮式軒平瓦6643Eの産地	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
37	同上	都城発掘調査部室長　清野孝之ほか	讃岐仲村廃寺の川原寺式軒丸瓦	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
38	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎ほか	飛鳥・藤原地域出土風鐸の鉛同位体比分析	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
39	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　土橋明梨紗	石神遺跡出土の黒色土器	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
40	同上	都城発掘調査部室長　尾野善裕	藤原宮内裏北官衙地区の調査－第201-9次	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	3年6月予定	無
41	同上	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	古代採石加工技術の諸相	中世石工の考古学	高志書院	4月1日	無
42	同上	都城発掘調査部室長　尾野善裕	飛鳥時代宮都土器編年の再編に向けて	飛鳥時代の土器編年再考	奈良文化財研究所	7月	無
43	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾	飛鳥時代における須恵器食器の法量変化	飛鳥時代の土器編年再考	奈良文化財研究所	7月	無
44	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	飛鳥時代における土師器杯Ｃ・杯Ａの変遷とその区分	飛鳥時代の土器編年再考	奈良文化財研究所	7月	無
45	同上	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	古代史料にみる飛鳥川	飛鳥―自然と人と	奈良文化財研究所	10月	無
46	同上	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	二〇一八年出土の木簡　奈良・藤原宮跡	木簡研究第41号	木簡学会	11月	無
47	同上	都城発掘調査部長　玉田芳英	古代都市　藤原京の実態	藤原から平城へ　平城遷都の謎を解く	奈良文化財研究所	9月	無
48	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	藤原宮大極殿院東面回廊の調査（飛鳥藤原第200次調査）	奈文研ニュースNo.74	奈良文化財研究所	9月	無
49	同上	都城発掘調査部研究員　松永悦枝	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次調査）	奈文研ニュースNo.75	奈良文化財研究所	12月	無
50	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	奈良県の鴟尾	第20回古代瓦研究会シンポジウム　鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ－鴟尾－発表要旨	奈良文化財研究所	2年2月	無
51	同上	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	参河三嶋贄荷札の年代	奈良文化財研究所論叢	奈良文化財研究所	2年3月	有
52	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	発掘調査の概要　大官大寺南方の調査（飛鳥・藤原203次）	奈文研ニュースNo.78	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
53	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	大官大寺南方の調査―第203次調査の概要	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
54	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部研究員　松永悦枝ほか	藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第200次調査)	奈文研ニュースNo.75	奈良文化財研究所	12月	無
55	同上	都城発掘調査部研究員　清野陽一ほか	藤原宮朝堂院西地区の調査―第201-1次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
56	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部研究員　清野陽一ほか	藤原宮朝堂院西地区の調査―第201-1次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
57	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤ほか	藤原宮外周帯の調査－第201-3次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
58	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　土橋明梨紗ほか	藤原宮東南官衙地区の調査－第201-5次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
59	同上	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子	藤原京左京八坊三坊東南坪の調査－第202次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
60	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登・京都国立博物館保存科学室長　降幡順子・奈良国立博物館主任研究員　中川あや	飛鳥寺塔心礎出土銅製品の鉛同位体比分析	奈良文化財研究所紀要２０１９	奈良文化財研究所	6月30日	無
61	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室研究員　惠谷浩子	碩学に学ぶ(Vol.14)　静岡での遺跡保存と整備	遺跡学研究16	日本遺跡学会	11月15日	無
62	同上	景観研究室研究員　惠谷浩子	KOFUNSCAPE01 吉備路	遺跡学研究16	日本遺跡学会	11月15日	無
63	同上	景観研究室研究員　惠谷浩子	文化的景観のめざすもの　－「図」としての地域－	ランドスケープ研究83（4）	日本造園学会	2年1月1日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
64	同上	景観研究室長　中島義晴	近年の日本における歴史的庭園の保存と活用の動向	中・韓・日の伝統庭園の保存管理のための専門家シンポジウム	韓国国立文化財研究所	5月27日	無
65	同上	景観研究室研究員　恵谷浩子	「文化的景観」の概念形成と制度運用の充実に資する貢献	造園学論集21	東京農業大学	5月1日	無
66	同上	景観研究室研究員　恵谷浩子	京都中川の北山林業景観における民家の庭の特性	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月1日	無
67	3Dプロジェクト	金田 明大・山口 欧志	Where am I in the Forest?-Application of SLAM/LiDAR Technology to Measurement and Geophysical Survey of Archaeological Sites in Forest	Book of Abstracts 47th Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology	CAA2019	4月	有
68	同上	山口　欧志	新たな可視化方法の試行：文化財の特徴を捉えるために	文化財の壺（7）	文化財方法論研究会	6月22日	無
69	韓国との共同研究	廣瀬覚・高田祐一	古代朝鮮半島の矢穴技法	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
70	同上	清野陽一	日韓発掘交流に参加して	奈文研ニュースNo.74	奈良文化財研究所	9月	無
71	平城宮東方官衙地区の発掘調査	都城発掘調査部研究員前川歩他	東方官衙地区の調査―第615次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月30日	無
72	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（611次）	都城発掘調査部主任研究員　林正憲他	左京二条二坊十一坪の調査－第611次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月30日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　38件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　19件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	環境考古学研究室長　山崎健	藤原宮造営と馬	馬の考古学	雄山閣	11月25日	無
2	同上	環境考古学研究室長　山崎健（9名中7番）ほか	Sedentism, pottery and inland fishing in Late Glacial Japan: a reassessment of the Maedakochi site	Antiquity 93(372)	Cambridge University Press	12月1日	有
3	同上	環境考古学研究室長　山崎健	平城宮跡から出土したウニの殻	日本歴史　856	吉川弘文館	9月1日	無
4	同上	環境考古学研究室長　山崎健	方法論の模索	農耕開始期の動物考古学	六一書房	4月30日	無
5	同上	環境考古学研究室客員研究員　菊地大樹	中国古代家馬再考	南方文物 2019年第1期	江西省文物考古研究所	7月1日	無
6	同上	環境考古学研究室客員研究員　丸山真史ほか1名	動物考古学による古墳時代のウマ研究	馬の考古学	雄山閣	11月25日	無
7	年輪年代学研究	年代学研究室長 星野安治，都城発掘調査部上席研究員 山本崇	年輪年代学的手法による参河贄荷札の検討	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
8	同上	都城発掘調査部上席研究員 山本崇，年代学研究室長 星野安治	藤原宮木簡の樹種３－藤原宮第58-1次調査ほか	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
9	同上	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子，鈴木智大，年代学研究室長 星野安治	藤原宮外周帯の調査	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
10	同上	員数8(7番目) 年代学研究室長 星野安治	Eruption age of the Haruna Futatsudake Pumice (Hr-FP), central Japan, by radiocarbon wiggle matching with special reference to a 14C dataset developed from a Japanese tree	Quaternary International 527	Elsevier Ltd and INQUA	8月30日	有
11	同上	員数18(3番目) 年代学研究室長 星野安治	マヤ低地に眠る奇跡の地層－刻まれた気候変動の足跡	古代アメリカの比較文明論	京都大学学術出版会	9月10日	無
12	同上	員数4(3番目) 年代学研究室長 星野安治	南米の年代を測る－放射性炭素年代測定の較正とナスカ産材の年輪解析	古代アメリカの比較文明論	京都大学学術出版会	9月10日	無
13	同上	埋蔵文化財センター客員研究員 上中央子，年代学研究室長 星野安治	飛鳥の森を探る	飛鳥－自然と人と－	飛鳥資料館	10月11日	無
14	同上	年代学研究室長 星野安治	木簡と年輪年代学との出会い・年輪から木材の産地に迫る	木簡－古代からの便り	岩波書店	2年2月26日	無
15	同上	年代学研究室長 星野安治	鳥取県・青谷横木遺跡出土遺物の樹種同定	鳥取県埋蔵文化財センター調査研究紀要11	鳥取県埋蔵文化財センター	2年3月25日	無
16	同上	京都大学大学院 前田仁暉，年代学研究室長 星野安治	岡田国遺跡出土井戸枠部材及び柱根の樹種同定・年輪年代調査	京都府遺跡調査報告集180	京都府埋蔵文化財調査研究センター	2年3月31日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
17	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	山口　欧志	文化財の調査研究における三次元計測データの質	日本考古学協会第85回大会研究発表要旨	日本考古学協会	5月18日	無
18	同上	金田　明大・山口　欧志	Restoring burial mounds damaged by disasters—Contribution of archaeological prospection to collect information at the Idera burial mound, Japan	New global perspectives on archaeological prospection	ISAP2019	8月	有
19	同上	金田　明大	埋蔵文化財のための遺跡探査ー実態と展望ー	計測と制御 58（11）	計測自動制御学会	11月	有

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　19件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか１名	宮ノ前遺跡出土の和同開珎百文緡の調査	『出土銭貨』第40号	出土銭貨研究会	12月	無
2	同上	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	水蒸気移動による出土鉄製遺物の新規脱塩法の開発（その１）新規脱塩法の効果と最適条件の検討	『文化財科学』第80号	日本文化財科学会	2年2月3日	有
3	同上	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか１名	擦文末期～アイヌ文化期初期におけるガラス玉の起源と流入経路	『北海道考古学』	北海道考古学会	2年3月	有
4	同上	保存修復科学研究室研究員　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	水浸出土木製遺物の保存処理における溶媒蒸発を用いた薬剤含浸の効率化の可能性	『保存科学』第59号	東京文化財研究所	2年3月	有
5	水中文化遺産に関する調査研究	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 保存修復科学研究室研究員　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか１名	Effect of Reburial Conditions on the Corrosion of Marine Iron Artifacts	Proceedings of the interim meeting of the ICOM-CC Metal working group	ICOM-CC Metal	9月	有
6	同上	保存修復科学研究室研究員　柳田明進	水中遺跡における沈没船の現地保存法に関する検討	考古学ジャーナル	ニューサイエンス社	12月20日	無
7	同上	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	Chemical Analysis of Ancient Glass Beads in and around Mainland Southeast Asia	'" The Ancient East-West Corridor of Mainland Southeast Asia" edited by Mamoru Sibayama	Pathumthani, Thailand : Geoinformatics International	6月	有
8	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか２名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その６）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度変動の把握と数値解析	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概2019	日本建築学会近畿支部	6月23日	無
9	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その３）X線照射による凝灰岩の吸水速度の測定	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
10	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか１名	浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
11	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか２名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その６）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度変動の把握と数値解析	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
12	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほ４名	一軸圧縮下における凝灰岩のX線CTとDigital Volume Correlation	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
13	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほ	遺跡保存施設の環境設計	考古学ジャーナル	ニューサイエンス社	2年2月29日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
		か１名					
14	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	覆屋の改修が石仏の塩類風化に与える影響の熱水分移動解析による評価　－元町石仏の保存に関する研究　その２－	日本建築学会環境系論文集	日本建築学会	2年2月	有
15	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	Conservation of Takase stone Buddhas, Oita, Japan - evaluation of countermeasures based on field survey and numerical approach	proceedings of 2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List	Academy of Dazu Rock Carvings	12月3日	無
16	建造物の彩色に関する調査研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜	古代韓国三国時代の顔料について－古墳壁画の顔料を中心に－	『奈良文化財研究所　論叢』第１号	奈良文化財研究所	2年3月19日	有
17	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成 ほか１名	An investigation of the pigments and materials used in some mural paintings of Mongolia	『保存科学』第59号	東京文化財研究所	2年3月	有
18	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	Environmental design of protection facility of decorated ancient tombs for condensation control	proceedings of 2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List	Academy of Dazu Rock Carvings	12月	無
19	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	壁画の保存科学と活用	考古学ジャーナル	ニューサイエンス社	2年2月29日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　2件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
4	文化財保護に関する国際協力の推進	都城発掘調査部主席研究員　大林潤	西トップ遺跡中央祠堂の建築調査	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
5	同上	佐藤由似、杉山洋	西トップ遺跡中央祠堂の解体調査と修復－2018年度の成果－	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	都城発掘調査部室長　馬場基・企画調整部研究員　高田祐一・都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也	IIIF の導入による木簡画像データベースの連携強化	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
2	同上	企画調整部研究員　高田祐一	文化財ビッグデータと情報検索の可能性	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
3	同上	企画調整部特別研究員　野口　淳・　企画調整部研究員　高田　祐一	考古学ビックデータの可能性と世界的潮流	デジタル技術による文化財情報の記録と利活用2	奈良文化財研究所	2年3月30日	無
4	同上	企画調整部アソシエートフェロー　ヤナセ・ペーテル	文化財の多言語化における機能主義的翻訳の可能性	デジタル技術による文化財情報の記録と利活用2	奈良文化財研究所	2年3月30日	無
6	同上	企画調整部研究員　高田祐一・埋蔵文化財センター室長　金田明大・Dessislava Veltcheva	Prospects and potential for the comprehensive database of archaeological site reports in Japan	The ARIADNE Impact	ARCHAEOOLINGUA FOUNDATION	10月7日	有

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和2年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」679号～684号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件 (各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」55号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XX	600	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XL　文王呂尚・商山四皓図屏風 2	600	美術館・博物館・大学・研究所等　95件

○展覧会図録等　23件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	特別展『美を紡ぐ　日本美術の名品―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―』	―	―
2		特別企画『奈良大和四寺のみほとけ』	―	―
3		日中文化交流協定締結40周年記念　特別展『三国志』	―	―
4		住友財団修復助成30年記念 特別企画『文化財よ、永遠に』	―	―
5		御即位記念特別展『正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―』	―	―
6		特別展『人、神、自然 ―ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界―』	―	―
7		日本書紀成立1300年　特別展『出雲と大和』	―	―
8		特別展『法隆寺金堂壁画と百済観音』	―	―
9		特別公開『高御座と御帳台』(東京国立博物館版、京都御所版)	―	―
10	特集陳列	『博物館でアジアの旅　LOVEラブアジア』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
11	特集陳列 そのほか	『平家納経模本の世界―益田本と大倉本―』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
12		『伝説の面打たち』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
13		『朝鮮王朝の宮廷文化』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
14		「親と子のギャラリー　ツノのある動物」リーフレット	5,000	
15		「やちむん―沖縄のやきもの」リーフレット	5,000	
16		「文化財よ、永遠に　仏像修復の現場から」リーフレット	55,000	
17		「近世日本と外国文化」リーフレット	5,000	
18		「天皇陛下と宮中儀礼」リーフレット	5,000	
19		「物館に初もうで　子・鼠・ねずみ」リーフレット	10,000	
20		「前川家伝来の雛飾り―華麗なる江戸の極小雛道具」リーフレット	3,000	
21		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	8,000	
22		『東京国立博物館セレクション　小袖』日本語、英語	日本語版4,000 英語版2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
23	そのほか	『東京国立博物館ハンドブック』 日本語、英語(改訂版)	日本語版2,000 英語版2,000	

※東京国立博物館ニュースの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要『学叢』第41号	800	美術館・博物館・大学等
2	『文化財保存修理所　修理報告書』17	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	科学研究費補助金[基盤研究(A)]報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<金剛寺編>』	600	大学・図書館・研究機関等
4	科学研究費補助金[基盤研究(A)]報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<歓心寺編>』	600	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録等　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『時宗二祖上人七百年御遠忌記念 特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」』	―	美術館・博物館・大学等
2	『特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」』	―	同上
3	『京都国立博物館寄託の名宝 -美を守り、美を伝える-』	8,000	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

.○調査研究刊行物　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第21号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第1号	600	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等
3	信貴山朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－	500	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録　9件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	特別展『国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』	11,460	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		『御即位記念 第71回正倉院展』	4,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		『In Commemoration of the Enthronement: The 71th Annual Exhibition of Shōsō-in Treasures』	2,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		特別展『毘沙門天―北方鎮護のカミ―』	6,200	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	わくわくびじゅつギャラリー『いのりの世界のどうぶつえん』	2,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		特別陳列『法徳寺の仏像 ―近代を旅した仏たち―』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集 春日大社にまつわる絵師たち―』	1,350	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		特別陳列『重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板 ―文化財写真の軌跡―』	2,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
9		特別陳列『お水取り』	5,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	九州国立博物館紀要『東風西声』 第15号	950	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館 文化財修復報告 第2号（平成18年度～平成20年度）	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等

○展覧会図録等　9件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ	1,347	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		室町将軍－戦乱と美の足利十五代－	1,577	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		日中文化交流協定締結40周年記念 三国志	1,378	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の昇華 大様式の形成と変容	1,290	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特集展示等	館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」	1,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		住友財団修復助成30年記念 文化財よ永遠に	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～	1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		縄文王国やまなし	4,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
9		刀剣ことはじめ 刀剣ワールド財団と九博の名刀 国宝・重要文化財にまなぶ刀剣入門	15,000	展示室内で配布

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　3件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 0件

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	パンフレット「日本の芸能を支える技Ⅴ調べ緒 山下雄治」	300	実演家、楽器製作者、大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	目録「もう一つの及川コレクション―及川尊雄氏収集紙媒体資料―」	300	大学・研究機関・図書館等
3	船大工那須清一と鵜舟を造る	300	大学・研究機関・図書館等

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　6 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』	500	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『国宝日月四季山水図　光学調査報告書』	400	博物館・美術館、県立図書館他
2	『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2　特別史跡高松塚古墳生物調査報告―高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査―』、598p、同成社、19.9.30		
3	「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」報告書	500	博物館・美術館、大学図書館他
4	『コンクリート造構造物の保存と修復』	600	博物館・美術館、大学図書館他
5	『国際シンポジウム「台湾における近代文化遺産活用の最前線」報告書』	600	博物館・美術館、大学図書館他

(3)文化遺産保護に関する国際協働　24 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　24件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『各国の文化財保護法例シリーズ[24]中国』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『世界遺産研究協議会　遺産影響評価とは何か』	200	大学・研究機関・教育委員会等
3	『遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査』	―	委託者に提出
4	アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019	110	関係団体（国内、アルメニア）等
5	『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和元年度成果報告書』	50	外部評価委員会、所内
6	『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainabe Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2019-』	260	大学、研究機関、関係団体（国内、カンボジア）等
7	『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』	20	外部評価委員会
8	The Silk Road Friendship Project: Training Workshop for the Research Planning for Reconstruction of Damaged Historic Cities and Buildings, 2019	10	関係団体（国内、シリア）
9	Capacity Development Project Improvement for the Conservation and Management Systems of Wall Paintings in the Republic of Turkey	30	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	Capacity Building Report -Mission N°5-; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan	30	同上
11	旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究令和元年度成果報告書	60	同上
12	平成27年度 在外日本古美術品保存修復協力事業　般若図　No.2015-5　修復報告	300	博物館・大学・研究機関・図書館等
13	『シンポジウム「文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―」報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
14	『第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向―世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産―」報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
15	『第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGsⅡ―世界では、いま何が語られているのか―」報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
16	『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査（インドネシア）報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
17	ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業―保存候補民家の修理計画及び保存活用計画検討―文化遺産としての民家の価値評価手法の検討－	100	研究機関、関係団体（国内）
18	Networking Core Centres for International Cooperation on Conservation of Cultural Heritage Project: Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan―Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses―Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage―	100	関係団体（ブータン）
19	ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書	150	大学・研究機関・図書館等
20	Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu	**100**	関係機関、関係団体（国内、ネパール）
21	Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu	30	関係団体（国内、ネパール）
22	Khokana, the vernacular village and its mustard-oil seed industrial heritage, Survey Report	100	関係機関、関係団体（国内、ネパール）
23	Proceedings, The Second Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys	500	大学・研究機関・図書館等
24	Proceedings, The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys	300	大学・研究機関・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　12 件

・調査研究成果の発信　12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2018年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2019年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』70号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』71号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』72号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『平成30年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』428号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』429号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『美術研究』430号	400	大学・研究機関、図書館等
10	『無形文化遺産研究報告』第14号	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『第14回無形民俗文化財研究協議会報告書』	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『保存科学』59号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　11件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	仁和寺史料　古文書編2	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	湯浅町重要建造物調査報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　9件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『風景の足跡―考古学からの文化的景観再考』文化的景観研究集会（第 10 回）報告書	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	庭園文化の近世的展開　令和元年度庭園の歴史に関する研究会　報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	史跡等の保存活用計画	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要 2019』	3000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『東アジア考古学論叢Ⅱ―遼西地域の東晋十六国期都城文化の研究―』（奈良文化財研究所学報第 98 冊）	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	『第 22 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と大甕』（奈良文化財研究所研究報告 23）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『第 23 回古代官衙・集落研究会　灯明皿と官衙・集落・寺院　研究報告資料』	250	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	「第 20 回シンポジウム　鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ　－鴟尾－」	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	「古代瓦研究Ⅸ　－本づくり・－枚づくりの展開　東日本編」	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　0 件

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　1 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『平成 28-30 年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業：ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業報告書』	400	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　20件

・文化財情報基盤の整備・充実　0件

・調査研究成果の発信　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『奈良文化財研究所概要』2019	3000	大学･研究機関･図書館等
2	『奈良文化財研究所紀要』2019	3000	大学･研究機関･図書館等
3	『奈文研ニュース』No.73～76	各3000	大学･研究機関
4	『埋蔵文化財ニュース』No.178～181	各3000	大学･研究機関･博物館等

・展示公開施設の充実　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしょくぶつえん』（日本語版）	5000	平城宮跡資料館参観者
2	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしょくぶつえん』（英語版）	100	平城宮跡資料館参観者
3	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしょくぶつえん』（中国語版）	100	平城宮跡資料館参観者
4	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしょくぶつえん』（韓国語版）	100	平城宮跡資料館参観者
5	秋期特別展リーフレット『地下の正倉院展―年号と木簡―』	8000	販売
6	冬期企画展リーフレット『発掘された平城　2019』	4000	平城宮跡資料館参観者
7	飛鳥資料館図録第71冊『骨ものがたり－環境考古学研究室のおしごと』	2800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	飛鳥資料館図録第72冊『飛鳥－自然と人と－』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	飛鳥資料館カタログ第36冊『飛鳥の考古学2019』	1800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	飛鳥資料館図録第23冊『骨ものがたり－環境考古学研究室のおしごと　展覧会報告』	1200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　8件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2019(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2019(英語版)』	1000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	『Multi-Disciplinary Study on Intangible Cultural Heritage's Contribution to Sustainable Development Focusing on Education』	350 データ版でも公開	フィリピンのSLT(ノンフォーマル教育施設)
4	『Guidelines for Intangible Cultural Heritage Education in Vietnamese Schools Towards Sustainable Development Goals(Vietnamese)』	155 データ版でも公開	ベトナムの教育施設
5	『アジアのカテゴリー2センター(IRCI、ICHCAP、CRIHAP)共同リーフレット』	600	第14回無形文化遺産保護条約政府間委員会参加者
6	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」プロシーディングス	500 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
7	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン(英語)(第二版)	450	フィリピンのSLT(ノンフォーマル教育施設)
8	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン(ベトナム語)(第二版)	160	ベトナムの教育施設

【文化財防災ネットワーク推進本部】

○調査研究刊行物　8件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『都道府県および指定都市地域防災計画における文化財等の保全に関する記載一覧および抜粋』	80	47都道府県・政令指定都市文化財所管部局など関係機関
2	文化財防災ネットワーク推進事業パンフレット（英語版）_更新版	1,000	推進会議参画団体、有識者会議、47都道府県など関係機関
3	2018年度 文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム 報告書	1,000	講演者、推進会議参画団体、有識者会議、47都道府県など関係機関
4	2019年度 文化遺産防災ネットワーク有識者会議 記録集	500	推進会議参画団体、有識者会議など関係機関
5	文化財防災マニュアル 被災自然史標本の処置例と減災対策（DVD）	500	未配布
6	文化財防災マニュアル 被災自然史標本の処置例と減災対策（ハンドブック）	1,000	未配布
7	「長板中形ー松原伸夫の技ー」パンフレット	1,000	自宅待機のため未確認(東文研)
8	阿波ばん茶 徳島県 上勝町 那賀町（DVD）	500	自宅待機のため未確認(東文研)

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和2年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	129	43	25	6	6	6	86	26	60	0
科学研究費補助金のみ	39	15	9	1	2	3	24	5	19	0
学術研究助成基金助成金のみ	90	28	16	5	4	3	62	21	41	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究（A）	8,710
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	2,210
3	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸研究部長	基盤研究(A)	7,410
4	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	村田　良二	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(B)【平成30年度繰越】	5,200
5	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	村田　良二	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(B)	3,770
6	アイヌ民族の衣文化交流―博物館資料から北東アジア史を見直す	佐々木 史郎	東京国立博物館付部長	基盤研究(B)	4,680
7	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部平常展調整室長	基盤研究(B)	3,250
8	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部企画課長	基盤研究(B)	4,420
9	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	土屋貴裕	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	基盤研究(B)	4,290

2）学術研究助成基金助成金のみ　16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究	恵美　千鶴子	学芸企画部百五十年史編纂室長	基盤研究(C)	1,560	4,160 〈平成29～令和1年度〉
2	東アジア礼制に基づく物質文化研究―日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として―	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	1,040	4,550 〈平成29～令和1年度〉
3	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究	河野　一隆	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	2,210	4,290 〈平成29～令和1年度〉
4	中世律宗絵画の基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	1,430	4,420 〈平成30～令和2年度〉
5	金属製幡の基礎的研究－特に密教における灌頂道具としての用途と機能	伊藤 信二	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(C)	1,560	2,860 〈令和1～3年度〉
6	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	650	2,210 〈令和1～4年度〉
7	縄文時代の地域間交流の研究－CADを用いた土器容量の比較－	井出 浩正	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(C)	2,340	4,160 〈令和1～3年度〉
8	１６・１７世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	650	3,250 〈平成29～令和3年度〉
9	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井　元樹	学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員	若手研究(B)	650	4,160 〈平成29～令和2年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
10	フェニキア人の「出現」－考古資料から見た初期の交易活動と対外進出	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	若手研究(B)	1,040	3,640 〈平成29～令和1年度〉
11	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	1,040	4,030 〈平成30～令和2年度〉
12	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸研究部調査研究課考古室研究員	若手研究	520	2,080 〈平成30～令和2年度〉
13	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	390	2,080 〈令和1～3年度〉
14	ICT技術を用いた個人的コンテキストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課アソシエイトフェロー	若手研究	2,600	3,900 〈令和1～3年度〉
15	鎌倉時代における文殊菩薩造像の伝播に関する調査研究	増田　政史	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	研究活動スタート支援	1,430	1,430 〈令和1年度〉
16	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野　一隆	学芸研究部調査研究課課長	国際共同研究強化(B)	9,230	18,330 〈令和1～5年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（A）	6,370

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室主任研究員	若手研究（B）	1,040	3,900 〈平成28～3年度〉
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	650	3,770 〈平成28～元年度〉
3	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	910	3,770 〈平成28～元年度〉
4	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	780	3,900 （平成28～元年度）
5	西日本を中心とした来舶清人の書画交流に関する基礎的調査研究	呉　孟晋	学芸部美術室主任研究員	基盤研究（C）	1,560	4,290 〈平成30～2年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究（A）	4,810
2	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎　幹子	学芸部資料室長	基盤研究（B）	4,810

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	染織技法による仏像の研究	内藤　栄	学芸部長	基盤研究（C）	130	4,420 〈平成29～令和1年度〉
2	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部列品室長	基盤研究（C）	520	2,990 〈平成29～令和1年度〉
3	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部美術室主任研究員	若手研究（B）	520	1,560 〈平成29～令和2年度〉
4	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部列品室主任研究員	若手研究	1,300	4,030 〈平成30～令和2年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	島谷　弘幸	館長	基盤研究（Ｂ）	3,250
2	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤　嘉章	客員研究員	基盤研究（Ａ）	11,050
3	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	畑　靖紀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	3,380

2）学術研究助成基金助成金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	木川　りか	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長	基盤研究（Ｃ）	1,560	4,420 〈平成30～令和2年度〉
2	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による面的調査の検討	秋山　純子	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員	基盤研究（Ｃ）	780	4,290 〈令和1～5年度〉
3	博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用	渡辺　祐基	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー	若手研究	1,690	4,160 〈令和1～3年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部 室長	基盤研究(B)	2,730
2	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)海外	3,120
3	日本美術の記録と評価についての研究－美術作品調書の保存活用	江村　知子	文化財情報資料部　室長	基盤研究(B)	8,840
4	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川　典子	保存科学研究センター　室長	基盤研究(B)	10,270
5	SAT大正新脩大藏經 圖像データベース	津田　撤英	文化財情報資料部 客員研究員	研究成果公開促進費	4,500

2）学術研究助成基金助成金のみ　21件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	黒髪白肌の系譜ー上村松園の技法と表現ー	大河原　典子	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	0	4,680 （平成28～平成31）
2	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	0	4,420 （平成28～平成31）
3	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(C)	1,430	4,550 （平成29～平成31）
4	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部　室長	基盤研究(C)	1,170	4,290 （平成30～令和2）
5	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永　拓世	文化財情報資料部　研究員	基盤研究(C)	1,300	4,420 （平成30～令和2）
6	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部　研究員	基盤研究(C)	1,690	4,420 （平成30～令和2）
7	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤　嘉則	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	1,170	4,030 （平成30～令和2）
8	博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間渕　創	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,300	3,770 （平成30～令和2）
9	白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田　直人	保存科学研究センター　保存環境研究室付	基盤研究(C)	650	2,860 （平成30～令和2）
10	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津　信明	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	1,950	4,290 （平成31～令和3）
11	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田　啓子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究(B)	0	3,900 （平成28～平成31）
12	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田　大樹	文化遺産国際協力センター客員研究員	若手研究(B)	0	4,160 （平成28～平成31）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
13	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160 （平成30～令和3）
14	伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	マルティネス アレハンドロ	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究	910	3,900 （平成30～令和3）
15	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢　玲	文化財情報資料部　研究員	若手研究	780	1,560 （平成31～令和2）
16	セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発	貴田　啓子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	2,470	4,160 （平成31～令和3）
17	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,950	4,160 （平成31～令和3）
18	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,560	4,160 （平成31～令和4）
19	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井　健	文化遺産国際協力センター 室長	研究活動スタート支援	1,040	2470 （平成31～令和2）
20	歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 （平成31～令和2）
21	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村　知子	文化財情報資料部　室長	挑戦的研究（萌芽）	1,430	4,992 （平成29～平成31）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　19件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（Ｓ）	24,960
2	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（Ａ）	11,180
3	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡邉　晃宏	副所長	基盤研究（Ａ）	11,700
4	木簡の年輪年代学：同一材推定による再釈読と荷札木簡を用いた地域標準年輪曲線の構築	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	基盤研究（Ｂ）	3,510
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	2,990
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	3,250
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（Ｂ）	4,160
8	中央アジア 天山－パミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｂ）	3,770
9	３次元データによる瓦の同笵認識技術の基礎的研究	林　正憲	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｂ）	3,770
10	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	上椙　英之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	670
11	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	挑戦的研究（開拓）	3,250
12	歴史災害の実像解明への考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員	挑戦的研究（開拓）	3,770
13	日本考古学国際化のための考古学関係用語シソーラス構築と自動英語化の研究	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	若手研究（Ａ）	3,900
14	対照実験を主軸とした東アジア鋳造技術史解明のための実験考古学的研究	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ａ）	2,860
15	中近世日本と東アジアにおける木造建築の変革に関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室主任研究員	若手研究（Ａ）	2,730
16	土器残存脂質分析を用いた縄文－弥生移行期における土器利用と食性変化の追跡	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	若手研究（Ａ）	5,590
17	中央アジアにおける後期旧石器時代初頭（IUP)石器群の探求	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）	3,900
18	植物遺体群調査解析システムの新構築による古代都城の植物資源利用と集落生態系の解明	上中　央子	埋蔵文化財センター特別研究員（PD）	特別研究員奨励費	910

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
19	奈良の都の木簡に会いに行こう！2019	渡邉　晃宏	副所長	研究成果公開促進費（研究成果公開発表（B）（ひらめき☆ときめきサイエンス））	330

2）学術研究助成基金助成金のみ　41 件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部上席研究員	基盤研究（C）	650	4,420〈平成27～令和元年度〉
2	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	910	4,810〈平成27～令和元年度〉
3	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部考古第三研究室長	基盤研究（C）	－	4,680〈平成28～令和元年度〉
4	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,170	4,680〈平成28～令和元年度〉
5	明治～戦前期の木造建築に使われた良材の産地とその年輪データに関する基礎的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	780	4,160〈平成28～令和元年度〉
6	財政関係木簡による古代地方社会の実態解明	山本　祥隆	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究（B）	－	1,950〈平成28～令和元年度〉
7	古代都城における木器生産に関する基礎的研究	浦　蓉子	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	－	4,030〈平成28～令和元年度〉
8	二階建ての御殿にみる近世武家住宅の実体と空間の構成	大橋　正浩	都城発掘調査部客員研究員	若手研究（B）	－	4,160〈平成28～令和元年度〉
9	風化金石文復元の為の用例辞書及び文字予測データベースの開発	上椙　英之	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	3,900〈平成28～令和元年度〉
10	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	650	3,770〈平成28～令和元年度〉
11	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究（C）	1,040	4,420〈平成29～令和3年度〉
12	Sr同位体比分析による日本出土「ナトロンガラス」の産地に関する考古科学的研究	田村　朋美	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	基盤研究（C）	1,430	4,550〈平成29～令和元年度〉
13	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	飛鳥資料館学芸室主任研究員	基盤研究（C）	650	4,550〈平成29～令和3年度〉
14	中央アジア西部ポスト・クシャーン朝期（４～７世紀）壁画の基礎的研究	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,300	3900〈平成29～令和元年度〉
15	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部上席研究員	基盤研究（C）	1,040	4,550〈平成29～令和2年度〉
16	3Ｄ石器形態研究の確立による日本列島後期旧石器時代の生活・技術・文化の解明	野口　淳	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,690	4,420〈平成29～令和元年度〉
17	出土木製遺物の水中保管時における劣化を効果的に抑制する手法の開発	松田　和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	650	3,900〈平成29～令和元年度〉
18	彩色文化財のTHz Imaging及びμFocusX線CTを用いた非破壊界面調査	金　旻貞	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	650	2,860〈平成29～令和元年度〉
19	地震痕跡を残す災害遺構の保存と公開活用に関する研究	小沼　美結	飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	650	1,950〈平成29～令和元年度〉
20	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究―奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤　正吾	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	1,170	4,160〈平成29～令和2年度〉
21	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究－三次元計測データの活用－	中村　亜希子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	780	4,030〈平成29～令和元年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
22	奈良時代に用いられた色材・素材のナノ構造解明	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	1,300	4,160〈平成29～令和元年度〉
23	初期官衙における空間構造の成立と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	基盤研究（C）	650	4,420〈平成30～令和3年度〉
24	黒曜石資源の獲得と消費からみた先史時代九州の社会変化に関する基礎的研究	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	基盤研究（C）	910	4,290〈平成30～令和3年度〉
25	飛鳥時代・奈良時代の土器様式からみた日本古代の食具様式および食事法の復元的研究	森川　実	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,560	4,420〈平成30～令和2年度〉
26	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室主任研究員	基盤研究（C）	1,040	4,550〈平成30～令和3年度〉
27	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,170	4,420〈平成30～令和2年度〉
28	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（C）	650	3,250〈平成30～令和3年度〉
29	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究	1,300	4,160〈平成30～令和3年度〉
30	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部国際遺跡研究室専門職	若手研究	1,430	3,770〈平成30～令和2年度〉
31	発掘後の劣化特性の予測技術に基づく出土鉄製文化財の新たな保存管理システムの構築	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	1,560	4,030〈平成30～令和2年度〉
32	昭和初期における歴史的建造物保存修理の構造補強体系の構築	前川　歩	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究	1,040	4,030〈平成30～令和3年度〉
33	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	3,640	18,200〈平成30～令和4年度〉
34	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（C）	1,560	3,250〈令和元～3年度〉
35	ポスト・バイヨン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,430	3,510〈令和元～3年度〉
36	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,300	4,420〈令和元～5年度〉
37	機械学習による画像自動分類を活用した考古学ビッグデータの構造化と情報探索への適用	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,730	5,720〈令和元～2年度〉
38	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間　温子	都城発掘調査部史料研究室アソシエイトフェロー	若手研究	780	2,860〈令和元～4年度〉
39	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究-シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田　愛乃	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究	780	2,600〈令和元～4年度〉
40	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究	1,430	3,900〈令和元～3年度〉
41	セット論・生産流通論からみた古代国家成立期の馬装体系の変化に関する研究	片山　健太郎	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,170	1,170〈令和元～元年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】
1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　0件

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
151人	43 人	32人	3人	6人	2人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	108 人	51人		57人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　32人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・学芸部長）	絵画に関する研究
2	岩崎　均史（静岡市東海道広重美術館長）	大小絵暦に関する研究
3	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
4	東野　治之（元奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
5	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	切手に関する調査研究
6	水上　嘉代子（元公益財団法人遠山記念館学芸員）	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
7	小笠原　小枝（日本女子大学家政学部名誉教授）	インド更紗に関する研究
9	金子　浩昌（日本考古学協会員）	原始・古代骨角製品に関する研究
10	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
11	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
12	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
14	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
15	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
16	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	考古資料（原史・有史）に関する調査研究
17	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
19	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
20	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）	文化財の保存環境に関する調査研究
22	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
23	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
24	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
26	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
27	後藤　健（元東京国立博物館上席研究員）	古代文化研究
28	長谷　高志 （愛知県立藝術大学名誉教授／長谷高史デザイン事務所代表）	情報デザイン、インフォメーションデザインの将来像の研究
29	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
31	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
26	石松 日奈子 (清泉女子大学非常勤講師、文化庁文化審議会専門委員)	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
27	田澤　恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
28	赤沼　多佳（三井記念美術館参事）	茶陶の調査
29	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
30	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
31	石川　岳彦（東京大学大学院人文社会系研究科助教）	漢代土器の調査研究
32	藤田　晴啓（新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授）	考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究

【京都国立博物館】　3人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	橋詰　文之（和泉市久保惣記念美術館副館長）	金工品の調査及び研究

【九州国立博物館】　2人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	今津節生（奈良大学文学部教授）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
2	伊藤嘉章（愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長）	アジアの文化財の伝統的制作・修理技法に関する調査研究

【東京文化財研究所】　51人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	中野照男	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
4	田中　淳	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部藝術学科教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、および当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田所　泰	研究プロジェクト「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」、とくに近代の女性画家に関する調査研究
10	田中　潤	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
11	星野厚子（東京大学文学館技術支援職員）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
12	永井美和子	無形文化財の記録作成
13	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
14	原田一敏	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	山崎　剛（金沢美術工芸大学長）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
17	俵木　悟（成城大学文芸学部准教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
18	大西秀紀	音声映像記録に関する調査研究
19	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
20	菊池健策	無形民俗文化財の調査
21	鎌田紗弓（東京大学総合文化研究科博士研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
22	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
23	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
24	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
25	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任講師）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究および情報収集
26	神野知恵	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
27	赤井紀美	無形文化財（近現代演劇）に関する調査研究
28	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究および情報収集
29	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
30	橋本かおる（東京藝術大学音楽学部楽理科教育研究助手）	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
31	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	新世代光源の展示照明への適用条件検討
32	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有機EL光源の展示照明への導入条件の検討
33	酒井清文	文化財の伝統的修復に関する調査研究
34	大場詩野子	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
35	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
36	小堀信幸	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
37	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
38	堤　一郎（茨城大学教育学部技術教育教室特任教授）	近代文化遺産（特に鉄道関連）の保存修復に関する調査・研究
39	北原博幸	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言および基礎研究
40	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料および技法の研究
41	貴田啓子	日本における絵画の劣化要因に関する研究
42	岡田　健（独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進本部推進室長）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
43	片山葉子	高松塚・キトラ古墳壁画および他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
44	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産（特に航空関連）の保存修復に関する調査・研究
45	古田嶋智子	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
46	宇髙健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠ならびに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
47	簡　佑丞（中原大学文化資産研究センター研究員）	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
48	石井美恵（佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修等に関わる文化財修復技術の研究
49	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究および技術移転の手法研究
50	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
51	山田大樹(株式会社都市環境研究所計画グループ研究員)	ネパールをはじめとする南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】　57人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	山田　徹（同志社大学文学部助教）	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析作業
2	林　良彦	受託調査等の調査・研究業務
3	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	研究所刊行物等、国内外への研究論文の発信に関する指導
4	難波　洋三	考古遺物の調査研究
5	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
6	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
7	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館館長）	大規模災害の復興調査支援等への指導助言
8	羽生　淳子	研究所の研究活動へ国際的な視野と新たな研究課題の点から指導助言
9	小林　謙一	遺跡及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
10	Shaun Ian Mackey	東アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
11	森本　晋（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	文化財保護に関する国際協力についての助言、海外調査資料の整理
12	綾村　宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
13	小野　健吉（和歌山大学観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
14	Emmanuel MARES（京都産業大学文化学部文化学科准教授）	森蘊旧蔵資料・村岡正旧蔵資料の整理に際する助言
15	青木　敬（國學院大學文学部准教授）	薬師寺東塔の発掘調査報告書作成業務に関わる指導・助言
16	黒田　洋子（奈良女子大学古代学・聖地学研究センター協力研究員）	正倉院文書の文字画像データベース構築における研究協力及び助言
17	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
18	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授／大阪府立近つ飛鳥博物館長）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
19	方　国花（慶北大学人文学術院研究教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
20	大橋　正浩（佐賀県教育委員会文化財課主事）	古代建築の飾金具について意匠・製作技術に関する研究
21	諫早　直人（京都府立大学文学部歴史学科准教授）	中国遼寧省文物考古研究所との共同研究「3-6世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
22	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
23	巽　淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
24	深澤　芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点からの助言
25	黒羽　亮太（京都大学非常勤講師）	飛鳥地域出土木簡の整理研究に関する専門的知識の供与及び助言
26	竹内　亮（立命館大学経営学部非常勤講師）	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集成作成のための専門的知識を供与
27	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
28	大賀　克彦	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
29	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存展示環境の研究
30	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
31	金　旻貞（株式会社修美）	彩色文化財の材料調査業務
32	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
33	澤田　正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
34	杉岡　奈穂子	壁画等の材料調査業務
35	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
36	中島　志保	文化財防災ネットワーク推進事業に係る業務
37	中村　力也（宮内庁正倉院事務所保存課整理室長）	奈良時代の遺物および古代壁画等の材料調査業務
38	福永　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長）	文化財の非破壊診断調査
39	三村　衛（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
40	上中　央子	微化石の調査研究、花粉分析
41	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
42	菊地　大樹（総合研究大学院大学特別研究員）	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
43	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
44	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
45	松崎　哲也	現生標本の整理・管理
46	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
47	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木造文化財の樹木組織学的研究
48	児島　大輔（大阪市立美術館学芸課学芸員）	美術工芸品の年輪年代学的研究
49	藤井　裕之	木造文化財の年輪年代学的研究
50	光谷　拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
51	赤司　善彦（大野城心のふるさと館長）	水中遺跡調査における専門的技術の指導とてびき作成への協力
52	上椙　英之（独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー）	文化財防災ネットワーク推進事業に関する業務ならびに三次元プロジェクトに関する業務
53	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
54	狭川　真一（公益財団法人元興寺文化財研究所副所長）	遺跡及びその調査技術に関する研究
55	西口　和彦	遺跡探査の研究
56	西村　康	遺跡探査及び測量
57	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

令和2年3月31日現在

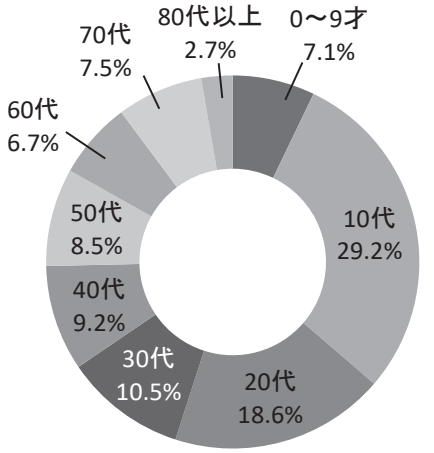
	H27	H28	H29	H30	R1
国立博物館計	13,226,289 （※1）	13,053,220	15,795,489	15,131,386	16,937,495
東京国立博物館	6,724,460 (※1)7,427,419	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810
京都国立博物館	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829
奈良国立博物館	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901
九州国立博物館	2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955
文化財研究所計	2,546,715 （※1）3,707,015	7,558,441	14,224,921	18,425,847	20,594,179
東京文化財研究所	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314
奈良文化財研究所	605,211 (※1)1,765,511	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	7,504	7,856	9,469	10,779	13,261
機構本部	292,721	220,638	272,228	336,016	362,356
e国宝	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236
国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）	―	6,452	26,914	54,338	76,875
文化財活用センター	―	―	―	29,320	42,733
文化財防災ネットワーク	102,574	62,004	75,375	93,817	182,485

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月にサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・文化財活用センターは平成30年7月にサイトを開設し、アクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。
　27年度以前の下段※1の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。（他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。）

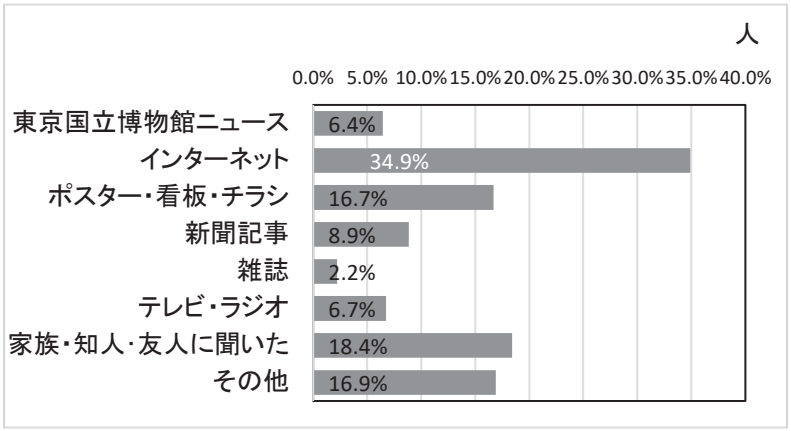
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月1日（月）～令和2年2月26日（水）開館日数：280日間
回答者数：994人
来館者数：1,030,652人
アンケート回収率：0.096%

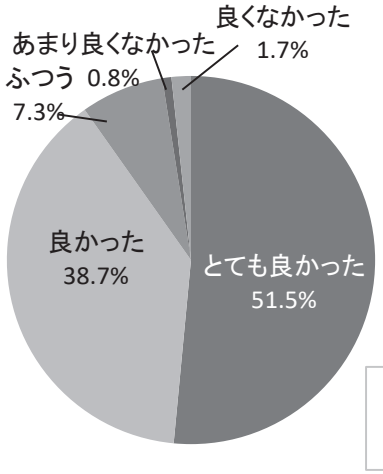
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

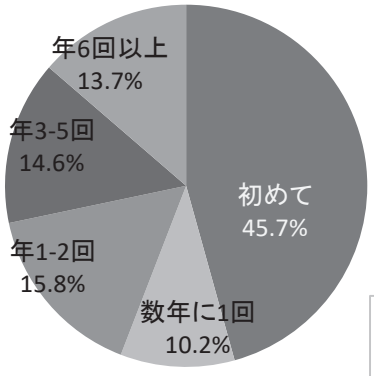


③展示に関する満足度



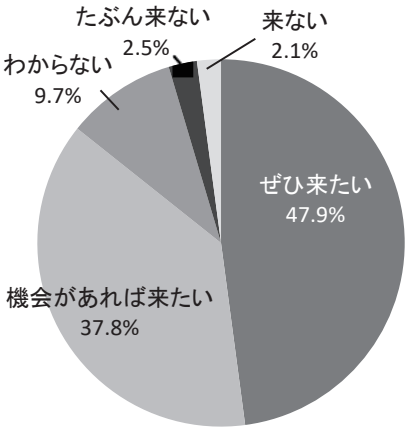
上位合計
90.2%

④来館頻度



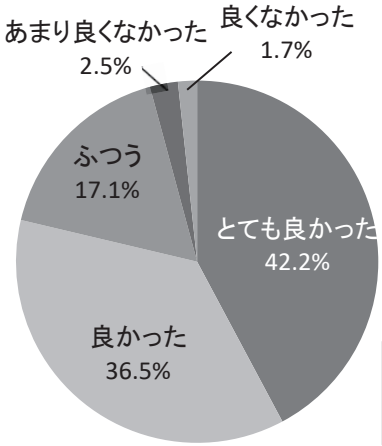
上位合計
55.9%

⑤再来館希望率



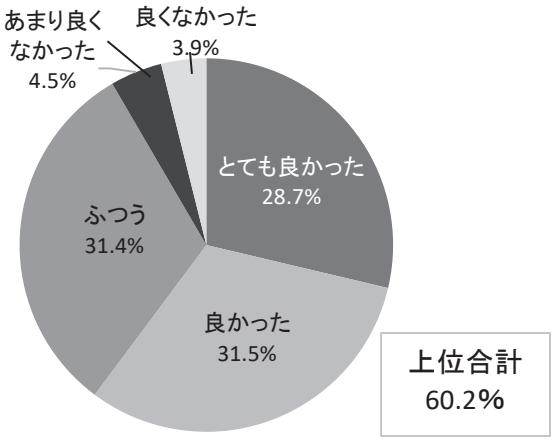
上位合計
85.7%

⑥ミュージアムショップに対する満足度

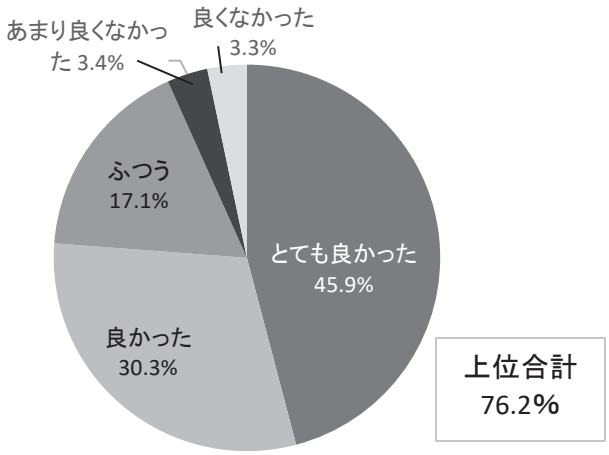


上位合計
78.7%

⑦レストランに対する満足度



⑧館内スタッフの対応について

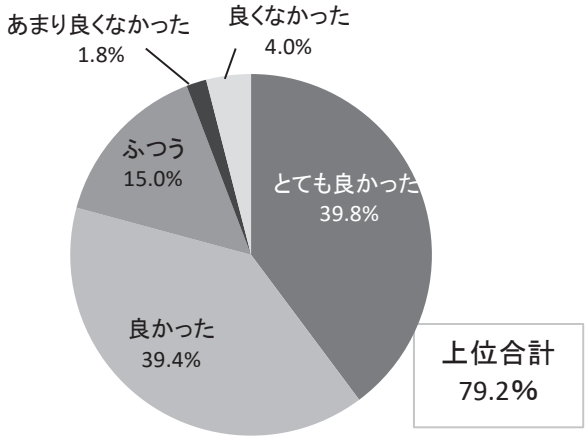


主な意見・感想

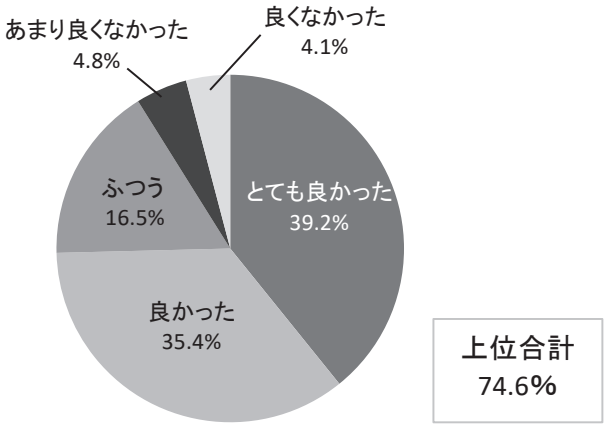
・展示が充実しており、特別展レベルの展示を見ることができる。
・刀剣、絵巻物などの保存の難しい物を良い状態で展示している。
・解説や翻刻が充実し、展示を見やすく、深く知ることができるようになった。
・会場内の案内が丁寧で分かりやすい。
・企画展示に魅力のあるものが多い。
・海外の博物館に比べ、館内にレストランやカフェが少なすぎる。
・写真が撮影できる場所での観覧環境が悪い
・説明文の字が小さく、部屋が暗いので見にくい。AR、VRなどの利活用も考えてほしい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：291人

1.（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板



2.（外国人アンケート）展示のパネル、キャプション



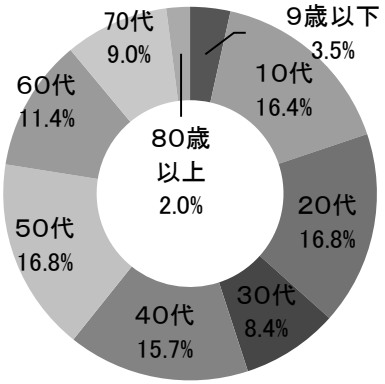
主な意見・感想

・展示が大変充実しており、環境に満足した。
・英語での解説をもう少し長く、充実させてほしい
・展示方法は素晴らしいが、展示の解説もより詳しいものが欲しい
・日本の歴史がわかるような展示をして欲しい
・展示解説に誤植がある

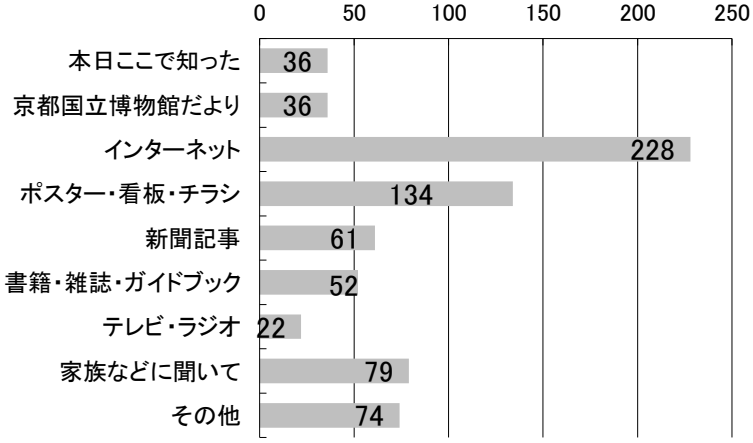
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：令和元年7月2日（火）～令和元年9月16日（月・祝），令和2年1月3日（金）～令和2年2月26日（水）　開館日数：115日間
回答者数：546人
来館者数：158,533人（平常展開催期間のみ）

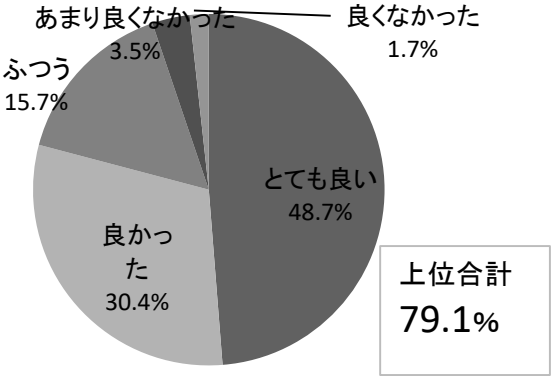
①アンケート回答年齢層



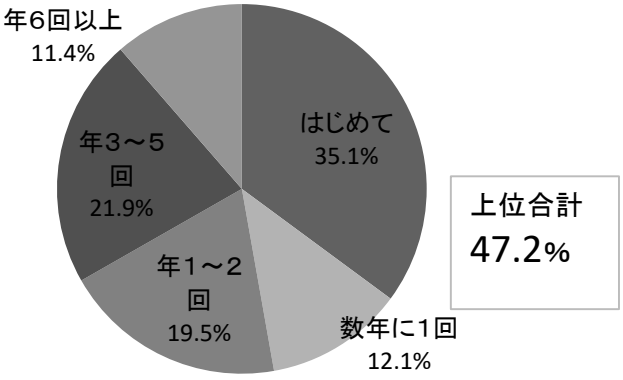
②認知経路　（複数回答）



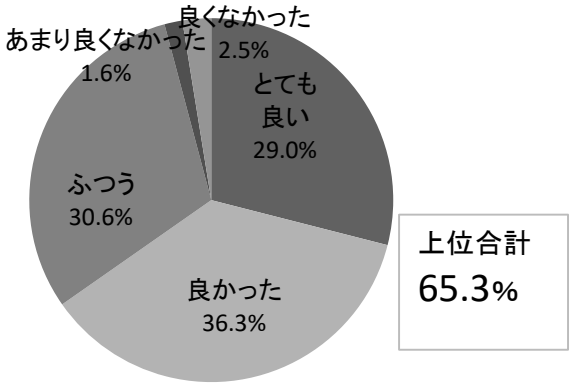
③展示に関する満足度



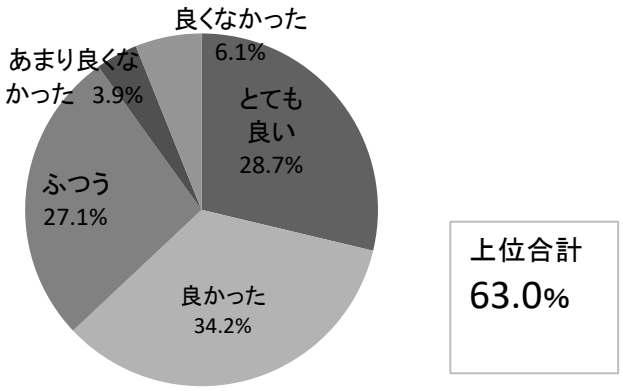
④来館頻度



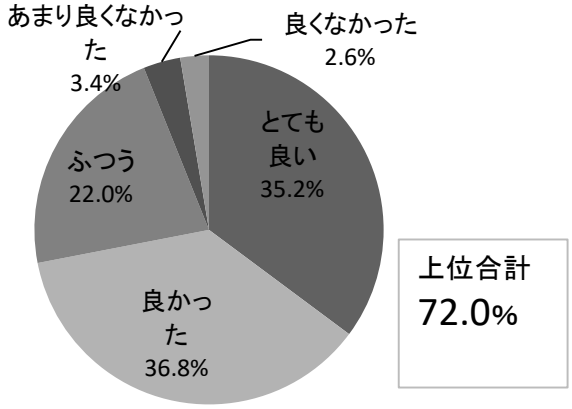
⑤ミュージアムショップに対する満足度（元年度）



⑥レストランに対する満足度（元年度）



⑦館内スタッフの対応について（元年度）



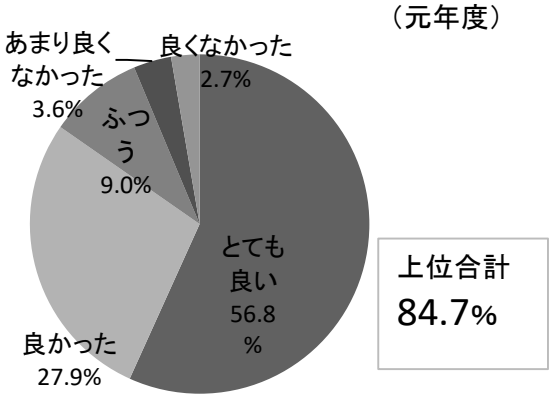
主な意見・感想

・これからも色々見てみたいと意欲が湧いた
・夜間開館はありがたい
・展示数が丁度良い
・トラりんの対応がよかった
・人が多くゆっくり見られなかった
・写真撮影が出来ない事をもっと明記してほしい

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：113人

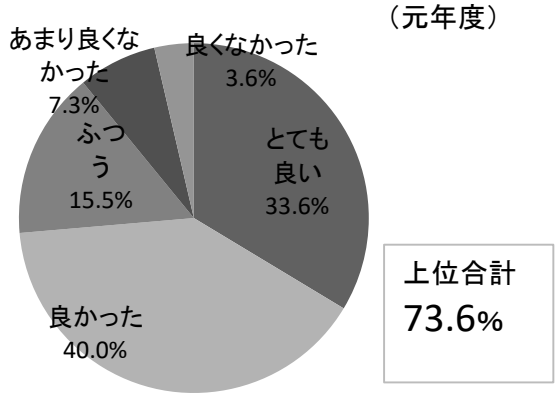
1．平常展示の全体的な印象について

（元年度）



2．解説について

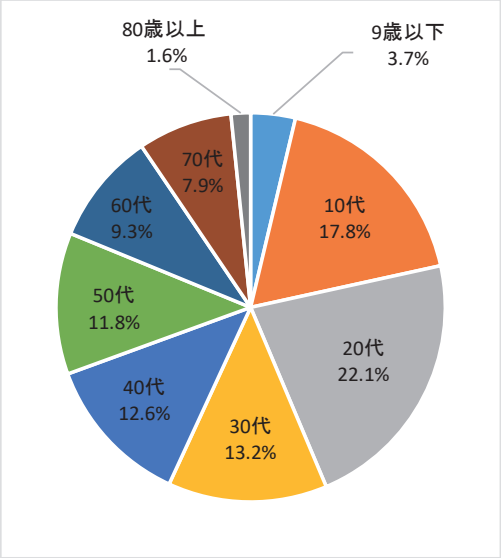
（元年度）



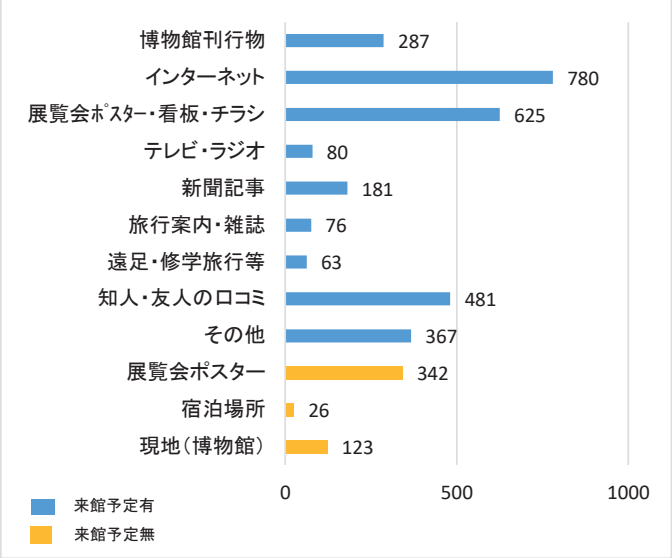
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月1日(月)～令和2年2月26日(水)　開館日数：290日間
回答者数：2,234人（来館者数：612,755人　アンケート回収率：0.36%）

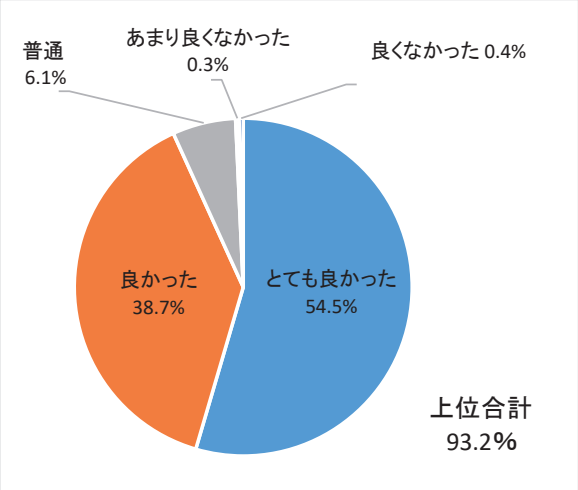
①年齢層



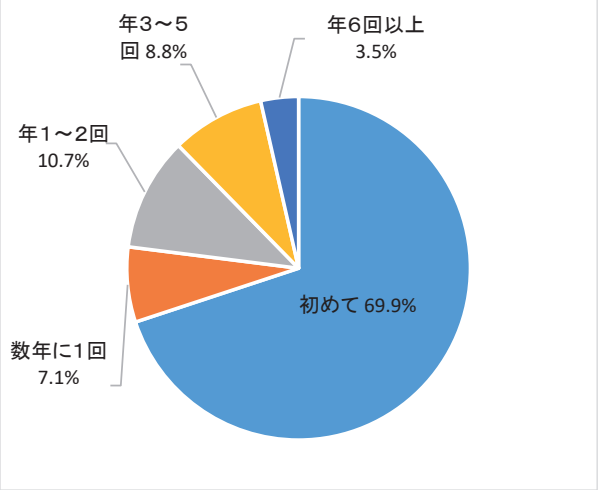
②認知経路（複数回答）



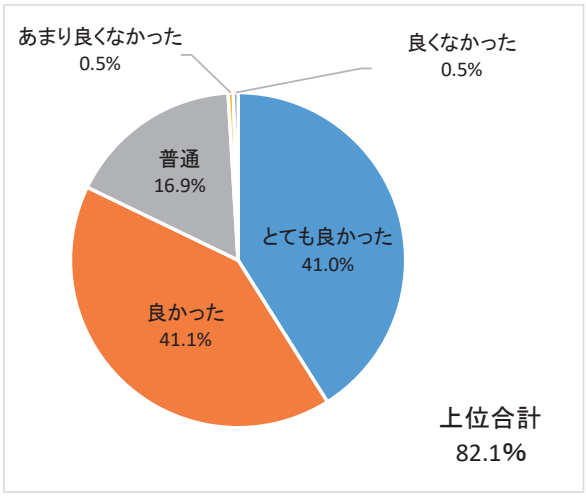
③展示に関する満足度



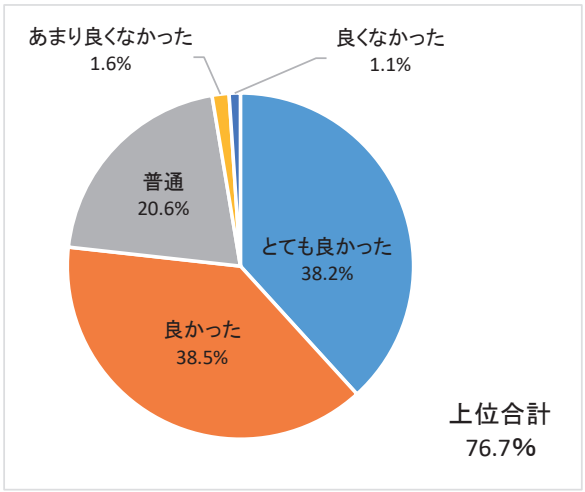
④来館頻度



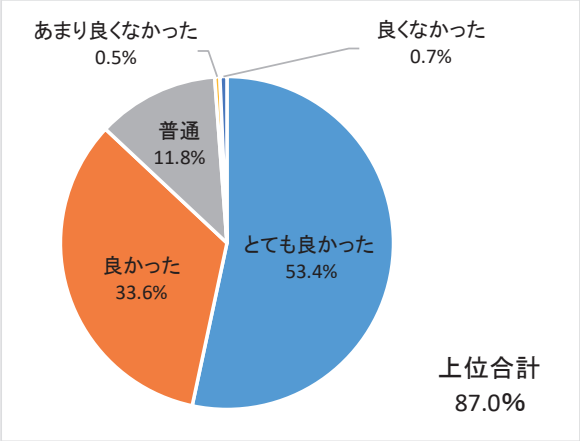
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



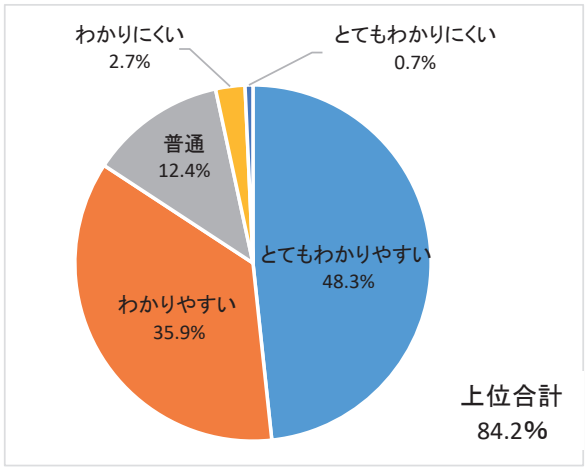
⑦スタッフ対応に関する満足度



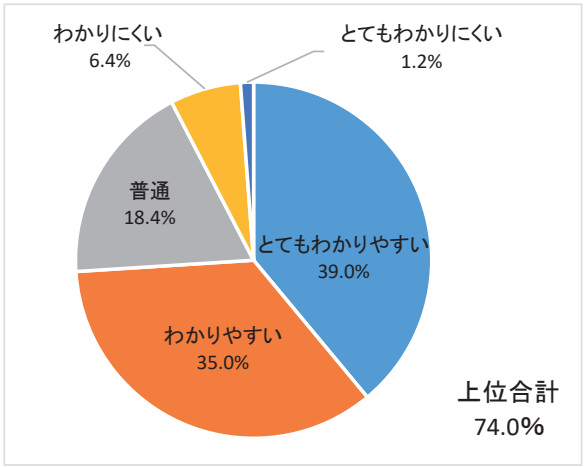
⑧主な意見・感想
・いろんな種類の仏像を見ることが良かった。
・照明の明るさが良い。
・仏像館の順序が少し分かりにくかったです。
・かわいかった。
・上手にまとまっていたから。
・解説が1つ1つ丁寧に為されており、作品も豊富にあったため。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数:265人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて



主な意見・感想
・展示を気に入りました。ありがとう。
・長い歴史を持つとても興味深い古美術品でした。
・素晴らしい展示でした。子供にとっても、とても面白かったです。
・展示品が多ければより良くなると思います。
・もっと展示品に関する説明をお願いします。
・照明と展示は素晴らしかったです。英語の説明文に関しては短く、内容も薄いと思います。

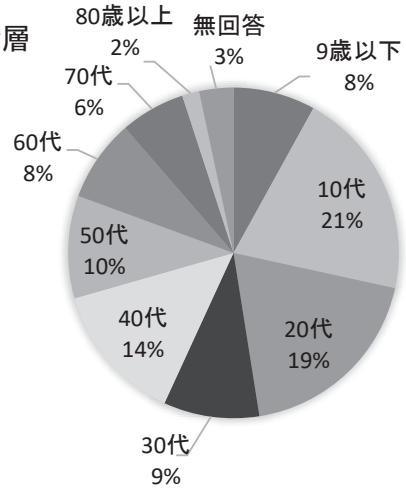
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月1日(月)～令和2年3月31日(火)　開館日数:279日間

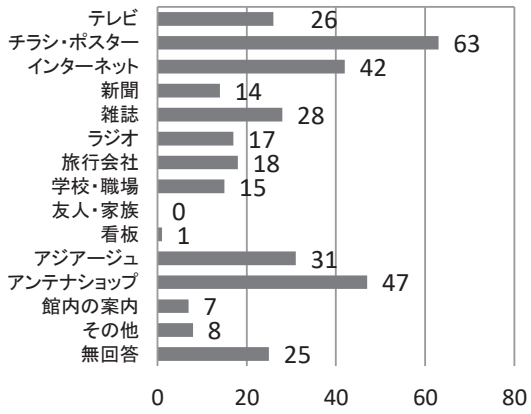
※2年2月27日～3月31日までコロナウイルス感染拡大防止対策のため閉館。

回答者数：299人　来館者数：348,563人　アンケート回収率：0.09%

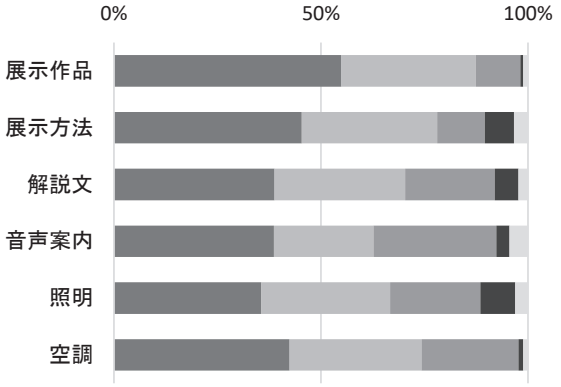
①年齢層



②認知経路（複数回答）

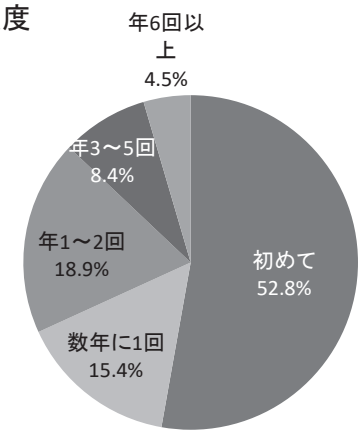


③展示に関する満足度

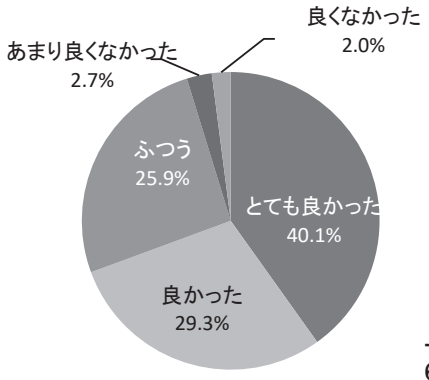


上位合計の平均
77．1%

④来館頻度

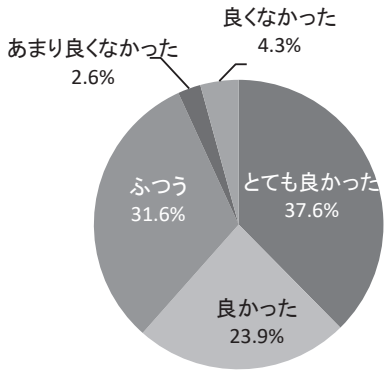


⑤ミュージアムショップに対する満足度



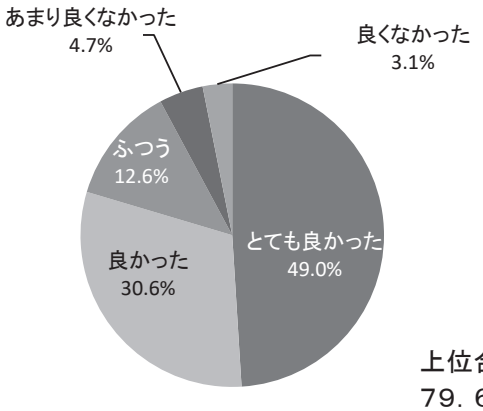
上位合計
69．4%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
61．5%

⑦館内スタッフの対応について



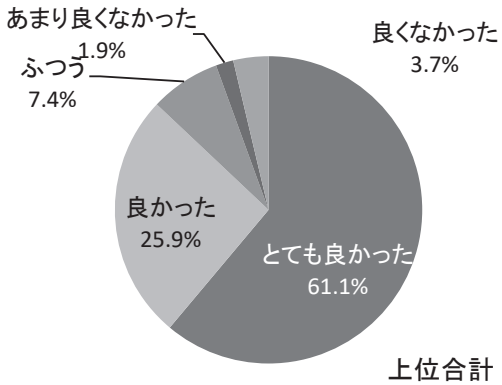
上位合計
79．6%

主な意見・感想

江戸期までの文化財が時代ごとに分けられていてわかりやすかった。
びじゅチューンとのコラボが大人でも楽しめる。
スタッフの声掛けや案内がとても丁寧で笑顔で対応してくれた。
手話通訳が付いたので良く理解できた。他にはないので正直おどろいた。駐車場に入る時から障がい者に対する理解があってビックリした。
写真を撮れるようにしてほしい。
コースが明示されていないので展示品を見づらい。
もう少し部屋が明るい方がいい。

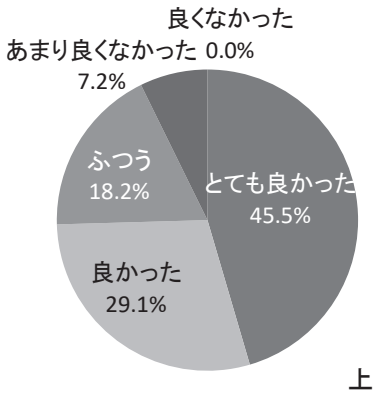
《外国人アンケート集計結果》
回答者数：50人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



上位合計
87．0%

2．（外国人アンケート）展示のパネル・キャプションについて



上位合計
74．6%

主な意見・感想

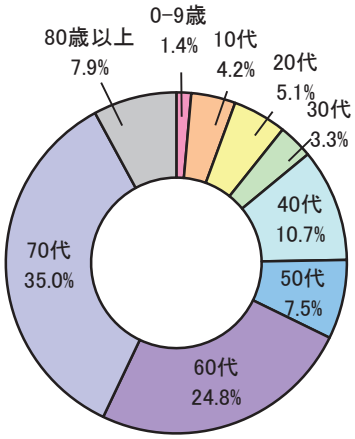
英語を話すスタッフが丁寧に案内してくれ、とても素晴らしかった。
ここの展示が見られたことを本当にうれしく思う。
韓国語の無料オーディオガイドがあって良かった。ただ、番号や案内が鑑賞の流れと繋がっていないように感じた。
中国語の詳しい作品解説があることに、非常に感謝する。
九州国立博物館と中国の博物館との交流がより盛んになれることを期待している。
解説文は、外国語でも日本語と同じくらい詳しく説明してほしい。
日本の歴史の基本的な流れの解説があると、展示を見るうえで役に立ったと思う。

特別展　御即位３０年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」

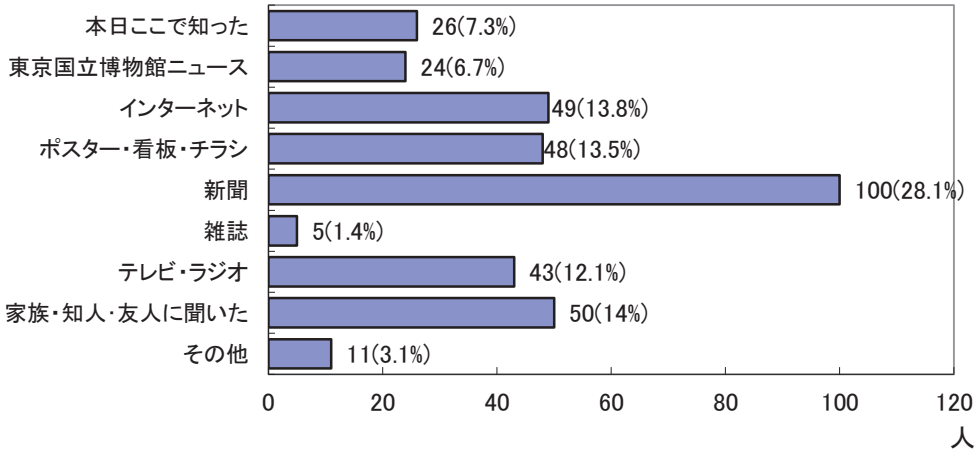
アンケート集計結果

開催期間：平成３１年３月５日（火）～平成３１年４月２９日（月）（５０日間）
回答者数：２３５人（総入館者数：１２２，７６４人　アンケート回収率：０．１９％）

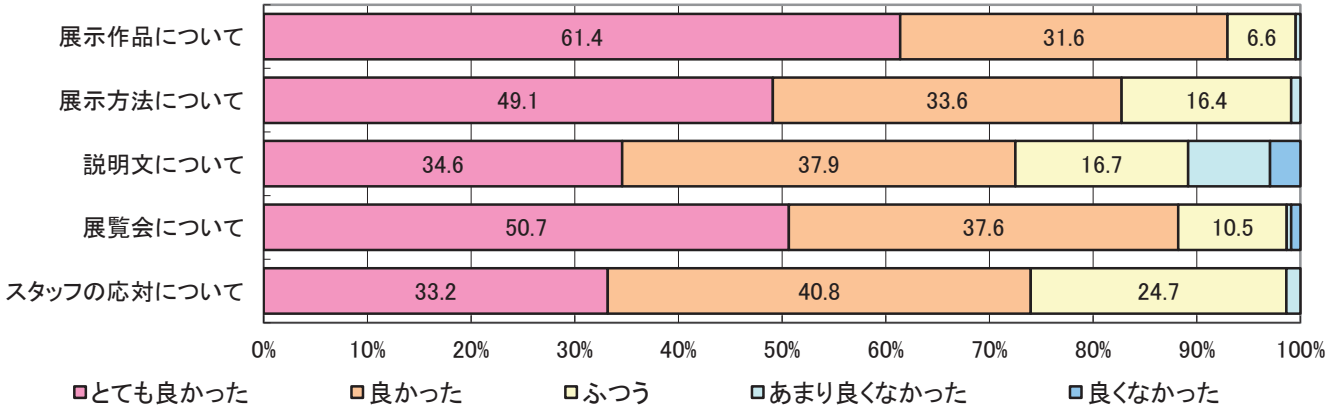
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・天皇の退位に際し改めて皇室の歴史資料の豊富なこと、日本人のルーツを知る機会を得た。
・音声ガイドが聞き取りやすく、説明がわかりやすかった。
・特別展が本館で開催されたことに感謝する。
・展示室内に休憩の出来る椅子が欲しい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.4	0.0
展示方法	0.9	0.0
説明文	7.9	2.9
展覧会	0.4	0.9
スタッフの応対	1.3	0.0

（%）

本展は、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』―皇室の至宝・国宝プロジェクト―」の一環として開催された特別展です。宮内庁が所管する皇室ゆかりの作品の中から、天皇陛下御即位の儀式に際して東山魁夷、高山辰雄が平成2年（1990）に制作した「悠紀・主基地方風俗歌屏風」や、天皇皇后両陛下が外国御訪問の際にお持ちになって紹介された作品などを展示したものです。

両陛下がお伝えになった日本文化を通して、海外の様々な人々が、わが国への理解と交流を深めてきました。御即位30年という記念すべき年に、両陛下が担われた文化交流についてご紹介した本展覧会には、12万人を超える方々に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して88.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

その一方で、「展示室内に休憩する場所がほしい」「展示が少ない」とのご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

特別展「東寺」アンケート集計結果

本展のアンケート集計につきまして、機材トラブルにより、タッチパネルによるデータを集計することが出来ませんでした。そのため、自由記載によるご意見を基に集計したものを公表いたします。ご協力をいただきました皆様には大変申し訳ございませんでした。

開催期間　平成３１年３月２６日（火）～令和元年６月２日（日）６２日間
回答者数　５０５人（総入館者数４６３，９９１人、回収率０．１%）

１．アンケート結果分類

① 好評とされた意見（計４１０人）

展示・作品	３８６人
音声ガイド	１４人
説明文・キャプション	７人
照明	１人
接遇	１人
その他	１人

②不評・要望とされた意見（計９５人）

説明文・キャプション	２７人
展示・作品	２３人
観覧者のマナー	１５人
照明	６人
観覧料	５人
接遇	５人
グッズ販売	２人
その他	１２人

２．主な意見・感想

・立体曼荼羅を中心に貴重な文化財を一堂に見ることが出来た。
・仏像の背後まで見ることが出来て感激した。
・解説文がわかりやすかった。
・写真撮影の音が煩くて集中出来なかった。
・混雑していて、ゆっくり鑑賞することが出来なかった。
・展示室が暗くキャプションが見え難かった。

３．総括

本展は、空海にまつわる数々の名宝をはじめ、東寺に伝わる文化財の全貌を紹介したものです。空海が作り上げた曼荼羅の世界を体感できる講堂安置の 21 体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝 11 体、重文 4 体、合計 15 体が出品し、ほか彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰が一堂に会しました。東寺が 1200 年にわたり、空海の教えとともに守り伝えてきた至宝をご堪能いただいた当展覧会は、46 万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して 81%の方から好意的な意見をいただくことができました。その一方で、撮影に対する運営方法や来館者のマナーに対するご意見もいただきました。

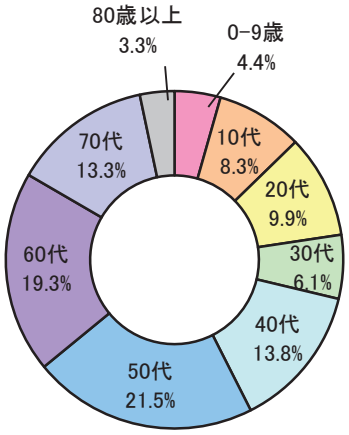
今回は、アンケートの集計にあたり機材トラブルが発生したことで、ご協力を頂きました皆様には大変申し訳ございませんでした。今後は、同様のトラブルへの対策を講じると共に、来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 ―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―」

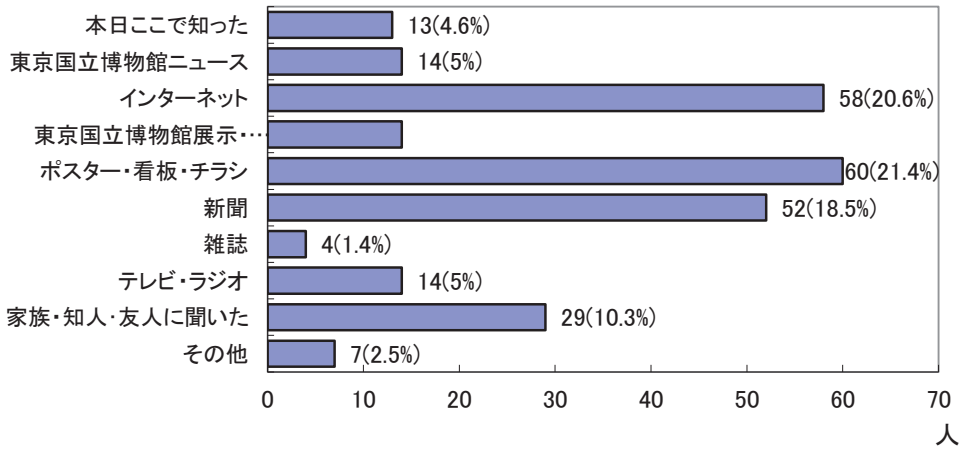
アンケート集計結果

開催期間：令和元年５月３日（金）～令和元年６月２日（日）（２７日間）
回答者数：１９４人（総入館者数：１０６，５９３人　アンケート回収率：０．１８％）

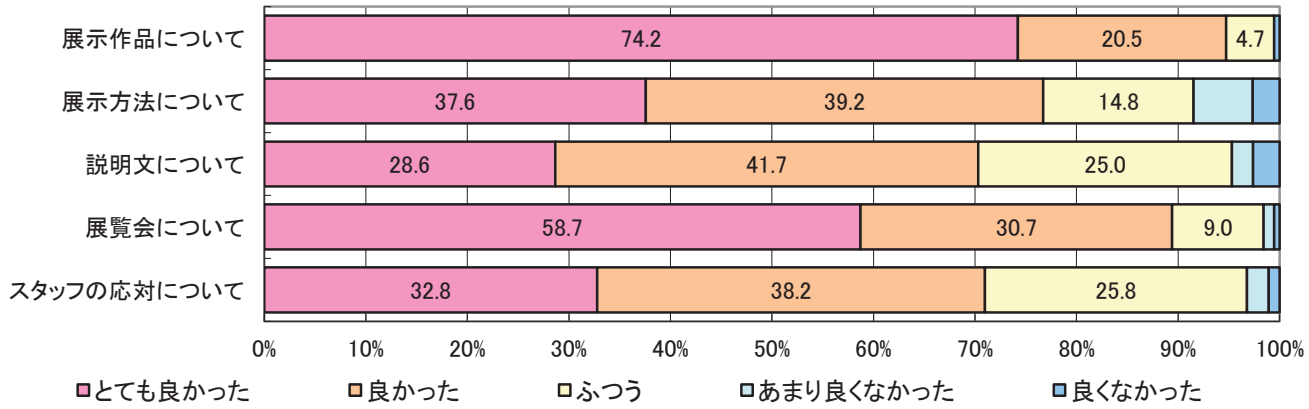
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・思っていた以上に素晴らしい作品が多く、再度鑑賞できたものもありよかった。特に唐獅子図屏風の観覧ができよかった。
・日本美術を総合的に見ることができ、興味を持てる分野を探せて良かった。
・展示室が狭く、空調も他の展示室に比べ適温ではなかった。
・展示室の観覧の順番、作品の観覧の順番がわかりにくい。
・観覧料金が高い。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.0	0.5
展示方法	5.8	2.6
説明文	2.1	2.6
展覧会	1.1	0.5
スタッフの応対	2.2	1.1

（%）

本展は、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』―皇室の至宝・国宝プロジェクト―」の一環として開催された特別展です。皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した当展覧会には、27日の短い会期中に10万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して89.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また、当初予定前期後期で展示替えを予定していた展示品を通期で展示することになり、日本美術の名品を総合的にみることができてよかったなどの好意的なご意見をいただくこともできました。

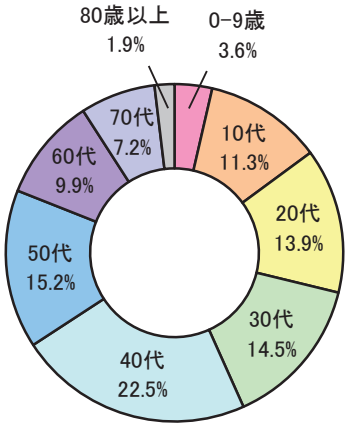
その一方で、本展覧会は本館1、2階を変則的に使用したことから、「観覧の順番がわかりにくい」「1階と2階の移動が大変」とのご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

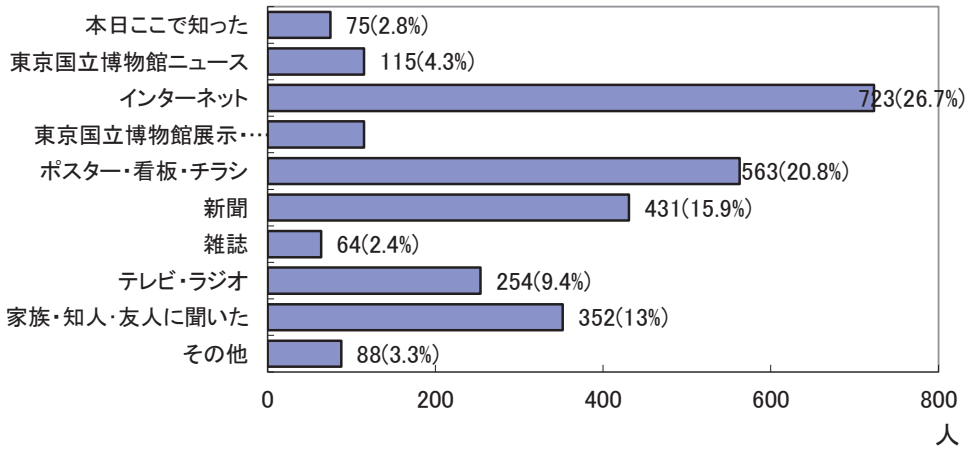
日中文化交流協定締結４０周年記念 特別展「三国志」
アンケート集計結果

開催期間：令和元年７月９日（火）～令和元年９月１６日（日）（６２日間）
回答者数：１，８２３人（総入館者数：３３７，６３９人　アンケート回収率：０．５４％）

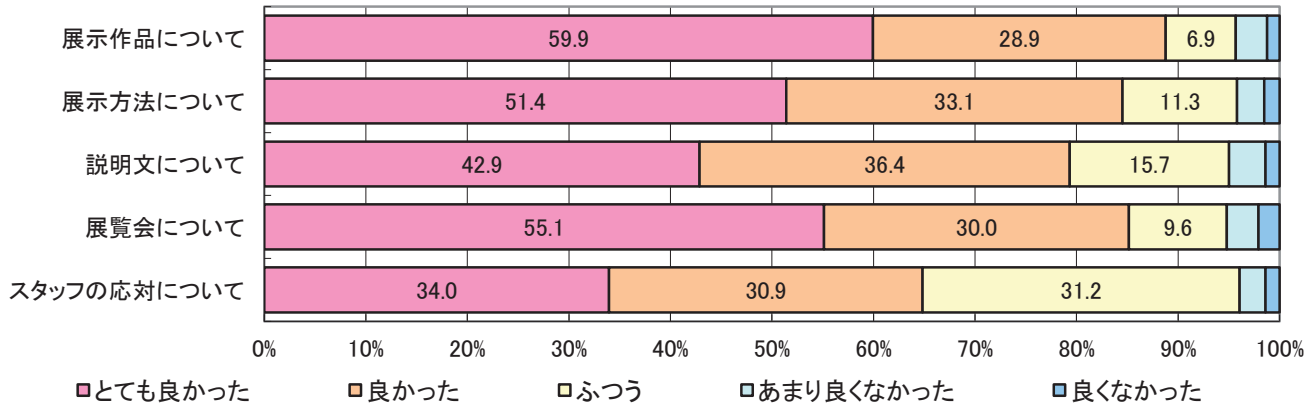
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・空間演出、実物展示双方の迫力があり、素晴らしい展覧会だった。
・特定の分野への偏りが少なく、演義、考古学研究の成果、関帝信仰等バランスのとれた展示品、解説で大変満足した。
・現地でも観覧がし辛い曹操高陵の文物を見ることができ、大変良かった。
・音声ガイドの内容を、CDなどで販売してはどうか。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	3.1	1.2
展示方法	2.7	1.5
説明文	3.6	1.4
展覧会	3.1	2.1
スタッフの応対	2.6	1.4

（%）

本展は、「リアル三国志」を合言葉に、漢から三国の時代の文物を最新の成果によって読み解きました。2世紀末、漢王朝の権威がかげりをみせるなか、各地の有力武将が次々に歴史の表舞台へと躍り出ました。そうして魏、蜀、呉の三国が天下を分かち、新時代へと向かう大きなうねりとなりました。近年、三国志をめぐる研究は曹操高陵（そうそうこうりょう）の発掘など空前の活況を呈しています。それらは実物ならではの説得力と、歴史書や物語をしのぐ迫力があります。こうした考古資料を多く展示した今回の特別展では、当展覧会には、30万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85.1%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

その一方で、撮影可能の範囲が多いことによる音や滞留を抑えてほしいという意見や、館内の空調が効きすぎて寒いとのご意見もいただきました。また、図録の電子書籍化、音声ガイドの販売を求めるご意見もいただきました。

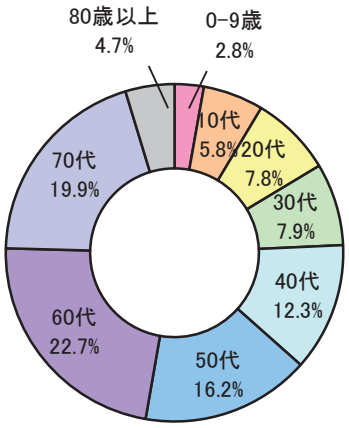
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

正倉院の世界−皇室がまもり伝えた美−

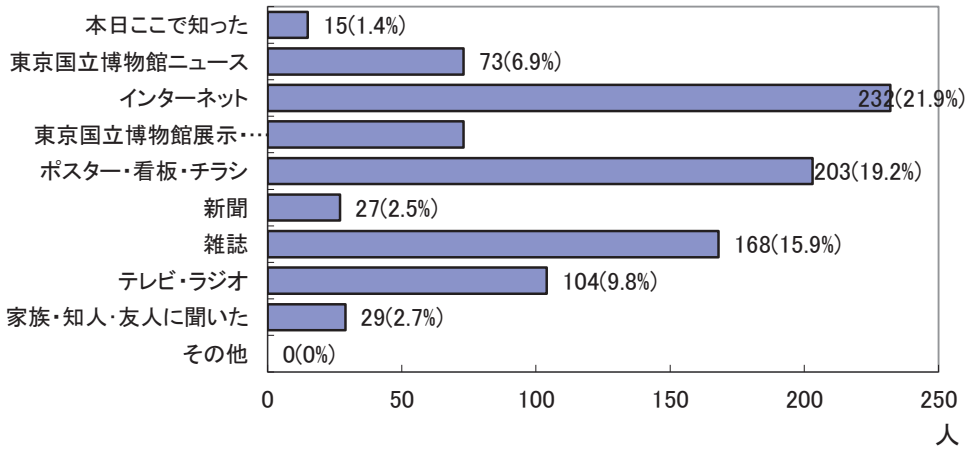
アンケート集計結果

開催期間：令和元年１０月１３日（日）～令和元年１１月２４日（日）（３７日間）
回答者数：６６２人（総入館者数：３６２，０７６人　アンケート回収率：０．１８%）

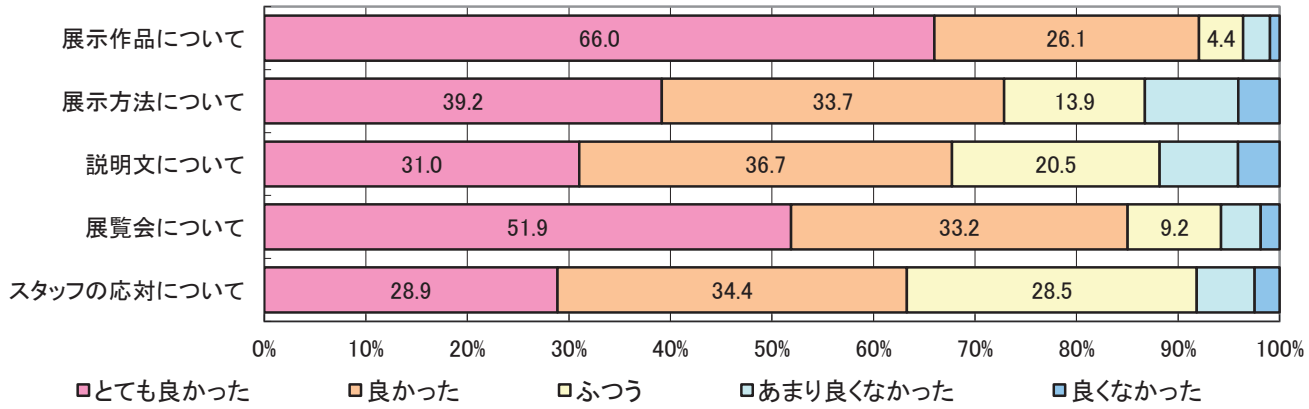
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・展示の構成、流れが考えられていて素晴らしかった。
・模造品、修復の様子の展示、琵琶の音の公開がよかった。
・展示物を周囲から観覧できるのがよかった。
・音声ガイドの声や内容が大変よかった。
・お香の香りを体験できるスペースがあるとよかった。
・展示室がやや暗く、説明文が読みづらかった。
・写真撮影禁止の案内が見難い。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.7	0.9
展示方法	9.2	4.1
説明文	7.7	4.1
展覧会	3.9	1.9
スタッフの応対	5.7	2.4

（%）

本展は、天皇陛下の御即位を記念し、正倉院宝物と法隆寺献納宝物という、飛鳥・奈良時代の国際色豊かな造形文化に焦点を当てた展覧会でした。また、令和元年の本年にこそふさわしい、日本文化を世界に発信する展覧会でした。皇室が守り伝えたかけがえのない日本の美を多く展示した当展覧会は、30万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85.1%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

その一方で、展示室がやや暗く、説明文が読み難い、写真撮影禁止の案内がわかり難い、展示品の香りが体験できるスペースがあるとよかったなどのご意見をいただきました。

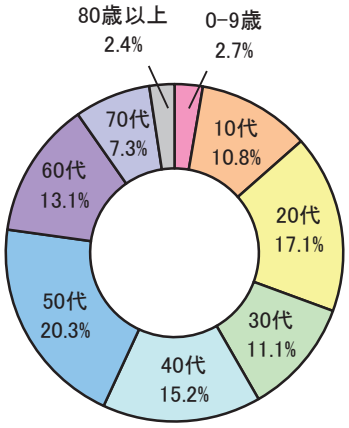
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

人、神、自然－ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界－

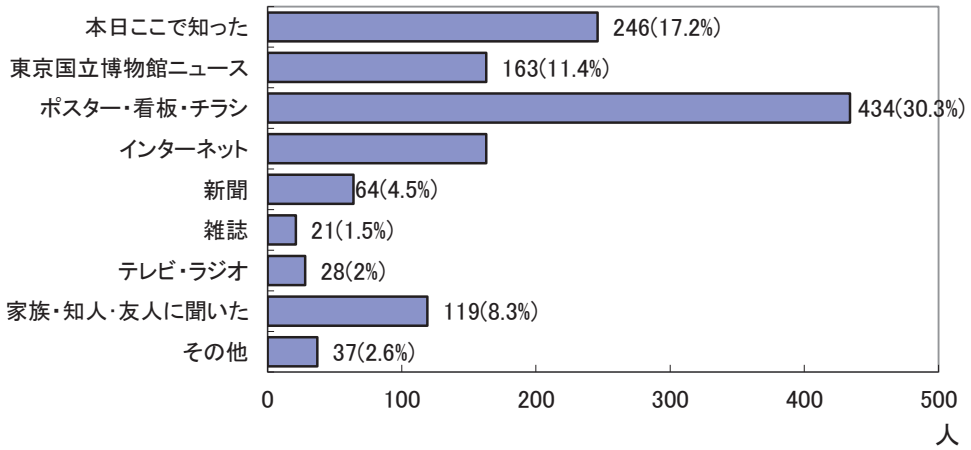
アンケート集計結果

開催期間：令和元年１１月６日（水）～令和２年２月９日（日）（７７日間）
回答者数：１，０８７人（総入館者数：１３９，７３７人　アンケート回収率：０．７８%）

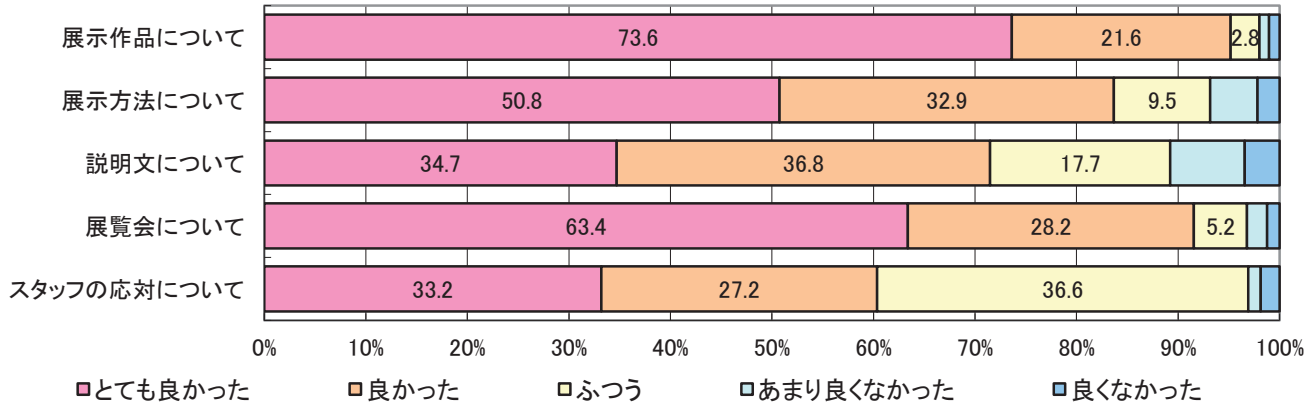
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・ライティングがとても良く、展示を際立たせていた
・ゆったりした展示空間で鑑賞することができよかった
・様々な時代、文明の展示品が同じ空間に陳列されており大変興味深かった
・普段見ることのできないギリシャ系の展示品が多く陳列されておりよかった
・興味深い作品ばかりなので、写真撮影を許可してほしかった

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.9	1.0
展示方法	4.6	2.2
説明文	7.3	3.4
展覧会	2.0	1.2
スタッフの応対	1.2	1.8

（%）

本展覧会は、カタール国の王族であるシェイク・ハマド・ビン・アブドラ・アール・サーニ殿下が収集されたザ・アール・サーニ・コレクションの中から、「人」「神」「自然」の3つの展示テーマに沿い、世界各地の古代文化が生み出した工芸品117件を厳選してご紹介いたしました。本展覧会は13万人を超える方々にご観覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して91.6%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。「様々な時代、文明の展示品が同じ空間に陳列されており大変興味深かった」「ゆったりとした展示空間で鑑賞することができよかった」「普段見ることのできない地域の展示品が多かった」といったご好評の声を多く賜りました。

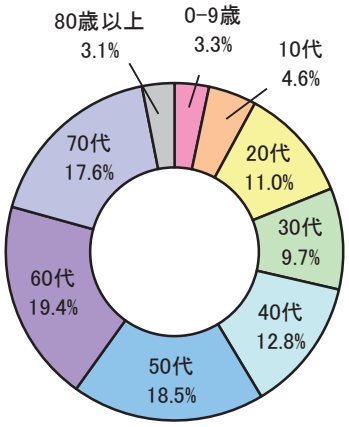
一方で「照明が暗く、キャプションの文字が小さいため解説がわかりにくく見づらい」「展示品の陳列のまとまりがわかりにくい」「写真を撮影される方のマナーが悪い」といったご意見も頂戴いたしました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

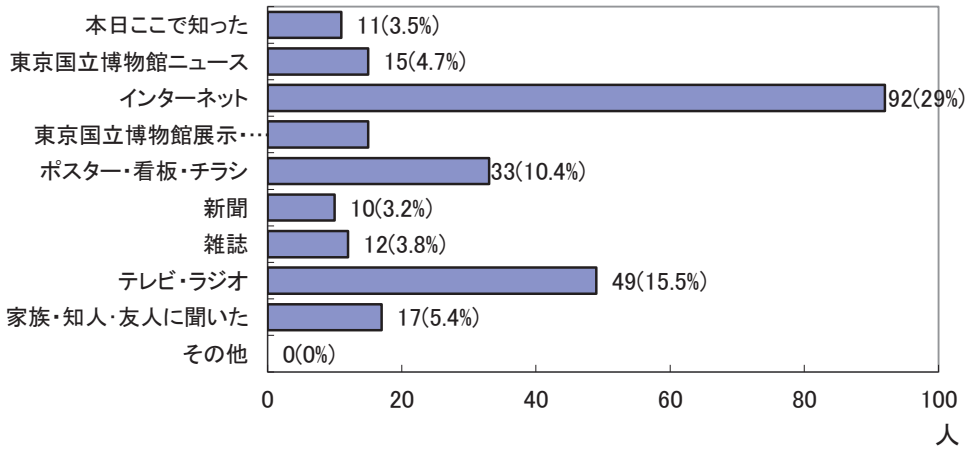
日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」
アンケート集計結果

開催期間：令和元年１月15日（火）～令和２年２月26日（日）（３７日間）
回答者数：４７６人（総入館者数：１３６，０５４人　アンケート回収率：０．３５%）

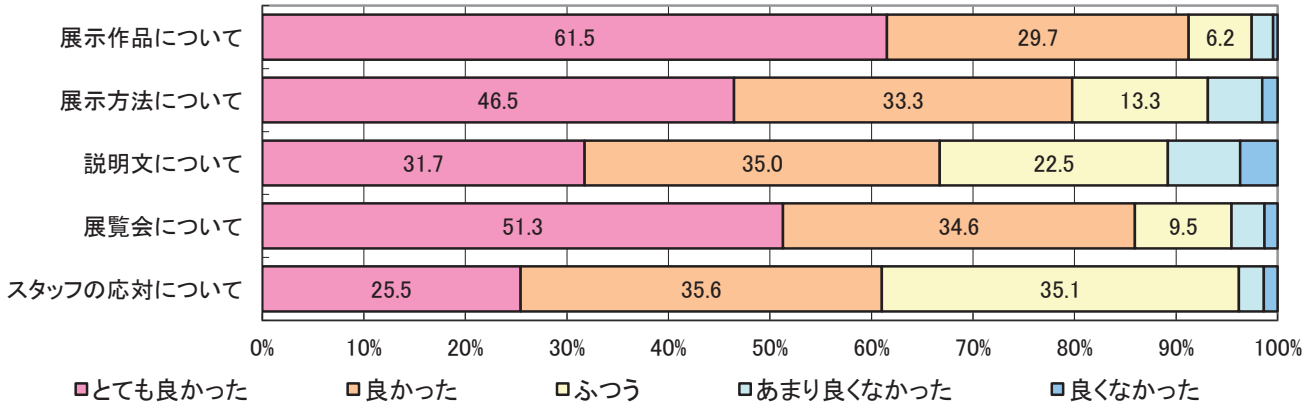
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・説明文の冒頭に研究員さんの一言コメントがあるが、とてもいい試みだと思う。大いに参考にさせていただき、楽しめた。
・後半の方は椅子が多く、助かった
・出雲の展示物と大和の展示物の区別が、キャプションによってつきやすかった。
・神話などの物語の側面からの説明が欲しかった
・展示品と説明文が離れすぎている

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	0.4
展示方法	5.4	1.5
説明文	7.1	3.7
展覧会	3.2	1.3
スタッフの応対	2.5	1.4

（%）

令和2年（2020）は、我が国最古の正史『日本書紀』が編纂された養老4年（720）から1300年という記念すべき年です。「幽」と「顕」を象徴する地、島根県と奈良県が当館と共同で展覧会を開催し、出雲と大和の名品を一堂に集めて、古代日本の成立やその特質に迫った本展覧会は、13万人以上の方にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85.9%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

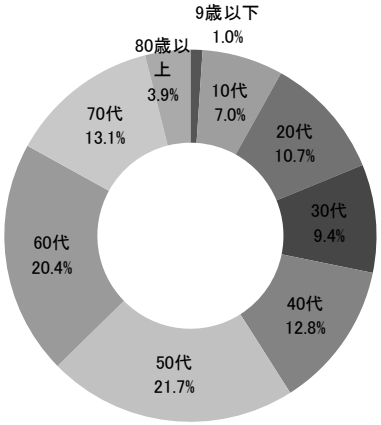
その一方で、展示品と説明文が離れている、照明が暗いなどの理由で文字が見にくいというご意見や、記紀の内容をより説明してほしかったというご意見もいただきました。

本展覧会は、政府の要請により、コロナウイルス感染拡大防止のため会期を縮小いたしました。お楽しみにしていただいた皆様にお詫び申し上げます。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

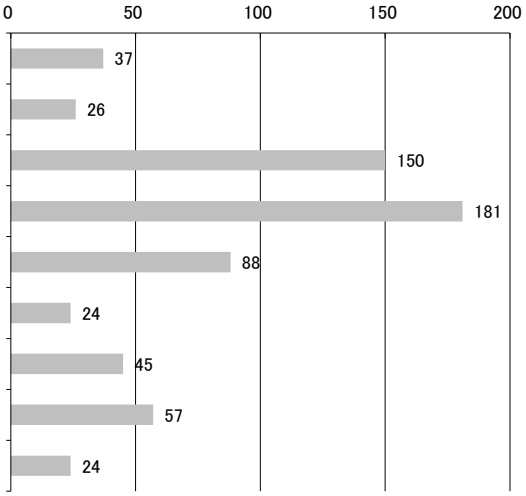
特別展「国宝一遍聖絵と時宗の名宝」
アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月13日（土）～ 令和元年6月9日（日）（51日間）
回答者数：477人（総来館者数　66,678人　アンケート回収　0.7%）

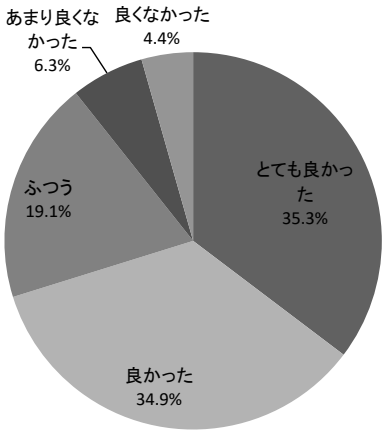
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
70.2%

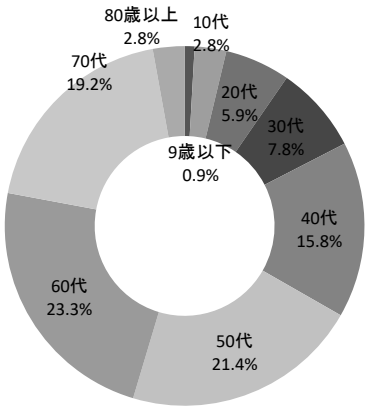
④主な意見・感想

・解説が良い。
・もっと勉強したいと思う内容だった。
・満足感がある。
・詳しく記載してほしい。
・平易な言葉で記載してほしい。

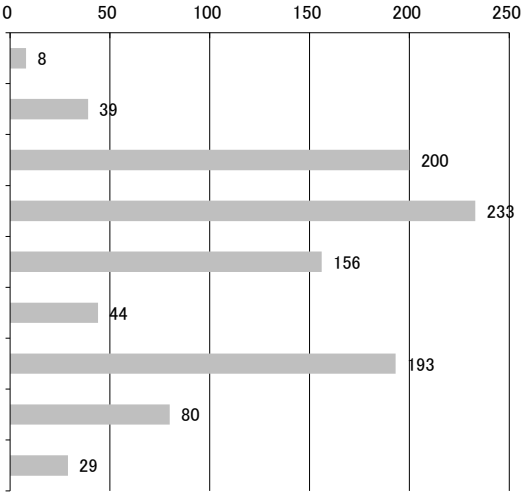
特別展「流転100年　三十六歌仙絵と王朝の美」
アンケート集計結果

開催期間：令和元年10月12日（土）～ 11月24日（日）（38日間）
回答者数：622人（総来館者数 134,162人　アンケート回収率 0.4%）

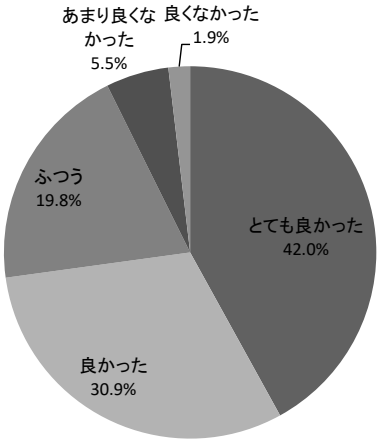
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
72.9%

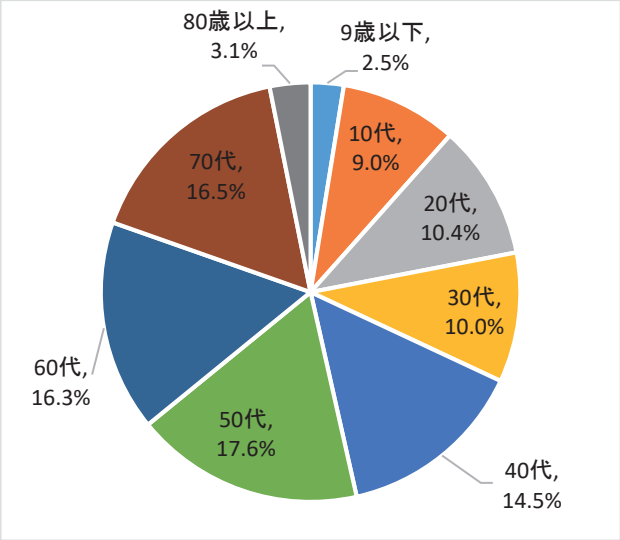
④主な意見・感想
・よかった。
・ガラス面の解説が見やすい。
・和歌の拡大展示が親切だと思う。
・詳しく記載してほしい。
・位置が高い。
・面白かった。
・床の間風の展示が良かった。
・展示替えをしないでほしい。

特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」

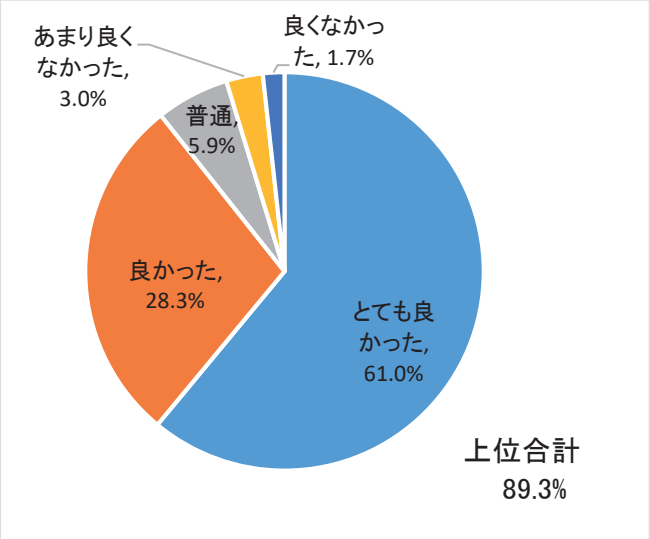
アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月13日（土）～令和元年6月9日（日）（51日間）
回答者数：604人　入場者数：158,078人　回収率：0.38%

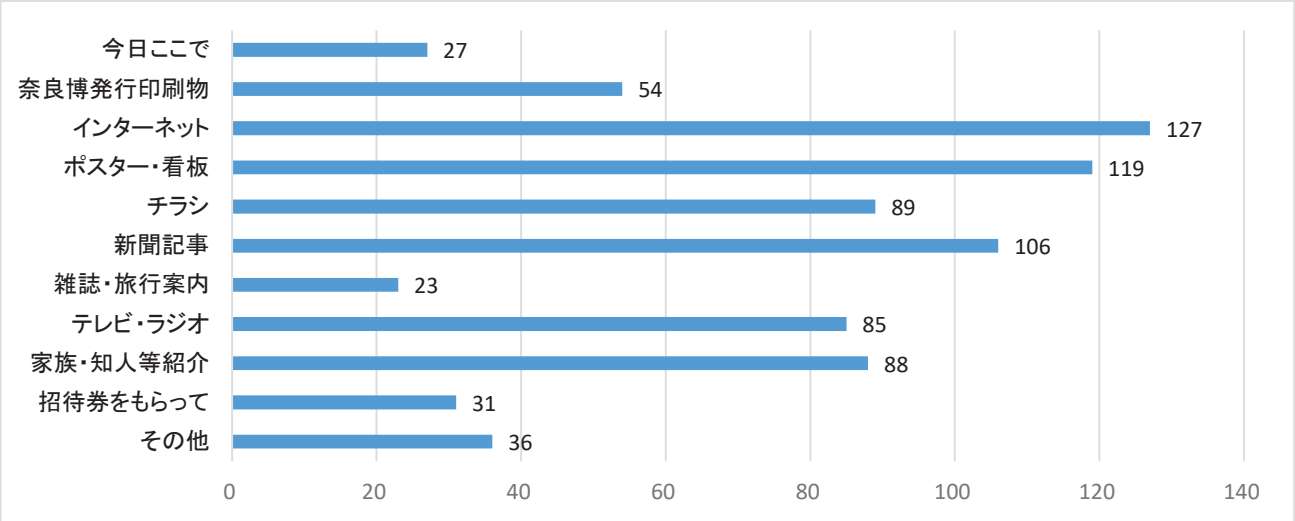
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

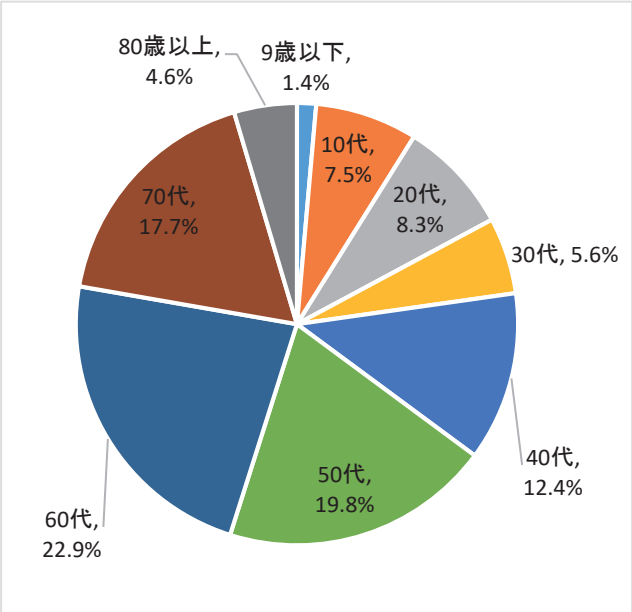
・曜変天目茶碗すばらしかった。
・天目茶碗の展示の仕方が中側は良いのですが、外側の色が暗くて見えなかった。
　鏡、明るさを工夫してほしい。
・非常に見やすい展示と解説でした。パネルと音声ガイドの内容のバランスも良い様に思えます。
・曜変天目の展示室の世界観が美しかったです。絵巻物もストーリーが追いやすい場面で良かった。
・名品・優品がたくさんあった。文化財として価値の高い物を見る事が出来た。
・待ち時間が長い。
・全体的に暗い、もっと明るくすべし。

御即位記念　第71回正倉院展

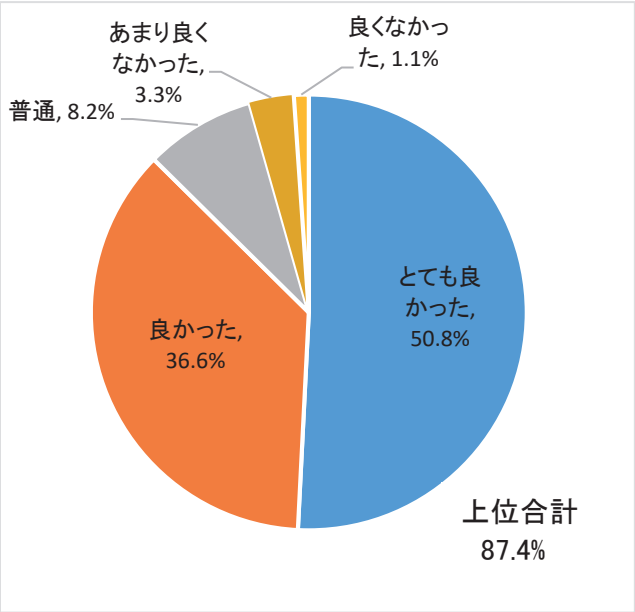
アンケート集計結果

開催期間：令和元年10月26日(土)～令和元年11月14日(木)(20日間)
回答者数：1,378人　入場者数：277,133人　回収率：　0.50%

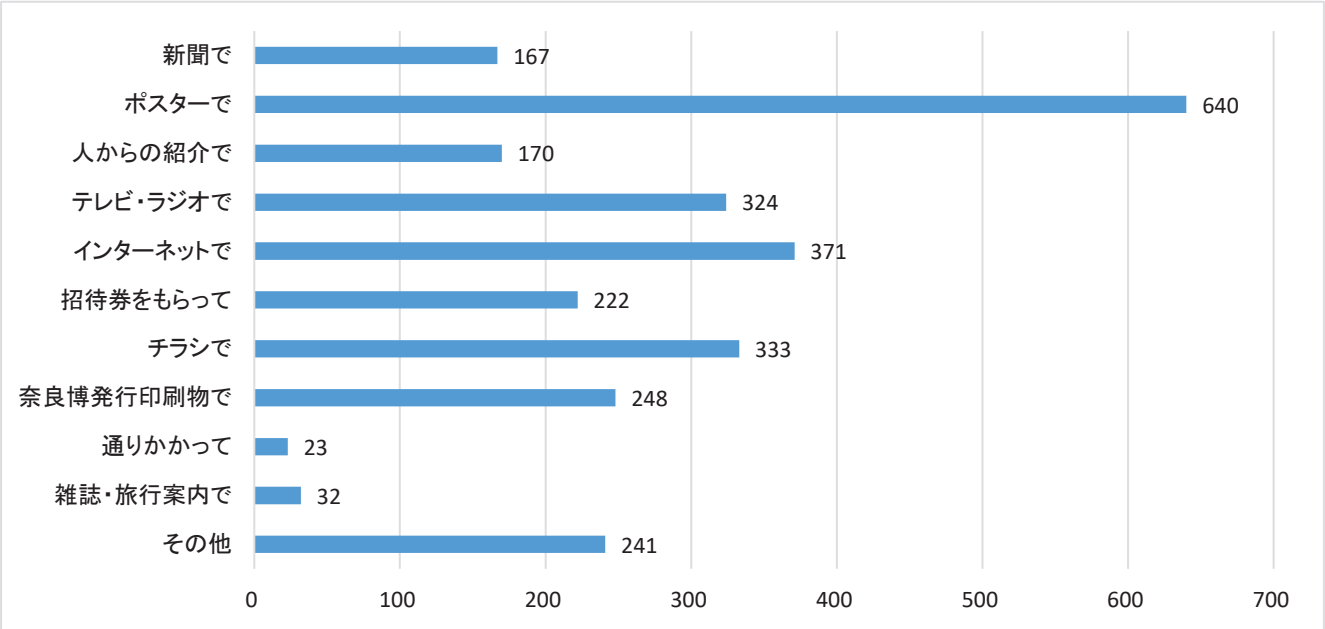
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

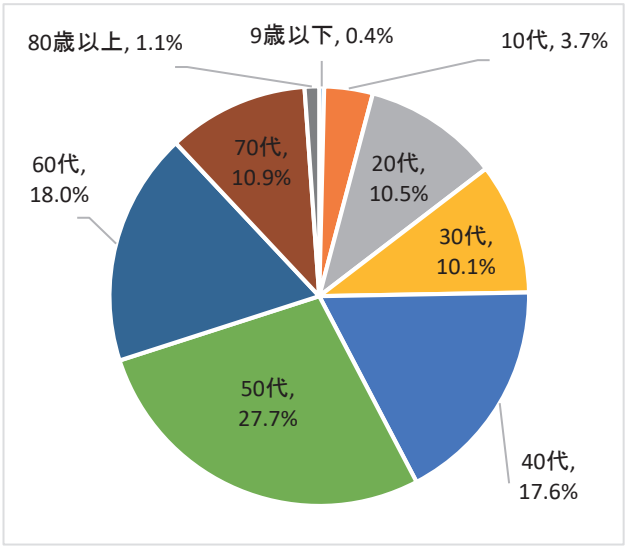
・きれいに展示してあり、分かりやすかった。バランスが良い。
・近年で一番見応えがありました。
・解説文が分かりやすくなった。
・写真展示があって見やすかった。
・即位にちなんだ品が素晴らしかった。
・人が多すぎる。

特別展「毘沙門天　―北方鎮護のカミ―」

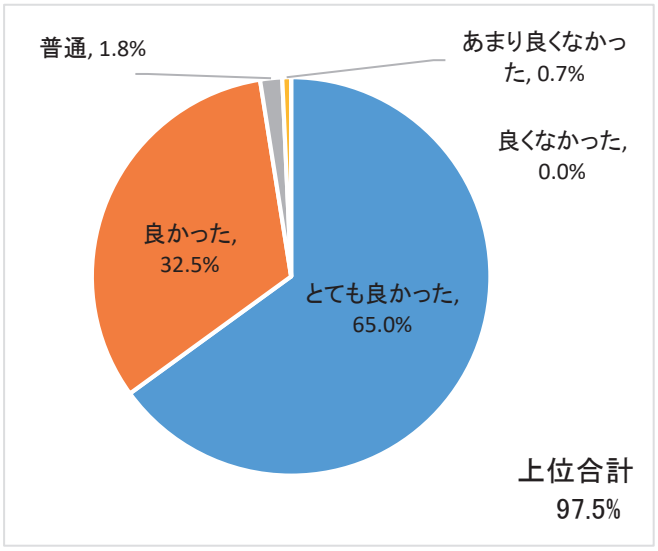
アンケート集計結果

開催期間：令和2年2月4日（火）～令和2年2月26日（水）（20日間）
回答者数：311人　入場者数：16,675人　回収率：1.87%
※本来の開催期間は令和2年2月4日（火）～令和2年3月22日（日）で
あったが、臨時休館のため予定よりも開催期間が短縮された。

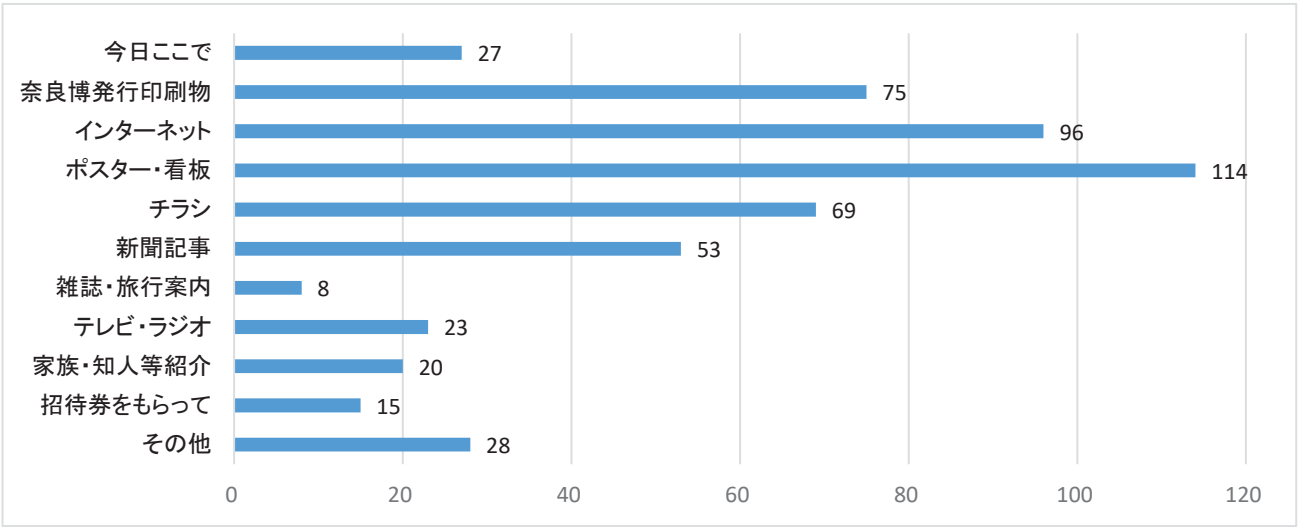
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



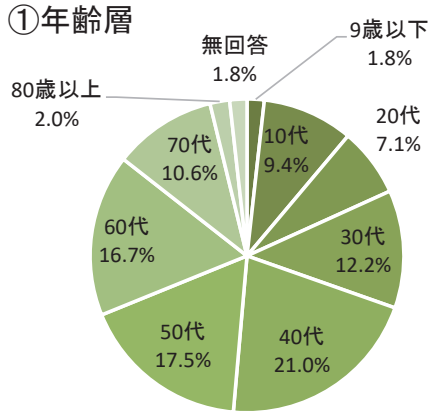
④主な意見・感想

・毘沙門天が一度に展示してあるので色々な表情形がありよくわかりました。
・毘沙門天という特集がとてもおもしろいと思います。
　また日本の各地の独特の像を見れるのも新たな発見でおもしろかったです。
・みごたえのある企画で良かったと思います。
・ひとつのテーマで全国からあつめられた像を見て時代制作者の違いがわかり勉強になった。
・四天王の中の毘沙門天との違いや中国からの影響などをもう少しくわしく知りたかった。展示品は良かった。
・像の詳細をもっと欲しい。
・もうすこし明るくしてほしい。

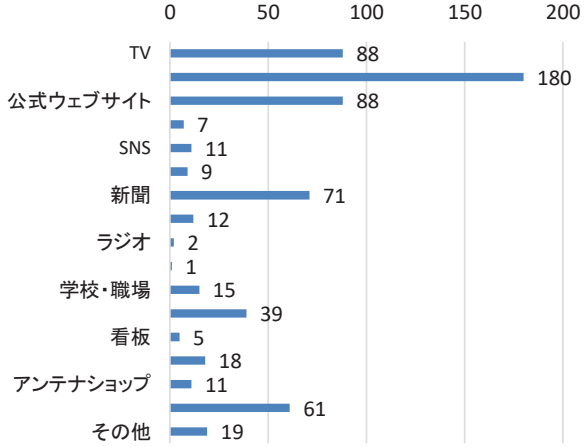
特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」
アンケート集計結果

開催期間：4月23日（火）～6月16日（日）（49日間）
総回答者数：406人（総来館者数：53,524人　アンケート回収率：0.76%）

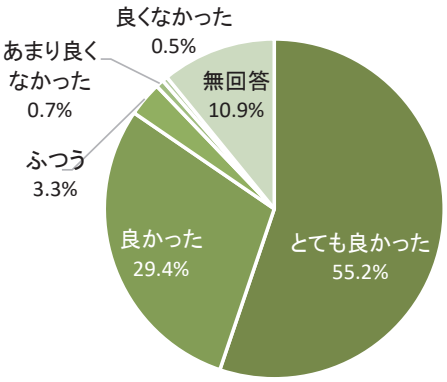
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
８４．６％

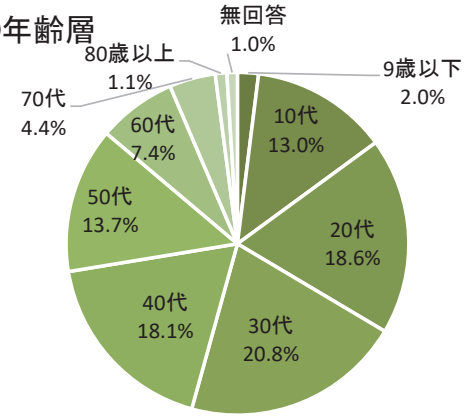
④主な意見・感想

・これだけの仏像を一度に見る機会にめぐまれて、大変良かった。京都にもぜひ行きたい。
・解説が分かりやすくて良かった。普通は仏像を見上げることが多いが、この展覧会では同じ高さで観ることができたのが新鮮で印象
・写真が撮れることに感動しました。今までの展示では考えられないことです。すばらしい。
・仏像に使われている技術を紹介する動画がとても良かったです。展示物にどの技術が使われているのか、一目で分かるアイコン
・解説文の字をもう少し大きくしてほしいです。
・父はあまり目が見えないので、もう少し明るければよかったと言っていました。

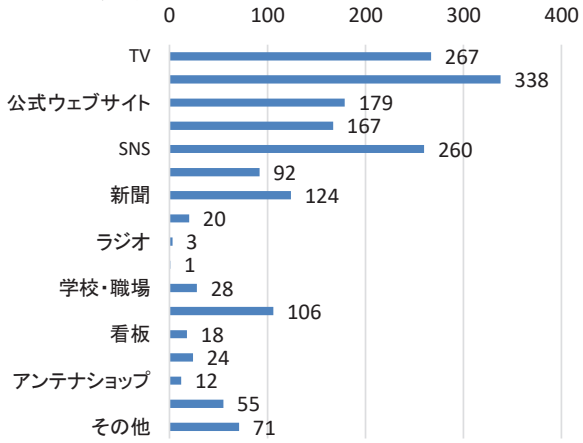
特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」
アンケート集計結果

開催期間：7月13日（土）～9月1日（月）（45日間）
総回答者数：1,024人（総来館者数：86,399人　アンケート回収率：1.19%）

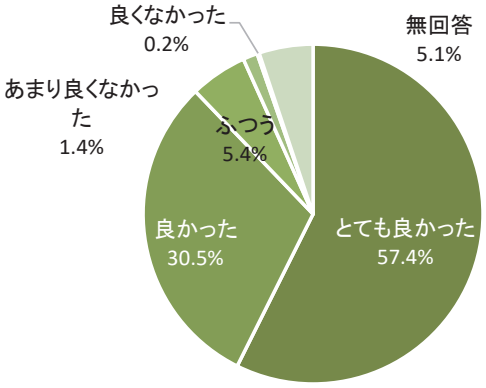
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
８７．９％

④主な意見・感想

・とても充実した内容で2時間かけてじっくり楽しむことができました。内容、展示物、音声ガイド、展覧の流れも室町時代の流れに沿っていて改めて室町時代を学ぶことができました。充実した企画展をありがとうございました。

・今回の特別展にくるまで室町時代には「全く」と言っていい程興味がありませんでした。ですが、将軍たちのそれぞれのユニークなドラマに非常に魅了され、壮絶な時代背景にため息と手汗をにぎりました。本当におどろきの連続です。こんなにも引き込まれる室町時代、そして将軍たちの事を体験させて頂き、教えてくださりありがとうございました。

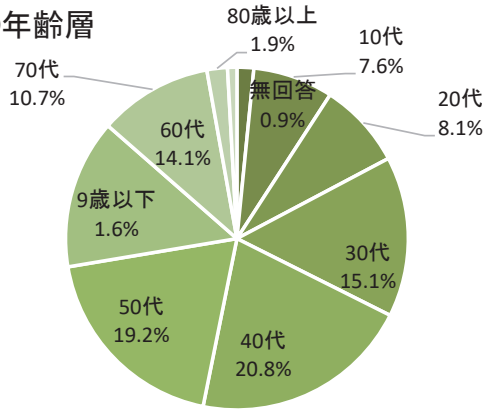
・刀剣乱舞とのコラボで音声ガイドの人をもってきてくれたのがとてもよかった。そのキャラクターがガイドをしてくれているようで、イベントのコラボとして素晴らしいと思いました。

・最初に将軍全員をイラストで紹介していたのが良かった。面白かったし、子どももたのしんでました。
・視覚障害を持つ方に対して、点字だけでなく、触って絵がわかるような展示があるのが素晴らしい。
・展示物への照明が明るくなり、説明文も文字の大きさなど見やすくなった。
・解説文で分からない言葉があって残念な気持ちになることがある。
・充実した内容で疲れてくるが、展示品多く休憩スペースが少なかった。

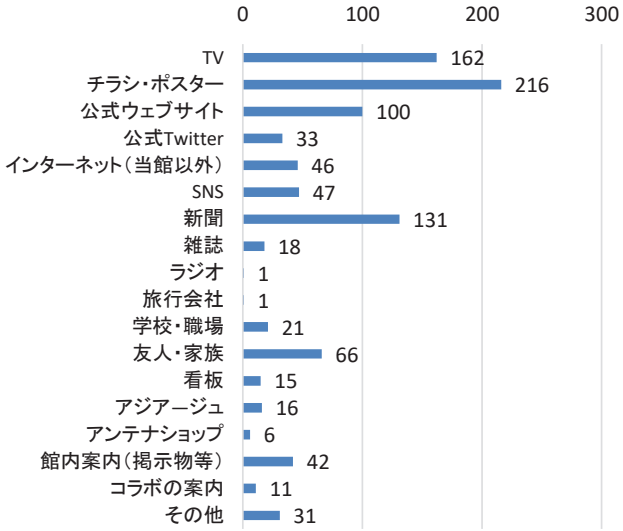
日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」
アンケート集計結果

開催期間：10月1日(火)～2年1月5日(日)(77日間)
総回答者数：576人(総来館者数：140,155人　アンケート回収率：0.41%)

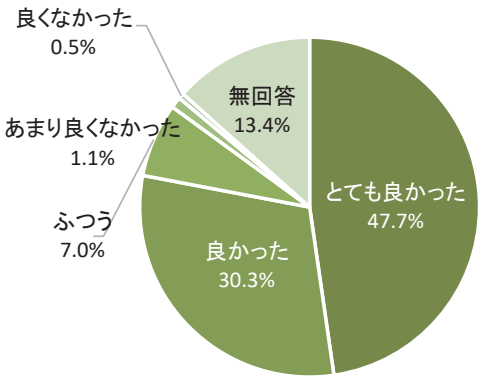
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



上位合計
７８．０%

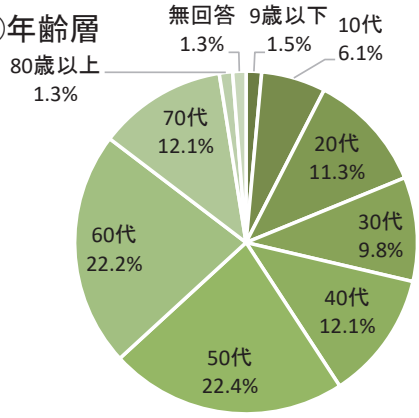
④主な意見・感想

東博でも見たが、文物との距離、展示の高さ、照明など、九博ならではの工夫と愛が感じられて良かった。
三国志の漫画は知っていたが、史実としてはあまり知らなかったので、知れて嬉しい。
中国へ行っても見る事が出来ないような物や、中国が広すぎて周ることができないものを見ることができ、とても良かった。
解説文がわかりやすく、量もちょうど読みやすくて良かった。
コラボでコーエー・NHK人形劇・横山光輝がそろっているのは、メインの展示とは別に貴重で素晴らしい。
「真・三國無双」コラボの音声ガイドが良かった。
スタッフが、ちょっとしたことでも親切に対応してくれた。
写真撮影ができたのでよい思い出になった。
写真可のため、展示物が見づらく、シャッター音がわずらわしかった。

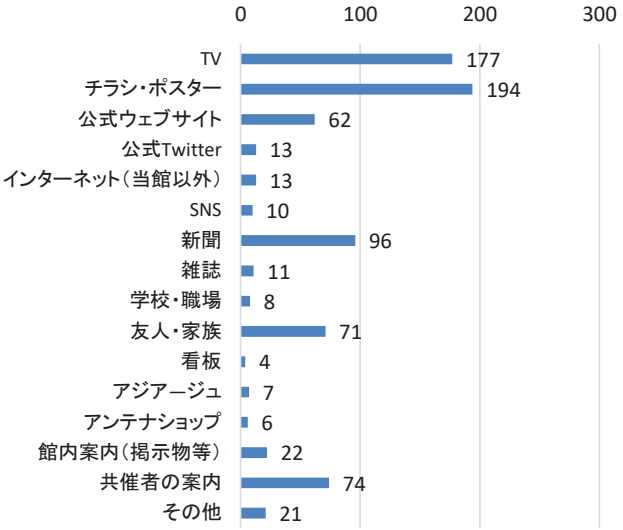
特別展「ルネ・ユイグのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」
アンケート集計結果

開催期間：2年2月4日(火)～3月29日(日)(20日間)
※2年2月27日～3月29日までコロナウイルス感染拡大防止対策のため閉館。
総回答者数：478人（総来館者数：45,636人　アンケート回収率：1.05%）

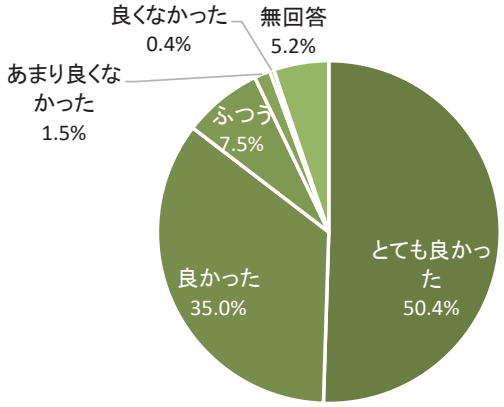
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
８５．４%

④主な意見・感想

作品はどれもすばらしく、よくこれだけのものを集められたなと感激しました。今まで最高の九博の展示だと思いました。
400～500年も前の油絵が大切に保存されている事に感動しました。尽力されたルネ・ユイグ氏に敬意を表します。
比較的ゆったりと展示されていて、車いす来場者の方も見やすいようでした。
展示文章がシンプルで、長くないのが良い。わかりやすい。説明過多になっていない。
写真をとって良い作品があったのは初めてでした。私はとてもうれしかったです。
夜間開館は旅行者にとって時間を有効に使えてとても良かったです。
宝塚とのコラボ衣装がすてきだった。
作品によっては、照明の当て方で光の反射があり、見づらいものがあった。
できれば解説文と作品名の文字を大きくしてほしい。混んでいて人が多いときは見えない。